

科目分類	111-310-12	授業コード	FA0010
科目名称	日本語表現 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Phraseology I	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	日本文化専攻における研究活動のために必要な力を習得するために、メディアリテラシーの理解を深め、学術資料の調査・引用の方法や参考文献の提示の仕方を理解する。また、文章の組み立てや文の構造についての知識を再確認し、場面に応じた適切な文章を書けるようにする。授業ではグループ・ワークを通じて、学術的な情報を収集したり、発表したりする能力を身につける。		
到達目標	・研究活動に必要な学術情報を適切に収集・引用することができる。 ・大学生・社会人としてふさわしい表現で話したり書いたりできる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習：1 年次の反省と、2 年次からの展望を文章に整理する。 授業：「自己紹介」の文章を書く。 復習：自己紹介の文章を遂行する。	
2	石川 創	【第 2 回】 予習：90 秒で話すための原稿を作成する。 授業：自己紹介のスピーチをして、相互インタビューを行う。（グループワーク） 復習：他の履修者のスピーチに関する感想を課題フォームに提出する。	
3	石川 創	【第 3 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』のレジュメ・レポート作成に関する節を読む。 授業：学士（日本文化）として必要な文章力について理解する。 復習：日本文化専攻の学生・教員による過去の学術成果物を閲覧する。	
4	石川 創	【第 4 回】 予習：メディアリテラシーに関するミニテストに取り組む。 授業：学術情報・メディアリテラシーについて理解する。 復習：図書館所蔵の日本文化に関する文献を調査し、コピーをとる。	
5	石川 創	【第 5 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「引用」に関する節を読む。 授業：研究活動における「引用」について理解する。（課題解決型授業） 復習：引用に関する授業内課題に取り組み、提出する。	
6	石川 創	【第 6 回】 予習：日本文化専攻ホームページにおける、各教員執筆の文章を読む。 授業：学術的なエッセーを書こう(1)——テーマ決定・情報収集（課題解決型授業） 復習：エッセーの根拠となる学術情報を収集する。	
7	石川 創	【第 7 回】 予習：エッセーに利用する学術情報の印刷・コピーを行う。 授業：学術的なエッセーを書こう(2)——学術情報の吟味（課題解決型授業） 復習：エッセーのアウトラインを作成する。	
8	石川 創	【第 8 回】 予習：エッセーの下書きを作成する。 授業：学術的なエッセーを書こう(3)——本文の執筆（課題解決型授業） 復習：エッセーの第一稿を完成させる。	
9	石川 創	【第 9 回】 予習：エッセーの下書きを作成する。 授業：学術的なエッセーを書こう(4)——本文の推敲（グループワーク） 復習：作成したエッセーに基づく発表の準備をする。 【第 9 回】 予習：発表用の原稿を作成する。 授業：エッセーの発表と意見交換(1) 復習：発表者に対する感想・質問・意見を課題フォームで提出する。	
10	石川 創	【第 10 回】 予習：発表用の原稿を作成する。 授業：エッセーの発表と意見交換(2)	

		復習：発表者に対する感想・質問・意見を課題フォームで提出する。							
11	石川 創	【第 11 回】 予習：発表用の原稿を作成する。 授業：エッセーの発表と意見交換(3) 復習：発表者に対する感想・質問・意見を課題フォームで提出する。							
12	石川 創	【第 12 回】 予習：教員の添削を踏まえ、エッセーの見直しを行う。 授業：学術レポートを作成する(1)——アウトライン 復習：作成したアウトラインに基づき、本文を記述する。							
13	石川 創	【第 13 回】 予習：レポートに使用した資料の書誌情報を整理する。 授業：学術レポートを作成する(2)——レポートの書式・体裁 復習：エッセーに基づく学術レポートの考察部分を整理する。							
14	石川 創	【第 14 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の研究書式に関する節を再度確認する。 授業：学術レポートを作成する(3)——本文の執筆 復習：エッセーに基づく学術レポートを完成させる。							
15	石川 創	【第 15 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「レポート」の節を確認する。 授業：大学で研究すること 復習：学術レポートの推敲を行う。							
授業開始前学習		言語表現演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習しておく。『日本文化専攻共通テキスト』を通読する。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業の予習・復習用の課題を実施する。課題は翌週以降に返却して全体の講評を行う。							
テキスト・教材		各回の内容に応じたプリントを配付する。また、日本文化専攻の学生全員に配付する『日本文化専攻共通テキスト』を随時使用する。							
参考書		松浦俊男・田村早苗『日本語パラグラフ・ライティング入門』（研究社、2022 年） 米田明美・藏中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）』（風間書房、2010 年）							
評価の基準と方法		授業内課題 70%、期末レポート 30%で評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				△	
関連科目		日本語表現の実践Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ							
その他		毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。 授業の進捗状況等により、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-12	授業コード	FA0020
科目名称	日本語表現Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Phraseology Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	学術的な情報を適切に収集・引用するための方法を習得し、また学術的な文章の構成を理解することで、日本文化専攻における学びの成果となるゼミ論文・卒業論文を執筆するための能力を身につける。論理的に、かつ読みやすい文章を書くための作文課題に取り組むほか、『日本の文化と歴史Ⅰ』の授業において執筆したレポートを校正し、自分で学術的な文章を書き、見直し、改める手続きを行えるようにする。また、仕上げとして自分が3年次以降に研究したいテーマについてのレポートを作成し、日本文化ゼミに参加するための準備を行う。授業ではグループワークや発表を行う。		
到達目標	・専門ゼミにおける研究レポートや論文を執筆できる。 ・適切な日本語で、学術的内容を含む文章を書くことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第1回】 予習：「日本語表現Ⅰ」のエッセー集を通読する。 授業：「日本語表現Ⅰ」の成果を振り返る。 復習：エッセー集における、自分たちの文章の問題点を考える。	
2	石川 創	【第2回】 予習：予習プリント（読みにくい文章）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(1)——論の展開 復習：課題フォーム（段落間の関係）に取り組む。	
3	石川 創	【第3回】 予習：予習プリント（デマを含む文章）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(2)——事実の提示 復習：課題フォーム（データの読み取り）に取り組む。	
4	石川 創	【第4回】 予習：予習プリント（論理の飛躍）に取り組む。 授業：学術的な文章の構成(3)——事実に基づく考察 復習：課題フォーム（事実の整理と自分の意見）に取り組む。	
5	石川 創	【第5回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の研究書式に関する節を確認する。 授業：自分たちの文章をあらためる(1)——研究書式の再確認 復習：復習プリント（不適切な書式）に取り組む。	
6	石川 創	【第6回】 予習：予習プリント（文章の体裁のあやまり・誤字等を指摘する）に取り組む。 授業：自分たちの文章をあらためる(2)——校正の基本（グループワーク） 復習：復習プリント（校正記号の理解）に取り組む。	
7	石川 創	【第7回】 予習：「日本の文化と歴史Ⅰ」で執筆したレポートを確認する。 授業：自分たちの文章をあらためる(3)——他者の文章を校正する（グループワーク） 復習：自分のレポートに入れられた赤字を確認する。	
8	石川 創	【第8回】 予習：自分のレポートの体裁・内容に関する問題点を整理する。 授業：自分たちの文章をあらためる(4)——文章を修正する・前半 復習：レポートの書式を見直し、適切に整える。	
9	石川 創	【第9回】 予習：論述の修正に必要な資料を集める。 授業：自分たちの文章をあらためる(5)——文章を修正する・後半 復習：レポートの論説を見直し、適切に整える。	
10	石川 創	【第10回】 予習：レポートの内容について、修正の要点を説明するための準備をする。 授業：自分たちの文章をあらためる(6)——修正の成果を共有する（グループワーク） 復習：履修生のレポートに関する意見・アドバイスをフォームに提出する。	
11	石川 創	【第11回】 予習：3年次以降に研究したいテーマについて考える。 授業：ゼミ研究に向けて(1)——テーマ設定・参考文献	

		復習：課題プリント（参考文献リスト）に取り組む。							
12	石川 創	【第 12 回】 予習：テーマの中心的内容を整理する。 授業：ゼミ研究に向けて(2)――アウトラインの作成 復習：論述内容の素案を作成する。							
13	石川 創	【第 13 回】 予習：序論を執筆する。 授業：ゼミ研究に向けて(3)――論述 復習：本論を完成させる。							
14	石川 創	【第 14 回】 予習：参考文献の書誌情報を整理する。 授業：ゼミ研究に向けて(4)――体裁を整える 復習：論述内容と体裁の見直しを行う。							
15	石川 創	【第 15 回】 予習：『日本文化専攻共通テキスト』の「日本文化ゼミの学び・流れ」の節を確認する。 授業：ゼミ研究に向けて(5)――学士（日本文化）に向けて 復習：次年度ゼミにおける研究計画を立てる。							
授業開始前学習		『日本文化専攻共通テキスト』を通読した上で、「日本語表現Ⅰ」で執筆したエッセー、「日本の文化と歴史Ⅰ」で執筆したレポートを読み返しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業の予習・復習用の課題を実施する。課題は翌週以降に返却して全体の講評を行う。							
テキスト・教材		各回の内容に応じたプリントを配付する。また、日本文化専攻の学生全員に配付する『日本文化専攻共通テキスト』を随時使用する。							
参考書		松浦俊男・田村早苗『日本語パラグラフ・ライティング入門』（研究社、2022 年） 米田明美・藏中さやか・山上登志美『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）』（風間書房、2010 年）							
評価の基準と方法		授業内課題 70%、期末レポート 30%で評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				△	
関連科目		日本語表現の実践Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ							
その他		国語辞典（電子辞書可）を手元に用意することが望ましい。 授業の進捗状況等により、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

日本語表現の実践 I

科目分類	111-310-13	授業コード	FA0031
科目名称	日本語表現の実践 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Practice I	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	これまでに培った日本語能力を活用して、口頭表現や文章を作成する場合の留意点について学修する。言葉の持つ力を実感しつつ、各自の言語生活を豊かなものにするを目標とする。この授業では特に、社会人として必要な言語に関する知識についても考察を深める。授業では発表やディスカッション、ディベートなどを行う。		
到達目標	1. 言葉のマナーを学び、目的や場面にふさわしい話し方で話すことができる。 2. 社会人として必要な日本語能力を身につけ、各種文章の作成に生かすことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習 : 日本語の特性についてまとめておく 授業 : オリエンテーション (授業の目的) 社会人にふさわしい日本語力とは 復習 : 日本語力を磨くために必要なことをまとめる	
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習 : スピーチの内容を考える 授業 : スピーチ 1 スピーチ原稿を作成する 復習 : 原稿内容を確認する	
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習 : スピーチの練習をしておく 授業 : スピーチ 2 スピーチをする (発表) 復習 : スピーチ内容を検討する	
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習 : 配布資料を確認しておく 授業 : スピーチ 3 友人に聞き取り調査 (ディスカッション) 復習 : 友人紹介の文章をまとめる	
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習 : 配布資料を確認しておく 授業 : 手紙文 1 手紙の構成 復習 : 手紙文の構成について学んだことをまとめておく	
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習 : 手紙文の書き直しを行う 授業 : 手紙文 2 封筒・葉書の書き方 復習 : 葉書の構成について学んだことをまとめておく	
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習 : ビジネス文書について調べておく 授業 : 案内文・ビジネス文書 1 案内文の種類と作成 復習 : 案内文の要点についてまとめておく	
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習 : 作成中の文書を完成させる 授業 : 案内文・ビジネス文書 2 ビジネス文書の留意点 復習 : ビジネス文書の留意点についてまとめておく	
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習 : 自分の長所や短所についてあらためて考えておく 授業 : 履歴書の作成 1 形式の理解 復習 : 履歴書の意義と注意点をまとめておく	
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習 : 前回作成の部分を再確認しておく 授業 : 履歴書の作成 2 各項目の作成 復習 : 履歴などの項目の記載を完成させる	
11	三田 誠司	【第 11 回】 予習 : 前回作成部分を完成させる 授業 : 履歴書の作成 4 記述項目作成 復習 : 履歴書を完成させる	

12	三田 誠司	【第 12 回】 予習 : エントリーシートなどを確認しておく 授業 : 履歴書の作成 4 カバーレター・エントリーシート等 復習 : カバーレターを作成し、課題のエントリーシートを完成させる							
13	三田 誠司	【第 13 回】 予習 : テキスト p 80 を読んでおく 授業 : グループディスカッション 1 (テキスト p 80) (ディスカッション) 復習 : 課題 (目的や相手に応じて説明する) を行う							
14	三田 誠司	【第 14 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : グループディスカッション 2 実践 1 (ディスカッション) 復習 : 課題 (目的や相手に応じて説明する) を行う							
15	三田 誠司	【第 15 回】 予習 : グループディスカッションの準備をする 授業 : グループディスカッション 3 実践 2 (ディスカッション) 復習 : ディスカッションの反省点をまとめる							
授業開始前学習		「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を確認しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内の課題は翌週以降にコメントを付して返却する。							
テキスト・教材		授業内で適宜プリントを配付する。							
参考書		授業時に指示する。							
評価の基準と方法		授業内の毎回の課題 (70%) 学期末のレポート (30%) により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				△	○
関連科目									
その他		授業の進捗状況により、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

日本語表現の実践Ⅱ

科目分類	111-310-13	授業コード	FA0041
科目名称	日本語表現の実践Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese PracticeⅡ	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	これまでに培った日本語能力を活用して、各種の文章を作成する場合の留意点について学習する。言葉の持つ力を実感しつつ、文章表現を楽しみ、各自の言語生活を豊かなものにする。特にこの授業では、各自の研究テーマをレポートや論文に纏める上で留意すべき点についての再確認を行うとともに、社会人として必要な言語に関する知識についても考察を深める。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	1. 様々なスタイルの文章表現を学び、文章作成に活かすことができる。 2. 社会人として必要な日本語の知識を実際に活用することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習 : 「日本語表現の実践Ⅰ」で学んだ内容を確認しておく 授業 : オリエンテーション 創作 : 短歌を作成する 復習 : 日本語能力アップのために必要なことをまとめる	
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習 : 短歌の鑑賞について考えておく 授業 : 創作 : 短歌を発表する 復習 : 短歌作成から学んだことをまとめる	
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習 : スピーチの準備を行う 授業 : スライドをつかったスピーチ 1 (原稿等の作成) 復習 : スピーチ原稿やスライド資料を完成させる	
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習 : スピーチ原稿の見直し 授業 : スライドを使ったスピーチ 2 (原稿・スライドの完成) 復習 : スピーチ評価表を完成させる	
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習 : スピーチ原稿の見直し 授業 : スライドを使ったスピーチ 3 (発表) 復習 : スピーチ評価表を完成させる	
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習 : スピーチ原稿の見直し 授業 : スライドを使ったスピーチ 4 (発表) 復習 : スピーチの留意点についてまとめる	
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習 : これまで作成したレポートについてふりかえっておく 授業 : レポート・論文 1 レポートの留意点をあらためて考える 復習 : レポート作成の要点をまとめる	
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習 : これまで作成したレポートをふりかえっておく 授業 : レポート・論文 2 論文の構成と文章 復習 : 論文の構成について要点をまとめておく	
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習 : これまで作成したレポートをふりかえっておく 授業 : レポート・論文 3 根拠をもとに主張する 復習 : 論文における根拠の重要性についてあらためて考える	
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習 : これまで作成したレポートをふりかえっておく 授業 : レポート・論文 4 参考文献の提示と引用の仕方の再確認	

科目分類	111-310-12	授業コード	FA0051
科目名称	日本の文化と歴史 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and History I	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	自分がこれまでに一度は経験したことのある年中行事といった身近な素材から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『年中行事から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：日本文化専攻の学び／年中行事から考える日本文化（現在のお年玉のスタイルはいつ・どのように定着したのか） 復習：自分の考えを整理して提出する	
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：正月の行事の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：年中行事① 正月の行事の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する	
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：春から夏への行事の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：年中行事② 春から夏への行事の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する	
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：盆の行事の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：年中行事③ 盆の行事の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する	
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：秋から冬への行事の考察課題をフォームで提出する（5 点）／「小論文課題について」のプリントを読んでおく 授業：年中行事④ 秋から冬への行事の考察（課題解決型学習）／小論文課題について 復習：自分の考えを整理して提出する／小論文で取り上げたい年中行事についてのアンケートに回答する	
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：「小論文の参考文献について」のプリントを読んでおく 授業：小論文の参考文献について／辞典と参考文献の複写 復習：小論文の参考文献と考察課題についてのアンケートに回答する	
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「小論文執筆の進め方」「日本人の自然観と信仰」のプリントを読んでおく 授業：小論文執筆の進め方／日本人の自然観と信仰 復習：小論文のタイトルについてのアンケートに回答する	
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「小論文校正のチェックポイント」のプリントを読んでおく 授業：小論文についての再確認／小論文校正のチェックポイント 復習：小論文（仮）を提出する	
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む③（発表）	

		復習：発表にコメントを寄せる							
12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『年中行事から考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（20 点） 授業：年中行事から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）／後期の小論文と参考文献について 復習：ミニレポートの振り返りをフォームで提出する（10 点）／小論文の完成版を提出する（50 点）							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		予習課題・アンケート等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法		予習課題 2 0 %、小論文 5 0 %、ミニレポート 3 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○	◎			◎	
関連科目									
その他		授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-12			授業コード	FA0061
科目名称	日本の文化と歴史Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and History Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-706
授業概要	自分にゆかりのある地域の祭といった身近な素材から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『祭りから考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。授業では課題解決型学習・発表を行う。				
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：祭りから考える日本文化（京都市上御霊神社の御霊祭における剣鉾の役割） 復習：自分の考えを整理して提出する／小論文で取り上げたい祭りと郷土資料についてのアンケートに回答する			
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：神と信仰の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：祭り① 神と信仰の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する			
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：農村の祭りの考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：祭り② 農村の祭りの考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する			
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：都市の祭り①の考察課題をフォームで提出する（5 点） 授業：祭り③ 都市の祭り①の考察（課題解決型学習） 復習：自分の考えを整理して提出する			
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：都市の祭り②の考察課題をフォームで提出する（5 点）／「小論文課題について」のプリントを読んでおく 授業：祭り④ 都市の祭り②の考察（課題解決型学習）／小論文課題について 復習：自分の考えを整理して提出する／小論文の考察課題についてのアンケートに回答する			
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：「小論文の参考文献について」のプリントを読んでおく 授業：小論文の参考文献について／辞典と参考文献の複写 復習：小論文の参考文献についてのアンケートに回答する			
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「小論文執筆の進め方」「稲城市内に伝わる祭り」のプリントを読んでおく 授業：小論文執筆の進め方／稲城市内に伝わる祭り 復習：小論文のタイトルについてのアンケートに回答する			
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「小論文校正のチェックポイント」のプリントを読んでおく 授業：小論文についての再確認／小論文校正のチェックポイント 復習：小論文（仮）を提出する			
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる			
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる			
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる			

12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『祭りから考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（20 点） 授業：祭りから考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習）／3 年以降の「日本文化ゼミ」について 復習：ミニレポートの振り返りをフォームで提出する（10 点）／小論文の完成版を提出する（50 点）						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		予習課題・アンケート等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。						
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。						
評価の基準と方法		予習課題 2 0 %、小論文 5 0 %、ミニレポート 3 0 %により評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。 この授業では、稲城市内の祭りを体感するため、祭礼のある日曜日などに正課学外活動を行う可能性がある。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-310-13	授業コード	FA0070
科目名称	日本の文化と歴史Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and History Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	日本の文化や歴史を学ぶ上で、それぞれの時代に作成された原資料を読み解くことが必須である。そこで、江戸時代の庶民の旅日記を読み解き、そこから日本の文化の特徴を考えたい。具体的には、江戸時代の庶民の旅日記を順番に輪読し、そこから見えてくる日本文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、発表や文章を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：江戸時代の旅について参考書等を読んでおく 授業：授業で対象とする江戸時代の旅について 復習：課題をフォームで提出する	
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：江戸時代の旅について参考書等を読んでおく 授業：江戸時代の庶民の旅日記について（課題解決型学習） 復習：課題をフォームで提出する	
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：江戸時代の旅について参考図書等を読んでおく 授業：江戸時代の庶民の旅日記の読解① 復習：読解内容を整理する	
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：第 3 回の旅日記の読解内容を振り返る 授業：江戸時代の庶民の旅日記の読解② 復習：読解内容を整理する	
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：第 4 回までの読解内容を振り返る 授業：江戸時代の庶民の旅日記の読解をまとめる（課題解決型学習） 復習：旅日記の読解をまとめた資料を提出する	
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	

12	皆川 義孝	【第 12 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』を読む⑦（発表） 復習：発表にコメントを寄せる						
13	皆川 義孝	【第 13 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』から日本文化の特徴を考える①（課題解決型学習） 復習：考察内容を整理する						
14	皆川 義孝	【第 14 回】 予習：読解内容をまとめた論文集を読んでおく 授業：レジュメ集『江戸時代の庶民の旅日記から日本文化を探る』から日本文化の特徴を考える②（課題解決型学習） 復習：考察内容を整理する						
15	皆川 義孝	【第 15 回】 予習：日本の文化と歴史Ⅲの学びを振り返る 授業：『江戸時代の庶民の旅から考える日本の文化』（最終レポート）（課題解決型学習） 復習：日本の文化と歴史Ⅲの学びを総括する						
授業開始前学習		深井甚三『江戸の旅人たち』（歴史文化ライブラリー 9）吉川弘文館、1997 年、金森敦子『江戸庶民の旅ー旅のかたち・関所と女』（平凡社新書 146）平凡社、2002 年、神崎宣武『江戸の旅文化』岩波新書 884、岩波書店、2009 年、金森敦子『きよのさんと歩く 大江戸道中記ー日光・江戸・伊勢・京都・新潟…六百里』ちくま文庫、2012 年等を読んでおくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。						
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。						
参考書		深井甚三『江戸の旅人たち』（歴史文化ライブラリー 9）吉川弘文館、1997 年、金森敦子『江戸庶民の旅ー旅のかたち・関所と女』（平凡社新書 146）平凡社、2002 年、神崎宣武『江戸の旅文化』岩波新書 884、岩波書店、2009 年、金森敦子『きよのさんと歩く 大江戸道中記ー日光・江戸・伊勢・京都・新潟…六百里』ちくま文庫、2012 年、桜井正信『現代訳 旅行用心集』八坂書房、2009 年等。						
評価の基準と方法		事前学習課題 3 0 %、小論文 5 0 %、最終レポート 2 0 %により評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○	◎			◎	
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-310-13	授業コード	FA0080
科目名称	日本の文化と歴史Ⅳ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Culture and History Ⅳ	授業区分	講義
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	日本への強い関心を持つ外国人によって近代以降に書かれた来日した外国人の紀行文や日記等の日本論に関する名著から、日本の文化の特徴を考える。具体的には、論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』に掲載する小論文の執筆や発表を通して、日本の文化の特徴を主体的に考察し、自らの見解を最終レポートとしてまとめる。		
到達目標	1. 日本の文化の特徴について、信憑性の高い情報を適切に収集・理解し、自らの考えを論理的に構築することができる。 2. 自らが考えた日本の文化の特徴について、文章や発表を通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：授業で対象とする外国人の日本論の名著について参考書等で確認しておく 授業：授業で対象とする外国人の日本論の名著について 復習：考察課題をフォームで提出する	
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』について参考書等を読んでおく 授業：アーネスト・サトウ『一外交官の見た明治維新』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する	
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：イザベラ・バード『日本奥地紀行』について参考書等を読んでおく 授業：イザベラ・バード『日本奥地紀行』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する	
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：エドワード・S・モース『日本その日その日』について参考書等を読んでおく 授業：エドワード・S・モース『日本その日その日』の解題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する	
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：E・ベルツ『日記』について参考書等を読んでおく 授業：E・ベルツ『日記』の改題（課題解決型学習） 復習：考察課題をフォームで提出する	
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』の作成①（課題解決型学習） 復習：執筆した部分を推敲する	
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』の作成②（課題解決型学習） 復習：執筆した部分を推敲する	
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』の作成③（課題解決型学習） 復習：論文集の小論文を提出する	
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる	

12	皆川 義孝	【第 12 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
13	皆川 義孝	【第 13 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑤（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
14	皆川 義孝	【第 14 回】 予習：論文集を読んでおく 授業：論文集『外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化』を読む⑥（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
15	皆川 義孝	【第 15 回】 予習：日本の文化と歴史Ⅳの学びを振り返る 授業：外国人が書いた日本論の名著から考える日本の文化（最終レポート）（課題解決型学習） 復習：日本の文化と歴史Ⅳの学びを総括する							
授業開始前学習		佐伯彰一・芳賀徹『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		事前学習課題等に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		佐伯彰一・芳賀徹『外国人による日本論の名著』（中央公論新社）							
評価の基準と方法		事前学習課題 3 0 %、小論文 5 0 %、最終レポート 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○	◎			◎	
関連科目									
その他		授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-11（2022 年～入学者） 111-331-12（～2021 年入学者）			授業コード	FA0210
科目名称	☆古典文学概論			単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Japanese Classical Literature			授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司			開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-611
授業概要	本講義は主要な古典文学作品を読み味わいながら、古典を読むときに必要な基礎的知識を再確認し、古典文学研究の基礎作りを行うことを目的とする。具体的には、上代から近世までの主要な日本の古典文学作品を取り上げ、作品の概要や基礎的な事項を解説しながら、近世までの文学の流れについて概観する。				
到達目標	・授業で扱った事項に関する簡単な質問に正しく答えることができる。 ・様々なジャンルの古典文学作品の概要を簡潔に説明することができる。 ・文学にあらわれたものの見方や考え方などについて、自分なりの言葉で表現することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習：古典文学作品のうち、一番興味を持っている作品は何か考えておく 授業：『古典』の意義（授業の目的と内容に関するオリエンテーション） 復習：本授業の目的を理解し、要点をまとめる			
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習：『古事記』の成立年次を調べておく 授業：『古事記』を読む 復習：『古事記』について感想等をまとめる			
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習：『万葉集』の歌をインターネットを使って探してみる 授業：『万葉集』を読む 復習：『万葉集』について感想等をまとめる			
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習：『竹取物語』の冒頭部を読んでおく 授業：『竹取物語』を読む 復習：『竹取物語』について感想等をまとめる			
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習：『伊勢物語』の成立について調べておく 授業：『伊勢物語』を読む 復習：『伊勢物語』について感想等をまとめる			
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習：『古今和歌集』の成立年次について調べる 授業：『古今和歌集』を読む 復習：『古今和歌集』について感想等をまとめる			
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習：『落窪物語』の冒頭部を読んでおく 授業：『落窪物語』を読む 復習：『落窪物語』について感想等をまとめる			
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習：『源氏物語』と紫式部について調べておく 授業：『源氏物語』を読む 復習：『源氏物語』について感想等をまとめる			
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習：『新古今和歌集』の成立年次を調べておく 授業：『新古今和歌集』を読む 復習：『新古今和歌集』について感想等をまとめる			
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習：『今昔物語集』の成立年次について調べておく 授業：『今昔物語集』を読む 復習：『今昔物語集』について感想等をまとめる			
11	三田 誠司	【第 11 回】 予習：『徒然草』と兼好法師について調べておく 授業：『徒然草』を読む 復習：『徒然草』について感想等をまとめる			

12	三田 誠司	【第 12 回】 予習：「連歌」について調べておく 授業：「連歌」と「俳諧」について 復習：連歌について感想等をまとめる							
13	三田 誠司	【第 13 回】 予習：『雨月物語』と上田秋成について調べておく 授業：『雨月物語』を読む 復習：『雨月物語』について感想等をまとめる							
14	三田 誠司	【第 14 回】 予習：『南総里見八犬伝』と曲亭馬琴について調べておく 授業：『南総里見八犬伝』を読む 復習：『南総里見八犬伝』について感想等をまとめる							
15	三田 誠司	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容を振り返っておく 授業：「俳諧」について補足、およびその他の古典文学作品について 復習：これまで取り上げた作品のなかから自分の好きな作品について調べる							
授業開始前学習		なるべく多くの古典文学作品にふれておく（現代語訳のものでもかまわない）。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業内容に対する質問・感想は、次回授業時まで適宜コメントをつけて返却する。							
テキスト・教材		授業担当者が作成した資料を配付する。							
参考書		池田亀鑑『古典学入門』（岩波文庫）、同『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫） 田辺聖子『文車日記』（新潮文庫） この他、適宜授業内で紹介する。							
評価の基準と方法		毎回の課題（70％）、レポート（30％）によって判断する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎		△	◎			
関連科目		「日本文学史」「古典文学」							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0220
科目名称	近代文学概論	単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Modern Japanese Literature	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	明治以降の日本の近代小説及び近代詩歌の歴史を概説しながら、時代ごとの代表的な文学者とその近代を代表する作品を解説する。小説、近代詩というジャンルが日本に根つき、「文学」の主要な位置を占めるようになってから、どのような発展を遂げてきたかを見ていくと共に、近代から現代へと至る文化の変遷の中で、「文学」の果たした役割について考察する。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	明治期において小説及び近代詩歌というジャンルがどのように形成され、現代の小説や詩歌の形式につながるのか、その概要を説明できるようになる。小説を中心とした「文学」が、近代から現代へと至る文化の変遷の中でどのような役割を果たしたのかを理解し、それをもとに具体的な作品を論じるための能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：日本近代文学についての自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・日本近代文学という枠組みについて（キーワード：近代、欧米の文学、小説、出版メディア、ビルドゥングスロマン） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「硝子戸の中」を読んでおく 授業：文明開化と「文学」の変容（教科書「明治文学」前半 pp.6-46）（キーワード：文明開化、江戸から東京へ、翻訳小説）（課題解決型学習） 復習：文明開化と文学について学んだことをまとめる	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「硝子戸の中」を読み直す 授業：「小説」とノベル（教科書「明治文学」後半 pp.6-46）（キーワード：ロマンスとノベル、夏目漱石「硝子戸の中」） 復習：夏目漱石について学んだことをまとめる	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「銀の匙」を読んでおく 授業：明治後期の小説文体（教科書教科書「明治文学」pp.6-46 まとめ）（キーワード：言文一致、文体、自然観察、子ども歳時記） 復習：中勘助について学んだことをまとめる	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：教科書「明治文学」pp.6-46、配付資料「銀の匙」を読み直す 授業：自然主義文学と漱石（教科書「明治文学」pp.6-46 発展）（キーワード：自然主義、夏目漱石、木曜会、）（課題解決型学習） 復習：自然主義文学と夏目漱石・中勘助について学んだことをまとめる	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：配付資料「天龍」を読んでおく 授業：「大正文壇の成立」と鴎外（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：森鴎外、「明星」「スバル」、耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：「大正文壇」と森鴎外について学んだことをまとめる	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：教科書「大正文学」pp.47-70 を読んでおく 授業：「大正文壇の成立」（DVD『1910 年の文学』視聴）（キーワード：耽美派、谷崎潤一郎、白樺派、志賀直哉） 復習：「大正文壇」について学んだことをまとめる『新思潮』と大正期教養主義について学んだことをまとめる	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：教科書「児童文学における<近代>」pp.66-70 を読んでおく 授業：賢治童話・未明童話・南吉童話と「赤い鳥」、教科書 pp.66-70（キーワード：御伽噺・文部省唱歌から童謡童話へ）（課題解決型学習） 復習：童謡童話運動・「トロツコ」・「風の又三郎」・「久助君の話」について学んだことをまとめる	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：教科書「昭和文学」pp.70-127 を読んでおく 授業：教科書「昭和文学」前半（キーワード：戦争文学、「文芸時代」、「女人芸術」）	

		復習：「昭和文学」前半について学んだことをまとめる						
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：教科書「昭和文学」pp.70-127 を読んでおく 授業：教科書「昭和文学」後半（キーワード：文芸復興、純粋小説、転向文学、太宰治） 復習：「昭和文学」後半について学んだことをまとめる						
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：教科書「戦後文学」pp.127-156 を読んでおく 授業：教科書「戦後文学」pp.127-156（キーワード：女性作家の活躍、言論統制、第三の新人） 復習：「戦後文学」について学んだことをまとめる						
12	木内 英実	【第 12 回】 予習：教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」pp.158-228 を読んでおく 授業：近現代の詩歌（教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」前半）（キーワード：「新体詩抄」、「明星」「スバル」、童謡詩） 復習：近現代の詩歌について学んだことをまとめる						
13	木内 英実	【第 13 回】 予習：教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」pp.158-228 を読んでおく 授業：近現代の詩歌（教科書「Ⅱ 近代詩歌の流れ」後半）（キーワード：第二芸術論、抒情から思想へ、戦後詩歌） 復習：近現代の詩歌について学んだことをまとめる						
14	木内 英実	【第 14 回】 予習：配付プリント「世界文学としての日本近現代文学-川端康成・大江健三郎・村上春樹-」を読んでおく 授業：カズオ・イシグロの文学（DVD『カズオ・イシグロ文学白熱教室』視聴 課題提出 ）（キーワード：「日本」という概念、グローバリズム） 復習：世界文学としての日本文学について学んだことをまとめる						
15	木内 英実	【第 15 回】 予習：現代の文学について考える 授業：現代における「文学」の位置づけ（キーワード：映像文化、メディアミックス、文学概念の変容）/振り返りレポート作成 復習：これまでの学習内容をもとに日本の近現代文学史について考える						
授業開始前学習		授業に関連する日本の近現代文学作品を出来るだけ読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容に関連した授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		三好行雄『日本の近代文学』（はなわ新書）						
参考書		安藤宏『日本近代小説史』（中公選書）、外村彰編『昭和の文学を読む』（ひつじ書房）						
評価の基準と方法		授業内課題（20%）、GW 等授業受講姿勢（20%）、学期末レポート（60%）で総合評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0230
科目名称	日本語学概論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Japanese Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	日本語の音声・音韻論、文字・表記論、文法論、語彙論の基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。		
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。(2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。(3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	柏野 和佳子	【第 1 回】 予習：最近気になる言葉を 1 つ以上見つけておく 授業：イントロダクション 日本語学とは 復習：国立国語研究所のコーパスを使う	
2	柏野 和佳子	【第 2 回】 予習：身の回りで、カタカナで表記されているものを観察する 授業：文字と表記（1）日本語の文字 復習：身の回りの表記を文字種に着目して観察する	
3	柏野 和佳子	【第 3 回】 予習：振り仮名（ルビ）で面白いと思う用例を見つける 授業：文字と表記（2）仮名遣いと送り仮名 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で表記のゆれを検索して確認する	
4	柏野 和佳子	【第 4 回】 予習：テレビ音声を耳で聞いて文字化してみる 授業：音声と音韻（1）音声・発音 復習：発音の練習をする	
5	柏野 和佳子	【第 5 回】 予習：早口言葉を練習する 授業：音声と音韻（2）音韻・韻律 復習：『日本語日常会話コーパス』で発音のゆれを検索して確認する	
6	柏野 和佳子	【第 6 回】 予習：程度がはなはだしいことを表す副詞を挙げる 授業：文法（1）形態論 復習：人や物をほめる時に使える形容詞・形容動詞を挙げる	
7	柏野 和佳子	【第 7 回】 予習：「○○が熱い」「熱い○○」「熱く○○」それぞれを使った例文を作る 授業：文法（2）活用 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で用例の活用形を確認する	
8	柏野 和佳子	【第 8 回】 予習：新聞記事などを読みわかりやすい文の構造について考える 授業：文法（3）文の構造 復習：自身の書いた文章が一文一義になるよう見直す	
9	柏野 和佳子	【第 9 回】 予習：新聞記事などに受動文がどれくらい使われているかを確認する 授業：文法（4）文法カテゴリー ヴォイス 復習：身近にある文章で受動文・使役文の使用例を確認する	
10	柏野 和佳子	【第 10 回】 予習：ブログ記事などで「?だろう」「?かもしれない」など書き手の主観が現れていると思う文末表現を確認する 授業：文法（5）文法カテゴリー テンス・アスペクト・ムード 復習：身近にある文章でテンス・アスペクト・ムードの使用例を確認する	
11	柏野 和佳子	【第 11 回】 予習：図書室などで類語辞典を読んでみる 授業：語彙（1）語と語彙 復習：『分類語彙表』を用いて興味のあるカテゴリに入る語を確認する	

12	柏野 和佳子	【第 12 回】 予習：難易度の異なる文章の語を比較する 授業：語彙（２）基本語彙、さまざまな語彙 復習：使用語彙と理解語彙の差を確認する							
13	柏野 和佳子	【第 13 回】 予習：身近にある外来語の例を確認する 授業：語彙（３）語種 復習：興味のある文章で用いられている語の語種を確認する							
14	柏野 和佳子	【第 14 回】 予習：身近にある複合語の例を確認する 授業：語彙（４）語構成と語形成 復習：複合名詞、複合動詞、複合形容詞、複合形容動詞、複合副詞の例を確認する							
15	柏野 和佳子	【第 15 回】 予習：分析をしてみたい歌詞のテキストを用意する 授業：まとめ 歌詞の形態素解析 復習：形態素解析をした結果をまとめてレポートを作成する							
授業開始前学習		日頃から国語辞典（形態は問わない）を引くよう習慣づけるとよい。また、日本語・日本語学に関わる新書等を読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は主にネットワーク経由のアンケート方式で配付・回収する。授業時に、個別の質問・意見等への回答を含め、結果全体について講評する。							
テキスト・教材		主に Google Classroom にて資料を配付する。							
参考書		沖森卓也ほか(2006)『図解 日本語』／(2011)『図解 日本の文字』／(2011)『図解 日本の語彙』（三省堂）、荻野綱男編著(2018)『現代日本語学入門改訂版』（明治書院）、伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』（ひつじ書房）							
評価の基準と方法		平常点（授業への参加状況等）40%と、レポート 60%によって、評価を行う。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎		△	◎			
関連科目									
その他		パソコン教場の空き状況により、実習日が変更になる可能性がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		国立国語研究所の実務経験あり。日本語の基本的な事項について講義する。							

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0240
科目名称	日本語学概論Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Japanese Linguistics II	授業区分	講義
科目責任者	柏野 和佳子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	柏野 和佳子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	日本語の意味論、位相、敬語、社会とことば、及び応用分野の基本的な事項について学ぶ。また、この授業では、PC を用いた実習を行う。実習のタイミングは授業時に指示する。		
到達目標	(1)日本語に関する基本的な知識を身につける。(2)日本語全体に関心を持ち、観察し、分析する視点を獲得する。(3)学んだ日本語の知識を日常の言語行動や教育に活用できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	柏野 和佳子	予習：身の回りにある類義語や反義語を観察する 授業：意味（１）同義語・類義語・反義語 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で類義語を検索して用例を比較する	
2	柏野 和佳子	予習：意味が変化したと思う語を見つけてみる 授業：意味（２）意味の変化 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で意味が変化した語の用例を確認する	
3	柏野 和佳子	予習：意味がたくさんありそうな語を国語辞典で引く 授業：意味（３）多義語 復習：『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で多義語の用例を確認する	
4	柏野 和佳子	予習：気になる方言を１つ以上見つけておく 授業：位相（１）方言と共通語 復習：方言が広く使われている例を確認する	
5	柏野 和佳子	予習：性別や世代による言葉使いの違いを考えてみる 授業：位相（２）性別差・世代差 復習：身の回りにあるさまざまな語の位相について確認する	
6	柏野 和佳子	予習：レポートや論文に使わない方がよいと思われる話し言葉的な表現を見つけてみる 授業：位相（３）話し言葉・書き言葉 復習：『日本語日常会話コーパス』で話し言葉の用例を確認する	
7	柏野 和佳子	予習：身の回りで使われているさまざまな敬語表現を観察する 授業：敬語（１）敬語表現の分類 復習：『日本語日常会話コーパス』で敬語表現の例を確認する	
8	柏野 和佳子	予習：どのような場面で敬語が用いられているかを観察する 授業：敬語（２）敬語の変化 復習：地域社会と敬語行動の関係について理解する	
9	柏野 和佳子	予習：気になる新語・流行語を１つ以上見つけておく 授業：社会と言葉（１）新語・流行語 復習：コーパス等で新語・流行語の用例を確認する	
10	柏野 和佳子	予習：身の回りにある製品の中でうまいと思う命名を見つけておく 授業：社会と言葉（２）命名 復習：身の回りにある物に対し自分でも命名をしてみる	
11	柏野 和佳子	予習：集団語・若者語の例を確認する 授業：社会と言葉（３）集団語・若者語 復習：コーパス等で集団語・若者語の用例を確認する	
12	柏野 和佳子	予習：気になる語について国語辞典を引いて意味を確認する 授業：社会と言葉（４）辞書 復習：気になる語の新しい語釈を考えてみる	
13	柏野 和佳子	予習：図書室などで日本語教育の教材がどのようなものか見てみる 授業：応用（１）国語教育、日本語教育 復習：「外国語としての日本語」の教育という点について確認する	
14	柏野 和佳子	予習：図書室などでどのような「言語学」関連の本があるのかを見てみる 授業：応用（２）認知言語学、コンピュータ言語学、社会言語学 復習：研究事例の資料を読む	

古典文学 I (上代・中古)

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0250
科目名称	古典文学 I (上代・中古)	単位数	2.0 単位
英文名称	Classical literature I (Ancient Times)	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	上代・中古の文学に関する基礎知識を修得することを目的とする。具体的には、日本文学の源泉である『古事記』を取り上げて、同時代の『万葉集』や中古文学とも関連付けつつ概説する。一語一語大切に読み解きながら、古典文学の世界に親しみ、現代までつづく「日本文学」の基礎的な問題点について考察を深める。		
到達目標	・自分なりの興味・関心をもって古典文学作品と向かい合うことができる。 ・授業で取り扱った上代・中古の文学作品について、その要点を自分なりの表現で説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習 : 教材プリント 1 を一読する 授業 : 『古事記』概説 「天地始発」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習 : 教材プリント 2 を一読する 授業 : 「国土生成」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習 : 教材プリント 3 を一読する 授業 : 「神生み」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習 : 教材プリント 4 を一読する 授業 : 「黄泉国訪問」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習 : 教材プリント 5 を一読する 授業 : 「三貴子誕生」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習 : 教材プリント 6 を一読する 授業 : 「天の石戸」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習 : 教材プリント 7 を一読する 授業 : 「ヤマタノオロチ」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習 : 教材プリント 8 を一読する 授業 : 「オオアナムチ」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習 : 教材プリント 9 を一読する 授業 : 「大国主」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習 : 教材プリント 10 を一読する 授業 : 「出雲神話」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	
11	三田 誠司	【第 11 回】 予習 : 教材プリント 11 を一読する 授業 : 「天の若日子」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)	

12	三田 誠司	【第 12 回】 予習 : 教材プリント 12 を一読する 授業 : 「国譲り」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)							
13	三田 誠司	【第 13 回】 予習 : 教材プリント 13 を一読する 授業 : 「天孫降臨」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)							
14	三田 誠司	【第 14 回】 予習 : 教材プリント 14 を一読する 授業 : 「山幸海幸」 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)							
15	三田 誠司	【第 15 回】 予習 : 教材プリント 15 を一読する 授業 : 「ウガヤフキアヘズの命」『古事記』上巻のまとめ 復習 : 本時の課題に取り組む (Classroom)							
授業開始前学習		古事記に関する簡単な概説書を一冊読んでおくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業の内容の要約および質問感想は、次回授業時まで、教員のコメントを付して返却する。							
テキスト・教材		授業担当者が作成した資料を用いる。							
参考書		授業内で指示する。							
評価の基準と方法		各回の課題 (70%)、レポート (30%) により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

古典文学Ⅱ(中世・近世)

科目分類	111-331-12			授業コード	FA0260
科目名称	古典文学Ⅱ(中世・近世)			単位数	2.0 単位
英文名称	Classical literature Ⅱ (Middle Ages)			授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	江戸時代の俳諧師、芭蕉の『おくのほそ道』を通して、江戸時代の歴史、地理的感覚、文化、文学を原典資料の画像や絵画・絵図・地図を用いて講義します。 元禄 2 年（1689）、芭蕉は門人曾良とともに江戸を旅立ち、東北・北陸を巡り、大垣に着き、再び旅立つところで紀行は結ばれます。 この名所・歌枕を訪ね、発句および文を記した本作は、名作として知られています。 俳諧は、「象潟や料理何食ふ神祭（曾良）」のように、各地の行事や風俗を読みこみます。 この授業では、俳諧・紀行文をさまざまな視点から読みこことによって、日本の歴史と社会、江戸時代の文化や、その文学に親しむことを目標とします。				
到達目標	文学作品を読み、日本語の表現と歴史・社会・文化的背景を理解することができる。 原典資料の画像や絵画・絵図・地図などを見て楽しむことができる。 （１） 季節感と四季の行事 （２） 江戸の文化と旅の風俗 （３） 和歌や古典文学の知識 （４） 狂歌や俳諧の表現（言葉）				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	大内 瑞恵	【第 1 回】 予習：『おくのほそ道』全文を通読し、シラバスの内容を確認する 授業： ガイダンス 講義の目的と概要、テキストと参考文献の解説 復習： 図書館等で参考文献・データベースの使い方を確認しておく			
2	大内 瑞恵	【第 2 回】 予習： テキスト全体に目を通し、その構成を確認する 授業：『おくのほそ道』を知るための基礎知識（1）芭蕉と俳諧史概説 復習： 連歌・俳諧の展開、芭蕉の経歴・作風を整理する			
3	大内 瑞恵	【第 3 回】 予習： テキストの解説を読んでおく 授業：『おくのほそ道』を知るための基礎知識（2）旅の目的と創作意識 復習： 芭蕉の奥羽行脚の目的と俳文・紀行の執筆意図を確認する			
4	大内 瑞恵	【第 4 回】 予習： テキストの「日光山」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の正直房と仏五左衛門 復習：『撰集抄』の隠遁者像と仏五左衛門の人物造形についてまとめる			
5	大内 瑞恵	【第 5 回】 予習： テキストの「那須野」の章段を読み、内容を把握する 授業： 謡曲『錦木』と「草刈るおのこ」これまでの感想の発表と質疑応答（発表） 復習： 謡曲の文句取りとその効果について整理する			
6	大内 瑞恵	【第 6 回】 予習： テキストの「雲巖寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の道歌と「山居の跡」 復習：『撰集抄』の道歌のスタイルをふまえ、仏頂和尚の位置づけを確認する			
7	大内 瑞恵	【第 7 回】 予習： テキストの「殺生石」の章段を読み、内容を把握する 授業： 謡曲『殺生石』と「石の毒気」 復習： 謡曲の世界観を踏まえ、当該章段の描写を読み返す			
8	大内 瑞恵	【第 8 回】 予習： テキストの「遊行柳」の章段を読み、内容を把握する 授業： 謡曲『遊行柳』と「清水ながるるの柳」 復習： 西行和歌・謡曲の筋立て・芭蕉発句の関係性を整理する			
9	大内 瑞恵	【第 9 回】 予習： テキストの「安積山・信夫の里」の章段を読み、内容を把握する 授業： 謡曲『黒塚（安達原）』と「黒塚の岩屋」 復習： 本文の中では語られない「岩屋一見」の意義を謡曲により補完する			

10	大内 瑞恵	【第 10 回】 予習：テキストの「瑞巖寺」の章段を読み、内容を把握する 授業：『撰集抄』の見仏上人と瑞巖寺 これまでの感想の発表と質疑応答（発表） 復習：見仏上人への追慕と『撰集抄』との関わりをまとめる							
11	大内 瑞恵	【第 11 回】 予習：テキストの「平泉」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『邯鄲』と「栄耀一睡」 復習：「一睡」が正しくは「一炊」であることの意味を確認する							
12	大内 瑞恵	【第 12 回】 予習：テキストの「市振」の章段を読み、内容を把握する 授業：江口の遊女と市振の遊女 復習：遊女との同宿という状況を演出した芭蕉の意図を考える							
13	大内 瑞恵	【第 13 回】 予習：テキストの「小松」の章段を読み、内容を把握する 授業：謡曲『実盛』と「太田の神社」 復習：斎藤別当実盛の逸話をふまえ、章段全体を読み直す							
14	大内 瑞恵	【第 14 回】 予習：これまでの学習内容を整理しておく 授業：到達度確認テスト（記述式・持ち込み可予定） 復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する							
15	大内 瑞恵	【第 15 回】 予習：自己のテスト回答を確認しておく 授業：到達度確認テストの講評と返却、これまでの感想の発表と質疑応答（発表） 復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する							
授業開始前学習		テキスト以外の書籍・媒体でも構わないので、『おくのほそ道』全体を読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパー：毎時間、授業内でコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において解説。							
テキスト・教材		頼原退蔵・尾形佯訳注『新版 おくのほそ道』（角川ソフィア文庫・KADOKAWA 2003 年） ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書		尾形佯ほか編『俳文学大辞典』角川書店、1995 年 ※同内容の普及版（2008 年刊）もある。 井本農一ほか校注訳『新編日本古典文学全集 松尾芭蕉集②』小学館、1997 年 堀切実編『おくのほそ道』解釈事典』東京堂出版、2003 年 西野春雄校注『新日本古典文学大系 謡曲百番』岩波書店、1998 年 等							
評価の基準と方法		・到達度確認テストの成績（60%） ・リアクションペーパー・発表・質疑応答（40%）							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○		
関連科目									
その他		・毎回の授業時にリアクションペーパーを配布し、授業に対する質問・感想を記入。 ・記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

近現代文学 I (近代)

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0270
科目名称	近現代文学 I (近代)	単位数	2.0 単位
英文名称	Modern and Contemporary Literature I (Modern)	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	明治期後半から昭和戦前期までに発表された日本の近代小説の中から、夏目漱石「坊っちゃん」、田山花袋「少女病」、志賀直哉「小僧の神様」、谷崎潤一郎「夢喰ふ蟲」を読む。小説の内容と時代背景を理解し、小説に描かれている事物の同時代的な意味を把握する。その上で、人物の造型や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を行っていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	明治期から昭和戦前期の小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。夏目漱石、田山花袋、志賀直哉、谷崎潤一郎といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：明治期・大正期・昭和戦前期の日本近代文学について自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方について・日本の近代小説についての説明（キーワード：近代小説、言文一致、自然主義、大正文壇、マルキシズムとモダニズム、十五年戦争） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：「坊っちゃん」を読んでおく 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む 1（教科書 142～155 頁、夏目漱石について・英国留学との関わり・小説家になるまで）（キーワード：夏目漱石、英国留学、「文学論」） 復習：夏目漱石と「坊っちゃん」について、授業で学んだことをまとめる	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む 2（内容の説明と構成・課題 1 提出）（キーワード：松山、正岡子規、「ホトギス」）（課題解決型学習） 復習：「坊っちゃん」の内容と構成について、授業で学んだことをまとめ、課題 1 に取り組む	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む 3（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「おれ」の人物造型、「清」「赤シャツ」の人物像系） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：夏目漱石「坊っちゃん」を読む 4（小説の文体や描写・本文異同・語りの構造に関する分析・課題 1 解説）（キーワード：文体の特徴、語りの構造、歴史と創作） 復習：授業で学んだことをもとに、「坊っちゃん」についての自分の意見をまとめる	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：「少女病」を読んでおく 授業：田山花袋「少女病」を読む 1（教科書 83～97 頁、田山花袋について・内容の説明と構成・課題 2 提出）（キーワード：田山花袋、自然主義、平面描写、日露戦争、都市空間）（課題解決型学習） 復習：田山花袋と「少女病」について、授業で学んだことをまとめ、課題 2 に取り組む	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：田山花袋「少女病」を読む 2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：「かれ」の人物造型、「かれ」の心理、「かれ」の死） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：前回の授業で学んだことを振り返る 授業：田山花袋「少女病」を読む 3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題 2 解説）（キーワード：平面描写による文体、語りの構造、無理想無解決） 復習：授業で学んだことをもとに、「少女病」についての自分の意見をまとめる	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：「小僧の神様」を読んでおく 授業：志賀直哉「小僧の神様」を読む 1（教科書 9～19 頁、志賀直哉について・内容の説明と構成・課題 3 提	

		出) (キーワード: 志賀直哉、白樺派、理想主義とリアリズム、小説の神様) (課題解決型学習) 復習: 志賀直哉と「小僧の神様」について、授業で学んだことをまとめ、課題 3 に取り組む						
10	木内 英実	【第 10 回】 予習: 前回の授業で学んだことを振り返る 授業: 志賀直哉「小僧の神様」を読む 2 (人物の造型や心理に関する分析) (キーワード: 「仙吉」及び「A」の人物造型、「B」及び「細君」の人物造型、) 復習: 人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる						
11	木内 英実	【第 11 回】 予習: 前回の授業で学んだことを振り返る 授業: 志賀直哉「小僧の神様」を読む 3 (小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題 3 解説) (キーワード: 簡潔な文体、テキスト論、メタフィクション) 復習: 授業で学んだことをもとに、「小僧の神様」についての自分の意見をまとめる						
12	木内 英実	【第 12 回】 予習: 「蓼喰ふ蟲」を読んでおく 授業: 谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む 1 (教科書 185~201 頁、谷崎潤一郎について・内容の説明と構成・課題 4 提出) (キーワード: 谷崎潤一郎、耽美派、新聞小説、上方文化) (課題解決型学習) 復習: 谷崎潤一郎と「蓼喰ふ蟲」について、授業で学んだことをまとめ、課題 4 に取り組む						
13	木内 英実	【第 13 回】 予習: 前回の授業で学んだことを読み返す 授業: 谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む 2 (人物の造型や心理に関する分析) (キーワード: 語り手の「要」、「美佐子」「お久」「老人」の人物造型) 復習: 人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる						
14	木内 英実	【第 14 回】 予習: 前回の授業で学んだことを読み返す 授業: 谷崎潤一郎「蓼喰ふ蟲」を読む 3 (小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題 4 解説) (キーワード: 文体の特徴、語りの構造、挿絵、メディア) 復習: 授業で学んだことをもとに、「蓼喰ふ蟲」についての自分の意見をまとめる						
15	木内 英実	【第 15 回】 予習: これまでの授業で学んだことを振り返る 授業: 明治期・大正期・昭和戦前期における作家・作品の位置づけについて補足説明 期末レポート作成 復習: 近現代期の小説について授業で学んだことをまとめる						
授業開始前学習		授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で取り上げる 4 つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		『大学生のための文学トレーニング 近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著 (三省堂)						
参考書		『大学生のための文学トレーニング 現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著 (三省堂) 『日本近代小説史』安藤宏 (中央公論社) 『日本の近代文学』三好行雄 (はなわ新書)						
評価の基準と方法		授業内課題 (40%)、GW 等授業参加姿勢 (20%)、学期末レポート (40%) で総合評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目	近現代文学 (現代) 近代文学概論							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

近現代文学Ⅱ(現代)

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0280
科目名称	近現代文学Ⅱ(現代)	単位数	2.0 単位
英文名称	Modern and Contemporary Literature Ⅱ (Contemporary)	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説の中から、石川淳「焼跡のイエス」、三島由紀夫「卒塔婆小町」、深沢七郎「檀山節考」、石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む。小説の内容と時代背景を理解し、小説に描かれている事物の同時代的な意味を把握する。その上で、人物の造型や心理、小説の文体や描写、語りの構造などについての考察を行っていく。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	第二次世界大戦後のいわゆる「戦後文学」と呼ばれる小説を読んでその内容を理解し、当時の小説の文体や描写の特徴を読み取ることができる。 石川淳、三島由紀夫、深沢七郎、石牟礼道子といった当時の作家たちに関する知識を学び、その作品の傾向や、どのように評価されてきたかを説明できるようになる。 小説についての自分の意見を、根拠を示しながら論理的に説明する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：第二次世界大戦後の「戦後文学」について自分の知識を確認しておく 授業：授業の進め方の説明・第二次世界大戦後の「戦後文学」についての説明（キーワード：敗戦、GHQ の占領政策、価値観の変容、雑誌の創刊・復刊） 復習：授業の進め方を理解し、授業で学んだことをまとめる	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：「焼跡のイエス」を読んでおく 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む 1（『大学生のための文学トレーニング 近代編』128～140 頁、石川淳について・内容の説明と語釈・課題 1 出題）（キーワード：石川淳、フランス文学、芥川賞、無頼派、闇市、浮浪児）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 1 に取り組む	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を振り返る 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む 2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：闇市の中の「わたし」、上野の闇市の描写、少年の行動） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：前回学んだことをもとに「焼跡のイエス」を振り返る 授業：石川淳「焼跡のイエス」を読む 3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題 1 解説）（キーワード：「わたし」の語り口、SCAP、言論統制） 復習：授業で学んだことをもとに、「焼跡のイエス」について自分の意見をまとめる	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：「卒塔婆小町」を読んでおく 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む 1（教科書 24～37 頁、三島由紀夫について・内容の説明と語釈・課題 2 出題）（キーワード：三島由紀夫、「近代能楽集」、卒塔婆小町）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 2 に取り組む	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を振り返る 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む 2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：詩人の美的体験、老婆の美的体験） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：前回学んだことをもとに「卒塔婆小町」を振り返る 授業：三島由紀夫「卒塔婆小町」を読む 3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題 2 解説）（キーワード：美の認識、間テクスト性、言葉の力） 復習：授業で学んだことをもとに、「卒塔婆小町」について自分の意見をまとめる	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：「檀山節考」を読んでおく 授業：深沢七郎「檀山節考」を読む 1（教科書 76～101 頁、深沢七郎について・内容の説明と語釈・課題 3 出題）（キーワード：深沢七郎、説話の設定、オリエンタリズム）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 3 に取り組む	

9	木内 英実	【第9回】 予習：前回学んだことをもとに「檀山節考」を振り返る 授業：深沢七郎「檀山節考」を読む2（人物の造型や心理に関する分析）（キーワード：オリエンタリズムとジェンダー、自己犠牲、他者） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる						
10	木内 英実	【第10回】 予習：前回学んだことをもとに「檀山節考」を振り返る 授業：深沢七郎「檀山節考」を読む3（小説の文体や描写・語りの構造に関する分析・課題3解説）（キーワード：説話的な語り、オリエンタリズム、グロテスクと神聖） 復習：授業で学んだことをもとに、「檀山節考」について自分の意見をまとめる						
11	木内 英実	【第11回】 予習：「ゆき女さき書き」を読んでおく 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む1（教科書102～123頁、石牟礼道子について・「苦海浄土」について・課題4出題）（キーワード：石牟礼道子、水俣病患者、「苦海浄土」）（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題4に取り組む						
12	木内 英実	【第12回】 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を振り返る 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む2（内容の説明と語釈）（キーワード：水俣病患者、坂上ゆきの語り、サバルタン研究） 復習：作品の内容について授業で学んだことをまとめる						
13	木内 英実	【第13回】 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を振り返る 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」を読む3（人物の造型や心理に関する分析・課題4解説）（キーワード：他者を語ることの困難、環境問題、自然観） 復習：人物の造型や心理について、授業で学んだことをまとめる						
14	木内 英実	【第14回】 予習：前回学んだことをもとに「ゆき女さき書き」を振り返る 授業：石牟礼道子「ゆき女さき書き」と映画「Minamata」におけるスミス夫妻の視点を比較する（水俣病患者へのアプローチや彼らを描写する方法論の相違）（キーワード：生命力の描写、共感性） 復習：授業で学んだことをもとに、「ゆき女さき書き」について自分の意見をまとめる						
15	木内 英実	【第15回】 予習：これまで授業で学んだことを振り返る 授業：「戦後文学」における作家・作品の位置づけ（キーワード：価値観の変容、戦争体験、時代状況との関わり）・学期末レポート提出 復習：「戦後文学」について授業で学んだことをまとめる						
授業開始前学習		授業で扱う文学作品を事前に読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で取り上げる4つの作品について、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		『大学生のための文学トレーニング 現代編』浅野麗、小野祥子、河野龍也、佐藤淳一、山根龍一、山本良編著（三省堂）						
参考書		『大学生のための文学トレーニング 近代編』河野龍也、佐藤淳一、古川裕佳、山根龍一、山本良編著（三省堂）、『昭和の文学を読む』外村彰編（ひつじ書房）、『日本の文学とことば』麻原美子編（東京堂出版）						
評価の基準と方法		授業内課題（40％）、GW等授業参加姿勢（20％）、学期末レポート（40％）で総合評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○		
関連科目	近現代文学Ⅰ（近代） 近代文学概論							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-331-13	授業コード	FA0290
科目名称	日本語学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	小中高等学校で扱う学校文法について概観するとともに、現代の日本語文法について歴史的な言語変化という観点から理解を深める。		
到達目標	現代の学校文法の基礎を理解し、古典文法との関わりや日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習 : シラバスを熟読・確認する 授業 : 日本語史の時代区分と古典語・現代語、現代日本語と中央語・共通語・方言 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
2	石川 創	【第 2 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 学校文法における品詞分類と品詞名 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
3	石川 創	【第 3 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 学校文法における活用と活用形 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
4	石川 創	【第 4 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 文章・文・文節・単語・形態素 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
5	石川 創	【第 5 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 学校文法における各品詞の概要 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
6	石川 創	【第 6 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の動詞 (1) — 動詞の分類 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
7	石川 創	【第 7 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の動詞 (2) — 活用の歴史 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
8	石川 創	【第 8 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の形容詞・小テスト 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
9	石川 創	【第 9 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の形容動詞 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
10	石川 創	【第 10 回】 予習 : これまでの講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の名詞・代名詞 復習 : 講義内容・配布資料の復習	
11	石川 創	【第 11 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の副詞・連体詞 復習 : 講義内容・配布資料の復習	

12	石川 創	【第 12 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の接続詞・感動詞 復習 : 講義内容・配布資料の復習							
13	石川 創	【第 13 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の助動詞 復習 : 講義内容・配布資料の復習							
14	石川 創	【第 14 回】 予習 : 講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の助詞（１）－助詞の分類 復習 : 講義内容・配布資料の復習							
15	石川 創	【第 15 回】 予習 : これまでの講義内容・配布資料の復習 授業 : 現代語の助詞（２）－「が」と「は」の違い－・小テスト 復習 : 講義全体の復習							
授業開始前学習		中学校・高等学校の時に使用した口語文法・古典文法の教科書を通読すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業時に実施するワークシートは、次週に解説および個別質問への回答を行う。							
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。							
参考書		森山卓郎『ここからはじまる日本語文法』ひつじ書房。他、授業時に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業内における小テスト 2 回（80％）、各回のコメントシート（20％）							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-13	授業コード	FA0300
科目名称	日本語学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Linguistics Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	本授業では、日本語の語と語彙について、さまざまな観点から取り上げる。語の音声、意味、語構成、文法、位相の違い等について、現代における指針・規則や国語教育における扱いなどを紹介するとともに、過去から現在にかけてどのような変遷をたどってきたのか、各時代の文学作品や国語辞書等の用例を示しながら具体的に解説する。		
到達目標	①日本語の単語の語種や語構成、アクセント等について正しく理解できる。②年代、性別、地域、文法、文体などを根拠として語を分類し、それぞれの語群の特性について説明できる。③国語辞書の特色や歴史を理解し、適切に辞書を使いこなせる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習 : 英語と日本語の「アクセント」の違いについて考える。 授業 : 語の音声（音節・拍、アクセント等）と意味（語義、語感等）について（教科書 10 頁から 15 頁） （グループ・ワーク） 復習 : 復習プリント（日本語の共通語アクセントの規則）に取り組む。	
2	石川 創	【第 2 回】 予習 : 予習プリント（日本語の形態素）に取り組む。 授業 : 日本語の単語の語構成、ならびに語を構成する要素（語基・接辞）について（教科書 16 頁から 21 頁） 復習 : 復習プリント（日本語の単語の分類）に取り組む。	
3	石川 創	【第 3 回】 予習 : 予習プリント（学校文法における品詞分類）に取り組む。 授業 : 日本語の単語の、語種や品詞による分類について（教科書 36 頁から 43 頁） 復習 : 復習プリント（現代における混種語）に取り組む。	
4	石川 創	【第 4 回】 予習 : 予習プリント（日本語の感情語彙）に取り組む。 授業 : 日本語の身体語彙や感情語彙について（教科書 44 頁から 55 頁） 復習 : 復習プリント（類義語と対義語）に取り組む。	
5	石川 創	【第 5 回】 予習 : 予習プリント（現代日本語のオノマトペ）に取り組む。 授業 : 日本語のオノマトペについて（教科書 60 頁から 63 頁） 復習 : 復習プリント（オノマトペ接尾辞の機能）に取り組む。	
6	石川 創	【第 6 回】 予習 : 予習プリント（世界の数詞）に取り組む。 授業 : 日本語の数詞・助数詞について（教科書 56 頁から 59 頁） 復習 : 復習プリント（日本語における「数え方」）に取り組む。	
7	石川 創	【第 7 回】 予習 : 予習プリント（語種と類義語・対義語）に取り組む。 授業 : 語同士の意味関係（類義語・対義語、上位語・下位語等）について（教科書 68 頁から 77 頁） 復習 : 復習プリント（類義語の意味の違い）に取り組む。	
8	石川 創	【第 8 回】 予習 : 予習プリント（「国語に関する世論調査」にみることばの変化）に取り組む。 授業 : ことばの意味や語形が変化する原理、および語の言い換えについて（教科書 82 頁から 93 頁）（グループ・ワーク） 復習 : 復習プリント（言い換えと語種）に取り組む。	
9	石川 創	【第 9 回】 予習 : 予習プリント（和語と多義語）に取り組む。 授業 : 和語・漢語の歴史について（教科書 98 頁から 118 頁） 復習 : 復習プリント（漢語と字音）に取り組む。	
10	石川 創	【第 10 回】 予習 : 予習プリント（現代日本語における外来語）に取り組む。 授業 : 外来語・混種語の歴史について（教科書 119 頁から 125 頁） 復習 : 復習プリント（外来語の表記）に取り組む。	

11	石川 創	【第 11 回】 予習 : 予習プリント（新方言について）に取り組む。 授業 : 地域のことば（方言語彙）や集団のことば（職業語、挨拶語等）について（教科書 126 頁から 129 頁、148 頁から 151 頁）（グループ・ワーク） 復習 : 復習プリント（キャンパス言葉について）に取り組む。							
12	石川 創	【第 12 回】 予習 : 予習プリント（女性語とは何か）に取り組む。 授業 : 年齢やジェンダーとことばの関係（若者言葉、女性語・男性語等）について（教科書 130 頁から 135 頁） 復習 : 復習プリント（若者言葉の語構成）に取り組む。							
13	石川 創	【第 13 回】 予習 : 予習プリント（商品の命名）に取り組む。 授業 : 日本語における命名や、文芸のことばについて（教科書 152 頁から 157 頁） 復習 : 復習プリント（洒落の構造）に取り組む。							
14	石川 創	【第 14 回】 予習 : 予習プリント（現代の国語辞書の情報）に取り組む。 授業 : 現代の国語辞書の特色について（教科書 158 頁から 161 頁）（グループ・ワーク） 復習 : 復習プリント（現代の国語辞書の語釈）に取り組む。							
15	石川 創	【第 15 回】 予習 : 予習プリント（近代の国語辞書の語釈）に取り組む。 授業 : 日本における辞書の歴史について（教科書 115 頁から 117 頁、158 頁から 161 頁） 復習 : 復習プリント（近代の新語辞書）に取り組む。							
授業開始前学習		テキスト・参考書を通読し、不明な点を授業前に整理しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		予習・復習プリントを各回の授業において回収し、各学生から寄せられた質問や意見について、次回の授業内で紹介・回答する。							
テキスト・教材		沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子『図解 日本の語彙』（三省堂、2011 年）							
参考書		沖森卓也編著、木村一・鈴木功眞・吉田光浩著『日本語ライブラリー 語と語彙』（朝倉書店、2012 年）							
評価の基準と方法		平常点（予習・復習プリントへの取り組み・30％）と定期試験の成績（70％）によって評価を行う。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○		
関連科目		日本語学Ⅰ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0310
科目名称	日本文学史Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese Literature Ⅰ	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	本講義は上代から中古までの日本の文学作品を通時的に学び、基礎的な知識を修得し、文学の史的展開について理解することを目的とする。具体的には『古今和歌集』などの和歌文学や『竹取物語』『源氏物語』などの物語文学など、各時代を代表するジャンルの作品を取り上げ、作品・作者について概説しながら、基礎的な知識を身につけさせるとともに、時代と作品との関連性や、文学形態の発展過程等、文学の史的展開について考察していく。		
到達目標	・各時代における主要な作品名・作者名・成立時等を正しく答えることができる。 ・上代から中古に至る文学史の流れを、各ジャンルを意識しつつ総括的に論述することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習 : 日本史の時代区分について再確認しておく 授業 : 文学史に求められるもの (授業の内容と目的に関するオリエンテーション) 復習 : 授業内容を整理し、要点をまとめる	
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習 : 前回配付の資料を一読しておく 授業 : 奈良時代以前の漢文系作品 復習 : 本時の内容について概要をまとめる	
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 奈良時代以前の和歌とその周辺 復習 : 万葉集について概要をまとめる	
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代初期の漢詩と漢文 復習 : 勅撰漢詩集や六国史について概要をまとめる	
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代初期の和歌 復習 : 平安時代初期の歌人について概要をまとめる	
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代初期の物語・日記 復習 : 歌物語と作り物語について概要をまとめる	
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代中期の漢詩と漢文 復習 : 平安時代中期の漢詩集などについて概要をまとめる	
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代中期の和歌 復習 : 平安時代中期のおもな歌人について概要をまとめる	
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代中期の物語・日記 (前編) 復習 : 村上朝から一条朝の物語類について概要をまとめる	
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代中期の物語・日記 (後編) 復習 : 一条朝以降の物語類の概要をまとめる	
11	三田 誠司	【第 11 回】 予習 : ミニテストに備える 授業 : 平安時代後期の漢詩・漢文	

		復習：後期の漢詩・漢文の流れを整理する							
12	三田 誠司	【第 12 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の和歌 復習：平安時代後期の和歌について概要をまとめる							
13	三田 誠司	【第 13 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の物語・日記 復習：平安時代後期の物語類について概要をまとめる							
14	三田 誠司	【第 14 回】 予習：ミニテストに備える 授業：平安時代後期の説話・歴史物語 復習：平安時代後期の説話作品と歴史物語の主要な作品について概要をまとめる							
15	三田 誠司	【第 15 回】 予習：ミニテストに備える 授業：上代から中古の文学的展開（まとめ） 復習：平安時代の文学状況全体を整理し、重要な作品の特色と意義をまとめる							
授業開始前学習		様々な日本の文学作品に広く触れておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容に関するミニテストを実施、または課題を提出させ、次回以降返却する。							
テキスト・教材		『日本古典文学史』乾安代ほか編 暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業内の課題（70％）、期末試験またはレポート（30％）による。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○	○	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0320
科目名称	日本文学史Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese Literature Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	大内 瑞恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大内 瑞恵	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業は、中世から近世までの日本の文学作品を、読み楽しむことができることを目的とする。歴史的な流れ、作品を読解するための基本的な知識を身につけて、古典文学がいかに現代の生活に影響しているかを考察する。古代から続く「和歌」「物語」を基本として、中世・近世において広まった「連歌」「俳諧」のおもしろさを味わっていただきたい。そして、「能」「浄瑠璃・歌舞伎」といった芸能や、近世の「小説」に至る流れを把握し、理解し、楽しむものである。		
到達目標	・中世から近世にかけての主要な作品・作者について簡潔に説明できること。 ・現代の文学・芸能への影響関係を理解し、楽しむことができること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大内 瑞恵	【第 1 回】 予習：日本の中世から近世の歴史について書籍等で概観しておく 授業：ガイダンス 講義の目的と概要、参考文献の解説、本講義に関する課題の案内 復習：課題への回答作成	
2	大内 瑞恵	【第 2 回】 予習：勅撰和歌集、とくに『新古今和歌集』について調べておく 授業：鎌倉時代の和歌と連歌 一連歌とは何かー 復習：鎌倉時代の和歌と連歌の歴史について整理する	
3	大内 瑞恵	【第 3 回】 予習：鎌倉時代の主な物語などについて調べておく 授業：鎌倉時代の物語・随筆・日記 一方丈記・十六夜日記ー 復習：主な物語・日記類について概要をまとめておく	
4	大内 瑞恵	【第 4 回】 予習：室町時代について概要を調べておく 授業：室町時代の和歌と連歌 一宗祇・正風連歌と俳諧連歌ー 復習：連衆と付合の文芸について考えたことをまとめておく	
5	大内 瑞恵	【第 5 回】 予習：室町時代後期、戦国時代について調べておく 授業：室町時代の物語・日記・紀行・芸能 一能・狂言・連歌師の紀行文ー 復習：中世文芸の特色についてまとめる	
6	大内 瑞恵	【第 6 回】 予習：江戸時代の歴史について概要を調べておく 授業：江戸時代前期の和歌と俳諧 一後水尾院・堂上歌壇・貞門俳諧・談林俳諧ー 復習：貞門俳諧、談林俳諧の特色についてまとめておく	
7	大内 瑞恵	【第 7 回】 予習：江戸時代の出版事情について調べておく 授業：江戸時代前期の物語・小説 一仮名草子・浮世草子ー 復習：井原西鶴についてまとめておく	
8	大内 瑞恵	【第 8 回】 予習：貞門俳諧・談林俳諧について特色を再確認しておく 授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 1 一堂上歌学批判・芭蕉の俳諧 1ー 復習：芭蕉の俳風の変遷を整理する	
9	大内 瑞恵	【第 9 回】 予習：元禄時代に活躍した芭蕉以外の俳人について調べておく 授業：江戸時代中期の和歌と俳諧 2 一芭蕉の俳諧 2・蕉門十哲・蕉風その後・雑俳 復習：「前句付」課題に取り組む	
10	大内 瑞恵	【第 10 回】 予習：前句付け課題に取り組む 授業：江戸時代中期の小説・芸能 一黄表紙・洒落本などー 「前句付」課題発表（発表） 復習：江戸時代中期の小説類についてまとめておく	
11	大内 瑞恵	【第 11 回】 予習：浄瑠璃について調べておく 授業：浄瑠璃ー近松門左衛門	

		復習：浄瑠璃などについてまとめておく						
12	大内 瑞恵	【第 12 回】 予習：歌舞伎について調べておく 授業：歌舞伎 復習：歌舞伎などについてまとめておく						
13	大内 瑞恵	【第 13 回】 予習：馬琴など江戸時代後期の戯作者について調べておく 授業：江戸時代後期の小説類 一読本・人情本・滑稽本・合巻など一 復習：江戸時代後期の小説類について要点をまとめておく						
14	大内 瑞恵	【第 14 回】 予習：到達度確認テストにむけて準備する 授業：到達度確認テストと中世・近世の文学に関する意見交換（ディスカッション） 復習：テスト問題とプリントを照らし合わせ、出題箇所を確認する						
15	大内 瑞恵	【第 15 回】 予習：自己のテスト解答を確認しておく 授業：到達度確認テストの講評、返却、質疑応答 復習：学修内容全体を振り返り、自己の理解度を確認する						
授業開始前学習		江戸時代の文学に関連する書籍・漫画・メディア作品のいずれかに触れておく。 第 1 回の課題に関連する出題がある（委細は第 1 回の授業時に説明する）。						
授業内課題のフィードバックの方法		各回の授業に対する質問・感想、第 1 回課題：次回以降の授業内で適宜言及。 前付付：第 10 回の発表時にコメント。 到達度確認テスト：第 15 回授業において講評・解説。						
テキスト・教材		『日本古典文学史』乾安代ほか編 暁印書館 ほか、授業時にプリントを配布する。						
参考書		授業内で適宜紹介する。						
評価の基準と方法		・到達度確認テストの成績（60%） ・リアクションペーパー・第 1 回課題・前付付等の小課題（40%）						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎	○	○	
関連科目								
その他		・各回の授業時、リアクションペーパーに授業を通して理解した点、質問・感想を記入。 ・記載内容は予定であり、開講時の状況や聴講者の関心・理解度に応じて変更する可能性がある。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

中国文学 I (漢文学)

科目分類	111-331-13			授業コード	FA0330
科目名称	中国文学 I (漢文学)			単位数	2.0 単位
英文名称	Chinese Literature I (Written Chinese)			授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	中国文学（漢文学）で用いられる漢字・漢語は、日本語の必須構成要素である。日本人は文字獲得に漢字を採用し、漢字漢語を学び取り入れつつ日本語を発展させた。また、日本人の教育・教養において中国文学は長く重要な地位を占め、知識のみならず人生や政治の指針を得る対象であった。現代では相対的に地位は低下しているが、今なお中国文学を学ぶことは、日本語を見つめる上でも、生き方を考える上でも大切である。本授業は、漢字漢語・中国文学の基本内容と訓読法、あわせて教科教育としての国語・漢文に必要な知識について解説する。				
到達目標	１、漢字・漢語の特徴について理解し、正しい訓読ができる力を身につける。 ２、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得する。 ３、日本語・日本文学と漢語・中国文学の関係について理解する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	長谷川 清貴	【第 1 回】 予習：教科書『中国文学史』一「序論」を熟読する 授業：中国文学の特質と日本との関係 復習：授業内容についてまとめる			
2	長谷川 清貴	【第 2 回】 予習：教科書『中国文学史』二「先秦時代の文学」p8-12 を熟読する 授業：『詩経』1 / 漢語・中国語と日本語とのちがい（グループワーク有り） 復習：『詩経』の特徴と、漢語の特徴・日本語とのちがいについてまとめる			
3	長谷川 清貴	【第 3 回】 予習：『詩経』の作品（掲出資料）を読む 授業：『詩経』2（ディスカッション有り） 復習：『詩経』の作品の内容についてまとめる			
4	長谷川 清貴	【第 4 回】 予習：教科書『中国文学史』二(3)中「諸子百家の散文」「孔子」p17-18 を熟読する 授業：諸子百家の文章(1)『論語』1 復習：諸子百家・『論語』の特徴についてまとめる			
5	長谷川 清貴	【第 5 回】 予習：『論語』の作品（掲出資料）を読む 授業：諸子百家の文章(2)『論語』2（グループワーク有り） 復習：『論語』の内容についてまとめる			
6	長谷川 清貴	【第 6 回】 予習：『論語』の作品（掲出資料）を読む 授業：諸子百家の文章(3)『論語』3（ディスカッション有り） 復習：『論語』の内容についてまとめる			
7	長谷川 清貴	【第 7 回】 予習：教科書『中国文学史』二(3)中「孟子」p19 を熟読する 授業：諸子百家の文章(4)『孟子』（ディスカッション有り） 復習：『孟子』についてまとめる			
8	長谷川 清貴	【第 8 回】 予習：中間試験対策 授業：中間試験 / 諸子百家の文章(5)『韓非子』 復習：『韓非子』についてまとめる			
9	長谷川 清貴	【第 9 回】 予習：教科書『中国文学史』二(3)中「老子」「莊子」p20-21 を熟読する 授業：諸子百家の文章(6)『老子』『莊子』（ディスカッション有り） 復習：『老子』『莊子』についてまとめる			
10	長谷川 清貴	【第 10 回】 予習：教科書『中国文学史』二(4)「楚辞」p24-26 を熟読する 授業：『楚辞』(1) 復習：『楚辞』の特徴についてまとめる			

11	長谷川 清貴	【第 11 回】 予習：『楚辞』の作品（掲出資料）を読む 授業：『楚辞』(2)（ディスカッション有り） 復習：『楚辞』の内容についてまとめる							
12	長谷川 清貴	【第 12 回】 予習：教科書『中国文学史』三「秦漢の文学」中 p28-31 を熟読する 授業：秦・漢の特徴と先秦時代との違い 復習：秦・漢の特徴についてまとめる							
13	長谷川 清貴	【第 13 回】 予習：教科書『中国文学史』三(2)中「史記」p31-34 を熟読する 授業：司馬遷と『史記』(1) 復習：司馬遷と『史記』についてまとめる							
14	長谷川 清貴	【第 14 回】 予習：『史記』の作品（掲出資料）を読む 授業：司馬遷と『史記』(2)（グループワーク有り） 復習：『史記』の内容についてまとめる							
15	長谷川 清貴	【第 15 回】 予習：『史記』の作品（掲出資料）を読む 授業：司馬遷と『史記』(3)（ディスカッション有り） 復習：『史記』の内容についてまとめる							
授業開始前学習		基本的に「教科書によるテーマ概要の理解 → 掲出資料で具体的に作品を読み、考え、議論する」サイクルで進める。指定された教科書本文や掲出資料を読み込んだ上で臨んでほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業時に実施する小テスト・課題については、採点・評価して次回授業時に返却する。							
テキスト・教材		・佐藤一郎『中国文学史』慶應義塾大学出版会 ※その他、教科書指定はしないが、漢和辞典を持参のこと。電子辞書・スマホアプリ等手段は問わないが、漢字情報だけでなく、付録も収録されているものが望ましい。詳しくは初回授業時に説明する。							
参考書		・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂（漢和辞典で推薦するもの） ・興膳宏『中国名文選』岩波書店（岩波新書） ・宇野哲人『論語新釈』講談社（講談社学術文庫） ・宮崎市定『史記を語る』岩波書店（岩波文庫）							
評価の基準と方法		小テスト・授業課題 25 点、中間試験 25 点、授業態度 15 点、定期試験 35 点							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎		○	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

中国文学Ⅱ(漢文学)

科目分類	111-331-13	授業コード	FA0340
科目名称	中国文学Ⅱ(漢文学)	単位数	2.0 単位
英文名称	Chinese LiteratureⅡ (Written Chinese)	授業区分	講義
科目責任者	長谷川 清貴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	長谷川 清貴	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	前期「中国文学Ⅰ(漢文学)」に引き続き、中国文学の基本的内容を解説する(「中国文学Ⅰ」の内容はごく要約して示すが、履修しておくことが望ましい)が、後期ではそれに加えて、教科教育としての国語・漢文において、これまでの学修内容をいかに活用して漢字・漢文を教えるかについても探究する。実際の教材に即して調査し、読解・鑑賞することを通して、基礎知識を応用し、総合的に発展させることを目指す。		
到達目標	1、中国の文学・歴史・思想について基本的な知識を獲得し、その関係を理解する。 2、教科教育における漢字・漢文の活用の方法を考え、修得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	長谷川 清貴	【第1回】 予習：教科書『中国文学史』四「漢代の韻文学」p37-42を熟読する 授業：辞賦文学と典故 復習：授業内容についてまとめる	
2	長谷川 清貴	【第2回】 予習：教科書『中国文学史』四「漢代の韻文学」p46-49を熟読する 授業：「古詩十九首」と駢文（グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる	
3	長谷川 清貴	【第3回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：李白「春夜宴桃李園序」と日本文学への影響（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる	
4	長谷川 清貴	【第4回】 予習：教科書『中国文学史』五「魏晉南北朝の文学」p51-60を熟読する 授業：三曹の文学(1) 曹操 復習：授業内容についてまとめる	
5	長谷川 清貴	【第5回】 予習：掲出資料を熟読する 授業：三曹の文学(2) 曹丕・曹植（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる	
6	長谷川 清貴	【第6回】 予習：教科書『中国文学史』五(2)「晋の詩」p62-69を熟読する 授業：六朝期の文学(1) 陶淵明（グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる	
7	長谷川 清貴	【第7回】 予習：教科書『中国文学史』五(3)中「文選」p73-76を熟読する 授業：六朝期の文学(2) 文選 及び日本文学への影響（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる	
8	長谷川 清貴	【第8回】 予習：教科書『中国文学史』六「隋・唐の文学」p84-88を熟読する 授業：唐代の文学(1) 唐詩の特徴と時期区分 復習：授業内容についてまとめる	
9	長谷川 清貴	【第9回】 予習：教科書『中国文学史』六「隋・唐の文学」p92-98を熟読する 授業：唐代の文学(2) 盛唐と李白（グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる	
10	長谷川 清貴	【第10回】 予習：教科書『中国文学史』六「隋・唐の文学」p99-106を熟読する 授業：唐代の文学(3) 杜甫（ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる	
11	長谷川 清貴	【第11回】 予習：教科書『中国文学史』六「隋・唐の文学」p106-112を熟読する 授業：唐代の文学(4) 中唐と韓愈、古文	

		復習：授業内容についてまとめる						
12	長谷川 清貴	【第 12 回】 予習：教科書『中国文学史』六「隋・唐の文学」p113-115 を熟読する 授業：唐代の文学(5) 柳宗元 （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる						
13	長谷川 清貴	【第 13 回】 予習：教科書『中国文学史』六「隋・唐の文学」p115-124 を熟読する 授業：唐代の文学(6) 白居易 及び日本文学への影響 （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる						
14	長谷川 清貴	【第 14 回】 予習：掲出資料を読む 授業：小説・笑話と日本文学への影響 （ディスカッション有り） 復習：授業内容についてまとめる						
15	長谷川 清貴	【第 15 回】 予習：掲出資料を読む 授業：漢文・漢文学と現代日本 （グループワーク有り） 復習：授業内容についてまとめる						
授業開始前学習		基本的に「教科書によるテーマ概要の理解 → 掲出資料で具体的に作品を読み、考え、議論する」サイクルで進める。指定された教科書本文や掲出資料を読み込んだ上で臨んでほしい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業時に実施する小テスト・課題については、採点・評価して次回授業時に返却する。						
テキスト・教材		佐藤一郎『中国文学史』慶應義塾大学出版会 ※その他、教科書指定はしないが、漢和辞典を持参のこと。電子辞書・スマホアプリ等手段は問わないが、漢字情報だけでなく、付録も収録されているものが望ましい。詳しくは初回授業時に説明する。						
参考書		・戸川芳郎他『全訳 漢辞海（第四版）』三省堂（漢和辞典で推薦するもの） ・川合康三『中国名詩選』上・中 岩波書店（岩波文庫） ・川合康三『漢詩のレッスン』岩波書店（岩波ジュニア新書） ・興膳宏『中国名文選』岩波書店（岩波新書） ・前野直彬『精講 漢文』筑摩書房（ちくま学芸文庫） ・奥平卓『漢文の読みかた』岩波書店（岩波ジュニア新書）						
評価の基準と方法		小テスト 30 点、授業課題 30 点、授業態度 40 点						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			◎		○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

日本史 I (古代)

科目分類	111-331-12 (2022 年～入学者) 111-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FA0350
科目名称	日本史 I (古代)	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese History I (Ancient Times)	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	奈良・平安時代の歴史を六国史や古記録、木簡、正倉院文書などを用いて解説します。長屋王の変や天然痘の大流行、平城上皇の変・菅原道真の左遷など政治史上、有名な事件を取り上げ、これらの事件が奈良・平安時代の政治史のなかで、どのように位置づけられるのかを解説します。		
到達目標	史料が読めるようになること、さらに史料を引用して論述できるようになる。 また古代の政治史に関する知識を、一通り習得できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	市川 理恵	【第 1 回】 予習：日本古代の政治史について一通り調べる。 授業：日本古代史の研究方法 復習：配布資料「日本古代史の研究方法」を読む。	
2	市川 理恵	【第 2 回】 予習：長屋王について調べる。 授業：長屋王の変と『長屋王家木簡』 復習：配布資料「長屋王の変と『長屋王家木簡』」を読む。	
3	市川 理恵	【第 3 回】 予習：天然痘について調べる。 授業：天然痘流行と奈良時代の医療 復習：配布資料「天然痘流行と奈良時代の医療」を読む。	
4	市川 理恵	【第 4 回】 予習：「貧窮問答歌」について調べる。 授業：農民の暮らし 復習：配布資料「農民の暮らし」を読む。	
5	市川 理恵	【第 5 回】 予習：正倉院展について調べる 授業：大仏開眼会と正倉院宝物 復習：配布資料「大仏開眼会と正倉院宝物」を読む。	
6	市川 理恵	【第 6 回】 予習：正倉院文書について調べる 授業：正倉院文書の世界 復習：配布資料「正倉院文書の世界」を読む。	
7	市川 理恵	【第 7 回】 予習：藤原仲麻呂について調べる。 授業：藤原仲麻呂の乱 復習：配布資料「藤原仲麻呂の乱」を読む。	
8	市川 理恵	【第 8 回】 予習：平安京について調べる。 授業：桓武朝の遷都と征夷 復習：配布資料「桓武朝の遷都と征夷」を読む。	
9	市川 理恵	【第 9 回】 予習：藤原薬子について調べる。 授業：平城上皇の変 復習：配布資料「平城上皇の変」を読む。	
10	市川 理恵	【第 10 回】 予習：藤原基経について調べる。 授業：藤原良房・基経の権力掌握 復習：配布資料「藤原良房・基経の権力掌握」を読む。	
11	市川 理恵	【第 11 回】 予習：菅原道真について調べる。 授業：菅原道真と藤原時平 復習：配布資料「菅原道真と藤原時平」を読む。	

12	市川 理恵	【第 12 回】 予習：摂関政治について調べる。 授業：摂関政治と儀式書 復習：配布資料「摂関政治と儀式書」を読む。							
13	市川 理恵	【第 13 回】 予習：『大鏡』について調べる。 授業：『大鏡』『栄花物語』と摂関政治 復習：配布資料『大鏡』『栄花物語』と摂関政治を読む。							
14	市川 理恵	【第 14 回】 予習：安倍晴明について調べる 授業： 陰陽道・末法思想と浄土信仰 復習：配布資料「末法思想と浄土信仰」を読む。							
15	市川 理恵	【第 15 回】 予習：藤原頼通について調べる。 授業：院政の成立 復習：配布資料「院政の成立」を読む。							
授業開始前学習		奈良・平安時代の歴史を学習しておくで授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材		毎回、資料を配付する。							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験の成績（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	◎		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12（2022 年～入学者） 111-330-12（～2021 年入学者）			授業コード	FA0360
科目名称	日本史Ⅱ(中世)			単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese History Ⅱ (Middle Ages)			授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	日本中世社会の諸相について、近年の研究動向を紹介しつつ、様々な視点と切り口から講義していく。				
到達目標	日本の中世社会について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に歴史学の醍醐味と可能性を知り、現代社会との比較を意識した自分なりの興味と関心を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	今野 慶信	【第 1 回】 予習：日本の中世社会について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の日本社会とは 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本の中世社会について参考書等から捕捉しておく。			
2	今野 慶信	【第 2 回】 予習：中世の国家権力を握る朝廷・幕府・大寺社など中世の「権門」について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世国家論 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、日本中世の国家について参考書等から捕捉しておく。			
3	今野 慶信	【第 3 回】 予習：手工業者を始め、分業が進んだ中世の職人について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の職人たち 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の職人たちについて参考書等から捕捉しておく。			
4	今野 慶信	【第 4 回】 予習：中世の武士について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世武士論 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の武士について参考書等から捕捉しておく。			
5	今野 慶信	【第 5 回】 予習：中世の合戦について調べ、自分なりに考えておく。 授業：いくさの作法 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の合戦について参考書等から捕捉しておく。			
6	今野 慶信	【第 6 回】 予習：日本の家族の歴史、中世の女性の歴史について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の家族・女性 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性・婚姻について参考書等から捕捉しておく。			
7	今野 慶信	【第 7 回】 予習：中世武士団の内部構造について調べ、自分なりに考えておく。 授業：総領制 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士団の構造について参考書等から捕捉しておく。			
8	今野 慶信	【第 8 回】 予習：現代の人生儀礼について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世人の人生儀礼 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、武士を始めとする中世人の一生について参考書等から捕捉しておく。			
9	今野 慶信	【第 9 回】 予習：現代の年中行事について、その由来などを調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世武家の年中行事 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武家の年中行事について参考書等から捕捉しておく。			
10	今野 慶信	【第 10 回】 予習：中世の法律・裁判について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世の罪と罰 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の法思想について参考書等から捕捉しておく。			
11	今野 慶信	【第 11 回】 予習：中世の宗教について調べ、自分なりに考えておく。 授業：中世宗教史 復習：ノート・配布資料で授業を振り返り、中世人の信仰生活について参考書等から捕捉しておく。			

12	今野 慶信	【第 12 回】 予習 : 中世に起源を持つ古典芸能等について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世芸能史 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の女性芸能人について参考書等から捕捉しておく。							
13	今野 慶信	【第 13 回】 予習 : 地域的特徴を持つ風習や慣習等について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 東国の風習 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世東国の歴史的風土について参考書等から捕捉しておく。							
14	今野 慶信	【第 14 回】 予習 : 「武士道」について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 「武士道」と中世 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世武士の思想について参考書等から捕捉しておく。							
15	今野 慶信	【第 15 回】 予習 : 武士の名前について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 武士の名字と名乗り 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、名字と名乗りについて参考書等から捕捉しておく。							
授業開始前学習		中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		出席を兼ねたレポートについては、実施の 1 週後に講評を行う。							
テキスト・教材		プリントを配布する。							
参考書		その都度、紹介する。							
評価の基準と方法		授業内のレポート等で評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	◎		
関連科目									
その他		授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12 (2022 年～入学者) (J) 111-330-12 (～2021 年入学者) (J)		授業コード	FA0370	
科目名称	日本史Ⅲ(近世)		単位数	2.0 単位	
英文名称	Japanese History Ⅲ (Early Modern)		授業区分	講義	
科目責任者	鍋本 由徳		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鍋本 由徳		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	この講義は、日本史、特に近世史について学びます。時間を追いながら学ぶ箇所もありますが、各回にトピックを設け、人々の生活や考え方、政治や外交、社会変化や経済の特徴、文化の特質などを扱います。幕府史料や地方史料だけではなく、絵画などを利用してさまざまな角度から近世を読み解きます。近世という時代がどのような時代か、私たちが生きる今との違いを理解しながら、江戸時代の人々の生き様や考え方などを学びます。授業では、毎時間、簡易アンケートや自由記述による情報共有をおこない、うち数回はこの記述をもとにした意見交換（ミニディスカッション）を実施する予定です。				
到達目標	日本近世史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ、説明できるようになる。近代を導く前提としての時代を考えるために、歴史資料を読み解く力を身につけ、解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技能・学びの姿勢を活用して、さまざまな歴史的なできごとに関する「原因→経過→結果、意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鍋本 由徳	【第 1 回】 予習：近世史の時期範囲と、どこに画期があるのかを調べる。 授業：近世とはどのような時代か -中世から近世へ- 復習：講義全体の概要を振り返り、今後の自身の学修イメージをつくる。			
2	鍋本 由徳	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：関ヶ原合戦から徳川政権樹立の課題 -豊臣 VS 徳川からの脱却- 復習：徳川家康の意図を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
3	鍋本 由徳	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：豊臣と徳川との二重公儀体制 -主家としての豊臣家- 復習：二重公儀論の問題を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
4	鍋本 由徳	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：徳川政権初期と西洋人 -西洋人の権力認識- （ミニディスカッション予定） 復習：外国人による政権認識を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
5	鍋本 由徳	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：司法からみる江戸時代の特徴 -法令の特徴と裁判- 復習：法令や裁判の特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
6	鍋本 由徳	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：身分制度と社会 -「士農工商」の誤解- （ミニディスカッション予定） 復習：江戸時代の身分を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
7	鍋本 由徳	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：「老中制」にみる組織化 -武家官僚の性格- 復習：「老中制」形成過程を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
8	鍋本 由徳	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代の金銭認識 -両替問題と通貨統一- （ミニディスカッション予定） 復習：三貨制度を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
9	鍋本 由徳	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：三大改革の特徴と内憂外患 -幕府政治の矛盾- 復習：三大改革の流れと特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			
10	鍋本 由徳	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：伝説・伝承が導く民衆の社会 -地域形成のあり方- 復習：佐倉惣五郎にみられる伝承の歴史化を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。			

11	鍋本 由徳	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代における情報と文化 -出版と行動-（ミニディスカッション予定） 復習：出版事情と行動（旅や物見遊山）を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。															
12	鍋本 由徳	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：外国人の旅と「観光」 -17 世紀西洋人の日本観- 復習：西洋人の観た日本観を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。															
13	鍋本 由徳	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：「鎖国」と日本型華夷秩序の成立 -西洋史との対比- 復習：「鎖国」論の成立と内容を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。															
14	鍋本 由徳	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：江戸時代の女性 -春日局と奥の世界- 復習：女性の政治参画と春日局の活動を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。															
15	鍋本 由徳	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み，かつ第 1 回から第 14 回までの要点をまとめておく。 授業：武家社会の歴史認識 -御恩と奉公の再認識- 復習：幕府や大名家の歴史編纂過程を整理し，全 15 回講義全体の理解を深める。															
授業開始前学習		岩波新書『シリーズ日本近世史』などの概説書を読んでおく授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を十分に学習していない受講生は、高校教科書（日本史 B）の内容を一読しておきたい。															
授業内課題のフィードバックの方法		1 回から 14 回に実施する小テストの解説は，小テスト（Google フォーム）提出後にフィードバックが送られます。小テストの正答率と，各回 5 項目の到達度（自己評価）の平均値を，次回授業冒頭で示し，理解度の低い箇所を補説します。最終回にて，1 回から 14 回までの小テスト・理解度を示したプリントを配布し，自身の理解を振り返ることができるようにします。															
テキスト・教材		駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅲ（近世）』を利用します。															
参考書		『シリーズ日本近世史』（岩波新書 全 5 冊 2015 年） 『日本近世の歴史』（吉川弘文館 全 6 冊 2011～13 年）															
評価の基準と方法		定期試験 60%，平常点 40%。なお，平常点については，授業内理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（リアクション）に相当します。															
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当				○						◎		◎					
関連科目		歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため，日本文化や歴史に関わる科目に関連する。															
その他		成績評価は，15 回すべての講義へ出席した場合を 100%として設定しています。 毎回の講義終了後に，Google フォームを使った当該講義にかかる小テスト（理解度チェック）をおこないます。 学界上の研究状況変化により，教科書での内容や講義内容が若干変更する場合もあります。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		自治体史専門調査員としての経験を活かし，日本の近世史について講義する。															

科目分類	111-331-12 (2022 年～入学者) (J) 111-330-12 (～2021 年入学者) (J)	授業コード	FA0380
科目名称	日本史Ⅳ(近現代)	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese History IV (Modern)	授業区分	講義
科目責任者	鍋本 由徳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鍋本 由徳	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この講義は、日本史のなかの特に近現代史について学びます。原則として、1～12 回は明治～戦後の主要トピックを時系列に沿って、13～15 回をテーマ史として展開します。政治や外交、社会運動や文化などから多角的に考え、文字資料のほか、絵画・映像・音声など多用途で近現代を読み解きます。明治維新から戦後にかけての 150 年で日本は大きく変化します。前近代と異なる明治・大正・昭和の複雑さやおもしろさを知り、現代日本が抱える問題の背景を考えます。第 2 回～第 14 回は、授業内で簡易アンケートや自由記述による情報共有をおこない、この記述をもとにして、うち数回意見交換（ミニディスカッション）を実施する予定です。		
到達目標	日本近現代史を知るために必要な基本的な用語・制度を身につけ、説明できるようになる。現代につながる近代国家形成ならびに展開を考えるために、各種資料を使う力を身につけ、解釈の多様性を理解できるようになる。身につけた知識と技術・態度を活用して、できごとに関わる「原因、経過、結果」「意義」を意識化し、批判的視点を持って歴史を把握できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鍋本 由徳	【第 1 回】 予習：江戸時代（19 世紀以後）の流れを事前に調べておく。 授業：幕末・維新期の混乱 -王政復古- 復習：倒幕をめぐる諸階層の理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
2	鍋本 由徳	【第 2 回】 予習：教科書第 2 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：近代日本の成立と自由民権運動 -江戸時代の払拭- 復習：民権運動の画期と特徴を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
3	鍋本 由徳	【第 3 回】 予習：教科書第 3 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：帝国議会の開設と対外関係問題 -条約改正- 復習：条約改正の流れを整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
4	鍋本 由徳	【第 4 回】 予習：教科書第 4 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：日清・日露戦争 -政権と政党との対立・協調- （ミニディスカッション予定） 復習：両戦争に対する国民理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
5	鍋本 由徳	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：明治における文化と教育 -唱歌の成立と変容- （ミニディスカッション予定） 復習：唱歌成立の契機と転換を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
6	鍋本 由徳	【第 6 回】 予習：教科書第 6 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：近代における女性像 -「イエ」制度と教育との関わり- （ミニディスカッション予定） 復習：男女同権の理念と明治教育を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
7	鍋本 由徳	【第 7 回】 予習：教科書第 7 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：大正デモクラシーと護憲運動 復習：護憲運動の展開を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
8	鍋本 由徳	【第 8 回】 予習：教科書第 8 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：第一次世界大戦前後の国民 -米騒動と都市問題- （ミニディスカッション予定） 復習：米騒動が起こった背景を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
9	鍋本 由徳	【第 9 回】 予習：教科書第 9 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：大日本帝国が抱える矛盾 -英米関係と立憲君主制度- 復習：日本の対英米理解を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	
10	鍋本 由徳	【第 10 回】 予習：教科書第 10 章を読み、事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦時中の国民生活 -メディアとの関わり- （ミニディスカッション予定） 復習：国民が知り得た情報を整理し、小テスト・事後学修シートにて理解を深める。	

11	鍋本 由徳	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：終戦 -戦争末期から占領へ- 復習：占領政策と日本政府の対応を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。						
12	鍋本 由徳	【第 12 回】 予習：教科書第 12 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦後日本の民主化 -民主化への道- 復習：主に経済政策を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。						
13	鍋本 由徳	【第 13 回】 予習：教科書第 13 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：高度経済成長 -住宅・都市開発の観点- 復習：鉄道建設と土地開発の関係を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。						
14	鍋本 由徳	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：映画による近現代史理解と課題 -刷り込み- （ミニディスカッション予定） 復習：映画がもたらす歴史理解の問題点を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。						
15	鍋本 由徳	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み，事前配付の学修シートに取り組む。 授業：戦後日本の歴史観 -皇国史観からの脱却- 復習：科学的歴史学による影響を整理し，小テスト・事後学修シートにて理解を深める。						
授業開始前学習		岩波新書『シリーズ日本近現代史』などの概説書を読んでおく授業内容にアプローチしやすくなる。大学入学までに日本史を十分に学習していない受講生は，授業計画（1～12 回）については高校教科書（日本史 B）の内容を一読しておきたい。13～15 回のテーマ史は，東京急行電鉄（東急）や大学が所在する稲城を走る京王電鉄の歴史，戦後間もなく制作された戦争映画や日本軍のことについて描いた中国映画，高校教科書問題について事前に調べておくとよい。						
授業内課題のフィードバックの方法		1 回から 14 回に実施する小テストの解説は，小テスト（Google フォーム）からのフィードバックでおこないます。小テストの正答率と，各回 5 項目の到達度（自己評価）の平均値を，次回授業時に公開し，理解度の低い箇所を補説します。最終回にて，1 回から 14 回までの小テスト・理解度全体を示したプリントを配布し，本科目の振り返りをおこないます。						
テキスト・教材		駒沢女子大学教科書シリーズ『日本史Ⅳ（近現代）』を利用します。						
参考書		『シリーズ日本近現代史』（岩波新書 全 10 冊 2006～2010 年） 『日本近代の歴史』（吉川弘文館 全 6 冊 2016～17 年）						
評価の基準と方法		最終レポート 60%，平常点 40%。なお，平常点については，授業内理解度チェック（小テスト）と授業への参加度（シートへの記入状況）に相当します。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎		
関連科目	歴史的なできごとに関する解釈・方法や歴史的意義などを学ぶため，日本文化や歴史に関わる科目に関連する。							
その他	成績評価は，15 回すべての講義へ出席した場合を 100%として設定しています。 毎回の授業終了時に，フォームを使った当該講義の小テスト（理解度確認）をおこないます。 学界上の研究状況変化により，教科書での内容や講義内容が変わる場合があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史専門調査員としての経験を活かし，日本の近現代史について講義する。							

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0390
科目名称	日本文化史 I	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese Culture I	授業区分	講義
科目責任者	亀川 泰照	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	亀川 泰照	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本講義では、文化が表れる場や物質化された文化について着目しながら、日本の文化に関する基礎的事象を学ぶ。キーワードを挙げながら個々の文化事象をそれぞれ通史的に紹介していく。あわせて文化を捉えるための方法や基本的な考え方も紹介していく。		
到達目標	1.個々の文化を理解するための視座を修得する。 2.日本文化の歴史知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	亀川 泰照	【第 1 回】 予習 : 「文化」・「文明」の語句を調べる 授業 : 文化と文明 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
2	亀川 泰照	【第 2 回】 予習 : 年中行事についてリサーチし、考えてくる。 授業 : 年中行事 文化現象の基盤ともなっている年中行事を学ぶ。 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
3	亀川 泰照	【第 3 回】 予習 : 「風流」(ふりゅう)という言葉について調べる 授業 : 風流 日本文化を通過する風流という価値観について学ぶ 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
4	亀川 泰照	【第 4 回】 予習 : 「過差」という言葉について調べる 授業 : 過差 日本文化にしばしばあらわれる過剰さ・価値観について考える。 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
5	亀川 泰照	【第 5 回】 予習 : 年中行事にともなう飾りについてリサーチし、考える。 授業 : 飾りの文化史 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
6	亀川 泰照	【第 6 回】 予習 : 日本の神話についてリサーチし、考えてくる 授業 : 神話の文化史 神話の受容について神楽や山車人形を通じて学ぶ。また他者(外国人)の目と文化の変容についても考える。 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
7	亀川 泰照	【第 7 回】 予習 : 芸能が行われている場についてリサーチし、考えてくる。 授業 : 芸能の場 芸能の場が成立する諸条件など、権力関係などについて考える。 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
8	亀川 泰照	【第 8 回】 予習 : 物質化された現在の境界装置について調べる 授業 : 空間認識の文化史 鳥居などの境界装置を通じて、空間認識を歴史的について考える。 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	
9	亀川 泰照	【第 9 回】 予習 : 「聖地」という言葉について調べる 授業 : 聖地の文化史 土地が意味をもつということについて学ぶ。 復習 : 配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。	

10	亀川 泰照	【第 10 回】 予習：宗教と娯楽の関係について調べる 授業：娯楽の文化史 本音と建て前、宗教と娯楽の混ざり合いとその捉え方について考える。 復習：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。							
11	亀川 泰照	【第 11 回】 予習：おもちゃの歴史についてリサーチし、考える。 授業：おもちゃの文化史 娯楽が物質化したものともいえる玩具そのもの、あるいは子どもの社会的位置を変化たどることを通じて、文化への認識の変化の模様を考える 復習：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。							
12	亀川 泰照	【第 12 回】 予習：現在の祈願の方法についてリサーチし、考える 授業：祈願・願懸けの文化史 復習：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。							
13	亀川 泰照	【第 13 回】 予習： 現行の奉納物についてリサーチし考える 授業：奉納物の文化史 復習：配布されたプリントを再読し、授業内容を確認する。							
14	亀川 泰照	【第 14 回】 予習： 灯りに関する文化事象をリサーチし、考える 授業：灯りの文化史 灯りの歴史的変容や見世物化及び場における正当性などを学ぶ 復習： 授業を通じて学んだことを総括する							
15	亀川 泰照	【第 15 回】 予習：これまでの講義内容を復習しておく。 授業：まとめ 講義全体をまとめると共に、文化を歴史的に捉える際、課題となる事項（集団と個人の関係、常識、モノの概念〈言葉／機能／形〉）について整理する。 復習：この授業を通じて学んだことを反芻し総括する。							
授業開始前学習		日ごろから、文化に関するニュースをチェックする。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。							
テキスト・教材		講義時に適宜資料を配布する。							
参考書		青木美智男『日本の歴史別巻 日本文化の原型』（小学館、2009 年）。 大隅和雄『日本文化史講義』（吉川弘文館、2017 年）。 その他、講義の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		レポート 70%、平常点（リアクションペーパー・授業内課題） 30% で評価							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	◎	○	
関連科目									
その他		講義中で紹介する行事やモノを見に行くことが望ましい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		区立の博物館（地域博物館）での実務経験をふまえ、特に地域における文化について、その捉え方も含めて講義する。							

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0400
科目名称	日本文化史Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese CultureⅡ	授業区分	講義
科目責任者	黒滝 香奈	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒滝 香奈	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本講義は日本の伝統芸能の歴史について学び、伝統芸能の特色を理解することを目的とする。日本の伝統芸能は江戸時代にその到達点を見せた。本授業では、まず江戸時代の人々が日々の暮らしのなかでどれほど伝統芸能を受容していたのかを把握する。そのうえで、特に受容されていたとみられる能楽・歌舞伎・人形浄瑠璃の歴史を辿っていく。その際、伝統芸能は主に都市で隆盛していたかのように思われがちであるが、決してそうではない。よって、江戸時代の村に生きた人々と芸能との関係性を知ること目標とする。 なお、必要に応じて映像鑑賞を行い、各種芸能への理解を深める。鑑賞を伴う授業では、グループワークを行い、受講生からの意見を募り、日本の伝統芸能についての理解の共有を図りたい。		
到達目標	1. 日本の 伝統芸能に関する基礎知識を身につける。 2. 「都市」と「村」、「民衆」という観点から、日本の伝統芸能の特色を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	黒滝 香奈	【第 1 回】 予習 : 日本の伝統文化にはどのようなものがあるか調べておく。 授業 : 日本の伝統芸能と現在 (ガイダンス) 復習 : 配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。	
2	黒滝 香奈	【第 2 回】 予習 : 江戸時代の都市のイメージをつかんでおく。 授業 : 江戸時代の都市における芸能受容 復習 : 江戸時代の都市においてどのような芸能が受容されていたかを整理しておく。	
3	黒滝 香奈	【第 3 回】 予習 : 江戸時代の村のイメージをつかんでおく。 授業 : 江戸時代の村における芸能受容 復習 : 江戸時代の村においてどのような芸能が受容されていたかを整理しておく。	
4	黒滝 香奈	【第 4 回】 予習 : 猿楽の起源を調べる。 授業 : 猿楽の成立と展開 復習 : 配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。	
5	黒滝 香奈	【第 5 回】 予習 : 農耕社会と芸能の結びつきを調べておく。 授業 : 稲作と芸能 復習 : 配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。	
6	黒滝 香奈	【第 6 回】 予習 : 能楽の起源を調べておく。 授業 : 能楽の展開 復習 : 配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。	
7	黒滝 香奈	【第 7 回】 予習 : 事前に知らされた能楽の演目のストーリーを調べておく。 授業 : 能楽鑑賞 (前半) 復習 : 能楽鑑賞後、グループワークを行うので、情報を整理しておく。	
8	黒滝 香奈	【第 8 回】 予習 : 事前に知らされた能楽の演目のストーリーを調べておく。 授業 : 能楽鑑賞 (後半) (グループワーク) 復習 : グループワークで出た意見を振り返る。	
9	黒滝 香奈	【第 9 回】 予習 : 歌舞伎の前史について調べておく。 授業 : 風流芸能から歌舞伎へ 復習 : 配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。	
10	黒滝 香奈	【第 10 回】 予習 : 歌舞伎の発展について調べておく。 授業 : 歌舞伎の発展 復習 : 配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。	

11	黒滝 香奈	【第 11 回】 予習：事前に知らされた歌舞伎の演目のストーリーを理解しておく。 授業：歌舞伎鑑賞（グループワーク） 復習：グループワークで出た意見を整理しておく。						
12	黒滝 香奈	【第 12 回】 予習：人形浄瑠璃の起源について調べておく。 授業：人形浄瑠璃の成立と発展 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。						
13	黒滝 香奈	【第 13 回】 予習：事前に知らされた人形浄瑠璃のストーリーを理解しておく。 授業：人形浄瑠璃鑑賞（グループワーク） 復習：グループワークで出た意見を整理しておく。						
14	黒滝 香奈	【第 14 回】 予習：江戸時代の村で行われていた芸能について調べておく。 授業：村における芸能の展開 復習：配信された資料を再読し、授業内容の確認を行う。						
15	黒滝 香奈	【第 15 回】 予習：これまでの講義内容を復習しておくこと。 授業：レポート課題へのフィードバックと本授業で学んだことの要点整理 復習：この授業を通して学んだことを総括する。						
授業開始前学習		伝統芸能に関する書籍や映像記録などに目を通しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回リアクションペーパーを記入してもらい、適宜質問への回答や授業の補足を行う。						
テキスト・教材		適宜、資料を配付する。						
参考書		藝能史研究会編『日本芸能史』2～6 巻（法政大学出版局、1983 年） このほか参考となる書籍について、適宜紹介する。						
評価の基準と方法		平常点（授業への参画度・課題提出）50%、レポート課題 50%						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他	講義中に紹介する文献のうち、少なくとも一つは精読すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	自治体史編纂や自治体の文化財取扱いの実務経験あり。その経験を活かし、日本の伝統芸能の歴史などについて講義する。							

科目分類	111-331-11 (2022 年～入学者) (J) 111-331-12 (～2021 年入学者) (J)	授業コード	FA0410
科目名称	☆地域文化概論	単位数	2.0 単位
英文名称	Survey of Regional Culture	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	1・2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、おもに稲城市を事例として、地域文化の調べ方や史料の読み方について概説し、その調査、読解を行うための基礎知識を修得する。また、各自の地元を事例として、隠れた地域文化を発見し、その魅力を発表する。授業では課題解決型学習・発表・フィールドワークを行う。		
到達目標	1. 地域文化の調べ方や史料の読み方を身に付けることができる。 2. 地域に伝わる民俗資料について、その調査・整理方法を理解できる。 3. 史料に基づいて各地の地域文化の魅力を発見し、そこから日本文化の特徴を考察できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：地域文化から考える日本文化（登戸浅間神社の富士塚から考える日本人の富士信仰） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）	
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「地域文化レジュメによる発表について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表について／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（原始・古代～近現代） 復習：図書館で『日本歴史地名大系』をコピーする	
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「地域文化レジュメの参考文献について」の部分について教科書を読んでおく 授業：地域文化レジュメの参考文献について／『日本歴史地名大系』にみる稲城市の歴史と文化（矢野口村）／『稲城市の歴史と文化財』にみる穴澤天神社 復習：図書館で『新編武蔵風土記稿』『新編相模国風土記稿』をコピーする	
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『菅村』（小沢城址）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『菅村』（小沢城址）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢城をめぐる伝承と城の構造・特徴 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）	
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『金程村』（旧跡小沢原古戦場）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『金程村』（旧跡小沢原古戦場）の読解と考察（課題解決型学習）／小沢原合戦の伝承と古戦場の故地 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）	
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：『新編武蔵風土記稿』『矢野口村』（妙覚寺）の現代語訳（5 点） 授業：『新編武蔵風土記稿』『矢野口村』（妙覚寺）の読解と考察（課題解決型学習）／妙覚寺の宝物と小沢蔵屋敷の伝承／訪問する史跡の解説 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）	
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「民俗資料の調査・整理方法」の部分について教科書を読んでおく 授業：民俗資料の調査・整理方法 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）	
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（中世・近世の石造物） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（5 点）	
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：「有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）」の部分について教科書を読んでおく 授業：有形民俗資料調査の実践（石造物調査の方法）／学内の六地藏による石造物調査の練習 復習：石造物調査の練習用の方眼紙を提出する	
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：「ありがた山の石造物調査」の部分について教科書を読んでおく 授業：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「ありがた山の石造物調査」（フィールドワーク）	

		復習：正課学外活動の感想をフォームで提出する（5 点）／調査報告書と方眼紙を提出する（5 点）							
11	下川 雅弘	【第 11 回】 予習：地域文化レジュメを提出する（30 点）／地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表①（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
12	下川 雅弘	【第 12 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表②（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
13	下川 雅弘	【第 13 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表③（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
14	下川 雅弘	【第 14 回】 予習：地域文化レジュメ集を読んでおく 授業：地域文化レジュメによる発表④（発表） 復習：発表にコメントを寄せる							
15	下川 雅弘	【第 15 回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（10 点） 授業：地域文化から考える日本文化の学びの総括（課題解決型学習） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する（5 点）							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。発表に対しては、授業内で補足解説・コメントを行う。							
テキスト・教材		駒沢女子大学講義ノートシリーズ『地域文化概論』（刊行予定） 必要に応じてプリントを配付する。							
参考書		適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。 また、予習課題や発表の準備に際しては、以下の辞書を必ず参照すること。 『日本歴史地名大系』（平凡社）、『国史大辞典』（吉川弘文館）							
評価の基準と方法		予習課題 1 5 %、復習課題 4 0 %、発表（レジュメ） 3 0 %、調査報告書 5 %、ミニレポート 1 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○		○	◎	◎		
関連科目									
その他		授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、11～12 月中の土曜日に正課学外活動（ありがた山の石造物調査）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		自治体史編纂の実務経験あり。地域文化の調べ方や魅力などを講義する。							

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0420
科目名称	歴史資料論	単位数	2.0 単位
英文名称	Historical Materials	授業区分	講義
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、日本文化を学ぶ上で基本となる歴史資料について概説し、その読解・調査・整理を行うための基礎知識を修得する。具体的には、古代から近代までの代表的な古文書・古記録・古典籍といった文献史料をはじめとする史資料の概要を学んだ上で、稲城市に伝わる近世以降の古文書・古記録・古典籍といった原本資料を事例として、その読解方法や文献史料から日本の文化を考察する方法について学習する。授業では課題解決型学習・フィールドワークを行う。		
到達目標	1. 歴史資料について、その特質を理解できる。 2. 歴史資料の扱い方と読み方を身に付けることができる。 3. 歴史資料を根拠として、日本の文化を考察することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：歴史資料とは何か（教科書 6～11 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）	
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「文献史料の調査・整理方法」の部分について教科書を読んでおく 授業：文献史料の調査・整理方法（教科書 12～17 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）	
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「輪読する文献史料の解題」の部分について教科書を読んでおく 授業：輪読する文献史料の解題（史料の読解練習）（教科書 18～23 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）	
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』（御座松塚）の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』（御座松塚）の読解と考察（教科書 24～25 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）	
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』（入定塚）の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』『村の志るべ拾遺鈔』（入定塚・十三塚）の読解と考察（教科書 26～28 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）	
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：「平尾入定塚の再検討」の部分について教科書を読んでおく 授業：平尾入定塚の再検討（教科書 29～38 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）	
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「訪問する史跡の解説」の部分について教科書を読んでおく 授業：『神社明細帳』『寺院明細帳』の読解と訪問する史跡の解説（教科書 39～41 頁） 復習：授業内容の整理課題をフォームで提出する（3 点）	
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：「大学付近の歴史資料を訪ねる」の部分について教科書を読んでおく 授業：正課学外活動【地元発見プロジェクト】「大学付近の歴史資料を訪ねる」（教科書 42 頁）（フィールドワーク） 復習：正課学外活動の整理課題をフォームで提出する（3 点）	
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：『鈴木家文書』『農事日記』明治 37 年 1 月 1 日～4 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治 37 年 1 月 1 日～4 日の読解と考察（教科書 43 頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3 点）	
10	下川 雅弘	【第 10 回】 予習：『鈴木家文書』『農事日記』明治 37 年 2 月 6 日・7 日の翻刻（5 点） 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治 37 年 2 月 6 日・7 日の読解と考察（教科書 44～45 頁）（課題解決型学習）	

		復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3点）						
11	下川 雅弘	【第11回】 予習：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年3月1日・2日の翻刻（5点） 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治37年3月1日・2日の読解と考察（教科書46頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3点）						
12	下川 雅弘	【第12回】 予習：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月9日・10日の翻刻（5点） 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月9日・10日の読解と考察（教科書47～49頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3点）						
13	下川 雅弘	【第13回】 予習：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月15日・18日の翻刻（5点） 授業：『鈴木家文書』『農事日記』明治39年3月15日・18日の読解と考察（教科書50頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3点）						
14	下川 雅弘	【第14回】 予習：『鈴木家文書』『刀・麻上下・八木拝領のこと』年末詳12月の翻刻（5点） 授業：『鈴木家文書』『刀・麻上下・八木拝領のこと』年末詳12月の読解と考察（教科書51頁）（課題解決型学習） 復習：読解史料の考察課題をフォームで提出する（3点）						
15	下川 雅弘	【第15回】 予習：ミニレポートをフォームで提出する（5点）（10点） 授業：歴史資料論の学びの総括（教科書52頁） 復習：ミニレポートの感想をフォームで提出する（3点）						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法								
毎回の課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。								
テキスト・教材								
駒沢女子大学講義ノートシリーズ『歴史資料論』 必要に応じてプリントを配付する。								
参考書								
適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。								
評価の基準と方法								
予習課題40％、復習課題45％、ミニレポート15％により評価する。								
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	◎	○	
関連科目								
その他								
授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 この授業では、5～6月中の土曜日に正課学外活動（大学付近の歴史資料を訪ねる）を行う予定である。若干の交通費の負担が必要な場合がある。								
予習・復習の所要時間								
講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）								
実務経験を活かした教育内容								
自治体史編纂の実務経験あり。古文書などの歴史資料の読解、取扱方法などを講義する。								

科目分類	111-331-12 （J）			授業コード	FA0430
科目名称	民俗資料論			単位数	2.0 単位
英文名称	Folk Materials			授業区分	講義
科目責任者	市田 雅崇			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市田 雅崇			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	昨今、文化に関するさまざまなニュースを目にする。世界遺産や文化財を巡る文化の権威化やそれにとまなう地域社会の変化といったものや、祭りのあり方についてジェンダーや動物愛護などの見地からその存在の是非を問うものなど。この授業ではこうした問題を念頭におきつつ、日本の民俗学の概要を学び、民俗文化と民俗資料を通して文化についての理解を深めていきたい。講義の前半は民俗学と民俗資料についていくつかのテーマ（習俗・伝説・信仰・芸能・民具等）を設定して見てゆく。後半は民俗資料の講読を行う。稲城市域および周辺地域の民俗資料を事例としてとりあげて地域文化について学び、日本の文化を考えてゆく。				
到達目標	民俗資料について基礎知識を学び、その特質を理解できる。 文化財、文化資源といった民俗資料をとりまく情勢を学び、現代の文化を理解し、他者と会話して問題を解決する姿勢を身に着けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	市田 雅崇	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：イントロダクション：民俗資料および民俗学とは 復習：授業課題の提出			
2	市田 雅崇	【第 2 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：民俗調査と民俗資料（1） 復習：授業課題の提出			
3	市田 雅崇	【第 3 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：民俗調査と民俗資料（2） 復習：授業課題の提出			
4	市田 雅崇	【第 4 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：有形民俗資料について（1） 復習：授業課題の提出			
5	市田 雅崇	【第 5 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：有形民俗資料について（2） 復習：授業課題の提出			
6	市田 雅崇	【第 6 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：無形民俗資料について（1） 復習：授業課題の提出			
7	市田 雅崇	【第 7 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：無形民俗資料について（2） 復習：授業課題の提出			
8	市田 雅崇	【第 8 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：稲城市と周辺地域の民俗 復習：授業課題の提出			
9	市田 雅崇	【第 9 回】 予習：事前に配布する資料を読んでおく 授業：民俗誌について 復習：授業課題の提出			
10	市田 雅崇	【第 10 回】 予習：資料を読んでおく 授業：民俗誌の講読（1） 復習：授業課題の提出			

11	市田 雅崇	【第 11 回】 予習：資料を読んでおく 授業：民俗誌の講読（2） 復習：授業課題の提出							
12	市田 雅崇	【第 12 回】 予習：資料を読んでおく 授業：民俗誌の講読（3） 復習：授業課題の提出							
13	市田 雅崇	【第 13 回】 予習：資料を読んでおく 授業：民俗誌の講読（4） 復習：授業課題の提出							
14	市田 雅崇	【第 14 回】 予習：資料を読んでおく 授業：民俗誌の講読（5） 復習：授業課題の提出							
15	市田 雅崇	【第 15 回】 予習：民俗資料論のレビュー 授業：まとめ 復習：レポート課題の提出							
授業開始前学習		民俗資料に関する書籍を 1 冊読んでおくことが望ましい。 新聞などに目を通し、現代文化に関する記事に目を通しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。							
テキスト・教材		必要に応じて資料を配付する。							
参考書		適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法		授業内課題 60%、レポート 40%で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	◎	○	
関連科目									
その他		授業の進捗状況や受講者数などによって、内容を変更することがある。 講読する民俗誌は受講者と相談のうえ決定する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0440
科目名称	歴史考古学	単位数	2.0 単位
英文名称	Historical Archeology	授業区分	講義
科目責任者	今野 慶信	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	今野 慶信	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	歴史考古学、とりわけ近年進展の著しい中世考古学について、最新の研究動向を紹介しつつも、なるべく身近な事例を取り上げて講義していく。		
到達目標	中世考古学について理解を深め、日本中世社会の特質について説明できるようになる。同時に考古学の醍醐味と可能性を知り、日本中世社会への自分なりの興味と視点を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	今野 慶信	【第 1 回】 予習 : 考古学について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世考古学とは 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世考古学について参考書等から捕捉しておく。	
2	今野 慶信	【第 2 回】 予習 : 前近代における日本の貨幣について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : モノから見た中世経済 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の社会経済史について参考書等から捕捉しておく。	
3	今野 慶信	【第 3 回】 予習 : 現代に流通している陶磁器類について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : モノから見た中世物流 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の物流について参考書等から捕捉しておく。	
4	今野 慶信	【第 4 回】 予習 : 呪い（まじない）について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : モノから見た中世の信仰 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、経塚などの中世特有の信仰遺物について参考書等から捕捉しておく。	
5	今野 慶信	【第 5 回】 予習 : 現在の葬送儀礼について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世の葬送 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の葬送関係遺物について参考書等から捕捉しておく。	
6	今野 慶信	【第 6 回】 予習 : 古代寺院の伽藍配置や現在の鎌倉五山の伽藍配置などについて調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世のお寺 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世寺院とその遺構について参考書等から捕捉しておく。	
7	今野 慶信	【第 7 回】 予習 : 近隣の中世前期の武士の本拠地について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世の城① 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世前期の武士の本拠地について参考書等から捕捉しておく。	
8	今野 慶信	【第 8 回】 予習 : 近隣の室町時代の武士の城について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世の城② 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の城館について参考書等から捕捉しておく。	
9	今野 慶信	【第 9 回】 予習 : 近隣の戦国時代の城について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世の城③ 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、戦国時代の城について参考書等から捕捉しておく。	
10	今野 慶信	【第 10 回】 予習 : 古代以来の政治都市について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世都市① 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の政治都市について参考書等から捕捉しておく。	
11	今野 慶信	【第 11 回】 予習 : 東国の首都・鎌倉について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世都市② 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、鎌倉の都市空間について参考書等から捕捉しておく。	

12	今野 慶信	【第 12 回】 予習 : 中世の農村について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世の村 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世の農村について参考書等から捕捉しておく。							
13	今野 慶信	【第 13 回】 予習 : 近隣の「鎌倉街道」などの古道について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 中世のみち 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、中世古道について参考書等から捕捉しておく。							
14	今野 慶信	【第 14 回】 予習 : 稲城市・川崎市周辺の中世史について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : あしもとの中世 復習 : ノート・配布資料で授業を振り返り、自分の足元の地域史について考えてみる。							
15	今野 慶信	【第 15 回】 予習 : 江戸時代の人々が使った様々な道具について調べ、自分なりに考えておく。 授業 : 江戸考古へ 復習 : ノート・配布資料で半年間の授業を振り返り、歴史考古学について整理してみる。							
授業開始前学習		中学・高校で学んだ日本中世史（平安末期～戦国時代）について復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		出席を兼ねたレポートについては、実施の 1 週後に講評を行う。							
テキスト・教材		プリントを配布する。							
参考書		その都度、紹介する。							
評価の基準と方法		授業内のレポート等で評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	◎	○	
関連科目									
その他		授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0450
科目名称	歴史地理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Historical Geography	授業区分	講義
科目責任者	武廣 亮平	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武廣 亮平	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	東京多摩地域の特色を歴史地理学的観点から学ぶ。多摩地域の先史時代から近現代までの歴史と地理的な特徴について、さまざまなテーマを設定して考える。		
到達目標	駒沢女子大学が立地する多摩地域を中心とした地理や歴史を学ぶことで、当該地域の地理的・歴史的意義や特徴を再認識することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	武廣 亮平	【第 1 回】 予習 : シラバスによる授業内容の確認 授業 : オリエンテーション (「多摩」を概観する) 復習 : 各授業テーマと要点の確認	
2	武廣 亮平	【第 2 回】 予習 : 多摩の地形図からその特徴を調べる 授業 : 多摩の地形とその成り立ち 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
3	武廣 亮平	【第 3 回】 予習 : 縄文～古墳時代の文化とその特徴を調べる 授業 : 先史時代の多摩地域 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
4	武廣 亮平	【第 4 回】 予習 : 律令国家の政治と地方統治について調べる 授業 : 武蔵国の成立と多摩郡 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
5	武廣 亮平	【第 5 回】 予習 : 『万葉集』の東歌と防人歌について調べる 授業 : 『万葉集』に詠まれた古代の武蔵国と多摩 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
6	武廣 亮平	【第 6 回】 予習 : 古代・中世の仏教と宗派について調べる 授業 : 国分寺と多摩郡の古代・中世寺院 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
7	武廣 亮平	【第 7 回】 予習 : 穴沢天神社 (京王読売ランド駅から徒歩 5 分) に行ってみる (可能な範囲で) 授業 : 多摩郡の式内社と大國魂神社 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
8	武廣 亮平	【第 8 回】 予習 : 現在の鎌倉街道のルートを地図で確認する 授業 : 鎌倉幕府と鎌倉街道 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
9	武廣 亮平	【第 9 回】 予習 : 鎌倉公方と関東管領について調べる 授業 : 室町～戦国時代の多摩―後北条氏の支配を中心に― 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
10	武廣 亮平	【第 10 回】 予習 : 江戸幕府の成立について調べる 授業 : 『新編武蔵風土記稿』にみる江戸時代の多摩 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	
11	武廣 亮平	【第 11 回】 予習 : 開国から幕末までの政治について調べる 授業 : 幕末の多摩と「新選組」の活動 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認	

12	武廣 亮平	【第 12 回】 予習 : 自由民権運動の展開までの近代日本の歴史を調べる 太平洋戦争の開戦から敗戦までをまとめる 授業 : 「絹の道」と多摩の自由民権運動 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認							
13	武廣 亮平	【第 13 回】 予習 : 現在の東京都の行政区分を確認する 授業 : 神奈川県から東京府へー近代における「多摩」の変遷ー 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認							
14	武廣 亮平	【第 14 回】 予習 : 各自の家庭で行っている年中行事を確認する 授業 : 多摩の年中行事 復習 : 授業内容のノート整理と要点の確認							
15	武廣 亮平	【第 15 回】 予習 : 授業内容のノートの整理 授業 : 授業の総括 復習 : 多摩の地理と歴史を自分なりにまとめる							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内のレポートや課題は次回の授業時に講評を行う。個別の質問についても毎回授業終了時に対応する。							
テキスト・教材		テキストは特に指定せず、毎回プリントを配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業時の提出物）60点、レポート40点							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	◎	○	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-330-13			授業コード	FA0710
科目名称	仏教文学			単位数	2.0 単位
英文名称	Buddhist Literature			授業区分	講義
科目責任者	山本 元隆			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10			研究室	10-506
授業概要	本科目では、仏教に関する説話や民話、あるいは随筆などをひろく講読し、文学に描かれた仏教について解説する。具体的には、『日本霊異記』『今昔物語集』『沙石集』をはじめとする仏教説話と、その影響を受けた近現代の文学作品を取り上げ、重要と思われる箇所を講読する。また履修者にゆかりのある地域の昔話についても調べてもらい、日本の各地域に溶け込んだ仏教（文化）についても関心を深めるきっかけとする。この授業では、ディスカッションを行う。				
到達目標	・仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたかを理解し、その概要を説明することができる。 ・仏教文学を講読するための仏教用語の基礎知識を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習 : シラバスをよみ、授業の概要を確認する。 授業 : ガイダンス 授業の進め方と仏教文学について 復習 : 仏教文学について学んだことをノートにまとめる。			
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習 : 平安時代の仏教文学について調べておく。 授業 : 平安時代の仏教文学概説 復習 : 平安時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。			
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習 : 『日本霊異記』について調べておく。 授業 : 『日本霊異記』を読む（1） 復習 : 『日本霊異記』と仏教の関連についてノートにまとめる。			
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習 : 『日本霊異記』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業 : 『日本霊異記』を読む（2） 復習 : 『日本霊異記』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。			
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習 : 『今昔物語集』について調べておく。 授業 : 『今昔物語集』を読む（1） 復習 : 『今昔物語集』と仏教の関連についてノートにまとめる			
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習 : 『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業 : 『今昔物語集』を読む（2） 復習 : 『今昔物語集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。			
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習 : 『今昔物語集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業 : 『今昔物語集』を読む（3） 復習 : 『今昔物語集』に見る極楽往生の諸相をノートにまとめる。			
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習 : 鎌倉・室町時代の仏教文学について調べておく。 授業 : 鎌倉・室町時代の仏教文学概説 復習 : 鎌倉・室町時代の仏教と文学の特徴をノートにまとめる。			
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習 : 『沙石集』について調べておく。 授業 : 『沙石集』を読む（1） 復習 : 『沙石集』と仏教の関連についてノートにまとめる。			
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習 : 『沙石集』に出てくる仏教用語を調べておく。 授業 : 『沙石集』を読む（2） 復習 : 『沙石集』に見る仏教思想の特徴をノートにまとめる。			
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習 : 「和歌陀羅尼説」について調べておく。 授業 : 『沙石集』を読む（3）			

		復習　：　和歌と仏教の関連性についてノートにまとめる。						
12	山本　元隆	【第 12 回】 予習　：『発心集』について調べておく。 授業　：『発心集』を読む 復習　：『発心集』と仏教の関連についてノートにまとめる。						
13	山本　元隆	【第 13 回】 予習　：近世の仏教文学について調べておく。 授業　：近世の仏教文学概説　『夫婦宗論物語』を読む。 復習　：『夫婦宗論物語』と仏教の関連についてノートにまとめる。						
14	山本　元隆	【第 14 回】 予習　：近現代の仏教文学について調べておく。 授業　：近現代の仏教文学概説　芥川龍之介『鼻』を読む。 復習　：芥川作品と仏教説話の関係をノートにまとめる。						
15	山本　元隆	【第 15 回】 予習　：授業のノートから 14 回の授業内容を振り返る。 授業　：総括　日本の文学と仏教について考える（ディスカッション） 復習　：仏教を受容した日本がどのような文学を築き上げたか、レポートにまとめる。						
授業開始前学習		授業に関連する作品にふれておくこと。（現代語訳のものでもかまわない）						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課題もしくは感想を提出した場合、次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配付する。						
参考書		武石彰夫編著『仏教文学を読む事典』（佼成出版社）　その他、適宜授業で紹介する。						
評価の基準と方法		授業での提出物（30％）とテスト・レポート（70％）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-331-13	授業コード	FA0720
科目名称	児童文学	単位数	2.0 単位
英文名称	Children's Literature	授業区分	講義
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	日本の児童文学史の流れを概説しながら、いくつかの児童文学作品を読み、その特徴と歴史性について考え、近代日本における児童文学の意義と役割について講義する。明治期に誕生した「児童」という概念や、大正期の雑誌『赤い鳥』に代表される「童心主義」的な童話が、昭和期の戦争と敗戦を経て、どのように変化しながら現代へと続いていくのかを考察する。この授業では課題解決型学習を行う。		
到達目標	日本の児童文学と、近代日本の歴史との関わりについての理解を深める。 児童文学作品について自分なりの考えをまとめ、先行研究を踏まえて論じることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：日本の児童文学について、知っていることをまとめておく 授業：日本の近代文学と児童文学との関係性、児童文学史の起点について 復習：授業で学んだことをまとめる	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：日本の文明開化およびキリスト教、科学読み物、翻訳との関わり（明治期 1） 復習：授業で学んだことをまとめる	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：創作児童文学の始まり、巖谷小波について（明治期 2） 復習：授業で学んだことをまとめる	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学における明治期のおとぎ話、科学読み物作品等について議論を深め考察する（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 1 に取り組む	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：大正期「童謡童話作品」について学ぶ 復習：授業で学んだことをまとめる	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：雑誌『赤い鳥』とその影響（大正期 1） 復習：授業で学んだことをまとめる	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読み、課題 2 を行う（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 2 に取り組む	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：「児童」の発見と「童心主義」について（大正期 2）・課題 2 解説 復習：授業で学んだことをまとめる	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学冬の時代・プロレタリア児童文学と生活童話（昭和戦前期 1） 復習：授業で学んだことをまとめる	
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：宮沢賢治「雪渡り」を読み、課題 3 を書く（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 3 に取り組む	
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：言論統制と戦時下の児童文学について（昭和戦前期 2）・課題 3 解説	

		復習：授業で学んだことをまとめる						
12	木内 英実	【第 12 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：新美南吉「手袋を買いに」を読み、課題 4 を書く（課題解決型学習） 復習：授業で学んだことをまとめ、課題 4 に取り組む						
13	木内 英実	【第 13 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：「童話伝統批判」と戦後の児童文学の成立（戦後から現代へ 1）・課題 4 解説 復習：授業で学んだことをまとめる						
14	木内 英実	【第 14 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：児童文学のタブーの崩壊、ラノベ等児童文学の多様化、子どもの本の現在（戦後から現代へ 2） 復習：授業で学んだことをまとめる						
15	木内 英実	【第 15 回】 予習：前回の授業で学んだことを読み返す 授業：日本の児童文学の特徴と歴史性、ジャンルの意義と役割について（全体のまとめ） 復習：授業全体を振り返り、整理しておく						
授業開始前学習		指定テキストをはじめ児童文学に関する文献を図書館等で探し、目を通しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で取り上げる児童文学作品について、それぞれ授業内課題を書いて提出してもらう。それをもとに作品の説明を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		『児童文学の教科書』川端有子著（玉川大学出版部）						
参考書		『子ども観の近代－「赤い鳥」と「童心」の理想－』河原和枝著（中公新書）、『はじめて学ぶ日本児童文学史』鳥越信編著（ミネルヴァ書房）						
評価の基準と方法		授業内課題（40％）、GW 等授業参加姿勢（20％）、学期末レポート（40％）で総合評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎			
関連科目	近現代文学Ⅰ（近代）、近現代文学Ⅱ（現代）、近代文学概論							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-331-13	授業コード	FA0731
科目名称	日本の詩歌	単位数	2.0 単位
英文名称	Japanese Poetry	授業区分	講義
科目責任者	三田 誠司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三田 誠司	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-611
授業概要	日本の詩歌の特質について学ぶことを目的とする。上代の和歌と中古の和歌を中心とし、中世から近世の和歌についても考察する。近代以降の詩歌については正岡子規の改革運動を中心として略述する。日本文学における詩歌の意義について理解し、作品に表れたものの見方や考え方、現代における詩歌の意義などについて、各受講者なりの考えを持つことができるようにする。そのため、受講生の意見発表や、質疑応答の機会を適宜設ける。		
到達目標	- 日本の詩歌の特質について、自分なりの考えを説明することができる。 - 日本の主要な詩歌作品について簡潔に説明することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三田 誠司	【第 1 回】 予習 : 日本の詩歌に関する入門書を読んでおく 授業 : 万葉集第 1 期の和歌 額田王の作品 復習 : 課題に取り組む	
2	三田 誠司	【第 2 回】 予習 : 万葉集について調べる 授業 : 万葉集第 1 期の和歌 皇子・皇女の作品 復習 : 課題に取り組む	
3	三田 誠司	【第 3 回】 予習 : 人麻呂について調べる 授業 : 万葉集第 2 期の和歌 柿本人麻呂の雑歌 復習 : 課題に取り組む	
4	三田 誠司	【第 4 回】 予習 : 人麻呂について調べる 授業 : 万葉集第 2 期の和歌 柿本人麻呂の相聞 復習 : 課題に取り組む	
5	三田 誠司	【第 5 回】 予習 : 人麻呂について調べる 授業 : 万葉集第 2 期の和歌 柿本人麻呂の挽歌 復習 : 課題に取り組む	
6	三田 誠司	【第 6 回】 予習 : 赤人について調べる 授業 : 万葉集第 3 期の和歌 山部赤人の作品 復習 : 課題に取り組む	
7	三田 誠司	【第 7 回】 予習 : 高橋虫麻呂について調べる 授業 : 万葉集第 3 期の和歌 高橋虫麻呂の作品 復習 : 課題に取り組む	
8	三田 誠司	【第 8 回】 予習 : 大伴旅人について調べる 授業 : 万葉集第 3 期の和歌 大伴旅人の作品 復習 : 課題に取り組む	
9	三田 誠司	【第 9 回】 予習 : 山上憶良について調べる 授業 : 万葉集第 3 期の和歌 山上憶良の作品 復習 : 課題に取り組む	
10	三田 誠司	【第 10 回】 予習 : 坂上郎女について調べる 授業 : 万葉集第 4 期の和歌 大伴坂上郎女の作品 復習 : 課題に取り組む	
11	三田 誠司	【第 11 回】 予習 : 大伴家持について調べる 授業 : 万葉集第 4 期の和歌 大伴家持の作品	

		復習：課題に取り組む							
12	三田 誠司	【第 12 回】 予習：和歌の技法について調べる 授業：平安時代の和歌 1 和歌の技法 復習：課題に取り組む							
13	三田 誠司	【第 13 回】 予習：古今集について調べる 授業：平安時代の和歌 2 和歌の「危機」をめぐって 復習：課題に取り組む							
14	三田 誠司	【第 14 回】 予習：新古今和歌集について調べる 授業：鎌倉時代から江戸初期の和歌 復習：課題に取り組む							
15	三田 誠司	【第 15 回】 予習：近世の和歌について調べる 授業：江戸中期から近代の和歌 復習：課題に取り組む							
授業開始前学習		百人一首など身近な和歌に触れておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題（授業の感想・質問等）は、適宜コメント等を付し次回以降に返却する。							
テキスト・教材		教員作成のプリント（資料）を配付する。							
参考書		授業時に指示する。							
評価の基準と方法		授業時の課題（70%）とレポート（30%）により判断する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎			◎		△	
関連科目		古典文学概論 日本文学史など							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0740
科目名称	国語教育概論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Overview of Teaching Japanese as a Second Language I	授業区分	講義
科目責任者	八百板 真弓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八百板 真弓	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	中学校及び高等学校国語科の学習指導の目標、内容、方法、教材、国語科教育の歴史などを学ぶ。今、国語科教育に求められていることについて理解を深め、授業をデザインすることを目指す。 なお、授業においてペアワーク、グループワークを行う。		
到達目標	・学習指導要領改訂の経緯及び基本方針、国語科改訂の趣旨及び要点、国語科の目標、内容、高等学校国語科の科目編成を理解している。 ・学習指導要領に基づいた授業をデザインすることができるようになる。 ・国語科の教員を目指し、主体的に学びに向かう力等を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	八百板 真弓	【第 1 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.11～14，高等学校 p.21～25 を読む。 授業：中学校及び高等学校国語科において育成を目指す資質・能力、教科の目標等を理解する。 復習：国語科の目標を確認する。	
2	八百板 真弓	【第 2 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p. 1 ～ 5，高等学校 p. 1 ～ 5 を読む。 授業：今、国語科教育に求められていること 1 学習指導要領改訂の経緯及び基本方針を理解する。 復習：時代、社会的背景を確認する。	
3	八百板 真弓	【第 3 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p. 6 ～10，高等学校 p. 6 ～14 を読む。 授業：今、国語科教育に求められていること 2 高等学校の国語科の課題，他教科との差異等を理解する。 復習：学習指導要領解説 国語科改訂の趣旨及び要点を確認する。	
4	八百板 真弓	【第 4 回】 予習：高大接続改革について調べる。 授業：今、国語科教育に求められていること 3 高大接続改革について理解する。 復習：三者の一体的な改革について確認する。	
5	八百板 真弓	【第 5 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p. 3 ～ 4，p.131～132，高等学校 p. 3 ～ 4，p.274～275 を読む。 授業：主体的・対話的で深い学びの実現に向けて考察する。 復習：特に「深い学び」の実現に向けて重要なことを確認する。 課題提出①（中学校、高等学校どちらかを選択）国語科教育の成果と課題	
6	八百板 真弓	【第 6 回】 予習：OECD・PISA 調査 読解力について調べる。 授業：OECD・PISA 調査 読解力について理解する。 小テスト① 復習：OECD・PISA 調査 読解力について考察する。	
7	八百板 真弓	【第 7 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.82～91 を読む。 授業：〔思考力、判断力、表現力等〕各領域における(1)指導事項，(2)言語活動例 1 「話すこと・聞くこと」を理解する。 復習：「話すこと・聞くこと」に関する指導の改善・充実について考察する。	
8	八百板 真弓	【第 8 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.92～98 を読む。 授業：〔思考力、判断力、表現力等〕各領域における(1)指導事項，(2)言語活動例 2 「書くこと」を理解する。 復習：「書くこと」に関する指導の改善・充実について考察する。	
9	八百板 真弓	【第 9 回】 予習：中学校及び高等学校国語科における学習評価について調べる。 授業：目標に準拠した評価の充実について理解する。 復習：観点別学習状況の評価について確認する。	

10	八百板 真弓	【第 10 回】 予習：令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等及び問題作成方針について調べる。 授業：令和 7 年度大学入学共通テスト国語の出題方法等及び問題作成方針について理解する。 復習：令和 7 年度大学入学共通テスト国語に係る変更点，問題作成の方針を確認する。 課題提出②（中学校，高等学校どちらかを選択）生徒の主体的な言語活動を実現するには							
11	八百板 真弓	【第 11 回】 予習：令和 3 年 1 月 26 日付中央教育審議会答申について調べる。 授業：全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと協働的な学びの実現について考察する。 復習：個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて大切なことを確認する。							
12	八百板 真弓	【第 12 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.12 を読んで，選択科目に位置付けられた，探究的な学びの要素を含む指導事項を指摘する。 授業：教科横断的な教育，探究的な学びについて考察する。 小テスト② 復習：教科横断的な教育，探究的な学びの意義，内容，方法等を確認する。							
13	八百板 真弓	【第 13 回】 予習：令和 3 年 7 月 8 日付大学入試のあり方に関する検討会議提言について調べる。 授業：探究的な学びを評価する大学入試について考察する。 復習：探究的な学び及びその成果の評価，活用を確認する。							
14	八百板 真弓	【第 14 回】 予習：「未来の教室」等について調べる。 授業：S T E A M 教育，文理融合について理解する。 復習：新たな価値を創造し社会の創り手となる人材として必要な資質・能力の育成について確認する。 学期末レポート提出 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）に基づいて私がデザインする魅力ある国語の授業							
15	八百板 真弓	【第 15 回】 予習：今後の教育課程，学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会等について調べる。 授業：学習指導要領次期改訂について考察する。 復習：これからの国語科教育に大切なことを整理，確認する。							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト①②については，次時の授業で返却する。 課題①②については，随時授業時に発表する。 学期末レポート（第 14 回授業時提出）については，第 15 回授業時に講評を行う。							
テキスト・教材		『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編（平成 29 年 7 月）』（東洋館出版社） 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 国語編（平成 30 年 7 月）』（東洋館出版社）							
参考書		大滝一登『高等学校新学習指導要領 国語の授業づくり』（明治図書） 必要に応じて，事前に文献，資料等を紹介する。							
評価の基準と方法		授業における取組（発表を含む）30%，小テスト 30%，課題提出 20% 及び学期末レポート 20%。 大学の規定により GPA が 1.5～2.5 の範囲で評価をつける。 欠席 6 回以上は，原則として単位が与えられない。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎			◎		○	
関連科目									
その他		ペアワーク，グループワークは授業において随時行う。 なお，受講者の数，発表内容等により，授業予定を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		高等学校の教員，高等学校教育指導課の指導主事として，国語科教育を実践，指導してきた経験を生かし，理論と実践のバランスのとれた国語科教員を育成すべく，授業を計画・実施・評価する。							

科目分類	111-331-12（J）			授業コード	FA0750
科目名称	国語教育概論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Overview of Teaching Japanese as a Second Language II			授業区分	講義
科目責任者	八百板 真弓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	八百板 真弓			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	教育政策に関する国内外の動向を視野に、持続可能な社会の創り手の育成、日本社会に根差したウェルビーイングの向上に向けて、国語科教育に求められていることへの理解を深めるとともに、組織的なカリキュラム・マネジメントに力を発揮することを目指す。 なお、授業においてペアワーク、グループワークを行う。				
到達目標	・子供たちが、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していく必要性を理解している。 ・学習指導要領、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることができるようになる。 ・国語科の教員を目指し、使命感、責任感等を高める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	八百板 真弓	【第 1 回】 予習：OECD Education 2030 プロジェクト及び OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）について調べる。 授業：OECD Education2030 プロジェクト及び OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）について理解する。 復習：生徒エージェンシー、共同エージェンシー、コンピテンシー等について確認する。			
2	八百板 真弓	【第 2 回】 予習：国際バカロレア（IB）の教育について調べる。 授業：国際バカロレア（IB）の教育について理解する。 復習：国際バカロレア（IB）の学習者像等について確認する。			
3	八百板 真弓	【第 3 回】 予習：令和 3 年 1 月 26 日付中央教育審議会答申について調べる。 授業：新しい時代の学校教育の実現に向けて考察する。 復習：日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動き等について確認する。			
4	八百板 真弓	【第 4 回】 予習：「教育振興基本計画」（令和 5 年 6 月 16 日付閣議決定）について調べる。 授業：「教育振興基本計画」について理解する。 復習：今後の教育政策に関する基本的な方針等を確認する。			
5	八百板 真弓	【第 5 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.15, 16, 高等学校 p.26～28, p.63～67 を読む。 授業：中学校学年の目標、高等学校科目の目標について理解する。 復習：高等学校各科目の要点 p.14～20 を確認する。 課題提出①「令和の日本型学校教育」の構築に向けて、求められていること、重要と考えること。			
6	八百板 真弓	【第 6 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.18～26, 高等学校 p.29～40 を読む。 授業：〔知識及び技能〕の内容、〔学びに向かう力、人間性等〕について理解する。 小テスト① 復習：〔知識及び技能〕の内容、〔学びに向かう力、人間性等〕について確認する。			
7	八百板 真弓	【第 7 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.27～31, 高等学校 p.41～47 を読む。 授業：〔思考力、判断力、表現力等〕「話すこと・聞くこと」の指導 復習：学習指導要領解説高等学校 p.102～108, 「話すこと・聞くこと」の指導について確認する。			
8	八百板 真弓	【第 8 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.32～35, 高等学校 p.48～54 を読む。 授業：〔思考力、判断力、表現力等〕「書くこと」の指導 復習：学習指導要領解説高等学校 p.102～108, p.134～143, 「書くこと」の指導について確認する。			
9	八百板 真弓	【第 9 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.36～39, 高等学校 p.55～62 を読む。 授業：〔思考力、判断力、表現力等〕「読むこと」の指導 論理的な文章 復習：学習指導要領解説高等学校 p.102～108, p.134～143, 「読むこと」の指導について確認する。			

10	八百板 真弓	【第 10 回】 予習：学習指導要領解説国語編中学校 p.36～39，高等学校 p.55～62，p.126～134 を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕「読むこと」の指導 文学的な文章 復習：高等学校において文学的な文章を「読むこと」の指導が位置付けられている科目等を確認する。 課題提出②（学習指導要領解説国語編中学校「文語のきまりや訓読の仕方」，高等学校「文語のきまりや訓読のきまり」の扱いを踏まえて，）私が実践したい古典の学習指導						
11	八百板 真弓	【第 11 回】 予習：令和 7 年度大学入学共通テストに係る大学入学共通テストについて調べ，令和 7 年度大学入学共通テスト試作問題「国語」を解く。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕「読むこと」の指導 実用的な文章 復習：令和 7 年度大学入学共通テスト国語に係る変更点を確認するとともに，ゴールから高等学校国語科に求められる実用的な文章を読むことの指導を考察する。						
12	八百板 真弓	【第 12 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.126～143 を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕「読むこと」の指導 古文 小テスト② 復習：学習指導要領解説国語編中学校における，古典を教材として取り扱う指導の位置付け等を確認する。						
13	八百板 真弓	【第 13 回】 予習：学習指導要領解説国語編高等学校 p.126～143 を読む。 授業：〔思考力，判断力，表現力等〕「読むこと」の指導 漢文 復習：高等学校において古典を「読むこと」に関する指導が位置付けられている科目，「言語文化」読むこと・古典に関する指導での古文と漢文の割合等を確認する。						
14	八百板 真弓	【第 14 回】 予習：カリキュラム・マネジメントについて調べる。 授業：各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進について理解する。 復習：各学校におけるカリキュラム・マネジメント推進の重要性を確認する。 学期末レポート提出 高等学校国語「読むこと」の指導に求められていること，私が考える「読むこと」の指導。						
15	八百板 真弓	【第 15 回】 予習：今後の教育課程，学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会等について調べる。 授業：学習指導要領次期改訂について考察する。 復習：これからの国語科教育に大切なことを整理，確認する。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト①②については，次時の授業で返却する。 課題①②については，随時授業時に発表する。 学期末レポート（第 14 回授業時提出）については，第 15 回授業時に講評を行う。						
テキスト・教材		『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編（平成 29 年 7 月）』（東洋館出版社） 『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 国語編（平成 30 年 7 月）』（東洋館出版社）						
参考書		大滝一登『高等学校新学習指導要領 国語の授業づくり』（明治図書） 必要に応じて，事前に文献，資料等を紹介する。						
評価の基準と方法		授業における取組（発表を含む）30%，小テスト 30%，課題提出 20%及び学期末レポート 20%。 大学の規定により G P A が 1.5～2.5 の範囲で評価をつける。 欠席が 6 回以上は，原則として単位が与えられない。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎			◎		○	
関連科目								
その他	ペアワーク，グループワークは，授業において随時行う。 なお，受講者の数，発表内容等により，授業予定を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	高等学校の教員，高等学校教育指導課の指導主事として，国語科教育を実践，指導してきた経験を生かし，理論と実践のバランスのとれた国語科教員を育成すべく，授業を計画・実施・評価する。							

科目分類	111-331-23	授業コード	FA0760
科目名称	書道実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Calligraphy Practice I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向 雅之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向 雅之	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	1) 道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2) 基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3) 学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4) 中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。		
到達目標	1) 書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2) 基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3) 学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4) 中学書写の指導理論を、課題レポートにより習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	日向 雅之	【第 1 回】 予習：授業のテーマ・到達目標を事前に読了し、理解しておくこと。 授業：講座案内、書写指導の意義と概論（テキスト 4 p ～ 5 p）・テーマに沿った硬筆課題を行う。鉛筆、消しゴムを持参すること。 復習：実技をするために必要な内容について確認する。	
2	日向 雅之	【第 2 回】 予習：テキスト 34、35 p の楷書に調和するひらがなの欄を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-楷書に調和するひらがな。書道用具一式を持参すること。 復習：楷書に調和するひらがなについて再確認し、実技を習得し理解を深める。	
3	日向 雅之	【第 3 回】 予習：テキスト 36、37 p の楷書に調和する片仮名の欄を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-楷書に調和する片仮名 復習：楷書に調和する片仮名について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
4	日向 雅之	【第 4 回】 予習：テキスト 38、39 p の楷書と字形を読み予習しておくこと。 授業：実技-楷書と字形 復習：楷書と字形について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
5	日向 雅之	【第 5 回】 予習：テキスト 44 p ～ 45 p の筆順について、予習しておくこと。 授業：実技-楷書基本点画に複数のバリエーションがあることを理解する。課題「左右」 復習：基本点画の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
6	日向 雅之	【第 6 回】 予習：テキスト 46 p ～ 47 p 点画の長短について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「山寺」 復習：楷書の筆順について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
7	日向 雅之	【第 7 回】 予習：テキスト 48 p、49 p の点画の方向について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「友人」 復習：点画の方向について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
8	日向 雅之	【第 8 回】 予習：テキスト 50 p ～ 51 p の点画の接し方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「日光」 復習：点画の接し方について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
9	日向 雅之	【第 9 回】 予習：テキスト 52 p ～ 53 p 点画の交わり方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「文武」 復習：点画の交わり方について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
10	日向 雅之	【第 10 回】 予習：テキスト 54 p ～ 55 p の左右から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「金銀」	

		復習：左右から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。							
11	日向 雅之	【第 11 回】 予習：テキスト 56 p ～57 p 上下から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「竹笛」 復習上下から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。							
12	日向 雅之	【第 12 回】 予習：テキスト 58 p ～59p の内外から成る文字の組み立て方について、予習しておくこと。 授業：実技-「進展」 復習：内外から成る文字の組み立て方について再確認し、実技を習得し理解を深める。							
13	日向 雅之	【第 13 回】 予習：テキスト 60 p 文字の大きさと配列について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「美しい山の緑」 復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。							
14	日向 雅之	【第 14 回】 予習：テキスト 61 p 点画のつながりについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「うさぎ追いし・・・」 復習：点画のつながりについて再確認し、実技を習得し理解を深める。							
15	日向 雅之	【第 15 回】 予習：テキスト 62 p の硬筆縦書きについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「学習のステップ・・・」 復習：硬筆縦書きについて再確認し、実技を習得し理解を深める。							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。 模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。							
テキスト・教材		『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房） 書道用具一式 硬筆用－ 2 B 以上の鉛筆と消しゴム							
参考書									
評価の基準と方法		提出課題（70％）・模擬実習及び授業態度（30％）を点数化したものの合計にて評価します。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			△		◎	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-23	授業コード	FA0770
科目名称	書道実習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Calligraphy PracticeⅡ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	日向 雅之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	日向 雅之	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	1) 道具を用意する・片付けるといった、書道の実習を行う。 2) 基本的な楷書課題について、分析・理解し、実技と添削指導により、提出作品を完成させる。 3) 学生自身による実習を行い、氏名点呼・範書を経験する。 4) 中学校書写の指導理論について、教科書『国語科書写の理論と実践！』（菅原書房）を用いて講義を聞きレポートを作成する。		
到達目標	1) 書道の実技の実施において、準備・揮毫・片付けまでを確実に行うことができる。 2) 基礎的な楷書・行書の課題について、分析と理解を深め、書技を高める。 3) 学生自身の実習で、氏名点呼・範書を経験することで、教師としての資質を高める。 4) 中学書写の指導理論を、課題により習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	日向 雅之	【第 1 回】 タイトル：【第 1 回】 授業：行書と楷書の違いとテキスト 6 4 p の内容に沿って確認する。テーマに沿った硬筆実技を行うので、鉛筆・消しゴムを持参すること。 復習：行書と楷書の違いを再確認する。	
2	日向 雅之	【第 2 回】 タイトル：【第 2 回】「点画の丸み、方向や形の変化 1」『大木』 予習：テキスト 65 p の点画の丸み方向の変化を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-「大木」 復習：点画の丸み方向の変化①について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
3	日向 雅之	【第 3 回】 タイトル：【第 3 回】「点画の丸み、方向や形の変化 3」『北西』 予習：テキスト 66 p の点画の丸み方向の変化②を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-課題「北西」 復習：点画の丸み方向の変化②について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
4	日向 雅之	【第 4 回】 タイトル：【第 4 回】「点画の連続 1 筆脈の実線化」『清心』 予習：テキスト 68 p の筆脈の実線化を読んで、予習しておくこと。 授業：実技-課題「清心」 復習：筆脈の実線化について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
5	日向 雅之	【第 5 回】 タイトル：【第 5 回】「点画の連続 2 直接連続」『元気』 予習：テキスト 69 p の点画の連続直接連続を読み、予習しておくこと。 授業：実技-課題「元気」 復習：点画の連続直接連続について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
6	日向 雅之	【第 6 回】 タイトル：【第 6 回】「点画の省略」『秋霜』 予習：テキスト 71 p の点画の省略について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「秋霜」 復習：点画の省略について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
7	日向 雅之	【第 7 回】 タイトル：【第 7 回】「筆順の変化」『書聖』 予習：テキスト 72 p 筆順の変化について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「書聖」 復習：筆順の変化について再確認し、実技を習得し理解を深める。	
8	日向 雅之	【第 8 回】 タイトル：【第 8 回】「行書に調和する仮名」『はれやかな朝』 予習：テキスト 74 p の「行書に調和する仮名」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「はれやかな朝」 復習：「行書に調和する仮名」について再確認し、実技を習得し理解を深める。	

9	日向 雅之	【第 9 回】 タイトル：【第 9 回】「文字の大きさと配列行書 1 』『赤とんぼ・・・』 予習：テキスト 76p 文字の大きさと配列について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「赤とんぼ・・・」 復習：文字の大きさと配列について再確認し、実技を習得し理解を深める。						
10	日向 雅之	【第 10 回】 タイトル：【第 10 回】「文字の大きさと配列行書 2 』『自然との調和』 予習：テキスト 77 p の文字の大きさと配列のポイントについて、予習しておくこと。 授業：実技-課題「自然との調和」 復習：文字の大きさと配列のポイントについて再確認し、実技を習得し理解を深める。						
11	日向 雅之	【第 11 回】 タイトル：【第 11 回】「実用書式 封筒」 予習：テキスト 78 p の「実用書式」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「佐藤・・・」 復習：「実用書式」について再確認し、実技を習得し理解を深める。						
12	日向 雅之	【第 12 回】 タイトル：【第 12 回】「実用書式 葉書」 予習：テキスト 79p の「はがきの書き方」について、予習しておくこと。 授業：実技-課題「佐藤・・・」 復習：「はがきの書き方」について再確認し、実技を習得し理解を深める。						
13	日向 雅之	【第 13 回】 タイトル：【第 13 回】「実用書式 手紙」 予習：テキスト 80 p 「手紙文を書く」をよく読んでおく。 授業：実技-「拝「手紙文を書く」啓・・・」 復習：「手紙文を書く」について再確認し、実技を習得し理解を深める。						
14	日向 雅之	【第 14 回】 タイトル：【第 14 回】「原稿用紙を書く」 予習：テキスト 81 p 上段の原稿用紙に書く(縦書き) について、予習しておくこと。 授業：実技-「私たち・・・」の課題 復習：原稿用紙に書く(縦書き) について再確認し、実技を習得し理解を深める。						
15	日向 雅之	【第 15 回】 タイトル：【第 15 回】「書き初めを書く」 予習：テキスト 82 p の書き初め課題について、予習しておくこと。 授業：実技-書き初めの筆課題 復習：書き初めの実践と指導について再確認し、実技を習得し理解を深める。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法								
提出した作品を授業内で添削し、各回のテーマ習得に添うよう適宜指導します。 模擬実習を行い、より効果が高い指導が出来るよう検討し、適宜指導します。								
テキスト・教材								
『国語科書写の理論と実践！』（萱原書房） 書道用具一式 硬筆用－2B 以上の鉛筆と消しゴム								
参考書								
評価の基準と方法								
提出課題（70％）・模擬実習及び授業態度（30％）を点数化したものの合計にて評価します。								
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0780
科目名称	日本の文化財 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural Properties of Japan I	授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	文化財を後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では、文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。		
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小山 貴子	【第 1 回】 予習：この授業のシラバスを通読しておく。 授業：オリエンテーション。この授業および文化財の見方・考え方について説明する。 復習：授業の内容を確認する。	
2	小山 貴子	【第 2 回】 予習：文化財とは何か、文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：文化財の種類や文化財保護の歴史について概説 復習：文化財の種類、歴史を確認する	
3	小山 貴子	【第 3 回】 予習：文化財保護および博物館の役割を調べる 授業：文化財保護法改正と文化財・博物館行政について概説 復習：文化財保護法と博物館行政について確認する	
4	小山 貴子	【第 4 回】 予習：古代の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：古代の史跡・遺跡について概説 復習：古代の史跡・遺跡について確認する	
5	小山 貴子	【第 5 回】 予習：中世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：中世の史跡・遺跡について概説 復習：中世の史跡・遺跡について確認する	
6	小山 貴子	【第 6 回】 予習：中世の史跡・遺跡にはどのようなものがあるか調べる 授業：中世の史跡・遺跡について概説 復習：中世の史跡・遺跡について確認する	
7	小山 貴子	【第 7 回】 予習：近世の史跡・遺跡と文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：近世の史跡・遺跡と文化財について概説 復習：近世の史跡・遺跡と文化財について確認する	
8	小山 貴子	【第 8 回】 予習：近現代の史跡・遺跡と文化財にはどのようなものがあるか調べる 授業：近現代の史跡・遺跡と文化財について概説 復習：近現代の史跡・遺跡と文化財について確認する	
9	小山 貴子	【第 9 回】 予習：建造物（寺院・寺社）にはどのようなものがあるか調べる 授業：建造物（寺院・寺社）について概説 復習：建造物（寺院・寺社）について確認する	
10	小山 貴子	【第 10 回】 予習：建造物（城郭）にはどのようなものがあるか調べる 授業：建造物（城郭）について概説 復習：建造物（城郭）について確認する	
11	小山 貴子	【第 11 回】 予習：住宅の歴史（中世まで）について調べる 授業：住宅の歴史（中世まで）について概説 復習：住宅の歴史（中世まで）について確認する	

12	小山 貴子	【第 12 回】 予習：住宅の歴史（近世）について調べる 授業：住宅の歴史（近世）について概説 復習：住宅の歴史（近世）について確認する						
13	小山 貴子	【第 13 回】 予習：住宅の歴史（庶民の住宅）について調べる 授業：住宅の歴史（庶民の住宅）について概説 復習：住宅の歴史（庶民の住宅）について確認する						
14	小山 貴子	【第 14 回】 予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：石造物について概説 復習：石造物について確認する						
15	小山 貴子	【第 15 回】 予習：石造物にはどのようなものがあるか調べる 授業：石造物について概説 復習：石造物について確認する						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。						
テキスト・教材		授業時に適宜プリントを配布する。						
参考書		参考書としては『新版 図説 歴史散歩事典』（山川出版社、2019年）などを使用する。						
評価の基準と方法		レポートで評価を行う。配点（100 点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40 点、レポート 60 点の配分とする。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	◎	○		
関連科目								
その他	授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。							

科目分類	111-331-12 (J)	授業コード	FA0790
科目名称	日本の文化財Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural Properties of JapanⅡ	授業区分	講義
科目責任者	小山 貴子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小山 貴子	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	文化財を後世に伝えることは、博物館の重要な責務である。近年、文化財・文化遺産については、保存と活用が要求されており、博物館学芸員には、文化財保存・保護に関する基礎的事項を理解し、それらの活用が求められている。本授業では、文化財の保護やさまざまな文化財に関する歴史を振り返りながら、その見方や活用方法などを学ぶ。		
到達目標	文化財への理解を図り、その保存・活用の方法を考えることができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小山 貴子	【第 1 回】 予習：絵画（中世まで）の歴史について調べる 授業：絵画（中世まで）の歴史について概説 復習：絵画（中世まで）の歴史を確認する	
2	小山 貴子	【第 2 回】 予習：絵画（近世）の歴史について調べる 授業：絵画（近世）の歴史について概説 復習：絵画（近世）の歴史を確認する	
3	小山 貴子	【第 3 回】 予習：絵画（近世前期の浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（近世前期の浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（近世前期の浮世絵）の歴史を確認する	
4	小山 貴子	【第 4 回】 予習：絵画（近世後期の浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（近世後期の浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（近世後期の浮世絵）の歴史を確認する予習：書籍・典籍について調べる	
5	小山 貴子	【第 5 回】 予習：絵画（近代の浮世絵）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（近代の浮世絵）の歴史について概説 復習：絵画（近代の浮世絵）の歴史を確認する	
6	小山 貴子	【第 6 回】 予習：絵画（浮世絵の役割と機能）にはどのようなものがあるか調べる 授業：絵画（浮世絵の役割と機能）の歴史について概説 復習：絵画（浮世絵の役割と機能）の歴史を確認する	
7	小山 貴子	【第 7 回】 予習：書跡について調べる 授業：書跡について概説 復習：書跡について確認する	
8	小山 貴子	【第 8 回】 予習：典籍（中世まで）について調べる 授業：典籍（中世まで）について概説 復習：典籍（中世まで）について確認する	
9	小山 貴子	【第 9 回】 予習：典籍（近世）について調べる 授業：典籍（近世）について概説 復習：典籍（近世）について確認する	
10	小山 貴子	【第 10 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する	
11	小山 貴子	【第 11 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説	

		復習：古文書について確認する							
12	小山 貴子	【第 12 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する							
13	小山 貴子	【第 13 回】 予習：古文書について調べる 授業：古文書について概説 復習：古文書について確認する							
14	小山 貴子	【第 14 回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する							
15	小山 貴子	【第 15 回】 予習：地域資料とは何か調べる 授業：地域資料について概説 復習：地域資料について確認する							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		次回授業開始時にコメントに関する講評（主に質問への回答、フィードバック）を行う。							
テキスト・教材		授業時に適宜プリントを配布する。							
参考書		参考書としては『新版 図説 歴史散歩事典』（山川出版社、2019年）などを使用する。							
評価の基準と方法		レポートで評価を行う。配点（100 点満点における）は平常点（授業態度・課題提出）40 点、レポート 60 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		○	◎	○		
関連科目									
その他		授業の進捗状況などによって、内容を変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		博物館学芸員としての実務経験を活かし、文化財について講義をおこなう。							

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0800
科目名称	文化交流史 I	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Cultural Exchange I	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、旧石器時代から鎌倉時代までを取り上げます。海外から何がもたらされたのか、そしてこのうち日本は、何を受容したのかを解説します。さらにそれが日本の文化や歴史に、どのような影響を与えたのかを論じていきます。		
到達目標	1 日本の文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2 海外の文化が、日本の文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	市川 理恵	【第 1 回】 予習：旧石器遺跡捏造事件について調べる。 授業：旧石器時代の文化交流 復習：教科書の「旧石器時代の文化交流」を読む。	
2	市川 理恵	【第 2 回】 予習：三内丸山遺跡について調べる。 授業：縄文から弥生へ 復習：教科書の「縄文から弥生へ」を読む。	
3	市川 理恵	【第 3 回】 予習：邪馬台国について調べる。 授業：倭人と中国王朝 復習：教科書の「倭人と中国王朝」を読む。	
4	市川 理恵	【第 4 回】 予習：欠史八代について調べる。 授業：神話から歴史へ 復習：教科書の「神話から歴史へ」を読む。	
5	市川 理恵	【第 5 回】 予習：蘇我馬子について調べる。 授業：六世紀の国際関係と仏教伝来 復習：教科書の「六世紀の国際関係と仏教伝来」を読む。	
6	市川 理恵	【第 6 回】 予習：天智天皇について調べる。 授業：大化の改新と白村江の戦い 復習：教科書の「大化の改新と白村江の戦い」を読む。	
7	市川 理恵	【第 7 回】 予習：持統天皇について調べる。 授業：律令の導入と古代国家の成立 復習：教科書の「律令の導入と古代国家の成立」を読む。	
8	市川 理恵	【第 8 回】 予習：光明皇后について調べる。 授業：聖武天皇・光明皇后と国家仏教 復習：教科書の「聖武天皇・光明皇后と国家仏教」を読む。	
9	市川 理恵	【第 9 回】 予習：大伴古麻呂について調べる。 授業：遣唐使がもたらしたもの 復習：教科書の「遣唐使がもたらしたもの」を読む。	
10	市川 理恵	【第 10 回】 予習：道鏡について調べる。 授業：国家仏教の行く末 復習：教科書の「国家仏教の行く末」を読む。	
11	市川 理恵	【第 11 回】 予習：空海について調べる。 授業：最澄・空海とその後の仏教 復習：教科書の「最澄・空海とその後の仏教」を読む。	

12	市川 理恵	【第 12 回】 予習：円仁について調べる。 授業：入唐八家と聖地巡礼 復習：教科書の「入唐八家と聖地巡礼」を読む。							
13	市川 理恵	【第 13 回】 予習：藤原隆家について調べる。 授業：遣唐使廃止後の対外交流と国風文化 復習：教科書の「遣唐使廃止後の対外交流と国風文化」を読む。							
14	市川 理恵	【第 14 回】 予習：平清盛について調べる。 授業：日宋貿易と禅宗の伝来 復習：教科書の「日宋貿易と禅宗の伝来」を読む。							
15	市川 理恵	【第 15 回】 予習：教科書を一通り読む。 授業：旧石器時代から鎌倉時代における文化交流の総括 復習：日本が海外から受容した文化について時代ごとにまとめておく。							
授業開始前学習		鎌倉時代までの日本の歴史を学習しておくで授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材		授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験の結果（70％）と授業態度（30％）で評価を行う。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-331-12	授業コード	FA0810
科目名称	文化交流史Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Cultural ExchangeⅡ	授業区分	講義
科目責任者	市川 理恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	市川 理恵	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	日本と海外との文化交流の歴史について、鎌倉時代から明治時代までを取り上げます。日本が海外から何を受容し、何を排除したのかを解説するとともに、このことが日本の文化や歴史にどのような影響を与えたのかを論じていきます。		
到達目標	1 日本の文化・歴史を、海外との交流史のなかで捉え直すことができる。 2 海外の文化が、日本の文化・歴史にどのような影響を与えたかを理解することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	市川 理恵	【第 1 回】 予習：元寇について調べる。 授業：蒙古襲来と鎌倉幕府 復習：教科書の「蒙古襲来と鎌倉幕府」を読む。	
2	市川 理恵	【第 2 回】 予習：足利尊氏について調べる。 授業：日明貿易と室町幕府 復習：教科書の「日明貿易と室町幕府」を読む。	
3	市川 理恵	【第 3 回】 予習：足利義満について調べる。 授業：14・15 世紀の中国・朝鮮と琉球 復習：教科書の「14・15 世紀の中国・朝鮮と琉球」を読む。	
4	市川 理恵	【第 4 回】 予習：織田信長について調べる。 授業：戦国大名と鉄砲伝来 復習：教科書の「戦国大名と鉄砲伝来」を読む。	
5	市川 理恵	【第 5 回】 予習：豊臣秀吉について調べる。 授業：キリスト教の伝来と弾圧 復習：教科書の「キリスト教の伝来と弾圧」を読む。	
6	市川 理恵	【第 6 回】 予習：徳川家康について調べる。 授業：江戸幕府と鎖国政策 復習：教科書の「江戸幕府と鎖国政策」を読む。	
7	市川 理恵	【第 7 回】 予習：徳川家光について調べる。 授業：長崎貿易と洋学 復習：教科書の「長崎貿易と洋学」を読む。	
8	市川 理恵	【第 8 回】 予習：高野長英について調べる。 授業：アヘン戦争とアジア 復習：教科書の「アヘン戦争とアジア」を読む。	
9	市川 理恵	【第 9 回】 予習：黒船について調べる。 授業：黒船来航と開国 復習：教科書の「黒船来航と開国」を読む。	
10	市川 理恵	【第 10 回】 予習：安政の大獄について調べる。 授業：「万国公法」と世界 復習：教科書の「万国公法」と世界」を読む。	
11	市川 理恵	【第 11 回】 予習：戊辰戦争について調べる 授業：国際化のなかの幕府と薩長 復習：教科書の「国際化のなかの幕府と薩長」を読む。	

12	市川 理恵	【第 12 回】 予習：岩倉使節団について調べる。 授業：明治維新と文明開化 復習：教科書の「明治維新と文明開化」を読む。							
13	市川 理恵	【第 13 回】 予習：江華島事件について調べる。 授業：朝鮮半島情勢と日本の領土確定 復習：教科書の「朝鮮半島情勢と日本の領土確定」を読む。							
14	市川 理恵	【第 14 回】 予習：大久保利通について調べる。 授業：殖産興業 復習：教科書の「殖産興業」を読む。							
15	市川 理恵	【第 15 回】 予習：教科書を一通り読む。 授業：鎌倉時代?明治時代までの文化交流の総括 復習：日本が海外から受容した文化、排除した文化について時代ごとにまとめておく。							
授業開始前学習		鎌倉時代から明治時代までの日本の歴史を学習しておくと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、「授業の感想・質問」を提出する。質問は次回の授業で回答する。							
テキスト・教材		授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験の結果（70%）と授業態度（30%）で評価を行う。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1011
科目名称	日本文化ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。	
2	石川 創	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。	
3	石川 創	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	石川 創	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	石川 創	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	石川 創	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	石川 創	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	石川 創	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	石川 創	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	石川 創	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	石川 創	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	石川 創	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	石川 創	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	石川 創	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	石川 創	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 % により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1012
科目名称	日本文化ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。	
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。	
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	皆川 義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	皆川 義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	皆川 義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	皆川 義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1013
科目名称	日本文化ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村 良	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 良	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松村 良	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。	
2	松村 良	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。	
3	松村 良	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	松村 良	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	松村 良	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	松村 良	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	松村 良	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	松村 良	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	松村 良	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	松村 良	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	松村 良	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	松村 良	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	松村 良	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	松村 良	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	松村 良	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23		授業コード	FA1014	
科目名称	日本文化ゼミ I		単位数	1.0 単位	
英文名称	Japanese Culture Seminar I		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	山本 元隆		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	三田・山本		開講時期	3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	三田 誠司・山本 元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。			
2	三田 誠司・山本 元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。			
3	三田 誠司・山本 元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
4	三田 誠司・山本 元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
5	三田 誠司・山本 元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
6	三田 誠司・山本 元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
7	三田 誠司・山本 元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
8	三田 誠司・山本 元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
9	三田 誠司・山本 元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
10	三田 誠司・山本 元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
11	三田 誠司・山本 元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			

12	三田 誠司・山本 元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
13	三田 誠司・山本 元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
14	三田 誠司・山本 元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
15	三田 誠司・山本 元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。						
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。						
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1015
科目名称	日本文化ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：研究テーマの設定 復習：参考文献を収集する。	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：先行研究を整理する。	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表）	

		復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
12	木内 英実	【第12回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	木内 英実	【第13回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	木内 英実	【第14回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	木内 英実	【第15回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点10%、発表40%、レポート30%、テスト20%により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1021
科目名称	日本文化ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	石川 創	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	石川 創	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	石川 創	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	石川 創	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	石川 創	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	石川 創	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	石川 創	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	石川 創	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	石川 創	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	石川 創	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	石川 創	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	石川 創	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	石川 創	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	石川 創	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1022
科目名称	日本文化ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	皆川 義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	皆川 義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	皆川 義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	皆川 義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1023
科目名称	日本文化ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松村 良	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松村 良	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-617
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松村 良	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	松村 良	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	松村 良	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	松村 良	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	松村 良	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	松村 良	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	松村 良	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	松村 良	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	松村 良	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	松村 良	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	松村 良	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	松村 良	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	松村 良	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	松村 良	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	松村 良	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-23		授業コード	FA1024	
科目名称	日本文化ゼミⅡ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	山本 元隆		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	三田・山本		開講時期	3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。				
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	三田 誠司・山本 元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。			
2	三田 誠司・山本 元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。			
3	三田 誠司・山本 元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
4	三田 誠司・山本 元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
5	三田 誠司・山本 元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
6	三田 誠司・山本 元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
7	三田 誠司・山本 元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
8	三田 誠司・山本 元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
9	三田 誠司・山本 元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
10	三田 誠司・山本 元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			
11	三田 誠司・山本 元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。			

12	三田 誠司・山本 元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
13	三田 誠司・山本 元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
14	三田 誠司・山本 元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
15	三田 誠司・山本 元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。						
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。						
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-310-23	授業コード	FA1025
科目名称	日本文化ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	木内 英実	【第12回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	木内 英実	【第13回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	木内 英実	【第14回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	木内 英実	【第15回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点10%、発表40%、レポート30%、テスト20%により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅠ・Ⅱのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1031
科目名称	日本文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	石川 創	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	石川 創	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	石川 創	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	石川 創	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	石川 創	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	石川 創	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	石川 創	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	石川 創	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	石川 創	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	石川 創	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	石川 創	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
13	石川 創	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
14	石川 創	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
15	石川 創	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。						
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。						
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 % により評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1032
科目名称	日本文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	皆川 義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	皆川 義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	皆川 義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	皆川 義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1033
科目名称	日本文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	木内 英実	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	木内 英実	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	木内 英実	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	木内 英実	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1034
科目名称	日本文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本 元隆	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10	研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	山本 元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	山本 元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	山本 元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	山本 元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、今後の課題を考える。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1041
科目名称	日本文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石川 創	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石川 創	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石川 創	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	石川 創	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	石川 創	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	石川 創	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	石川 創	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	石川 創	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	石川 創	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	石川 創	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	石川 創	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	石川 創	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	石川 創	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	石川 創	【第12回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
13	石川 創	【第13回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
14	石川 創	【第14回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。						
15	石川 創	【第15回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。						
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。						
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点10%、発表40%、レポート（ゼミ論文）30%、テスト20%により評価する。						
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成	社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成	日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成	日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	◎
関連科目								
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第1回～第2回）と資料輪読・研究発表（第3回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を1回行う予定である。交通費および入場料1000円程度の負担が必要となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間15時間（1時間×15週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1042
科目名称	日本文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	皆川 義孝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	皆川 義孝	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00	研究室	10-507
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	皆川 義孝	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	皆川 義孝	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	皆川 義孝	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	皆川 義孝	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	皆川 義孝	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	皆川 義孝	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	皆川 義孝	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート（ゼミ論文） 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1043
科目名称	日本文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木内 英実	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 英実	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-620
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 英実	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	木内 英実	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	木内 英実	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	木内 英実	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	木内 英実	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	木内 英実	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	木内 英実	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	木内 英実	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	木内 英実	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	木内 英実	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	木内 英実	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	木内 英実	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	木内 英実	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	木内 英実	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	木内 英実	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート（ゼミ論文） 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	111-310-24	授業コード	FA1044
科目名称	日本文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Japanese Culture Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山本 元隆	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山本 元隆	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10	研究室	10-506
授業概要	日本文化の特徴について考察するための研究テーマを自ら設定し、主体的に調査・研究を深め、独自性のある研究成果をまとめていく。また、ゼミごとに、①歴史、②信仰・風習、③文学、④言語、それぞれの学問分野の視点から日本文化の特徴を考える。授業では発表を行う。		
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報を、適切に収集することができる。 ・収集した情報を正確に理解し、問題点を客観的に分析して、自分の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した自分の考えをまとめ、発表やレポートなどを通して他者に正しく伝達することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山本 元隆	【第 1 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：文献リストの作成 復習：文献リストを更新する。	
2	山本 元隆	【第 2 回】 予習：自らの研究発表に向けての準備を行う。 授業：先行研究の整理 復習：先行研究の整理を更新する。	
3	山本 元隆	【第 3 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
4	山本 元隆	【第 4 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
5	山本 元隆	【第 5 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
6	山本 元隆	【第 6 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
7	山本 元隆	【第 7 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
8	山本 元隆	【第 8 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：資料輪読および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
9	山本 元隆	【第 9 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
10	山本 元隆	【第 10 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	
11	山本 元隆	【第 11 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。	

12	山本 元隆	【第 12 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
13	山本 元隆	【第 13 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
14	山本 元隆	【第 14 回】 予習：発表者担当は発表用レジュメを作成し、他の受講生はテーマに関連する事項について調査しておく。 授業：研究発表および質疑応答（発表） 復習：学生の発表内容を振り返り、質問・アドバイスをまとめたメモを作成する。							
15	山本 元隆	【第 15 回】 予習：輪読資料を振り返る。 授業：輪読資料から考える日本の文化 復習：研究発表を振り返り、ゼミ論文をまとめる。							
授業開始前学習		各自の研究テーマについての関連文献を読むなどの準備学習を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表者の発表内容については、授業時および授業終了後に適宜指導を行う。質問・アドバイスをまとめた受講生のメモに対しては、授業担当教員より適宜コメントを行う。							
テキスト・教材		日本文化専攻作成のオリジナル共通テキストを使用する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 1 0 %、発表 4 0 %、レポート（ゼミ論文） 3 0 %、テスト 2 0 %により評価する。							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	◎
関連科目									
その他		・「各回の授業内容」は準備段階（第 1 回～第 2 回）と資料輪読・研究発表（第 3 回以降）とに分かれる。履修人数などに応じて、準備段階の回数を増やし、資料輪読・研究発表の回数を減らす場合がある。 ・日本文化ゼミⅢ・Ⅳのいずれかで正課学外活動（首都圏の博物館や史跡等の見学）を 1 回行う予定である。交通費および入場料 1000 円程度の負担が必要となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

卒業論文

科目分類	111-330-24				授業コード	FA9901			
科目名称	卒業論文				単位数	4.0 単位			
英文名称	Graduation Thesis				授業区分				
科目責任者	石川 創				必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	石川 創				開講時期	4 年			
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10				研究室	10-510			
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。								
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。								
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数			1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者	授業の内容							
1	石川 創	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。 ・9 月の所定の期間に、卒業論文の題目を報告しなければならない。 ・前期終了時点で卒業論文の執筆を辞退する場合は、後期履修登録期間に登録を削除すること。 ・12 月中には 8 割程度以上まで完成させた卒業論文を主査（指導担当教員）に確認してもらい、指導終了認印が押された「卒業論文提出票」を受け取ること。主査より認印のある「卒業論文提出票」がもらえない場合、卒業論文は提出できない。 ・1 月上旬の指定された日時に、『履修ガイド』の執筆要領・体裁に基づいた卒業論文を、認印のある「卒業論文提出票」を添えて教務課窓口提出すること。							
授業開始前学習		指導担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		指導担当教員と相談すること。							
参考書		指導担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20％） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20％） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20％） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20％） ・構成・分量・書式が適切である（10％） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10％）							
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						○	◎	○	◎
関連科目		日本文化専攻のすべての専門教育科目							
その他		・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		111-330-24				授業コード		FA9903									
科目名称		卒業論文				単位数		4.0 単位									
英文名称		Graduation Thesis				授業区分											
科目責任者		皆川 義孝				必修・選択		履修ガイド参照									
担当教員		皆川 義孝				開講時期		4 年									
オフィスアワー		前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00				研究室		10-507									
授業概要		日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。															
到達目標		・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。															
アクティブ・ラーニング型授業		有		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態									
授業回数	担当者	授業の内容															
1	皆川 義孝	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。 ・9 月の所定の期間に、卒業論文の題目を報告しなければならない。 ・前期終了時点で卒業論文の執筆を辞退する場合は、後期履修登録期間に登録を削除すること。 ・12 月中には 8 割程度以上まで完成させた卒業論文を主査（指導担当教員）に確認してもらい、指導終了認印が押された「卒業論文提出票」を受け取ること。主査より認印のある「卒業論文提出票」がもらえない場合、卒業論文は提出できない。 ・1 月上旬の指定された日時に、『履修ガイド』の執筆要領・体裁に基づいた卒業論文を、認印のある「卒業論文提出票」を添えて教務課窓口に提出すること。															
授業開始前学習		指導担当教員と相談すること。															
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は指導担当教員に進捗状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。															
テキスト・教材		指導担当教員と相談すること。															
参考書		指導担当教員と相談すること。															
評価の基準と方法		主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20%） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20%） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20%） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20%） ・構成・分量・書式が適切である（10%） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10%）															
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当										○		◎		○		◎	
関連科目		日本文化専攻のすべての専門教育科目															
その他		・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。															
予習・復習の所要時間																	
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	111-330-24			授業コード	FA9904			
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位			
英文名称	Graduation Thesis			授業区分				
科目責任者	山本 元隆			必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	山本 元隆			開講時期	4 年			
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10			研究室	10-506			
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。							
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。							
アクティブ・ラーニング型授業	有		全授業回数	1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者	授業の内容						
1	山本 元隆	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。 ・9 月の所定の期間に、卒業論文の題目を報告しなければならない。 ・前期終了時点で卒業論文の執筆を辞退する場合は、後期履修登録期間に登録を削除すること。 ・12 月中には 8 割程度以上まで完成させた卒業論文を主査（指導担当教員）に確認してもらい、指導終了認印が押された「卒業論文提出票」を受け取ること。主査より認印のある「卒業論文提出票」がもらえない場合、卒業論文は提出できない。 ・1 月上旬の指定された日時に、『履修ガイド』の執筆要領・体裁に基づいた卒業論文を、認印のある「卒業論文提出票」を添えて教務課窓口に提出すること。						
授業開始前学習	指導担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	指導担当教員と相談すること。							
参考書	指導担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20％） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20％） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20％） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20％） ・構成・分量・書式が適切である（10％） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10％）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎
関連科目	日本文化専攻のすべての専門教育科目							
その他	・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	111-330-24			授業コード	FA9905			
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位			
英文名称	Graduation Thesis			授業区分				
科目責任者	木内 英実			必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	木内 英実			開講時期	4 年			
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-620			
授業概要	日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを必ず取り上げ、①歴史学、②民俗学、③文学、④言語学といった学問手法を用いて、先行研究を踏まえた課題（目的）を設定し、原典資料の分析に基づき独自性のある研究成果（主張）を論文としてまとめる。日本文化専攻の卒業論文は、400 字詰め原稿用紙で 50 枚（20000 字）以上を要件とする。							
到達目標	・根拠として信憑性の高い情報（先行研究と原典資料）を、適切に収集・読解することができる。 ・収集・読解した情報を基に課題（目的）を明確化し、客観的な分析により独自の考えを論理的に構築することができる。 ・構築した独自の考え（主張）を、論文として相応しい文章で表現し、他者に正しく伝達することができる。							
アクティブ・ラーニング型授業	有		全授業回数	1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者	授業の内容						
1	木内 英実	日本文化専攻の卒業論文履修者は、別途配付する「卒業論文の執筆スケジュール」に沿って、各自で卒業論文の主査（指導担当教員）に相談して、執筆スケジュールを決定し、これに沿って随時必要な指導を受けなければならない。以下に「卒業論文の執筆スケジュール」の要点を列記する。 ・5 月末には「予定題目・目次案・概要（卒論の目的と方法）・参考文献一覧」を、8 月末（2～3 割程度以上）・10 月末（5～6 割程度以上）・12 月中旬（7～8 割程度以上）の各時期には執筆途中の卒業論文を、必ず指導担当教員に提出しなければならない。 ・9 月の所定の期間に、卒業論文の題目を報告しなければならない。 ・前期終了時点で卒業論文の執筆を辞退する場合は、後期履修登録期間に登録を削除すること。 ・12 月中には 8 割程度以上まで完成させた卒業論文を主査（指導担当教員）に確認してもらい、指導終了認印が押された「卒業論文提出票」を受け取ること。主査より認印のある「卒業論文提出票」がもらえない場合、卒業論文は提出できない。 ・1 月上旬の指定された日時に、『履修ガイド』の執筆要領・体裁に基づいた卒業論文を、認印のある「卒業論文提出票」を添えて教務課窓口に提出すること。						
授業開始前学習	指導担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は指導担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	指導担当教員と相談すること。							
参考書	指導担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（指導担当教員）と副査が、以下の基準で評価し採点する。 ・日本文化の特徴を考察するために相応しい研究テーマを設定している（20％） ・主題（目的）およびそれに対する結論（主張）が明瞭で、どちらにも独自性がある（20％） ・自己の主張を事実と根拠（原典資料）に基づき、客観的に論述している（20％） ・適切な先行研究を参照し、出典を明示している（20％） ・構成・分量・書式が適切である（10％） ・誤字脱字がなく、文章表現も適切である（10％）							
ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○	◎
関連科目	日本文化専攻のすべての専門教育科目							
その他	・『履修ガイド』に記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 ・日本文化専攻では、卒業論文を提出した者に対して、1 月中（予定）の所定の日時に、主査・副査を中心とした数名の日本文化専攻専任教員による口頭試問を実施する。公欠およびこれに相当する理由なく口頭試問を遅刻・欠席した場合、卒業論文の単位は認定しない。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

〈人間文化学類 人間関係専攻 専門教育科目〉

人間関係の基礎

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0011
科目名称	人間関係の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Basic Studies of Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。		
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー 1： 問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー 2： 本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1： 各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2： グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1： 文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2： 文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する	

10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1：「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク） 復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する							
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2： プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する							
12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1： クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する							
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2： 全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する							
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する							
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する							
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書		授業を通じて適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		受講取組みの積極性（55％）、課題提出物（45％）にもとづいて総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	○	△				
関連科目		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」							
その他		個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0012
科目名称	人間関係の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Basic Studies of Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。		
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする	
2	倉住 友恵	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査	
3	倉住 友恵	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー 1： 問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する	
4	倉住 友恵	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー 2： 本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる	
5	倉住 友恵	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する	
6	倉住 友恵	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1： 各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する	
7	倉住 友恵	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2： グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する	
8	倉住 友恵	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1： 文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる	
9	倉住 友恵	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2： 文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する	
10	倉住 友恵	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1： 「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク）	

		復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する							
11	倉住 友恵	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2： プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する							
12	倉住 友恵	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1： クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する							
13	倉住 友恵	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2： 全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する							
14	倉住 友恵	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する							
15	倉住 友恵	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する							
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書		授業を通じて適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		受講取組みの積極性（55％）、課題提出物（45％）にもとついて総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	○	△				
関連科目		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」							
その他		個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0013
科目名称	人間関係の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Basic Studies of Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	小菅 清香	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小菅 清香	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 13:00～16:10	研究室	10-702
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。		
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小菅 清香	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする	
2	小菅 清香	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査	
3	小菅 清香	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー 1： 問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する	
4	小菅 清香	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー 2： 本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる	
5	小菅 清香	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する	
6	小菅 清香	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1： 各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する	
7	小菅 清香	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2： グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する	
8	小菅 清香	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1： 文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる	
9	小菅 清香	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2： 文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する	
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1： 「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク）	

		復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する							
11	小菅 清香	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2： プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する							
12	小菅 清香	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1： クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する							
13	小菅 清香	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2： 全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する							
14	小菅 清香	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する							
15	小菅 清香	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する							
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書		授業を通じて適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		受講取組みの積極性（55％）、課題提出物（45％）にもとついて総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	○	△				
関連科目		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」							
その他		個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0014
科目名称	人間関係の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Basic Studies of Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」の学修成果を踏まえ、大学での学びに必要な基礎的スキルの定着を図るとともに、人間関係専攻における専門的な学術研究に向けて、それらのブラッシュアップに取り組む。専攻の学びについて理解を深め、学生相互および教員とのコミュニケーション・ネットワークを深耕し、3～4 年次に向けて各自の展望と目標を明確化してほしい。演習形式を基本とし、授業回に応じてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどに取り組んでもらう。		
到達目標	到達目標は、以下の 4 点である。 (1) 専攻の教員と友人を知る (2) 専攻の学びを理解し、各自が自身の今後 3 年間の学びをイメージできるようになる (3) 専攻のさまざまな専門分野の相違と連関を理解する (4) 専門知識の修得（インプット）の方法を知り（リサーチや文献読解の手法を学ぶ）、適切に自身の考えを表現（アウトプット）できるようになる（文章作成、ディスカッション、資料作成やプレゼンを学ぶ）		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：イントロダクション：人間関係専攻の学び【教科書第 1 章】（ディスカッション） 復習：卒業までの 3 年間の専攻の学びをイメージする	
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習：自己紹介を準備する 授業：クラス・ガイダンス：自己紹介およびインタビュー計画【教科書第 2 章】（プレゼンテーション） 復習：教員インタビュー事前調査	
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習：インタビューの質問内容と役割分担を整理する 授業：教員インタビュー 1： 問いを立てる【教科書第 3 章】（グループワーク） 復習：インタビュー結果をメモし、グループで共有する	
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習：前回インタビュー結果を踏まえ、さらに質問内容を精緻化する 授業：教員インタビュー 2： 本質を探る【教科書第 4 章】（グループワーク） 復習：インタビューの反省点と課題をまとめる	
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習：教科書第 5 章を読む 授業：ディスカッションの基礎知識【教科書第 5 章】 復習：ディスカッションにおける自分の強みと弱みを理解する	
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習：「コミュニケーションとは〇〇である」の〇〇に入る言葉とその根拠を考える 授業：コミュニケーションとは 1： 各専門分野の知見から学ぶ【教科書第 6 章】（ディスカッション） 復習：講義から得た気づきを整理する	
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習：前回講義とディスカッションの内容を整理、確認する 授業：コミュニケーションとは 2： グループで意見をまとめる【教科書第 7 章】（ディスカッション） 復習：講義とディスカッションから得た発見についてレポートを作成する	
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習：教員配布の資料を読む 授業：文献を読んで考える 1： 文章を読み、わからない語句や文章などをチェックする【教科書第 8 章】 復習：不明な用語や概念を調べる	
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習：文献を読んだうえで、自分の考えを整理し、ディスカッションに備える 授業：文献を読んで考える 2： 文献をもとにディスカッション【教科書第 9 章】（ディスカッション） 復習：文献を読んで考えたことについてレポートを作成する	
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習：10 年後の社会と自分をイメージする 授業：プレゼンテーション資料の作成 1： 「10 年後の〇〇」テーマとアウトラインの作成【教科書第 10 章】（グループワーク）	

		復習：グループで今後の作業計画を立て、共有する							
11	田澤 秀司	【第 11 回】 予習：グループ内の作業分担にしたがって、自身の作業を進めておく 授業：プレゼンテーション資料の作成 2： プレゼン資料の完成【教科書第 11 章】（グループワーク） 復習：プレゼン資料を見直し、情報の正確さ、誤字脱字等を確認する							
12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：プレゼンテーションに備え、事前練習する 授業：プレゼンテーションの実践 1： クラス内プレゼン【教科書第 12 章】（プレゼンテーション） 復習：聴衆からのフィードバックを活かし、プレゼン資料を見直し、修正する							
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：修正したプレゼン資料で再度練習する 授業：プレゼンテーションの実践 2： 全体プレゼン【教科書第 13 章】（プレゼンテーション） 復習：プレゼンを通して得た、今後の自身の課題を整理する							
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 1【教科書第 14 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する							
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章を読み、ゼミに関する質問を準備する 授業：専門ゼミ紹介 2・進級に向けて【教科書第 15 章】 復習：各教員を訪ね、ゼミに関する不明点を質問する。2 年次後期のスケジュールと課題を確認する							
授業開始前学習		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」教科書を復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		人間関係専攻編『人間関係の基礎』（駒沢女子大学教科書シリーズ）							
参考書		授業を通じて適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		受講取組みの積極性（55 %）、課題提出物（45 %）にもとついて総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	○	△				
関連科目		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」および「人間関係入門Ⅰ・Ⅱ」							
その他		個別クラスによる演習活動を基本とし、全体授業を数回実施する。主体的な取り組みと積極的な発言・質問が期待される。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-12 （ J ）			授業コード	FB0020
科目名称	化粧の文化史			単位数	2.0 単位
英文名称	History of Beauty			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40			研究室	10-701
授業概要	人類は原始時代から化粧をし続けている。人はなぜ化粧をするのか。特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか。各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか。こうした化粧の歴史を通じて、今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか。自分の美意識はどこから来たのか。これらを考えることがこの授業の目的である。 授業では、始めに、考える前提になる知識として、特定の時代と地域の化粧を学習する。その後で、なぜそうした美意識が生まれたのか、なぜそうした化粧になったのかを考える課題に取り組む。単純に知識伝授型の授業ではないので、その点誤解のないよう留意してほしい。 課題は、課題の出た回の授業だけでなく、それまでの授業全体を大きな視野でとらえる必要があり、授業や教材やインターネット等を調べるだけで解答の出るものではない。自身のさまざまな知識や能力を駆使して考えを深める性質の課題である。AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うことを目的とした課題である。 なお、この科目は、歴史上の時間が後期の「身体文化論Ⅱ /化粧文化論 b」に続いており、通史上の前半部分が学修範囲である。				
到達目標	①化粧の変遷と美意識の変遷について大きな流れを把握する。 ②歴史上の事柄といま自分が生きている社会を関連付けてとらえることで、自分がどのような美意識にとらわれ、どのような化粧行動をしているかを自覚し、問題を発見する。 ③節目節目で課題を出す、それは教科書やノートを復習すれば答えが見つかる、調べればすぐに答えが見つかるかなんてものは少ない。AI と共存する時代を生き抜くために、AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うような課題である。それゆえ、複数回の授業、他の科目、さらには自分で調べて得た情報などを総動員して、大きな視野で物事をとらえるような課題である。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：高校までの日本史（室町時代まで）の流れを簡単に復習 授業：科目の説明・履修上の諸注意（教科書頁 1?2,83?85）, 課題 1 復習：教科書 1?2 頁,83?85 頁の再読,課題の提出			
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：紫外線について自分で調べる 授業：紫外線の基礎知識（教科書頁 86?89） 復習：教科書 86?89 頁の再読・生活の中での紫外線の確認,課題の提出,課題 2			
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：「化粧とは何か」について自分で考え、調べておく 授業：「化粧とは何か」を法律・言葉の意味から考える（教科書頁 90?91）,課題 3 復習：教科書 90?91 頁の再読・家の中の化粧品・医薬部外品の確認,課題の提出			
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：世界各地に伝承されている化粧の風習と意味を調べる 授業：世界の民族化粧から化粧の意味を考え、「人はなぜ化粧をするか」のまとめ（教科書頁 9?10,91）,課題 4 復習：教科書 9?10 頁,91 頁の再読・自分はなぜ化粧をするか考える,課題の提出			
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：高校までの歴史（4 大文明）の復習 授業：化粧の起源・4 大文明の化粧（教科書頁 27?34,92） 復習：教科書 27?34 頁,92 頁の再読・4 大文明での化粧の意味の確認,課題の提出,課題 5			
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：高校までの日本史（縄文・弥生時代）の復習 授業：原始の化粧（縄文時代・弥生時代）（教科書頁 35?37,93?94）,課題 6 復習：教科書 35?37 頁,93?94 頁の再読・縄文時代と弥生時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出			
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：高校までの日本史（古墳時代）の復習 授業：古代の化粧：古墳時代（教科書頁 95?96）,課題 7 復習：教科書 95?96 頁の再読・古墳時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出			

8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 : 高校までの日本史（飛鳥・奈良・平安初期と当時の文化）の復習 授業 : 古代の化粧 : 飛鳥・奈良・平安初期（教科書頁 38?42,54?55,97?100）,課題 8 復習 : 教科書 38?42 頁,54?55 頁,97?100 頁の再読・飛鳥時代?平安時代初期の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出															
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習 : 高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業 : 古代の化粧 : 平安中期?後期の貴族男性の暮らし（教科書頁 101?102）,課題 9 復習 : 教科書 101?102 頁の再読,課題の提出															
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 : 高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業 : 古代の化粧 : 平安中期?後期の貴族女性の暮らし（教科書頁 101?102）,課題 10 復習 : 教科書 101?102 頁の再読,課題の提出															
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習 : 高校までの日本史（平氏の政権と源平の戦い）の復習 授業 : 古代の化粧 : 平安中期?後期の貴族と武士の化粧（教科書頁 45?46,56?62,65?67,103?105）,課題 11 復習 : 教科書 45?46 頁,56?62 頁,65?67 頁,103?105 頁の再読・貴族と武士の化粧の意味と美意識の確認,課題の提出															
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習 : 高校までの日本史（鎌倉・室町時代と当時の文化）の復習 授業 : 中世の化粧 : 鎌倉・室町・戦国時代の女性の化粧(教科書頁 106?107) ,課題 12 復習 : 教科書 106?107 頁の再読・中世の女性の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出															
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習 : 高校までの日本史（鎌倉?室町時代と当時の文化）の復習 授業 : 中世の化粧 : 鎌倉・南北朝時代の男性の化粧（教科書頁 68?69,107?108）,課題 13 復習 : 教科書 68?69 頁,107?108 頁の再読・中世の武士の美意識と化粧の意味の確認, 課題の提出															
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習 : 高校までの日本史（北山文化と東山文化）の復習 授業 : 中世の化粧 : 香道（教科書頁 69?71,109?111,119）,課題 14 復習 : 教科書 69?71 頁,109?111 頁,119 頁の再読・世界の化粧文化の中の香道の特徴の確認,課題の提出															
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習 : 高校までの西洋史（古代ギリシャ?ルネッサンス）の流れの復習 授業 : 比較としての世界の化粧（西洋の化粧）（教科書頁 112?116）,課題 15 復習 : これまでの授業全体の振り返り,課題の提出															
授業開始前学習		中学校程度の歴史（日本と世界）の復習															
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で出た課題については出期限の後の授業の中で解説する。															
テキスト・教材		石田かおり『化粧の文化史』駒沢女子大学教科書シリーズ															
参考書		久下司『化粧』法政大学出版局, 石田かおり『おしゃれの哲学』理想社,高橋雅夫『化粧ものがたり』雄山閣,他は授業中に案内する															
評価の基準と方法		出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価をする。各課題の配点は授業の中で案内する。なお課題は、特別な事情がない限り提出期限を守らない場合は 0 点とする。															
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当				○						◎		△					
関連科目		【重要】後期の「化粧文化論Ⅱ/化粧文化論 b」と人間関係ゼミ a（石田ゼミ）の前提となる内容である。そのため石田ゼミ希望者は 2 年次に履修を終えておく必要がある。 そのほかに内容が密接な科目は、人間関係ゼミ a,和装の文化論Ⅰ・Ⅱ,服装の美意識Ⅰ・Ⅱ															
その他		●人間関係専攻 2 年生は必修科目だが、「化粧文化論Ⅱ」とともに石田ゼミの前提科目であるため、とくに専門ゼミ希望届の第四希望までに石田ゼミを記入する可能性がある人は 2 年時に履修することが重要である。 ●「化粧文化論 b」の前提になる内容のため、「化粧文化論 b」を履修する前にこの科目を履修することが望ましい。（先に「化粧文化論 b」を履修すると内容の時間軸が逆行する）															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		化粧品企業と美容関係の社団法人の研究開発・広報活動・人材育成などの経験もいかした研究内容を基に授業を実施。															

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0030
科目名称	コミュニケーションの心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Communication	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	人はコミュニケーションを通じて仲間や恋人を得て、対人関係を形成していく。通常、円滑なコミュニケーションが取れることは望ましく、時には場面に応じた戦略的なコミュニケーションを使用することがビジネスの場面などで有利にはたらく。本授業では、心理学の観点からコミュニケーションの種類や機能、発達について紹介し、ソーシャルスキルトレーニングなどの人と関わるための実践的スキルについても学ぶ。また SNS の普及を受け、CMC（コンピュータ・メディア・コミュニケーション）についても紹介する。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1. コミュニケーションの種類と各機能について説明できる 2. コミュニケーションを取るうえで重要な点を理解し、場面や相手に応じた適切なコミュニケーションを取ることができる 3. コミュニケーションの発達と障害について説明できる 5. SNS 上でのコミュニケーションの特徴と問題点は何か説明できる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習 : シラバスに目を通す、得意・不得意なコミュニケーションについて考える 授業 : オリエンテーション、コミュニケーションとは 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
2	倉住 友恵	予習 : 人は何歳から他者とコミュニケーションができるか考えてみる 授業 : コミュニケーションの発達 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
3	倉住 友恵	予習 : コミュニケーションにおいて最も重要な要素は何か考える 授業 : コミュニケーションの種類、印象形成、非言語的コミュニケーション①ジェスチャー 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
4	倉住 友恵	予習 : 人にされると不快な「しぐさ」とは何か考えてみる 授業 : 非言語的コミュニケーション②しぐさ、表情（グループワーク） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
5	倉住 友恵	予習 : 普段どのような席に着席することが多いのか考えてみる 授業 : 非言語的コミュニケーション③パーソナルスペース、着席行動 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
6	倉住 友恵	予習 : 誰かと触れ合うことがもたらす感情について考える 授業 : 非言語的コミュニケーション④身体接触、色と物理的空間 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
7	倉住 友恵	予習 : 化粧がもたらす心理的影響について考えてみる 授業 : 非言語的コミュニケーション⑤化粧や装い 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
8	倉住 友恵	予習 : 「声色」とは何か調べる 授業 : パラ言語によるコミュニケーション（グループワーク） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
9	倉住 友恵	予習 : どのように話せば人を説得することができるか考える 授業 : 言語的コミュニケーション、説得する、説得技法（ペアワーク） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
10	倉住 友恵	予習 : コミュニケーションに関する障害について調べる 授業 : コミュニケーションの障害、自閉スペクトラム症、吃音、緘黙 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
11	倉住 友恵	予習 : 普段使用している SNS でどのような対人トラブルが生じているか考える 授業 : CMC（コンピュータ・メディア・コミュニケーション）、SNS の特徴と弊害 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
12	倉住 友恵	予習 : 聞き上手な人の特徴を考える 授業 : ソーシャルスキルトレーニング① 聞き上手になる、アクティブラーニング（グループワーク） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
13	倉住 友恵	予習 : 主張が上手な人の特徴を考える 授業 : ソーシャルスキルトレーニング③ 自分の意見を言う（アサーション）、I メッセージ、DESC 法（ペアワーク） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる	

14	倉住 友恵	予習 : これまでの授業を振り返り自分の得意な・苦手なコミュニケーションを考える 授業 : 身に着けたコミュニケーションスキルを実践する、コンセンサス法 (グループワーク) 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、まとめる							
15	倉住 友恵	予習 : すべての授業を振り返り、不明点を挙げておく 授業 : これまでの授業内容のまとめ 復習 : すべての授業を振り返り、まとめる							
授業開始前学習		対人心理学, 社会心理学に関する書籍を読むことが授業理解の一助となる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業課題は目を通したうえで、翌週以降に返却する。 Google フォームなどで質問を受け付けた場合には、翌週授業内で回答する。							
テキスト・教材		特に定めない。							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業への取り組み 60%、学期末試験 40%として評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	◎		○			
関連科目		心理学に関連する諸科目							
その他		知的好奇心をもち、積極的に授業参加することを望む。 グループワークの時間を設ける回が複数あるため、協力し合う姿勢をもち、自分から相手へ話しかけることを心がけてほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0040
科目名称	コミュニケーションの社会学	単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology of Communication	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	私たちは、たえず誰かと繋がり、一日中、コミュニケーションをやめることはない。そして現在、社会のいたるところで「コミュニケーション能力」の必要性が唱えられている。ではそもそも「コミュニケーション」とは何か。この社会はいかにして「コミュニケーション」を重視することになったのか。本講義ではこれらの問いを社会的に考察するために、コミュニケーションに関する社会学理論の基礎を学ぶ。		
到達目標	到達目標は、コミュニケーションを捉えるための相対的な視座を獲得し、必要な社会学理論を理解することである。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：シラバスおよび教科書目次に目を通す 授業：諸注意事項：授業目的・授業内容の確認、授業の進め方等 復習：「コミュニケーション能力」について考える	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：教科書 pp.3-11 の講読 授業：コミュニケーションと社会学①：なぜ「社会学」にとって「コミュニケーション」論は重要か（教科書 pp.3-11） 復習：3 人の学者のコミュニケーションへのアプローチの相違を確認する	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：教科書 pp.11-16 の講読 授業：コミュニケーションと社会学②：なぜ「コミュニケーション」論にとって「社会学」は重要か（教科書 pp.11-16） 復習：記号論と社会的コミュニケーションの相違を確認する	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：教科書 pp.16-21 の講読 授業：コミュニケーションと社会学③：現代のコミュニケーションはどうなっているか（教科書 pp.16-21） 復習：マス・コミュニケーション論の主要概念を確認する	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：教科書 pp.24-26 の講読 授業：「やさしさコミュニケーション」（奥村）とは（教科書 pp.24-26） 復習：「やさしさコミュニケーション」の事例を考える	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：教科書 pp.26-28 の講読 授業：ハーバーマス①：コミュニケーションと権力（教科書 pp.26-28） 復習：権力とコミュニケーションの違いを考える	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：教科書 pp.28-32 の講読 授業：ハーバーマス②：生活世界とシステム（教科書 pp.28-32） 復習：生活世界の植民地化の事例を考える	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：教科書 pp.32-37 の講読 授業：ジンメルとハーバーマスとの違いを確認する 復習：ジンメルとハーバーマスとの違いを確認する	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：教科書 pp.37-39 の講読 授業：ゴッスマンの相互行為論①：儀礼と演技（教科書 pp.37-39） 復習：儀礼と演技の機能を確認する	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：教科書 pp.39-42 の講読 授業：ゴッスマンの相互行為論②：自己と役割（教科書 pp.39-42） 復習：自分自身の役割について考える	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：教科書 pp.46-49 の講読 授業：ミードの自己論①：自己とは（教科書 pp.46-49）	

		復習：自己意識の発生について確認する							
12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：教科書 49-52 の講読 授業：ミードの自己論②：I と me（教科書 49-52） 復習：自分自身を振り返り、I と me の事例を考える							
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：教科書 pp.52-57 の講読 授業：ペイトソンのダブルバインド論（教科書 pp.52-57） 復習：非対称なコミュニケーションの可能性を考える							
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：教科書 pp.58-65 の講読 授業：ルーマンのコミュニケーション論（教科書 pp.58-65） 復習：接続としてのコミュニケーションにおける不安を考える							
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：6 人の学者の理論を復習する 授業：これまでの総括 復習：課題レポートを作成する							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		課題は Google フォームで課し、翌回の授業で、課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材		長谷正人・奥村隆編，2009，『コミュニケーションの社会学』有斐閣.							
参考書		授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法		授業への積極的参加（授業内課題を含む、60％）＋最終課題レポート（40％） ※単位の修得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 ※詳細については、初回授業で説明する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にいかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎		○	△		
関連科目		「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は、社会学の基礎を学ぶ科目である。							
その他		・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者数や講義の進捗状況、社会情勢等の都合から変更する場合もある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-12	授業コード	FB0050
科目名称	現代社会の論点	単位数	2.0 単位
英文名称	Issues in Contemporary Society	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	若者世代をとりまく社会環境について近年の論評やメディア情報をいくつか取り上げ、論点や問題提起を整理しながら解説するとともに、受講者間で議論・検討を行います。皆さん自身が日常生活のなかで身近に接している経験や社会的現象を手がかりに、そこから、「社会について考察する」という学術的思考へと展開する方法を実践的に習得してもらうことを目指します。		
到達目標	読むこと（精確な理解） 考えること（論理的思考・ロジカルシンキング） 話すこと（対話的コミュニケーション） の3つのスキルを高めることが具体的な学修目標です。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第1回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション（ディスカッション） 復習：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。	
2	榎本 環	【第2回】 予習：第1回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業：論理トレーニング 復習：授業で紹介する例題問題に取り組んでください。	
3	榎本 環	【第3回】 予習：「公共性」の概念についてリサーチしてください。 授業：規範・道徳・公共性（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
4	榎本 環	【第4回】 予習：いくつかの高校の校則の事例について情報収集してください。 授業：教育 1 ——校則と自由（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
5	榎本 環	【第5回】 予習：『下流志向』（内田樹、2007）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください（インターネット等で（以下同様））。 授業：教育 2 ——学びからの逃走（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
6	榎本 環	【第6回】 予習：『コミュニケーション不全症候群』（中島梓、1995）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：「仲間以外はみな風景」（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
7	榎本 環	【第7回】 予習：『友だち地獄』（土井隆義、2008）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：窒息する友人関係（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
8	榎本 環	【第8回】 予習：『オレ様化する子どもたち』（諏訪哲二、2005）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：自分らしさと個性（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	

9	榎本 環	【第9回】 予習：「自由」とは何か、その概念にはどのようなバリエーションがあるかについてリサーチしてください。 授業：社会への帰属と自由（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
10	榎本 環	【第10回】 予習：幸福の条件について自己イメージをまとめてください。 授業：幸福について 1 —— 選択と幸福（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
11	榎本 環	【第11回】 予習：「幸福」とは何か、その概念にはどのようなバリエーションがあるかについてリサーチしてください。 授業：幸福について 2 —— 自由と幸福（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
12	榎本 環	【第12回】 予習：就職活動に求められる準備検討作業についてリサーチしてください。 授業：キャリア形成とグローバリズム（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
13	榎本 環	【第13回】 予習：日本の生活保護の仕組みについてリサーチしてください。 授業：社会保障とコスト（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
14	榎本 環	【第14回】 予習：晩婚化・未婚化現象についてリサーチしてください。 授業：家族機能の変容（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
15	榎本 環	【第15回】 予習：全回の内容を総復習し、不明点・疑問点を整理してください。 授業：総括討論（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。							
授業開始前学習		まさに皆さん自身の日頃の生活体験と問題関心が事前学習の起点となります。視野を広げ、社会問題や若者文化に関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。							
授業内課題のフィードバックの方法		Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。							
テキスト・教材		とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。							
参考書		授業を通じて随時、指示します。							
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性）（60 %）、期末レポート（40 %）により評価します。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			○		◎		△
関連科目		「社会学Ⅱ」で紹介される概念や視座は内容理解に役立つと思います。							
その他		毎回、授業の後半に意見交換・ディスカッションの時間を設ける予定です。積極的な参加と発言を期待します。受講者諸姉の生活実感や柔軟な発想から、私自身も大いに学びたいと考えています。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆国際社会の論点／国際社会への誘い

科目分類	112-310-12			授業コード	FB0060
科目名称	☆国際社会の論点／国際社会への誘い			単位数	2.0 単位
英文名称	Issues in International Society／Invitation to the International Society			授業区分	講義
科目責任者	臼井 実稲子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実稲子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10			研究室	10-705
授業概要	テーマ：21 世紀の安全保障を担う機構・国家について考える。 内容：主として、「戦争と平和の歴史Ⅰ・Ⅱ」で見てきた 2 0 世紀の歴史を踏まえつつ、冷戦後から現在に至る国際社会を概観する。 なかでも、国際安全保障を担う国家、国際機構を分析する。とくに、国際連合（UN）北大西洋条約機構（NATO）,欧州連合（EU）が担う国際安全保障について考える。その上で、国際安全保障における日本の責任について考える。 同時に、国際問題への履修者の関心を喚起するため、随時、現在生じている戦争・紛争をはじめとする種々の国際ニュースを取り上げ、分析を行う。				
到達目標	（１）冷戦後の国際関係の流れを説明することができるようになる。 （２）現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析することができるようになる。 （３）伝統的安全保障・人間の安全保障など幅広い安全保障の概念を理解する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	臼井 実稲子	【第 1 回】 予習 シラバスを読む 授業 イントロダクション 国際安全保障を保証する 復習 授業内容についてまとめる			
2	臼井 実稲子	【第 2 回】 予習 冷戦について確認 授業 冷戦・冷戦後の世界を知る 復習 授業内容をまとめる			
3	臼井 実稲子	【第 3 回】 予習 湾岸戦争について確認 授業 湾岸戦争を知る 復習 授業の内容をまとめる			
4	臼井 実稲子	【第 4 回】 予習 国連システムと PKO について確認 授業 国連と国際安全保障 国連 PKO の変容 復習 授業内容をまとめる			
5	臼井 実稲子	【第 5 回】 予習 9． 1 1 米国同時多発テロ事件について確認 授業 テロとの戦い（１） 復習 授業内容をまとめる			
6	臼井 実稲子	【第 6 回】 予習 世界各地のテロ行為について確認 授業 テロとの戦い（２） 復習 授業内容をまとめる			
7	臼井 実稲子	【第 7 回】 予習 パレスチナ・イスラエルについて確認 授業 パレスチナ問題を読み解く 復習 授業内容をまとめる			
8	臼井 実稲子	【第 8 回】 予習 オバマ大統領 プラハ演説について確認 授業 核無き世界は幻想か（１） 復習 授業内容をまとめる			
9	臼井 実稲子	【第 9 回】 予習 NPT について確認 授業 核無き世界は幻想か（２）			

[illegible]

科目分類	112-310-12 (J)			授業コード	FB0070
科目名称	企画と表現			単位数	2.0 単位
英文名称	Planning and Expression			授業区分	講義
科目責任者	田澤 秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【私の日常を編集する】 ウェブを使って誰もが情報を発信できる現代では、歴史のなかで形づくられてきた編集の概念が変化しつつある。自分の日常を編集したり、イベントやプロジェクトを編集したりするなど、広範囲に展開するようになった編集の未来を考える。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。				
到達目標	社会に出ると、自分なりの解き方で答えを導き、誰にでも理解できる言葉で、論理的に説明することが求められる。個人やグループで、商品、イベント、プロジェクトなどの企画と発表を行い、「考え抜く力」を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習 : 「未来」について調べる 授業 : 企画と表現「みなさんは、どんな未来を生きるのか」 復習 : プロジェクトの例から 1 つを選んでレポートにまとめる			
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習 : 「企画」について調べる 授業 : 企画と表現「企画をたて、人をあつめ、ものをつくる」 復習 : プロジェクトの例から 1 つを選んでレポートにまとめる			
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習 : 「自分の日常」を記録する 授業 : プロジェクト「私の日常／アイデア」1 復習 : アイデアを文章にする			
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習 : アイデアを視覚化する 授業 : プロジェクト「私の日常／アイデア」2 復習 : アイデアをデータ化する			
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習 : 企画書にまとめる 授業 : プロジェクト「私の日常／企画書」 復習 : 企画書を仕上げる			
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習 : 発表の準備をする 授業 : 発表と質疑応答（発表） 復習 : 意見を参考に企画書を仕上げ、提出する			
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習 : 「ベストセラー商品」を具体的に調べる 授業 : 商品、イベント「2023 年夏発売／アイデア」1 復習 : アイデアを文章にする			
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習 : アイデアを視覚化する 授業 : 商品、イベント「2023 年夏発売／アイデア」2 復習 : アイデアをデータ化する			
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習 : 企画書にまとめる 授業 : 商品、イベント「2023 年夏発売／企画書」 復習 : 企画書を仕上げる			
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 : 発表の準備をする 授業 : 発表と質疑応答（発表） 復習 : 意見を参考に企画書を仕上げ、提出する			
11	田澤 秀司	【第 11 回】 予習 : 「未来の“なにか”」について具体的に調べる 授業 : 商品、イベント「10 年後の未来／アイデア」1			

		復習：アイデアを文章にする							
12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：アイデアを視覚化する 授業：商品、イベント「10 年後の未来／アイデア」2 復習：アイデアをデータ化する							
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：企画書にまとめる 授業：商品、イベント「10 年後の未来／企画書」 復習：企画書を仕上げる							
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：発表の準備をする 授業：発表と質疑応答（発表） 復習：意見を参考に企画書を仕上げ、提出する							
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：自分の将来を考える 授業：プロジェクト「私の予定表」 復習：「私の予定表」を仕上げ、提出する							
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		出席確認で個別に回答し、発表で総括する。							
テキスト・教材		授業で適宜、配布する。							
参考書		授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にいかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	△		○	◎
関連科目		後期の「表現活動とメディア／表現活動とビジネス」を学ぶことで、「考え抜く力、チームで働く力」がバランスよく身につく。							
その他		課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版」で“教育する”という取り組みを実践している。							

科目分類	112-330-12 (J)	授業コード	FB0211
科目名称	身体文化論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Body Theory I	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	この授業では、化粧のおもな目的である外見的価値について徹底的に「哲学的思考」と「哲学対話」を実施する。知識や答えのある問題の解決法を「伝授」する授業ではない。そもそも問題を見つけることから始めて、問い続け、考え続けることの連続で、結論を出すことは敢えてしない。AI と共存する時代は、知識獲得や速く正解に速くたどり着くことは AI の仕事で、人間は AI が不得手なこと、すなわち問題を発見する力、考え続ける力、考えを洗練させる力がないと生き残れないからである。 ① 日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。 ② 発見した問題を言語化する。 ③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。 これら 3 つの作業を 15 回続ける覚悟がある学生には向いている。反対に、調べて答えを見つけてスッキリしたい、結論を性急に求めて教員の解釈を早く聞きたい、教員から毎回新たなノウハウを伝授してほしいという学生は期待を裏切られる。 グループワークが 15 回の過半数を占めるため、欠席するとグループメンバーに迷惑がかかることから。全回出席が当然の授業であることも留意が必要だ。		
到達目標	① 日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。 ② 発見した問題を言語化する。 ③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容	
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 : 西洋哲学の歴史を高校倫理の教科書や参考書で復習したり、書物から概要を掴む 授業 : 授業の進め方と心構え、哲学の流れと理論についての説明 復習 : 授業で聞いた教科書ページとノートの再読	
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 : 西洋哲学の歴史の中から自分に合っていると思われる理論を選んでそれを使って毎日の出来事を分析する 授業 : 私たちはどのように人を把握するのか 復習 : 授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める	
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 : 前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める 授業 : 服装・髪型・化粧の意味について考える 復習 : 授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める	
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 : 前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(1) 各自の考えを基にした全員での考察 復習 : 授業で聞いたさまざまな発言を思い出し、それらを予習で選んだ哲学理論を使って分析してみる	
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 : 前回の授業で他の履修者の発言を聞いて自分が考えたことを思い出して記すことで授業を受けるためのメモを作る 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(2) 背景の深堀を全員で実施 復習 : 授業中に出された課題を行いながら「なぜ」を考え続け、気づいたことがあればメモしておく	
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習 : 前回の授業課題を実施して自分が考えたことを見直して、社会背景からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(3) 前回の課題となった社会の時代的背景を発表し、それに基づく全員での考察 復習 : 現在の社会の特質と現在の美容を結び付けて考え、気づいたことがあればメモしておく	
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 : 人の社会的立場づけと人の外見との関わりについて、これまで自分が見聞きしてきたことを思い出してメモしておく 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(4) 人の社会的立場づけと人の外見との関わりについて全員で考察 復習 : 授業で出された課題を実施し自分が考えたことを見直して、女性の社会的状況からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく	
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 : 近代社会（その延長の現代社会も含む）にはどのような社会的原理が働いているのか、近代人や現代人は社会から何が求められているのかを考え、調べ、メモしておく 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(5) 近代原理が求める人間とはどのようなものか、そこに問題はないかについて全員で考える 復習 : 授業を通じて気づいた近現代社会の問題点を洗い出してメモしておく	

9	石田 かおり	【第 9 回】 予習 : 前回の授業で気づいた問題点はないか、あるならどのような解決策か、これらについて考えて、結果だけでなく考える過程もメモしておく 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(6) 近代原理が求める人間像の由来と問題点の解説 復習 : 授業聞いて気付いたこと・発見したこと視点から日常生活を送り、気付いたことをメモしておく						
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 : 日常生活の中で近代原理に由来するものを洗い出す 授業 : いま世界を席巻しつつある最大の美容について考える 復習 : 授業で考えた美容がなぜ世界を覆うようになったのかをこれまでの授業を基に考える						
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習 : 前回の授業の内容をしっかりと復習する 授業 : 前回の美容と近代原理の関係について考える 復習 : 近代原理に由来する美の価値を毎日の生活の中で意識する						
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習 : 前回の授業の内容をしっかりと復習する 授業 : 問題解決策としての美的価値観の提案例「スロービューティー」についての説明 復習 : 授業で聞いた解決策のほか解決策がないか考えて、考えた結果だけでなく過程もメモしておく						
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習 : 自分が考えた解決策を披露できるよう準備しておく 授業 : 授業で取り上げた問題のほかにも近代原理に由来する問題がほかにもないかグループワークを通じて考える 復習 : 授業で聞いた他の人の考えを振り返り、自分の考えを広め深める						
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習 : 前回の内容を復習する 授業 : どんな社会をめざせばよいかグループワークを通じて討論する 復習 : 授業で考えた社会が実現するために自分にできることを考えて実行に移す						
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習 : これまでの授業全体を振り返る 授業 : これまでの授業全体を振り返り、未来を生きるために必要なことと未来の社会のありかたについて全員で話し合っ考える 復習 : 授業で考えたことを反映してレポートにして提出する						
授業開始前学習		①化粧・美容の流行や傾向と、現在進行形で世の中が進んでいる方向を把握する。 ②①の背にある人々の意識や社会のあり方に関心を持ち、ニュースを解説した専門家のコメントや書物、新聞など多様な情報源から得た情報を使って自分で考える。						
授業内課題のフィードバックの方法		ほとんど毎時間、学生間で、学生と教員間で、討論をしながら授業を進める。それゆえ毎回授業の中でフィードバックが繰り返されることになる。 グループワークを実施する予定であるが、新型コロナウイルス等の感染状況によって変更の可能性はある。						
テキスト・教材		なし						
参考書		竹内一郎『人は見た目が 9 割』,新潮社,2005 年 そのほか討論の過程で必要なものがあればその都度授業内で紹介する。						
評価の基準と方法		全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提に、討論への参加度（発表）50%,レポート 50%。レポート提出は期日厳守で、遅れたらレポート点は 0 点になる。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			○	◎			
関連科目	人間関係入門Ⅱの石田の講義部分、人間関係ゼミ a（石田ゼミ）							
その他	【重要な注意事項】 グループワークが 15 回の過半数を占めるため、欠席するとグループメンバーに迷惑がかかることから。全回出席が当然の授業であることも留意が必要である。 この授業は哲学対話の方法をとり、ほぼ毎時間「発言する」と「考える」のループである。発言しない人は授業に参加していないとみなす。発言しないことは授業進行の妨げになるので、発言を避けたい人には向かない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧や美容の実態を把握し、その実態の背景を探り、なぜ人々がそうした意識を持つようになったのか、社会の基層に存在する思考法や構造原理まで深堀する。そこから解決策を考えて、世の中にまだないような提案をする。これら一連の作業はすべて企業での実務経験を反映している。							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0220
科目名称	身体文化論Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Body Theory Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	身体は、社会・文化の中で意味づけられている。それ故、身体は自分のものであるにも関わらず、自分以外のものが押しつけてくる意味とともに私たちは生きているということになる。この授業では、「身体」の意味はどのような場で生成されているのか、その仕組みはどのようなものなのか、ということを講義する。具体的には、身体を意味づけている様々な表象文化－美術作品、宣伝広告、ポップカルチャーの作品などを分析し、私たちは「身体」とどのように向き合う必要があるのか、ということを学んでいく予定である。なお、この授業では「身体文化」では避けて通れない性的な身体についての表象を扱う予定である。性的な情報については人によって価値観が異なり、文化現象とはいえ観たり聞いたり分析したりすることを望まない人もいると思われる。また、そのような情報・知識に触れることで PTSD、フラッシュバックなどが生じる可能性のある人も想定される。ご自身の価値観、健康を考えて履修するかどうか検討をして欲しい。		
到達目標	①身体について分析するための概念を理解する。 ②身体に関する文化現象について具体的な知識を得る。 ③正しい概念理解に基づき、具体的な文化現象を分析することができる。 ④①から③を踏まえた独自の考察を口頭及び文章で表現することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習:シラバスを読み、授業内容を確認しておく。 授業:身体の意味づけについて考えるために、ドキュメンタリ映像を視聴してコメントを書く。 復習:授業時に視聴したドキュメンタリ作品についてコメントを考える。	
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:「身体文化論」についての枠組の講義 復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。	
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習:西洋の歴史について確認しておく。 授業:西洋の美術における女性のイメージについて 復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。	
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習:西洋の美術史について学んだことを整理しておく。 授業:西洋の美術における女性の「裸体画」について 復習:各自が記録した授業ノートを確認し、不備を埋めておくこと。	
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習:自分の生活環境の中にどのようなパブリックアートがあるかを確認する。 授業:パブリックアートにおける女性の「裸体」あるいはイメージについて 復習:自分の生活環境の中にどれほど多くの女性裸体彫刻があるかを確認する。	
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:身体をめぐる文化現象を分析するための知識① フェミニズムとは何か？ 復習:これまでに出題されている課題について確認しておく。	
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:身体をめぐる文化現象を分析するための知識② ジェンダー概念とは何か？ 復習:ジェンダー概念を正しく理解できているか再確認しておく。	
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:フェミニズムが批判してきた女性のイメージ①性的対象としての女性 復習:授業で説明した内容をまとめておく。	
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習:性別役割分業について調べておく。 授業:フェミニズムが批判してきた女性のイメージ②母性と性別役割分業 復習:母性の意味について再考する。	

10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:現代社会における「女性の身体イメージ」が引き起こす問題について① 女性の身体管理 復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。															
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習:女性の身体に関する身近な広告事例を集めておく。 授業:現代社会における「女性の身体イメージ」が引き起こす問題について② 女性の広告メディアの炎上について 復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。															
12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業:「美しさ」と身体の問題 復習:授業内容のまとめをノートに書いておく。															
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習:事前にアップロードされているレジュメの内容を確認したあとに DL し、プリントアウトあるいはタブレット PC などで授業時に利用できるようにしておく。 授業: ポルノグラフィと女性の身体 性的身体再考 復習: これまでの課題について見直しをして、これまでの課題提出を完了しておく。															
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習:これまでの授業ノートなどをプリントアウトし、内容をよく読んでおく。 授業:身体文化論に関する実践的課題① これまでの授業内容理解度確認をテスト形式で行う。ノート持ち込み可。ただしプリントアウトした物のみ。 復習:質問事項などを自己採点し理解度をチェックする。															
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習:ノートなどを読み返し、テストで分からなかったところを再確認しておく。 授業:身体文化に関する実践的課題②第十四回の成果を踏まえて、追加講義と課題作成を行う。 復習:全授業をふり返り、未提出の課題がないか確認し不備がないようにしておく。															
授業開始前学習		課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識 (Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など) を学んでおいて欲しい。「クラスプロファイル」で GoogleClassroom への登録などについての情報を公開するので確認すること。															
授業内課題のフィードバックの方法		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom で提出された課題については、授業期間終了時まで採点返却予定。															
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。															
参考書		『ヌードと愛国』池川玲子 講談社新書 2014 『禁断の果実 女性の身体と性のタブー』リーヴ ストロームクヴィスト 相川 千尋 訳 花伝社 2018 『生理用品の社会史』田中ひかる 角川書店 2019 『月経と犯罪』田中ひかる 平凡社 2020															
評価の基準と方法		GWE(Google Workspace for Education)GoogleClassroom において、課題を出題。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。 出欠に関しては、15 回出席することが前提条件である。公欠の場合は出席に関する減点はないが、欠席日に出席されている課題は必ず提出すること。 複数回にわたる欠席に関しては、エクストラレポートの提出で代替可能である。エクストラレポートについては教員に相談すること。 課題提出に関して事情がある場合は遅延を認めるが、最終提出日は 15 回目の授業日までである。															
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○						○		◎							
関連科目																	
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	112-330-12 （J）			授業コード	FB0230
科目名称	化粧文化論			単位数	2.0 単位
英文名称	Beauty Culture Studies			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40			研究室	10-701
授業概要	この授業では、化粧のおもな目的である外見的価値について徹底的に「哲学的思考」と「哲学対話」を実施する。知識や答えのある問題の解決法を「伝授」する授業ではない。そもそも問題を見つけることから始めて、問い続け、考え続けることの連続で、結論を出すことは取敢てしない。AI と共存する時代は、知識獲得や速く正解に速くたどり着くことは AI の仕事で、人間は AI が不得手なこと、すなわち問題を発見する力、考え続ける力、考えを洗練させる力がないと生き残れないからである。 ① 日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。 ② 発見した問題を言語化する。 ③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。 これら 3 つの作業を 15 回続ける覚悟がある学生には向いている。反対に、調べて答えを見つけてスッキリしたい、結論を性急に求めて教員の解釈を早く聞きたい、教員から毎回新たなノウハウを伝授してほしいという学生は期待を裏切られる。 グループワークが 15 回の過半数を占めるため、欠席するとグループメンバーに迷惑がかかることから。全回出席が当然の授業であることも留意が必要だ。				
到達目標	① 日常にありふれている当たり前に受け止めてきたことに対して問題意識を持つ。 ② 発見した問題を言語化する。 ③ 考えたことを他の人々と共有し、互いに刺激し合いながら、考えに考えを重ねる作業をひたすら続ける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 ： 西洋哲学の歴史を高校倫理の教科書や参考書で復習したり、書物から概要を掴む 授業 ： 授業の進め方と心構え、哲学の流れと理論についての説明 復習 ： 授業で聞いた教科書ページとノートの再読			
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 ： 西洋哲学の歴史の中から自分に合っていると思われる理論を選んでそれを使って毎日の出来事を分析する 授業 ： 私たちはどのように人を把握するのか 復習 ： 授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める			
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 ： 前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める 授業 ： 服装・髪型・化粧の意味について考える 復習 ： 授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める			
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 ： 前回の授業で話し合ったことを日常の各種の場面で思い出しながら自分の考えを進める 授業 ： 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(1) 各自の考えを基にした全員での考察 復習 ： 授業で聞いたさまざまな発言を思い出し、それらを予習で選んだ哲学理論を使って分析してみる			
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 ： 前回の授業で他の履修者の発言を聞いて自分が考えたことを思い出して記すことで授業を受けるためのメモを作る 授業 ： 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(2) 背景の深堀を全員で実施 復習 ： 授業中に与えられた課題を行いながら「なぜ」を考え続け、気づいたことがあればメモしておく			
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習 ： 前回の授業課題を実施して自分が考えたことを見直して、社会背景からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく 授業 ： 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(3) 前回の課題となった社会の時代的背景を発表し、それに基づく全員での考察 復習 ： 現在の社会の特質と現在の美容を結び付けて考え、気づいたことがあればメモしておく			
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 ： 人の社会的な位置づけと人の外見との関わりについて、これまで自分が見聞きしてきたことを思い出してメモしておく 授業 ： 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(4) 人の社会的な位置づけと人の外見との関わりについて全員で考察 復習 ： 授業で与えられた課題を実施し自分が考えたことを見直して、女性の社会的状況からとらえ直し、気づいたことがあればメモしておく			
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 ： 近代社会（その延長の現代社会も含む）にはどのような社会的原理が働いているのか、近代人や現代人は社会から何が求められているのかを考え、調べ、メモしておく 授業 ： 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(5) 近代原理が求める人間とはどのようなものか、そこに問題はないかについて全員で考える 復習 ： 授業を通じて気づいた近現代社会の問題点を洗い出してメモしておく			

9	石田 かおり	【第 9 回】 予習 : 前回の授業で気づいた問題点はないか、あるならどのような解決策か、これらについて考えて、結果だけでなく考える過程もメモしておく 授業 : 『人は見た目が 9 割』はなぜ巨大ベストセラーになったか(6) 近代原理が求める人間像の由来と問題点の解説 復習 : 授業聞いて気付いたこと・発見したこと視点から日常生活を送り、気付いたことをメモしておく							
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 : 日常生活の中で近代原理に由来するものを洗い出す 授業 : いま世界を席巻しつつある最大の美容について考える 復習 : 授業で考えた美容がなぜ世界を覆うようになったのかをこれまでの授業を基に考える							
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習 : 前回の授業の内容をしっかりと復習する 授業 : 前回の美容と近代原理の関係について考える 復習 : 近代原理に由来する美の価値を毎日の生活の中で意識する							
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習 : 前回の授業の内容をしっかりと復習する 授業 : 問題解決策としての美的価値観の提案例「スロービューティー」についての説明 復習 : 授業で聞いた解決策のほかに解決策がないか考えて、考えた結果だけでなく過程もメモしておく							
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習 : 自分が考えた解決策を披露できるよう準備しておく 授業 : 授業で取り上げた問題のほかに近代原理に由来する問題がほかにないかグループワークを通じて考える 復習 : 授業で聞いた他の人の考えを振り返り、自分の考えを広め深める							
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習 : 前回の内容を復習する 授業 : どんな社会をめざせばよいグループワークを通じて討論する 復習 : 授業で考えた社会が実現するために自分にできることを考えて実行に移す							
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習 : これまでの授業全体を振り返る 授業 : これまでの授業全体を振り返り、未来を生きるために必要なことと未来の社会のありかたについて全員で話し合っ考える 復習 : 授業で考えたことを反映してレポートにして提出する							
授業開始前学習		①化粧・美容の流行や傾向と、現在進行形で世の中が進んでいる方向を把握する。 ②①の背にある人々の意識や社会のありように関心を持ち、ニュースを解説した専門家のコメントや書物、新聞など多様な情報源から得た情報を使って自分で考える。							
授業内課題のフィードバックの方法		ほとんど毎時間、学生間で、学生と教員間で、討論をしながら授業を進める。それゆえ毎回授業の中でフィードバックが繰り返されることになる。 グループワークを実施する予定であるが、新型コロナウイルス等の感染状況によって変更の可能性はある。							
テキスト・教材		なし							
参考書		竹内一郎『人は見た目が 9 割』,新潮社,2005 年 そのほか討論の過程で必要なものがあればその都度授業内で紹介する。							
評価の基準と方法		全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を前提に、討論への参加度（発表）50%,レポート 50%。レポート提出は期日厳守で、遅れたらレポート点は 0 点になる。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			
関連科目		人間関係入門Ⅱの石田の講義部分、人間関係ゼミ a（石田ゼミ）							
その他		【重要な注意事項】 グループワークが 15 回の過半数を占めるため、欠席するとグループメンバーに迷惑がかかることから。全回出席が当然の授業であることも留意が必要である。 この授業は哲学対話の方法をとり、ほぼ毎時間「発言する」と「考える」のループである。発言しない人は授業に参加していないとみなす。発言しないことは授業進行の妨げになるので、発言を避けたい人には向かない。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		化粧や美容の実態を把握し、その実態の背景を探り、なぜ人々がそうした意識を持つようになったのか、社会の基層に存在する思考法や構造原理まで深掘する。そこから解決策を考えて、世の中にまだないような提案をする。これら一連の作業はすべて企業での実務経験を反映している。							

科目分類	112-330-12 （J）		授業コード	FB0235	
科目名称	化粧文化論		単位数	2.0 単位	
英文名称	Beauty Culture Studies		授業区分	講義	
科目責任者	石田 かおり		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	石田 かおり		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40		研究室	10-701	
授業概要	人類は原始時代から化粧をし続けている。人はなぜ化粧をするのか。特定の時代や地域の化粧はなぜそのような形になったのか。各化粧の背景にある美意識はどのようにして出来上がったのか。こうした化粧の歴史を通じて、今現在自分が行っている化粧はなぜその形なのか。自分の美意識はどこから来たのか。これらを考えることがこの授業の目的である。 授業では、始めに、考える前提になる知識として、特定の時代と地域の化粧を学習する。その後で、なぜそうした美意識が生まれたのか、なぜそうした化粧になったのかを考える課題に取り組む。単純に知識伝授型の授業ではないので、その点誤解のないよう留意してほしい。 課題は、課題の出た回の授業だけでなく、それまでの授業全体を大きな視野でとらえる必要があり、授業や教材やインターネット等を調べるだけで解答の出るものではない。自身のさまざまな知識や能力を駆使して考えを深める性質の課題である。AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うことを目的とした課題である。 なお、この科目は、歴史上の時間が後期の「身体文化論Ⅱ/化粧文化論 b」に続いており、通史上の前半部分が学修範囲である。				
到達目標	①化粧の変遷と美意識の変遷について大きな流れを把握する。 ②歴史上の事柄といま自分が生きている社会を関連付けてとらえることで、自分がどのような美意識にとらわれ、どのような化粧行動をしているかを自覚し、問題を発見する。 ③節目節目で課題を出す、それは教科書やノートを復習すれば答えが見つかる、調べればすぐに答えが見つかるかなんてものは少ない。AI と共存する時代を生き抜くために、AI が不得手とする問題発見力と考え続ける力を養うような課題である。それゆえ、複数回の授業、他の科目、さらには自分で調べて得た情報などを総動員して、大きな視野で物事をとらえるような課題である。				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：高校までの日本史（室町時代まで）の流れを簡単に復習 授業：科目の説明・履修上の諸注意（教科書頁 1?2,83?85）, 課題 1 復習：教科書 1?2 頁,83?85 頁の再読,課題の提出			
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：紫外線について自分で調べる 授業：紫外線の基礎知識（教科書頁 86?89） 復習：教科書 86?89 頁の再読・生活の中での紫外線の確認,課題の提出,課題 2			
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：「化粧とは何か」について自分で考え、調べておく 授業：「化粧とは何か」を法律・言葉の意味から考える（教科書頁 90?91）,課題 3 復習：教科書 90?91 頁の再読・家の中の化粧品・医薬部外品の確認,課題の提出			
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：世界各地に伝承されている化粧の風習と意味を調べる 授業：世界の民族化粧から化粧の意味を考え、「人はなぜ化粧をするか」のまとめ（教科書頁 9?10,91）,課題 4 復習：教科書 9?10 頁,91 頁の再読・自分はなぜ化粧をするか考える,課題の提出			
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：高校までの歴史（4 大文明）の復習 授業：化粧の起源・4 大文明の化粧（教科書頁 27?34,92） 復習：教科書 27?34 頁,92 頁の再読・4 大文明での化粧の意味の確認,課題の提出,課題 5			
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：高校までの日本史（縄文・弥生時代）の復習 授業：原始の化粧（縄文時代・弥生時代）（教科書頁 35?37,93?94）,課題 6 復習：教科書 35?37 頁,93?94 頁の再読・縄文時代と弥生時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出			
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：高校までの日本史（古墳時代）の復習 授業：古代の化粧：古墳時代（教科書頁 95?96）,課題 7 復習：教科書 95?96 頁の再読・古墳時代の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出			

8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：高校までの日本史（飛鳥・奈良・平安初期と当時の文化）の復習 授業：古代の化粧：飛鳥・奈良・平安初期（教科書頁 38?42,54?55,97?100）,課題 8 復習：教科書 38?42 頁,54?55 頁,97?100 頁の再読・飛鳥時代?平安時代初期の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出															
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業：古代の化粧：平安中期?後期の貴族男性の暮らし（教科書頁 101?102）,課題 9 復習：教科書 101?102 頁の再読,課題の提出															
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習：高校までの日本史（平安中後期と当時の文化）の復習 授業：古代の化粧：平安中期?後期の貴族女性の暮らし（教科書頁 101?102）,課題 10 復習：教科書 101?102 頁の再読,課題の提出															
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習：高校までの日本史（平氏の政権と源平の戦い）の復習 授業：古代の化粧：平安中期?後期の貴族と武士の化粧（教科書頁 45?46,56?62,65?67,103?105）,課題 11 復習：教科書 45?46 頁,56?62 頁,65?67 頁,103?105 頁の再読・貴族と武士の化粧の意味と美意識の確認,課題の提出															
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習：高校までの日本史（鎌倉・室町時代と当時の文化）の復習 授業：中世の化粧：鎌倉・室町・戦国時代の女性の化粧(教科書頁 106?107) ,課題 12 復習：教科書 106?107 頁の再読・中世の女性の美意識と化粧の意味の確認,課題の提出															
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習：高校までの日本史（鎌倉?室町時代と当時の文化）の復習 授業：中世の化粧：鎌倉・南北朝時代の男性の化粧（教科書頁 68?69,107?108）,課題 13 復習：教科書 68?69 頁,107?108 頁の再読・中世の武士の美意識と化粧の意味の確認, 課題の提出															
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習：高校までの日本史（北山文化と東山文化）の復習 授業：中世の化粧：香道（教科書頁 69?71,109?111,119）,課題 14 復習：教科書 69?71 頁,109?111 頁,119 頁の再読・世界の化粧文化の中の香道の特徴の確認,課題の提出															
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習：高校までの西洋史（古代ギリシャ?ルネッサンス）の流れの復習 授業：比較としての世界の化粧（西洋の化粧）（教科書頁 112?116）,課題 15 復習：これまでの授業全体の振り返り,課題の提出															
授業開始前学習		中学校程度の歴史（日本と世界）の復習															
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で出た課題については出期限の後の授業の中で解説する。															
テキスト・教材		石田かおり『化粧の文化史』駒沢女子大学教科書シリーズ															
参考書		久下司『化粧』法政大学出版局, 石田かおり『おしゃれの哲学』理想社,高橋雅夫『化粧ものがたり』雄山閣,他は授業中に案内する															
評価の基準と方法		出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価をする。各課題の配点は授業の中で案内する。なお課題は、特別な事情がない限り提出期限を守らない場合は 0 点とする。															
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		◎								○							
関連科目		【重要】後期の「化粧文化論Ⅱ/化粧文化論 b」と人間関係ゼミ a（石田ゼミ）の前提となる内容である。そのため石田ゼミ希望者は 2 年次に履修を終えておく必要がある。 そのほかに内容が密接な科目は、人間関係ゼミ a,和装の文化論Ⅰ・Ⅱ,服装の美意識Ⅰ・Ⅱ															
その他		●人間関係専攻 2 年生は必修科目だが、「化粧文化論Ⅱ」とともに石田ゼミの前提科目であるため、とくに専門ゼミ希望届の第四希望までに石田ゼミを記入する可能性がある人は 2 年時に履修することが重要である。 ●「化粧文化論 b」の前提になる内容のため、「化粧文化論 b」を履修する前にこの科目を履修することが望ましい。（先に「化粧文化論 b」を履修すると内容の時間軸が逆行する）															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		化粧品企業と美容関係の社団法人の研究開発・広報活動・人材育成などの経験もいかした研究内容を基に授業を実施。															

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0240
科目名称	☆服装と文化 I / 服装の美意識 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Clothing and Culture I / Fashion Literacy I	授業区分	講義
科目責任者	三宅 真未	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 真未	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	人々が何を「美しい」と捉えるのかは時代・文化・風習によって様々である。本授業では、主に西洋における古代から 19 世紀までの服飾の変遷を辿りながら、服飾が持つ社会的・文化的な意味を学び、衣服と美意識との関係性を探る。		
到達目標	多角的な視野から服飾の歴史を学び、服飾を学問として深めるための様々な切り口を知ることができる。また古代から 19 世紀までの西洋の服飾の歴史について、各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができるとともに、今日の身近な服飾に関わる事象についても分析する姿勢を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三宅 真未	【第 1 回】 予習：「ファッション」とは何か考える 授業：オリエンテーション 復習：服飾にまつわる展覧会を調べる	
2	三宅 真未	【第 2 回】 予習：衣服の起源について考える 授業：衣服の起源 復習：授業内で扱った民族衣装をファッション辞典で引く	
3	三宅 真未	【第 3 回】 予習：「オートクチュール」の言葉の意味を調べておく 授業：オートクチュールとは 復習：オートクチュールのコレクションショーを調べる	
4	三宅 真未	【第 4 回】 予習：古代オリエント、ギリシャ、ローマの歴史や文化を把握しておく 授業：古代の服飾 復習：各地域の服装の形態・装飾を振り返り、整理する	
5	三宅 真未	【第 5 回】 予習：中世ヨーロッパの歴史を把握しておく 授業：中世の服飾 復習：中世ヨーロッパの衣服の形の変遷を振り返る	
6	三宅 真未	【第 6 回】 予習：身の回りにあるレースについて注意深く観察する 授業：ヨーロッパの手工レース 復習：授業内容を踏まえた上でレース装飾について再考する	
7	三宅 真未	【第 7 回】 予習：16 世紀のヨーロッパ史（主にスペイン・イギリス・フランス）を概観しておく 授業：近世ルネサンスの服飾① 復習：文化・思想とファッションの関わりについて再考する	
8	三宅 真未	【第 8 回】 予習：エリザベス 1 世の肖像画を調べる、エリザベス 1 世が統治していた時代のイギリス史を把握しておく 授業：近世ルネサンスの服飾② 復習：ルネサンス期に見られる特有の装飾をまとめる	
9	三宅 真未	【第 9 回】 予習：17 世紀のヨーロッパ史（主にオランダ・フランス）を概観しておく 授業：17 世紀バロックの服飾 復習：バロック期に見られる特有の服飾や美意識をまとめ、整理する	
10	三宅 真未	【第 10 回】 予習：18 世紀のヨーロッパ史（主にフランス）を概観しておく 授業：18 世紀ロココの服飾① 復習：ロココ様式の特徴を振り返り、服飾との関わりについて整理する	
11	三宅 真未	【第 11 回】 予習：マリー・アントワネットの肖像画を調べる、マリー・アントワネットにまつわる歴史上の出来事を把握しておく 授業：18 世紀ロココの服飾② 復習：18 世紀フランスの美意識とファッションを整理する	

12	三宅 真未	【第 12 回】 予習：世界各地でどのようなファッション誌があるかを調べておく、またそれらの特徴を把握しておく 授業：ファッション誌の起源から現代 復習：ファッション誌の変遷を振り返る、これからの雑誌のあり方について考察する							
13	三宅 真未	【第 13 回】 予習：19 世紀前期～中期のヨーロッパ史（主にフランス・イギリス）について概観する 授業：19 世紀前期～中期の服飾 復習：ロマンティック・スタイル、ダンディズムについて整理する							
14	三宅 真未	【第 14 回】 予習：19 世紀中期～後期のヨーロッパ史（主にフランス・イギリス）について概観する 授業：19 世紀中期～後期の服飾 復習：19 世紀中期～後期の女性服のシルエットの変遷、補正下着の意味について確認する							
15	三宅 真未	【第 15 回】 予習：これまでに配布した資料および授業内容を振り返っておく 授業：前期授業のまとめ 復習：「ファッション」とは何かを再考する							
授業開始前学習		授業内容をより理解するため、図書館所蔵の「西洋服飾史」関連図書を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		最終レポートまでに全体で 2～3 回程度課題の提出を求める。課題の実施後には講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリントなどは、授業の中で適宜配布する。							
参考書		深井晃子監修『カラー版 世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション辞典』（文化出版局）							
評価の基準と方法		提出物、授業態度などにより評価する。 最終レポート 60%、平常点（授業態度・課題提出）40%							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	
関連科目									
その他		教科書を使用しないため、各回の配布物やパワーポイントが授業の資料となる。そのため毎回、パワーポイントの内容を各自で工夫してノートにまとめることが必要となる。そして課題や最終レポートの作成に役立てるようにすること。 また適宜、発言や簡単なディスカッションの機会を設ける。主体的かつ積極的に服飾事象について考えて欲しい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆服装と文化Ⅱ／服装の美意識Ⅱ

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0250
科目名称	☆服装と文化Ⅱ／服装の美意識Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Clothing and CultureⅡ／Fashion LiteracyⅡ	授業区分	講義
科目責任者	三宅 真未	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三宅 真未	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	人々がどのような衣服を必要とするのか（どのような衣服を着たいと思うのか）は時代と共に移り変わっていく。本授業では、主に西洋における 20 世紀初頭から現代までの服装の変遷や各時代に活躍したファッション・デザイナーの功績を辿り、そこに表された意識を学び、衣服と社会構造との関係性について考えを深めていく。		
到達目標	多角的な視野から服飾の歴史を学び、服飾に対する様々な学問的アプローチを知ることができる。そして 20 世紀から現代までの西洋の服飾の歴史について、各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができると同時に、今日の身近な服飾に関わる事象についても分析する姿勢を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三宅 真未	【第 1 回】 予習：著名なデザイナーやいくつかの（身の回りの）ブランドを調べてみる 授業：オリエンテーション 復習：「ファッション（fashion）」を辞書で引き、意味を正しく理解する	
2	三宅 真未	【第 2 回】 予習：衣服を着る上で重要視していることは何かを考える 授業：衣服の機能論 復習：自分にとって最も重要な衣服の機能とは何かを確認する	
3	三宅 真未	【第 3 回】 予習：「パリコレ」について調べてみる 授業：「パリコレ」の源流 復習：「パリコレ」を正しく認識する、近年のファッション業界の動向を確認する	
4	三宅 真未	【第 4 回】 予習：19 世紀末～1910 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業：19 世紀末～1910 年代の服飾 復習：アール・ヌーヴォー様式と服飾との関わりから当時の服飾流行を整理する	
5	三宅 真未	【第 5 回】 予習：1914 年～1920 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業：1914 年～1920 年代の服飾 復習：アール・デコ様式と服飾との関わりから当時の服飾流行を整理する	
6	三宅 真未	【第 6 回】 予習：1930 年代～1945 年の欧米の歴史を把握しておく 授業：1930 年代～1945 年の服飾 復習：ファッションとアートの接近の意味を確認する	
7	三宅 真未	【第 7 回】 予習：第一次世界大戦～第二次世界大戦までのアメリカの歴史を把握しておく 授業：アメリカン・ファッションの台頭 復習：アメリカの服飾産業が興隆する歴史を振り返り、主なデザイナーを確認する	
8	三宅 真未	【第 8 回】 予習：1945 年～1950 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業：1945 年～1950 年代の服飾 復習：戦後のファッションの特徴、ストリートファッションの背景を振り返る	
9	三宅 真未	【第 9 回】 予習：ディオールというブランドについて把握しておく 授業：クリスチャン・ディオールの功績 復習：現代まで受け継がれている創業者の思想や作品について整理する	
10	三宅 真未	【第 10 回】 予習：1960 年代の欧米の歴史を把握しておく 授業：1960 年代の服飾 復習：女性の社会進出とファッションの関係性を再確認する	
11	三宅 真未	【第 11 回】 予習：1970 年代の欧米および日本の歴史を把握しておく 授業：1970 年代の服飾 復習：オートクチュールからプレタポルテへの移行の流れを再確認する	

12	三宅 真未	【第 12 回】 予習：1980 年代の欧米および日本の歴史を把握しておく 授業：1980 年代の服飾 復習：著名な日本人デザイナーの活躍を確認し、現在のブランドの動向についても調べる							
13	三宅 真未	【第 13 回】 予習：1990 年代の欧米および日本の歴史を把握しておく 授業：1990 年代の服飾 復習：ファストファッションの利点・問題点を整理し、これからのファストファッションの在り方について考察する							
14	三宅 真未	【第 14 回】 予習：現代のファッション 授業：近年の日本の服飾の動向、流行しているものについて調べる 復習：衣服の色と着衣との関係性について再確認する							
15	三宅 真未	【第 15 回】 予習：これまでに配布した資料および授業内容を振り返っておく 授業：後期授業のまとめ 復習：「ファッション」の多様性を再考する							
授業開始前学習		授業内容をより理解するため、図書館所蔵の「西洋服飾史」関連図書を読んでおくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		最終レポートまでに全体で 2～3 回程度課題の提出を求める。課題の実施後には講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリントなどは、授業の中で適宜配布する。							
参考書		深井晃子監修『カラー版 世界服飾史』（美術出版社） 深井晃子監修『ファッション辞典』（文化出版局）							
評価の基準と方法		提出物、授業態度などにより評価する。 最終レポート 60%、平常点（授業態度・課題提出）40%							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	
関連科目									
その他		教科書を使用しないため、各回の配布物やパワーポイントが授業の資料となる。そのため毎回、パワーポイントの内容を各自で工夫してノートにまとめることが必要となる。そして課題や最終レポートの作成に役立てるようにすること。 また適宜、発言や簡単なディスカッションの機会を設ける。主体的かつ積極的に服飾事象について考えて欲しい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12 (J)			授業コード	FB0260
科目名称	和装の文化 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Kimono Culture I			授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40			研究室	10-701
授業概要	非言語コミュニケーションの中の身体によるコミュニケーション科目の 1 つである。 講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、日本の伝統的な身体文化から現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的にしている。 後期まで履修し、すべて習得すれば、「きもの文化検定」J5 級程度の内容である。				
到達目標	きもの（小袖）についての一通りの知識を身に着ける前半部分で、衣類の 2 大分類、原料、染・織の種類と産地による特色の習得が目標である。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：毎日着ている衣類はどのように作られているのか考えたり調べたりする 授業：授業の進め方の説明と履修上の注意点 衣類をどうやって入手するか 復習：講義内容の復習をし、身の回りの各種の衣類がどのように制作されているか考える			
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：洋服の原料と作り方を調べる 授業：普段着ている洋服の作られ方 復習：授業を思い出しながら女性や男性のテーラードカラーのジャケットを見る			
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：自分が毎日送っている生活様式について振り返る 授業：着物のイメージ 生活様式と衣服の関係性 復習：自分の生活空間に授業で聞いたものがないか調べる			
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：着物の原料と作り方を調べる 授業：着物はどのように作られるか 復習：授業で聞いた話を見直して疑問が残っていないか確認する（疑問があれば次回の授業の始めに質問する）			
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：着物に使われる糸は何からできているか調べる 授業：絹糸ができるまで 復習：家の中にある絹織物を探して風合いや手触りを確認する			
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：さまざまな自分の衣類の産地（国）を調べる 授業：衣服はどこで作られるのか 衣服の 2 大分類（教科書 p.143,146-147） 復習：海外で生産される衣類に問題点がないか調べる			
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：日本の昔の衣類にはどのようなものがあったか調べる 授業：日本服飾史 衣偏の漢字を覚えよう 復習：衣編の漢字をさらに探す			
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：各種の自分の服の柄はどのように作り出されたか調べる 授業：着物に柄をつけるには 三縷 辻が花（教科書 p.172-177） 復習：自分の持っている衣類や近所に売っている衣類の中に授業で習った技法がないか調べる			
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：前回の授業内容を復習する 授業：画期的な柄のつけ方 友禅（教科書 p.148-149） 復習：家にある着物や近所で販売されている着物から友禅を探す			

10	石田 かおり	【第 10 回】 予習：友禅染の技法を復習する 授業：三大友禅の特色 型友禅 その他の染の技法 加飾（教科書 p.150-171） 復習：家にある着物や近所で販売されている着物は授業で習った友禅の中のどの種類に当たるのか実物で確認する						
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習：これまで学修した文様のつけかた以外の文様のつけかたはないか考えたり調べたりする 授業：織の着物（１）紬の技法と二大紬（教科書 p.182-187） 復習：紬の技法を復習し、二大紬それぞれの特徴を覚える						
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習：前回の授業を復習し、紬の技法をしっかりと覚える 授業：織の着物（２）紬のいろいろ 木綿と紺 麻（教科書 p.188-201,284-285） 復習：産地別の紬の特色を復習する 木綿と麻の特色を復習する						
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習：前回の授業を復習し知識の定着を図る 授業：織の着物（３）麻織物各種と芭蕉布（教科書 p.202-207） 復習：家にある麻の衣類や麻製品を探して手触りや風合いを確認する						
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習：これまでの授業全体を復習する 授業：学修確認問題 復習：できなかった問題を自分で調べて正解を探す						
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習：これまでの授業全体を復習する 授業：第 14 回のフィードバック（解説） 復習：できなかった箇所を復習して知識を確実なものにする						
授業開始前学習	自宅や実家にある着物の種類と着用場面を調べる。街中の着物着用者や店頭の着物、メディアの中の着物など、着物を見る経験を積む。そのときにどのような場面でどのような特徴の着物を着ているかに注意し、着物の多様性に注目する。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題を出した次以降の授業の中で解説を加えながら正解を説明し、同時にそれまでの授業の復習をする。							
テキスト・教材	『決定版きものに強くなる』世界文化社、2016 年							
参考書	全日本きもの振興会『きもの基本』アシェット婦人画報社（きもの文化検定 4・5 級公式教本）、河上繁樹・藤井健三『織りと染めの歴史—日本編』昭和堂、馬場まみ監修『着物の大研究』PHP 研究所							
評価の基準と方法	出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100%である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価を実施する。各課題の配点は授業の中で案内する。なお、課題は特別な事情がない限り提出期限を守らないものは 0 点とする。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		△	
関連科目	化粧の文化史,化粧文化論 b,身体文化実習Ⅱ,人間関係ゼミ a							
その他	●初めて聞く専門的な用語が大量に登場するので、脱落しないためには欠席しないことが重要である。 ●この授業はすべて講義である。授業で身につけた知識を実際に使う場面に「身体文化実習Ⅱ」がある。両方履修すると、知識が生きたものになり、科目相互の理解が深まる上に、2 科目を履修することではじめて場面に相応しい着物を自分で選択し、着用し、語れるようになると考えられる。 ●着付の習得を目的に履修する見当違いがたまに見られるが、すべて講義である。着付を習得したい者は「身体文化実習Ⅱ」が毎週着物を着るので最適である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	化粧品企業での社員教育にも応用した内容・構成・方法を取り入れている。また、呉服販売企業が社員教育に採用しているものと同じテキストを授業に使用している。							

科目分類	112-330-12 (J)	授業コード	FB0270
科目名称	和装の文化Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Kimono Culture Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	非言語コミュニケーションの中の身体によるコミュニケーション科目の 1 つである。 講義形式により和装文化のもっとも基本的な知識を身に着けることで、日本の身体文化の特質を知り、日本の伝統的な身体文化から現代社会を生きるために有効な知を得ることを目的にしている。 後期まで履修し、すべて習得すれば、「きもの文化検定」J5 級程度の内容である。		
到達目標	前半は、帯、草履などの和装の履物、バッグなどの和装の持ち物等の基礎知識を身につけることが目標である。 後半は、前期を含めたこれまでの学修内容を総動員して、場面に応じた選択ができること、見かけたものが何であるか判別できることが目標である。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習 : 着物にはどんな文様があるか調べてみる 授業 : 授業の進め方説明 着物の文様 (教科書 p.56-65) 復習 : 家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物の文様が何か調べて授業の定着を図る	
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習 : 日本の伝統色名を調べる 授業 : 着物の色と日本の伝統色名 (教科書 p.208-209) 復習 : 家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物の色名が何か調べて授業の定着を図る	
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習 : 浴衣の帯のほかどんな帯があるか調べる 授業 : 帯の種類 (教科書 p.210-225) 復習 : 家にある帯や街で見かけた帯、インターネットで見た帯の種類や格が何か調べて授業の定着を図る	
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習 : 前回の授業内容を復習して帯の分類をしっかり身に着ける 授業 : 帯の仕立てによる種類 (教科書 p.32-41) 復習 : 第 3 回の帯の種類と今回の授業の内容を組み合わせ帯を総合的にとらえるようにする	
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習 : 前期に履修した染の着物と織の着物の内容を復習し、着物を見たらわかるようにする 授業 : 着物の種類と格 (教科書 p.18-29) 復習 : 家にある着物や街で見かけた着物、インターネットで見た着物が何で、どんな織や染で、どんな場面にふさわしいかわかるように訓練する	
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習 : 織や染で、どんな場面にふさわしいかわかるように訓練する 授業 : 紋と格 (教科書 p.30-31) 長襦袢・半衿・伊達衿 (教科書 p.240-241,228-229) 復習 : 自分の家や両親の家系の紋を調べて名称や由来を知る	
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習 : 着物や帯の装飾品にはどのようなものがあるか調べる 授業 : 帯揚げ・帯締め・帯板・帯留めとジュエリー・バッグ・履物 (教科書 p.230-237) 復習 : 授業で学んだことを確認する	
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習 : 着物の上に着るものに何があるか調べる, 伝統的な傘を調べる 授業 : 羽織・コート, 雨雪の装い (教科書 p.54-55) 予習 : 街やメディアの中で見かける女性の着物の上に着用しているものや傘がわかるくらい授業内容を復習する	
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習 : 洋服の場合にどのような季節に応じた着分けがあるか調べる 授業 : 季節に応じた着分け (教科書 p.42-53) 復習 : 街やメディアの中で見かける男女の着物は季節による着分けをしているか、しているとすればどのような生地か、わかるくらい復習する	
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 : 街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てる練習をする 授業 : TPOに応じた組み合わせ (教科書 p.67-111,286-287) 復習 : 街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てることを繰り返して、これまでの授業内容を総合的に活用できる訓練をする	

11	石田 かおり	【第 11 回】 予習：街やメディアの中で見かける着物の人の着物の種類、生地の種類、帯の種類、季節を当てる練習をする 授業：足袋・その他の下着・肌着・着付け紐（教科書 p.238-239,248-249） 復習：授業で学んだことを家にあるもので確認する							
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習：家にある着物を広げてどのような構造か確認する 授業：着物の構造（教科書 p.226,246-247） 下ごしらえ（教科書 p.248-255） 復習：授業内容を家にある着物を使って確認する、特に各部の名称を実物で確認し、その後本だたみを実践して片付ける							
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習：街やメディアの中で見かける男性の着物と子どもの着物を観察し、それぞれ女性との違い、大人との違いに着目する 授業：子どもの着物（教科書 p.84-89） 男性の着物（教科書 p.112-117） 復習：街やメディアの中で見かける男性や子どもの着物から授業で学んだことを確認する							
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく 授業：1 年間の総まとめ「きもの当てクイズ」 復習：特にできなかったところをさらい、着物の基礎知識を確実なものにしておく 【第 14 回】 予習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく 授業：学修内容の確認問題と「きもの文化検定」模擬問題 復習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく							
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習：前期も含めてこれまでの授業全体を復習し、着物の基礎知識を確実なものにしておく 授業：前回のフィードバック（解説） たたみ方・後始末と保管（教科書 p.276-283） 復習：できなかった箇所を復習して知識を定着させる、本だたみができるよう繰り返し練習する							
授業開始前学習		後期は前期の内容を習得していることが前提のため、和装の文化Ⅰの単位取得が履修登録の前提条件である「段階の科目」である。 前期の授業内容をしっかり復習する必要がある。とくに授業内で実施した課題のできなかった点をよく復習することが肝要である。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出期限後の授業の中で解説を加えながら正解を説明し、復習をする。							
テキスト・教材		『決定版きものに強くなる』,世界文化社,2016 年（前期と同じ教科書）							
参考書		小笠原敬承斎『図解 美しいふるまい』, 淡交社,市川春猿『女作り』,徳間書店、全日本きもの振興会『きもの基本』アシェット婦人画報社（きもの文化検定 4・5 級公式教本）, 河上繁樹・藤井健三『織りと染めの歴史—日本編』昭和堂, 馬場まみ監修『着物の大研究』P H P 研究所							
評価の基準と方法		出席回数が全授業回数の 3 分の 2 以上を前提とし、GWE を用いた課題の合計点が 100% である。評価は課題の合計点に基づいて、絶対的相対評価を実施する。各課題の配点は授業の中で案内する。なお、課題は特別な事情がない限り提出期限を守らないものは 0 点とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		△	
関連科目		身体文化実習Ⅱがとくに密接な内容である。 さらに、身体文化論Ⅱ,化粧の文化史,化粧文化論 b,身体文化ゼミとも関連がある。							
その他		● 前期内容を習得していることが前提の内容であるため、前期の単位取得者だけが履修できる「段階の科目」である。それゆえ履修登録は前期の成績が発表されてからでないとできない。 ● 授業内容の確実な定着を図るために、授業終了後に次年度の「きもの文化検定」5 級の受験を推奨する（授業での申込はしない）。 ● 前期に引き続き聞いたことのない用語がたくさん登場するので、脱落しないために欠席しないよう注意する。 ● すべて講義形式で実施する。着物を着る実習を希望する者は「身体文化実習Ⅱ」が毎週着物を着るので、適した科目である。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		化粧品企業での社員教育にも応用した内容・構成・方法を取り入れている。また、呉服販売企業が社員教育に採用しているものと同じテキストを授業に使用している。							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0280
科目名称	流行論	単位数	2.0 単位
英文名称	Popular Trends Studies	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	流行は、たんに服飾品・グッズなどのモノや、ブーム、トレンドのみにとどまらず、人びとの行動様式や考え方、嗜好などをも含む幅広い社会現象です。流行はまた、私たちのライフスタイルやアイデンティティ、コミュニケーション行動とも密接なつながりをもっています。その流行現象を、社会的にはどのように解釈できるでしょうか。本講では人びとの日常生活のなかにあふれる流行現象を社会的観点から考察するとともに、流行をトピックとして、社会のなりたちを理論的に捉え返す思考力を習得してもらうことを目標とします。		
到達目標	次の 2 点を目標とします。 1. 流行現象のメカニズムについて理解する 2. 社会現象を理論的に解釈する思考力を身につける		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 : シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業 : ガイダンスとイントロダクション、流行への関心とイメージ 復習 : Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。	
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 : 第 1 回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業 : ファッションをめぐる神話 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 : 「ファッション」の語義を調べてください。 授業 : ファッション、トレンド、消費行動 —— ファッションの社会的機能（ディスカッション） 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 : 「快楽消費」について調べてください。 授業 : <快楽消費> する社会 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 : 「準拠集団」（社会学用語）について調べてください。 授業 : 流行品の意味と機能 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 : 前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業 : 流行の成立とその特質 1 —— 発生と消滅 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 : 「ファッド」（社会学用語）について調べてください。 授業 : 流行の成立とその特質 2 —— ファッド・サイクル 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 : 「集合行動」（社会学用語）について調べてください。 授業 : 流行現象と集合行動（グループワーク） 復習 : 授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 : 「社会的資源」（社会学用語）について調べてください。 授業 : 流行現象とモード —— パターン・機能・意味（課題解決型学習）	

		復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：H.ブルーマーの「シンボリック相互作用論」（社会学用語）について調べてください。 授業：モードの集会的操作 1 ——シンボリック相互作用 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
11	榎本 環	【第 11 回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：モードの集会的操作 2 ——文化的コード 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
12	榎本 環	【第 12 回】 予習：「構築主義」（社会学用語）について調べてください。 授業：モード操作とアイデンティティ ——衣服と身体（グループワーク） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
13	榎本 環	【第 13 回】 予習：「業界団体」についてリサーチしてください。 授業：流行現象と社会変動 ——モードの社会的構築（課題解決型学習） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
14	榎本 環	【第 14 回】 予習：「マーケティング」についてリサーチしてください。 授業：広告とマーケティング 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
15	榎本 環	【第 15 回】 予習：イタリアを代表するファッション・ブランドについてリサーチしてください。 授業：流行現象と産業システム（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
授業開始前学習		とくに事前学習の必要はありません。「社会学ⅠⅡ」と併せて受講すると、授業内容がより理解しやすくなると思います。						
授業内課題のフィードバックの方法		Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次回の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。						
テキスト・教材		とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。						
参考書		土屋淳二、2009、『モードの社会学 上・下』（学文社） その他、授業内で随時、指示します。						
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性）（60 %）、期末筆記試験（40 %）により評価します。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	本講は、「服装と文化ⅠⅡ」「セルフプロデュース」などで取り上げられる内容に対して、それらを流行現象のメカニズムという理論的視点から補足する位置づけとしても受講可能です。							
その他	双方向型の授業運営を基本形式とします。社会現象を理論的に考えることの知的面白さを伝えたいと思っています。できる限り、身の回りの具体例を示しながら、わかりやすい説明を心がけるつもりです。授業内容への質問やコメントなど積極的な参加取組みを期待します。他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-13 (J)	授業コード	FB0290
科目名称	ビューティービジネス	単位数	2.0 単位
英文名称	Beauty Business	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 節子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 節子	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ビューティビジネスは、世相を色濃く反映しながら世界の経済社会の発展と共に、多岐にわたる情報を含む成長ビジネスである。時代の美を軸とした広義のビューティビジネスを概説するとともに、日常生活や非日常の場面でも欠かせないヘアメイク/ファッションなどの知識を深め、幅広い豊かな創造性と時代にあった美の感性について学ぶ		
到達目標	日常生活にも関連する広義におけるビューティビジネスへの関心を深め、時代にあった多様な美の価値観を探索し、個の感性で美を理解し表現する事を目指す		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 節子	【第 1 回】 予習 : 日常生活の中の美について、また時代の美について考える 授業 : オリエンテーション・授業の流れ ビューティーの仕事について 人の顔立ちのタイプ・イメージについて 復習 : 自分の顔立ちのタイプと、自分の好きなメイクイメージについて確認する	
2	鈴木 節子	【第 2 回】 予習 : ビューティーのトレンドについて考える 授業 : ビューティトレンドとは トrendの生まれるしくみ ファッションショーにおけるビューティー表現 復習 : 自身のビューティー情報収集源(メディア媒体・SNS など)を確認する	
3	鈴木 節子	【第 3 回】 予習 : 自分自身の化粧について考える 授業 : 街頭傾向で見えてくるビューティトレンド(媒体と街中各トレンドの関連) 日本と海外の街頭化粧傾向の相違点と類似点 復習 : 街中の身近なビューティトレンドを確認する	
4	鈴木 節子	【第 4 回】 予習 : 自分自身の化粧アイテムへのこだわりを確認する 授業 : 化粧品の現トレンドを知って次のニッチを狙う商品開発について(技術展示)(プレゼンテーション) 復習 : 自分自身の化粧品購入動機・心理を考える	
5	鈴木 節子	【第 5 回】 予習 : 1950 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 : 時代の空気(ムード)と化粧の関係 1950 年代戦後復興期の美(課題・プレゼンテーション) (化粧の変遷(トレンド)を知り 過去から未来を考察する) 復習 : 1950 年代をまとめて授業内容を復習する	
6	鈴木 節子	【第 6 回】 予習 : 1960 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 : 時代の空気(ムード)と化粧の関係 1960 年代 高度経済成長期の美(課題・プレゼンテーション) 復習 : 1960 年代をまとめて授業内容を復習する	
7	鈴木 節子	【第 7 回】 予習 : 1970 年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 : 時代の空気(ムード)と化粧の関係 1970 年代 美的価値観の変化の時代から学ぶ(課題・プレゼンテーション) 復習 : 1970 年代をまとめて授業内容を復習する	
8	鈴木 節子	【第 8 回】 予習 : 1980 年代からのバブル期の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 : 時代の空気(ムード)と化粧の関係 1980 年代～1990 年代初期/バブル期の美の表現に見るマインド(課題・プレゼンテーション) 復習 : 1980 年代からのバブル期をまとめて授業内容を復習する	
9	鈴木 節子	【第 9 回】 予習 : 1990 年代(バブル崩壊後)の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業 : 時代の空気(ムード)と化粧の関係 1990 年代バブル崩壊後 平成不況時代の美の表現に見るマインド(課題・プレゼンテーション) 復習 : 1990 年代バブル崩壊後をまとめて授業内容を復習する	

10	鈴木 節子	【第10回】 予習：2000年代の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 2000年代の化粧のトレンド ミレニアル以降の流れを見る(課題・プレゼンテーション) 復習：2000年代をまとめて授業内容を復習する						
11	鈴木 節子	【第11回】 予習：2010年代(大震災前後の変化含)の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業：時代のムードと化粧の関係 2010年代の化粧のトレンド 東日本大震災は化粧にどう影響したのか(課題・プレゼンテーション) 復習：2010年代をまとめて授業内容を復習する						
12	鈴木 節子	【第12回】 予習：2020年代現在の時代背景・ファッション・ヘアメイク傾向を調べまとめて確認する 授業：時代の空気(ムード)と化粧の関係 2020年代の化粧のトレンドを分析してみる 過去から未来を予測(課題・プレゼンテーション) メイクのゴールデンバランスとは 復習：2020年代現在までの流れを確認し、なぜ化粧は時代を反映するのか考察しまとめる						
13	鈴木 節子	【第13回】 予習：世界のビューティ表現に目を向け海外メイクブランドのイメージを調べ確認してみる 授業：各メイクブランドのイメージ表現を研究する (好きなブランドになぜ心惹かれるのか、イメージワードの表現・語彙力を高める) バランシングメイクとは 【自分自身の化粧ブランドを企画・立案してみる(期末提出必須課題)】 復習：授業内容の復習						
14	鈴木 節子	【第14回】 予習：自分自身のライフスタイル化粧動向を振り返る 授業：毎日の化粧の意味 美意識を高め感性を磨く ヘアメイク表現のアイデア 復習：現代のライフスタイルとビューティについて これからの時代にあった美の表現とは何かをまとめる						
15	鈴木 節子	【第15回】 予習：ビューティビジネスの今後を考える 授業：ライフスタイル/環境変化にともなうビューティビジネスの未来 復習：授業内容を整理する						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法								
授業中にそれぞれの課題について説明し、様々な考えの情報共有を実施しながら、授業内で講評の機会を設ける								
テキスト・教材								
特になし。必要に応じて授業中に紹介する								
参考書								
特になし。必要に応じて授業中に紹介する								
評価の基準と方法								
授業の取り組み姿勢 及び 授業毎アンケート課題提出(55%)、学期末提出必須課題(45%)をもとに評価する								
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	化粧品メーカー「株式会社 資生堂」でのヘアメイクアップアーティストとしての現場経験(パリコレなどのファッションショー・広告撮影などでのヘアメイク、化粧品開発及び情報研究開発・ビューティートrend研究・マーケティング・ヘアメイク技術教育など)をもとに構成され、実社会での実務と授業内容が関連し合っている							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0300
科目名称	恋愛の心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Love	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	恋愛は憧れの対象にもなりうるものである。しかし、その過程では幸福とは言えない感情や望んでいなかった危機を経験し、場合によっては関係崩壊を迎えたりする。本授業では、恋愛に関する実態調査の結果や心理学的研究を学ぶことで、恋愛に関する包括的な理解を深めていく。また、恋愛を通して自己や人間の真理についての考察を促し、対人関係スキルの向上および今後豊かな人生を築いていくためのヒントの獲得を目指す。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.「恋愛」「恋」「愛」とは何かについて自分なりの答えを見出す 2.他者に魅力を感じる諸要因について説明できる 3.恋愛の進展過程で生起する事象について説明できる 4.恋愛に関連して生じる困難や問題を理解し、多様な対処方法を考えられる 5.恋愛に関連する心理学的概念や心理学による実験研究の結果を説明できる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習 : 「自分にとっての恋愛とは？」について考えてくる 授業 : オリエンテーション、恋愛とは、多様な性 復習 : シラバスを再度読み確認する	
2	倉住 友恵	予習 : 人が他者に好意をもつのは、どのような契機からか考えてみる 授業 : 好意の形成要因①、対人魅力、外見と評判の影響、自己拡張理論 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
3	倉住 友恵	予習 : 「自己呈示」とは何かについて調べる 授業 : 好意の形成要因②、単純接触効果、誤帰属、心理的リアクタンス 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
4	倉住 友恵	予習 : 「ロミオとジュリエット」とはどのような話か確認する 授業 : 恋愛の進展プロセス、自己開示 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
5	倉住 友恵	予習 : どのような恋愛タイプの人が世の中にはいるか考える 授業 : 恋愛の色彩理論、愛情の三角理論 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
6	倉住 友恵	予習 : どのような告白方法が有効だと思うかをまとめる 授業 : 告白と恋愛関係の継続、相手に尽くすことと衡平理論 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
7	倉住 友恵	予習 : 恋人同士が別れる原因にはどのようなものがあるか考える 授業 : 恋人間の不和（認知的不協和理論、バランス理論）、恋愛関係の崩壊 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
8	倉住 友恵	予習 : 失恋によって人はどのように変化するか考える 授業 : 失恋がもたらす感情と行動、喪失体験 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
9	倉住 友恵	予習 : 「アイデンティティ」とは何か調べておく 授業 : 青年心理学から見た恋愛、恋愛と自我形成 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
10	倉住 友恵	予習 : 「性と恋愛」の関係性について自分の意見を考える 授業 : 性と恋愛の原理、性的合意 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
11	倉住 友恵	予習 : なぜ人は浮気するのか、浮気するのはどのような人なのか考えておく 授業 : 浮気に関する心理学的研究 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
12	倉住 友恵	予習 : 「デート DV」とは何か調べておく 授業 : デート DV、恋愛依存（ディスカッション） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	

13	倉住 友恵	予習 : LGBTQ+の定義について調べる 授業 : 同性愛と異性愛の差異、同性愛者のアイデンティティ確立（ディスカッション） 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる							
14	倉住 友恵	予習 : 恋愛しない若者が増えているのはなぜか考える 授業 : 恋愛しない若者とその心理 復習 : 本日学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる							
15	倉住 友恵	予習 : ノートにより授業を振り返り、疑問や不明瞭な点などを書き出す 授業 : 改めて恋愛とは何か考える、総括、質疑応答 復習 : これまでの授業内容を復習し、「自分にとっての恋愛とは？」について再度考える							
授業開始前学習		心理学関連の科目を履修していると理解しやすい。恋愛に関係する書物を読むと授業理解の助けとなるであろう。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーやアンケートへの回答を求めた際には、その週または翌週にフィードバックや講評をする。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		授業内に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度および授業内課題（50％）、学期末試験（50％）で評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	○		◎			
関連科目		家族関係の心理学、心理学関連科目							
その他		恋愛に関して理解を深めるために他者との意見交換を行う場合がある。そのため授業に積極的、主体的に参加することを望む。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0310
科目名称	家族関係の心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Family Psychology	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	家族とは集団の一形態である。この家族という集団がどのように形成され、また解散していくのか、家族集団内の大人や子どもがどのような経験をし、家族が発達・変化していくのかについて、発達心理学による知見を中心に学んでいく。また、家族に関する日本の歴史や、現在の結婚および家族制度について学ぶことで、社会の中での家族の位置づけについて考える。 授業内では、受講生の感想共有の場とオリジナル人生ゲームを作成する機会を設けることで、結婚を含む家族関係がいかに多様になりうるかを学習し、人生について考える機会をもつ。		
到達目標	以下の 5 点である。 1. 家族および結婚とは何かを自分の言葉を用いて説明することができる 2. 日本の家族関係の歴史、現代日本における結婚、出産、子育て、夫婦関係の実態について理解している 3. 円満な夫婦関係の形成に有効な要因について説明できる 4. 家族関係の形成・維持に関連して生じる困難について理解し、対処法を複数の視点から考えることができる 5. 人生がいかに多様になりうるかを理解しており、自身の今後の人生について深く考察している		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習 : 「家族」とは何か、その定義について考える 授業 : オリエンテーション、家族とは、日本における家族の構造と歴史 復習 : 講義概要とシラバスを再度読み、確認する	
2	倉住 友恵	予習 : 平均結婚年齢、生涯未婚率について予測する 授業 : 家族の始まり・結婚、結婚制度の歴史と晩婚化、非婚化 復習 : 授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる	
3	倉住 友恵	予習 : なぜ日本は晩婚化したかについて考え、意見をまとめる 授業 : 結婚の価値の変化、個人化志向 復習 : 授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる	
4	倉住 友恵	予習 : 円満な夫婦関係のために重要な要素とは何かについて考える 授業 : 夫婦関係満足度とその要因 復習 : 授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる	
5	倉住 友恵	予習 : 第一子出産平均年齢について調べる 授業 : 子どもをもつこと、不妊治療 復習 : 授業を振り返り、自分の考えをノートにまとめる	
6	倉住 友恵	予習 : 「家族」の条件とは何か考える 授業 : 特別養子縁組、家族の多様性、親準備性 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
7	倉住 友恵	予習 : 「親になること」はどのような心理的变化をもたらすか考える 授業 : 親になること、育児ストレス、子の誕生による夫婦関係の変化、育児神話 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
8	倉住 友恵	予習 : どのような子育てが子どもに良い・悪い影響を及ぼすか考える 授業 : 養育態度、マルトリートメント、虐待 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
9	倉住 友恵	予習 : 働くことと子育ての関係について考える 授業 : 働くことと子育て、育児分担、多重役割、スピルオーバー 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
10	倉住 友恵	予習 : 「空の巣症候群」について調べる 授業 : 移行期の家族関係、空の巣症候群 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
11	倉住 友恵	予習 : 夫婦が「離婚した理由」について調べ 授業 : 夫婦関係の危機、離婚 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	
12	倉住 友恵	予習 : 現在の家族制度の特徴について考える 授業 : 同性婚、家族を構成する意義とは 復習 : 本日で学んだ授業を振り返り、ノートにまとめる	

13	倉住 友恵	予習 : 家族を構成するにあたりどのような事象が起こりうるかとめておく 授業 : オリジナル人生ゲームの作成 1 復習 : 作成するオリジナル人生ゲームの構成を見直す							
14	倉住 友恵	予習 : オリジナル人生ゲームの完成に向けて必要な作業について考えておく 授業 : オリジナル人生ゲームの作成 2 復習 : オリジナル人生ゲームを完成させる							
15	倉住 友恵	予習 : どのような人生, 家族生活を理想とするか考える 授業 : オリジナル人生ゲームの体験 (グループワーク) 復習 : オリジナル人生ゲームの結果と感想をレポートにまとめる							
授業開始前学習		「恋愛の心理学」の履修が本授業の理解の一助となる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業の感想や課題提出などを求めた際には, 翌週にフィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に定めない。							
参考書		講義内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		受講態度 40%、オリジナル人生ゲームの提出 20%、学期末試験 40%により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	○		◎			○
関連科目		恋愛の心理学、家族心理学、心理学の諸科目							
その他		知的好奇心を大切に、授業に主体的に参加することを望む。 DV に関しては、「恋愛の心理学」のデート DV の授業回で扱うため、本授業では割愛する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0320
科目名称	自己分析の心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Self	授業区分	講義
科目責任者	田代 琴美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 琴美	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	自己分析とは、就職活動を円滑に進めるために行うものというイメージを抱いている人が多いと思われる。しかし、自己分析を通して自己を理解することとは、就職活動だけに留まらず、過去から現在を見つめ直すことによって自己を受容し、未来をより良く生きていくための助けになるのである。本授業では、多角的な視点から自己を見つめ直す時間を取り、ワークシートやグループワーク（ペアワーク）を通して、自己について客観的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。		
到達目標	授業を通して、以下の到達目標を目指す。 ①自己にまつわる概念について理解し、説明できるようになる ②様々な角度から現在の自分を形成するものを理解する ③自己理解を深めることによって、将来の自分についても考えていく		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田代 琴美	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：オリエンテーション 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
2	田代 琴美	【第 2 回】 予習：自己概念について調べる 授業：自己分析を行う理由・自己概念：セルフイメージについて考えよう(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
3	田代 琴美	【第 3 回】 予習：記憶について調べる 授業：記憶：セルフイメージが形成された記憶を探ろう(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
4	田代 琴美	【第 4 回】 予習：自己開示・自己呈示について調べる 授業：自己開示・自己呈示：他者に見せる姿はそれぞれ異なる！？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
5	田代 琴美	【第 5 回】 予習：自己効力感について調べる 授業：自己効力感：自分に自信があるってどういうこと？(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
6	田代 琴美	【第 6 回】 予習：認知について調べる 授業：認知：自分のものの見方の特徴を知ろう(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
7	田代 琴美	【第 7 回】 予習：道徳性について調べる 授業：道徳性：あなたは善人？悪人？(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
8	田代 琴美	【第 8 回】 予習：知能について調べる 授業：知能：あなたの知的な側面は？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
9	田代 琴美	【第 9 回】 予習：感情について調べる 授業：感情：あなたの感情はどう動く？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
10	田代 琴美	【第 10 回】 予習：ストレスについて調べる 授業：ストレス：どんなことにストレスを感じる？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	

11	田代 琴美	【第 11 回】 予習：ソーシャルサポートについて調べる 授業：ソーシャルサポート：困った時はどうする？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
12	田代 琴美	【第 12 回】 予習：社会的スキルについて調べる 授業：社会的スキル：あなたのコミュカはどれくらい？(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
13	田代 琴美	【第 13 回】 予習：親子関係について考える 授業：親子関係：親との関係性はどうか？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
14	田代 琴美	【第 14 回】 予習：キャリアについて調べる 授業：キャリア：あなたにとって仕事って何だろう？ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
15	田代 琴美	【第 15 回】 予習：今までの授業内容についてまとめる 授業：総括 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	ワークシートやアクションペーパーの提出を求めた際には次回の授業内でフィードバックまたは全体講評を行う。							
テキスト・教材	教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。							
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法	ワークシートやアクションペーパーの提出 60%（4 点×15 回分）、最終レポート課題 40%として評価を行う。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎			○
関連科目	セルフプロデュース							
その他	グループワークやペアワークなどは受講者数に応じて形式を変更する。 なお、シラバスに記載した各回のテーマは授業進行により適宜、変更することがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-12（J）			授業コード	FB0330
科目名称	ビジネスと心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Business and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	澤田 葉月			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	澤田 葉月			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	この講義では、社会や職場で起こる様々な出来事について、特に対人関係に関わることに注目しながら、社会心理学、感情心理学、臨床心理学の領域からテーマを選び、その理論と実践を学ぶ。心理学が我々の生活にどのように活かされているのか、また活かされ得るのか、講義とグループディスカッションやグループワークを通して理解を深める。				
到達目標	本講義を通じて以下の 3 点を目標とする。 1．集団における自己あるいは他者の心理・行動・認知への理解を深める 2．日々の生活や職場で生じるストレスについて理解を深め、自分なりの対処ができるようになる 3．日々の生活や職場で、よりよい対人関係を築けるよう、理論を応用できるようになる				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	澤田 葉月	【第 1 回】 予習：シラバスを読んで、質問や確認事項があればまとめておく 授業：ガイダンス（授業内容、講義の進め方、注意事項の確認）と導入 復習：関心のあるテーマについてまとめる			
2	澤田 葉月	【第 2 回】 予習：自己意識や自己開示、自己呈示について調べる 授業：自己とは？ 復習：自己呈示の戦術や自己開示の機能について復習し、まとめる			
3	澤田 葉月	【第 3 回】 予習：印象形成（例えば、初頭効果やステレオタイプなど）について調べる 授業：印象形成 復習：印象形成や対人認知に関わる理論について、理解したことをまとめる			
4	澤田 葉月	【第 4 回】 予習：態度について調べる 授業：態度と行動（グループワーク） 復習：日々の自身の行動に、本時に学んだ理論をあてはめ、振り返る			
5	澤田 葉月	【第 5 回】 予習：これまでに説得された経験や自分が説得し、成功した経験を書き出しておく 授業：説得（グループディスカッション/グループワーク） 復習：身近な人々に対し、学んだ理論を用いて説得や交渉を行ってみる			
6	澤田 葉月	【第 6 回】 予習：これまでの集団行動や集団での葛藤のエピソードを思い出し、書き出しておく 授業：集団行動の特性（グループディスカッション/グループワーク） 復習：集団行動を促進、抑制する心理について、そのポイントを整理する			
7	澤田 葉月	【第 7 回】 予習：リーダーシップについて調べる 授業：リーダーシップ（グループディスカッション/グループワーク） 復習：サークルやアルバイトなど、生活の中で学んだ理論を応用してみる			
8	澤田 葉月	【第 8 回】 予習：コミュニケーションについて、その種類などを調べる 授業：コミュニケーション（グループワーク） 復習：学んだことを基に、よりよいコミュニケーションを生活の中で実践する			
9	澤田 葉月	【第 9 回】 予習：ストレスやバーンアウトについて調べる 授業：ストレスとその影響 復習：ストレスとその影響について、理解したことをまとめる			
10	澤田 葉月	【第 10 回】 予習：自分の感情に意識を向け、その変化や特徴的なエピソードを記録する 授業：感情知覚や感情調整の発達 復習：感情について、自身の経験やそれに対する考えをまとめる			
11	澤田 葉月	【第 11 回】 予習：感情の制御方略について調べる 授業：ストレスへの対処①（感情コントロール）（グループワーク）			

科目分類	112-330-13	授業コード	FB0340
科目名称	セルフプロデュース	単位数	2.0 単位
英文名称	Self Produce	授業区分	講義
科目責任者	田代 琴美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 琴美	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本授業では自分らしさについて考え、自分の強みを見つけながら、それを社会の中でどのように活かしていくかといったセルフプロデュースについて具体的に検討していく。積極的なグループワーク（ペアワーク）を通して、様々な側面からの自己表現や自己演出をいかに他人に伝えられるかといった対人認知や印象形成などの知識を身につける。		
到達目標	授業を通して、自分を理解する・自分に合うものを探す・自分の強みを伸ばすといったセルフプロデュースを考えながら、なりたい自分になるといった自己実現を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田代 琴美	【第 1 回】 予習：シラバスを確認しておく 授業：オリエンテーション 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
2	田代 琴美	【第 2 回】 予習：好きな芸能人はどのような人物なのかを詳しく調べ、まとめる 授業：セルフプロデュースをする意味について考える①(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
3	田代 琴美	【第 3 回】 予習：選挙ポスターについて検索する 授業：セルフプロデュースをする意味について考える② 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
4	田代 琴美	【第 4 回】 予習：自分の外見の変化したタイミングを確認し、説明できるようにしておく 授業：自分らしさについて考える①外見への理解（服装やメイク等） 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
5	田代 琴美	【第 5 回】 予習：自分の内面が変化したと感じた経験を思い出し、説明できるようにしておく 授業：自分らしさについて考える②内面への理解 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
6	田代 琴美	【第 6 回】 予習：自分らしいこと/ものを挙げておく 授業：自分に合うものを知る① 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
7	田代 琴美	【第 7 回】 予習：自分が好きなこと/ものの中で他者から似合っていないと言われたこと/ものを探しておく 授業：自分に合うものを知る②(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
8	田代 琴美	【第 8 回】 予習：自分はどのような人と仲良くなるのか、仲良くなれない人はどのような人かを考えておく 授業：自分に合うものを知る③ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
9	田代 琴美	【第 9 回】 予習：自分自身の魅力を考える 授業：自分の強みを伸ばす① 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
10	田代 琴美	【第 10 回】 予習：就職活動について調べる 授業：自分の強みを伸ばす②(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	
11	田代 琴美	【第 11 回】 予習：自己表現方法について考える 授業：自分の強みを伸ばす③(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる	

12	田代 琴美	【第 12 回】 予習：ロールモデルという言葉について調べる 授業：自分の強みを伸ばす④ 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる							
13	田代 琴美	【第 13 回】 予習：自分が誰かをプロデュースする場合はどのように行うかを考えてみる 授業：プロデュースしてみよう① 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる							
14	田代 琴美	【第 14 回】 予習：発表の準備をする 授業：プロデュースしてみよう②(グループワーク) 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる							
15	田代 琴美	【第 15 回】 予習：自分自身のセルフプロデュースについてまとめる 授業：総括 復習：本日学んだ授業を振り返り、まとめる							
授業開始前学習		今の自分について客観的に考え、なりたい自分をイメージしておくと授業内容が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		ワークシートやアクションペーパーの提出を求めた際には次回の授業内でフィードバックまたは全体講評を行う。							
テキスト・教材		教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。							
参考書		必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		ワークシートやアクションペーパーの提出 60%（4 点×15 回分）、最終レポート課題 40%として評価を行う。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○		△		○	
関連科目		自己分析の心理学							
その他		グループワークやペアワークなどは受講者数に応じて形式を変更する。 なお、シラバスに記載した各回のテーマは授業進行により適宜、変更することがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12（J）			授業コード	FB0510
科目名称	チームビルディング			単位数	2.0 単位
英文名称	Team Building			授業区分	講義
科目責任者	平山 智史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平山 智史			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	我々は社会活動において何らかのチームに属し、その中でさまざまな役割を担っている。変化し続け予測困難で複雑化・多様化する社会においては、チームの力を最大化・効率化し、柔軟に対応するための基本的な考え方や行動がますます重要になる。この授業では身近なチームの事例や現象を分析し、グループワークでの体験を通じてチームビルディングのための実践的なノウハウを学ぶ。 専用授業サイト【T.Hirayama Lecture Note】に講義内容を掲載し、授業、予習、復習のためのツールとする。 URL https://hifumi3.jimdofree.com/ （事前案内ページの参照パスワードは"komajo"） また、社会組織の中で重要なメールコミュニケーションを実践し学ぶ。				
到達目標	・ケーススタディを通じてチームビルディングの考え方を身に付ける。 ・人が動き、人を動かすコミュニケーション力を身に付ける。 ・チームビルディングの必要条件を理解し行動できるようにする。 ・グループワークを通じて自分がチームに貢献できる自分の長所を知る。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	平山 智史	【第 1 回】 予習：シラバスと受講目的を確認する 授業：ガイダンス、チームビルディングとは 復習：チームビルディングの意義を確認する			
2	平山 智史	【第 2 回】 予習：身近なチームの事例について確認する 授業：チームビルディングの必要性について 復習：身近なチームの 3 要件について確認する			
3	平山 智史	【第 3 回】 予習：事例資料に掲載されているチームの目的を確認する 授業：チームビルディングの基本 1：目的共有 復習：目的と目標の違いを確認する			
4	平山 智史	【第 4 回】 予習：自分がチームに迷惑をかけた事例を確認する 授業：チームビルディングの基本 2：情報共有 復習：自分の会話事例について改善案をまとめる			
5	平山 智史	【第 5 回】 予習：事例資料に掲載されているチームメンバーの行動を確認する 授業：チームビルディングの基本 3：貢献意欲 復習：身近なチームの「のりしろ」について確認する			
6	平山 智史	【第 6 回】 予習：事例資料について身近なチームのケースを確認する 授業：チームビルディングの基本 4：個のパフォーマンス 復習：身近なチームにおけるメンバーと役割を確認する			
7	平山 智史	【第 7 回】 予習：事例資料に掲載されているチームの成果について調べる 授業：チームビルディングの基本 5：チームのパフォーマンス 復習：身近なチームの 3 要素についてそれぞれ評価する			
8	平山 智史	【第 8 回】 予習：自分の意図が相手に伝わらなかった会話事例について確認する 授業：コミュニケーションの成立条件 復習：コミュニケーションの成立条件を自分の属するチームで確認する			
9	平山 智史	【第 9 回】 予習：相手を選んで話をした事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 1：言及範囲 復習：言及範囲を決定する要因についてまとめる			

10	平山 智史	【第 10 回】 予習：優先順位を意識して話をした事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 2：優先順位 復習：過去の会話の優先順位の妥当性について確認する						
11	平山 智史	【第 11 回】 予習：相手にすぐに話をしなかった事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 3：タイミング 復習：会話のタイミングを決定する要因をまとめる						
12	平山 智史	【第 12 回】 予習：身近なイベントについて集合日時の決定プロセスについて確認する 授業：コミュニケーションの基本 4：効率 復習：会話効率を上げるためのポイントをまとめる						
13	平山 智史	【第 13 回】 予習：自分が説得された会話事例について確認する 授業：コミュニケーションの基本 5：魅力 復習：コミュニケーションが魅力的になるポイントをまとめる						
14	平山 智史	【第 14 回】（期末レポート） 予習：授業で扱った事例を確認する 授業：期末レポート提出：チームビルディングの事例 復習：期末レポートについて自己レビューする						
15	平山 智史	【第 15 回】 予習：期末レポートの事例を身近な例に置き換え確認する 授業：期末レポートの講評とチームビルディングの要点を確認する 復習：授業で得たチームビルディングに関する成果を再確認する						
授業開始前学習		今まで自分が属したチームについて列挙する。						
授業内課題のフィードバックの方法		・出席メモについては、毎回個別にポータルでフィードバックし、次回授業内でレビューとして解説する。 ・期末レポートについては、最終回授業にて全体の講評を行う。						
テキスト・教材		テキストは使用しない。 必要な資料は授業サイトにて適宜案内する。 テーマによりネット上のビデオ・記事を視聴・閲覧する。						
参考書		適宜資料を配布、または Web 上の資料を URL で案内する。						
評価の基準と方法		配点は以下のとおりとし、単位取得には 60 点以上の得点が必要とする。 ・毎回の授業活動（出席メモ 15 回分各回 4 点）の合計 60 点 ・期末レポート（第 14 回授業内）20 点 ・質問、関心、貢献など普段の取り組み姿勢の評価 20 点						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	○
関連科目	後期「組織マネジメント」							
その他	身近なテーマを真剣に議論する学生参加型の授業とするため、授業への貢献度を評価基準の一つとする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	大企業にて開発、海外駐在、企画、設計、社長直轄事業開発、統括部長職、社内教育機関、研究戦略、品質関連会社など多様な職種・職場を経験し、個人企業（現職）に至る 40 年以上の管理職・経営者・プロジェクトリーダーとしての経験を元に、チームビルディングにおける要点、考え方、実際の課題とその解決指針について講義する。							

自己表現法 I

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0350
科目名称	自己表現法 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Method of Self-Expression I	授業区分	講義
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	自己を表現するとはどういうことか。どうする方法があるのか。また、どう表現をしたら相手にどう理解されるのか。本講義では芸術・芸能関係等、表現の現場における実例や、コミュニケーション技法を中心に、より良い人間関係を築くための方法について研究する。また、演劇や音楽などの感情表現をもとに自己表現について考察する。		
到達目標	より良い人間関係というものを理解する。自分の感情や表現をコントロールし、コミュニケーションに活かせるような知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 : 自分自身について考える 授業 : 授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 : どういう自分になれるかイメージする	
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 : 自己表現について考える 授業 : 自己表現とはなにか 復習 : 自身の日常に活かせるか考える	
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 : 自分の歴史を思い返す 授業 : 自分自身を知る 復習 : 社会に出た時の自分をイメージする	
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 : 自分の緊張の度合いを確認する 授業 : 人前であがらないために 復習 : 日常の中で実践してみる	
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 : 人間の感情について考えておく 授業 : 感情表現と自己表現 復習 : 人の気持ちについて考える	
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 : 自分の人間関係について考えてみる 授業 : より良い人間関係を築く 1 相手の気持ちを考える 復習 : 苦手な人とコミュニケーションを取る	
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 : 前回は踏まえ自分でできることをイメージする 授業 : より良い人間関係を築く 2 言葉の使い方を見直す 復習 : 自分のコミュニケーションを検証する	
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 : 自分の友人について考える 授業 : 友人関係について 復習 : どのように付き合っていくかイメージする	
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 : 自分の恋愛観について考えておく 授業 : 恋愛関係について 復習 : 自分自身がどうあるべきか考える	
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 : 身近な人とのコミュニケーションについて考えておく 授業 : アサーションの実例 1 身近な人に対する自己表現 復習 : 自身の人間関係に活かせるようイメージする	
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 : オフィシャルな場でのコミュニケーションについて考えておく 授業 : アサーションの実例 2 オフィシャルな場での自己表現 復習 : 自分が努力できるポイントを確認する	

12	郷田 ほづみ	【第 12 回】 予習 : これまでの人との接し方について考えておく 授業 : 初対面の人と打ち解けるには 復習 : 改善点があれば実践する							
13	郷田 ほづみ	【第 13 回】 予習 : 提出したレポートの発表がスムーズにいくよう準備する 授業 : レポートの発表 1 復習 : 次回に備え検証する							
14	郷田 ほづみ	【第 14 回】 予習 : 前回や他の人の発表を参考にイメージする 授業 : レポートの発表 2 復習 : 自分の問題点について考える							
15	郷田 ほづみ	【第 15 回】 予習 : これまでの授業を振り返っておく 授業 : これまでの復習と疑問点の確認 復習 : どのようにすれば自分に活かせるか考える							
授業開始前学習		特に必要としない。							
授業内課題のフィードバックの方法		13 週目に提出するレポートについては、翌週に簡単な発表の場を設け、個別の質問にも対応する。							
テキスト・教材		特定のテキストや教材は使用しない。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度（５０％）およびレポート（５０％）にて成績を評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○	△				
関連科目		「コミュニケーション実習Ⅰ、Ⅱ」とリンクする内容があるので、実習でシミュレーションすることにより、理解が深まる。							
その他		履修希望者が教室の収容人数を超えた場合には、履修制限を行う可能性もある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

自己表現法Ⅱ

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0360
科目名称	自己表現法Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Method of Self-Expression Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会に出てからの人間関係や、様々なシチュエーションにおいて、自己を表現することの必要性について理解を深め、よりイメージできるようにすることを目的とする。自分の思考を、または自分自身をより明確に相手に伝えるためのプレゼンテーションについて考えとともに、面接試験等においての自己アピールの方法について探って行く。		
到達目標	社会生活をおくる上で自己を表現することの必要性を理解し、実践できるようになる。他の人と上手くコミュニケーションを取ることがを常に考える習慣を作る。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 : 自己表現について考えておく 授業 : 授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 : どういう表現を身に付けたいかイメージする	
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 : 人間のキャラクターについて考えておく 授業 : 人に好かれるキャラクターとは 復習 : 自分のキャラクターを考える	
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 : 人間観察をしてみる 授業 : 自己をアピールする 復習 : 様々な場面での自己アピールをイメージする	
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 : プレゼンテーションについて調べておく 授業 : プレゼンテーションの方法 復習 : 実践できるようイメージしてみる	
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 : 気配り・心配りについて考えておく 授業 : 気の利く人とは 復習 : 日常の生活に活かしてみる	
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 : TV など興味深い会話をする人をチェックする 授業 : 会話術 1 相手を引き付ける会話とは 復習 : 自身の人間関係の中で試してみる	
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 : 周りの人の会話をチェックしてみる 授業 : 会話術 2 わかりやすく話すには 復習 : すぐにできる部分を実践する	
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 : 正しい日本語に関して考えておく 授業 : 敬語について 復習 : 自分の敬語が正しいか検証する	
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 : 将来就きたい職業について考えておく 授業 : 就職試験と自己表現 1 自分自身を知るために 復習 : 準備できる部分に取り掛かる	
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 : 就職に関してより具体的に考える 授業 : 就職試験と自己表現 2 面接試験について 復習 : 実際の面接等をイメージする	
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 : 普段の自分の話し方を見つめなおしてみる 授業 : 話し方の裏技 復習 : 実践することで理解を深める	

12	郷田 ほづみ	【第 12 回】 予習 : 関連する本などを読んでみる 授業 : コミュニケーションと自己表現 復習 : 人に伝わる話し方について考える							
13	郷田 ほづみ	【第 13 回】 予習 : 提出したレポートの発表がスムーズにいくよう準備する 授業 : レポートの発表 1 復習 : 次回に備え検証する							
14	郷田 ほづみ	【第 14 回】 予習 : 前回や他の人の発表を参考にイメージする 授業 : レポートの発表 2 復習 : 自分の問題点について考える							
15	郷田 ほづみ	【第 15 回】 予習 : これまでの授業を振り返っておく 授業 : これまでの復習と疑問点の確認 復習 : どのようにすれば自分に活かせるか考える							
授業開始前学習		特に必要としない。							
授業内課題のフィードバックの方法		13 週目に提出するレポートについては、翌週に簡単な発表の場を設け、個別の質問にも対応する。							
テキスト・教材		特定のテキストや教材は使用しない。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度（５０％） およびレポート（５０％）にて成績を評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○	△				
関連科目		「コミュニケーション実習Ⅰ、Ⅱ」とリンクする内容があるので、実習でシミュレーションすることにより、理解が深まる。							
その他		履修希望者が教室の収容人数を超えた場合には、履修制限を行う可能性もある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-22	授業コード	FB0370
科目名称	コミュニケーション実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会生活を営む上で人と人がコミュニケーションを取ることは必要不可欠である。より良いコミュニケーションを取るために、会話中の頭の回転を速くし、相手にどのように伝わっているか常に考えるトレーニングを行う。基礎的な演技レッスンを行うことによって、コミュニケーションを体感し、実生活に応用できる技術を習得する。		
到達目標	コミュニケーションの重要性を理解する。適切な発声、正しい発音ができるようになる。人前で発言することに慣れる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 : コミュニケーションに対する意識を高めておく 授業 : 授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 : 目的意識を持ち、イメージする	
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 : 自己紹介できるよう準備する 授業 : 自己紹介 インタビュー (実習) 復習 : より良い自己紹介を完成させる	
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 : どのくらい声が出せるか確認しておく 授業 : 発声法 1 腹式呼吸 効率の良い声の出し方 (実習) 復習 : 練習した事を確認する	
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 : 声を出して喉を暖めておく 授業 : 発声法 2 発声・発音練習 (実習) 復習 : 練習を習慣づける	
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 : 自身の喜怒哀楽について考える 授業 : 感情表現の基礎 (実習) 復習 : イメージした表情ができるよう意識する	
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 : 他人の気持ちについて考える 授業 : 感情表現の実践 (実習) 復習 : 様々な表現ができるよう試してみる	
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 : 軽く身体を動かしておく 授業 : 即興劇 1 会話の基本 (実習) 復習 : 問題点を確認して次回に備える	
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 : ストレッチなどをして身体をほぐしておく 授業 : 即興劇 2 臨機応変な対応 (実習) 復習 : 他の人の表現などを参考にする	
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 : 人間観察をしてみる 授業 : エチュード 1 頼み事をする (実習) 復習 : 人に気を使えるよう意識する	
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 : 人間観察をさらに深める 授業 : エチュード 2 頼み事を断る (実習) 復習 : 苦手な部分があれば意識する	
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 : 声の演技についてイメージする 授業 : アフレコ実習 1 ラジオドラマ作品等 (実習) 復習 : 次回に備え練習する	

12	郷田 ほづみ	【第 12 回】 予習 : 発声・発音練習をしておく 授業 : アフレコ実習 2 アニメーション作品等 (実習) 復習 : うまいかなかった部分を練習する						
13	郷田 ほづみ	【第 13 回】 予習 : 事前に練習した感情表現を意識しておく 授業 : ミニドラマの準備 (実習) 復習 : 次回に完成できるように考える						
14	郷田 ほづみ	【第 14 回】 予習 : 前回の展開を踏まえイメージする 授業 : ミニドラマの完成 (実習) 復習 : さらに良くするためにはどうすればいいか考える						
15	郷田 ほづみ	【第 15 回】 予習 : これまでの授業を振り返っておく 授業 : これまでの復習と疑問点の確認 復習 : 自分の問題点を整理する						
授業開始前学習		正しい日本語の発音・発声がすべての基本となるので、意識しておくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回実技実習を行い、その都度個別の質問に答える。						
テキスト・教材		必要に応じて授業時に配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		実習科目であるため、特に参加度（６０％）を重視し、授業態度（２０％）および実技（２０％）にて成績を評価する。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			○	
関連科目	コミュニケーションを取るには、自分自身を表現することが必要である。「自己表現法Ⅰ、Ⅱ」で論理的に解説している。							
その他	本科目は実習であるため履修人数を制限する。規定人数を超えた場合、人間関係専攻学生を優先する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-22	授業コード	FB0380
科目名称	コミュニケーション実習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	郷田 ほづみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	郷田 ほづみ	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	より良い人間関係を築くために必要な、自分も相手も大切にしたい自己表現法の習得を目的とする。即興劇やエチュード等による基礎的な演技レッスンをさらに発展させ、模擬的な番組制作や会議を行うことにより、効果的なコミュニケーションに対する理解を深め、スキルを向上させる。		
到達目標	オフィシャルな場での会話がスムーズにできるようになる。相手に合わせるコミュニケーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	郷田 ほづみ	【第 1 回】 予習 : コミュニケーションに対する意識を高めておく 授業 : 授業のガイダンス 講義内容の説明 復習 : 授業内容を聞いた上でイメージする	
2	郷田 ほづみ	【第 2 回】 予習 : 事前に声を出しておく 授業 : 台詞の練習 1 舞台作品の台本より抜粋 (実習) 復習 : 練習した台本を覚える	
3	郷田 ほづみ	【第 3 回】 予習 : 発声練習をしておく 授業 : 台詞の練習 2 映像作品の台本より抜粋 (実習) 復習 : より自然に言えるよう練習する	
4	郷田 ほづみ	【第 4 回】 予習 : ディベートについて調べておく 授業 : ディベート実習 1 身近なテーマで (ディベート) 復習 : 授業を振り返り次回に備える	
5	郷田 ほづみ	【第 5 回】 予習 : はっきりとした声が出せるか確認する 授業 : ディベート実習 2 社会的なテーマで (ディベート) 復習 : 常に自分の意見を持つよう心がける	
6	郷田 ほづみ	【第 6 回】 予習 : プレゼンテーションについて調べておく 授業 : プレゼンテーション実習 1 内容を決めて組み立てる (プレゼンテーション) 復習 : 問題点を修正する	
7	郷田 ほづみ	【第 7 回】 予習 : プレゼンテーションの方法を考える 授業 : プレゼンテーション実習 2 実際に人前で説明する (プレゼンテーション) 復習 : どうすればより良くなるか考える	
8	郷田 ほづみ	【第 8 回】 予習 : どんな質問をするか考える 授業 : インタビュー実習 1 同世代の相手に聞く (実習) 復習 : 受け答えが適切だったか検証する	
9	郷田 ほづみ	【第 9 回】 予習 : 前回の授業を踏まえイメージする 授業 : インタビュー実習 2 架空の職業人に聞く (実習) 復習 : 日常生活に活かす方法を考える	
10	郷田 ほづみ	【第 10 回】 予習 : 声の演技についてイメージする 授業 : アフレコ実習 1 洋画等 (実習) 復習 : 次回に備え練習する	
11	郷田 ほづみ	【第 11 回】 予習 : 発声・発音練習をしておく 授業 : アフレコ実習 2 海外ドラマ等 (実習) 復習 : うまいいかなかった部分を練習する	

12	郷田 ほづみ	【第 12 回】 予習：実際にラジオ番組を聴いておく 授業：模擬ラジオ番組実習 1 複数人数でトーク番組（実習） 復習：他の人の実演を参考に自身を検証する						
13	郷田 ほづみ	【第 13 回】 予習：声が出るよう身体を動かしておく 授業：模擬ラジオ番組実習 2 1 人で語る情報番組（実習） 復習：人に伝える話し方について考える						
14	郷田 ほづみ	【第 14 回】 予習：自分の不得意な部分を確認する 授業：質疑応答 コミュニケーションの実践（実習） 復習：自分の問題点を整理する						
15	郷田 ほづみ	【第 15 回】 予習：これまでの授業を振り返っておく 授業：これまでの復習と疑問点の確認 復習：どのようにすれば成長できるか考える						
授業開始前学習		正しい日本語の発音・発声がすべての基本となるので、意識しておくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回実技実習を行い、その都度個別の質問に答える。						
テキスト・教材		必要に応じて授業時に配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		実習科目であるため、特に参加度（60％）を重視し、授業態度（20％）および実技（20％）にて成績を評価する。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎	○			○	
関連科目	コミュニケーションを取るには、自分自身を表現することが必要である。「自己表現法Ⅰ、Ⅱ」で論理的に解説している。							
その他	本科目は実習であるため履修人数を制限する。規定人数を超えた場合、人間関係専攻学生を優先する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-12 (J)	授業コード	FB0390
科目名称	報道とメディア	単位数	2.0 単位
英文名称	Press and Media	授業区分	講義
科目責任者	佐々木 竜介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐々木 竜介	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	—	研究室	—
授業概要	新聞・テレビ・ラジオ・雑誌・インターネットのマスを中心としたメディアについて、各メディアの歴史や、それを提供するメディア企業の成り立ちを学ぶ。 メディア成立の背景を学ぶことで、メディアが発するメッセージの裏側を読み取り、メディアが発信する情報に対する理解をこれまで以上に深めることを目標とする。		
到達目標	5 マスメディアの違いについて、成り立ち、物理的性質、企業経営など複数の地点からその特性を述べられる知識を得るとともに、メディアの形態とコンテンツの関係を説明するための能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐々木 竜介	【第 1 回】 予習：新聞、テレビ、雑誌、インターネットの各メディアへ主体的に接触する 授業：最近の事象をもとにしたメディアに関する考察 復習：配布物の再読、メディアについて再考する	
2	佐々木 竜介	【第 2 回】 予習：講義ノート P6-11 の閲読、メディアの機能について考察する 授業：コミュニケーションとメディア 復習：講義ノート P6-11 の読み返し、コミュニケーションとメディアに関する課題を再考する	
3	佐々木 竜介	【第 3 回】 予習：講義ノート P12-20 の閲読、新聞の歴史について考察する 授業：新聞メディアの歴史と特性①（新聞の歴史と新聞社の経営） 復習：講義ノート P12-20 の読み返し、新聞社の経営に関する課題を再考する	
4	佐々木 竜介	【第 4 回】 予習：講義ノート P21-29 の閲読、新聞を一通り閲読する（日付は問わず） 授業：新聞メディアの歴史と特性②（新聞のメディア特性） 復習：講義ノート P21-29 の読み返し、新聞のメディア特性に関する課題を再考する	
5	佐々木 竜介	【第 5 回】 予習：講義ノート P30-37 の閲読、雑誌の歴史について考察する 授業：雑誌メディアの歴史と特性①（雑誌の歴史と雑誌の経営） 復習：講義ノート P30-37 の読み返し、雑誌の歴史に関する課題を再考する	
6	佐々木 竜介	【第 6 回】 予習：講義ノート P38-42 の閲読、女性誌を複数誌閲読する 授業：雑誌メディアの歴史と特性②（女性誌の歴史と特性） 復習：講義ノート P38-42 の読み返し、女性誌に関する課題を再考する	
7	佐々木 竜介	【第 7 回】 予習：講義ノート P43-51 の閲読、放送の歴史について考察する 授業：放送メディアの歴史と特性①（放送の歴史と放送局の経営） 復習：講義ノート P43-51 の読み返し、放送局の経営に関する課題を再考する	
8	佐々木 竜介	【第 8 回】 予習：講義ノート P52-57 の閲読、バラエティー番組を視聴する 授業：放送メディアの歴史と特性②（放送のメディア特性） 復習：講義ノート P52-57 の読み返し、放送のメディア特性に関する課題を再考する	
9	佐々木 竜介	【第 9 回】 予習：講義ノート P58-65 の閲読、インターネットの歴史について考察する 授業：インターネットの歴史と特性①（インターネットの歴史とインターネット企業の経営） 復習：講義ノート P58-65 の読み返し、インターネット企業の経営に関する課題を再考する	
10	佐々木 竜介	【第 10 回】 予習：講義ノート P66-72 の閲読、インターネットの特性について考察する 授業：インターネットの歴史と特性②（インターネットのメディア特性） 復習：講義ノート P66-72 の読み返し、インターネットのメディア特性に関する課題を再考する	
11	佐々木 竜介	【第 11 回】 予習：講義ノート P73-81 の閲読、ソーシャルメディアについて考察する 授業：ソーシャルメディア 復習：講義ノート P73-81 の読み返し、ソーシャルメディアに関する課題を再考する	

12	佐々木 竜介	【第 12 回】 予習：講義ノート P82-89 の閲読、各メディア別の特性を再確認する 授業：メディアの報道 復習：講義ノート P82-89 の読み返し、メディアの報道の問題点について考察する						
13	佐々木 竜介	【第 13 回】 予習：講義ノート P90-94 の閲読、各メディアの広告に自主的に接触する 授業：広告とメディア 復習：講義ノート P90-94 の読み返し、広告とメディアに関する課題を再考する						
14	佐々木 竜介	【第 14 回】 予習：講義ノート P95-99 の閲読、各メディア別の特性を再確認する 授業：インターネット時代のメディア・リテラシー 復習：講義ノート P95-99 の読み返し、現代のメディア・リテラシーあるべき姿について考察する						
15	佐々木 竜介	【第 15 回】 予習：講義ノート P100-103 の閲読、インターネットの問題点について考察する 授業：インターネット時代の生き方 復習：講義ノート P100-103 の読み返し、現代のメディア環境について考察する						
授業開始前学習		普段の生活において、各種メディアに主体的に接していると、講義内容が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回記述式のミニ課題を出題する。評価は Classroom を通じて戻すとともに、次の講義時に解答の中から数点を選んで紹介し、講評する。						
テキスト・教材		講義ノートを配布						
参考書		講義ノートの最終ページに記載						
評価の基準と方法		講義参加の積極性 40%、ミニ課題 40%、期末レポート 20%で評価。毎回出題するミニ課題の回答も、評価の対象とする。単位取得には講義の 2 / 3 以上の出席とミニ課題の提出、レポートの提出が必要。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				○	◎		
関連科目	「新聞と報道」はメディア論のイントロダクションであり、また報道に関する深い考察が中心となるので、双方を受講することでより高いメディア・リテラシー能力を身に付けることが出来る。							
その他	初回の講義にて評価や出席など、受講の注意事項を配布するので、参照すること（初回を欠席した場合は 2 回目以降に申し出ること）。 伝達事項はポータルサイト内のクラスプロフィールに掲出する。資料は Google Classroom に本講義のクラスを作り、そこで資料の配布や、課題の受け付けなどを行う他、個別質問も受け付け、回答もここで行う。 また、内容は変更されることがある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	現在新聞社に勤務しており、職場環境およびかつてメディア研究の部署にも属していた経験を活かし、大きく変容するメディア環境について、現在進行形で講義をする。							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0410
科目名称	☆メディアと社会／情報技術と人間関係	単位数	2.0 単位
英文名称	Media and Society／Information Technology and Human Relations	授業区分	講義
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-612
授業概要	メディアとは何か、メディア論の対象と方法、メディアをめぐる社会史、メディアがつくり出す現代社会、をテーマに教科書に沿って授業を進める。		
到達目標	近代以降のメディアの技術的・社会的展開を理解するとともに、メディアを研究対象とする場合の問題設定、分析視角、方法等、メディアへのアプローチの仕方を習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：教科書の目次部分を読んでおく 授業：イントロダクション、メディアとは何か（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディア・スタディーズの輪郭（教科書 p2-13）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
3	楠田 恵美	【第 3 回】メディアの物質性・歴史性 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：サウンド、身体的パフォーマンス、声の文化（教科書 p28-31）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
4	楠田 恵美	【第 4 回】メディアの物質性・歴史性 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：文字の文化、写本の文化、印刷文化（教科書 p32-35）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
5	楠田 恵美	【第 5 回】メディアの物質性・歴史性 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：視覚メディア、写真メディア（教科書 p38-）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
6	楠田 恵美	【第 6 回】メディアの物質性・歴史性 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：ラジオ、映画というメディア（教科書 p42-45）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
7	楠田 恵美	【第 7 回】メディアの物質性・歴史性 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：テレビ、アニメというメディア（教科書 p46-49）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：インターネット（教科書 p50-51）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディア社会の構造（教科書 p54-81）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：グローバル化と文化の移動（教科書 p84-107）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	
11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディアの表象文化（教科書 p108-129）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る	

12	楠田 恵美	【第 12 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：空間を編制するメディア（教科書 p132-155）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る							
13	楠田 恵美	【第 13 回】 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディア公共圏のデザイン（教科書 p158-183）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る							
14	楠田 恵美	【第 14 回】研究方法 1-13 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディアの研究手法（教科書 研究の方法 1-13）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る							
15	楠田 恵美	【第 15 回】研究事例 1-13 予習：教科書の該当部分を読んでおく 授業：メディア論を読む（教科書 研究事例 1-13）（ディスカッション） 復習：その日の授業内容を振り返る							
授業開始前学習		テキスト『よくわかるメディア・スタディーズ[第 2 版]』の「はじめに」と「執筆者紹介・・・メディア・スタディーズを学ぶ読者へのメッセージ」に目を通し、授業全体の内容を概観する。							
授業内課題のフィードバックの方法		回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。							
テキスト・教材		伊藤守『よくわかるメディア・スタディーズ[第 2 版]』（ミネルヴァ書房）2015 年							
参考書		必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度 20%、授業内課題 30%、テスト（またはレポート） 50%により評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○	○		
関連科目		広告の研究／映像広告の研究							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆広告の研究／映像広告の研究

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0400
科目名称	☆広告の研究／映像広告の研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Research in Advertizing／History of advertising industry	授業区分	講義
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-612
授業概要	広告とは何か？授業の前半では、広告の目的、特徴、種類、効果、影響をはじめ、広告の製作や広告業界まで、広告についての基礎知識を身に付ける。授業の後半では、具体例として様々な種類の広告を取り上げ、それらを読み解いていくとともに、社会のなかで広告がどのように発信され、受容されているかを明らかにする。		
到達目標	広告を受け身で捉えるのではなく、その背景となる製作プロセス、産業構造、送り手と受け手との関係性などを意識しながら多面的に捉える視点を学び、さらには広告から文化や社会を捉える力を養う。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：広告について批判的／親和的な意見をそれぞれ書き出す 授業：イントロダクション／広告とは何か（ディスカッション） 復習：広告とは何かを自分なりに説明できるようにする	
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：広告が社会に及ぼす影響について具体例を書き出す 授業：広告の機能（ディスカッション） 復習：広告がもつ 4 つの機能を確認する	
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：広告にはどのような種類があるかできるだけ多くリストアップする 授業：広告の種類・分類（ディスカッション） 復習：広告の種類や分類を確認する	
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：広告戦略の優れている企業を挙げ、その理由を説明する 授業：広告を用いたビジネスモデル（ディスカッション） 復習：広告戦略の優れている企業の経費全体のうちに占める広告費の割合を調べる	
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：広告会社にはどのような会社があるか調べる 授業：広告の製作（ディスカッション） 復習：広告主と広告会社の関係性・分担を理解する	
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：これからの広告業界に求めるものは何か書き出す 授業：広告産業・業界（ディスカッション） 復習：これからの広告業界の課題について整理する	
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：特になし 授業：映画鑑賞（1）『トゥルーマン・ショー』[課題シートあり] 復習：課題シートを記入するほか、気づいた点、印象深かった点をメモする	
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：前回までのストーリーでわかりづかった点や疑問点があれば質問の準備をする 授業：映画鑑賞（2）『トゥルーマン・ショー』[課題シートあり] 復習：広告という切り口から本映画について論じる	
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：新聞広告の特異性について考える 授業：新聞広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する	
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：雑誌広告の特異性について考える 授業：雑誌広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する	
11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：フリーペーパーの特異性について考える 授業：フリーペーパーの分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する	

12	楠田 恵美	【第 12 回】 予習：交通・屋外広告の特異性について考える 授業：交通・屋外広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する							
13	楠田 恵美	【第 13 回】 予習：インターネット広告の特異性について考える 授業：インターネット広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する							
14	楠田 恵美	【第 14 回】 予習：SNS を用いた広告の特異性について考える 授業：SNS 広告の分析を行う（グループワーク） 復習：授業で取り上げた広告や類似する広告の社会的影響を理解する							
15	楠田 恵美	【第 15 回】 予習：特定の企業・組織の広告戦略について考える 授業：企業・組織の広告戦略 復習：これまでの授業を振り返り、総合的に広告についての理解を深める							
授業開始前学習		意識的に身の回りの広告を見つけ、分析する習慣をつけておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		回収した課題に対しては、授業中または次回授業開始前に採点結果を返却するとともに必要に応じて追加指導を行う。							
テキスト・教材		前半は、波田浩之『新版 広告の基礎』（日本実業出版社）2018 年を適宜参考にしながら授業を進める。 後半は、映画『トゥルーマン・ショー』を鑑賞するとともに個別具体的な広告をパワーポイントで映写・上映、分析する。							
参考書		必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度 20%、授業内課題 40%、授業評価課題 40%により評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		メディアと社会／情報社会と人間関係							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12 (J)			授業コード	FB0420
科目名称	☆表現活動とメディア／表現活動とビジネス			単位数	2.0 単位
英文名称	Expression Activities and Media／Expression Activities and Business			授業区分	講義
科目責任者	田澤 秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【私たちの物語を作る】 かつては専門の技術により表現されてきたものが、デジタルの技術の進歩と普及によって身近なものになった。これからは「表現する」ということには「何を言うか、どう言うか、誰に言うか」という発想や感性が必要になる。表現したい題材を見つけ、それを表現するための土台づくりをする。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。				
到達目標	メディアの進歩にともない、新しい価値を生み出すビジネスの現場では、よりいっそう対話型コミュニケーションが必要になってくる。グループで物語を 1 つ作り、紙芝居、絵本の順にコンテンツを展開し、「チームで働く力」を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習 : コマーシャルメッセージについて調べる 授業 : 「映像を読む (ポスター、テレビコマーシャルなど)」 復習 : 「映像を読む」についてレポートを書く			
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習 : 表現 (作品) のジャンルについて調べる 授業 : 「表現の現場 (マンガとコンテ、ゲーム制作など)」 復習 : 「表現の現場」についてレポートを書く			
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習 : 設定したテーマでイメージを表現する 授業 : 「表現の技術 (イメージ、記号化、メッセージなど)」 復習 : 「表現の技術」についてレポートを書く			
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習 : 紙芝居を読む 授業 : 紙芝居「紙芝居の読み方」(ディスカッション) 復習 : もう一度、紙芝居を読む			
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習 : ストーリーを作る 授業 : 紙芝居「紙芝居の作り方」(ディスカッション) 復習 : ストーリーを決める			
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習 : ページ構成を考える 授業 : 紙芝居「アイデアの出し方」(ディスカッション) 復習 : ページ構成を決める			
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習 : 紙芝居を作る 授業 : 紙芝居「画面の作り方」(ディスカッション) 復習 : レイアウトを決める			
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習 : 紙芝居を仕上げる 授業 : 発表「紙芝居のまとめ方」(ディスカッション) 復習 : 紙芝居を校正する			
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習 : 紙芝居を読む 授業 : 発表「紙芝居を演じる」(発表) 復習 : 紙芝居を装丁する			
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 : 絵本を読む 授業 : 絵本「絵本の読み方」 復習 : もう一度、絵本を読む			
11	田澤 秀司	【第 11 回】 予習 : ストーリーを作る 授業 : 絵本「絵本の作り方」			

		復習：ストーリーを決める							
12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：ページ構成を考える 授業：絵本「アイデアの出し方」 復習：ページ構成を決める							
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：絵本を作る 授業：絵本「画面の作り方」 復習：レイアウトを決める							
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：絵本を仕上げる 授業：発表「絵本のまとめ方」 復習：絵本を校正する							
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：絵本を読む 授業：発表「絵本を読み聞かせる」（発表） 復習：絵本を装丁する							
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		グループディスカッションで個別に回答し、プレゼンテーションで総括する。							
テキスト・教材		授業で適宜、配布する。							
参考書		授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○	
関連科目		前期の「企画と表現」を学ぶことで、「考え抜く力、チームで働く力」がバランスよく身につく。							
その他		課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。							

科目分類	112-330-12 (J)	授業コード	FB0430
科目名称	文化人類学	単位数	2.0 単位
英文名称	Anthropology	授業区分	講義
科目責任者	春日 聡	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	春日 聡	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	文化人類学は、私たちが現在暮らしている社会、人々、共同体、家族、社会構造などの比較を通して、自文化を再考することで固定的な考え方を相対化し、人間の本質を考えていく学問である。 本講義では、文献資料や静止画像（写真）からでは捉えることのできない「連続した時間の体験としての映像」によって、文化人類学の研究対象である「見えないもの」「聞こえないもの」について考える。一例を挙げると、映像は、時間も空間もいま・ここから隔たったものを映し出す。昔撮影された映像は、過去に見えていたものを現在ふたたび見えるようにする。現在見えているものは、やがて見えなくなる可能性がある。映像は、現在を残し、未来にふたたび見ることができるのだ。もう一例を挙げると、文化人類学の研究対象としている宗教儀礼は、神仏霊の存在を中心に置いて行われる。あなたは、カミを見たことがあるだろうか？同じく研究対象にしている年中行事では、容易には目で捉えることのできない自然の変化の中にかみと人間との接点を見出していく。本講義では、おもに「文化人類学における儀礼」に焦点を絞り映像を通して多角的に考察する。		
到達目標	映像によって映し出された「自文化」と「異文化」の比較、あるいは、事象の異質性と、背景に潜む普遍性を理解し、語ることができる能力を身につける。また、それらについて文化人類学的な視点から理解を深め、私たちが持つ固定的な文化像を批判的に論じ、再考する能力を身につけることができる。人間が映像を必要とする理由、映像と人間についての関係について考察し、共有する能力を身につけることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	春日 聡	【第 1 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」 授業：イントロダクション「人間と文化」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
2	春日 聡	【第 2 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ジョン・マーシャル、チャールズ&レイ・イームズ」 授業：ここではないどこか「映像とは何か、民俗誌とは何か」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
3	春日 聡	【第 3 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「サイレント、トーキー」 授業：映像史を映像で学ぶ「動く画、シンクロする音」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
4	春日 聡	【第 4 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「日本の神々、一神教、多神教」 授業：日本列島における信仰「神仏習合」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
5	春日 聡	【第 5 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「遠藤周作／マーティン・スコセッシ『沈黙』」 授業：日本列島における信仰「キリスト教の受容」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
6	春日 聡	【第 6 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」 授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
7	春日 聡	【第 7 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「年中行事」 授業：暦・記念的儀礼「農耕儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
8	春日 聡	【第 8 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「人生儀礼」 授業：人生における段階「通過儀礼」 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	
9	春日 聡	【第 9 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「婚姻儀礼」 授業：人生における段階「婚姻儀礼」～日本列島の民俗文化を中心に～ 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出	

10	春日 聡	【第 10 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」 授業：人生における段階「葬送儀礼」「送魂儀礼」・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出															
11	春日 聡	【第 11 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「死者儀礼」 授業：人生における段階「葬送儀礼」「送魂儀礼」・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出															
12	春日 聡	【第 12 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「シャーマニズム」 授業：治癒と公益の儀礼「シャーマニズム」・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出															
13	春日 聡	【第 13 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「無意識と創造性」 授業：治癒と公益の儀礼「シャーマニズム」・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出															
14	春日 聡	【第 14 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「宗教と世界観」 授業：宗教と世界観・前 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、リアクションペーパーの提出															
15	春日 聡	【第 15 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「トランスナショナル時代における宗教と世界観」 授業：宗教と世界観・後 復習：授業内配付レジュメ・講義内容の見直し、期末レポートの提出															
授業開始前学習		日常生活で現実的に出会う「異文化」や、テレビやインターネットなどのメディアを通して、自分とは異なる文化、習慣などに気づいたら、メモを取り、そのことについて考えておくこと。															
授業内課題のフィードバックの方法		本講義では、Google Classroom を利用し、（1）講義レジュメの各自への配付、（2）講義を受講した後、次回授業前日までに提出するリアクションペーパーの配付と提出、（3）講義で視聴する視聴覚資料の共有、以上をおこなう。提出されたリアクションペーパーの内容による適宜見直しをおこなう。また、必要に応じ記述内容を適宜、講義内で紹介してコメントする。															
テキスト・教材		毎回、講義レジュメ（掲示スライドのプリントアウト）を配付する。市販の書籍を教科書としては使用しない。参考資料（文献・Web サイト等）は、適宜配付レジュメに明記する。															
参考書		綾部恒雄・桑山敬己『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房 2006 同『詳論 文化人類学 基本と最新のトピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房 2018 祖父江孝男『文化人類学入門 <増補改訂版>』中央公論新社（中公新書）1990 波平恵美子『文化人類学 <カリッジ版>』第 2 版医学書院 2002															
評価の基準と方法		期末レポート(50%)、講義ごとに提出するリアクションペーパー(30%)、受講態度(20%)。															
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		◎				○				○							
関連科目																	
その他		講義資料として映像・音声資料を豊富に提示する。批判的に読み解いて欲しい。 なお、受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		担当教員は、フィールドワークに基づく民族誌映画の制作者である。映像と人間の関係および、映像と文化人類学の理論と実践における課題、可能性について講義する。															

☆社会学研究Ⅰ／文化社会学Ⅰ

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0440
科目名称	☆社会学研究Ⅰ／文化社会学Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology Research I/Culture and Society I	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	現代社会の諸問題について理解するために、まず、戦後の日本社会を概観する。そのうえで、現代社会における「格差」「グローバリゼーション」「ネオリベリズム」「リスク社会」等の問題について説明を行う。講義では具体例を取り上げるが、それら様々な事象が相互に関連していることや、その歴史的背景を理解することに重点を置く。また、分析のために必要な社会学理論や用語の紹介も行う。		
到達目標	到達目標は、第一に、戦後日本の社会史を理解すること、第二に、「格差」「グローバリゼーション」「ネオリベリズム」「リスク社会」等を考えることを通して、現代社会の抱える問題について思考する力を獲得することである。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習 : 新聞等でニュースに触れる 授業 : 諸注意事項、講義の進め方の確認／「時代を捉える」とは 復習 : 現代を象徴する事件や出来事を考える	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習 : 日本の戦後史を復習する 授業 : 日本の戦後：終戦から 60 年ごろまで 復習 : 冷戦構造が描かれている作品を探す	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習 : 高度成長期を象徴する事件や出来事を考える 授業 : 日本の戦後：高度成長期① 復習 : 産業構造の変容を身の回りの事例で確認する	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習 : 「普通」の家族とは何か考える 授業 : 日本の戦後：高度成長期② 復習 : 日本の近代家族の成立を確認する	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習 : オイルショックについて調べる 授業 : 日本の戦後：ポスト高度成長期 復習 : 90 年代を象徴する文化を調べる	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習 : 自分の消費行動の傾向を振り返る 授業 : 消費社会論 復習 : ボードリヤールの消費社会論を確認する	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習 : 日本における「格差」の現状を調べる 授業 : 「格差社会」とは 復習 : 90 年代以降の日本における「格差」を確認する	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習 : 格差の再生産の事例を調べる 授業 : 教育と再生産 復習 : 「再生産」概念を確認し、あるべき社会像を考える	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習 : グローバリゼーションとは何か調べる 授業 : 世界システム論、グローバリゼーションと格差 復習 : グローバル化の問題点を確認する	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習 : リベリズムについて調べる 授業 : ネオリベリズム①：リベリズムとは何か 復習 : ネオリベリズムと格差の拡大の関係を確認する	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習 : 「働き方改革」について調べる 授業 : ネオリベリズム②：ネオリベリズムの諸相	

		復習：身近な事例におけるネオリベリズムの進展を確認する						
12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：自分の人生の「リスク」について考える 授業：リスク社会 復習：安心・安全と自由の関係について自分なりに整理する						
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：身の回りの差別について考える 授業：現代社会の差別の構造 復習：差別のない社会の実現に何が必要かを考える						
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：日本国憲法について調べる 授業：日本の「戦後」のおわり：「憲法改正」を考える 復習：「憲法改正」の問題点を確認する						
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容を復習する 授業：現代社会のゆくえ 復習：課題レポートにとりくむ						
授業開始前学習		日ごろから広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に接すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題は基本的に Google フォームで課し、翌回の授業で、課題に対するフィードバックを行う。						
テキスト・教材		特に指定しない。 授業中にレジュメを配布する。						
参考書		授業中に適宜紹介する。						
評価の基準と方法		授業への取り組み（授業内課題を含む、60%）＋最終課題レポート（40%） ※単位の修得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 ※詳細については、初回授業で説明する。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は、社会学の基礎を学ぶ科目である。							
その他	・講義は、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、講義の進捗状況や社会情勢等の都合から変更する場合もある。 ・授業中の私語は禁止する。 ・講義担当教員による専門ゼミの履修者・履修予定者に対しては、本講義の受講を推奨する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0450
科目名称	☆社会学研究Ⅱ／文化社会学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology Research Ⅱ／Culture and Society Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	さまざまなポピュラー文化（文芸・映画・テレビドラマ等）を通して、私たちの社会を捉える講義である。とくに、1980 年代から 2000 年代の作品に焦点をあて、作品を紹介・概説しながら、それらを社会とのかかわりから読み解いていく。それらを踏まえ、学生には自分たちの時代（2010 年以降）の作品と社会について考えてもらいたい。受講者には社会的な諸問題およびポピュラー文化に対する強い関心が求められる。授業ではグループワークによるプレゼンを行う。		
到達目標	到達目標は、映画やテレビドラマ等の文化に触れ、それらを批評的に読み解く視座を獲得すること、そして、自分たちの社会に対して批判的に思考すること、その上で、社会のさらなる可能性への想像力を養うことである。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：現代社会を象徴する作品をひとつ挙げる 授業：授業の進め方・「文化」研究とは 復習：各自関心のある作品を紹介する	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：日本の「消費社会」について調べる 授業：80 年代の日本社会①：『なんとなく、クリスタル』 復習：両作品の相違を整理する	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：前回授業で紹介された作品について調べる 授業：80 年代の日本社会②：『PINK』 復習：消費社会論について理解する	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：90 年代の日本社会について調べる 授業：90 年代の日本社会①：『リバーズ・エッジ』 復習：消費社会におけるアイデンティティの危機について整理する	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：90 年代に流行したテレビドラマ等を調べる 授業：90 年代の日本社会②：性、死、トラウマをめぐる 復習：授業で紹介した作品のうち一つを選んで視聴（講読）する	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：『新世紀エヴァンゲリオン』ブームについて調べる 授業：90 年代の日本社会③：『新世紀エヴァンゲリオン』 復習：社会の心理主義化についてプリントを読んで整理する	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：2000 年代の日本社会について調べる 授業：2000 年代の日本社会①：『バトル・ロワイアル』 復習：格差社会について理解する	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：授業で紹介された作品を視聴する 授業：2000 年代の日本社会②：ネオリバリズム 復習：2000 年代と日本のネオリバリズムについてミニレポートをまとめる	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：『野ブタをプロデュース。』（ドラマ）について調べる 授業：2000 年代の日本社会③：バトル・ロワイアルをどう乗りこえるか 復習：プレゼングループでブレインストーミング	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：課題作品について調べる 授業：課題作品を視聴する① 復習：印象に残ったシーンなどをメモしておく	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：前回のメモを見直す 授業：課題作品を視聴する②	

		復習：グループで意見を出し合う							
12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：グループ内で出た意見を共有 授業：プレゼン作成①：資料作成（グループワーク） 復習：プレゼン資料を完成させる							
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：プレゼンの練習 授業：プレゼン作成②：資料完成とプレゼン練習（グループワーク） 復習：プレゼン練習を行う							
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：プレゼンの練習と改善点の整理 授業：プレゼン発表①（グループワーク、プレゼンテーション） 復習：プレゼンに対するコメントをメモ							
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：プレゼンの練習と改善点の整理 授業：プレゼン発表②（グループワーク、プレゼンテーション） 復習：プレゼンに対するコメントをメモ							
授業開始前学習		日ごろから、テレビドラマや映画、小説などに触れること。							
授業内課題のフィードバックの方法		適宜、課題を課し、それに対する全体的な講評を行う。 また、課題をもとにディスカッション等を行うこともある。その場合も、全体の講評を行い、個別の質問があればそれらに回答する。							
テキスト・教材		特に指定しない。適宜、資料を配布する。							
参考書		授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法		授業への参加度（授業内課題を含む、60％）と最終課題（40％）によって評価する。 なお、単位の修得には、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	○		
関連科目		「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。							
その他		・【授業内容】に記載したスケジュールは、講義の進捗状況や履修者の数、履修者の受講環境、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0460
科目名称	家族と現代社会	単位数	2.0 単位
英文名称	Family and Contemporary Society	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 宏子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 宏子	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	私たちは特殊な例を除いて、家族の中で生まれ育てられる。家族はあまりにも身近な存在であるために、家族について自分なりの見解をもち確信をもって語る者も少なくない。しかしそれは、個人の私的体験の範囲内で得た情報をベースにしている場合が多い。「家族」の歴史的な歩みを理論的・実証的に理解するとともに、家族に関する概念や客観的データ、現代社会の動きおよび国際的な状況を視野に入れながら、現代日本の家族について科学的・体系的に講義する。		
到達目標	１．日本社会のイノベーションと生活革命、少子高齢社会、大衆長寿社会、人口減少社会などの現状と課題を学び、現代社会と個人・家族の変化、個人・家族・地域社会の関係性について理解できるようになる。 ２．家族研究の各領域について事実に基づいた科学的な説明ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 宏子	【第 1 回】 予習：シラバスで授業内容を確認する。 授業：「家族と現代社会」を学ぶにあたって 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
2	佐藤 宏子	【第 2 回】 予習：自分が毎日の生活でよく使っている便利なモノについて考える。 授業：日本のイノベーションと生活革命－高度経済成長期－ 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
3	佐藤 宏子	【第 3 回】 予習：明治期から今日までの産業別就業人口の推移について調べる。 授業：日本のイノベーションと生活革命－1980 年代～現代－ 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
4	佐藤 宏子	【第 4 回】 予習：第 1 回から第 3 回に学んだ授業の内容を振り返る。 授業：日本人の生活構造とライフスタイルの変化－産業構造の変化－ 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
5	佐藤 宏子	【第 5 回】 予習：現代家族にはどのような機能があるかについて考える。 授業：変化する現代家族の機能と家族の役割－都市化と家族生活－ 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
6	佐藤 宏子	【第 6 回】 予習：「大人になる」とは自分にとって具体的にどのようなことかを考える。 授業：親子関係における家族問題－（グループディスカッション） 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
7	佐藤 宏子	【第 7 回】 予習：人生における結婚や同棲の必要性について考える。 授業：パートナーの選択と結婚（グループディスカッション） 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
8	佐藤 宏子	【第 8 回】 予習：若者の結婚難にはどのような対策が必要か考えてみよう。 授業：日本と海外の結婚の動向・結婚制度 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
9	佐藤 宏子	【第 9 回】 予習：日本における離婚の種類について調べる。 授業：離婚・再婚とステップファミリー 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。	
10	佐藤 宏子	【第 10 回】 予習：第 7 回から第 9 回に学んだ内容を振り返る。 授業：現代家族とジェンダー（１）－私たちに潜む先入観－（グループディスカッション） 復習：第 9 回授業で自分が書いた漫画の吹き出しから気づいたことをノートにまとめる。	
11	佐藤 宏子	【第 11 回】 予習：日本の男性が抱えている問題について考える。 授業：現代家族とジェンダー（２）－視聴覚教材の視聴－	

		復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。							
12	佐藤 宏子	【第 12 回】 予習：ジェンダーギャップ指数について調べる。 授業：労働と家族－ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画社会の形成－ 復習：日本政府・企業・地方自治体の取り組みについて学修した感想をノートにまとめる。							
13	佐藤 宏子	【第 13 回】 予習：「一つの声を持ちながら、朝は四本足、昼は二本足、夕は三本足」この生き物は何か？ 授業：ライフサイクル・ライフコース 復習：授業で学んだ内容をノートにまとめる。							
14	佐藤 宏子	【第 14 回】 予習：少子化の指標と原因について調べる。 授業：少子化の動向、子どもの格差と貧困 復習：「子どもの必需品」の意識調査結果について日英比較し、両国の違いをノートにまとめる。							
15	佐藤 宏子	【第 15 回】 予習：高齢者イメージについて考える。 授業：超高齢社会・高齢期の生活と課題 復習：従来の枠にとらわれずに生きる高齢者から学んだことをノートにまとめる。							
授業開始前学習		新聞などに掲載される家族に関する記事、ニュース等で報道される家族に関する話題に日頃から興味・関心を持ってください。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で講評し、各質問に答える。							
テキスト・教材		適宜、講義内で資料を配布する。							
参考書		『現代家族を読み解く 12 章』丸善出版 2018、『改訂 新しい家族関係学』建帛社 2019、『わかりやすい現代家族 第 2 版』ミネルヴァ書房 2016							
評価の基準と方法		平常点、レポートで行う。配点（100 点満点における）は平常点（リアクションペーパー）40 点、レポート 60 点とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目									
その他		授業の進捗状況によって、内容を変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12（J）			授業コード	FB0470
科目名称	環境問題と市民			単位数	2.0 単位
英文名称	Environmental Problems and Citizens			授業区分	講義
科目責任者	浅岡 みどり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅岡 みどり			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	私たちの豊かな暮らしは、自然生態系の破壊と表裏一体です。近年の気候変動の加速は自然災害を多発、激甚化させ、私たちの生活を脅かしています。この先、自然と人間は共生していけるのでしょうか？本講義では、この問いを念頭に置きながら、身近な日常生活に見え隠れする環境問題を深掘りし、持続可能な社会を築いていくための想像力を養います。まず、環境とは何か、身近な環境問題には何があるかを考えます。次に地球環境問題や公害問題、自然災害、グローバルな食や農が抱える問題について知り、その対策として自然保護運動、環境教育、公害問題に関わる住民運動、食農教育などの市民活動・地域活動の事例とその課題を見ていきます。それらの社会の動きを参考に、消費者の立場から衣・食・住に潜む環境問題と持続可能性の課題を再発見し、身近な農業・地域・自然の課題として捉え直します。これら全講義を通して、環境問題について考え、その解決の可能性を受講者とともに模索していきます。				
到達目標	環境問題をグローバルな視野を持ちつつローカルの視点で、一市民として、また自分事として捉える洞察力を鍛え身につけることが、本講義の到達目標となります。 ・環境問題を多角的に捉えられるようになる ・自らの持続可能性の課題に気づく ・消費者の立場から、生産者やそれを取り巻く自然環境への想像力を養う ・様々な市民活動から学び、自らの日常実践のヒントにする				
アクティブ・ラーニング型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	浅岡 みどり	【第 1 回】 予習：身近な環境問題とは何か、自分の課題として何があげられるか考えてくる 授業：イントロダクションー本講義の方向性とねらいー 復習：本講義の環境問題へのアプローチの方法について復習しておく			
2	浅岡 みどり	【第 2 回】 予習：身近な環境問題の解決方法にどのようなものがあるか調べておく 授業：環境とは何か？環境問題とは何か？その解決法について 復習：自分の課題として捉える環境問題の解決方法の可能性を考える			
3	浅岡 みどり	【第 3 回】 予習：地球環境問題とは何か調べてくる 授業：地球環境問題と持続可能性 復習：自分にとって持続可能性とは何か考え、地球環境問題とのかかわりを考える			
4	浅岡 みどり	【第 4 回】 予習：公害が人々や地域にあたえた影響について調べておく 授業：公害問題と住民運動・農家の試み 復習：公害について知り、公害問題に対する住民運動とその地域の人々の農業を通じた試みについて理解を深めておく			
5	浅岡 みどり	【第 5 回】 予習：自然保護運動・環境教育・自然を生かしたビジネスにはそれぞれどのようなものがあるか調べておく 授業：自然保護運動・環境教育・自然を生かしたビジネス 復習：授業で扱った自然保護運動・環境教育の歴史的な流れ、自然を利用したビジネスの可能性について理解を深めておく			
6	浅岡 みどり	【第 6 回】 予習：消費と環境問題の関係について調べておく 授業：消費と環境問題 復習：授業で扱った環境教育・市民教育について理解を深めておく			
7	浅岡 みどり	【第 7 回】 予習：環境問題として考えられる食について調べておく 授業：食から考える環境問題 復習：食からみる環境問題を社会学的に捉えてみる			
8	浅岡 みどり	【第 8 回】 予習：環境問題として考えられるファッションについて調べておく 授業：ファッションから考える環境問題 復習：ファッションからみる環境問題を社会学的に捉えてみる			

[illegible]

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0480
科目名称	☆国際社会論／現代国際社会	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory in International Society／Contemporary International Society	授業区分	講義
科目責任者	野崎 孝弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野崎 孝弘	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この講義の目的は、（１）南北問題と世界経済、国際機関に関する基本的な知識を身につけていくこと、（２）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくことの二点にある。「南北問題の解決に向けた近年の取り組み」から「国際連盟」や「国際連合」を経て「欧州連合」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。		
到達目標	（１）南北問題と世界経済、国際機関に関する基本的な知識を習得することができる。 （２）地域紛争と国際機関との関わりを、実例を通じて理解することができる。 （３）自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野崎 孝弘	【第 1 回】 予習： なし 授業： ガイダンス（受講上の諸注意）、南北問題（１） 近年の取り組み（問題解決型学習） 復習： S D G s の目標 5 で日本が低評価を受けた理由の一つである「男女間の労働格差」について調べてみる	
2	野崎 孝弘	【第 2 回】 予習： 適宜指示する 授業： 南北問題（２） 日本の開発援助政策（問題解決型学習） 復習： 日本の開発援助政策の特色について簡潔にまとめる	
3	野崎 孝弘	【第 3 回】 予習： 適宜指示する 授業： 世界経済（１） グローバリゼーションの功罪（問題解決型学習） 復習： 肯定的見解と否定的見解の双方について引き続き考えてみる	
4	野崎 孝弘	【第 4 回】 予習： 適宜指示する 授業： 世界経済（２） ファストファッションの光と影（問題解決型学習） 復習： 他の製品についても同じようなことが言えないか自主的に調べてみる	
5	野崎 孝弘	【第 5 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連盟、国際連合（１）設立の経緯（問題解決型学習） 復習： 国際連盟と国際連合の違いについて簡潔にまとめる	
6	野崎 孝弘	【第 6 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（２）主要機関と補助機関（問題解決型学習） 復習： 六つの主要機関の特色について簡潔にまとめる	
7	野崎 孝弘	【第 7 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（３）専門機関（問題解決型学習） 復習： それぞれがどのような取り組みを行っているのかを自主的に調べてみる	
8	野崎 孝弘	【第 8 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（４）関連機関、国連 N G O（問題解決型学習） 復習： それぞれがどのような取り組みを行っているのかを自主的に調べてみる	
9	野崎 孝弘	【第 9 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（５）平和維持活動（問題解決型学習） 復習： 国連による平和維持活動の原則について簡潔にまとめる	
10	野崎 孝弘	【第 10 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（６）日本と P K O（問題解決型学習） 復習： P K O における自衛隊の活動の現状について簡潔にまとめる	
11	野崎 孝弘	【第 11 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（７）国連のその他の活動（問題解決型学習） 復習： 興味を持った活動について自主的に調べてみる	

12	野崎 孝弘	【第 12 回】 予習： 適宜指示する 授業： 国際連合（８） 国連の財政、憲章改正問題 （問題解決型学習） 復習： 以前に学習した「安保理改革」について自主的に調べてみる						
13	野崎 孝弘	【第 13 回】 予習： 適宜指示する 授業： 欧州連合（１）ヨーロッパ統合の歩み （問題解決型学習） 復習： ヨーロッパ統合の歴史について簡潔にまとめてみる						
14	野崎 孝弘	【第 14 回】 予習： 適宜指示する 授業： 欧州連合（２）ブレグジットとＥＵ （問題解決型学習） 復習： ＥＵ離脱後のイギリス社会の現状について自主的に調べてみる						
15	野崎 孝弘	【第 15 回】 予習： 適宜指示する 授業： 欧州連合（３）ＥＣ／ＥＵの制度 （問題解決型学習） 復習： 欧州議会の権限が強化されてきた理由について簡潔にまとめてみる						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。						
テキスト・教材		毎回授業時にレジュメを配布する。						
参考書		適宜、授業内で指示する。						
評価の基準と方法		計３回の小テストと授業内課題の累計で評価を行う。合格点は 60 点以上とする。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にいかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成			社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		
関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、戦争と平和の歴史Ⅱ、国際社会への誘い、日本の政治、世界の政治							
その他	（１）あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。 （２）授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。 （３）配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-12 (J)	授業コード	FB0482
科目名称	グローバルズム論	単位数	2.0 単位
英文名称	Globalism Theory	授業区分	講義
科目責任者	足立 真理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立 真理	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	グローバルズムとは何か、グローバルズムがもたらす影響とはを基本的な仕組みから始まり、世の中がどのようにまわっているのかを考えていく。 日本経済はグローバルズムとは切ってもきれない関係であることを学び、グローバル経済リテラシーを高める。日々の経済ニュースが意味するものが何かを読み解いていく。		
到達目標	世の中の様々なニュースや事象について、その関係性も含めて判断できるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	足立 真理	【第 1 回】 予習： グローバリズムが使われる場面を事前に調べておく 授業： ガイダンス グローバリズムを学ぶ意味 復習： グローバリズムの現場とはどこをどこを復習する	
2	足立 真理	【第 2 回】 予習： グローバリズムとは何かを調べておく 授業： グローバリズムとは 復習： グローバリズムの現状と課題	
3	足立 真理	【第 3 回】 予習： 100 円ショップで売られている商品はどこで作られているかを調べる 授業： 商品・サービスのグローバル化 復習： 100 円ショップに行ってみて、確認する	
4	足立 真理	【第 4 回】 予習： 日本企業の海外拠点がどこにあるかを調べる 授業： 企業活動のグローバル化 復習： 多国籍企業について調べる	
5	足立 真理	【第 5 回】 予習： 金融市場とは何かを調べておく 授業： 金融、投資のグローバル化 復習： グローバル投資の現状を復習する	
6	足立 真理	【第 6 回】 予習： 人の移動について調べておく 授業： 労働のグローバル化 復習： 日本在住の外国人に必要な在留資格とは何かを調べる	
7	足立 真理	【第 7 回】 予習： アメリカがグローバルスタンダードとなっていることとは何かを調べておく 授業： 「アメリカ化」としてのグローバル化 復習： デイズニランドについて調べる	
8	足立 真理	【第 8 回】 予習： 海外で人気の日本食とはどういうものがあるかを調べる 授業： 消費文化のグローバル化 復習： 日本文化が海外でどのように変化しているのかを考える	
9	足立 真理	【第 9 回】 予習： 地球規模の環境問題を調べる 授業： 環境問題とグローバルイゼーション 復習： 世界的な環境問題の解決策をピックアップする	
10	足立 真理	【第 10 回】 予習： 身近なグローバルイゼーションを探す 授業： グローバル化を国民生活 復習： 日々の生活に密接な関係を持つグローバルイゼーションを探す	
11	足立 真理	【第 11 回】 予習： グローバリズムがもたらすメリットについて事前に調べておく 授業： グローバリズムがもたらすメリット①?豊かさを享受	

		復習： グローバリズムの好影響についてまとめる							
12	足立 真理	【第 12 回】 予習： グローバリズムがもたらすその他のメリットについて事前に調べておく 授業： グローバリズムがもたらすメリット②?多様性の受容 復習： グローバリズムのその他の好影響についてまとめる							
13	足立 真理	【第 13 回】 予習： グローバリズムによる貧富の格差とは何かを考えておく 授業： グローバリズムが生み出す課題①?貧富の格差 復習： グローバリズムの課題についてまとめる							
14	足立 真理	【第 14 回】 予習： グローバリズムによる多民族社会化とは何かを考えておく 授業： グローバリズムが生み出す課題②?多民族社会の影響 復習： グローバリズムの課題についてまとめる							
15	足立 真理	【第 15 回】 予習： これまでのふりかえり、自分の気づきをまとめておく 授業： 総括および理解度の確認 復習： これからの時代に必要なスキルを考える							
授業開始前学習		新聞、テレビなどで世界情勢の現状を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題について、実際のペーパー、あるいはオンラインにて個別にフィードバックする							
テキスト・教材		インターネット上の動画を観たり、ドキュメントを参考にした課題を出す予定です。ネット環境を確認しておいてください。							
参考書		「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」(足立真理 著)を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。							
評価の基準と方法		授業への参加と理解度合い(60%)、レポート提出(40%)							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			○	◎			
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい世界情勢を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0490
科目名称	社会学特論	単位数	2.0 単位
英文名称	Advanced Lecture on Sociology	授業区分	講義
科目責任者	三津田 悠	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三津田 悠	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	私たちの社会生活を成り立たせている重要なしくみのひとつが「道徳」——ここでは、私たちがもっている「善い／悪い」「正しい／間違っている」といった評価・判断をめぐる考え方や感覚のことを指すものとする——である。道徳は、あるときには社会生活をこれまでと同様に、円滑に進めるし、またあるときには社会生活のあり方を改善し、変革する。しかし、これら２つのはたらきは相反するものであるし、多くの場合、私たちは社会生活のあり方を変えることなど思いつきもしない。そして、その社会生活のあり方に合わせられない自分自身ないし他者を（道徳的に）責めてしまうことすらあるのではないだろうか。 それでは、私たちが自らの道徳を手がかりに社会生活のなかに問題を見出し、それを改善しようとする——社会を批判すること——はいかにして可能なのだろうか。この講義で取り組みたいのはこの問いである。全 15 回の授業をとおして、受講者の皆さんひとりひとりが（１）私たちが生きている「当たり前」の日常生活はどのように成り立っているのか、そして（２）「当たり前」の日常生活のなかに「問題」を見出し、それを「批判」するとはいかにして可能なのか、これら２つの問いに対する自らの思考を深めていくことを目指す。		
到達目標	道徳、日常生活、そして批判をめぐる社会的な見方・考え方を身につける。 社会的な見方・考え方を手がかりに、道徳と社会生活との関係について説明できるようになる。 社会的な見方・考え方を手がかりに、自らの日常生活について、そして自らがそのなかで生きている社会について、批判的に捉えられるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三津田 悠	【第 1 回】 予習： 図書館の使い方、文献の調べ方・集め方を確認しておく。 授業： イントロダクション——講義の進め方・注意事項 復習： 社会学の辞典・事典、および参考文献の利用方法を確認する。	
2	三津田 悠	【第 2 回】 予習： 「ホロコースト」について書籍や辞典・事典で調べる。 授業： 道徳とコミュニケーション（１）——Z. バウマンの道徳論 復習： 授業を振り返り、バウマン道徳論の要点を整理する。	
3	三津田 悠	【第 3 回】 予習： 「通俗道徳」について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業： 道徳とコミュニケーション（２）——バウマン道徳論からの展開 復習： 授業を振り返り、バウマン道徳論に対する批判の要点、およびさらに展開すべき論点を整理する。	
4	三津田 悠	【第 4 回】 予習： 社会学者アルフレッド・シュッツについて書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業： 日常生活の構造（１）——「当たり前」はどのように成り立っているのか 復習： 授業を振り返り、日常生活において「当たり前」がどのように成り立っているのかをシュッツの議論に沿って整理する。	
5	三津田 悠	【第 5 回】 予習： シュッツの「レリヴァンス」概念について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業： 日常生活の構造（２）——「問題」はどのように浮かび上がってくるのか 復習： 授業を振り返り、日常生活において「問題」がどのように浮かび上がってくるのかをシュッツの議論に沿って整理する。	
6	三津田 悠	【第 6 回】 予習： シュッツの「多元的現実」論について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業： 日常生活の構造（３）——「現実」はどのように構成されているのか 復習： 授業を振り返り、私たちの「現実」がどのように構成されているのかをシュッツの議論に沿って整理する。	
7	三津田 悠	【第 7 回】 予習： 社会学者ピーター・バーガーおよびトーマス・ルックマンについて書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業： 日常生活の構造（４）——「現実」はどのように構築されているのか 復習： 授業を振り返り、私たちの「現実」がどのように社会的に構築されているのかをバーガーおよびルックマンの議論に沿って整理する。	
8	三津田 悠	【第 8 回】 予習： 第 2 回から第 7 回までの配布資料やプリント（ノート）を見返しながら、授業を振り返る。 授業： 授業の中間まとめ 復習： 授業を振り返りつつ、第 2 回から第 7 回までの授業内容を 1600 字（A4 用紙 1 枚）程度の文章にまとめる。	
9	三津田 悠	【第 9 回】 予習： 「道徳経験」に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業： 道徳と批判（１）——「道徳経験」から社会批判へ 復習： 授業を振り返り「道徳経験」とはいかなる経験であるのかを整理する。	

10	三津田 悠	【第 10 回】 予習： 社会批判に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業： 道徳と批判（２）——「即自的批判」から「対自的批判」へ 復習： 授業を振り返り「道徳経験」がいかにして「対自的批判」となり得るかを整理する。						
11	三津田 悠	【第 11 回】 予習： 「初期社会科」について書籍、論文、辞典・事典を手がかりに調べる。 授業： 初期社会科の思想と実践（１）——初期社会科とは何か 復習： 授業を振り返り、初期社会科のなかで具体的にはどのような取り組みが行なわれていたのかを理解する。						
12	三津田 悠	【第 12 回】 予習： 戦後日本における社会科教育の変容に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業： 初期社会科の思想と実践（２）——戦後教育の変容と初期社会科 復習： 授業内容を振り返り、初期社会科がどのような経緯のもとで、どのように変質したのかを理解する。						
13	三津田 悠	【第 13 回】 予習： 戦後日本の道徳教育に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業： 初期社会科の思想と実践（３）——道徳教育としての初期社会科 復習： 授業内容を振り返り、初期社会科がどのような道徳教育を目指していたのかを理解する。						
14	三津田 悠	【第 14 回】 予習： 1950 年代の教育論争に関する事前に配布した資料（あるいは事前に指定した参考文献）を熟読する。 授業： 初期社会科の思想と実践（４）——初期社会科が目指したもの 復習： 授業内容を振り返り、初期社会科がどのような教育を目指していたのか、特に「社会批判」という文脈のなかで理解する。						
15	三津田 悠	【第 15 回】 予習： 第 9 回から第 14 回までの配布資料やプリント（ノート）を見返しながら、授業を振り返る。 授業： 授業のまとめ 復習： 15 回の授業全体を振り返りながら、最終レポートの草稿を作成する。						
授業開始前学習		これまで社会学の基礎科目（「社会学 I」「社会学 II」など）を受講したことがない、あるいはまた、これまで一度も社会学の議論に触れたことがない場合は、社会学の教科書や入門書（特に、理論的な考え方——マックス・ウェーバーおよびエミール・デュルケームの社会学方法論——に関する箇所）を大まかにでも読んでおくと、講義内容をスムーズに理解しやすいかもしれない。おすすめはピーター・L・バーガー著『社会学への招待』（水野節夫・村山研一訳、筑摩書房、2017 年）である。 ただし、この講義自体は受講者が社会学の基本的な知識をもっていることを前提とせず、必要な議論はすべて授業内で補足する。社会学を学んだことがなくても講義のテーマに関心があれば誰でも受講可能であるため、安心して受講していただきたい（あるいは、この授業 15 回を受けて社会学に興味を持ったときに改めて本を読んでみる、ということもあり得るだろうし、その場合でも高い学習効果が十分に期待できる）。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出された授業内課題に対するリプライを適宜 Google Classroom で行なう。また、学期末レポートについては、希望者に対してのみ、Google Classroom のコメント機能を使ってフィードバック（文章の書き方および授業の理解度に対するコメント）を行なう予定である。						
テキスト・教材		テキスト（教科書）は特に指定しない。適宜、教場で資料を配布する。						
参考書		適宜、授業内で紹介する。以下に示す文献は参考文献のうち、ごく一部である。 松沢裕作、2018、『生きづらい明治社会——不安と競争の時代』岩波書店。 アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン、那須壽監訳、2015、『生活世界の構造』筑摩書房。 上田薫、1992、『知られざる教育——抽象への抵抗』上田薫著作集第 1 巻、黎明書房。						
評価の基準と方法		学期末のレポートによって評価する（100%）。ただし、出席状況、および授業内課題・追加課題の提出状況に鑑みて加点する場合がある。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			◎	○		
関連科目	特になし							
その他	・講義の進捗状況、社会情勢の変化、受講者の関心等々に鑑み、授業計画を変更する場合がある。 ・講義中、長時間にわたる首の発生については口頭で注意し、場合によっては退席を求めることがある。 ・社会学的な見方・考え方を学ぶうえで参考になる本をなるべく多く紹介する予定である。1 冊でも（願わくは 1 冊でも多く）手に取っていただければ幸いです。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	該当なし							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0500
科目名称	職業の世界	単位数	2.0 単位
英文名称	Career and Workplace	授業区分	講義
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	「企業組織における労働を、人びとの日常生活との関わりの中で捉えることによって、わたしたちにとって身近で切実な問題として社会学的に掘り下げて考察してみよう」というのが本講のねらいです。日本のホワイトカラーの職場をおもな考察対象に取り上げ、その「現場」について具体的に紹介しつつ、職場世界における諸現象、および、オフィス・ワーカーたちの働き方、女性労働をめぐる諸課題、人びとの社会生活と企業との関わりを社会学的・現代社会論的視点から考察します。		
到達目標	次の 3 点が目標です。 1. 日本の職場世界とホワイトカラーの業務について現実的なイメージをつかむ 2. 組織のなかで個人が期待される役割を個人行動との比較の視点で理解する 3. 女性が働く環境とその課題について理解する		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション 復習：Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認してください。	
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：第 1 回の配布資料を再読し、授業運営についての質問があればまとめてください。 授業：ホワイトカラー労働の特質 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：「サラリーマン・OL」のイメージについてまとめてください。 授業：日本のカイシャ ――日本企業の職場世界（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：“サラリーマンの一日の仕事”について Web 等で情報収集してみてください。 授業：ホワイトカラーの業務（課題解決型学習・グループワーク） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。	
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：「日本的経営」についてリサーチしてください。 授業：ホワイトカラーの組織とキャリア形成 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：いくつかの企業 Web サイト（「会社概要」欄）から社内の部署・組織構成についてリサーチしてください。 授業：組織における情報伝達（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。	
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：ビジネス文書の書き方についてリサーチしてください。 授業：官僚制と組織コミュニケーション（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。	
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：「事業化調査」（feasibility study）についてリサーチしてください。 授業：企画と執行 ――仕事の段取り（課題解決型学習・グループワーク） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。	

9	榎本 環	【第9回】 予習：『管理される心』（ホックシールド、2000）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください（インターネット等で（以下同様））。 授業：マクドナルド化と感情マネジメント（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
10	榎本 環	【第10回】 予習：日本の産時・育児休業制度の現状についてリサーチしてください。 授業：女性労働の現状と課題（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
11	榎本 環	【第11回】 予習：『若者はなぜ3年で辞めるのか？』（城繁幸、2006）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：年功制と成果主義・能力主義（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
12	榎本 環	【第12回】 予習：前回のレジュメ類、ノート・メモ等を再読してください。 授業：職場規範と人間関係（課題解決型学習） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。						
13	榎本 環	【第13回】 予習：『キャリア・ダイナミクス』（シャイン、1991）について、内容紹介や書評などの情報を集めてください。 授業：キャリア・ダイナミクス（課題解決型学習・ディスカッション） 復習：課題作業（授業で説明）に取り組んでください。						
14	榎本 環	【第14回】 予習：ワークライフバランスについてリサーチしてください。 授業：労働観と働き方の多様化 ―ワークライフバランスをめぐって（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
15	榎本 環	【第15回】 予習：前回までのレジュメ類、ノート・メモ等を再読し、質問や疑問点を整理してください。 授業：総括討論 ―働くことの愉しみ（ディスカッション） 復習：授業内容を復習し、コメント・質問を Classroom に投稿してください。						
授業開始前学習	とくに事前学習の必要はありませんが、企業や労働、職業キャリアなどに関する話題について、ふだんから積極的にマスコミ情報をウォッチする習慣をつけておくことを勧めます。							
授業内課題のフィードバックの方法	Classroom へのコメント・質問等の投稿内容に対しては、次の授業冒頭でリプライと補足説明を行います。課題提出を求める場合は次回以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答します。							
テキスト・教材	とくに指定しません。毎回、レジュメを配布する予定です。							
参考書	城繁幸、2006、『若者はなぜ3年で辞めるのか？』（光文社新書） その他、授業内で随時、指示します。							
評価の基準と方法	平常点（受講取り組みの積極性、課題提出）（60％）、期末レポート（40％）により評価します。							
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎			○	
関連科目	本講の内容は「組織マネジメント」「チームビルディング」「経済とビジネスⅠⅡ」と隣接し、「進路設計」「キャリアリテラシー」などの内容を学術的に捉え返すことになります。							
その他	授業では、課題解決型学習、ディスカッション、グループワークなどを行います。視聴覚教材やジャーナリズム文献等も積極的に使用し、アクチュアルな理解と考察の機会を提供することを目指します。ケーススタディやディスカッションなどを交えながら共演形式で授業を進めます。就職活動やインターンシップを控える受講者にとっても有益な内容となるよう、試みるつもりです。他学類・他専攻の学生の履修も歓迎します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-12（J）			授業コード	FB0520
科目名称	組織マネジメント			単位数	2.0 単位
英文名称	Organization Management			授業区分	講義
科目責任者	平山 智史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	平山 智史			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	我々は社会活動において何らかの組織に属し、その中でさまざまな役割を担っている。変化し続け予測困難で複雑化・多様化する社会においては、組織の力を活性化・集約化し、柔軟に対応するための基本的な考え方や行動がますます重要になる。 この授業では身近なチームの事例や現象を分析し、グループワークでの体験を通じて組織マネジメントのための実践的なノウハウを学ぶ。 専用授業サイト【T.Hirayama Lecture Note】に講義内容を掲載し、授業、予習、復習のためのツールとする。 URL https://hifumi3.jimdofree.com/ （事前案内ページの参照パスワードは"komajo"） また、社会組織の中で重要なメールコミュニケーションを実践し学ぶ。				
到達目標	・ケーススタディを通じて組織マネジメントの重要性を理解する。 ・人が動き、人を動かすコミュニケーション力を身に付ける。 ・円滑な組織運営に必要な諸条件を理解し、組織内で説明できるようになる。 ・グループワークを通じて自分が組織に対して貢献できる自分の長所を知る。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	平山 智史	【第 1 回】 予習：シラバスと受講目的を確認する 授業：ガイダンス、組織マネジメントとは 復習：組織マネジメントの意義を確認する			
2	平山 智史	【第 2 回】 予習：自分が属している身近な組織を確認する 授業：組織マネジメントの必要性について 復習：自分が属する組織の目的をまとめる			
3	平山 智史	【第 3 回】 予習：自分が属している組織を確認する 授業：自分と組織との関係、組織のリソース 復習：組織の中での自分の役割をまとめる			
4	平山 智史	【第 4 回】 予習：事例資料の組織の「人」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 1：人 復習：自分が属する組織のリソースとしての「人」を確認する			
5	平山 智史	【第 5 回】 予習：事例資料の組織の「モノ」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 2：モノ 復習：自分が属する組織のリソースとしての「モノ」を確認する			
6	平山 智史	【第 6 回】 予習：事例資料の組織の「カネ」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 3：カネ 復習：自分が属する組織のリソースとしての「カネ」を確認する			
7	平山 智史	【第 7 回】 予習：事例資料の組織の「情報」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 4：情報 復習：自分が属する組織のリソースとしての「情報」を確認する			
8	平山 智史	【第 8 回】 予習：事例資料の組織の「時間」について確認する 授業：組織マネジメントの基本 5：時間 復習：自分の計画について内容を確認する			
9	平山 智史	【第 9 回】 予習：事例資料の組織のルールについて確認する 授業：組織マネジメントの基本 6：ルール 復習：自分の属する組織のルールについて確認する			

10	平山 智史	【第 10 回】 予習：事例資料の組織構造について確認する 授業：組織マネジメントと組織構造 復習：自分の属する組織の階層について確認する						
11	平山 智史	【第 11 回】 予習：事例資料の組織の運営について確認する 授業：組織マネジメントとオペレーション 復習：自分の属する組織の運営について確認する						
12	平山 智史	【第 12 回】 予習：事例資料のプロジェクトについて確認する 授業：組織マネジメントとプロジェクト 復習：身近なプロジェクトについて確認する						
13	平山 智史	【第 13 回】 予習：事例資料の組織のリーダーシップについて確認する 授業：組織マネジメントとリーダーシップ 復習：自分の属する組織のリーダーのタイプについて確認する						
14	平山 智史	【第 14 回】（期末レポート） 予習：授業で扱った事例を確認する 授業：期末レポート提出：組織マネジメントの事例 復習：期末レポートについて自己レビューする						
15	平山 智史	【第 15 回】 予習：期末レポートの事例を身近な例に置き換え確認する 授業：期末レポートの講評と組織マネジメントの要点を確認する 復習：授業で得た組織マネジメントに関する成果を再確認する						
授業開始前学習		「management」の語源・意味を調べておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		・出席メモについては、毎回個別にポータルでフィードバックし、次回授業内でレビューとして解説する。 ・期末レポートについては、最終回授業にて全体の講評を行う。						
テキスト・教材		テキストは使用しない。 必要な資料は授業サイトにて適宜案内する。 テーマによりネット上のビデオ・記事を視聴・閲覧する。						
参考書		適宜資料を配布、または Web 上の資料を URL で案内する。						
評価の基準と方法		配点は以下のとおりとし、単位取得には 60 点以上の得点を必要とする。 ・毎回の授業活動（出席メモ 15 回分各回 4 点）の合計 60 点 ・期末レポート（第 14 回授業内）20 点 ・質問、関心、貢献など普段の取り組み姿勢の評価 20 点						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成				社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	○
関連科目	前期「チームビルディング」							
その他	身近なテーマを真剣に議論する学生参加型の授業とするため、授業への貢献度を評価基準の一つとする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	大企業にて開発、海外駐在、企画、設計、社長直轄事業開発、統括部長職、社内教育機関、研究戦略、品質関連会社など多様な職種・職場を経験し、個人企業（現職）に至る 40 年以上の管理職・経営者・プロジェクトリーダーとしての経験を元に、チームビルディングにおける要点、考え方、実際の課題とその解決指針について講義する。							

科目分類	112-330-13 (J)	授業コード	FB0530
科目名称	経済とビジネス I	単位数	2.0 単位
英文名称	Economy and Business I	授業区分	講義
科目責任者	足立 真理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立 真理	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	経済の基本的な仕組みから始まり、世の中のビジネスがどのようにまわっているのかを考えていく。日本が世界各国といかに密接に関係しているのか、日々の経済ニュースが意味するものは何かを読み解いていく。環境やエネルギー、消費や産業などについて、身近な問題と関連付けながら議論する。		
到達目標	経済の基本概念を理解する。その上で、様々なニュースや事象の意味を自ら考えて、比較し分析できるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	足立 真理	【第 1 回】 予習： 経済とは何かを事前に調べておく 授業： 経済とは何を示すのか、身の回りすべてが経済活動 復習： 経済の現状と問題点	
2	足立 真理	【第 2 回】 予習： 経済とは何かを改めて調べておく 授業： いまの経済はどういう状態なのか。経済は私たちの行動が決める 復習： 経済の現状と課題	
3	足立 真理	【第 3 回】 予習： 景気について調べておく 授業： 景気とはどういうものか。景気をはかる指数は色々ある 復習： 景気の現状と課題	
4	足立 真理	【第 4 回】 予習： 物価の意味を調べておく 授業： 物価とは何か、物価指標の見方と推移（物価についてグループディスカッション） 復習： 物価の現状と課題	
5	足立 真理	【第 5 回】 予習： 会社のメカニズムについて調べておく 授業： 会社とは何か。株式会社の成り立ちと株式のルーツ（会社を自身で設立するとしたら、というテーマでグループディスカッション） 復習： 株式会社の現状	
6	足立 真理	【第 6 回】 予習： 株主について調べておく 授業： 株主の役割とはなにか。株式市場の成り立ち 復習： 株式相場の現状	
7	足立 真理	【第 7 回】 予習： 経営とは何かを調べておく 授業： 企業の経営理念とはなにか、日銀短観とはどういうものか。 復習： 企業の経営理念を調べる	
8	足立 真理	【第 8 回】 予習： 資産運用の意味 授業： 人生 100 年時代をどう乗り切っていくのか 復習： 資産運用について考える	
9	足立 真理	【第 9 回】 予習： マーケティングについて調べておく 授業： マーケティングとビジネスの関係（ペアワーク） 復習： 主要企業のマーケティングを考える	
10	足立 真理	【第 10 回】 予習： SNS ビジネスとは何か調べておく 授業： 企業と SNS について学ぼうーe コマース編 復習： e コマース業界の現状	
11	足立 真理	【第 11 回】 予習： SNS について調べておく 授業： 企業と SNS について学ぼうー食品メーカー編	

		復習： 食品メーカーの現状							
12	足立 真理	【第 12 回】 予習： SNS に積極的な企業を探しておく 授業： 企業と SNS について学ぶー家電・自動車メーカー編 復習： 家電・自動車業界の現状							
13	足立 真理	【第 13 回】 予習： 環境ビジネスについて調べておく 授業： 環境はこれから重要なビジネスになっていく（環境ビジネスについてグループディスカッション） 復習： 気候変動について考える							
14	足立 真理	【第 14 回】 予習： E コマースのビジネスについて調べておく 授業： E コマースとは。日本を変える社会的ビジネスとは。（ソーシャルビジネスについてグループディスカッション） 復習： 日本の起業環境について考える							
15	足立 真理	【第 15 回】 予習： これまでに学習した点を確認しておく 授業： ビジネスでの女性の役割と経済知識の向上についての重要性 復習： 今後の進路について改めて考える							
授業開始前学習		新聞、テレビなどで世界経済の現状を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題について、オンラインにて個別にフィードバックする							
テキスト・教材		インターネット上の動画を観たり、文書を検索するなどによって課題を出す予定です。ネット環境を確保しておいてください。							
参考書		「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」（足立真理 著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。							
評価の基準と方法		授業への参加度合いと理解度（60％）、レポート提出（40％）							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	△	○	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい経済を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。							

科目分類	112-330-13 (J)			授業コード	FB0540
科目名称	経済とビジネスⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Economy and Business II			授業区分	講義
科目責任者	足立 真理			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	足立 真理			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	経済の基本的な仕組みから始まり、世の中のビジネスがどのようにまわっているのかを考えていく。経済がとても身近なものであることを学び、マネーリテラシーを高める。日々の経済ニュースが意味するものは何かを読み解いていく。				
到達目標	経済のあり方を知り、世の中の様々なニュースや事象について判断できるようにする。その上で、資産管理の概念を持つ。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	足立 真理	【第 1 回】 予習： 経済とは何かを事前に調べておく 授業： 経済とは何を示すのか、価値観の在り方と身の回りの経済活動 復習： 経済の現状と問題点			
2	足立 真理	【第 2 回】 予習： 景気とは何かを調べておく 授業： 景気は私たちの行動で決まる。ヒト、モノ、カネの流れ（景気の現状についてグループディスカッション） 復習： 景気の現状と課題			
3	足立 真理	【第 3 回】 予習： 物価について調べておく 授業： さまざまな物価指数と日銀の役割、世界的なデフレとはどういうことか 復習： 物価の現状と課題			
4	足立 真理	【第 4 回】 予習： GDP の意味を調べておく 授業： GDP とは何か、世界の国の GDP と日本の GDP 復習： 世界の経済の現状と課題			
5	足立 真理	【第 5 回】 予習： 貿易のメカニズムについて調べておく 授業： 貿易の基本、輸出と輸入とは 復習： 貿易ビジネスの現状			
6	足立 真理	【第 6 回】 予習： 為替について調べておく 授業： 為替市場の仕組みとは（為替についてペアワーク） 復習： 為替相場の現状			
7	足立 真理	【第 7 回】 予習： 不動産市場について調べておく 授業： 不動産市場の現状と経済に及ぼす影響 復習： 不動産市場を徹底的に調べる			
8	足立 真理	【第 8 回】 予習： 上場企業とは何かを調べておく 授業： 企業の資金調達の方法。上場企業の種類、企業業績について考える 復習： 優良な上場企業を探す			
9	足立 真理	【第 9 回】 予習： 経済に影響のありそうなイベントを確認しておく 授業： イベント経済とは。消費に最も影響を与えるイベントとは。（イベント経済についてグループワーク） 復習： 世界の消費動向をチェックする			
10	足立 真理	【第 10 回】 予習： 消費財とは何かを調べておく 授業： 消費をとりまく環境について学ぼうー日用品メーカー編 復習： 景気と日用品メーカー業界の関係			
11	足立 真理	【第 11 回】 予習： 消費財の環境を調べておく 授業： 消費をとりまく環境について学ぼうーアパレル編 復習： 景気とアパレル業界の関係			

12	足立 真理	【第 12 回】 予習：消費財と環境について調べておく 授業：消費をとりまく環境について学ぶー飲食品メーカー編 復習：景気と飲食品メーカー業界の関係							
13	足立 真理	【第 13 回】 予習：企業と株価をチェック 授業：企業と株価の関係、株式市場の仕組みについて学ぶ 復習：株式市場の現状							
14	足立 真理	【第 14 回】 予習：今起こっている環境問題とは何かを調べておく 授業：SDG s と ESG 投資、環境問題と今後のビジネス展望（ESG 投資についてグループワーク） 復習：日本の環境課題							
15	足立 真理	【第 15 回】 予習：ジェンダーギャップとは何かを調べて置く 授業：女性活躍と経済発展について（女性活躍のあり方についてグループワーク） 復習：これからの時代に必要なスキルを考える							
授業開始前学習		新聞、テレビなどで世界経済の現状を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題について、オンラインにて個別にフィードバックする							
テキスト・教材		インターネット上の動画を観たり、ドキュメントを参考にした課題を出す予定です。ネット環境を確認しておいてください。							
参考書		「イノベーションと楽観主義 ～ 特派員が見たアメリカ」（足立真理 著）を参考書として購入して読んでもらえれば、より授業の内容が分かりやすくなります。							
評価の基準と方法		授業への参加と理解度合い（60％）、レポート提出（40％）							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立的な思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	△	○	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		経済ジャーナリストとしてテレビ、新聞を通じて経済を伝えてきた経験から、生徒の皆さんにも親しみやすい経済を分かりやすく解説し、理解促進をはかる。具体的な新聞やテレビのニュースも示しながら授業を進める。							

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0080
科目名称	哲学と思想	単位数	2.0 単位
英文名称	Philosophy and Thought	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 由加里	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 由加里	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	医療技術の高度な発達や医療サービスの多様化によって、人間の生命は様々な干渉を受けるようになった。例えば、超音波（エコー）写真によって、生まれるまでは、わからなかった胎児の性別が事前に分かるようになり、遺伝子診断技術により、胎児の障害・疾病の可能性なども分かるようになった。このような技術は、人間の生命に影響を与え、その人生に介入してくるものでもある。本講義では、このような生命に関する技術が、どのような問題を生じさせているのかということを検討し、「生命倫理」の理論を学ぶことを目的としている。		
到達目標	生殖技術の発展やその社会的な需要状況について、具体的に正しい知識を持ち、概念用語を正しく使って議論ができるようになることが目的である。到達目標として、生命の倫理について自分の考えを正確に文章化できるようになることを想定している。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 由加里	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでもくる 授業：生命倫理とはなにか 復習：生命倫理の定義の確認	
2	鈴木 由加里	【第 2 回】 予習：医療における倫理的問題を考えてくる 授業：医療と生命倫理 その歴史と問題群 復習：授業で学んだことを確認	
3	鈴木 由加里	【第 3 回】 予習：生殖補助医療の現状について調べる 授業：生殖補助医療について 復習：どのような生殖医療技術があるかを確認	
4	鈴木 由加里	【第 4 回】 予習：代理母出産について考えてくる 授業：人体の資源化 卵子精子売買 復習：身体パーツの売買について考える	
5	鈴木 由加里	【第 5 回】 予習：遺伝子とは何かを調べてくる 授業：遺伝子診断の功罪 復習：遺伝子診断がもたらす問題について確認	
6	鈴木 由加里	【第 6 回】 予習：臓器移植の件数について調べてくる 授業：臓器移植の歴史 復習：臓器移植法について確認する	
7	鈴木 由加里	【第 7 回】 予習：脳死の判定基準について 授業：脳死と臓器移植 復習：臓器脳死移植にまつわる諸問題を整理する	
8	鈴木 由加里	【第 8 回】 予習：医師および医療機関の自分のもっているイメージをまとめておこう 授業：医療と倫理 インフォームドコンセント 復習：医療における自己決定について確認する	
9	鈴木 由加里	【第 9 回】 予習：配付資料を読んでもくる 授業：QOL 論について 復習：QOL の概念を確認する	
10	鈴木 由加里	【第 10 回】 予習：母体保護法について調べておく 授業：人工妊娠中絶論 選択権の問題 復習：生命の選択権はどこにあるのかを考える	
11	鈴木 由加里	【第 11 回】 予習：重度障害について調べる 授業：アシュリー事件にみる人間の尊厳	

		復習：アシュリー療法の問題点を整理する							
12	鈴木 由加里	【第 12 回】 予習：救世主兄弟について調べてくる 授業：映像資料視聴（前半） 復習：幹細胞生殖医療について確認							
13	鈴木 由加里	【第 13 回】 予習：前回みた資料の確認をしてくる 授業：映像資料視聴（後半） 復習：生命をデザインすることの問題についてレポートを書く							
14	鈴木 由加里	【第 14 回】 予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく 授業： 補足 授業内容確認レポート（授業内でレポート作成） 復習：授業内容について不十分なところを補っておく							
15	鈴木 由加里	【第 15 回】 予習：これまで配布した資料、ノート、レジメを再確認しておく 授業：授業内容確認小テスト（ノート レジメ 持ち込み可） 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく *学生の興味関心、最新の情報を踏まえて、授業内用や順序などは変更される可能性がある。							
授業開始前学習		特になし							
授業内課題のフィードバックの方法		基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。 対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。 レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。							
テキスト・教材		GWE(Google Workspace for Education)の Google Classroom を利用。Classroom に授業概要のレジメ及び資料をデジタルで配布。各自 DL してプリントアウトするか pc もしくはタブレットなどに DL するなどして授業に持参すること。							
参考書		参考文献は、レジメ授業スライドなどに記載する。							
評価の基準と方法		13 回以上の出席が必須 欠席多数の場合出席代替レポート提出 授業中に出されるレポート課題 授業内容確認テストの合計点を 100 点換算して成績評価をする。 →平常点 100% 遠隔授業の場合は、すべての課題を提出することが単位取得の基本条件。各回の課題点数の合計を 100 点換算して成績を評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○			○	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0910
科目名称	アンケート調査法	単位数	2.0 単位
英文名称	Quantitative data analysis	授業区分	講義
科目責任者	清水 拓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水 拓	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会調査は量的調査と質的調査に大別される。一般的に「アンケート調査」と呼ばれる調査は、構造化された調査票（質問紙）をもちいた全数調査・標本調査のことを指し、量的調査法のひとつに位置付けられる。この授業では、前半は、量的調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、授業内での簡単な実習を通して、実査プロセスを学ぶ。		
到達目標	量的調査法に関する基礎的な知識を習得したうえで、アンケート調査とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	清水 拓	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：社会調査の考え方 復習：社会調査と私たちのかわりについて考える	
2	清水 拓	【第 2 回】 予習：社会調査の考え方を再確認する 授業：社会調査の種類 復習：量的調査と質的調査の特徴を整理する	
3	清水 拓	【第 3 回】 予習：社会調査の種類を再確認する 授業：社会調査における時間デザイン 復習：それぞれの時間デザインの特徴を整理する	
4	清水 拓	【第 4 回】 予習：研究倫理規程を大学の Web サイトで閲覧する 授業：社会調査の倫理と責任 復習：「プライバシーの保護」「インフォームド・コンセント」「ラポール」について理解を深める	
5	清水 拓	【第 5 回】 予習：第 1 回と第 2 回の配布資料を再読し、社会調査の考え方と種類について再確認する 授業：社会調査の歴史 復習：社会調査の成立・発展の経緯を整理する	
6	清水 拓	【第 6 回】 予習：実査には何が必要かについて考える 授業：社会調査のプロセス 復習：調査の全体像について理解を深める	
7	清水 拓	【第 7 回】 予習：社会調査のプロセスを再確認する 授業：社会調査のデザイン（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む	
8	清水 拓	【第 8 回】 予習：社会調査のデザインを再確認する 授業：実査の方法（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む	
9	清水 拓	【第 9 回】 予習：実査の方法を再確認する 授業：調査票の作成（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む	
10	清水 拓	【第 10 回】 予習：調査票を再確認する 授業：サンプリング（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む	
11	清水 拓	【第 11 回】 予習：サンプリングを再確認する 授業：調査の実施（実習）	

		復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む							
12	清水 拓	【第 12 回】 予習：コード表を再確認する 授業：データの基礎的集計（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む							
13	清水 拓	【第 13 回】 予習：基礎的集計を再確認する 授業：統計的推測・変数間の関連（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む							
14	清水 拓	【第 14 回】 予習：分析結果を再確認する 授業：報告書の作成（実習） 復習：問いを立てる段階から調査報告書作成までの手順を再確認する							
15	清水 拓	【第 15 回】 予習：第 1 回～第 6 回までの配布資料を再読み、量的調査の基礎的知識を再確認する 授業：量的調査の基本的な考え方と取り組み方の確認 復習：自身の卒業論文執筆に向けて量的調査の適切な実施方法を検討する							
授業開始前学習		この授業では量的調査の方法について学ぶが、もし自分自身が調査をされる側になったらどう感じるか、想像力を働かせておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、記名式のコメントシートを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。							
テキスト・教材		特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書		轟亮・杉野勇・平沢和司編，2021，『入門・社会調査法——2ステップで基礎から学ぶ [第 4 版]』法律文化社。							
評価の基準と方法		平常点（授業態度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		フィールドワークの技法							
その他		統計分析ソフトのライセンス数の制約により、最大履修者を 24 名に制限する可能性がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-12	授業コード	FB0920
科目名称	フィールドワークの技法	単位数	2.0 単位
英文名称	Methods of Fieldwork	授業区分	講義
科目責任者	清水 拓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	清水 拓	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会調査は量的調査と質的調査に大別される。フィールドワークは、調査者がフィールド（現地・現場）に入り、インタビューや観察、資料収集を通して、そのフィールドの人々の営みを記録する調査のことを指し、一般的に質的調査法のひとつに位置付けられる。この授業では、前半は、質的調査法に関する基礎的な知識と、調査の進め方について講義形式で学ぶ。後半には、授業内での簡単な実習を通して、インタビュー調査の実査プロセスを学ぶ。		
到達目標	質的調査法に関する基礎的な知識を習得したうえで、フィールドワークの実施とそこで得られたデータの整理・分析に必要な基礎的なスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	清水 拓	【第 1 回】 予習：シラバスに目を通す 授業：社会調査とは何か 復習：量的調査と質的調査の違いを確認する	
2	清水 拓	【第 2 回】 予習：研究倫理規程を大学の Web サイトで閲覧する 授業：社会調査の倫理と責任 復習：「プライバシーの保護」「インフォームド・コンセント」「ラポール」について理解を深める	
3	清水 拓	【第 3 回】 予習：第 1 回の配布資料を再読し、量的調査と質的調査の違いを再確認する 授業：調査技法 復習：それぞれの調査技法の特徴を整理する	
4	清水 拓	【第 4 回】 予習：第 3 回の配布資料を再読し、質的調査の技法を再確認する 授業：分析技法 復習：それぞれの分析技法の特徴を整理する	
5	清水 拓	【第 5 回】 予習：第 3 回と第 4 回の配布資料を再読し、調査・分析技法を再確認する 授業：フィールドワークのプロセス（１）：調査の設計と準備 復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査設計・準備を検討する	
6	清水 拓	【第 6 回】 予習：第 5 回の配布資料を再読し、調査設計・準備を再確認する 授業：フィールドワークのプロセス（２）：フィールドでの調査 復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査の進め方を検討する	
7	清水 拓	【第 7 回】 予習：第 6 回の配布資料を再読し、フィールドでの調査の進め方を再確認する 授業：フィールドワークのプロセス（３）：調査データの記録と整理 復習：自分自身の研究関心（卒業論文等）を想定し、調査データの記録・整理の方法を検討する	
8	清水 拓	【第 8 回】 予習：インタビュー調査のテーマ（第 7 回までに決定する）について調べる 授業：インタビュー調査の実施（１）：問いを立て、先行研究を調べる（実習） 復習：収集した先行研究を読む	
9	清水 拓	【第 9 回】 予習：質問項目を複数考えておく 授業：インタビュー調査の実施（２）：質問文を作成する（実習） 復習：質問項目をテーマごとに整理する	
10	清水 拓	【第 10 回】 予習：前回作成した質問文を読み込む 授業：インタビュー調査の実施（３）：インタビューを実施する（実習） 復習：インタビュー時のノートを整理する	
11	清水 拓	【第 11 回】 予習：インタビュー時のノートを再読する 授業：インタビュー調査の実施（４）：トランスクリプトの作成・整理・加工をする（実習）	

		復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む							
12	清水 拓	【第 12 回】 予習：トランスクリプトを再読し、気付いた点をメモにする 授業：インタビュー調査の実施（５）：トランスクリプトを分析する（実習） 復習：課題作業（授業時に説明する）に取り組む							
13	清水 拓	【第 13 回】 予習：トランスクリプトの分析をおこなう 授業：インタビュー調査の実施（６）：調査報告書を作成する（実習） 復習：分析に基づいてレポートを作成する							
14	清水 拓	【第 14 回】 予習：第 1 回～第 7 回までの配布資料を再読し、質的調査の基礎的知識を再確認する 授業：質的調査の基本的な考え方と取り組み方の確認 復習：自身の卒業論文執筆に向けて質的調査の適切な実施方法を検討する							
15	清水 拓	【第 15 回】 予習：第 8 回～第 13 回までの配布資料を再読し、インタビュー調査の実施プロセスを再確認する 授業：フィールドワークにもとづく研究例の紹介 復習：自身の卒業論文執筆に向けて質的調査の適切な実施方法を検討する							
授業開始前学習		この授業では質的調査の方法について学ぶが、もし自分自身が調査をされる側になったらどう感じるか、想像力を働かせておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、記名式のリアクションペーパーを配布・回収し、次回以降、適宜フィードバックする。							
テキスト・教材		特に定めない。適宜、講義内にて資料を配布する。							
参考書		谷富夫・山本努編，2010、『よくわかる質的社会調査 プロセス編』ミネルヴァ書房。							
評価の基準と方法		平常点（授業態度・課題提出）60%、期末レポート 40%。なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席と期末レポートの提出を必要とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-22 (J)	授業コード	FB0930
科目名称	人間関係学実習 I	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	竹村 智子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	竹村 智子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会に出て多くの人とよりよい関係を築いていくための、具体的な身体技能を学ぶ実習です。ビジネスの多くの場面で信頼を得るためのマナーについて広く学びます。立ち居振る舞いや敬語はもちろん、接遇や受付などの場面で「美しくしなやかに」ふるまう演習を行います。言葉遣い、気遣い、心遣い、すべて相手を思い「遣る」の表現です。素敵なビジネスパーソンになるレッスンを始めましょう。秘書検定やサービス接遇検定の「実技」に相当する内容を含みます。さまざまな働くシーンを体験し、将来の職業選択にもつなげてください。また 2・3 年次のインターンシップなどに向け、「動画自己 PR」の作成にも取り組みます。		
到達目標	人間関係を構築するために効果的な「振舞い」について身に着け、実践できるように なる。秘書検定・サービス接遇検定の受験を推奨する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	竹村 智子	【第 1 回】 予習 シラバスを読んで参加してください 授業 授業オリエンテーション 立ち居振る舞いの基本 美しい動作「立つ・座る・歩く」基本から(グループワーク) 復習 挨拶、笑顔、基本となる行動を実践しましょう(二回目に実践体験発表をします)	
2	竹村 智子	【第 2 回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装、振る舞いで参加してください 授業 ものの手渡し、示し方、相手との距離の取り方、美しきしなやかなふるまいの実践(グループワーク) 復習 立ち振る舞いの実践(次週に体験発表あり)	
3	竹村 智子	【第 3 回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装、振る舞いで参加してください 授業 面接試験などでの入退室、プレゼンテーションのマナー 自己 PR 動画の作成(プレゼンテーション)(グループワーク) 復習 自己 PR 動画を振り返って反省点を整理する	
4	竹村 智子	【第 4 回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装、振る舞いで参加してください 授業 接遇の場面を実際に体験 お迎えから名刺の受け取り、ご案内から商談まで(グループワーク・実習) 復習 学んだことを次週までに振り返っておいてください	
5	竹村 智子	【第 5 回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装で参加してください 授業 就活に必要な自己 PR 動画を作成 印象評価と内容のロジックから自分自身をアピールしましょう 復習 特になし	
6	竹村 智子	【第 6 回】 予習 前半の内容を振り返り、総合演習に備えてください 授業 一日秘書体験 前半のまとめ 上司との一日を疑似体験するシミュレーション演習(すべて実践の場を想定したアクティブラーニング実習形式) 復習 シナリオ(授業紹介動画撮影)の暗記と実践	
7	竹村 智子	【第 7 回】 予習 敬語のプリントを配布します。基本となる用語を頭に入れて参加してください 授業 正しく美しい敬語と言葉遣い 上司への言葉遣いと、ちょっとした言葉の「遣い」かた 復習 次週敬語テストのための復習プリント	
8	竹村 智子	【第 8 回】 予習 前回の復習をしっかりと臨んでください 授業 敬語の実践 ビジネスの場面を想定して正しい敬語で話す演習 復習 次週敬語テストのための復習プリント	

9	竹村 智子	【第9回】 予習 前回の復習をしっかりと臨んでください 授業 ビジネスにおける電話会話 見えない相手との会話マナー（プレゼンテーション） 復習 次週電話会話テストのためのプリント							
10	竹村 智子	【第10回】 予習 学んだ用語を見直しておいてください 授業 アナウンスとナレーション体験 正しく聞きやすく話す練習（発表・実習） 復習 次週ナレーションテストのためのプリント							
11	竹村 智子	【第11回】 予習 実習のためビジネスパーソンらしい服装と振る舞いで参加してください 授業 サービス接遇の基本 接客という仕事の疑似体験 おもてなしの姿勢を身体技法で学ぶ（実習） 復習 大学生生活で振る舞いの実践をしましょう							
12	竹村 智子	【第12回】 予習 販売職の実践を行います。身だしなみのルールは事前に説明します 授業 サービス接遇の実践 お客様へのものの勧め方、見せ方、伝え方、ちよつとした表現の工夫を実践（実習・実演） 復習 野菜を売るテストのための販売トーク実践プリント復習							
13	竹村 智子	【第13回】 予習 総合学習に入ります 実習にふさわしい準備をしてきてください 授業 秘書検定準一級 面接試験を体験します 美しい所作と振る舞いで、ビジネスパーソンらしい身体技法を実践します（実習 実演） 復習 次週総合演習に向けた振る舞いの練習							
14	竹村 智子	【第14回】 予習 前回の続きです。服装など必要な準備を忘れずに 授業 秘書検定準一級 面接試験を実体験 自らの振る舞いを客観的に見直してみましょう（実習 プレゼンテーション） 復習 次週総合演習に向けた振る舞いの練習							
15	竹村 智子	【第15回】 予習 実習にふさわしい準備をしてきてください 授業 総合練習 あなたの「目に見える変化」を形にしましょう 授業紹介ビデオ作成（実習 発表）							
授業開始前学習		ほぼ演習中心となるため、それにふさわしい服装の指示を出すことがあります。新しいもの を用意する必要はありません。							
授業内課題のフィードバックの方法		演習のため、演習風景を撮影し再生しながらフィードバックを実施。コメントシートを配布し評価とします。また授業内で敬語などミニテストを実施します。							
テキスト・教材		授業内で適宜レジュメ・確認プリントを配布します。							
参考書		秘書検定準一級パーフェクトマスター（実務教育出版）							
評価の基準と方法		授業態度（60 パーセント） および授業内の課題・演習（40 パーセント）で評価します。自身の変化を楽しみながら積極的に授業に取り組んでください。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○			◎	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		企業における秘書経験、コンサルタントとして各種企業研修・大学キャリア教育に従事している経験を活かし、ビジネス場面で必要なスキルについて演習を行う。							

科目分類	112-330-22 (J)	授業コード	FB0940
科目名称	人間関係学実習Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice in Human RelationsⅡ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	竹村 智子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	竹村 智子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	言葉を用いて人間関係を構築していく上で「書く」ことは重要な手段です。しかし SNS の発達とともに、絵文字やスタンプだけでのやりとりが増え、手紙を書く習慣が減っています。書くことで自分の思いを豊かに伝える方法を学びます。旧暦の季節を大切にしたい豊かな表現を知り、心に届く手紙を書けるようになります。挨拶状や手紙文の基本ルール、ちょっとした素敵な表現、そしてビジネス場面で必要な文章をもちいた交渉術までを理解します。またポスターや企画書、就職活動にもつながるエントリーシートの「伝わるコツ」を学びます。ロジックを正確に説得力をもって伝える手段を身に付けてください。ビジネス文書検定 2 級、ビジネスマナー検定準 1 級受検を推奨します。		
到達目標	フォーマルな場面、ビジネスの場面で適切な「手紙」を書き分ける力を身に着けることで、ビジネス文書検定合格、および効果的な人間関係構築につなげる。今後の就職活動、社会人生活において必要な企画書・プレゼンテーションスキルの習得を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	竹村 智子	【第 1 回】 予習 シラバスを読んで参加してください 授業 授業のガイダンス 講義内容の説明 相手に心を伝える文章の基本 メモの基本マナー 復習 一筆せんで手紙を書く	
2	竹村 智子	【第 2 回】 予習 特になし 授業 手紙を書く前に。文章でなく、文字・記号・符号から自分を伝える練習 「世界一短い手紙」相手の心に届く表現のマナーについて練習 感謝の手紙を書いてみよう (実習 プレゼンテーション) 復習 一文字、四文字、オノマトペなどで手紙を書く	
3	竹村 智子	【第 3 回】 予習 あなたを四字熟語でたとえよう？ 授業 論理的に書いて伝える技術を習得しよう エントリーシートに向けて (実習 プレゼンテーション) 復習 あなたを表現するロジック文章を書く	
4	竹村 智子	【第 4 回】 予習 季節の用語について調査 授業 季節の用語と手紙文の基本ルールを学ぶ 季節のあいさつ文に必要な慣用句を学ぶ 復習 季節のあいさつ文を書く	
5	竹村 智子	【第 5 回】 予習 日々の生活の中にある言葉と、その印象について考える 相手の目線を意識したポスターの書き方 (演習 一部グループワーク) 復習 普通の看板、ポスターに隠れた工夫を読み解き考える	
6	竹村 智子	【第 6 回】 予習 ポスター制作にあたり、テーマをまとめる 授業 ポスターにおける「見え方」「見せ方」「相手の心を動かす言葉と文字の違い」 復習 ポスターのテーマを決定する	
7	竹村 智子	【第 7 回】 予習 身の回りにある、文字や言葉に注目しポスター原案を考える 授業 マルシェのポスターづくり 完成まで 復習 課題提出に向けた振り返りと見直し	
8	竹村 智子	【第 8 回】 予習 特になし 授業 SPI における「書く」「考える」スキルの醸成 (過去問題から解説) 復習 SPI 問題を解いてみる	

9	竹村 智子	【第 9 回】 予習 お礼状の基本用語を再確認しておく 授業 年賀状や寒中お見舞いの書き方の演習（実習） 復習 季節のあいさつ文、お礼状、依頼状などの書き方を振り返る							
10	竹村 智子	【第 10 回】 予習 季節の用語、頭語結語などのルールを復習 授業 ビジネス文書の基本ルール 就職活動にも役立つビジネス文書のルール 復習 学んだ用語を整理する（次回ミニテストに向けて）							
11	竹村 智子	【第 11 回】 予習 ビジネス用語のミニテスト準備 授業 エントリーシートのロジック作成（演習） 復習 エントリーシートの完成提出							
12	竹村 智子	【第 12 回】 予習 学んだ用語を見直しておく 授業 企画書の論理的な構成術（演習）新商品開発の企画書 復習 企画書の完成							
13	竹村 智子	【第 13 回】 予習 学んだ用語を見直しておく 授業 ビジネス文書での交渉術 報告と折衝の文章を書く（プレゼンテーション） 復習 学んだ用語を整理する							
14	竹村 智子	【第 14 回】 予習 学んだ用語を見直しておいてください 授業 あなたをグラフに書く練習 エントリーシートに向けて 復習 いろいろな文書例を見直す							
15	竹村 智子	【第 15 回】 予習 エントリーシートの完成準備 授業 エントリーシートの構成確認 ビジスマナー検定準 1 級の問題を解き、理解の確認を行います 復習 今後の生活で実践することが不可欠です							
授業開始前学習		特に必要ありません							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内にて適宜フィードバック、エントリーシートは個別に添削の上返却します							
テキスト・教材		必要に応じて授業時に配布するレジュメ プリントなどあり							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度（60 パーセント） および授業内の課題（40 パーセント）で評価します。積極的に授業に取り組んでください。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○			◎	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		企業における秘書経験、コンサルタントとして各種企業研修・大学キャリア教育に従事している経験を活かし、ビジネス場面で必要なスキルについて演習を行う。							

科目分類		112-330-13（2022 年～入学者）（J） 112-330-12（～2021 年入学者）（J）		授業コード	FB0950
科目名称		☆現代社会総合講座 I		単位数	2.0 単位
英文名称		Interdisciplinary Course on Contemporary Society I		授業区分	講義
科目責任者		榎本 環		必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		石田・臼井・榎本(環)・大貫・楠田・倉住・小菅・田澤		開講時期	3 年
オフィスアワー		－		研究室	－
授業概要		テーマ：映画を題材に現代社会の諸問題を考える 一本の映画を鑑賞し、そこに描かれている、あるいは、そこから読み解くことのできる現代社会の諸相やさまざまな課題について多角的な視点から考察する。作品が取り上げているテーマや私たちに投げかけているメッセージをひも解き、現代社会に生きる人びとの生き方や価値観、それを取り巻く社会環境、歴史のなかでの位置づけなどをめぐって、掘り下げて理解することを目指す。人間関係専攻の教員 8 名およびビジネス界の第一線で活躍するゲスト講師による共同授業・オムニバス形式の学生参加型・双方向型授業である。それぞれの多角的な視座・アプローチから知的な刺激とヒントを吸収することを期待したい。			
到達目標		現代社会において人びとが直面しているさまざまな現実的課題について理解すること、各担当者による多様な着眼点や発想・思考を吸収すること、それらを参考にしながら自分なりの見解を組み立てる力、それを論理的・客観的に表現するスキルを伸ばすことを目標とする。			
アクティブ・ラーニング型授業		有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態 オムニバス
授業回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 環	【第 1 回】 予習： シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておく 授業： 対象映画の紹介とイントロダクション 復習： Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認する			
2	榎本 環	【第 2 回】 予習： 課題映画について Web 情報などを利用してリサーチする 授業： 課題映画の鑑賞 1：前半 復習： 登場人物や前半の場面状況・ストーリー展開について不明点を調べておく			
3	榎本 環	【第 3 回】 予習： 課題映画の前半のストーリーとポイントをチェック確認する 授業： 課題映画の鑑賞 2：後半 復習： 全編の内容を再確認し、視聴後の感想と不明点・質問をまとめる			
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習： 自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 1 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
5	臼井 実穂子	【第 5 回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 2 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 3 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
7	倉住 友恵	【第 7 回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 4 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 5 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 6 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
10	小菅 清香	【第 10 回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 7 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			

11	榎本 環	【第11回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： 担当教員による講義と意見交換 8（ディスカッション） 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する						
12	石田 かおり 臼井 実穂子 榎本 環 楠田 恵美 倉住 友恵 小菅 清香 田澤 秀司	【第12回】 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： ゲスト講師による講義と質疑応答 1 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる						
13	石田 かおり 臼井 実穂子 榎本 環 楠田 恵美 倉住 友恵 小菅 清香 田澤 秀司	【第13回】 予習： 前回のゲスト講師による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 授業： ゲスト講師による講義と質疑応答 2 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる						
14	石田 かおり 臼井 実穂子 榎本 環 楠田 恵美 倉住 友恵 小菅 清香 田澤 秀司	【第14回】 予習： これまでの自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく 授業： 総括討論 1（ディスカッション） 復習： 今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理し、最終回の全体討論に向けてミニレポートを提出する						
15	石田 かおり 臼井 実穂子 榎本 環 楠田 恵美 倉住 友恵 小菅 清香 田澤 秀司	【第15回】 予習： 前回までのディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく 授業： 総括討論 2（ディスカッション） 復習： 計2回のディスカッションをふまえ、自分の発見や学修成果をまとめる						
授業開始前学習		とくに事前の準備は不要である。日頃から幅広く見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませることを心がけてほしい。						
授業内課題のフィードバックの方法		各回の意見交換・ディスカッションやミニレポートを通じて提起された質問に対しては、適宜その都度、リプライする。提出課題については、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		とくに指定しない。資料は必要に応じて配布する。						
参考書		授業内で適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（30％）、各担当者による課題評価（70％）をもとに、総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	「総合講座」の性質上、人間関係専攻の全科目および教養教育科目全般がなんらかのかたちで本科目と関連性をもつ関係にある。							
その他	人間関係専攻の教員8名およびゲスト講師による共同授業・オムニバス形式で実施する。双方向型・学生参加型の授業形式であるので、積極的な発言とディスカッションへの参加が求められる。課題映画については初回授業で指示する。「ミニレポート」は、GWE ClassroomのFormsによるコメント投稿を基本形式として予定している。外部講師のスケジュールの都合等により、各授業回の実施順が修正される可能性もある（初回授業で告知する）。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	日本を代表する著名企業の実務経験者をゲスト講師として招き、実社会での現場経験に基づく知見やコメントを提供してもらう予定である（計2講）。							

科目分類		112-330-13（2022 年～入学者）（J） 112-330-12（～2021 年入学者）（J）		授業コード	FB0960
科目名称		☆現代社会総合講座Ⅱ		単位数	2.0 単位
英文名称		Interdisciplinary Course on Contemporary SocietyⅡ		授業区分	講義
科目責任者		大貫 恵佳		必修・選択	履修ガイド参照
担当教員		石田・臼井・榎本(環)・大貫・楠田・倉住・小菅・田澤		開講時期	3 年
オフィスアワー		－		研究室	－
授業概要		テーマ：映画を題材に現代社会の諸問題を考える 一本の映画を鑑賞し、そこに描かれている、あるいは、そこから読み解くことのできる現代社会の諸相やさまざまな課題について多角的な視点から考察する。作品が取り上げているテーマや私たちに投げかけているメッセージをひも解き、現代社会に生きる人びとの生き方や価値観、それを取り巻く社会環境、歴史のなかでの位置づけなどをめぐって、掘り下げて理解することを目指す。人間関係専攻の教員 8 名およびビジネス界の第一線で活躍するゲスト講師による共同授業・オムニバス形式の学生参加型・双方向型授業である。それぞれの多角的な視座・アプローチから知的な刺激とヒントを吸収することを期待したい。			
到達目標		現代社会において人びとが直面しているさまざまな現実的課題について理解すること、各担当者による多様な着眼点や発想・思考を吸収すること、それらを参考にしながら自分なりの見解を組み立てる力、それを論理的・客観的に表現するスキルを伸ばすことを目標とする。			
アクティブ・ラーニング型授業		有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態 オムニバス
授業回数	担当者	授業の内容			
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習： シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておく 授業： 対象映画の紹介とイントロダクション 復習： Classroom にアクセスし、コンテンツや操作方法について確認する			
2	田澤 秀司	【第 2 回】 課題映画の鑑賞 1：前半 予習： 課題映画について Web 情報などを利用してリサーチする 復習： 登場人物や前半の場面状況・ストーリー展開について不明点を調べておく			
3	倉住 友恵	【第 3 回】 課題映画の鑑賞 2：後半 予習： 課題映画の前半のストーリーとポイントを確認する 復習： 全編の内容を再確認し、視聴後の感想と不明点・質問をまとめる			
4	榎本 環	【第 4 回】 担当教員による講義と意見交換 1 予習： 自分の感想やコメントを整理し、意見交換での発言内容を準備しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
5	小菅 清香	【第 5 回】 担当教員による講義と意見交換 2 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
6	石田 かおり	【第 6 回】 担当教員による講義と意見交換 3 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
7	倉住 友恵	【第 7 回】 担当教員による講義と意見交換 4 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
8	楠田 恵美	【第 8 回】 担当教員による講義と意見交換 5 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 担当教員による講義と意見交換 6 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			
10	臼井 実穂子	担当教員による講義と意見交換 7 予習： 前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習： 今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する			

11	田澤 秀司	【第 11 回】 担当教員による講義と意見交換 8（ディスカッション） 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめ、ミニレポートを提出する							
12	石田 かおり、臼井 実穂子、大貫 恵佳、楠田 恵美、倉住 友恵、小菅 清香、田澤 秀司	【第 12 回】 ゲスト講師による講義と質疑応答 1 予習：前回の担当教員による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる							
13	石田 かおり、臼井 実穂子、大貫 恵佳、楠田 恵美、倉住 友恵、小菅 清香、田澤 秀司	ゲスト講師による講義と質疑応答 2 予習：前回のゲスト講師による分析をふり返り、不明点や質問を整理しておく 復習：今回の講義内容に関する自分の発見や見解・疑問をまとめる							
14	石田 かおり、臼井 実穂子、大貫 恵佳、楠田 恵美、倉住 友恵、小菅 清香、田澤 秀司	【第 14 回】 総括討論 1（ディスカッション） 予習：これまでの自分の見解や疑問点を整理し、ディスカッションでの発言内容を準備しておく 復習：今回のディスカッションの内容に関する自分の発見や見解・疑問を整理し、最終回の全体討論に向けてミニレポートを提出する							
15	石田 かおり、臼井 実穂子、大貫 恵佳、楠田 恵美、倉住 友恵、小菅 清香、田澤 秀司	【第 15 回】 総括討論 2（ディスカッション） 予習：前回のディスカッションの内容をふまえ、自分の発言内容を整理・準備しておく 復習：計 2 回のディスカッションをふまえ、自分の発見や学修成果をまとめる							
授業開始前学習		とくに事前の準備は不要である。日頃から幅広く見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませることを心がけてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		各回の意見交換・ディスカッションやミニレポートを通じて提起された質問に対しては、適宜その都度、リプライする。提出課題については、次回授業以降に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		とくに指定しない。資料は必要に応じて配布する。							
参考書		授業内で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（30 %）、各担当者による課題評価（70 %）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		「総合講座」の性質上、人間関係専攻の全科目および教養教育科目全般がなんらかのかたちで本科目と関連性をもつ関係にある。							
その他		人間関係専攻の教員 8 名およびゲスト講師による共同授業・オムニバス形式で実施する。双方向型・学生参加型の授業形式であるので、積極的な発言とディスカッションへの参加が求められる。課題映画については初回授業で指示する。「ミニレポート」は、GWE Classroom の Forms によるコメント投稿を基本形式として予定している。外部講師のスケジュールの都合等により、各授業回の実施順が修正される可能性もある（初回授業で告知する）。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		日本を代表する著名企業の実務経験者をゲスト講師として招き、実社会での現場経験に基づく知見やコメントを提供してもらう予定である（計 2 講）。							

科目分類	112-310-23 (J)	授業コード	FB1111
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。 2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。 (1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ (2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ 授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。		
到達目標	問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力が授業開始前より伸びている状態		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく 授業：授業の進め方について説明し、次回までにすべき課題を出す 復習：個人研究テーマを考える	
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：自己紹介プレゼンの作成 授業：自己紹介プレゼンを通じてゼミメンバー 1 人 1 人を知る 復習：自分の得意不得意と関心を自覚する	
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：個人研究テーマを考える 授業：個人研究テーマと 2 年間の研究計画の策定 復習：個人研究テーマと計画を見直し、推進できるか確認し、必要なら修正する	
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：人の外見についての社会問題を調べる 授業：共通テーマ (1) の問題分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める	
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：問題点についての資料を集める 授業：共通テーマ (1) の資料を使った問題点の分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める	
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：足りない資料を集める 授業：共通テーマ (1) の問題点分析を整理し論理的に構築する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める	
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：論理的説明について書籍等の資料を読む 授業：共通テーマ (1) を論理的に説明できるようまとめる 復習：授業でまとめたもののプレゼン練習	
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：授業でまとめたもののプレゼン練習 授業：共通テーマ (1) の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める	
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：人の外見についての社会問題を調べる 授業：共通テーマ (2) の問題分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める	
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習：問題点についての資料を集める 授業：共通テーマ (2) の資料を使った問題点の分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める	

11	石田 かおり	【第 11 回】 予習：足りない資料を集める 授業：共通テーマ（２）の問題点分析を整理し論理的に構築する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習：論理的説明について書籍等の資料を読む 授業：共通テーマ（２）を論理的に説明できるようまとめる 復習：授業でまとめたもののプレゼン練習
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習：授業でまとめたもののプレゼン練習 授業：共通テーマ（２）の問題点分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（１） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（２） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める
授業開始前学習		化粧を始め種々の流行（履修者にとって異世代や異性も含む）や、社会情勢、時代風潮、ニュースや事件など、自分が生きる時代と社会の状況に広く関心を持ち、自分なりに日々考え続けることが必要である とくに後期は「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」の知識を前提にした内容であるので、できる限り今期までにこれらを履修し、すでに履修した人は復習しておく必要がある とくに個人研究テーマが化粧・美容・ファッション・外見に関連する者は個人研究でも上記の科目が必要になるため、できるだけ早く履修を終える必要がある
授業内課題のフィードバックの方法		レジュメとプレゼンテーションはその場で改善点をアドバイスする 個人研究の中間報告では個人の状況にあった細かなアドバイスをする
テキスト・教材		必要なときに資料配布や指示をする
参考書		必要があるときに指示する
評価の基準と方法		共通テーマの作業・討論の積極性が 70%、中間報告 30% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、単位は認定しない
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成 他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成 人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成 社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成
学修指針		教養力 人間性 コミュニケーション力 社会性 専門力 判断力 技術力 実践力
科目の該当		 △ ○ ◎ ○
関連科目		化粧の文化史、化粧文化論、身体文化論、セルフプロデュース論、ビューティービジネス論のほか、社会問題に関する授業すべて
その他		個人研究を忘れずに計画的に自力で進める必要があるが、孤独に進めるのではなく、共通テーマでの経験を参照して気付いたことを迷わず実施することも重要であるし、時にはゼミメンバーと相談したり協働で作業するなど柔軟に進めることも推奨される
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容		化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容を基に授業を実施

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1112
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	本ゼミでは国際社会の諸問題から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞・テレビなどのメディアでチェックする。		
到達目標	(1) 思考力を深める (2) 口頭発表および文章作成能力の向上 (3) 現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	臼井 実穂子	【第 1 回】 予習 : 自己紹介の準備 授業 : ゼミ生の自己紹介 ゼミ運営方針の確認 復習 : ゼミ方針を参考に自身の研究テーマについて考える	
2	臼井 実穂子	【第 2 回】 予習 : 自身の研究テーマ発表準備 授業 : ゼミ生の研究関心についての発表 復習 : 他のゼミ生の研究関心を参考に自身の研究テーマを深める	
3	臼井 実穂子	【第 3 回】 予習 : 研究関心のある新聞・雑誌記事を準備 授業 : 各ゼミ生の集めた記事の検討(ディスカッション) 復習 : 自身の収集した記事と他のゼミ生のそれらを整理	
4	臼井 実穂子	【第 4 回】 予習 : 研究関心のある新聞・雑誌記事を準備 授業 : 各ゼミ生の集めた記事の検討 (ディスカッション) 復習 : 自身の収集した記事と他のゼミ生のそれらを整理	
5	臼井 実穂子	【第 5 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説(1)学生発表と討論 (1) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
6	臼井 実穂子	【第 6 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説(2)学生発表と討論 (2) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
7	臼井 実穂子	【第 7 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説 (3) 学生発表と討論 (3) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
8	臼井 実穂子	【第 8 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説 (4) 学生発表と討論 (4) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
9	臼井 実穂子	【第 9 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説 (5) 学生発表と討論 (5) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
10	臼井 実穂子	【第 10 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説 (6) 学生発表と討論 (6) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
11	臼井 実穂子	【第 11 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 時事問題解説 (7) 学生発表と討論 (7) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	

12	臼井 実穂子	【第 12 回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：時事問題解説（8） 学生発表と討論（8）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考							
13	臼井 実穂子	【第 13 回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：時事問題解説（9） 学生発表と討論（9）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考							
14	臼井 実穂子	【第 14 回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：時事問題解説（10） 学生発表と討論（10）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考							
15	臼井 実穂子	【第 15 回】 予習：発表後の自己の研究の進展をまとめる 授業：ゼミ生による研究の改善点発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：ゼミを踏まえ、さらなる改善に向けての研究内容の再考							
授業開始前学習		自身が関心のあるテーマの著作を最低 1 冊は読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業を通じて適宜実施する。							
テキスト・教材		指定しない。							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		平常点と発表内容、レジュメ、毎ゼミでの発言により評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が担当日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「戦争と平和の歴史 I.II」を履修済みであることが望ましい。							
その他		研究テーマの選択はゼミ生に委ねる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1113
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	テーマ：社会学で読み解く現代社会 人びとの日常的な行動や態度、意識には、社会的な形成プロセスや構造要因があります。そのメカニズムを理解することが社会学の探究活動です。「世のなか」のしくみと現代社会のさまざまな現象を、社会学ではどのように捉えることができるのか、どのような理解と発想が可能なのか、その問題関心に即して、各自が社会学的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得してもらうことを目標とします。受講者によるプレゼンテーションとそれにもとづくディスカッションを基本形式にして進めます。		
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1. パソコンや PC メール、Web ツールの基本的な操作・作法に慣れる 2. 一定レベルのプレゼンがこなせる 3. 「本の読み方」をマスターする		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：シラバスを熟読し、質問や相談事項があれば確認しておいてください。 授業：ガイダンスとイントロダクション 復習：ゼミメンバーの名前を覚え、使用文献の入手を手配してください。	
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：前回のレジュメ、ノート・メモ類を再読してください。 授業：PC 活用スキル —— Web マールの活用と ML 開設 復習：ML メンバー登録操作を完成させ、課題（名簿シート作成）に取り組んでください。	
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：ポータルサイト、Web メール、ML の操作方法と初期設定を再確認してください。 授業：Web リソース —— クラウド・ツールの活用法について 復習：授業内容を復習し、ゼミ用クラウド・ページの各操作をひととおり試してください。	
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：使用文献（研究発表練習用）を一読してください。 授業：前期活動打合せ、研究発表の方法 復習：プレゼン用ファイルを作成し提出してください。	
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：研究発表トレーニング（プレゼンテーション） 復習：前期の報告スケジュールをもとに、準備作業の計画を立ててください。	
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 1 【文献・該当頁は別途指示します】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。	
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、不明点を整理しておいてください。 授業：テキスト講読 2 【文献・該当頁は別途指示します】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。	
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：文献該当頁と報告者のレジュメを一読し、不明点を整理しておいてください。 授業：テキスト講読 3 【文献・該当頁は別途指示します】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究発表のヒントをメモに整理してください。	

9	榎本 環	【第9回】 予習：テキスト第 1 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 4【pp.14～23】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
10	榎本 環	【第10回】 予習：テキスト第 2 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 5【pp.24～33】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
11	榎本 環	【第11回】 予習：テキスト第 3 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 6【pp.34～43】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
12	榎本 環	【第12回】 予習：テキスト第 4 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 7【pp.44～53】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
13	榎本 環	【第13回】 予習：テキスト第 5 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 8【pp.56～65】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
14	榎本 環	【第14回】 予習：テキスト第 6 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 9【pp.66～75】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
15	榎本 環	【第15回】 予習：テキスト第 7 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 10【pp.76～85】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
授業開始前学習		日頃から幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。						
テキスト・教材		出口剛司、2019、『大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる』（KADOKAWA） ほか別途指示します。						
参考書		長谷川公一ほか、2007、『社会学』（有斐閣） その他、授業を通じて随時、紹介します。						
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（80 %）、期末レポート（20 %）により評価します。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学ⅡⅠ」および「流行論」「社会学研究ⅡⅠ」「社会学特論」「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	ゼミ活動の具体的計画については受講者と協議のうえ決定します。テキストの講読（受講者による報告）と討論を基本形式に進めます。報告者のみならず全員があらかじめ指定された範囲を熟読し、疑問点や各自のコメントを整理したうえでゼミでの議論に臨んでください。プレゼン報告の分担や時折の課題など、それなりの負担をこなすことが求められますが、意欲と関心がある限り、授業担当者として最大限のサポートを惜しみません。受講者各位の素朴な疑問と柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えております。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1114
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く社会・文化事象を対象として、社会学的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することが求められる。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的に参加し、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、研究のために必要な以下の 3 つの能力、すなわち、①文献の概要を把握する力、②社会学的な思考力、③発表の基礎力の獲得である。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：3 年次前期の学びの目標を考える 授業：ゼミの目的と進め方、テキストの紹介 復習：テキスト冒頭部に目を通し、各自の到達目標と学修スケジュールを考える	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：テキスト「都市の文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「都市の文化」【テキスト pp.28-39】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「都市の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：テキスト「メディアと情報の文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「メディアと情報の文化」【テキスト pp.40-51】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「メディアと情報の文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：テキスト「アートの文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「アートの文化」【テキスト pp.52-63】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「アートの文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：テキスト「身体文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「身体文化」【テキスト pp.64-73】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「身体文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：テキスト「娯楽文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「娯楽文化」【テキスト pp.74-87】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「娯楽文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：テキスト「暮らし文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「暮らし文化」【テキスト pp.88-97】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「暮らし文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：テキスト「つきあいと儀礼文化」を講読する。 授業：文献講読と報告：「つきあいと儀礼文化」【テキスト pp.98-110】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「つきあいと儀礼文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：テキスト「ライフコース文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「ライフコース文化」【テキスト pp.112-123】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「ライフコース文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：テキスト「国民国家文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「国民国家文化」【テキスト pp.124-137】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「国民国家文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：テキスト「グローバル化する文化」を講読する 授業：文献講読と報告：「グローバル化する文化」【テキスト pp.138-151】（プレゼンテーション）（ディスカッション）	

		ン) 復習：「グローバル化する文化」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する						
12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：テキスト「社会学の伝統」を講読する 授業：文献講読と報告：「社会学の伝統」【テキスト pp.154-169】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「社会学の伝統」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する						
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：テキスト「隣接・関連領域から」を講読する。 授業：文献講読と報告：「隣接・関連領域から」【テキスト pp.170-191】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「隣接・関連領域から」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する						
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：テキスト「文化変容の現在」を講読する 授業：文献講読と報告：「文化変容の現在」【テキスト pp.2-25】（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：「文化変容の現在」について、文献概要を把握し、互いの報告を批評する						
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：これまでの報告レジュメ等を見直し、自分の研究テーマを考える 授業：研究テーマの決め方 復習：研究テーマに関する参考文献をリストアップする						
授業開始前学習		日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。						
テキスト・教材		井上俊・長谷正人編著、2010、『文化社会学入門——テーマとツール』ミネルヴァ書房。 その他、授業中に指示する。						
参考書		授業中に適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		授業参加の積極度（60 %）、作成資料（40%）により評価する。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「文化社会学Ⅰ／現代社会論Ⅰ」「文化社会学Ⅱ／社会学研究Ⅱ」は現代社会を社会学的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他	ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1115
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	心理学のテーマおよび研究手法について学ぶ。心理学の主要な研究法、研究倫理について学ぶことで心理学の基礎知識を身に付ける。実際に行われた過去の研究論文を読むことで、どのようにして心理学研究が遂行されるのか学ぶ。心理学の入門書を輪読し、研究テーマの多様性に触れる。本授業は、適宜グループワークやディスカッションを交えて進めていく。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.心理学の主要な研究法と研究テーマ、研究倫理を理解する 2.心理学の研究論文を一人で読むことができる 3.適切なレジュメの作成方法ならびに発表方法を身につける 4.他者の発表に対して自ら質問したり意見を述べたりできる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習 : シラバスを読む、関心のある研究テーマ・分野等について考える 授業 : オリエンテーション、心理学とは、次回に向けたグループ分けおよび役割分担 復習 : 担当の研究法に関連する文献を調べる	
2	倉住 友恵	予習 : 調べた文献に目を通す 授業 : 担当の研究法についてグループでまとめる (グループワーク) 復習 : 疑問点についてさらに調べる	
3	倉住 友恵	予習 : 発表準備をする 授業 : 担当の研究法に関する発表と質疑応答 1 (プレゼンテーション) 復習 : 発表をもとに生じた疑問点についてさらに調べる	
4	倉住 友恵	予習 : 発表準備をする 授業 : 担当の研究法に関する発表と質疑応答 2 (プレゼンテーション) 復習 : 発表をもとに生じた疑問点についてさらに調べる	
5	倉住 友恵	予習 : 指定された研究倫理に関する資料に目を通す 授業 : 研究倫理とは、研究倫理に配慮した心理学研究の例 復習 : 興味のあるテーマについて研究するためにはどのような倫理的配慮が必要か考えておく	
6	倉住 友恵	予習 : 事前に与えられたキーワードについて調べ、まとめる 授業 : 発達心理学、教育心理学に関する主要キーワードについての発表 (プレゼンテーション) 復習 : 特に興味をもったテーマについて調べる	
7	倉住 友恵	予習 : 事前に与えられたキーワードについて調べ、まとめる 授業 : 社会心理学、臨床心理学に関する主要キーワードについての発表 (プレゼンテーション) 復習 : 特に興味をもったテーマについて調べる	
8	倉住 友恵	予習 : 興味関心のある領域や研究テーマを考える 授業 : 文献とは、論文検索の仕方、論文の読み方、発表論文を選ぶ 復習 : 発表論文を選び、論文にざっと目を通す	
9	倉住 友恵	予習 : 課題論文(1)の問題・方法部分を読み、知らない単語について調べてくる 授業 : 課題論文(1)の問題・方法部分について内容を整理する (ディスカッション) 復習 : ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく	
10	倉住 友恵	予習 : 課題論文(1)の結果・考察部分を読み、知らない単語について調べてくる 授業 : 課題論文(1)の結果部分について内容を整理する (ディスカッション) 復習 : ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく	
11	倉住 友恵	予習 : 課題論文(2)の問題・方法部分を読み、知らない単語について調べてくる 授業 : 課題論文(2)の問題・方法部分について内容を整理する (ディスカッション) 復習 : ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく	
12	倉住 友恵	予習 : 課題論文(2)の結果・考察部分を読み、知らない単語について調べてくる 授業 : 課題論文(2)の結果・考察部分について内容を整理する (ディスカッション) 復習 : ディスカッションを踏まえ、もう一度論文を読んでおく	
13	倉住 友恵	予習 : 選んだ論文の問題・目的・方法部分を精読し、知らない用語について調べる 授業 : 発表用レジュメの作成方法、発表用レジュメの準備 復習 : 問題・目的・方法部分の発表用レジュメを完成させる	

14	倉住 友恵	予習 : 選んだ論文の結果・考察部分を精読し、知らない用語について調べる 授業 : 結果の読み取り、論文を批判的に読む、発表用レジュメの準備 復習 : 結果・考察部分の発表用レジュメを完成させる							
15	倉住 友恵	予習 : 発表用レジュメを完成させる 授業 : グループに分かれ各自読んだ論文を発表する、質疑応答を行う（プレゼンテーション） 復習 : 興味をもった論文やテーマについてさらに調べる							
授業開始前学習		興味のある心理学の書籍を読むこと。自分や他者に日頃から関心を持ち、なぜそのように行動するのか、なぜそのように感じるのかを考えてみること。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題を課した場合には、その授業時間中または次の授業回に講評を行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		授業内で紹介する。							
評価の基準と方法		授業への取り組み 30%、発表内容 50%、グループワーク 20%とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		人間関係の基礎、人間関係入門Ⅰ、心理学の諸科目							
その他		授業内容は受講生の人数や学生の興味・関心に応じて変更するおそれがある。 本授業はゼミであるため、原則全授業回への出席を求める。万が一欠席する場合には、必ず教員へ連絡を入れるように。 授業内ではグループワークも行うため、互いを尊重し助け合う姿勢を大切にしたい。 また人間関係ゼミⅡ、Ⅲ、Ⅳへと学びを発展させるためにも、日頃生じた素朴な疑問や興味関心を大切に、自発的に調べるなど積極的な姿勢をもつことが望まれる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-23 (J)	授業コード	FB1116
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【情報を適切に伝える】 「出版物とコミュニケーション」「出版物と情報」などについて研究する。実践として、グループで役割を分担して、情報誌の制作を行う。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。		
到達目標	グループの課題（前期）と個人の研究（後期）を1つのチームになって進めることで、「チームで働く力」「考え抜く力」を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田澤 秀司	【第1回】 予習：書店で市販の雑誌を見比べる 授業：進行説明「市販雑誌の生原稿を順番に並べて、進行を確認」 復習：フリーペーパーを集める	
2	田澤 秀司	【第2回】 予習：テーマとターゲットを考える 授業：編集会議「グループに分かれて、情報誌のテーマとターゲットを検討」（ディスカッション） 復習：テーマとターゲットを整理する	
3	田澤 秀司	【第3回】 予習：コンテンツを考える 授業：編集会議「情報誌のテーマとターゲットを設定し、グループごとに発表」（ディスカッション） 復習：コンテンツを整理する	
4	田澤 秀司	【第4回】 予習：サンプル誌を用意する 授業：編集会議「情報誌のフォーマットを決めて、レイアウト用紙を設計」（ディスカッション） 復習：ページ構成を考える	
5	田澤 秀司	【第5回】 予習：取材先の下見をする 授業：取材撮影「グループ全員で、広い範囲で取材」 復習：取材不足がないか確認する	
6	田澤 秀司	【第6回】 予習：特集ページの構成を考える 授業：取材撮影「グループ全員で、範囲を絞って取材」 復習：特集ページの構成を固める	
7	田澤 秀司	【第7回】 予習：追加取材先の下見をする 授業：取材撮影「担当に分かれて、不足や追加分を取材」 復習：他のページの構成を固める	
8	田澤 秀司	【第8回】 予習：全体のページ構成を考える 授業：編集会議「ラフレイアウトを作り、グループごとに発表」（ディスカッション） 復習：全体のページ構成を固める	
9	田澤 秀司	【第9回】 予習：取材したデータを確認する 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力」 復習：取材したデータの正誤を確認する	
10	田澤 秀司	【第10回】 予習：取材したデータを確認する 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力、レイアウト」 復習：取材したデータの正誤を確認する	
11	田澤 秀司	【第11回】 予習：取材したデータを確認する 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力、レイアウト、校正」	

		復習：取材したデータの正誤を確認する							
12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：テーマとターゲット、コンテンツを確認し、発表に備える 授業：編集会議「出力見本を並べて、グループごとに発表」（ディスカッション、発表） 復習：意見を参考に、ページ構成を整理する							
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」1 復習：製本を仕上げる							
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」2 復習：製本を仕上げる							
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」3 復習：製本を仕上げる							
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の始めに会議を行い、グループの質問に答え、課題を進めていく。							
テキスト・教材		授業で適宜、配布する。							
参考書		授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「企画と表現」「表現活動とメディア/表現活動とビジネス」を学ぶことで、本授業のテーマ、到達目標をより深く理解することができる。							
その他		課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。							

科目分類		授業コード	FB1117
科目名称	人間関係ゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称		授業区分	
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-612
授業概要	全体研究と個人研究、論文執筆トレーニングを同時並行して行う。全体研究では、メディアを対象とする技術論、社会論、文化論、表象分析等に関するテキストの輪読を行う。学外活動としてフィールドワークを一回行う。個人研究では、ゼミ論／卒論執筆に向けて研究テーマを設定し、先行研究の収集と精査を行う。各自の進捗状況は適宜ゼミ内で発表し共有する。論文執筆トレーニングでは、学術論文の執筆方法に関するテキストを全体で読み進める。		
到達目標	メディア・スタディーズの射程や方法を理解し、自らが設定したテーマでメディア論を書くことを最終目標としてそのための技術および知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：メディアに関して関心のあるテーマをリストアップする 授業：イントロダクション、授業計画 復習：3 年次の研究目標をたてる	
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：なぜメディアを研究するのか（教科書①pp.1-10）、文献購読のしかた（教科書②pp.26-27） 復習：その日の授業内容を振り返る	
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ネットは「みんなの声」をつたえているか？（教科書①pp.12-20）、批判的に読むには（教科書②pp.28-29） 復習：その日の授業内容を振り返る	
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：なぜフェイクニュースが生まれるのか？（教科書①pp.21-30）、テキストクリティクのしかた（教科書②pp.30-31） 復習：その日の授業内容を振り返る	
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：フィールドワーク先の情報収集を行い計画を立てる 授業：フィールドワーク（西武園ゆうえんちを予定） 復習：フィールドワークレポートを作成する	
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：スマートフォンは写真をどう変えたのか？（教科書①pp.31-40）、レポートのしかた（教科書②pp.36-37） 復習：その日の授業内容を振り返る	
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：美容整形は個人的なことか？（教科書①pp.41-50）、議論が苦手という人のために（教科書②pp.38-39） 復習：その日の授業内容を振り返る	
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマについて 復習：今後の個人研究の計画を立てる	
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：CM のジェンダー表現はなぜ炎上しがち？（教科書①pp.52-63）、議論のしかた（教科書②pp.40-41） 復習：その日の授業内容を振り返る	
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：障害者は「がんばる人」なのか？（教科書①pp.64-73）、意見の出し方（教科書②pp.42-43） 復習：その日の授業内容を振り返る	

11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：女性被害者は本当に多いのか？（教科書①pp.74-83）、レポートとどう違うか（教科書②pp.2-3） 復習：その日の授業内容を振り返る						
12	楠田 恵美	【12 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：健康の不安はメディアで解消されるのか？（教科書①pp.84-92）、何の役に立つか（教科書②pp.4-5） 復習：その日の授業内容を振り返る						
13	楠田 恵美	【第 13 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：「外国人」選手はなぜ特別視されるのか？（教科書①pp.94-103）、何枚書けばよいか（教科書②pp.6-7） 復習：その日の授業内容を振り返る						
14	楠田 恵美	【第 14 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：クールジャパンって本当にクールなの？（教科書①pp.104-113）、不合格になることはあるか（教科書②pp.8-9） 復習：その日の授業内容を振り返る						
15	楠田 恵美	【第 15 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマと先行研究について 復習：今後の個人研究の計画を立てる						
授業開始前学習		教科書のはじめにと目次に目を通しておく。自らの研究テーマを構想する。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。						
テキスト・教材		①石田佐恵子・岡田崇之, 2020, 『基礎ゼミメディアスタディーズ』世界思想社。 ②白井利明・高橋一郎, 2013, 『よくわかる卒論の書き方（第 2 版）』ミネルヴァ書房。						
参考書		授業中に適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		授業態度 50%、授業内課題 50%で評価する。						
ディプロマポリシー								
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	メディアと社会／情報技術と人間関係、広告の研究／映像広告の研究							
その他	正課学外活動として、西武園ゆうえんちでのフィールドワークを予定している。フィールドワークを実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。フィールドワークの交通費ならびに入園料は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-23 (J)	授業コード	FB1121
科目名称	人間関係ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40	研究室	10-701
授業概要	公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。 2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。 (1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ (2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ 授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。		
到達目標	(1) 共通テーマ 文献に基づいてレジュメを作成し、レジュメを全員に共有して発言を促しながら討論を進行する これらの作業を通じて文献から著者の問題意識と社会原理の問題を精確に読み取り、読み取ったことと討論を照らし合わせて自身の考えを文章にまとめてレポートを作成する (2) 個人研究 前期に設定し着手した個人研究を推し進め、中間報告で情報交換し、研究推進上の課題発見や解決を進める		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：関連する授業の内容の復習 授業：ゼミの進め方・履修上の注意・テキストの指示 復習：テキストの準備・個人研究テーマの推進	
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：テキストの準備・個人研究テーマの推進 授業：テキストについての説明、レジュメ作成方法の説明 復習：個人研究の推進	
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進	
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所を再読・個人研究の推進	
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所を再読・個人研究の推進	
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進	
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進	
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進	
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進	

10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進															
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進															
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらテキスト実施箇所の再読・個人研究の推進															
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習 : この時点までの個人研究の状況をゼミで共有できるようプレゼンにまとめる 授業 : 個人研究の中間発表(1) (問題解決型学習・プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 授業内容を反映させて個人研究の軌道修正をし、さらに推進する															
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習 : ここまでの個人研究の状況をゼミで共有できるようプレゼンにまとめる 授業 : 個人研究の中間発表(2) (問題解決型学習・プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 授業内容を反映させて個人研究の軌道修正をし、さらに推進する															
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習 : ここまでの個人研究の状況をゼミで共有できるようプレゼンにまとめる 授業 : 個人研究の中間発表(3) (問題解決型学習・プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 授業内容を反映させて個人研究の軌道修正をし、さらに推進する															
授業開始前学習		化粧を始め種々の流行 (履修者にとって異世代や異性も含む) や、社会情勢、時代風潮、ニュースや事件など、自分が生きる時代と社会の状況に広く関心を持ち、自分なりに日々考え続けることが必要である とくに後期は「化粧の文化史」と「化粧文化論 b」の知識を前提にした内容であるので、できる限り今期までにこれらを履修し、すでに履修した人は復習しておく必要がある とくに個人研究テーマが化粧・美容・ファッション・外見に関連する者は個人研究でも上記の科目が必要になるため、できるだけ早く履修を終える必要がある															
授業内課題のフィードバックの方法		レジュメとプレゼンテーションはその場で改善点をアドバイスする 個人研究の中間報告では個人の状況にあった細かなアドバイスをする															
テキスト・教材		石田かおり『化粧と人間』,法政大学出版局,2009 年 (オンデマンド出版のため教科書販売期間に一括注文する)															
参考書		三浦雅士『身体の零度』講談社,1994 年 そのほかは必要があるときに指示する															
評価の基準と方法		レジュメ作成と発表・討論の司会進行 30%、発言などゼミ参加の積極性 20%、レポート 30 パーセント、中間報告 20% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、単位は認定しない															
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当								△		○		◎				○	
関連科目		化粧の文化史と化粧文化論 b は前提となる内容 そのほか化粧文化論 a、セルフプロデュース論、ビューティービジネス論とも関連が深い															
その他		テキストのレジュメ作成と討論の司会進行は必ず 1 度は当番が回るように担当を決める 担当者はレジュメ作成のほか、レジュメの共有と、担当内容についてのクラスの討論の司会進行も務める 個人研究を自力で進める力をつけることも重要である															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)															
実務経験を活かした教育内容		化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容を基に授業を実施															

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1122
科目名称	人間関係ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	国際社会の諸問題から、各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞・テレビなどのメディアでチェックする。		
到達目標	(1) 思考力を深める (2) 口頭発表および文章作成能力の向上 (3) 現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる思考を深める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	臼井 実穂子	【第 1 回】 予習 : 前期課題の完成 授業 : 後期のゼミ運営方針を再確認 各人のゼミ研究テーマについて発表 復習 : 研究テーマについて、教員からの指示を参考に再考	
2	臼井 実穂子	【第 2 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(1) 学生発表と討議(1) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
3	臼井 実穂子	【第 3 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(2)ゼミ生による発表・討議(2) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
4	臼井 実穂子	【第 4 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(3) 学生発表と討議 (3) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
5	臼井 実穂子	【第 5 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(4) 学生発表と討議(4) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
6	臼井 実穂子	【第 6 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(5) 学生発表と討議(5) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
7	臼井 実穂子	【第 7 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(6) 学生発表と討議(6) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
8	臼井 実穂子	【第 8 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(7) 学生発表と討議(7) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
9	臼井 実穂子	【第 9 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(8) 学生発表と討議(8) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
10	臼井 実穂子	【第 10 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(9) 学生発表と討議(9) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
11	臼井 実穂子	【第 11 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業 : 時事問題解説(10) 学生発表と討議(10) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	

12	臼井 実穂子	【第 12 回】 予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業：時事問題解説(11) 学生発表と討議(11) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考							
13	臼井 実穂子	【第 13 回】 予習：発表者は研究発表準備 その他ゼミ生は研究関心のある新聞記事を準備 授業：時事問題解説(12) 学生発表と討議(12) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考							
14	臼井 実穂子	【第 14 回】 予習：これまでのゼミ生のレジュメを読み、共同研究の可能性を探る 授業：4 年生に向けての研究の再考を中心に討論 (ディスカッション) 復習：各ゼミ生が【第 14 回】ゼミを踏まえて、自己の研究を再検討							
15	臼井 実穂子	【第 15 回】 予習：前回課題を完成 授業：4 年ゼミに向けての各ゼミ生の研究テーマの最終検討 復習：指示された課題を完成							
授業開始前学習		自身の研究テーマに関する本を読み漁る。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業を通じて適宜実施する。							
テキスト・教材		指定しない。							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		平常点と発表内容およびレジュメ、毎ゼミでの発言で評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が発表日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「戦争と平和の歴史 I.II」を履修済みであることが望ましい。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1123
科目名称	人間関係ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	テーマ：社会学で読み解く現代社会 社会学的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開します。各自の研究活動に必要な基礎的スキルを着実に修得してもらうことを目標とします。		
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1. 「本の読み方」をマスターする 2. ディスカッションのスキルを高める 3. 「問い」を立てるスキルを身につける		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第 1 回】 予習：テキスト第 11 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：後期ゼミ活動打合せ、テキスト講読 1【pp.118～127】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
2	榎本 環	【第 2 回】 予習：テキスト第 12 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 2【pp.128～137】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
3	榎本 環	【第 3 回】 予習：テキスト第 15 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 3【pp.160～169】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
4	榎本 環	【第 4 回】 予習：各自の個人研究のテーマ候補（複数）をメモに書き出してください。 授業：個人研究の方法と進め方 復習：以後の報告スケジュールをもとに、準備作業の計画を立ててください。	
5	榎本 環	【第 5 回】 予習：テキスト第 16 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 4【pp.170～179】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
6	榎本 環	【第 6 回】 予習：テキスト第 20 章を精読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：テキスト講読 5【pp.212～221】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
7	榎本 環	【第 7 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
8	榎本 環	【第 8 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
9	榎本 環	【第 9 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 3（プレゼンテーション、ディスカッション）	

		復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
10	榎本 環	【第 10 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 4（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
11	榎本 環	【第 11 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 5（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
12	榎本 環	【第 12 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 6（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
13	榎本 環	【第 13 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 7（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
14	榎本 環	【第 14 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 8（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
15	榎本 環	【第 15 回】 予習：報告者のレジュメを一読し、コメント・不明点を整理しておいてください。 授業：個人研究発表 9（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。							
授業開始前学習		日頃から新聞・雑誌に目を通す習慣をつけ、幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。							
テキスト・教材		出口剛司、2019、『大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる』（KADOKAWA）							
参考書		長谷川公一ほか、2007、『社会学』（有斐閣） その他、授業を通じて随時、紹介します。							
評価の基準と方法		平常点（受講取り組みの積極性・課題提出）（80 %）、期末レポート（20 %）により評価します。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「社会学ⅠⅡ」および「流行論」「社会学研究ⅠⅡ」「社会学特論」「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他		前期に引き続き、テキストの講読（受講者による報告）と討論を基本形式に進めます。報告者のみならず全員があらかじめ指定された範囲を熟読し、疑問点や各自のコメントを整理したうえでゼミでの議論に臨んでください。学期後半からは個人研究に取り組んでもらい、プレゼンと討論を行います。意欲的な受講態度を期待します。受講者各位の素朴な疑問と柔軟な発想から、私自身も多くのことを学びたいと考えております。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1124
科目名称	人間関係ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く社会・文化事象を対象として、社会学的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することを最終的な目標とする。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的な参加によって、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、研究を進めるために必要な①課題を発見する力、②文献の批評的な読解力、③情報収集力の獲得である。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：3 年次後期の学びの目標を考える 授業：ゼミの目的と進め方・各自の関心を報告 復習：基本文献全体に目を通す	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：リサーチテーマの検討 授業：グループリサーチ①：事前準備（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：テーマと役割分担等の確認	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：文献リストの作成と共有 授業：グループリサーチ②：文献収集（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：文献に目を通す	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：必要な文献を読む 授業：グループリサーチ③：文献からの書き出し（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：文献書き出しの共有	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：プレゼン構成案の作成 授業：グループリサーチ④：プレゼン構成と文献の追加収集（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：自分の担当箇所の文献を読んで書き出し	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：各自担当部分を準備 授業：グループリサーチ⑤：プレゼン作成（ラフ） 復習：プレゼンラフ案の見直し	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：完成稿作成に必要な文献をチェック 授業：グループリサーチ⑥：プレゼン仕上げと事前練習 復習：完成稿の共有とプレゼン時の役割分担	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：プレゼン本番に備えて練習をする 授業：グループリサーチ⑦：プレゼン本番 復習：プレゼン振り返り	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：新聞に目を通す 授業：時事問題ピックアップ（ディスカッション） 復習：ピックアップした時事問題について調べる	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：自分のテーマを決定する 授業：時事問題から研究テーマを決めて、文献収集 復習：収集した文献に目を通す	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：レジュメの構成を考える 授業：担当テーマについてレジュメ作成（案） 復習：レジュメ（案）の見直し	

12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：レジュメ案を見直し、不足している文献をチェック 授業：担当テーマについてレジュメ作成（完成） 復習：完成稿の見直し						
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：レジュメを見直し、発表準備 授業：担当者による報告①（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：報告の相互評価						
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：レジュメを見直し、発表準備 授業：担当者による報告②（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：報告の相互評価						
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：個人研究のテーマを考える 授業：次年度以降の研究計画の報告会 復習：報告会での課題を確認し、必要な情報収集を行う						
授業開始前学習		日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。						
テキスト・教材		受講者と相談の上、決定する。						
参考書		授業中に適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		授業参加の積極度（60 %）、作成資料（40%）により評価する。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわるうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「社会学研究Ⅰ／文化社会学Ⅰ」「社会学研究Ⅱ／文化社会学Ⅱ」は現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他	ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-23	授業コード	FB1125
科目名称	人間関係ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	グループに分かれ心理学的手法を用いた研究を行う。翌年の卒業研究に備えて、研究の手順とノウハウをグループワークにて学ぶ。最終回ではプレゼンテーションを行い、各グループの研究に対して互いに質疑応答を行うことで、他者の研究を理解し、批判的に考えられるようになることを目指す。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 1.心理学研究の手順について理解する 2.卒業論文作成時に必要とされるスキルを身に着ける 3.統計的分析方法の基礎について理解する 4.相手の視点に立った分かり易いプレゼンテーションができる 5.論文で使用する独特な表現を使って文章を書くことができる 6.仮説の設定、データの考察、発表での質疑応答等を通じて論理的に考える力を培う		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習 : 研究したいテーマや領域について考える 授業 : オリエンテーション、関心のあるテーマ別のグループ分け、研究内容の相談【教科書第 1,2 章 (pp.1-8)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容や決定事項を教科書にまとめる	
2	倉住 友恵	予習 : 研究デザインを考える 授業 : 研究テーマと仮説の設定【教科書第 5 章 (pp.19-20)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容や決定事項を教科書にまとめる	
3	倉住 友恵	予習 : 具体的な研究方法について考える 授業 : 研究の具体化、質問項目や実験方法を考える【教科書第 6 章 (pp.21-25)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容や決定事項を教科書にまとめる	
4	倉住 友恵	予習 : 必要な調査材料について考えておく 授業 : 調査材料を考え、作成・準備する【教科書第 7 章 (pp.26-30)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容や決定事項を教科書にまとめる	
5	倉住 友恵	予習 : 分担した調査材料の作成を行う 授業 : 調査材料を作成する、調査実施について相談する【教科書第 8 章 (p.31)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容や決定事項を教科書にまとめる、調査材料に問題がないか確認する	
6	倉住 友恵	予習 : 調査依頼を行い、調査日を決定する 授業 : 調査の実施、プレゼンの問題・方法部分の作成【教科書第 9 章 (pp.32-35)、第 28 章 (pp.97-101)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容や決定事項を教科書にまとめる	
7	倉住 友恵	予習 : 調査の進行状況を確認する 授業 : データ整理、データクリーニング【教科書第 10,11 章 (pp.36-43)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容を教科書にまとめる	
8	倉住 友恵	予習 : 調査で得られたデータをまとめ、持参する 授業 : 基礎統計量の算出【教科書第 11 章 (pp.40-43)、第 22 章 (pp.73-78)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容を教科書にまとめる	
9	倉住 友恵	予習 : 仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する 授業 : 因子分析の実施【教科書第 12～14 章 (pp.44-55)、第 23 章 (p.79)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容を教科書にまとめる	
10	倉住 友恵	予習 : 仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する 授業 : 仮説に沿った分析の実施①【教科書第 15～21 章 (pp.56-72)、第 24 章 (pp.82-87)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容を教科書にまとめる	
11	倉住 友恵	予習 : 仮説を思い返し、どのような分析を行いたいか確認する 授業 : 仮説に沿った分析の実施②【教科書第 15～21 章 (pp.56-72)、第 24 章 (pp.82-87)】(グループワーク) 復習 : 本日の内容を教科書にまとめる	

12	倉住 友恵	予習 : 分析結果を見返し、なぜその結果となったか理由を考える 授業 : 分析結果を図表にする、結果を考察する、研究の問題点を考える【教科書第 25,26 章 (pp.88-92) 】(グループワーク) 復習 : 本日の内容を教科書にまとめる						
13	倉住 友恵	予習 : プレゼンテーションの流れを考える 授業 : プレゼンテーションの準備、レポートの作成方法【教科書第 27～30 章 (pp.93-106) 】(グループワーク) 復習 : 作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する						
14	倉住 友恵	予習 : プレゼンテーションに向けてグループで相談すべきことについて整理する 授業 : プレゼンテーションの準備・練習、卒業研究に向けて【教科書第 31 章 (pp.107-110) 】(グループワーク) 復習 : 作業を分担しプレゼンを準備する、個人レポートを作成する						
15	倉住 友恵	予習 : プレゼンテーションの練習を十分に行う 授業 : グループ別プレゼンテーション、質疑応答 (プレゼンテーション) 復習 : 質疑応答を踏まえ研究の問題点をさらに考える、卒業研究のテーマについて考え始める						
授業開始前学習		研究したいと思うテーマに関連する書籍、論文を読んでおく。自分や他者に日頃から関心を持ち、なぜそのように行動するのか、なぜそう感じるのか考えてみる (素朴な疑問は研究テーマの芽になりうるため) 。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題を課した場合には、提出日にチェックを行いその場でコメントを返す。						
テキスト・教材		倉住友恵著『人間関係ゼミⅡ (応用心理学) 教科書』駒沢女子大学教科書シリーズ						
参考書		授業時間内に紹介する。						
評価の基準と方法		グループへの貢献度 (出席を含む) 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%とする。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	人間関係ゼミⅠ、アンケート調査法、フィールドワークの技法、人間関係の基礎							
その他	本授業はゼミであるため、基本的に全授業回への出席を求める。万が一欠席する場合には、必ず教員へ連絡を入れるように。 授業はグループワークにて進行するため、グループに貢献できるよう積極的かつ協力的な姿勢をもつよう心掛けて欲しい。 人間関係ゼミⅢ、Ⅳへと学びを発展させるためにも、日頃生じた素朴な疑問や興味関心を大切に、自発的に調べるなど積極的な姿勢をもつことが望まれる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-23 (J)			授業コード	FB1126
科目名称	人間関係ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00			研究室	10-502
授業概要	【情報を適切に伝える】 出版物にみられる「テーマや表現の多様性と方法」について研究する。実践として、絵本を制作したり、小冊子にまとめたりする。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。				
到達目標	グループの課題（前期）と個人の研究（後期）を1つのチームになって進めることで、「チームで働く力」「考え抜く力」を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田澤 秀司	【第1回】 予習：「絵本とは何か」を具体的に調べる 授業：絵本編集「絵を読ませるということ、メッセージ」 復習：「絵本とは何か」をレポートにまとめる			
2	田澤 秀司	【第2回】 予習：ストーリーを考える 授業：絵本編集「ストーリー展開とページめくりへの期待」 復習：授業を振り返り、ストーリーを見直す			
3	田澤 秀司	【第3回】 予習：ページ構成を考える 授業：絵本編集「起承転結、連続と飛躍、構図と変化」 復習：授業を振り返り、ページ構成を見直す			
4	田澤 秀司	【第4回】 予習：絵コンテを考える 授業：企画会議「コンテを作る、コンテで語る」（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、絵コンテを見直す			
5	田澤 秀司	【第5回】 予習：絵コンテを仕上げる 授業：企画会議「コンテのプレゼンテーション」（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、絵コンテを修正する			
6	田澤 秀司	【第6回】 予習：デザイン案を考える 授業：企画会議「判型とデザイン計画」（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、デザイン案を見直す			
7	田澤 秀司	【第7回】 予習：ページ構成を考える 授業：原稿制作「画像原稿と文字原稿」1 復習：授業を振り返り、ページ構成を見直す			
8	田澤 秀司	【第8回】 予習：キャラクターを考える 授業：原稿制作「画像原稿と文字原稿」2 復習：授業を振り返り、キャラクターを考える			
9	田澤 秀司	【第9回】 予習：ストーリーとキャラクターを完成させる 授業：原稿制作「画像原稿と文字原稿」3 復習：授業を振り返り、ストーリーとキャラクターを見直す			
10	田澤 秀司	【第10回】 予習：すべての原稿を完成させる 授業：原稿整理「画像の加工、テキスト入力など」 復習：授業を振り返り、すべての原稿を見直す			
11	田澤 秀司	【第11回】 予習：レイアウトを進める 授業：原稿整理「プリントアウト、校正など」 復習：授業を振り返り、レイアウトを見直す			

12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：レイアウトを進める 授業：原稿整理「プリントアウト、校正、追加原稿など」 復習：授業を振り返り、レイアウトを見直す						
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」1 復習：製本を仕上げる						
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」2 復習：製本を仕上げる						
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：制作部数を考えて材料を用意する 授業：製本作業「プリントアウト、製本加工」3 復習：製本を仕上げる						
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の始めに会議を行い、グループの質問に答え、課題を進めていく。						
テキスト・教材		授業で適宜、配布する。						
参考書		授業で適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「企画と表現」「表現活動とメディア／表現活動とビジネス」を学ぶことで、本授業のテーマ、到達目標をより深く理解することができる。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかわかり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版“で”教育する」という取り組みを実践している。							

科目分類		授業コード	FB1127
科目名称	人間関係ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅱ	授業区分	
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-612
授業概要	全体研究と個人研究、論文執筆トレーニングを同時並行して行う。全体研究では、メディアを対象とする技術論、社会論、文化論、表象分析等に関するテキストの輪読を行う。学外活動としてフィールドワークを一回行う。個人研究では、ゼミ論／卒論執筆に向けて研究テーマを設定し、先行研究の収集と精査し、問題設定を行う。各自の進捗状況は適宜ゼミ内で発表し共有する。論文執筆トレーニングでは、学術論文の執筆方法に関するテキストを全体で読み進める。		
到達目標	メディア・スタディーズの射程や方法を理解し、自らが設定したテーマでメディア論を書くことを最終目標とし、そのための技術および知識を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：前期の内容を振り返る 授業：イントロダクション、授業計画 復習：3 年次後半の研究目標をたてる	
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：K-POP は誰のものか？（教科書①pp.114-122）、なぜ早めに始めるか（教科書②pp.10-11） 復習：その日の授業内容を振り返る	
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：グーグルマップは世界を描いているか？（教科書①pp.124-132）、年間計画の立て方（教科書②pp.12-13） 復習：その日の授業内容を振り返る	
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：メディア経験から何がわかるのか？（教科書①pp.133-141）、実際の進め方（教科書②pp.14-15） 復習：その日の授業内容を振り返る	
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：フィールドワーク先の情報収集を行い計画を立てる 授業：フィールドワーク（よみうりランドを予定） 復習：フィールドワークレポートを作成する	
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：地域の記憶は誰のものか？（教科書①pp.142-150）、指導教員とどう付き合うか（教科書②pp.18-19） 復習：その日の授業内容を振り返る	
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルメディアのコミュニケーションと社会（教科書③pp.8-17）、どんな心構えが必要か（教科書②pp.20-21） 復習：その日の授業内容を振り返る	
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマと先行研究について 復習：今後の個人研究の計画を立てる	
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散（教科書③pp.20-28）、3,2,1 年次にしておくこと（教科書②pp.22-23） 復習：その日の授業内容を振り返る	
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：動画視聴は自由な意志でなされているのか？（教科書③pp.29-35）、論文のきまり（教科書	

		②pp.48-49) 復習：その日の授業内容を振り返る						
11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション（教科書③pp.36-44）、引用の示し方（教科書②pp.50-51） 復習：その日の授業内容を振り返る						
12	楠田 恵美	【12 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな「場所」（教科書③pp.45-52）、引用文献の書き方（教科書②pp.52-58） 復習：その日の授業内容を振り返る						
13	楠田 恵美	【第 13 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：インターネットは音楽から何を奪ったか？（教科書③pp.54-62）、専門用語の定義のしかた（教科書②pp.58-59） 復習：その日の授業内容を振り返る						
14	楠田 恵美	【第 14 回】 予習：教科書該当部を読む 授業：ソーシャルゲームというメディア（教科書③pp.63-70）、事実と意見の分け方（教科書②pp.60-61） 復習：その日の授業内容を振り返る						
15	楠田 恵美	【第 15 回】 予習：発表資料を準備する 授業：個人研究発表：研究テーマと先行研究、問いについて 復習：今後の個人研究の計画を立てる						
授業開始前学習		前期の授業内容を復習するとともに、自らの研究テーマに関連する文献を読み進めておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内での発表やディスカッションに対して講評を行うとともに、提出された課題や受けた質問に対しては都度評価、回答をする。						
テキスト・教材		①石田佐恵子・岡田崇之, 2020, 『基礎ゼミメディアスタディーズ』世界思想社. ②白井利明・高橋一郎, 2013, 『よくわかる卒論の書き方（第2版）』ミネルヴァ書房. ③松井広志・岡本健, 2021, 『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版.						
参考書		授業中に適宜、紹介する。						
評価の基準と方法		授業態度 50%、授業内課題 50%で評価する。						
ディプロマポリシー								
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	メディアと社会／情報技術と人間関係、広告の研究／映像広告の研究							
その他	正課学外活動として、よみうりランドでのフィールドワークを予定している。フィールドワークを実施するかどうかは、その時の状況に応じて判断する。フィールドワークの交通費ならびに入園料は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-24 （ J ）		授業コード	FB1131	
科目名称	人間関係ゼミⅢ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	石田 かおり		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	石田 かおり		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40		研究室	10-701	
授業概要	公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。 2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。 （１） 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ （２） 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ 授業で全員が集まるときはほとんど（１）を扱うことになるので、（２）は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。 3 期目のこの授業では、社会的話題をテーマにその実態と問題点、それらの背景を探ることが入口である。さらに、なぜ人々がそうした行動をとり意識を持つようになったのか、社会の基層に存在する思考法や構造原理まで深掘する。そこから解決策を考えて、世の中にまだないような提案にまで持っていくことをめざす。				
到達目標	（１）共通テーマ 問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力が授業開始前より伸びている状態 （２）個人研究 前年度に設定し着手した個人研究をさらに推進し、中間報告で情報交換し、後期に論文執筆にかかる水準に持ってゆく				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：自分が何についてのどの点に関心があるのか自覚し、詳細に把握しておく 授業：共通テーマ（１）の策定 復習：共通テーマの問題点を考える・個人研究の推進			
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：共通テーマについての資料を集める 授業：共通テーマ（１）の問題分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進			
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：共通テーマについての資料を集める 授業：共通テーマ（１）の資料を使った問題点の分析 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進			
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：足りない資料を集める 授業：共通テーマ（１）の問題点分析を整理し論理的に構築する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進			
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：論理的説明について書籍等の資料を読む 授業：共通テーマ（１）を論理的に説明できるようまとめる 復習：授業でまとめたもののプレゼン練習・個人研究の推進			
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：授業でまとめたもののプレゼン練習 授業：共通テーマ（１）の問題分析をゼミメンバー全員で共有し、討論する 復習：授業を思い出し問題点について考えを深める・個人研究の推進			
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（１） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める			
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（２） 復習：他のゼミメンバーの研究や教員アドバイスから得たことを自分の研究に反映させて研究を進める 軌道修正をし、さらに推進する予習：			
9	石田 かおり	【第 9 回】 予習：この時点までの個人研究を発表できるようにまとめる 授業：個人研究の中間報告（３）			

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1132
科目名称	人間関係ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。 ゼミ科目であり、ディスカッション、発表が中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞・テレビなどのメディアでチェックする。		
到達目標	(1) 思考力を深める (2) 口頭発表および文章作成能力の向上 (3) 現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	臼井 実穂子	【第 1 回】 予習 : 研究の進捗状況報告準備 授業 : ゼミ生による研究の進捗状況報告 ゼミ運営方針の確認 復習 : 研究についての教員からの指示をまとめる	
2	臼井 実穂子	【第 2 回】 予習 : 研究の進捗状況の発表準備 授業 : 研究の進捗状況の発表 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の研究の再考	
3	臼井 実穂子	【第 3 回】 予習 : 自己の研究テーマについての先行研究を準備 授業 : 各ゼミ生の集めた先行研究の検討 (1) (ディスカッション) 復習 : 自身の収集した記事と他の学生のそれを整理	
4	臼井 実穂子	【第 4 回】 予習 : 自己の研究テーマについての最近の先行研究を準備 授業 : 各ゼミ生の集めた先行研究の検討 (2) (ディスカッション) 復習 : 自身の収集した記事と他の学生のそれを整理	
5	臼井 実穂子	【第 5 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (1) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
6	臼井 実穂子	【第 6 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (2) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
7	臼井 実穂子	【第 7 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (3) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
8	臼井 実穂子	【第 8 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (4) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
9	臼井 実穂子	【第 9 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (5) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
10	臼井 実穂子	【第 10 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (6) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	
11	臼井 実穂子	【第 11 回】 予習 : 発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業 : 学生発表と討論 (7) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考	

12	臼井 実穂子	【第 12 回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（8）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考						
13	臼井 実穂子	【第 13 回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（9）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考						
14	臼井 実穂子	【第 14 回】 予習：発表者のレジュメを読み、質問をメモ書きする 授業：学生発表と討論（10）（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理、自己の発表の再考						
15	臼井 実穂子	【第 15 回】 予習：発表後の自己の研究の進展をまとめる 授業：ゼミ生による研究の改善点発表 後期にむけての課題を指示 復習：提示された課題に着手						
授業開始前学習		自身のテーマに関連する文献リストを作成する						
授業内課題のフィードバックの方法		授業を通じて、適宜実施する。						
テキスト・教材		指定しない。						
参考書		適宜指示する。						
評価の基準と方法		平常点と発表内容およびレジュメ、ゼミでの発言により評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が担当日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。						
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	戦争と平和の歴史Ⅰ、Ⅱ，国際社会の論点／国際社会への誘い							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1133
科目名称	人間関係ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	社会学的な発想と視座について理解を深め、それらを実践的に駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するトレーニング活動を展開します。本格的な学術研究を志向します。各自、自らの問題関心を掘り下げる作業、問いを立てること、情報を集めその問いにじっくりと考察をめぐらすこと、それらの知的営みに取り組んでもらいます。また、自分の着想を明確に伝え、相手の主張を精確に理解し、それに的確にコメントするためのコミュニケーション・スキルを磨くことも学習課題とします。		
到達目標	次の 3 点を目標とします。 1. 「問い」を立てるスキルを高める 2. 文献情報を収集するスキルを高める 3. 「本の読み方」をマスターする		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 : 2 年次後期の個人研究と期末レポートをもとに、各自の研究テーマと問題関心を整理してください。 授業 : 前期ゼミ活動打合せ 復習 : 前期の報告スケジュールをもとに、準備作業の中期的計画を立ててください。	
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 : 研究テーマ、研究トピック（暫定的で可）を具体的に決めてください。 授業 : 文献リサーチの方法（実習） 復習 : 授業内容を復習し、各自、文献リストの作成作業を進めてください。	
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 3（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 4（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 5（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 6（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 個人研究発表 7（プレゼンテーション、ディスカッション）	

		復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
10	榎本 環	【第10回】 予習：テキスト第1～5章を熟読し、不明点・疑問点を整理しておいてください。 授業：卒論・ゼミ論の研究計画の立て方【テキスト p.9～p.144】 復習：テキスト第6～9章を読み、論文作成の具体的な作業イメージをつかんでください。						
11	榎本 環	【第11回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表 8（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
12	榎本 環	【第12回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表 9（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
13	榎本 環	【第13回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表 10（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
14	榎本 環	【第14回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表 11（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
15	榎本 環	【第15回】 予習：報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業：個人研究発表 12（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
授業開始前学習		日頃から幅広く読書し、見聞を広め、好奇心と観察眼を研ぎ澄ませる努力を心がけることを勧めます。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。						
テキスト・教材		戸田山和久、2022、『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス）						
参考書		井下千似子、2013、『レポート・論文作成法』（慶應義塾大学出版会） その他、授業を通じて随時、紹介します。						
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（100％）により評価します。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立的思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学ⅡⅡ」および「流行論」「文化社会学ⅡⅡ」「社会学特論」および「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	各自の個人研究の成果発表と討論を基本形式に進めます。アイデアは、読書（著者という他人）やディスカッション（実在の他人）など、つねに他者との意見交換のなかから生まれてきます。ゼミの場を活用し、研究テーマに関して互いに積極的にコミュニケーションし合う習慣を身に付けてください。ゼミ担当者として、各自の研究活動を支援する労力は惜しみません。遠慮することなく、いつでも相談してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1134
科目名称	人間関係ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く社会・文化事象を対象として、社会学的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することが求められる。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的に参加し、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、研究のために必要な以下の 3 つの能力、すなわち、①文献を論理的に読解する力、②自らの考えを論理的に述べる力、③説得力のあるプレゼンテーションを行う力を獲得することである。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：3 年次後期の研究発表を振り返る 授業：ゼミ活動打合せ 復習：4 年次前期研究計画を立てる	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：自分の研究テーマを決定する 授業：研究テーマ報告会（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミで指摘された点をもとに、テーマを練り直す	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：テーマに関する資料を収集する 授業：参考文献報告、情報検索のコツ 復習：テーマに関する資料収集を補足する	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：研究報告①：テーマ（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：研究報告②：アウトライン（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：研究報告③：先行研究（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：研究報告④：自説（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に自身の研究活動を見直す	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：論文の構成を考える 授業：論文の書き方 復習：論文の構成を修正する	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：論文構成のプレゼン準備を行う 授業：論文構成にもとづいた研究報告①：目次の作成（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：論文構成のプレゼン準備を行う 授業：論文構成にもとづいた研究報告②：先行研究（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：論文構成のプレゼン準備を行う 授業：論文構成にもとづいた研究報告③：問題提起（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する	

12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：論文構成のプレゼン準備を行う 授業：論文構成にもとづいた研究報告④：自説（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する							
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：論文構成のプレゼン準備を行う 授業：論文構成にもとづいた研究報告⑤：追加調査（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を修正する							
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：研究計画の見直し 授業：研究計画の検討 復習：ゼミでの意見を参考に後期の研究計画を見直す							
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：夏季休暇中の課題を整理する 授業：夏季休暇中の研究活動について 復習：夏季休暇中の研究活動にとりかかる							
授業開始前学習		日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。							
テキスト・教材		授業中に指示する。							
参考書		授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法		授業参加の積極度（60％）、作成資料・論文（40％）により評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「社会学研究Ⅰ／文化社会学Ⅰ」「社会学研究Ⅱ／文化社会学Ⅱ」は、現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他		ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1135
科目名称	人間関係ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	日常場面から心理学的なリサーチエスション（研究に関する問い）を立て、関係する先行研究をレビューしていく。複数の先行研究を体系的に理解することで、テーマに関する知識を深めていく。場合によっては自ら調査や実験を計画し、実施する。授業時間の前半は各自の研究報告の時間とし、ゼミの全員でディスカッションすることで研究テーマへの理解を深め、個々の研究内容をブラッシュアップしていく。後半は教員への研究相談の時間とし、テーマ設定の仕方や調査・実験材料の作り方などについて相談を受け付ける。		
到達目標	以下、6 点を目標とする。 1. 研究テーマに関する先行研究に一定以上精通する 2. 論文を批判的に読むことができる 3. 卒業研究の具体的な内容（リサーチエスション、研究手法）を確定する 4. 発表を通じて他者に自分の考えを分かりやすく説明できる 5. 他者の発表に対して適切なコメント（意見、質問）ができる 6. 投げかけられた質問に適切に回答することができる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習：卒業研究のテーマについてのレジュメ作成 授業：オリエンテーション、卒業論文とは、卒業研究テーマの発表（ディスカッション） 復習：授業で得た意見を参考にしながら、卒業研究のテーマを見直す	
2	倉住 友恵	予習：先行研究の精読、批判点・疑問点の抽出、発表準備 授業：先行研究報告 1、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
3	倉住 友恵	予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業：先行研究報告 2、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
4	倉住 友恵	予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業：先行研究報告 3、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
5	倉住 友恵	予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業：先行研究報告 4、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
6	倉住 友恵	予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業：先行研究報告 5、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
7	倉住 友恵	予習：先行研究の精読、疑問点・批判点の抽出、発表準備 授業：先行研究報告 6、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
8	倉住 友恵	予習：研究計画の立案、発表準備 授業：研究計画発表 1、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
9	倉住 友恵	予習：研究計画の立案、発表準備 授業：研究計画発表 2、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
10	倉住 友恵	予習：研究計画の立案、発表準備 授業：研究計画発表 3、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
11	倉住 友恵	予習：研究計画の立案、発表準備 授業：研究計画発表 4、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	
12	倉住 友恵	予習：研究計画の立案、発表準備 授業：研究計画発表 5、質疑応答（ディスカッション） 復習：発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討	

13	倉住 友恵	予習 : 研究計画の立案、発表準備 授業 : 研究計画発表 6、質疑応答（ディスカッション） 復習 : 発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討							
14	倉住 友恵	予習 : 研究材料の作成、発表準備 授業 : 研究計画発表 7、研究材料の作成、質疑応答（ディスカッション） 復習 : 発表やディスカッションを踏まえた研究内容の再検討、研究材料の改良							
15	倉住 友恵	予習 : 夏季休暇中の研究計画立案 授業 : 夏季休暇中の研究の進め方、夏季休暇中の研究計画発表 復習 : 夏季休暇中の研究計画の遂行							
授業開始前学習		「人間関係ゼミⅠ・Ⅱ」における学修内容を復習し、卒業研究のテーマを検討する。関心領域における文献収集と講読を行う。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表内容や提出課題については、基本的にその授業時間内にフィードバックと必要な指導を行う。							
テキスト・教材		特に定めない。							
参考書		授業時間内に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		受講態度 30%、発表・課題提出 50%、ディスカッションへの参加 20%として評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		人間関係ゼミⅠ・Ⅱ、アンケート調査法、フィールドワークの技法							
その他		学生が主体となる演習科目なので、積極的な参加態度をもって臨むよう心掛けてほしい。欠席する場合には必ず教員へ連絡を入れること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-24 (J)	授業コード	FB1136
科目名称	人間関係ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【メディアで表現する】 各回を前後半に分けて、会議とワークショップを行う。会議ではイベントやプロジェクトの企画をたて、実践する。ワークショップでは、全員で決めたシリーズに基づいて 1 人 1 テーマの著作をまとめあげる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。		
到達目標	「理解力（わかること）」と「表現力（わかってもらうこと）」を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習 : 自分が作りたい本のイメージに近いものを探す 授業 : 前半「会議」、後半「シリーズテーマについて」1 (ディスカッション) 復習 : テーマを考える	
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習 : 自分が作りたい本のイメージに近いものを探す 授業 : 前半「会議」、後半「シリーズテーマについて」2 (ディスカッション) 復習 : テーマを決める	
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習 : 読者対象を設定し、テーマを考える 授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり」1 (ディスカッション) 復習 : 仕様を考える	
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習 : 読者対象を設定し、テーマを考える 授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり」2 (ディスカッション) 復習 : 仕様を決める	
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習 : ページ構成を考え、絵コンテを作る 授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり（ページ構成）」1 (ディスカッション) 復習 : ページ構成を考える	
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習 : ページ構成を考え、絵コンテを作る 授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり（ページ構成）」2 (ディスカッション) 復習 : ページ構成を決める	
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習 : オリジナリティを考え、絵コンテを修正する 授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり（オリジナリティ）」1 (ディスカッション) 復習 : オリジナリティを考える	
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習 : オリジナリティを考え、絵コンテを修正する 授業 : 前半「会議」、後半「原案づくり（オリジナリティ）」2 (ディスカッション) 復習 : オリジナリティを決める	
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習 : 作業の進行計画表を作る 授業 : 前半「会議」、後半「原案発表（進行計画表）」1 (ディスカッション、発表) 復習 : 進行計画を考える	
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 : 作業の進行計画表を作る 授業 : 前半「会議」、後半「原案発表（進行計画表）」2 (ディスカッション、発表) 復習 : 進行計画を決める	
11	田澤 秀司	【第 11 回】 予習 : 判型を決め、レイアウト台紙を作る 授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作（文字原稿）」1 (ディスカッション)	

		復習：レイアウトを考える							
12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：判型を決め、レイアウト台紙を作る 授業：前半「会議」、後半「原稿制作（文字原稿）」2（ディスカッション） 復習：レイアウトを決める							
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：レイアウトを進める 授業：前半「会議」、後半「原稿制作（画像原稿）」1（ディスカッション） 復習：レイアウトを見直し、修正する							
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：レイアウトを進める 授業：前半「会議」、後半「原稿制作（画像原稿）」2（ディスカッション） 復習：レイアウトを見直し、修正する							
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：原稿を集める 授業：前半「会議」、後半「原稿制作（追加原稿）」（ディスカッション） 復習：原稿を確認し、レイアウトを進める → 後期に続く							
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		グループディスカッションで講評を行い、個人のワークショップで進捗を確認する。							
テキスト・教材		授業で適宜、配布する。							
参考書		授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にいかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「企画と表現」「表現活動とビジネス」を履修しておくことが望ましい。							
その他		課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかわり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版で“教育する」という取り組みを実践している。							

科目分類	112-310-24 (J)			授業コード	FB1141
科目名称	人間関係ゼミⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	石田 かおり			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石田 かおり			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40			研究室	10-701
授業概要	公私を問わず社会という人間関係の中で生きるために必要な力の強化を最終目標にして、問題発見力、問題分析力、資料探索収集力、論理的構築力、情報共有力、協働力を実践を通じて育成する。このことは同時に 1 人で問題を発見し研究を進める力が必要な個人研究にもつながる。 2 年間を通じて専門ゼミの学生は次の 2 つの作業で研究を進める。 (1) 共通テーマ：ゼミメンバー全員の共通のテーマ (2) 個人研究：最終的には卒業論文またはゼミ論文の形になる個人研究のテーマ 授業で全員が集まるときはほとんど (1) を扱うことになるので、(2) は授業時間外に自ら作業を進め続けなければならない。				
到達目標	3 年次からこままでの共通テーマで身に着的スキルや思考力等を駆使して個人研究に注力し、卒業論文またはゼミ論文にまとめて提出する。その後、論文内容を学内公開形式の公聴会にてプレゼンする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	【第 1 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
2	石田 かおり	【第 2 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
3	石田 かおり	【第 3 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
4	石田 かおり	【第 4 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
5	石田 かおり	【第 5 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
6	石田 かおり	【第 6 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
7	石田 かおり	【第 7 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			
8	石田 かおり	【第 8 回】 予習：テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業：レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論（問題解決型学習・発表とディスカッション） 復習：授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆			

9	石田 かおり	【第 9 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆							
10	石田 かおり	【第 10 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆							
11	石田 かおり	【第 11 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文執筆							
12	石田 かおり	【第 12 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文の仕上げ							
13	石田 かおり	【第 13 回】 予習 : テキスト実施箇所の講読とわからない用語や必要な資料を調べる・当番はレジュメの作成 授業 : レジュメを用いた発表を通じたテキスト講読と美意識についての討論 (問題解決型学習・発表とディスカッション) 復習 : 授業内容を確認しながらのテキスト実施箇所を講読・個人研究の推進と論文の仕上げ							
14	石田 かおり	【第 14 回】 予習 : 卒業論文またはゼミ論文の内容をプレゼン形式にし、併せて質疑応答の準備もする 授業 : 卒論・ゼミ論公聴会にて論文内容をプレゼンし、質疑応答にも応じる 復習 : プレゼント質疑応答を振り返り、改善点を洗い出し、論文作成時の気づきと併せて今後の社会生活・就業生活にいかせるよう記録を残しておく							
15	石田 かおり	【第 15 回】 予習 : 卒業論文またはゼミ論文の内容をプレゼン形式にし、併せて質疑応答の準備もする 授業 : 卒論・ゼミ論公聴会にて論文内容をプレゼンし、質疑応答にも応じる 復習 : プレゼント質疑応答を振り返り、改善点を洗い出し、論文作成時の気づきと併せて今後の社会生活・就業生活にいかせるよう記録を残しておく							
授業開始前学習		前期に提出したレポートを論文という最終形にするための準備 (足りない部分の資料を集めて読み込む、構成を見直す、結論を固めるなど)							
授業内課題のフィードバックの方法		ディスカッションが適切に進むよう授業の中でサポートする ゼミ論文は各自でテーマも内容も書き方も異なるため、大学のテーラーメイド教育の特色の通り個人サポートをする							
テキスト・教材		必要がある場合はその都度用意または指示する							
参考書		必用がある場合はその都度指示する							
評価の基準と方法		共通テーマのディスカッションの参加度 20%、ゼミ論文 60%、公聴会でのプレゼン 20% 全授業回数の 3 分の 1 を超える欠席回数は単位を認定しない							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目									
その他		ゼミ論文の提出と公聴会でのプレゼンの両者が揃って初めて単位が認められる							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		化粧品企業と美容社団法人の研究開発・広報活動・人材育成など経験もいかした研究内容に基づく							

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1142
科目名称	人間関係ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	各ゼミ生が関心のあるテーマを選択し、その問題について考察する。 ゼミ科目であり、ディスカッション、プレゼンテーションが中心であることは言うまでもない。 毎回、現在生じている国際問題を、新聞テレビなどのメディアでチェックする。		
到達目標	(1) 思考力を深める (2) 口頭発表および文章作成能力の向上 (3) 現在生じている国際問題を認識し、多角的視点から分析できるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	臼井 実穂子	【第 1 回】 予習 : 前期課題の完成 授業 : 後期ゼミ方針の再確認 復習 : 引き続き自身の研究の深化をはかる	
2	臼井 実穂子	【第 2 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(1) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
3	臼井 実穂子	【第 3 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(2) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
4	臼井 実穂子	【第 4 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(3) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
5	臼井 実穂子	【第 5 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(4) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
6	臼井 実穂子	【第 6 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(5) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
7	臼井 実穂子	【第 7 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(6) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
8	臼井 実穂子	【第 8 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(7) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
9	臼井 実穂子	【第 9 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(8) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
10	臼井 実穂子	【第 10 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(9) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	
11	臼井 実穂子	【第 11 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(10) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考	

12	臼井 実穂子	【第 12 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(11) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考							
13	臼井 実穂子	【第 13 回】 予習 : 発表者は研究発表準備 授業 : 学生発表と討議(12) (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : 発表者は担当教員およびゼミ生から出た質問の整理 自己の発表の再考							
14	臼井 実穂子	【第 14 回】 予習 : ゼミ論完成にむけての最終質問をメモ書きにする 授業 : ゼミ論完成にむけてのアドバイス 復習 : アドバイスの沿った、ゼミ論書き換え							
15	臼井 実穂子	【第 15 回】 予習 : ゼミ論を完成 授業 : 研究の最終検討 復習 : とくに無し							
授業開始前学習		研究テーマに関連したできるだけ多くの著作・論文を読む							
授業内課題のフィードバックの方法		授業を通じて適宜実施する。							
テキスト・教材		指定しない。							
参考書		適宜指示する。							
評価の基準と方法		平常点と発表内容およびレジュメ、毎ゼミでの発言で評価する。 レジュメ作成と発表 40% 発言などの積極性 20% 中間報告・レポート 40% 発表担当者が発表日に欠席した場合、マイナス評価は免れない。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1143
科目名称	人間関係ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 環	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 環	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10	研究室	10-716
授業概要	社会学的な発想と視座を駆使して、問題を主体的かつ多角的に考察するとともに、それらの研究成果を論文としてまとめるトレーニング活動を展開します。そのために、各自の研究知見と論点をめぐって集中的に議論し合う作業に取り組んでもらいます。互いのコメントから学び合い、また、自分の論考を客観的に読み返して粘り強く推敲を重ねる体験と向き合うことを期待します。		
到達目標	学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルをみがぐことを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 環	【第 1 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 後期ゼミ活動打合せ、研究計画プレゼン 1 (プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 後期の報告スケジュールをもとに、研究活動の中期的計画を立ててください。	
2	榎本 環	【第 2 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究計画プレゼン 2 (プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
3	榎本 環	【第 3 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究計画プレゼン 3 (プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
4	榎本 環	【第 4 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 1 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
5	榎本 環	【第 5 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 2 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
6	榎本 環	【第 6 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 3 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
7	榎本 環	【第 7 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 4 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
8	榎本 環	【第 8 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 5 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	
9	榎本 環	【第 9 回】 予習 : 報告者のレジメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 6 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。	

10	榎本 環	【第 10 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 7 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
11	榎本 環	【第 11 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 8 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
12	榎本 環	【第 12 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 9 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
13	榎本 環	【第 13 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 10 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
14	榎本 環	【第 14 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 11 (発表、ディスカッション) 復習 : 討論を通じて学んだ研究活動のヒントをメモに整理してください。						
15	榎本 環	【第 15 回】 予習 : 報告者のレジュメを一読し、不明点・質問・コメントを整理しておいてください。 授業 : 研究論文中間報告 12 (発表、ディスカッション) 復習 : 2 年間のゼミ活動、4 年間の大学生活を通じて学んだことがらをメモに書き出してみてください。						
授業開始前学習		研究論文を幅広く読み、学術論文に必要な構成・論理展開・文章表現に慣れておくことを勧めます。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出を求める場合は、次回授業、個別のメール・面談等により講評し、質問への回答に対応します。						
テキスト・教材		使用しません。						
参考書		戸田山和久、2022、『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス） その他、随時、紹介します。						
評価の基準と方法		平常点（受講取組みの積極性・課題提出）（50 %）、研究論文の成果（50 %）により評価します。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成	人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成	社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	「社会学Ⅱ」および「流行論」「文化社会学Ⅱ」「社会学特論」および「アンケート調査法」「フィールドワークの技法」を履修しておくことを推奨します。							
その他	各自の個人研究の成果発表と討論を基本形式に進めます。学生生活の集大成にふさわしい充実したゼミ活動を目指しましょう。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1144
科目名称	人間関係ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	大貫 恵佳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大貫 恵佳	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30	研究室	10-602
授業概要	本ゼミのテーマは、広く文化事象を対象として、社会的に考察することである。ゼミ生各自が自分自身の問いを発見し、探求し、他者に伝達することが求められる。ゼミは、履修者によるプレゼンテーションとディスカッションによって進められる。積極的に参加し、知的関心を深めてもらいたい。		
到達目標	到達目標は、学術論文を作成するために必要な以下の 2 つの能力、すなわち、①論理的思考力、②文章構成力の獲得である。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大貫 恵佳	【第 1 回】 予習：4 年次前期、夏季休暇中の研究活動を振り返る 授業：ゼミ活動打合せ 復習：4 年次後期計画を立てる	
2	大貫 恵佳	【第 2 回】 予習：夏季休暇中の研究成果を整理する 授業：研究活動成果報告（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文構成を見直す	
3	大貫 恵佳	【第 3 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文概要報告①：テーマ（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
4	大貫 恵佳	【第 4 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文概要報告②：先行研究の紹介（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
5	大貫 恵佳	【第 5 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文概要報告③：先行研究への見解（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
6	大貫 恵佳	【第 6 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文概要報告④：自説（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
7	大貫 恵佳	【第 7 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文概要報告⑤：自説の展開（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
8	大貫 恵佳	【第 8 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文中間報告①：テーマとタイトルの決定（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
9	大貫 恵佳	【第 9 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文中間報告②：先行研究のレビュー（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
10	大貫 恵佳	【第 10 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文中間報告③：自説の根拠（文献）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	
11	大貫 恵佳	【第 11 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文中間報告④：自説の根拠（調査）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える	

12	大貫 恵佳	【第 12 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文中間報告 ⑤：考察（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える							
13	大貫 恵佳	【第 13 回】 予習：レジュメに目を通し、疑問点やコメントを整理する 授業：論文中間報告⑥：追加調査の確認（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ゼミでの意見を参考に論文に適宜修正を加える							
14	大貫 恵佳	【第 14 回】 予習：文献リストを完成させる 授業：先行研究の扱い方の確認 復習：文献リスト、引用箇所等に適宜修正を加える							
15	大貫 恵佳	【第 15 回】 予習：自身の研究を点検する 授業：研究活動の振り返り 復習：互いの批評を元に、改善点等を整理する							
授業開始前学習		日ごろから、広く社会に対する関心を持ち、多様な情報に触れること。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、報告者の発表やゼミでのディスカッションに対して、講評を行い、またゼミ生の疑問点に対して回答・コメントをする。 ゼミ論への添削とアドバイスをを行う。							
テキスト・教材		授業中に指示する。							
参考書		授業中に随時紹介する。							
評価の基準と方法		授業参加の積極度（50 %）、作成資料・論文（50%）により評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」は社会学の基礎を学ぶ科目である。また「文化社会学Ⅰ／現代社会論Ⅰ」「文化社会学Ⅱ／社会学研究Ⅱ」は、現代社会を社会的に分析する手法を学ぶ科目である。							
その他		ゼミは、原則として【授業内容】に記載したとおりに進める予定であるが、履修者の数や希望、社会情勢等の都合から変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-310-24	授業コード	FB1145
科目名称	人間関係ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	前期の人間関係ゼミⅢに続き、教員と相談しながら卒業研究を各自遂行する。 第 6 回までは研究の進捗状況報告の場とし、発表された内容に関してディスカッションすることで改善点を明らかにしていく。第 7 回以降は質問に答えると同時に、データ分析を行うなど各自の作業時間とする。 第 15 回には 3 年生と合同で研究発表会を開催する。各自が行った卒業研究の成果をパワーポイント等にまとめ、発表する。		
到達目標	以下、5 点を目標とする。 1. 卒業研究を遂行し、卒業論文またはゼミ論文を完成させる 2. 発表資料および論文において相手に伝わる、論理的な文章が書ける 3. 発表を通じて他者に自分の考えを分かりやすく説明できる 3. 他者の発表を批判的に聞き、建設的な意見を述べるができる 4. 投げかけられた質問に適切に応答することができる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	予習 : 夏季休暇中の研究成果をレジュメにまとめる 授業 : オリエンテーション、卒業研究の意義、夏季休暇中の研究成果と今後の研究計画の発表【教科書第 1,2 章 (pp.1-7)】(プレゼンテーション) 復習 : 得られたコメントをもとに今後の研究計画を見直す	
2	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、発表準備 授業 : 研究材料の作成と研究依頼、研究報告 1、質疑応答【教科書第 7～9 章 (pp.29-39)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 問題点の改良、課題の遂行	
3	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、発表準備 授業 : 研究実施時の注意点、研究報告 2、質疑応答【教科書第 9,10 章 (pp.39-43)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 問題点の改良、課題の遂行	
4	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、発表準備 授業 : データ収集について、研究報告 3、質疑応答【教科書第 10 章 (pp.40-43)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 問題点の改良、課題の遂行	
5	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業 : 方法部分の執筆の仕方、研究報告 4、質疑応答【教科書第 4,5 章 (pp.13-24)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 問題点の改良、課題の遂行	
6	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業 : 問題と目的部分の執筆の仕方、研究報告 5、質疑応答【教科書第 4,5 章 (pp.13-24)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 問題点の改良、課題の遂行	
7	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業 : データクリーニング、基礎統計量の算出、研究報告 6、個人研究活動(データ分析等)【教科書第 11,12 章 (pp.44-51)、第 23 章 (pp.81-86)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 分析の遂行	
8	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業 : 因子分析と下位尺度得点の算出、研究報告 7、個人研究活動(データ分析等)【教科書第 13～15 章 (pp.52-63)、第 24 章 (pp.87-89)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 分析の遂行	
9	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業 : 仮説の検証、研究報告 8、個人研究活動(データ分析等)【教科書第 16～22 章 (pp.64-80)、第 25 章 (pp.90-95)】(プレゼンテーション、ディスカッション) 復習 : 分析の遂行完了	
10	倉住 友恵	予習 : 研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業 : 結果の記述方法、図表の作成、研究報告 9、個人研究活動(データ分析等)【教科書第 26,27 章 (pp.96-100)】(プレゼンテーション、ディスカッション)	

		復習：論文執筆・推敲															
11	倉住 友恵	予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆、発表準備 授業：考察の仕方、引用文献の書き方、論文の一貫性と推敲、研究報告 10、個人研究活動（論文執筆等）【教科書第 27,28 章（pp.98-104）】（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：論文執筆・推敲															
12	倉住 友恵	予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆 授業：研究のプレゼンテーション方法、研究発表の仕方とは、個人研究活動（論文執筆等）【教科書第 30 章（pp.108-112）】 復習：論文完成、発表用スライド・資料の作成															
13	倉住 友恵	予習：研究計画に従った研究の遂行、論文執筆 授業：ゼミ論文提出、個人研究活動（発表用資料の作成） 復習：発表用スライド・資料の作成															
14	倉住 友恵	予習：発表用スライド・資料の作成 授業：プレゼン練習、個人研究活動（発表用資料の作成）（ペアワーク） 復習：発表用スライド・資料の改良															
15	倉住 友恵	予習：卒業研究の発表準備 授業：研究発表会、質疑応答（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：他者や自身の発表をもとに、人間や人間関係に対する心理学的な考察を深める															
授業開始前学習		自身の卒業研究を進める。調査を実施予定の人は調査の準備をする。論文を執筆する。															
授業内課題のフィードバックの方法		発表内容や提出課題については、原則その授業時間内にフィードバックと必要な指導を行う。 仮提出された卒業論文・ゼミ論文に関しては、添削したうえで、翌週の授業時間に返却する。															
テキスト・教材		『人間関係ゼミⅣ（応用心理学）教科書』駒沢女子大学教科書シリーズ															
参考書		授業時間内に適宜紹介する。															
評価の基準と方法		①受講態度・ディスカッションへの参加 30%、②研究論文 40%、③研究発表 30%として評価する。 なお、卒業論文提出者は①受講態度・ディスカッションへの参加 40%、③研究発表 40%、研究への姿勢 20%として評価する。															
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立的思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当								△		○		◎				○	
関連科目		人間関係ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ、アンケート調査法、フィールドワークの技法															
その他		学生が主体となる演習科目なので、積極的な参加態度をもって臨むよう心掛けて欲しい。欠席する場合には必ず教員へ連絡を入れること。 卒業研究は各自がタイムスケジュールを設定し、それに従って進めていくことが重要となる。直前に慌てないで済むよう、各自が計画的に研究を進めることを強く望む。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	112-310-24 (J)	授業コード	FB1146
科目名称	人間関係ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar of Human Relations IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田澤 秀司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田澤 秀司	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00	研究室	10-502
授業概要	【メディアで表現する】 各回を前後半に分けて、会議とワークショップを行う。会議ではイベントやプロジェクトの企画をたて、実践する。ワークショップでは、全員で決めたシリーズに基づいて 1 人 1 テーマの著作をまとめあげる。また、授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。適宜、グループまたは個人の面談を行い、進捗を確認する。		
到達目標	「理解力（わかること）」と「表現力（わかってもらうこと）」を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田澤 秀司	【第 1 回】 予習 : 前期の続き → 原稿を確認し、レイアウトを進める 授業 : 前半「会議」、後半「原稿制作（追加原稿）」（ディスカッション） 復習 : 原稿を確認し、レイアウトを進める	
2	田澤 秀司	【第 2 回】 予習 : プリントアウトをして、中間報告に備える 授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理（テキスト入力）」1 （ディスカッション） 復習 : 中間報告をもとに、レイアウトを見直す	
3	田澤 秀司	【第 3 回】 予習 : プリントアウトをして、中間報告に備える 授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理（テキスト入力）」2 （ディスカッション） 復習 : 中間報告をもとに、レイアウトを見直す	
4	田澤 秀司	【第 4 回】 予習 : 表紙、扉、奥付を考える 授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理（画像の加工）」1 （ディスカッション） 復習 : 全ページをプリントし、折り丁を作る	
5	田澤 秀司	【第 5 回】 予習 : 表紙、扉、奥付を考える 授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理（画像の加工）」2 （ディスカッション） 復習 : 全ページをプリントし、折り丁を作る	
6	田澤 秀司	【第 6 回】 予習 : 折り丁を校正し、データを修正する 授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理（レイアウト）」1 （ディスカッション） 復習 : プリントし、校正を繰り返す	
7	田澤 秀司	【第 7 回】 予習 : 折り丁を校正し、データを修正する 授業 : 前半「会議」、後半「原稿整理（レイアウト）」2 （ディスカッション） 復習 : プリントし、校正を繰り返す	
8	田澤 秀司	【第 8 回】 予習 : 本紙にプリントし、製本に備える 授業 : 前半「会議」、後半「製本作業（プリントアウト）」1 （ディスカッション） 復習 : 材料を確認し、製本する	
9	田澤 秀司	【第 9 回】 予習 : 本紙にプリントし、製本に備える 授業 : 前半「会議」、後半「製本作業（プリントアウト）」2 （ディスカッション） 復習 : 材料を確認し、製本する	
10	田澤 秀司	【第 10 回】 予習 : 製本を完了する 授業 : 前半「会議」、後半「製本作業（校正、修正）」1 （ディスカッション） 復習 : 完成した本を見直し、訂正原本を作る	
11	田澤 秀司	【第 11 回】 予習 : 製本を完了する 授業 : 前半「会議」、後半「製本作業（校正、修正）」2 （ディスカッション）	

		復習：完成した本を見直し、訂正原本を作る							
12	田澤 秀司	【第 12 回】 予習：データを修正し、本紙にプリントする 授業：前半「会議」、後半「製本作業（装丁）」1（ディスカッション） 復習：2 冊目を製本する							
13	田澤 秀司	【第 13 回】 予習：データを修正し、本紙にプリントする 授業：前半「会議」、後半「製本作業（装丁）」2（ディスカッション） 復習：2 冊目を製本する							
14	田澤 秀司	【第 14 回】 予習：発表に備え、必要な材料を用意する 授業：前半「会議」、後半「作品発表（講評）」1（ディスカッション、発表） 復習：2 冊のうち、1 冊を提出する							
15	田澤 秀司	【第 15 回】 予習：発表に備え、必要な材料を用意する 授業：前半「会議」、後半「作品発表（講評）」2（ディスカッション、発表） 復習：2 冊のうち、1 冊を提出する							
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておく、授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		グループディスカッションで講評を行い、個人のワークショップで進捗を確認する。							
テキスト・教材		授業で適宜、配布する。							
参考書		授業で適宜、紹介する。							
評価の基準と方法		配点は、予習・復習などの平常点 60 点、課題 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		「企画と表現」「表現活動とビジネス」を履修しておくことが望ましい。							
その他		課題学習（予習・復習）については、各回の授業の後半に具体的な例を提示する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		幼児向け月刊誌 10 誌の編集責任者、教材の開発者として数多くの人とかわかり、さまざまな商品を担当してきた経験と、その過程で得た資料をもとに、「社会で求められる力」を「出版で“教育する”という取り組みを実践している。							

科目分類	112-330-24		授業コード	FB9901	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	石田 かおり		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	石田 かおり		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00～14:40 後期 火曜日 11:00～14:40		研究室	10-701	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	石田 かおり	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究は必ず調べること 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	石田 かおり	1と同様			
3	石田 かおり	1と同様			
4	石田 かおり	1と同様			
5	石田 かおり	1と同様			
6	石田 かおり	1と同様			
7	石田 かおり	1と同様			
8	石田 かおり	1と同様			
9	石田 かおり	1と同様			
10	石田 かおり	1と同様			

11	石田 かおり	1と同様							
12	石田 かおり	1と同様							
13	石田 かおり	1と同様							
14	石田 かおり	1と同様							
15	石田 かおり	1と同様							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-24	授業コード	FB9902
科目名称	卒業論文	単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis	授業区分	
科目責任者	臼井 実穂子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	臼井 実穂子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 10:40～12:10	研究室	10-705
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。		
到達目標	以下の 4 点である。 1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	臼井 実穂子	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究は必ず調べる 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込む 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始める 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。	
2	臼井 実穂子	1と同様	
3	臼井 実穂子	1と同様	
4	臼井 実穂子	1と同様	
5	臼井 実穂子	1と同様	
6	臼井 実穂子	1と同様	
7	臼井 実穂子	1と同様	
8	臼井 実穂子	1と同様	
9	臼井 実穂子	1と同様	
10	臼井 実穂子	1と同様	

11	臼井 実稲子	1と同様
12	臼井 実稲子	1と同様
13	臼井 実稲子	1と同様
14	臼井 実稲子	1と同様
15	臼井 実稲子	1と同様
授業開始前学習		担当教員と相談すること。
授業内課題のフィードバックの方法		履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。
テキスト・教材		担当教員と相談すること。
参考書		担当教員と相談すること。
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成
学修指針	教養力	人間性
科目の該当		
関連科目	各専門教育科目など	
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。	
予習・復習の所要時間		
実務経験を活かした教育内容		

科目分類	112-330-24		授業コード	FB9903	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	榎本 環		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	榎本 環		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 10:40～12:10		研究室	10-716	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 環	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究は必ず調べること 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	榎本 環	1と同様			
3	榎本 環	1と同様			
4	榎本 環	1と同様			
5	榎本 環	1と同様			
6	榎本 環	1と同様			
7	榎本 環	1と同様			
8	榎本 環	1と同様			
9	榎本 環	1と同様			
10	榎本 環	1と同様			

11	榎本 環	1と同様							
12	榎本 環	1と同様							
13	榎本 環	1と同様							
14	榎本 環	1と同様							
15	榎本 環	1と同様							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	112-330-24		授業コード	FB9904	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	大貫 恵佳		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	大貫 恵佳		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 09:00～10:30		研究室	10-602	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	大貫 恵佳	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究は必ず調べること 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	大貫 恵佳	1と同様			
3	大貫 恵佳	1と同様			
4	大貫 恵佳	1と同様			
5	大貫 恵佳	1と同様			
6	大貫 恵佳	1と同様			
7	大貫 恵佳	1と同様			
8	大貫 恵佳	1と同様			
9	大貫 恵佳	1と同様			
10	大貫 恵佳	1と同様			

11	大貫 恵佳	1と同様
12	大貫 恵佳	1と同様
13	大貫 恵佳	1と同様
14	大貫 恵佳	1と同様
15	大貫 恵佳	1と同様
授業開始前学習	担当教員と相談すること。	
授業内課題のフィードバックの方法	履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。	
テキスト・教材	担当教員と相談すること。	
参考書	担当教員と相談すること。	
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。	
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成
学修指針	教養力	人間性
科目の該当		
関連科目	各専門教育科目など	
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。	
予習・復習の所要時間		
実務経験を活かした教育内容		

科目分類	112-330-24	授業コード	FB9905
科目名称	卒業論文	単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis	授業区分	
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	倉住 友恵	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。		
到達目標	以下の 4 点である。 1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	倉住 友恵	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究は必ず調べる 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込む 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始める 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。	
2	倉住 友恵	1と同様	
3	倉住 友恵	1と同様	
4	倉住 友恵	1と同様	
5	倉住 友恵	1と同様	
6	倉住 友恵	1と同様	
7	倉住 友恵	1と同様	
8	倉住 友恵	1と同様	
9	倉住 友恵	1と同様	
10	倉住 友恵	1と同様	

11	倉住 友恵	1と同様						
12	倉住 友恵	1と同様						
13	倉住 友恵	1と同様						
14	倉住 友恵	1と同様						
15	倉住 友恵	1と同様						
授業開始前学習		担当教員と相談すること。						
授業内課題のフィードバックの方法		履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。						
テキスト・教材		担当教員と相談すること。						
参考書		担当教員と相談すること。						
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。						
ディプロマポリシー	人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	◎		○
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	112-330-24		授業コード	FB9906	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	田澤 秀司		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	田澤 秀司		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00 後期 火曜日 09:00～16:00 水曜日 09:00～14:00		研究室	10-502	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追究していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	以下の 4 点である。 1. 各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 2. 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 3. 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 4. 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田澤 秀司	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究は必ず調べること 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方や引用・参考文献の書き方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	田澤 秀司	1と同様			
3	田澤 秀司	1と同様			
4	田澤 秀司	1と同様			
5	田澤 秀司	1と同様			
6	田澤 秀司	1と同様			
7	田澤 秀司	1と同様			
8	田澤 秀司	1と同様			
9	田澤 秀司	1と同様			
10	田澤 秀司	1と同様			

11	田澤 秀司	1と同様							
12	田澤 秀司	1と同様							
13	田澤 秀司	1と同様							
14	田澤 秀司	1と同様							
15	田澤 秀司	1と同様							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	○	◎		○
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-12	授業コード	FC0010
科目名称	English Workshop I	単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop I	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川・工藤(俊)・アサ・ケリソン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The EWS class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches conversation strategies. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning; reading extensively; and getting advice about their learning in class.		
到達目標	English Workshop encourages students to become autonomous learners through learning strategies such as video and voice recordings while improving students overall proficiency.		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の授業形態	共同
授業回数	担当者	授業の内容	
1	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 1 回】 予習 : Think about why you want to learn English 授業 : Orientation: Class aims and procedures: evaluation methods 復習 : Review class aims; reflect on Small Group Conversation (SGC); read graded readers	
2	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 2 回】 予習 : Think about how you learn English now and what are your new goals 授業 : Language learning mini-lecture; goal setting (Group Work), Off-campus class orientation 復習 : Think about your big & small learning goals; write Learning Diary (LD) & Extensive Reading (ER)	
3	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 3 回】 予習 : Reflect on your goals; write in LD & ER 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.	
4	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 4 回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.	
5	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 5 回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.	
6	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 6 回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.	
7	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 7 回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test; transcribe SGC recording and write US ; ER; LD	
8	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 8 回】 予習 : Discuss learning progress in Japanese and in English and prepare for writing an essay 授業 : Reflection on learning so far and write an essay ① 復習 : Reflect on teacher's comments and re-think about how to achieve learning goals (big & small)	
9	浅川・グリーン・工藤・プラザ	【第 9 回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous	

		study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.							
10	浅川・グリーン・工藤・ブラザ	【第10回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.							
11	浅川・グリーン・工藤・ブラザ	【第11回】 予習 Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.							
12	浅川・グリーン・工藤・ブラザ	【第12回】 予習 : Have SGC topic prepared and ready to discuss with other students - use new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.							
13	浅川・グリーン・工藤・ブラザ	【第13回】 予習 : Prepare for interview - use as much new language learned up until now as possible 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.							
14	浅川・グリーン・工藤・ブラザ	【第14回】 予習 : Use vocabulary learning strategies for test; have SGC topic prepared - use a new language learned 授業 : Word Quiz; Vocabulary drills; Mini-activity; SGC; Language learning mini-lecture; autonomous study (Group Work) 復習 : Reflect on your vocabulary test. Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading.							
15	浅川・グリーン・工藤・ブラザ	【第15回】 予習 : Discuss learning progress in Japanese and in English and prepare for writing an essay 授業 : Reflection on learning so over the latter half of the semester and write an essay ② 復習 : Reflect on the last 15 weeks and prepare a study plan for the vacation time							
授業開始前学習		High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on Useful Expressions, Extensive Reading and Learning Diary.							
テキスト・教材									
参考書		We use extra handouts							
評価の基準と方法		[A] Word Quiz (5%), SGC (15%),UE (15%), LD (25%), ER(25%), In-class Participation (15%) [B] Essays: essay 1 (50%), essay 2 (50%) Evaluation will be decided based on these two sets comprehensively.							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎				△	○
関連科目									
その他		Off-campus class will be held on a date which is different from regular classes in this semester. Details will be announced in class. Off-campus class may be discontinued due to coronavirus situation.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-12			授業コード	FC0020
科目名称	English Workshop II			単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop II			授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川・工藤(俊)・アラザ・グリーンソン			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	The EWS class is designed with two main objectives. First, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English and become autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches conversation strategies. Students also learn how to become autonomous through writing and reflecting on their learning; reading extensively; and getting advice about their learning in class.				
到達目標	English Workshop encourages students to become autonomous learners through learning strategies such as video and voice recordings while improving students overall proficiency.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 1 回】 予習 : Prepare “How was your summer holiday?” 授業 : Orientation 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
2	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 2 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Introducing Japanese food (regionality, history). 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
3	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 3 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Word Quiz ①; Small Group Conversation; Introducing Japanese food (trending). 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
4	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 4 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Giving a presentation about Japanese food. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
5	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 5 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Introducing Inagi (regionality, history, products). 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
6	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 6 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Introducing Inagi (shrines, temples, remains, festivals). 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
7	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 7 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Giving a presentation about Inagi. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
8	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 8 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation, Writing an essay ①. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
9	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 9 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Introducing Japan (history, products). 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
10	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 10 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Introducing Japan (sightseeing spots) 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading			
11	浅川・グリーンソン・工藤・アラザ	【第 11 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Giving a presentation about Japan .			

		復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading							
12	浅川・グリーンソン・工藤・ブラザ	【第 12 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Introducing a foreign country (history, products) . 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading							
13	浅川・グリーンソン・工藤・ブラザ	【第 13 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Word Quiz ②; Small Group Conversation; Introducing a foreign country (sightseeing spots) . 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading							
14	浅川・グリーンソン・工藤・ブラザ	【第 14 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Giving a presentation about a foreign country. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading							
15	浅川・グリーンソン・工藤・ブラザ	【第 15 回】 予習 : Have Small Group Conversation topic prepared. 授業 : Small Group Conversation; Writing an essay ②. 復習 : Write Useful Expressions, Learning Diary, and Extensive Reading							
授業開始前学習		High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on Useful Expressions, Extensive Reading and Learning Diary.							
テキスト・教材									
参考書		We use extra handouts.							
評価の基準と方法		[A] Word Quiz (5%), SGC (15%),UE (15%), LD (25%), ER(25%), In-class Participation (15%) [B] Essays: essay 1 (50%), essay 2 (50%) Evaluation will be decided based on these two sets comprehensively							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎				△	○
関連科目									
その他		This team taught class is based on small groups and high student participation.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0030
科目名称	English Workshop Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	F.グリーンソン	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The EWIII class is designed with two main objectives. Firstly, to help improve students oral & communicative abilities in English; secondly to show students how to learn English by becoming autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches research and discussion strategies as well as presentation techniques. The second aim, focuses on learning through writing (research & homework) and reflecting on achievements weekly. The content includes: 1) research; 2) class discussion; 3) homework for each topic; 4) two presentations (one short and one longer). Students must submit classwork by due dates. If students wish to receive the maximum score they must submit their work even if they are absent. Students will need to be proactive in checking the listings in Google Classroom and following the syllabus.		
到達目標	English workshop encourages students to become autonomous learners while working to improve their overall proficiency. The level itself is more challenging than that of English Workshop I,II.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	F.グリーンソン	【第 1 回】 予習 : Read Syllabus. Prepare questions to confirm understanding of Syllabus 授業 : Orientation: Class aims and procedures; Content; Evaluation methods; Gleeson-Sensei 復習 : Review syllabus; Check evaluation methods	
2	F.グリーンソン	【第 2 回】 予習 : Research: summarizing & plagiarism, AI 授業 : Note taking (in point form); summarizing & plagiarism 復習 : Review class notes	
3	F.グリーンソン	【第 3 回】 予習: Review: summarising & plagiarism 授業 : Topic 1: Research in class 復習: HW: Submit Research 1 (English)	
4	F.グリーンソン	【第 4 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 1: Small Group Discussion (SGD) 復習 : HW: Submit Assignment 1 (English)	
5	F.グリーンソン	【第 5 回】 予習 : Review class notes 授業 : Topic 2: Research in class 復習 : HW: Submit Research 2 (English)	
6	F.グリーンソン	【第 6 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 2: Small group Discussion (SGD) 復習 : HW: Submit Assignment 2 (English)	
7	F.グリーンソン	【第 7 回】 予習 : Practice presentation script 授業 : Presentations & Review for Interviews: English 復習 : HW Submit Presentation script (no slides)	
8	F.グリーンソン	【第 8 回】 予習 : Interview preparation (English) 授業 : Midterm Interviews: English 復習 : Reflect on teacher's comments and re-think how to achieve learning objectives.	
9	F.グリーンソン	【第 9 回】 予習 : Review class notes 授業 : Topic 3: Research in class 復習 : HW: Submit Research 3 (English)	

10	F.グリーンソン	【第 10 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 3: Small group Discussion (SGD) 復習 : HW: Submit Assignment 3 (English)							
11	F.グリーンソン	【第 11 回】 予習 : Review class notes 授業 : Topic 4: Research in class 復習 : HW: Submit Research 4 (English)							
12	F.グリーンソン	【第 12 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 4: Small group Discussion (SGD) 復習 : HW: Submit Assignment 4 (English)							
13	F.グリーンソン	【第 13 回】 予習 : Interview preparation (English & Japanese) 授業 : Final Interviews: English 復習 : Prepare a presentation script & 6 slides (topic of your choice)							
14	F.グリーンソン	【第 14 回】 予習 : Practice your presentation 授業 : Presentation practice to peers & Makeup Interviews 復習 : Submit corrected scripts & slides							
15	F.グリーンソン	【第 15 回】 予習 : Practice presentations 授業 : Final presentations to peers 復習 : Reflection on the 1st semester							
授業開始前学習		High motivation and a willingness to work hard while enjoying learning is required. A high level of English language ability is not required.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students will receive a schedule & scoring allocation in the first class. Feedback is given during research & small group discussion classes as well as on returned assignments.							
テキスト・教材		Handouts provided when relevant.							
参考書		Books and URLs are suggested in class.							
評価の基準と方法		English component: Research (20%); Small Group Discussion (SGD 20%); Homework (20%); 2 Presentations (20%); Midterm and Final Interview (20%)							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎				△	○
関連科目		English Workshop I,II, any English related subjects							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

English Workshop IV

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0040
科目名称	English Workshop IV	単位数	2.0 単位
英文名称	English Workshop IV	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	F.グリーンソン	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The EWIV class is designed with two main objectives. Firstly, to help improve students oral & communicative abilities; secondly to show students how to learn English by becoming autonomous learners. The first aim involves talking to a native speaker who also teaches research and discussion strategies as well as presentation techniques. The second aim focuses on learning through writing (research & homework) and reflecting on achievements weekly. The content includes: 1) research; 2) class discussion; 3) homework for each topic; 4) & two presentations (one short and one longer). Students must submit classwork by due dates. If students wish to receive the maximum score they must submit their work even if they are absent. Students will need to be proactive in checking the listings in Google Classroom and following the syllabus. The structure and process is basically the same as EWIII. However, the topics are different.		
到達目標	English workshop encourages students to become autonomous learners while working to improve their overall English proficiency. The level itself builds on and reinforces skills developed in English Workshop III.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	F.グリーンソン	【第 1 回】 予習 : Read Syllabus. Prepare questions to confirm understanding of Syllabus 授業 : Orientation (English & Japanese): Class aims and procedures; Content; Evaluation methods 復習 : Review syllabus; Check evaluation methods	
2	F.グリーンソン	【第 2 回】 予習 : Research: summarizing & plagiarism, AI 授業 : Note taking (in point form); summarizing & plagiarism 復習 : Review class notes	
3	F.グリーンソン	【第 3 回】 予習: Review: summarising & plagiarism 授業 : Topic 1: Research in class 復習: HW: Submit Research 1 (English)	
4	F.グリーンソン	【第 4 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 1: Small Group Discussion (SGD) 復習 : HW: Submit Assignment 1 (English)	
5	F.グリーンソン	【第 5 回】 予習 : Review class notes 授業 : Topic 2: Research in class 復習 : HW: Submit Research 2 (English)	
6	F.グリーンソン	【第 6 回】 予習 : Prepare content and possible questions ready to discuss with other students - use new language learnt 授業 : Topic 2: Small group Discussion (SGD) 復習 : HW: Submit Assignment 2 (English)	
7	F.グリーンソン	【第 7 回】 予習 : Practice presentation script 授業 : Presentations & Review for Interviews: English 復習 : HW: Submit Presentation script (no slides)	
8	F.グリーンソン	【第 8 回】 予習 : Interview preparation (English & Japanese) 授業 : Midterm Interviews: English 復習 : Reflect on teacher's comments and re-think how to achieve learning objectives	
9	F.グリーンソン	【第 9 回】 予習 : Review class notes 授業 : Topic 3: Research in class	

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0050
科目名称	Academic Reading I	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading I	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	F.グリーンソン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The aim of this course is to develop reading skills, improve comprehension and build vocabulary. In this class, students will work on; developing reading fluency by reading with targets. As well, students will read out loud in pairs and in groups. Time will be allocated to discuss what has been read by listening to fellow students opinions. Students should take simple notes while reading for reflection later. Comprehension will be checked by answering questions during and after each lesson. Students should be proactive about researching unknown words in context, thus building vocabulary. Students will read a book in class and continue reading for homework at their own pace.		
到達目標	At the end of this course students will be able to: read more fluently; improve vocabulary; widen their range of reading strategies (e.g. skimming & scanning); write reports; develop and expand discussion ability; be able to give a short presentation and; reflect on learning through self-evaluation.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	F.グリーンソン	【第 1 回】 予習 : Pre-read syllabus, be prepared to ask questions about points you do not understand 授業 : Orientation, Review syllabus, Course expectations, Evaluation methods, Vocabulary list; Read prologue pages 1-6 復習 : Review: Syllabus - Evaluation methods; Reading	
2	F.グリーンソン	【第 2 回】 予習 : Research how to write a book report; What are the main components? 授業 : How to write a book report; Intensive reading; Learn what to do in Small Group Discussions (SGD) 復習 : Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
3	F.グリーンソン	【第 3 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit book report 1; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
4	F.グリーンソン	【第 4 回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
5	F.グリーンソン	【第 5 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
6	F.グリーンソン	【第 6 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit book report 2; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
7	F.グリーンソン	【第 7 回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review vocabulary for QUIZ; Reading	
8	F.グリーンソン	【第 8 回】 予習 : Review vocabulary for Quiz 授業 : Vocabulary Quiz; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Review vocabulary Quiz answers; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	

9	F.グリーンソン	【第9回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading						
10	F.グリーンソン	【第10回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading						
11	F.グリーンソン	【第11回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit book report 3; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading						
12	F.グリーンソン	【第12回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Think about a part of the book that would be a good topic for a presentation; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading						
13	F.グリーンソン	【第13回】 予習 : Research presentation techniques 授業 : Presentation techniques; Planning & mind mapping; Script writing; Slide preparation 復習 : Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book that impressed you.						
14	F.グリーンソン	【第14回】 予習 : Prepare for presentations 授業 : Give a short presentation about a section of the book that impressed you; Peer review 復習 : Reading Review class handouts						
15	F.グリーンソン	【第15回】 予習 : Reading and reviewing 授業 : Final - Book review essay in class & Vocabulary Quiz 復習 : Reflect & evaluate goals						
授業開始前学習		Start reading as soon as students get the book, keep a vocabulary list, re-read if necessary.						
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback (via book reports & class worksheets and SGDs) throughout the course.						
テキスト・教材		Malala: My story of standing up for Girls Rights, Malala Yousafzai, with Patricia McCormick, (Little Brown and Company) ISBN 978-0-316-52715-6						
参考書								
評価の基準と方法		Book reports 30%; Vocabulary review 10%; Classwork (discussion; interaction; & completion of handouts) 20%; Presentation; 10%; Comprehension review 30%						
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	
関連科目								
その他		If students are absent it is their responsibility to email the teacher, check the syllabus and check google classroom for lesson information & homework. Students should endeavour to attend all classes (note 2 lates = 1 absence). Students should bring a notebook to the first class. Students should record notes and vocabulary in the same book. Further information will be given at orientation.						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

Academic Reading II

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0060
科目名称	Academic Reading II	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading II	授業区分	講義
科目責任者	F.グリーンソン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	F.グリーンソン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The aim of this course is to further develop reading skills learnt in Academic Reading I, improve comprehension and build vocabulary. In this class, students will work on; developing reading fluency by reading with targets. As well, students will read out loud in pairs and in groups. Time will be allocated to discuss what has been read by listening to fellow students opinions. Students should take simple notes while reading for reflection later. Comprehension will be checked by answering questions during and after each lesson. Students should be proactive about researching unknown words in context, thus building vocabulary. Students will read a book in class and continue reading for homework at their own pace.		
到達目標	At the end of this course students will be able to: read more fluently; improve vocabulary; widen their range of reading strategies (e.g. skimming & scanning); write short answers and essays; develop and expand discussion ability; be able to give a short presentation and; reflect on learning through self-evaluation.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	F.グリーンソン	【第 1 回】 予習 : Pre-read syllabus, be prepared to ask questions about points you do not understand 授業 : Orientation, Review syllabus, Course expectations, Evaluation methods, Reading 復習 : Review: Syllabus - Evaluation methods; Reading	
2	F.グリーンソン	【第 2 回】 予習 : Research how to write a book report; What are the main components? 授業 : How to write a book report; Intensive reading; Learn what to do in Small Group Discussions (SGD) 復習 : Submit Homework (HW); Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
3	F.グリーンソン	【第 3 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit book report 1; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
4	F.グリーンソン	【第 4 回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback: Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
5	F.グリーンソン	【第 5 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
6	F.グリーンソン	【第 6 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Submit book report 2; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
7	F.グリーンソン	【第 7 回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Review vocabulary for QUIZ; Reading	
8	F.グリーンソン	【第 8 回】 予習 : Review vocabulary for Quiz 授業 : Vocabulary Quiz; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Review Quiz answers; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading	
9	F.グリーンソン	【第 9 回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet	

		復習 : Submit HW; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading							
10	F.グリーンソン	【第10回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Think about a section of the book that would be a good topic for a presentation; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading							
11	F.グリーンソン	【第11回】 予習 : Review class notes 授業 : Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet 復習 : Submit book report 3; Review unknown vocabulary (add to word list); Reading							
12	F.グリーンソン	【第12回】 予習 : Review class notes 授業 : Feedback; Intensive reading; SGD - take notes & answer worksheet questions 復習 : Submit HW; Think about a section of the book that would be a good topic for a presentation. Review unknown vocabulary (add to word list); Reading							
13	F.グリーンソン	【第13回】 予習 : Research presentation techniques 授業 : Presentation techniques; Planning & mind mapping; Script writing; Slide preparation 復習 : Prepare a mini presentation (with printed PowerPoint Slides) about a section of the book that impressed you.							
14	F.グリーンソン	【第14回】 予習 : Prepare for the presentations 授業 : Give a short presentation about a section of the book that impressed you; Peer review 復習 : Reading and review class handouts							
15	F.グリーンソン	【第15回】 予習 : Reading and reviewing 授業 : Final - Book review essay in class & Vocabulary Quiz 復習 : Reflect & evaluate goals							
授業開始前学習		Start reading as soon as students get the book, keep a vocabulary list, re-read if necessary.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback (via book reports & class worksheets and SGDs) throughout the course.							
テキスト・教材		Kira-Kira: Cynthia Kadohata (Atheneum Books for Young Readers) ISBN 978-0-689-85640-2							
参考書									
評価の基準と方法		Book reports 30% Vocabulary review 10%; Classwork (discussion; interaction; & completion of handouts) 20%; Presentation 10%; Comprehension review 30%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○		△	
関連科目									
その他		If students are absent it is their responsibility to email the teacher, check the syllabus and check google classroom for lesson information & homework. Students should endeavour to attend all classes (note 2 lates = 1 absence). Students should bring a notebook to the first class. Students should record notes and vocabulary in the same book. Further information will be given at orientation.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0070
科目名称	Academic Reading Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The main emphasis of this course will be reading. However, speaking, listening, and writing will also be developed. This class will focus on improving the skills of reading. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	After this class, students will be able to read faster, and better understand written English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Read p.9 授業 : Self-introductions / Course goals 復習 : Review notes / Do homework	
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.9 授業 : Unit 1 Pro Gaming 復習 : Review notes / Do homework	
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Read p.15 授業 : Unit 2 The Blogosphere 復習 : Review notes / Do homework	
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read p.21 授業 : Unit 3 Organic Food 復習 : Review notes / Do homework	
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Read p.27 授業 : Unit 4 Franchises 復習 : Review notes / Do homework	
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p. 33 授業 : Unit 5 Character Culture / Review for Midterm Quiz 復習 : Prepare for Midterm Quiz	
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Review for Midterm Quiz 授業 : Midterm Quiz 復習 : Reflect on Midterm Quiz	
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review 授業 : Classroom Activity 復習 : Reflect on classroom activity	
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read p. 39 授業 : Unit 6 Language Change 復習 : Review notes / Do homework	
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Read p. 45 授業 : Unit 7 Unlocking Motivation 復習 : Review notes / Do homework	
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read p. 51 授業 : Unit 8 Yellow Dust Storm 復習 : Review notes / Do homework	

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Read p. 57 授業 : Unit 9 The End of Privacy 復習 : Review notes / Do homework							
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Read p. 63 ¥ 授業 : Unit 10 Going Carbon Neutral 復習 : Prepare for Final Quiz							
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Prepare for Final Quiz 授業 : Final Quiz 復習 : Reflect on Final Quiz							
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Complete Course Questionnaire on Komajo Portal 授業 : General review 復習 : Complete Course Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)							
授業開始前学習		Practice reading English books, magazines or comics. Look up unknown words in a dictionary.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Reading Pass 3 Second Edition, Nan'un-do, by Andrew E. Bennett							
参考書									
評価の基準と方法		Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目									
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

Academic Reading IV

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0080
科目名称	Academic Reading IV	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Reading IV	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The main emphasis of this course will be reading. However, speaking, listening, and writing will also be developed. This class will focus on improving the skills of reading. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	After this class, students will be able to read faster, and better understand written English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Read p.69 授業 : Self-introductions / Course goals 復習 : Review notes / Do homework	
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.69 授業 : Unit 11 Retro Style 復習 : Review notes / Do homework	
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Read p.75 授業 : Unit 12 It Pays to be the CEO 復習 : Review notes / Do homework	
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read p.81 授業 : Unit 13 London 復習 : Review notes / Do homework	
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Read p.87 授業 : Unit 14 Web 2.0 復習 : Review notes / Do homework	
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p. 93 授業 : Unit 15 Troubled Stars / Review for Midterm Quiz 復習 : Prepare for Midterm Quiz	
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Review for Midterm Quiz 授業 : Midterm Quiz 復習 : Reflect on Midterm Quiz	
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review 授業 : Classroom Activity 復習 : Reflect on classroom activity	
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read p. 99 授業 : Unit 16 Insourcing 復習 : Review notes / Do homework	
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Read p. 105 授業 : Unit 17 Space Colonies 復習 : Review notes / Do homework	
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read p. 111 授業 : Unit 18 Office Gossip 復習 : Review notes / Do homework	

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Read p. 117 授業 : Unit 19 Lost Arts 復習 : Review notes / Do homework							
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Read p. 123 授業 : Unit 20 Stem Cells 復習 : Prepare for Final Quiz							
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Prepare for Final Quiz 授業 : Final Quiz 復習 : Reflect on Final Quiz							
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Complete Course Questionnaire on Komajo Portal 授業 : General review 復習 : Complete Course Questionnaire on Komajo Portal (if not completed yet)							
授業開始前学習		Practice reading English books, magazines or comics. Look up unknown words in a dictionary.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Reading Pass 3 Second Edition, Nan'un-do, by Andrew E. Bennett							
参考書									
評価の基準と方法		Students are evaluated on total class participation, which is 40% of grade (quizzes, submitted coursework, class participation etc.) and regular examinations are 60% of grade.							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目									
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

Academic Speaking I

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0090
科目名称	Academic Speaking I	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking I	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	This presentation course will teach the necessary skills to make a well structured, visual and interactive presentation on various topics.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking skills needed to understand academic English. The course has 2 main aims: to teach academic speaking and improve presentation skills. This course offers a content-based approach where all four skills of speaking, listening, reading, and writing are integrated to foster a variety of learning outcomes.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Prepare a simple self-introduction / Read p. 2-10 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus	
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.11-19 授業 : Brainstorm / plan Unit 1 Power Point Presentation (PPP) on 'A Good Friend' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 1 PPP	
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Finish creating Unit 1 PPP 授業 : Show classmates your Unit 1 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 1 PPP	
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Use Unit 1 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 1 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 1 PPP and speech	
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Practice Unit 1 speech 授業 : Give 1st speech to whole class on Unit 1 'A Good Friend' 復習 : Reflect on Unit 1 speech and PPP	
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p. 20-31 授業 : Brainstorm / plan 2nd PPP 'A Favorite Place' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 2 PPP	
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Finish creating Unit 2 PPP 授業 : Show classmates your Unit 2 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 2 PPP	
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Use Unit 2 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 2 PPP and speech	
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Practice Unit 2 speech 授業 : Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 2 PPP and speech	
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Practice Unit 2 speech 授業 : Give 2nd speech to whole class on Unit 2 'A Favorite Place' 復習 : Reflect on Unit 2 speech and PPP	
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read p.32-43 授業 : Brainstorm / plan 3rd PPP 'A Prized Possession' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 3 PPP	

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Finish creating Unit 3 PPP 授業 : Show classmates your Unit 3 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 3 PPP						
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Use Unit 2 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 2 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 2 PPP and speech						
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Practice Unit 3 speech 授業 : Give 3rd speech to whole class on Unit 3 'A Prized Possession' 復習 : Reflect on Unit 3 speech and PPP						
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Course feedback on Komajo Portal 授業 : Finish old business and discuss course 復習 : Course feedback on Komajo Portal (if not already completed)						
授業開始前学習		Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.						
テキスト・教材		Present Yourself 1 Experiences (Second Edition), Cambridge University Press, by Stephen Gershon						
参考書								
評価の基準と方法		Participation 10%, 1st Presentation 30%, 2nd Presentation 30%, 3rd Presentation 30%						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

Academic Speaking II

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0100
科目名称	Academic Speaking II	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking II	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	This presentation course will teach the necessary skills to make a well structured, visual and interactive presentation on various topics.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking skills needed to understand academic English. The course has 2 main aims: to teach academic speaking and improve presentation skills. This course offers a content-based approach where all four skills of speaking, listening, reading, and writing are integrated to foster a variety of learning outcomes.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Prepare a simple self-introduction / Read p. 2-7 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus	
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.44-55 授業 : Brainstorm / plan 1st PPP on Unit 4 'A Memorable Experience' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 4 PPP	
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Finish creating Unit 4 Power Point Presentation (PPP) 授業 : Show classmates your Unit 4 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 4 PPP	
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Use Unit 4 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 4 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 4 PPP and speech	
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Practice Unit 4 speech 授業 : Give 1st speech to whole class on Unit 4 'A Memorable Experience' 復習 : Reflect on Unit 4 speech and PPP	
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p. 56-67 授業 : Brainstorm / plan 2nd PPP on Unit 5 'I'll Show You How' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 5 PPP	
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Finish creating Unit 5 PPP 授業 : Show classmates your Unit 5 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 5 PPP	
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Use Unit 5 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 5 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 5 PPP and speech	
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Practice Unit 5 speech 授業 : Practice Unit 5 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 5 PPP and speech	
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Practice Unit 5 speech 授業 : Give 2nd speech to whole class on Unit 5 'I'll Show You How' 復習 : Reflect on Unit 5 speech and PPP	
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read p.68-79 授業 : Brainstorm / plan 3rd PPP on Unit 6 'A Prized Possession' 復習 : Review lesson language and content: Start creating Unit 6 PPP	

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Finish creating Unit 6 PPP 授業 : Show classmates your Unit 6 PPP (get and give feedback) 復習 : Edit Unit 6 PPP						
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Use Unit 6 PPP to write speech 授業 : Practice Unit 6 speech with classmates (get and give feedback) 復習 : Finalize Unit 6 PPP and speech						
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Practice Unit 6 speech 授業 : Give 3rd speech to whole class on Unit 6 'A Movie Review' 復習 : Reflect on Unit 6 speech and PPP						
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Course feedback on Komajo Portal 授業 : Finish old business and discuss course 復習 : Course feedback on Komajo Portal (if not already completed)						
授業開始前学習		Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.						
テキスト・教材		Present Yourself 1 Experiences (Second Edition), Cambridge University Press, by Stephen Gershon						
参考書								
評価の基準と方法		Participation 10%, 1st Presentation 30%, 2nd Presentation 30%, 3rd Presentation 30%						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎			△	△	○
関連科目								
その他	It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

Academic Speaking Ⅲ

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0110
科目名称	Academic Speaking Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The main emphasis of this course will be academic speaking and listening. However, reading and writing will also be developed. This class will focus on improving the productive skills of speaking and active listening. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking and listening skills necessary to understand academic English. The course has 2 main aims: to improve academic speaking and academic listening skills.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Prepare a simple self-introduction 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus	
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.5-8 授業 : The Beauty of the Seasons 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Read p.9-12 授業 : The History of the Hamburger 復習 : Prepare for 1st Discussion Task	
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Read p.13-16 授業 : The Importance of English and 1st Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 1st Discussion Task	
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Read p.17-20 授業 : How the Internet Evolved 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p.21-24 授業 : Liquid Candy 復習 : Prepare for 2nd Discussion Task	
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Read p.25- 28 授業 : Travel in Japan and 2nd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 2nd Discussion Task	
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review homework and reread p.13- 24 授業 : General review 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read p.29-32 授業 : The Secret of Happiness 復習 : Prepare for 3rd Discussion Task	
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Read p.33-36 授業 : Shopping on the Internet and 3rd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task	
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Read p.37-40 授業 : Do Aliens and UFOs Exist? 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Read p.41-44 授業 : The Happiest Country in the World 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech							
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Read p.45-48 授業 : Second Hand Smoke 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech							
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Prepare for 4th Discussion Task 授業 : 4th Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task							
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Complete Komajo Portal Questionnaire 授業 : Take care of old business and discuss the pros and cons of this course 復習 : Complete Komajo Portal Questionnaire (if not completed)							
授業開始前学習		Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Life Topics A Critical Thinking Approach to English Proficiency, NAN'UN-DO							
参考書									
評価の基準と方法		Participation 20%, 1st Discussion Task 20%, 2nd Discussion Task 20%, 3rd Discussion Task 20%, 4th Discussion Task 20%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎			△	△	○
関連科目									
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

Academic Speaking IV

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0120
科目名称	Academic Speaking IV	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Speaking IV	授業区分	講義
科目責任者	W.ミラー	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	W.ミラー	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The main emphasis of this course will be academic speaking and listening. However, reading and writing will also be developed. This class will focus on improving the productive skills of speaking and active listening. In principle, lessons will be conducted entirely in English.		
到達目標	The main objective of this class is to develop essential speaking and listening skills necessary to understand academic English. The course has 2 main aims: to improve academic speaking and academic listening skills.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	W.ミラー	【第 1 回】 予習 : Prepare a simple self-introduction 授業 : Orientation and goal setting 復習 : Review classmates details and syllabus	
2	W.ミラー	【第 2 回】 予習 : Read p.49-52 授業 : Plastic Surgery 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
3	W.ミラー	【第 3 回】 予習 : Read p.53-56 授業 : What Colors Tell About You 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
4	W.ミラー	【第 4 回】 予習 : Prepare for 1st Discussion Task 授業 : Free Music and 1st Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 1st Discussion Task	
5	W.ミラー	【第 5 回】 予習 : Read p.61-64 授業 : Ghosts 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
6	W.ミラー	【第 6 回】 予習 : Read p.65-68 授業 : Fast Food and Health 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
7	W.ミラー	【第 7 回】 予習 : Prepare for 2nd Discussion Task 授業 : Artificial Insemination and 2nd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 2nd Discussion Task	
8	W.ミラー	【第 8 回】 予習 : Review homework and reread p.61- 72 授業 : General review 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
9	W.ミラー	【第 9 回】 予習 : Read p.73-76 授業 : The Dangers of Credit Cards 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
10	W.ミラー	【第 10 回】 予習 : Read p.77-80 授業 : Young Men: No Girls, No Money 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech	
11	W.ミラー	【第 11 回】 予習 : Prepare for 3rd Discussion Task 授業 : Old Media and New Media and 3rd Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 3rd Discussion Task	

12	W.ミラー	【第 12 回】 予習 : Read p.85-88 授業 : Women in College 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech							
13	W.ミラー	【第 13 回】 予習 : Read p.89-92 授業 : Gene Therapy 復習 : Review lesson language and content: Evaluate and reflect on speech							
14	W.ミラー	【第 14 回】 予習 : Prepare for 4th Discussion Task 授業 : 4th Discussion Task 復習 : Evaluate and reflect on 4th Discussion Task							
15	W.ミラー	【第 15 回】 予習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal 授業 : Take care of old business and discuss pros and cons of this course 復習 : Complete Questionnaire on Komajo Portal (if not completed)							
授業開始前学習		Practice listening to spoken English through videos or audio recordings.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Life Topics A Critical Thinking Approach to English Proficiency, NAN'UN-DO							
参考書									
評価の基準と方法		Participation 20%, 1st Discussion Task 20%, 2nd Discussion Task 20%, 3rd Discussion Task 20%, 4th Discussion Task 20%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎			△	△	○
関連科目									
その他		It is important for students to attend each class. Credit will not be given to students who miss more than a third of the classes. 3 late arrivals will be counted as 1 absence. Arrival 30 minutes or more after the class has started will be counted as an absence. Further explanation will be provided in the first class.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0130
科目名称	ライティング・使える英作文 I	単位数	2.0 単位
英文名称	English Composition I	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 悠理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 悠理	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英文法の構造に関する講義および演習を通して、実践的な英語力の育成を目指す。 アカデミック・ライティングの基礎を身に付け、英語でレポートを執筆する力を育成する。		
到達目標	英文の構造を理解し、標準的な語彙と文法を活用して英文および英語レポートを作成する力を身に付ける。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 悠理	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認する。今までの英語学習を振り返り、復習する。 授業 : ガイダンス (授業概要、到達目標、授業の進め方について) 復習 : ガイダンスをもとに、前期の目標を立てる。テキストを用意する。Google Classroom に登録する。	
2	鈴木 悠理	【第 2 回】 予習 : Unit 1 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : アカデミック・ライティングの概要に関する講義、Unit 1 一人称・二人称を使わず客観的に書く (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
3	鈴木 悠理	【第 3 回】 予習 : Unit 1 の英文を音読する。 授業 : Unit 1 一人称・二人称を使わず客観的に書く (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
4	鈴木 悠理	【第 4 回】 予習 : Unit 2 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 2 文の繋がりを意識する (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
5	鈴木 悠理	【第 5 回】 予習 : Unit 2 の英文を音読する。 授業 : Unit 2 文の繋がりを意識する (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
6	鈴木 悠理	【第 6 回】 予習 : Unit 3 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 3 ほぼ同じ意味を持つ別の表現を考えてみる (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
7	鈴木 悠理	【第 7 回】 予習 : Unit 3 の英文を音読する。 授業 : Unit 3 ほぼ同じ意味を持つ別の表現を考えてみる (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
8	鈴木 悠理	【第 8 回】 予習 : これまでに学習した内容を復習する。 授業 : 英作文の実践 復習 : 英作文実践の振り返りを行う。	
9	鈴木 悠理	【第 9 回】 予習 : Unit 4 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 4 Paragraph の基本構造を理解する (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
10	鈴木 悠理	【第 10 回】 予習 : Unit 4 の英文を音読する。 授業 : Unit 4 Paragraph の基本構造を理解する (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
11	鈴木 悠理	【第 11 回】 予習 : Unit 5 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 5 Topic Sentence から Supporting Sentences (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	

12	鈴木 悠理	【第 12 回】 予習 : Unit 5 の英文を音読する。 授業 : Unit 5 Topic Sentence から Supporting Sentences (後半) 、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。							
13	鈴木 悠理	【第 13 回】 予習 : Unit 6 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 6 Supporting Sentences から Supports (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。							
14	鈴木 悠理	【第 14 回】 予習 : Unit 6 の英文を音読する。 授業 : Unit 6 Supporting Sentences から Supports (後半) 、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。							
15	鈴木 悠理	【第 15 回】 予習 : これまでに学習した内容を復習する。 授業 : 英作文の実践 復習 : 英作文実践の振り返りを行う。							
授業開始前学習		高校までに学習した単語や表現・文法等をひととおり復習しておくで授業が理解しやすい。また、映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある単語や文章を、辞書やインターネットで調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業資料の解説などを Google Classroom に掲示する。約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行い、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行う。							
テキスト・教材		日本英語表現学会テキスト研究部会 編『Writing Skills for Readers 日本文化の再発見から学ぶ Essay の書き方・読み方』2021 年 (南雲堂) その他、必要に応じてプリントを配布する。							
参考書		英和辞典・和英辞典があるとい (電子辞典可) 。その他は授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		平常点 40% (授業参加態度、小テスト、課題提出など) および定期試験・課題 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語 (英語) ・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎	○
関連科目									
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0140
科目名称	ライティング・使える英作文Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	English Composition Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 悠理	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 悠理	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英文法の構造に関する講義および演習を通して、実践的な英語力の育成を目指す。 アカデミック・ライティングの理解を深め、英語でレポートを執筆する力を育成する。		
到達目標	英文の構造を理解し、多様な語彙と標準的な文法を活用して英文および英語レポートを作成する力を身に付ける。また、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 悠理	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認する。前期の英語学習を振り返り、復習する。 授業 : ガイダンス (授業概要、到達目標、授業の進め方について) 復習 : ガイダンスをもとに、後期の目標を立てる。Google Classroom に登録する。 *前期の「ライティング・使える英作文Ⅰ」を履修していない者は、各自でテキストの Unit1～6 に取り組むのが好ましい。	
2	鈴木 悠理	【第 2 回】 予習 : Unit 7 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : アカデミック・ライティングの概要に関する講義、Unit 7 本論の展開方法を覚える 1 : 理由や根拠 (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
3	鈴木 悠理	【第 3 回】 予習 : Unit 7 の英文を音読する。 授業 : Unit 7 本論の展開方法を覚える 1 : 理由や根拠 (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
4	鈴木 悠理	【第 4 回】 予習 : Unit 8 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 8 本論の展開方法を覚える 2 : 時系列 (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
5	鈴木 悠理	【第 5 回】 予習 : Unit 8 の英文を音読する。 授業 : Unit 8 本論の展開方法を覚える 2 : 時系列 (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
6	鈴木 悠理	【第 6 回】 予習 : Unit 9 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 9 本論の展開方法を覚える 3 : 意見の並列 (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
7	鈴木 悠理	【第 7 回】 予習 : Unit 9 の英文を音読する。 授業 : Unit 9 本論の展開方法を覚える 3 : 意見の並列 (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。	
8	鈴木 悠理	【第 8 回】 予習 : これまでに学習した内容を復習する。 授業 : 英作文の実践 復習 : 英作文実践の振り返りを行う。	
9	鈴木 悠理	【第 9 回】 予習 : Unit 10 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。Unit 10 の英文を音読する。 授業 : Unit 10 序論・本論・結論の役割 (全体) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	
10	鈴木 悠理	【第 10 回】 予習 : Unit 11 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。Unit 11 の英文を音読する。 授業 : Unit 11 結論を書いてみる (全体) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。	

11	鈴木 悠理	【第 11 回】 予習 : Unit 12 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。Unit 12 の英文を音読する。 授業 : Unit 12 序論を書いてみる (全体) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。							
12	鈴木 悠理	【第 12 回】 予習 : Unit 13 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。Unit 13 の英文を音読する。 授業 : Unit 13 集めた資料からアウトラインを作る (全体) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。							
13	鈴木 悠理	【第 13 回】 予習 : Unit 14 を確認し、知らない単語・熟語を調べる。 授業 : Unit 14 アウトラインに沿って下書きをしてみる (前半) 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。							
14	鈴木 悠理	【第 14 回】 予習 : Unit 14 の英文を音読する。 授業 : Unit 14 アウトラインに沿って下書きをしてみる (後半)、小テスト 復習 : 学習した単語・表現・文法を振り返る。小テストを振り返る。							
15	鈴木 悠理	【第 15 回】 予習 : これまでに学習した内容を復習する。 授業 : 英作文の実践 復習 : 英作文実践の振り返りを行う。							
授業開始前学習		高校までに学習した単語や表現・文法等をひととおり復習しておくことと授業が理解しやすい。また、映画・音楽・テレビ・新聞など、英語に触れる機会を多く持つこと。興味がある単語や文章を、辞書やインターネットで調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業資料の解説などを Google Classroom に掲示する。約 2 週に 1 回、各 Unit の学習を終えたところで小テストを行い、返却時に解説を行う。授業 8 回目、15 回目に授業内容の復習を行う。							
テキスト・教材		日本英語表現学会テキスト研究部会 編『Writing Skills for Readers 日本文化の再発見から学ぶ Essay の書き方・読み方』2021 年 (南雲堂) *前期と同じテキスト その他、必要に応じてプリントを配布する。							
参考書		英和辞典・和英辞典があるといふ (電子辞典可)。その他は授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		平常点 40% (授業参加態度、小テスト、課題提出など) および定期試験・課題 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎	○
関連科目									
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。その他、公欠についてなどは第 1 回の授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

☆Academic Writing I / グラム・使える英文法Ⅲ

科目分類	113-330-13 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0180
科目名称	☆Academic Writing I / グラム・使える英文法Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Writing I / English Grammar Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	本村 万喜子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村 万喜子	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語での表現力をより高いレベルへ上げるため、主要な英文法項目を確認しながら問題演習を行う。学生は毎週の課題を通して、学習した文法項目を実践的に活用し、自身の意見を表現・記述することが求められる。		
到達目標	・主要な英文法項目を理解し、正確で自然な英語の感覚を習得できる ・その文法を用いて自身の意見を表現・記述できる		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1 回	本村 万喜子	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方、課題について）、品詞～Plus 文型(pp.6-17) 復習：授業形式についての確認、課題①に取り組む	
2	本村 万喜子	【第 2 回】 予習：課題①の答え合わせを終えておく。 授業：第 3 章～第 6 章(pp.18-25) 復習：課題②に取り組む	
3	本村 万喜子	【第 3 回】 予習：課題②の答え合わせを終えておく 授業：第 7 章～Output Training1(pp.26-33) 復習：課題③に取り組む	
4	本村 万喜子	【第 4 回】 予習：課題③の答え合わせを終えておく 授業：第 10 章～第 11 章(pp.34-37) 復習：課題④に取り組む	
5	本村 万喜子	【第 5 回】 予習：課題④の答え合わせを終えておく 授業：第 12 章～第 14 章（pp.38-43） 復習：課題⑤に取り組む	
6	本村 万喜子	【第 6 回】 予習：課題⑤の答え合わせを終えておく 授業：Plus 不定詞～第 16 章（pp.44-49） 復習：課題⑥に取り組む	
7	本村 万喜子	【第 7 回】 予習：課題⑥の答え合わせを終えておく 授業：第 17 章～Output Training2（pp.50-57） 復習：課題⑦に取り組む	
8	本村 万喜子	【第 8 回】 予習：課題⑦の答え合わせを終えておく 授業：第 19 章～Plus 比較（pp.58-63） 復習：課題⑧に取り組む	
9	本村 万喜子	【第 9 回】 予習：課題⑧の答え合わせを終えておく 授業：第 21 章～第 23 章（pp.64-69） 復習：課題⑨に取り組む	
10	本村 万喜子	【第 10 回】 予習：課題⑨の答え合わせを終えておく 授業：第 24 章～Output Training3（pp.70-75） 復習：課題⑩に取り組む	
11	本村 万喜子	【第 11 回】 予習：課題⑩の答え合わせを終えておく 授業：第 26 章～第 27 章（pp.76-79） 復習：課題⑪に取り組む	

12	本村 万喜子	【第 12 回】 予習：課題⑪の答え合わせを終えておく 授業：Option①～Option②（pp.80-83） 復習：課題⑫に取り組む							
13	本村 万喜子	【第 13 回】 予習：課題⑫の答え合わせを終えておく 授業：Option③（pp.84-85） 復習：課題⑬に取り組む							
14	本村 万喜子	【第 14 回】 予習：課題⑬の答え合わせを終えておく 授業：Option④～Option⑦（pp.86-93） 復習：課題⑭に取り組む							
15	本村 万喜子	【第 15 回】 予習：課題⑭の答え合わせを終えておく、授業で習った文法項目を再確認する 授業：文法項目のまとめ 復習：授業で習った文法項目を再確認する							
授業開始前学習		「グラマー使える英文法Ⅰ」「グラマー使える英文法Ⅱ」等、英語科目の復習をし、わからない箇所については調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		英文法の問題演習については授業内で解説を行う。課題はコメントを付けて後日返却する。							
テキスト・教材		桐原書店編集部 編著『総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard [NEW EDITION]』桐原書店							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験（70%）、毎週の課題（30%）で評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆Academic Writing II /ライティング・使える英作文Ⅲ

科目分類	113-330-13 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0150
科目名称	☆Academic Writing II /ライティング・使える英作文Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Academic Writing II /English Composition Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	本村 万喜子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本村 万喜子	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	自身の主張を英語で論理的に記述する能力を養う演習を行う。学生は毎週のライティング課題から、文章を英語で論理的に構成・執筆・修正することが求められる。		
到達目標	論理的な思考力を養い、自身の主張を英語で記述する力が高まる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	本村 万喜子	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方、課題について）、Unit1(pp.1-5) 復習：授業形式についての確認、課題①に取り組む	
2	本村 万喜子	【第 2 回】 予習：Unit 2 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 2(pp.6-10) 復習：課題②に取り組む	
3	本村 万喜子	【第 3 回】 予習：Unit 3 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 3: (pp.11-15) 復習：課題③に取り組む	
4	本村 万喜子	【第 4 回】 予習：Unit 4 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 4(pp.16-20) 復習：課題④に取り組む	
5	本村 万喜子	【第 5 回】 予習：Unit 5 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 5 (pp. 21-25) 復習：課題⑤に取り組む	
6	本村 万喜子	【第 6 回】 予習：Unit 6 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 6: 前置詞 (pp. 26-30) 復習：課題⑥に取り組む	
7	本村 万喜子	【第 7 回】 予習：Unit 7 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 7 (pp. 31-35)、中間レポート提出 復習：課題⑦に取り組む	
8	本村 万喜子	【第 8 回】 予習：Unit 8 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 8 (pp. 36-40) 復習：課題⑧に取り組む	
9	本村 万喜子	【第 9 回】 予習：Unit 9 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 9 (pp. 41-45) 復習：課題⑨に取り組む	
10	本村 万喜子	【第 10 回】 予習：Unit 10 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 10 (pp. 46-50) 復習：課題⑩に取り組む	
11	本村 万喜子	【第 11 回】 予習：Unit 11 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit11 (pp. 51-55) 復習：課題⑪に取り組む	

12	本村 万喜子	【第 12 回】 予習：Unit 12 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit12（pp. 56-60） 復習：課題⑫に取り組む						
13	本村 万喜子	【第 13 回】 予習：Unit 13、14 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 13、14（pp. 61-70） 復習：課題⑬に取り組む						
14	本村 万喜子	【第 14 回】 予習：Unit 15 を読み、不明な語句を調べておく 授業：Unit 15（pp. 71-75） 復習：課題⑭に取り組む						
15	本村 万喜子	【第 15 回】 予習：授業で習った文法項目を再確認する 授業：文法項目のまとめ 復習：期末レポートを執筆し提出する。						
授業開始前学習		その日取り組む Unit の Warm-Up Reading に目を通しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎週のライティング課題、中間レポート、期末レポートは採点をし、コメントを付けて後日返却する。						
テキスト・教材		深山 晶子 / 幸重美津子 / 尾鍋 智子 / 村尾純子 / Ashley Moore 著『3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language 3つの要素で学ぶアカデミック・ライティングの基本』金星堂						
参考書								
評価の基準と方法		中間レポート（35%）、期末レポート（35%）、毎週のライティング課題（30%）で評価する。						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		△		◎	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

☆英語コミュニケーション専攻研究 A/Core Studies (Basic) I

科目分類	113-320-12 (2022 年～入学者) 113-310-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0411
科目名称	☆英語コミュニケーション専攻研究 A/Core Studies (Basic) I	単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research A/Core Studies (Basic) I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	英語という言葉を通じて学べる内容の内「英語圏文化・文学」は、今まであまり馴染みのない内容ではないかと思ひます。この授業では英語コミュニケーション専攻で学ぶことができる分野の内「英語圏文化・文学」の基礎を『ロミオとジュリエット』を通して学んでいきます。この講義での学習を通じて今後の自分が学びたい方向性を定めていくきっかけとしてほしいです。		
到達目標	この授業を受講すると「英語圏文化・文学」とは、どのようなことを学び追求するのかを理解することができるようになります。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスに目を通してくること 授業 : 1. オリエンテーション・「英語圏文化・文学」とは・「Romeo and Juliet って？」 復習 : 授業目的の確認	
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet 1, i ~ ii 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet 1, iii ~ iv 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet II, i ~ ii 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet II, iii ~ iv 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet II, v 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet III, i ~ ii 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet III, iii 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet III, iv 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet IV, i ~ ii 復習 : 授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する	
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : 教科書で指定された箇所を読んでくる 授業 : Romeo and Juliet IV, iii	

		復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する						
12	松山 響子	【第 12 回】 予習：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業：Romeo and Juliet IV, iv 復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する						
13	松山 響子	【第 13 回】 予習：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業：Romeo and Juliet V, i 復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する						
14	松山 響子	【第 14 回】 予習：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業：Romeo and Juliet V, ii 復習：授業内で出された課題を行う、来週の授業箇所を確認する						
15	松山 響子	【第 15 回】 予習：教科書で指定された箇所を読んでくる 授業：Romeo and Juliet V, iii 復習：授業内で出された課題を行う、まとめ						
授業開始前学習		各回該当箇所を必ず読み、わからない部分を明らかにしておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容についての簡単なまとめを各回授業終了後に期日までに提出をする。授業内で講義をした内容についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名での質問回答を行う。提出をしたものに対して採点し返却をする、コメントをつけて返却をする場合もある。						
テキスト・教材		教科書 Romeo and Juliet（Macmillan readers 4. pre-intermediate level）, Macmillan Education, 2006 ISBN:978-1405087308 必ずペーパーバック版を購入のこと						
参考書		クラスルームに適宜掲載をする。						
評価の基準と方法		授業内で行う課題、最終レポートで評価をします。 ・授業参加度・授業内で行う課題(40%) ・最終レポート(60%) 授業参加度は授業内での活動や課題等で判断します。 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することはできません。						
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	◎	△		
関連科目	イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ 英語圏文化Ⅰ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

☆英語コミュニケーション専攻研究 B/Core Studies (Basic) II

科目分類	113-320-12 (2022 年～入学者) 113-310-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0420
科目名称	☆英語コミュニケーション専攻研究 B/Core Studies (Basic) II	単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research B/Core Studies (Basic) II	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	10-619
授業概要	The study of the English language consists of the study of English Education, English Linguistics and English Culture/Literature. This class teaches the basics of those elements as taught on the English Communication course. We will consider the similarities and differences between them through a range of research methodologies. This class provides an opportunity for students to compare various forms of English study and decide which area they want to focus on.		
到達目標	Students will be able to understand and discuss the following three areas: -The basic content and themes relating to the study of English Education -The basic content and themes relating to the study of English Linguistics -The basic content and themes relating to the study of English Culture/Literature		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Read the class syllabus. 授業 : Orientation, "What is English Education" 1, Groupwork 復習 : Confirm the goals of the course	
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 2, Groupwork 復習 : Review the handout contents	
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 3, Groupwork 復習 : Review the handout contents	
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 4, Groupwork, Submit summary of content in lessons 1-4 復習 : Review the handout contents	
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Education" 5, Groupwork and Discussion 復習 : Review the handout contents	
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 1, Groupwork 復習 : Review the handout contents	
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 2, Groupwork 復習 : Review the handout contents	
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 3, Groupwork 復習 : Review the handout contents	
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 4, Groupwork, Submit summary of content in lessons 6-9 復習 : Review the handout contents	
10	M.ブラウン	【第 10 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English linguistics" 5, Groupwork and Discussion	

		復習 : Review the handout contents							
11	M.ブラウン	【第 11 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Culture/Literature" 1, Groupwork 復習 : Review the handout contents							
12	M.ブラウン	【第 12 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Culture/Literature" 2, Groupwork 復習 : Review the handout contents							
13	M.ブラウン	【第 13 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Culture/Literature" 3, Groupwork 復習 : Review the handout contents							
14	M.ブラウン	【第 14 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Culture/Literature" 4, Groupwork, Submit a summary of content in lessons 11-14 復習 : Review the handout contents							
15	M.ブラウン	【第 15 回】 予習 : Read the relevant sections of the class handouts. 授業 : "What is English Culture/Literature" 5, Groupwork and Discussion 復習 : Review the handout contents							
授業開始前学習		Do as much introductory reading on English education, English Linguistics, and English Culture/Literature as possible.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students will receive oral and/or written feedback on all coursework.							
テキスト・教材		All materials will be provided by the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		-Preparation and Participation (20%) -Classwork and Quizzes (20%) -Content summaries (reports) (60%)							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			○	◎	△		
関連科目									
その他		Students must attend 2/3 of the classes to received credit.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-320-12	授業コード	FC0422
科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 D	単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research D	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	今日の日本の法社会は、ヨーロッパの近代市民社会を模範としています。一人ひとりの個人を人格の担い手として尊重すること、すなわち「人間の尊厳」は市民社会の実現目標かつ基本的な価値観として捉えられてきました。特に、「自由」や「平等」は人間の尊厳の具体的内容をなす基本的な「人権」として捉えられ、今日に至っています。これを踏まえ、本講義ではまず人権の本質と内容について理解します。その上で、社会的文化的な性である「ジェンダー（gender）」の意味を踏まえ、今日における性差をめぐる問題を国内社会と国際社会を比較しつつ法的な観点から考察します。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題（ジェンダー格差）を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト目次 1-11 頁の講読 授業 : 「人権論Ⅱ」とは : 授業の目的・内容・学習方法について【テキスト 目次 1-11 頁】 復習 : テキスト目次 1-11 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 市民社会と法 : 法の役割と日本の法体系の起源 【テキスト 3 頁】 復習 : テキスト 3 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : テキスト 11-12 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 女性の人権の背景 : 近代市民社会と人間の尊厳 【テキスト 11-12 頁】 復習 : テキスト 11-12 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 12-13 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 女性の人権の背景 : 近代市民国家と個人の尊厳 【テキスト 12-13 頁】 復習 : テキスト 12-13 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 17-22、27-30 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国内社会と女性の人権 : 日本国憲法と基本的人権 【テキスト 17-22、27-30 頁】 復習 : テキスト 17-22、27-30 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 61、81-86 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国内社会と女性の人権 : 労働環境をめぐって 【テキスト 61、81-86 頁】 復習 : テキスト 61、81-86 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 84-87 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国内社会と女性の人権 : 婚姻関係をめぐって 【テキスト 84-87 頁】 復習 : テキスト 84-87 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 85-87 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国内社会と女性の人権 : 母子関係をめぐって 【テキスト 85-87 頁】 復習 : テキスト 85-87 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 281-282 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際社会と女性の人権 : 国際社会の構造的特徴 【テキスト 281-282 頁】 復習 : テキスト 281-282 頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	

11	福王 守	【第 11 回】 予習：テキスト 282-283 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会と女性の人権：国際人権保障のあゆみと国連の役割 【テキスト 282-283 頁】 復習：テキスト 282-283 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理															
12	福王 守	【第 12 回】 予習：テキスト 283-286 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会と女性の人権：国際人権章典 【テキスト 283-286 頁】 復習：テキスト 283-286 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理															
13	福王 守	【第 13 回】 予習：テキスト 285-289、293-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会と女性の人権：女性差別撤廃条約 【テキスト 285-289、293-294 頁】 復習：テキスト 285-289、293-294 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理															
14	福王 守	【第 14 回】 予習：テキスト 293-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際社会と女性の人権：女性の国際人権保障をめぐる課題と日本 【テキスト 293-294 頁】 復習：293-294 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理															
15	福王 守	【第 15 回】 予習：テキスト目次 1-11 頁の講読およびキーワードの確認 授業：「英語コミュニケーション専攻研究 D」の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理															
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。															
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。															
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法（令和 6 年版）』（有斐閣、2023 年）															
参考書		授業を通じて適宜紹介します。															
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。															
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		◎						○		◎		△					
関連科目		「法学」、「法と社会」、「日本国憲法」および「人権の基礎」と関連させながら「英語コミュニケーション専攻研究 D」は組み立てられています。また、2 年次以降に受講できる科目として「国際法」があります。															
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	113-320-12			授業コード	FC0423
科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 E			単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research E			授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	In this class, students will practice their English skills while learning about cultural studies. There will be in-class discussions and presentations about culture. Students will also have the opportunity to focus on cultural topics that they are personally interested in.				
到達目標	The aims of this class are to help students gain confidence and improve their English skills while learning about culture. Students will also be introduced to how to do basic research in preparation for seminar work.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework			
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Food customs around the world ? Part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Food customs around the world ? Part 2 復習 : Review notes/ Do homework			
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student research 復習 : Review notes/ Do homework			
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Festivals and events ? Part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Festivals and events ? Part 2 復習 : Review notes/ Do homework			
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student research and presentations 復習 : Review notes/ Do homework			
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Beliefs and values 復習 : Review notes/ Do homework			
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student research 復習 : Review notes/ Do homework			
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Subculture ? Part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Subculture ? Part 2 復習 : Review notes/ Do homework			

科目分類	113-320-12	授業コード	FC0424
科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 F	単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research F	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	この授業では、英語を中心とした言語との向き合い方を学ぶ。具体的には、様々な英語の例文に触れながら、それらはどのような文脈で使われるのか、話し手はどのような意図を持って発話したのか、そして聞き手はその発言をどのように受け止めるのかといったことを、言語学の知見を取り入れながら学んでいく。なお、3 年次以降の「英語コミュニケーションゼミ」につながることを想定しつつ、授業を運営する予定である。		
到達目標	・英語という言語との向き合い方を学ぶことができる。 ・英語がどのような言語であるのかを知ることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：本授業のシラバスを読んでくる。 授業：本授業の運営方針や成績評価に関するオリエンテーション 復習：授業内容を再確認する。	
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（1） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（2） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（3） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（4） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：テキスト該当箇所の精読または発表準備 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（5） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（6） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（7） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（8） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（9） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。	
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（10）	

		復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。							
12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（11） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。							
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（12） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。							
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：テキスト該当箇所の精読 授業：テキスト講読、意見交換、関連する文法の確認、各自提出した例文の考察、レポート指導（13） 復習：授業で学んだことを再確認し、理解できなかった点を洗い出す。							
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：テキストや授業で学んだことを振り返る。 授業：本授業の振り返り 復習：自身の課題を客観的に見つめ直す。							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		各自が気になった例文を提出し、それに対して授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材		倉林秀男、ジェフリー・トランブリー『シンプルで伝わる英語表現－日本語との発想の違いから学ぶ－』（ちくま書房）2022 年 (ISBN: 978-4-480-07506-2)							
参考書									
評価の基準と方法		提出課題：50%、レポート：50%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			○	◎	△		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-320-12	授業コード	FC0425
科目名称	英語コミュニケーション専攻研究 G	単位数	2.0 単位
英文名称	English Communication Research G	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、3 年次以降の「英語コミュニケーションゼミ」に向けてプレゼミとして位置付けられた授業である。本授業のテーマとして、国際教育を中心に教育全般を扱う。「国際的視野とは何か」「学びとは何か」「教育とは何か」といった問いについて、多角的かつクリティカルに思考し、ディスカッションを通じて自分の考えを深め、効果的に表現する力を養うことを目的とする。授業はディスカッションを中心に行う。		
到達目標	教育に関するテーマについて深く考え、文献やデータに基づいて自分の考えを表現する力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習：授業シラバスに目を通す 授業：オリエンテーション・「国際的視野とは」 復習：感想および授業のまとめを書く	
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習：テキスト第 1 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「なぜ学ぶのか」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習：テキスト第 1 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「なぜ学ぶのか」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習：テキスト第 2 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「どのように学ぶのか」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習：テキスト第 2 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「どのように学ぶのか」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習：テキスト第 3 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「かかわりを通じて学ぶ」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習：テキスト第 3 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「かかわりを通じて学ぶ」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習：テキスト第 4 章①を読み、考えをまとめておく 授業：「世界の教育と日本の教育」について議論し、考えを深める（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習：テキスト第 4 章②を読み、考えをまとめておく 授業：「世界の教育と日本の教育」について発表・議論し、考えを深める（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：テーマに関して自分が気になることを調べ、発表できるようにしておく 授業：さまざまな国際教育プログラム①：テーマについて議論し、考えを深める（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる	
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習：テーマに関して自分が気になることを調べ、発表できるようにしておく 授業：さまざまな国際教育プログラム②：テーマについて議論し、考えを深める（ディスカッション）	

		復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる							
12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：テーマに関して自分が気になるところを調べ、発表できるようにしておく 授業：さまざまな国際教育プログラム③：テーマについて議論し、考えを深める（ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：発表準備 授業：探究テーマについて発表し、議論をする（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：探究テーマについて発表し、議論をする（発表・ディスカッション） 復習：授業を振り返り、自分の考えをプロセスジャーナルにまとめる							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：プロセスジャーナルのまとめ 授業：授業を振り返り、深めてきた自身の考えについて発表する（発表・ディスカッション） 復習：3 年次の研究に向けて目標や課題点を明らかにする							
授業開始前学習		書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題について関心を持つ。 課題に取り組み、疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題や活動に対するフィードバックはその都度授業中、また返却時に行う。							
テキスト・教材		福田誠治『教育学って何だろう ―受け身を捨てて自律する』（東信堂）2021 年（ISBN：978-4-7989-1715-3）							
参考書		授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業参加度・課題提出（50%） 発表・レポート（50%）							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			○	◎	△		
関連科目									
その他		ディスカッションや発表に積極的に参加すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0431
科目名称	Core Studies I	単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies I	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-608
授業概要	This class will focus on different types of English learning activities and methods. We will look at how people learn languages and also what kind of activities can be used for improving communication skills. This class will be good for anyone who wants to improve their English communication ability.		
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn about second language acquisition (SLA). Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Students will gain knowledge that will help them be better at language learning and communication.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework	
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Communicative Learning part 1 復習 : Review notes/ Do homework	
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Communicative Learning part 2 復習 : Review notes/ Do homework	
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Communicative listening and speaking 復習 : Review notes/ Do homework	
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Communicative reading and writing 復習 : Review notes/ Do homework	
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Designing communicative activities part 1 復習 : Review notes/ Do homework	
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Designing communicative activities part 2. 復習 : Review notes/ Do homework	
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Prepare for model lessons 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework	
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Task Based Learning part 1 復習 : Review notes/ Do homework	
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Task Based Learning part 2 復習 : Review notes/ Do homework	
11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : The four skills in Task Based Learning	

		復習 : Review notes/ Do homework						
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Designing tasks 復習 : Review notes/ Do homework						
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework						
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework						
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and presentations						
授業開始前学習		Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books. Please talk to the teacher if more advice is desired.						
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.						
テキスト・教材		Class materials will be provided by the instructor.						
参考書								
評価の基準と方法		Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%						
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力 実践力
科目の該当		○				◎	△	○
関連科目								
その他		It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0432
科目名称	Core Studies I	単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies I	授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Think about business issues 授業 : Orientation (Aims and content of the course) 復習 : Think about ways to develop Business Studies knowledge	
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Gather necessary materials 授業 : Business case studies 復習 : Read over the material covered in class	
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Talking about your job 授業 : Job titles, company organization 復習 : Read over the material covered in class	
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Introducing People 授業 : Job descriptions, department names 復習 : Read over the material covered in class	
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Explaining office layout 授業 : Location, ordinal numbers 復習 : Read over the material covered in class	
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Start Group Business Presentation 授業 : Groups choose from various business topics 復習 : Read over the material covered in class	
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Work on Group Business Presentation 授業 : Develop business presentations 復習 : Read over the material covered in class	
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Present Group Business Presentation 授業 : Give presentations (Active learning presentation) 復習 : Review the presentations	
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Giving Instructions 授業 : Telephoning, sequencing words 復習 : Read over the material covered in the class	
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Inviting 授業 : Making arrangements, places of entertainment 復習 : Read over the material covered in class	
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Start work on Individual presentations 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations	

12	K.バーンズ	【第12回】 予習 : Work on Individual presentation 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations							
13	K.バーンズ	【第13回】 予習 : Perform Individual presentations 授業 : Present in front of our class 復習 : Review the presentations							
14	K.バーンズ	【第14回】 予習 : Talking about business travel plans 授業 : Air travel, dates 復習 : Read over the material covered in class							
15	K.バーンズ	【第15回】 予習 : Review the course thus far 授業 : Business conversations 復習 : Reflect on course							
授業開始前学習		Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材		Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書		Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法		Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-13			授業コード	FC0441
科目名称	Core Studies II			単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies II			授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	This course will look at how current knowledge of second language acquisition (SLA) can be applied in practical English teaching environments. Students will learn a variety of techniques and methodologies that can be applied in various English learning situations.				
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn key features of second language acquisition (SLA) theory. Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Various types of practical English teaching activities will be presented and worked with.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework			
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Cooperative Learning part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Cooperative Learning part 2 復習 : Review notes/ Do homework			
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Working Together 復習 : Review notes/ Do homework			
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Being Responsible 復習 : Review notes/ Do homework			
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Making Equal Opportunities 復習 : Review notes/ Do homework			
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in Cooperative Learning - Maximizing Interactions 復習 : Review notes/ Do homework			
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Prepare for model lessons 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework			
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Transformative Learning part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Introduction to Transformative Learning part 2 復習 : Review notes/ Do homework			
11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Reflective practice part 1 復習 : Review notes/ Do homework			

12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Reflective practice part 2 復習 : Review notes/ Do homework							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Individual research 復習 : Review notes/ Do homework							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and presentations							
授業開始前学習		Review the topics of the previous term.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Class materials will be provided by the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他		It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0442
科目名称	Core Studies II	単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies II	授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Think about business issues 授業 : Orientation (Aims and content of the course) 復習 : Think about ways to develop Business Studies knowledge	
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Gather necessary materials 授業 : Business case studies 復習 : Read over the material covered in class	
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Offering to help 授業 : Apologizing, around the office 復習 : Read over the material covered in class	
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Talking about sales 授業 : Sales and promotion 復習 : Read over the material covered in class	
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Checking information 授業 : Taking telephone messages, telephoning, Emailing 復習 : Read over the material covered in class	
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Start Group Business Presentation 授業 : Groups choose from various business topics 復習 : Read over the material covered in class	
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Work on Group Business Presentation 授業 : Develop business presentations 復習 : Read over the material covered in class	
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Present Group Business Presentation 授業 : Give presentations (Active learning presentation) 復習 : Review the presentations	
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Discussing future plans 授業 : Travel, career plans 復習 : Read over the material covered in the class	
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Talking about yourself 授業 : Education and work experience 復習 : Read over the material covered in class	
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Start work on Individual presentations 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations	

12	K.バーンズ	【第12回】 予習 : Work on Individual presentation 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations							
13	K.バーンズ	【第13回】 予習 : Perform Individual presentations 授業 : Present in front of our class 復習 : Review the presentations							
14	K.バーンズ	【第14回】 予習 : Talking about things you have and haven` t done 授業 : Other facilities and conference equipment 復習 : Read over the material covered in class							
15	K.バーンズ	【第15回】 予習 : Review the course thus far 授業 : Business conversations 復習 : Reflect on course							
授業開始前学習		Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材		Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書		Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法		Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-14			授業コード	FC0451
科目名称	Core Studies Ⅲ			単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies Ⅲ			授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-608
授業概要	This class will focus on different types of English learning activities and methods. We will look at how people learn languages and also what kind of activities can be used for improving communication skills. This class will be good for anyone who wants to improve their English communication ability.				
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn about second language acquisition (SLA). Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Students will gain knowledge that will help them be better at language learning and communication.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework			
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Cooperation and collaboration Part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Cooperation and collaboration Part 2 復習 : Review notes/ Do homework			
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in communicative teaching Part 1 復習 : Review notes/ Do homework			
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Topics in communicative teaching Part 2 復習 : Review notes/ Do homework			
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework			
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework			
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Prepare for model lessons 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework			
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Teaching speaking/listening 復習 : Review notes/ Do homework			
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Teaching reading/writing 復習 : Review notes/ Do homework			
11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Reflective practice part 1			

		復習 : Review notes/ Do homework							
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Reflective practice part 2 復習 : Review notes/ Do homework							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and model lessons							
授業開始前学習		Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books. Please talk to the teacher if more advice is desired.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Class materials will be provided by the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他		It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-14	授業コード	FC0452
科目名称	Core Studies Ⅲ	単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies Ⅲ	授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Think about business issues 授業 : Orientation (Aims and content of the course) 復習 : Think about ways to develop Business Studies knowledge	
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Gather necessary materials 授業 : Business case studies 復習 : Read over the material covered in class	
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Talking about your job 授業 : Job titles, company organization 復習 : Read over the material covered in class	
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Introducing People 授業 : Job descriptions, department names 復習 : Read over the material covered in class	
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Explaining office layout 授業 : Location, ordinal numbers 復習 : Read over the material covered in class	
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Start Group Business Presentation 授業 : Groups choose from various business topics 復習 : Read over the material covered in class	
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Work on Group Business Presentation 授業 : Develop business presentations 復習 : Read over the material covered in class	
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Present Group Business Presentation 授業 : Give presentations (Active learning presentation) 復習 : Review the presentations	
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Giving Instructions 授業 : Telephoning, sequencing words 復習 : Read over the material covered in the class	
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Inviting 授業 : Making arrangements, places of entertainment 復習 : Read over the material covered in class	
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Start work on Individual presentations 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations	

12	K.バーンズ	【第12回】 予習 : Work on Individual presentation 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations							
13	K.バーンズ	【第13回】 予習 : Perform Individual presentations 授業 : Present in front of our class 復習 : Review the presentations							
14	K.バーンズ	【第14回】 予習 : Talking about business travel plans 授業 : Air travel, dates 復習 : Read over the material covered in class							
15	K.バーンズ	【第15回】 予習 : Review the course thus far 授業 : Business conversations 復習 : Reflect on course							
授業開始前学習		Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材		Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書		Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法		Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-14	授業コード	FC0461
科目名称	Core Studies IV	単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies IV	授業区分	講義
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-608
授業概要	This course will continue where Core Studies III left off. Students will be exposed to current ideas in second language teaching pedagogy. Students will learn a variety of techniques and methodologies that can be applied in various English learning situations and gain practical experience in designing English language lessons.		
到達目標	There are two aims in this class. First, students will learn key features of second language acquisition (SLA) theory. Second, students will learn how to apply SLA theory in a variety of learning situations. Various types of practical English teaching activities will be presented and worked with.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Prepare a self-introduction 授業 : Course goals and schedule 復習 : Review notes/ Do homework	
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Advanced topics in teaching conversation Part 1 復習 : Review notes/ Do homework	
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Advanced topics in teaching conversation Part 2 復習 : Review notes/ Do homework	
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Sociocultural theory in practice Part 1 復習 : Review notes/ Do homework	
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Sociocultural theory in practice Part 2 復習 : Review notes/ Do homework	
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework	
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework	
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Prepare for model lessons 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework	
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Content based teaching Part 1 復習 : Review notes/ Do homework	
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Content based teaching Part 2 復習 : Review notes/ Do homework	
11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Content based teaching Part 3	

		復習 : Review notes/ Do homework							
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : End of term reflection 復習 : Review notes/ Do homework							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Student model lessons 復習 : Review notes/ Do homework							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Do assigned reading 授業 : Course review and model lessons							
授業開始前学習		Students can familiarize themselves with SLA in Japanese through various websites and books. Please talk to the teacher if more advice is desired.							
授業内課題のフィードバックの方法		Both written and oral feedback will be provided to all students.							
テキスト・教材		Class materials will be provided by the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Participation 30 %, Homework 15%, In class evaluation 55%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他		It will be a good opportunity for students interested in teaching to learn some different methods. Also, it will be good for anyone wanting to gain confidence in their English ability.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-14	授業コード	FC0462
科目名称	Core Studies IV	単位数	2.0 単位
英文名称	Core Studies IV	授業区分	講義
科目責任者	K.バーンズ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	K.バーンズ	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	This English medium course is a course in global business studies and business knowledge. Themes such as volume sales, marketing, e-commerce, customer retention and customer acquisition are surveyed. Lectures will be given on evidence-based approaches to business topics.		
到達目標	An expanding knowledge of the modern business world will be developed through case studies of multinational businesses, especially Amazon. Students will improve their ability to research business topics, apply critical thinking to business problems, and present their research findings at an improved standard.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	K.バーンズ	【第 1 回】 予習 : Think about business issues 授業 : Orientation (Aims and content of the course) 復習 : Think about ways to develop Business Studies knowledge	
2	K.バーンズ	【第 2 回】 予習 : Gather necessary materials 授業 : Business case studies 復習 : Read over the material covered in class	
3	K.バーンズ	【第 3 回】 予習 : Offering to help 授業 : Apologizing, around the office 復習 : Read over the material covered in class	
4	K.バーンズ	【第 4 回】 予習 : Talking about sales 授業 : Sales and promotion 復習 : Read over the material covered in class	
5	K.バーンズ	【第 5 回】 予習 : Checking information 授業 : Taking telephone messages, telephoning, Emailing 復習 : Read over the material covered in class	
6	K.バーンズ	【第 6 回】 予習 : Start Group Business Presentation 授業 : Groups choose from various business topics 復習 : Read over the material covered in class	
7	K.バーンズ	【第 7 回】 予習 : Work on Group Business Presentation 授業 : Develop business presentations 復習 : Read over the material covered in class	
8	K.バーンズ	【第 8 回】 予習 : Present Group Business Presentation 授業 : Give presentations (Active learning presentation) 復習 : Review the presentations	
9	K.バーンズ	【第 9 回】 予習 : Discussing future plans 授業 : Travel, career plans 復習 : Read over the material covered in the class	
10	K.バーンズ	【第 10 回】 予習 : Talking about yourself 授業 : Education and work experience 復習 : Read over the material covered in class	
11	K.バーンズ	【第 11 回】 予習 : Start work on Individual presentations 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations	

12	K.バーンズ	【第12回】 予習 : Work on Individual presentation 授業 : Developing presentations in English 復習 : Continue work on presentations							
13	K.バーンズ	【第13回】 予習 : Perform Individual presentations 授業 : Present in front of our class 復習 : Review the presentations							
14	K.バーンズ	【第14回】 予習 : Talking about things you have and haven` t done 授業 : Other facilities and conference equipment 復習 : Read over the material covered in class							
15	K.バーンズ	【第15回】 予習 : Review the course thus far 授業 : Business conversations 復習 : Reflect on course							
授業開始前学習		Read about business issues in newspapers and magazines etc.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on presentations.							
テキスト・教材		Passport to Work Buckingham and Whitney (Oxford)							
参考書		Company home pages, especially "investor information" sections, should be consulted.							
評価の基準と方法		Continuous assessment 30%, Presentations and accompanying materials 70%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0470
科目名称	イギリス文学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	British Literature I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	この講義では 7 世紀から 18 世紀までの約千年にわたるイギリス文学史の概要を理解することを目標としています。主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などもできるだけ併用しながら、作品や作品を生み出した時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。		
到達目標	・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる ・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスに目を通して頂くこと 授業 : 西欧文学を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習 : 授業目的の確認	
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 教科書 P.2～P.5 を読む 授業 : 古英語の時代と文学作品、現代英語と文字や言語構造の違いを知る 復習 : 課題・教科書 P.2～P.5 を読む	
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : 教科書 P.6～P.10 を読む 授業 : 中世英文学、他言語の流入による言語と文学の変化を学ぶ 復習 : 課題・教科書 P.6～P.10 を読む	
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : 教科書 P.11～P.14 を読む 授業 : 中世からルネッサンスへの過渡期の言語と文学の関連を学ぶ 復習 : 課題・教科書 P.11～P.14 を読む	
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : 教科書 P.14～P.22 を読む 授業 : イギリス・ルネッサンス文学と宮廷詩人による詩の発展 復習 : 課題・教科書 P.14～P.22 を読む	
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : 教科書 P.23～P.31 を読む 授業 : イギリス演劇の誕生、大衆に開かれた文学作品とそれを取り巻く文化 復習 : 課題・教科書 P.23～P.31 を読む	
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : 教科書 P.32～P.38 を読む 授業 : イギリス演劇の発展、洗練される演劇文化と文学作品の言語への影響 復習 : 課題・教科書 P.32～P.38 を読む	
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : 教科書 P.39～P.43 を読む 授業 : シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響 復習 : 課題・教科書 P.39～P.43 を読む	
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : 教科書 P.39～P.43 を読む 授業 : シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(1) 復習 : 課題・教科書 P.39～P.43 を読む	
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : 教科書 P.39～P.43 を読む 授業 : シェイクスピアの登場と言語的・文化的影響(2) 復習 : 課題・教科書 P.39～P.43 を読む	
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : 教科書 P.44～P.50 を読む 授業 : ルネッサンス後期の演劇作品と政治・文化(3) 復習 : 課題・教科書 P.44～P.50 を読む	

12	松山 響子	【第 12 回】 予習 : 教科書 P.51～P.58を読む 授業 : 清教徒革命が詩人に与える影響 復習 : 課題・教科書 P.51～P.58を読む															
13	松山 響子	【第 13 回】 予習 : 教科書 P.59～P.66を読む 授業 : 課題・ジョン・ミルトンと『パラダイス・ロスト』 復習 : 課題・教科書 P.59～P.66を読む															
14	松山 響子	【第 14 回】 予習 : 教科書 P.66～P.71を読む 授業 : 詩から散文へ、日常使用の言語による文学作品の登場 復習 : 課題・教科書 P.66～P.71を読む															
15	松山 響子	【第 15 回】 予習 : 教科書 P.72～P.77を読む 授業 : 小説の登場、日常使用の言語による文学作品の発展 復習 : 課題・教科書 P.72～P.77を読む															
授業開始前学習		かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関しての質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。															
テキスト・教材		川崎寿彦著『イギリス文学史入門』(研究社)															
参考書		石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)															
評価の基準と方法		期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート : 60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。															
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		◎		△						○							
関連科目		英語コミュニケーション専攻研究 A															
その他		現在でも様々な場面で使われる英語の「決まり文句」は、大部分この期間に書かれた文学作品から引用されています。期間の長さに驚かず、イギリスの文学作品がどんなものなのかを考えるきっかけにして下さい。 提出物等は Google Classroom を通じて行います。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0480
科目名称	イギリス文学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	British Literature II	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	この講義では 18 世紀から現在までのイギリス文学を解説し、それを通してロマン派、ビクトリア朝、そして現代までのイギリス文学史について、主要な作家、作品を取り上げながら講義します。スライドや映像などもできるだけ併用しながら、作品や時代に対するイメージを具体的にとらえることを目標とします。		
到達目標	・文学における様々なジャンルとその変遷を理解することができるようになる ・歴史と文学のかかわりを理解することができるようになる ・20 世紀における文学の転換とそのきっかけとなった歴史的出来事のつながりを理解することができるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : 教科書 P.81～P.84 を読む 授業 : 18 世紀の演劇とヨーロッパから流入してきた演劇文化への対応 復習 : 教科書 P.81～P.84 を読む	
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 教科書 P.85～P.92 を読む 授業 : 18 世紀の小説（１）人気小説の誕生と識字率向上による文化環境の変化 復習 : 授業内容を 400 字程度にまとめて提出	
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : 教科書 P.92～P.98 を読む 授業 : 18 世紀の小説（２）女流小説家の誕生と発展、女性を取り巻く文化の変化 復習 : 教科書 P.85～P.92 を読む	
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : 教科書 P.99～P.106 を読む 授業 : ロマン派の詩人たち（１）ワーズワースとコールリッジ 復習 : 教科書 P.99～P.106 を読む	
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : 教科書 P.106～P.112 を読む 授業 : ロマン派の詩人たち（２）キーツ、バイロンとシェリー 復習 : 教科書 P.106～P.112 を読む	
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : 教科書 P.113～P.121 を読む 授業 : ヴィクトリア朝時代の詩と散文、時代的な風潮の文化への影響 復習 : 教科書 P.113～P.121 を読む	
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : 教科書 P.121～P.128 を読む 授業 : ラファエル前派、文学作品と絵画による相互作用の時代 復習 : 教科書 P.121～P.128 を読む	
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : 教科書 P.129～P.136 を読む 授業 : ヴィクトリア朝時代の小説家たち（１）産業革命と社会運動 復習 : 教科書 P.129～P.136 を読む	
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : 教科書 P.137～P.145 を読む 授業 : ヴィクトリア朝時代の小説家たち（２）進化論の登場と文化への影響 復習 : 教科書 P.137～P.145 を読む	
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : 教科書 P.146～P.158 を読む 授業 : 20 世紀の詩と演劇（１）消費される文学作品と過去との差異化 復習 : 教科書 P.146～P.158 を読む	
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : 教科書 P.146～P.158 を読む 授業 : 20 世紀の詩と演劇（２）過去との差異化 復習 : 教科書 P.146～P.158 を読む	

12	松山 響子	【第 12 回】 予習 : 教科書 P.159～P.166 を読む 授業 : 20 世紀の小説 (1) 小説とは何か、イギリスへのアメリカ・アイルランドの影響 復習 : 教科書 P.159～P.166 を読む							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習 : 教科書 P.167～P.173 を読む 授業 : 20 世紀の小説 (2) 広がる英語圏の文学、オーストラリア・インド・南アフリカの影響 復習 : 教科書 P.167～P.173 を読む							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習 : 教科書 P.178～P.173 を読む 授業 : 現代の英文学、英語圏の文学と文学の社会における役割 復習 : 教科書 P.178～P.173 を読む							
15	松山 響子	【第 15 回】 授業 : 木間レポート作成時の注意							
授業開始前学習		かならず事前に指定をされた教科書の該当箇所を読んでくる。教科書の指定箇所は授業進度に合わせて適宜変更する。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容についての感想を毎回授業終了時に提出をする。授業内で授業中に紹介をした文学作品に関する質問、あるいは文化的事象についての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次回の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材		川崎寿彦著『イギリス文学史入門』(研究社)							
参考書		石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社) 神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) 白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』(春風社)							
評価の基準と方法		期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート : 60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	△			○			
関連科目		英語コミュニケーション専攻研究 A							
その他		現在までのイギリス文学を通して、自分の好きな作品を見つけてみてください。同時に 20 世紀までの英文学と 20 世紀以降の今につながる英文学との違いを実感してみてください。 提出物等は Google Classroom を通じて行います。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0490
科目名称	アメリカ文学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	American Literature I	授業区分	講義
科目責任者	佐野 陽子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野 陽子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業では、アメリカの植民地時代から南北戦争までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。		
到達目標	アメリカの植民地時代から南北戦争までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐野 陽子	【第 1 回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ	
2	佐野 陽子	【第 2 回】 予習：植民地時代のアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 2-3） 授業：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：植民地時代のアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。	
3	佐野 陽子	【第 3 回】 予習：ジョナサン・エドワーズとベンジャミン・フランクリンについて調べる。 授業：ジョナサン・エドワーズ「怒れる神の手の中にある罪人」、ベンジャミン・フランクリン『自伝』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
4	佐野 陽子	【第 4 回】 予習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 4-11） 授業：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：独立期から南北戦争までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。	
5	佐野 陽子	【第 5 回】 予習：ハナ・ウェブスター・フォスターについて調べる。 授業：ハナ・ウェブスター・フォスター『コケット』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
6	佐野 陽子	【第 6 回】 予習：ラルフ・ウォルドー・エマソンについて調べる。（教科書 pp. 60-61） 授業：ラルフ・ウォルドー・エマソン「自然」「自己信頼」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
7	佐野 陽子	【第 7 回】 予習：ナサニエル・ホーソーンについて調べる。（教科書 pp. 64-65） 授業：ナサニエル・ホーソーン『緋文字』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
8	佐野 陽子	【第 8 回】 予習：エドガー・アラン・ポーについて調べる。（教科書 pp. 58-59） 授業：エドガー・アラン・ポー「アッシュ家の崩壊」講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
9	佐野 陽子	【第 9 回】 予習：ハリエット・ビーチャー・ストウについて調べる。（教科書 pp. 72-73） 授業：ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
10	佐野 陽子	【第 10 回】 予習：ハリエット・ジェイコブスについて調べる。 授業：ハリエット・ジェイコブス『ある奴隷少女に起こった出来事』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
11	佐野 陽子	【第 11 回】 予習：ヘンリー・デイヴィッド・ソローについて調べる。（教科書 pp. 62-63） 授業：ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『ウォールデン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	

12	佐野 陽子	【第 12 回】 予習：ハーマン・メルヴィルについて調べる。（教科書 pp. 66-69） 授業：ハーマン・メルヴィル『白鯨』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。						
13	佐野 陽子	【第 13 回】 予習：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソンについて調べる。（教科書 pp. 76-79） 授業：ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。						
14	佐野 陽子	【第 14 回】 予習：第 1 回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション（第 1 回）とディスカッション 復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。						
15	佐野 陽子	【第 15 回】 予習：第 2 回プレゼンテーションの担当者は、前期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーション（第 2 回）とディスカッション 復習：前期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。						
授業開始前学習		前期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に 1 冊読んでおくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。						
テキスト・教材		竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）						
参考書		授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。						
評価の基準と方法		授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0500
科目名称	アメリカ文学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	American Literature II	授業区分	講義
科目責任者	佐野 陽子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐野 陽子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業では、アメリカの南北戦争後から冷戦終結までのアメリカ文学の中で、それぞれの時代を代表する作品を取り上げ、原文の抜粋も読みながら、人種、階級、ジェンダー、宗教といったアメリカ文学の重要テーマについて考える。講義を中心とするが、ディスカッションやプレゼンテーションも取り入れる。		
到達目標	アメリカの南北戦争後から冷戦終結までの文学史を概観した上で、アメリカ文学の重要テーマを学び、また作品を実際に読むことで英文を読む力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐野 陽子	【第 1 回】 イントロダクション：アメリカ文学を学ぶということ	
2	佐野 陽子	【第 2 回】 予習：南北戦争後から第 1 次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 12-17） 授業：南北戦争後から第 1 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：南北戦争後から第 1 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。	
3	佐野 陽子	【第 3 回】 予習：マーク・トウェインについて調べる。（教科書 pp. 80-81） 授業：マーク・トウェイン『ハuckleberry・フィン』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
4	佐野 陽子	【第 4 回】 予習：ヘンリー・ジェイムズについて調べる。（教科書 pp. 82-83） 授業：ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
5	佐野 陽子	【第 5 回】 予習：イーディス・ウォートンについて調べる。（教科書 pp. 92-93） 授業：イーディス・ウォートン『歓楽の家』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
6	佐野 陽子	【第 6 回】 予習：シオドア・ドライサーについて調べる。（教科書 pp. 90-91） 授業：シオドア・ドライサー『シスター・キャリー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
7	佐野 陽子	【第 7 回】 予習：第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 16-31） 授業：第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。	
8	佐野 陽子	【第 8 回】 予習：ウィラ・キャザーについて調べる。（教科書 pp. 94-95） 授業：ウィラ・キャザー『私のアントニア』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
9	佐野 陽子	【第 9 回】 予習：F・スコット・フィッツジェラルドについて調べる。（教科書 pp. 110-111） 授業：F・スコット・フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
10	佐野 陽子	【第 10 回】 予習：ウィリアム・フォークナーについて調べる。（教科書 pp. 114-117） 授業：ウィリアム・フォークナー『八月の光』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	
11	佐野 陽子	【第 11 回】 予習：アーネスト・ヘミングウェイについて調べる。（教科書 pp. 112-113） 授業：アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。	

12	佐野 陽子	【第 12 回】 予習：第 2 次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史について調べる。（教科書 pp. 32-41） 授業：第 2 次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化の概説 復習：第 2 次世界大戦後から冷戦終結までのアメリカの歴史・文学・文化についてまとめる。						
13	佐野 陽子	【第 13 回】 予習：トルーマン・カポーティについて調べる。（教科書 pp. 132-133） 授業：トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。						
14	佐野 陽子	【第 14 回】 予習：トニ・モリソンについて調べる。（教科書 pp. 148-149） 授業：トニ・モリソン『青い眼がほしい』講義、ディスカッション 復習：作品の原文の抜粋を精読する。						
15	佐野 陽子	【第 15 回】 予習：プレゼンテーションの担当者は、後期に読んだ作品の中からひとつもしくは複数選び、テーマを設定して、プレゼンテーションの準備をする。 授業：プレゼンテーションとディスカッション 復習：後期に読んできた作品を見直し、学んだことを振り返る。						
授業開始前学習		後期の授業で扱う作品の中からひとつ興味のあるものを選んで、事前に 1 冊読んでおくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で取り上げる作品についてのコメントと学期末のプレゼンテーションに対して、授業内でフィードバックをします。						
テキスト・教材		竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』（ミネルヴァ書房）						
参考書		授業で扱った作品を、各自、原書や翻訳などで読むことが望ましい。						
評価の基準と方法		授業参画度（40%） プレゼンテーション（60%）						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△			○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0510
科目名称	英語学概論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English Linguistics I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業は、英語、日本語あるいは言葉一般に見られるさまざまな特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みについて、基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	英語の発音、語彙、英語の歴史、英語と社会とのかかわり、文の仕組みなどについて、重要な概念を具体例を用いて説明できるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：（１）オンライン上のシラバスを読み、授業の流れを理解しておくこと （２）『探検！ことばの世界』（大津由紀雄）を読んでおく 授業：授業内容の説明、および、英語学とはどのような分野であるのかの説明 復習：授業で扱った基本的事項の復習	
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 p. 2-p. 9 までを講読 授業：第 1 章「ことばの起源と語族」（教科書 p. 2-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認	
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 10-p. 17 までを講読 授業：第 2 章「人間のことばと言語研究」（教科書 p. 10-p. 17）（発表） 復習：教科書 p. 10-p. 17 に掲載されている用語の再確認	
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 18-p. 25 までを講読 授業：第 3 章「英語の発音とスペリング」（教科書 p. 18-p. 25）（発表） 復習：教科書 p. 18-p. 25 に掲載されている用語の再確認	
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 26-p. 33 までを講読 授業：第 4 章「英語の語彙の多様性」（教科書 p. 26-p. 33）（発表） 復習：教科書 p. 26-p. 33 に掲載されている用語の再確認	
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 34-p. 41 までを講読 授業：第 5 章「標準英語の成立」（教科書 p. 34-p. 41）（発表） 復習：教科書 p. 34-p. 41 に掲載されている用語の再確認	
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 42-p. 49 までを講読 授業：第 6 章「英語のバリエーション」（教科書 p. 42-p. 49）（発表） 復習：教科書 p. 42-p. 49 に掲載されている用語の再確認	
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 p. 50-p. 57 までを講読 授業：第 7 章「ことばの変化」（教科書 p. 50-p. 57）（発表） 復習：教科書 p. 50-p. 57 に掲載されている用語の再確認	
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 58-p. 65 までを講読 授業：第 8 章「ことばと音声」（教科書 p. 58-p. 65）（発表） 復習：教科書 p. 58-p. 65 に掲載されている用語の再確認	
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 66-p. 73 までを講読 授業：第 9 章「音の組み合わせとアクセント」（教科書 p. 66-p. 73）（発表） 復習：教科書 p. 66-p. 73 に掲載されている用語の再確認	
11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 74-p. 81 までを講読 授業：第 10 章「単語ができるしくみ」（教科書 p. 74-p. 81）（発表）	

		復習：教科書 p. 74-p. 81 に掲載されている用語の再確認							
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 82-p. 89 までを講読 授業：第 11 章「文ができるしくみ」（教科書 p. 82-p. 89）（発表） 復習：教科書 p. 82-p. 89 に掲載されている用語の再確認							
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 90-p. 97 までを講読 授業：第 12 章「文の内部構造」（教科書 p. 90-p. 97）（発表） 復習：教科書 p. 90-p. 97 に掲載されている用語の再確認							
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 2-p. 49 までを再講読 授業：教科書 p. 2-p. 49 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 2-p. 49 に掲載されている用語の再確認							
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 50-p. 97 までを再講読 授業：教科書 p. 50-p. 97 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 50-p. 97 に掲載されている用語の再確認							
授業開始前学習		各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを強く勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材		長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学＜改訂版＞』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書		大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40％）、授業中の演習（30％）、授業態度（30％）である。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目		英語音声学 I・II（本授業の第 9 回と第 10 回の学習内容をさらに深める。） 文法・使える英文法 I・II（本授業の第 12 回と第 13 回の学習内容の基礎となる内容を扱う。）							
その他		毎回の授業には必ずパソコンかスマホを持ってくること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0520
科目名称	英語学概論Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English LinguisticsⅡ	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業は、「英語学概論Ⅰ」に引き続き、英語、日本語あるいは言葉一般に見られる様々な特徴について学習しながら、「ことば」とは何か、「ことば」を使用する人間とはどのようなものであるのかについて理解することを目的とする。この授業では、意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育についての基本的事項の修得を目指す。		
到達目標	意味、語用論、英語と文化、英語と社会とのかかわり、英語教育などについて、重要な概念を具体例を用いて説明ができることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：教科書第 1 章から第 12 章までの再講読 授業：後期の授業内容の説明と、前期の学習内容の復習 復習：授業で扱った重要概念の復習	
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 p. 98-p. 105 までを講読 授業：第 13 章「ことばの意味とは何だろう」（教科書 p. 98-p. 105）（発表） 復習：教科書 p. 98-p. 105 に掲載されている用語の再確認	
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 106-p. 113 までを講読 授業：第 14 章「語の間の意味関係」（教科書 p. 106-p. 113）（発表） 復習：教科書 p. 106-p. 113 に掲載されている用語の再確認	
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 114-p. 121 までを講読 授業：第 15 章「意味の拡張」（教科書 p. 114-p. 121）（発表） 復習：教科書 p. 114-p. 121 に掲載されている用語の再確認	
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 122-p. 129 までを講読 授業：第 16 章「ことばの意味に見られる主観性」（教科書 p. 122-p. 129）（発表） 復習：教科書 p. 122-p. 129 に掲載されている用語の再確認	
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 130-p. 137 までを講読 授業：第 17 章「ことばの意味とコンテキスト」（教科書 p. 130-p. 137）（発表） 復習：教科書 p. 130-p. 137 に掲載されている用語の再確認	
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 138-p. 145 までを講読 授業：第 18 章「まとまりのある文章」（教科書 p. 138-p. 145）（発表） 復習：教科書 p. 138-p. 145 に掲載されている用語の再確認	
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 p. 146-p. 153 までを講読 授業：第 19 章「文章中の談話構造」（教科書 p. 146-p. 153）（発表） 復習：教科書 p. 146-p. 153 に掲載されている用語の再確認	
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 154-p. 161 までを講読 授業：第 20 章「ことばのやりとりにおけるルール」（教科書 p. 154-p. 161）（発表） 復習：教科書 p. 154-p. 161 に掲載されている用語の再確認	
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 162-p. 169 までを講読 授業：第 21 章「コミュニケーションの民族誌」（教科書 p. 162-p. 169）（発表） 復習：教科書 p. 162-p. 169 に掲載されている用語の再確認	
11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 170-p. 177 までを講読 授業：第 22 章「英語と文化」（教科書 p. 170-p. 177）（発表） 復習：教科書 p. 170-p. 177 に掲載されている用語の再確認	

12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 178-p. 185 までを講読 授業：第 23 章「ことばと社会」（教科書 p. 178-p. 185）（発表） 復習：教科書 p. 178-p. 185 に掲載されている用語の再確認							
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 186-p. 193 までを講読 授業：第 24 章「ことばと国家」（教科書 p. 186-p. 193）（発表） 復習：教科書 p. 186-p. 193 に掲載されている用語の再確認							
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 194-p. 201 までを講読 授業：第 25 章「日本の英語教育と教授法」（教科書 p. 194-p. 201）（発表） 復習：教科書 p. 194-p. 120 に掲載されている用語の再確認							
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 98-p. 201 までを再講読 授業：教科書 p. 98-p. 201 までの内容に沿った練習問題 復習：教科書 p. 98-p. 201 に掲載されている用語の再確認							
授業開始前学習		各回の授業においては、授業前にテキストを一読し、新規の専門用語について辞典などで調べて授業に臨むことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題の内容については授業中に確認と解説を行う。							
テキスト・教材		長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学＜改訂版＞』（研究社） ISBN 978-4-327-40165-8							
参考書		大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房） 斎藤純男、田口善久、西村義樹（編）『明解言語学辞典』（三省堂） この他の参考書については、授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業中の演習、期末レポートなどを踏まえ総合的に行う。内訳は、期末課題（40％）、授業中の演習（30％）、授業態度（30％）である。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目		英語学概論Ⅰ（英語学概論Ⅰで学習した内容を踏まえてこの授業を行う。）							
その他		毎回の授業には必ずパソコンかスマホを持ってくること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12 (J)	授業コード	FC0530
科目名称	英語教育学概論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English Teaching I	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	テキストを読み、ディスカッションを通じて英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶ。英語学習者として英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「英語の学びはどのように起こるか」「どのように英語を教えることが大切なのか」などの問いについて考えていく。		
到達目標	1. 言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できる 2. 自分の英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できる 3. 日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習 : 自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返っておく 授業 : オリエンテーション、自身の英語学習体験について考える (ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」の解説① (グループワーク) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」の解説② (ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 1 章「第二言語習得」から英語の学び方を考える」に関する討論 (発表・ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」の解説① (グループワーク) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」の解説② (ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 2 章「第二言語」として目指すべき英語力とは？」に関する討論 (発表・ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」の解説① (グループワーク) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」の解説② (ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 3 章 英語を学ぶモチベーションのメカニズム」に関する討論 (発表・ディスカッション) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習 : 授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業 : 「第 4 章 英語学習のプリンシプル」の解説① (グループワーク) 復習 : 学習内容の振り返りを提出	

12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 4 章 英語学習のプリンシプル」の解説②（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 4 章 英語学習のプリンシプル」に関する討論（発表・ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：第 1 章から第 4 章の振り返りおよび討論 復習：学習内容の振り返りを提出							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：レポート課題を完成させる 授業：完成したレポート課題をベースにディスカッションを行う 復習：今学期の学びを振り返る							
授業開始前学習		課題に取り組み、疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題や活動に対するフィードバックはその都度授業中、または返却時に行う。							
テキスト・教材		新多丁『「英語の学び方」入門』（研究社）2019 年（ISBN：978-4-327-45294-0）							
参考書		授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業への取り組み（発表・ディスカッションなど）（60％）、課題・レポート（40％）を総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目									
その他		授業中は、発表やディスカッションに積極的に参加すること。また、日頃から英語教育に関わるニュースを収集し、授業中のディスカッションで話題に上げるなど、関連分野の情報に敏感になること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校の教員経験を活かし、英語教育について実践的に考え議論する授業を行う。							

科目分類	113-331-12（J）			授業コード	FC0540
科目名称	英語教育学概論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to English TeachingⅡ			授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-603
授業概要	テキストを読み、ディスカッションを通じて英語教育・英語学習の基本的な事項を学ぶ。英語学習者として英語の授業を受けた経験、英語学習をしてきた経験を踏まえ、「英語の学びはどのように起こるか」「どのように英語を教えることが大切なのか」などの問いについて考えていく。				
到達目標	1．言語習得の基礎的な理論を理解し、説明できる 2．自分の英語学習を授業で学んだ理論を用いて分析できる 3．日本の小中高の英語教育の現状および課題を知る				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習：自分が受けてきた英語教育、行ってきた英語学習を振り返っておく 授業：オリエンテーション、自身の英語学習体験について考える（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 5 章 ポキャブラリーの学び方」の解説（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 5 章 ポキャブラリーの学び方」に関する討論（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 6 章 英文法の学び方」の解説（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 6 章 英文法の学び方」に関する討論（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 7 章 リスニング・リーディングの学び方」の解説（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 7 章 リスニング・リーディングの学び方」に関する討論（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 8 章 スピーキングの学び方」の解説（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 8 章 スピーキングの学び方」に関する討論（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 9 章 ライティングの学び方」の解説（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしてくる 授業：「第 9 章 ライティングの学び方」の討論（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出			

12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：授業で扱う教科書のページや資料などを読み、疑問点などをメモしておく 授業：第 5 章から第 9 章の振り返りおよび討論（ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：発表準備 授業：日本の英語教育の現状と課題①（発表・ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：日本の英語教育の現状と課題②（発表・ディスカッション） 復習：学習内容の振り返りを提出							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：レポート課題を完成させる 授業：完成したレポート課題をベースにディスカッションを行う 復習：今学期の学びを振り返る							
授業開始前学習		課題に取り組み、疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題や活動に対するフィードバックはその都度授業中、または返却時に行う。							
テキスト・教材		新多丁『「英語の学び方」入門』（研究社）2019 年（ISBN：978-4-327-45294-0）							
参考書		授業中に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業への取り組み（発表・ディスカッションなど）（60％）、課題・レポート（40％）を総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目									
その他		授業中は、発表やディスカッションに積極的に参加すること。また、日頃から英語教育に関わるニュースを収集し、授業中のディスカッションで話題に上げるなど、関連分野の情報に敏感になること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校の教員経験を活かし、英語教育について実践的に考え議論する授業を行う。							

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0550
科目名称	アメリカの文化と歴史 I	単位数	2.0 単位
英文名称	American Culture and History I	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国の歴史を英領植民地時代に遡って概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことではなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点をおいて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えられることを目標にします。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」とともに、それがその後の歴史とどのように関わっているのかについて「解釈」する能力が身につきます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することです。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	羽鳥 修	【第 1 回】 予習 : テキスト「はじめに」を事前に読む 授業 : 授業計画・方針、成績評価の基準・方法等を説明し、そのとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
2	羽鳥 修	【第 2 回】 予習 : テキスト 4 頁～5 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 西ヨーロッパ諸国による大西洋進出の歴史的背景（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1・2（テキスト 8～9 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
3	羽鳥 修	【第 3 回】 予習 : テキスト 5 頁～8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 西半球におけるフランスとスペインによる植民活動の特徴（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 3・5（テキスト 8～9 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
4	羽鳥 修	【第 4 回】 予習 : テキスト 10 頁～15 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業 : イギリス領植民地の建設・・・南部植民地 （ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1（テキスト 25～26 頁）、質問事項を記入する。ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
5	羽鳥 修	【第 5 回】 予習 : テキスト 14 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : イギリス領植民地の建設・・・ニューイングランド植民地 （ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 2～5（テキスト 26～26 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
6	羽鳥 修	【第 6 回】 予習 : テキスト 14 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : イギリス領植民地の建設・・・中部植民地 （ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題（テキスト 8～9 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
7	羽鳥 修	【第 7 回】 予習 : テキスト 15 頁～18 頁を講読し、疑問点をチェックする。 授業 : 英領植民地の文化 （ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 11～14（テキスト 25～26 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
8	羽鳥 修	【第 8 回】 予習 : テキスト 21 頁～22 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : イギリス本国と北米植民地の経済的関係 （ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 11・12（テキスト 26 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	

9	羽鳥 修	【第9回】 予習 : テキスト 27 頁～29 頁を講読し、疑問点をチェック 授業 : アメリカ独立革命への道（課税政策を巡る対立）（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1・2（テキスト 37 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
10	羽鳥 修	【第10回】 予習 : テキスト 29～31 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : アメリカ独立革命への道…課税政策を巡る対立（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 3～5（テキスト 37 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
11	羽鳥 修	【第11回】 テキスト 32～35 頁を講読し、疑問点をチェックする。また、「独立宣言」を読む。 授業 : 独立宣言公布の世界史的意義（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 6・7（テキスト 37 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
12	羽鳥 修	【第12回】 予習 : テキスト 38 頁～40 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 新共和国の基礎作り（連合規約）（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 8（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
13	羽鳥 修	【第13回】 予習 : テキスト 40 頁～42 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 新共和国の形成…連合規約と合衆国憲法（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1・2（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
14	羽鳥 修	【第14回】 予習 : テキスト 42 頁～44 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 新共和国の形成…トマス・ジェファソンとアレクサンダー・ハミルトン（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 3（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
15	羽鳥 修	【第15回】 予習 : テキスト 42 頁～44 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : アンテバラム期のアメリカ…トクヴィルの観たアメリカ（ペア・ワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 4（テキスト 44 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。															
授業開始前学習		高校で使用されている世界史の教科書（中世以降現代まで）を読んでおいてください。															
授業内課題のフィードバックの方法		各回の課題であるコメントシートについて次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」のほか、調べる課題や DVD の感想など数回のレポート課題を出し、解答例または添削する方法でフィードバックします。															
テキスト・教材		『アメリカの文化と歴史 I 』（2012 年・改訂版）															
参考書		教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。															
評価の基準と方法		毎回のコメントシート（65%）、レポート課題（20%）、発表など授業への参加姿勢（15%）															
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		◎						○		△							
関連科目		「異文化交流 I・II」、「文化交流論（日本とアメリカ）」															
その他		電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし新規に購入する必要はありません。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0560
科目名称	アメリカの文化と歴史Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	American Culture and History II	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」に続き、南北戦争後のアメリカ合衆国の歴史を概説します。歴史は、単に「過去」を学ぶことなく、「現在」を知るために学ぶ学問です。従って、常に現在のアメリカに視点を置いて授業を進めます。この授業を通じて、アメリカを「観る目」を養うことも目標にするとともに、歴史を学ぶ意義と楽しさが伝えることを意識して講義します。また、授業形態は双方向型および課題解決型です。なお、同科目は「段階の科目」ではありませんが、「アメリカの文化と歴史Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」とともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力を身に付けます。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することにあります。また、授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力などを身につけます。		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容	
1	羽鳥 修	【第 1 回】 予習 : テキスト 17 頁～19 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : ガイダンス : 南北戦争後のアメリカ…フロンティアに西進とフロンティア社会の特質 (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : 課題 1 (テキスト 30 頁)、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
2	羽鳥 修	【第 2 回】 予習 : テキスト 19 頁～21 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行① <大企業家出現の概説 DVD 鑑賞と解説> (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
3	羽鳥 修	【第 3 回】 予習 : テキスト 19 頁～21 頁を講読し、バンダービルドについて彼の経歴を調べる 授業 : 南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行② <バンダービルド : DVD 鑑賞と解説> (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
4	羽鳥 修	【第 4 回】 予習 : テキスト 19 頁～21 頁を講読し、ロックフェラーの経歴を調べる 授業 : 南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行③ <ロックフェラー : DVD 鑑賞と解説> (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
5	羽鳥 修	【第 5 回】 予習 : テキスト 19 頁～21 頁を講読し、カーネギーの経歴を調べる 授業 : 南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行④ <カーネギー : DVD 鑑賞と解説> (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
6	羽鳥 修	【第 6 回】 予習 : テキスト 19 頁～21 頁を講読し、モルガンの経歴を調べる 授業 : 南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行④ <モルガン : DVD 鑑賞と解説> (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
7	羽鳥 修	【第 7 回】 予習 : テキスト 19 頁～21 頁を講読し、フォードの経歴を調べる 授業 : 南北戦争後のアメリカ…独占資本主義の進行④ <フォード : DVD 鑑賞と解説> (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	

8	羽鳥 修	【第 8 回】 予習 : テキスト 22 頁～26 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 19 世紀末から 20 世紀への世紀転換期①政治マシンの機能と役割 (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
9	羽鳥 修	【第 9 回】 予習 : テキスト 22 頁～26 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 19 世紀末から 20 世紀への世紀転換期②セツルメントの機能と役割 (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
10	羽鳥 修	【第 10 回】 予習 : テキスト 35 頁～39 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 農民の「反乱」: 人民党の運動と意義 (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
11	羽鳥 修	【第 11 回】 予習 : テキスト 39 頁～43 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 革新主義期運動・・・市政・連邦レベルでの改革運動 (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
12	羽鳥 修	【第 12 回】 予習 : テキスト 48 頁～55 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 1920 年代のアメリカ・・・大衆消費社会の実情 (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
13	羽鳥 修	【第 13 回】 予習 : テキスト 43 頁～47 頁を講読し、疑問点をチェックする (ペア・ワークおよびグループワーク) 授業 : 世界大国への歩み 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
14	羽鳥 修	【第 14 回】 予習 : テキスト 55 頁～60 頁を講読し、疑問点をチェックする (ペア・ワークおよびグループワーク) 授業 : 世界恐慌・ニューディール政策および冷戦の時代 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
15	羽鳥 修	【第 15 回】 予習 : テキスト 71 頁～72 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 1980 年代から現在のアメリカ (ペア・ワークおよびグループワーク) 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
授業開始前学習	「アメリカの文化と歴史Ⅰ」のテキストとノートの復習をしておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」のほか、調べ学習の課題や DVD の感想など数回のレポート課題を出しますが、解答例または添削する方法でフィードバックします。							
テキスト・教材	『アメリカの文化と歴史Ⅱ』(2012 年、改訂版)							
参考書	教科書に記載してある参考文献を参照してください。その他は、授業内で適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回のコメントシート (65%)、レポート課題 (20%)、授業への参加姿勢(15%)							
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○	△			
関連科目	「異文化交流Ⅰ・Ⅱ」、「文化交流論 (日本とアメリカ)」							
その他	電子辞書を持っている人は、授業時に持参してください。ただし、新規に購入する必要はありません。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0570
科目名称	異文化理解 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Intercultural Understanding I	授業区分	講義
科目責任者	安井 裕司	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	安井 裕司	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10	研究室	16-306
授業概要	「異文化理解」を哲学、社会学、人類学、言語学等のアプローチから捉える。 「異文化理解」を近代化、民族、言語、宗教、ジェンダー、障害などの観点から試みる。		
到達目標	「異文化理解」の社会的な重要性を理解できるようになる。 「異文化」を理解する客観的な偏見なき立脚点を得る。 自分自身が所属する「文化」に対しても客観的な視点を持てるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：レヴィナス〈他者〉論の関連の文献を読んでおく 授業：紛争の実例から「異文化理解」を考える：「他者」とは誰なのか 復習：講義で言及した各地の紛争の原因を「異文化理解」の欠如の観点から纏める	
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：レヴィ＝ストロースの『悲しき熱帯』を読んでおく 授業：都市—未開文化論 復習：文化人類学からの「異文化理解」の考え方を纏める	
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：少数民族問題に関する文献を読んでおく 授業：民族と異文化(1)：少数民族（ヨーロッパを中心に） 復習：少数民族の問題について講義内容を踏まえて、自分で調べてみる	
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：ステイトレスネーションについて新聞、学術文献を調べる 授業：民族と異文化(2)ステイトレス・ネーション（スコットランド、ウェールズ、カタルーニャを中心に） 復習：ステイトレスネーションについて講義内容を踏まえて自分なりに他のケースを調べてみる	
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：多民族国家についてどのようなケースがあるのか調べておく 授業：民族と異文化(3)連邦国家の多文化性（スイス、ベルギー） 復習：授業を踏まえて、多民族国家の魅力と課題を自分自身で考える	
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：英国について多様性という観点から調べる 授業：民族と文化(4)多民族国家の多文化性（英国） 復習：授業を振り返り、英国の魅力と課題を自分自身で考える	
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：フランスについて多様性という観点から調べる 授業：民族と文化(5)多民族国家の多文化性（フランス） 復習：授業を踏まえて、フランスの魅力と課題を自分自身で考える	
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習：ドイツについて多様性という観点から調べる 授業：民族と文化(6)多民族国家の多文化性（ドイツ） 復習：授業を踏まえて、ドイツの魅力と課題を自分自身で考える	
9	安井 裕司	【第 9 回】 予習：英語を公用語とする国家を調べておく 授業：言語と「異文化理解」(1)：英語圏の多様性 復習：講義を踏まえて、3 つ以上の英語が公用語の国家について調べる	
10	安井 裕司	【第 10 回】 予習：海外における日本語について調べる 授業：言語と「異文化理解」(2)：日本語学習 復習：授業を踏まえて、海外で日本語が広がる際の課題を自分自身で考える	
11	安井 裕司	【第 11 回】 予習：各国で公用語以外のマイノリティの言語（公用語となっていないマイノリティの言語も含む）がどのように認識されているかを調べる	

		授業：言語と「異文化理解」(3)：公用語とマイノリティ言語の関係(例 ネパール) 復習：授業を踏まえて、公用語とマイノリティの言語の関係を自分自身で考える							
12	安井 裕司	【第12回】 予習：ジェンダーに関する学術文献、新聞記事を読む 授業：「異文化理解」としてのジェンダー(1)：「男性文化」「女性文化」の相対化 復習：授業を踏まえて、ジェンダーの視点から日本の現状を自分自身で考えてみる							
13	安井 裕司	【第13回】 予習：LGBT について新聞記事、学術書を調べる 授業：「異文化理解」としてのジェンダー(2)：LGBT 復習：授業を踏まえて、LGBT に関する自分の意見を纏める							
14	安井 裕司	【第14回】 予習：映画『コーダ あいのうた』(2021 年,米国)を観ておく 授業：障害者の文化芸術活動(1)：映画『コーダあいのうた』を手掛かりに米国の例を考える 復習：米国の障害者への諸政策を調べる							
15	安井 裕司	【第15回】 予習：NHK『バリバ』を見ておく 授業：障害者の文化芸術活動(2)：NHK『バリバ』から障害者のアイデンティティを考える 復習：授業を踏まえて、日本における障者者の現状を把握する							
授業開始前学習		シラバスに明記した学術文献を極力読んでおくようにする(映像作品の場合は見ておくようにする)							
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に前回の課題のフィードバックを行う							
テキスト・教材		なし							
参考書		毎回の講義で文献や関連書籍を紹介する							
評価の基準と方法		授業参加態度(30%) 定期試験(70%)							
ディプロマポリシー		世界の言語(英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目		比較文化、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

異文化理解Ⅱ

科目分類	113-331-12			授業コード	FC0580	
科目名称	異文化理解Ⅱ			単位数	2.0 単位	
英文名称	Intercultural UnderstandingⅡ			授業区分	講義	
科目責任者	安井 裕司			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	安井 裕司			開講時期	2 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10			研究室	16-306	
授業概要	階級、格差、民族、外国人労働者、移民、食などが形成する「異文化」を説明することで、「異文化理解」の把握に繋げる。多文化共生社会の重要性を映像資料から考える。					
到達目標	「異文化理解」の社会的な重要性を理解できるようなる。 「異文化」を理解する客観的な偏見なき立脚点を得る。 自分自身が所属する「文化」に対しても客観的な視点を持てるようになる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態		
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	安井 裕司	【第 1 回】 予習：小説や映画において英国の貴族文化がどのように描かれているかを読書・鑑賞することで調べる（例、ドラマ『ダウントン・アビー』、映画『 Gosford Park 』、小説『日の名残』） 授業：階級と異文化理解（1）：英国における貴族文化 復習：授業を踏まえて、英国の貴族文化を纏める				
2	安井 裕司	【第 2 回】 予習：小説や映画において英国の労働者階級がどのように描かれているかを読書・鑑賞することで調べる（例 ケン・ローチ監督の作品） 授業：階級と異文化理解（2）：英国における労働者階級 復習：英国の労働者階級のアイデンティティを纏める				
3	安井 裕司	【第 3 回】 予習：英国の貴族の没落とミドルクラスに関して、新聞や学術書を読んで調べる 授業：階級と異文化理解（2）：英国における貴族の没落とミドルクラスの台頭 復習：授業を踏まえて、ジェーン・オースティンの小説『高慢と偏見』を読み、映画『ブリジット・ジョーンズの日記』を鑑賞し、比較する				
4	安井 裕司	【第 4 回】 予習：グローバル化について調べてくる 授業：格差と異文化理解：グローバル化と格差社会 復習：格差社会がどのようなアイデンティティを形成していくかを纏める				
5	安井 裕司	【第 5 回】 予習：アイヌと沖縄の文化について調べてくる 授業：日本における文化的多様性(1)：アイヌ文化、沖縄文化 復習：授業を踏まえて、アイヌ文化、沖縄文化の多様性も留意して纏める				
6	安井 裕司	【第 6 回】 予習：在日韓国人、在日朝鮮人の文化について調べてくる 授業：日本における文化的多様性(2)：特別永住者（在日韓国人・在日朝鮮人） 復習：授業を踏まえて、日本の文化的多様性を確認する				
7	安井 裕司	【第 7 回】 予習：日本の留学生事情を調べてくる 授業：日本における文化的多様性(3)：留学生を考える（中国、ベトナム、ネパール） 復習：授業を踏まえて、日本の留学生事情を再確認する				
8	安井 裕司	【第 8 回】 予習：日本にいる外国人労働者の現状を新聞や学術文献で調べる 授業：日本における文化的多様性(4)：外国人労働者 復習：講義を踏まえて、身近に外国人労働者が存在するかを考える				
9	安井 裕司	【第 9 回】 予習：日本にある外国の食文化を調べる 授業：食からの「異文化理解」(1)：烏龍茶、インド料理「ナン」 復習：身近にある外国食の由来を調べてみる				
10	安井 裕司	【第 10 回】 予習：日本にある外国の食文化を調べる 授業：食からの「異文化理解」(2)：クリスマスのチキン食の規範化 復習：なぜ、日本人はクリスマスにチキンを食べるようになったのかを再考察してみる				

11	安井 裕司	【第 11 回】 予習：英国のシーク教徒について考える 授業：移民のマージナル文化の理解(1)：英国の移民映画からの考察（『ベッカムに恋して』等に見る英国シーク教徒のアイデンティティ） 復習：映画『ベッカムに恋して』を鑑賞し、他の移民映画も観てみる							
12	安井 裕司	【第 12 回】 予習：英国のイスラム教徒について新聞や学術文献を調べてくる 授業：移民のマージナル文化の理解(2)：英国の移民映画からの考察（『カセットテープ・ダイアリーズ』等に見る英国イスラム教徒のアイデンティティ） 復習：映画『カセットテープ・ダイアリーズ』を鑑賞し、他の移民映画も観てみる							
13	安井 裕司	【第 13 回】 予習：マレーシアの多民族社会について調べてくる 授業：多文化共生社会の構築(1)：映画『タレントタイム』等からマレーシアの例を考える 復習：映画『タレントタイム』を観る							
14	安井 裕司	【第 14 回】 予習：イスラエル・パレスチナ問題を新聞や学術文献で調べてくる 授業：多文化共生社会の構築(2)：映画『クレシェンド』等からイスラエル・パレスチナの例を考える 復習：映画『クレシェンド』を鑑賞する							
15	安井 裕司	【第 15 回】 予習：米国の黒人問題について新聞や学術文献で調べてくる 授業：多文化共生社会の構築(3)：映画『グリーンブック』等から米国の例を考える 復習：映画『グリーンブック』を観る。定期試験に備える							
授業開始前学習		「異文化理解」に関連するニュースや小説を読み、関連映画を観るように心がける							
授業内課題のフィードバックの方法		講義中、フィードバックをする時間を設ける							
テキスト・教材		なし							
参考書		講義内に参考文献や関連の映像資料などを紹介							
評価の基準と方法		授業態度、積極性（30 %） 定期試験（70%）							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目		比較文化、日本事情Ⅲ、日本事情Ⅳ、異文化理解Ⅰ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-11 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0590
科目名称	☆時事英語 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Current English I	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	経済・社会・科学技術・文化・環境・教育・健康といった幅広い分野の英文記事を読み、生きた英語を学ぶ。英文記事を読む行為を通じて、国内外の出来事に対する知見を広げる。記事の内容について、ディスカッションを行い、発信型の英語表現修得をはかる。		
到達目標	英文記事を通じて国内外の出来事について知る。時事問題について英語で議論できるようになる。TOEIC スコア 450-550 点程度をとれるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	川畑 秀樹	【第 1 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 1 Reading p14-15) 授業 : Orientation (Aims and content of the course) & Chapter1 Hug a Seal, Being to Heal (p11-16) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
2	川畑 秀樹	【第 2 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 2 Reading p20-21) 授業 : Chapter 2 Inheriting Traditional Sounds (p17-22) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
3	川畑 秀樹	【第 3 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 3 Reading p26-27) 授業 : Chapter 3 Used Home Appliance Gaining Popularity (p23-28) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
4	川畑 秀樹	【第 4 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 4 Reading p32-33) 授業 : Chapter 4 The Ideal Solid Fuel (p29-34) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
5	川畑 秀樹	【第 5 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 5 Reading p38-39) 授業 : Chapter 5 Dress Codes to Promote Gender Equality (p35-40) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
6	川畑 秀樹	【第 6 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 6 Reading p44-45) 授業 : Chapter 6 Do you Dare Take the "Train to Apocalypse"? (p41-46) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
7	川畑 秀樹	【第 7 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 7 Reading p50-51) 授業 : Chapter 7 Island Doctor Saves the Day (p47-52) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
8	川畑 秀樹	【第 8 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 8 Reading p56-57) 授業 : Chapter 8 Changing Flavor with Magic (p53-58) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
9	川畑 秀樹	【第 9 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 9 Reading p62-63) 授業 : Chapter 9 Rethinking Our Relationship with Animals in Captivity (p59-64) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
10	川畑 秀樹	【第 10 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 10 Reading p68-69) 授業 : Chapter 10 Movie House Turned Club House (p65-70) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
11	川畑 秀樹	【第 11 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 11 Reading p74-75) 授業 : Chapter 11 Rice Is Out, Vegetables Are In (p71-76) (ディスカッション)	

		復習 : Read over the material covered in class							
12	川畑 秀樹	【第 12 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 12 Reading p80-81) 授業 : Chapter 12 Finding a Home Away from Home (p77-82) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
13	川畑 秀樹	【第 13 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 13 Reading p86-87) 授業 : Chapter 13 Lessons Learned from a Chatbot (p83-88) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
14	川畑 秀樹	【第 14 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (Chapter 14 Reading p92-93) 授業 : Chapter 14 Food Opens a Gateway to Cultural Diversity (p89-94) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
15	川畑 秀樹	【第 15 回】 予習 : Preparation for the final test 授業 : The Final Test 復習 : Read over the material covered in class							
授業開始前学習		インターネットや新聞などで英文記事に触れておくとい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内の小テストについては全体の講評および個別の質問回答をおこなう。また、授業内でのディスカッションについても口頭でコメントを与える。							
テキスト・教材		村尾純子・深山晶子・辻本智子・横山香奈・Christopher Cladis 編著「Insights 2024」(金星堂) 2024 年							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験 : 60% 小テスト : 40%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			△	○			
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-11 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0600
科目名称	☆時事英語Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Current English Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	アメリカや世界各国の時事問題を扱ったニュース番組を題材に、映像・音声・英文を通じて、生きた英語を学ぶ。国内外の出来事に対する知見を広げるとともに、その出来事についてディスカッションを行い、発信型の英語表現を身につける。		
到達目標	英語による報道を通じて国内外の出来事について知る。時事問題について英語で議論できるようになる。TOEIC スコア 500-600 点程度をとれるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	川畑 秀樹	【第 1 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 1 The Gist & Warm-up Exercises p8) 授業 : Orientation (aims and content of the course) & News Story 1 Honoring Earth Day (p8-12) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
2	川畑 秀樹	【第 2 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 2 The Gist & Warm-up Exercises p13) 授業 : News Story 2 Student Loan Showdown (p13-18) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
3	川畑 秀樹	【第 3 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 3 The Gist & Warm-up Exercises p20) 授業 : News Story 3 Celebrating as American Citizens (p20-24) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
4	川畑 秀樹	【第 4 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 4 The Gist & Warm-up Exercises p26) 授業 : News Story 4 New Zealand Warning on Climate (p26-31) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
5	川畑 秀樹	【第 5 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 5 The Gist & Warm-up Exercises p32) 授業 : News Story 5 Students Help 80-Year-Old Janitor (p32-36) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
6	川畑 秀樹	【第 6 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 6 The Gist & Warm-up Exercises p37) 授業 : News Story 6 Biden Signs Marriage Law (p37-42) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
7	川畑 秀樹	【第 7 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 7 The Gist & Warm-up Exercises p43) 授業 : News Story 7 David's Toy Project (p43-47) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
8	川畑 秀樹	【第 8 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 8 The Gist & Warm-up Exercises p48) 授業 : News Story 8 Safe Drinking Water (p48-54) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class	
9	川畑 秀樹	【第 9 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News Story 9 The Gist & Warm-up Exercises p56) 授業 : News Story 9 Students Create Prosthesis for Dog (p56-61) (ディスカッション)	

		復習 : Read over the material covered in class							
10	川畑 秀樹	【第 10 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook (News story10 The Gist & Warm-up Exercises p62) 授業 : News Story 10 Inside ChatGPT Technology (p62-69) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
11	川畑 秀樹	【第 11 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story11 The Gist & Warm-up Exercises p71) 授業 : News Story 11 Sister Jean, the Beloved Chaplain (p71-75) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
12	川畑 秀樹	【第 12 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story12 The Gist & Warm-up Exercises p76) 授業 : News Story 12 Paralyzed Man Walks Again (p76-81) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
13	川畑 秀樹	【第 13 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story13 The Gist & Warm-up Exercises p83) 授業 : News Story 13 Drilling Project in Alaska (p83-88) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
14	川畑 秀樹	【第 14 回】 予習 : Consult the appropriate sections of the textbook(News Story14 The Gist & Warm-up Exercises p89) 授業 : News Story 14 Fury in France (p89-94) (ディスカッション) 復習 : Read over the material covered in class							
15	川畑 秀樹	【第 15 回】 予習 : Preparation for the final test 授業 : The Final Test 復習 : Read over the material covered in class							
授業開始前学習		インターネットやテレビ、新聞などで英語による報道に触れておくといよい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内の小テストについては全体の講評および個別の質問回答をおこなう。また、授業内でのディスカッションについても口頭でコメントを与える。							
テキスト・教材		山根繁・Kathleen Yamane 編著「ABC NEWSROOM 2」(金星堂) 2024 年							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験：60% 小テスト：40%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎			△	○			
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0610
科目名称	英語音声学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	English Phonetics I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の子音について学習する。		
到達目標	英語の個々の子音について、発音の方法などを習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する 授業：（１）授業内容の説明 （２）Lesson 1: World Englishes（教科書 p. 2-p. 5） （３）Lesson 2: Speech Organs（教科書 p. 6-p. 7） （４）Lesson 3: Speech Sounds（教科書 p. 8-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 に掲載されている用語の再確認	
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 p. 18-p. 19 までを自習 授業：Lesson 7: [p]-[b]（教科書 p. 18-p. 19）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 19 に掲載されている語句の発音について復習	
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 20-p. 21 までを自習 授業：Lesson 8: [t]-[d]（教科書 p. 20-p. 21）（実習） 復習：教科書 p. 20-p. 21 に掲載されている語句の発音について復習	
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 22-p. 23 までを自習 授業：Lesson 9: [k]など（教科書 p. 22-p. 23）（実習） 復習：教科書 p. 22-p. 23 に掲載されている語句の発音について復習	
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 24-p. 25 までを自習 授業：Lesson 10: [f]-[v]（教科書 p. 24-p. 25）（実習） 復習：教科書 p. 24-p. 25 に掲載されている語句の発音について復習	
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 26-p. 27 までを自習 授業：Lesson 11: th などの音（教科書 p. 26-p. 27）（実習） 復習：教科書 p. 26-p. 27 に掲載されている語句の発音について復習	
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 28-p. 29 までを自習 授業：Lesson 12: [s]-[z]（教科書 p. 28-p. 29）（実習） 復習：教科書 p. 28-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習	
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 p. 30-p. 31 までを自習 授業：Lesson 13: sh などの音（教科書 p. 30-p. 31）（実習） 復習：教科書 p. 30-p. 31 に掲載されている語句の発音について復習	
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 32-p. 33 までを自習 授業：Lesson 14: ch などの音（教科書 p. 32-p. 33）（実習） 復習：教科書 p. 32-p. 33 に掲載されている語句の発音について復習	
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 34-p. 35 までを自習 授業：Lesson 15: [m]-[n]などの音（教科書 p. 34-p. 35）（実習） 復習：教科書 p. 34-p. 35 に掲載されている語句の発音について復習	

11	神谷 昇	【第11回】 予習：教科書 p. 36-p. 37 までを自習 授業：Lesson 16: [r]-[l]（教科書 p. 36-p. 37）（実習） 復習：教科書 p. 36-p. 37 に掲載されている語句の発音について復習							
12	神谷 昇	【第12回】 予習：教科書 p. 38-p. 42 までを自習 授業：（1）Lesson 17: [h]（教科書 p. 38-p. 39）（実習） （2）Lesson 18: [j]-[w]-[hw]（教科書 p. 40-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 38-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習							
13	神谷 昇	【第13回】 予習：教科書 p. 18-p. 29 までを再講読 授業：Lesson 7 - Lesson 12 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 29）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 29 に掲載されている語句の発音について復習							
14	神谷 昇	【第14回】 予習：教科書 p. 30-p. 42 までを再講読 授業：Lesson 13 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 30-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 30-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習							
15	神谷 昇	【第15回】 予習：教科書 p. 18-p. 42 までを再講読 授業：Lesson 7 - Lesson 18 の復習と発音の再確認（教科書 p. 18-p. 42）（実習） 復習：教科書 p. 18-p. 42 に掲載されている語句の発音について復習							
授業開始前学習		音声学の概論知識を学習しておく授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。							
テキスト・教材		津田塾大学英語英文学科（編）『アメリカ英語の発音教本（四訂版）』（研究社） ISBN 978-4-327-40176-4							
参考書		有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導―基礎知識からわかりやすい指導法・使いやす 矯正方法まで―』（三修社） ISBN: 978-4-384-05952-6							
評価の基準と方法		授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題（40％）、授業中の演習（30％）、授業態度（30％）である。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目		英語学概論Ⅰ（英語学概論Ⅰの第9回と第10回で本授業に関連する基本的な内容を扱う）							
その他		英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0620
科目名称	英語音声学Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	English Phonetics Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	英語で使用される様々な音について、発音方法などについて学習しながら、個々の音に対する理解を深める。その上で、単語や文章を用いて発音練習を行い、実際に個々の音が正しく発音できるようになることを目指す。この授業では、主に英語の母音、ストレス、リズム、イントネーションについて学習する。		
到達目標	英語の個々の母音などについて、発音の方法を習得し、実際に単語や文を正しい発音で読むことができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：オンライン上のシラバスを読んで、授業の概要と流れを理解する。また、教科書 p. 2- p. 9 を読み、内容を理解する。 授業：（１）授業内容の説明 （２）前期の復習：世界の英語、発音方法について（教科書 p. 2-p. 9） 復習：教科書 p. 2-p. 9 の内容、および、授業で配布した資料の内容について再確認	
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 p. 44-p. 45 までを自習 授業：Lesson 19: 前舌高母音について（教科書 p. 44-p. 45）（実習） 復習：教科書 p. 44-p. 45 に掲載されている語句について発音練習	
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 p. 46-p. 47 までを自習 授業：Lesson 20: 後舌高母音など（教科書 p. 46-p. 47）（実習） 復習：教科書 p. 46-p. 47 に掲載されている語句について発音練習	
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 48-p. 49 までを自習 授業：Lesson 21: 前舌母音などについて（教科書 p. 48-p. 49）（実習） 復習：教科書 p. 48-p. 49 に掲載されている語句について発音練習	
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 p. 50-p. 51 までを自習 授業：Lesson 22: [ou] など（教科書 p. 50-p. 51）（実習） 復習：教科書 p. 50-p. 51 に掲載されている語句について発音練習	
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 p. 52-p. 53 までを自習 授業：Lesson 23: 後舌低母音など（教科書 p. 52-p. 53）（実習） 復習：教科書 p. 52-p. 53 に掲載されている語句について発音練習	
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 p. 54-p. 55 までを自習 授業：Lesson 24: 二重母音について（教科書 p. 54-p. 55）（実習） 復習：教科書 p. 54-p. 55 に掲載されている語句について発音練習	
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 p. 56-p. 57 までを自習 授業：Lesson 25: あいまい母音を含む音について（１）（教科書 p. 56-p. 57）（実習） 復習：教科書 p. 56-p. 57 に掲載されている語句について発音練習	
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 p. 58-p. 59 を自習 授業：Lesson 26: あいまい母音を含む音について（２）（教科書 p. 58-p. 59）（実習） 復習：教科書 p. 58-p. 59 に掲載されている語句について発音練習	
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 p. 10-p. 11 までを自習 授業：Lesson 4: Word Stress（教科書 p. 10-p. 11）（実習） 復習：教科書 p. 10-p. 11 に掲載されている語句の発音について復習	
11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 p. 12-p. 13 までを自習 授業：Lesson 5: Sentence Rhythm（教科書 p. 12-p. 13）（実習）	

		復習：教科書 p. 12-p. 13 に掲載されている語句の発音について復習							
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 p. 14-p. 16 までを自習 授業：Lesson 6: Intonation（教科書 p. 14-p. 16）（実習） 復習：教科書 p. 14-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習							
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 p. 44-p. 51 までを再講読 授業：Lesson 19 - Lesson 22 の復習と発音の再確認（教科書 p. 44-p. 51）（実習） 復習：教科書 p. 44-p. 51 に掲載されている語句の発音について復習							
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 p. 52-p. 59 までを再講読 授業：Lesson 23 - Lesson 26 の復習と発音の再確認（教科書 p. 52-p. 59）（実習） 復習：教科書 p. 52-p. 59 に掲載されている語句の発音について復習							
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 p. 10-p. 16 までを再講読 授業：Lesson 4 - Lesson 6 の復習と発音の再確認（教科書 p. 10-p. 16）（実習） 復習：教科書 p. 10-p. 16 に掲載されている語句の発音について復習							
授業開始前学習		音声学の概論知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題については、毎回の授業の際に確認と解説を行う。							
テキスト・教材		津田塾大学英語英文学科（編）『アメリカ英語の発音教本（四訂版）』（研究社） ISBN 978-4-327-40176-4							
参考書		有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のりこ・山本誠子『英語発音の指導―基礎知識からわかりやすい指導法・使いやす 矯正方法まで―』（三修社） ISBN: 978-4-384-05952-6							
評価の基準と方法		授業中の演習、期末レポートなど、総合的に行う。内訳は、期末課題（40％）、授業中の演習（30％）、授業態度（30％）である。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎				○			△
関連科目		英語学概論Ⅰ（英語学概論Ⅰの第 9 回と第 10 回で本授業に関連する基本的な内容を扱う）							
その他		英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-11 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0630
科目名称	☆映画の英語 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Movie English I	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	1 5 回の授業を通じて、2 本の映画を読み解き、鑑賞します。取り上げる作品は、古典的な名作であり、作品の本質に迫るとともに、これを言語材料に、実践的な英語学習を行っていきます。そのために、①台詞を英語原文で読み解き、聞き取る作業、②映画内の場面に合わせて、俳優と一緒に声に出して英語を語ってみる作業、③配役を決めて、実際に英語で演じてみる作業、などを行います。また、作品の理解のために、背景知識なども、学んでいきたいと考えています。必要に応じて、作品解釈のためのディスカッションも行います。		
到達目標	◆実際に話されている台詞(英語原文)を的確に理解するとともに、人物の心情を理解する。 →英語原文を理解する正確な読解力と、ニュアンスを把握理解する力を身につける。 ◆英語で書かれた台詞を、実際の洋画で話されるスピードとイントネーションで表現できるようになる。 →リアルな英語感覚を身につけることができる。 ◆文法の復習を行いつつ、洋画で用いられる多彩な語彙を学ぶ。 →英語力の根幹を支える文法と単語を強化できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	川畑 秀樹	【第 1 回】 予習 シラバスを読んでくる。 授業 題材として取り上げる、いわゆる「アメリカの良心」を描いた映画の概要説明、および、アメリカの司法制度の説明を行う。 全編を第 1 回と第 2 回にわたって鑑賞するが、適宜説明を行う。第 1 回の鑑賞は日本語字幕で行う。 復習 授業形式の確認	
2	川畑 秀樹	【第 2 回】 予習 第 1 回に配布したスクリプト（以下第 1 スクリプト）の下読み。 授業 残りの部分の上映。スクリプトの内容理解。 復習 第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。	
3	川畑 秀樹	【第 3 回】 予習 第 1 スクリプトの詳細な理解。 授業 第 1 スクリプト部分の上映と内容理解、そのためのディスカッション。 復習 各登場人物像の把握。	
4	川畑 秀樹	【第 4 回】 予習 第 2 スクリプトの下読み。 授業 第 2 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 2 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。	
5	川畑 秀樹	【第 5 回】 予習 第 3 スクリプトの下読み。 授業 第 3 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 3 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。	
6	川畑 秀樹	【第 6 回】 予習 第 4 スクリプトの下読み 授業 第 4 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 4 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。	
7	川畑 秀樹	【第 7 回】 予習 第 5 スクリプトの下読み 授業 第 5 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 5 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。	
8	川畑 秀樹	【第 8 回】 予習 全 5 回のスクリプトを読み直してくる。 授業 全体の上映（英語字幕）。次回の発表・パフォーマンスの手順説明。 復習 第 1 作品のレポート・感想作成。	
9	川畑 秀樹	【第 9 回】 予習 自分のパートの練習 授業 学生をグループ分けして、スクリプトの中で最も気に入った場面を演技する。 復習 引き続き第 1 作品のレポート・感想作成。	

10	川畑 秀樹	【第 10 回】 予習 第 9 回に配布された資料を読んでくる。 授業 第 2 作品として取り上げる名作恋愛映画の概要説明、全編を第 10 回と第 11 回にわたって上映するが、時々説明を入れながら行う。 第 1 回上映は日本語字幕で上映する。 復習 授業形式の確認。						
11	川畑 秀樹	【第 11 回】 予習 前回到配布した第 1 スクリプトの下読み。 授業 残りの部分の上映。第 1 スクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。						
12	川畑 秀樹	【第 12 回】 予習 第 2 スクリプトの下読み。 授業 第 2 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 2 回スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。						
13	川畑 秀樹	【第 13 回】 予習 第 3 スクリプトの下読み。 授業 第 3 スクリプト部分の上映とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 3 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。						
14	川畑 秀樹	【第 14 回】 予習 全 3 回のスクリプトを読み直してくる。 授業 全体の上映（英語字幕）。最終回に実施するテストの説明。 復習 第 2 作品のレポート・感想作成。						
15	川畑 秀樹	【第 15 回】 予習 レポートを含めたテストのための準備。 授業 レポートを含めたテストを行う。 復習 特になし。						
授業開始前学習		映画は、様々なことを教えてください。特に、ヨーロッパ言語の外国映画を見ることで、我々日本人は「西洋」を学んできました。名作と呼ばれるものを、数多く見ておいてください。						
授業内課題のフィードバックの方法		◆音読やシャドウイング活動に伴い、英語らしいリズムやイントネーションのアドバイスをを行う。 また、レポート等については、各学生の解釈の妥当性について、丁寧なアドバイスをを行う。						
テキスト・教材		◆授業内で理解のための注釈を付けたスクリプトをプリントして配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		◆授業内の活動（音読、シャドウイング、映像・内容についての意見交換、その他）：20% ◆小テスト（台詞のディクテーション、暗唱、その他）：30% ◆レポート（映画に対する感想）を含めた試験：50%						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△						◎	○
関連科目								
その他	必ず初回の授業に出席をすること。初回の授業には今後の進行や資料についての重要な話を行うオリエンテーションの役割があるからです。映画を使用して英語学習を行う一方、映画を積極的に分析し、内容を楽しむ必要があります。したがって受講生は、毎回の英語の予習・小テストの準備に加え、映画が表現する事柄と向き合い、クラスメートや講師と話し合う意欲が求められます。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-330-11 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0640
科目名称	☆映画の英語Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Movie English II	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	15 回の授業を通じて、2 本の映画を読み解き、鑑賞します。取り上げる作品は、近年の名作であり、作品の本質に迫るとともに、これを言語材料に、実践的な英語学習を行っていきます。そのために、①台詞を英語原文で読み解き、聞き取る作業、②映画内の場面に合わせて、俳優・キャラクターと一緒に声に出して英語を語ってみる作業、③台詞の裏にある心情など自分なりにくみとる作業などを行います。また、作品理解のために、背景知識なども学びます。必要に応じて、作品解釈のためのディスカッションも行います。		
到達目標	◆実際に話されている台詞(英語原文)を的確に理解するとともに、人物の心情を理解する。 →英語原文を理解する正確な読解力と、ニュアンスを把握理解する力を身につける。 ◆英語で書かれた台詞を、実際の洋画で話されるスピードとイントネーションで表現できるようになる。 →リアルな英語感覚を身につけることができる。 ◆文法の復習を行いつつ、洋画で用いられる多彩な語彙を学ぶ。 →英語力の根幹を支える文法と単語を強化できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	川畑 秀樹	【第 1 回】 予習 シラバスを読んでくる。 授業 題材として取り上げる、過酷な状態にあっても失われない希望とヒューマニズムを描いた作品の概要説明、およびアメリカの社会・制度の説明。 全編を第 1 回と第 2 回にわたって鑑賞するが、時々説明を入れながら行う。第 1 回は日本語字幕で鑑賞する。 復習 授業形式の確認	
2	川畑 秀樹	【第 2 回】 予習 第 1 回に配布したスクリプト（以下第 1 スクリプト）の下読み。 授業 残りの部分の鑑賞。スクリプトの内容理解。 復習 第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。	
3	川畑 秀樹	【第 3 回】 予習 第 1 スクリプトの詳細な理解。 授業 第 1 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。 復習 各登場人物像の把握。	
4	川畑 秀樹	【第 4 回】 予習 第 2 スクリプトの下読み。 授業 第 2 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所をスピーキング。 復習 第 2 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。	
5	川畑 秀樹	【第 5 回】 予習 第 3 スクリプトの下読み。 授業 第 3 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所スピーキング。 復習 第 3 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。	
6	川畑 秀樹	【第 6 回】 予習 第 4 スクリプトの下読み 授業 第 4 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所スピーキング。 復習 第 4 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。	
7	川畑 秀樹	【第 7 回】 予習 第 5 スクリプトの下読み 授業 第 5 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所スピーキング。 復習 第 5 スクリプトの英語の重要構文・項目の確認。	
8	川畑 秀樹	【第 8 回】 予習 全 5 回のスクリプトを読み直してくる。 授業 全体の鑑賞（英語字幕）。次回のレポート作成のための必要箇所の説明指導。 復習 本作品のレポート・感想作成。	
9	川畑 秀樹	【第 9 回】 予習 スクリプト全体を読み返す。 授業 指示に従い、映画の重要箇所を中心にレポートを作成する。 復習 引き続き本作品 のレポート・感想作成。	

10	川畑 秀樹	【第 10 回】 予習 第 9 回に配布された資料を読んでくる。 授業 題材として取り上げる、映画の概要説明、および時代背景の説明。全編を第 10 回と第 11 回にわたって上映するが、時々説明を入れながら行う。 第 1 回上映は日本語字幕で鑑賞する。 復習 授業形式の確認。							
11	川畑 秀樹	【第 11 回】 予習 前回到配布した第 1 スクリプトの下読み。 授業 残りの部分の上映。第 1 スクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 1 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。							
12	川畑 秀樹	【第 12 回】 予習 第 2 スクリプトの下読み。 授業 第 2 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 2 回スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。							
13	川畑 秀樹	【第 13 回】 予習 第 3 スクリプトの下読み。 授業 第 3 スクリプト部分の鑑賞とスクリプトの内容理解、そのためのディスカッション。該当箇所のシャドウイング。 復習 第 3 スクリプトにある英語の重要構文・項目等の確認。							
14	川畑 秀樹	【第 14 回】 予習 全 3 回のスクリプトを読み直してくる。 授業 全体の鑑賞。次回のレポート・試験準備のための説明指導。 復習 レポート・試験準備。							
15	川畑 秀樹	【第 15 回】 予習 レポート・試験準備 授業 最終試験 復習 特になし							
授業開始前学習		映画は、様々なことを教えてください。特に、ヨーロッパ言語の外国映画を見ることで、我々日本人は「西洋」を学んできました。名作と呼ばれるものを、数多く見ておいてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		◆音読やシャドウイング活動に伴い、英語らしいリズムやイントネーションのアドバイスをを行う。 また、レポート等については、各学生の解釈の妥当性について、丁寧なアドバイスをを行う。							
テキスト・教材		◆授業内で理解のための注釈を付けたスクリプトを配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		◆授業内の活動（音読、シャドウイング、映像・内容についての意見交換、その他）：20% ◆小テスト（台詞のディクテーション、暗唱、その他）：30% ◆レポート（映画に対する感想）を含めた試験：50%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△						◎	○
関連科目									
その他		必ず初回の授業に出席をすること。初回の授業には今後の進行や資料についての重要な話を行うオリエンテーションの役割があるからです。映画を使用して英語学習を行う一方、映画を積極的に分析し、内容を楽しむ必要があります。したがって受講生は、毎回の英語の予習・小テストの準備に加え、映画が表現する事柄と向き合い、クラスメートや講師と話し合う意欲が求められます。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0650
科目名称	ことばの世界 I	単位数	2.0 単位
英文名称	World of Language I	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	この授業では、英語という個別言語に焦点を当て、英文法を根本から見直し、英語母語話者がどのように英語を運用しているのかを知ることで、文法的に正しい英語を自らアウトプットできるようになることを目的とする。英語を正しく運用できるようになるためには、英語がどのような原理原則に従っているのかを知ることが必須である。この授業では、個々の文法項目に根付いた感覚、その文法を使用することで伝わる意味・意図、そして相手はその表現をどのように受け止めるかといったことを中心に考える。		
到達目標	・文法的に正しい英語を自らアウトプットできるようになる。 ・英語母語話者の言語感覚を理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：Chapter 0：英文法の歩き方を読んでくる。本授業の趣旨を確認する。 授業：オリエンテーション、担当決め 復習：授業の方針について確認する。	
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 1：主語・動詞・基本文型① 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 1：主語・動詞・基本文型② 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 2：名詞① 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 2：名詞② 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 2：名詞③ 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 3：形容詞 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：第 7 回までの内容をよく理解する。 授業：前期前半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。	
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 4：副詞 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 5：比較 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 6：否定	

		復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 7：助動詞 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 8：前置詞 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 9：WH 修飾 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：第 14 回までの内容をよく理解する。 授業：前期後半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。							
授業開始前学習		毎時、教科書に沿って演習を行うので該当箇所を必ず読んで理解し、疑問点をまとめておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材		大西泰斗・ポール・マクベ『一億人の英文法』（東進ブックス）2011 年（ISBN: 978-4-89085-527-8）							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		プレゼンテーション：40%、定期試験：60%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	○	◎			
関連科目									
その他		Chapter 0 は、この授業のコンセプトを理解するうえで重要な章なので熟読すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0660
科目名称	ことばの世界Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	World of Language Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「ことばの世界Ⅰ」に引き続き、この授業では従来の学校英文法を再検討し、文法的に正しいアウトプットとは何かについて考える。英語母語話者が、言語としての英語をどのように認識しているかといった観点に着目しながら英語を学ぶことで、より深い英語力が身につく。この授業では、上記のような観点に基づいて英文法を今一度学び直し、深いレベルで英語を理解することを目指す。		
到達目標	・文法的に複雑な英文でも正しくアウトプットできるようになる。 ・英語母語話者の言語感覚を深く理解できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：Chapter 0：英文法の歩き方を読んでくる。本授業の趣旨を確認する。 授業：オリエンテーション、担当決め 復習：授業の方針について確認する。	
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 10：動詞 -ing 形 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 11：TO 不定詞 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 12：過去分詞形 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する	
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 13：節 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 14：疑問文① 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 14：疑問文② 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：第 7 回までの内容をよく理解する。 授業：後期前半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。	
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 15：さまざまな配置転換 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 16：時表現① 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。	
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 16：時表現②	

		復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 16：時表現③ 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 17：接続詞 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：テキストの該当箇所を熟読し、内容を理解する。 授業：Chapter 18：流れを整える 復習：学習した文法について復習し、積極的に使用する。							
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：第 14 回までの内容をよく理解する。 授業：後期後半のまとめ 復習：理解不足の点を洗い出し、補完する。							
授業開始前学習		毎時、教科書に沿って演習を行うので該当箇所を必ず読んで理解し、疑問点をまとめておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材		大西泰斗・ポール・マクベ『一億人の英文法』（東進ブックス）2011 年（ISBN: 978-4-89085-527-8）							
参考書		授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		プレゼンテーション：40%、定期試験：60%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	○	◎			
関連科目									
その他		Chapter 0 は、この授業のコンセプトを理解するうえで重要な章なので熟読すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0670
科目名称	英語圏文化 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Culture of English Speaking Countries I	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	英語圏の文化、主にイギリスについて講義します。現在、英語が世界の共通語の一つとして扱われるきっかけとなったのはイギリスです。そのイギリスを取り巻くあらゆることについて学んでいくことで、現在のイギリスのあり様が見えてくる、そして世界の中のイギリスの立ち位置を知ることができます。		
到達目標	・イギリスについての文化事象やそれを取り巻く環境について理解できるようになる ・理解した情報を元にグローバルな視点を持つことができるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスに目を通してくること 授業 : オリエンテーション・西欧を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習 : 授業目的の確認	
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスとは何か 復習 : 課題・授業内容の確認	
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : 英語と英語圏について 復習 : 課題・授業内容の確認	
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの地理と自然環境 復習 : 課題・授業内容の確認	
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの歴史① 復習 : 課題・授業内容の確認	
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの歴史② 復習 : 課題・授業内容の確認	
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの宗教と生活 復習 : 課題・授業内容の確認	
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの音楽 復習 : 課題・授業内容の確認	
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの美術 復習 : 課題・授業内容の確認	
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの映像文化とメディア 復習 : 課題・授業内容の確認	
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスのスポーツ身体文化、教育と社会階層 復習 : 課題・授業内容の確認	

12	松山 響子	【第 12 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリスの王室と政治 復習 : 課題・授業内容の確認							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : 世界のなかのイギリス 復習 : 課題・授業内容の確認							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリス文化関連映像資料鑑賞① 復習 : 課題・授業内容の確認							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : イギリス文化関連映像資料鑑賞② 復習 : 課題・授業内容の確認							
授業開始前学習		事前に自習で学修する内容を簡単に説明するので、それらの事項について各自で簡単にネットや SNS、図書資料等に目を通す							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容についての簡単なまとめを毎回授業終了時に提出をする。授業に関しての質問を毎回受け付ける。質問に関しては次の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材		特に指定せずに配布資料、プリント等を使用する							
参考書		指昭博(編著)『初めて学ぶ イギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2012 年 下楠昌哉(編集)『イギリス文化入門』三修社、2010 年 武藤浩史、川端康雄、遠藤不比人、大田信良、木下誠 (編)『愛と戦いのイギリス文化史 1900 年ー1950 年』慶應義塾大学出版会、2007 年 川端康雄、大貫隆史、河野真太郎、佐藤元状、秦邦生 (編)『愛と戦いのイギリス文化史 1951 年ー2010 年』慶應義塾大学出版会、2011 年 板倉徹一郎、スーザン・K.バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社、2008 年							
評価の基準と方法		期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート : 60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△	○			
関連科目		イギリス文学Ⅰ イギリス文学Ⅱ 英語コミュニケーション専攻研究 A							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0680
科目名称	英語圏文化Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Culture of English Speaking Countries Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	英語圏の文化、主にアメリカについて講義します。アメリカを取り巻くあらゆることについて学んでいくことで、現在のアメリカのあり様が見えてくる、そして世界の中のアメリカの立ち位置を知ることができます。		
到達目標	・アメリカについての文化事象やそれを取り巻く環境について理解できるようになる ・理解した情報を元にグローバルな視点を持つことができるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスに目を通して頂くこと 授業 : オリエンテーション・欧米を学ぶ前に知っておくべき基礎知識 復習 : 授業目的の確認	
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカとは何か 復習 : 課題・授業内容の確認	
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの地理と自然環境 復習 : 課題・授業内容の確認	
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの歴史① 復習 : 課題・授業内容の確認	
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの歴史② 復習 : 課題・授業内容の確認	
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの宗教と生活 復習 : 課題・授業内容の確認	
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの美術 復習 : 課題・授業内容の確認	
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの音楽 復習 : 課題・授業内容の確認	
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの映像文化とメディア 復習 : 課題・授業内容の確認	
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカのスポーツ身体文化 復習 : 課題・授業内容の確認	
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : 事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業 : アメリカの大統領と政治経済 復習 : 課題・授業内容の確認	

12	松山 響子	【第 12 回】 予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業：アメリカとジェンダー 復習：課題・授業内容の確認							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業：世界のなかのアメリカ 復習：課題・授業内容の確認							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業：アメリカ文化関連映像資料鑑賞① 復習：課題・授業内容の確認							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習：事前に指定された事項を各自で調べてくる 授業：アメリカ文化関連映像資料鑑賞② 復習：課題・授業内容の確認							
授業開始前学習		事前に自習で学修する内容を簡単に説明するので、それらの事項について各自で簡単にネットや SNS、図書資料等に目を通す							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内容についての簡単なまとめを毎回授業終了時に提出をする。授業に關しての質問を毎回受け付ける。質問に關しては次の授業で無記名で回答を行う。							
テキスト・教材		特に指定せずに配布資料、プリント等を使用する							
参考書		遠藤泰生、小田悠生『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023 年 杉野健太郎(責任編集)『アメリカ文化入門』三修社、2010 年 奥村みさ、スーザン・K. バートン、板倉巖一郎『映画でわかるアメリカ文化入門』松柏社、2007 年							
評価の基準と方法		期末レポート、授業内で行う課題、授業参加態度で評価します。 期末レポート：60% 授業内課題・授業参加:40% 出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位を認定することができません。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△	○			
関連科目		英語圏文化Ⅰ アメリカ文学Ⅰ アメリカ文学Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0690
科目名称	国際法 I	単位数	2.0 単位
英文名称	International Law I	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	国際法とは、主に国家と国家を結びつける法規則をまとめた呼び方です。それらは、条約と慣習国際法から成ります。変化し続ける国際社会の歴史の中で、様々な要因が国境を越えた法として形成されてきました。この講座は、現代の国際社会を国際法という枠組を通して構造的に把握することを主な目的とします。特に前期においては、近代以降の市民社会の変遷を踏まえながら、基礎知識の習得と問題分析の方法を学びます。この講座をひとつの手がかりとして、未解決の社会問題をより客観的に捉えていく手がかりが伝えられれば幸いです。		
到達目標	国際社会における客観的な判断基準としての「国際法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本科目シラバスおよびテキスト 1 頁の講読 授業 : 「国際法 I」とは : この授業の目的・内容・学習方法について【シラバス、テキスト 1 頁】 復習 : テキスト 1 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : テキスト 2-7 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際社会の変遷と国際法 : 国際社会と法構造の特徴 【テキスト 2-7 頁】 復習 : テキスト 2-7 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : テキスト 13-15 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際社会の変遷と国際法 : 近代市民社会と実定国際法学の確立 【テキスト 13-15 頁】 復習 : テキスト 13-15 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 15-20 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際社会の変遷と国際法 (3) : 20 世紀から現代までの国際法学の展開 【テキスト 15-20 頁】 復習 : テキスト 15-20 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 76-81、124-129 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 現代国際法の構造 : 国家間の明示的合意としての「条約」 【テキスト 76-81、124-129 頁】 復習 : テキスト 76-81、124-129 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 124-129 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 現代国際法の構造 : 条約と国内法の衝突問題 【テキスト 124-129 頁】 復習 : テキスト 124-129 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 81-87、192-193 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 現代国際法の構造 : 国家間の黙示的慣行に基づく「慣習国際法」 【テキスト 81-87、192-193 頁】 復習 : テキスト 81-87、192-193 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 10、49-58、143、229-230、235-236、245-246 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 現代国際法の構造 : 慣習国際法をめぐる問題 【テキスト 10、49-58、143、229-230、235-236、245-246 頁】 復習 : テキスト 10、49-58、143、229-230、235-236、245-246 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 21-22、32-36 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際法の主体 : 国家の成立要件と権利義務 【テキスト 21-22、32-36 頁】 復習 : テキスト 21-22、32-36 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	

10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業 : これまでの授業の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 21-32 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際法の主体 : 国家承認 【テキスト 21-32 頁】 復習 : テキスト 21-32 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 21-32、256-258、357 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際法の主体 : 国家承認をめぐる今日的問題 【テキスト 21-32、256-258、357 頁】 復習 : テキスト 21-32、256-258、357 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 164-180、203-223 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際法の客体 : 国家の領域と非領域 【テキスト 164-180、203-223 頁】 復習 : テキスト 164-180、203-223 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 181-202 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際法の客体 : 海洋法 【テキスト 181-202 頁】 復習 : テキスト 181-202 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト 1 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「国際法 I」の総括と発展学習の手引 : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビ場新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において、課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 15 回目において、レポート全般に関する講評等を行います。						
テキスト・教材		・中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良『国際法（第 4 版）』（有斐閣、2021 年） ・岩澤雄司・植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集 2024 年版』（有斐閣、2024 年）						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく、10 回以上の提出が必要です。						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		
関連科目	法律学関連科目である「法学」、「法と社会」、「日本国憲法」および「人権の基礎」も参考にしていただければ幸いです。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0700
科目名称	国際法Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	International Law Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	国際法とは、主に国家と国家を結びつける法規則をまとめた呼び方です。この講座は、現代の国際社会を国際法という枠組を通して構造的に把握することを主な目的とします。後期の授業においては、具体的な国際問題の分析と検討を試みながら、社会における法の役割をできるだけ丁寧に伝えていきます。特に、国際紛争の平和的解決のためには何が必要なのかを共に考えたいと思います。一つひとつのテーマについて、解答をあせらずに複眼的に分析・検討していきます。		
到達目標	国際社会における客観的な判断基準としての「国際法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習：本科目シラバスおよびテキスト 1 頁の講読 授業：「国際法」とは：この授業の目的・内容・学習方法について 【テキスト 1 頁】 復習：テキスト 1 頁の再読、【第 1 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
2	福王 守	【第 2 回】 予習：テキスト 2-7 頁の講読およびキーワードの確認 授業：現代国際法の構造：国際社会と法構造の特徴 【テキスト 2-7 頁】 復習：テキスト 2-7 頁の再読、【第 2 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
3	福王 守	【第 3 回】 予習：テキスト 224-232 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法上の私人：戦前・戦後を通じた国際人権保障のあゆみ 【テキスト 224-232 頁】 復習：テキスト 224-232 頁の再読、【第 3 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
4	福王 守	【第 4 回】 予習：テキスト 233-243 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法上の私人：国際人権章典の意義 【テキスト 233-243 頁】 復習：テキスト 233-243 頁の再読、【第 4 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
5	福王 守	【第 5 回】 予習：テキスト 233-243 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際法上の私人：国際人権保障をめぐる課題と日本（刑罰問題） 【テキスト 233-243 頁】 復習：テキスト 233-243 頁の再読、【第 5 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
6	福王 守	【第 6 回】 予習：テキスト 166-167、304-305 頁の講読およびキーワードの確認 授業：地球環境と法：環境問題の国際化と国際的取組み 【テキスト 166-167、304-305 頁】 復習：テキスト 166-167、304-305 頁の再読、【第 6 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
7	福王 守	【第 7 回】 予習：テキスト 305-325 頁の講読およびキーワードの確認 授業：地球環境と法：国際環境会議の進展と国際環境法の形成 【テキスト 305-325 頁】 復習：テキスト 305-325 頁の再読、【第 7 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
8	福王 守	【第 8 回】 予習：テキスト 133-152 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国家責任：国際違法行為と国家責任 【テキスト 133-152 頁】 復習：テキスト 133-152 頁の再読、【第 8 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
9	福王 守	【第 9 回】 予習：テキスト 16、371-381 頁の講読およびキーワードの確認 授業：国際紛争の解決方法：戦争の違法化へのあゆみ 【テキスト 16、371-381 頁】 復習：テキスト 16、371-381 頁の再読、【第 9 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	
10	福王 守	【第 10 回】 予習：第 2 回-9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理	

11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 141-142、326-349 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際紛争の解決方法 : 紛争の平和的解決方法と裁判 【テキスト 141-142、326-349 頁】 復習 : テキスト 141-142、326-349 頁の再読、【第 11 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 347、354、377-378、383-389 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際紛争の解決方法 : 国際司法裁判例の分析 (核兵器使用をめぐる) 【テキスト 347、354、377-378、383-389 頁】 復習 : テキスト 347、354、377-378、383-389 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : テキスト 16-17、347-349、351-361 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 安全保障 : 個別的安全保障と集団的安全保障 【テキスト 16-17、347-349、351-361 頁】 復習 : テキスト 16-17、347-349、351-361 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : テキスト 65、358-361、368-370 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 安全保障 : 国連の安全保障の仕組みと課題 【テキスト 65、358-361、368-370 頁】 復習 : テキスト 65、358-361、368-370 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : テキスト 1 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 「国際法Ⅱ」の総括と発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて【テキスト全学習頁】 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビ場新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対するコメントを述べます。また第 15 回目において、レポートの全般的な講評と質問に対する回答を行います。						
テキスト・教材		・中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良『国際法（第 4 版）』（有斐閣、2021 年） ・岩澤雄司・植木俊哉・中谷和弘編『国際条約集 2024 年版』（有斐閣、2024 年）						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		・15 回のレポートの総合点で評価します（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち出席に基づく 10 回以上の提出が必要です。						
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		
関連科目	法律学関連科目である「法学」、「法と社会」、「日本国憲法」および「人権の基礎」も参考にいただければ幸いです。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-310-12	授業コード	FC0910
科目名称	キャリア・イングリッシュ I	単位数	2.0 単位
英文名称	Career English I	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本授業は、以下の 2 点を主な内容とする。 1. 総合的な英語力の向上を目指した、英語でのディスカッションやグループワーク。 2. キャリアを意識した TOEIC の対策と模擬問題演習。 1.では、日常生活を意識したトピックをもとに、学生同士が英語を用いて自分の意思を主体的に発信できるようなアクティビティを行う。2.では、テキストに沿って TOEIC の模擬問題を解き、TOEIC で求められるリスニング力およびリーディング力を身につける。		
到達目標	1. 「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。 2. TOEIC において高得点をとることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	川畑 秀樹	※ペアワークやグループワークを含む回がある。 【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。 授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。 復習：授業形式の再確認	
2	川畑 秀樹	【第 2 回】 予習：Unit 1 "Travel (P12-16)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 1 "Travel (P12-16)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
3	川畑 秀樹	【第 3 回】 予習：Unit 1 "Travel (P17-20)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 1 "Travel (P17-20)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
4	川畑 秀樹	【第 4 回】 予習：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 2 "Dining Out (P21-25)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
5	川畑 秀樹	【第 5 回】 予習：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 2 "Dining Out (P26-29)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
6	川畑 秀樹	【第 6 回】 予習：Unit 3 "Media (P30-34)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 3 "Media (P30-34)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
7	川畑 秀樹	【第 7 回】 予習：Unit 3 "Media (P35-38)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 3 "Media (P35-38)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
8	川畑 秀樹	【第 8 回】 予習：Unit 1-3 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 1-3 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。	
9	川畑 秀樹	【第 9 回】 予習：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 4 "Entertainment (P39-43)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
10	川畑 秀樹	【第 10 回】 予習：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 4 "Entertainment (P44-47)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	

11	川畑 秀樹	【第 11 回】 予習：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 5 "Purchasing (P48-52)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。						
12	川畑 秀樹	【第 12 回】 予習：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 5 "Purchasing (P53-57)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。						
13	川畑 秀樹	【第 13 回】 予習：Unit 6 "Clients (P58-62)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 6 "Clients (P58-62)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。						
14	川畑 秀樹	【第 14 回】 予習：Unit 6 "Clients (P63-66)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 6 "Clients (P63-66)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。						
15	川畑 秀樹	【第 15 回】 予習：Unit 4-6 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 4-6 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で課題に対するフィードバックを行う。						
テキスト・教材		早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』（金星堂）2017 年（ISBN: 978-4-7647-4045-7）						
参考書								
評価の基準と方法		授業内活動 20%，宿題 20%，試験 60%						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○				△	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-310-12	授業コード	FC0920
科目名称	キャリア・イングリッシュⅡ	単位数	2.0 単位
英文名称	Career English II	授業区分	講義
科目責任者	川畑 秀樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	川畑 秀樹	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本授業は、TOEIC で高得点をとるために、テキストに沿って TOEIC の応用的な模擬問題を解く。そして、TOEIC で求められる高度なリスニング力およびリーディング力を身につける。同時に、より高い英語力を身につけるために、単語・文法・読解などを中心に、総合的な英語力を養う演習を、ペアワーク等の主体的な活動を交えながら行う。		
到達目標	1. TOEIC においてより高い点をとることができる。 2. 「読む・書く・聞く・話す」といった総合的な英語力が身につく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	川畑 秀樹	※ペアワークやグループワークを含む回がある。 【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。 授業：本授業の基本ルールを確認し、今後の授業形式と目標を理解できるようになる。Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：授業形式の再確認。わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
2	川畑 秀樹	【第 2 回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 7 "Recruiting (P67-71)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
3	川畑 秀樹	【第 3 回】 予習：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 7 "Recruiting (P72-76)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
4	川畑 秀樹	【第 4 回】 予習：Unit 8 "Personnel (P77-81)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 8 "Personnel (P77-81)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
5	川畑 秀樹	【第 5 回】 予習：Unit 8 "Personnel (P82-85)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 8 "Personnel (P82-85)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
6	川畑 秀樹	【第 6 回】 予習：Unit 9 "Advertising (P86-90)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 9 "Advertising (P86-90)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
7	川畑 秀樹	【第 7 回】 予習：Unit 9 "Advertising (P91-94)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 9 "Advertising (P91-94)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
8	川畑 秀樹	【第 8 回】 予習：Unit 7-9 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 7-9 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す。	
9	川畑 秀樹	【第 9 回】 予習：Unit 10 "Meetings (P95-99)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 10 "Meetings (P95-99)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
10	川畑 秀樹	【第 10 回】 予習：Unit 10 "Meetings (P100-103)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 10 "Meetings (P100-103)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。	
11	川畑 秀樹	【第 11 回】 予習：Unit 11 "Finance (P104-108)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 11 "Finance (P104-108)"に関する問題演習	

		復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。							
12	川畑 秀樹	【第 12 回】 予習：Unit 11 "Finance (P109-112)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 11 "Finance (P109-112)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。							
13	川畑 秀樹	【第 13 回】 予習：Unit 12 "Offices (P113-117)"についてわからない単語を調べる。 授業：Unit 12 "Offices (P113-117)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。							
14	川畑 秀樹	【第 14 回】 予習：Unit 12 "Offices (P118-121)"の文法・リーディングの下調べをする。 授業：Unit 12 "Offices (P118-121)"に関する問題演習 復習：わからなかった単語や問題をもう一度解き直す。							
15	川畑 秀樹	【第 15 回】 予習：Unit 10-12 でわからなかった箇所を復習する。 授業：Unit 10-12 の総復習 復習：授業中にわからなかった問題をもう一度解き直す							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で課題に対するフィードバックを行う。							
テキスト・教材		早川幸治・番場直之・中村信子・鈴木顕『THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST』（金星堂）2017 年（ISBN: 978-4-7647-4045-7）							
参考書									
評価の基準と方法		授業内課題 20％，宿題 20％，試験 60％							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○				△	◎
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0930
科目名称	キャリア・イングリッシュⅢ	単位数	2.0 単位
英文名称	Career EnglishⅢ	授業区分	講義
科目責任者	境 奈津希	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境 奈津希	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	基礎的な英語力を発展させ、TOEIC で要求されるレベルのリスニング・リーディング力を身につけるために模擬試験問題の演習を行う。ただし、TOEIC の演習に終始するのではなく、授業内のグループワークやディスカッションを通じて、より実践的かつ応用的な英語力を身につけ、身近な話題に関する自分の意見を英語で表現できる力を養う。授業を通じて、社会や文化に関する知識を深め、国際的な視点を得ることを目指す。		
到達目標	・英語のリスニング力・リーディング力を伸ばす ・身近な話題についての自分の意見を英語で表現できる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	境 奈津希	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方や評価、課題について） 復習：授業形式についての確認	
2	境 奈津希	【第 2 回】 予習：Unit 1 Vocabulary Check 授業：Unit 1（pp.6-13）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
3	境 奈津希	【第 3 回】 予習：Unit 1 Vocabulary Check 授業：Unit 1（pp.6-13）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
4	境 奈津希	【第 4 回】 予習：Unit 2 Vocabulary Check 授業：Unit 2（pp.14-21）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
5	境 奈津希	【第 5 回】 予習：Unit 2 Vocabulary Check 授業：Unit 2（pp.14-21）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
6	境 奈津希	【第 6 回】 予習：Unit 3 Vocabulary Check 授業：Unit 3（pp.22-29）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
7	境 奈津希	【第 7 回】 予習：Unit 3 Vocabulary Check 授業：Unit 3（pp.22-29）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
8	境 奈津希	【第 8 回】 予習：Unit 4 Vocabulary Check 授業：Unit 4（pp.30-37）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
9	境 奈津希	【第 9 回】 予習：Unit 4 Vocabulary Check 授業：Unit 4（pp.30-37）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
10	境 奈津希	【第 10 回】 予習：Unit 5 Vocabulary Check 授業：Unit 5（pp.38-45）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
11	境 奈津希	【第 11 回】 予習：Unit 5 Vocabulary Check 授業：Unit 5（pp.38-45）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。	

		復習：該当箇所を振り返る							
12	境 奈津希	【第 12 回】 予習：Unit 6 Vocabulary Check 授業：Unit 6（pp.46-53）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
13	境 奈津希	【第 13 回】 予習：Unit 6 Vocabulary Check 授業：Unit 6（pp.46-53）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
14	境 奈津希	【第 14 回】 予習：Unit 7 Vocabulary Check 授業：Unit 7（pp.54-63）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
15	境 奈津希	【第 15 回】 予習：Unit 7 Vocabulary Check 授業：Unit 7（pp.54-63）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
授業開始前学習		今まで受講した英語科目で習ったことを復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業冒頭に小テストを行い、返却時に確認する。							
テキスト・教材		松本恵美子・西井賢太郎・Sam Little『600点を目指すTOEIC L&R TEST演習』三修社							
参考書									
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト 10%、授業への取り組み 20%、課題提出 10%）および定期試験 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○				△	◎
関連科目									
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上（つまり、5 回以上）欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他については 1 回目の授業で説明する。 なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-13	授業コード	FC0940
科目名称	キャリア・イングリッシュⅣ	単位数	2.0 単位
英文名称	Career EnglishⅣ	授業区分	講義
科目責任者	境 奈津希	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	境 奈津希	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	基礎的な英語力を発展させ、TOEIC で要求されるレベルのリスニング・リーディング力を身につけるために模擬試験問題の演習を行う。ただし、TOEIC の演習に終始するのではなく、授業内のグループワークやディスカッションを通じて、より実践的かつ応用的な英語力を身につけ、身近な話題に関する自分の意見を英語で表現できる力を養う。授業を通じて、社会や文化に関する知識を深め、国際的な視点を得ることを目指す。		
到達目標	・英語のリスニング力・リーディング力を伸ばす ・身近な話題についての自分の意見を英語で表現できる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	境 奈津希	【第 1 回】 予習：シラバスの確認 授業：オリエンテーション（授業の目的や進め方や評価、課題について） 復習：授業形式についての確認	
2	境 奈津希	【第 2 回】 予習：Unit 8 Vocabulary check 授業：Unit 8（pp.64-71）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
3	境 奈津希	【第 3 回】 予習：Unit 8 Vocabulary check 授業：Unit 8（pp.73-76）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
4	境 奈津希	【第 4 回】 予習：Unit 9 Vocabulary check 授業：Unit 9（pp.72-79）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
5	境 奈津希	【第 5 回】 予習：Unit 9 Vocabulary check 授業：Unit 9（pp.72-79）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
6	境 奈津希	【第 6 回】 予習：Unit 10 Vocabulary check 授業：Unit 10（pp.80-87）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
7	境 奈津希	【第 7 回】 予習：Unit 10 Vocabulary check 授業：Unit 10（pp.80-87）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
8	境 奈津希	【第 8 回】 予習：Unit 11 Vocabulary check 授業：Unit 11（pp.88-95）①、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
9	境 奈津希	【第 9 回】 予習：Unit 11 Vocabulary check 授業：Unit 11（pp.88-95）②、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
10	境 奈津希	【第 10 回】 予習：Unit 12 Vocabulary check 授業：Unit 12①（pp.96-103）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る	
11	境 奈津希	【第 11 回】 予習：Unit 12 Vocabulary check 授業：Unit 12②（pp.96-103）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。	

		復習：該当箇所を振り返る							
12	境 奈津希	【第 12 回】 予習：Unit 13 Vocabulary check 授業：Unit 13①（pp.104-111）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
13	境 奈津希	【第 13 回】 予習：Unit 13 Vocabulary check 授業：Unit 13②（pp.104-111）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
14	境 奈津希	【第 14 回】 予習：Unit 14 Vocabulary check 授業：Unit 14①（pp.112-120）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
15	境 奈津希	【第 15 回】 予習：Unit 14 Vocabulary check 授業：Unit 14②（pp.112-120）、適宜、グループワークやディスカッションを行う。 復習：該当箇所を振り返る							
授業開始前学習		今まで受講した英語科目で習ったことを復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業冒頭で小テストを行い、返却時に確認する。							
テキスト・教材		松本恵美子・西井賢太郎・Sam Little『600点を目指すTOEIC L&R TEST演習』三修社							
参考書		授業内で適宜配布する							
評価の基準と方法		平常点 40%（小テスト 10%、授業への取り組み 20%、課題提出 10%）および定期試験 60%を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○				△	◎
関連科目									
その他		出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上（つまり、5 回以上）欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とする。講義開始 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他については 1 回目の授業で説明する。 なお、授業の進捗状況に応じて内容を変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0950
科目名称	通訳・ガイドⅠ	単位数	2.0 単位
英文名称	Interpreting・Tour GuidingⅠ	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドの基礎となる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。日本の社会や文化の理解を深め、わかりやすい英語で紹介する力を養う。受講者には、予習・復習を入念に行い、授業内の活動や課題に積極的に参加することが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドの基礎となる知識や英語コミュニケーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習：外国人に紹介したい日本の文化や習慣について考える 授業：オリエンテーション、Unit 1 導入 復習：Unit 1 の音読練習	
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習：Unit 1 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 1 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする	
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習：Unit 2 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 2 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 2 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする	
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習：Unit 3 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 3 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 3 のトピックに関するプレゼンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする	
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習：Unit 1 - 3 の復習 授業：第 1 回～第 7 回の学習のまとめ 復習：課題点を明確にする	
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習：Unit 4 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 4 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 4 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする	
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習：Unit 5 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 5 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	

12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 5 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：Unit 6 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 6 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 6 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：Unit 4－6 の復習 授業：第 9 回～第 14 回の学習のまとめ 復習：前期の学びを振り返る							
授業開始前学習		通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。							
テキスト・教材		坂部俊行／岡島徳昭／Howard Tarnoff 著『Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語』（南雲堂）2020 年（ISBN：978-4-523-17898-9）							
参考書		授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		プレゼンテーションなどの授業中の活動（40％）、課題提出（30％）、定期試験（30％）							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎		○	○	△	
関連科目									
その他		出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0960
科目名称	通訳・ガイドⅡ	単位数	2.0 単位
英文名称	Interpreting・Tour GuidingⅡ	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドの基礎となる英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。日本の社会や文化の理解を深め、わかりやすい英語で紹介する力を養う。受講者には、予習・復習を入念に行い、授業内の活動や課題に積極的に参加することが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドの基礎となる知識や英語コミュニケーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習：Unit 8 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：オリエンテーション、Unit 8 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習：Unit 9 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 9 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 9 のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習 復習：学んだ表現を使う練習をする	
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習：Unit 1 0 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む（※Unit 7 に変更の可能性あり） 授業：Unit 1 0 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 0 のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習（※Unit 7 に変更の可能性あり） 復習：学んだ表現を使う練習をする	
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習：Unit 1 1 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 1 1 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 1 のトピックに関するプレゼンテーション、翻訳練習 復習：学んだ表現を使う練習をする	
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習：Unit 8 - 1 1 の復習 授業：第 1 回～第 7 回の学習のまとめ 復習：課題点を明確にする	
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習：Unit 1 2 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 1 2 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 2 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする	
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習：Unit 1 3 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 1 3 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	

12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 3 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：Unit 1 4 Reading and Listening を読み、その問題に取り組む 授業：Unit 1 4 に関するディスカッション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：トピックについて話す練習 授業：Unit 1 4 のトピックに関するプレゼンテーション（実技評価）、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：Unit 1 2－1 4 の復習 授業：第 9 回～第 1 4 回の学習のまとめ 復習：後期の学びを振り返る							
授業開始前学習		通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。							
テキスト・教材		坂部俊行／岡島徳昭／Howard Tarnoff 著『Glances of Japan 日本文化とおもてなし英語』（南雲堂）2020 年（ISBN：978-4-523-17898-9）							
参考書		授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		プレゼンテーションなどの授業中の活動（40％）、課題提出（30％）、定期試験（30％）							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎		○	○	△	
関連科目									
その他		出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0970
科目名称	通訳・ガイドⅢ	単位数	2.0 単位
英文名称	Interpreting・Tour GuidingⅢ	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドⅠ、Ⅱで培ってきた知識や能力を活かし、英語コミュニケーション能力をより一層磨くことを目的とする。日本の文化や社会に関する知識を深め、英語でわかりやすく紹介する力を強化する。逐次通訳の基礎訓練も行うため、受講者には予習・復習、授業への積極的な参加、日々の練習の積み重ねが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドに必要な英語力を強化し、逐次通訳の基本的な知識やスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習：自分が好きな日本の文化について考える 授業：オリエンテーション、Chapter 1 導入、グループワーク 復習：学んだ表現を使う練習をする	
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習：Chapter 1 Reading の音読練習、7 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 1 グループワーク、シャドーイング 復習：シャドーイング、学んだ表現を使う練習をする	
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする	
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習：Chapter 2 Reading の音読練習、11 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 2 グループワーク、シャドーイング 復習：シャドーイング、学んだ表現を使う練習をする	
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする	
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習：Chapter 3 Reading の音読練習、15 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 3 グループワーク、シャドーイング 復習：シャドーイング、学んだ表現を使う練習をする	
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする	
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習：Chapter 1－3 の復習 授業：第 1 回～第 7 回の学習のまとめ 復習：課題点を明確にする	
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習：Chapter 4 Reading の音読練習、19 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 4 グループワーク、リプロダクション 復習：リプロダクション、学んだ表現を使う練習をする	
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション（実技評価）、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする	
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習：Chapter 5 Reading の音読練習、23 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 5 グループワーク、リプロダクション 復習：リプロダクション、学んだ表現を使う練習をする	

12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション（実技評価）、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：Chapter 6 Reading の音読練習、27 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 6 グループワーク、リプロダクション 復習：リプロダクション、学んだ表現を使う練習をする							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：ミニプレゼンテーション（実技評価）、訳出練習 復習：学んだ表現を使う練習をする							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：Chapter 4－6 の復習 授業：第 9 回～第 14 回の学習のまとめ 復習：前期の学びを振り返る							
授業開始前学習		通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。							
テキスト・教材		坂部俊行／岡島徳昭／William Noel 著『Touring Japan in English 英語で学ぶ日本三選』（南雲堂）2015 年（ISBN：978-4-523-17788-3）							
参考書		授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		プレゼンテーションなどの授業中の活動（40％）、課題提出（30％）、定期試験（30％）							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎		○		△	
関連科目									
その他		出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC0980
科目名称	通訳・ガイドⅣ	単位数	2.0 単位
英文名称	Interpreting・Tour GuidingⅣ	授業区分	講義
科目責任者	浅川 真知子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	浅川 真知子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-603
授業概要	本授業は、通訳・ガイドⅠ、Ⅱ、Ⅲで培ってきた知識や能力を活かし、英語コミュニケーション能力をより一層磨くことを目的とする。日本の文化や社会に関する知識を深め、英語でわかりやすく紹介する力を強化する。逐次通訳の基礎訓練も行うため、受講者には予習・復習、授業への積極的な参加、日々の練習の積み重ねが求められる。		
到達目標	通訳・ガイドに必要な英語力を強化し、逐次通訳の基本的な知識やスキルを身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	浅川 真知子	【第 1 回】 予習：Chapter 7 Reading の音読練習、31 ページの問題に取り組む 授業：オリエンテーション、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
2	浅川 真知子	【第 2 回】 予習：Chapter 8 Reading の音読練習、35 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 8 グループワーク、訳出練習 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
3	浅川 真知子	【第 3 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
4	浅川 真知子	【第 4 回】 予習：Chapter 9 Reading の音読練習、39 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 9 グループワーク、訳出練習 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
5	浅川 真知子	【第 5 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
6	浅川 真知子	【第 6 回】 予習：Chapter 10 Reading の音読練習、43 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 10 グループワーク、訳出練習 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
7	浅川 真知子	【第 7 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
8	浅川 真知子	【第 8 回】 予習：Chapter 8－10 の復習 授業：第 1 回～第 7 回の学習のまとめ 復習：課題点を明確にする	
9	浅川 真知子	【第 9 回】 予習：Chapter 11 Reading の音読練習、47 ページの問題に取り組む 授業：Chapter 11 グループワーク、訳出練習 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
10	浅川 真知子	【第 10 回】 予習：ミニプレゼンテーション準備 授業：グループワーク、ミニプレゼンテーション 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	
11	浅川 真知子	【第 11 回】 予習：「京都観光案内プロジェクト」準備 授業：初見教材での訳出練習、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする	

12	浅川 真知子	【第 12 回】 予習：「京都観光案内プロジェクト」準備 授業：プレゼンテーション 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする							
13	浅川 真知子	【第 13 回】 予習：「〇〇県観光案内プロジェクト」準備 授業：初見教材での訳出練習、グループワーク 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする							
14	浅川 真知子	【第 14 回】 予習：「〇〇県観光案内プロジェクト」準備 授業：プレゼンテーション（実技評価） 復習：学んだ表現を使い、英語で説明する練習をする							
15	浅川 真知子	【第 15 回】 予習：Chapter 1 1－復習 授業：第 9 回～第 1 4 回の学習のまとめ 復習：後期の学びを振り返る							
授業開始前学習		通訳・ガイドの仕事内容について調べておく。また、日頃からニュースや本、雑誌などを通じて積極的に英語に触れるようにする。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・課題・活動に対するフィードバックはその都度授業中に行う。							
テキスト・教材		坂部俊行／岡島徳昭／William Noel 著『Touring Japan in English 英語で学ぶ日本三選』（南雲堂）2015 年（ISBN：978-4-523-17788-3）							
参考書		授業で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		プレゼンテーションなどの授業中の活動（40％）、課題提出（30％）、定期試験（30％）							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎		○		△	
関連科目									
その他		出席を重視する。その他の授業のルールは初回授業で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC0990
科目名称	日本紹介の英語	単位数	2.0 単位
英文名称	Introducing Japan in English	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	10-619
授業概要	Students will develop the ability to introduce the places and culture representative of various regions of Japan, and learn to explain things Japanese which may be commonplace to them but unfamiliar to someone visiting Japan for the first time.		
到達目標	This course is designed to enhance the communicative skills necessary to introduce Japan to a foreign visitor. A range of regionally specific and diverse source materials introducing Japan and its culture via English will be presented to students. In addition to activities designed to develop core language ability, students will engage in a wide variety of student-centered skills based communicative tasks.		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の授業形態
授業回数	担当者	授業の内容	
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Think about how you would introduce Japan to a foreign visitor 授業 : Class introduction. Chapter 1: Japan's Top Three Castles, pp.6-9 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes	
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 2: Japan's Top Three Festivals, pp.10-13 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes	
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 3: Japan's Top Three Mountains, pp.14-17 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes	
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 4: Japan's Top Three Oldest Hot Springs, pp.18-21 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/writing based question and answer) 復習 : Revise class notes	
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 5: Japan's Top Three Gardens, pp.22-25 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/writing based question and answer) 復習 : Revise class notes	
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 6: Japan's Top Three Pottery Styles, pp. 26-29 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group task (Reading/writing based question and answer) 復習 : Revise class notes	
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 7: Japan's Top Three Night Views, pp.30-33 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes	
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 8: Japan's Top Three Famous Foods, pp.34-37 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes	
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 9: Japan's Top Three Limestone Caves, pp.38-41 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation)	

		Activity: Group skit (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes							
10	M.ブラウン	【第10回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 10: Japan's Top Three Scenic Spots, pp. 42-45 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes							
11	M.ブラウン	【第11回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 11: Japan's Top Three Waterfalls, pp.46-49 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes							
12	M.ブラウン	【第12回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 12: Japan's Top Three Disappointing Places, pp.50-53 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes							
13	M.ブラウン	【第13回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 13: Japan's Top Three Ekiben, pp.54-57 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes							
14	M.ブラウン	【第14回】 予習 : Read next chapter and work on class activity 授業 : Chapter 14: Japan's Top Three Udon, pp.58-61 (Active reading and listening on textbook topic with speaking/discussion consolidation) Activity: Individual presentations and reports on a given topic (Speaking, with written review task) 復習 : Revise class notes							
15	M.ブラウン	【第15回】 予習 : Practice presentation 授業 : Student presentations: Introducing things Japanese (free topic) (Writing and speaking task) 復習 : Review entire course							
授業開始前学習		Please read as widely as possible on the subject of Japanese culture.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students will receive feedback on all assessed classwork.							
テキスト・教材									
参考書		The instructor will provide all class materials and chapters for reading.							
評価の基準と方法		Individual class participation (reading, discussion, presentations): 40%, Group work (skits and other group tasks): 20%, Final written report: 40%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		◎				△	
関連科目									
その他		Students must attend at least 2/3 of the lectures to pass the course							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-12	授業コード	FC1000
科目名称	ボランティア英語	単位数	2.0 単位
英文名称	Volunteer English	授業区分	講義
科目責任者	江連 成美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	江連 成美	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	The main aim of this course is to develop practical English skills for participation in volunteer activities. Throughout the course, the students will develop their ability to cope with problems that could happen in volunteer activities, and understand and explain Japanese culture and customs to those who are unfamiliar with their language and culture.		
到達目標	Students will develop practical English skills necessary for participation in volunteer activities. Students will develop an understanding of Japanese culture and customs, be able to explain these to other people in English, and exchange ideas on these topics in class.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	江連 成美	【第 1 回】 予習 : Please read newspaper articles or books about volunteer activities 授業 : Orientation (aims and content of the course) 復習 : Review the material covered in class	
2	江連 成美	【第 2 回】 予習 : Watch the video (to be assigned in previous class) 授業 : What is "Omotenashi"? 復習 : Read over the material covered in class	
3	江連 成美	【第 3 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : Communication strategies (pair work) 復習 : Read over the material covered in class	
4	江連 成美	【第 4 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : At the restaurant (pair work) 復習 : Read over the material covered in class	
5	江連 成美	【第 5 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : Giving directions (pair work) 復習 : Read over the material covered in class	
6	江連 成美	【第 6 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : Things to do in Japan- prepare for the presentation (pair work) 復習 : Continue working on the presentation	
7	江連 成美	【第 7 回】 予習 : Practice the presentation 授業 : Things to do in Japan- presentation (pair work) 復習 : Review the feedback from the instructor	
8	江連 成美	【第 8 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : On the street (pair work) 復習 : Read over the material covered in class	
9	江連 成美	【第 9 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : Talking about Japanese culture (pair work) - prepare for the presentation 復習 : Continue working on the presentation	
10	江連 成美	【第 10 回】 予習 : Practice the presentation 授業 : Talking about Japanese culture (pair work) - presentation 復習 : Review the feedback from the instructor	
11	江連 成美	【第 11 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : At the restaurant (pair work)	

		復習 : Read over the material covered in class							
12	江連 成美	【第 12 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : Dealing with emergency situations (pair work) 復習 : Read over the material covered in class							
13	江連 成美	【第 13 回】 予習 : Set reading (to be given in previous class) 授業 : Final Project (preparation) 復習 : Read over the material covered in class							
14	江連 成美	【第 14 回】 予習 : Review the class materials and prepare for the test 授業 : Final Project (speaking test and final presentation) (1) 復習 : Review the feedback							
15	江連 成美	【第 15 回】 予習 : Review the class materials and prepare for the test 授業 : Final Project (speaking test and final presentation) (2) 復習 : Review the entire course							
授業開始前学習		The students are recommended to participate in volunteer activities or read books/newspaper articles on volunteering.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on all classwork activities.							
テキスト・教材		Lecture handouts will be provided by the instructor.							
参考書		Reference materials will be provided by the instructor.							
評価の基準と方法		Coursework 60%, Presentation and Speaking test 30%, Class Participation 10%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎				△	○
関連科目									
その他		Students must attend at least 2/3 of the classes to pass the course							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC1010
科目名称	Japan Studies I	単位数	2.0 単位
英文名称	Japan Studies I	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	10-619
授業概要	This English medium course provides an introduction to Anglophone Japan Studies. Basic knowledge of modern and contemporary Japanese Cultural History will be developed through a variety of topic based lectures. A foundational knowledge of Japanese Cultural History will be developed by lectures and set readings on the diversity of society on the Japanese islands, food culture, consumer culture, sleep, family and Buddhism in post-war Japan.		
到達目標	Cultivate a foundational knowledge of Japanese Cultural History through English.		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容	
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Investigate strategies for taking lectures in English 授業 : Orientation and introductory lecture: 'To The Ends of Japan' Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Reading activity 授業 : Food (1) Pre-Modern Food Culture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Reading activity 授業 : Food (2) Modern Food Culture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Reading activity 授業 : Food and Consumer Culture (3) Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Reading activity 授業 : Sleep Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Reading activity 授業 : Family (1) Gender Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Reading activity 授業 : Family (2) Generations Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 1-6 復習 : Revise class notes	
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Reading activity 授業 : 'Japanese Temple Buddhism' (1) Buddhist Sects Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	

9	M.ブラウン	【第9回】 予習 : Reading activity 授業 : ‘Japanese Temple Buddhism’ (2) Current Issues Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on their review of content 復習 : Revise class notes							
10	M.ブラウン	【第10回】 予習 : Reading activity 授業 : Documentary movie: ‘Souls of Zen’ Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Movie review activity							
11	M.ブラウン	【第11回】 予習 : Movie review activity 授業 : 3.11 research Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes							
12	M.ブラウン	【第12回】 予習 : Reading activity 授業 : Law and Order in Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes							
13	M.ブラウン	【第13回】 予習 : Reading activity 授業 : Securing Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 7-13 復習 : Revise class notes							
14	M.ブラウン	【第14回】 予習 : Reading activity 授業 : The Arts (1) Folk Art Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes							
15	M.ブラウン	【第15回】 予習 : Reading activity 授業 : The Arts (2) Visual Arts Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on their second review of content 復習 : Review entire course							
授業開始前学習		Read as widely as possible on Japanese cultural history							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on guided reading activities and on report plan.							
テキスト・教材		All materials to be provided by instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Weekly class participation and homework: 40%. Mini presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○		△			
関連科目									
その他		Students must attend 2/3 of classes to receive credit for this course							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-331-12	授業コード	FC1020
科目名称	Japan Studies II	単位数	2.0 単位
英文名称	Japan Studies II	授業区分	講義
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	10-619
授業概要	This English medium course builds on the introduction to modern and contemporary Japanese Cultural History provided in Japan Studies I. Basic Japan Studies knowledge will be developed and new concepts introduced. Ongoing lectures will continue to develop the knowledge of Japanese Cultural History necessary for critical thinking on the topics introduced by the instructor, particularly technology and architecture, 3.11, politics, security and defense, education and the arts in postwar Japan.		
到達目標	Cultivate a developing knowledge of Japanese Cultural History through English.		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の授業形態
授業回数	担当者	授業の内容	
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Investigate strategies for taking lectures in English 授業 : Orientation and introductory lecture: Diverse Japan (1): Cultural Diversity Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Reading activity 授業 : Diverse Japan (2): Ethnic Diversity Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Reading activity 授業 : Mass Media in Japan (1): Print Media Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Reading activity 授業 : Mass Media in Japan (2): Broadcast Media Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Reading activity 授業 : Work in Japan Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Reading activity 授業 : Japan in Maps Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Reading activity 授業 : Itinerant Holy Men in the Edo period Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 1-6 復習 : Revise class notes	
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Reading activity 授業 : 'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (1) Pre-Modern Technology and Architecture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes	

9	M.ブラウン	【第9回】 予習 : Reading activity 授業 : 'Assembling Japan' (Technology and Architecture) (2) Modern Technology and Architecture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on their review of content 復習 : Revise class notes						
10	M.ブラウン	【第10回】 予習 : Reading activity 授業 : Japanese Movies (1): The Great Directors Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Movie review activity						
11	M.ブラウン	【第11回】 予習 : Movie review activity 授業 : Japanese Movies (2): Pop Culture and Subculture Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes						
12	M.ブラウン	【第12回】 予習 : Reading activity 授業 : Performing Arts (1): Pre-Modern Performing Arts Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes						
13	M.ブラウン	【第13回】 予習 : Reading activity 授業 : Performing Arts (2): Modern Performing Arts Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students submit a review of content in lessons 7-13 復習 : Revise class notes						
14	M.ブラウン	【第14回】 予習 : Reading activity 授業 : Education (1): Primary and Secondary Education Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. 復習 : Revise class notes						
15	M.ブラウン	【第15回】 予習 : Reading activity 授業 : Education (2): Tertiary Education Active listening on class topic with speaking/discussion consolidation Active reading/writing task. Students receive feedback on their second review of content 復習 : Review entire course						
授業開始前学習		Students should read as widely as possible about Japanese culture.						
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback on all assessed classwork.						
テキスト・教材		All materials to be provided by instructor.						
参考書								
評価の基準と方法		Weekly guided reading assignments: 40%. Presentation on a guided reading: 10%. Final essay: 50%.						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○		△			
関連科目								
その他	Students must attend 2/3 of the classes in order to pass the course.							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-330-22			授業コード	FC1030	
科目名称	海外留学準備			単位数	1.0 単位	
英文名称	Studying Abroad			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	松山 響子			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	松山 響子			開講時期	2 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605	
授業概要	「6 か月留学」プログラムに参加するための準備授業です。指定された学生のみ履修可能です。ご注意ください。					
到達目標	You can prepare your self for the study abroad program. You would be able to express what you need or want fluently. You would be able to explain the Japanese culture that you are familiar with.					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態		
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : Read chapter 1 授業 : On Cloud Nine (group work) 復習 : Review chapter 1				
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : Read chapter 2 授業 : San Francisco, Here I am!(group work) 復習 : Review chapter 2				
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : Read chapter 3 授業 : A Warm Welcome(group work) 復習 : Review chapter 3				
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : Read chapter 4 授業 : Up and Down the Hills(group work) 復習 : Review chapter 4				
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : Read chapter 5 授業 : A Little Cloud for Summer(group work) 復習 : Review chapter 5				
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : Read chapter 6 授業 : Now I'm an ernational Student(group work) 復習 : Review chapter 6				
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : Read chapter 7 授業 : I'd like to know a Bit More about You(group work) 復習 : Review chapter 7				
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : Read chapter 8 授業 : Getting around la-La Land(group work) 復習 : Review chapter 8				
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : Read chapter 9 授業 : You Sure Like Sports!(group work) 復習 : Review chapter 9				
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : Read chapter 10 授業 : At a Restaurant(group work) 復習 : Review chapter 10				
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : Read chapter 11 授業 : I'm Not Feeling Well(group work) 復習 : Review chapter 11				

12	松山 響子	【第 12 回】 予習 : Read chapter 12 授業 : Day Trip to San Diego and Tijuana(group work) 復習 : Review chapter 12							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習 : Read chapter 13 授業 : Let's Hit the Beach!(group work) 復習 : Review chapter 13							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習 : Read chapter 14 授業 : Buying Gifts(group work) 復習 : Review chapter 14							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習 : Read chapter 15 授業 : Farewell to My Friends(group work) 復習 : Review chapter 15							
授業開始前学習		Review your English textbooks							
授業内課題のフィードバックの方法		毎授業、課題として英語ニュースの要約と論評を行い提出、翌週に講評を行い返却							
テキスト・教材		『はじめての英会話コミュニケーション 留学編』 行時潔・長田順子・Anthony J.Parker 松柏社							
参考書									
評価の基準と方法		Grades are based on class participation (70%), class assingments (20%) and interviews (10%). Class attendance is mandatory.							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎						△	○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23 (J)	授業コード	FC1212
科目名称	英語コミュニケーションゼミ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることにも可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることでもある。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。		
到達目標	基本的な研究方法を学び、適切に研究を進めることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：自己紹介の準備をする、ゼミの方針について自分の考えをまとめる 授業：自己紹介を行う。ゼミの方針について話し合う（ディスカッション）（発表） 復習：ゼミの方針と自身の研究について考える	
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：自身の関心のあるテーマを列挙する 授業：関心のあるテーマについて発表し、意見交換する（ディスカッション）（発表） 復習：自分の研究テーマを決める	
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：自分の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジュメを作る	
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生の英語学習歴についての調査、研究計画についてのレポートの提出（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、研究計画についてのレポートの講評（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	

10	中野 達也	【第 10 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
11	中野 達也	【第 11 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（9）例 映画を使った英語学習法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（10）例 語彙サイズと読解スピードの関係（発表）（ディスカッション）、研究レポートの提出 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（11）例 多読の効果（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：前期発表者のレジュメを再読する 授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。研究の進捗状況についてのレポートの講評（発表）（ディスカッション） 復習：これまでの研究をまとめ、今後の研究について考察する															
授業開始前学習		書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。															
テキスト・教材		授業中に適宜参考資料を配布する															
参考書		各自の研究テーマに応じて適宜指示する															
評価の基準と方法		授業への参加態度 50 点 発表とレポート 50 点															
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○								◎				○		△	
関連科目																	
その他		発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員と教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。															

科目分類	113-310-23			授業コード	FC1213
科目名称	英語コミュニケーションⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	文法や単語を学ぶだけでは、英語を学んだとはいえません。なぜなら、言葉と文化は切っても切り離せない関係にあるからです。そして文化の中で、時間や機器に縛られずに自分の都合のよいときにアクセスできるのが言語文化の代表である文学です。このゼミでは、自分が興味を持った文化事象や文学作品、映画を選び、それについて深く理解していくことを目標としています。				
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認 授業 : 学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習 : 自分の研究の方向性確認			
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 自分の研究の方向性について考える 授業 : 文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習 : 自分の研究の方向性と作品の内容確認			
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習			
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習			
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習			
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習 : ゼミ学習文献復習			
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習 : ゼミ学習文献復習			
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習			
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習			
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習			
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（4） 復習 : ゼミ学習文献復習			

12	松山 響子	【第 12 回】 予習 :ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（5） 復習 :ゼミ学習文献復習							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習 :ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（6） 復習 :ゼミ学習文献復習							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習 :ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（7） 復習 :ゼミ学習文献復習							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習 : 前期ふりかえり 授業 : まとめ 復習 : 後期に向けての課題確認							
授業開始前学習		翌週の学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてミニレポートを作成する。ミニレポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材		特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。							
参考書		『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法		授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目		イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他		ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1214
科目名称	英語コミュニケーションⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-608
授業概要	In this seminar of we will explore various topics in cultural studies. We will also consider the connections between culture and language. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Preview the syllabus 授業 : Guidance and confirmation of course goals. 復習 : Students think about the direction of their research	
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Students plan the direction of their research 授業 : Introduction to cultural studies 復習 : Students establish the direction and subject matter of their research	
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	

11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (1) 復習 : Students work on research presentation materials							
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (2) 復習 : Students work on research presentation materials							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (3) 復習 : Students work on research presentation materials							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Presentation reflections							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Continue working on presentation reflections 授業 : Review and feedback 復習 : Look at the themes and tasks in the 2nd semester							
授業開始前学習		Reflect on your own cultural experiences and be prepared to discuss them in class.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports.							
テキスト・教材		There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23			授業コード	FC1215
科目名称	英語コミュニケーションⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	10-619
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.				
到達目標	・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will develop their ability to read and understand a variety of scholarly and educational materials. ・Students will improve their ability to explain and discuss research. ・Students will improve their ability to understand and ask questions of their peers' research.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業：Confirm class aims, introduce the foundations of "English Diversity" 復習：Students consider the possible directions of their research for this semester			
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習：Students bring ideas about examples of diversity in English 授業：Research questions and discussion, methodologies 1. 復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback			
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習：Students select a mini-research topic 授業：Research questions and discussion, methodologies 2. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, methodologies 3. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation guidance 1. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation guidance 2. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 1. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 2. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 3.			

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1216
科目名称	英語コミュニケーションⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	英語を軸とした言語全般の研究を行う。具体的には、意思を伝達する手段としての言語と人間の思考の間にはどのような因果関係があるのかについて、様々な事例を考察することで解き明かす。同時に、学術書や研究論文を講読することで、言語に対する向き合い方を学ぶ。また、個人研究発表や討論を通じて自身の考えを言語化すること、そして他者の意見を精査することの大切さも学ぶ。なお、学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	・言語と思考の関係が理解できる。 ・英語に対する言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を俯瞰できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。自身の研究のブレインストーミングをしておく。 授業：自己紹介・オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。	
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：自身の興味関心をまとめ、発表の準備をする。 授業：興味関心についての発表および討論 復習：個人研究の方針を立てる。	
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (1) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (2) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (3) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (4) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (5) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (6) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (7) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (8) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (9) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	

12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（10） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（11） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（12） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出 前期の振り返り 後期に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。							
授業開始前学習		授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書		必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法		進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1217
科目名称	英語コミュニケーションⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、共に考えていきたいと思います。まずは、近代以降の市民社会の歩みを踏まえて、「法」の役割と問題点を確かめます。つぎに、国家の基本法である憲法と人権保障について、事例を含めて掘り下げます。さらに、国際社会による人権保障のあゆみを踏まえて、世界人権宣言と国際人権規約について学びます。最後に、各受講生が自由な研究テーマを選び、レポート作成と研究報告ができるように指導します。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。第 1 回研究報告および第 1 回レポート作成を目指します。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。 【第 1 回】 予習 : 本授業シラバスの講読および研究希望分野の資料収集 授業 : 英コミ専攻における国際社会研究ゼミとして「法」を学ぶ意義：この演習の目的・内容・学習の方法 復習 : 第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : 【第 2 回】授業レジュメ・資料の講読およびキーワードの確認 授業 : 法学の基礎：市民社会のあゆみと法の役割 【レジュメおよび資料】「ディスカッション」 復習 : 第 2 回授業レジュメの再読、ノートおよび配布プリントの整理	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : 【第 3 回】レジュメ・資料の講読およびキーワードの確認 授業 : 法学の基礎：法における 2 つの目的と責務 【レジュメおよび資料】「ディスカッション」 復習 : 第 3 回授業レジュメの再読、ノートおよび配布プリントの整理	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : テキスト 3-16 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の背景：憲法と個人の尊厳 【テキスト 3-16 頁】「ディスカッション」 復習 : テキスト 3-16 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : テキスト 17-26 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 日本国憲法の背景：戦後憲法の制定と「前文」の意味 【テキスト 17-26 頁】「ディスカッション」 復習 : テキスト 17-26 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : テキスト 37-43 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 憲法の目的と趣旨：平和主義原理の意義と今日的課題 【テキスト 37-43 頁】・研究指導（はじめに）「ディスカッション」 復習 : テキスト 37-43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : テキスト 15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の種類 【テキスト 15、29、53 頁】・研究指導（第 I 章①）「ディスカッション」 復習 : テキスト 15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : テキスト 73-88 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 基本的人権の尊重：包括的基本権について 【テキスト 73-88 頁】・研究指導（第 I 章②）「ディスカッション」 復習 : テキスト 73-88 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : テキスト 161-168 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 基本的人権の尊重：福祉的国家思想と生存権 【テキスト 161-168 頁】・研究指導（第 II 章①）「ディスカッション」 復習 : テキスト 161-168 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理	

10	福王 守	【第 10 回】 予習 : テキスト 281-282 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際法の基礎: 国際社会の法構造の特殊性【テキスト 281-282 頁】・研究指導 (第Ⅱ章②)「ディスカッション」 復習 : テキスト 281-282 頁の再読、第 10 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : テキスト 282-294 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 国際人権法: 国連による人権保障のあゆみと国際人権章典【テキスト 282-294 頁】・研究指導 (第Ⅲ章)「ディスカッション」 復習 : テキスト 282-294 頁の再読、第 11 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : テキスト 134-150 頁の講読およびキーワードの確認 授業 : 人権保障と刑罰: 国際法と国内法の交錯する問題として【テキスト 134-150 頁】・研究指導 (第Ⅳ章)「ディスカッション」 復習 : テキスト 134-150 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : 自己テーマに関する資料の収集 授業 : 全体研究指導: 研究テーマ選定および文献検索の方法【テキスト 全学習頁】・研究指導 (結びにかえて)「ディスカッション」 復習 : 第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理、添削事項の見直し						
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : 自己テーマに関する資料の収集およびレポート骨子の作成 授業 : 個別研究指導: レジュメおよびレポート作成の方法【テキスト 全学習頁】・研究指導 (参考文献について)「ディスカッション」 復習 : 第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理、添削事項の見直し						
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : 【第 1 回】研究レポートの完成 授業 : 「研究テーマ」発展学習の手引き: 【第 1 回】研究レポート提出および前期授業全体の体系的整理「ディスカッション」 復習 : テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理						
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業第 1 回目に出されたレポート課題に基づき第 6 回目以降に【第 1 回】研究報告を行い、また第 15 回目に【第 1 回】研究レポートを提出します。これについて第 15 回目に全体の講評と質問に対する回答を行います。						
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法 (第 4 版補訂版) 』(尚学社、2016 年) 『ボケツ六法』(有斐閣)						
参考書		授業を通じて適宜紹介します。						
評価の基準と方法		単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況 (50%)、およびレポート (50%) により総合的に評価します。						
ディプロマポリシー	世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語 (英語)・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目	この演習をよりよく運営するために、他の法律学関係の講義も履修してください。 ゼミ生の希望に基づいて、実務見学や懇親会なども行います。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-310-23 (J)	授業コード	FC1222
科目名称	英語コミュニケーションⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	前期同様、教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることが可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることが出来る。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。前期の研究をさらに進める。		
到達目標	前期に学んだ研究方法をもとに、研究計画を修正し、研究を完成させることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を一層伸ばすことを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：自身の研究の方向性について考えをまとめる 授業：自身の研究のについて発表し、質問・意見を受ける（ディスカッション）（発表） 復習：自身の研究について再考する	
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：自身の研究の進め方について考えをまとめる 授業：自身の研究を進める上で必要な調査等について発表し、意見交換する（ディスカッション）（発表） 復習：調査方法等を整理する	
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：自分の今後の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジュメを作る	
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生的英語学習歴についての調査、（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	

10	中野 達也	【第 10 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る							
11	中野 達也	【第 11 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（9）例 映画を使った学習法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（10）例 日本と海外の英語教育について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（11）例 音声指導の工夫について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：後期発表者のレジュメを再読する 授業：後期の振り返りと、今後の研究について発表する。（発表）（ディスカッション） 復習：後期の研究をまとめ、次年度の研究について考察する							
授業開始前学習		書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出されたレポート等については GSE または Active Mail を活用してフィードバックを行う。							
テキスト・教材		授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書		各自の研究テーマに応じて適宜指示する							
評価の基準と方法		授業への参加態度・提出物 50点 ゼミレポート 50点							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。 1 月中旬に英語教科書出版社見学等を予定している。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員と教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類	113-310-23			授業コード	FC1223
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605
授業概要	ゼミⅠで自分が興味を持った文化事象や文学作品、映画に、より深い理解を示すことを求めます。一つの考え方や理論に固執することなく、多くの研究書を参考にする努力を惜しまないでください。できるだけ論理的に文化事象や文学作品を理解することを目標としています。				
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる ・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認 授業 : 学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習 : 自分の研究の方向性確認			
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 自分の研究の方向性について考える 授業 : 文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習 : 自分の研究の方向性と作品の内容確認			
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習			
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習			
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習			
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習 : ゼミ学習文献復習			
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習 : ゼミ学習文献復習			
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習			
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習			
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習			
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（4）			

		復習：ゼミ学習文献復習							
12	松山 響子	【第 12 回】 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（5） 復習：ゼミ学習文献復習							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（6） 復習：ゼミ学習文献復習							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（7） 復習：ゼミ学習文献復習							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習：後期ふりかえり 授業：まとめ 復習：来年度に向けての課題確認							
授業開始前学習		翌週の文献学習部分、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材		特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。							
参考書		『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法		授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目		イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他		ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。学期末に全ての英語コミュニケーションゼミの学生が集まり、合同発表会を行います。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1224
科目名称	英語コミュニケーションⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-608
授業概要	In this second semester, students will further develop their chosen topics of research in cultural studies. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Students prepare to talk about their interests 授業 : Guidance. Students discuss their research interests. 復習 : Students work on a research plan	
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students work on a research plan	
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (9) (presentation)	

		復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class							
11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (10) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class							
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (11) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation workshop 復習 : Students work on research presentation materials							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Final presentation workshop							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Work on presentation reflections 授業 : Review and feedback 復習 : Look at the themes and tasks in the following academic year							
授業開始前学習		Think about the research you have done in cultural studies until now and prepare to summarize it.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports							
テキスト・教材		There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1225
科目名称	英語コミュニケーションⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	10-619
授業概要	This seminar is for students who are continuing their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.		
到達目標	•Students will further learn to take a critical approach to the study of English diversity. •Students will continue to develop their ability to find academic materials relevant to their research. •Students will continue to develop their ability to read and understand a variety of scholarly and educational materials. •Students will continue to improve their ability to explain and discuss research. •Students will continue to improve their ability to understand and ask questions of their peers' research.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業 : Confirm class aims, re-introduce the foundational aspects of studying and researching "English Diversity" 復習 : Students consider the possible directions of their research for this semester	
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Students bring ideas about their research topic for this semester related to diversity in English 授業 : Research questions and discussion, methodologies 1. 復習 : Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback	
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Students select a mini-research topic 授業 : Research questions and discussion, methodologies 2. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, methodologies 3. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation guidance 1. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation guidance 2. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation preparation 1. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Research questions and discussion, presentation preparation 2. 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	

9	M.ブラウン	【第9回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 3. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback							
10	M.ブラウン	【第10回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, presentation preparation 4. 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback							
11	M.ブラウン	【第11回】 予習：Students work on their research project 授業：Presentations, discussion 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback							
12	M.ブラウン	【第12回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, Report guidance 1. 復習：Students work on their report							
13	M.ブラウン	【第13回】 予習：Students work on their research project 授業：Research questions and discussion, Report guidance 2. 復習：Students work on their report							
14	M.ブラウン	【第14回】 予習：Students finish their report 授業：Research questions and discussion, students submit report 復習：Review class notes							
15	M.ブラウン	【第15回】 予習：Students work on their research project 授業：Review and feedback 復習：Look at tasks for the next semester, think about research direction for the fourth-year thesis							
授業開始前学習		Read as widely as possible about the history of English and different kinds of English that exist today.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive oral and written feedback from the instructor regarding presentations and reports, and feedback from their peers regarding presentations.							
テキスト・教材		There is no set text. Required readings will be provided by the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Preparation and Participation in class discussions (40%) Presentation (30%) Research report (30%)							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		Each student will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. A written report will also be submitted. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1226
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅠ」に引き続き、英語を中心とした言語全般の研究を行う。特に、言語と思考の関係性を意識しながら事例を考察し、言語直感をさらに精錬させる。同時に、学術書や研究論文の講読も継続して行うことで、言語学的な視座を獲得する。なお、引き続き学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	・言語と思考の関係をさらに深く理解できる。 ・英語に対する深い言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を客観的にみることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。個人研究について見直しておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。	
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (1) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (2) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (3) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (4) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (5) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (6) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (7) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (8) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (9) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (10) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	

12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（11） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（12） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（13） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出 1 年間の振り返り 来年度に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。							
授業開始前学習		授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書		必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法		進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-23	授業コード	FC1227
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、共に考えていきます。後期演習は、各受講生の前期末レポートに基づいて、具体的な研究報告を中心に進めていきます。はじめに、レジュメの作成の仕方、参考文献の選び方、研究報告の仕方について個別に指導を行います。報告時には、ゼミ生全員に意見や感想を求めます。レジュメは丁寧に添削して返却し、次のレポート作成へとつなげていただきます。各自のテーマへの理解をさらに深めてください。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力をつけることを目標とします。第 2 回報告と第 2 回レポート作成を目指します。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	【第 1 回】 予習 : 各研究テーマに関する第 1 回研究レポートに基づいた資料収集 授業 : 「英語コミュニケーションゼミⅡ」で学ぶ意義 : 演習の目的・内容・学習の方法 (第 1 回提出レポートを踏まえて) 復習 : 第 1 回研究レポートおよび報告レジュメの見直し	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集 授業 : 全体指導 : レジュメ作成・参考文献の調べ方・研究報告の方法 復習 : 第 2 回授業ノートの整理および添削事項の見直し	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業 : 個別指導 : レジュメ作成・参考文献の調べ方・研究報告の方法 (助言および添削指導) 復習 : 第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (1) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (1) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (1)	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (2) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (2) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (2)	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (3) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (3) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (3)	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (4) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (4) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (4)	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (5) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (5) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (5)	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (6) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (6) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (6)	

10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (7) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (7) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (7)							
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (8) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (8) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (8)							
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (9) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (9) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (9)							
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : 第 2 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (10) 授業 : ゼミ生による第 2 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (10)「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 2 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (10)							
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : 第 2 回レポートの作成に向けた資料収集と問題点の整理 授業 : 全体および個別指導 : 添削済みレジュメに基づく第 2 回レポート作成の手引き「ディスカッション」 復習 : 個別指導に基づく各問題点の見直し							
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : 第 2 回研究レポートの完成 授業 : 「研究テーマ」発展学習の手引き : 第 2 回レポート提出および次回報告に向けた学習指針の提示 復習 : 第 15 回授業ノートの整理、および第 3 回研究報告レジュメ作成に向けた資料収集							
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業第 4 回目以降における個別研究報告に対して、第 2 回研究報告レジュメおよび第 2 回研究レポートに基づき講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）							
参考書		授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法		単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目		この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。							
その他		後期補講期間中に正課学外活動として実務訪問を予定しております。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-24 (J)	授業コード	FC1232
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-508
授業概要	教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることにも可能である。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることでもある。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいのかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。		
到達目標	基本的な研究方法を学び、適切に研究を進めることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を身につけることを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	中野 達也	【第 1 回】 予習：自己紹介の準備をする、ゼミの方針について自分の考えをまとめる 授業：自己紹介を行う。ゼミの方針について話し合う（ディスカッション）（発表） 復習：ゼミの方針と自身の研究について考える	
2	中野 達也	【第 2 回】 予習：自身の関心のあるテーマを列挙する 授業：関心のあるテーマについて発表し、意見交換する（ディスカッション）（発表） 復習：自分の研究テーマを決める	
3	中野 達也	【第 3 回】 予習：自分の研究計画を立てる 授業：研究方法について学ぶ（ディスカッション）（発表） 復習：研究方法に基づいてレジュメを作る	
4	中野 達也	【第 4 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（1）例 いじめ問題についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
5	中野 達也	【第 5 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（2）例 生徒指導についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
6	中野 達也	【第 6 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（3）例 生徒名簿、座席についての考察（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
7	中野 達也	【第 7 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（4）例 駒女生的の英語学習歴についての調査、研究計画についてのレポートの提出（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
8	中野 達也	【第 8 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（5）例 日本と海外の入試問題の比較（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	
9	中野 達也	【第 9 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（6）例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察、研究計画についてのレポートの講評（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る	

10	中野 達也	【第 10 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（7）例 学習指導要領の変遷について（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
11	中野 達也	【第 11 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（8）例 英語の歌を使った文法指導法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
12	中野 達也	【第 12 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（9）例 映画を使った英語学習法（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
13	中野 達也	【第 13 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（10）例 語彙サイズと読解スピードの関係（発表）（ディスカッション）、研究の進捗状況についてのレポートの提出 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
14	中野 達也	【第 14 回】 予習：発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業：学生発表およびディスカッション。その後指導助言する（11）例 多読の効果（発表）（ディスカッション） 復習：発表者は発表を振り返り、研究計画を練り直す。他の学生は自身のレジュメを作る															
15	中野 達也	【第 15 回】 予習：前期発表者のレジュメを再読する 授業：全体の振り返りと、今後の研究について発表する。研究の進捗状況についてのレポートの講評（発表）（ディスカッション） 復習：これまでの研究をまとめ、今後の研究について考察する															
授業開始前学習		書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。															
テキスト・教材		授業中に適宜参考資料を配布する															
参考書		各自の研究テーマに応じて適宜指示する															
評価の基準と方法		授業への参加態度 50 点 発表とレポート 50 点															
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○								◎				○		△	
関連科目																	
その他		発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。 9 月中旬に卒論・ゼミレポート合宿（場所未定）を予定している。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員と教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。															

科目分類		113-310-24		授業コード	FC1233	
科目名称		英語コミュニケーションⅢ		単位数	1.0 単位	
英文名称		Seminar on English Communication Ⅲ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者		松山 響子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員		松山 響子		開講時期	4 年	
オフィスアワー		前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30		研究室	10-605	
授業概要		学生は各自のテーマをもとに、昨年度から引き続いて研究活動行う。英語コミュニケーションゼミⅢでは、基本文献の講読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、ディスカッションの方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。				
到達目標		・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる ・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる ・他者の発表を理解し批判をすることができるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	松山 響子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認 授業 : 学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習 : 自分の研究の方向性確認				
2	松山 響子	【第 2 回】 予習 : 自分の研究の方向性について考える 授業 : 文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習 : 自分の研究の方向性と作品の内容確認				
3	松山 響子	【第 3 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習				
4	松山 響子	【第 4 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習				
5	松山 響子	【第 5 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習				
6	松山 響子	【第 6 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習 : ゼミ学習文献復習				
7	松山 響子	【第 7 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習 : ゼミ学習文献復習				
8	松山 響子	【第 8 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習				
9	松山 響子	【第 9 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習				
10	松山 響子	【第 10 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習				
11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（4）				

		復習：ゼミ学習文献復習							
12	松山 響子	【第 12 回】 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（5） 復習：ゼミ学習文献復習							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（6） 復習：ゼミ学習文献復習							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習：ゼミ学習文献予習 授業：学生発表（討論・指導）（7） 復習：ゼミ学習文献復習							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習：前期ふりかえり 授業：まとめ 復習：後期に向けての課題確認							
授業開始前学習		翌週の文献学習、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材		特に一つのものを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。							
参考書		『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』 斉藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法		授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目		イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他		ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。学期末に全ての英語コミュニケーションゼミの学生が集まり、合同発表会を行います。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-24	授業コード	FC1234
科目名称	英語コミュニケーションⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-608
授業概要	Students will deepen their research into their chosen topic in cultural studies. Students will learn methods of conducting research as well as how to report their findings. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Preview the syllabus 授業 : Guidance and confirmation of course goals. 復習 : Students think about the direction of their research	
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Students plan the direction of their research 授業 : Introduction to cultural studies 復習 : Students establish the direction and subject matter of their research	
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Students work on their own research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	

11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (1) 復習 : Students work on research presentation materials							
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (2) 復習 : Students work on research presentation materials							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Prepare for final presentation (3) 復習 : Students work on research presentation materials							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Presentation reflections							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Continue working on presentation reflections 授業 : Review and feedback 復習 : Look at the themes and tasks in the 2nd semester							
授業開始前学習		Reflect on what you have studied in the seminar so far and be prepared to discuss it in class.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports.							
テキスト・教材		There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-24	授業コード	FC1235
科目名称	英語コミュニケーションⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	10-619
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.		
到達目標	・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will develop their ability to read and understand a variety of scholarly and educational materials. ・Students will improve their ability to explain and discuss research. ・Students will improve their ability to understand and ask questions of their peers' research.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習 : Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業 : Review and Discuss the contents from I and II 復習 : Students consider the possible directions of their research for this semester	
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習 : Students bring ideas about examples of diversity in English 授業 : Review and Discuss the contents from I and II, cont. 復習 : Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback	
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習 : Prepare draft outline 授業 : Research writing strategies 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習 : Revise drafts 授業 : Strategies for reading research, with the aim to improve one's one writing 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習 : Prepare research questions and methods 授業 : How to conduct surveys and interviews, part 1 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習 : Prepare research questions and methods 授業 : How to conduct surveys and interviews, part 2 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習 : Revise research questions and methods 授業 : Language attitude research 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習 : Prepare mid-research report 授業 : Mid-research reports and peer-feedback 復習 : Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback	
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習 : Revise projects as needed 授業 : Strategies for presenting research	

科目分類	113-310-24			授業コード	FC1236	
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅢ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	工藤 俊			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	工藤 俊			開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-607	
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅠ・Ⅱ」に引き続き、この授業では英語という個別言語を様々な視点から丁寧に観察する。特に言語と思考の関係を意識しながら、学生が関心のある表現をつぶさに観察し、それらに納得のいく説明を与えていくことを目指す。同時に、自身の研究への示唆となるように学術書や研究論文を精読する。また、個人研究発表や討論を通じて自身の考えを言語化すること、そして他者の意見を精査することの大切さも学ぶ。なお、学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。					
到達目標	・言語と思考の関係が深く理解できる。 ・英語に対する言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を俯瞰できる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回		複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	工藤 俊		【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。自身の研究のブレインストーミングをしておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。			
2	工藤 俊		【第 2 回】 予習：自身の興味関心をまとめ、発表の準備をする。 授業：興味関心についての発表および討論 復習：個人研究の方針を立てる。			
3	工藤 俊		【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（1） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
4	工藤 俊		【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（2） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
5	工藤 俊		【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（3） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
6	工藤 俊		【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（4） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
7	工藤 俊		【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（5） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
8	工藤 俊		【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（6） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
9	工藤 俊		【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（7） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			
10	工藤 俊		【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（8） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。			

11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（9） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。						
12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（10） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。						
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（11） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。						
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（12） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。						
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出 前期の振り返り 後期に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。						
授業開始前学習		授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。						
テキスト・教材		井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）						
参考書		必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。						
評価の基準と方法		進捗報告及び発表：40%、レポート：60%						
ディプロマポリシー	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎		○	△
関連科目								
その他	個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	113-310-24	授業コード	FC1237
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、受講生と共に考えていきます。すでに、各自のテーマは明確になっていると思います。3 年次の研究成果を踏まえて、さらにレジュメを充実させていきましょう。事前指導とレジュメ作成、研究報告と討論、そしてレポート作成を繰り返しながら、自身のテーマへの理解を深めていってください。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけます。第 3 回報告と第 3 回研究レポート作成を目指します。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	【第 1 回】 予習 : 各研究テーマに関する第 2 回研究レポートに基づいた資料収集 授業 : 「英語コミュニケーションゼミⅢ」で学ぶ意義 : 演習の目的・内容・学習の方法 (第 2 回提出レポートを踏まえて) 復習 : 第 2 回研究レポートおよび第 2 回報告レジュメの見直し	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集 授業 : 全体指導 : レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 3 回研究報告の方法 復習 : 第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業 : 個別指導 : レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 3 回研究報告の方法 (助言および添削指導) 復習 : 第 3 回授業ノートの整理および添削事項の見直し	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (1) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (1) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (1)	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (2) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (2) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (2)	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (3) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (3) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (3)	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (4) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (4) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (4)	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (5) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (5) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (5)	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (6) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (6) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (6)	

10	福王 守	【第 10 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (7) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (7) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (7)															
11	福王 守	【第 11 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (8) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (8) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (8)															
12	福王 守	【第 12 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (9) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (9) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (9)															
13	福王 守	【第 13 回】 予習 : 第 3 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (10) 授業 : ゼミ生による第 3 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (10)「ディスカッション」 復習 : 報告者自身による第 3 回レポートの作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (10)															
14	福王 守	【第 14 回】 予習 : 第 3 回レポートの作成に向けた資料収集と問題点の整理 授業 : 全体および個別指導 : 添削済みレジュメに基づく第 3 回レポート作成の手引き 復習 : 個別指導に基づく各問題点の見直し															
15	福王 守	【第 15 回】 予習 : 第 3 回レポートの完成 授業 : 「研究テーマ」発展学習の手引き : 第 3 回レポート提出および次回報告に向けた学習指針の提示 復習 : 第 15 回授業ノートの整理、および第 4 回研究報告レジュメ作成に向けた資料収集															
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業第 4 回目以降における個別研究報告に対して、第 3 回提出レジュメおよび第 3 回報告レポートに基づき講評と質問に対する回答を行います。															
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年） 『ポケット六法』（有斐閣）															
参考書		授業を通じて適宜紹介します。															
評価の基準と方法		単位取得の前提として、全ての授業回数のうち 10 回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、およびレポート（50%）により総合的に評価します。															
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○								◎				○		△	
関連科目		この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。															
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	113-310-24 (J)			授業コード	FC1242
科目名称	英語コミュニケーションⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	中野 達也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	中野 達也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-508
授業概要	前期同様、教育全般を研究テーマとして扱う。学校教育の中で、いじめ問題や生徒指導、部活指導などを研究テーマとして取り上げることでもある。また、英語教育に焦点を当て、英語学習の課題や指導方法を取り上げることでもある。あるいは、日本と他国の英語教育を比較することも研究に値する。英語学習の実態を探り、学習者のために何をしたらいいかを考える機会とする。ゼミはディスカッションを中心に行う。各自の研究テーマに応じて、先行研究を行い、必要に応じて実態調査や実験も実施する。前期の研究をさらに進める。				
到達目標	前期に学んだ研究方法をもとに、研究計画を修正し、研究を完成させることができるようになる。 自分の考えを適切に伝え、他者の意見に耳を傾け、質問に適切に回答するという、他者とのインタラクションを通してコミュニケーション力を一層伸ばすことを目的とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	【第 1 回】 予習 : 前期までの研究の進捗状況を整理しておく 授業 : 各自の研究の進捗状況を説明する 復習 : 研究計画に修正を加える			
2	中野 達也	【第 2 回】 予習 : 先行研究について整理する 授業 : 研究のまとめ方について学ぶ 復習 : 研究のまとめのフォーマットを作る			
3	中野 達也	【第 3 回】 予習 : 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (1) 例 いじめ問題についての考察 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
4	中野 達也	【第 4 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (2) 例 生徒指導についての考察 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
5	中野 達也	【第 5 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (3) 例 生徒名簿、座席についての考察 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
6	中野 達也	【第 6 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (4) 例 駒女生的英語学習歴についての調査 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
7	中野 達也	【第 7 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (5) 例 日本と海外の入試問題の比較 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
8	中野 達也	【第 8 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (6) 例 発音記号とカタカナ表記の有効性についての考察 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
9	中野 達也	【第 9 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (7) 例 学習指導要領の変遷について 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			
10	中野 達也	【第 10 回】 発表者は発表準備をする。他の学生は発表者のレジュメを熟読し、疑問点を列挙する 授業 : 学生発表およびディスカッション。その後指導助言する (8) 例 英語の歌を使った文法指導法 復習 : 発表者は発表を振り返り、研究のまとめを始める。他の学生は自身のレジュメを作る			

11	中野 達也	【第 11 回】 予習 : 自分の研究を整理する 授業 : 研究レポートを作成する 復習 : 研究レポートの加筆修正をする							
12	中野 達也	【第 12 回】 予習 : 合同発表会のテーマを考える 授業 : 合同発表会のテーマを決定する 復習 : 合同発表会における自分の役割を確認する							
13	中野 達也	【第 13 回】 予習 : 合同発表会の準備をする 授業 : 合同発表会の練習 復習 : 練習の振り返りをし、改善すべき点を改める							
14	中野 達也	【第 14 回】 予習 : 原稿を読み、発表の練習をする 授業 : 英語コミュニケーションゼミ合同発表会 復習 : 発表を振り返り、考察する							
15	中野 達也	【第 15 回】 予習 : 後期発表者のレジュメを再読する 授業 : 後期の振り返りと、今後の研究について発表する。 復習 : 後期の研究をまとめ、次年度の研究について考察する							
授業開始前学習		書籍や各種メディアを適切に使用し、日常的に教育問題や英語教育等について関心を持つ。 自身の中学・高校で受けてきた教育について振り返る。 自身の研究に必要な文献を読む。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出されたレポート等については個別にフィードバックを行う。 共通課題については適宜取り上げ全員で共有する。							
テキスト・教材		授業中に適宜参考資料を配布する							
参考書		各自の研究テーマに応じて適宜指示する							
評価の基準と方法		授業への参加態度・提出物 50点 ゼミレポート 50点							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		発表やディスカッションに積極的に参加すること。 発表者はレジュメを事前に提出すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		中学校・高等学校教員と教科指導や生徒指導・進路指導など各種校務分掌を実践してきた経験を活かし、教員に求められる資質・能力についての講義・演習を行う。							

科目分類	113-310-24			授業コード	FC1243	
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅣ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on English Communication IV			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	松山 響子			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	松山 響子			開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30			研究室	10-605	
授業概要	前期から引き続いて研究活動行う。英語コミュニケーションゼミⅣでは、基本文献の講読をベースに、専門的な学術情報の収集方法、報告発表のスキル、ディスカッションの方法、論理的な思考などの指導に重点をおく。					
到達目標	・小説や戯曲、詩、映画などを批判的に読むことができるようになる ・論文を書く際に必要な参考文献を横断的に探せるようになる ・膨大な文章を読んで、自分なりに理解しまとめることができるようになる ・自分の論文を書き上げ、それを批判的に読んで修正することができるようになる ・他者の発表を理解し批判をすることができるようになる ・他者の発表に対して適切なアドバイスを与えることができるようになる					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回		複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	松山 響子		【第 1 回】 予習 : シラバスを確認 授業 : 学習目標の確認、発表の予定表作り、発表内容の紹介など 復習 : 自分の研究の方向性確認			
2	松山 響子		【第 2 回】 予習 : 自分の研究の方向性について考える 授業 : 文学研究とは何か？ 文学作品や文化事象についての研究方法の説明 復習 : 自分の研究の方向性と作品の内容確認			
3	松山 響子		【第 3 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習			
4	松山 響子		【第 4 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習			
5	松山 響子		【第 5 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習			
6	松山 響子		【第 6 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（4） 復習 : ゼミ学習文献復習			
7	松山 響子		【第 7 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : ゼミ学習文献発表（討論・指導）（5） 復習 : ゼミ学習文献復習			
8	松山 響子		【第 8 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（1） 復習 : ゼミ学習文献復習			
9	松山 響子		【第 9 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（2） 復習 : ゼミ学習文献復習			
10	松山 響子		【第 10 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表（討論・指導）（3） 復習 : ゼミ学習文献復習			

11	松山 響子	【第 11 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表 (討論・指導) (4) 復習 : ゼミ学習文献復習							
12	松山 響子	【第 12 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表 (討論・指導) (5) 復習 : ゼミ学習文献復習							
13	松山 響子	【第 13 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表 (討論・指導) (6) 復習 : ゼミ学習文献復習							
14	松山 響子	【第 14 回】 予習 : ゼミ学習文献予習 授業 : 学生発表 (討論・指導) (7) 復習 : ゼミ学習文献復習							
15	松山 響子	【第 15 回】 予習 : 後期ふりかえり 授業 : まとめ 復習 : ゼミ論に向けての課題確認							
授業開始前学習		翌週の文献学習、学生発表で取り扱われる作品を必ず読んでくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		必ず学期につき 1 回は発表を行い、それに基づいてレポートを作成する。レポートは講評をして返却をする。							
テキスト・教材		特に一つのことを指定しません。随時紹介するので、図書館で調べてきてください。							
参考書		『イギリス文学史入門』 川崎寿彦著 研究社 『イギリス文学史』 齊藤勇著 研究社 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋 好枝著 ミネルヴァ書房 『アメリカ文学史』 西田 実著 成美堂							
評価の基準と方法		授業参加態度・授業内活動・その他から評価していきます。授業参加態度 40 点、授業内活動 40 点、レポート 20 点。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目		イギリス文学Ⅰ、イギリス文学Ⅱ、アメリカ文学Ⅰ、アメリカ文学Ⅱ							
その他		ゼミですので出席を重視します。欠席をする際は必ず事前に連絡を入れてください。 各自のテーマにそって、1 セメスターに少なくとも 1 回は発表することを求められます。発表者は新聞、雑誌、参考図書などから自分の考えにそった資料を探し出してくる努力をしてください。発表者以外の学生も受身的に聞いているだけではなく、意見や質問を活発に述べることが求められます。学期末に全ての英語コミュニケーションゼミの学生が集まり、合同発表会を行います。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-24	授業コード	FC1244
科目名称	英語コミュニケーションⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	T. プラザ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	T. プラザ	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-608
授業概要	Students will further deepen their research into their chosen topic in cultural studies. Along with presentations in English, students will focus on preparing a written thesis of their research. Students may choose topics of research connected to culture or sociolinguistics. Possible areas include: Issues with living or working overseas, International families within Japan and abroad, Gender in relation to culture and language, National cultures, Subcultures, Bilingualism, Language preservation. Many other topics are also possible.		
到達目標	Students will learn to take a critical approach to cultural studies. Students will develop the ability to find academic materials relevant to their research. Students will improve their ability to give presentations as well as interact with other students giving presentations in English. Students will develop their ability to write about their research in English.		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	T. プラザ	【第 1 回】 予習 : Students prepare to talk about their interests 授業 : Guidance. Students discuss their research interests. 復習 : Students work on a research plan	
2	T. プラザ	【第 2 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (1) (presentation) 復習 : Students work on a research plan	
3	T. プラザ	【第 3 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (2) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
4	T. プラザ	【第 4 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (3) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
5	T. プラザ	【第 5 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (4) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
6	T. プラザ	【第 6 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (5) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
7	T. プラザ	【第 7 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (6) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
8	T. プラザ	【第 8 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (7) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
9	T. プラザ	【第 9 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (8) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	
10	T. プラザ	【第 10 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (9) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class	

11	T. プラザ	【第 11 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (10) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class							
12	T. プラザ	【第 12 回】 予習 : Students work on their research project 授業 : Student research presentations (discussion・guidance) (11) (presentation) 復習 : Students adjust their research work based on feedback received in class							
13	T. プラザ	【第 13 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation workshop 復習 : Students work on research presentation materials							
14	T. プラザ	【第 14 回】 予習 : Students work on research presentation materials 授業 : Final presentation (presentation) 復習 : Final presentation workshop							
15	T. プラザ	【第 15 回】 予習 : Work on presentation reflections 授業 : Review and feedback 復習 : Look at the themes and tasks in the following academic year							
授業開始前学習		Reflect on what you have researched in the seminar so far and be prepared to summarize it in class.							
授業内課題のフィードバックの方法		Students receive feedback from their instructor and peers regarding their presentations and reports							
テキスト・教材		There is not set textbook. Students will find reading material for their chosen topics with the guidance of the instructor.							
参考書									
評価の基準と方法		Class participation 30%, class activities (presentations) 40%, research report 30%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		Students will be required to make at least one presentation per semester on their research theme. Presenters find materials from newspapers, magazines, academic journals, reference books, etc. Students who are not presenting should actively express their opinions and ask questions.							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-24			授業コード	FC1245
科目名称	英語コミュニケーションⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	4 年
オフィスアワー	－			研究室	10-619
授業概要	This seminar is for students who are beginning their research about English diversity, in English. We will investigate topics related to the historical development of various kinds of English, the spread of English around the world, the role of English in various social and cultural environments, how various kinds of English are similar or different to one another, variation and change in the English language (both in the past and in the present-day), and the cultures and peoples who use English. The topics, therefore, will be cross-disciplinary and involve linguistics, sociology, and cultural studies, amongst others.				
到達目標	・Students will learn to take a critical approach to the study of English diversity. ・Students will develop their ability to find academic materials relevant to their research. ・Students will develop their ability to read and understand a variety of scholarly and educational materials. ・Students will improve their ability to explain and discuss research. ・Students will improve their ability to understand and ask questions of their peers' research.				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	M.ブラウン	【第 1 回】 予習：Look over the syllabus, prepare to talk about the goals of the course 授業：Review and Discuss the contents from III 復習：Students consider the possible directions of their research for this semester			
2	M.ブラウン	【第 2 回】 予習：Set writing goals, target deadline 授業：Writing strategies and workshopping 復習：Students adjust their ideas about research based on class notes, discussion, and feedback			
3	M.ブラウン	【第 3 回】 予習：Prepare draft outline 授業：Common problems with the presentation of research (lecture) 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
4	M.ブラウン	【第 4 回】 予習：Revise drafts 授業：Strategies for reading research, with the aim to improve one's one writing 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
5	M.ブラウン	【第 5 回】 予習：Revise drafts 授業：Common expressions and grammar in academic research writing 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
6	M.ブラウン	【第 6 回】 予習：Revise drafts 授業：Workshop: Peer- and instructor-feedback on drafts so far 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
7	M.ブラウン	【第 7 回】 予習：Prepare oral presentation 授業：Presentations of basic findings 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
8	M.ブラウン	【第 8 回】 予習：Revise drafts 授業：Workshop: dealing with with statistical analysis problems, how to interpret statistics 復習：Students adjust their research based on class notes, discussion, and feedback			
9	M.ブラウン	【第 9 回】 予習：Revise drafts as needed 授業：How to situate research			

科目分類	113-310-24	授業コード	FC1246
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	工藤 俊	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	工藤 俊	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50	研究室	10-607
授業概要	「英語コミュニケーションゼミⅢ」に引き続き、英語を中心とした言語研究を行う。特にこの授業では、大学生生活の集大成としてのゼミ論文を完成させることに主眼を置き、それに向けて引き続き言語と思考の関係性を意識しながら事例をつづさに観察する。同時に、学術書や研究論文の講読も継続して行うことで、言語学的な視座を獲得する。なお、引き続き学生が読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で共有することもできる。		
到達目標	・言語と思考の関係を深く理解し、応用することができる。 ・英語に対する深い言語直感を養える。 ・個人研究発表や討論を通じて、自身の思考を客観的にみることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	工藤 俊	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでくる。個人研究について見直しておく。 授業：オリエンテーション 復習：授業方針を確認する。	
2	工藤 俊	【第 2 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (1) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
3	工藤 俊	【第 3 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (2) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
4	工藤 俊	【第 4 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (3) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
5	工藤 俊	【第 5 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (4) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
6	工藤 俊	【第 6 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (5) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
7	工藤 俊	【第 7 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (6) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
8	工藤 俊	【第 8 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (7) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
9	工藤 俊	【第 9 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (8) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
10	工藤 俊	【第 10 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (9) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	
11	工藤 俊	【第 11 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論 (10) 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。	

12	工藤 俊	【第 12 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（11） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
13	工藤 俊	【第 13 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（12） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
14	工藤 俊	【第 14 回】 予習：講読予定の箇所を読み、意見や疑問点を整理しておく。個人研究については進捗報告の準備をする。 授業：講読および討論 個人研究の進捗報告および討論（13） 復習：講読で学んだことを整理する。個人研究を進める。							
15	工藤 俊	【第 15 回】 予習：自身の研究を概観する。 授業：レポート提出 1 年間の振り返り 来年度に向けて 復習：自身の今後の研究方針を考える。							
授業開始前学習		授業で扱う学術書や研究論文の該当箇所は必ず事前に読み、自分なりの意見や疑問点を整理しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		個人研究発表に対しては、教員からだけでなく学生からも意見を出し、総合的に議論する。 レポートについては個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		井上逸兵『英語の思考法』（ちくま書房）2021 年（ISBN: 978-4-480-07410-2）							
参考書		必要に応じて学術書や論文を紹介し、授業内で講読する。							
評価の基準と方法		進捗報告及び発表：40%、レポート：60%							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目									
その他		個人研究のために読みたい学術書や研究論文があれば、授業内で講読することが可能ですので、積極的に申し出てください。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-310-24	授業コード	FC1247
科目名称	英語コミュニケーションゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on English Communication IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	福王 守	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	福王 守	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	この演習では、未解決な社会問題の解決の糸口を、主に法的な分析を通じて検討します。一人ひとりが人格の担い手として尊重されるための課題を、受講生と共に考えていきます。いよいよ研究の総仕上げです。最後の報告に向けて、しっかりとレジュメを作成してください。みなさんは 2 年間にわたり、ご自身のテーマについて真剣にレジュメ作成・報告・レポート作成を行ってきました。その成果を、ぜひゼミ論文として完成させてください。		
到達目標	市民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえ、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけます。第 4 回報告とゼミ論文の完成を目指します。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	福王 守	【第 1 回】 予習 : 各研究テーマに関する第 3 回研究レポートに基づいた資料収集 授業 : 「英語コミュニケーション専攻ゼミⅣ」で学ぶ意義 : 演習の目的・内容・学習の方法 (第 3 回提出レポートを踏まえて) 復習 : 本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し	
2	福王 守	【第 2 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集 授業 : 全体指導 : レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 4 回研究報告の方法 復習 : 本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し	
3	福王 守	【第 3 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集と問題点の確認 授業 : 個別指導 : レジュメ作成・参考文献の調べ方・第 4 回研究報告の方法 (助言および添削指導) 復習 : 本日の授業ノートの整理および添削事項の見直し	
4	福王 守	【第 4 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (1) 授業 : ゼミ生による第 4 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (1) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (1)	
5	福王 守	【第 5 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (2) 授業 : ゼミ生による第 4 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (2) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (2)	
6	福王 守	【第 6 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (3) 授業 : ゼミ生による第 4 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (3) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (3)	
7	福王 守	【第 7 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (4) 授業 : ゼミ生による第 4 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (4) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (4)	
8	福王 守	【第 8 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (5) 授業 : ゼミ生による第 4 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (5) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (5)	
9	福王 守	【第 9 回】 予習 : 第 4 回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成 (6) 授業 : ゼミ生による第 4 回研究報告 : 受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導 (6) 「ディスカッション」 復習 : 報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成 (6)	

10	福王 守	【第10回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（7） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（7） 「ディスカッション」 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（7）							
11	福王 守	【第11回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（8） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（8） 「ディスカッション」 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（8）							
12	福王 守	【第12回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（9） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（9） 「ディスカッション」 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（9）							
13	福王 守	【第13回】 予習：第4回研究報告に向けた資料収集とレジュメの作成（10） 授業：ゼミ生による第4回研究報告：受講生間における討論、研究発展に向けた助言および添削指導（10） 「ディスカッション」 復習：報告者自身によるゼミ論文の作成、および報告者に対する質問と意見の作成（10）							
14	福王 守	【第14回】 予習：ゼミ論文作成に向けた資料収集と問題点の整理 授業：全体および個別指導：添削済みレジュメに基づく「ゼミ論文」作成の手引き 復習：個別指導に基づく各問題点の見直し							
15	福王 守	【第15回】 予習：ゼミ論文の完成 授業：「ゼミ論文」の提出と論文集作成：社会人としての自己研究テーマへの関わり方について（助言） 復習：ゼミ論文集の製本							
授業開始前学習		テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。そして、新たに得た知識をご自身の研究報告と論文に活かして下さい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業第4回目以降における個別研究報告に対して、第4回提出レジュメおよび第4回研究レポートに基づき毎回の講評と質問に対する回答を行います。							
テキスト・教材		古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第4版補訂版）』（尚学社、2016年） 『ポケット六法』（有斐閣）							
参考書		授業を通じて適宜紹介します。							
評価の基準と方法		単位取得の前提として、全ての授業回数のうち10回以上の出席が必要です。 演習への参加状況（50%）、および毎回のレポート（50%）により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成	世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	△
関連科目		この演習をよりよく運営するために、他の法律学関連の講義も履修してください。							
その他		後期補講期間中に正課学外活動として実務訪問を予定しております。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-24		授業コード	FC9902	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	中野 達也		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	中野 達也		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-508	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	中野 達也	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
3	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
4	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
5	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
6	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
7	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
8	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
9	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			

10	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
11	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
12	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
13	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
14	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
15	中野 達也	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当									
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-24		授業コード	FC9903	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	松山 響子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	松山 響子		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30		研究室	10-605	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松山 響子	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
3	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
4	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
5	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
6	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
7	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
8	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
9	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			

10	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
11	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
12	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
13	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
14	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
15	松山 響子	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当									
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-24		授業コード	FC9904	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	T. プラザ		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	T. プラザ		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-608	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	T. プラザ	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
3	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
4	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
5	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
6	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
7	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
8	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
9	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			

10	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
11	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
12	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
13	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
14	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
15	T. プラザ	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当									
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-24			授業コード	FC9905
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Thesis			授業区分	
科目責任者	M.ブラウン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	M.ブラウン			開講時期	4 年
オフィスアワー	－			研究室	10-619
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	M.ブラウン	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべく早い段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
3	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
4	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
5	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
6	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
7	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
8	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
9	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			

10	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
11	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
12	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
13	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
14	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
15	M.ブラウン	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当									
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-24		授業コード	FC9906	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	福王 守		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	福王 守		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00 後期 月曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00		研究室	10-614	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	福王 守	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
3	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
4	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
5	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
6	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
7	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
8	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
9	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			

10	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
11	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
12	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
13	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
14	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
15	福王 守	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当									
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	113-330-24		授業コード	FC9907	
科目名称	卒業論文		単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Thesis		授業区分		
科目責任者	工藤 俊		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	工藤 俊		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50 後期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 16:20～17:50		研究室	10-607	
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。				
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	工藤 俊	概要説明および受講生の研究テーマに沿った個別指導①（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む） 卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべく早い段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業論文の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。			
2	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導②（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
3	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導③（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
4	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導④（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
5	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑤（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
6	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑥（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
7	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑦（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
8	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑧（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			
9	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑨（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）			

10	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑩（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
11	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑪（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
12	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑫（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
13	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑬（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
14	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑭（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
15	工藤 俊	受講生の研究テーマに沿った個別指導⑮（研究室およびゼミ授業における研究報告等を含む）							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（所属ゼミ担当教員）と副査が評価して採点する。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当									
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談の上、日時を決めて随時指導を受ける必要がある。担当教員の中には、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	110-330-23 (J)	授業コード	FD0010
科目名称	日本文化実習	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice of Japanese Culture	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	下川 雅弘	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	下川 雅弘	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-706
授業概要	この授業では、江戸時代の京都の名所案内記である『京城勝覧』を翻刻・読解し、『新撰増補 京大絵図』や『掌中雲上抜錦』という古地図で当時の状況を確認の上、これらの史料に記載されていた京都の名所旧跡を 12 月初旬（12 月 7～8 日を予定）に訪問する。事前調査と現況調査により、京都を通じて日本文化の特徴の一端を考察する。授業では課題解決型学習・グループワーク・フィールドワーク・発表を行う。		
到達目標	1. 江戸時代の文献史料を実践的に読解することができる。 2. 文献史料に記載された史跡の現況から、日本文化の特徴を理解することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	10 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	下川 雅弘	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、学修内容を確認する 授業：ガイダンス（京都研修のスケジュール、訪問する名所旧跡の解説） 復習：自分の考えを整理して提出する	
2	下川 雅弘	【第 2 回】 予習：「輪読史料の読解」「史料翻刻練習①」の部分について教科書を読んでおく 授業：輪読史料の読解／史料翻刻練習①（『京城勝覧』より「内裏」「相国寺」等の翻刻・読解） 復習：自分の考えを整理して提出する	
3	下川 雅弘	【第 3 回】 予習：「輪読史料の読解」「史料翻刻練習①」の部分について教科書を読んでおく 授業：史料翻刻練習②（『京城勝覧』より「誓願寺」「六角堂」「御土居」等の翻刻・読解）／翻刻課題の方法 復習：自分の考えを整理して提出する	
4	下川 雅弘	【第 4 回】 予習：翻刻課題のレジュメを提出する（30 点） 授業：翻刻課題の発表①（『京城勝覧』より「清水寺」「高台寺」「八坂神社」等の翻刻・読解）（課題解決型学習・発表） 復習：自分の考えを整理して提出する	
5	下川 雅弘	【第 5 回】 予習：（翻刻課題のレジュメを提出する） 授業：翻刻課題の発表②（『京城勝覧』より「銀閣寺」「東福寺」「三十三間堂」等の翻刻・読解）（課題解決型学習・発表） 復習：自分の考えを整理して提出する	
6	下川 雅弘	【第 6 回】 予習：グループワーク・発表のレジュメを提出する（10 点）／「京都の都市構造の変遷」の部分について教科書を読んでおく 授業：グループ別活動の研修目的とスケジュール発表（グループワーク・発表）／京都の都市構造の変遷 復習：自分の考えを整理して提出する	
7	下川 雅弘	【第 7 回】 予習：「京都研修のスケジュール」「訪問する名所旧跡の解説」の部分について教科書を読んでおく 授業：京都研修 1 日目（12 月 7 日（土）を予定）／東山周辺の名所旧跡を訪問・調査する（フィールドワーク） 復習：（京都研修の感想をフォームで提出する）	
8	下川 雅弘	【第 8 回】 予習：（「京都研修のスケジュール」「訪問する名所旧跡の解説」の部分について教科書を読んでおく） 授業：京都研修 2 日目（12 月 8 日（日）を予定）／京都御所周辺の名所旧跡を訪問・調査する（フィールドワーク） 復習：京都研修の感想をフォームで提出する	
9	下川 雅弘	【第 9 回】 予習：京都研修の成果を整理する 授業：グループ別活動の成果発表準備（グループワーク） 復習：自分の考えを整理して提出する	

[illegible]

科目分類	110-330-23 （J）		授業コード	FD0020	
科目名称	仏教文化実習		単位数	1.0 単位	
英文名称	Practice in Buddhist Culture		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	皆川 義孝		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	皆川 義孝		開講時期	3・4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00		研究室	10-507	
授業概要	仏教は、今から 1500 年以上前に日本に伝来し、その後、日本文化のさまざまな面と深く関わってきた。仏教が日本社会に定着する上で大きな役割を果たしたのが、寺院である。寺院は、金融、教育、医療、情報など、立地する地域社会にとって重要な役割を果たしている。つまり、寺院と地域社会の関わりを明らかに、日本の文化を知るための重要な部分ともなる。そこで、本実習では寺院が地域社会とどのような関わりをしてきたのか、寺院調査方法論を習得し、寺院から日本文化を考えるめの方法論を学修していく。授業では、グループワーク、発表を行う。				
到達目標	１．寺院と地域社会の関わりを調べる、分析することができる。 ２．寺院と地域社会との関わりから見えてくる日本文化を考察することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	8 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	皆川 義孝	【第 1 回】 予習 ：シラバスで授業内容を確認する。 授業 ：寺院と地域社会 復習 ：授業で学んだ事項をノートに整理する			
2	皆川 義孝	【第 2 回】 予習 ：寺院の意味について調べる 授業 ：寺院調査の基礎知識① 復習 ：授業で学んだ事項をノートに整理する			
3	皆川 義孝	【第 3 回】 予習 ：寺院の役割について調べる 授業 ：寺院調査の基礎知識② 復習 ：授業で学んだ事項をノートに整理する			
4	皆川 義孝	【第 4 回】 予習：調査先の寺院の基礎情報を調べる 授業：調査先の寺院の歴史と文化財 復習：授業で学んだ事項をノートに整理する			
5	皆川 義孝	【第 5 回】 予習：調査先の寺院について基礎情報を確認する 授業：寺院調査の実習（グループワーク） 復習：寺院調査で調べた事項をノートに整理する			
6	皆川 義孝	【第 6 回】 予習：寺院調査で調べて考えたことを確認する 授業：寺院調査の報告書の作成 復習：寺院調査の報告書の校正を行う			
7	皆川 義孝	【第 7 回】 予習：寺院調査の報告書を読む 授業：寺院調査の成果報告（発表） 復習：発表と質疑応答から考えた事項をノートに整理する			
8	皆川 義孝	【第 8 回】 予習：寺院と日本文化の関わりについて考える 授業：寺院から見た日本文化 レポート作成 復習：第 1 回から第 8 回までの授業について振り返る			
授業開始前学習		大学の図書館にある日本の歴史と寺院に関する図書を読んでおく授業が理解しやすい。			
授業内課題のフィードバックの方法		授業で提出する課題・レポートについては、適宜、講評を行い、個別の質問等に回答する。			
テキスト・教材		特定のテキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。			
参考書		今泉淑夫編『日本仏教史辞典』吉川弘文館、1999 年等。			
評価の基準と方法		配点（100 点満点における）は平常点（提出物） 3 0 点、レポート 50 点、発表 20 点で評価する。レポートは寺院調査を踏まえての提出なので、寺院調査参加を原則義務づける。			

ディプロマポリシー	日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			○		△		◎
関連科目	『歴史資料論』、『民俗資料論』、『日本文化実習』は、本科目の理解を深める上で関連する科目である。							
その他	都内近郊の寺院調査を 1 回行う。交通し 1,000 円程度。実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員のうち、皆川義孝は各地の寺院調査・文化財保護業務の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、第 2 回～第 3 回まで、日本の寺院と地域社会の関わり、寺院の調査方法等について講義する。							

科目分類		110-330-23		授業コード	FD0030												
科目名称		日本文化研修		単位数	1.0 単位												
英文名称		Training in Japanese Culture		授業区分	演習・実習・実技												
科目責任者		弥久保 宏		必修・選択	履修ガイド参照												
担当教員		弥久保 宏		開講時期	3・4 年												
オフィスアワー		前期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30		研究室	10-703												
授業概要		日本文化について、文献画像や映像を通じて多様な視点から学ぶことを目的とする。主に戦後昭和期の日本文化を家族、生活様式等を読み解くことにする。その上で、正課学外活動として関連施設（昭和館など）を訪れての研修を行い、観察力を養う。この授業では課題解決型学習を行う。															
到達目標		戦後、日本の家族形態や生活様式についての基本知識の習得と複眼的（比較文化的）な考察力を習得する。															
アクティブ・ラーニング 型授業		有	全授業回数		6 回		複数教員の場合の 授業形態										
授業 回数	担当者	授業の内容															
1	弥久保 宏	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス（授業回数と実施日や学外活動の場所、日時等の説明） 復習：ガイダンスでの要点を確認する															
2	弥久保 宏	【第 2 回】 予習：戦後昭和期の家庭を描いた主要な文献や映画をリストアップし時代背景を調べる 授業：戦後昭和期の日本の生活様式の変遷とその背景 復習：戦後昭和期を描いた日本映画や文献資料で当時の生活様式を確認する															
3	弥久保 宏	【第 3 回】 予習：D V D等で映画「東京物語」を鑑賞しておく 授業：小津安二郎監督「東京物語」にみる日本文化（家族形態、生活様式）の特徴 復習：東京物語に描かれている日本文化の特徴をまとめる															
4	弥久保 宏	【第 4 回】 予習：訪問先について調べる 授業：正課学外活動 復習：学外活動のまとめ															
5	弥久保 宏	【第 5 回】 予習：研修訪問先で調べた戦後昭和期の家庭や生活様式が変化すきっかけとなった政治、経済、社会的要因を調べる。 授業：研修訪問先で得られた成果の発表 復習：他の発表者の内容を参考にして自分の研修体験に厚みをつける。															
6	弥久保 宏	【第 6 回】 予習：レポート関連の資料整理 授業：レポート作成（課題解決型学習） 復習：レポートの推敲															
授業開始前学習		戦後昭和期の家族を題材にした映画の鑑賞や文献を読んでおくこと。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎にミニ・コメントを提出させる。															
テキスト・教材		適宜、資料を配布する。															
参考書		適宜、授業中に紹介する。															
評価の基準と方法		授業での積極性（40 点）、レポート（60 点）の合計点。レポートは現場研修を踏まえての提出なので、現場研修参加を原則義務つける。															
ディプロマポリシー		日本文化に関する幅広い教養力と、豊かな人間性の養成		社会人として必要な日本語のコミュニケーション力と、社会性の養成		日本文化に関する専門力と、諸問題に対する的確な判断力の養成		日本文化の創造的担い手となる技術力と、社会で活用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	

科目の該当	◎			○			△	◎
関連科目								
その他	(重要事項) 原則として正課学外活動(都内の昭和館)の参加を義務づける。交通費は 1000 円程度。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を満たさない者は、単位の対象から除外する。ガイダンスで講義日(正課学外活動)の提示を行うので、科目登録には、ガイダンスの出席を義務づける。事情によりガイダンスを欠席をした場合は、研究室を尋ねて了承を得てから科目登録を行うこと。新型コロナの影響により実習方法が変更される場合もある。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)							
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類	110-330-22 (J)			授業コード	FD0040
科目名称	身体文化実習 I			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice of Corporal Culture I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	別所 るみ子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	別所 るみ子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	しなやかな身体で美しく舞うバレエ、その基本的な練習を通して、美しい姿勢、身のこなしを学びます。日常生活のなかで役立つバレエの美しい要素～立ち方、首・背中への伸ばし方など～を習得します。実技を中心とした授業。毎回、基礎的な内容を練習し、課題曲では作品を踊る楽しさを大切にします。バレエの歴史や著名な作品、鑑賞する際に役立つ事柄を学び、バレエの芸術的な要素への理解を深めます。バレエ未経験者を対象とした授業内容ですが、バレエ経験者の履修も歓迎します。				
到達目標	自分の身体に対する意識を高め、美しい姿勢を日常的に心がけること。 バレエの基本練習と課題曲を踊る経験を通して、また、バレエの歴史や著名な作品を学ぶことで、バレエの芸術的な要素を理解すること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	別所 るみ子	【第 1 回】 予習：「バレエ」という言葉からイメージするもの・ことを考える 授業：授業内容の説明と履修上の諸注意。ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション（実習） 復習：ストレッチ、バレエの基本姿勢、脚・腕の基本ポジション			
2	別所 るみ子	【第 2 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：バレエの歴史概要。バーレッスン～脚の使い方を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：バレエの歴史概要確認。授業内容をエクササイズ名を確認して復習			
3	別所 るみ子	【第 3 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本ポジション 授業：3 大バレエ作品概要。バーレッスン～腕の使い方を重点的に（実習） 復習：3 大バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習			
4	別所 るみ子	【第 4 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：著名なバレエ作品概要。バーレッスン～上体・首の使い方を重点的に。センターレッスン～空間・方向（実習） 復習：著名なバレエ作品の動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習			
5	別所 るみ子	【第 5 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：世界のバレエ団概要。バー＆センターレッスン～ワルツをテーマに（実習） 復習：有名なバレエ団の劇場、バレエ作品動画を観る。授業内容をエクササイズ名を確認して復習。			
6	別所 るみ子	【第 6 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー＆センターレッスン～回転を重点的に。日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：授業内容を確認して復習、回転の首のつけ方			
7	別所 るみ子	【第 7 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：課題曲の説明。バー＆センターレッスン～課題曲の前半パート練習（実習） 復習：課題曲の振付、授業内容を確認して復習			
8	別所 るみ子	【第 8 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の前半・後半パートを練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習			
9	別所 るみ子	【第 9 回】 予習：ストレッチ、脚・腕の基本的な使い方 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の後半パートを練習（実習） 復習：課題曲の振付を覚えるよう練習、授業内容を確認して復習			
10	別所 るみ子	【第 10 回】 予習：ストレッチ、課題曲の振付を練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の細部を丁寧に練習、日常生活での美しい姿勢・歩き方（実習） 復習：課題曲を音楽にのって踊れるよう振付を覚えて練習、授業内容を確認して復習			

11	別所 るみ子	【第 11 回】 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲の細部を丁寧に練習した後、通して練習（実習） 復習：課題曲を音楽にのって踊れるよう振付を覚えて練習、授業内容を確認して復習							
12	別所 るみ子	【第 12 回】 予習：ストレッチ、課題曲：動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を工夫して練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。各自のスマホで動画撮影（実習） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習							
13	別所 るみ子	【第 13 回】 予習：ストレッチ、課題曲～動く方向、身体の向き、顔の向き、腕の使い方を確認し練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 1 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表） 復習：自分の動画を確認、課題曲を音楽とともに表現を深めて踊れるよう練習							
14	別所 るみ子	【第 14 回】 予習：発表 1 回目よりも良くなるように、細かい部分～動く方向、身体・顔の向き、腕の使い方を再確認し練習 授業：バー＆センターレッスン～課題曲を通して練習。発表 2 回目。各自のスマホで動画撮影（実習・発表） 復習：自分の動画を観て確認							
15	別所 るみ子	【第 15 回】 予習：ストレッチ、授業 1 回～14 回に学んだことをふり返る。 授業：バー＆センターレッスン、日常生活での美しい姿勢・歩き方、授業のまとめ（実習） 復習：バレエから学んだことを日常生活に取り入れ自分のものにする。美しい姿勢を常に心がける							
授業開始前学習		Wikipedia「バレエ」を読むと授業の理解が深まる。バレエ作品の動画を YouTube などで観る。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題は個別にフィードバックし、返却時に全体の講評を行う。							
テキスト・教材									
参考書		授業期間中に数冊紹介する。							
評価の基準と方法		平常点（授業に対する積極性・授業態度）40 点、提出課題 40 点、課題曲 20 点							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎	
関連科目									
その他		◆バレエシューズが必要。購入希望者は授業 1 回目にサンプルを試したうえで購入を申込み、授業 2 回目に受取る。 ◆バレエ用練習着または体操服など、動きやすい服装、髪型で出席すること。 ◆バレエの上手下手ではなく、真剣に学ぶ姿勢、個人の努力を重視する。 ◆バレエ用語は、日本のバレエクラスで一般的に使われている言葉を使用する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		豪徳寺ダンススクール、毎日新聞カルチャーセンター、企業研修プログラムなどで指導した経験を活かし、初心者から経験者まで楽しく取り組めるよう構成している。舞踊家として国内外で舞台、映画に多数出演、表現に関わる現場の視点も交えて指導にあたる。							

科目分類	110-330-22 (J)			授業コード	FD0050
科目名称	身体文化実習Ⅱ			単位数	1.0 単位
英文名称	Practice of Corporal CultureⅡ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤間 香鳳			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤間 香鳳			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	・和装について基本を学ぶ。 ・着物を美しく身につけ楽しむことができるようにする。 ・着物の着付けの演習を通して日本女性としての品格のある美しい立ち居振る舞いを目指す。 ・着物を着ての日本舞踊の表現を通して日本文化の探求とコミュニケーション力を高める。				
到達目標	・自分自身で着付けとたたみ方を習得する。 ・日本舞踊を通しての美しい立ち居振る舞いを身につけることを目標とする。 ・着物の着付けと動きの基礎を学ぶことで品格のある美しい女性を目指す。 ・日本舞踊を習得し自己表現力を高め発表と鑑賞を学習することでコミュニケーション能力を高める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤間 香鳳	【第 1 回】 予習 : 和服についての知識を確認 授業 : オリエンテーション・着物着付け、たたみ方、帯結びをプリントで確認し実践する 復習 : 着付けに必要なゆかたセットの確認			
2	藤間 香鳳	【第 2 回】 予習 : 着付けの順序をプリントで確認 授業 : 美しい着こなしと正しいたたみ方を知る 復習 : 美しく着付ける工夫と美しい仕草を確認			
3	藤間 香鳳	【第 3 回】 予習 : 着物の帯の結び方と手直しの確認 授業 : 素早く美しく着付け美しい仕草を体験する 復習 : 着物のたたみ方をプリントで再確認			
4	藤間 香鳳	【第 4 回】 予習 : 着物を着付けての身のこなしと美しい仕草を予習 授業 : 舞扇の正しい持ち方、美しい使い方、着物のたたみ方実技テスト 復習 : 順番と仕草の確認と着付けの実技テストの準備			
5	藤間 香鳳	【第 5 回】 予習 : 着付けの順番を確認し実技テストの準備 授業 : 美しい正座の姿勢と扇を使ってのお辞儀や歩き方を学ぶ、着付けのテスト。 復習 : 踊りの手順を確認			
6	藤間 香鳳	【第 6 回】 予習 : 踊りの手順を確認 授業 : 「祇園小唄」を踊る 復習 : 踊りの手順を確認			
7	藤間 香鳳	【第 7 回】 予習 : 踊りの手順を確認し、美しい動きができるかできているかを確認 授業 : 「祇園小唄」を踊る 復習 : 挨拶・踊り・終了の挨拶まで一連の流れを確認する			
8	藤間 香鳳	【第 8 回】 予習 : 着物に合う和の化粧と髪型について調べる 授業 : 「祇園小唄」を踊る。 復習 : 和服に相応しい化粧のしかたを確認、着物の身のこなし、舞踊の動きを確認			
9	藤間 香鳳	【第 9 回】 予習 : 踊りの手順の確認 授業 : 「祇園小唄」実技テスト 復習 : 素早い着付けとたたみ方の確認			
10	藤間 香鳳	【第 10 回】 予習 : 発表のための踊り込み 授業 : 「祇園小唄」グループ発表と鑑賞、相互評価 復習 : グループ学習の反省と自己評価			

11	藤間 香鳳	【第 11 回】 予習 : 「さくら さくら」の歌詞を調べる 授業 : 「さくら さくら」を踊る 復習 : 踊りの流れと手順の確認							
12	藤間 香鳳	【第 12 回】 予習 : 扇の使い方について確認 授業 : 「さくら さくら」を踊る 復習 : 扇子を使った正式な挨拶の確認							
13	藤間 香鳳	【第 13 回】 予習 : 踊りの手順を確認 授業 : 「さくら さくら」を踊る。正月に向けて挨拶、お茶の出し方茶の飲み方の実践 復習 : 曲想にあった季節感や背景を考えた踊りの復習							
14	藤間 香鳳	【第 14 回】 予習 : 発表会をイメージする 授業 : 「さくら さくら」実技テスト。 復習 : 出来栄えを確認する							
15	藤間 香鳳	【第 15 回】 予習 : 発表会をイメージする。着物を着ての日常生活の立ち居振る舞いをイメージする 授業 : 「さくら さくら」グループ発表と鑑賞、相互評価 復習 : 自己の取り組みと成長を確認し今後の生活に生かす工夫をする							
授業開始前学習		・着付けに必要な着物道具についてインターネットで調べておく ・浴衣、半幅帯、足袋、着物用下着、ひも類など用意できる持ち物の確認をしておく							
授業内課題のフィードバックの方法		・出題されたプリントをチェックし、質問に答えたものを返却する。 ・身体表現について評価を行う。							
テキスト・教材		着物の着付けとたたみ方、帯結びのプリント							
参考書									
評価の基準と方法		①正しく手早い着物のたたみ方 10/100 ②正しく美しい着付け 15/100 ③「祇園小唄」実技テスト 25/100 ④「さくらさくら」実技テスト 25/100 ⑤平常点（授業態度、課題提出） 25/100 5 項目の 60/100 を合格基準点とする。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成		他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にいかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎	
関連科目									
その他		・浴衣（着物）に必要な小物セット（浴衣、半襦袢、着物用下着、足袋、ひも類）をなるべく初回の授業に準備して持参することが望ましい。オリエンテーションで着物に必要な持ち物の説明を受けてからでも可。 ・着物（長襦袢が必要）と半幅帯の組み合わせでも可。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		藤間流の名取として多くの舞台を踏んできた経験と、師範として関わった文化センターや海外における舞踊指導経験を活かしながら、我が国の伝統文化の素晴らしさを、若き学生の方々に伝承していきたいと考えています。							

科目分類	110-330-22	授業コード	FD0060
科目名称	プレゼンテーション実習／プレゼンテーション実習Ⅰ	単位数	1.0 単位
英文名称	Practice of Presentation Skills I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	楠田 恵美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	楠田 恵美	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 10:40～12:10 金曜日 14:40～16:10	研究室	10-612
授業概要	自己紹介・PR プレゼンテーション、アカデミック・プレゼンテーション、提案型プレゼンテーションの三つのプレゼンテーションの作成、実践、評価を行う。		
到達目標	スライドを用いたプレゼンテーションの作成、発表に慣れることを目標に、よいプレゼンテーションの構成、スライド作成技術、発表技術を身に付ける。また、クラスメイトのプレゼンテーションを相互に評価することでプレゼンテーション技術の向上を図る。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	楠田 恵美	【第 1 回】 予習：インターネットなどでよいプレゼンを見つけ、そのプレゼンの良いところを吸収する 授業：イントロダクション、よいプレゼンテーションとは？ 復習：その日の授業内容を振り返る	
2	楠田 恵美	【第 2 回】 予習：自己紹介プレゼンの内容について考える 授業：自己紹介プレゼンの作成 復習：自己紹介プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる	
3	楠田 恵美	【第 3 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：自己紹介プレゼンの実践と評価 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる	
4	楠田 恵美	【第 4 回】 予習：自己紹介プレゼンの内容について考える 授業：自己 PR プレゼン作成 復習：自己 PR プレゼンの作成が授業時間内に終わらない場合、次週までに完成させる	
5	楠田 恵美	【第 5 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：自己 PR プレゼンの実践と評価 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる	
6	楠田 恵美	【第 6 回】 予習：アカデミックプレゼンの構成を考える 授業：アカデミックプレゼンの作成（1） 復習：アカデミックプレゼンの構成について振り返る	
7	楠田 恵美	【第 7 回】 予習：アカデミックプレゼンに掲載するデータを準備する 授業：アカデミックプレゼンの作成（2） 復習：アカデミックプレゼンの効果的なデータ提示について振り返る	
8	楠田 恵美	【第 8 回】 予習：アカデミックプレゼンの完成に向けスライド全体の構成と形式を整える 授業：アカデミックプレゼンの作成（3） 復習：アカデミックプレゼンの実践に向けてシナリオを準備する	
9	楠田 恵美	【第 9 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：アカデミックプレゼンの実践（1） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる	
10	楠田 恵美	【第 10 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：アカデミックプレゼンの実践（2） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる	
11	楠田 恵美	【第 11 回】 予習：提案型プレゼンの構成を考える 授業：提案型プレゼンの作成（1） 復習：提案型プレゼンの構成について振り返る	

12	楠田 恵美	【第 12 回】 予習：提案型プレゼンに掲載するデータを準備する 授業：提案型プレゼンの作成（２） 復習：提案型プレゼンの効果的なデータ提示について振り返る							
13	楠田 恵美	【第 13 回】 予習：提案型プレゼンの完成に向けスライド全体の構成と形式を整える 授業：提案型プレゼンの作成（３） 復習：提案型プレゼンの実践に向けてシナリオを準備する							
14	楠田 恵美	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：提案型プレゼンの実践（１） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる							
15	楠田 恵美	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション評価シートの項目を確認しながらプレゼンの練習を行う 授業：提案型プレゼンの実践（２） 復習：プレゼンテーション評価シートを完成させる、これまでの授業を振り返りプレゼン技術の自己評価を行う							
授業開始前学習		『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』第 27 章プレゼンテーションの方法 1：基本スキル（pp.128-134）、第 28 章プレゼンテーションの方法 2：演習（pp.135-138）を読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法		作成したプレゼンテーションスライドおよび実践したプレゼンテーションに対し、プレゼンテーション評価シート（『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』p133）によりフィードバックを行う。							
テキスト・教材		授業中に適宜 PPT 映写、プリント等を配布する。							
参考書		必要に応じて授業中に紹介する。							
評価の基準と方法		授業態度 25%、授業内課題 25%、期末課題 50%により評価する。							
ディプロマポリシー		人間関係についての基礎的な教養と、人間性への深い理解力の養成	他人に共感し理解するコミュニケーション力と、社会に積極的にかかわろうとする自立した思考力の養成		人間関係に関する専門的な知識と、人間社会の多様なあり方を理解し的確な判断ができる適応力の養成		社会と文化に関する知識を日々の暮らしの中で生かせる技術力と、多様な問題に対して解決へ自ら行動する実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	△			◎	○
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	110-330-12 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0160
科目名称	گرامー・使える英文法 I	単位数	2.0 単位
英文名称	English Grammar I	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業では、基礎的な英語の文法事項や構文について学習する。また、この授業では知識の習得ばかりではなく、実際に学習した文法項目をコミュニケーションの中で使うことができるよう、様々な活動を通して練習も行う。		
到達目標	品詞、動詞、助動詞、冠詞、代名詞、前置詞について基本的事項を理解し、それらを実際にコミュニケーションで用いることができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：『総合英語 Forest (フォレスト)』など、英文法の参考書に目を通しておく（英文法の参考書であればこれ以外の書籍でも可） 授業：オリエンテーション、および、文法理解度の確認テスト（当日配布）（グループワーク） 復習：文法理解度確認テストを見直す	
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 p. 78 を読み、「品詞」について確認する 授業：品詞について（当日ハンドアウトを配布）（グループワーク） 復習：授業で配布したハンドアウトの内容を復習	
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 pp. 6-7 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 1 動詞（1）be 動詞（教科書 pp. 6-9）（演習） 復習：教科書 pp. 6-9 を再講読	
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 pp. 6-9 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 動詞（1）be 動詞（教科書 pp. 6-9）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 pp. 10-12 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 2 動詞（2）一般動詞（教科書 pp. 10-13）（演習） 復習：教科書 pp. 10-13 を再講読	
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 pp. 10-13 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 動詞（2）一般動詞（教科書 pp. 10-13）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 pp. 14-15 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 3 未来形（教科書 pp. 14-17）（演習） 復習：教科書 pp. 14-17 を再講読	
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 pp. 14-17 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 3 未来形（教科書 pp. 14-17）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 pp. 18-19 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 4 助動詞（教科書 pp. 18-21）（演習） 復習：教科書 pp. 18-21 を再講読	
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 pp. 18-19 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 4 助動詞（教科書 pp. 18-21）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 pp. 22-24 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 5 冠詞（教科書 pp. 22-26）（演習）	

		復習：教科書 pp. 22-26 を再講読							
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 pp. 22-24 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 5 冠詞（教科書 pp. 22-26）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する							
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 pp. 28-30 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 6 代名詞（教科書 pp. 28-31）（演習） 復習：教科書 pp. 28-31 を再講読							
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 pp. 28-31 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 6 代名詞（教科書 pp. 28-31）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する							
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 pp. 1-31 を読み直し、問題を再度解く 授業：Unit 1 から Unit 6 までのまとめ（教科書 pp. 1-31） 復習：教科書 pp. 1-31 を再講読							
授業開始前学習		これまで学習してきた英文法と語法を復習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に行うアクティビティー、および、小テストについては、こちらで目を通し、次回の授業で返却する。返却の際に、必要に応じ解説を行う。							
テキスト・教材		斎藤喜久志『Simply Grammar (Revised Edition)』（南雲堂） ISBN: 9784523178316							
参考書		奥タカユキほか『総合英語 Forest（フォレスト） 第7版』（桐原書店） 田中茂範『表現英文法』（コスモピア）							
評価の基準と方法		定期試験・授業中の演習など、総合的に行う。内訳は、定期試験（30％）、授業中の演習（20％）、小テスト（20％）、課題提出（10％）、授業態度（20％）である。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎	○
関連科目		英語学概論Ⅰ（第 12 回と第 13 回でこの授業の内容に基づいた発展的内容を学習する）							
その他		英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	110-330-12 (2022 年～入学者) 113-330-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FC0170
科目名称	گرامー・使える英文法Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	English Grammar Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	神谷 昇	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神谷 昇	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業では、前期の学習内容を踏まえ、基本的な英語の文法事項や構文について定着を図ることを目標とする。特に、この授業では知識の習得ばかりではなく、実際に学習した文法項目をコミュニケーションの中で使うことができるよう、様々な活動を通して練習も行う。		
到達目標	接続詞、進行形、受動態（受け身）、完了形（現在完了／過去完了）、比較について、基本的事項を理解し、それらを実際にコミュニケーションで用いることができるようになることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神谷 昇	【第 1 回】 予習：教科書 pp. 1-31 を講読 授業：（１）オリエンテーション （２）前期の復習 （３）文法理解度確認テスト（グループワーク） 復習：教科書 pp. 1-31 を再講読	
2	神谷 昇	【第 2 回】 予習：教科書 pp. 32-33 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 7 前置詞（教科書 pp. 32-35）（演習） 復習：教科書 pp. 32-35 を再講読	
3	神谷 昇	【第 3 回】 予習：教科書 pp. 32-35 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 7 前置詞（教科書 pp. 32-35）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
4	神谷 昇	【第 4 回】 予習：教科書 p. 36 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 8 接続詞（教科書 pp. 36-39）（演習） 復習：教科書 pp. 36-39 を再講読	
5	神谷 昇	【第 5 回】 予習：教科書 pp. 36-39 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 8 接続詞（教科書 pp. 36-39）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
6	神谷 昇	【第 6 回】 予習：教科書 pp. 40-41 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 9 進行形（教科書 pp. 40-43）（演習） 復習：教科書 pp. 40-43 を再講読	
7	神谷 昇	【第 7 回】 予習：教科書 pp. 40-43 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 9 進行形（教科書 pp. 40-43）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
8	神谷 昇	【第 8 回】 予習：教科書 pp. 44-45 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 10 受動態（受け身形）（教科書 pp. 44-47）（演習） 復習：教科書 pp. 44-47 を再講読	
9	神谷 昇	【第 9 回】 予習：教科書 pp. 44-47 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 10 受動態（受け身形）（教科書 pp. 44-47）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する	
10	神谷 昇	【第 10 回】 予習：教科書 pp. 48-51 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 11 完了形（現在完了／過去完了）（教科書 pp. 48-53）（演習） 復習：教科書 pp. 48-53 を再講読	

11	神谷 昇	【第 11 回】 予習：教科書 pp. 48-51 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 11 完了形（現在完了／過去完了）（教科書 pp. 48-53）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する							
12	神谷 昇	【第 12 回】 予習：教科書 pp. 54-55 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 12 比較（教科書 pp. 54-57）（演習） 復習：教科書 pp. 54-57 を再講読							
13	神谷 昇	【第 13 回】 予習：教科書 pp. 54-57 を読み、もう一度問題を解く 授業：Unit 12 比較（教科書 pp. 54-57）（前回の復習、発展問題、言語活動）（演習） 復習：授業で配布した資料や問題をもう一度読み、内容を理解する							
14	神谷 昇	【第 14 回】 予習：教科書 pp. 58-59 の文法事項の説明を読む 授業：Unit 13 不定詞（教科書 pp. 58-61）（演習） 復習：教科書 pp. 58-61 を再講読							
15	神谷 昇	【第 15 回】 予習：教科書 pp. 32-61 を読み直し、問題を再度解く 授業：Unit 7 から Unit 13 までのまとめ（教科書 pp. 32-61） 復習：教科書 pp. 32-61 を再講読							
授業開始前学習		これまで学習してきた英文法と語法を復習しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に行うアクティビティー、および、小テストについては、こちらで目を通し、次回の授業で返却する。返却の際に、必要に応じ解説を行う。							
テキスト・教材		斎藤喜久志『Simply Grammar (Revised Edition)』（南雲堂） ISBN: 9784523178316							
参考書		奥タカユキほか『総合英語 Forest（フォレスト） 第 7 版』（桐原書店） 田中茂範『表現英文法』（コスモピア）							
評価の基準と方法		定期試験・授業中の演習など、総合的に行う。内訳は、定期試験（30%）、授業中の演習（20%）、小テスト（20%）、課題提出（10%）、授業態度（20%）である。							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△		◎	○
関連科目		英語学概論Ⅰ（第 12 回と第 13 回でこの授業の内容に基づいた発展的内容を学習する）							
その他		英語の辞書（英和辞典、和英辞典等）を持参すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	110-330-22	授業コード	FD0080
科目名称	チャレンジ TOEIC	単位数	1.0 単位
英文名称	Preparation TOEIC	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	松山 響子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松山 響子	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-605
授業概要	TOEIC Listening and Reading Test を初めて受験するときのために、初級向けを中心に問題を解きます。基本的な語彙と基本的な文法事項の確認をします。		
到達目標	TOEIC の問題形式に慣れるように、初級から学修し始め、得点力が身につく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松山 響子	第 1 回 予習：シラバスを読んてくる 授業：オリエンテーション「プレゼンテーション」 復習：Web 等を使って TOEIC の試験内容等を確認する	
2	松山 響子	第 2 回 予習：Unit 1 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 1(PP.2-7) 復習：Unit 1 の単語を必ず復習する	
3	松山 響子	第 3 回 予習：Unit 2 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 2(PP.8-13) 「グループワーク」 復習：Unit 2 の単語を必ず復習する	
4	松山 響子	第 4 回 予習：Unit 3 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 3(PP.14-19) 復習：Unit 3 の単語を必ず復習する	
5	松山 響子	第 5 回 予習：Unit 4 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 4(PP.20-25) 「グループワーク」 復習：Unit 4 の単語を必ず復習する	
6	松山 響子	第 6 回 予習：Unit 5 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 5(PP.26-31) 復習：Unit 5 の単語を必ず復習する	
7	松山 響子	第 7 回 予習：Unit 6 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit1(PP.32-37) 復習：Unit 6 の単語を必ず復習する	
8	松山 響子	第 8 回 予習：Unit 7 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 7(PP.38-43) 「グループワーク」 復習：Unit 7 の単語を必ず復習する	
9	松山 響子	第 9 回 予習：Unit 8 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 8(PP.44-49) 復習：Unit 8 の単語を必ず復習する	
10	松山 響子	第 10 回 予習：Unit 9 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 9(PP.50-55) 「グループワーク」 復習：Unit 9 の単語を必ず復習する	
11	松山 響子	第 11 回 予習：Unit 10 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 10(PP.56-61) 復習：Unit 10 の単語を必ず復習する	
12	松山 響子	第 12 回 予習：Unit 11 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 11(PP.62-67) 「グループワーク」	

		復習：Unit 11 の単語を必ず復習する							
13	松山 響子	第 13 回 予習：Unit 12 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 12(PP.68-73) 復習：Unit 12 の単語を必ず復習する							
14	松山 響子	第 14 回 予習：Unit 13 の warm-up を事前に終わらせてくる 授業：Unit 13(PP.74-79) 「グループワーク」 復習：Unit 13 の単語を必ず復習する							
15	松山 響子	第 15 回 予習：これまで学んできた内容の復習をする 授業：Unit1 から Unit13 の該当箇所のまとめの講評 復習：Unit1 から 13 の内容の復習する							
授業開始前学習		必修英語を、よく復習してきてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		答え合わせをしながら、質問を受けます。							
テキスト・教材		Mark D. Stafford, “SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC? LISTENING AND READING TEST1”, 桐原書店							
参考書		授業中に提示します。							
評価の基準と方法		各回の授業参加度・授業内課題 (50%) 期末試験 (50%)							
ディプロマポリシー		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する基本的な知識の獲得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の育成		社会人にふさわしい教養・語学力・表現力とともに、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識の獲得と、様々な問題に対する分析力・判断力の育成		世界の言語（英語）・社会・文化等に関する専門的な知識を広く応用して、社会に還元する技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎				△	○
関連科目		『キャリア イングリッシュ』『必修英語 AB』『英会話』							
その他		問題に慣れるように、毎回、全部のパートを学びます。予習復習を必ず行いましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-310-12	授業コード	FE0010
科目名称	観光学	単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism	授業区分	講義
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	観光学は歴史が浅い学問でありながら現代社会においてその重要性が増している。なぜならば、観光が人々の余暇活動の中心的位置を占めており、今後観光の果たす役割はますます大きくなっていくと思われる。さらに、観光が国の経済や文化・国民の生活にもたらす効果も高まってきているからである。本授業では、観光学の基礎理論を中心に観光の新たな動きと現場での対応も触れる。観光に関わる基本的なことを広く学び、観光産業分野で起きていることや課題について理解を深める。		
到達目標	①観光の用語・歴史、観光の仕組みを理解する。 ②観光の各要素、各観光産業の内容を理解し、詳細な内容を研究する。 ③与えられたテーマに関しては、自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられる。グループワークでは、積極的に話し合い、意見を集約して仕上げることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : 観光を学ぶ意味、観光学とは？ 復習 : 授業の方針を確認する。	
2	張 景泰	【第 2 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光の定義、現代観光の構造と構成要素、現代観光の特色 復習 : 第 2 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
3	張 景泰	【第 3 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光の歴史①（欧米を中心に） 復習 : 第 3 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
4	張 景泰	【第 4 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光の歴史②（欧米を中心に）と新たな観光のあり方について 復習 : 第 4 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
5	張 景泰	【第 5 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光の歴史③（日本を含め、アジアを中心に） 復習 : 第 5 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
6	張 景泰	【第 6 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光文化ゼミの紹介 復習 : 第 6 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
7	張 景泰	【第 7 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光と交通 復習 : 第 7 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
8	張 景泰	【第 8 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光産業の構成と特徴 復習 : 第 8 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
9	張 景泰	【第 9 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光政策 復習 : 第 9 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
10	張 景泰	【第 10 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 観光対象と観光資源 復習 : 第 10 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	

11	張 景泰	【第 11 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：魅力を高める観光資源の開発 復習：第 11 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。						
12	張 景泰	【第 12 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：観光施設 復習：第 12 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。						
13	張 景泰	【第 13 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：世界の観光地と統合型リゾート（IR）を考える。（グループ・ディスカッション） 復習：第 13 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。						
14	張 景泰	【第 14 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：世界のリゾートについて 復習：第 14 回授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。						
15	張 景泰	【第 15 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：学習内容の総括 復習：授業の全体概要を確認する。						
授業開始前学習		観光学概論や観光学総論、観光業界に関する資料を出来るだけ多く読むこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 11 回目に行うグループワークショップについては 2 週後に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		自前教科書『観光学』 そのほか、適宜プリントを配布します。						
参考書		授業中に適宜参考書籍を紹介する。						
評価の基準と方法		授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎			△
関連科目								
その他	普段から観光に関わることに興味をもって、マスコミ報道や観光図書に接することが望ましい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-320-12 (J)	授業コード	FE0020
科目名称	観光政策論	単位数	2.0 単位
英文名称	Policy Studies of Tourism	授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	本科目では、観光学の応用分野のひとつである観光政策について学び、あらゆる観点から観光の重要性について学ぶことを目的としている。授業は 3 部構成となっている。 第 1 部は「持続可能な観光と観光の重要性」をテーマにポストコロナの観光の現状を読み解きながら観光政策を担う国・地方の役割について学ぶ。第 2 部は「観光と国際関係」をテーマに国際機関の役割・平和・国際協力に焦点を当てながら国際観光の社会的な役割や持続可能な観光について学ぶ。第 3 部は「観光と地域振興」をテーマにリゾート・テーマパーク、統合型リゾート、歴史的町並み観光地、温泉地観光地、農村観光地など世界と日本の具体的な観光地を類型毎に紹介しながら、背景、実態、課題、解決策について検討する。 この授業を通じて自らの言葉で観光の重要性を説明できるようになってほしい。また DMO・DMC、行政職員、まちづくり会社、コンサルタント、旅行業・広告業として観光客誘致、地方創生、地域活性化に関心のある学生に特に推奨したい。また、行政・観光協会・DMO にインターンシップ実習を希望する学生は履修を勧める。		
到達目標	①持続可能な観光と観光振興についての知識を習得する。 ②観光の重要性について自ら説明できるようになる。 ③自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : 授業の概要と方針 なぜ観光振興は重要なのかー日本の観光の現状と観光政策ー《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : 日本の観光政策の仕組みー国と地方の役割ー《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : 観光の功罪と観光税ーオーバーツーリズムと解決策の検討ー《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : SDGs と持続可能な観光ーサステナブルツーリズム誕生の背景ー《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : 国際観光を支える国際機関の役割ーUNWTO、UNESCOー《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : 観光と平和ー観光は平和へのパスポートの真意ー《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : 観光と国際協力 (ゲストスピーカー : 海外青年協力隊) 復習 : 授業レポートの提出	
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : 観光が地域振興で期待される背景《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出	
9	鮫島 卓	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所を読んでおく 授業 : リゾート・テーマパークと地域振興ーリゾート法の失敗に学ぶー《ディスカッション》	

		復習：授業レポートの提出							
10	鮫島 卓	【第 10 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：歴史的町並み観光地と地域振興 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出							
11	鮫島 卓	【第 11 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：世界の統合型リゾートと日本の観光政策 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出							
12	鮫島 卓	【第 12 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：温泉観光地と地域振興 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出							
13	鮫島 卓	【第 13 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：農村観光地と地域振興－イタリアのアグリツーリズモから学ぶ－《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出							
14	鮫島 卓	【第 14 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：日本と世界の交通政策と地域振興 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出							
15	鮫島 卓	【第 15 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：ニューツーリズムと地域振興 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出							
授業開始前学習		「観光学」で学んだことを復習しておくとして授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		鮫島卓『観光政策論』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書		授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法		毎回授業時に提出する授業レポートの小テストの成績 1 回 4 点×15 回（60％）、期末レポートの成績（40％）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成			社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当					◎	○	△		
関連科目	観光政策論は、観光学の応用分野であり、観光学の基礎知識として「観光学」と共に履修することを勧める。鮫島ゼミ生及び鮫島ゼミを希望する学生は履修を勧める。								
その他	この授業で学んだことを実践するために「行政・観光協会」でのインターンシップ実習の履修を推奨する。また専門ゼミで鮫島ゼミを志望する人は履修するのが望ましい。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）								
実務経験を活かした教育内容	教員は旅行業での国際観光イベントの企画実施、ハウステンボスの商品開発、国際協力機構（JICA）の観光開発コンサルタントとしてミャンマー・ブータンでの観光開発計画、稲城市観光協会の設立に従事した経験があり、現在でも全国各地の観光商品開発の研修・助言を行っている。								

科目分類	120-320-12（J）			授業コード	FE0030
科目名称	観光マーケティング論			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Marketing Theory			授業区分	講義
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30			研究室	10-606
授業概要	本科目では、航空・宿泊・旅行・テーマパーク・観光地などの観光産業の事例を通してマーケティング理論を学ぶ。マーケティングの知識は、新規事業開発、商品開発・イベント企画、広報宣伝業務に不可欠である。諸君が消費者でなく生産者の立場で経済や企業経営の仕組みを観る視点を養うことになる。就職活動における企業研究、自己分析にも有用である。 本学では珍しい社会科学系の学問なので一見難しいと思われるかもしれないが、ディズニーリゾート、LCC、スターバックス、インスタグラムや TikTok など身近な事例を取り上げながら理解を深めていくので安心してほしい。特に将来、経営者・管理職・起業家、旅行企画、ブライダルプランナー、コンサルタントを目指す学生には、必須となる有益な知識である。期末には、学生が希望する地域や企業を選び、マーケティング理論を活用してその実態を分析するレポート作成を行う。				
到達目標	① 経済学およびマーケティングの基礎的な理論を習得する。 ② 観光産業のビジネスの仕組みを理解する。 ③ 自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：授業の概要と方針・評価方法の説明 観光マーケティングとは何かーディズニーリゾートを事例にー 復習：授業レポートの提出			
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：観光のニーズとウォンツー旅行動機の背景ー《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：市場調査の方法ー旅行者ニーズの見つけ方ー《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：ポジショニングー選ばれる「強み」と「差別化」ー《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：マーケティング・ミックスー商品開発の要素とプロセスー《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：購買決定プロセスー旅行者のカスタマージャーニーー《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：授業の復習をしてテスト対策をする 授業：中間テスト《オンデマンド》 復習：授業レポートの提出			
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：価格と流通ーツアー代金の舞台裏ー《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			

9	鮫島 卓	【第9回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：価格戦略－企業会計と価格決定の方法、行動経済学―《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
10	鮫島 卓	【第10回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：サービス・マネジメント・システムーディズニーリゾートの舞台裏―《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
11	鮫島 卓	【第11回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：リレーションシップ・マーケティングーリピーターを生み出す仕組み―《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
12	鮫島 卓	【第12回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：観光のデジタル・マーケティングーインターネットと観光の関係―《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
13	鮫島 卓	【第13回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：観光地のマーケティング①ーデスティネーションマーケティングとDMO―《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
14	鮫島 卓	【第14回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：観光地のマーケティング②ー着地型観光商品開発の技法―《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
15	鮫島 卓	【第15回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：経験価値と新たなマーケティングの可能性 授業全体のふりかえり 復習：授業レポートの提出						
授業開始前学習	航空会社・ホテル・パッケージツアー・テーマパークなど様々なサービスを自分のお金で購入してサービスを享受する経験ができるだけ多くしていると授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	鮫島卓（2021）『観光マーケティング論』駒沢女子大学教科書シリーズ							
参考書	授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法	毎回授業時に提出する授業レポートの小テスト成績 1 回 4 点×15 回（60％）、中間テストの成績（10％）、期末レポートの成績（30％）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目	観光マーケティング論は、観光学の基本科目であり、「観光学」と共に履修することを勧める。また観光文化コース専門ゼミで取り組むツアープランニングにも有効な専門知識を得ることができる。							
その他	観光マーケティングは、マーケティング理論を観光分野に応用させたものである。従って、その理論は、業種を問わずすべての企業で役に立つ知識となるであろう。鮫島ゼミ生及び鮫島ゼミを希望する学生は受講を勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	教員は旅行会社でのツアー企画、国際観光イベントの企画運営、ハウステンボスの商品開発など、ツーリズム産業で新規事業開発を行ってきた。現在も ANA との学び旅の共同研究、種子島・対馬・稲城・多摩などの観光開発アドバイザーを担っており、実践経験に基づいた講義内容としている。							

☆観光の PR とメディア／観光メディア

科目分類	120-320-12			授業コード	FE0040
科目名称	☆観光の PR とメディア／観光メディア			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Industry PR and Media／Media of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	渡邊 光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30			研究室	10-501
授業概要	観光客の興味関心を高め観光への参入者増加を目的とする PR の手法について広く語る。購買欲や参加願望をくすぐる情報 PR ツールとしての観光地の土産物、商店街、レジャーランド、祭りなどの他、移動と観光のためのインフラ（旅客機、豪華客船、鉄道、車など）にもスポットを当て、人々を旅に導く効果的な PR 方法について広い角度から多彩な切り口で考察する。 「視覚訴求型」パワーポイントの使用。人間の情報収集能力の中で、「見る」は「読む」の 2 倍の情報を処理でき、取り入れた情報も「読む、聞く」より「見る」方が記憶に残る。更に「聞く＋見る」の両方を使って説明を受けると、2 時間後でも 60%の情報が記憶されているというデータがある。このことから、授業で使用するパワーポイントは、色彩、レイアウト、動きで受講生が見やすく情報を整理し易い画面構成の「視覚訴求型」に設定しており、「見る＋聞く」の特に「見る」だけでも学生の受講意欲を上げるような視覚からの効果的な情報アウトプットを試みている。				
到達目標	「文字情報」は情報の詳細を正確に伝え、「ビジュアル（画像）情報」は情報の概要やイメージを印象的に伝える。数値で伝えれば情報は正確に伝わり、グラフや図にすれば情報の傾向や内容がよりわかりやすくなる。多くの事例から情報伝達の効果的な手法を知ること、学生は情報の効果的な扱い方について理解を深めることができる。また、より魅力的な観光プランの紹介や発表（４年次のツアープラン発表会など）にも応用することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	渡邊 光章	【第 1 回】 予習：関心のある観光パンフレットや web 広告を見える 授業：ガイダンス【「観光の PR メディア」とは：観光業界における PR メディアの効能】 復習：観光の PR メディアとは？の問いかけに、200 字程度で回答する			
2	渡邊 光章	【第 2 回】 予習：関心のあるイベントを見える 授業：イベントと観光の PR メディア：コンピュータテクノロジーの効果的な利用方法 復習：人気のテクノロジー型 PR イベント例をネットで調べてみる			
3	渡邊 光章	【第 3 回】 予習：関心のある観光地の名物グルメを調べてみる 授業：食文化と観光の PR メディア：ミシュランガイドと観光ガストロノミー 復習：どのような観光グルメの人気の高いかを調べ、その根拠も調べてみる			
4	渡邊 光章	【第 4 回】 予習：関心のある観光地のレジャーランドを調べてみる 授業：レジャーランドと観光の PR メディア：各地の比較検証：隆盛から廃墟化まで 復習：特定の観光地に誘うレジャーランドの実態を調べてみる			
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習：関心のある商店街を調べてみる 授業：商店街と観光の PR メディア：歴史ある魅力的な観光スポットとして紹介 復習：伝統のある息の長い商店街の人気の理由を調べてみる			
6	渡邊 光章	【第 6 回】 予習：関心のある観光クルーズを調べてみる 授業：海の旅と観光の PR メディア：豪華客船クルーズの実態と観光情報 復習：人気のあるクルーズの違いを比較検証してみる			
7	渡邊 光章	【第 7 回】 予習：関心のある鉄道（列車やトラム）を見える 授業：鉄道の旅と観光の PR メディア：ビジュアル情報の効果的な使用方法 復習：観光に貢献した鉄道の例を調べてみる			
8	渡邊 光章	【第 8 回】 予習：関心のある航空会社を調べてみる 授業：空の旅と観光の PR メディア：価格から読み解く観光プロモーションの比較と検証			

		復習：自分が行きたくなる観光地へ誘うポスターの表紙をイメージしてみる							
9	渡邊 光章	【第9回】 予習：関心のあるドライブ観光のコースを調べてみる 授業：ドライブにまつわる観光事情と交通関連の PR メディア：標識やデザインによる危険回避や渋滞防止策とは 復習：自分が気になった交通標識について調べてみる。							
10	渡邊 光章	【第10回】 予習：関心のある祭りを調べてみる 授業：祭りと観光の PR メディア：参加型イベントから読み解く観光の PR メディア 復習：自分が行ってみたい祭りの歴史と内容を調べてみる							
11	渡邊 光章	【第11回】 予習：人気の観光土産を調べてみる 授業：土産物と観光の PR メディア 1：観光土産の種類と人気ランキング 復習：インバウンドの出身国による観光土産の人気度を比較してみる							
12	渡邊 光章	【第12回】 予習：ユニークな自動販売機を調べてみる 授業：土産物と観光の PR メディア 2：観光土産から読み解く PR メディアの手法と効果 復習：観光土産を選ぶ理由を検証してみる							
13	渡邊 光章	【第13回】 予習：話題性のある公衆トイレを探してみる 授業：オフィシャルサービスと観光の PR メディア：訴求対象から読み解く PR メディアの質と量 復習：公衆トイレを国民性やサービスの観点から見直してみる							
14	渡邊 光章	【第14回】 予習：観光地の案内で人を救うホスピタリティー「ピクトグラム」について考えてみる 授業：観光とプリントメディア：ピクトグラムとポスター 復習：観光客へのおもてなし精神について考える							
15	渡邊 光章	【第15回】 予習：日本全国の難読地名を調べてみる 授業：地名と観光の PR メディア：地名への理解と読解力、研究全体の整理 復習：魅力的な観光の PR メディアを考えてみる							
授業開始前学習		観光に関する PR メディアとして、web 広告だけでなく、駅貼りポスター、旅行代理店に置いてあるパンフレット、電車など乗り物内の中吊り広告、ネットに出てくる観光旅行の広告などのプリントメディアなどに代表される観光広告全般を意識して見ておく授業が理解しやすく、PR メディアを通して社会性の涵養にも役立つ準備となる。							
授業内課題のフィードバックの方法		講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出により出欠席を判定する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ個別対応を行い、場合によっては次回講義の冒頭で全体に伝える形式で実施している。							
テキスト・教材		授業中に適宜配付する。							
参考書		授業を通じて適時紹介する。							
評価の基準と方法		毎回提出する課題レポートに書かれた内容に重きを置き、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	△		
関連科目		地域観光資源研究（前期）を合わせて履修すると、より理解が深まる。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-320-12	授業コード	FE0050
科目名称	ホスピタリティ概論	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Hospitality	授業区分	講義
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	現在のホスピタリティ産業界は、社会に対して大きな影響力と日々変化を見せており、その正確な情報の把握が今後の展望を担う重要な鍵になると考えられる。本授業はホスピタリティ産業の仕組みを理解したうえで、「関連専門知識の理解」と「ホスピタリティ産業の今後の方向性について議論する」ことで、ホスピタリティの基礎を学ぶ。		
到達目標	①ホスピタリティの用語と関連用語・歴史・ホスピタリティの仕組みを理解する。 ②ホスピタリティ関連産業の仕事内容を理解し、詳細な内容を研究する。 ③与えられたテーマに関しては、自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられる。グループワークでは、積極的に話し合い、意見を集約して仕上げるができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 : ホスピタリティについて調べ、考える 授業 : 授業のイントロダクション ホスピタリティとは？ 復習 : 授業内容の確認、ホスピタリティについて確認	
2	張 景泰	【第 2 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ホスピタリティ理論 (1) 「ホスピタリティ」の概念、ホスピタリティの基本的性格 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
3	張 景泰	【第 3 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ホスピタリティ理論 (2) ビジネス用語としての「ホスピタリティ」、「インターンシップ」の基本 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
4	張 景泰	【第 4 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ホスピタリティ理論 (3) 「ホスピタリティ、サービスと観光」 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
5	張 景泰	【第 5 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ホスピタリティ理論 (4) 「マナーとホスピタリティ」 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
6	張 景泰	【第 6 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー (1) リッツ・カールトンから学ぶホスピタリティ① 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
7	張 景泰	【第 7 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー (1) リッツ・カールトンから学ぶホスピタリティ② 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
8	張 景泰	【第 8 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー (2) 医療とホスピタリティ 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
9	張 景泰	【第 9 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー (3) スターバックスから学ぶホスピタリティ 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
10	張 景泰	【第 10 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー (4) 「航空・空港業界」から学ぶホスピタリティ 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	
11	張 景泰	【第 11 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー (5) ディズニーリゾートから学ぶホスピタリティ① 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読	

12	張 景泰	【第 12 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : グループディスカッション（事例研究ワークショップ） 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読							
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー（５）ディズニーリゾートから学ぶホスピタリティ② 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読							
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 : 配布資料を読む 授業 : ケーススタディー（６）プライダグ産業から学ぶホスピタリティ 復習 : 授業内容をベースに配布資料再読							
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 : 授業全体をレビューする 授業 : ホスピタリティ理論（５）ホスピタリティ・コーチング、ホスピタリティの今後の課題と総括 復習 : 授業全体を復習							
授業開始前学習		日常生活におけるホスピタリティを考えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材		自前教科書『ホスピタリティ概論』 そのほか、適宜プリントを配布します。							
参考書		授業の中で、適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎			△
関連科目		インターンシップ実習科目の「インターンシップ実習 C」を履修する学生は本科目を履修することが望ましい。							
その他		普段からホスピタリティに関わることに興味をもって、マスコミ報道やホスピタリティ関連書籍に接することが望ましい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-320-12 (J)	授業コード	FE0060
科目名称	ホスピタリティ・マネジメント	単位数	2.0 単位
英文名称	Hospitality Management	授業区分	講義
科目責任者	松本 三保	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 三保	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ホスピタリティは近年グローバル化が進む社会や様々な産業において重要視されている。観光学におけるサービス産業の特性を捉え、ホスピタリティ概念を理解し、ホスピタリティ・マネジメントの実現に必要な要素について学ぶ。ホスピタリティ概念を適用したホスピタリティ・マネジメントの社会的価値や経済的価値について考察する。後半では宿泊・航空・ブライダル・レジャー産業を事例に実践的に理解を深める。この授業ではグループディスカッションを取り入れ、自ら考え意見を発信する力を養う。		
到達目標	① ホスピタリティとホスピタリティ・マネジメントの概念を理解し説明できる。 ② ホスピタリティ・マネジメントの社会的価値と経済的価値を理解し自分の意見が発信できる。 ③ ホスピタリティ・マネジメントの実現要素について理解し説明できる。 ④ ホスピタリティを実務や社会生活で発揮できる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松本 三保	【第 1 回】 予習：シラバスを参照し、授業スケジュールと参考書を確認しておく。自分のホスピタリティに対するイメージや実体験を授業で発言できるようまとめておく。 授業：前半はシラバスの確認。授業の概要と注意事項、グループディスカッションのポイントを説明。後半はグループディスカッションを行う。「ディスカッション」 復習：授業内容、注意事項、配布資料の確認。ディスカッションのまとめと課題を提出する。	
2	松本 三保	【第 2 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホスピタリティ概念について調べる。(参考書 p.3-23) 授業：ホスピタリティとホスピタリティ・マネジメントの概念。ホスピタリティ・サービス・おもてなしの定義、語源、歴史を学ぶ。 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。演習問題を提出する。	
3	松本 三保	【第 3 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ロイヤルカスタマーになる理由について調べる。(参考書 p.28-46) 授業：サービスの特性とサービスマーケティング（サービスマーケティングミックスとリレーションシップマーケティング） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。演習問題を提出する。	
4	松本 三保	【第 4 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。クレーム対応の方法について調べる。(参考書 p.52-66) 授業：サービスリカバリーとエンパワーメント（クレーム対応のステップ） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。	
5	松本 三保	【第 5 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。顧客の商品選択行動について調べる。(参考書 p.77-95) 授業：顧客満足と経済的効果（顧客の認知と行動、顧客ロイヤリティーとの関わりについて） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。	
6	松本 三保	【第 6 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。従業員満足の効果について調べる。(参考書 p.103-120) 授業：従業員満足と経済的効果（顧客満足との関わり、サービスプロフィットチェーン、職務満足、ウェルビーイング） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。	
7	松本 三保	【第 7 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホスピタリティ・マネジメントに必要な人材やコミュニケーションについて調べる。(参考書 p.128-149) 授業：ホスピタリティ産業の人材と組織（リーダーシップ、コミュニケーションについて） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。	
8	松本 三保	【第 8 回】 予習：配布資料とキーワード、グループディスカッションの資料を確認する。訪日外国人客向けサービスについて調べる。 授業：国際観光とホスピタリティ・マネジメント「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。グループディスカッションのまとめを提出する。	
9	松本 三保	【第 9 回】 予習：配布資料とキーワード、グループディスカッションの資料を確認する。観光産業による社会的課題について調べる。	

科目分類	120-320-12 (J)			授業コード	FE0070
科目名称	観光社会学			単位数	2.0 単位
英文名称	Sociology of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 奈緒子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 奈緒子			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	観光社会学は、社会現象としての「観光」の本質を探究し、その成果を手掛かりに社会の本質をも考察することができる学問である。 本授業は、現代社会の成り立ちを観光という観点から捉え、多様な観光現象の事例を通して現代社会における「新たな観光と持続可能な観光」のあり方について学ぶ。 実践的学びを通して、在学中及び卒業後の職業生活や自身のライフスタイルにおいて「新しいツーリズムを創造する」一助となる。				
到達目標	①観光社会学の基礎的な理論を習得する。 ②観光社会学に関する事例を用いて、現代の多様な観光現象を理解する。 ③自ら調べて自分の考えをレポートにまとめられるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐藤 奈緒子	【第 1 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光」 授業 : 授業ガイダンス (概要と方針・評価方法の説明) 社会学における観光の位置づけ 復習 : 授業内配布物の見直し			
2	佐藤 奈緒子	【第 2 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光社会学」 授業 : 観光社会学とは《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
3	佐藤 奈緒子	【第 3 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「新たな観光」 授業 : 新たな観光とは《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
4	佐藤 奈緒子	【第 4 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「地域文化」 授業 : 観光と地域文化《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
5	佐藤 奈緒子	【第 5 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「文化、地域、開発」 授業 : 観光と地域創生《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
6	佐藤 奈緒子	【第 6 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「SDGs・持続可能性」 授業 : 持続可能な観光開発《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
7	佐藤 奈緒子	【第 7 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「インバウンド、アウトバウンド、観光」 授業 : 日本・海外における観光産業の事例《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
8	佐藤 奈緒子	【第 8 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「インバウンド、アウトバウンド、観光」 授業 : 日本・海外における観光産業の事例《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
9	佐藤 奈緒子	【第 9 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「地域開発、まちづくり」 授業 : 地域活性化 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
10	佐藤 奈緒子	【第 10 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「グローバリゼーション」 授業 : 観光産業のグローバリゼーション 《ディスカッション》			

		復習：授業レポートの提出						
11	佐藤 奈緒子	【第 11 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「メディア、SNS」 授業：観光体験とメディア 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
12	佐藤 奈緒子	【第 12 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ガイド、情報、発信」 授業：観光産業とツアー・ガイド 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
13	佐藤 奈緒子	【第 13 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「イノベーション」 授業：観光産業のイノベーション 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
14	佐藤 奈緒子	【第 14 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「ワーケーション」 授業：遊びと観光・仕事と余暇 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
15	佐藤 奈緒子	【第 15 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索 授業：期末レポートフィードバック まとめ 観光社会学のこれから 復習：授業レポートの提出						
授業開始前学習	授業開始前に授業の内容記載のキーワードを検索し、情報を得ておくとう授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法	毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	特定の教科書は使用しない。							
参考書	安村・堀野・遠藤・寺岡編著「よくわかる観光社会学」ミネルヴァ書房 2011 その他、授業の中で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	平常点(出席レポート・授業への貢献) 50%、期末レポート 50%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目	特になし。							
その他	・受講者数や理解度により授業の予定を変更することもある。 ・オンデマンドでの講義を 2 回含む予定							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	教員は、旅行会社に長らく従事し法人渡航における各種企画・添乗経験（学生向けスタディーツアー、各種海外イベント企画、海外視察コーディネート、海外進出支援等）と、海外支店での法人事業立ち上げの経験を行ってきた実績を持つ。実践経験に基づいた講義内容としている。 ※総合旅行業務取扱管理者の資格有							

科目分類	120-320-12			授業コード	FE0080
科目名称	観光人類学			単位数	2.0 単位
英文名称	Anthropology of Tourism			授業区分	講義
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、国際社会における人々の移動（観光を含む）が再び活発になりつつあり、それぞれの国や観光地は観光産業の復興に向けて様々な方針及び政策を打ち出している。しかし、現状的には近年それぞれの観光地が直面したオーバーツーリズムをはじめとする観光開発の様々な課題に対する対策は試行錯誤の段階にあるといえる。本講義は観光開発が対象化された地域社会にもたらす社会・文化変容・環境問題などを歴史的な視点から学習し、観光の場における重層的な人々の関係を中心に観光人類学的視点から読み解くことを目標とする。また観光は学際的な研究分野であり、「学」として観光に関する知識及び基礎的概念や理論を学ぶために、関連するその他の社会科学（社会学・歴史学・開発学等）の既存概念・理論を参照しながら授業を進行する。				
到達目標	本講義は「観光」と「社会・文化」の関係性に関するそれぞれテーマ性の異なる事例及び観光地を学習することによって、社会・文化に対する理解能力と地域社会の課題に対する分析力の向上を目指す。 ＊観光産業の社会的な役割を説明できるようになる。 ＊理論と実例を通して観光と文化の関係性を理解する。 ＊地域社会へ観光開発がもたらす影響の諸側面を理解する。 ＊文化をテーマにした観光の諸活動を理解する。 ＊観光開発を通して、観光地の地元社会が抱える課題に関する分析力向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光文化研究」 授業：授業趣旨説明＋自己紹介（観光研究×観光開発×東南アジア） 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光」 授業：観光の概要と構造 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化人類学」 授業：観光人類学とは：文化人類学と観光研究 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「植民地主義」 授業：観光と植民地主義 観光開発とは 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「文化政策・本質主義」 授業：観光の政治性：文化政策と観光開発 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「世界遺産」 授業：世界遺産と観光開発：東南アジアの事例から 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「観光文化」 授業：観光と文化変容 観光化による文化創造 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「疑似イベント」 授業：観光行動と観光体験 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習：WEB 検索、書籍による情報検索：キーワード「イメージ形成」 授業：観光とメディア 楽園のイメージ形成 復習：授業内配布物・講義内容の見直し			

10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「ダークツーリズム」 授業 : 観光とノスタルジア 復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し							
11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光産業における女性のイメージ」 授業 : 観光とジェンダー 復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し							
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「タイ・少数民族」 授業 : 山岳少数民族のイメージと観光 復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し							
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光資源」 授業 : 観光と人・モノの移動 復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し							
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「ふるさとの資源化」 授業 : 観光と文化の資源化 復習 : 授業内配布物・講義内容の見直し							
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習 : WEB 検索、書籍による情報検索 : キーワード「観光問題」 授業 : まとめ 観光人類学から観光を再考する 復習 : 授業内配布物の見直し、レポートのコメント・総評							
授業開始前学習		参考文献に示している文献などで観光学習の基礎的知識について理解を深めておき、自分自身の過去の観光した経験に関するついで整理しておこう。また、観光に関わるニュースメディア・観光雑誌・インターネットなどで気になることがあったら、メモをとっておこう。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回のリアクションペーパー課題内容について、適宜見直しを行う。また、必要に応じて課題の記述内容を適宜授業内で紹介してコメントする。							
テキスト・教材		特定の教科書は使用しない。講義の中でプリントを配布する。参考とする文献、WEB サイトは適宜配布プリントの中で提示する。							
参考書		安村克己その他（編）よく分かる観光社会学 2011 須藤廣その他（編）観光コミュニケーション論 2022 市野澤潤平その他（編）観光人類学のフィールドワークツーリズム現場の質的調査入門 2021							
評価の基準と方法		出席回数が学則の条件を満たした者を評価対象とする。 講義ごとに提出するリアクションペーパー課題(30%)、受講態度(30%)、期末レポート（40%）で評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		観光社会学							
その他		講義資料として、文献や映像を提示するので批判的に読み解いて欲しい。 なお、受講者数や理解度合いにより授業の予定を変更することもある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-320-12 (J)			授業コード	FE0210
科目名称	旅行業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Travel Business			授業区分	講義
科目責任者	本間 准			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-720
授業概要	旅行業は、交通運輸業・宿泊業と共にツーリズム産業の要となる重要な産業であり、経済面のみならず、社会・文化面・世界平和などにも貢献する産業である。近年、インターネットや AI などテクノロジーの進化と共に、グローバル競争や新しい業態が出現し、旅行業を取り巻く環境は大きく変化している。本科目では、旅行業の歴史、分類や特徴、最新の動向を理解すると共に、旅行実務の専門用語や仕事内容について学ぶことができる。ツアー商品企画の知識を習得し、期末課題ではツアー企画の実践を行う。この科目は旅行会社へのインターンシップ実習の前提授業として、旅行業界への進路設計の一助となるであろう。				
到達目標	① 旅行業の歴史と旅行業の仕組みを体系的に理解する ② 旅行実務の知識・専門用語を習得する ③ 授業レポートを通じて文章力を向上させる ④ 旅行企画を自分でできるようになる				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	本間 准	【第 1 回】 予習 : シラバスを読む 授業 : 授業の概要と方針・評価方法の説明・旅行業インターンシップ実習の概要 旅行業の歴史と旅行市場 復習 : 授業レポートの提出			
2	本間 准	【第 2 回】 予習 : 旅行業とはなにかについて調べておく 授業 : 旅行業の基礎 復習 : 授業レポートの提出			
3	本間 准	【第 3 回】 予習 : 旅行パンフレットを入手し読んでおく 授業 : 旅行パンフレットの研究 復習 : 授業レポートの提出			
4	本間 准	【第 4 回】 予習 : 旅行商品と消費者保護について調べる 授業 : 旅行商品と消費者保護 復習 : 授業レポートの提出			
5	本間 准	【第 5 回】 予習 : 旅行商品の企画と販売について調べる 授業 : 旅行商品の企画から販売まで 復習 : 授業レポートの提出			
6	本間 准	【第 6 回】 予習 : マーケティングとはなにかについて調べる 授業 : 旅行商品のマーケティング 復習 : 授業レポートの提出			
7	本間 准	【第 7 回】 予習 : プレゼンテーションの発表準備をする 授業 : 簡易版企画書による中間発表《プレゼンテーション》 復習 : 授業レポートの提出			
8	本間 准	【第 8 回】 予習 : 旅行費用について調べる 授業 : 旅行費用の算出 復習 : 授業レポートの提出			
9	本間 准	【第 9 回】 予習 : バスツアーについて調べる 授業 : 旅行商品の企画① 復習 : 授業レポートの提出			
10	本間 准	【第 10 回】 予習 : 宿泊を伴う旅行商品について調べる 授業 : 旅行商品の企画②			

		復習：授業レポートの提出						
11	本間 准	【第 11 回】 予習：プレゼンテーション資料作成の手法を調べる 授業：旅行商品の企画 ③ 復習：授業レポートの提出						
12	本間 准	【第 12 回】 予習：旅行商品のフライヤーについて調べる 授業：旅行商品の企画 ④ 復習：授業レポートの提出						
13	本間 准	【第 13 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする 授業：旅行商品をプレゼンテーション①《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
14	本間 准	【第 14 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする 授業：旅行商品をプレゼンテーション② 復習：授業レポートの提出						
15	本間 准	【第 15 回】 予習：進路設計のための情報収集をする 授業：旅行業界への進路設計のための情報収集《ディスカッション》 復習：講評を参考にする						
授業開始前学習		旅行会社を通じて旅行商品の購入やサービスを受けて、実際に旅行をするより理解が深まる。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		なし。各回の授業資料をクラスルームから配布する。						
参考書		・書籍 立教大学観光学部旅行産業研究会（2016）『旅行産業論』公益財団法人 日本交通公社 ・旅行業界・観光業界向けの web ニュースサイトのメールニュース登録（無料） 「日刊トラベルビジョン」（ http://www.travelvision.jp/ ） 「トラベルボイス」（ https://www.travelvoice.jp/ ）						
評価の基準と方法		毎回授業時に提出する授業レポートの小テスト成績 1 回 4 点×15 回（60％）、中間・期末発表（40％）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目	この授業は、インターンシップ実習 A（旅行業）、海外インターンシップ実習の前提授業であり、科目希望者は履修が望ましい。観光文化コース専門ゼミで取組むツアープランにも有効な専門知識を得ることができる。							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は旅行会社に 20 年以上勤務した経歴を持つ。海外・国内旅行商品の企画・販売・手配業務などの実務経験を交えて講義を行う。							

科目分類	120-320-12（J）			授業コード	FE0220
科目名称	宿泊業・飲食業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Hospitality and Catering Industries			授業区分	講義
科目責任者	松本 三保			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松本 三保			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	本授業はホテル・旅館を主に国内外の宿泊業の歴史、変遷、分類等の概要を理解し全体像を把握する。経営形態、組織構造、収益構造の基礎知識と共に販売促進や宣伝広告活動、マーケティング、ブランド戦略について学ぶ。実務面での理解を深めるため、オペレーションの業務と役割について紹介する。 続いて、我が国のフードサービス産業の歴史や変遷に触れ、ライフスタイルや文化、時代との関連を理解する。完全競争市場において持続と競争優位を確保するためのマーケティング戦略について学ぶ。外食産業をリードする企業を事例として取り上げ経営の側面から分析する。宿泊業と飲食業の社会的貢献や責任についても考察する。				
到達目標	① 宿泊業・飲食業の歴史、変遷を理解する。 ② 宿泊業・飲食業の経営と収益管理、マーケティング戦略を理解する。 ③ 修得した知識や理論を宿泊業・飲食業の実務に活かせる。 ④ 宿泊業・飲食業の社会的貢献と責任を理解し自分の意見が発信できる。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	松本 三保	【第 1 回】 予習：シラバスを参照し、授業スケジュールと参考書を確認しておく。 授業：前半はシラバスの確認。授業の概要や注意事項、グループ発表の課題とディスカッションのポイントを説明。後半は与えられたテーマについてディスカッションを行う。「ディスカッション」 復習：授業内容、注意事項の確認。ディスカッションのまとめと課題を提出する。			
2	松本 三保	【第 2 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。宿泊業の種類について調べる。（参考書・徳江、第 1 章 p.2-12/第 4 章） 授業：宿泊産業の分類と関連法規 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。質問と演習問題を提出する。			
3	松本 三保	【第 3 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。世界と日本のホテルの歴史と変遷を調べる。（参考書・徳江、第 5 章/第 9 章） 授業：ホテルと旅館の歴史と変遷 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。質問と課題を提出する。			
4	松本 三保	【第 4 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。ホテルの施設と業務について調べる。（参考書・徳江、第 2 章） 授業：ホテルの組織と仕事（組織編制と各部署の役割・業務内容）「グループワーク」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。質問と課題を提出する。			
5	松本 三保	【第 5 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。参考書を通読し疑問点をまとめる。（参考書・徳江、第 1 章 p.12-20/第 10 章/第 11 章） 授業：宿泊産業の形態と収益管理（経営・運営・所有の分離。価格の流動性） 復習：授業内容と配布資料、キーワードの確認。質問と演習問題を提出する。			
6	松本 三保	【第 6 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。メガ・ホテルチェーンの特徴を調べる。（参考書・徳江、第 6 章） 授業：グローバルオペレーターの概要とブランド戦略 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。質問と演習問題を提出する。			
7	松本 三保	【第 7 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。マーケティング戦略の重要性について調べる。（参考書・徳江、第 3 章） 授業：ホテルのマーケティングと営業部門（付加価値をつけて収益の最大化をはかる商品企画） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。質問と演習問題を提出する。			
8	松本 三保	【第 8 回】 予習：グループ発表のポイントを整理し準備する。 授業：企業研究のグループ発表と総評「発表」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。グループ発表のまとめを提出する。			
9	松本 三保	【第 9 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。フードサービス産業と生活との関わりを調べる。（参考書・日本フード p.2- 52）			

		授業：フードサービス産業の歴史と領域（内食・中食・外食産業。市場と産業の特性について） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。															
10	松本 三保	【第 10 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。マーケティング戦略の重要性について調べる。（参考書・日本フード p.72-107） 授業：フードサービス産業のサービスマーケティングとブランド・マネジメント 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。演習問題を提出する。															
11	松本 三保	【第 11 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。配布資料を参考に外食業を経営するために必要な要素調べる。 授業：外食業界の経営と運営、収益管理。（成長戦略と事例紹介） 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。															
12	松本 三保	【第 12 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。食におけるリスクを調べる。（参考書・日本フード P.152-175） 授業：フードサービス産業の食の安全と安心 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。															
13	松本 三保	【第 13 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。和食の特徴について調べる。 授業：UNESCO 無形文化遺産と食文化、フードツーリズムについて。「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。															
14	松本 三保	【第 14 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。顧客が宿泊施設や飲食店を選択する方法について調べる。（参考書・日本フード p.195-207） 授業：宿泊業・飲食業の宣伝広告活動とDX導入「ディスカッション」 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。質問と課題を提出する。															
15	松本 三保	【第 15 回】 予習：配布資料とキーワードの確認。（参考書・徳江、第 15 章）（参考書・日本フード p.210-228） 授業：宿泊業と飲食業の社会的貢献と責任。全授業の振り返りと質疑応答 復習：授業内容と配布資料、キーワード、質問や疑問点の確認。課題を提出する。															
授業開始前学習		情報誌、ガイドブック等で宿泊施設や飲食店の動向や現状を調べておく。 ホテル・旅館や飲食店のホームページを開覧し、特徴、企業理念、商品内容等を具体的に理解しておく。															
授業内課題のフィードバックの方法		1. 授業内課題または演習問題に関して、翌週の授業初めに補足説明と講評をする。 2. グループ発表は授業内で総評する。 3. 個別質問については学生間で共有できるようなるべく授業内で回答し、必要に応じてメールで補足する。															
テキスト・教材		適宜、講義内で資料を配布する。															
参考書		徳江 順一郎著『宿泊産業論－ホテル旅館の事業展開－[改訂版]』（創成社）2023 年 日本フードサービス学会（編著）『現代フードサービス論』（創成社）2015 年															
評価の基準と方法		定期試験（60％）、グループワークとディスカッションでの貢献度と積極性（20％）、授業内課題と演習問題（20％）の総合評価。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当										◎				△		○	
関連科目																	
その他		理解と知識を深めるため、参考書以外で推奨する書籍を授業内で随時紹介する。 ホテルや旅館、飲食店を訪れた際には顧客と経営者の立場から観察し、業績向上に貢献している内的・外的要因を考えてみる。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		長年のラグジュアリーホテルでの海外駐在経験を活かし、国際社会に対応できるグローバルな人材育成を視野に講義を行う。実務経験や事例を紹介しながら理論と実践を結び付けて授業を展開する。															

科目分類	120-320-12 (J)	授業コード	FE0230
科目名称	航空・空港業実務論	単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Aviation and Airport Industries	授業区分	講義
科目責任者	木内 伸樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 伸樹	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	航空業務の中で特にエアライン業界の顔ともいえるキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解し、その業務に必要な知識を身に着ける。 合わせて空港を取り巻くホスピタリティ産業の一員として、業務を遂行する上での立ち振る舞い、身だしなみ、言葉遣いなど航空業界、空港業務で活躍できる人材となるために必要な接遇を学ぶ。		
到達目標	①企業理念に合わせた自分の強みをまとめる力を身につける。 ②航空業務のキャビンアテンダント、グランドスタッフの業務を理解する。 ③空港業務はどのような職種があるかを具体的に理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 伸樹	予習： 日本の航空会社のホームページを確認する 授業： 航空業務のカスタマーサービス部門の業務（CA・GS） 復習： 授業資料を再読し、カスタマーサービス部門の業務について整理する	
2	木内 伸樹	予習： 日本の航空会社の旅客サービス業務などをホームページで確認する 授業： 空港旅客サービスの基礎知識 復習： 授業資料を再読し、旅客サービススタッフの業務について整理する	
3	木内 伸樹	予習： 日本の航空会社の旅客サービス業務などをホームページで確認する 授業： 客室業務の基礎知識 復習： 授業資料を再読し、グランドスタッフの業務について整理する	
4	木内 伸樹	予習： 指定した日本の航空会社のアニュアルレポートをダウンロードし気になる内容を整理する 授業： 日本の航空会社の企業理念研究①（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） 復習： アニュアルレポートを再読し、その理念が CA・GS 業務にどう影響しているかを理解する	
5	木内 伸樹	予習： 指定した日本の航空会社のアニュアルレポートをダウンロードし気になる内容を整理する 授業： 日本の航空会社の企業理念研究②（グループワーク：企業理念と業務についてディスカッション） 復習： アニュアルレポートを再読し、その理念が CA・GS 業務にどう影響しているかを理解する	
6	木内 伸樹	予習： アニュアルレポートを再読し、その理念が CA・GS 業務にどう影響しているかを整理する 授業： 企業理念と自己理解（プレゼンテーション：企業理念に合わせた自分の強み） 復習： フィードバックを基に、企業理念と自分の強み、志望動機をまとめる	
7	木内 伸樹	予習： アルバイトなど接客の際に意識していることを考えてまとめておく 授業： 表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） 復習： フィードバックを基に、自分の表現力の強みを再確認する	
8	木内 伸樹	予習： グランドスタッフの業務について資料を見直しておく 授業： 航空旅客業務：搭乗手続 復習： 旅券・査証・その他出入国書類の確認、航空券記載内容確認、座席指定と搭乗券発行などについて整理する	
9	木内 伸樹	予習： グランドスタッフの業務について資料を見直しておく 授業： 搭乗手続に関連して必要な業務知識 表現力を鍛える（グループワーク：どのような表情や声掛けができるか） 復習： 出国手続き、予約・発券業務、団体の搭乗手続きなどの業務について整理する	
10	木内 伸樹	予習： どのような空港業務があるかウェブページ・書籍などで確認しておく 授業： 空港旅客業務：空港旅客サービス 復習： ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務について整理する	
11	木内 伸樹	予習： どのような空港業務があるかウェブページ・書籍などで確認しておく 授業： 空港旅客業務：空港旅客サービス 復習： ラウンジサービス、搭乗案内業務など顧客をサポートし快適さを提供する業務について整理する	
12	木内 伸樹	予習： 客室乗務員についてウェブページ・書籍などで確認しておく 授業： 客室乗務員：保安要員、サービス要員としての業務 復習： 客室乗務員の業務について整理する	
13	木内 伸樹	予習： 授業を通してアルバイトなど接客の際に活かしていることをまとめておく 授業： 航空・空港業務に携わるスタッフとしての基本的な心構え（グループワーク：ロールプレイ形式） 復習： 基本的な心構えについて実践してみる	

14	木内 伸樹	予習： 授業を通してアルバイトなど接客の実際に活かしていることをまとめておく 授業： 航空・空港業務に携わるプロとしての身だしなみと基本動作（グループワーク：ロールプレイ形式） 復習： 身だしなみと基本動作について日々心掛ける						
15	木内 伸樹	予習： 丁寧な表現技法などについて調べておく 授業： 空港における接客の言葉遣い：挨拶、基本接客用語、敬語など 復習： 日々の生活で接客の言葉遣いを意識して使用する						
授業開始前学習		航空会社のホームページ、アニュアルレポートなどから、企業の理念、取組みなどについて資料をまとめ自分の意見を添えてファイリングする。						
授業内課題のフィードバックの方法		グループワーク終了後に、質疑応答、教員からのグループワーク内容の評価とアドバイスをおこなう。 自分の強み、志望動機については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。 エアラインの講師、空港業務に従事する方をゲストスピーカーとして招き、航空・空港実務の現場の声を伝える。						
テキスト・教材		授業資料（プリント等）を適宜配布する。テキストは特に指定しない。						
参考書		図書館には航空・空港に関する雑誌や書物が多数あるので、積極的に利用し自らの参考書を見つけて欲しい。 その他、適宜授業内で雑誌・書籍を紹介する。						
評価の基準と方法		学期末レポートの成績（40％）、授業への積極性・態度・取組み姿勢（20％）、授業内課題(40%)の総合評価。						
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目	ホスピタリティ・マネジメント							
その他	自ら学ぶ意欲と、自己を高めていく意識をもつこと。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	27 年間にわたり外資系航空会社にて、マーケティング及び客室乗務部のスーパーバイザーとしての実務経験と旅行会社で添乗員としての経験あり。航空会社や観光産業で使用される観光英語について、専門用語を交え社員に必要とされる英語力についての講義をする。							

科目分類	120-320-12 (J)	授業コード	FE0240
科目名称	広告・メディア実務論	単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Advertising and Media Industries	授業区分	講義
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-613
授業概要	人はみな情報をインプットし、咀嚼して、自分なりの考えや創造物をアウトプットする。そのアウトプットこそが周りから評価されるものである。そのインプット情報は、すべてメディアを通して得られる。それらメディアが、近年大きく変化している。インターネットが登場し、ブログ、動画サイト、フェイスブックなどソーシャルメディアなどネットの進化は留まるところを知らない。この授業では、新聞、雑誌、テレビなど既存メディアやネットメディアの基本とそこで発信される政治経済におけるジャーナリズムの基本を学ぶ。また、広告の役割を含めたメディアや広告代理店などのビジネスモデルを考察する。		
到達目標	いろいろなメディアの成り立ち、意味、主義主張などの傾向を知ることができるようになる。 メディアにおける情報の真偽を見極められるようになる。 Instagram、フェイスブックやツイッターなど SNS の正しい使い方を学ぶことができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田代 真人	※この授業は毎回以下の 3 部から構成される。どれも重要度は同じであることを認識しておくこと。 1) 毎週、「今週気になったニュース」を発表。※毎週月曜日までにみんなと共有したい「今週のニュース」を提出してもらいます。 提出されたニュースからいくつか選んで、そのニュースについての解説。 2) 前週のフィードバック。※毎週授業のリアクションコメントを提出してもらいます。 3) 新規のメディア授業 【第 1 回】 予習 : 自分が接しているメディア (テレビ・新聞・ラジオ・ネット・携帯) の頻度、時間を整理しておく。 授業 : 全般のガイダンスと学生全般のメディアへの接触度調査を元にして現在のメディアの状況を知る。(発表) 復習 : いろいろなメディアにまんべんなく目を通す。	
2	田代 真人	【第 2 回】 予習 : メディアの役割を漠然とでかまわないので考えておく。 授業 : メディアの役割 (メディアの種類)。(発表) 復習 : いろんなメディアを意識して見てみる。	
3	田代 真人	【第 3 回】 予習 : テレビや新聞などが世の中に広まっていた順番を考える。 授業 : メディアの変遷 (メディアはどう変わっていったのか)。(発表) 復習 : 好きな雑誌はじめてしているんなメディアを見てみる。	
4	田代 真人	【第 4 回】 予習 : 販売されている女性誌に目を通しておく。 授業 : ファッション女性誌はどうやって創られるか? 雑誌編集者の役割。(発表) 復習 : 好きなファッション女性誌を見てみる。	
5	田代 真人	【第 5 回】 予習 : 新聞に目を通して、興味ある記事を読んでおく。 授業 : 新聞はどうやって創られるか? ジャーナリズムとはなにか? 新聞記者と書籍ライターとの違い。編集者との違い。(発表) 復習 : 新聞を手にとって、社会面、政治面、外交面など面によって内容の違いを確認する。	
6	田代 真人	【第 6 回】 予習 : 新聞や雑誌に掲載されている広告をチェックしておく。 授業 : ビジネスとしての出版と新聞メディア (広告との関係)。(発表) 復習 : 新聞や雑誌を手にとって、広告の入り方を見てみる。	
7	田代 真人	【第 7 回】 予習 : いろいろなブログ、ソーシャルメディアをチェックする。 授業 : マスコミとブログ、ソーシャルメディア、その違い。(発表) 復習 : ネットメディアの観察。	

8	田代 真人	【第 8 回】 予習 : YouTube、Tiktok、ニコニコ動画など動画メディアをチェックする。 授業 : 動画メディアとテレビの違い。(発表) 復習 : いろいろな動画サイトの観察。						
9	田代 真人	【第 9 回】 予習 : 人気のあるブログ、ソーシャルメディアをチェックする。 授業 : ブログとはなにか? ブログメディアの可能性。(発表) 復習 : 新たな観点で面白いブログを探してしてみる。						
10	田代 真人	【第 10 回】 予習 : ネットのニュースメディアをチェックする。 授業 : ネットがなにを変えるのか? ネットメディアの特徴。(発表) 復習 : いろいろなニュースメディアの Web サイトをしてみる。						
11	田代 真人	【第 11 回】 予習 : ネットで著作権違反をしていると思われるサイトをチェックしておく。 授業 : メディアで表現する前に著作権のことを知っておこう。(発表) 復習 : CC (クリエイティブコモンズ) のコンテンツを探してみる。						
12	田代 真人	【第 12 回】 予習 : インスタグラム、X (旧ツイッター) など SNS をチェックしておく。 授業 : インスタグラム、X (旧ツイッター)、フェイスブックなどソーシャルメディアの正しい使い方。(発表) 復習 : アカウントを開設して、他人のコンテンツを読んでみよう。						
13	田代 真人	【第 13 回】 予習 : ユーチューバーの動画サイトその他をチェックする。 授業 : Youtube その他動画サイトの閲覧法と使い方。(発表) 復習 : Youtube サイトにアカウントを開設してお気に入りを作る。						
14	田代 真人	【第 14 回】 予習 : 最新ネットメディアを探しておく。 授業 : 進化するネットメディアに私たちはなにを考えて向き合うのか? (発表) 復習 : 新しいネットメディアを考える。						
15	田代 真人	【第 15 回】 予習 : 自分の職業としての観点からネットメディアを観察しておく。 授業 : メディアの未来。今後どのように進化していくのか。その他まとめ。(発表) 復習 : クリエイティビティの目で世の中を見る。 ※講義内容は、そのときどきの社会の状況で変更する場合もある。						
授業開始前学習		ネットのみならず、新聞や雑誌、テレビなど興味深く接する。それらのメディアを通して、毎日のニュースがどのように報道されているかを確認する。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。						
テキスト・教材		適宜資料を閲覧してもらいます。						
参考書								
評価の基準と方法		講義に対する積極性 (20%)、毎週提出するニュースとコメント (20%)、各講義での提出するリアクションコメント (20%)、最終レポート (40%) での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。※学生証の機器タッチによる出欠を基本とします。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成			観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。							

科目分類	120-320-12 (J)			授業コード	FE0250
科目名称	エンタテインメント業実務論			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Entertainment Industries			授業区分	講義
科目責任者	黒澤 行紀			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒澤 行紀			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	エンタテインメント産業の構造と概念を観光産業に関わる社会的背景から概観し、具体的な実務の現状を考察します。非日常的な集客施設であるテーマパーク、鑑賞レジャー（ミュージアム、劇場、スポーツ等）や日常的な外食産業や商業施設など各種エンタテインメント産業を事例としながら、その発展プロセスや地域的展開、実務の種類などの現状や課題について把握し可能性や問題点を検討します。授業内容は随時ディスカッションやグループワークを含めます。進行状況により授業内容が前後・変更します。				
到達目標	エンタテインメント産業が新しい観光文化の創造や地域活性に与える影響について理解し、観光・エンタテインメント実務に関する基本的な知識を動画などを使用しながら習得します。また、エンタテインメント産業の現状の把握と今後のエンタテインメント産業の推測ができるようになることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	黒澤 行紀	【第 1 回】 予習：観光およびエンタテインメント産業の内容を事前に調べておく 授業：講義内容および観光・エンタテインメント産業の概要と類型（日常と非日常） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
2	黒澤 行紀	【第 2 回】 予習：エンタテインメントって何かについて調べておく 授業：遊びの概念とは 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
3	黒澤 行紀	【第 3 回】 予習：テーマパークの種類について調べておく 授業：テーマパーク産業の類型と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
4	黒澤 行紀	【第 4 回】 予習：ディズニーリゾートについて調べておく 授業：ディズニーリゾートの誕生と発展プロセス 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
5	黒澤 行紀	【第 5 回】 予習：東京ディズニーリゾートについて調べておく 授業：東京ディズニーリゾートの形成と発展とサービス・ホスピタリティ 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
6	黒澤 行紀	【第 6 回】 予習：USJ について調べておく 授業：TDR と USJ の違い 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
7	黒澤 行紀	中間テスト			
8	黒澤 行紀	【第 8/9 回】 予習：ホスピタリティ産業の顧客満足の実態について調べておく 授業：テーマパークの顧客満足：1.動画など参考資料から 2.データ分析から 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
9	黒澤 行紀	【第 8/9 回】 予習：ホスピタリティ産業の顧客満足の実態について調べておく 授業：テーマパークの顧客満足：1.動画など参考資料から 2.データ分析から 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
10	黒澤 行紀	【第 10 回】 予習：クルーズについて調べておく 授業：クルーズ船を事例に 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
11	黒澤 行紀	【第 11 回】 予習：美術館・博物館について調べておく 授業：ミュージアムを事例として			

		復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく															
12	黒澤 行紀	【第 12 回】 予習：万博について調べておく 授業：イベント・コンベンションを事例として 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく															
13	黒澤 行紀	【第 13 回】 予習：日常の身近な集客施設について調べておく 授業：百貨店・ショッピングモール・外食産業を事例として：1.歴史と成り立ちについて 2.日本の現状と将来性について 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく															
14	黒澤 行紀	【第 14 回】 予習：演劇・コンサートなど舞台芸術について調べておく 授業：舞台芸術（主に演劇）のハードとソフトについて劇団四季を事例として 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく															
15	黒澤 行紀	【第 15 回】 予習：ラスベガスのエンターテインメント産業やカジノ（IR リゾート）について事前に調べておく 授業：地域とエンターテインメント ラスベガスと秋田を事例として？ 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく ※ 講義内容が変更になることもあります。															
授業開始前学習		エンターテインメント産業の基本的知識を学習もしくは体験しておくと授業が理解しやすい。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業内にてテーマごとの講評を行い、個別の質問に回答する。															
テキスト・教材																	
参考書																	
評価の基準と方法		講義中に配布する出席票および授業態度、講義後の授業レポートを 6 0 点（4 点満点×1 5 回）、中間テストおよび期末レポート 4 0 点（中間テスト 1 0 点・期末レポート 3 0 点）、合計 1 0 0 点で評価する。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当										◎				△		○	
関連科目																	
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		ツーリズム関連のイベント企画・実務経験あり。地域活性や集客の課題、実践について講義する。															

科目分類	120-320-12	授業コード	FE0252
科目名称	ライフイベントデザイン実務論	単位数	2.0 単位
英文名称	Life Event Design in Practice	授業区分	講義
科目責任者	黒澤 行紀	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	黒澤 行紀	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ライフイベントをデザインするためには、人々が一生の間に経験する人生上の出来事を各段階において知る必要があります。この授業では、ライフコースの概念を学んだうえで、主に出生、結婚、高齢期から死にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、ホスピタリティ産業の視点とサービス提供者および消費者行動の視点を実務に沿って理解し、自らのキャリア形成や生き方も考えながらライフイベント 産業の仕組みを考察することを目的とします。ライフイベントの中で関わる産業を動画などを利用しながら理解してもらいますが、主にブライダルビジネスに関する内容が主となります。		
到達目標	本授業の到達目標は、以下の 1～3 です。 1. ライフイベントをデザインする産業の変化を時代背景と関連させて説明できるようになる 2. 「一生に一度のメモリアル」であるライフイベントの特徴を社会的な仕組みと関連させて説明できるようになる 3. ブライダルビジネスに必要な知識と教養を身につけるようになる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	黒澤 行紀	【第 1 回】 予習：ライフイベント に付随する産業の内容を事前に調べておく 授業：オリエンテーション：授業の概要や進め方についての説明、授業の目的を確認する 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
2	黒澤 行紀	【第 2 回】 予習：ライフイベント とは何かについて調べておく 授業：ライフサイクルからライフコースへ、人生の複雑さと予測不可能性をシンプルなゲーム形式で模倣し、人生の基本的な教訓や洞察を疑似体験する（グループワーク） 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
3	黒澤 行紀	【第 3 回】 予習：ライフイベント とは何かについて調べておく 授業：女性のライフコース をニッセイ基礎研究所のレポートを使いながら自分のライフコース を作成 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
4	黒澤 行紀	【第 4 回】 予習：出産について調べておく 授業：赤ちゃん関連産業について（出産環境まつわるホスピタリティ産業の取組み）を学ぶ 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
5	黒澤 行紀	【第 5 回】 予習：葬祭業のサービスについて調べておく 授業：葬儀・法事に関する知識と教養 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
6	黒澤 行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：1.ブライダルとは 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
7	黒澤 行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：2.結婚の歴史と世界の結婚事情 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
8	黒澤 行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：3.ブライダルにまつわる慣習・由来 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
9	黒澤 行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：4.ブライダルの分類 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく	
10	黒澤 行紀	【第 6 回～第 11 回:ブライダル概論】 予習：ブライダルについて調べておく 授業：5.ホテルの婚礼部門の組織と役割	

☆短期インターンシップ°実習 A／インターンシップ°実習 A

科目分類	120-330-22 (J)	授業コード	FE0260
科目名称	☆短期インターンシップ°実習 A／インターンシップ°実習 A	単位数	1.0 単位
英文名称	Short Term Internship A／Domestic Internship A	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・ゼイヤール・ウィン・田代・本間・渡邊(光)	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修も推奨する。 当科目では旅行業・宿泊・リゾート・テーマパーク業、航空業の短期インターンシップを行う。 短期の定義は、原則 7 日間未満または実勤務 5 日未満とする。		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	6 回
		複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 光章、田代 真人、鮫島 卓、本間 准	履修希望者は後日発表する【第 1 回】目授業に必ず出席すること。【第 1 回】目に実習内容の説明と実習先の志望を提出する。 ※社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。 【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）	
2	鮫島 卓	【第 2 回】《ディスカッション》 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「自己分析と企業研究の技法」 復習：エントリーシートを提出	
3	田代 真人	【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）	
4	本間 准	【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことを振り返り改善する	
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする	
6	渡邊 光章、田代 真人、鮫島 卓、本間 准	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする ◆実習は各受入先によって日程・期間・参加条件が異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。	
授業開始前学習		実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。	

授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。							
テキスト・教材	なし。							
参考書								
評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート」などにより、総合的に評価する。配点（１００点満点）は、実習の取り組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）９０点・実習日報・実習レポート１０点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は「旅行業実務論」「宿泊業・飲食業実務論」「航空・空港業実務論」「エンターテインメント業実務論」「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」「広告・メディア業実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第１回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。 実習に参加した学生は、翌学期の第１回授業時に参加し、ふりかえりを発表する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（２時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（１時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かせて講義を行う予定である。							

☆短期インターンシップ°実習 B／インターンシップ°実習 B

科目分類	120-330-22 (J)	授業コード	FE0270
科目名称	☆短期インターンシップ°実習 B／インターンシップ°実習 B	単位数	1.0 単位
英文名称	Short Term Internship B／Domestic Internship B	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・ゼイヤ・ウィン・田代・本間・渡邊(光)	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修も推奨する。 当科目では A 以外の業種（広告出版・ブライダル・観光協会・DMO・行政・金融等）の短期を行う。 短期の定義は、原則 7 日間未満または実勤務 5 日未満とする。		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	6 回
		複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 光章、田代 真人、鮫島 卓、本間 准	履修希望者は後日発表する【第 1 回】目授業に必ず出席すること。【第 1 回】目に実習内容の説明と実習先の志望を提出する。 ※社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。 【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）	
2	鮫島 卓	【第 2 回】《ディスカッション》 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「自己分析と企業研究の技法」 復習：授業レポートを提出	
3	田代 真人	【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）	
4	本間 准	【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことをふりかえり改善する	
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする	
6	渡邊 光章、田代 真人、鮫島 卓、本間 准	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする ◆実習は各受入先によって日程・期間・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。	
授業開始前学習		実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。	

[illegible]

☆中期インターンシップ実習／インターンシップ実習 C

科目分類	120-330-22 (J)	授業コード	FE0280
科目名称	☆中期インターンシップ実習／インターンシップ実習 C	単位数	2.0 単位
英文名称	Medium Term Internship／Domestic Internship C	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・ゼイヤール・田代・本間・渡邊(光)	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	観光産業の知識を深めるため、観光業関連会社でのインターンシップ（実習）を実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修希望者は「ホスピタリティ概論」、各種「実務論」の履修もお勧めしておきたい。 当科目では、すべての業種にわたり原則 8 日間以上 30 日間未満または実勤務 21 日未満のインターンシップが対象となる。		
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーション力を身に付けることで、実習先での成果や評価を高める。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	6 回
		複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 光章、田代 真人、鮫島 卓、本間 准	履修希望者は後日発表する【第 1 回】目授業に必ず出席すること。【第 1 回】目に実習内容の説明と実習先の志望を提出する。 ※社会状況や受入れ先企業の事情により中止になる場合、もしくは遠隔方式（オンライン）による実習となる場合がある。 【第 1 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等で調査する 授業：ガイダンス：授業計画・評価方法、実習企業の紹介 復習：授業レポートを提出する（希望業種をエントリー）	
2	鮫島 卓	【第 2 回】《ディスカッション》 予習：希望実習先企業の情報を下調べする 授業：講義「自己分析と企業研究の技法」 復習：授業レポートを提出	
3	田代 真人	【第 3 回】 予習：社会人としての心構えやマナー等を、自ら考える 授業：講義「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望企業をエントリー）	
4	本間 准	【第 4 回】《実技訓練》 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員講師によるマナーセミナー 復習：学んだことをふりかえり改善する	
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容の説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先との面談の準備をする	
6	渡邊 光章、田代 真人、鮫島 卓、本間 准	【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼の連絡をする ◆実習は各受入先によって日程・期間（5 日間?）・参加条件は異なる。詳しくは事前授業で周知する。 ◆企業によってはオンラインで実施する場合がある。 ◆受入先によっては人数制限がかかる場合がある。	
授業開始前学習		実習先の企業や業界に関する資料をできるだけ多く読むこと。	

授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学習が不足している学生は呼び出し、個別指導する。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。							
テキスト・教材	なし。							
参考書								
評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習レポート」などにより、総合的に評価する。配点（１００点満点）は、実習の取組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）９０点・実習日報・実習レポート１０点とする。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティ・マネジメント」各種「実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来観光業界関連への就職を希望する学生は、履修が望ましい。 履修希望者は、後日発表する第１回目授業に必ず出席すること。 また、連絡事項は Google Classroom を使って通知する。履修希望者は Classroom に参加すること。 なお、事前授業及び実習を途中で放棄した場合は、単位を付与しない。 実習に参加した学生は、翌学期の第１回授業時に参加し、ふりかえりを発表する							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（２時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目であり、担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・DMO の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

海外インターンシップ実習

科目分類	120-330-22		授業コード	FE0290	
科目名称	海外インターンシップ 実習		単位数	2.0 単位	
英文名称	Overseas Internship		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	張 景泰		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	張・本間		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	観光ホスピタリティ産業は日本の新たな成長産業となっている。本授業では、観光ホスピタリティ産業の中核的産業である旅行業・ホテル業の実務知識を深めるため、事前学習とハワイでのインターンシップ実習を行う。ハワイでは、通常の旅行では経験できない高級リゾートホテル・旅行会社の舞台裏を体感することができる。また日米交流プログラムにも参加し、日米交流の懸け橋となる体験をする。最終的にコミュニケーションやビジネスマナーなど社会人基礎力を養うことも目的としている。				
到達目標	旅行業務・ホテル業務について実習を通じて理解を深める。また、日本と海外のホスピタリティの違いを学ぶ。さらにビジネスマナー・身だしなみなど社会人基礎力を身に付ける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1		【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：授業概要・インターンシップ実習概要や手続き・評価方法の説明 復習：配布資料の復習			
2		【第 2 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：接客実務の基礎知識とビジネスマナー 復習：配布資料の復習			
3		【第 3 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：海外渡航のための手続き、旅券・E S T A 取得の説明など 復習：配布資料の復習			
4		【第 4 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：ハワイ観光資源研究と国際交流の意義 復習：配布資料の復習			
5		【第 5 回】 予習：リクルートスーツ・身だしなみを準備する 授業：身だしなみ・マナーセミナー 復習：学んだことを復習する			
6		【第 6 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする 授業：英語での自己紹介と課題テーマのプレゼンテーション（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションのふりかえり			
7		【第 7 回】 予習：リクルートスーツ・身だしなみを準備してプレゼンテーションの準備をする 授業：東京マリオットホテルと JTB を訪問、旅行説明会と課題テーマのプレゼンテーション（プレゼンテーション） 復習：学んだことを復習する			
8		【第 8 回】 予習：実習の準備をする 授業：12 日間のハワイ海外実習 復習：日々実習レポート作成			
授業開始前学習	ホテル業・旅行業に関する資料やハワイのガイドブック等を出来るだけ多く読むこと。				
授業内課題のフィードバックの方法	インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いなどを修正し、フィードバックを実施する予定である。				
テキスト・教材	なし。				
参考書					
評価の基準と方法	実習先の評価を主とし、実習の取り組み姿勢、「実習ノート」などにより、総合的に評価する。 配点（１００点満点）は、実習の取組み姿勢及び成果（実習先の評価が中心）９０点・実習ノート１０点とする。				

ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	この科目は、「旅行業実務論」、「宿泊業・飲食業実務論」、「ホスピタリティ概論」、その他の「実務論」の中、どれか一つを既に履修又は履修中の学生（観光文化学類）であることが望ましい。							
その他	実習受入先には限度があるので、履修希望者が多数の場合は、学内選抜（面接）を行う。 履修希望者は、初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また、連絡事項はその都度掲示するので注意して見ること。さらに研修先はハワイ（ホノルル）とし、12日間程度の予定で実施する。旅行費用は33～35万円程度であるが、参加人員の減少、国際情勢の変化、為替の大幅な変動などにより、実施時期・旅行費用の変更及び実施中止もあり得る。なお、海外での研修のため、旅行に不参加の場合は単位を付与しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

長期インターンシップ 実習

科目分類	120-330-22（J）		授業コード	FE0292	
科目名称	長期インターンシップ®実習		単位数	4.0 単位	
英文名称	Long Term Internship		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	鯨島 卓		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鯨島・本間		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	観光ホスピタリティ産業の知識を深めるため、観光関連会社等でインターンシップを実施し、社会人としての素養を育てるとともに、就職活動の準備につなげていく。本インターンシップ実習の履修者希望者は「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティマネジメント」、各種「実務論」の履修を勧めておきたい。 問う科目では該当するすべての業種にわたり、原則 1 ヶ月以上の実勤務のインターンシップが対象となる。尚、本科目は海外実務実習（海外留学）履修者のための科目である。				
到達目標	好奇心の醸成と人前でのコミュニケーションを身につけることで、実習先での成果や評価を高める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	1 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鯨島 卓	本科目は 1 ヶ月以上のインターンシップ実習を想定しており、主に海外実務実習（海外留学）の履修者を対象としている。そのため事前授業は、留学準備となる海外実務実習準備として授業を行う。			
2		【第 2 回】 予習：希望する業種を各自でインターネット等を用いて調査する 授業：講義：「企業研究の技法」 復習：授業レポートを提出する			
3		【第 3 回】 予習：志望実習先を検討する 授業：講義：「履歴書の書き方」 復習：授業レポートを提出する（希望実習先エントリー）			
4		【第 4 回】 予習：身だしなみ、リクルートスーツを準備する 授業：元客室乗務員によるマナーセミナー〈ペアワーク〉 復習：学んだことをふりかえり改善する			
5		【第 5 回】 予習：実習先企業の企業研究をする 授業：実習前オリエンテーション：各実習内容説明、実習日報・レポートの提出について 復習：実習先企業との面談の準備をする			
6		【第 6 回】 予習：アポイントの確認をする 授業：面談の実施 復習：お礼を連絡する ◆実習先によっては人数制限がかかる場合がある。			
授業開始前学習	実習先企業や業界に関する文献をできるだけ多く読み、自分が希望する業種や企業を選定しておくのが望ましい。				
授業内課題のフィードバックの方法	実習前に学修が不足している学生は呼び出し、個別指導を行う。また、インターンシップ現場の責任者による実習評価を行う。実習生には責任者による現場での指導で、質問や仕事の間違いを修正し、フィードバックを実施する予定である。				
テキスト・教材	特になし。				
参考書					
評価の基準と方法	評価は海外実務実習（海外留学）の一環として評価を一括して行う。				

ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○			◎
関連科目	「ホスピタリティ概論」「ホスピタリティマネジメント」、各種「実務論」のいずれかを履修していることが望ましい。							
その他	将来、観光ホスピタリティ産業に就職希望する学生は履修が望ましい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 120 時間＋予習・復習時間 60 時間（４時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の実務経験者による指導科目である。担当教員のうち、田代は広告・出版編集者の実務経験を、渡邊はメディア業の実務経験を、本間は旅行業の実務経験を、鮫島は旅行業・テーマパーク・ＤＭＯの実務経験を有している。本科目では、その経験を活かして講義を行う予定である。							

科目分類	120-330-22 （ J ）			授業コード	FE0300
科目名称	国内旅行研修			単位数	1.0 単位
英文名称	Domestic Travel Management Training			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島・本間			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	本授業では、国内観光地での旅行企画の実践を通じて観光産業の仕組みとホスピタリティを学ぶことを目的とする。事前学習では旅行企画の仕方、プレゼンテーションの技法を学びながら、チーム毎に旅行企画と発表を行い、チームワーク力を身につける。チームワーク力は就職活動において最も重視される能力である。 学外実習として旅行会社の視察を行うほか、春休み期間中（2 月予定）に国内観光地での宿泊施設など観光産業の視察、食事作法の実践、観光資源を取り入れた旅行企画の実践を行う 2 泊 3 日～3 泊 4 日の研修旅行を予定している。旅行内容は第 1 回目授業の際に発表する。 一連のプログラムを通じて、多くの社会人との対話の機会がある。初対面の社会人との挨拶、自己紹介、質疑応答など就職活動に欠かせないビジネスマナーや社交力を育む機会となる。将来、観光産業を目指す学生はもちろん、社会人基礎力を養う有意義な機会になるであろう。				
到達目標	① 旅行企画を自らできるようになる。 ② グループワークを通じてコミュニケーション力を向上させる。 ③ 社会人と対話を通じてビジネスマナーや社交力を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	10 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鮫島 卓、本間 准	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：授業概要・研修旅行内容・評価方法の説明 復習：授業レポート記入と提出			
2	鮫島 卓、本間 准	【第 2 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：（演習）チームビルディング《ディスカッション》 復習：授業レポート記入と提出			
3	鮫島 卓、本間 准	【第 3 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：（講義）旅行先の観光資源と地域課題を学ぶ《ディスカッション》 復習：授業レポート記入と提出			
4	鮫島 卓、本間 准	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：（講義）旅行企画の技法《グループワーク》 復習：授業レポート記入と提出			
5	鮫島 卓、本間 准	【第 5 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：（講義）ファシリテーション・プレゼンテーションの技法《グループワーク》 復習：授業レポート記入と提出			
6	鮫島 卓、本間 准	【第 6 回】 予習：企画の準備 授業：（演習）旅行企画の実践《グループワーク》 復習：授業レポート記入と提出			
7	鮫島 卓、本間 准	【第 7 回】 予習：発表の準備 授業：（演習）旅行企画の発表《プレゼンテーション》 復習：授業レポート記入と提出			
8	鮫島 卓、本間 准	【第 8 回】 学外実習 予習：訪問企業の下調べ 授業：旅行会社を訪問し、旅行説明会と会社見学《学外実習》 復習：授業レポート記入と提出			
9	鮫島 卓、本間 准	【第 9 回】 学外実習 予習：旅行の準備をする			

		授業：研修旅行の実施《学外実習》 復習：改善点を修正する							
10	鮫島 卓、本間 准	【第 10 回】 事後学習 予習：発表の準備をする 授業：研修旅行のふりかえり《プレゼンテーション》 復習：改善点を修正する							
		【第 12 回】 事後学習 予習：発表の準備をする 授業：事後学習報告会《プレゼンテーション》※参加者が合意した春休み期間中の日時に実施する 復習：実習レポート提出 ※3泊4日の研修旅行参加が必須となる ※研修旅行は2月実施予定である ※旅行内容は第1回授業時に提示する ※コロナの感染状況によって内容が変わる場合がある							
授業開始前学習		旅行会社や航空会社のサービスを実際に購入し、サービスを受ける経験があると授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回授業時に授業レポートの記入と提出を義務付ける。次回授業で講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		テキストは使用しないが、資料は適宜配布する。							
参考書		授業のなかで適宜紹介する。							
評価の基準と方法		グループワーク（50 点）、実習レポート（30 点）、事後学習の発表（20 点）で総合評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○		△		◎
関連科目		観光基本科目「観光学」「ホスピタリティ概論」「観光政策論」「観光マーケティング論」のほか、実務関連科目「旅行業実務論」「宿泊業実務論」「航空・空港業実務論」「ライフイベントデザイン実務論」と合わせて履修するとより理解が深まる。							
その他		研修旅行は春休み期間（2 月）の 2 泊 3 日～3 泊 4 日を予定している。旅行日程は就職活動が本格化する 3 月と被らないよう設定しているので 3 年生もぜひ参加してほしい。また企業側に配慮願いを出すので、国内インターンシップ実習希望者も積極的に参加してほしい。尚、本科目は観光文化学類だけではなく人間総合学群であれば履修可能である。人数は最低 10 名としているため希望者数が満たない場合は実施しないことがある。研修旅行内容は第 1 回目の授業時に提示する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		授業では、実務経験者の担当教員による事前授業がある。また学外実習を通じて多くの社会人との対話がある。就職活動で欠かせないビジネスマナーや社交力を身につける良い機会になる。							

科目分類	120-330-22	授業コード	FE0310
科目名称	海外旅行研修	単位数	1.0 単位
英文名称	Overseas Travel Management Training	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鯨島・張	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	この授業では、海外旅行の渡航手続などの旅行実務を学ぶと共に韓国の歴史・文化・観光資源・都市政策を学んだ上で研修旅行を実施する。研修旅行では高級ホテル・旅行会社などを舞台裏を視察するほか、学生自ら旅行企画と実践をする。「韓国の過去と未来」をコンセプトとし、日本ではできない体験となる。海外旅行未経験者も観光文化学類ではない人間総合学群の他学類学生も歓迎する。		
到達目標	・自分で海外渡航の手続きができるようになる。 ・自分で旅行プランを企画し実践できるようになる。 ・韓国の歴史や観光資源について学ぶ。 ・グループワークや現地学生との交流でコミュニケーション力を向上する。 ・旅行企画発表でプレゼンテーション力を上げる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	12 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : 授業概要・評価方法の説明、自己紹介・チームビルディング 復習 : 配布資料の復習	
2		【第 2 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 講義「韓国の観光資源と歴史」 復習 : 配布資料の復習	
3		【第 3 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 講義「韓国の国際観光実務」(HIS 韓国支店) 復習 : 配布資料の復習	
4		【第 4 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 講義「旅行プランの調査法」「プレゼンテーションの技法」 復習 : 配布資料の復習	
5		【第 5 回】 予習 : 事前調査をする 授業 : 旅行プラン企画 《グループワーク》 復習 : プランの改善をする	
6		【第 6 回】 予習 : 事前調査をする 授業 : 旅行プラン企画 《グループワーク》 復習 : プレゼンテーションの準備をする	
7		【第 7 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 旅行プラン全体発表 《プレゼンテーション》 復習 : プレゼンテーションのふりかえりをする	
8		【第 8 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 旅行説明会・渡航手続き 復習 : 配布資料の復習	
9		【第 9 回】 予習 : 国際交流テーマの事前調査をする 授業 : 国際交流テーマ設定 《グループワーク》 復習 : 復習をする	
10		【第 10 回】 予習 : 国際交流テーマの事前調査 授業 : 国際交流プレゼンテーション制作 《グループワーク》 復習 : プレゼンテーションの準備をする	

11		【第 11 回】 予習：国際交流テーマの事前調査 授業：国際交流プレゼンテーション発表《プレゼンテーション》 復習：プレゼンテーションのふりかえりと改善をする							
12		【第 12 回】 予習：訪問企業の研究 授業：HIS 本社訪問、出発前確認、会社説明など《学外実習》 復習：出発の準備をする							
授業開始前学習		研修先である韓国に興味を持ち、何らかの資料（図書・ガイドブックなど）を読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		韓国の現地大学でのプレゼンテーションについての準備を行い、旅行研修の前にプレゼンテーションについて意見交換、修正などを実施する予定である。							
テキスト・教材		必要に応じて配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度（出席状況・意欲など）・レポート内容及び研修旅行での行動などにより総合的に評価する。 配点（１００点満点）は、授業態度３０点・レポート２０点・研修旅行での行動５０点とする。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○		△		◎
関連科目		なし							
その他		第 1 回授業時に授業実施日を告知するので履修を検討している学生は必ず出席する事。研修旅行に向けて 9 月より事前授業を行う。また、研修旅行先は韓国とし、9 月に実施する。また企業に配慮願を出すので国内インターンシップ実習希望者も積極的に参加してほしい。尚、本科目は観光文化学類だけではなく人間総合学群所属であれば履修可能である。旅行費用は 20 万円程度の予定。新型コロナの感染状況によっては研修旅行を中止または延期する場合もある。また国際情勢の変化・為替の大幅な変動などにより、旅行先・実施時期・旅行費用の変更もあり得る。なお、海外での研修が目的のため旅行に不参加の場合は単位を付与しない。（注）履修希望者が僅少の場合は開講・実施しない。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-321-12（J）	授業コード	FE0410
科目名称	世界遺産研究	単位数	2.0 単位
英文名称	World Heritage Research	授業区分	講義
科目責任者	大室 聡志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大室 聡志	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	「世界遺産とは、地球の品位を守るもの」として、人類が後世に残すべき人類共通の財産です。1978 年に最初の世界遺産 12 件が「世界遺産リスト」に記載されて以来、2024 年 1 月現在、1,199 件の世界遺産が登録されており、そのうち 25 件が日本の世界遺産です。 世界遺産を学ぶことは、ユネスコ憲章の謳う「相互理解」につながります。近年の世界情勢を鑑みると、「相互理解」は世界平和への第一歩となる重要な視点です。この講義では「相互理解」の重要性を理解することを目標とします。 講師は旅行会社に 20 年以上務め、個人的にも 60 か国以上旅をし、世界各国の世界遺産を実際に見てきた経験があります。この講義では、これらの経験を活かし、世界遺産の歴史、意義、価値を考察し、文化や宗教の多様性や歴史の教訓を学ぶとともに、自然の恵みや伝統の重みについても触れていきます。 なお、授業は講師が一方的に話すのではなく、学生との双方向での議論で進め、毎週グループディスカッションを行いグループで考える楽しさも伝えていきます。		
到達目標	目標： ①日本の世界遺産の概要を説明できるようになる。 ②世界の主要な世界遺産の概要を説明できるようになる。 ③日本や世界の地理感覚（どのあたりにどの国・地域があるか）を身につける。 ④疑問点を考えながら発表を聞くことで、批判的思考力を身につける。 ⑤発表担当者は、「問い」を立て調査し、まとめる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大室 聡志	「世界遺産を学ぶ＝相互理解促進」を理解する 予習：訪れたことがある世界遺産を調査する 授業：講師のロシアでの経験を通じて感じる相互理解の重要性について 復習：確認のクイズに答える（小課題①）	
2	大室 聡志	グループディスカッションに必要な「ファシリテーションスキル」を身に付ける 予習：知っている世界遺産をリストアップする 授業：ファシリテーションについての説明と実践 復習：確認のクイズに答える（小課題②）	
3	大室 聡志	世界遺産について考える 予習：自分の知らない世界遺産を調べてリストアップする 授業：世界遺産がなぜ必要なのかグループディスカッション 復習：確認のクイズに答える（小課題③）	
4	大室 聡志	世界遺産の概念と登録基準を学ぶ 予習：世界遺産登録基準を事前に覚える 授業：世界遺産の概念を学び、「真正性」についてグループディスカッション 復習：確認のクイズに答える（小課題④）	
5	大室 聡志	日本の世界遺産を学ぶ① 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑤）	
6	大室 聡志	日本の世界遺産を学ぶ② 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑥）	
7	大室 聡志	日本の世界遺産を学ぶ③ 予習：日本の世界遺産（文化遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（文化遺産） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑦）	
8	大室 聡志	日本の世界遺産を学ぶ④ 予習：日本の世界遺産（自然遺産）について事前に調査する 授業：日本の世界遺産（自然遺産） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑧）	
9	大室 聡志	世界で最初の世界遺産を学ぶ 予習：世界で最初の世界遺産について事前に調査する 授業：12 個の最初の世界遺産 復習：確認のクイズに答える（小課題⑨）	
10	大室 聡志	ヨーロッパの世界遺産を学ぶ 予習：イタリアの世界遺産について事前に調査する 授業：ヨーロッパの世界遺産（イタリア・ドイツ） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑩）	

11	大室 聡志	イスラム教の世界遺産を学ぶ 予習：イスラム教の世界遺産について事前に調査する 授業：イスラム教の世界遺産（トルコ・ドバイ・サウジアラビア） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑪）						
12	大室 聡志	アジアの世界遺産を学ぶ 予習：アジアの世界遺産について事前に調査する 授業：アジアの世界遺産（タイ・中国） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑫）						
13	大室 聡志	アメリカ大陸の世界遺産を学ぶ 予習：アメリカの世界遺産について事前に調査する 授業：アメリカの世界遺産（北米・南米） 復習：確認のクイズに答える（小課題⑬）						
14	大室 聡志	世界遺産についてグループ発表 予習：グループ発表に向けて、発表資料作成 授業：自分たちで選んだ世界遺産についてグループ発表 復習：確認のクイズに答える（小課題⑭）						
15	大室 聡志	まとめと最終確認テスト 予習：最終確認テストに向けて準備 授業：15 回の講義の総括のあと、確認テスト						
授業開始前学習		日頃から世界遺産や主要な観光地に関心を持つとともに、UNESCO の世界遺産リスト < http://whc.unesco.org/ja/list/ >を見ておく。 図書館にある世界遺産の DVD の視聴もお勧めする。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表（要領は初回授業にて指示する）については、授業後に教員からのフィードバックを行う。 授業後の小課題は、次の授業の冒頭でコメントする。						
テキスト・教材		『くわく学ぶ世界遺産 300』-世界遺産検定 2 級公式テキスト-（発行：NPO 法人世界遺産アカデミー） ※世界遺産検定受験予定者は特に購入を推奨する。						
参考書		『世界遺産検定』公式過去問題集 3・4 級（発行：NPO 法人世界遺産アカデミー） 旅地図世界-世界の名所をめぐる誌上旅行-（発行：昭文社） 旅地図日本-全国の名所をめぐる誌上旅行-（発行：昭文社）						
評価の基準と方法		評価に関しては、出席・課題・レポート・テストの総合評価を行います。 ・出席点 2 点 × 1 5 回 = 3 0 点 ・毎週の課題 2 点 × 1 5 回 = 3 0 点 ・課題レポートのチーム発表 = 1 5 点 ・期末テスト（世界遺産検定 3 級レベル）= 2 5 点 60 点以上 69 点以下：可 70 点以上 79 点以下：良 80 点以上 89 点以下：優 90 点以上 100 点：秀 ※既に世界遺産検定 3 級以上を取得している方は、合格証コピーを提出してください。ボーナス加点します。 授業前に既に合格している方にもボーナス加点を行うので、合格証をご提示ください。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				△		◎	
関連科目	日本・世界の歴史、文化史、宗教史、地理学、芸術、自然、観光学などの知識が身に付けられる科目と関連しています。							
その他	この授業では、世界遺産「研究」をするのは受講生の皆さんです。 世界遺産についてはインターネットで様々な情報が入手可能です。以下のサイトなどを参考にしてください。 文化庁 HP < https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/ > 日本の世界遺産一覧 < https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/20200806_01.pdf > 日本の世界文化遺産地図 < https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/sekai_isan/ichiran/pdf/93295501_01.pdf > UNESCO HP < http://whc.unesco.org/ja/list/ > 世界遺産オンラインガイド < https://worldheritagesite.xyz/ >							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社エイチ・アイ・エスに勤務して 24 年。そのうち、海外駐在（ロシア）7 年の経験もあります。趣味も旅行で、5 大陸すべてを網羅し、訪問海外国数は 60 カ国を超えました。そこで見てきた世界遺産について理解を深め、世界遺産検定 1 級も取得しています。旅行会社のプロとして捉える「世界遺産」と、一人の旅好きとして捉える「世界遺産」の両方の視点で世界遺産について説明します。また、世界遺産検定取得者として、世界遺産検定資格取得を意識をした解説も交えて話します。「世界遺産」を切り口に受講生の国際感覚を養い、世界がより近くに感じられるような授業を行います。							

科目分類	120-320-12			授業コード	FE0420
科目名称	地域観光資源研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Regional Tourism Resource Research			授業区分	講義
科目責任者	渡邊 光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30			研究室	10-501
授業概要	※（コロナウイルスによる特殊な環境変化による観光産業への影響は歴史的にも稀有な特例の1つとしたうえで）、インバウンド（外国人観光客）の数が急激に増加し、日本は将来的に観光立国を目指すようになった。本講義では、国内各地に存在する個性溢れる観光地の魅力の中から、ユネスコの無形文化遺産に認定された「和食」の他、「温泉」「伝統工芸」、「祭り」、「駅弁」、「癒し」などを地域の持つ観光資源と捉え、それらについて理解を深め、観光資源としての現状と将来の可能性、地域の活性回復の為にPR戦略などについて考察する。また、履修人数にあわせてフレキシブルにディスカッションやグループ発表などのグループ・ワークを行う場合もある。				
到達目標	観光資源を軸にした地域の歴史、現状、復興のためのPR戦略、将来性などについて考察することにより、観光地の置かれた状況を把握できるため、社会と地域の関係性について理解を深めることができる。また、これまで観光客としての視点でしか地域との接点を持たなかった受講生は、客観的な目で冷静に地域を再評価し、復興、発展、隆盛のために必要となる批判的思考力を養うことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	渡邊 光章	【第1回】 予習：関心のある観光地について調べてみる 授業：ガイダンス【「地域観光資源研究」とは：無形文化財としての和食、伝統工芸、祭り、癒しの温泉を事例に解説】 復習：地域の観光資源とは？の問いかけに、200 字程度で回答する			
2	渡邊 光章	【第2回】 予習：関心のある地域の観光資源は何か調べてみる 授業：地域を代表する観光資源の調査、比較の仕方の基礎 復習：日本を代表する観光資源の写真をネットや本で調べる			
3	渡邊 光章	【第3回】 予習：インバウンドに人気のある地域の観光資源について調べてみる 授業：地域の主な観光資源と保全について（グループ・ワーク：履修人数による） 復習：インバウンドと人気のある観光資源について、その嗜好性など人気の秘密を探る			
4	渡邊 光章	【第4回】 予習：世界と日本の危険な観光地について調べてみる 授業：観光客が危険な観光スポットを選んで訪れる理由について考える 復習：人気がある観光スポットの危険度を比較してみる			
5	渡邊 光章	【第5回】 予習：人気のある地域のグルメについて調べてみる 授業：地域観光とB級グルメ（伝統食とは異なる食：素材、種類、価格、宣伝、評価） 復習：インバウンドとB級グルメについて、その嗜好性など人気の秘密を探る			
6	渡邊 光章	【第6回】 予習：観光地ごとの駅弁について調べてみる 授業：観光資源としてのご当地グルメ「駅弁」 復習：主要な駅で人気がある駅弁について、人気の理由を調べる			
7	渡邊 光章	【第7回】 予習：人気のある温泉地について調べてみる 授業：地域観光をリードする温泉と温泉宿 復習：日本を代表する温泉について、基本レベルの説明ができるようにする			
8	渡邊 光章	【第8回】 予習：インバウンドが観光目的とする観光地におけるアートとは何か調べてみる 授業：地域観光とインバウンドへの情報メディア戦略としてのアート展示 復習：集客力のあるアート戦略は何か調べる			

9	渡邊 光章	【第9回】 予習：世界と日本の財政破綻した観光地域について調べてみる 授業：財政破綻した地域の事例から、実情と背景を調査 復習：なぜ破綻したのか、その理由と破綻回避について考える							
10	渡邊 光章	【第10回】 予習：歴史ある神前祭礼について調べてみる 授業：地域の歴史が培った伝統的観光資源「祭礼」について 復習：日本を代表する祭礼について、基本レベルの説明ができるようにする							
11	渡邊 光章	【第11回】 予習：インバウンドに人気があり、集客率の高い陶磁器を探してみる 授業：イベント観光資源としての陶磁器市と地域についての解説 復習：有名な陶磁器の生産地域についてまとめる							
12	渡邊 光章	【第12回】 予習：関心のある伝統工芸品について調べてみる 授業：観光資源として、地域を代表する伝統工芸（地域の歴史が培った芸術）について研究 復習：日本を代表する伝統工芸品の写真をネットや本で確認する							
13	渡邊 光章	【第13回】 予習：インバウンドに人気の神社・仏閣・古墳・城について調べてみる 授業：歴史ある建造物の紹介と、地域の現状について考える 復習：保全、継承のために地域が抱える問題を調べる							
14	渡邊 光章	【第14回】 予習：浮世絵とは何か調べてみる 授業：インバウンドが驚き、伝統工芸品として成立し得る浮世絵とは何か（グループ・ディスカッション：履修人数による） 復習：土産物として人気のある浮世絵を調べる							
15	渡邊 光章	【第15回】 予習：世界と日本の巡礼地について調べてみる 授業：巡礼の旅と地域の受け入れ努力を調査 復習：代表的な巡礼の旅について、基本レベルの説明ができるようにする							
授業開始前学習		日本国内で関心のある都道府県ごとに、1：地域の和食（駅弁やグルメ）、2：地域の行事（祭礼や舞踊）、3：地域の土産物（伝統工芸）、4：地域の癒し（温泉や宿）の4つのキーワードで事前に少しでも調べておく授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		講義後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出によって出席を判断する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入し、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜1人ずつ対応する場合と、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施する場合の2通りの方法で細かく対応している。							
テキスト・教材		授業中に適宜配付する。							
参考書		授業を通じて適時紹介する。							
評価の基準と方法		毎回提出する課題レポートの内容に重きを置き、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		観光のPRとメディア（後期）を合わせて履修すると、より理解が深まる。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

国内観光資源研究 A(東京・首都圏)

科目分類	120-321-12 (2022 年～入学者) 120-320-12 (～2021 年入学者)	授業コード	FE0430
科目名称	国内観光資源研究 A(東京・首都圏)	単位数	2.0 単位
英文名称	Domestic Tourism Resource Research A (Tokyo / Greater Tokyo Area)	授業区分	講義
科目責任者	古本 泰之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	古本 泰之	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	東京および首都圏は、様々な地理的・社会的特性を持つ多彩な地域で構成される。この講義では、主として歴史の観点から東京を中心に具体的な事例を各回でそれぞれ取り上げ、地域の特性について解説をする。これにより、東京および首都圏には現在どのような観光資源がありうるか、その可能性を考察する。		
到達目標	東京の歴史的な成り立ちと地域の特性を理解し、基礎的な事柄が観光と結び付けて説明できるようになることを到達目標とする。あわせて、東京の観光資源および観光都市としての魅力や課題について考える力を身につけることをめざす。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	古本 泰之	【第 1 回】 予習 : 東京・首都圏の主要な地名を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : ガイダンス、観光資源について学ぶ意義とは。(講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
2	古本 泰之	【第 2 回】 予習 : 東京 23 区都心部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 観光開発の基礎と観光資源 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
3	古本 泰之	【第 3 回】 予習 : 東京 23 区都心部における自然資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京 23 区都心部における観光資源と地域特性 1 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
4	古本 泰之	【第 4 回】 予習 : 東京 23 区都心部におけるその他資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京 23 区都心部における観光資源と地域特性 2 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
5	古本 泰之	【第 5 回】 予習 : 東京 23 区東部・西部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京 23 区東部・西部における観光資源と地域特性 1 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
6	古本 泰之	【第 6 回】 予習 : 東京 23 区東部・西部における自然資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京 23 区東部・西部における観光資源と地域特性 2 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
7	古本 泰之	【第 7 回】 予習 : 東京 23 区南部・北部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京 23 区南部・北部における観光資源と地域特性 1 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
8	古本 泰之	【第 8 回】 予習 : 東京 23 区南部・北部における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京 23 区南部・北部における観光資源と地域特性 2 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
9	古本 泰之	【第 9 回】 予習 : 東京・多摩における文化資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京・多摩における観光資源と地域特性 1 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
10	古本 泰之	【第 10 回】 予習 : 東京・多摩における自然資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京・多摩における観光資源と地域特性 2 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	
11	古本 泰之	【第 11 回】 予習 : 東京・島しょ部における観光資源の名称やその位置を地図帳などで事前に把握しておく。 授業 : 東京・島しょ部およびその他地域における観光資源と地域特性 (講義) 復習 : 授業内で配付資料に記入した内容を読み直し、整理しておく。	

12	古本 泰之	【第 12 回】 予習：東京の観光的魅力について改めて検討し、1 日ツアーのコンセプトを考える。 授業：東京を舞台とした 1 日ツアーを造成する 1（グループワーク） 復習：議論を元にツアーの作成作業を継続する。							
13	古本 泰之	【第 13 回】 予習：ツアーの作成作業を継続する。 授業：東京を舞台とした 1 日ツアーを造成する 2（グループワーク） 復習：議論を元にツアーの作成作業を継続する。							
14	古本 泰之	【第 14 回】 予習：ツアーの作成作業を継続する。 授業：東京を舞台とした 1 日ツアーを造成する 3（発表） 復習：発表結果の振り返りとコメントを踏まえ、最終版を提出する。							
15	古本 泰之	【第 15 回】 予習：これまでの学習内容を整理し、まとめるとともに定期試験の準備をする。 授業：都市観光の特性と課題について理解する。（講義） 復習：授業内で配付した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読して理解を深める。							
授業開始前学習		日頃の生活の中や各種メディア等における東京・首都圏の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、地名や観光地理学的な見方・考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題など提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材		特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直ししながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書		山村順次編著（2012）『観光地理学(第 2 版)—観光地域の形成と課題—』同文館出版。 (公財)日本交通公社（2014）『美しき日本 旅の風光』JTB パブリッシング。 (公財)東京観光財団（2023）『新版 江戸東京まち歩きブック』中央経済社。							
評価の基準と方法		試験 70%、グループワーク等平常点 30%を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		国内観光資源研究 B(東日本) 国内観光資源研究 C(西日本)							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

国内観光資源研究 B(東日本)

科目分類	120-321-12（2022 年～入学者） 120-320-12（～2021 年入学者）		授業コード	FE0440	
科目名称	国内観光資源研究 B(東日本)		単位数	2.0 単位	
英文名称	Domestic Tourism Resource Research B (Eastern Japan)		授業区分	講義	
科目責任者	古本 泰之		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	古本 泰之		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	本講義では、日本国内の地域的特性を概観した後、北海道・東北地方・関東地方・中部地方にかけての東日本でみられる特色的な観光資源の特性、生活や産業等を精選し、地誌的に解説することで、東日本の地域的特性を考察する。				
到達目標	東日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、東日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	古本 泰之	【第 1 回】 予習：東日本における都道府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく 授業：観光資源の種類と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
2	古本 泰之	【第 2 回】 予習：東日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東日本における世界遺産と国立公園の地域的展開 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
3	古本 泰之	【第 3 回】 予習：北海道地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
4	古本 泰之	【第 4 回】 予習：北海道地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
5	古本 泰之	【第 5 回】 予習：北海道地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：北海道地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
6	古本 泰之	【第 6 回】 予習：東北地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
7	古本 泰之	【第 7 回】 予習：東北地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
8	古本 泰之	【第 8 回】 予習：東北地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：東北地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
9	古本 泰之	【第 9 回】 予習：関東地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
10	古本 泰之	【第 10 回】 予習：関東地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
11	古本 泰之	【第 11 回】 予習：関東地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：関東地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			

12	古本 泰之	【第 12 回】 予習：中部地方における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の温泉観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく							
13	古本 泰之	【第 13 回】 予習：中部地方における主要都市の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の歴史文化観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく							
14	古本 泰之	【第 14 回】 予習：中部地方における自然地形の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中部地方の自然観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく							
15	古本 泰之	【第 15 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめるとともに定期試験の準備をする 授業：観光資源を評価する意義について理解する。 復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。							
授業開始前学習		日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、地名や観光地理学的な見方・考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材		特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直しながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書		山村順次編著（2012）『観光地理学(第 2 版)—観光地域の形成と課題—』同文館出版 (公財)日本交通公社（2014）『美しき日本 旅の風光』JTB パブリッシング							
評価の基準と方法		試験 70%、小レポート等平常点 30%を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		国内観光資源研究 C(西日本)							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

国内観光資源研究 C(西日本)

科目分類	120-321-12（2022 年～入学者） 120-320-12（～2021 年入学者）		授業コード	FE0450	
科目名称	国内観光資源研究 C(西日本)		単位数	2.0 単位	
英文名称	Domestic Tourism Resource Research C （Western Japan）		授業区分	講義	
科目責任者	小堀 貴亮		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	小堀 貴亮		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	本講義では、西日本における観光資源を類型別に概観した後、近畿地方・中国地方・四国地方・九州地方にかけての西日本でみられる特色的な観光資源の特性を地誌的に解説することで、西日本における観光資源の地域的特性を考察する。				
到達目標	西日本の観光資源に関する基礎的・基本的な知識・能力を修得することを目的とする。特に、歴史・自然・環境との関連性を踏まえて、西日本を対象とした地域的特性や課題などについて考察できるようにする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小堀 貴亮	【第 1 回】 予習：西日本における府県名および主要地名を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における観光資源の類型と現状 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
2	小堀 貴亮	【第 2 回】 予習：西日本における世界遺産と国立公園の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における世界遺産と国立公園の地域的展開 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
3	小堀 貴亮	【第 3 回】 予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における温泉地の地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
4	小堀 貴亮	【第 4 回】 予習：西日本における温泉地の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：西日本における温泉地の地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
5	小堀 貴亮	【第 5 回】 予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：近畿地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
6	小堀 貴亮	【第 6 回】 予習：近畿地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：近畿地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
7	小堀 貴亮	【第 7 回】 予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中国地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
8	小堀 貴亮	【第 8 回】 予習：中国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：中国地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
9	小堀 貴亮	【第 9 回】 予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：四国地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
10	小堀 貴亮	【第 10 回】 予習：四国地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：四国地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			
11	小堀 貴亮	【第 11 回】 予習：九州地方における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：九州地方の観光資源と地域的特性① 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく			

12	小堀 貴亮	【第 12 回】 予習：九州における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：九州地方の観光資源と地域的特性② 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく							
13	小堀 貴亮	【第 13 回】 予習：沖縄における観光資源の名称やその位置を地図帳等で事前に把握しておく 授業：沖縄の観光資源と地域的特性 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく							
14	小堀 貴亮	【第 14 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。 授業：西日本における観光資源を対象とした着地型観光 復習：授業内で配布資料に記入した内容を読み直し、整理しておく							
15	小堀 貴亮	【第 15 回】 予習：これまでの学習内容（記入したプリント）を整理し、まとめる。 授業：西日本における観光資源の総括 復習：授業内で配布した全ての資料を整理するとともに、内容を熟読し理解を深める。							
授業開始前学習		日頃の生活の中や各種メディア等における日本の観光資源に関連するトピックを意識的に注視し、観光地理学的な見方や考え方を意識しながら、視野を広げてほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題等提出後、翌週にはフィードバックできるよう努めていく。							
テキスト・教材		特に指定はしないが、毎回記入式のプリントを配布し、常に見直ししながら用いていくので、ファイリングし講義の際は常に全て持参すること。							
参考書		山村順次編著（2012）：『観光地理学(第 2 版)―観光地域の形成と課題―』同文館出版							
評価の基準と方法		課題 70%、平常点 30%（課題を含む）を基準に、総合的に判断・評価する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		国内観光資源研究 B(東日本)							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-320-13			授業コード	FE0460
科目名称	海外観光資源研究 A(ヨーロッパ 1)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research A (Europe1)			授業区分	講義
科目責任者	米金 孝雄			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00			研究室	10-711
授業概要	映画・シャンソン・ワイン・自然・都市・など、フランス文化全体を映像を使用しながら講義する予定である。様々なフランス文化に触れ、西洋文化の中心であるフランスのエッセンスに触れる。				
到達目標	多様なフランス文化に接することにより、その文化・言語に興味を持ち、異文化を学ぶ楽しさを体験し、理解を深める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習 : 自分の興味あるフランス文化について、調べておくこと 授業 : 自己紹介、授業の概要、授業の進め方、勉強の仕方、評価、注意点など フランスとは ① 復習 : フランスとは①の復習			
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習 : 自分の興味あるフランス文化について、調べておくこと 授業 : フランスとは ② 復習 : フランスとは②の復習			
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習 : 興味、関心のあるフランス語を調べておくこと 授業 : フランス語の言語的多様性① 復習 : フランス語の言語的多様性①の復習			
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習 : 興味、関心のあるフランス語を調べておくこと 授業 : フランス語の言語的多様性② 復習 : フランス語の言語的多様性②の復習			
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習 : パリについて調べておくこと 授業 : 花の都・パリ 復習 : 花の都・パリの復習			
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習 : 興味ある地方や都市について調べておくこと 授業 : 地方都市・フランスの自然① 復習 : 地方都市・フランスの自然①の復習			
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習 : 興味ある都市や地方について調べておくこと 授業 : 地方都市・フランスの自然② 復習 : 地方都市・フランスの自然②の復習			
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習 : 興味のある都市や地方について調べておくこと 授業 : 地方都市・フランスの自然③ 復習 : 地方都市・フランスの自然③の復習			
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習 フランスワインについて調べておくこと 授業 : フランスワイン① 復習 : フランスワイン①の復習			
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習 : フランスワインについて調べておくこと 授業 : フランスワイン② 復習 : フランスワイン②の復習			
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習 : フランス映画について調べておくこと 授業 : フランス映画① 復習 : フランス映画①の復習			

12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習 : フランス映画について調べておくこと 授業 : フランス映画② 復習 : フランス映画②の復習							
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習 : フランス音楽について調べておくこと 授業 : フランス音楽① 復習 : フランス音楽①の復習							
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習 : フランス音楽について調べておくこと 授業 : フランス音楽② 復習 : フランス音楽②の復習							
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習 : フランス語圏と植民地政策について調べておくこと 授業 : フランス語圏と植民地政策 復習 : フランス語圏と植民地政策の復習							
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、自分の興味ある分野を見つけること。							
授業内課題のフィードバックの方法		レポート・課題等の内容を熟考させ、自分の興味あるフランス文化について、意見や考えを端的に、また、積極的に表現できるように指導する。							
テキスト・教材		別途指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		配点： 課題・レポート・70 点 平常点(授業態度)・30 点。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		フランス語 言葉と心理 観光のフランス語							
その他		遅刻・欠席・課題未提出・授業態度などは評価に響くので、十分注意すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-320-13			授業コード	FE0470	
科目名称	海外観光資源研究 B(ヨーロッパ 2)			単位数	2.0 単位	
英文名称	Overseas Tourism Resources Research B (Europe2)			授業区分	講義	
科目責任者	岡野 史			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	岡野 史			開講時期	3 年	
オフィスアワー	－			研究室	－	
授業概要	ドイツについての基本的な知識を習得するとともに、毎回の授業で音楽や文芸などの豊かな文化的資源に触れることで、ドイツへの理解と知識を深める。またドイツにおいても、少子高齢化、経済的格差の拡大、環境問題、移民受け入れといった様々な社会問題が存在し、これらは今日の日本が直面している課題とも共通する。ドイツという異文化の理解のみにとどまらず、これを指針として日本社会、そしてより広い社会的価値観や文化への理解を深めることへと繋げていく。					
到達目標	ドイツやドイツ語圏の国々に関する、歴史、政治、文化などの背景を理解する。様々な映像、音楽、文献資料に触れ、ドイツ文化への知識を深める。同時に国際社会が今日直面している社会問題についてドイツ語圏という異文化の視点から理解し、日本人の視点と比較する。それぞれの国の抱えている課題に対し考える力を身につけることを目的とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	岡野 史		【第 1 回】 予習：シラバス内容の確認 授業：ガイダンス、ヨーロッパにおけるドイツ・ドイツ語圏 復習：ガイダンス時に説明した内容、授業計画の確認			
2	岡野 史		【第 2 回】 予習：歴史教科書などでドイツの現代史について確認 授業：ドイツ現代史の確認「壁崩壊と東西統一」、ドイツ国歌 復習：配布資料の確認			
3	岡野 史		【第 3 回】 予習：ドイツ語がどのような言語であるのか調べておく、資料講読 授業：ドイツ語という言葉、グリム童話 復習：配布資料の確認			
4	岡野 史		【第 4 回】 予習：日本人の様々な平均的数値について調べておく、参考資料 p.116-p.137 の確認 授業：ドイツの市民生活「平均的ドイツ人とは？」、映像資料 復習：参考資料 p.116-p.137 の確認、配布資料の確認			
5	岡野 史		【第 5 回】 予習：参考資料 p.116-p.137 の確認 授業：ドイツの市民生活「ドイツと移民」、フランツ・カフカ『変身』 復習：参考資料 p.116-p.137 の確認、配布資料の確認			
6	岡野 史		【第 6 回】 予習：参考資料 p.96－p.115 の確認 授業：教育制度と資格、ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』 復習：参考資料 p.96－p.115 の確認、配布資料の確認			
7	岡野 史		【第 7 回】 予習：参考資料 p.4－p.35 の確認 授業：連邦制と政治、ゲーテ『ファウスト』 復習：参考資料 p.4-p.35 の確認、配布資料の確認			
8	岡野 史		【第 8 回】 予習：参考資料 p.4－p.35 の確認 授業：近隣国と EU、ベートーヴェン『歓喜の歌』 復習：参考資料 p.4-p.35 の確認、配布資料の確認			
9	岡野 史		【第 9 回】 予習：ドイツの食文化について確認しておく 授業：ドイツの食文化、ギュンター・グラス『ブリキの太鼓』 復習：配布資料の確認			
10	岡野 史		【第 10 回】 予習：参考資料 p.60－p.77 の確認 授業：ドイツにおける環境問題、『ニーベルンゲン』の歌 復習：参考資料 p.60－p.77 の確認、配布資料の確認			
11	岡野 史		【第 11 回】 予習：参考資料 p.78-p.95 の確認 授業：ドイツの企業と働き方、女性と社会、エルフリーデ・イエリネク『ピアニスト』 復習：参考資料 p.78-p.95 の確認、配布資料の確認			

12	岡野 史	【第 12 回】 予習：参考資料 p.138-p.151 の確認 授業：ドイツの文化政策、ベルトルト・ブレヒト『三文オペラ』 復習：参考資料 p.138-p.151、配布資料の確認							
13	岡野 史	【第 13 回】 予習：身近な「ドイツ」由来のもの、文化、言葉などを調べておく 授業：ドイツにおける「日本」、日本における「ドイツ」、映像資料 復習：配布資料の確認							
14	岡野 史	【第 14 回】 予習：大戦期におけるドイツについて歴史教科書などで復習しておくこと 授業：「過去の克服」と「想起の文化」、パウル・ツェランの詩 復習：配布資料の確認							
15	岡野 史	【第 15 回】 予習：これまでの資料の確認、興味関心をまとめる 授業：旅先としてのドイツ、首都ベルリン、ウィム・ヴェンダース/ペーター・ハントケ『ベルリン・天使の詩』 復習：配布資料の確認							
授業開始前学習		ドイツ・ドイツ語圏の国々の歴史について簡単に確認しておくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		提出の翌週に全体あるいは個別の講評を行う							
テキスト・教材		『ドイツの実情』ドイツ連邦共和国大使館 （ドイツ総領事館 HP にダウンロード版あり、冊子版については希望者に授業内で配布予定）							
参考書		授業中に適宜紹介							
評価の基準と方法		試験 50%と平常点（授業態度・課題提出）50%で評価する							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目		ドイツ語、観光のドイツ語							
その他		受講者数や受講者の興味に合わせて、授業内容を変更する場合あり							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-320-13	授業コード	FE0480
科目名称	海外観光資源研究 C(アジア 1)	単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research C (Asia1)	授業区分	講義
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となっており、一連の流れで韓国を観光地として選択するなど、その注目度は増す一方である。本講では、韓国の歴史・自然・社会などを中心に韓国の地誌的な知識の理解を深めると同時に、日韓文化の相違点・共通点について学ぶ。さらに観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。		
到達目標	①韓国の歴史・自然・社会などを中心に地誌的に解説することで、韓国の地域的特性を考察する。 ②日本と韓国の文化の差異・共通点について理解し、説明することができる。 ③韓国の観光資源に関する基礎的な知識と専門的な知識を修得することを目的とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス、韓国に関する全体概要 復習 : 授業の方針を確認する。	
2	張 景泰	【第 2 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 異文化の理解について (韓国文化を事例として) ① 復習 : 【第 2 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
3	張 景泰	【第 3 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 異文化の理解について (韓国文化を事例として) ② 復習 : 【第 3 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
4	張 景泰	【第 4 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 朝鮮半島の自然環境と暮らし 復習 : 【第 4 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
5	張 景泰	【第 5 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国と北朝鮮、朝鮮戦争について 復習 : 【第 5 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
6	張 景泰	【第 6 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国の産業構造と地域性 復習 : 【第 6 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
7	張 景泰	【第 7 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国政治と地域性 復習 : 【第 7 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
8	張 景泰	【第 8 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国の行政区域と世界遺産について 復習 : 【第 8 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
9	張 景泰	【第 9 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 「韓流」について① (ドラマ、映画) 復習 : 【第 9 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
10	張 景泰	【第 10 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 「韓流」について② (音楽、アニメ) 復習 : 【第 10 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
11	張 景泰	【第 11 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 日本と韓国の文化の差異・共通点について① (日・韓の結婚式について)	

		復習：【第 11 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
12	張 景泰	【第 12 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：日本と韓国の文化の差異・共通点について②（グループ・ディスカッション） 復習：【第 12 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
13	張 景泰	【第 13 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国の観光地①について 復習：【第 13 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
14	張 景泰	【第 14 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国の観光地②について 復習：【第 14 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
15	張 景泰	【第 15 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：韓国における観光資源の総括 復習：前期授業の全体概要を確認する。							
授業開始前学習		韓国関連資料や韓国文化・異文化コミュニケーションに関する書籍を出来るだけ多く読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業において作成・提出される授業課題レポートに対し、次回の授業で講評と質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材		特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、期末レポート 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目									
その他		質問、相談等がある時は、授業の前後に研究室に来ること							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

海外観光資源研究 D(アジア 2)

科目分類	120-320-13	授業コード	FE0490
科目名称	海外観光資源研究 D(アジア 2)	単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research D (Asia2)	授業区分	講義
科目責任者	保坂 律子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂 律子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00	研究室	10-709
授業概要	2008 年に北京オリンピック、2010 年に上海万博、そして 2022 年 2 月に初の冬季オリンピックが北京で開催されました。中国は近年の経済的躍進も相まって、ますます目が離せない隣国になっています。授業では多くの写真や映像、文字資料も利用し、多様性に富む豊かな文化と長い歴史を持つ中国の風土や地理、教育、文化、娯楽、食文化をはじめさまざまな視点から「中国の魅力」を学びます。		
到達目標	中国と日本の文化の共通点と相違点を具体的事例をあげて説明できる。中国の教育制度、風土と地理、交通事情、娯楽と余暇、食生活、建築などについて、日本との違いを指摘し、その理由を説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習 : 中国と日本の文化の共通点、相違点について身近な事例を考えておく。 授業 : 中国概説、オリエンテーション 復習 : 配布された教科書の中身をざっとつかんでおく。	
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習 : テキスト 2 頁～7 頁の講読 授業 : 国家のシンボル (テキスト 2 頁～7 頁) 国旗、国歌、モチーフ等にみられる文化的意義の考察。(グループディスカッション) 復習 : 日本の国家のシンボルとは何か中国と比較し自分の言葉でまとめる。	
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習 : テキスト 8 頁～13 頁の講読 授業 : 風土と地理 (テキスト 8 頁～13 頁) 他国と比べながら中国の風土と地理の特徴を学ぶ。 復習 : テキスト中の白地図に中国各省の名称を書き入れる。日本との地形の違いを考えてみる。	
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習 : テキスト 14 頁～17 頁の講読 授業 : 多民族国家 (テキスト 14 頁～17 頁) 多くの民族を抱える中国について知る。(グループディスカッション) 復習 : 自分にとっての民族とは何かを考え自分の言葉でまとめる。	
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習 : テキスト 18 頁～23 頁の講読 授業 : 中国の足 (テキスト 18 頁～23 頁) 広い中国の様々な交通手段と庶民の「足」の変化を探る。 復習 : 中国の交通手段の特徴を自分の言葉でまとめる。	
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習 : テキスト 24 頁～27 頁の講読 授業 : 教育制度と学校生活 (テキスト 24 頁～27 頁) 日本の教育制度との相違点とその理由を探る。(グループディスカッション) 復習 : 中国の学生と日本の学生の違いと長所、短所について考え自分の言葉でまとめる。	
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習 : テキスト 28 頁～31 頁講読 授業 : 色のイメージ (テキスト 28 頁～31 頁) 復習 : 日中でイメージの異なる色について考え自分の言葉でまとめる。	
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習 : テキスト 32 頁～33 頁の講読 授業 : 外来語とブランド (テキスト 32 頁～33 頁) (グループディスカッション) 復習 : 日本語の中にある外来語の起源について考え自分の言葉でまとめる。	
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習 : テキスト 34 頁～39 頁の講読 授業 : 人気のアニメと子どもの遊び (テキスト 34 頁～39 頁) (グループディスカッション) 復習 : 日中共通の遊びについて考え、人気アニメの受容について自分の言葉でまとめる。	
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 : テキスト 40 頁～44 頁の講読 授業 : オリンピックと万博 (テキスト 40 頁～44 頁) (グループディスカッション) 復習 : オリンピックや万博が都市に与える影響を日本の場合について考えてみる。	

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : テキスト 45 頁～48 頁の講読 授業 : 京劇 (テキスト 45 頁～48 頁) 中国の伝統芸能について考える。 復習 : オペラ、歌舞伎と京劇の共通点を探す。							
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : テキスト 49 頁～54 頁の講読 授業 : 消え行く古きよき町並み (テキスト 49 頁～54 頁) 復習 : 伝統的な町並み保存のメリット、デメリットについて書き出してまとめる。							
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : テキスト 55 頁～58 頁の講読 授業 : 伝統の味とファストフード (テキスト 55 頁～58 頁) (グループディスカッション) 復習 : 中国でのファストフードの受容について日本と比較して自分の言葉でまとめる。							
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : テキスト 59 頁～62 頁の講読 授業 : 中国トイレ事情 (テキスト 59 頁?62 頁) (グループディスカッション) 復習 : トイレと都市の近代化について考えてみる。							
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : テキストを読み返す。 授業 : 中国映画鑑賞 復習 : 授業を通じて最も印象に残ったことを家族または友人に話して聞かせる。							
授業開始前学習		中国に関するニュースに関心を持ち、チャンスを見つけて留学生と交流するように心がける。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業終了時に提出されたリアクションペーパーに対して、翌週の授業開始時にコメント及び回答する。							
テキスト・教材		駒沢女子大学教科書シリーズ 「中国文化紀行 (異文化との出会い中国)」保坂律子							
参考書									
評価の基準と方法		各回 (全 15 回) のリアクションペーパー 60 点、レポート 40 点とする。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎			
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

海外観光資源研究 E (アジア 3)

科目分類	120-320-12 （J）			授業コード	FE0492
科目名称	海外観光資源研究 E (アジア 3)			単位数	2.0 単位
英文名称	Overseas Tourism Resources Research E (Asia3)			授業区分	講義
科目責任者	ゼイヤー ウィン			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	ゼイヤー ウィン			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-604
授業概要	本科目は東南アジアの観光資源とその背景にある自然地理・生態系・歴史・文化を学ぶことを目的としている。近年、東南アジアは訪日旅行者の増加もあって、私たちにとても身近な存在になりつつある。しかし、私たちが普段見ている東南アジアへのまなざしは、日本からみた狭い視点での理解でしかない。東南アジアとて、ひとくくりにはできない多様な自然・文化・歴史がある。また東南アジアと日本の関係を知れば、日本文化の形成にも大きな影響を与えていることに驚くだろう。さらに、欧米、中国など大国の狭間にあるこの地域の社会・歴史・文化を学ぶことで、新たな世界観を得ることができる。この授業を受講して、ぜひ一度東南アジアの旅へ出かけてほしい。				
到達目標	① 東南アジアの観光資源とその背景にある自然地理・生態系・文化・歴史を学ぶ。 ② 東南アジアと日本との関係を学び、新たな世界観を得る。 ③ 自分で調べたことをもとに自分の考えを文章にできる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	ゼイヤー ウィン	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : 授業の概要と方針 東南アジアを学ぶ意義 復習 : 授業レポートの提出			
2	ゼイヤー ウィン	【第 2 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの気候・地形・地質 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
3	ゼイヤー ウィン	【第 3 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの宗教と文化《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
4	ゼイヤー ウィン	【第 4 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : 東南アジアの歴史と日本の関係《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
5	ゼイヤー ウィン	【第 5 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : ミャンマーの観光資源とその背景《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
6	ゼイヤー ウィン	【第 6 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : タイの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
7	ゼイヤー ウィン	【第 7 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : ベトナムの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
8	ゼイヤー ウィン	【第 8 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : シンガポールの観光資源とその背景《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			
9	ゼイヤー ウィン	【第 9 回】 予習 : 前回授業レポートのふりかえりをする 授業 : マレーシアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習 : 授業レポートの提出			

10	ゼイヤー ウィン	【第 10 回】 予習：前回授業レポートのふりかえりをする 授業：インドネシアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出															
11	ゼイヤー ウィン	【第 11 回】 予習：前回授業レポートのふりかえりをする 授業：フィリピンの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出															
12	ゼイヤー ウィン	【第 12 回】 予習：前回授業レポートのふりかえりをする 授業：カンボジアの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出															
13	ゼイヤー ウィン	【第 13 回】 予習：前回授業レポートのふりかえりをする 授業：ラオスの観光資源とその背景 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出															
14	ゼイヤー ウィン	【第 14 回】 予習：前回授業レポートのふりかえりをする 授業：東南アジアの中の日本 《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出															
15	ゼイヤー ウィン	【第 15 回】 予習：前回授業レポートのふりかえりをする 授業：ふりかえり、期末レポートのフィードバック 復習：授業レポートの提出															
授業開始前学習		東南アジアに関するニュースに触れておくとよい。また実際に東南アジアへの旅行を計画するとこの科目はより有益となる。															
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業終了時に授業レポートの提出を義務付ける。次回授業時に講評を行い、個別の質問に回答する。															
テキスト・教材		特になし															
参考書		助川成也（2021）『ビジネス教養 東南アジア』新星出版社 今井昭夫編著（2015）『東南アジアを知るための 50 章』明石書店 京都大学東南アジア研究センター（1997）『事典東南アジア：風土・生態・環境』弘文堂															
評価の基準と方法		毎回授業時に提出する授業レポートの小テストの成績 1 回 4 点×15 回（60％）、期末レポートの成績（40％）で総合的に評価する。期末レポートは東南アジア地域のツアープランを企画することを予定している。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○						△		◎							
関連科目																	
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		教員は東南アジアの旅行会社で働いた経験を持つ。また、国際協力機構（JICA）の開発コンサルタントや大学研究機関の研究員として、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア等での開発調査や学術調査に従事した経験もある。															

科目分類	120-331-12 (J)	授業コード	FE0520
科目名称	☆ミュージアム研究／日本のミュージアム	単位数	2.0 単位
英文名称	Museum Research／Museums in Japan	授業区分	講義
科目責任者	太田 英侖奈	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 英侖奈	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本講義は今日の日本におけるミュージアムへの理解を深めるべく、国内の様々なミュージアムについて幅広い知識を得られるよう設計されている。第 1、2 回を除き、毎回テーマに沿って国内から 3 館のミュージアムを取り上げ、沿革、展示内容や事業内容を解説する。必要に応じ、日本のミュージアムが抱える課題を指摘し、より良い展示や運営のあり方を考察する。		
到達目標	日本におけるミュージアムの成立過程と、今日存在する様々なミュージアムの種類を把握し、各ミュージアムの展示内容や事業内容を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	太田 英侖奈	【第 1 回】 予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。 授業：導入（ミュージアムとは何か、博物館法） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
2	太田 英侖奈	【第 2 回】 予習：正倉院の沿革と所蔵品について調べる。 授業：日本におけるミュージアムの成り立ち（正倉院、ウィーン万博） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
3	太田 英侖奈	【第 3 回】 予習：東京国立博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：総合的なミュージアム（東京国立博物館、九州国立博物館、インターメディアテック） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
4	太田 英侖奈	【第 4 回】 予習：京都国立博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：日本・東洋美術のミュージアム（京都国立博物館、根津美術館、鎗木清方記念美術館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
5	太田 英侖奈	【第 5 回】 予習：国立西洋美術館の沿革と展示内容を調べる。 授業：西洋・近代美術のミュージアム（国立西洋美術館、大塚国際美術館、岡本太郎記念館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
6	太田 英侖奈	【第 6 回】 予習：国立歴史民俗博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：考古・歴史のミュージアム（国立歴史民俗博物館、静岡市立登呂博物館、熊本県立装飾古墳館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
7	太田 英侖奈	【第 7 回】 予習：名古屋市科学館の沿革と展示内容を調べる。 授業：自然科学のミュージアム（名古屋市科学館、地底の森ミュージアム、琵琶湖博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
8	太田 英侖奈	【第 8 回】 予習：鉄道博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：産業のミュージアム（鉄道博物館、富岡製糸場、世界のタイル博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
9	太田 英侖奈	【第 9 回】 予習：博物館明治村の沿革と展示内容を調べる。 授業：建築のミュージアム（博物館明治村、国立近現代建築資料館、今治市伊藤豊雄建築ミュージアム） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
10	太田 英侖奈	【第 10 回】 予習：日本近代文学館の沿革と展示内容を調べる。 授業：文学のミュージアム（世田谷文学館、源氏物語ミュージアム、三島由紀夫文学館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	
11	太田 英侖奈	【第 11 回】 予習：鈴木大拙館の沿革と展示内容を調べる。 授業：思想・制度のミュージアム（鈴木大拙館、國學院大學博物館、憲政記念館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。	

12	太田 英伶奈	【第 12 回】 予習：民音音楽博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：音楽・演劇・映像のミュージアム（民音音楽博物館、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、国立映画アーカイブ） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。						
13	太田 英伶奈	【第 13 回】 予習：日本民藝館の沿革と展示内容を調べる。 授業：工芸・服飾のミュージアム（日本民藝館、文化学園服飾博物館、紅ミュージアム） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。						
14	太田 英伶奈	【第 14 回】 予習：国立民族学博物館の沿革と展示内容を調べる。 授業：文化人類系のミュージアム（国立民族学博物館、鳥羽市立海の博物館、国立アイヌ民族博物館） 復習：授業で学んだ事項をノートにまとめる。						
15	太田 英伶奈	【第 15 回】 予習：興味のあるミュージアムを見学し、プレゼンテーション（課題解決型学習）の下準備をする。 授業：自身が見学したミュージアムの展示上の工夫と、改善点をプレゼンテーションで提示する。※受講人数次第でプレゼンテーションからグループワークへの変更の可能性あり 復習：自身や他の受講者のプレゼンテーションを振り返り、今日の日本におけるミュージアムへの理解を深める。						
授業開始前学習		「インターネットミュージアム」（ https://www.museum.or.jp/ ）等、日本のミュージアムに関するポータルサイトを閲覧し、国内にどのようなミュージアムがあるかを把握する。その他、日本のミュージアムを取り扱った書籍や映像資料にて事前知識を得るのが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		履修者は毎授業後に教場にてコメントシートを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。						
テキスト・教材		適宜レジュメを配布する。						
参考書		必要に応じ、参考書を提示する。						
評価の基準と方法		毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、第 15 回授業時に行うプレゼンテーション（受講人数次第ではグループワーク）の内容により評価する。配点（100 点満点における）はコメント 40 点、プレゼンテーション 60 点とする。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	学芸員資格あり。また、独立行政法人の研究所にて文化財保護事業に携わる。本講義ではこれらの経験を活かし、日本のミュージアムの展示内容や事業内容を解説する。							

☆西洋美術の旅／西洋美術の旅Ⅰ

科目分類	120-331-12	授業コード	FE0530
科目名称	☆西洋美術の旅／西洋美術の旅Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	Western Art Journey／Western Art JourneyⅠ	授業区分	講義
科目責任者	太田 英伶奈	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 英伶奈	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	古典ギリシア時代から第 2 次世界大戦後までの西洋美術を、タイトルに則して「旅」という観点から概観する。毎回ある時代（もしくは美術様式・運動）を取り上げ、その時代の美術に適用できる「旅」という観点から、作品の背景にある歴史的事実や時代精神を考察する。西洋美術の様々な様態を理解できるよう、講義で引用する作例は絵画・彫刻・工芸・建築の 4 分野に亘る。		
到達目標	「旅」という観点を通じ、古典ギリシア時代から第 2 次世界大戦後までの西洋美術の様々な様態を大まかに把握する。各時代（もしくは美術様式・運動）に属する美術の特徴を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	太田 英伶奈	【第 1 回】神話の旅 予習：シラバスを通読し、授業内容を確認する。 授業：導入、古典ギリシア美術における神話の中の旅 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
2	太田 英伶奈	【第 2 回】領土への旅 予習：ローマ美術の作例を調べる。 授業：ローマ美術における普遍性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
3	太田 英伶奈	【第 3 回】死出の旅 予習：初期キリスト教美術の作例を調べる。 授業：初期キリスト教美術における死と来世の表現 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
4	太田 英伶奈	【第 4 回】巡礼の旅 予習：ロマネスク美術の作例を調べる。 授業：ロマネスク期における巡礼の興隆と美術への影響 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
5	太田 英伶奈	【第 5 回】天上への旅 予習：ゴシック美術の作例を調べる。 授業：ゴシック美術における上昇性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
6	太田 英伶奈	【第 6 回】辺境への旅 予習：ビザンティン美術の作例を調べる。 授業：ビザンティン美術における首都と辺境の関係 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
7	太田 英伶奈	【第 7 回】求職の旅 予習：イタリア・ルネサンス美術の作例を調べる。 授業：イタリア・ルネサンス時代の芸術家とパトロン 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
8	太田 英伶奈	【第 8 回】アルプスを越える商人の旅 予習：北方ルネサンス美術の作例を調べる。 授業：イタリア商人のベネルスク地方への進出と、北方ルネサンス美術への影響 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
9	太田 英伶奈	【第 9 回】逃亡の旅 予習：カラヴァッジョ（ミケランジェロ・ダ・メリージ）作品を調べる。 授業：カラヴァッジョの画業と逃亡生活 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
10	太田 英伶奈	【第 10 回】修行の旅 予習：バロック美術の作例を調べる。 授業：バロック美術と都市ローマの求心性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	
11	太田 英伶奈	【第 11 回】過去への旅 予習：新古典主義、ラファエル前派の作例を調べる。 授業：新古典主義、ラファエル前派における懐古趣味 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。	

12	太田 英伶奈	【第 12 回】機械による旅 予習：印象派の作例を調べる。 授業：印象派と移動手段の変化 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。															
13	太田 英伶奈	【第 13 回】内面世界の旅 予習：象徴主義、世紀末美術の作例を調べる。 授業：象徴主義、世紀末美術における内面世界 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。															
14	太田 英伶奈	【第 14 回】規範の外への旅 予習：シュルレアリスム、ダダイズムの作例を調べる。 授業：シュルレアリスムとダダイズムの試み 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。															
15	太田 英伶奈	【第 15 回】アイデンティティの旅 予習：戦後美術の作例を調べる。 授業：戦後美術における越境性 復習：興味を引いた作例を調べ、ノートにまとめておく。															
授業開始前学習		基本的には時代順に講義を進めるが、西洋美術史の概論的な講義ではないため、履修者各自で西洋美術の流れを学習しておくのが望ましい。芳賀満ほか（2021）『西洋美術史』秋山聰・田中正之監修（美術出版ライブラリー 歴史編）（東京：美術出版社）等の西洋美術史概要書にあたること。															
授業内課題のフィードバックの方法		履修者は毎授業後に教場でコメントシートを提出する。次回授業の冒頭にて、興味深いコメントや質問へのフィードバックを行う。															
テキスト・教材		特に指定しないが、時代区分等は芳賀満ほか（2021 年）（授業開始前学習の欄を参照）に沿う。その他、適宜レジュメを配布する。															
参考書		（1992-97）『世界美術大全集 西洋編』（東京：小学館）（全 28 巻＋索引 1 巻）。その他、毎回授業内容に沿った参考書を提示する。															
評価の基準と方法		毎授業後に提出するコメントの提出率及び内容と、学期末に提出するレポート（調査学習）の内容により評価する。配点（100 点満点における）はコメント 30 点、レポート 70 点とする。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○						△		◎							
関連科目																	
その他																	
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	120-330-12		授業コード	FE0550	
科目名称	異文化交流 I		単位数	2.0 単位	
英文名称	Cross-cultural Commuication I		授業区分	講義	
科目責任者	羽鳥 修		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	羽鳥 修		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20		研究室	10-609	
授業概要	アメリカ合衆国（以下、アメリカと略記する）は「移民の国」で、多人種・多民族国家です。従って、アメリカでは、過去から現在に至るまで異なる文化が出会い、交錯するなかで、「アメリカ文化」が形成されてきました。ここでは、アフリカ系アメリカ人が歩んできた歴史を辿りながら、異文化交流の場としてのアメリカを考察し、併せて史跡や観光資源について解説します。また、双方向型および課題解決型の授業を行うため、ほぼ毎回の授業でペア・ワークおよびグループワークを行います。				
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」とともに、それがその後の歴史とどのように関わっているのかについて「解釈」する能力の涵養を目標とします。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかなるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することを意味します。また、双方向・課題解決型の授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力とともに、アメリカの地理、歴史、観光資源に関する知識などを身につけることを目標とします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	羽鳥 修	【第 1 回】 予習 : テキスト「はじめに」を事前に読む 授業 : ガイダンスとして授業計画・方針・成績評価の方法等を説明し、そのあとでアメリカに関する基本的な質疑応答を行う（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
2	羽鳥 修	【第 2 回】 予習 : テキスト 4 頁～5 頁を講読し、疑問点を）をチェックする 授業 : 黒人奴隷制の確立（大西洋奴隷貿易）（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1（テキスト 10 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
3	羽鳥 修	【第 3 回】 予習 : テキスト 5 頁～8 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : チェサピーク湾地域の植民地（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 2（テキスト 10 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
4	羽鳥 修	【第 4 回】 予習 : テキスト 8 頁～10 頁を講読し、疑問点のチェックする 授業 : 新共和国における奴隷制の位置づけ（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 3（テキスト 10 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
5	羽鳥 修	【第 5 回】 予習 : テキスト 11 頁～13 頁を講読し、疑問点のチェックする 授業 : 2 つのアメリカと 2 つの南部（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1（テキスト 17 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
6	羽鳥 修	【第 6 回】 予習 : テキスト 13 頁～15 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 白人による奴隷解放運動（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 2（テキスト 17 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
7	羽鳥 修	【第 7 回】 予習 : テキスト 15 頁～17 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 黒人による奴隷解放運動と黒人イメージの創出（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 3・4（テキスト 17 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
8	羽鳥 修	【第 8 回】 予習 : テキスト 18 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 西部への膨張（ペアワークおよびグループワーク） 復習 : 課題 1（テキスト 23 頁）、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。			
9	羽鳥 修	【第 9 回】 予習 : テキスト 18 頁～21 頁を講読し、疑問点をチェックする 授業 : 奴隷問題の政治化（ペアワークおよびグループワーク）			

科目分類	120-330-12	授業コード	FE0560
科目名称	異文化交流Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Cross-cultural Commuication II	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国は「移民の国」で、多人種・多民族国家です。従って、アメリカは、過去から現在に至るまで異なる文化が出会い、交錯するなかで、「アメリカ文化」が形成されてきました。ここでは、幾つかのエスニックグループを取り上げ、彼らが歩んできた歴史を辿りながら、異文化交流の場としてのアメリカを考察し、併せて史跡や観光資源について解説します。また、授業形態は双方向型および課題解決型です。		
到達目標	一つひとつの歴史的事象について、事象が起こった要因を歴史的文脈の中で「解釈」とともに、それがその後の歴史とどのようにかかわっているのかについて「解釈」する能力の涵養を目標とします。その際に重要なことは、恣意的な解釈ではなく、しかるべき根拠に基づいて歴史を「解釈」することです。また、双方向・課題解決型の授業を通じて主に筆記力、傾聴力、表現力、調べる力とともに、アメリカの地理、歴史、観光資源に関する知識などを身につけることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	羽鳥 修	【第 1 回】 予習 : アメリカの人種別別人口構成について、表を作成する 授業 : 授業計画、方針、成績評価の方法等についてを説明する 復習 : アメリカの歴史統計に関するレファランス（授業で紹介する）をもとに予習の内容を修正する	
2	羽鳥 修	【第 2 回】 予習 : イギリス系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : イギリスからの移民（プッシュ要因とプル要因）〈アクティブラーニング・課題解決型学習〉 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
3	羽鳥 修	【第 3 回】 予習 : イギリス系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : イギリス系アメリカ人の文化的貢献 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
4	羽鳥 修	【第 4 回】 予習 : ドイツ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : ドイツ系からの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
5	羽鳥 修	【第 5 回】 予習 : ドイツ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : ドイツ系アメリカ人の文化的貢献 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
6	羽鳥 修	【第 6 回】 予習 : アイルランド系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : アイルランドからの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
7	羽鳥 修	【第 7 回】 予習 : アイルランド系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : アイルランド系アメリカ人の文化的貢献 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
8	羽鳥 修	【第 8 回】 予習 : イタリア系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : イタリア系からの移民（プッシュ要因とプル要因） 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
9	羽鳥 修	【第 9 回】 予習 : イタリア系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : イタリア系アメリカ人の文化的貢献 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	

10	羽鳥 修	【第 10 回】 予習 : ユダヤ系アメリカ人について調べる 授業 : ユダヤ系移民の種類と渡米の理由 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する						
11	羽鳥 修	【第 11 回】 予習 : ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献について調べる 授業 : ユダヤ系アメリカ人の文化的貢献 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する						
12	羽鳥 修	【第 12 回】 予習 : ヒスパニックの文化的貢献について調べる 授業 : ヒスパニックの種類と渡米の理由 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する						
13	羽鳥 修	【第 13 回】 予習 : ヒスパニックの文化的貢献について調べる 授業 : ヒスパニック意の文化的貢献 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
14	羽鳥 修	【第 14 回】 予習 : 「アメリカ人とはなにか」について考えてくる 授業 : アメリカ人の「自画像」 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
15	羽鳥 修	【第 15 回】 予習 : 多文化主義について調べる 授業 : 多文化主義 復習 : ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。						
授業開始前学習		高校で使用するレベルの世界史の教科書あるいは概説書を読んでください。						
授業内課題のフィードバックの方法		各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また、教科書にある「課題」（各章の最終頁に記載）のほか、数回のレポート課題を出しますが、解答例または添削する方法でフィードバックします。						
テキスト・教材		教科書は使用しません。						
参考書		授業のなかで適宜紹介します。						
評価の基準と方法		毎回のコメントシート(65%)、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢（15%）						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	「アメリカの文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

☆文化交流論(日本とアメリカ)／文化交流論 B(日本とアメリカ)

科目分類	120-330-13	授業コード	FE0580
科目名称	☆文化交流論(日本とアメリカ)／文化交流論 B(日本とアメリカ)	単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural Exchange Studies B (Japan and United States of America)	授業区分	講義
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	日本とアメリカの関係は密接で、政治的、経済的、文化的レベルまで及んでいる。本講義では、日米の国家間・政府間の関係の歴史を 19 世紀半ばに来航したペリーの時期から太平洋戦争に突入した時期を中心に日米間の歴史を概観します。続いて、日系アメリカ人の歩んだ歴史、日米文化交流の歴史、北海道開拓の歴史、日米の文化交流の歴史と現状、そして日米の相互認識を概説します。こうしたテーマを解説しながら、併せて日本とアメリカの観光資源についても適宜紹介・解説します。なお、授業形態は双方向型および課題解決型です。		
到達目標	密接な関係にある日本とアメリカの政治的、経済的、文化的交流の学びを通じて、日米の歩んできた歴史の基礎を把握するとともに、歴史的・文化的に注目すべき観光資源についての理解を深めることを目標とします。さらに、授業を通じて、主に傾聴力、筆記力、調べる力などが身に付けられるように授業を行います。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	羽鳥 修	【第 1 回】 予習：テキスト 1～3 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：授業計画、方針、成績評価等を説明し、日米の基本的知識について質疑を行います 復習：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
2	羽鳥 修	【第 2 回】 予習：テキスト 4～8 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：ペリー来航の背景 復習：課題 1・2 (テキスト 24 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
3	羽鳥 修	【第 3 回】 予習：テキスト 4～8 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：ペリー来航に対する日本の姿勢と 2 つの条約締結 (DVD 鑑賞「安部正弘の外交戦略」と解説) 復習：課題 3・4 (テキスト 24 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
4	羽鳥 修	【第 4 回】 予習：テキスト 8～11 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：世紀転換期の日米関係 復習：課題 5・6 (テキスト 25 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
5	羽鳥 修	【第 5 回】 予習：テキスト 11～18 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日系アメリカ人 復習：課題 8・9・11 (テキスト 25 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
6	羽鳥 修	【第 6 回】 予習：テキスト 11～18 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日系アメリカ人 (DVD 鑑賞と解説) 復習：課題 8・9・11 (テキスト 25 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
7	羽鳥 修	【第 7 回】 予習：テキスト 18?24 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：太平洋戦争への道、明治以前の日米人的交流史 復習：ノートの確認後コメントシートを書いて提出する	
8	羽鳥 修	【第 8 回】 予習：テキスト 26～34 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：DVD (「ジョン万次郎」と「ジョセフ彦」) 鑑賞と解説 復習：課題 1・2・3 (テキスト 25 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	
9	羽鳥 修	【第 9 回】 予習：テキスト 35～41 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：北海道開拓の歴史 復習：課題 1・2・3 (テキスト 55 頁) に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。	

10	羽鳥 修	【第 10 回】 予習：テキスト 35～41 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：北海道開拓の歴史、DVD（「W・クラーク」）鑑賞と解説 復習：課題 4（テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
11	羽鳥 修	【第 11 回】 予習：テキスト 41～50 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：アメリカ文化の「輸入」 復習：課題 5・6（テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
12	羽鳥 修	【第 12 回】 予習：テキスト 50・55 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日本文化の「輸出」 復習：課題 7・8・9・10（テキスト 55 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
13	羽鳥 修	【第 13 回】 予習：第 10・11 回の復習課題についての発表準備 授業：日米文化の輸出入の発表（履修者数により変更の可能性あり） 復習：発表の感想（800 字程度）
14	羽鳥 修	【第 14 回】 予習：テキスト 55～61 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：日本人のアメリカ観 復習：課題 1・2・3（テキスト 67 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
15	羽鳥 修	【第 15 回】 予習：テキスト 61～66 頁を読み、わからない箇所をノートにメモする 授業：アメリカ人の日本観 復習：課題 4・5（テキスト 67 頁）に取り組む。また、ノートの確認後コメントシートを書いて提出する。
授業開始前学習		高校で日本史または世界史を履修した人は、教科書を読んでおいてください。
授業内課題のフィードバックの方法		各回のコメントシートについては次回の授業冒頭でフィードバックします。また提出課題については、模範解答もしくは添削によりフィードバックします。
テキスト・教材		羽鳥修『文化交流論 B（日本とアメリカ）』（駒沢女子大学教科書シリーズ、2010 年）
参考書		教科書 69 頁を参照。その他は適宜紹介する。
評価の基準と方法		毎回のコメントシート（65%）、レポート課題（20%）、授業への参加姿勢（15%）
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	
学修指針	教養力	人間性
科目の該当	◎	○
関連科目	「アメリカの文化と歴史 I・II」	
その他		
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）	
実務経験を活かした教育内容		

科目分類	120-330-13	授業コード	FE0590
科目名称	文化交流論 C(日本とアジア)	単位数	2.0 単位
英文名称	Cultural Exchange Studies C (Japan and Asia)	授業区分	講義
科目責任者	加島 勝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加島 勝	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	仏教が韓半島の百済から伝えられた 6 世紀中頃以降、日本の文化は仏教を中心に発展してきた。そうした文化の一つに仏教工芸がある。奈良斑鳩（いかるが）の法隆寺には多種多様な仏教工芸品が伝えられ、その一部は法隆寺献納宝物として現在東京国立博物館に収蔵され、同館の法隆寺宝物館に展示されている。本授業はこの法隆寺献納宝物に含まれる仏教工芸品のさまざまな姿をインド、西域、中国、韓半島など東アジア諸地域の仏教美術史の中で様式論的研究方法を用いて、作品を通して具体的に理解することを目標としている。		
到達目標	古代仏教工芸品のさまざまな姿をインド、西域、中国、韓半島など東アジア諸地域の仏教美術史の中で様式論的研究方法を用いて、作品を通して具体的に理解できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	加島 勝	【第 1 回】 第 1 回目授業はオンデマンド授業で行います。 予習 : 法隆寺がどのような寺院であるか図書館やインターネットなどで自分なりに調べてみてください 授業 : オリエンテーション。この授業の進め方や評価方法などについて説明する 復習 : 特にありません	
2	加島 勝	【第 2 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 法隆寺の歴史 復習 : 法隆寺の歴史について授業内容を確認する	
3	加島 勝	【第 3 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 法隆寺献納宝物の由来 復習 : 法隆寺献納宝物の由来について授業内容を確認する	
4	加島 勝	【第 4 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 荘厳具 1 仏舎利の荘厳①インド～中国～韓半島 復習 : 授業で取り上げた仏舎利の荘厳（インド～中国～韓半島）の内容を確認する	
5	加島 勝	【第 5 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 荘厳具 2 仏舎利の荘厳②日本 復習 : 授業で取り上げた仏舎利の荘厳（日本）の内容を確認する	
6	加島 勝	【第 6 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 荘厳具 3 玉虫厨子と伝橋夫人念持仏厨子①玉虫厨子の仏画と金工 復習 : 授業で取り上げた玉虫厨子の仏画と金工に関する内容を確認する	
7	加島 勝	【第 7 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 荘厳具 4 玉虫厨子と伝橋夫人念持仏厨子②伝橋夫人念持厨子の仏画と金工 復習 : 授業で取り上げた伝橋夫人念持厨子の仏画と金工に関する内容を確認する	
8	加島 勝	【第 8 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 荘厳具 5 灌頂幡①現状と問題点 復習 : 授業で取り上げた灌頂幡の現状と問題点に関する内容を確認する	
9	加島 勝	【第 9 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 荘厳具 6 灌頂幡②図様の主題と装飾意匠 復習 : 授業で取り上げた灌頂幡の図様の主題と装飾意匠に関する内容を確認する	
10	加島 勝	【第 10 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 供養具 1 胡瓶と竜首水瓶 復習 : 授業で取り上げた胡瓶と竜首水瓶に関する内容を確認する	

11	加島 勝	【第 11 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 供養具 2 軍持と浄瓶 復習 : 授業で取り上げた軍持と浄瓶に関する内容を確認する
12	加島 勝	【第 12 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 供養具 3 鵲尾形柄香炉 復習 : 授業で取り上げた鵲尾形柄香炉に関する内容を確認する
13	加島 勝	【第 13 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 供養具 4 獅子鎮柄香炉と瓶鎮柄香炉 復習 : 授業で取り上げた獅子鎮柄香炉と瓶鎮柄香炉に関する内容を確認する
14	加島 勝	【第 14 回】 予習 : 配布プリントを通読する 授業 : 鏡鑑 海磯鏡 復習 : 授業で取り上げた海磯鏡に関する内容を確認する
15	加島 勝	【第 15 回】 予習 : この授業のまとめの準備 授業 : この授業のまとめ 復習 : この授業のまとめの内容を確認する

授業開始前学習	授業時に配布するプリントや紹介する参考書を事前に読んでおく授業の理解がしやすい							
授業内課題のフィードバックの方法	小レポート（200 字程度）などの課題について、翌週にフィードバックする。							
テキスト・教材	授業時に必要に応じてプリントを配布する							
参考書								
評価の基準と方法	平常点（授業への取り組みと学期中の小レポート等） 5 0 %と毎回提出してもらう小レポート（200 字程度） 5 0 %を基準とし、総合的に判断した上で一定基準に達した者を相対評価する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目								
その他	この授業を通して寺院や博物館・美術館を訪れ、実際の作品を鑑賞する勉強態度を身につけてほしい							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-330-12	授業コード	FE0600
科目名称	イスラム文化論	単位数	2.0 単位
英文名称	Religious Culture (Islam)	授業区分	講義
科目責任者	太田 啓子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 啓子	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	イスラム教は世界三大一神教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）のひとつです。その広がりはアジア、アフリカにとどまらず、ヨーロッパ、アメリカなどほぼ世界全体に及んでいます。このように世界規模の広がりを見せるイスラム教を信奉する人びと、すなわちムスリムたちはさまざまな自然地理条件・社会環境下にある諸地域において多様な文化を育んでいます。そこで本授業では、前半は主に宗教としてのイスラム教について、後半はイスラム教を背景に育まれた多様な文化について取り上げます。		
到達目標	宗教としてのイスラム教について基本的な知識を得ること、またイスラム教を背景に育まれた多様な文化を知ることを通じて、その宗教的普遍性、文化的多様性についての理解を深めることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	太田 啓子	【第 1 回】 予習：あらかじめ授業のシラバスに目を通しておくこと。 授業：ガイダンス 復習：「イスラム」という言葉から自分が連想するものを 3 つ考えておくこと。	
2	太田 啓子	【第 2 回】 予習：高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのイスラムに関連する部分を読み返しておくこと。 授業：イスラムとは何か 復習：なぜイスラム研究者は「イスラム教」ではなく、「イスラム」という呼称を用いるのか考えてみること。	
3	太田 啓子	【第 3 回】 予習：イスラム教とはどういう宗教なのか、簡単に調べておくこと。 授業：イスラムのキーワード 復習：「イスラム」「アッラー」「六信五行」「ウンマ」などについて復習しておくこと。	
4	太田 啓子	【第 4 回】 予習：『クルアーン』の日本語訳に、一部分で良いので、目を通しておくこと。 授業：クルアーンとムハンマド 復習：「クルアーン」「ムハンマド」「ハディース」などについて復習しておくこと。	
5	太田 啓子	【第 5 回】 予習：イスラム法にはどのような規定があるか、いくつか調べておくこと。 授業：イスラム法 復習：イスラム法の特徴と各法学派について復習しておくこと。	
6	太田 啓子	【第 6 回】 予習：イスラム神秘主義者（スーフィー）とはどういう人たちか、自分のイメージを考えておくこと。 授業：スーフィズム 復習：スーフィズムの成立過程と果たした役割について復習しておくこと。	
7	太田 啓子	【第 7 回】 予習：シーア派とスンナ派の違いについて、いくつか調べておくこと。 授業：シーア派とスンナ派 復習：シーア派とスンナ派が分かれた理由、その違いについて復習しておくこと。	
8	太田 啓子	【第 8 回】 予習：イスラム世界の政治の流れについて、高校の時に世界史を履修していた人は、教科書を読み返しておくこと。 授業：イスラムと政治 復習：7 世紀?現代までのイスラム世界の政治の流れについて復習しておくこと。	
9	太田 啓子	【第 9 回】 予習：アロマショップなどで、乳香（フランキンセンス）の匂いを実際に嗅いでおくこと。 授業：乳香と乳香をめぐる文化	

		復習：乳香がイスラーム文化とキリスト教文化において果たした役割について復習しておくこと。							
10	太田 啓子	【第 10 回】 予習：イスラームのガラス器について調べておくこと。 授業：ガラス器とイスラーム 復習：ガラス器を通じたヨーロッパとイスラーム世界の交流について復習しておくこと。							
11	太田 啓子	【第 11 回】 予習：東京ジャーミイの HP（ https://tokyocamii.org/ja/ ）を見ておくこと。 授業：モスク建築の変遷 復習：モスク建築とイスラーム世界の政治状況との結びつきについて復習しておくこと。							
12	太田 啓子	【第 12 回】 予習：スターバックス、ドトールなどで、どのような国のコーヒーが扱われているか調べておくこと。 授業：世界飲料としてのコーヒー 復習：コーヒー飲用の習慣がどのように世界中に広がっていったのかを復習しておくこと。							
13	太田 啓子	【第 13 回】 予習：イスラーム教徒の家族と女性（ムスリム）について自分が持っているイメージを考えておくこと。 授業：家族と女性 復習：授業を受ける前に自分が持っていたイスラーム教徒の家族と女性（ムスリム）についてのイメージと、授業後に持ったイメージを比較してみること。							
14	太田 啓子	【第 14 回】 予習：イスラームの住まいについて自分が持っているイメージを考えておくこと。 授業：イスラームの住まい 復習：授業を受ける前に自分が持っていたイスラームの住まいのイメージと、授業後に持ったイメージを比較してみること。							
15	太田 啓子	【第 15 回】 予習：第 1 回から第 14 回までの授業のスライドを読み返しておくこと 授業：前期のふりかえり 復習：前期の授業を受講する前と後で、自分の中のイスラームに対するイメージがどのように変わったのか（または変わっていないのか）考えてみる							
授業開始前学習		高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのイスラームに関連する部分を読み返しておいてください。授業内容が理解しやすくなります。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で取り上げた内容について、毎回、授業内で課題を出しますので提出してください（提出は必須）。感想・質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください（こちらの記入は任意）。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。							
テキスト・教材		東長靖『イスラームのとなえ方（世界史リブレット 15）』、山川出版社、1996 年。 ＊テキストがなくても受講可能です（授業はテキストがなくても理解できるように行います）。							
参考書		各回の授業時に、授業内容に関連する参考文献を紹介します。							
評価の基準と方法		定期試験 100%で評価します。 ＊単位認定には 3 分の 2 以上の授業内課題を提出することが最低条件ですので注意してください。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎					△	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-330-12	授業コード	FE0610
科目名称	キリスト教文化論	単位数	2.0 単位
英文名称	Religious Culture (Christianity)	授業区分	講義
科目責任者	太田 啓子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太田 啓子	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ユダヤ教の影響を受けて成立したキリスト教は、今日、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカなどの世界の諸地域でもっとも信奉される宗教のひとつであると言えます。国際交流が加速度的に活発化している現代世界において、キリスト教を理解することはますます重要になってくると考えられます。そこで本授業では、前半はキリスト教の成立・発展について、後半は主に日本とキリスト教の関わりについて学びます。		
到達目標	キリスト教の成立・発展の過程について基本的な知識を得ること、そしてキリスト教が日本に対して及ぼした影響を知ることを通じて、その宗教的普遍性、文化的多様性についての理解を深めることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	太田 啓子	【第 1 回】 予習：あらかじめ授業のシラバスに目を通しておくこと。 授業：ガイダンス 復習：「キリスト教」という言葉から自分が連想するものを 3 つ考えておくこと。	
2	太田 啓子	【第 2 回】 予習：高校の時に世界史を履修していた人は、教科書、資料集などのキリスト教に関連する部分を読み返しておくこと。 授業：キリスト教とユダヤ教 復習：キリスト教の起源について復習しておくこと。	
3	太田 啓子	【第 3 回】 予習：イエスについて自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。 授業：キリスト教の成立 復習：原始キリスト教会の誕生について復習しておくこと。	
4	太田 啓子	【第 4 回】 予習：元々ローマ帝国ではどのような宗教が信仰されていたか調べておくこと。 授業：キリスト教とローマ帝国 復習：キリスト教がローマ帝国の国教となった過程について復習しておくこと。	
5	太田 啓子	【第 5 回】 予習：東方教会、西方教会というワードについて、簡単に調べておくこと。 授業：キリスト教界の東西分裂 復習：ゲルマン民族のキリスト教受容と東方教会の歩みについて復習しておくこと。	
6	太田 啓子	【第 6 回】 予習：十字軍について自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。 授業：教皇権と十字軍 復習：十字軍と教皇権の失墜について復習しておくこと。	
7	太田 啓子	【第 7 回】 予習：ルターについて、簡単に良いので調べておくこと。 授業：宗教改革の時代① 復習：宗教改革がドイツ、スイスで起きた過程について復習しておくこと。	
8	太田 啓子	【第 8 回】 予習：ヘンリ 8 世、エリザベス 1 世について、簡単に良いので調べておくこと。 授業：宗教改革の時代② 復習：宗教改革がイギリス、フランスなどのヨーロッパ諸地域に波及していった過程について復習しておくこと。	
9	太田 啓子	【第 9 回】 予習：新島襄について、簡単に良いので調べておくこと。 授業：近代のキリスト教① 復習：アメリカにおけるキリスト教の発展と植民事業との関わりについて復習しておくこと。	

10	太田 啓子	【第 10 回】 予習：ダーウィンの進化論について、簡単に良いので調べておくこと。 授業：近代のキリスト教② 復習：近代科学の発達がキリスト教に及ぼした影響について復習しておくこと。						
11	太田 啓子	【第 11 回】 予習：「エキュメニカル運動」とは何か、簡単に良いので調べておくこと。 授業：現代のキリスト教 復習：キリスト教の世界的な広がりについて復習しておくこと。						
12	太田 啓子	【第 12 回】 予習：ザビエルについて、自分が知っていることをいくつかピックアップしておくこと。 授業：日本へのキリスト教宣教 復習：イエズス会の活動について復習しておくこと。						
13	太田 啓子	【第 13 回】 予習：遠藤周作『沈黙』を読んでおくこと。 授業：近世日本のキリスト教政策 復習：キリスト教が禁止されることになった経緯について復習しておくこと。						
14	太田 啓子	【第 14 回】 予習：遠藤周作『女の一生（一部）キクの場合』を読んでおくこと。 授業：近代日本とキリスト教 復習：キリスト教を信仰することが認められるようになった経緯について復習しておくこと。						
15	太田 啓子	【第 15 回】 予習：第 1 回から第 14 回までの授業のスライドを読み返しておくこと 授業：後期のふりかえり 復習：後期の授業を受講する前と後で、自分の中のキリスト教に対するイメージがどのように変わったのか（または変わっていないのか）考えてみる						
授業開始前学習		高校の時に世界史・日本史を履修していた人は、教科書、資料集などのキリスト教に関連する部分を読み返しておいてください。 授業内容が理解しやすくなります。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で取り上げた内容について、毎回、授業内で課題を出しますので提出してください（提出は必須）。 感想・質問がある場合には、課題を提出する際に、一緒に記入してください（こちらの記入は任意）。これらに対して次回の授業で教員より回答・補足説明を行います。						
テキスト・教材		嶺重淑『キリスト教入門：歴史・人物・文学』、日本キリスト教団出版局、2011 年 ＊テキストがなくても受講可能です（授業はテキストがなくても理解できるように行います）。						
参考書		各回の授業時に、授業内容に関連する参考文献を紹介します。						
評価の基準と方法		定期試験 100%で評価します。 ＊単位認定には 3 分の 2 以上の課題を提出期限内に提出することが最低条件ですので注意してください。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎					△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-330-11 （ J ）			授業コード	FE0910
科目名称	旅行法規 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Laws and Regulations I			授業区分	講義
科目責任者	武井 智弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武井 智弘			開講時期	1 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	旅行業界で働くためには必須となる旅行業法および関連する法令を学習する。 旅行業法の知識は旅行業務取扱管理者試験の必須事項となるため、この試験に合格できるレベルの解説を実施する。				
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験および総合旅行業務取扱管理者試験の「旅行業法及びこれに基づく命令」の科目で、合格に必要な 60 パーセントを得点できる力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	武井 智弘	【第 1 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 旅行業法令の概要と効果的な学習法、第 1 条(目的) 復習 ： 法令の概要を再確認する			
2	武井 智弘	【第 2 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 旅行業等の定義 復習 ： 旅行業等の定義を理解する			
3	武井 智弘	【第 3 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 登録(旅行業及び旅行業者代理業) 復習 ： 登録制度を理解する			
4	武井 智弘	【第 4 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 営業保証金 練習問題 復習 ： 練習問題を再確認する			
5	武井 智弘	【第 5 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 弁済業務保証金 復習 ： 営業保証金と弁済業務保証金の違いを理解する			
6	武井 智弘	【第 6 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 旅行業務取扱管理者 復習 ： 10 の管理・監督事務を確認する			
7	武井 智弘	【第 7 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 料金の揭示・旅行業約款 練習問題 復習 ： 練習問題を再確認する			
8	武井 智弘	【第 8 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 取引条件の説明、書面の交付 復習 ： 71 頁 72 頁の表示内容を理解する			
9	武井 智弘	【第 9 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 外務員の証明書、広告、標識の揭示、旅程管理、禁止行為 復習 ： 該当頁を再読する			
10	武井 智弘	【第 10 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 受託契約、事業の廃止等・業務改善命令・登録の取り消し等 、練習問題 復習 ： 練習問題を再確認する			
11	武井 智弘	【第 11 回】 予習 ： 該当頁を一読する 授業 ： 旅行サービス手配業 復習 ： 旅行業等と旅行サービス手配業の差異を理解する			

12	武井 智弘	【第 12 回】 予習：該当頁を一読する 授業：旅行業協会 復習：法定 5 業務を確認する							
13	武井 智弘	【第 13 回】 予習：該当頁を一読する 授業：雑則、罰則 復習：観光庁長官と都道府県知事が行うものを区別する							
14	武井 智弘	【第 14 回】 予習：今までの練習問題を再確認 授業：小テスト 復習：解答を再考							
15	武井 智弘	【第 15 回】 予習：テキストの重要点を再確認 授業：最終テスト 復習：旅行業務取扱管理者試験受験のスケジュール作成							
授業開始前学習		旅行会社の店舗を訪問する。 扱っている商品、掲示されている証明書、店頭職員のつけている証明書等を確認する。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内または翌週に回答・解説の実施。 また個別に質問があった内容については翌週の授業において全員に解説を行う。							
テキスト・教材		『旅行業実務シリーズ ①旅行業法及びこれに基づく命令』（ J T B 総合研究所）							
参考書									
評価の基準と方法		小テスト：40% 最終テスト：50% 平常点：10%							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	△		○
関連科目		旅行法規Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		旅行会社勤務で得た知見を活かし、具体例を交えながら解説を実施する。 また業法に定義された事項を実際の事例をもとに具体的な解説も実施する。							

科目分類	120-330-12（J）			授業コード	FE0920
科目名称	旅行法規Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Tourism Laws and RegulationsⅡ			授業区分	講義
科目責任者	武井 智弘			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	武井 智弘			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	本講義では「約款（やっかん）」について理解を深め、旅行業務取扱管理者試験合格レベルまでの理解を目的とする。 旅行に行く際には様々な事業者を利用することになる。例えば旅行会社、宿泊施設（ホテル・旅館など）、運送サービス会社（貸切バス・航空・フェリー会社など）など複数の事業者が旅行者にサービスを提供するが、旅行者と各事業者の間の約束事項（契約事項）を事前に記したものが約款である。 この「約款」が旅行・宿泊・運送契約等の基本となるものであり、旅行業界で働く人々の、日々発生する様々な事項に関して判断をするための基本となるものであり、この約款を理解することが旅行業界で働くための必須事項となっている。 本講義では旅行会社との契約事項である「標準旅行業約款」を中心に、国内旅行業務取扱管理者試験において出題範囲となっている「貸切バス・国内航空・フェリー・宿泊」に関する約款の解説も実施する。				
到達目標	国内旅行業務管理者試験の「約款」科目において、必要合格レベルである正答率 60%を獲得できる理解力を身に付けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	武井 智弘	【第 1 回】 予習：該当頁を一読 授業：約款の概要と効果的な学習法 募集型企画旅行 第 1 章 総則 復習：国家試験合格のスケジュールを作成する			
2	武井 智弘	【第 2 回】 予習：該当頁を一読 授業：募集型企画旅行 第 2 章 契約の締結、第 3 章 契約の変更 復習：契約条件を理解する 契約変更できる場合を理解する			
3	武井 智弘	【第 3 回】 予習：該当頁を一読 授業：募集型企画旅行 第 4 章 契約の解除、第 5 章 団体・グループ契約 復習：契約解除はどのような場合にできるかを理解する			
4	武井 智弘	【第 4 回】 予習：該当頁を一読 授業：募集型企画旅行 第 6 章 旅程管理、第 7 章 責任 復習：旅程管理とは何かを理解する			
5	武井 智弘	【第 5 回】 予習：該当頁を一読 授業：受注型企画旅行 第 1 章 総則、第 2 章 契約の締結 復習：募集型との違いを理解する			
6	武井 智弘	【第 6 回】 予習：該当頁を一読 授業：受注型企画旅行 第 3 章 契約の変更、第 4 章 契約の解除、第 5 章 団体・グループ契約、第 6 章 旅程管理 復習：募集型との共通点と違いをまとめる			
7	武井 智弘	【第 7 回】 予習：該当頁を一読 授業：特別補償規程 第 1 章 補償金等の支払い、第 2 章 補償金等を支払わない場合、第 3 章 補償金等の種類及び支払額、第 4 章 事故の発生及び補償金等の請求の手続き 復習：補償金が支払われない場合をまとめる			
8	武井 智弘	【第 8 回】 予習：該当頁を一読 授業：特別補償規程 第 5 章 携帯品損害補償、 手配旅行契約 第 1 章 総則、第 2 章 契約の成立 復習：特別補償と損害賠償の関係を正しく理解する			
9	武井 智弘	【第 9 回】 予習：該当頁を一読 授業：手配旅行契約 第 3 章 契約の変更・解除、第 4 章 旅行代金、第 5 章 団体・グループ、第 6 章 責			

		任 復習：募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いをまとめ、理解する
10	武井 智弘	【第 10 回】 予習：該当頁を一読 授業：旅行相談契約 渡航手続代行契約 復習：練習問題を再確認
11	武井 智弘	【第 11 回】 予習：該当頁を一読 授業：国内旅客運送約款 復習：ポイントをまとめる
12	武井 智弘	【第 12 回】 予習：該当頁を一読 授業：国内旅客運送約款 復習：ポイントをまとめ、練習問題を再確認
13	武井 智弘	【第 13 回】 予習：該当頁を一読 授業：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款 フェリー標準運送約款 練習問題 復習：運賃・料金計算も意識して理解する
14	武井 智弘	【第 14 回】 予習：該当頁を一読 授業：モデル宿泊約款 復習：ポイントをまとめる
15	武井 智弘	【第 15 回】 予習：該当頁を一読 授業：最終テスト 復習：ポイントをまとめる
授業開始前学習		主要旅行会社の Web サイトを閲覧し、お客様と旅行会社の約束である約款を一読し、どのような約束事が記されているかのイメージを持つておくこと。 特に指定はないが「募集型企画旅行の部」が一番親しみやすいと思われる。（パッケージツアーの約款）
授業内課題のフィードバックの方法		授業内または翌週に回答・解説の実施。 また個別に質問があった内容については翌週の授業において全員に解説を行う。
テキスト・教材		『旅行業実務シリーズ ②旅行業約款、運送・宿泊約款』（JTB 総合研究所）
参考書		
評価の基準と方法		小テスト：40% 最終テスト：50% 平常点：10%
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成
学修指針		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成
科目の該当		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成
関連科目		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成
その他		
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容		旅行会社勤務で得た知見を活かし、具体例を交えながら解説を実施する。 またその具体例を示すことにより約款の理解がいかに必要かの解説も実施する。

科目分類	120-330-11 (J)	授業コード	FE0930
科目名称	国内旅行実務論 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Domestic Travel I	授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	「国内旅行業務取扱管理者」、または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な国内旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、JR の運賃・料金、営業規則などを学び、国内旅行実務に必要な専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。		
到達目標	JR の運賃・料金の算出方法、営業規則などを理解し、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の国内旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	秋山 友志	【第 1 回】 予習：テキストの第 1 部第 1 章 (P10-P17) の通読 授業：旅客営業規則 (テキスト：第 1 部第 1 章 P10-P17) 復習：旅客営業規則に関するポイントの整理	
2	秋山 友志	【第 2 回】 予習：テキストの第 1 部第 2 章 (P18-P25) の通読 授業：JR 乗車券類 (テキスト：第 1 部第 2 章 P18-P25) 復習：JR 乗車券類に関するポイントの整理	
3	秋山 友志	【第 3 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章 (P26-P29) の通読 授業：運賃①運賃計算の原則 (テキスト：第 1 部第 3 章 P26-P29) 復習：運賃計算の原則に関するポイントの整理	
4	秋山 友志	【第 4 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章 (P30-P35) の通読 授業：運賃②運賃計算例 (テキスト：第 1 部第 3 章 P30-P35) 復習：運賃計算例に関するポイントの整理	
5	秋山 友志	【第 5 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章 (P36-P43) の通読 授業：運賃③連絡運輸、普通乗車券 (テキスト：第 1 部第 3 章 P36-P43) 復習：連絡運輸、普通乗車券に関するポイントの整理	
6	秋山 友志	【第 6 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章 (P44-P55) の通読 授業：運賃④運賃計算の特例 (テキスト：第 1 部第 3 章 P44-P55) 復習：運賃計算の特例に関するポイントの整理	
7	秋山 友志	【第 7 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章 (P56-P60) の通読 授業：運賃⑤普通乗車券の効力、運賃の割引 (テキスト：第 1 部第 3 章 P56-P60) 復習：普通乗車券の効力、運賃の割引に関するポイントの整理	
8	秋山 友志	【第 8 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章 (P61-P65) の通読 授業：料金①料金計算の基本 (テキスト：第 1 部第 4 章 P61-P65) 復習：料金計算の基本に関するポイントの整理	
9	秋山 友志	【第 9 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章 (P66-P73) の通読 授業：料金②新幹線の特急料金 (テキスト：第 1 部第 4 章 P66-P73) 復習：新幹線の特急料金に関するポイントの整理	
10	秋山 友志	【第 10 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章 (P74-P92) の通読 授業：料金③在来線の特急料金 (テキスト：第 1 部第 4 章 P74-P92) 復習：在来線の特急料金に関するポイントの整理	
11	秋山 友志	【第 11 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章 (P93-P103) の通読 授業：料金④乗継割引 (テキスト：第 1 部第 4 章 P93-P103)	

		復習：乗継割引に関するポイントの整理						
12	秋山 友志	【第 12 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章（P104-P120）の通読 授業：料金⑤その他新幹線の取扱い（テキスト：第 1 部第 4 章 P104-P120） 復習：その他新幹線の取扱いに関するポイントの整理						
13	秋山 友志	【第 13 回】 予習：テキストの第 1 部第 5 章・第 6 章（P121-P128）の通読 授業：変更・取り消し・払い戻し、回数券（テキスト：第 1 部第 5 章・第 6 章 P121-P128） 復習：変更・取り消し・払い戻し、回数券に関するポイントの整理						
14	秋山 友志	【第 14 回】 予習：テキストの第 1 部第 7 章（P129-P140）の通読 授業：団体乗車券の発売、団体運賃・料金の計算（テキスト：第 1 部第 7 章 P129-P140） 復習：団体乗車券の発売に関するポイントの整理						
15	秋山 友志	【第 15 回】 予習：テキストの第 1 部第 8 章（P141-P144）の通読 授業：特別企画乗車券（テキスト：第 1 部第 8 章 P141-P144） / 授業理解度の確認 復習：特別企画乗車券に関するポイントの整理						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。							
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 3 国内運賃・料金』（JTB 総合研究所） 授業資料は classroom でも配布							
参考書	適宜、授業内で紹介							
評価の基準と方法	各回の授業内課題 40%、単元ごとの確認テスト 40%、平常点（授業態度など） 20%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							

科目分類	120-330-12 (J)			授業コード	FE0940
科目名称	国内旅行実務論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Domestic Travel Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	「国内旅行業務取扱管理者」、または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な国内旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、国内の航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則などを学び、国内旅行実務に必要な専門的な知識を習得する。 また、「国内旅行実務論Ⅰ」での JR の運賃・料金、営業規則などの演習問題も行う。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	国内の航空・その他運輸機関や宿泊機関の運賃や料金の仕組み、約款等の規則などを理解し、「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の国内旅行実務科目に出題される問題に対応できるようにする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	秋山 友志	【第 1 回】 予習：テキストの第 2 部第 1 章（P172-P177）の通読 授業：航空①航空券販売の概要（テキスト：第 2 部第 1 章 P172-P177） 復習：航空券販売の概要に関するポイントの整理			
2	秋山 友志	【第 2 回】 予習：テキストの第 2 部第 2 章（P178-P189）の通読 授業：航空②運賃・料金（テキスト：第 2 部第 2 章 P178-P189） 復習：航空運賃・料金に関するポイントの整理			
3	秋山 友志	【第 3 回】 予習：テキストの第 2 部第 2 章（P190-P208）の通読 授業：航空③変更・取り消し・払い戻し等、航空約款（テキスト：第 2 部第 2 章 P190-P208） 復習：航空券の変更・取り消し・払い戻し等、航空約款に関するポイントの整理			
4	秋山 友志	【第 4 回】 予習：テキストの第 3 部第 1 章（P210-P215）の通読 授業：貸切バスの運賃・料金、貸切バス約款（テキスト：第 3 部第 1 章 P210-P215） 復習：貸切バスの運賃・料金、貸切バス約款に関するポイントの整理			
5	秋山 友志	【第 5 回】 予習：テキストの第 3 部第 2 章（P216-P224）の通読 授業：フェリーの運賃・料金、フェリー約款（テキスト：第 3 部第 2 章 P216-P224） 復習：フェリーの運賃・料金、フェリー約款に関するポイントの整理			
6	秋山 友志	【第 6 回】 予習：テキストの第 4 部第 1 章・第 2 章（P226-P236）の通読 授業：宿泊料金等、モデル宿泊約款（テキスト：第 4 部第 1 章・第 2 章 P226-P236） 復習：宿泊料金等、モデル宿泊約款に関するポイントの整理			
7	秋山 友志	【第 7 回】 予習：テキストの第 1 部第 1 章・第 2 章（P10-P25）の通読 授業：演習問題①：JR①旅客営業規則 復習：旅客営業規則に関するポイントの整理			
8	秋山 友志	【第 8 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章（P26-P43）の通読 授業：演習問題②：JR②運賃計算の原則 復習：運賃計算の原則に関するポイントの整理			
9	秋山 友志	【第 9 回】 予習：テキストの第 1 部第 3 章（P44-P60）の通読 授業：演習問題③：JR③運賃計算の特例 復習：運賃計算の特例に関するポイントの整理			
10	秋山 友志	【第 10 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章（P61-P92）の通読 授業：演習問題④：JR④料金計算 復習：料金計算に関するポイントの整理			

11	秋山 友志	【第 11 回】 予習：テキストの第 1 部第 4 章（P93-P118）の通読 授業：演習問題⑤：JR⑤料金計算 復習：料金計算に関するポイントの整理						
12	秋山 友志	【第 12 回】 予習：テキストの第 1 部第 5 章・第 6 章（P119-P127）の通読 授業：演習問題⑥：JR⑥料金計算 復習：取り消し・払い戻しに関するポイントの整理						
13	秋山 友志	【第 13 回】 予習：テキストの第 1 部第 7 章・第 8 章（P128-P144）の通読 授業：演習問題⑦：JR⑦団体乗車券 復習：団体乗車券に関するポイントの整理						
14	秋山 友志	【第 14 回】 予習：第 13 回までの授業資料などを復習 授業：総合演習①：JR・航空・社線・宿泊の理解度総合チェック（模擬テストと解説） 復習：JR・航空・社線・宿泊の約款と運賃・料金計算に関するポイントの整理						
15	秋山 友志	【第 15 回】 予習：第 13 回までの授業資料などを復習 授業：総合演習②：授業理解度の確認 復習：JR の営業規則と運賃・料金計算に関するポイントの整理						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。						
テキスト・教材		JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 3 国内運賃・料金』（JTB 総合研究所） ※昨年度「国内旅行実務論Ⅰ」履修者は、昨年度使用のテキストを使用可。 授業資料などは classroom でも配布予定						
参考書		適宜、授業内で紹介						
評価の基準と方法		単元ごと的小テスト 30%、授業内課題 50%、平常点（授業態度・課題提出）20%						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	「国内旅行業務取扱管理者」または「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							

科目分類	120-330-12 (J)			授業コード	FE0950
科目名称	海外旅行実務論 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Overseas Travel I			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な海外旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、海外旅行業務の基礎知識や関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令など専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	海外旅行業務の基礎知識や関連する運輸機関などの知識、渡航手続や出入国に関する法令などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の海外旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	秋山 友志	【第 1 回】 予習：テキスト第 3 部第 1 章（海外旅行実務） P122-P134 の通読 授業：時差の知識（テキスト：海外旅行実務 P122-P134） 復習：時差、時差表、夏時間、時差の計算（2 地点間の所要時間）に関するポイントの整理			
2	秋山 友志	【第 2 回】 予習：テキスト第 3 部第 2 章（海外旅行実務） P136-P146 の通読 授業：航空の知識①航空会社、都市・空港コード、国際航空運賃とその他付加運賃、諸料金（テキスト：海外旅行実務 P136-P146） 復習：航空会社、都市・空港コード、国際航空運賃とその他付加運賃、諸料金に関するポイントの整理			
3	秋山 友志	【第 3 回】 予習：テキスト第 3 部第 3 章（海外旅行実務） P147-P162 の通読 授業：航空の知識②航空時刻表の見方（テキスト：海外旅行実務 P147-P162） 復習：航空時刻表の見方（OAG）に関するポイントの整理			
4	秋山 友志	【第 4 回】 予習：テキスト第 3 部第 4 章（海外旅行実務） P163-P172 の通読 授業：鉄道の知識①ヨーロッパの鉄道、ユーレイルパス、鉄道の設備（テキスト：海外旅行実務 P163-P172） 復習：ヨーロッパの鉄道、ユーレイルパス、鉄道の設備に関するポイントの整理			
5	秋山 友志	【第 5 回】 予習：テキスト第 3 部第 4 章（海外旅行実務） P173-P181 の通読 授業：鉄道の知識②ヨーロッパ鉄道時刻表、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジアの鉄道（テキスト：海外旅行実務 P173-P181） 復習：ヨーロッパ鉄道時刻表、アメリカ・カナダ・オーストラリア・アジアの鉄道に関するポイントの整理			
6	秋山 友志	【第 6 回】 予習：テキスト第 3 部第 5 章（海外旅行実務） P182-P187 の通読 授業：船舶の知識（テキスト：海外旅行実務 P182-P187） 復習：定期客船航路、クルーズに関するポイントの整理			
7	秋山 友志	【第 7 回】 予習：テキスト第 3 部第 6 章（海外旅行実務） P188-P193 の通読 授業：ホテルの知識（テキスト：海外旅行実務 P188-P193） 復習：ホテルの種類、客室、料金、朝食に関するポイントの整理			
8	秋山 友志	【第 8 回】 予習：テキスト第 3 部第 7 章（海外旅行実務） P194-P205 の通読 授業：食事の知識・その他知識（テキスト：海外旅行実務 P194-P205） 復習：レストラン、メニュー、飲み物、各国の名物料理、レンタカー、海外旅行保険に関するポイントの整理			
9	秋山 友志	【第 9 回】 予習：テキスト第 1 部第 1 章（出入国法令と実務） P12-P15 の通読 授業：海外旅行の基礎知識（テキスト：海外旅行実務 P12-P15） 復習：外国旅行事情、海外危険情報、感染症情報に関するポイントの整理			
10	秋山 友志	【第 10 回】 予習：テキスト第 1 部第 2 章（出入国法令と実務） P16-P27 の通読 授業：渡航手続①旅券と旅券申請（テキスト：出入国法令と実務 P16-P27） 復習：旅券と旅券申請に関するポイントの整理			

11	秋山 友志	【第 11 回】 予習：テキスト第 1 部第 2 章（出入国法令と実務） P28-P41 の通読 授業：渡航手続②その他旅券申請に関する手続き（テキスト：出入国法令と実務 P28-P41） 復習：その他旅券申請に関する手続きに関するポイントの整理						
12	秋山 友志	【第 12 回】 予習：テキスト第 1 部第 3 章（出入国法令と実務） P42-P52 の通読 授業：渡航手続③予防接種、査証手続き、外貨手続き（テキスト：出入国法令と実務 P42-P52） 復習：予防接種、査証手続き、外貨手続きに関するポイントの整理						
13	秋山 友志	【第 13 回】 予習：テキスト第 2 部第 1 章（出入国法令と実務） P54-P65 の通読 授業：出入国手続①日本の出国手続き、外国での出・入国手続き（テキスト：出入国法令と実務 P54-P65） 復習：日本の出国手続き、外国での出・入国手続きに関するポイントの整理						
14	秋山 友志	【第 14 回】 予習：テキスト第 2 部第 1 章（出入国法令と実務） P66-P85 の通読 授業：出入国手続②日本の入国手続き（テキスト：出入国法令と実務 P66-P85） 復習：日本の入国手続き（検疫・動植物検疫・税関）に関するポイントの整理						
15	秋山 友志	【第 15 回】 予習：テキスト第 2 部第 2 章（出入国法令と実務） P86-P90 の通読 授業：出入国手続③外国人の日本出入国（テキスト：出入国法令と実務 P86-P90） / 授業理解度の確認 復習：外国人の日本入国、日本在留、出国と再入国許可に関するポイントの整理						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。						
テキスト・教材		JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 5 海外旅行実務－出入国法令と実務、旅行実務』（JTB 総合研究所） 授業資料は classroom でも配布予定						
参考書		適宜、授業内で紹介						
評価の基準と方法		各回の授業内課題 40%、単元ごとの確認テスト 40%、平常点（授業態度など） 20%						
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他		「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。						

科目分類	120-330-13 (J)			授業コード	FE0960
科目名称	海外旅行実務論Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Practical Studies in Overseas Travel Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	秋山 友志			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	秋山 友志			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得に必要な海外旅行実務科目に関連した基礎知識を得る。 主に、国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎など専門的な知識を習得する。 将来、旅行業で活躍したいと考え、「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得を考えている学生、または旅行業に興味を持つ学生を対象とする。				
到達目標	国際航空券と国際航空運賃について、その仕組みと規則、運賃計算の基礎などを理解し、「総合旅行業務取扱管理者」の海外旅行実務科目に出題される問題に対応できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	秋山 友志	【第 1 回】 予習：テキスト P10-P16 の通読 授業：IATA と国際航空運賃①IATA とは、IATA 地理区分、GI (テキスト：P10-P16) 復習：IATA とは、IATA 地理区分、GI (旅行経路)に関するポイントの整理			
2	秋山 友志	【第 2 回】 予習：テキスト P17-P21 の通読 授業：IATA と国際航空運賃②運賃の分類、運賃の適用、小児運賃、曜日運賃、有効期間 (テキスト：P17-P21) 復習：運賃の分類、運賃の適用、小児運賃、曜日運賃、有効期間に関するポイントの整理			
3	秋山 友志	【第 3 回】 予習：テキスト P22-P29 の通読 授業：IATA と国際航空運賃③通貨・換算、タリフ、アドオン運賃、付加運賃等 (テキスト：P22-P29) 復習：通貨・換算、タリフ、アドオン運賃、付加運賃等に関するポイントの整理			
4	秋山 友志	【第 4 回】 予習：テキスト P30-P35 の通読 授業：IATA と国際航空運賃④航空券の記載内容、e チケットお客様控え (テキスト：P30-P35) 復習：航空券の記載内容、e チケットお客様控えに関するポイントの整理			
5	秋山 友志	【第 5 回】 予習：テキスト P38-P43 の通読 授業：運賃計算の基本①運賃計算上の旅程と各地点、通し運賃、フェアコンポーネント、マイルージ計算 (テキスト：P38-P43) 復習：運賃計算上の旅程と各地点、通し運賃、フェアコンポーネント、マイルージ計算に関するポイントの整理			
6	秋山 友志	【第 6 回】 予習：テキスト P44-P52 の通読 授業：運賃計算の基本②旅行形態、運賃計算結果表示 (テキスト：P44-P52) 復習：旅行形態、運賃計算結果表示に関するポイントの整理			
7	秋山 友志	【第 7 回】 予習：テキスト P54-P67 の通読 授業：運賃計算①マイルージ計算と運賃計算 (テキスト：P54-P67) 復習：マイルージ計算と運賃計算に関するポイントの整理			
8	秋山 友志	【第 8 回】 予習：テキスト P68-P84 の通読 授業：運賃計算②マイルージ計算の特例 (テキスト：P68-P84) 復習：マイルージ計算の特例に関するポイントの整理			
9	秋山 友志	【第 9 回】 予習：テキスト P86-P99 の通読 授業：キャリア運賃①キャリア運賃の適用規則 (テキスト：P86-P99) 復習：キャリア運賃の適用規則に関するポイントの整理			
10	秋山 友志	【第 10 回】 予習：テキスト P100-P106 の通読 授業：キャリア運賃②キャリア運賃の計算 (テキスト：P100-P106) 復習：キャリア運賃の計算に関するポイントの整理			

11	秋山 友志	【第 11 回】 予習：テキスト P107-P117 の通読 授業：キャリア運賃③運賃の結合（テキスト：P107-P117） 復習：運賃の結合に関するポイントの整理						
12	秋山 友志	【第 12 回】 予習：テキスト P118-P145 の通読 授業：キャリア運賃④キャリア運賃の理解度チェック（テキスト：P118-P145） 復習：キャリア運賃の理解度チェックに関するポイントの整理						
13	秋山 友志	【第 13 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題①主に国際航空運賃に関する演習問題 復習：国際航空運賃に関するポイントの整理						
14	秋山 友志	【第 14 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題②主に海外旅行実務に関する演習問題 復習：運賃の結合に関するポイントの整理						
15	秋山 友志	【第 15 回】 予習：第 12 回までの授業資料の復習 授業：演習問題③国家試験などの過去問演習 復習：国家試験などの過去問に関するポイントの整理						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業項目毎に、理解度チェックを兼ねて授業時間内に演習問題（小テスト）に取り組む。その都度、もしくは次回授業冒頭で答え合わせと解説を行う。							
テキスト・教材	JTB 総合研究所編『旅行業実務シリーズ 6 海外旅行実務－ 国際航空運賃、旅行業英語』（JTB 総合研究所） 授業資料は classroom でも配布予定							
参考書	適宜、授業内で紹介							
評価の基準と方法	単元ごと的小テスト 30%、授業内課題 50%、平常点（授業態度・課題提出）20%							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目								
その他	「総合旅行業務取扱管理者」の資格取得のため、資格試験の受験をめざす学生は履修を勧める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社 2 社での約 4 年間の勤務経験があり、特に H.I.S.では団体旅行（教育旅行）の営業職などを担当。国内・総合旅行業務取扱管理者の資格も取得。旅行業実務の経験から実務面の話も講義に交えて行います。							

旅行業務取扱管理者試験特講

科目分類	120-330-12 （J）			授業コード	FE0970
科目名称	旅行業務取扱管理者試験特講			単位数	2.0 単位
英文名称	National Examination for Certified General Travel Service Supervisors Course			授業区分	講義
科目責任者	佐藤 奈緒子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 奈緒子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	毎年 9 月上旬の日曜日に実施されている国内旅行業務取扱管理者試験に合格するため、既出国家試験問題や練習問題および模擬試験問題を中心に学習する。 今年度の国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指す、学習意欲のある学生を対象とする。 10 月上旬の日曜日に行われる総合旅行業務取扱管理者試験の合格も意識し進める。				
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験に合格するため、旅行業法令、旅行関係約款、国内旅行実務(国内観光地理・その他)の試験 3 科目で、各科目とも 60 パーセント以上の得点する力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐藤 奈緒子	【第 1 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 1 復習 : 国内観光資源過去問題解答・解説			
2	佐藤 奈緒子	【第 2 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 2 復習 : 国内観光資源練習問題-1			
3	佐藤 奈緒子	【第 3 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 3 復習 : 国内観光資源練習問題-2			
4	佐藤 奈緒子	【第 4 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 4 復習 : 国内観光資源練習問題-3			
5	佐藤 奈緒子	【第 5 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 5 復習 : 国内観光資源練習問題-4			
6	佐藤 奈緒子	【第 6 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 6 復習 : 国内観光資源練習問題-5			
7	佐藤 奈緒子	【第 7 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 7 復習 : 国内運賃・料金練習問題解説			
8	佐藤 奈緒子	【第 8 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 国内旅行実務 8 復習 : 国内運賃・料金練習問題解説			
9	佐藤 奈緒子	【第 9 回】 予習 : 事前配布資料参照 授業 : 旅行業法 1 復習 : 旅行業法練習問題解説			
10	佐藤 奈緒子	【第 10 回】 予習 : 事前配布練習問題参照 授業 : 旅行業法 2 復習 : 旅行業法練習問題解説			
11	佐藤 奈緒子	【第 11 回】 予習 : 事前配布練習問題参照 授業 : 旅行業約款 1			

		復習 :旅行業約款練習問題解説						
12	佐藤 奈緒子	【第 12 回】 予習 :事前配布過去問題参照 授業 :旅行業約款 2 復習 :航空約款、運送約款、宿泊約款練習問題解説						
13	佐藤 奈緒子	【第 13 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :模擬テスト 1 復習 :模擬テストの解答・解説						
14	佐藤 奈緒子	【第 14 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :模擬テスト 2 復習 :模擬テストの解答・解説						
15	佐藤 奈緒子	【第 15 回】 予習 :事前配布練習問題参照 授業 :模擬テスト 3 復習 :模擬テストの解答・解説						
授業開始前学習		・関連科目(旅行法規Ⅰ、旅行法規Ⅱ、国内旅行実務論Ⅰ、国内旅行実務論Ⅱ)を受講し、特講開始までに内容を講義内容を復習すること。 編入生など事情により関連科目を受講できなかった学生は、必ず自習した上で特講を受講すること。 ・事前に国内観光地理の資料を Classroom にて配布する。可否を分けるのが国内観光地理の学習量となる場合が多いため、特講受講までに国内観光地理に関する知識を増やして欲しい。						
授業内課題のフィードバックの方法		特講の授業内に解答・解説を行う。						
テキスト・教材		・旅行実務シリーズ 1『1 旅行業法及びこれに基づく命令』、2『2 旅行業約款、運送・宿泊約款』、3『3 国内運賃・料金』、4『4 国内観光資源』(いずれも JTB 総合研究所)※2023 年度版推奨だが他年度版でも可 ・配布資料						
参考書		『旅地図 日本』(昭文社)						
評価の基準と方法		小テスト:40%、模擬テスト:50%、平常点(授業への貢献)10%						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△		○
関連科目	旅行法規Ⅰ、旅行法規Ⅱ、国内旅行実務論Ⅰ、国内旅行実務論Ⅱ、観光地理(国内)							
その他	受験手続は各自で行うこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	旅行会社勤務および総合旅行業務取扱管理者試験合格歴を生かし、効率的に学習する方法を指導する。							

科目分類	120-310-22 (J)	授業コード	FE1111
科目名称	☆観光の英語／観光の英語 I	単位数	1.0 単位
英文名称	English for Tourism／English for Tourism I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	10-713
授業概要	観光の英語では、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力の習得を目的とする。様々な観光の場面で出会う基本的な英語表現を学び、ペアワークやロールプレイで反復練習を多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。		
到達目標	観光英語検定 3 級レベルの到達を目標とする。具体的には、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉野 知恵	【第 1 回】 予習 : シラバスを読むとともに、世界の国々の英語名称を調べる。 授業 : 観光の英語とは／Tour 1 国名の英語 復習 : わからなかった国名を確認し、発音を練習する。	
2	杉野 知恵	【第 2 回】 予習 : 教科書 (pp.7-9) に取り組む。 授業 : Tour 2 スモール・トーク 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
3	杉野 知恵	【第 3 回】 予習 : 教科書 (p.10) を参照してインタビューの準備をする。 授業 : Tour 3 英語で交流しよう (グループワーク) 復習 : 活動レポートを作成する (課題①)。	
4	杉野 知恵	【第 4 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.12) と重要表現 (pp.13-14) に取り組む。 授業 : Tour 4 空港・機内にて 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
5	杉野 知恵	【第 5 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.23) と重要表現 (p.24) に取り組む。 授業 : Tour 5 出入国手続 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
6	杉野 知恵	【第 6 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.28) と重要表現 (pp.28-29) に取り組む。 授業 : Tour 6 両替・通貨 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
7	杉野 知恵	【第 7 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.32) と重要表現 (pp.32-34) に取り組む。 授業 : Tour 7 移動手段を使いこなす 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
8	杉野 知恵	【第 8 回】 予習 : これまでの授業で学んだ表現などを振り返る。 授業 : 到達度確認のためのアクティビティ (Tours 1-7) / 模擬試験① 復習 : まとめでわからなかった部分を確認する。	
9	杉野 知恵	【第 9 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.40) と重要表現 (pp.41-42) に取り組む。 授業 : Tour 8 道を探す (道案内の英語) 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
10	杉野 知恵	【第 10 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.45) と重要表現 (pp.46-47) に取り組む。 授業 : Tour 9 ホテルにて 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	
11	杉野 知恵	【第 11 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.53) と重要表現 (p.55) に取り組む。 授業 : Tour 10 買い物をしよう 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。	

12	杉野 知恵	【第 12 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.60) と重要表現 (pp.61-62) に取り組む。 授業 : Tour 11 食事を楽しむ 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。															
13	杉野 知恵	【第 13 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.69) と重要表現 (pp.70-72) に取り組む。 授業 : Tour 12 旅のトラブル 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。															
14	杉野 知恵	【第 14 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.73) と重要表現 (pp.73-74) に取り組む。 授業 : Tour 13 観光に出かけよう 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。															
15	杉野 知恵	【第 15 回】 予習 : これまでの授業で学んだ表現などを振り返っておく。 授業 : 到達度確認のためのアクティビティ (Tours 8-13) / 模擬試験② 復習 : まとめでわからなかった部分を確認する。															
授業開始前学習		飛行機、電車、地下鉄、バスなどの交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真を撮るなど記録するようこころがける。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業の冒頭に事前学習に基づく小テストを行い、その場で解説する。課題①は翌週の授業で講評し、個別にコメントを付して返却する。															
テキスト・教材		駒沢女子大学教科書シリーズ「観光の英語」に基づくプリントを初回授業で配布します。 また、学生の習熟度に応じて、トピックごとに異なる教材を用いる場合は、事前に配布する。															
参考書		教科書の参考文献を参照。その他、授業内で紹介する。 「旅行英会話・海外旅行英会話 海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」(iPhone, iPad)、「旅行英会話 海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」(アンドロイド) の無料アプリをダウンロードしておくことをお勧めします。															
評価の基準と方法		授業内模擬試験 (50%)、小テストと課題への取組 (40%) 及び授業内活動への積極的な貢献 (10%) を総合して評価する。模擬試験では、観光英語検定 3 級レベルの運用能力を問う。 なお、観光英語検定の合格者 (授業実施前の合格者を含む) には、合格級に応じてボーナス加点を行う。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○		◎												△	
関連科目		観光ガイドの英語、ホスピタリティの英語、通訳・ガイド、日本紹介の英語など															
その他		【重要】4 月に 1 泊 2 日の都内研修を行う。羽田空港や都内観光資源の見学等を予定している。 出席と学生の主体的取り組みを重視する。その他の授業のルールは初回の授業で説明する。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)															
実務経験を活かした教育内容		外務省職員として約 20 年の実務経験あり。外務省やバングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での要人対応や通訳経験を活かし、国際儀礼を踏まえながら実践的に英語を学べるよう工夫していきます。															

科目分類	120-330-23 (J)			授業コード	FE1130
科目名称	観光の英語Ⅲ			単位数	1.0 単位
英文名称	English for TourismⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	10-713
授業概要	観光の英語では、学生自身の海外旅行や国際的な観光業務に役立つ英語の運用能力の習得を目的とする。様々な観光の場面で出会う基本的な英語表現を学び、ペアワークやロールプレイで反復練習を多く行い、自ら積極的にコミュニケーションする姿勢も養う。				
到達目標	観光英語検定 3 級レベルの到達を目標とする。具体的には、海外グループ旅行の自由行動の際に、英語を使って買い物をしたり、食事を頼んだりすることができ、訪日観光客に対し、簡単な道案内などができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	杉野 知恵	【第 1 回】 予習 : シラバスを読むとともに、世界の国々の英語名称を調べる。 授業 : 観光の英語とは／Tour 1 国名の英語 復習 : わからなかった国名を確認し、発音を練習する。			
2	杉野 知恵	【第 2 回】 予習 : 教科書 (pp.7-9) に取り組む。 授業 : Tour 2 スモール・トーク 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
3	杉野 知恵	【第 3 回】 予習 : 教科書 (p.10) を参照してインタビューの準備をする。 授業 : Tour 3 英語で交流しよう (グループワーク) 復習 : 活動レポートを作成する (課題①)。			
4	杉野 知恵	【第 4 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.12) と重要表現 (pp.13-14) に取り組む。 授業 : Tour 4 空港・機内にて 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
5	杉野 知恵	【第 5 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.23) と重要表現 (p.24) に取り組む。 授業 : Tour 5 出入国手続 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
6	杉野 知恵	【第 6 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.28) と重要表現 (pp.28-29) に取り組む。 授業 : Tour 6 両替・通貨 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
7	杉野 知恵	【第 7 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.32) と重要表現 (pp.32-34) に取り組む。 授業 : Tour 7 移動手段を使いこなす 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
8	杉野 知恵	【第 8 回】 予習 : これまでの授業で学んだ表現などを振り返る。 授業 : 到達度確認のためのアクティビティ (Tours 1-7) / 模擬試験① 復習 : まとめでわからなかった部分を確認する。			
9	杉野 知恵	【第 9 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.40) と重要表現 (pp.41-42) に取り組む。 授業 : Tour 8 道を探す (道案内の英語) 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
10	杉野 知恵	【第 10 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.45) と重要表現 (pp.46-47) に取り組む。 授業 : Tour 9 ホテルにて 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			
11	杉野 知恵	【第 11 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.53) と重要表現 (p.55) に取り組む。 授業 : Tour 10 買い物をしよう 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。			

12	杉野 知恵	【第 12 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.60) と重要表現 (pp.61-62) に取り組む。 授業 : Tour 11 食事を楽しむ 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。															
13	杉野 知恵	【第 13 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.69) と重要表現 (pp.70-72) に取り組む。 授業 : Tour 12 旅のトラブル 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。															
14	杉野 知恵	【第 14 回】 予習 : 教科書の重要単語 (p.73) と重要表現 (pp.73-74) に取り組む。 授業 : Tour 13 観光に出かけよう 復習 : 授業で学んだ表現を確認する。															
15	杉野 知恵	【第 15 回】 予習 : これまでの授業で学んだ表現などを振り返っておく。 授業 : 到達度確認のためのアクティビティ (Tours 8-13) / 模擬試験② 復習 : まとめでわからなかった部分を確認する。															
授業開始前学習		飛行機、電車、地下鉄、バスなどの交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真を撮るなど記録するようこころがける。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業の冒頭に事前学習に基づく小テストを行い、その場で解説する。課題①は翌週の授業で講評し、個別にコメントを付して返却する。															
テキスト・教材		駒沢女子大学教科書シリーズ「観光の英語」に基づくプリントを初回授業で配布します。 また、学生の習熟度に応じて、トピックごとに異なる教材を用いる場合は、事前に配布する。															
参考書		教科書の参考文献を参照。その他、授業内で紹介する。 「旅行英会話・海外旅行英会話 海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」(iPhone, iPad)、「旅行英会話 海外旅行に役立つカンタン英会話フレーズ」(アンドロイド) の無料アプリをダウンロードしておくことをお勧めします。															
評価の基準と方法		授業内模擬試験 (50%)、小テストと課題への取組 (40%) 及び授業内活動への積極的な貢献 (10%) を総合して評価する。模擬試験では、観光英語検定 3 級レベルの運用能力を問う。 なお、観光英語検定の合格者 (授業実施前の合格者を含む) には、合格級に応じてボーナス加点を行う。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当				◎						△						○	
関連科目		観光ガイドの英語、ホスピタリティの英語、通訳・ガイド、日本紹介の英語など															
その他		【重要】4 月に 1 泊 2 日の都内研修を行う。羽田空港や都内観光資源の見学等を予定している。 出席と学生の主体的取り組みを重視する。その他の授業のルールは初回の授業で説明する。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)															
実務経験を活かした教育内容		外務省職員として約 20 年の実務経験あり。外務省やバングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での要人対応や通訳経験を活かし、国際儀礼を踏まえながら実践的に英語を学べるよう工夫していきます。															

☆観光ガイドブック講読／観光の英語Ⅱ

科目分類	120-330-22 (J)	授業コード	FE1120
科目名称	☆観光ガイドブック講読／観光の英語Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Reading Tourist Guidebooks／English for TourismⅡ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木内 伸樹	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木内 伸樹	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	日本の豊かな観光資源や独自の文化や習慣に興味を持つ外国人旅行者が多く、日本を理解するのは短期間では難しい面がある。豊かな日本の観光資源を知り、その観光資源を英語で表現できるように習得する。さらに日本の文化や習慣、歴史的背景を英語で理解する。また日本の特定の観光地をガイドできる英語力を身に付ける。授業では、全員がペア・ワークとプレゼンテーションを行なう。The class will be partially conducted in English.		
到達目標	①日本の観光資源を理解し、英語で説明できる ②日本の文化や習慣、歴史的背景を英語で説明できる ③訪日観光客に対し観光プランを作成し、英語で観光地や名所を観光ガイドするプレゼンテーションを実施できる		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木内 伸樹	予習： 英語で自己紹介と好きな観光地を紹介できるようにまとめる 授業： オリエンテーション 授業概略説明 復習： 授業資料を復習する	
2	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Recommending a tour” / Escorting a tour” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
3	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Taking a tour booking” / Phonetic Alphabet (通話英語) (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
4	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Welcoming international tourists” / 日本の観光ガイドブック (英語版) (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
5	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Taking an airline reservation” / “A working tour of the Imperial palace east garden” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
6	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Giving flight information” / “A working tour of the Imperial palace east garden” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
7	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Helping passengers check in” / “A working tour of the Imperial palace east garden” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
8	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Working at the boarding gate” / “A working tour of Meiji shrine” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
9	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Offering in-flight services” / “A working tour of Meiji shrine” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
10	木内 伸樹	予習： 授業で扱った観光ガイドブックを講読する 授業： “Giving CIQ information” / “A working tour of Meiji shrine” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
11	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Welcoming guests” / “A working tour of Asakusa” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
12	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する 授業： “Helping guests” / “A working tour of Asakusa” (ペア・ワーク) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	
13	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する。観光ガイドの発表できるようまとめる 授業： “Dealing with complaints” / 観光ガイド (プレゼンテーション) 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する	

14	木内 伸樹	予習： 授業で扱う Unit を講読する。観光ガイドの発表できるようまとめる 授業： “Sending guest off” / 観光ガイド（プレゼンテーション） 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する							
15	木内 伸樹	予習： 今まで授業で扱った観光ガイドブックを見直す。観光ガイドの発表できるようまとめる 授業： 観光ガイド（プレゼンテーション） 復習： 授業で扱った単語、センテンスを復習する							
授業開始前学習		興味のある日本の観光地を選び出し、英語でどのように表現するかを調べておく。 公共交通機関での英語のアナウンスや、観光地の英語の案内など、観光の場面での英語に関心を持ち、写真で記録するなどこころがける。							
授業内課題のフィードバックの方法		プレゼンテーション終了後に、質疑応答、教員からのプレゼンテーション内容の評価とアドバイスをおこなう。グループワーク、授業課題については、授業内、授業後に個別に対応、指導する。 課題の詳細は授業内で指示する。							
テキスト・教材		藤田 玲子（2019）“English for Tourism Professionals” センゲージ・ラーニング 授業資料（プリント等）を適宜配布する。							
参考書		授業に沿って海外のガイドブックなど適宜紹介する。							
評価の基準と方法		試験又は中間・期末課題の成績（40％）、英語レポート・授業内の課題、プレゼンテーション（40％）授業への積極性・態度（20％）の総合評価。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△	◎					
関連科目									
その他		積極的に英語に触れるように心掛ける。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		27 年間にわたり外資系航空会社にて、マーケティング及び客室乗務部のスーパーバイザーとしての実務経験と旅行会社で添乗員としての経験あり。航空会社や観光産業で使用される観光英語について、専門用語を交え社員に必要とされる英語力についての講義をする。							

科目分類	120-330-22	授業コード	FE1140
科目名称	観光のフランス語	単位数	1.0 単位
英文名称	French for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	米金 孝雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00	研究室	10-711
授業概要	フランスやフランス語圏を旅行(観光)したシチュエーションを想定し、必要な語彙や表現を修得するとともに、写真を参照しながら主にパリの観光地を巡り、文化的教養を身につける。		
到達目標	フランス（フランス語圏）への旅行会話に必要な基礎的なフランス語の表現や発音を修得する。同時に、基本的なフランス文化にも触れる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習 : フランス語、フランス文化について簡単に調べておく 授業 : 自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など 復習 : アルファベの復習	
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習 : 自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 1 授業 : 特有の音、アルファベット、フランス(パリ)を知る、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ (テキスト 10-17 頁) 復習 : 基本的なフランス語表現、アルファベの復習	
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習 : レッスン 1 の音声を聞くこと 授業 : 綴り字と発音の仕方①、挨拶の仕方、名前を言う (16-19 頁) 復習 : 音のルール、挨拶、数字、略語	
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習 : レッスン 2 の音声を聴くこと 授業 : パン屋での表現、買い物店スト、綴り字と発音の仕方、定冠詞・不定冠詞、男性形と女性形、定時の表現 (20-22 頁) (ペアワーク) 復習 : パン屋での表現、挨拶の仕方、定時の表現	
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習 : レッスン 3 の音声を聴くこと 授業 : インフォメーションで、タクシーで、国籍、職業、私は?です(avoir 動詞、Etre 動詞)、数字 (23-25 頁) (ペアワーク) 復習 : 職業名詞、国籍、avoir、Etre	
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習 : レッスン 3,4 の音声を聴くこと 授業 : 主語人称代名詞、自己紹介の仕方、身体の状態をいう、年齢を尋ねる、値段を尋ねる、エッフェル塔と凱旋門、 好みの表現 (26~28 頁) (ペアワーク) 復習 : 自己紹介、対話練習、国籍、職業、年齢、身体の状態	
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習 : レッスン 4,5 の音声を聴くこと 授業 : ER 動詞、都市名、言語、好き嫌いの表現、国籍、職業、年齢、身体の状態 (29~31 頁) (ペアワーク) 復習 : 質問の仕方と答え	
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習 : レッスン 5 の音声を聴くこと 授業 : マルシェでの表現、数えられない名詞と部分冠詞。ER 動詞の変則系、否定表現、il y a? (32~35 頁) (ペアワーク) 復習 : 複数形、否定文、冠詞の確認	
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習 : レッスン 6 の音声を聴くこと 授業 : パリの美術館、形容詞、支持形容詞、所有形容詞、家族、C'est? (36-38 頁) (ペアワーク) 復習 : 色の形容詞、国の形容詞	

10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習 : レッスン 7 の音声を聴くこと 授業 : 映画やカフェに誘う、行く・来るの表現、前置詞と定冠詞の縮約、どの表現、近接未来・近接過去、人称代名 詞強勢形 (40-42 頁) 復習 : 近接未来、近接過去、en + 乗り物、対話練習						
11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習 : レッスン 8 の音声を聴くこと 授業 : カフェやレストランで注文する、疑問代名詞、疑問副詞、不規則動詞 (44~47 頁) (ペアワーク) 復習 : メニューの読み方、注文の仕方、疑問文の作り方、不規則動詞						
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習 : レッスン 9 の音声を聴くこと 授業 : 時間を尋ねる、天候の表現、四季や週を言う、Ir 動詞、疑問形容詞、非人称構文 (48~51 頁) (ペアワーク) 復習 : 天候、季節、時間の表現						
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習 : レッスン 10 の音声を聴く 授業 : 買い物での表現、vouloir, pouvoir, savoir, devoir 動詞、形容詞と副詞の比較級(52~55 頁) (ペアワーク) 復習 : 買い物での表現、語彙を確認						
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習 : レッスン 11 の音声を聴く 授業 : 道を尋ねる (56~57 頁) 、connaître 動詞 (ペアワーク) 復習 : 道を尋ねる表現、動詞の活用						
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習 : レッスン 12 の音声を聴く 授業 : 過去形と時の表現、er,ir,re 動詞 (60-61 頁) (ペアワーク) 復習 : 過去形と時の表現、授業内容全体(Lecon1~lecon15)の復習と確認						
授業開始前学習		前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること						
授業内課題のフィードバックの方法		課題(レポート・練習問題・小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く						
テキスト・教材		navi.fr (なびふらんせ 1-パリをめぐる-) 朝日出版社						
参考書		適宜、授業内で資料を配布する。						
評価の基準と方法		【配点】: 提出課題・レポート・小テスト 80 点、平常点(授業態度)20 点						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目	フランス語 海外観光資源研究 A (ヨーロッパ 1) 言葉と心理							
その他	注意事項 : フランス語履修者が望ましいが、フランス旅行・フランス文化に興味がある学生も歓迎する。 (前期 15 回の授業ではあるが、相当数の語彙や表現を修得する予定である。積極的な授業参加を期待する) 予習・復習を怠らないこと							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-330-22		授業コード	FE1150	
科目名称	観光のドイツ語		単位数	1.0 単位	
英文名称	German for Tourism		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	山中 慎太郎		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	山中 慎太郎		開講時期	2 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	ドイツおよびドイツ語圏の国々を観光する際、ドイツ語そして文化、歴史、習慣についての知識があれば、その旅はより意義深いものとなります。この授業ではドイツ語文化圏についての理解を深めながら、観光をメインテーマとしたドイツ語表現を学びます。旅先での場面を想定したドイツ語の表現に触れつつ、多様な角度からドイツという国についての知識を身につけます。ドイツ語については「ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語Ⅱ」の授業を既習、または同時並行で受講していることが望ましいですが、未習の方でも授業を通じてドイツ語の知識を少しずつ増やしてゆくことが出来るような時間にしていきたいと考えています。				
到達目標	ドイツ語圏を観光するための会話表現を習得する（挨拶、飲食店でのやりとり、交通機関へのアクセス、宿泊先で用いる表現など）。ドイツ語の音に親しみ、旅先でよく耳にする言葉、表現について聞き取ることができるようになる。観光そしてドイツ語話者との交流のための文化的知識を修得し、ドイツへの興味関心を広げる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	山中 慎太郎	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認。 授業：イントロダクション、発表担当者・スケジュールの調整 「ドイツについて考えるために」 復習：授業内で扱った資料の確認			
2	山中 慎太郎	【第 2 回】 予習：ドイツで観光してみたい都市を考える 授業：ドイツ語のアルファベット、挨拶の表現 テーマ「首都ベルリン ベルリンからドイツを知る」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習			
3	山中 慎太郎	【第 3 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：数字と時間、疑問詞を用いた表現 テーマ「ドイツの自然と様々なドイツの都市：ハンブルク、フランクフルト、ケルン、デュッセルドルフ、ミュンヘン、ドレスデン、ライプツィヒ」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習			
4	山中 慎太郎	【第 4 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：「～に行きたいです。」移動のためのドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツのファッション、モード」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習			
5	山中 慎太郎	【第 5 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：「これはなんですか？」マーケットでのドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツ映画 ドイツの映画文化と映像作家」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備			
6	山中 慎太郎	【第 6 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：「～をください。」スーパーやパン屋、カフェでのドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツと食」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習			
7	山中 慎太郎	【第 7 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：「チケット売り場はどこですか？」博物館、劇場でのドイツ語、グループワーク テーマ「博物館、美術館、図書館、劇場、オペラハウス、ドイツの文化施設」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備			
8	山中 慎太郎	【第 8 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：「予約してあります」ホテルでのドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツにおける移民と亡命」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習			
9	山中 慎太郎	【第 9 回】 予習：前回の授業での配布プリントを確認 授業：「あなたは何を学んでいますか？」大学生のためのドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツの教育制度、ドイツの大学」 復習：授業内で扱った資料の確認、会話の練習			

10	山中 慎太郎	【第 10 回】 予習 : 前回の授業での配布プリントを確認 授業 : 「～が好きです」好みを伝えるドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツの文学」 復習 : 授業内で扱った資料の確認、会話の練習						
11	山中 慎太郎	【第 11 回】 予習 : 前回の授業での配布プリントを確認 授業 : 「体調が悪いです」緊急時のドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「音楽祭、German-Pop、ドイツの音楽」 復習 : 授業内で扱った資料の確認、会話の練習						
12	山中 慎太郎	【第 12 回】 予習 : 前回の授業での配布プリントを確認 授業 : 「どうして、どうやって？」理由・方法を尋ねるドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツの政治と市民 ネオナチ・環境アクティビズム・ガザ etc」 復習 : 授業内で扱った資料の確認、会話の練習						
13	山中 慎太郎	【第 13 回】 予習 : 前回の授業での配布プリントを確認 授業 : 「日本はどんな国？」日本を紹介するためのドイツ語、グループワーク 学生発表 テーマ「ドイツの美術」 復習 : 授業内で扱った資料の確認、会話の練習、確認小テストの準備						
14	山中 慎太郎	【第 14 回】 予習 : 第 1 4 回までに学んだ表現を復習。 授業 : 確認小テスト「ドイツで生きるための表現」 学生発表 テーマ「ドイツとジェンダー」 復習 : 小テストの振り返り、授業内で扱った資料の確認、会話の練習、発表の準備						
15	山中 慎太郎	【第 15 回】 予習 : 観光プランを作成する。 授業 : ロールプレイング:「～へ行きたいのですが」「～をください」「～を予約したいのですが」「～のチケットをください」 学生発表「わたしの観光プラン」 復習 : 授業内で扱った資料の確認、会話の練習						
授業開始前学習		皆さんはドイツに対してそれぞれに異なった興味・関心を抱いていることと思います。世界史で学習した神聖ローマ帝国とその崩壊、ドイツ帝国の誕生といった歴史の怒涛の展開、マルクスの思想から帝政、ナチス、東西分裂、「再統一」から現在にいたる政治状況、クラシックからテクノまで幅広い音楽ジャンルが混在し、デューラーからカスパー・ダーヴィド・フリードリヒのような古典的絵画、ベルリンを中心とした現代アート、市民運動や環境問題、フェミニズム、ジェンダー、ファッション、食文化、映画、ジャーナリズム、そして文学とキーワードをあげるとキリがありませんが、ドイツを考える際の自分なりの手がかりを見つけ、授業に結びつけてほしいと思っています。たとえば SNS で「Berlin」と検索するだけでもそこを訪れた人々やそこに住んでいる人々の様子がありありと伝わってくると思いますが、好奇心旺盛な皆さんにはぜひとも刺激的でより充実した情報を手にしてほしいと思います。その意味で、〈宮田眞治ほか編著「ドイツ文化 55 のキーワード」(ミネルヴァ書房) 2015〉を参考図書として推薦しておきます。						
授業内課題のフィードバックの方法		提出課題については、採点、評価等終了次第、随時返却する。 発表課題については授業の出席者全体の意見や質問を募ったうえで、その場で全体的なフィードバックを行う。						
テキスト・教材		随時プリントを配布。初回授業時に発表テーマごとに推薦図書一覧を配布予定。 また映像、音声、写真や現地のパンフレットなどを資料として使用する。						
参考書		上記のごとく、参考図書として〈宮田眞治ほか編著「ドイツ文化 55 のキーワード」(ミネルヴァ書房) 2015〉を挙げておく。						
評価の基準と方法		平常点(授業態度・提出課題) 40%、確認小テスト 20%、発表課題 40%で評価を行う。なお発表課題を行うことができなかった場合、別途レポートの提出を求める。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎					○
関連科目	ドイツ語							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-330-22	授業コード	FE1160
科目名称	観光のスペイン語	単位数	1.0 単位
英文名称	Spanish for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	木下 令子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	木下 令子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	スペイン語圏を旅行するとき、また日本で観光をするスペイン語圏の人々と出会ったとき、スペイン語で会話ができれば楽しさが倍増します。この授業では観光の様々な場面で使えるスペイン語の表現を学びます。授業ではロールプレイを多く取り入れ、コミュニケーション能力を養います。		
到達目標	スペイン語の音声に慣れて、観光の場面で使われる表現を聴き取り、積極的に発話できるようになることを目標とします。目標達成のために必要な最低限の文法事項を理解し、語彙を習得します。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	木下 令子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読む。スペイン語がどの国で話されているか調べてみる。 授業 : 1 課 オリエンテーション、アルファベット、挨拶 (ペア・ワーク) 復習 : 1 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
2	木下 令子	【第 2 回】 予習 : 2 課に目を通す。 授業 : 2 課 飲み物を注文しよう (ペア・ワーク) 復習 : 2 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
3	木下 令子	【第 3 回】 予習 : 3 課に目を通す。 授業 : 3 課 自己紹介しよう (ペア・ワーク) 復習 : 3 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
4	木下 令子	【第 4 回】 予習 : 4 課に目を通す。 授業 : 4 課 場所を訪ねよう、料理の感想を言おう (ペア・ワーク) 復習 : 4 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
5	木下 令子	【第 5 回】 予習 : 5 課に目を通す。 授業 : 5 課 コンサートに誘おう (ペア・ワーク) 復習 : 5 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
6	木下 令子	【第 6 回】 予習 : 6 課に目を通す。 授業 : 6 課 空港案内所で (ペア・ワーク) 復習 : 6 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
7	木下 令子	【第 7 回】 予習 : 7 課に目を通す。 授業 : 7 課 ホテルでチェックイン (ペア・ワーク) 復習 : 7 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
8	木下 令子	【第 8 回】 予習 : 1 課から 7 課まで復習する。 授業 : 8 課 「復習しましょう(1)」1 課～7 課を復習し、復習テストを行う。(ペア・ワーク) 復習 : 8 課を復習する。	
9	木下 令子	【第 9 回】 予習 : 9 課に目を通す。 授業 : 9 課 バルで (ペア・ワーク) 復習 : 9 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
10	木下 令子	【第 10 回】 予習 : 10 課に目を通す。 授業 : 10 課 バルやお店で (ペア・ワーク) 復習 : 10 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	
11	木下 令子	【第 11 回】 予習 : 11 課に目を通す。 授業 : 11 課 レストランで (ペア・ワーク) 復習 : 11 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。	

12	木下 令子	【第 12 回】 予習 : 12 課に目を通す。 授業 : 12 課 買い物しよう (ペア・ワーク) 復習 : 12 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。							
13	木下 令子	【第 13 回】 予習 : 13 課に目を通す。 授業 : 13 課 美術館に行こう (ペア・ワーク) 復習 : 13 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。							
14	木下 令子	【第 14 回】 予習 : 14 課に目を通す。 授業 : 14 課 駅で訪ねよう、切符を買おう (ペア・ワーク) 復習 : 14 課で学習した会話を音読する。「今週のキーフレーズ」を暗記する。							
15	木下 令子	【第 15 回】 予習 : 15 課に目を通す。 授業 : 15 課 「復習しましょう(2)」9 課～14 課を復習し、復習テストを行う。 (ペア・ワーク) 復習 : 15 課の復習。							
授業開始前学習		スペイン語がどの国で話されているか調べましょう。行ってみたい国や地域を探してみましょう。テレビのスペイン語講座を視聴してみてください。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回授業後に課題を出してもらい、翌週の授業でフィードバックします。							
テキスト・教材		適宜、授業内にてプリントを配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業への積極的参加と授業後提出する課題 80%、復習テスト課題(2 回)20%の総合評価。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	◎					○
関連科目									
その他		会話の授業なので、授業に積極的に参加することが重要です。恥ずかしがらずに大きな声で発音しましょう。また、興味のある国や地域について調べてみましょう。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-330-22	授業コード	FE1170
科目名称	観光の中国語	単位数	1.0 単位
英文名称	Chinese for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	保坂 律子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂 律子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00	研究室	10-709
授業概要	観光の中国語入門科目であり、中国語の基礎について学ぶ。将来、日本人のみならず、中国語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。特に同じアジア圏であり、近隣国であるため、本科目を通して簡単な会話ができるようスキルを身につける。今世紀に入り、観光地のみならず、駅で、飲食店で、デパートで多くの中国人を見かけるようになり、街を歩けば至る所で中国語が耳に入ってくる。本授業では中国語の使用場面を日本国内に想定し、中国語圏からの旅行者に対し、日本の観光スポット、地下鉄、人気商品などを簡単な中国語で紹介し、コミュニケーションの一助となるような中国語を学ぶ		
到達目標	初対面の中国人と中国語で簡単な挨拶ができ、日本での買い物や観光スポット、交通手段を説明するのに必要なキーワードを中国語で説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習：テキスト 1 頁～13 頁の講読 授業：発音第 1 課（テキスト 14 頁～19 頁）、4 つの声調、単母音、複母音、練習問題（ペアワーク） 復習：声調、単母音、複母音の発音練習	
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習：テキスト 20 頁～25 頁の講読 授業：発音第 2 課（テキスト 20 頁～25 頁）、声母表、無気音、有気音、そり舌音（ペアワーク） 復習：声母、無気音、有気音、そり舌音の発音練習	
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習：テキスト 26 頁～31 頁の講読 授業：発音第 3 課（テキスト 26 頁～31 頁）鼻音を伴う母音、e のバリエーション、同じ i でも異なる音（ペアワーク） 復習：鼻音を伴う母音の発音練習	
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習：テキスト 32 頁～41 頁の講読 授業：発音第 4 課（テキスト 32 頁～41 頁）声調変化、軽音、声調の組み合わせ、隔音記号（ペアワーク） 復習：声調変化の発音練習	
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習：テキスト 42 頁～47 頁の講読 授業：第 5 課 日本到着～成田空港（人称代名詞、「～は～です」、「～の」、動詞述語文）（ペアワーク） 復習：第 5 課の音読、練習問題	
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習：テキスト 48 頁～53 頁の講読 授業：第 6 課 ホテルチェックイン（「～したい」、名前の言い方、動詞「ある、いる」、中国語の「こそあど」（ペアワーク） 復習：第 6 課の音読、練習問題	
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習：テキスト 54 頁～59 頁の講読 授業：第 7 課 夜景が綺麗（疑問詞の“多”、数の数え方、「～したことがある」、形容詞述語文）（ペアワーク） 復習：第 7 課の音読、練習問題	
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習：テキスト 60 頁～67 頁の講読 授業：第 8 課 電車で（連動文、量詞、有”、時間量の言い方）（ペアワーク） 復習：第 8 課の音読、練習問題	
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習：教科書 67 頁までの単語、構文の復習 授業：中間テスト、第 9 課 化粧品売り場で（疑問詞、中国のお金の単位、“二”と“両”） 復習：小テストの解き直し	

10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 : テキスト 74 頁～79 頁の講読 授業 : 第 10 課 花火大会 (年月日、曜日の言い方、「どうして～?」、年齢の言い方) (ペアワーク) 復習 : 第 10 課の音読、練習問題							
11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : テキスト 80 頁～85 頁の講読 授業 : 第 11 課 日本の雑貨 (「～も」、実現の言い方、2 つの否定方式、前置詞「～で」) (ペアワーク) 復習 : 第 11 課の音読、練習問題							
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : テキスト 86 頁～93 頁の講読 授業 : 第 12 課 おいしい和牛をどうぞ (時刻の言い方、完了の言い方、反復疑問文、動詞の重ね型) (ペアワーク) 復習 : 第 12 課の音読、練習問題							
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : テキスト 94 頁～99 頁の講読 授業 : 第 13 課 日本人の人気デザート (進行の表し方、選択疑問文、「～が好き」) (ペアワーク) 復習 : 第 13 課の音読、練習問題							
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : テキスト 100 頁～105 頁の講読 授業 : 第 14 課 着物体験 (持続の表現、方位詞、「～できる」の表し方 3 種) (ペアワーク) 復習 : 第 14 課の音読、練習問題							
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : テキスト 106 頁～105 頁の講読 授業 : 第 15 課 温泉に入る (結果補語、方向補語、「～しなければならない」) 復習 : 単語、重要構文の確認							
授業開始前学習		中国に関するニュースに注意を払うように心がける。身近にみられる中国語表記に注意を払うようにする。街で中国語圏からの観光客をみかけたら、思い切って声をかけてみる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に実施する中間テストは返却時に全体の講評を行い、弱点補強とステップアップのための復習ポイントを提示する。							
テキスト・教材		『ニーハオ！ニッポン ふりむけば中国語』(朝日出版社)							
参考書		辞書も含め授業内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法		中間テスト 40% 小テスト 30% 平常点 30% (課題提出・授業態度)							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	◎					○
関連科目		海外観光資源研究 D (アジア 2)							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	120-330-22	授業コード	FE1180
科目名称	観光の韓国語	単位数	1.0 単位
英文名称	Korean for Tourism	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	近年、様々な韓国ドラマや映画、音楽などの影響で、韓国は日本人にとってより身近な存在となった。実際に近隣諸国である韓国に多くの日本人が観光をする機会が増えており、韓国人が日本に観光客として訪れる機会も増えている。本講では、上記のような背景を踏まえながら、韓国語の基礎であるハングルの仕組みを理解した上で、「観光」の場面を想定した「観光の韓国語」について学ぶ。さらにドラマ、映画、音楽などの映像資料を活用しながら総合的には韓国文化について理解力を高める。		
到達目標	①ハングルの仕組みについて理解でき、簡単な韓国語の会話ができる。 ②韓国語で自己紹介ができる。 ③「観光客側」と「観光産業の従業員側」に想定される会話を、韓国語でマスターする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : オリエンテーション、韓国語、韓国に関する全体概要 復習 : 授業の方針を確認する。	
2	張 景泰	【第 2 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 簡単な韓国語、ハングルの仕組み 復習 : 【第 2 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
3	張 景泰	【第 3 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国語の子音、母音について 復習 : 【第 3 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
4	張 景泰	【第 4 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国語のバッチムについて、韓国語のあいさつ・基本フレーズ 復習 : 【第 4 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
5	張 景泰	【第 5 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国語の基本文章、K-POP の紹介① 復習 : 【第 5 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
6	張 景泰	【第 6 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国語の疑問文、否定文、助詞、K-POP の紹介② 復習 : 【第 6 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
7	張 景泰	【第 7 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国語で自己紹介①（グループ・ディスカッション、発表） 復習 : 【第 7 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
8	張 景泰	【第 8 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 韓国語で自己紹介②（グループ・ディスカッション、発表） 復習 : 【第 8 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
9	張 景泰	【第 9 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 空港で使う韓国語 復習 : 【第 9 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
10	張 景泰	【第 10 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 交通で使う韓国語 復習 : 【第 10 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	
11	張 景泰	【第 11 回】 予習 : 事前配布のレジュメで予習する。 授業 : 宿泊で使う韓国語 復習 : 【第 11 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。	

12	張 景泰	【第 12 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：ショッピングで使う韓国語 復習：【第 12 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
13	張 景泰	【第 13 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：観光で使う韓国語 復習：【第 13 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
14	張 景泰	【第 14 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：その他の観光場面で使う韓国語 復習：【第 14 回】授業の配布プリントの整理、講義内容をノートにまとめる。							
15	張 景泰	【第 15 回】 予習：事前配布のレジュメで予習する。 授業：：学習内容の総括、観光の韓国語の個人口頭テスト（グループ・ディスカッション、発表） 復習：授業の全体概要を確認する。							
授業開始前学習		韓国語関連資料や韓国文化に関する書籍を出来るだけ多く読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		韓国語に関するミニテストを行い、その結果について教員によるフィードバックをする。また、グループワークショップについては、1 週後に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		駒沢女子大学の自前教科書シリーズ「観光の韓国語」 その他、適宜プリントを配布します。							
参考書		授業中に適宜参考書籍を紹介する。							
評価の基準と方法		授業レポート 70 点(各回 5 点×14 回)、中間発表・期末発表 30 点、合計 100 点で評価する。 なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△		◎					○
関連科目									
その他		質問、相談等がある時は、授業の前後に研究室に来ること							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

観光サービスの英語Ⅰ／ホスピタリティ英語Ⅰ

科目分類	120-330-22			授業コード	FE1200
科目名称	観光サービスの英語Ⅰ／ホスピタリティ英語Ⅰ			単位数	1.0 単位
英文名称	Hospitality EnglishⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	万木 男也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	万木 男也			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	ホスピタリティ産業の現場で役に立つ英語、特にお客様に対して好印象を与える話し方や、丁寧な接客マナーを基本とした表現方法について学ぶ。 この授業では、リスニング能力とスピーキング能力の向上に有効とされているシャドウイング、暗唱、ディクテーションを中心に進める。 クラスメイトとのスキット・ロールプレイなどを通し、エアラインやホテル等のホスピタリティ関連の職場で役立つ英語表現や言い回しの基礎を身につける。				
到達目標	ホスピタリティ関連業界の現場で実際に使用する英語表現について学び、慣れ親しむことにより、リスニング、スピーキング能力を高め、英語で丁寧な接客対応が行える基礎力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	万木 男也	【第 1 回】 予習：事前にシラバスを読み授業の流れを把握する これまでの英語学習について振り返る 授業：オリエンテーション 授業の進め方について 復習：授業で練習した会話文の一部を暗記			
2	万木 男也	【第 2 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・ルーティン対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
3	万木 男也	【第 3 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・ルーティン対応後半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
4	万木 男也	【第 4 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルチェックアウト・ルーティン対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
5	万木 男也	【第 5 回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ホテルチェックアウト・ルーティン対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
6	万木 男也	【第 6 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レストラン・バー ルーティン対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
7	万木 男也	【第 7 回】 予習： 前半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる			
8	万木 男也	【第 8 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ゲストサービス対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
9	万木 男也	【第 9 回】 予習：前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：ゲストサービス対応後半 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱			
10	万木 男也	【第 10 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レザベーション・ルーティン対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱			

11	万木 男也	【第 11 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： パッケージツアー参加者への対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
12	万木 男也	【第 12 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン リカー、ミールサービス対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
13	万木 男也	【第 13 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン 免税品販売対応対応 復習：授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
14	万木 男也	【第 14 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン お客様へのアナウンス対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
15	万木 男也	【第 15 回】 予習： 前期授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる						
授業開始前学習		前回の授業で学んだスキットの暗記						
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に実施する小テスト、課題スキットのプレゼンテーションに対して随時講評を行い、個別の質問に回答する						
テキスト・教材		『ホテルの接客英会話』（三修社）＋ 授業中に適宜配布する						
参考書		授業中に適宜紹介する						
評価の基準と方法		平常点 40% （授業への取組姿勢、小テスト） 定期課題スキットのプレゼンテーション 及び テスト 60%						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		△			○
関連科目								
その他	出席を重視する・全授業数の 1/ 3 以上欠席した場合は単位取得不可。 授業開始後 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

観光サービスの英語Ⅱ／ホスピタリティ英語Ⅱ

科目分類	120-330-22	授業コード	FE1210
科目名称	観光サービスの英語Ⅱ／ホスピタリティ英語Ⅱ	単位数	1.0 単位
英文名称	Travel Service English Ⅱ／Hospitality English Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	万木 男也	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	万木 男也	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	ホスピタリティ産業の現場で役に立つ英語、特にお客様に好印象を与える話し方や丁寧な接客マナーを基本とした表現方法について学ぶ。 この授業では、リスニング能力とスピーキング能力の向上に有効とされているシャドウイング、暗唱、ディクテーションを中心に進める。 クラスメイトとのスキット・ロールプレイなどを通し、エアラインやホテル等のホスピタリティ関連の職場で実際に役立つ英語表現の基礎および応用力を身につける。		
到達目標	ホスピタリティ関連業界の現場で実際に使用する英語表現について学び、慣れ親しむことにより、リスニング、スピーキング能力を高め、イレギュラー対応も含めた英語での丁寧な接客対応が行える応用力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	万木 男也	【第 1 回】 予習：事前にシラバスを読み授業の流れを把握する これまでの英語学習について振り返る 授業：オリエンテーション 授業の進め方について 復習：授業で練習した会話文の一部を暗記	
2	万木 男也	【第 2 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・イレギュラー対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
3	万木 男也	【第 3 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルフロント・チェックイン・イレギュラー対応後半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
4	万木 男也	【第 4 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ホテルチェックアウト・イレギュラー対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
5	万木 男也	【第 5 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レザベーション・断り方、イレギュラー対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
6	万木 男也	【第 6 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： レストラン・バー イレギュラー対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
7	万木 男也	【第 7 回】 予習： 前半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる	
8	万木 男也	【第 8 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ルームサービスオーダー対応前半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
9	万木 男也	【第 9 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ルームサービスオーダー対応後半 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	
10	万木 男也	【第 10 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： ゲスト対応・病人対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱	

11	万木 男也	【第 11 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン お客様へのサポート 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
12	万木 男也	【第 12 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン 入国案内対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
13	万木 男也	【第 13 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業：エアライン お客様との Spot Conversation 対応 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
14	万木 男也	【第 14 回】 予習： 前回の授業で学んだ表現、会話文の中から授業中に指示のあった文を暗記 授業： エアライン その他（Pattern practice） 重要文型の応用練習 復習： 授業で学んだ表現、会話文を暗唱						
15	万木 男也	【第 15 回】 予習： 後半の授業で学んだ内容について振り返り、課題スキットを暗記 授業： 課題スキットのプレゼンテーション 復習： フィードバックで指摘されたポイントを再確認し、今後の対策を立てる						
授業開始前学習		前回の授業で学んだスキットの暗記						
授業内課題のフィードバックの方法		授業中に実施する小テスト、課題スキットプレゼンテーションに対して随時講評を行い、個別の質問に回答する						
テキスト・教材		『ホテルの接客英会話』（三修社）＋ 授業中に適宜配布する						
参考書		授業中に適宜配布する						
評価の基準と方法		平常点 40% （授業への取組姿勢、小テスト） 定期課題スキットのプレゼンテーション 及び テスト 60%						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を 수용することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			◎		△			○
関連科目								
その他	ホスピタリティ英語 I を受講済みである事が望ましい。 出席を重視する・全授業数の 1/3 以上欠席した場合は単位取得不可。 授業開始後 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-310-23 (J)	授業コード	FE1411
科目名称	観光文化ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-613
授業概要	世の中には数々のメディアがあります。観光分野でも各観光地ではメディアを通して、その魅力を外部に伝えようとしています。しかしまとまった量の文章や写真を発表することは簡単ではありません。文章力や撮影力のもとより、それらを編集して世に出す技術や手法が必要です。 このゼミでは基本的な「編集」を学びます。加えて、ものづくりにおける「デザイン思考」の基本を学び、「編集」+「デザイン思考」という考え方をガイドブック制作に活かすことを目的とします。その中で観光メディアを考察し、この1年間は旅行ガイドブックをつくる技術と手法、つまり、企画・取材・原稿執筆・編集・デザイン・DTPを学び、最終的にグループにわかれてガイドブックを制作・発表します。 また、コミュニケーションの基本を学び、インタビューの方法なども学びます。		
到達目標	1) 雑誌という媒体の歴史と特性を知る。2) 雑誌としての文章の書き方、デザイン、レイアウトの基本を学ぶ。3) 「デザイン思考」の基礎を学ぶ 4) 雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。5) 想像力と創造力、企画力をつけていく。6) 毎回の発表を通して、発表力をつけていく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田代 真人	【第1回】 予習：自分が接しているメディア（テレビ・新聞・ラジオ・ネット・携帯）の頻度、時間を整理しておく。 授業：全般のガイダンスと学生全般のメディアへの接触度調査を元にして現在のメディアの状況を知る。 復習：いろいろなメディアにまんべんなく目を通す。	
2	田代 真人	【第2回】 予習：自己分析・自己紹介の準備をする。 授業：自己分析・自己紹介 復習：授業で行った自己分析・自己紹介を振り返り、再分析する。	
3	田代 真人	【第3回】 予習：いろいろな雑誌を見ておく 授業：雑誌を取り巻く現状を知る（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな雑誌を見える	
4	田代 真人	【第4回】 予習：いろいろな雑誌を見ておく 授業：一般的旅行雑誌やガイドブックの構成について、どのような内容から構成されているか（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな雑誌を見える	
5	田代 真人	【第5回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックのページ構成を見える 授業：台割の意味と役割、その作り方 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見える	
6	田代 真人	【第6回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：雑誌における広告の役割について（グループ・ディスカッション） 復習：就活の方法、意義などを再認識	
7	田代 真人	【第7回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックのなかの広告を見える 授業：雑誌企画の要素と企画の立て方・集め方（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックの広告を見える	
8	田代 真人	【第8回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見える 授業：雑誌制作に必要な役割（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見える	
9	田代 真人	【第9回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見える 授業：就職関連合同ゼミ① 復習：授業をうけたあとで改めていろいろな旅行雑誌やガイドブックを見える	

10	田代 真人	【第 10 回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：メディアによって異なる文章・文体を学ぶ 復習：授業をうけたあとで改めているいろいろな旅行雑誌やガイドブックを見ている
11	田代 真人	【第 11 回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：写真についての良し悪しと撮り方を学ぶ（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めているいろいろな旅行雑誌やガイドブックを見ている
12	田代 真人	【第 12 回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：見開きのページデザインの要素を考える（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めているいろいろな旅行雑誌やガイドブックを見ている
13	田代 真人	【第 13 回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：雑誌を制作するソフトウェアとは 復習：授業をうけたあとで改めているいろいろな旅行雑誌やガイドブックを見ている
14	田代 真人	【第 14 回】 予習：いくつかの旅行雑誌やガイドブックを見ておく 授業：自分の制作したいガイドブックの企画を考えてみる（グループ・ディスカッション） 復習：授業をうけたあとで改めているいろいろな旅行雑誌やガイドブックを見ている
15	田代 真人	【第 15 回】 予習：いままでの授業を振り返っておく 授業：前期のまとめ 復習：改めて前期に学んだことを確認しておく ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。
授業開始前学習		世の中にあふれる雑誌やネットの情報を日々、注意深く観察しておきます。それらを通して、さまざまなことを自ら考え、自身の雑誌やガイドブックの制作に活かしていきましょう。
授業内課題のフィードバックの方法		授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。
テキスト・教材		指定しない
参考書		指定しない
評価の基準と方法		講義に対する積極性（50%）、各講義での提出レポート（40%）、最終レポート（10%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成
学修指針		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成
科目の該当		○
関連科目		「広告・メディア実務論」
その他		ゼミは 2 年間にわたりますが欠席することなく、積極的に参加してください。2 年間を通じて、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）
実務経験を活かした教育内容		担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサーなど実務を行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。

科目分類	120-310-23 （ J ）		授業コード	FE1412	
科目名称	観光文化ゼミⅠ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	杉野 知恵		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	杉野 知恵		開講時期	3 年	
オフィスアワー	－		研究室	10-713	
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな土地勘を身に付けること、各ゼミ生が研究テーマを発掘・発展させることを目的とする。				
到達目標	①今後専門ゼミで取り組む研究テーマを見つける。 ②観光や文化の観点から、新聞やニュースを読む習慣が身につく。 ③知らない場所を地図で探す習慣が身につく。 ④日本語でのプレゼンテーションに慣れる。 ⑤質疑への応答ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	杉野 知恵	【第 1 回】 予習：自分の関心事項（研究テーマの方向性）をゼミで説明できるように準備する。 授業：ゼミのテーマ・目標・進め方 復習：自己分析に基づき 1 年間の目標を定め、前期と後期に達成すべきことを考える。			
2	杉野 知恵	【第 2 回】 予習：世界地図や地球儀を見て、どこにどんな国があるか調べる。 授業：研究テーマの発掘方法（概論）／世界地図を見る 復習：授業で紹介した国の位置を確認する。			
3	杉野 知恵	【第 3 回】 予習：配布資料を読む。 授業：メディアの活用法・情報の集め方/大学生として身につけるべき国際教養 復習：授業内での議論や自分の関心を踏まえ、研究テーマの方向性を考える。			
4	杉野 知恵	【第 4 回】 予習：配布資料を読む。 授業：情報のまとめ方とプレゼンテーション 復習：教員のフィードバックを踏まえ、研究テーマの方向性を再考する。			
5	杉野 知恵	【第 5 回】 予習：配布資料を読む。 授業：テーマ発掘のためのブレインストーミング①大まかな方向性を定める 復習：授業内での議論や自分の関心を踏まえ、研究テーマの方向性を考える。			
6	杉野 知恵	【第 6 回】 予習：配布資料を読む。 授業：テーマ発掘のためのブレインストーミング②「問い」を立てる 復習：授業内の議論を振り返り「問い」が適切かどうか考える。			
7	杉野 知恵	【第 7 回】 予習：「問い」についてインターネットで検索する。 授業：テーマ発掘のためのブレインストーミング③情報・文献の収集 復習：「問い」に答えるにはさらにどのようなデータが必要か考える。			
8	杉野 知恵	【第 8 回】 予習：発表の準備をする。 授業：テーマの発表（プレゼンテーション） 復習：フィードバックを振り返り、発表内容を改善する（課題①）。			
9	杉野 知恵	【第 9 回】 予習：配布資料を読む。 授業：プチ論文とは 復習：期末課題の提出に向けて準備をする。			
10	杉野 知恵	【第 10 回】 予習：配布資料を読む。 授業：論文の構成 復習：授業で読んだ論文を読み直す。			
11	杉野 知恵	【第 11 回】 予習：配布資料を読む。 授業：論文執筆のルール			

		復習：自分の論文がルールに則っているか確認する。							
12	杉野 知恵	【第 12 回】 予習：論文の構成を考えておく。 授業：プチ論文を書く①構成 復習：論文の構成を見直す。							
13	杉野 知恵	【第 13 回】 予習：構成案に基づき具体的に何を書くか考える。 授業：プチ論文を書く②執筆 復習：執筆した文章が執筆ルールに則っているか確認する。							
14	杉野 知恵	【第 14 回】 予習：研究テーマについての発表の準備をする。 授業：研究テーマについてのプレゼンテーション 復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。（課題②）							
15	杉野 知恵	【第 15 回】 予習：研究テーマについてどのような調査が必要か考える。 授業：後期に向けてやるべきことの精査 復習：前期の目標の達成状況を確認し、後期の研究計画を立てる。							
授業開始前学習		①授業の内外で新聞や資料（英語のものを含む）をよく読むため、普段から「読む」習慣をつけておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題①、②ともに、発表後の講評に加え、翌週以降に個別にコメントを付して返却します。							
テキスト・教材		授業の中で指示する他、プリントなどを配布する。							
参考書		個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。 地図や地図アプリ（どのようなものでも構わない）を必要に応じ参照できるよう準備しておいてください。							
評価の基準と方法		研究テーマへの取り組み（プレゼンテーション：20%、課題①、②：各 20%、期末レポート：20%）（計 80%）、ゼミへの知的貢献（ゼミでの積極性を含む）（20%）などを総合的に判断する。 そのほか、ゼミで力を入れたこと「ゼミチカ」の自己申告とその内容に応じてボーナス加点を行う。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	△	
関連科目		異文化交流、異文化理解、グローバル共生論などは、グローバルなものの見方や国際教養の基礎になります。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		外務省職員として約 20 年の実務経験あり。バングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での勤務や出張・観光で様々な国・地域を訪問した経験を活かし、異文化コミュニケーションやグローバルな時代の生き方を中心に受講生が国際教養を身につけられるよう演習を行う。							

科目分類	120-310-23 （J）		授業コード	FE1415	
科目名称	観光文化ゼミⅠ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	鮫島 卓		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鮫島 卓		開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-606	
授業概要	前期は 3 つのこを行う。第 1 にイタリアに関する図書を用いて「輪読」を行う。輪読とは、専門書を読み、レジュメ作成、発表、議論を進めながら一人で読むよりも深い読解力を獲得できると同時に、読む力、調べる力、考える力、書く力、発表する力、議論する力など社会人に必要なコミュニケーション力の向上を図る学習法である。イタリアは南北に長い地形や長い歴史、多様な地域性など日本との共通点が以外にも多く、イタリアとの比較を通じて日本を相対化する観察眼を養う。 第 2 は、能登半島を対象とした震災復興支援を目的としたグループ研究である。被災地は風評被害によって観光客が減少してしまう問題がある。そこで前期には Z 世代を呼び込むための観光資源の調査や旅行プランを企画した上で、夏休みにフィールド調査（ゼミ合宿）を 3・4 年生合同で実施する。（4 年生は後期にガイドブックを制作する予定） 第 3 は、就職活動のための支援である。具体的には時事ニュースを取り上げ発表する「My News」と「OG トーク」を行う。My News とは、日本経済新聞の中で学生が最も関心のある記事について要点と考察を発表することであり、社会の仕組みについて知識を増やし、人前でのプレゼンテーション能力の向上させることを狙いとしている。また本学の OG がゲスト講師となって就職活動や仕事に関する授業がある。				
到達目標	① レジュメなど文書作成ができるようになる ③ 自分の考えを根拠をもって発言できるようになる ④ 異なるメンバーとチームで成果を出すチームワーク力を向上する				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：（演習）自己紹介・アイスブレイク《ディスカッション》 （講義）授業方針と計画 復習：授業レポートの提出			
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（講義）映画『ローマの休日』鑑賞《オンデマンド》 復習：授業レポートの提出			
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）自己紹介ワーク《グループワーク》 （演習）映画のふりかえり《ディスカッション》 （講義）輪読の目的と進め方 復習：授業レポートの提出（ふりかえり）			
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）輪読：第 1 章 南イタリア《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：輪読の準備をする 授業：（演習）輪読：第 2 章 中部イタリア《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：質問を考えておく 授業：（演習）輪読：第 3 章 北部イタリア《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：輪読の準備をする 授業：（演習）輪読：第 4 章 イタリアから日本を学ぶ《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（講義）My News 目的と方法 （演習）参加企業の予備調査と質問の仕方《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			

9	鮫島 卓	【第9回】 予習：輪読の準備をする 授業：（講義）合同ゼミ：就活 OG トーク《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
10	鮫島 卓	【第10回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（演習）My News① （演習）グループ研究：課題とミッション共有《グループワーク》 復習：授業レポートの提出						
11	鮫島 卓	【第11回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）My News② （演習）グループ研究：文献調査法《グループワーク》 復習：授業レポートの提出						
12	鮫島 卓	【第12回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）My News③ （演習）グループ研究：ファシリテーションの技法《グループワーク》 復習：授業レポートの提出						
13	鮫島 卓	【第13回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）My News④ （講義）グループ研究：プレゼンテーションの技法《グループワーク》 復習：授業レポートの提出						
14	鮫島 卓	【第14回】 予習：グループ研究を進める 授業：（演習）調査対象の観光資源発表 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
15	鮫島 卓	【第15回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News⑤⑥ （演習）前期のふりかえりと夏休みの抱負 復習：授業レポートの提出						
授業開始前学習		過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 鮫島研究室 HP						
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。						
テキスト・教材		鮫島卓『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ 陣内秀信（2010）『イタリアの街角から スローシティを歩く』弦書房 （購入すること）						
参考書		池上英洋（2010）『イタリア 24の都市の物語』光文社						
評価の基準と方法		映画鑑賞の発表（10点）、輪読のレジュメや発表（50点）、グループ研究（40点）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）はGoogle Classroomを使う。 ※夏休み期間中 9/11（水）～9/13（金）の2泊3日間で能登半島にて3・4年生合同のフィールド調査（ゼミ合宿）を実施する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「観光地のイノベーション」「アグリツーリズムの発展過程」「観光経験の教育的効果」である。							

科目分類	120-310-23	授業コード	FE1416
科目名称	観光文化ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅰ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	渡邊ゼミでは3つの力（1：ゼミ論やレポート、エントリーシートのように「文章によってアウトプットする力」、2 プレゼン発表などのように人前で、「言葉によってアウトプットする力」、そして、それら2種のアウトプットのための「正確な情報を適切にインプットする力」）にフォーカスし、これらの学びを通じて「問題を乗り越える力」の修得を目指します。仮に3年生4月の時点で、自分が将来やりたい事がわからなくても慌てる必要はありません。ゼミを通じて自分と向き合う時間を作るなかで、自信をつける経験を積み重ねます。学生がマイナスの思い込み（アンコンシャス・バイアス）から解放され、安定した精神状態で学び続けられるように「心理的安定性」を重視し、チーム研究の中で1人1人が自分に合った様々な可能性を探していきます。自身で未来を切り開く力を付けるための学生主体のゼミです。		
到達目標	従来のチョーク&トーク型の受講姿勢から脱却し、自ら主体的に考えて情報をインプットし、それを自分らしくアウトプットできるようになる事を目指します。発信型の姿勢を意識し、経済産業省が周知している「前に踏み出す力（働きかけ力、実行力）」「考え抜く力（課題発見力、計画力）」を身につける事が到達目標の1つです。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 光章	【第1回】 予習：自分がなりたい未来のイメージを思い浮かべる 授業：1年間の計画解説。チェックイン・ワークショップ（グループワーク） 復習：自身の苦手と得意について再確認	
2	渡邊 光章	【第2回】 予習：思い浮かべた未来のイメージを文字にしてみる 授業：PBL（問題解決型「Problem-based Learning」）とSBL（科目進行型「Subject Based Learning」）（グループワーク） 復習：PBLの再確認	
3	渡邊 光章	【第3回】 予習：自分がなりたい未来のイメージと現在の自分を比較してみる 授業：自己分析と自己啓発（グループワーク） 復習：ネット検索の操作に慣れる	
4	渡邊 光章	【第4回】 予習：調べた情報を大まかに分け分けてみる 授業：自身及び企業のSWOT分析による情報インプット（グループワーク） 復習：調べた内容の整理	
5	渡邊 光章	【第5回】 予習：調べた内容をセグメント化（細分化）してみる 授業：自身の適正と関心度の調査 復習：セグメントデータの整理	
6	渡邊 光章	【第6回】 予習：配布資料をよく読んでおく 授業：自身の適性から今後の学びについて考える 復習：学びの方法、意義などを再認識	
7	渡邊 光章	【第7回】 予習：自分の希望する方向性と相性をセグメント化してみる 授業：KJ法による自己分析 復習：セグメントデータの理解	
8	渡邊 光章	【第8回】 予習：自分の得意と苦手について考える 授業：KJ法データの整理（グループワーク） 復習：分析データを整理	
9	渡邊 光章	【第9回】 予習：関心のある企業について調べておく 授業：合同ゼミ 復習：合同ゼミの成果の整理	
10	渡邊 光章	【第10回】 予習：関心のある仕事について、ここで初めて考えてみる 授業：自分の長所と仕事との距離や相性を分析し、今学ぶべき必要なことを認識する	

		復習：自身の行動や思考の相性について整理する						
11	渡邊 光章	【第 11 回】 予習：関心のある業種や職種について調べてみよう 授業：日本の企業について行政のデータから学ぶ（グループワーク） 復習：自身の方向性について整理						
12	渡邊 光章	【第 12 回】 予習：チームで活動している自身を想像する 授業：チームによる調査と発表準備 1（グループワーク） 復習：コミュニケーションについて整理						
13	渡邊 光章	【第 13 回】 予習：チームで活躍している自身を想像する 授業：チームによる調査と発表準備 2（グループワーク） 復習：チーム活動について整理						
14	渡邊 光章	【第 14 回】 予習：発表に備え、必要な材料を用意する 授業：チームで調査データを発表 復習：発表データを整理						
15	渡邊 光章	【第 15 回】 予習：効果的な発表を考える 授業：発表とその補足、評価 復習：足りない点について考える（PDCA）						
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておくことと授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出で出席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。						
テキスト・教材		必要に応じて授業で適宜、配布する。						
参考書		必要に応じて授業で適宜、配布する。						
評価の基準と方法		授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	地域観光資源研究（前期）と、観光の PR とメディア（後期）を履修しておくことが望ましい。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業中に具体的な指示をする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-310-23 (J)			授業コード	FE1417
科目名称	観光文化ゼミⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-720
授業概要	本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 最初に「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、実習することで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。 また、都内および近郊の観光地域での現地調査を通じて観光地の見方を考える。 なお、夏休み期間中に 2 泊 3 日での観光地調査を、国内観光地域で実施する。				
到達目標	①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表ができるようになる。 ②観光マーケティングの基礎を習得する。 ③観光地域の現地調査を通して、課題を発見する力を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	本間 准	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : イントロダクション・自己紹介 復習 : 授業の方針を確認する			
2	本間 准	【第 2 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 基礎スキル : ロジカルシンキング 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく			
3	本間 准	【第 3 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 基礎スキル : ファシリテーション 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく			
4	本間 准	【第 4 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 観光マーケティングの基礎① 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく			
5	本間 准	【第 5 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 観光マーケティングの基礎② 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく			
6	本間 准	【第 6 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 観光マーケティングの基礎③ 復習 : 就活の方法、意義などを再認識			
7	本間 准	【第 7 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 観光マーケティングの基礎④ 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく			
8	本間 准	【第 8 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 観光マーケティングの基礎⑤ 復習 : 各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を開始			
9	本間 准	【第 9 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 就職関連合同ゼミ① 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく			
10	本間 准	【第 10 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 研究発表のプレゼンテーション① (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーションのやり方について整理し再確認する			

11	本間 准	【第 11 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
12	本間 准	【第 12 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
13	本間 准	【第 13 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
14	本間 准	【第 14 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：研究発表のプレゼンテーション⑤（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
15	本間 准	【第 15 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：前期の総括・自己評価 復習：半期間のゼミで身につけたことを振り返る ※夏休み期間中にゼミ合宿（観光地調査）を、国内観光地域で実施する							
授業開始前学習		以下に記載している参考書を事前に読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材		適宜、講義資料を配布する。							
参考書		溝尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とーりまかし』（じゃらんリサーチセンター） https://jrc.jalan.net/tk/							
評価の基準と方法		授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	△	
関連科目		観光文化ゼミⅡ-g							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的とし、産学連携による授業を行う。							

科目分類	120-310-23（J）			授業コード	FE1421
科目名称	観光文化ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	このゼミでは、観光メディアを考察していきます。まずこの1年間は旅行ガイドブックをつくる技術と手法、つまり、企画・取材・原稿執筆・編集・デザイン・DTPを学び、最終的にグループにわかれてガイドブックを制作・発表します。 後期は前期で学んだことを実際にソフトウェア（Word）を使用して実習していきます。ソフトウェアの雑誌を制作する場合の使い方からレイアウトやデザインの方法を学びます。その他、日常的なニュースの中から、女性が解決すべく社会課題に関係するものを選び、随時みんなで発表し討論し合います。				
到達目標	1）雑誌として魅力的な文章を書き、デザイン、レイアウトを実習して学ぶ。2）雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。3）「デザイン思考」という考え方を発展させていく手法を学ぶ。4）雑誌制作を通して、取材や表現方法などコミュニケーション能力を向上させる。5）毎回の発表を通して、発表力をつけていく。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	田代 真人	【第1回】 予習：前期の授業を振り返っておく 授業：各人の特性を確認し、雑誌制作をするグループを作る 復習：改めて企画を考えておく			
2	田代 真人	【第2回】 予習：雑誌やネットなどを利用して、企画を考えてみる 授業：グループにわかれて考えた企画の講評会（グループワーク） 復習：決まった企画について情報を収集する			
3	田代 真人	【第3回】 予習：雑誌やガイドブックを見てどのような要素でページが構成されているか確認しておく 授業：各グループで雑誌の要素・素材を考える（グループワーク） 復習：授業で考えた以外に要素が必要ないか各自確認しておく			
4	田代 真人	【第4回】 予習：どのようにして素材を収集するかを考えておく 授業：各グループで雑誌素材の収集方法を考える（グループワーク） 復習：授業で考えた以外に収集方法が必要ないか各自確認しておく			
5	田代 真人	【第5回】 予習：各自自分の役割を考えておく 授業：各グループ雑誌制作実習（1）（グループワーク） 復習：授業中でできなかったところをやっておく			
6	田代 真人	【第6回】 予習：今回やるべきことを各自考えておく 授業：各グループ雑誌制作実習（2）（グループワーク） 復習：授業中でできなかったところをやっておく			
7	田代 真人	【第7回】 予習：今回やるべきことを各自考えておく 授業：各グループ雑誌制作実習（3）（グループワーク） 復習：授業中でできなかったところをやっておく			
8	田代 真人	【第8回】 予習：今回やるべきことを各自考えておく 授業：各グループ雑誌制作実習（4）（グループワーク） 復習：授業中でできなかったところをやっておく			
9	田代 真人	【第9回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：就職関連合同ゼミ② 復習：就活の方法、意義などを再認識			
10	田代 真人	【第10回】 予習：今回やるべきことを各自考えておく 授業：各グループ雑誌制作実習（5）（グループワーク） 復習：授業中でできなかったところをやっておく			
11	田代 真人	【第11回】 予習：今回やるべきことを各自考えておく 授業：各グループ雑誌制作の途中経過を発表する			

科目分類	120-310-23 (J)			授業コード	FE1422
科目名称	観光文化ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな土地勘を身に付けること、各ゼミ生が研究テーマを発掘・発展させることを目的とする。				
到達目標	①専門ゼミで取り組む研究テーマについての理解が深まる。 ②観光や文化の観点から、新聞やニュースを読み考える習慣が身につく。 ③頭の中の地図で世界の主要国や都市の場所をイメージできるようになる。 ④パワーポイントやレジュメを効果的に使ったプレゼンテーションができるようになる。 ⑤質問に対し、的確な応答ができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	杉野 知恵	【第 1 回】 予習：夏期課題を提出する。 授業：後期の工程の確認、夏期課題に対するコメント 復習：後期に達成すべきこと（目標）を見直す。			
2	杉野 知恵	【第 2 回】 予習：外国人の日本に対するイメージ（A）を想像する。 授業：Lost in translation ①（ディスカッション） 復習：（A）と映画で描かれた日本のイメージを比較する（課題①）。			
3	杉野 知恵	【第 3 回】 予習：前回視聴した内容を振り返る。 授業：Lost in translation ②（ディスカッション） 復習：印象に残ったシーンとその理由をまとめる（課題②）。			
4	杉野 知恵	【第 4 回】 予習：前回視聴した内容を振り返る。 授業：Lost in translation ③（ディスカッション） 復習：印象に残ったシーンとその理由をまとめる（課題③）。			
5	杉野 知恵	【第 5 回】 予習：前回視聴した内容を振り返る。 授業：Lost in translation ④（ディスカッション） 復習：印象に残ったシーンとその理由をまとめる（課題④）。			
6	杉野 知恵	【第 6 回】 予習：配布資料を読む。 授業：ツアーの企画①（場所の選定） 復習：提示されたテーマにあったツアーを検討確認する。			
7	杉野 知恵	【第 7 回】 予習：作業内容を確認する。 授業：ツアーの企画②（情報収集） 復習：収集した情報に基づきプランをまとめる。			
8	杉野 知恵	【第 8 回】 予習：パワーポイントの準備をする。 授業：ツアープランの発表の準備 復習：授業内の作業を振り返り改善すべき点を考える。			
9	杉野 知恵	【第 9 回】 予習：円滑に発表できるよう準備する。 授業：ツアープランの発表（プレゼンテーション） 復習：発表を振り返り自己評価する。			
10	杉野 知恵	【第 10 回】 予習：研究テーマについての発表の準備をする。 授業：研究テーマについての中間報告 復習：授業内での議論や指摘を踏まえ、さらに研究テーマを発展させる。（課題⑤）			
11	杉野 知恵	【第 11 回】 予習：研究テーマについての発表内容をどのように論文に加えるか考える。 授業：研究テーマについての検討とエッセイ論文の執筆			

科目分類	120-310-23（J）		授業コード	FE1425	
科目名称	観光文化ゼミⅡ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	鮫島 卓		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鮫島 卓		開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-606	
授業概要	後期は主に 3 つのことを行う。第 1 にグループ研究として歴史的町並み観光地である川越の「宿泊者を増加させるための観光プラン」や「プロモーション案」を企画する。またそのためのフィールド調査を実施する。また 10 月の学園祭では 3・4 年生合同で模擬店に出展する。これらのグループ研究を通じて、多くの社会人と対話をする。社会人として望まれる主体性・社交力・チームワーク力を向上させる。 第 2 は、ゼミ論の準備である。研究の進め方や調査方法を学びながら、後期終了時には研究テーマを決めることを目標にする。 第 3 は就職活動支援である。9/26（土）に観光業界最大のイベント「ツーリズム EXPO」を見学する。多くの企業が出展するので旅行気分で情報収集できる。また前期に続き、時事問題を紹介する「My News」を行う。また第 9 回目には企業の人事担当者をゲスト講師に会社説明会を観光群が学類合同ゼミとして実施する。				
到達目標	① グループ研究を通じて社会人に不可欠な主体性・社交力・チームワークを向上させる。 ② 自分の考えを根拠をもって発言できるようになる。 ④ ゼミ論の研究テーマを決める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：（演習）合宿ふりかえり《ディスカッション》 （講義）授業の計画と方針、学園祭について （演習）ツーリズム EXPO 予備調査《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出 【学外実習】9/28（土）ツーリズム EXPO 見学（東京ビッグサイト）			
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News① （演習）ツーリズム EXPO ふりかえり《プレゼンテーション》 （演習）自己分析と企業研究の技法《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News② （演習）学園祭準備（模擬店準備） 復習：授業レポートの提出 ※学園祭 10/12（土）～10/13（日） 模擬店出展予定（3・4 年生合同）			
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News③ （演習）学園祭ふりかえり《ディスカッション》 （講義）グループ研究：課題提供と観光資源文献《グループワーク》 復習：授業レポートの提出			
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：グループ研究の準備をする 授業：（演習）My News④ （演習）グループ研究：観光資源調査対象発表《プレゼンテーション》 （講義）グループ研究：インタビュー調査法《グループワーク》 復習：授業レポートの提出			
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：グループ研究の準備をする 授業：（演習）My News⑤ （演習）グループ研究：インタビュー調査計画《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出 【学外実習】11/9（土）川越フィールドワーク（HIS、ゲストハウスちゃぶだい、蔵の街、大沢家住宅）			
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：グループ研究の準備をする 授業：（演習）フィールドワークふりかえり （演習）グループ研究：プレゼンテーションの技法《グループワーク》			

		復習：授業レポートの提出						
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習：グループ研究の準備をする 授業：（演習）My News⑥ （演習）業界研究対策：企業研究の方法と質問の仕方 （演習）グループ研究：模擬プレゼンテーション《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
9	鮫島 卓	【第 9 回】 予習：質問を準備する 授業：就職関連合同授業「業界研究」 復習：授業レポートの提出						
10	鮫島 卓	【第 10 回】 予習：グループ研究の準備をする 授業：（演習）グループ研究：「宿泊増加のための旅行企画案」発表《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
11	鮫島 卓	【第 11 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（演習）My News⑦ （講義）ゼミ論：テーマの探し方と文献調査の方法 （演習）インターネットと図書館の活用 復習：授業レポートの提出						
12	鮫島 卓	【第 12 回】 予習：質問を想定する 授業：4 年生合同発表会（3～4 限） 復習：授業レポートの提出						
13	鮫島 卓	【第 13 回】 予習：教科書の該当箇所を読んでおく 授業：（演習）My News⑧ （演習）ゼミ論：ゼミ論の構成・様式《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出						
14	鮫島 卓	【第 14 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）ゼミ論：研究発表① 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
15	鮫島 卓	【第 15 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）ゼミ論：研究発表② 《プレゼンテーション》 （演習）後期ふりかえりと春休みの抱負《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
授業開始前学習		過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 鮫島研究室 HP						
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。						
テキスト・教材		鮫島卓（2022）『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ						
参考書		山口誠・須永和博・鈴木涼太郎（2021）『観光のレッスンツーリズム・リテラシー入門』新曜社 宗田好史（2020）『インバウンド再生：コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社						
評価の基準と方法		My News（20 点）、グループ研究（40 点）、ゼミ論（40 点）で総合的に評価する。 発表内容、発表の仕方、だけではなく授業態度（積極的に学ぼうとする姿勢、質問する力）も評価対象となる。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。失敗を恐れずに未知に挑戦し、訂正しながら自分の可能性を信じて自己変革でいる人間になれるよう最大限応援します。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「観光地のイノベーション」「アグリツーリズムの発展過程」「観光経験の教育的効果」である。							

科目分類	120-310-23			授業コード	FE1426
科目名称	観光文化ゼミ II			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30			研究室	10-501
授業概要	3 年生の後期では、学生に共通した心配事である情報アウトプットへの効果的な対応（ゼミ論の研究、ツアープラン発表会準備、課題レポートやエントリーシートの指導など）を行いながら、いくつかの課題を並行して 4 年生になる為の準備に入ります。スタートが早めのため学生は少し忙しいかもしれませんが、前期のゼミで自身が何に関心があるか輪郭が見えてきているので、無理なく自然にゼミ論とツアープラン発表会の内容も決まってきます。総じて、3 年生の 1 年間を通して、将来どんな職業につきたいかも段階的に可視化できる進行内容になっています。「心理的安全性」を重視しながら進めます。				
到達目標	自ら主体的に考えてアウトプットできることを目指します。具体的には発信型の姿勢を意識し、「考え抜く力（課題発見力、計画力）」、「前に踏み出す力（働きかけ力、実行力）」、そして「問題発見力」「問題解決力」を身につけます。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	渡邊 光章	【第 1 回】 予習：前期の反省と後期の抱負を考える 授業：後期の進め方についてのガイダンス 復習：後期に実施する内容の再確認			
2	渡邊 光章	【第 2 回】 予習：ツアープラン発表会用の地域や場所を思い浮かべる 授業：チーム分けと調査による情報インプット 復習：調査内容をまとめる			
3	渡邊 光章	【第 3 回】 予習：思い浮かべた地域や場所の中からベスト案を絞り込む 授業：調査内容の整理とチーム発表の準備（ブレインストーミング） 復習：発表内容のまとめ			
4	渡邊 光章	【第 4 回】 予習：発表の準備 授業：調査内容のプレ発表（グループワーク） 復習：発表内容の振り返り整理			
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習：旅行したい場所の共通点を調査 授業：旅行コースのデータまとめ 復習：データの発表準備			
6	渡邊 光章	【第 6 回】 予習：チーム作業を通じて、役割との相性を大まかに考えてみる 授業：調査内容の発表（グループワーク） 復習：分析の方法を整理			
7	渡邊 光章	【第 7 回】 予習：ゼミ論のテーマをいくつか思い浮かべてみる 授業：前期の KJ 法による自己分析結果を整理し、ゼミ論のテーマを考える 復習：ゼミ論のテーマを絞り込む			
8	渡邊 光章	【第 8 回】 予習：ゼミ論のテーマ発表準備 授業：ゼミ論のテーマのプレ発表（グループワーク） 復習：発表内容を整理			
9	渡邊 光章	【第 9 回】 予習：関心のある企業について調べておく 授業：合同ゼミ 復習：合同ゼミの成果の整理			
10	渡邊 光章	【第 10 回】 予習：自身の関心のある職業について考える 授業：自分に合うと思う職業を調査し、現時点で必要な学びを知る 復習：調査内容について整理する			
11	渡邊 光章	【第 11 回】 予習：自身の関心のある企業について調べてみる 授業：関心のある企業の理念などを調査			

		復習：調査内容について整理する						
12	渡邊 光章	【第 12 回】 予習：ツアープランの事例を web 等で見えておく 授業：合同発表会見学（2 コマ連続の扱い） 復習：発表内容について整理						
13	渡邊 光章	【第 13 回】 予習：ツアープランの事例を web 等で見えておく 授業：合同発表会見学（2 コマ連続の扱い） 復習：発表内容について検討する						
14	渡邊 光章	【第 14 回】 予習：これまでの学びについて考えてみる 授業：ゼミ論とツアープランの計画（グループワークを含む） 復習：改善点を整理						
15	渡邊 光章	【第 15 回】 予習：1 年を通じた自身の行動について考える 授業：各自の発表（チーム発表を含む）とフィードバック 復習：自身に足りない点について考える（PDCA）						
授業開始前学習		ニュースなどで日々の出来事を確認しておくと、授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出で出欠席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講演や、ワークショップで進捗を確認することもある。						
テキスト・教材		必要に応じて授業で適宜、配布する。						
参考書		必要に応じて授業で適宜、配布する。						
評価の基準と方法		授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	地域観光資源研究（前期）と、観光の PR とメディア（後期）を履修しておくことが望ましい。							
その他	課題学習（予習・復習）については、各回の授業中に具体的な指示をする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-310-23 (J)			授業コード	FE1427
科目名称	観光文化ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50			研究室	10-720
授業概要	本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 観光文化ゼミⅠにて学んだ「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」を、実習を通じ習熟させるすることで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。 また、都内および近郊の観光地域の現地調査を通じて観光地の見方を考える。 尚、期間中に観光地調査を国内観光地域で実施する				
到達目標	①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表する力を高める。 ②観光マーケティングを実践する力を身につける。 ③観光地域の現地調査を通して、課題を発見し解決する力を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	本間 准	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : 観光地調査内容の説明 復習 : 授業の方針を確認する			
2	本間 准	【第 2 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 箱根および競合観光地域の現状分析 復習 : 各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を開始			
3	本間 准	【第 3 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : アンケート結果の分析 復習 : 各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を開始			
4	本間 准	【第 4 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 箱根視察の計画 復習 : 【第 4 回】ゼミで学習したことを復習しておく			
5	本間 准	【第 5 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 観光マーケティングの実践 復習 : 【第 5 回】ゼミで学習したことを復習しておく			
6	本間 准	【第 6 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 観光マーケティングの実践 復習 : 【第 6 回】ゼミで学習したことを復習しておく			
7	本間 准	【第 7 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : ゼミ論 研究計画① 復習 : 【第 7 回】ゼミで学習したことを復習しておく			
8	本間 准	【第 8 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : ゼミ論 研究計画② 復習 : 各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を継続			
9	本間 准	【第 9 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 就職関連合同ゼミ② 復習 : 就活の方法、意義などを再認識 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : ゼミ論 研究計画③ 中間発表（プレゼンテーション） 復習 : 各自研究テーマをもとに文献研究・インターネット検索を継続			

10	本間 准	【第 10 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 研究発表のプレゼンテーション① (プレゼンテーション) 復習 : 【第 10 回】ゼミで学習したことを復習しておく															
11	本間 准	【第 11 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 研究発表のプレゼンテーション② (プレゼンテーション) 復習 : 【第 11 回】ゼミで学習したことを復習しておく															
12	本間 准	【第 12 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 研究発表のプレゼンテーション③ (プレゼンテーション) 復習 : 【第 12 回】ゼミで学習したことを復習しておく															
13	本間 准	【第 13 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 研究発表のプレゼンテーション④ (プレゼンテーション) 復習 : 【第 13 回】ゼミで学習したことを復習しておく															
14	本間 准	【第 14 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 研究発表のプレゼンテーション⑤ (プレゼンテーション) 復習 : 【第 14 回】ゼミで学習したことを復習しておく															
15	本間 准	【第 15 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 後期の総括・自己評価 復習 : 半期間のゼミで身につけたことを振り返る															
授業開始前学習		以下に記載している参考書を事前に読んでおく。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。															
テキスト・教材		適宜、講義資料を配布する。															
参考書		溝尾良隆『観光学—基本と実践』(古今書院) じゃらんリサーチセンター『とりまかし』(じゃらんリサーチセンター) https://jrc.jalan.net/tk/															
評価の基準と方法		授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当						○						◎		△			
関連科目																	
その他		観光地調査を国内観光地域で実施する															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)															
実務経験を活かした教育内容		教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的に、産学連携により授業を行う。															

科目分類	120-310-24（J）			授業コード	FE1431
科目名称	観光文化ゼミⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室	10-613
授業概要	2 年間のゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、国内外で 300 ホテル計 70,000 室以上を展開しているビジネスホテル「東横 INN」の集客プランを作成、発表します。今期は「デザイン思考」を使った手法でプラン作成の方法を研究し、各自プランを作り、発表します。 並行してゼミ論のテーマ研究も進め、執筆に取り掛かります。最終的には、後期の観光文化学類での合同発表会で、2 年間の研究成果を発表します。※内容は東横インの都合で変更する場合があります。				
到達目標	まず、ゼミ論の執筆と集客プランの作成という 2 年間の目的を達成するための第 3 準備段階として、各自興味関心のある地域をピックアップして、歴史・文化・地理・観光資源などを調査します。これらを通して、調べる力、読む力、書く力、まとめる力、発表する力を身につけることが目標です。また同時に社会人として生きていく力と知恵を身につけていくことを目指します。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田代 真人	【第 1 回】 予習：3 年次の自己評価をする 授業：【ゼミ論】授業方針と計画を説明し、ゼミ論のテーマを決定する。 【東横 INN】デザイン思考の概要と目的を復習し、ビジネスホテルチェーン「東横 inn」のビジョンやブランドイメージを共有する 復習：ゼミ論に見直しがないか自己評価する			
2	田代 真人	【第 2 回】 予習：後期に発表する SDGs に関する資料を読んでおく。 授業：【東横 INN】SDGs とは何か、なぜ重要か、どのように関わることができるかを学ぶ。 復習：ゼミで学習したことを復習しておく。			
3	田代 真人	【第 3 回】 予習：自分のゼミ論に見直しがある場合、その内容を具体的に見極め、ゼミ論の目次を作って見る 授業：【ゼミ論】見直しがある場合、見直しの発表。その後各自目次の発表。お互いにその内容を評価する（グループ・ワーク） 【東横 INN】女子大学生の顧客のニーズや感情を観察し、インタビューし、ペルソナを作成する。 復習：考えたペルソナを確認する			
4	田代 真人	【第 4 回】 予習：ゼミ論の目次に見直しがある場合、その内容を具体的に見極める。 授業：【ゼミ論】再度目次の発表。お互いにその内容を評価する（グループ・ワーク） 【東横 INN】定義のステップを実践し、女子大学生の顧客が抱える問題や課題を明確に定義し、ポイント・オブ・ビューを作成する 復習：ゼミ論の内容を確認する			
5	田代 真人	【第 5 回】 予習：ゼミ論の目次ごとに調査・研究方法を考える 授業：【ゼミ論】目次ごとの調査・研究方法を発表する（グループ・ワーク） 【東横 INN】アイデアのステップを実践し、問題や課題に対する多様な解決策を発想し、ブレインストーミングやマインドマップなどの手法を用いる 復習：【ゼミ論】、【東横 INN】ともに授業でやった内容を確認しておく			
6	田代 真人	【第 6 回】 予習：【東横 INN】企画のアイデアを練っておく 授業：【東横 INN】アイデアのステップを続けて実践し、発想した解決策を評価し、優先順位をつける 復習：授業でやった内容を確認しておく			
7	田代 真人	【第 7 回】 予習：ゼミ論では各自調査・研究を行なう 授業：【東横 INN】プロトタイプの実践し、選んだ解決策を具体的な形にする 復習：授業でやった内容を確認しておく			

8	田代 真人	【第 8 回】 予習：東横 INN の集客プランを具体的に考えておく 授業：【東横 INN】プロトタイプのステップを続けて実践し、よりリアルなものにするために、デジタルツールやサービスデザインの手法を用いる 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
9	田代 真人	【第 9 回】 予習：東横 INN プランについて各自より深く考察しておく 授業：【東横 INN】テストのステップを進めるため、実際にほかの学生にホテルの顧客としての意見を得るために、アンケートやインタビューなどの案を考えて実践する（グループワーク） 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
10	田代 真人	【第 10 回】 予習：インタビューで得られたフィードバックを整理しておく 授業：【東横 INN】テストのステップを続けて実践し、得られたフィードバックを分析し、改善点や課題を洗い出す 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
11	田代 真人	【第 11 回】 予習：フィードバックで得られた改善点や課題を洗い出して整理しておく 授業：エンパシーからテストまでのプロセスを振り返り、学んだことや気づいたことを共有する（グループ・ワーク） 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
12	田代 真人	【第 12 回】 予習：整理した内容を発表できるようにしておく 授業：【東横 INN】改善点や課題に対して、再びデザイン思考のプロセスを繰り返し、解決策を改良する（グループ・ワーク） 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
13	田代 真人	【第 13 回】 予習：改良した結果を整理する 授業：改良した解決策を最終的なプロトタイプとして完成させる（グループ・ワーク） 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
14	田代 真人	【第 14 回】 予習：完成したプロトタイプを見直しておく 授業：【東横 INN】完成したプロトタイプを授業内でプレゼンテーションする（グループ・ワーク） 復習：授業でやった内容を確認しておく。ゼミ論は各自調査・研究を進めておく						
15	田代 真人	【第 15 回】 予習：ゼミ論の方向性を整理しておく 授業：【東横 INN】プレゼンテーションのフィードバックをもとに、解決策の効果や価値、実現可能性などを評価し、今後の展望を考える（グループ・ワーク） 【ゼミ論】進行状況を確認する 復習：後期に向けて夏休み中にやっておくべきことを確認しておく ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。						
授業開始前学習		今期は、ゼミ論とビジネスホテルの集客プランの作成という 2 つのことに取り組みます。それぞれの構想を各自描くべく、ビジネスホテルのインターネットサイトやいろいろな旅行パンフレットを旅行会社や観光地でもらって目を通しておきましょう。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。						
テキスト・教材		適宜資料を配布します						
参考書								
評価の基準と方法		講義に対する積極性（50%）、各講義での提出レポート（40%）、最終レポート（10%）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他	2 年間にわたるゼミの後半の 1 年間前期になります。引き続き欠席することなく、積極的に参加してください。最後の 1 年間も、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサー、ビジネスホテルの広報顧問などを行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。							

科目分類	120-310-24 (J)	授業コード	FE1432
科目名称	観光文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな視野を広げていくことを目的とし、(1)ゼミ全体としては合同研究発表会に向けた準備を行うとともに、(2)ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文を完成させる。		
到達目標	①自分の選択した研究テーマについての発表を行い、ゼミ論文の第一次案を作成する。 ②ディスカッションでは、積極的に参加し、相手の意見を尊重しながら、意見の集約に貢献できる。 ③ゼミ生の発表に対して、コメントや質問をし、アドバイス（ピアレビュー）を行うことができる。 ④発表や論文などで提示されたデータが適切に用いられているか判断できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉野 知恵	【第 1 回】 予習：ゼミ論文の雛形となる「ブチ論文」（3 年次後期の期末課題）を精査する。 授業：一年間の到達目標と工程表の確認 復習：各自の研究テーマについて何を論じたいのか簡潔にまとめる。	
2	杉野 知恵	【第 2 回】 予習：配布資料を読み、質問事項をまとめる。 授業：合同研究の進め方 復習：授業を参考に合同研究発表の内容について各自でアイデアをまとめる。	
3	杉野 知恵	【第 3 回】 予習：合同研究発表会のテーマについて簡潔にまとめる。 授業：合同研究発表会の構想（ブレインストーミング） 復習：提示されたアイデアを振り返る。	
4	杉野 知恵	【第 4 回】 予習：前回提示されたアイデアについての意見を簡潔にまとめる。 授業：合同研究発表会の構想（ディスカッション） 復習：授業で検討したアイデアをどのように発展させるべきか考える。	
5	杉野 知恵	【第 5 回】 予習：個人研究発表の準備をする。 授業：中間プレゼンテーションとピアレビュー（1）（授業内課題①） 復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文を執筆する。	
6	杉野 知恵	【第 6 回】 予習：個人研究発表の準備をする。 授業：中間プレゼンテーションとピアレビュー（2）（授業内課題①） 復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文を執筆する。	
7	杉野 知恵	【第 7 回】 予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。 授業：「国際観光への異文化間コミュニケーション論的アプローチ」（ディスカッション） 復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。	
8	杉野 知恵	【第 8 回】 予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。 授業：「観光立国ジャパンー異文化コミュニケーション力に関する一考察」（ディスカッション） 復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。	
9	杉野 知恵	【第 9 回】 予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。 授業：「外国人観光客への真の『おもてなし』」（ディスカッション） 復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。	
10	杉野 知恵	【第 10 回】 予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。 授業：「観光接触場面における日本語ー人気旅館からの考察」（ディスカッション） 復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。	
11	杉野 知恵	【第 11 回】 予習：配布資料を読み、ディスカッションのテーマを考える。 授業：「タイ英語学習のすすめー観光コミュニケーションの考え方（ディスカッション）	

		復習：授業内でのディスカッションをゼミ論文や合同研究発表に活用する。						
12	杉野 知恵	【第 12 回】 予習：論文の評価基準（良い論文とはどのようなものか）について考える。 授業：論文評価基準（ピアレビューに向けての討論） 復習：授業内での討論を振り返り、各自のゼミ論文にどのような改善が必要か考える。						
13	杉野 知恵	【第 13 回】 予習：個人研究発表の準備をする。 授業：期末プレゼンテーションとピアレビュー（１）（授業内課題②） 復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文第一次案を作成する。						
14	杉野 知恵	【第 14 回】 予習：個人研究発表の準備をする。 授業：期末プレゼンテーションとピアレビュー（２）（授業内課題②） 復習：授業内での質疑や指摘を振り返り、ゼミ論文第一次案を作成する。						
15	杉野 知恵	【第 15 回】 予習：ゼミ論文第一次案に、さらにどのような調査・論点が必要か考える。 授業：前期の振り返りと後期に向けてやるべきこと 復習：ゼミ論文完成に向けた工程表を作る。						
授業開始前学習		①授業の内外で新聞や資料（英語のものを含む）をよく読むため、普段から「読む」習慣をつけておくこと。 ②自分の研究テーマに関する文献収集を継続しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題①～②は、プレゼンテーション後に授業内で講評を行うとともに個別にコメントを付して返却する。						
テキスト・教材		授業の中で指示する他、プリントなどを配布する。						
参考書		個人の研究テーマに基づき、個別に指示する。						
評価の基準と方法		研究テーマへの取り組み（授業内課題①と②）（40%）、期末課題（ゼミ論第一次案）（40%）ゼミへの知的貢献（ゼミでの積極性・ゼミ生の発表に対する反応などを含む）（20%）などを総合的に判断する。 そのほか、ゼミで力を入れたこと「ゼミチカ」の自己申告とその内容に応じてボーナス加点を行う。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	観光の英語をはじめとする英語関連科目は語学力向上に役立ちます。異文化交流、異文化理解、グローバル共生論などは、グローバルなものの見方や国際教養の基礎になります。							
その他	個人の研究計画は、ゼミ生が主体性をもって取り組み、行き詰まった際には教員にアドバイスを求めてください。 また、グループでの活動は、各自の得意なところを活かして、積極的に貢献してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	外務省職員として約 20 年の実務経験あり。バングラデシュ、ヨルダン、スーダンの日本大使館やシカゴの日本総領事館での勤務や出張・観光で様々な国・地域を訪問した経験を活かし、異文化コミュニケーションやグローバルな時代の生き方を中心に受講生が国際教養を身につけられるよう演習を行う。							

科目分類	120-310-24	授業コード	FE1433
科目名称	観光文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国を中心とする西半球の国々を対象として、文化・歴史と観光の両面から研究します。2つの主要な目的は、ゼミ論文とツアープランの作成です。これらの目的のための作業を通じて主に調べる力、読む力、書く力、纏める力、発表する力を身につけます。また、授業ではレジュメを作成して個別発表し、その後に質疑応答を行い、併せて適宜グループワークも行います。		
到達目標	ゼミ論とツアープランの作成という2年間の目的を達成するための第1準備段階として、3年次にはツアープランの作成を1度行いました。また、ゼミ論については3年次後期の課題としてスタートを始めました。今年度前期には、これら2つの目的を仕上げるために前半はゼミ論、後半はツアープランの作成に時間を費やす予定です。2年間の総仕上げとして、改めて到達目標を「読む力、書く力、調べる力、纏める力、発表する力」などの学部学生に求められる総合的な諸能力を身につけることにします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	羽鳥 修	【第1回】 予習 : 3年次における課題の準備をする。 授業 : 方針と授業計画の説明ほか、予習の課題を発表する 復習 : 次々週発表の準備を確認する。	
2	羽鳥 修	【第2回】 予習 : 配布資料を読む。 授業 : 旅行商品の企画（観光文化ゼミの受講生に対する全体説明） 復習 : 配布使用をもとに授業内容の理解チェックをする	
3	羽鳥 修	【第3回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること。） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
4	羽鳥 修	【第4回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること。） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
5	羽鳥 修	【第5回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
6	羽鳥 修	【第6回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める。	
7	羽鳥 修	【第7回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
8	羽鳥 修	【第8回】 予習 : ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ツアープランの課題を進める	
9	羽鳥 修	【第9回】本日の復習 予習 : ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ツアープランの課題を進める	
10	羽鳥 修	【第10回】 予習 : ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ツアープランの課題を進める	
11	羽鳥 修	【第11回】 予習 : ツアープランのプレゼン準備（発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること） 授業 : プレゼンおよび質疑応答	

科目分類	120-310-24	授業コード	FE1434
科目名称	観光文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究・発表・討論を行う。日・韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2 年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。		
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習 : 春季休暇中の研究活動を整理しておく。 授業 : 春季休暇中の研究活動の報告、観光文化ゼミⅢの全体説明 復習 : 自分の研究課題を再認識し、詳細化しておく。	
2	張 景泰	【第 2 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 旅行商品の企画（全体説明） 復習 : 【第 2 回】ゼミで学習したことを復習しておく。	
3	張 景泰	【第 3 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 旅行商品の企画から販売（既存旅行商品の研究） 復習 : 【第 3 回】ゼミで学習したことを復習しておく。	
4	張 景泰	【第 4 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : ツアープランの作成（グループワークショップ）① 復習 : 各自プレゼンテーションの作成を進める。	
5	張 景泰	【第 5 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : ツアープランの作成（グループワークショップ）② 復習 : 各自プレゼンテーションの作成を進める。	
6	張 景泰	【第 6 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : ツアープランの作成（グループワークショップ）③ 復習 : 各自プレゼンテーションの作成を進める。	
7	張 景泰	【第 7 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : ツアープランの各自発表（グループワークショップ）① 復習 : プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。	
8	張 景泰	【第 8 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : ツアープランの各自発表（グループワークショップ）② 復習 : プレゼンテーションのやり方について整理し、再確認する。	
9	張 景泰	【第 9 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 : 研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習 : 【第 9 回】 ゼミで学習したことを復習しておく。	
10	張 景泰	【第 10 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 : 研究発表のプレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習 : 報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。	

11	張 景泰	【第 11 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 : 研究発表のプレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習 : 報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。						
12	張 景泰	【第 12 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 : 研究発表のプレゼンテーション③（プレゼンテーション） 復習 : 報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。						
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 : 研究発表のプレゼンテーション④（プレゼンテーション） 復習 : 報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。						
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業 : 研究発表のプレゼンテーション⑤（プレゼンテーション） 復習 : 報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。						
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 前期の総括、自己評価・夏休みの課題に関して 復習 : ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える。						
授業開始前学習		今期では、ツアープラン作成を中心にゼミを進行するので、各旅行会社のツアー商品を資料として集め、分析を行って下さい。自分のテーマに関しては、引き続き関連資料の集め、研究の深化、整理を行って下さい。						
授業内課題のフィードバックの方法		プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。						
テキスト・教材		特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		授業への参加度・貢献度など 70%。報告 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-310-24 (J)	授業コード	FE1435
科目名称	観光文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	鮫島 卓	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鮫島 卓	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-606
授業概要	前期は主に 2 つことを行う。第 1 は、能登半島震災復興支援を目的としたグループ研究である。震災地域における観光地は風評被害によって観光客が減少してしまう問題を抱えている。社会課題の解決策として後期に Z 世代を呼び込むガイドブックを制作し、学生でもできる社会貢献をすることを最終ゴールとする。具体的には、前期にガイドブックのつくり方やアンケート調査（量的調査）やインタビュー調査（質的調査）などの調査方法を学び、夏休みに能登半島で 2 泊 3 日でフィールド調査（ゼミ合宿）を行う。フィールド調査を通じて多くの地域の人びとと対話を予定している。社会人に必要な主体性、社交力、チームワーク力などを向上させてほしい。尚、フィールド調査は本間ゼミと合同で実施する予定である。 第 2 は、ゼミ論を進める。前期中に研究の進め方や調査方法を学び、自らテーマを決めて前期終了時に研究計画書（5000 字）を作成することを目標とする。後期に書き上げるゼミ論の助走期間とする。		
到達目標	① 調査方法を学び、実践できるようになる。 ② 社会人に必要な主体性、社交力、チームワーク力などを向上させる。 ③ 研究計画書（5000 字以上）を作成し、後期のゼミ論の完成につなげる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）春休みのふりかえり、自己分析ワークショップ《ディスカッション》 （講義）授業方針と計画 （演習）チームビルディングと調査対象地決定 復習：授業レポートの提出	
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：（演習）My News①《プレゼンテーション》 （講義）グループ研究：課題提供とミッション共有（加賀屋社員オンライン授業参加）《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出	
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News②《プレゼンテーション》 （演習）グループ研究：観光資源リサーチ《グループワーク》 復習：授業レポートの提出	
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News③《プレゼンテーション》 （演習）グループ研究：観光資源発表《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出	
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News④《プレゼンテーション》 （講義）グループ研究：アンケート調査計画《グループワーク》 復習：授業レポートの提出	
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News⑤《プレゼンテーション》 （演習）グループ研究：アンケート調査実践《グループワーク》 復習：授業レポートの提出	
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：教科書の該当箇所を読んで予習する 授業：（演習）My News⑥《プレゼンテーション》 （講義）グループ研究：インタビュー調査計画《グループワーク》 復習：授業レポートの提出	
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習：教科書の該当箇所を読む 授業：（演習）My News⑦《プレゼンテーション》 （演習）グループ研究：調査計画の発表《プレゼンテーション》	

[illegible]

科目分類	120-310-24	授業コード	FE1436
科目名称	観光文化ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	これまでの様々な学びを通じて修得した「課題を発見する力」、「課題を乗り越える力」を可視化できるように行動し、個々の学生が自分なりの結果を出すことを目指します。3 年次からの継続した学びの中で、4 年生前期の時点ではゼミ論の執筆やツアープランの企画発表の準備を更に進めます。周囲の状況に惑わされず、ゼミを通じて落ち着いて自分と上手に向き合う時間を作るなかで、成果に繋がる行動を更に積み重ねます。不要なアンコンシャス・バイアスから解放される事で、「心理的安定性」を重視し、1 人 1 人が自分に合った方向に進んでいきます。		
到達目標	主体的に様々な学びを通じて「課題を発見する力」、「課題を乗り越える力」を養うことを目指します。そして、具体的な成果に繋がる行動をするために、安定した精神状態で学び続けられるよう「心理的安定性」を重視し、1 人 1 人が自分に合った進路を見つけることが目標です。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 光章	【第 1 回】 予習 : これまでの自身の行動を再チェックする 授業 : 4 年次の自己管理と進路について考える (グループワーク) 復習 : これまでしてきたことの再確認	
2	渡邊 光章	【第 2 回】 予習 : 思い浮かべた未来のイメージを文字にしてみる 授業 : PBL (問題解決型) へのアプローチ再指導 復習 : PBL の再確認	
3	渡邊 光章	【第 3 回】 予習 : 自分がなりたい未来のイメージを更に調べる 授業 : 自分に足りないモノについて考える 復習 : イメージを整理する	
4	渡邊 光章	【第 4 回】 予習 : やりたい事と自身のマッチングを考える 授業 : ゼミ論の研究テーマと自身のマッチング分析 (グループワーク) 復習 : 調べた内容の整理	
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習 : 調べた内容をセグメント化してみる 授業 : 自身の関心がどこにあるのかを再確認 復習 : セグメントデータの整理	
6	渡邊 光章	【第 6 回】 予習 : 整理したデータを読み返す 授業 : 自身の関心とゼミ論のマッチングを考察 復習 : マッチングについて理解する	
7	渡邊 光章	【第 7 回】 予習 : ゼミ論テーマと自身の相性をセグメント化してみる 授業 : ゼミ論テーマ決定へのアプローチ 復習 : セグメントデータの理解	
8	渡邊 光章	【第 8 回】 予習 : 自分の得意と苦手について考える 授業 : ゼミ論データの収集の仕方 (グループワーク) 復習 : 収集データを整理	
9	渡邊 光章	【第 9 回】 予習 : 自分の長所を 3 つ探してみる 授業 : ツアープランテーマの選択の仕方 復習 : 収集データについて整理する	
10	渡邊 光章	【第 10 回】 予習 : 関心のあるテーマについて考える 授業 : 収集データの利用の仕方 (グループワーク) 復習 : テーマとチームの相性について整理する	
11	渡邊 光章	【第 11 回】 予習 : ツアープランテーマを再考 授業 : ツアーコースの調査 (グループワーク)	

		復習：ツアーコースについて整理						
12	渡邊 光章	【第 12 回】 予習：ツアープランを深く考察しておく 授業：ツアープランの決定（グループワーク） 復習：ツアープランについて整理						
13	渡邊 光章	【第 13 回】 予習：ツアープランの関連事項についても調べておく 授業：ツアープランについてまとめて発表する準備 復習：ツアープランの整理						
14	渡邊 光章	【第 14 回】 予習：ツアープラン発表に備え、必要な材料を用意する 授業：ツアープランを発表 復習：ツアープラン発表データを再整理						
15	渡邊 光章	【第 15 回】 予習：効果的な発表について考える 授業：発表と補足 復習：自身の発表の足りない点について考える（PDCA）						
授業開始前学習		3 年次から学んで積み重ねてきたことをよく思い出し、自身の関心のある事柄や進みたい方向について考えておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		講義の最後に、毎回「振り返りレポート」を提出する。このレポート提出で出欠席を確認する。講義で学んだ重要ポイントや発見したこと、よくわからなかったことへの質問事項などを記入してもらい、そのフィードバックは、学生が提出したレポートの内容によって適宜 1 人ずつ対応または、次回講義の冒頭で全体に応える形式で実施している。状況により、グループディスカッションによる講評や、個人のワークショップで進捗を確認することもある。						
テキスト・教材		必要に応じて適宜配付する。						
参考書		必要に応じて適宜紹介する。						
評価の基準と方法		授業中の提出物など 50%と、予習・復習などの平常点（受講姿勢や出欠席）50%により総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-310-24 （J）		授業コード	FE1437	
科目名称	観光文化ゼミⅢ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅲ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	本間 准		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	本間 准		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50		研究室	10-720	
授業概要	本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 最初に「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、実習することで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。 （１）ゼミ全体では、合同発表会に向けた準備を行う （２）ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文に向けた準備を行う なお、夏休み期間中に観光地調査を国内観光地域で実施する。				
到達目標	①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表ができるようになる。 ②自分の選択したゼミ論文研究テーマについての発表を行う。 ③ゼミ生の発表に対してコメントや質問をし、アドバイスをを行うことが出来る。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	本間 准	【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：イントロダクション 復習：授業の方針を確認する			
2	本間 准	【第 2 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の構想 ①（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
3	本間 准	【第 3 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の構想 ② 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
4	本間 准	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：アカデミック・ライティング① 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
5	本間 准	【第 5 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：アカデミック・ライティング② 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
6	本間 准	【第 6 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション①（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
7	本間 准	【第 7 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション②（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
8	本間 准	【第 8 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション③（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
9	本間 准	【第 9 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション④（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく			
10	本間 准	【第 10 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：中間プレゼンテーション⑤（プレゼンテーション）			

		復習 : ゼミで学習したことを復習しておく
11	本間 准	【第 11 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 中間プレゼンテーション⑥（プレゼンテーション） 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく
12	本間 准	【第 12 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 合同発表会の準備① 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく
13	本間 准	【第 13 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 合同発表会の準備② 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく
14	本間 准	【第 14 回】 予習 : 発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業 : 合同発表会の準備③ 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく
15	本間 准	【第 15 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : 前期の総括・自己評価 復習 : 半期間のゼミで身につけたことを振り返る ※夏休み期間中に観光地調査を国内観光地域で実施する
授業開始前学習		
以下に記載している参考書を事前に読んでおく。		
授業内課題のフィードバックの方法		
授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。		
テキスト・教材		
適宜、講義資料を配布する。		
参考書		
溝尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とりまかし』（じゃらんリサーチセンター） https://jrc.jalan.net/tk/		
評価の基準と方法		
授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。		
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成
学修指針	教養力	人間性
科目の該当		○
関連科目	観光文化ゼミⅡ-g	
その他		
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）	
実務経験を活かした教育内容	教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的とし、産学連携による授業を行う。	

科目分類	120-310-24 (J)	授業コード	FE1441
科目名称	観光文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田代 真人	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田代 真人	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-613
授業概要	2 年間のゼミを通して、各地の文化、観光資源を研究し、国内外で 300 ホテル計 70,000 室以上を展開しているビジネスホテル「東横イン」の集客プランを作成、発表します。今期は「デザイン思考」を使った手法でプラン作成の方法を研究し、各自プランを作り、発表します。 並行してゼミ論のテーマ研究も進め、執筆に取り掛かります。最終的には、後期の観光文化学類での合同発表会で、2 年間の研究成果を発表します。 ※内容・期日は東横インの都合で変更する場合があります。合同発表会の期日に関しては変更する可能性もあります。		
到達目標	ゼミ論の執筆とビジネスホテルの集客プランの作成という 2 年間の目的を達成するための最終段階です。ゼミ論では各自ピックアップした興味関心のある地域の、歴史・文化・地理・観光資源などを調査してゼミ論を書き進め、完成させます。集客プランの発表は、前期に決定した集客プランの内容を具体的なものに落とし込んで、パンフレットとプレゼン資料を制作、発表します。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	田代 真人	※課題制作は PC およびパワーポイントなどのプレゼンテーション書類制作ソフトが必要です。 【第 1 回】 予習 : 後期のゼミ論執筆計画の概要を考えてくる。 授業 : 後期の活動計画・研究計画を立てる。 復習 : 授業での話し合いを振り返り、後期の計画を立てる。	
2	田代 真人	【第 2 回】 予習 : 東横 INN プレゼンテーションについての詳細を考えておく。 授業 : パンフレット制作について (観光文化ゼミの受講生に対し、全体説明) 復習 : 授業で学習したことを復習しておく。	
3	田代 真人	【第 3 回】 予習 : 各自分担に従い準備を進める。パンフレット・パワーポイント・発表原稿を準備する。 授業 : 【東横 INN】プレゼンテーション事前発表 (グループ・ワーク) 復習 : プレゼンテーションを振り返り、修正するところをしておく。	
4	田代 真人	【第 4 回】 予習 : 各自プレゼンテーションの内容を見直し、自分の役割を確認しておく。 授業 : 【東横 INN】東横 INN 本社でプレゼンテーションを行い、実際に社長および支配人からのフィードバックを得る (グループ・ワーク) 復習 : プレゼンテーションの振り返りをしておく。	
5	田代 真人	【第 5 回】 予習 : プレゼンテーションの振り返りをしておく。 授業 : 【合同発表会】東横 INN でのプレゼンテーションを学生向けに修正するポイントを確認する (グループ・ワーク) 復習 : プレゼンテーションの修正点を再考する。	
6	田代 真人	【第 6 回】 予習 : プレゼンテーションの修正点を再考をしておく。 授業 : 【合同発表会】東横 INN でのプレゼンテーションを学生向けに修正する。(グループ・ワーク) 復習 : 修正したプレゼンテーションを確認しておく。	
7	田代 真人	【第 7 回】 予習 : 修正したプレゼンテーションを確認しておく。 授業 : 【合同発表会】修正したプレゼンテーションでの発表内容を確認して改めて担当を決める。(グループ・ワーク) 復習 : 各自担当か所を確認しておく。	
8	田代 真人	【第 8 回】 予習 : ゼミ論中間報告の準備をする。 授業 : ゼミ論中間報告 復習 : ゼミ論中間報告を再考し、研究計画を進める。	
9	田代 真人	【第 9 回】 予習 : 修正したプレゼンテーションを確認しておく。 授業 : 【合同発表会】プレゼンテーションでの発表練習。(グループ・ワーク)	

		復習：改めて各自担当か所を確認しておく。						
10	田代 真人	【第 10 回】 予習：発表会の最終準備をする。(グループ・ワーク) 授業：【合同発表会】実際の合同発表会を想定した授業内発表会 復習：合同発表会に向けて最終調整をする。						
11	田代 真人	【第 11 回】 予習：各自分担に従い準備を進める。パンフレット・パワーポイント・発表原稿を準備する。 授業：【合同発表会】プレゼンテーション発表練習 (グループ・ワーク) 復習：授業での気付いた点を修正する。						
12	田代 真人	【第 12 回】 予習：合同発表会の最終準備をする。 授業：観光文化ゼミ合同発表会 復習：合同発表会・集客プラン作成の過程すべてを振り返り考察する。						
13	田代 真人	【第 13 回】 予習：ゼミ論を完成させる。 授業：合同発表会の振り返り・ゼミ論提出 復習：ゼミ論の修正点があれば修正する。						
14	田代 真人	【第 14 回】 予習：ゼミ論を見直す。 授業：ゼミ論の修正点の指導を受ける。 復習：ゼミ論の修正点があれば修正する。						
15	田代 真人	【第 15 回】 予習：後期の自己評価を準備しておく。 授業：後期の振り返り・自己評価・2 年間のゼミ活動の総括 復習：ゼミ論を完成させ最終版を提出する。 ※講義内容は、そのときどきの状況で変更する場合もある。						
授業開始前学習		今期は、ゼミ論とビジネスホテルの集客プランの作成という 2 つのことに取り組みます。それぞれの構想を各自描くべく、ビジネスホテルのインターネットサイトやいろいろな旅行パンフレットを旅行会社や観光地でもらって目を通しておきましょう。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業後に毎回振り返りレポートを提出してもらいます。翌週にそれらの講評や質問に対する回答をします。急ぐ場合は各学生直接メールすることもあります。						
テキスト・教材		適宜資料を配布します						
参考書								
評価の基準と方法		講義に対する積極性（50％）、各講義での提出レポート（20％）、最終レポート（30％）での総合評価でおこないます。遅刻は遅れた時間にかかわらず 3 回で 1 回の欠席に匹敵する減点となります。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他		2 年間にわたるゼミの最後の期になります。引き続き欠席することなく、積極的に参加してください。今期も、ゼミ生同士協力し、企画・調査・発表・討論の力をつけてください。また、授業に取り入れたい企画や授業外での企画もプレゼン次第では可能になり、授業の進め方や内容はプレゼン次第で変更する場合もあります。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		担当教員は、30 年以上出版・インターネット業界でファッション女性誌・ビジネス誌ほか各種雑誌の編集長、Web サイトのプロデューサー、ビジネスホテルの広報顧問などを行っており、その経験で得た知見を講義内でフィードバックしていく予定である。						

科目分類	120-310-24 (J)	授業コード	FE1442
科目名称	観光文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉野 知恵	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉野 知恵	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	10-713
授業概要	本演習では、観光や文化を切り口に、これからのグローバル社会を生き抜くための国際教養やグローバルな視野を広げていくことを目的とし、(1)ゼミ全体としては合同研究発表会に向けた準備を行うとともに、(2)ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文を完成させる。		
到達目標	①自分の選択した研究テーマについての発表を行い、ゼミ論文をまとめる。 ②グループワークでは、全体の状況を見渡し、自分の強みを活かしながら、他のゼミ生と協力して取り組むことができる。 ③発表などに対して、積極的にコメントや質問をし、適切なアドバイス（ピアレビュー）を行うことができる。 ④発表や論文などに説得力を持たせるため、適切なデータを選択し、効果的に用いることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉野 知恵	【第 1 回】 予習：ゼミ論文の雛形となる第一次案（前期の期末課題）を精査する。 授業：後期の到達目標と工程表の確認 復習：授業での話し合いを踏まえ、自分の研究の工程表を作成する。	
2	杉野 知恵	【第 2 回】 予習：配布資料を読み、質問事項をまとめる。 授業：発表資料の作り方 復習：授業の内容を参考に合同研究発表会のアイデアを考える。	
3	杉野 知恵	【第 3 回】 予習：自分のゼミ論を読み、引用・参考文献が明示されているか確認する。 授業：ゼミ論執筆にあたって（引用の仕方など） 復習：授業の内容を参考に、ゼミ論の引用部分などを書き直す。	
4	杉野 知恵	【第 4 回】 予習：自分のアイデアを発表する準備をする。 授業：合同研究発表会でのテーマの検討 復習：授業で出されたテーマ案を検討する。	
5	杉野 知恵	【第 5 回】 予習：テーマ案についての意見をまとめる。 授業：合同研究発表会でのテーマの精査（ディスカッション） 復習：授業での話し合いを踏まえ、具体的な発表内容を検討する。	
6	杉野 知恵	【第 6 回】 予習：自分がどのような貢献ができるか考える。 授業：役割分担の決定・工程表の作成（グループワーク） 復習：合同研究発表会に向けて自分がすべきことを整理する。	
7	杉野 知恵	【第 7 回】 予習：個人研究発表の準備をする。 授業：ゼミ論文中間発表とピアレビュー（1）（授業内課題①） 復習：発表を踏まえ、ゼミ論文をまとめる。	
8	杉野 知恵	【第 8 回】 予習：個人研究発表の準備をする。 授業：ゼミ論文中間発表とピアレビュー（2）（授業内課題①） 復習：発表を踏まえ、ゼミ論文をまとめる。	
9	杉野 知恵	【第 9 回】 予習：各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。 授業：合同研究発表の全体像の確認（グループワーク） 復習：他の担当と進捗を確認する。	
10	杉野 知恵	【第 10 回】 予習：各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。 授業：パンフレットの作成（グループワーク） 復習：他の担当と進捗を確認する。	
11	杉野 知恵	【第 11 回】 予習：各自の担当に基づき、合同研究発表会の準備をする。 授業：パワーポイントの作成（グループワーク）	

科目分類	120-310-24	授業コード	FE1443
科目名称	観光文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	羽鳥 修	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	羽鳥 修	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20	研究室	10-609
授業概要	アメリカ合衆国を中心とする西半球の国々を対象として、文化・歴史と観光の両面から研究します。2つの主要な目的は、ゼミ論文とツアープランの作成です。これらの目的のための作業を通じて調べる力、読む力、書く力、纏める力、発表する力を身につけます。また、授業ではレジュメを作成して個別発表し、その後に質疑応答を行い、併せて適宜ペアワークとグループワークも行います。		
到達目標	ゼミ論とツアープランの作成という2年間の目的を達成するための第1準備段階として、3年次にはツアープランの作成を1度行いました。また、ゼミ論については3年次後期の課題としてスタートを始めました。今年度前期には、これら2つの目的を仕上げるために前半はゼミ論、後半はツアープランの作成に時間を費やす予定です。2年間の総仕上げとして、改めて到達目標を「読む力、書く力、調べる力、纏める力、発表する力」など諸能力を身につけることにします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	羽鳥 修	【第1回】 予習 : 4年次における課題の準備をする。 授業 : 授業計画の説明 復習 : 次々週発表の準備を確認する。	
2	羽鳥 修	【第2回】 予習 : 配布資料を読む。 授業 : パンフレットの作成 (観光文化ゼミの受講生に対する全体説明) 復習 : 配布資料で理解を確認する	
3	羽鳥 修	【第3回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備 (発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること) 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
4	羽鳥 修	【第4回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備 (発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること) 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
5	羽鳥 修	【第5回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備 (発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること) 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
6	羽鳥 修	【第6回】 予習 : ゼミ論のプレゼン準備 (発表者は事前に PPT とレジュメを配布すること) 授業 : プレゼンおよび質疑応答 復習 : 本日の復習および各自ゼミ論の課題を進める	
7	羽鳥 修	【第7回】 予習 : 合同発表会用パンフの準備 授業 : 合同発表会用パンフの確認 (グループワーク) 復習 : 合同発表会用パンフの手直し	
8	羽鳥 修	【第8回】 予習 : 合同発表会のパンフの準備 授業 : 合同発表会用パンフの確認 (グループワーク) 復習 : 合同発表会用パンフの手直し	
9	羽鳥 修	【第9回】 予習 : 合同発表会用パンフの準備 授業 : 合同発表会用パンフの確認 (グループワーク) 復習 : 合同発表会用パンフの手直し	
10	羽鳥 修	【第10回】 予習 : 合同発表会用 PPT の準備 授業 : 合同発表会用 PPT の確認 (グループワーク) 復習 : 合同発表会用 PPT の手直し	
11	羽鳥 修	【第11回】 予習 : 合同発表会用 PPT の準備 授業 : 合同発表会用 PPT の確認 (グループワーク)	

科目分類	120-310-24	授業コード	FE1444
科目名称	観光文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	張 景泰	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	張 景泰	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10	研究室	10-615
授業概要	本ゼミでは、教員の指導のもとに学生が自主的に研究・発表・討論を行う。日・韓の比較研究を含め、観光と文化を主なテーマにし、文献の探し方、論文の書き方、発表の仕方などを練習する。2 年間のゼミを通して、自分が理解した事象を的確に相手に伝える能力を開発することで、聞き手にその内容を的確に伝達することができる。ゼミで「研究成果を発表する」を目標にして準備する過程で、最終的に「仕事に取り組む姿勢」や「コミュニケーション能力」など、社会人として必要とされる基礎的能力を身に付けられる。		
到達目標	①レポートの書き方をマスターする。 ②プレゼンテーションの技法を向上する。特に表現したい内容を整理して画面構成することで、伝えることができる。 ③社会人として必要とされる基礎的能力、いわゆる課題発見力、コミュニケーション能力などを習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	張 景泰	【第 1 回】 予習：夏季休暇中の研究活動を整理しておく。 授業：夏季休暇中の研究活動の報告、観光文化ゼミⅣの後期全体説明 復習：自分の研究課題を再認識し、詳細化しておく。ツアープランに関しても再認識し、詳細化しておく。	
2	張 景泰	【第 2 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：パンフレット制作について（全体説明） 復習：【第 2 回】ゼミで学習したことを復習しておく。	
3	張 景泰	【第 3 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：アカデミック・ライティング（ゼミ論の準備）① 復習：【第 3 回】ゼミで学習したことを復習しておく。	
4	張 景泰	【第 4 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：アカデミック・ライティング（ゼミ論の準備）② 復習：【第 4 回】ゼミで学習したことを復習しておく。	
5	張 景泰	【第 5 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：ゼミ論の仮提出、ツアープランの代表作を選出 復習：【第 5 回】ゼミで学習したことを復習しておく。	
6	張 景泰	【第 6 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：ツアープランの作成①旅のテーマ、旅行先の決定 復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。	
7	張 景泰	【第 7 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：ツアープランの作成②日程表の決定、各自役割分担 復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。	
8	張 景泰	【第 8 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：ツアープランの作成③最終ツアープランの完成。 復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。	
9	張 景泰	【第 9 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：ツアープランの作成④ツアープランの微調整、各自役割の発表（プレゼンテーション） 復習：用意した資料を修正し、次の分担内容を確認する。	
10	張 景泰	【第 10 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し、発表に備える。聞き手は積極的に質疑応答を準備する。 授業：ツアープランパンフレットの発表（プレゼンテーション） 復習：報告者によるプレゼンテーション内容を再確認する。	

11	張 景泰	【第 11 回】 予習 : ゼミ生全員が一致団結してプレゼンテーションを準備し、発表に備える。 授業 : 合同ゼミ発表会の予行演習①（プレゼンテーション） 復習 : 発表の最終準備をする。						
12	張 景泰	【第 12 回】 予習 : 合同ゼミ発表会の最終調整 授業 : 合同ゼミ発表会の予行演習②（プレゼンテーション） 復習 : 合同ゼミ発表会について再認・分析をする。						
13	張 景泰	【第 13 回】 予習 : 合同ゼミ発表会の感想を各自まとめる。 授業 : 観光文化ゼミの合同ゼミ発表会（プレゼンテーション） 復習 : 関連議論を行い、今後すべきものを整理する。						
14	張 景泰	【第 14 回】 予習 : ゼミ論・卒論の相談内容をメモする。 授業 : 合同ゼミ発表会の反省会、ゼミ論指導 復習 : 論文最終チェック						
15	張 景泰	【第 15 回】 予習 : 配布資料を読んでおく。 授業 : ゼミ全体のまとめ、授業評価アンケート、研究の総括及びゼミ論指導 復習 : ゼミで身につけたことを振り返り、今後の活用方法について考える。						
授業開始前学習		今期では、ツアープラン作成を中心にゼミを進行するので、各旅行会社のツアー商品を資料として集め、分析を行って下さい。自分のテーマに関しては、引き続き関連資料の集め、研究の深化、整理を行って下さい。						
授業内課題のフィードバックの方法		プレゼンテーションの方法、内容を質疑応答や議論を重ねることで、プレゼンテーションを再認識し、改善すべきところは教員がフィードバックする。						
テキスト・教材		特に指定する予定はない。教科書を用いる代わりに、毎回、講義資料を配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		授業への参加度・貢献度など 70%。報告 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	120-310-24（J）		授業コード	FE1445	
科目名称	観光文化ゼミⅣ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅳ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	鮫島 卓		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鮫島 卓		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30		研究室	10-606	
授業概要	後期は 4 年間の学びの集大成として 2 つのことを行う。第 1 に学生個人の研究テーマをもとにゼミ論（8000 字以上）を完成させ、研究発表を行う。第 2 に前期から進めてきたグループ研究の成果として、能登半島震災復興支援を目的とした「Z 世代を呼び込むガイドブック」を制作し、観光文化学類合同発表会（12 月）で口頭発表を行う。 ゼミ論やグループ研究を通じて、社会人になっても通用する能動的な学び（読む・聞く・考える・書く・発表する）の向上を図ると同時に、未知なることに挑戦し、多少の失敗にもめげずに訂正しながら自分の可能性を広げてほしい。				
到達目標	① ゼミ論を完成させ、研究発表を行う。 ② 社会人に必要な主体性・社交力・チームワーク力を向上させる。 ③ 研究を通じて未知の挑戦をして学び続ける姿勢と自信をつける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	鮫島 卓	【第 1 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）合宿ふりかえり （講義）授業の計画と方針、学園祭について《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
2	鮫島 卓	【第 2 回】 予習：教科書の該当箇所を読む 授業：（演習）My News① （講義）ゼミ論：論文の様式と構成、進め方《ディスカッション》 復習：授業レポートの提出			
3	鮫島 卓	【第 3 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News② （演習）学園祭準備（装飾・展示・模擬店準備）《グループワーク》 復習：授業レポートの提出			
4	鮫島 卓	【第 4 回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：（演習）My News③ （演習）ガイドブック制作：動画視聴「記事化と編集」《グループワーク》 復習：授業レポートの提出			
5	鮫島 卓	【第 5 回】 予習：教科書の該当箇所を読んで研究を進める 授業：（演習）My News④ （演習）ガイドブック編集作業 《グループワーク》 復習：授業レポートの提出			
6	鮫島 卓	【第 6 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News⑤ （演習）ガイドブック原稿確認と入稿 《グループワーク》 復習：授業レポートの提出			
7	鮫島 卓	【第 7 回】 予習：発表の準備を進める 授業：（演習）My News⑥ （演習）ゼミ論個別相談（5 人）《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出			
8	鮫島 卓	【第 8 回】 予習：発表の準備をする 授業：（演習）My News⑦ （演習）ゼミ論個別相談（4 人）《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出			

9	鮫島 卓	【第9回】 予習：企画の準備を進める 授業：（演習）My News⑧ （演習）合同発表会準備 スライド企画制作 復習：授業レポートの提出						
10	鮫島 卓	【第10回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：演習）My News⑨ （演習）合同発表会準備 スライド企画制作《グループワーク》 復習：授業レポートの提出						
11	鮫島 卓	【第11回】 予習：グループ研究を各自進める 授業：（演習）合同発表会準備 模擬プレゼンテーション 復習：授業レポートの提出						
12	鮫島 卓	【第12回】 予習：発表の準備を進める 授業：合同発表会@記念講堂 ※3～4 限 復習：授業レポートの提出						
13	鮫島 卓	【第13回】 予習：発表の準備をする 授業：ゼミ輪執筆 復習：授業レポートの提出						
14	鮫島 卓	【第14回】 予習：研究を各自で進める 授業：ゼミ論発表① 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
15	鮫島 卓	【第15回】 予習：発表の準備をする 授業：ゼミ論発表② 《プレゼンテーション》 復習：授業レポートの提出						
授業開始前学習		過去のゼミの活動は下記の鮫島ゼミのホームページでも公開している。 鮫島研究室 HP						
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。						
テキスト・教材		鮫島卓（2022）『観光文化ゼミ』駒沢女子大学教科書シリーズ						
参考書								
評価の基準と方法		ゼミ論（50点）、グループ研究（合同発表会）（50点）で総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成	社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成	観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成	観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○			◎	△	
関連科目	ゼミで実践していく専門知識を習得する場として「観光学」「観光マーケティング」「観光政策論」を履修することが望ましい。							
その他	鮫島ゼミの最大の特徴は、学生が相互に教え・学び合うゼミをつくりあげることにある。文献で知識を習得するだけでなく、学外実習を通じて実践力も養ってほしい。尚、ゼミの運営（課題の出題・提出・評価）は Google Classroom を使う。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	教員は長年、旅行会社・テーマパーク・観光開発の実務を行ってきた。現在教員の研究のテーマは「観光地のイノベーション」「アグリツーリズム」「観光の教育的効果」である。							

科目分類	120-310-24	授業コード	FE1446
科目名称	観光文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture Ⅳ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡邊 光章	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 光章	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-501
授業概要	これまでの様々な学びを通じて修得した「問題を乗り越える力」を結集します。3 年次からの継続した学びの中で、4 年生後期の時点ではゼミ論の執筆やツアープランの企画発表の準備も終えるように進めます。周囲の状況に惑わされず、ゼミを通じて落ち着いて自分と上手に向き合う時間を作るなかで、成果に繋がる行動を更に積み重ねます。不要なアンコンシャス・バイアスから解放される事で、「心理的安全性」を重視し、ゼミ生全員が自分に合った方向に進んでいきます。		
到達目標	これまで継続して「課題を乗り越える力」の修得を目指してきましたが、4 年生後期には具体的な成果を出すことを目標とします。安定した精神状態で学びを続けられるよう「心理的安全性」を重視しつつ、3 年次から培ってきた様々な努力を結集し、1 人 1 人が充実した学生生活を送り、自分に合った進路を見つけることが目標です。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 光章	【第 1 回】 予習 : 前期までの自身の行動とその結果を再チェックする 授業 : 4 年次後期の自己管理の仕方 (グループワーク) 復習 : 前期までに実施してきたことの再確認	
2	渡邊 光章	【第 2 回】 予習 : 思い浮かべた未来のイメージを言葉にしてみる 授業 : PBL (問題解決型) へのアプローチ指導 (ツアープラン発表とゼミ論の内容確認) 復習 : PBL の再確認	
3	渡邊 光章	【第 3 回】 予習 : 自分になりたい未来のイメージを再考 授業 : ゼミ論とツアープラン企画を通じて、自分の得意と苦手について再考する 復習 : 考えたポイントをまとめておく	
4	渡邊 光章	【第 4 回】 予習 : イメージした内容と自身とのマッチングを考える 授業 : 完成したいツアープラン発表とゼミ論のイメージをまとめる (グループワーク) 復習 : 調べた内容の整理	
5	渡邊 光章	【第 5 回】 予習 : 調べた内容をセグメント化してみる 授業 : ゼミ論とツアープラン発表の準備を並行してバランスよく続ける 復習 : セグメントデータの整理	
6	渡邊 光章	【第 6 回】 予習 : チームでの活動と個人の活動の両方を多角度から考える 授業 : KJ 法の活用によるゼミ論テーマの最終決定 (グループワーク) 復習 : 分析の方法を整理	
7	渡邊 光章	【第 7 回】 予習 : ツアープラン企画の具体的進行 授業 : ツアープラン企画へのアプローチ 1 復習 : セグメントデータの理解	
8	渡邊 光章	【第 8 回】 予習 : 失敗と成功の分岐点を考えてみる 授業 : ツアープラン企画 2 (役割分担 : グループワーク) 復習 : 収集データを整理	
9	渡邊 光章	【第 9 回】 予習 : ツアープラン発表の準備 授業 : プランデータの読み解き方と利用法 (グループワーク) 復習 : 収集データについて整理する	
10	渡邊 光章	【第 10 回】 予習 : プランについて不足している情報を収集する 授業 : プラン発表のための準備 (グループワーク) 復習 : 選んだプランについて情報を整理する	
11	渡邊 光章	【第 11 回】 予習 : プランのブラッシュアップを考える 授業 : プランの決定とパワポ、パンフレット制作 (グループワーク)	

科目分類	120-310-24 (J)	授業コード	FE1447
科目名称	観光文化ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Seminar on Tourism Culture IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	本間 准	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	本間 准	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50	研究室	10-720
授業概要	本ゼミでは教員の指導のもと、観光の基本から実践までを学ぶ。 最初に「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、実習することで就職活動でも活用できる「社会力」を身につけてゆく。 (1) ゼミ全体では、合同発表会に向けた準備を行う (2) ゼミ生個人では、各自の研究についてゼミ論文に向けた準備を行う		
到達目標	①「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」について学び、議論・発表ができるようになる。 ②自分の選択したゼミ論文研究テーマについての発表を行う。 ③ゼミ生の発表に対してコメントや質問をし、アドバイスを行うことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	本間 准	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : イントロダクション 復習 : 授業の方針を確認する	
2	本間 准	【第 2 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ① (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
3	本間 准	【第 3 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ② (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
4	本間 准	【第 4 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ③ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
5	本間 准	【第 5 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ④ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
6	本間 准	【第 6 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ⑤ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
7	本間 准	【第 7 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ⑥ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
8	本間 准	【第 8 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ⑦ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
9	本間 准	【第 9 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ⑧ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	
10	本間 准	【第 10 回】 予習 : 配布資料を読んでおく 授業 : 合同発表会の準備 ⑨ (ディスカッション) 復習 : ゼミで学習したことを復習しておく	

11	本間 准	【第 11 回】 予習：配布資料を読んでおく 授業：合同発表会の準備 ⑩（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
12	本間 准	【第 12 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：合同発表会の準備 ⑪（ディスカッション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
13	本間 准	【第 13 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：合同発表会（プレゼンテーション） 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
14	本間 准	【第 14 回】 予習：発表者はプレゼンテーションを準備し発表に備える 授業：合同発表会の振り返り 復習：ゼミで学習したことを復習しておく							
15	本間 准	【第 15 回】 予習：配布資料を読んでおく。 授業：後期の総括・自己評価 復習：半期間のゼミで身につけたことを振り返る ※各自の研究についてゼミ論文に向けた指導を適宜行う							
授業開始前学習		以下に記載している参考書を事前に読んでおく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎に学生が発表や報告を行い、その都度評価をしていく。							
テキスト・教材		適宜、講義資料を配布する。							
参考書		溝尾良隆『観光学—基本と実践』（古今書院） じゃらんリサーチセンター『とーりまかし』（じゃらんリサーチセンター） https://jrc.jalan.net/tk/							
評価の基準と方法		授業への参加度・貢献度 70%。各回の授業レポート 30%。なお 5 回以上欠席した場合はその時点で不合格とする。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○			◎	△	
関連科目		観光文化ゼミⅢ-g							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		教員は旅行会社にてマーケティング実務を行ってきた。専門分野は観光産業及び観光地域振興である。当ゼミでは受講生が学修効果を高めることを目的とし、産学連携による授業を行う。							

卒業研究

科目分類		120-330-24			授業コード		FE9901										
科目名称		卒業研究			単位数		4.0 単位										
英文名称		Graduation Projects			授業区分												
科目責任者		田代 真人			必修・選択		履修ガイド参照										
担当教員		田代 真人			開講時期		4 年										
オフィスアワー		前期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 10:30～12:00 木曜日 10:30～12:00			研究室		10-613										
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。															
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること															
アクティブ・ラーニング型授業		無		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態									
授業回数	担当者		授業の内容														
1	田代 真人		卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべくはいい段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。														
授業開始前学習		担当教員と相談すること。															
授業内課題のフィードバックの方法		卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。															
テキスト・教材		担当教員と相談すること。															
参考書		担当教員と相談すること。															
評価の基準と方法		主査（担当教員）が評価し採点する。															
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当										△		◎		○			
関連科目		各専門教育科目など															
その他		履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。															
予習・復習の所要時間																	
実務経験を活かした教育内容																	

卒業研究

科目分類	120-330-24				授業コード	FE9902			
科目名称	卒業研究				単位数	4.0 単位			
英文名称	Graduation Projects				授業区分				
科目責任者	杉野 知恵				必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	杉野 知恵				開講時期	4 年			
オフィスアワー	－				研究室	10-713			
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。								
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること								
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数		1 回		複数教員の場合の 授業形態		
授業 回数	担当者		授業の内容						
1	杉野 知恵		卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 １．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である ２．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと ３．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと ４．論文全体の構成を常に意識すること ５．なるべくはやい段階で書き始めるみること ６．書いた部分は必ず読み直し修正すること ７．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。						
授業開始前学習	担当教員と相談すること。								
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。								
テキスト・教材	担当教員と相談すること。								
参考書	担当教員と相談すること。								
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。								
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成			社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力		人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						△	◎	○	
関連科目	各専門教育科目など								
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。								
予習・復習の 所要時間									
実務経験を活かした 教育内容									

卒業研究

科目分類		120-330-24			授業コード		FE9903		
科目名称		卒業研究			単位数		4.0 単位		
英文名称		Graduation Projects			授業区分				
科目責任者		羽鳥 修			必修・選択		履修ガイド参照		
担当教員		羽鳥 修			開講時期		4 年		
オフィスアワー		前期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20 後期 水曜日 10:50～12:50 金曜日 12:20～14:20			研究室		10-609		
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業		無		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容							
1	羽鳥 修	卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべくはやい段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						△	◎	○	
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

卒業研究

科目分類	120-330-24			授業コード	FE9904			
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位			
英文名称	Graduation Projects			授業区分				
科目責任者	張 景泰			必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	張 景泰			開講時期	4 年			
オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 09:00～12:10			研究室	10-615			
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業	無		全授業回数	1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者		授業の内容					
1	張 景泰		卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。					
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△	◎	○	
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

卒業研究

科目分類		120-330-24		授業コード		FE9905			
科目名称		卒業研究		単位数		4.0 単位			
英文名称		Graduation Projects		授業区分					
科目責任者		鮫島 卓		必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		鮫島 卓		開講時期		4 年			
オフィスアワー		前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30		研究室		10-606			
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業		無		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者		授業の内容						
1	鮫島 卓		卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。						
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						△	◎	○	
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

卒業研究

科目分類	120-330-24				授業コード	FE9906				
科目名称	卒業研究				単位数	4.0 単位				
英文名称	Graduation Projects				授業区分					
科目責任者	本間 准				必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	本間 准				開講時期	4 年				
オフィスアワー	前期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50 後期 水曜日 10:40～12:10 金曜日 16:20～17:50				研究室	10-720				
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。									
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること									
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数		1 回		複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容							
1	本間 准		卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めるみること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。							
授業開始前学習	担当教員と相談すること。									
授業内課題のフィードバックの方法	卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。									
テキスト・教材	担当教員と相談すること。									
参考書	担当教員と相談すること。									
評価の基準と方法	主査（担当教員）が評価し採点する。									
ディプロマポリシー	観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成			社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力		人間性		コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当							△	◎	○	
関連科目	各専門教育科目など									
その他	履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。									
予習・復習の 所要時間										
実務経験を活かした 教育内容										

卒業研究

科目分類		120-330-24		授業コード		FE9907			
科目名称		卒業研究		単位数		4.0 単位			
英文名称		Graduation Projects		授業区分					
科目責任者		渡邊 光章		必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		渡邊 光章		開講時期		4 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 16:20～17:50 金曜日 13:00～14:30		研究室		10-501			
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業研究である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業研究」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業		無		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者		授業の内容						
1	渡邊 光章		卒業研究は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべくはやい段階で書き始めるみること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること 卒業研究の履修手続きは、他の科目と異なる。学生便覧や教務課掲示の指示を厳守すること。						
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業研究では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		観光・文化に関する基本的な知識の修得と、多様な価値観を受容することができる豊かな人間性の養成		社会人にふさわしい教養・コミュニケーション力と、社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感の養成		観光・文化に関する専門的な知識の修得と、様々な問題に対する分析力・判断力の養成		観光・文化に関する専門的な知識の応用力と、社会に貢献できる技術力と実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						△	◎	○	
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業研究の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業研究は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。担当教員のなかには、卒業研究執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-12	授業コード	FF0011
科目名称	心理学の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psychology	授業区分	講義
科目責任者	明田川 紀彦	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	明田川 紀彦	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 火曜日 09:00～12:10 後期 水曜日 09:00～12:10 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-707
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための基本的な技術と姿勢を養うことを目標とする。ゼミ単位での授業と全体での授業を組み合わせる。課題についてのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの実践、また外部講師による講義の聴講等を通して、主体性をもって大学での学習に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにする。ゼミ生や教員との交流を深める機会にもしてもらいたい。		
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	明田川 紀彦	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ガイダンス : 「心理学類での学びを見つめ直す」(教科書 pp.6-12) 復習 : ガイダンスの内容をまとめておくこと	
2	明田川 紀彦	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.37-46) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介① 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
3	明田川 紀彦	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.47-55) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介② 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
4	明田川 紀彦	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.56-64) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介③ 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
5	明田川 紀彦	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.13-16) に目を通しておくこと 授業 : 心理学を生かした進路の設計を考える (課題解決型学習) 復習 : 授業の内容を振り返る	
6	明田川 紀彦	【第 6 回】 予習 : 配布資料に目を通しておくこと 授業 : 映像表現と心理 復習 : 授業の内容を振り返る	
7	明田川 紀彦	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.17-18) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす① (ポートフォリオ面談①) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
8	明田川 紀彦	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.19-23) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす② (ポートフォリオ面談②) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
9	明田川 紀彦	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.24-29) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する① (ポートフォリオ面談③) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
10	明田川 紀彦	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.30-34) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する② (ポートフォリオ面談④) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	

11	明田川 紀彦	【第 11 回】 予習：大学卒業後の進路選択に関する情報を検索しておく 授業：大学での学びと進路について考える①：「導入と解説」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業内容を振り返り進路選択に関して自分の長所・短所を整理する							
12	明田川 紀彦	【第 12 回】 予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業：大学での学びと進路について考える②：「体験」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：プレゼンテーションに関する講義内容の要点を整理しておくこと							
13	明田川 紀彦	【第 13 回】 予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業：大学での学びと進路について考える③：「さらに体験」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと							
14	明田川 紀彦	【第 14 回】 予習：アドヴァイザークラスの選択について検討しておくこと 授業：アドヴァイザークラスの振り分け 復習：アドヴァイザークラスの担当教員からの指示に対応しておくこと							
15	明田川 紀彦	【第 15 回】 予習：レポートの確認 授業：前期の振り返りと期末レポートの提出 復習：担当教員の指示に従ってレポートの内容とアドヴァイザークラスの選択について確認しておくこと							
授業開始前学習		本講義は、心理学類としての学びの姿勢を捉え直し、3 年次の専門ゼミを選択する際に重要な情報を提示する内容になっている。自分自身の学びの関心がどのようなものであるかを改めて確認しておくことを勧めたい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で講評の機会を設け、重要なポイントについて振り返る。							
テキスト・教材		自前教科書『心理学の基礎』（心理学類編）							
参考書									
評価の基準と方法		授業への出席が 3 分の 2 以上であることが単位取得の前提条件となる。授業への参加態度・積極的貢献 60%と提出物・発表 40%とする。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	◎	○				
関連科目		基礎ゼミⅠ・Ⅱ							
その他		本講義は、3 年次以降の専門ゼミの担当教員が、ゼミの内容を直接説明する機会も多く設定されていることから、ゼミの選択に関して非常に重要な機会となる。また心理学類の学生として身に付けておくべきスキルなども実践を交えて講義をするので、出席を重視することはもちろん、学生の積極的な参加を求める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-12		授業コード	FF0012	
科目名称	心理学の基礎		単位数	2.0 単位	
英文名称	Introductory Psychology		授業区分	講義	
科目責任者	富士原 光洋		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	富士原 光洋		開講時期	2 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10		研究室	10-704	
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための基本的な技術と姿勢を養うことを目標とする。ゼミ単位での授業と全体での授業を組み合わせ進めていくものとする。 課題についてのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの実践、また外部講師による講義の聴講等を通して、主体性をもって大学での学習に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにする。ゼミ生や教員との交流を深める機会にもしてもらいたい。				
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	富士原 光洋	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ガイダンス : 「心理学類での学びを見つめ直す」(教科書 pp.6-12) 復習 : ガイダンスの内容をまとめておくこと			
2	富士原 光洋	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.37-46) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介① 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと			
3	富士原 光洋	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.47-55) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介② 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと			
4	富士原 光洋	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.56-64) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介③ 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと			
5	富士原 光洋	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.13-16) に目を通しておくこと 授業 : 心理学を生かした進路の設計を考える (課題解決型学習) 復習 : 授業の内容を振り返る			
6	富士原 光洋	【第 6 回】 予習 : 配布資料に目を通しておくこと 授業 : 映像表現と心理 復習 : 授業の内容を振り返る			
7	富士原 光洋	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.17-18) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす① (ポートフォリオ面談①) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			
8	富士原 光洋	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.19-23) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす② (ポートフォリオ面談②) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			
9	富士原 光洋	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.24-29) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する① (ポートフォリオ面談③) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			
10	富士原 光洋	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.30-34) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する② (ポートフォリオ面談④) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			

11	富士原 光洋	【第 11 回】 予習：大学卒業後の進路選択に関する情報を検索しておく 授業：大学での学びと進路について考える①：「導入と解説」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業内容を振り返り進路選択に関して自分の長所・短所を整理する						
12	富士原 光洋	【第 12 回】 予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業：大学での学びと進路について考える②：「体験」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：プレゼンテーションに関する講義内容の要点を整理しておくこと						
13	富士原 光洋	【第 13 回】 予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業：大学での学びと進路について考える③：「さらに体験」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと						
14	富士原 光洋	【第 14 回】 予習：アドヴァイザークラスの選択について検討しておくこと 授業：アドヴァイザークラスの振り分け 復習：アドヴァイザークラスの担当教員からの指示に対応しておくこと						
15	富士原 光洋	【第 15 回】 予習：レポートの確認 授業：前期の振り返りと期末レポートの提出 復習：担当教員の指示に従ってレポートの内容とアドヴァイザークラスの選択について確認しておくこと						
授業開始前学習		本講義は、心理学類としての学びの姿勢を捉え直し、3 年次の専門ゼミを選択する際に重要な情報を提示する内容になっている。自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくことを勧めたい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で講評の機会を設け、重要なポイントについて振り返る。						
テキスト・教材		自前教科書『心理学の基礎』（心理学類編）						
参考書								
評価の基準と方法		授業への出席が 3 分の 2 以上であることが単位取得の前提条件となる。授業への参加態度・積極的貢献 60%と提出物・発表 40%とする。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				
関連科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ							
その他	本講義は、3 年次以降の専門ゼミの担当教員が、ゼミの内容を直接説明する機会も多く設定されていることから、ゼミの選択に関して非常に重要な機会となる。また心理学類の学生として身に付けておくべきスキルなども実践を交えて講義をするので、出席を重視することはもちろん、学生の積極的な参加を求める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-12		授業コード	FF0013	
科目名称	心理学の基礎		単位数	2.0 単位	
英文名称	Introductory Psychology		授業区分	講義	
科目責任者	保坂 律子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	保坂 律子		開講時期	2 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 10:00～13:00 後期 水曜日 10:00～13:00		研究室	10-709	
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための基本的な技術と姿勢を養うことを目標とする。ゼミ単位での授業と全体での授業を組み合わせ進めていくものとする。 課題についてのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの実践、また外部講師による講義の聴講等を通して、主体性をもって大学での学習に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにする。ゼミ生や教員との交流を深める機会にもしてもらいたい。				
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	保坂 律子	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ガイダンス : 「心理学類での学びを見つめ直す」(教科書 pp.6-12) 復習 : ガイダンスの内容をまとめておくこと			
2	保坂 律子	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.37-46) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介① 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと			
3	保坂 律子	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.47-55) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介② 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと			
4	保坂 律子	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.56-64) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介③ 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと			
5	保坂 律子	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.13-16) に目を通しておくこと 授業 : 心理学を生かした進路の設計を考える (課題解決型学習) 復習 : 授業の内容を振り返る			
6	保坂 律子	【第 6 回】 予習 : 配布資料に目を通しておくこと 授業 : 映像表現と心理 復習 : 授業の内容を振り返る			
7	保坂 律子	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.17-18) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす① (ポートフォリオ面談①) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			
8	保坂 律子	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.19-23) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす② (ポートフォリオ面談②) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.24-29) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する① (ポートフォリオ面談③) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.30-34) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する② (ポートフォリオ面談④) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること			

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習 : 大学卒業後の進路選択に関する情報を検索しておく 授業 : 大学での学びと進路について考える① : 「導入と解説」編 (グループワーク・ディスカッション) 復習 : 授業内容を振り返り進路選択に関して自分の長所・短所を整理する						
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習 : 前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業 : 大学での学びと進路について考える② : 「体験」編 (グループワーク・ディスカッション) 復習 : プレゼンテーションに関する講義内容の要点を整理しておくこと						
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習 : 前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業 : 大学での学びと進路について考える③ : 「さらに体験」編 (グループワーク・ディスカッション) 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと						
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習 : アドヴァイザークラスの選択について検討しておくこと 授業 : アドヴァイザークラスの振り分け 復習 : アドヴァイザークラスの担当教員からの指示に対応しておくこと						
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習 : レポートの確認 授業 : 前期の振り返りと期末レポートの提出 復習 : 担当教員の指示に従ってレポートの内容とアドヴァイザークラスの選択について確認しておくこと						
授業開始前学習		本講義は、心理学類としての学びの姿勢を捉え直し、3 年次の専門ゼミを選択する際に重要な情報を提示する内容になっている。自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくことを勧めたい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で講評の機会を設け、重要なポイントについて振り返る。						
テキスト・教材		自前教科書『心理学の基礎』(心理学類編)						
参考書								
評価の基準と方法		授業への出席が 3 分の 2 以上であることが単位取得の前提条件となる。授業への参加態度・積極的貢献 60%と提出物・発表 40%とする。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				
関連科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ							
その他	本講義は、3 年次以降の専門ゼミの担当教員が、ゼミの内容を直接説明する機会も多く設定されていることから、ゼミの選択に関して非常に重要な機会となる。また心理学類の学生として身に付けておくべきスキルなども実践を交えて講義をするので、出席を重視することはもちろん、学生の積極的な参加を求める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-12	授業コード	FF0014
科目名称	心理学の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psychology	授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-713
授業概要	大学生活 2 年目となる時期に改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための基本的な技術と姿勢を養うことを目標とする。ゼミ単位での授業と全体での授業を組み合わせ進めていくものとする。 課題についてのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの実践、また外部講師による講義の聴講等を通して、主体性をもって大学での学習に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにする。ゼミ生や教員との交流を深める機会にもしてもらいたい。		
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	奥野 真之	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ガイダンス : 「心理学類での学びを見つめ直す」(教科書 pp.6-12) 復習 : ガイダンスの内容をまとめておくこと	
2	奥野 真之	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.37-46) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介① 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
3	奥野 真之	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.47-55) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介② 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
4	奥野 真之	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.56-64) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介③ 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
5	奥野 真之	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.13-16) に目を通しておくこと 授業 : 心理学を生かした進路の設計を考える (課題解決型学習) 復習 : 授業の内容を振り返る	
6	奥野 真之	【第 6 回】 予習 : 配布資料に目を通しておくこと 授業 : 映像表現と心理 復習 : 授業の内容を振り返る	
7	奥野 真之	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.17-18) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす① (ポートフォリオ面談①) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
8	奥野 真之	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.19-23) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす② (ポートフォリオ面談②) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
9	奥野 真之	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.24-29) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する① (ポートフォリオ面談③) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
10	奥野 真之	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.30-34) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する② (ポートフォリオ面談④) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	

11	奥野 真之	【第 11 回】 予習 : 大学卒業後の進路選択に関する情報を検索しておく 授業 : 大学での学びと進路について考える① : 「導入と解説」編 (グループワーク・ディスカッション) 復習 : 授業内容を振り返り進路選択に関して自分の長所・短所を整理する						
12	奥野 真之	【第 12 回】 予習 : 前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業 : 大学での学びと進路について考える② : 「体験」編 (グループワーク・ディスカッション) 復習 : プレゼンテーションに関する講義内容の要点を整理しておくこと						
13	奥野 真之	【第 13 回】 予習 : 前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業 : 大学での学びと進路について考える③ : 「さらに体験」編 (グループワーク・ディスカッション) 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと						
14	奥野 真之	【第 14 回】 予習 : アドヴァイザークラスの選択について検討しておくこと 授業 : アドヴァイザークラスの振り分け 復習 : アドヴァイザークラスの担当教員からの指示に対応しておくこと						
15	奥野 真之	【第 15 回】 予習 : レポートの確認 授業 : 前期の振り返りと期末レポートの提出 復習 : 担当教員の指示に従ってレポートの内容とアドヴァイザークラスの選択について確認しておくこと						
授業開始前学習		本講義は、心理学類としての学びの姿勢を捉え直し、3 年次の専門ゼミを選択する際に重要な情報を提示する内容になっている。自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくことを勧めたい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で講評の機会を設け、重要なポイントについて振り返る。						
テキスト・教材		自前教科書『心理学の基礎』(心理学類編)						
参考書								
評価の基準と方法		授業への出席が 3 分の 2 以上であることが単位取得の前提条件となる。授業への参加態度・積極的貢献 60%と提出物・発表 40%とする。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○				
関連科目	基礎ゼミⅠ・Ⅱ							
その他	本講義は、3 年次以降の専門ゼミの担当教員が、ゼミの内容を直接説明する機会も多く設定されていることから、ゼミの選択に関して非常に重要な機会となる。また心理学類の学生として身に付けておくべきスキルなども実践を交えて講義をするので、出席を重視することはもちろん、学生の積極的な参加を求める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-12	授業コード	FF0015
科目名称	心理学の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Introductory Psychology	授業区分	講義
科目責任者	米金 孝雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	米金 孝雄	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00 後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00	研究室	10-711
授業概要	大学生生活 2 年目となる時期に改めて大学での学びとは何かということを見つめ直し、1 年次よりもさらに主体性をもって学びを深めていくための基本的な技術と姿勢を養うことを目標とする。ゼミ単位での授業と全体での授業を組み合わせ進めていくものとする。 課題についてのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの実践、また外部講師による講義の聴講等を通して、主体性をもって大学での学習に取り組み、自身の進路についても具体的なイメージを持てるようにする。ゼミ生や教員との交流を深める機会にもしてもらいたい。		
到達目標	大学での学びの姿勢と目標を改めて見直すことによって、3 年次以降に所属するゼミの選択および将来の進路について理解を深め、より専門的な心理学の学びのイメージを持つことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ガイダンス : 「心理学類での学びを見つめ直す」(教科書 pp.6-12) 復習 : ガイダンスの内容をまとめておくこと	
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.37-46) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介① 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.47-55) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介② 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.56-64) に目を通しておくこと 授業 : 研究・ゼミ紹介③ 復習 : 各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと	
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.13-16) に目を通しておくこと 授業 : 心理学を生かした進路の設計を考える (課題解決型学習) 復習 : 授業の内容を振り返る	
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習 : 配布資料に目を通しておくこと 授業 : 映像表現と心理 復習 : 授業の内容を振り返る	
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.17-18) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす① (ポートフォリオ面談①) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.19-23) に目を通しておくこと 授業 : 「形式」を「思考」と「表現」に活かす② (ポートフォリオ面談②) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
9	米金 孝雄	【第 9 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.24-29) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する① (ポートフォリオ面談③) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	
10	米金 孝雄	【第 10 回】 予習 : 教科書の該当箇所 (pp.30-34) に目を通し、心理学の「研究法」を調べておくこと 授業 : 心理学的なロジックを実践する② (ポートフォリオ面談④) (ディスカッション) 復習 : 担当教員の指示に従ってポートフォリオの内容を整理すること	

11	米金 孝雄	【第 11 回】 予習：大学卒業後の進路選択に関する情報を検索しておく 授業：大学での学びと進路について考える①：「導入と解説」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：授業内容を振り返り進路選択に関して自分の長所・短所を整理する							
12	米金 孝雄	【第 12 回】 予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業：大学での学びと進路について考える②：「体験」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：プレゼンテーションに関する講義内容の要点を整理しておくこと							
13	米金 孝雄	【第 13 回】 予習：前回の授業内容を振り返り進路選択について考えておく 授業：大学での学びと進路について考える③：「さらに体験」編（グループワーク・ディスカッション） 復習：各教員の研究テーマやゼミについて自分の関心と照らし合わせて要点を整理しておくこと							
14	米金 孝雄	【第 14 回】 予習：アドヴァイザークラスの選択について検討しておくこと 授業：アドヴァイザークラスの振り分け 復習：アドヴァイザークラスの担当教員からの指示に対応しておくこと							
15	米金 孝雄	【第 15 回】 予習：レポートの確認 授業：前期の振り返りと期末レポートの提出 復習：担当教員の指示に従ってレポートの内容とアドヴァイザークラスの選択について確認しておくこと							
授業開始前学習		本講義は、心理学類としての学びの姿勢を捉え直し、3 年次の専門ゼミを選択する際に重要な情報を提示する内容になっている。自分自身の学びの関心がどのようなものであるのかを改めて確認しておくことを勧めたい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で講評の機会を設け、重要なポイントについて振り返る。							
テキスト・教材		自前教科書『心理学の基礎』（心理学類編）							
参考書									
評価の基準と方法		授業への出席が 3 分の 2 以上であることが単位取得の前提条件となる。授業への参加態度・積極的貢献 60%と提出物・発表 40%とする。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	◎	○				
関連科目		基礎ゼミⅠ・Ⅱ							
その他		本講義は、3 年次以降の専門ゼミの担当教員が、ゼミの内容を直接説明する機会も多く設定されていることから、ゼミの選択に関して非常に重要な機会となる。また心理学類の学生として身に付けておくべきスキルなども実践を交えて講義をするので、出席を重視することはもちろん、学生の積極的な参加を求める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

心理学実験 I

科目分類	130-311-22	授業コード	FF0021
科目名称	心理学実験 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を得る。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉原 光雄	予習：実験（心理学）について調べる 授業：授業内容の説明、心理学実験について解説、実験の練習 復習：配付資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する	
2	杉原 光雄	予習：錯視について調べる 授業：錯視の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
3	杉原 光雄	予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：錯視の実験レポート作成	
4	杉原 光雄	予習：学習の理論、学習の転移について調べる 授業：両側性転移の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
5	杉原 光雄	予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：両側性転移の実験レポート作成	
6	杉原 光雄	予習：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業：触空間 2 点閾の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
7	杉原 光雄	予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：触空間弁別閾の実験レポート作成	
8	杉原 光雄	予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業：重さの感覚尺度の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
9	杉原 光雄	予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成	
10	杉原 光雄	予習：連合学習、学習曲線について調べる 授業：連合学習の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
11	杉原 光雄	予習：有意味縁り・無意味縁りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：連合学習の実験レポート作成	
12	杉原 光雄	予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業：社会的態度尺度の測定 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成	
13	杉原 光雄	予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験 1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する	

14	杉原 光雄	予習 : グループ実験の実施を準備する 授業 : グループ実験 2 実験の実施、データの収集・分析 (グループディスカッション) 復習 : 実験の分析結果を整理する							
15	杉原 光雄	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する 授業 : グループ実験 3 発表資料の作成、グループ実験の発表(報告) 復習 : グループ実験レポートの作成							
授業開始前学習		実験心理学の基本的な研究 (感覚・知覚・記憶・学習) を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材		各回の授業において実習資料を適宜配付する。							
参考書		各回の授業において関連文献を紹介する。							
評価の基準と方法		実習状況 (授業態度・授業への貢献) と提出されたレポート(授業期間内提出) により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。 単位取得には、少なくとも全体の 3 分の 2 以上の出席と、3 分の 2 以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎			○
関連科目		「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他		パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 a～d クラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。 ★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること (指定クラスは掲示板を参照) 。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

心理学実験 I

科目分類	130-311-22	授業コード	FF0023
科目名称	心理学実験 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を得る。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	朴 建映	予習：実験（心理学）について調べる 授業：授業内容の説明、心理学実験について解説、実験の練習 復習：配布資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する	
2	朴 建映	予習：錯視について調べる 授業：錯視の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
3	朴 建映	予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：錯視の実験レポート作成	
4	朴 建映	予習：学習の理論、学習の転移について調べる 授業：両側性転移の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
5	朴 建映	予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：両側性転移の実験レポート作成	
6	朴 建映	予習：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業：触空間 2 点閾の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
7	朴 建映	予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：触空間弁別閾の実験レポート作成	
8	朴 建映	予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業：重さの感覚尺度の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
9	朴 建映	予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成	
10	朴 建映	予習：連合学習、学習曲線について調べる 授業：連合学習の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
11	朴 建映	予習：有意味縁り・無意味縁りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：連合学習の実験レポート作成	
12	朴 建映	予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業：社会的態度尺度の測定 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成	
13	朴 建映	予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験 1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する	

14	朴 建映	予習 : グループ実験の実施を準備する 授業 : グループ実験 2 実験の実施、データの収集・分析 (グループディスカッション) 復習 : 実験の分析結果を整理する							
15	朴 建映	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する 授業 : グループ実験 3 発表資料の作成、グループ実験の発表(報告) 復習 : グループ実験レポートの作成							
授業開始前学習		実験心理学の基本的な研究 (感覚・知覚・記憶・学習) を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材		各回の授業において実習資料を適宜配付する。							
参考書		各回の授業において関連文献を紹介する。							
評価の基準と方法		実習状況 (授業態度・授業への貢献) と提出されたレポート(授業期間内提出) により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。 単位取得には、少なくとも全体の 3 分の 2 以上の出席と、3 分の 2 以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎			○
関連科目		「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他		パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 a～d クラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。 ★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること (指定クラスは掲示板を参照) 。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-311-22	授業コード	FF0024
科目名称	心理学実験 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-713
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を得る。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	奥野 真之	予習：実験（心理学）について調べる 授業：授業内容の説明、心理学実験について解説、実験の練習 復習：配布資料を講読し、心理学実験や実験レポートについて整理する	
2	奥野 真之	予習：錯視について調べる 授業：錯視の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、錯視の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
3	奥野 真之	予習：平均値、標準偏差について調べる。ミュラーリヤー錯視の先行研究について文献を調査する 授業：錯視の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：錯視の実験レポート作成	
4	奥野 真之	予習：学習の理論、学習の転移について調べる 授業：両側性転移の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、両側性転移の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
5	奥野 真之	予習：両側性転移の先行研究について文献を調査する 授業：両側性転移の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：両側性転移の実験レポート作成	
6	奥野 真之	予習：触空間弁別閾、極限法について調べる 授業：触空間 2 点閾の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、触空間弁別閾の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
7	奥野 真之	予習：触空間弁別閾の先行研究について文献を調査する 授業：触空間弁別閾の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：触空間弁別閾の実験レポート作成	
8	奥野 真之	予習：感覚尺度、マグニチュード推定法について調べる 授業：重さの感覚尺度の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、感覚尺度の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
9	奥野 真之	予習：感覚尺度の先行研究について文献を調査する 授業：重さの感覚尺度の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：重さの感覚尺度の実験レポート作成	
10	奥野 真之	予習：連合学習、学習曲線について調べる 授業：連合学習の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、連合学習の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
11	奥野 真之	予習：有意味縁り・無意味縁りを用いた連合学習の先行研究について文献を調査する 授業：連合学習の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：連合学習の実験レポート作成	
12	奥野 真之	予習：質問紙による測定について調べる。社会的態度尺度の先行研究について文献を調査する 授業：社会的態度尺度の測定 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。社会的態度尺度の実験レポート作成	
13	奥野 真之	予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験 1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する	

14	奥野 真之	予習 : グループ実験の実施を準備する 授業 : グループ実験 2 実験の実施、データの収集・分析 (グループディスカッション) 復習 : 実験の分析結果を整理する							
15	奥野 真之	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する。パワーポイント使用法を確認する 授業 : グループ実験 3 発表資料の作成、グループ実験の発表(報告) 復習 : グループ実験レポートの作成							
授業開始前学習		実験心理学の基本的な研究 (感覚・知覚・記憶・学習) を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材		各回の授業において実習資料を適宜配付する。							
参考書		各回の授業において関連文献を紹介する。							
評価の基準と方法		実習状況 (授業態度・授業への貢献) と提出されたレポート(授業期間内提出) により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。 単位取得には、少なくとも全体の 3 分の 2 以上の出席と、3 分の 2 以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎			○
関連科目		「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究の具体的な進め方を実習で身につける。							
その他		パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 a～d クラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。 ★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること (指定クラスは掲示板を参照) 。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

心理学実験Ⅱ

科目分類	130-311-22	授業コード	FF0031
科目名称	心理学実験Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉原 光雄	予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
2	杉原 光雄	予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成	
3	杉原 光雄	予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する	
4	杉原 光雄	予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：一対比較法の実験レポート作成	
5	杉原 光雄	予習：SD 法について調べる 授業：SD 法によるイメージの測定 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、SD 法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
6	杉原 光雄	予習：SD 法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD 法によるイメージの測定 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：SD 法によるイメージの測定レポート作成	
7	杉原 光雄	予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成	
8	杉原 光雄	予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
9	杉原 光雄	予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成	
10	杉原 光雄	予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
11	杉原 光雄	予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：認知的葛藤の実験レポート作成	
12	杉原 光雄	予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験 1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する	
13	杉原 光雄	予習：グループ実験の実施を準備する 授業：グループ実験 2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション） 復習：実験データを整理する	

14	杉原 光雄	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する 授業 : グループ実験 3 データの分析 (グループディスカッション) 復習 : 実験の分析結果について整理する							
15	杉原 光雄	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する。発表の用意をする 授業 : グループ実験 4 発表資料の作成、グループ実験の発表 (グループディスカッション) 復習 : グループ実験レポートの作成							
授業開始前学習		実験心理学の基本的な研究 (感覚・知覚・記憶・学習) を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材		各回の授業において実習用のテキスト・資料等を適宜配付する。							
参考書		各回の授業において関連文献を紹介する。							
評価の基準と方法		実習状況 (授業態度・授業への貢献) と提出されたレポート (授業期間内提出) により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。 単位取得には、少なくとも全体の 3 分の 2 以上の出席と、3 分の 2 以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎			○
関連科目		「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他		パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 a～d クラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。 ★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること (指定クラスは掲示板を参照) 。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-311-22	授業コード	FF0033
科目名称	心理学実験Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	朴 建映	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	朴 建映	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学修し、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	朴 建映	予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
2	朴 建映	予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成	
3	朴 建映	予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する	
4	朴 建映	予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：一対比較法の実験レポート作成	
5	朴 建映	予習：SD 法について調べる 授業：SD 法によるイメージの測定 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、SD 法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
6	朴 建映	予習：SD 法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD 法によるイメージの測定 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：SD 法によるイメージの測定レポート作成	
7	朴 建映	予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成	
8	朴 建映	予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
9	朴 建映	予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成	
10	朴 建映	予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
11	朴 建映	予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：認知的葛藤の実験レポート作成	
12	朴 建映	予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験 1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する	
13	朴 建映	予習：グループ実験の実施を準備する 授業：グループ実験 2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション） 復習：実験データを整理する	

14	朴 建映	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する 授業 : グループ実験 3 データの分析 (グループディスカッション) 復習 : 実験の分析結果について整理する							
15	朴 建映	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する。発表の用意をする 授業 : グループ実験 4 発表資料の作成、グループ実験の発表 (グループディスカッション) 復習 : グループ実験レポートの作成							
授業開始前学習		実験心理学の基本的な研究 (感覚・知覚・記憶・学習) を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材		各回の授業において実習用のテキスト・資料等を適宜配付する。							
参考書		各回の授業において関連文献を紹介する。							
評価の基準と方法		実習状況 (授業態度・授業への貢献) と提出されたレポート (授業期間内提出) により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。 単位取得には、少なくとも全体の 3 分の 2 以上の出席と、3 分の 2 以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎			○
関連科目		「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他		パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 a～d クラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。 ★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること (指定クラスは掲示板を参照) 。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-311-22	授業コード	FF0034
科目名称	心理学実験Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Experiment in Psychology Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-713
授業概要	心理学実験の知識・技術（①実験の計画立案、②統計に関する基礎的な知識）を学び、実験研究を理解し、心理学実験の遂行上必要となる基礎的な実験技術を習得する。実習内容としては、心理学実験室において、実験心理学として総称される感覚・知覚・記憶領域の基礎的な実験を行う。そして、問題・仮説の設定から実験手続きの実施、資料（データ）分析、レポート作成に至る、一連の心理学実験の進め方を身につける。毎回授業に積極的に参加し、実験法に要求される正確な手続きを十分理解し、技術として身につけることが重要である。		
到達目標	心理学実験の基本的な進め方を理解し、正確に実験者の役割を実行できるようになる。 実験で収集した資料を整理して統計的分析を行い、実験レポートを作成する能力を身につける。 他者と協力して実験研究を進めるために必要なコミュニケーション技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	奥野 真之	予習：記憶のモデルについて調べる 授業：自由再生における系列位置効果 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、記憶の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
2	奥野 真之	予習：系列位置効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：自由再生における系列位置効果 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：自由再生における系列位置効果の実験レポート作成	
3	奥野 真之	予習：一対比較法について調べる 授業：一対比較法の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、一対比較法の理論について整理する。実験の内容を整理する	
4	奥野 真之	予習：一対比較法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：一対比較法の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：一対比較法の実験レポート作成	
5	奥野 真之	予習：SD 法について調べる 授業：SD 法によるイメージの測定 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、SD 法の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
6	奥野 真之	予習：SD 法を用いた先行研究について文献を調査する 授業：SD 法によるイメージの測定 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：SD 法によるイメージの測定レポート作成	
7	奥野 真之	予習：意志決定に関する情報の影響について調べる 授業：判断に及ぼす他者情報の影響の実験 実験の説明と実施。結果分析とレポート作成について解説 復習：配布資料を講読する。実験の内容を整理する。判断に及ぼす他者情報の影響レポート作成	
8	奥野 真之	予習：性格検査について調べる 授業：質問紙法による性格の測定 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、性格検査の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
9	奥野 真之	予習：質問紙による性格検査を扱った先行研究について文献を調査する 授業：質問紙法による性格の測定 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：質問紙法による性格の測定レポート作成	
10	奥野 真之	予習：ストループ効果について調べる 授業：認知的葛藤の実験 1 実験の説明と実施 復習：配布資料を講読し、ストループ効果の研究史や理論について整理する。実験の内容を整理する	
11	奥野 真之	予習：ストループ効果を扱った先行研究について文献を調査する 授業：認知的葛藤の実験 2 結果分析とレポート作成について解説 復習：認知的葛藤の実験レポート作成	
12	奥野 真之	予習：グループ実験であつかうテーマについて予備調査をする 授業：グループ実験 1 実験の計画と準備、教示、装置・刺激の作成（グループディスカッション） 復習：グループ実験の計画を整理する。実験に必要な機材などを確認する	
13	奥野 真之	予習：グループ実験の実施を準備する 授業：グループ実験 2 実験の実施、データの収集（グループディスカッション） 復習：実験データを整理する	

14	奥野 真之	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する 授業 : グループ実験 3 データの分析 (グループディスカッション) 復習 : 実験の分析結果について整理する							
15	奥野 真之	予習 : 実験のテーマに関連する文献を調査する。発表の用意をする 授業 : グループ実験 4 発表資料の作成、グループ実験の発表 (グループディスカッション) 復習 : グループ実験レポートの作成							
授業開始前学習		実験心理学の基本的な研究 (感覚・知覚・記憶・学習) を学んでおくことと実習内容が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された実験レポートの内容や書き方については、授業内で全体の講評をフィードバックする。また、個別の指導や質問回答を随時行う。							
テキスト・教材		各回の授業において実習用のテキスト・資料等を適宜配付する。							
参考書		各回の授業において関連文献を紹介する。							
評価の基準と方法		実習状況 (授業態度・授業への貢献) と提出されたレポート (授業期間内提出) により評価する。配点は、実習状況評価 65 点とレポート評価 35 点とする。 単位取得には、少なくとも全体の 3 分の 2 以上の出席と、3 分の 2 以上のレポート提出が必要である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		◎			○
関連科目		「心理学Ⅰ、Ⅱ」「心理学入門Ⅰ、Ⅱ」で学ぶ基本的研究について、具体的進め方を実習で身につける。							
その他		パソコンを使用するので、Word、Excel 等の基本的な操作方法を習得しておくことが望ましい。 各実験終了後に作成するレポートの提出については、指定された提出期限から 1 週間を過ぎた場合は受け取らない。 実習で使う装置の都合上、授業内容を変更することがある。 a～d クラスの授業内容は共通だが、各クラスの進行状況に応じて順番等が前後する場合がある。 ★履修希望者は、指定されたクラスで履修すること (指定クラスは掲示板を参照) 。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-311-13	授業コード	FF0040
科目名称	心理学研究法 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Methods in Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○ 研究における倫理、について学修する。そして心理学の研究方法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。 第 1 期では、実証的研究法（量的研究）として心理学研究に数多く採用されている、実験法と調査法について、その方法論や手続きを学び、理解する。さらに心理学研究における倫理について理解する。		
到達目標	心理学の実証的研究法（量的研究）としての実験法と調査法について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題が設定されたとき、実験法・調査法でその課題を研究する研究計画を作成できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	富士原 光洋	【第 1 回】 予習：心理学で用いられる研究方法について調べる 授業：心理学の研究方法について（教科書 1 頁から 2 頁） 復習：実験法、調査法、観察法を比較する	
2	富士原 光洋	【第 2 回】 予習：実験法の定義について調べる 授業：実験法とは（教科書 3 頁から 6 頁） 復習：実験法の必要性をまとめる	
3	富士原 光洋	【第 3 回】 予習：実験統制（コントロール）について調べる 授業：実験法の手続きと基本事項 1 問題の設定?反応の統制（教科書 7 頁から 10 頁） 復習：2 次変数のコントロールを確認する	
4	富士原 光洋	【第 4 回】 予習：実験デザイン（実験計画）について調べる 授業：実験法の手続きと基本事項 2 反応の観察、記録、測定、実験結果の分析（教科書 11 頁から 15 頁） 復習：具体的な「実験者の及ぼす効果」を考えてまとめる	
5	富士原 光洋	【第 5 回】 予習：資料（知覚の実験）を講読する 授業：実験法研究における倫理、実験法研究例（知覚の実験）（教科書 16 頁から 18 頁） 復習：資料（知覚の実験）の実験計画を確認する	
6	富士原 光洋	【第 6 回】 予習：資料（知覚の実験）の問題点、疑問点をまとめる 授業：実験法研究例から発展研究へ（教科書 19 頁から 22 頁） 復習：自分の発展研究（追実験）を作成する 実験法についての資料調べとレポート作成	
7	富士原 光洋	【第 7 回】 予習：質問紙法について調べる 授業：調査法とは（教科書 23 頁から 26 頁 第 1 回テスト（実験法） 復習：社会調査法の具体例を探す	
8	富士原 光洋	【第 8 回】 予習：国勢調査について調べる 授業：調査法の手続きと基本事項 1 分類と調査目標・調査仮説（教科書 27 頁から 31 頁） 実験法のレポート提出 復習：面接調査法と郵送調査法を比較する	
9	富士原 光洋	【第 9 回】 予習：資料の調査項目例を講読する 授業：調査法の手続きと基本事項 2 調査票の構成?調査の実施（教科書 32 頁から 36 頁） 第 1 回テストの講評 復習：調査項目の分類を整理する	
10	富士原 光洋	【第 10 回】 予習：標本抽出について調べる 授業：調査法の統計的知識（教科書 37 頁から 39 頁） 復習：サンプリング誤差に関する問題を解く	

11	富士原 光洋	【第 11 回】 予習：資料（調査法研究）を講読する 授業：調査法研究における倫理、調査法研究例（教科書 40 頁） 復習：資料（調査法研究）のについて方法を整理する						
12	富士原 光洋	【第 12 回】 予習：資料（調査法研究）の問題点、疑問点をまとめる 授業：調査法研究例から発展研究へ（教科書 40 頁） 復習：自分の発展研究（追試験）計画を作成する 調査法についての資料調べとレポート作成						
13	富士原 光洋	【第 13 回】 予習：資料（心理学研究における統計）を講読する 授業：実験法におけるデータの分析（教科書 41 頁から 46 頁） 復習：資料の実験例について集計を行う						
14	富士原 光洋	【第 14 回】 予習：資料（心理学研究における統計）の記述統計について講読する 授業：調査法におけるデータの分析（教科書 47 頁から 53 頁） 第 2 回テスト（調査法） 復習：資料の調査例について集計を行う						
15	富士原 光洋	【第 15 回】 予習：ノートから実験法と調査法のキーワードをピックアップする 授業：実験法と調査法の比較、研究法用語の整理（教科書 54 頁から） 第 2 回テストの講評 調査法のレポート提出 復習：実験法と調査法のキーワードを整理して再確認する						
授業開始前学習		心理学の基本的知識を学習しておく授業が理解しやすい。 (心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目、14 回目に実施する単元テスト（第 1 回テスト、第 2 回テスト）については、1,2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト（駒沢女子大学教科書シリーズ）を指示する。このほかに適宜資料を配布する。						
参考書		中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣） アン・サール著、宮本・渡邊（訳）、2005、『心理学研究法入門』（新曜社）						
評価の基準と方法		授業課題(授業内課題、復習課題)の評価(50%)、2 回のテスト成績(50%)による。 履修者全体の評価点平均が 70 点台（成績評価「良」）になるように点数調整を行う。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。							
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、単位を認定しない。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-311-13	授業コード	FF0050
科目名称	心理学研究法Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Methods in PsychologyⅡ	授業区分	講義
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	○ 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）、○ データを用いた実証的な思考方法、○ 研究における倫理について学修する。そして心理学の研究手法について、基本的な考え方から、具体的実施方法や研究資料の分析方法を学び、身につける。第Ⅱ期では、実証的研究法として 方法論的価値が見直されている観察法と面接法について、その方法論と手続きを学び、理解する。また、研究によって得られた心理学データ（資料）の分析について、統計的な理解を含め、その分析手続きを理解する。		
到達目標	心理学の実証的研究法である観察法、検査法、面接法、さらに統計的分析について、基本的用語と考え方を理解し、説明ができるようになる。 具体的研究課題を設定し、観察法、検査法で実施する研究計画を作成する能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	富士原 光洋	【第 1 回】 予習 : テキスト 1 頁から 3 頁の講読 授業 : 観察法とは、観察法の内容と分類の理解 (テキスト 1 頁から 3 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 3 頁の課題 1, 2 を自習	
2	富士原 光洋	【第 2 回】 予習 : テキスト 4 頁から 6 頁の講読 授業 : 観察法の基本事項 1 (手続きから記録法まで) (テキスト 4 頁から 6 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 6 頁 課題 1, 2, 3 を自習	
3	富士原 光洋	【第 3 回】 予習 : テキスト 7 頁から 9 頁の講読 授業 : 観察法の基本事項 2 (実施から信頼性の検討まで) (テキスト 7 頁から 9 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 9 頁 課題 1, 2 を自習	
4	富士原 光洋	【第 4 回】 予習 : テキスト 10 頁から 13 頁の講読 授業 : 参加観察法について (テキスト 10 頁から 13 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 12 頁 課題 1, 2 を自習	
5	富士原 光洋	【第 5 回】 予習 : 配付資料 研究例の講読 授業 : 観察法研究例 (テキスト 14 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 14 頁の設問を自習	
6	富士原 光洋	【第 6 回】 予習 : テキスト 15 頁から 18 頁の講読 授業 : 観察法研究例 (テキスト 15 頁から 18 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 18 頁 発展学習を自習 観察法についての資料調べとレポート作成	
7	富士原 光洋	【第 7 回】 予習 : テキスト 19 頁から 23 頁の講読 授業 : 心理検査法とは (テキスト 19 頁から 23 頁) 第 1 回テスト (観察法) 復習 : キーワードの確認、テキスト 23 頁 課題 1	
8	富士原 光洋	【第 8 回】 予習 : テキスト 24 頁から 26 頁の講読 授業 : 心理検査法 2 知能検査について (テキスト 24 頁から 26 頁) 観察法のレポート提出 復習 : キーワードの確認	
9	富士原 光洋	【第 9 回】 予習 : テキスト 27 頁から 29 頁の講読 授業 : 心理尺度の構成 1 (測定対象と尺度、尺度の信頼性と妥当性) (テキスト 27 頁から 29 頁) 第 1 回テストの講評 復習 : キーワードの確認、テキスト 29 頁 課題 1, 2, 3, 4 を自習	
10	富士原 光洋	【第 10 回】 予習 : テキスト 30 頁から 32 頁の講読 授業 : 心理尺度の構成 2 (構成の手順について) (テキスト 30 頁から 32 頁) 復習 : キーワードの確認、テキスト 32 頁 発展学習を自習	

11	富士原 光洋	【第 11 回】 予習：テキスト 33 頁から 35 頁の講読 心理検査法,面接法の研究例を探す 授業：面接法とは (テキスト 33 頁から 35 頁) 復習：キーワードの確認、面接法研究例を探す						
12	富士原 光洋	【第 12 回】 予習：心理検査法,面接法の研究例を探す 授業：心理検査法,面接法の研究例について (テキスト 33 頁から 35 頁) 復習：心理検査法,面接法についての資料調べとレポート作成						
13	富士原 光洋	【第 13 回】 予習：テキスト 36 頁から 48 頁の講読 授業：心理データ分析に必要な統計 1 (記述統計) 統計 2 (統計的検定) (テキスト 36 頁から 48 頁) 復習：キーワードの確認、例題、課題を自習						
14	富士原 光洋	【第 14 回】 予習：テキスト 49 頁から 53 頁の講読 授業：心理データ分析に必要な統計 3 (テキスト 49 頁から 53 頁) 第 2 回テスト (心理検査法、面接法) 復習：キーワードの確認、例題、課題を自習						
15	富士原 光洋	【第 15 回】 予習：テキスト 54 頁からを読む 最重要語の整理 (研究法用語の整理) 授業：研究法用語の整理 第 2 回テストの講評 復習：上記研究法に関わる用語を再チェックする。練習問題を自習する。						
授業開始前学習		心理学の基本的知識を学習しておくで授業が理解しやすい。 (心理学の入門または概論について、本を読んでおくことを勧める)						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 7 回目、14 回目に実施する単元テスト (第 1 回テスト、第 2 回テスト) については、1,2 週後 (授業 9、15 回目) に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。 このほか授業で課す小課題については、その都度全体講評を行う。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト (駒沢女子大学教科書シリーズ) ・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。						
参考書		中島・子安等 (編)、1999、『心理学辞典』 (有斐閣) アン・サール著、宮本・渡邊 (訳)、2005、『心理学研究法入門』 (新曜社)						
評価の基準と方法		授業課題 (授業内課題、復習課題、レポートを含む) の評価 (50%)、2 回のテスト成績 (50%) による。 履修者全体の評価点平均が 70 点台 (成績評価「良」) になるように点数調整を行う。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	△	○	
関連科目	「心理学Ⅰ・Ⅱ」で紹介される研究や「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」で実習する実験等の方法について、具体的な理解を深め、考察する。「卒業論文」などで実証的研究を行う際には、必要になる内容である。							
その他	科学的に「こころ」の問題を解き明かすための、正確な手続きを理解すること。 なお、受講者数により授業の予定を変更することもある。 授業の復習課題については、GWE クラスルームへの提出を求める。 授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合は、単位を認定しない (授業回数の 3 分の 2 以上の出席者のみを評価対象にする)。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-331-12 (J)	授業コード	FF0070
科目名称	臨床心理学概論	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Clinical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 金曜日 15:00~18:00 後期 金曜日 15:00~18:00	研究室	10-710
授業概要	臨床心理学は、心理臨床を実践する際の基礎となる心理学であると同時に、より広い意味での自己理解・他者理解を促進するツールでもある。本講では、臨床心理学の基本的な概念について概説する。まず、乳幼児期から老年期に至るライフサイクルの各段階でみられることの多い心理不応や障害などを扱っていく。さらに、こうした問題を援助技法するための各種アプローチと、臨床心理学的実践の各領域についても理解を深める。		
到達目標	1. 臨床心理学の基本的な概念・用語について、説明できる。 2. 心理的課題・問題について、ライフサイクルの観点から説明できる。 3. 代表的な心理療法の技法の特徴について、基礎的事項を説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 : テキスト pp.2-17 の購読 授業 : 1. 臨床心理学入門 (ミニ・レポート課題①) 復習 : 臨床心理学の歴史的背景と定義、意義	
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 : テキスト pp.20-26 の購読 授業 : 2. 臨床心理学の対象 1 正常と異常 (ミニ・レポート課題②) 復習 : 正常・異常の判断基準、心理臨床家の視点 (課題解説)	
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 : テキスト pp.27-32 の購読 授業 : 3. 臨床心理学の対象 2 乳幼児期 (ミニ・レポート課題③) 復習 : 乳児期・幼児期の特徴と発達課題 (課題解説)	
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 : テキスト pp.32-45 の購読 授業 : 4. 臨床心理学の対象 3 児童期・青年期 (ミニ・レポート課題④) 復習 : 児童期・青年期の特徴と発達課題 (課題解説)	
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 : テキスト pp.45-49 の購読 授業 : 5. 臨床心理学の対象 4 成人期 (ミニ・レポート課題⑤) 復習 : 成人期の特徴と発達課題 (課題解説)	
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 : テキスト pp.49-54 の購読 授業 : 6. 臨床心理学の対象 5 老年期 (ミニ・レポート課題⑥) 復習 : 老年期の特徴と発達課題 (課題解説)	
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 : テキスト pp.56-88 の購読 授業 : 7. 臨床心理学的人間理解 (ミニ・レポート課題⑦) 復習 : 心理アセスメント、心理面接、心理テスト、行動観察 (課題解説)	
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 : テキスト pp.90-100 の購読 授業 : 8. 臨床心理学的援助の方法 1 環境調整・ガイダンス／精神力動的アプローチ (ミニ・レポート課題⑧) 復習 : 環境調整とガイダンス、精神分析療法の特徴 (課題解説)	
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 : テキスト pp.100-107 の購読 授業 : 9. 臨床心理学的援助の方法 2 行動療法・認知行動療法 (ミニ・レポート課題⑨) 復習 : 行動療法・認知行動療法の特徴 (課題解説)	
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 : テキスト pp.107-112 の購読 授業 : 10. 臨床心理学的援助の方法 3 クライアント中心療法 (ミニ・レポート課題⑩) 復習 : クライアント中心療法の特徴 (課題解説)	

11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習 : テキスト pp.113-126 の購読 授業 : 11. 臨床心理学的援助の方法 4 遊戯療法・芸術療法 (ミニ・レポート課題⑪) 復習 : 遊戯療法・芸術療法 (表現療法) の特徴 (課題解説)						
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習 : テキスト pp.170-178 の購読 授業 : 12. 臨床心理学的援助の方法 5 家族療法・グループアプローチ (ミニ・レポート課題⑫) 復習 : 家族療法・グループアプローチの特徴 (課題解説)						
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習 : テキスト pp.178-182 の購読 授業 : 13. 臨床心理学的援助の方法 6 コミュニティアプローチ (ミニ・レポート課題⑬) 復習 : コミュニティアプローチの特徴 (課題解説)						
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習 : テキスト pp.184-219 の購読 授業 : 14. 臨床心理学的実践の領域 (ミニ・レポート課題⑭) 復習 : 教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、医療領域、産業領域、大学・研究所領域、私設心理相談領域 (課題解説)						
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習 : テキスト pp.222-234 の購読 授業 : 15. 臨床心理学の学び方 (ミニ・レポート課題⑮) 復習 : 自己理解、スーパーヴィジョン (課題解説)						
授業開始前学習		指定されたテキストの目次に目を通し、この科目で必要とされる全体図を把握しておく和良好的。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業時間内に課すミニレポートについては、毎授業の最初に Classroom の課題提出から提出を求める (前の回で課題は事前に提示する)。また、ミニレポートから把握された全体的傾向については、次の講義で解説を加える。						
テキスト・教材		野島一彦編著 2020 『臨床心理学への招待 第 2 版』ミネルヴァ書房 その他に、必要に応じて適宜資料を提示する。						
参考書								
評価の基準と方法		所定の出席数を満たした者について、授業時間内に毎回課すミニレポート (2 点×15 回 = 30 点) と、確認テスト (70 点) の合計 100 点で評価する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目	心理学入門 (心理学概論) I・II、心理学 I・II、発達心理学 I・II、心理療法論 I・II							
その他	公認心理師の国家試験の受験資格を得るために必須の科目である。 授業中に口頭で重要性を指摘された点についても、ノートをとれるよう努力すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。							

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0080
科目名称	心理学統計法	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Statistics	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理学を学ぶ上で必要な統計学の基礎を学ぶ。 またパソコン実習を通じて、データ分析のスキルを身につける。		
到達目標	記述統計学・推測統計学の考え方を理解する。 表計算アプリ（EXCEL・Google スプレッドシート）を用いてグラフの作成やデータの分析ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉原 光雄	【第 1 回】 予習：「統計 WEB 統計学の時間」の web ページを閲覧する 授業：統計学とデータ 復習：復習テスト（統計学とデータ）	
2	杉原 光雄	【第 2 回】 予習：統計学の時間「2. 度数分布とヒストグラム」「3. さまざまな代表値」を閲覧する 授業：度数分布と代表値 復習：復習テスト（度数分布と代表値）	
3	杉原 光雄	【第 3 回】 予習：統計学の時間「4. 箱ひげ図と幹葉表示」「6. 分散と標準偏差」を閲覧する 授業：散布度 復習：復習テスト（散布度）	
4	杉原 光雄	【第 4 回】 予習：統計学の時間「26. 相関分析」を閲覧する 授業：散布図と相関 復習：復習テスト（散布図と相関）	
5	杉原 光雄	【第 5 回】 予習：統計学の時間「26. 相関分析」「27. 回帰分析」を閲覧する 授業：相関係数と回帰 復習：復習テスト（相関係数・回帰）	
6	杉原 光雄	【第 6 回】 予習：統計学の時間「5. データの集計と表現」を閲覧する 授業：クロス表と連関 復習：復習テスト（クロス表と連関）	
7	杉原 光雄	【第 7 回】 予習：配付プリント（第 7 回）の購読 授業：グループ実習（1） Web アンケートの作成 復習：レポートの作成の準備	
8	杉原 光雄	【第 8 回】 予習：配付プリント（第 8 回）の購読 授業：グループ実習（2） アンケートデータの分析 復習：レポートの作成	
9	杉原 光雄	【第 9 回】 予習：統計学の時間「9. 確率と期待値」「11. 確率変数と確率分布」を閲覧する 授業：確率と確率分布（1） 確率の考え方 復習：復習テスト（確率と確率分布（1））	
10	杉原 光雄	【第 10 回】 予習：「13. いろいろな確率分布 1」「14. いろいろな確率分布 2」「15. いろいろな確率分布 3」を閲覧する 授業：確率と確率分布（2） 二項分布と正規分布 復習：復習テスト（確率と確率分布（2））	
11	杉原 光雄	【第 11 回】 予習：統計学の時間「23-1. 検定とは」「23-2. 検定で使う用語」を閲覧する 授業：統計的仮説検定の考え方（1） 二項検定 復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（1））	

12	杉原 光雄	【第 12 回】 予習：「16-1. 母集団と標本」「16-2. 全数調査と標本調査」「16-3. 標本の抽出方法」を閲覧する 授業：統計的仮説検定の考え方（2） 母集団と標本 復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（2））							
13	杉原 光雄	【第 13 回】 予習：統計学の時間「24-1. 母平均の検定（両側 t 検定）」を閲覧する 授業：統計的仮説検定の考え方（3）平均値の検定 復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（3））							
14	杉原 光雄	【第 14 回】 予習：統計学の時間「24-3. 2 標本 t 検定とは」「24-4. 対応のない 2 標本 t 検定」を閲覧する 授業：統計的仮説検定の考え方（4）平均値の差の検定 復習：復習テスト（統計的仮説検定の考え方（4））							
15	杉原 光雄	【第 15 回】 予習：配付プリント（第 15 回）の購読 授業：期末レポートの作成 復習：期末レポートの作成							
授業開始前学習		パソコンの基本操作、表計算アプリの使い方（グラフの作成、関数）を学んでおくとよい。 なお受講にあたって、数学的な知識は一切不要である。							
授業内課題のフィードバックの方法		web で復習テストを行い、結果をフィードバックする。							
テキスト・教材		web サイト「統計 WEB－統計学の時間」{ https://bellcurve.jp/statistics/course/ } web サイト「統計学が わかった！」{ https://toukeigaku-jouhou.info/ }							
参考書		本丸諒（著）『文系でも仕事に使える統計学ははじめの一步』かんき出版（2018） 倉田博史（監修）『文系のためのめっちゃやさしい統計』NEWTON PRESS（2021）							
評価の基準と方法		授業への取り組み（宿題・復習テスト含む）（50%）、レポート（20%）、期末テスト（30%）によって評価を行う。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○		◎	
関連科目		心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法、心理データ解析法							
その他		復習テストは Google のアンケートツールで行います（内容は、統計学の用語や統計量の計算などです）。 期末試験は、復習テストの内容をもとに出題します（事前に公開した問題の中から出題します）。 グループ実習では簡単な web アンケートを作成し、データを収集・分析、その結果をレポートにまとめる課題を行う予定です。 期末課題として web アンケートのデータを分析した結果をレポートにまとめる課題を課す予定です。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-330-12	授業コード	FF0090
科目名称	心理データ解析法	単位数	2.0 単位
英文名称	Data Analysis in Psychology	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理学を学ぶ上で役立つ統計学の基礎を学ぶ。授業の前半は統計的仮説検定、後半は質問紙調査において必要な統計手法について学ぶ。 またパソコンを用いた実習を通じて、データの分析手法を身につける。		
到達目標	統計的仮説検定の考え方・使い方を理解する。 質問紙調査の基本を身に着ける。 因子分析の考え方・使い方を理解する。 表計算及び統計分析アプリの使い方を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉原 光雄	【第 1 回】 予習 : 心理統計法の配布資料を閲覧する 授業 : 前期の授業「心理統計法」の復習 復習 : 本授業の復習	
2	杉原 光雄	【第 2 回】 予習 : 統計学の時間 「16. 標本と抽出法」「18. 母平均の点推定」「19. 母平均の区間推定」を閲覧する 授業 : 標本抽出と母平均の推定 復習 : 復習テスト (標本抽出と母平均の推定)	
3	杉原 光雄	【第 3 回】 予習 : 統計学の時間 「23. 検定の前に」「24-3. 2 標本 t 検定とは」「24-5. 対応のある 2 標本 t 検定」を 閲覧する 授業 : 平均値の差の検定 (1) 対応のある t 検定 復習 : 復習テスト (対応のある t 検定)	
4	杉原 光雄	【第 4 回】 予習 : 統計学の時間 「23. 検定の前に」「24-3. 2 標本 t 検定とは」「24-4. 対応のない 2 標本 t 検定」を 閲覧する 授業 : 平均値の差の検定 (2) 対応のない t 検定 復習 : 復習テスト (対応のない t 検定)	
5	杉原 光雄	【第 5 回】 予習 : 統計学の時間「25-5. 独立性の検定」「25-7. 母比率の差の検定」を閲覧する 授業 : 独立性の検定・母比率の差の検定 復習 : 復習テスト (独立性の検定・母比率の差の検定)	
6	杉原 光雄	【第 6 回】 予習 : 統計学の時間「23-4. 第 1 種の過誤と第 2 種の過誤」「31-2. 効果量 1」「31-3. 効果量 2」 授業 : 統計的検定の留意点 復習 : 復習テスト (統計的検定の留意点)	
7	杉原 光雄	【第 7 回】 予習 : 「jamovi 完全攻略ガイド」4.1 記述統計「5. t 検定」の購読 授業 : jamovi の使い方 復習 : jamovi を用いたデータ分析	
8	杉原 光雄	【第 8 回】 予習 : 「jamovi 完全攻略ガイド 第 9 章」の購読 授業 : 心理尺度の信頼性・妥当性 復習 : 復習テスト (心理尺度の信頼性・妥当性)	
9	杉原 光雄	【第 9 回】 予習 : 配布資料の購読 授業 : 質問紙調査と心理尺度の考え方・グループ研究の準備 復習 : 復習テスト (質問紙調査と心理尺度)	
10	杉原 光雄	【第 10 回】 予習 : 「jamovi 完全攻略ガイド 9.3 探索的因子分析」の購読 授業 : 因子分析の考え方 復習 : 復習テスト (因子分析)	

11	杉原 光雄	【第 11 回】 予習：「jamovi 完全攻略ガイド 9.3 探索的因子分析」の購読 授業：因子分析によるデータ分析・小レポートの作成 復習：レポートの提出						
12	杉原 光雄	【第 12 回】 予習：配付プリントの購読（第 1～10 回）の購読 授業：グループ研究（1）質問紙（web アンケート）の作成 復習：期末レポートの作成						
13	杉原 光雄	【第 13 回】 予習：配付プリントの購読（第 1～10 回）の購読 授業：グループ研究（2）データファイルの作成・データの分析 復習：期末レポートの作成						
14	杉原 光雄	【第 14 回】 予習：配付プリントの購読（第 1～10 回）の購読 授業：グループ研究（3）データの分析・レポートの作成 復習：期末レポートの作成						
15	杉原 光雄	【第 15 回】 予習：配付プリントの購読（第 1～10 回）の購読 授業：グループ研究（4）期末レポートの作成（個人指導） 復習：期末レポートの作成						
授業開始前学習		「心理学統計法」を受講しておくことが望ましい。 なお受講にあたり数学的な知識は一切不要である。						
授業内課題のフィードバックの方法		復習の一環として Google のアンケートツールを用いて復習テストを実施し、結果をフィードバックする。						
テキスト・教材		web サイト『bellcurve 統計 WEB』 https://bellcurve.jp/statistics/ web サイト『放送大学・身近な統計』 https://www.ouj.ac.jp/mijika/ web サイト 芝田 征司（著）『jamovi 完全攻略ガイド』2021-06-30 https://bookdown.org/sbtseiji/jamovi_complete_guide/						
参考書		本丸諒（著）『文系でも仕事に使える統計学はじめての一步』かんき出版 2018 年 芝田 征司（著）『数学が苦手でもわかる心理統計法入門—基礎から多変量解析まで 単行本』サイエンス社 2017 年 小塩真司・西口利文（編）『質問紙の手順』ナカニシヤ出版 2007 年 Danielle J Navarro & Dvid R Foxcroft（著） 芝田 征司（訳）『jamovi で学ぶ心理統計』 https://bookdown.org/sbtseiji/lswjamovi/						
評価の基準と方法		授業への取り組み（70% 宿題・復習テスト含む）、レポート課題（30%）によって評価を行う。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○		◎	
関連科目	心理学統計法、心理学実験Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ							
その他	グループ実習では、web アンケートによる質問紙調査を作成しデータを分析する課題を行う予定である。 毎回ではないが、随時スプレッドシートや統計アプリを用いる課題が課せられる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-330-13			授業コード	FF0100
科目名称	心理学英語講読			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology Readings in English			授業区分	講義
科目責任者	大谷 華			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大谷 華			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	本科目の目標は、関心のある心理学文献を読んで、理解し、自分の研究に役立てられるようになることです。授業で多くの英文を読みますが、英語を学ぶ授業ではありません。心理学の理解を深めていきましょう。 ・心理学文献の読解に強い意欲を持つ学生と英語文献を読む。心理系大学院進学を考えている 3 年生（4 年生も可）を対象とする。 ・翻訳ソフトを用いずに、自力で英文を和訳する。 ・心理学用語の英単語テストを毎週行う。 ・授業は受講生が提出した予習を用い、授業中に指名して発言を求めます。積極的に参加してください。				
到達目標	1. 英文の構文読解力と語彙力を高め、英語文献を読むことに挑戦する。 2. 心理学研究の考え方と専門用語を理解する。 3. 心理学文献を読んで自らの学びに役立てるための基礎的読解力を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	大谷 華	第 1 回 予習（3h）： 【準備】英文法の復習 【予習課題 1h】個人カードの提出 授業： 【単語テスト】デモテスト（一般）、和訳 8 文テスト① 【ガイダンス】評価方法、テキスト配布、等 【院試⑩】院試英語問題 【復習 1h】英文法の復習			
2	大谷 華	第 2 回 予習（3h）： 【準備】『心理院単』p.152-p.159（一般①） 【予習課題】【文献Ⅰ】①Motivation の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.152-p.159（一般①） 【文献Ⅰ】①Motivation の和訳 【読解スキル】英文法の復習 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習、英文法の復習 【授業時間外に個人面談】必要に応じて、対面か zoom で面談			
3	大谷 華	第 3 回 予習（3h）： 【準備】『心理院単』p.160-p.167（一般②） 【予習課題】【文献Ⅰ】②Memory の逐文訳 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.160-p.167（一般②） 【文献Ⅰ】②Memory の和訳 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習			
4	大谷 華	第 4 回 予習（1h）： 【準備】『心理院単』p.168-p.175（一般③）、英文法の復習 授業： 【単語テスト】『心理院単』p.168-p.175（一般③） 【院試①】院試過去問（英語）のテストと解説 【復習 1h】院試過去問の復習			
5	大谷 華	第 5 回 予習（1h）： 【準備】読解確認テストの準備、英文法の復習 授業： 【単語テスト】和訳 8 文テスト② 【読解確認テスト】テスト（文献Ⅰ＋院試①）と解説 【文献Ⅲブレ】①日本語文献の書誌情報の書き方、見出し・図表リスト 【復習 1h】読解確認テストの復習、書誌情報の書き方			

6	大谷 華	第 6 回 予習 (1h) : 【準備】『心理院単』p.92-p.101 (社会) 【予習課題】【文献Ⅲブレ】①読みたい日本語論文の書誌情報と見出し・図表リストを提出する。授業にプリントアウトを持参する。 PC 教室 : 授業 : 【単語テスト】『心理院単』p.92-p.101 (社会) 【文献Ⅲブレ】①日本語文献の検索、書誌情報、抄録、構造 (見出し・図表リスト)、英語論文配布
7	大谷 華	第 7 回 予習 (3h) : 【準備】『心理院単』p.92-p.101 (社会) 【予習課題】【文献Ⅲブレ】②配布された英語論文の書誌情報と見出し・図表リスト PC 教室 : 授業 : 【単語テスト】『心理院単』p.92-p.101 (社会) 【文献Ⅲブレ】②英語文献の検索実習、書誌情報 【授業内課題】【文献Ⅲブレ】②読みたい英語論文 3 本の書誌情報
8	大谷 華	第 8 回 予習 (4h) : 【準備】【単語テスト】『心理院単』p.62-p.71 (発達) 【予習課題】【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文①の逐文訳 【任意課題】【文献Ⅲ】自分が選択した英語論文の抄録の和訳、キーワード対訳表、見出し・図表リスト、読みたい本文箇所 授業 : 【単語テスト】『心理院単』p.62-p.71 (発達) 【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文①和訳読解 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習
9	大谷 華	第 9 回 予習 (3h) : 【準備】『心理院単』p.76-p.85 (研究法) 【予習課題】【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文②の逐文訳 授業 : 【単語テスト】『心理院単』p.76-p.85 (研究法) 【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文②和訳読解 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習
10	大谷 華	第 10 回 予習 (3h) : 【予習課題】【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文③の逐文訳 授業 : 【単語テスト】和訳 8 テスト③ (基準テスト) 【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文③和訳読解 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習
11	大谷 華	第 11 回 予習 (3h) : 【準備】『心理院単』p.102-p.111 (認知) 【予習課題】【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文④の逐文訳 授業 : 【単語テスト】『心理院単』p.102-p.111 (認知) 【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文④和訳読解 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習
12	大谷 華	第 12 回 予習 (3h) : 【準備】『心理院単』p.118-p.125 (学習) 【予習課題】【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文⑤の逐文訳 授業 : 【単語テスト】『心理院単』p.118-p.125 (学習) 【文献Ⅱ】ヴィゴツキー論文⑤和訳読解 【復習 1h】和訳と心理学概念の復習
13	大谷 華	第 13 回 予習 (3h) : 【準備】読解確認テストの準備 【予習課題】【文献Ⅲ】自分が選択した英語論文の抄録の和訳、キーワード対訳表、見出し・図表リスト、読みたい本文箇所 授業 : 【単語テスト】和訳 8 テスト④ (基準テスト) 【文献Ⅳ】ヴィゴツキー論文読解確認テスト 【授業時間内・外に個人面談】全員、対面か zoom で面談、英語論文の和訳箇所の相談
14	大谷 華	第 14 回 予習 (4h) : 【準備】『心理院単』p.214.-p.227 (キーパーソン) 【予習課題】【文献Ⅲ】指定された和訳箇所 (前半) の逐文訳

		授業： 【単語テスト】『心理院単』p214.-p.227（キーパーソン） 【文献Ⅳ】文献読解の指導							
15	大谷 華	第 15 回 予習（8h）： 【レポート課題】【文献Ⅲ】最終成果物の提出 授業： 【院試②】院試過去問（英語）のテストと解説							
授業開始前学習		授業開始前週に開始前課題を google classroom にアップするので、回答して、初回授業前日までに提出してください。 この科目の受講は、翻訳ソフトなどを使わずに、基本的な英文読解ができることを前提とします。英文法の復習をしておいてください。授業では文法的解説は行いません。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業中の単語テスト、和訳テストなどは、翌週の授業でフィードバックします。							
テキスト・教材		英文テキスト、授業プリント：授業内で配布します。 英単語テキスト（購入が必要です）：『心理院単』山崎有紀子、ナツメ社、ISBN 978-4-8163-5604-9							
参考書									
評価の基準と方法		授業参加 25%（予習・課題提出、発表、単語・和訳テスト、など）、課題成果物 30%（最終成果物、など）、テスト 45%（読解確認テスト、院試英語問題、など）によって評価します。 各文献の読解確認テストの受験、最終成果物の提出、3 分の 2 以上の出席、および和訳基準テスト合格（得点 50%）を、単位取得の必須要件とします。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		△			
関連科目									
その他		・受講には、長文英語の読解力が必要です。翻訳ソフトは構文読解力を伸ばす役に立たないので、授業では使用禁止。 ・毎週 4 時間の予習時間を生活ルーティンの中に確保してください。 ・課題は必ず期日までに提出する。授業は、予習を提出した受講生の当日発表に講師がコメントする形式です。予習をしていない受講生は授業中にやることはありません。 ・授業のノートを取る。テキストの日本語訳は配布しません。授業には紙媒体の配布テキストと自分の和訳を必携し、和訳発表と解説の要点をノートを取るなど、記録を残して学んでください。文献の読解確認テストは、紙媒体資料のみ持ち込み可になります。 ・課題は後半ほど難しくなります。受講生の学習状況により個別に課題を指定し、評価に影響する場合があります。講師の指示に従ってください。 ・授業の一環として、個人面談を講義時間外あるいは時間内に 2 回程度行います。単位取得には参加が必須です。 ・英語文献を読解するには、心理学の各分野や研究法についての知識が必要です。日本語の心理学概説書、心理学論文などを幅広く読むこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0210
科目名称	知覚・認知心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Perception and Cognition	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	周囲の環境を知覚する、過去の出来事を思い出す、考えて判断を下すといった心の働きは、「認知」機能と呼ばれるが、そうした「認知」の働きは、どのような性質を持ち、どのような基盤の上に成り立っているのだろうか？この講義では、簡単な実験や観察を行いながら人間の認知機能、特に知覚・記憶・思考の性質やしぐみについて体験的に学ぶ。		
到達目標	知覚・記憶・思考の研究法、基本原理を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉原 光雄	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み用語を調べる 授業 : 感覚・知覚の働きと測定 復習 : 復習テスト (感覚・知覚の働きと測定に関するキーワードの確認)	
2	杉原 光雄	【第 2 回】 予習 : レジュメ(明るさと色の知覚)の講読 授業 : 明るさと色の知覚 復習 : 復習テスト (明るさと色の知覚に関するキーワードの確認)	
3	杉原 光雄	【第 3 回】 予習 : レジュメ(空間と時間の知覚) の講読 授業 : 空間と時間の知覚 復習 : 復習テスト (空間と時間の知覚に関するキーワードの確認)	
4	杉原 光雄	【第 4 回】 予習 : レジュメ(知覚の知性と多感覚相互作用) の講読 授業 : 知覚の知性と多感覚相互作用 復習 : 復習テスト (知覚の知性と多感覚相互作用に関するキーワードの確認)	
5	杉原 光雄	【第 5 回】 予習 : レジュメ(顔・物体の知覚)の講読 授業 : 顔・物体の知覚 復習 : 復習テスト (顔・物体の知覚に関するキーワードの確認)	
6	杉原 光雄	【第 6 回】 予習 : レジュメ (聴覚と触覚) の講読 授業 : 聴覚と触覚 復習 : 復習テスト (聴覚と触覚に関するキーワードの確認)	
7	杉原 光雄	【第 7 回】 予習 : レジュメ (注意と知覚) の講読 授業 : 注意と知覚 復習 : 復習テスト (注意と知覚に関するキーワードの確認)	
8	杉原 光雄	【第 8 回】 予習 : レジュメ (記憶の測定と分類) の講読 授業 : 記憶の測定と分類 復習 : 復習テスト (記憶の測定と分類に関するキーワードの確認)	
9	杉原 光雄	【第 9 回】 予習 : レジュメ (ワーキングメモリ) の講読 授業 : ワーキングメモリ 復習 : 復習テスト (ワーキングメモリに関するキーワードの確認)	
10	杉原 光雄	【第 10 回】 予習 : レジュメ (記憶の原理と記憶法) の講読 授業 : 記憶の原理と記憶法 復習 : 復習テスト (記憶の原理と記憶法に関するキーワードの確認)	
11	杉原 光雄	【第 11 回】 予習 : レジュメ (日常記憶と忘却) の講読 授業 : 日常記憶と忘却 復習 : 復習テスト (日常記憶と忘却に関するキーワードの確認)	

12	杉原 光雄	【第 12 回】 予習 : レジメ (知識の表象) の講読 授業 : 知識の表象 復習 : 復習テスト (知識の表象に関するキーワードの確認)							
13	杉原 光雄	【第 13 回】 予習 : レジメ (判断と意思決定) の講読 授業 : 判断と意思決定 復習 : 復習テスト (判断と意思決定に関するキーワードの確認)							
14	杉原 光雄	【第 14 回】 予習 : レジメ (思考と問題解決) の講読 授業 : 思考と問題解決 復習 : 復習テスト (思考と問題解決に関するキーワードの確認)							
15	杉原 光雄	【第 15 回】 予習 : レジメ (潜在認知) の講読 授業 : 潜在認知 復習 : 復習テスト (潜在認知に関するキーワードの確認)							
授業開始前学習		特になし							
授業内課題のフィードバックの方法		web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする。							
テキスト・教材		使用しない (毎回 PDF 等を配布する)							
参考書		服部雅史ほか『基礎から学ぶ認知心理学－人間の認識の不思議』有斐閣 (2015 年)							
評価の基準と方法		授業への取り組み (復習テスト・感想含む) (40%)、課題 (30%)、期末試験 (30%)により評価を行う。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	○		
関連科目		学習・言語心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他		簡単な知覚や記憶の実験を行う課題を 6 ～ 7 回課す予定である (単位取得にあたっては課題を 50%以上提出することが必要)。 毎回授業後に復習テストと授業の感想の提出を課す予定である。 期末テストは、復習テストをもとに作成した予想問題を公開し、その中から出題する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0220
科目名称	学習・言語心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Learning and Language	授業区分	講義
科目責任者	杉原 光雄	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	杉原 光雄	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	人や動物には、経験から学習し、行動を適応的に修正する仕組みが備わっている。講義の前半では学習の性質やしぐみについて学ぶ。また、人はことばを使って考えたり、複雑な情報を他者に伝達したりすることができる。講義の後半では、言語心理学、発達心理学、動物心理学の知見を交えながら人間の言語能力やコミュニケーションの性質・しぐみについて学ぶ。		
到達目標	学習心理学・言語心理学の研究法、基礎的知見を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	杉原 光雄	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み用語を調べる 授業 : 非連合学習と古典的条件づけ 復習 : 復習テスト (非連合学習と古典的条件づけに関するキーワードの確認)	
2	杉原 光雄	【第 2 回】 予習 : レジュメ (道具的条件づけ) の講読 授業 : 道具的条件づけ 復習 : 復習テスト (道具的条件づけに関するキーワードの確認)	
3	杉原 光雄	【第 3 回】 予習 : レジュメ (社会的学習・技能学習) の講読 授業 : 社会的学習・技能学習 復習 : 復習テスト (社会的学習・技能学習) に関するキーワードの確認)	
4	杉原 光雄	【第 4 回】 予習 : レジュメ (回避学習・動機づけ) の講読 授業 : 回避学習・動機づけ 復習 : 復習テスト (回避学習・動機づけ) に関するキーワードの確認)	
5	杉原 光雄	【第 5 回】 予習 : レジュメ (学習研究の応用) の講読 授業 : 学習研究の応用 復習 : 復習テスト (学習研究の応用に関するキーワードの確認)	
6	杉原 光雄	【第 6 回】 予習 : レジュメ (言語能力の起源) の講読 授業 : 言語能力の起源 復習 : 復習テスト (言語能力の起源) に関するキーワードの確認)	
7	杉原 光雄	【第 7 回】 予習 : レジュメ (言語能力の生物学的基盤) の講読 授業 : 言語能力の生物学的基盤 復習 : 復習テスト (言語能力の生物学的基盤に関するキーワードの確認)	
8	杉原 光雄	【第 8 回】 予習 : レジュメ (言語の生得説) の講読 授業 : 言語の生得説 復習 : 復習テスト (言語の生得説に関するキーワードの確認)	
9	杉原 光雄	【第 9 回】 予習 : レジュメ (言語と認知) の講読 授業 : 言語と認知 復習 : 復習テスト (言語と認知に関するキーワードの確認)	
10	杉原 光雄	【第 10 回】 予習 : レジュメ (音声知覚と単語認知) の講読 授業 : 音声知覚と単語認知 復習 : 復習テスト (音声知覚と単語認知に関するキーワードの確認)	
11	杉原 光雄	【第 11 回】 予習 : レジュメ (文の理解と記憶) の講読 授業 : 文の理解と記憶 復習 : 復習テスト (文の理解と記憶に関するキーワードの確認)	

12	杉原 光雄	【第 12 回】 予習：レジュメ（比喩と認知）の講読 授業：比喩と認知 復習：復習テスト（比喩と認知に関するキーワードの確認）							
13	杉原 光雄	【第 13 回】 予習：レジュメ（語用論とコミュニケーション）の講読 授業：語用論とコミュニケーション 復習：復習テスト（語用論とコミュニケーションに関するキーワードの確認）							
14	杉原 光雄	【第 14 回】 予習：レジュメ（前言語的コミュニケーションの発達）の講読 授業：前言語的コミュニケーションの発達 復習：復習テスト（前言語的コミュニケーションの発達に関するキーワードの確認）							
15	杉原 光雄	【第 15 回】 予習：レジュメ（ことばの発達）の講読 授業：ことばの発達 復習：復習テスト（ことばの発達に関するキーワードの確認）							
授業開始前学習		特になし							
授業内課題のフィードバックの方法		web で復習テストを実施し、結果をフィードバックする							
テキスト・教材		使用しない（毎回レジュメを配布する）							
参考書		初回授業時に参考書を紹介する。また授業資料に参考文献を掲載する。							
評価の基準と方法		授業への取り組み（復習テスト・感想）（40％）、課題（30％）、期末試験（30％）により評価を行う。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	○		
関連科目		知覚・認知心理学、心理学実験Ⅰ・Ⅱ							
その他		宿題・レポートとして実験やことばの分析を行う課題を 5 ～ 6 回課す予定である（単位を取得するには課題を 3 回以上提出する必要がある）。 毎回授業後に復習テストと感想の提出が求められる。 期末テストは、事前に予想問題を公開しその中から出題する予定である。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-12 (J)			授業コード	FF0230
科目名称	感情・人格心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology of Emotion and Personality			授業区分	講義
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	私たちは誰もが『感情』と『人格』を持って生きている。それらのありようは人によって異なり、“その人らしさ”を構成している。つまり、『感情』と『人格』について学ぶことは、自分自身への理解の深化につながりうるだろう。 本講義では、『感情』および『人格』に関する心理学的理論について学び、受講生が“自分らしさ”についてより深く考えられるようになることを目指す。				
到達目標	『感情』および『人格』に関する心理学的理論について、基礎的なものを学ぶ。学んだ内容をふまえながら、受講生が自分自身の『感情』や『人格』について振り返り、より理解を深める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：『感情』および『人格』という言葉の意味を調べておく 授業：イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など） 復習：今後の授業で特に学びたい点についてまとめておく			
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：日常的に体験する感情について振り返る 授業：感情が存在する理由 復習：配付資料を見直す			
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：感情と身体の関係について考える 授業：感情はいかに生起するのか：感情と身体 復習：配付資料を見直す			
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：子どもの頃と現在の感情表現の仕方を比較する 授業：感情の発達 復習：配付資料を見直す			
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：印象深い記憶（思い出）にはどのような感情が伴っているか思い返す 授業：感情と記憶 復習：配付資料を見直す			
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：『類型』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か①：類型論 復習：配付資料を見直す			
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：『特性』という言葉の意味を調べておく 授業：人格とは何か②：特性論 復習：配付資料を見直す			
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：子どもの頃の自分の人格について思い返す 授業：人格の形成過程①：乳幼児期 復習：配付資料を見直す			
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：自らの人格の変化・成長について振り返る 授業：人格の形成過程②：学童期・老年期 復習：配付資料を見直す			

10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：他者の人格を測る方法についてイメージする 授業：人格の測定①：質問紙法 復習：配付資料を見直す						
11	依田 尚也	【第 11 回】 予習：『投射』という言葉の意味について調べておく 授業：人格の測定②：投射法 復習：配付資料を見直す						
12	依田 尚也	【第 12 回】 予習：絵を描くことで何が表現されるのか振り返っておく 授業：人格の測定③：描画法 復習：配付資料を見直す						
13	依田 尚也	【第 13 回】 予習：自分の人格の健康な部分とそうでない部分について省みる 授業：人格と病理：パーソナリティ障害 復習：配付資料を見直す						
14	依田 尚也	【第 14 回】 予習：『男らしさ』『女らしさ』について自分が抱いているイメージを整理しておく 授業：人格と性別 復習：配付資料を見直す						
15	依田 尚也	【第 15 回】 予習：これまでの授業の疑問点を整理する 授業：感情と人格の関わり 復習：期末レポートを作成する						
授業開始前学習		特に必要ない。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業後に寄せられた感想や疑問に対しては、次回以降の授業の中で適宜回答する。						
テキスト・教材		適宜、講義内にて資料を配布する。						
参考書		『やわらかアカデミズム・くわかる> シリーズ よくわかるパーソナリティ心理学』（ミネルヴァ書房）						
評価の基準と方法		授業の取り組み状況（60 点）と期末レポート課題（40 点）をもとに総合的に評価をする。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成							
	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他	講義順序が一部変更となる場合がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。臨床現場において質問紙法や投射法を用いてクライアントの感情・人格にアプローチした経験も踏まえ、講義を行う。							

科目分類	130-331-12 (J)			授業コード	FF0240
科目名称	神経・生理心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Neuro- and Physiological Psychology			授業区分	講義
科目責任者	玉木 宗久			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	玉木 宗久			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	脳の損傷によって生じる高次脳機能障害の多様な様相を学びながら、心をつくりだしている脳の構造と機能についての理解を深めると共に、近年、著しい進歩を遂げている脳科学の知見を取り上げながら、神経心理学の現状と課題について議論することを目的とする。 なお、各障害の特性については、可能な範囲で疑似体験等を行いながら、体験的に理解できるようにする。				
到達目標	高次脳機能障害、及び脳の構造と機能の関係に関する基礎的な知識を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	玉木 宗久	【第 1 回】 予習：テキスト p 1-6 の確認 授業：オリエンテーション（授業、評価方法等について／神経心理学とは） 復習：テキスト p 1-6 の確認			
2	玉木 宗久	【第 2 回】 予習：テキスト p 6-13 の確認 授業：神経心理学の歴史 復習：テキスト p 6-13 の確認			
3	玉木 宗久	【第 3 回】 予習：テキスト p 14-37 の確認 授業：脳の解剖学的基礎と計測法 復習：テキスト p 14-37 の確認			
4	玉木 宗久	【第 4 回】 予習：テキスト p 47-52 の確認 授業：視覚の障害（失認を中心に） 復習：テキスト p 47-52 の確認			
5	玉木 宗久	【第 5 回】 予習：テキスト p 53-58 の確認 授業：注意の障害（半側空間無視を中心に） 復習：テキスト p 53-58 の確認			
6	玉木 宗久	【第 6 回】 予習：テキスト p 58-65 の確認 授業：記憶の障害（健忘症を中心に） 復習：テキスト p 58-65 の確認			
7	玉木 宗久	【第 7 回】 予習：テキスト p 65-72 の確認 授業：行為の障害（失行症を中心に） 復習：テキスト p 65-72 の確認			
8	玉木 宗久	【第 8 回】 予習：テキスト p 72-77 の確認 授業：言語の障害（失語症を中心に） 復習：テキスト p 72-77 の確認			
9	玉木 宗久	【第 9 回】 予習：テキスト p 95-102 の確認 授業：学習障害（LD） 復習：テキスト p 95-102 の確認			
10	玉木 宗久	【第 10 回】 予習：テキスト p 102-108 の確認 授業：注意欠如多動症（ADHD） 復習：テキスト p 102-108 の確認			
11	玉木 宗久	【第 11 回】 予習：テキスト p 108-113 の確認 授業：自閉症スペクトラム症（ASD）			

		復習：テキストp 108-113の確認						
12	玉木 宗久	【第12回】 予習：テキストp 95-113の確認 授業：神経発達障害 復習：テキストp 95-113の確認						
13	玉木 宗久	【13回】 予習：テキストp 77-82の確認 授業：社会性の障害 復習：テキストp 77-82の確認						
14	玉木 宗久	【第13回】 予習：テキストp 82-94の確認 授業：遂行機能の障害／半球間離断症候群 復習：テキストp 82-94の確認						
15	玉木 宗久	【第15回】 予習：テキストp 124-155の確認 授業：アセスメントと支援／新しい障害観／まとめ 復習：テキストp 1-155の確認（必要があるところ）						
授業開始前学習		認知（心理学）の基礎を学習しておくと授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内の課題としては、各授業後に感想を書いてもらう。感想の中で出てきた疑問や質問に対しては、授業の中で説明を加えるようにする。						
テキスト・教材		テキスト 柴崎光世・橋本優花里（2021）『手を動かしながら学ぶ神経心理学』朝倉書店（東京）						
参考書		河内十郎 著 （2013）『神経心理学—高次脳機能研究の現状と課題—』培風館（東京） ※以前授業のテキストとして使っていた本です。 その他の資料 適宜、補足資料を配付する						
評価の基準と方法		課題レポートの成績で評価を行う。単位修得には試験粗点で 60%以上の得点をとることが必要である。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	発達障害等の障害のある児童生徒への教育相談、及び学校コンサルテーションの実務経験があり、現在も公認心理師、特別支援教育スーパーバイザーとして、それらの活動に従事している。 また、研究においては、NIRS、MRI、脳波、アイトラッキング等による生理指標計測を実施してきた。 また、神経心理学のアセスメント尺度（遂行機能に関わるもの）の開発にも従事している。 これらの経験を生かし、高次脳機能障害及び脳の構造と機能に関する基礎的な知識について講義を行う。							

社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0250
科目名称	社会・集団心理学(社会・集団・家族心理学Ⅰ)	単位数	2.0 単位
英文名称	Social, Group and Family Psychology Ⅰ	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	本授業では、「社会・集団」の心理をテーマに、心理学のなかでも「個人」から「集団」の心理まできわめて広範囲な心理的事象を対象とする社会心理学の基礎を概観する。 個人の心理とは「自己」に関連する心理、集団の心理とは、家庭における「家族」、学校・職場といった「組織」、災害時などの「集合行動」、国によって異なる「文化」の心理などである。 このような個人と集団の心理について、対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、人の態度及び行動、集団及び文化が個人に及ぼす影響を取り上げる。		
到達目標	社会心理学の研究対象に社会・文化、組織・集団、対人関係、個人（自己）の心理があることがわかる。 社会心理学における「社会・文化」、「集団・組織」、「対人関係」の中での個人と他者との相互作用や影響に関わる基礎概念や理論を学び、研究対象ごとに社会的行動のメカニズムを説明でき、自分の考えを明確にできる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	永房 典之	【第 1 回】 予習：第 1 章（テキスト 1 頁－1 8 頁）の通読 授業：「社会心理学の成立とその独自性」（テキスト 1 頁－1 8 頁） 復習：社会心理学における歴史と心理学の中での独自性の確認	
2	永房 典之	【第 2 回】 予習：第 2 章（テキスト 1 9 頁－4 0 頁）の通読 授業：「社会の見方」（テキスト 1 9 頁－4 0 頁） 復習：社会的知覚、対人認知の研究の確認	
3	永房 典之	【第 3 回】 予習：第 3 章（テキスト 4 1 頁－5 6 頁）の通読 授業：「行動の結果と原因についての認知」（テキスト 4 1 頁－5 6 頁） 復習：社会的認知の概念と原因帰属の研究の確認	
4	永房 典之	【第 4 回】 予習：第 4 章（テキスト 5 7 頁－7 4 頁）の通読 授業：「個人に特有な行動の一貫性」（テキスト 5 7 頁－7 4 頁） 復習：パーソナリティ認知の概念と研究の確認	
5	永房 典之	【第 5 回】 予習：第 5 章（テキスト 7 5 頁－7 8 頁）の通読 授業：「自己の見方 1（自己意識、自己概念）」（テキスト 7 5 頁－7 8 頁） 復習：社会心理学における自己意識、自己概念の研究の確認	
6	永房 典之	【第 6 回】 予習：第 5 章（テキスト 7 9 頁－9 0 頁）の通読 授業：「自己の見方 2（自尊心、自己呈示、自己開示）」（テキスト 7 9 頁－9 0 頁） 復習：社会心理学における自尊心、自己呈示、自己開示の研究の確認	
7	永房 典之	【第 7 回】 予習：第 6 章（テキスト 9 1 頁－1 1 0 頁）の通読 授業：「対人関係の親密化と悩ましさのメカニズム」（テキスト 9 1 頁－1 1 0 頁） 復習：対人魅力と親密な関係の研究の確認	
8	永房 典之	【第 8 回】 予習：第 7 章（テキスト 1 1 1 頁－1 2 8 頁）の通読 授業：「他者への攻撃」（テキスト 1 1 1 頁－1 2 8 頁） 復習：攻撃行動と反社会的行動の研究の確認	
9	永房 典之	【第 9 回】 予習：第 8 章（テキスト 1 2 9 頁－1 4 4 頁）の通読 授業：「他者への援助」（テキスト 1 2 9 頁－1 4 4 頁） 復習：援助行動と向社会的行動の研究の確認	
10	永房 典之	【第 10 回】 予習：第 9 章（テキスト 1 4 5 頁－1 6 2 頁）の通読 授業：「人との関わり方」（テキスト 1 4 5 頁－1 6 2 頁） 復習：コミュニケーション、ソーシャルスキル、セルフ・モニタリングの研究の確認	

11	永房 典之	【第 11 回】 予習： 第 1 0 章（テキスト 1 6 3 頁－1 5 7 頁）の通読 授業： 「集団とリーダーシップ」（テキスト 1 6 3 頁－1 5 7 頁） 復習： 集団、リーダーシップ研究の確認							
12	永房 典之	【第 12 回】 予習： 第 1 1 章（テキスト 1 8 5 頁－2 0 4 頁）の通読 授業： 「他者への影響力」（テキスト 1 8 5 頁－2 0 4 頁） 復習： 同調行動、権威への服従の研究の確認							
13	永房 典之	【第 13 回】 予習： 第 1 2 章（テキスト 2 0 5 頁－2 2 2 頁）の通読 授業： 「不特定多数の人々の関わりあい－集合行動のしくみ－」（テキスト 2 0 5 頁－2 2 2 頁） 復習： 集合行動、流行、世論、流言、パニック研究の確認							
14	永房 典之	【第 14 回】 予習： 第 1 3 章（テキスト 2 2 3 頁－2 4 7 頁）の通読 授業： 「文化と人」（テキスト 2 2 3 頁－2 4 7 頁） 復習： 異文化比較、文化的自己観、集団主義・個人主義の研究の確認							
15	永房 典之	【第 15 回】 予習： 授業で学んだことの総復習（テキスト 1 頁？ 2 1 8 頁） 授業： 社会・集団心理学の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習： 社会心理学の研究から自己、対人関係、集団、文化の心理を考察							
授業開始前学習		心理学の概論書などを読み、心理学の基礎知識があることが望ましい。受講生自ら、日常生活の心理や社会の心理、自分らしさ、人間関係、集団、社会のあり方、文化に関心をもって講義に参加してほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。							
テキスト・教材		中里至正・松井洋・中村真（編著）『新・社会心理学の基礎と展開』（八千代出版） 2 0 1 4 年発行 2, 4 0 0 円＋税							
参考書		授業の中で推薦図書を紹介する。							
評価の基準と方法		学習成果の確認テスト（6 0 点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テストへの参加：4 0 点）によって総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	△	◎	○		
関連科目		「対人関係論」で紹介される研究とは、応用・理論的背景において密接な関連がある。							
その他		通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストも実施する。 授業資料の取り扱いについては授業中に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 社会心理学は、心理学のなかでも対象範囲が広く（個人から集団まで）、身近な社会現象・対人行動に積極的な問題意識をもって臨んでほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)

科目分類	130-331-12（J）		授業コード	FF0260	
科目名称	家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)		単位数	2.0 単位	
英文名称	Social, Group and Family Psychology Ⅱ		授業区分	講義	
科目責任者	田中 教仁		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	田中 教仁		開講時期	2・3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10		研究室	10-719	
授業概要	昨今、家族を巡っては、晩婚化、少子高齢化、核家族化等が指摘されるが、ほかにも児童虐待や DV、離婚と父母の不和に伴う子どもの問題等、家族や家庭が抱える問題がある。また、非行の背景に、家庭の機能不全や家族間の葛藤が生じていることもある。 それぞれに存在する家族について、家族心理学を柱としながら法律学、社会学等の多様な視点からも光を当て、社会とのかかわりや個人にとっての意味を考察していく。特に個人の発達課題とともに、家族も成長と変化を遂げるという家族ライフサイクル論を中心とした上で、家族間のコミュニケーションにも触れながら、家族支援の理論と臨床的問題に関する授業を行う。				
到達目標	家族をシステムの及び力動的に理解する視点を学び、家族のライフサイクルとその中で生じる多様な問題について理解を深める。また、家族関係において生じる諸問題について、概要と支援方法を学ぶ。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習：最近 1 箇月にあった家族に関するニュースや報道について調べる。 授業：イントロダクション（家族と社会を知る意義、家族を取り巻く状況） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
2	田中 教仁	予習：民法（家族法）を眺めてくる。 授業：家族の定義（家族の様々な定義、戸籍制度と民法から見た家族等） 復習：授業の内容を踏まえ、改めて民法や家事事件手続法等の法律を確認する。			
3	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念①（家族の構造を中心に） 復習：ジェノグラムに関する資料等を確認する。			
4	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念②（家族の機能—コミュニケーションを中心に） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
5	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族の特徴を理解するための鍵概念③（家族の発達の側面と家族ライフサイクル論） 復習：第 4 回及び第 5 回の内容（鍵概念）をまとめる。			
6	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族のライフサイクル(配偶者選択から結婚へ) 復習：アサーションについて振り返り学習を行う。			
7	田中 教仁	予習：男女共同参画白書等を閲読する。 授業：家族のライフサイクル(新婚期の夫婦) 復習：授業内に行ったワーク（ペアワーク等）を振り返り、まとめる。			
8	田中 教仁	予習：出産、育児をめぐる社会問題について調べる。 授業：家族のライフサイクル(子どもの出生と育児の段階) 復習：授業内に検討した課題について、さらに調べる。			
9	田中 教仁	予習：児童期・青年期の子どもがいる家族が抱える問題について調べる。 授業：家族のライフサイクル(児童期・青年期の子どもとその家族) 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
10	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族のライフサイクル（中年期の夫婦） 復習：授業内に行った事例研究の問題をまとめる。			
11	田中 教仁	予習：高齢者を取り巻く家族問題について調べる。 授業：家族のライフサイクル(老年期の家族) 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
12	田中 教仁	予習：最近の児童虐待に関するニュースや記事を調べる。 授業：家族が直面する問題①（児童虐待） 復習：参考図書や配布資料を閲読する。			
13	田中 教仁	予習：配布資料を閲読する。 授業：家族が直面する問題②（DV をはじめとする家庭内における暴力） 復習：DV の加害と被害の概要についてまとめる。			

14	田中 教仁	予習 : 配布資料を閲読する。 授業 : 家族が直面する問題③ (親の離婚と子どもをめぐる問題) 復習 : 参考図書や配布資料を閲読する。							
15	田中 教仁	予習 : 家庭に関するトピックやニュースを調べる。 授業 : 家族が直面する問題④ (家事事件について) 復習 : 参考図書や配布資料を閲読する。							
授業開始前学習		家族が直面する問題や家族に関する法制度等に関するニュース、インターネット記事等に関心を持つておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		小レポート等やリアクションペーパーの内容は、次講の冒頭に解説等を行う。							
テキスト・教材		適宜、講義内にて資料を配布する。 テキストは特に指定しないが、中釜洋子ほか著『家族心理学』(有斐閣ブックス)を購入しておくのが望ましい。							
参考書									
評価の基準と方法		所定の出席回数を踏まえたうえで、レポート課題により 60%、授業で指示する課題 (小レポート等) による 40%の配分で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	△	◎	○		
関連科目									
その他		授業内に実施するワーク (個人・ペア・グループ) に積極的に臨むことが求められる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官として家庭事件の実務経験がある。これらの経験を踏まえて、適宜、事例を紹介しながら講義を行う。							

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0270
科目名称	発達心理学 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental Psychology I	授業区分	講義
科目責任者	奥野 真之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	奥野 真之	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30	研究室	10-713
授業概要	生涯にわたる人間の発達を身体的・心理的・社会的な観点からとらえ、その過程における基本的かつ重要な発達心理学上の知見について講義形式で解説する。中でも特に、乳児期から青年期に至るまでの事柄を中心に取り上げる。		
到達目標	主に乳幼児期から青年期にかけての身体的・心理的・社会的な発達に関する基礎的な知識を習得し、その知識に基づいて自身や他者の発達上の問題について思考する能力を身につけることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	奥野 真之	予習 : 発達心理学について書籍やネットを利用して調べる 授業 : 発達心理学が扱う「発達」とは何か 復習 : 自身が発達心理学を学ぶ目的や意義について振り返る	
2	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.1-22) の講読と疑問点の抽出 授業 : 乳児期 I : 乳児が感じる世界 復習 : 乳児期における認知の特徴と発達、乳児相手の調査方法について整理する	
3	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.23-46) の講読と疑問点の抽出 授業 : 乳児期 II : 他者とのかわり 復習 : 愛着 (アタッチメント) や、共同注意の発達について整理する	
4	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.47-56) の講読と疑問点の抽出 授業 : 幼児期 I : 幼児期の言語発達 復習 : ピアジェの発達段階、言語と表象について整理する	
5	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.56-68) の講読と疑問点の抽出 授業 : 幼児期 II : 心の理論 復習 : 誤信念課題や心の理論、社会的知能の発達について整理する	
6	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.69-87) の講読と疑問点の抽出 授業 : 幼児期 III : 自己の育ちと他者との関係 復習 : 幼児期における自己の発達や、遊びの発達について整理する	
7	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.88-96) の講読と疑問点の抽出 授業 : 児童期 I : 論理的思考のはじまり 復習 : 具体的操作期の特徴について整理する	
8	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.97-109) の講読と疑問点の抽出 授業 : 児童期 II : 現実を超えた思考のはじまり 復習 : 形式的操作期の特徴や、最近接発達領域について整理する	
9	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.110-129) の講読と疑問点の抽出 授業 : 児童期 III : 社会性の発達 復習 : 児童期における自己概念の発達、道徳性と向社会性の発達について整理する	
10	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.130-138) の講読と疑問点の抽出 授業 : 青年期 I : 自分らしさへの気づき 復習 : 第二次性徴や、アイデンティティについて整理する	
11	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.138-150) の講読と疑問点の抽出 授業 : 青年期 II : アイデンティティの確立へ向かって 復習 : アイデンティティ・ステータスについて整理する	
12	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.151-161) の講読と疑問点の抽出 授業 : 青年期 III : 青年期の人間関係 復習 : 親子関係や友人関係の発達について整理する	
13	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.161-168) の講読と疑問点の抽出 授業 : 青年期 IV : 青年期と問題行動 復習 : 青年期の問題行動と、その発達上の意義について整理する	
14	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.169-192) の講読と疑問点の抽出 授業 : 成人期 : 人生の成熟とライフイベント 復習 : 成人期に起こる出来事と、体や心の変化について整理する	

15	奥野 真之	予習 : 教科書の該当箇所 (p.214-233) の講読と疑問点の抽出 授業 : 文化と発達 : 発達と文化の多様性 復習 : I R E 構造、実践の中での学習について整理する						
授業開始前学習	発達心理学や保育に関する入門書や雑誌記事等に目を通しておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題に対する講評や補足は、翌週以降の授業内で行う。							
テキスト・教材	藤村宣之（編著）『発達心理学：周りの世界とかかわりあいながら人はいかに育つか』[第2版]（ミネルヴァ書房） 初版と第2版ではページ数等の細かな部分で違いがあるため、購入の際は注意してもらいたい。							
参考書	授業の進行に合わせて参考文献を紹介する。							
評価の基準と方法	定期試験 40%、授業内および授業後の課題提出 60%により評価する。 定期試験を受験するには、少なくとも全体の3分の2以上の出席が必要である。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人々が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目								
その他	教科書を用いた予習や復習が重要となるため、忘れずに購入してもらいたい。 課題提出や資料配布等に GWE（Google Workspace for Education）を利用する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)

科目分類	130-331-12 （J）			授業コード	FF0280
科目名称	発達心理学Ⅱ(高齢者心理学)			単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental PsychologyⅡ			授業区分	講義
科目責任者	松永 博子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松永 博子			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	本講義では、生涯発達の視点から老化を理解し、老化に伴う心理機能や身体機能の変化の特徴についての基礎的知識を習得するとともに、高齢者の社会的援助に対する心理社会的な視点を持つことを狙いとする。具体的には、高齢者特有の身体的な問題は、心理的な側面への影響が大きいため、加齢に伴う身体機能の変化や疾病が心理機能にもたらす影響について学ぶ（認知症等）。また、高齢者に至る経緯について自分自身もまたなりうるということを自覚し、主体的に自身の人生に取り組むための素養を養う。				
到達目標	本講義の目標は、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、高齢期の心理的特徴のみならず身体的・社会的側面を含めて統合的に捉えるための知識を身につけることである。高齢期には、加齢による心身機能の変化に加え、障害による影響などによってその状態は異なり、個別的な課題が生じやすい。それぞれの高齢者に合わせた対応や支援を考えることが望ましい。障害への支援という点のみならず、生涯発達の段階で如何に予防していくか、についても取り組む。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松永 博子	【第 1 回】ガイダンス 予習：高齢者心理学について、学びたいこと・知りたいことを整理する 授業：高齢者および高齢者に関する社会的状況の基礎知識、平均寿命、健康寿命 復習：配布資料を見直す			
2	松永 博子	【第 2 回】エイジズム 予習：前回の授業内で指示する 授業：高齢者に対するイメージ、個別ワーク（尺度） 復習：配布資料を見直す			
3	松永 博子	【第 3 回】発達と老化(1) 予習：前回の授業内で指示する 授業：発達と発達課題、老化の概念、加齢のメカニズム、サクセスフル・エイジング 復習：配布資料を見直す			
4	松永 博子	【第 4 回】発達と老化（2） 予習：前回の授業内で指示する 授業：生涯発達・加齢理論(離脱理論、活動理論、SOC、SST)、高齢者の多様性 復習：配布資料を見直す			
5	松永 博子	【第 5 回】パーソナリティと適応 予習：前回の授業内で指示する 授業：高齢期のパーソナリティ、情動・感情（幸福感）、心理的適応 復習：配布資料を見直す			
6	松永 博子	【第 6 回】心理機能の変化（1） 予習：前回の授業内で指示する 授業：心理的ウェルビーイング、エイジングパラドクス、感覚機能の変化とその影響 復習：配布資料を見直す			
7	松永 博子	【第 7 回】心理機能の変化(2) 予習：前回の授業内で指示する 授業：認知情報処理(注意、記憶)(ディスカッション) 復習：配布資料を見直す			
8	松永 博子	【第 8 回】知能の変化 予習：前回の授業内で指示する 授業：知的機能、日常知能、言語能力、知恵(英知)の加齢変化 ＊グループワークの実施について検討する 復習：配布資料を見直す			
9	松永 博子	【第 9 回】認知症(1) 予習：前回の授業内で指示する 授業：ドキュメンタリー視聴＆ワーク 復習：配布資料を見直す			
10	松永 博子	【第 10 回】認知症（2） 予習：前回の授業内で指示する 授業：ドキュメンタリー視聴＆ワーク 復習：配布資料を見直す			

11	松永 博子	【第 11 回】認知症 (3) 予習：前回の授業内で指示する 授業：認知症について医学的説明・若年性認知症 復習：配布資料を見直す							
12	松永 博子	【第 12 回】老いの自覚 予習：前回の授業内で指示する 授業：老性自覚、ストレス、うつ、孤独感、自己実現と生きがい 復習：配布資料を見直す							
13	松永 博子	【第 13 回】終末期と死 予習：前回の授業内で指示する 授業：高齢期の死、死別、悲嘆のプロセス、スピリチュアリティ 復習：配布資料を見直す							
14	松永 博子	【第 14 回】グループワークもしくは個別ワーク 予習：前回の授業内で指示する 授業：発表の準備（グループワークもしくは個別ワーク） ＊グループワークに実施について生徒達と協議する 復習：配布資料を見直す							
15	松永 博子	【第 15 回】グループもしくは個別ワーク発表 予習：発表の準備 授業：発表、授業全体のまとめ（プレゼンテーション） 復習：配布資料を見直す							
授業開始前学習		毎回の授業内容や配布資料について復習し、日常生活で高齢者と接する機会があれば、授業で得た知識をもとに高齢者心理学的な視点を生かして関わることができると望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内のプレゼンには講評を行い、翌週の講義の際に補足説明及び質疑応答を行う。ワークについても授業内で講評を行うと共に、個別の質問に回答する（小レポートはポータルサイト及びメール等にて提出）。							
テキスト・教材		ポータルサイトを通じて、毎回資料を配布する。 授業開始前までに、ダウンロードし、予習・復習に活用してほしい。							
参考書		必要に応じて、適宜紹介する。							
評価の基準と方法		授業参加の積極度および授業内の小レポート（50％）、ワーク（25×2=50％）により評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○		
関連科目									
その他		ポータルサイトを通じて、毎回の授業で参考資料を配布する。予習・復習を兼ねて、次回の授業までにすべての配布資料を読んでおくこと。また、ダウンロードした資料は PC 等に本講座のファイルホルダーを設置し、わからなくならないよう格納しておくこと。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チームの研究者として高齢者の就労支援に関する研究を行っています。サクセスフル・エイジングのテーマの際や認知症について、自殺対策についてなどは、実際に行っている研究について皆さんに情報提供したいと考えています。							

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0290
科目名称	障害者・障害児心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology for Adults & Children with Disabilities	授業区分	講義
科目責任者	河合 美千代	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 美千代	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	身体障害、知的障害及び精神障害などの概要を理解し、障害者・障害児の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。また、福祉現場あるいは身近な事案などを用いた課題等に取り組むことで理解を深める。 ※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。		
到達目標	障害の特性などを理解し、適切な支援の実施、必要な支援につなげることができるようになるために、障害者・障害児を取り巻く心理社会的課題や社会資源の内容や機能を理解する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	河合 美千代	【第 1 回】 予習：自分の持つ権利について調べる 授業：人間の持つ権利と障害者（グループワーク） 復習：自分の持つ権利と障害者が持つ権利について考える	
2	河合 美千代	【第 2 回】 予習：障害の概念について調べる 授業：障害の概念（グループワーク） 復習：障害の概念についてまとめる	
3	河合 美千代	【第 3 回】 予習：身体障害について調べる 授業：身体障害（グループワーク） 復習：身体障害についてまとめる	
4	河合 美千代	【第 4 回】 予習：精神障害について調べる 授業：精神障害（グループワーク） 復習：精神障害についてまとめる	
5	河合 美千代	【第 5 回】 予習：知的障害について調べる 授業：知的障害（グループワーク） 復習：知的障害についてまとめる	
6	河合 美千代	【第 6 回】 予習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）について調べる 授業：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）（グループワーク） 復習：発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）についてまとめる	
7	河合 美千代	【第 7 回】 予習：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）について調べる 授業：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）（グループワーク） 復習：発達障害（学習障害、注意欠陥・多動性障害など）についてまとめる	
8	河合 美千代	【第 8 回】 予習：自分のコミュニケーションの特徴をまとめる 授業：社会的コミュニケーション障害（グループワーク） 復習：社会的コミュニケーション障害についてまとめる	
9	河合 美千代	【第 9 回】 予習：自分の得意な家事と苦手な家事についてまとめる 授業：ためこみ症の人への理解と支援 復習：生物・心理・社会モデルについてまとめる	
10	河合 美千代	【第 10 回】 予習：障害者虐待について調べる 授業：障害者虐待（グループワーク） 復習：障害者虐待についてまとめる	
11	河合 美千代	【第 11 回】 予習：自分が何かを決めるときのプロセスを一つ書く 授業：意思決定支援（グループワーク） 復習：意思決定の支援をするときの注意点についてまとめる	

12	河合 美千代	【第 12 回】 予習：家族の機能について調べる 授業：家族支援（グループワーク） 復習：家族にとっての危機の意義についてまとめる							
13	河合 美千代	【第 13 回】 予習：成年後見制度について調べる 授業：成年後見制度の概要と課題 復習：成年後見制度についてまとめる							
14	河合 美千代	【第 14 回】 予習：身近な法律・制度について調べる 授業：障害者に関わる法律、制度（グループワーク） 復習：障害者にかかわる法律・制度についてまとめる							
15	河合 美千代	【第 15 回】 予習：障害を持った場合に受けれるサービス、機関と専門職などについて調べる 授業：障害者福祉サービスと関わる機関や専門職（グループワーク） 復習：障害者に関わるサービス、機関と専門職の役割についてまとめる							
授業開始前学習		各回のテーマに関して、新聞やテレビ、書籍などから情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出する 2 回のレポート（A4 1 枚以内）については、2 週間後をめどに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		小澤温編『よくわかる障害者福祉 第 7 版』（ミネルヴァ書房）							
参考書									
評価の基準と方法		小テストまたはミニワーク（40％）、レポート（60％）で評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎	○	○			
関連科目		特になし							
その他		特になし							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-330-12	授業コード	FF0300
科目名称	比較行動学	単位数	2.0 単位
英文名称	Ethology	授業区分	講義
科目責任者	石島 このみ	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石島 このみ	開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	比較行動学とは、ヒトとヒト以外の動物の行動を比較することで、ヒトの動物としての独自性・ヒトの他の動物との共通性を確認し、その存在の特性を理解することを目指す学問領域である。本講義では、行動の発現のしくみ、生存上の機能、発達、進化などを扱う比較行動学の見方を概説するとともに、その関連領域についても紹介していく。それを通じて、我々ヒトがどのような霊長類であるのかについて理解を深めることを狙いとする。		
到達目標	●ヒトとヒト以外の動物の行動を比較することで、我々ヒトがどのような動物（霊長類）であるのかを理解する ●比較行動学的なモノの見方を習得し、それを適用しながら現代のヒトの社会における諸問題について考察する力を身につける		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石島 このみ	【第 1 回】 予習：シラバスを読み、質問を考えておく 授業：比較行動学とは 復習：【第 1 回】配布プリントの確認	
2	石島 このみ	【第 2 回】 予習：「Tinbergen の 4 つのなぜ」について調べる 授業：Tinbergen の 4 つの問い 復習：【第 2 回】配布プリントの確認	
3	石島 このみ	【第 3 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「至近要因」について確認する 授業：行動の因果 復習：【第 3 回】配布プリントの確認	
4	石島 このみ	【第 4 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「究極要因」について確認する 授業：行動の機能 復習：【第 4 回】配布プリントの確認	
5	石島 このみ	【第 5 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「発達要因」について確認する 授業：行動の発達 復習：【第 5 回】配布プリントの確認	
6	石島 このみ	【第 6 回】 予習：Tinbergen の 4 つの問いにおける「系統進化要因」について確認する 授業：行動の進化 復習：【第 6 回】配布プリントの確認	
7	石島 このみ	【第 7 回】 予習：ボノボ、チンパンジーにおける社会・行動について調べる 授業：霊長類の社会・行動 復習：【第 7 回】配布プリントの確認	
8	石島 このみ	【第 8 回】 予習：「なわばり」について調べる 授業：空間と行動 復習：【第 8 回】配布プリントの確認	
9	石島 このみ	【第 9 回】 予習：「性選択」について調べる 授業：性と行動 復習：【第 9 回】配布プリントの確認	
10	石島 このみ	【第 10 回】 予習：ヒト以外の動物における子育てについて、関心があることを調べる 授業：子育て (1) 復習：【第 10 回】配布プリントの確認	
11	石島 このみ	【第 11 回】 予習：ヒトにおける子育てについて、関心があることを調べる 授業：子育て (2)	

		復習：【第 11 回】配布プリントの確認
12	石島 このみ	【第 12 回】 予習：「心の理論」について調べる 授業：心の理論 復習：【第 12 回】配布プリントの確認
13	石島 このみ	【第 13 回】 予習：「儀式的闘争」について調べる 授業：攻撃性 復習：【第 13 回】配布プリントの確認
14	石島 このみ	【第 14 回】 予習：集団内あるいは集団間のコミュニケーションについて、関心があることを調べる 授業：集団とコミュニケーション 復習：【第 14 回】配布プリントの確認
15	石島 このみ	【第 15 回】 予習：【第 1 回】から【第 14 回】の内容の復習 授業：総括 復習：全配布プリントの確認
授業開始前学習		
授業内課題のフィードバックの方法		授業内課題として、毎回リアクションペーパーを課す。翌週の講義にて、リアクションペーパーにより得られた意見を紹介すると共に、質問に回答する。
テキスト・教材		スライド・配布資料
参考書		授業の中で適宜紹介する。
評価の基準と方法		リアクションペーパー（40％）と定期試験（60％）により評価する。
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	
学修指針	教養力	人間性
科目の該当		
関連科目		
その他		
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）	
実務経験を活かした教育内容		

科目分類	130-330-12 (J)			授業コード	FF0310
科目名称	発達臨床			単位数	2.0 単位
英文名称	Developmental Clinical Psychology			授業区分	講義
科目責任者	永房 典之			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之			開講時期	2・3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	発達臨床における「子ども家庭支援の心理学」として、子育てにおける発達相談、現代社会の家庭や家族の理解と子育て支援をテーマに学ぶ。 また「発達障害」「児童虐待」「不登校」「いじめ」「非行」など、発達臨床における子どもや保護者の家庭支援、家族・親子関係について取り上げる。				
到達目標	生涯発達心理学における各発達段階が理解できる。 現代社会の子育て家庭と家族の問題がわかる。 発達障害や子育て支援について考えることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	永房 典之	【第 1 回】 予習：テキストの「まえがき」と「目次」と「本書の特徴と構成」の通読 授業：「発達臨床と子ども家庭支援の心理学」（テキスト1 頁－9 頁） 復習：発達臨床における「子育て支援」の重要性を確認する			
2	永房 典之	【第 2 回】 予習：1 章（テキスト10 頁－19 頁）の通読 授業：「生涯発達の心理学と子ども家庭支援」（テキスト10 頁－19 頁） 復習：生涯発達、子どもの愛着と大人の愛着、心理学と子ども家庭支援の確認、トピックス1「子ども家庭庁」の通読			
3	永房 典之	【第 3 回】 予習：2 章（テキスト20 頁－31 頁）の通読 授業：「胎児期・新生児期・乳児期・幼児期の発達と支援」（テキスト20 頁－31 頁） 復習：胎児期・新生児期、乳児期（0 歳児）、乳児期（1・2 歳児）、幼児期（3・4・5 歳児）の確認、トピックス2「乳幼児健診と発達検査」の通読			
4	永房 典之	【第 4 回】 予習：3 章（テキスト32 頁－41 頁）の通読 授業：「学童期・青年期の発達と支援」（テキスト32 頁－41 頁） 復習：学童期（小学生）、思春期（小学校高学年・中学生・高校生）、青年期の確認の確認、トピックス3「心理検査（知能検査、社会性検査）」の通読			
5	永房 典之	【第 5 回】 予習：4 章（テキスト42 頁－51 頁）の通読 授業：「成人期・中年期・老年期（高齢期）の発達と支援」（テキスト42 頁－51 頁） 復習：成人期、中年期、老年期（高齢期）の確認、トピックス4「8050問題」の通読			
6	永房 典之	【第 6 回】 予習：5 章（テキスト52 頁－63 頁）の通読 授業：「家族・家庭の意義と機能・支援－家族・家庭とは、日本の家族の変遷、日本の少子化と少子化対策、出産・子育ての意識－」（テキスト52 頁－63 頁） 復習：家族・家庭の意義と機能、家族・家庭への支援の確認、トピックス5「幸福感と主観的幸福感」の通読			
7	永房 典之	【第 7 回】 予習：6 章（テキスト64 頁－77 頁）の通読 授業：「親子関係・家族関係の理解と支援－親子関係、家族関係、家族システム、円環的因果律、家族のライフサイクル－」（テキスト64 頁－77 頁） 復習：親子関係・家族関係の理解、親子関係・家族関係への支援の確認、トピックス6「家族心理学と家族療法」の通読			
8	永房 典之	【第 8 回】 予習：7 章（テキスト78 頁－87 頁）の通読 授業：「子育て経験と親としての育ちの理解と支援－乳児・幼児の親と養育行動－」（テキスト78 頁－87 頁） 復習：親性の発達、親としての育ちの理解と支援の確認、トピックス7「親の脳と神経生理学」の通読			
9	永房 典之	【第 9 回】 予習：8 章（テキスト88 頁－97 頁）の通読 授業：「子育ての社会的状況と支援（ライフコースと仕事・子育て）－女性のライフコース、ライフコースにおける子育てと仕事・キャリア、子育て期のワーク・ライフ・バランス」（テキスト88 頁－97 頁）			

		復習：子育ての社会的状況の理解、子育てと仕事の両立への支援の確認、トピックス8「産休育休・男性の子育て・孤立育児」の通読						
10	永房 典之	【第10回】 予習：9章（テキスト98頁－109頁）の通読 授業：「多様な家庭への理解と支援－ひとり親家庭、育児サポートのない共働き家庭、育児不安の高い家庭－」（テキスト98頁－109頁） 復習：多様な家庭への理解、多様な家庭への支援の確認、トピックス9「里親家庭・LGBT 家庭」の通読						
11	永房 典之	【第11回】 予習：10章（テキスト110頁－123頁）の通読 授業：「特別な配慮を要する家庭への理解と支援－貧困家庭、児童虐待のある家庭、不適切な養育家庭、外国につながる家庭、医療的ケアが必要な家庭－」（テキスト110頁－123頁） 復習：特別な配慮を要する家庭への理解、特別な配慮を要する家庭への支援の確認、トピックス10「ヤングケアラーと保育者の子ども家庭支援」の通読						
12	永房 典之	【第12回】 予習：11章（テキスト124頁－139頁）の購読 授業：「子どもの障害・発達障害への理解と支援－身体障害、知的障害、自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠如・多動性障害（AD/HD）、限局性学習障害（SLD）、トゥレット障害、発達性協調運動障害（DCD）、二次障害－」（テキスト124頁－139頁） 復習：子どもの障害の種類と支援、発達障害への理解と支援、子どもの発達障害と保護者への子育て支援の確認、トピックス11「発達障害児の療育」の通読						
13	永房 典之	【第13回】 予習：12章（テキスト140頁－149頁）の通読 授業：「子どもの生活・生育環境とその影響・支援－貧困、DV、児童虐待、不登校、いじめ、ひきこもり、子どもの犯罪・非行・問題行動－」（テキスト140頁－149頁） 復習：子どもの生活・生育環境とその影響、特別な配慮を要する子どもへの援助・支援の確認、トピックス12「ACEs（小児期逆境体験）とレジリエンス」の通読						
14	永房 典之	【第14回】 予習：13章（テキスト150頁－163頁）の通読 授業：「精神保健・子どもの心の健康とその課題・支援－不安障害・強迫性障害・PTSD・抑うつ・反応性愛着障害・脱抑制型対人交流障害・場面緘黙・夜尿症・吃音・チック－」（テキスト130頁?141頁） 復習：子どもの精神障害の種類、子どもの心の健康とその課題と支援の確認、トピックス13「かわがりが難しい保護者とのコミュニケーション」の通読						
15	永房 典之	【第15回】 予習：テキスト（1章－13章）、トピックス（1－13）の確認 授業：発達臨床の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習：乳児期から高齢期までの各発達段階の特徴を確認する。現代社会の子育て家庭の現状を確認する。発達臨床の専門を生かした子ども家庭支援（子どもと保護者への支援）について考える。						
授業開始前学習		「発達心理学」または「生涯発達心理学」に関する本を読んで各年齢の発達段階を調べておくこと。 「保育」、「子育て」、「発達障害」、「児童虐待」、「不登校」、「いじめ」、「ひきこもり」、「非行」、「DV」に関する本を読んでおくことが望ましい。						
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストについては実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストは当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。						
テキスト・教材		永房典之（編著）『新・子ども家庭支援の心理学－発達・家族の理解と子育て支援－』教育情報出版 2023年発行 2,000円＋税						
参考書		American Psychiatric Association（著）日本精神神経学会（監修）高橋三郎・大野裕（監訳）『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』（医学書院）2014年発行 4,500円＋税						
評価の基準と方法		学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テスト参加：40点）によって総合的に評価する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成							
	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		◎	○		
関連科目	「発達心理学」、「教育心理学」、「臨床心理学」が学べる科目と関連する。							
その他	通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布する。 資料の取り扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。							

	子どものこころの問題、臨床発達心理学、特に乳幼児の心理や親子関係、発達障害に関心がある者の受講を歓迎する。
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）
実務経験を活かした 教育内容	心理臨床の実務経験あり。学校のスクールカウンセラー、カウンセリングオフィスのほか、保育園・幼稚園、小学校、中学校、児童養護施設の現場で発達臨床を実践してきた経験を活かし、発達臨床に求められる知識・技能についての講義をする。

科目分類	130-330-12	授業コード	FF0320		
科目名称	対人関係論	単位数	2.0 単位		
英文名称	Interpersonal Relations	授業区分	講義		
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	永房 典之	開講時期	2・3 年		
オフィスアワー	－	研究室	－		
授業概要	対人関係の研究の日常生活への応用、特に大学生など「若者の対人関係」について社会心理学的研究の成果と知見を学ぶ。本講義では、若者である大学生にとって身近な恋愛、友人関係、特に気になる就職活動、ダイエット、占い、ネットから犯罪・非行まで、豊富なトピックを題材に社会心理学の奥深さを知る。 心理メカニズムを明らかにするだけでなく、うまくいく恋愛、友人関係、内定を獲得する就職活動への対処法も取り上げ、単なる専門知識の獲得にとどまらない対人関係や自分自身へのライフデザイン実現への応用も視野に入れている。				
到達目標	対人関係の研究が私たちの身近な日常生活の問題と密接な関わりがあることが理解できる。 社会心理学のなかでも対人感情や対人関係に関わる研究を学ぶことで、社会心理学的な問題への意識を高め、自分自身の問題として、自分の感情コントロールや対人関係への対処を考えることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	永房 典之	【第 1 回】 予習：テキストの目次、はじめに（i－viii 1 頁）の通読 授業：社会心理学と若者の対人関係（テキスト i－viii 頁） 復習：テキストの「目次」、「はじめに」の確認			
2	永房 典之	【第 2 回】 予習：第 1 章（テキスト 2 頁－1 5 頁）の通読 授業：「羞恥心と世間」（テキスト 2 頁－1 5 頁） 復習：世間、羞恥心に関する研究の確認、トピックの通読			
3	永房 典之	【第 3 回】 予習：第 2 章（テキスト 1 6 頁－3 1 頁）の通読 授業：「心のブレーキと少年犯罪」（テキスト 1 6 頁－3 1 頁） 復習：恥意識、犯罪・非行抑制に関する研究の確認、トピックの通読			
4	永房 典之	【第 4 回】 予習：第 3 章（テキスト 3 2 頁－4 5 頁）の通読 授業：「罪悪感とモラルの心理」（テキスト 3 2 頁－4 5 頁） 復習：罪悪感に関する研究の確認、トピックの通読			
5	永房 典之	【第 5 回】 予習：第 4 章（テキスト 4 6 頁－5 9 頁）の通読 授業：「気まずい場の心理とその対処法」（テキスト 4 6 頁－5 9 頁） 復習：困惑、社会的相互作用に関する研究の確認、トピックの通読			
6	永房 典之	【第 6 回】 予習：第 5 章（テキスト 6 0 頁－7 5 頁）の通読 授業：「他者からの嫌われ感とその対処法」（テキスト 6 0 頁－7 5 頁） 復習：自我漏洩感、社交不安障害に関する確認、トピックの通読			
7	永房 典之	【第 7 回】 予習：第 6 章（テキスト 7 6 頁－9 1 頁）の通読 授業：「嫉妬・妬みと他者との比較」（テキスト 7 6 頁－9 1 頁） 復習：嫉妬と嫉みの違い、シャーロンフロイデに関する研究の確認、トピックの通読			
8	永房 典之	【第 8 回】 予習：第 7 章（テキスト 9 2 頁－1 0 5 頁）の通読 授業：「うまくいかない友人関係とその対処法」（テキスト 9 2 頁－1 0 5 頁） 復習：衡平理論、自己開示、社会的スキルに関する研究の確認、トピックの通読			
9	永房 典之	【第 9 回】 予習：第 8 章（テキスト 1 0 6 頁－1 1 9 頁）の通読 授業：「他者を傷つけることと怒りの対処法」（テキスト 1 0 6 頁－1 1 9 頁） 復習：攻撃行動、怒り、自己愛に関する研究の確認、トピックの通読			
10	永房 典之	【第 10 回】 予習：第 9 章（テキスト 1 2 0 頁－1 3 3 頁）の通読 授業：「恋に落ちる心理と彼氏・彼女のつくり方」（テキスト 1 2 0 頁－1 3 3 頁） 復習：対人魅力、親密な関係、進化心理学に関する研究の確認、トピックの通読			

11	永房 典之	【第 11 回】 予習：第 1 0 章（テキスト 1 3 4 頁－1 4 7 頁）の通読 授業：「ダイエットとファッション、占い」（テキスト 1 3 4 頁－1 4 7 頁） 復習：瘦身願望、ボディ・イメージに関する研究の確認、トピックの通読							
12	永房 典之	【第 12 回】 予習：第 1 1 章（テキスト 1 4 8 頁－1 6 1 頁）の通読 授業：「インターネットとコミュニケーション」（テキスト 1 4 8 頁－1 6 1 頁） 復習：C M C 研究、対人不安に関する研究の確認、トピックの通読							
13	永房 典之	【第 13 回】 予習：第 1 2 章（テキスト 1 6 2 頁－1 7 5 頁）の通読 授業：「内定のもらえる自己呈示と就職面接」（テキスト 1 6 2 頁－1 7 5 頁） 復習：自己呈示、セルフ・モニタリングに関する研究の確認、トピックの通読							
14	永房 典之	【第 14 回】 予習：トピックス（テキストの各章）と心理尺度と文献（テキスト 1 8 2 頁－2 2 7 頁）の通読 授業：社会的適応と自己・他者の心理（テキスト 1 8 2 頁－2 2 7 頁） 復習：各章のトピックスと心理尺度の確認、関連文献の通読							
15	永房 典之	【第 15 回】 予習：テキスト（1 頁－2 2 7 頁）およびキーワードの再確認 授業：対人関係論（若者の対人関係）の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習：自分の身近な社会生活に置き換えて若者の対人関係を考察する							
授業開始前学習		受講生は、自分自身の心理、周囲の人間関係への積極的な関心、社会における若者の対人関係の実態と身近な心理現象に対する問題意識をもって講義に臨んでほしい。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーについては次回の授業回、心理テストは実施後の当該または次回の授業回、学習成果の確認テストについては当該授業回または遠隔教育ツールのなかで解説を行う。							
テキスト・教材		永房典之（編著）『なぜ人は他者が気になるのか？－人間関係の心理』（金子書房） 2 0 0 8 年発行 2, 3 0 0 円＋税							
参考書		授業時に適宜紹介する。							
評価の基準と方法		学習成果の確認テスト（6 0 点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・心理テスト参加：4 0 点）によって総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	△	◎	○		
関連科目		「社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ⅰ）」で紹介される研究とは、基礎・理論的背景において密接な関連がある。							
その他		通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学の体験実習として心理テストや質問紙を実施することがある。 授業資料の取り扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 大学四年間は、人生でも非常に貴重な人間関係や社会的資源である人脈を形成できるきわめて重要な時期である。ただ何となく過ごすのではなく、自身の「自己実現」や「就職」につながる視点をもってほしい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-13	授業コード	FF0510
科目名称	心理的アセスメント I	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Assessment I	授業区分	講義
科目責任者	片岡 優介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	片岡 優介	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理的アセスメント I では、心理検査の中でも質問紙法を中心に取り上げる。私たちは様々な質問紙法によって自分自身の性格、考え方、行動傾向などを理解することができる。質問紙によって把握された結果によって、集団の中での自分の位置を把握することができる。繰り返し質問紙に回答することで、過去の自分と比較することもできる。本授業では、実際に質問紙に回答する機会も設ける。信頼性や妥当性といった用語だけでなく、測定している概念についても説明を行うことで、質問紙に答えることによって得た結果をより深く理解できるようにする。		
到達目標	アセスメントに関する理解を深め、心理検査の目的や意義、実施方法を学ぶ。実際に心理検査を体験し、その有用性と限界について実践的に理解し、心理検査の意義と役割に関する理解を深めることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	片岡 優介	【第 1 回】 予習 アセスメントについて調べる 授業 アセスメント 復習 第 1 回授業資料の見直し	
2	片岡 優介	【第 2 回】 予習 アセスメントの方法について調べる 授業 アセスメントの方法 復習 第 2 回授業資料の見直し	
3	片岡 優介	【第 3 回】 予習 認知について調べる 授業 認知を理解する 復習 第 3 回授業資料の見直し	
4	片岡 優介	【第 4 回】 予習 感情について調べる 授業 感情を理解する 復習 第 4 回授業資料の見直し	
5	片岡 優介	【第 5 回】 予習 身体反応について調べる 授業 身体反応を理解する 復習 第 5 回授業資料の見直し	
6	片岡 優介	【第 6 回】 予習 行動について調べる 授業 行動を理解する 復習 第 6 回授業資料の見直し	
7	片岡 優介	【第 7 回】 予習 抑うつについて調べる 授業 抑うつに関する質問紙の説明 復習 第 7 回授業資料の見直し	
8	片岡 優介	【第 8 回】 予習 抑うつに関する質問紙について調べる 授業 抑うつに関する質問紙の解説 復習 第 8 回授業資料の見直し	
9	片岡 優介	【第 9 回】 予習 不安について調べる 授業 不安に関する質問紙の説明 復習 第 9 回授業資料の見直し	
10	片岡 優介	【第 10 回】 予習 不安に関する質問紙について調べる 授業 不安に関する質問紙の解説 復習 第 10 回授業資料の見直し	
11	片岡 優介	【第 11 回】 予習 強迫症について調べる 授業 強迫症に関連する質問紙の説明	

		復習 第 11 回授業資料の見直し							
12	片岡 優介	【第 12 回】 予習 強迫症に関連する質問紙について調べる 授業 強迫症に関連する質問紙の解説 復習 第 12 回授業資料の見直し							
13	片岡 優介	【第 13 回】 予習 自閉スペクトラム症について調べる 授業 自閉スペクトラム症に関連する質問紙の説明 復習 第 13 回授業資料の見直し							
14	片岡 優介	【第 14 回】 予習 自閉スペクトラム症に関連する質問紙について調べる 授業 自閉スペクトラム症に関連する質問紙の解説 復習 第 14 回授業資料の見直し							
15	片岡 優介	【第 15 回】 予習 価値について調べる 授業 価値を理解する 復習 第 15 回授業資料の見直し							
授業開始前学習		アセスメント、心理検査（特に質問紙法）の概要について事前に学習しておく、授業を理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパー等で寄せられた感想や疑問に対して、必要に応じてコメントや回答を行う。							
テキスト・教材		スライドと授業資料							
参考書									
評価の基準と方法		所定の出席数を満たした者について期末レポート（100 点）にて評価をする。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-13（J）			授業コード	FF0520
科目名称	心理的アセスメントⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Psychological Assessment Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	笠原 千秋			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	笠原 千秋			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	臨床心理アセスメントとは人の心理を観察、面接、そして心理検査などの方法を用いて理解し、臨床心理支援に活かすものである。 この授業では心理検査の中からは特に投影法を取り上げる。 基礎的な理論、留意点、検査の特徴や意義、実施方法などを学習し、その上で授業内で実習を行い検査を実際に体験する。臨床現場での検査の活用例を学習するため事例の紹介を行う。				
到達目標	①臨床心理アセスメントの基礎知識や留意点、特に投影法の目的や意義、実施方法を学ぶ。 ②心理検査を実施し所見レポートを作成することで心理アセスメントの実際を体験的に理解する。 ③投影法の有用性と限界を考察する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	笠原 千秋	【第 1 回】 予習：臨床心理アセスメントについて調べる 授業：オリエンテーション・臨床心理アセスメントとは 復習：第 1 回配布資料の見直し			
2	笠原 千秋	【第 2 回】 予習：観察法の概要について調べる 授業：観察法の概要 復習：第 2 回配布資料の見直し			
3	笠原 千秋	【第 3 回】 予習：面接法の概要について調べる 授業：面接法の概要 復習：第 3 回配布資料の見直し			
4	笠原 千秋	【第 4 回】 予習：心理検査・投影法について調べる 授業：心理検査・投影法の概要 復習：第 4 回配布資料の見直し			
5	笠原 千秋	【第 5 回】 予習：TAT・ロールシャッハテストについて調べる 授業：TAT・ロールシャッハテストの概要 復習：第 5 回配布資料の見直し			
6	笠原 千秋	【第 6 回】 予習：検査レポート作成とフィードバックについて調べる 授業：検査レポート作成とフィードバックの概要 復習：第 6 回配布資料の見直し			
7	笠原 千秋	【第 7 回】 予習：描画法について調べる 授業：描画法（１）バウムテスト・風景構成法・雨中人物画の概要 復習：第 7 回配布資料の見直し			
8	笠原 千秋	【第 8 回】 予習：雨中人物画について調べる 授業：描画法（２）雨中人物画の実施（実習） 復習：第 8 回配布資料の見直し			

9	笠原 千秋	【第9回】 予習：雨中人物画について調べる 授業：描画法（3）雨中人物画の解釈 復習：雨中人物画の解釈をまとめる							
10	笠原 千秋	【第10回】 予習：SCTについて調べる 授業：SCT（1）SCTの実施（実習） 復習：第10回配布資料の見直し							
11	笠原 千秋	【第11回】 予習：SCTについて調べる 授業：SCT（2）SCTの解釈 復習：SCTの解釈をまとめる							
12	笠原 千秋	【第12回】 予習：P-F スタディについて調べる 授業：P-F スタディ（1）P-F スタディの実施（実習） 復習：第12回配布資料の見直し							
13	笠原 千秋	【第13回】 予習：P-F スタディについて調べる 授業：P-F スタディ（2）P-F スタディのスコアリング 復習：P-F スタディのスコアリングをまとめる							
14	笠原 千秋	【第14回】 予習：P-F スタディについて調べる 授業：P-F スタディ（3）P-F スタディの解釈 復習：P-F スタディの解釈をまとめる							
15	笠原 千秋	【第15回】 予習：実施した検査の振り返り 授業：実施した検査の振り返りと総括 復習：実施した検査をまとめる							
授業開始前学習		心理アセスメントⅠの復習、心理検査（特に投影法検査）の概要について事前に学習しておくことと授業が理解しやすくなる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業後のリアクションペーパーの感想や疑問に対して授業内でコメントや回答を行う。							
テキスト・教材		スライドと配布資料							
参考書		津川律子・遠藤裕乃（編）（2019）『心理的アセスメント 公認心理師の基礎と実践14』遠見書房							
評価の基準と方法		リアクションペーパーの提出（40％）と期末レポート課題（60％）にて総合的に評価する。 授業内容に検査の実習を含むため出席を基本とする。 また心理検査の被験者になり自分の心理状態を把握する内容を含むため、強い不安のない者の履修を勧める。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	
関連科目									
その他		授業の進捗状況によって内容、順番は変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		臨床心理アセスメントの実務経験あり。適宜事例など紹介する							

科目分類	130-331-13 (J)	授業コード	FF0530
科目名称	心理学的支援法Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	Methods of Psychological Support Ⅰ	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	「人が人を助ける・支える」とはどういうことでしょうか。心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学習します。Ⅰでは、心理学的支援やケースワークの歴史、定義、原則、過程や良好なコミュニケーション方法について押さえてから、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを学びます。それぞれに短い事例を回答することを通して、アプローチの理解を深めていきます。援助的コミュニケーションについても触れます。		
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、カウンセリングや援助活動に活用できる能力と態度を育てることを目標とします。Ⅰでは、心理学的支援やソーシャルワークで用いられる代表的な理論・アプローチを習得し、問題を抱える人々の解決にどのように適用できるのか、事例への発表やディスカッションを通して、主体的に考察できるようにします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	森島 由紀子	【第 1 回】 予習 : 授業シラバスの確認 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業内容、授業の進め方の確認	
2	森島 由紀子	【第 2 回】 予習 : 資料 1 の講読－人が人を支えることについて考える 授業 : 心理学的支援とは何か : 歴史、定義、構造、原則 復習 : 心理学的支援・ケースワークの歴史、定義、構造、原則のキーワードの確認	
3	森島 由紀子	【第 3 回】 予習 : 資料 1 の講読－心理学的支援について考える 授業 : 心理学的支援とは何か : 過程、良好なコミュニケーション方法 復習 : 心理学的支援・ケースワークの過程、良好なコミュニケーション方法の確認	
4	森島 由紀子	【第 4 回】 予習 : 資料 2 講読－受容と共感について調べてみよう 授業 : クライアント中心アプローチ 復習 : クライアント中心療法のキーワードの確認と事例 2 への回答	
5	森島 由紀子	【第 5 回】 予習 : 資料 3 の講読－エコマップについて調べてみよう 授業 : 事例 2 の発表・ディスカッション、エコロジカルアプローチ 復習 : ライフモデルのキーワードの確認と事例 3 への回答	
6	森島 由紀子	【第 6 回】 予習 : 資料 4 の講読－オペラント条件づけについて調べてみよう 授業 : 事例 3 の発表・ディスカッション、行動アプローチ 復習 : 応用行動分析のキーワードの確認と事例 4 への回答	
7	森島 由紀子	【第 7 回】 予習 : 資料 5 の講読－エリスの ABC 理論について調べてみよう 授業 : 事例 4 の発表・ディスカッション、認知アプローチ 復習 : 認知療法のキーワードの確認と事例 5 への回答	
8	森島 由紀子	【第 8 回】 予習 : 資料 6 の講読－リンデマンの急性悲嘆反応について調べてみよう 授業 : 事例 5 の発表・ディスカッション、危機介入アプローチ 復習 : 危機介入理論のキーワードの確認と事例 6 への回答	
9	森島 由紀子	【第 9 回】 予習 : 資料 7 の講読－パウルマンについて調べてみよう 授業 : 事例 6 の発表・ディスカッション、問題解決アプローチ 復習 : 問題解決アプローチのキーワードの確認と事例 7 への回答	
10	森島 由紀子	【第 10 回】 予習 : 資料 8 の講読－課題中心アプローチについて調べてみよう 授業 : 事例 7 の発表・ディスカッション、課題中心アプローチ 復習 : 課題中心アプローチのキーワードの確認と事例 8 への回答	
11	森島 由紀子	【第 11 回】 予習 : 資料 9 の講読－家族療法について調べてみよう 授業 : 事例 8 の発表・ディスカッション、システム（家族療法）アプローチ	

		復習：構造派家族療法のキーワードの確認と事例 9 への回答							
12	森島 由紀子	【第 12 回】 予習：資料 10 の講読ーセツルメント運動について調べてみよう 授業：事例 9 の発表・ディスカッション、エンパワメントアプローチ 復習：エンパワメントアプローチのキーワードの確認と事例 10 への回答							
13	森島 由紀子	【第 13 回】 予習：資料 11 の印刷と講読ー社会構築主義について調べてみよう 授業：事例 10 の発表・ディスカッション、ナラティブアプローチ 復習：ナラティブアプローチのキーワードの確認と事例 11 への回答							
14	森島 由紀子	【第 14 回】 予習：資料 12 の講読ー援助的コミュニケーションについて調べてみよう 授業：事例 11 の発表・ディスカッション、援助的コミュニケーション 復習：援助的コミュニケーションについてまとめる							
15	森島 由紀子	【第 15 回】 予習：これまでの資料の講読 授業：心理学的支援のこれから 復習：心理学的支援の課題についてまとめる ※資料番号と事例番号を統一させるため、事例 1 はなく、事例 2 ～11 です。							
授業開始前学習		心理学的支援や対人援助に関する本を読んでおく授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		復習として事例を回答し、翌週の授業で発表、ディスカッションしてもらいますが、その回答内容に対してコメントします。							
テキスト・教材		特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書									
評価の基準と方法		期末レポート（80％）、事例課題（全 10 回）（20％）							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎	○			△	
関連科目									
その他		授業資料は事前に配付しますので、予習に活用してください。授業の進捗状況などにより、部分的に内容を変更することがあります。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。							

心理学的支援法Ⅱ

科目分類	130-331-13（J）	授業コード	FF0540
科目名称	心理学的支援法Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Methods of Psychological Support Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	森島 由紀子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	森島 由紀子	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	「人が人を助ける・支える」とはどういうことでしょうか。心理学的支援法では、心理学やソーシャルワークの視点に立ち、対象者への援助・支援に関する知識や技術を学びます。Ⅱでは、Ⅰで学んだエコロジカルアプローチ、行動アプローチ、ナラティブアプローチの理解を深めるため、長い事例を用いて、グループワークによるディスカッションや発表により参加型の授業を図り、心理学的支援を実践的に学んでいきます。職業倫理やコミュニティ心理学と心の健康教育についても触れます。		
到達目標	心理学的支援法では、援助・支援に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動やカウンセリングに活用できる能力と態度を育てることを目標とします。Ⅱでは、Ⅰで学んだアプローチの理解をさらに深めるため、長い事例に取り組み、グループワークによるディスカッションや発表を通して、心理学的支援について実践的、主体的に考えられるようにします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	森島 由紀子	【第 1 回】 予習：授業シラバスの確認 授業：オリエンテーション 復習：授業計画の確認	
2	森島 由紀子	【第 2 回】 予習：公認心理師協会の倫理綱領について調べてみよう 授業：職業倫理とケースワークの原則 復習：倫理綱領とバリエーションの 7 原則の内容の確認	
3	森島 由紀子	【第 3 回】 予習：エコロジカルアプローチについて確認する 授業：エコロジカルアプローチによる支援と事例 1（不登校）の紹介 復習：ライフモデルのキーワードの確認	
4	森島 由紀子	【第 4 回】 予習：事例 1－1 の質問に回答 授業：事例 1：1.アセスメントを行う（発表とディスカッション） 復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる	
5	森島 由紀子	【第 5 回】 予習：事例 1－2、3 の質問に回答 授業：事例 1：2.人へ介入する、3.環境へ介入する（発表とディスカッション） 復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる	
6	森島 由紀子	【第 6 回】 予習：事例 1－4、5 の質問に回答 授業：事例 1：4.人と環境の接点へ介入する、5.終結し、評価する（発表とディスカッション） 復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる	
7	森島 由紀子	【第 7 回】 予習：行動アプローチについて確認する 授業：行動アプローチによる支援と事例 2（多動性障害）の紹介 復習：応用行動分析のキーワードの確認	
8	森島 由紀子	【第 8 回】 予習：事例 2－1 の質問に回答 授業：事例 2：1.問題の捉え方を調べる（発表とディスカッション） 復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる	
9	森島 由紀子	【第 9 回】 予習：事例 2－2、3 の質問に回答 授業：事例 2：2.応用行動分析の理解、3.目標設定（発表とディスカッション） 復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる	
10	森島 由紀子	【第 10 回】 予習：事例 2－4、5 の質問に回答 授業：事例 2：4.目標の実行、5.モニタリング・終結（発表とディスカッション） 復習：他のグループの意見と比較しながら自分の考えをまとめる	
11	森島 由紀子	【第 11 回】 予習：ナラティブアプローチについて確認する 授業：ナラティブアプローチによる支援と事例 3（児童虐待のトラウマ）の紹介	

		復習：ナラティブアプローチのキーワードの確認							
12	森島 由紀子	【第 12 回】 予習：事例 3－1、2 の質問に回答 授業：事例 3：1.ドミナントストーリーの傾聴、2.問題の外在化（発表とディスカッション） 復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる							
13	森島 由紀子	【第 13 回】 予習：事例 3－3 の質問に回答 授業：事例 3：3.ユニークな結果の発見（発表とディスカッション） 復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる							
14	森島 由紀子	【第 14 回】 予習：事例 3－4、5 の質問に回答 授業：事例 3：4.5.オルタナティブストーリーの作成と強化（発表とディスカッション） 復習：他の人の意見と比較しながら自分の考えをまとめる							
15	森島 由紀子	【第 15 回】 予習：コミュニティ心理学や心の健康について調べてみよう 授業：コミュニティ心理学と心の健康教育 復習：コミュニティ心理学と心の健康教育のキーワードの確認							
授業開始前学習		心理学的支援法や対人援助に関する本を読んでおく授業が理解しやすい。心理学的支援法Ⅰの履修者は配付資料を復習してください。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業後半では各自が具体的な事例に取り組み、回答を板書してもらいますが、回答内容についてコメントします。							
テキスト・教材		特に指定しません。授業時に資料を配付します。							
参考書									
評価の基準と方法		レポート（８０％）、事例発表・ディスカッション（２０％）							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				◎	○			△	
関連科目									
その他		講義資料は事前に配付しますので、予習で購読（質問には回答）してください。受講者数によって事例の発表とディスカッションの方法を検討します。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		介護サービス相談員の実務経験を活かして、実際の援助や相談業務について授業で触れます。また、社会福祉士の国家資格を有しているため、社会福祉分野に関心のある学生や資格取得を目指す学生の相談にのります。							

科目分類	130-330-13 (J)	授業コード	FF0560
科目名称	心理療法論Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychotherapy Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 15:00~18:00 後期 金曜日 15:00~18:00	研究室	10-710
授業概要	精神分析的な心理療法の実践に必要な、人の心の力動的な理解、すなわち、無意識的な心のダイナミクスという側面から人間の心や行動についての理解を深める。その上で、面接室でクライアントとセラピストの間にどのような意識的・無意識的交流が生じるか、それを「here and now」でどのように扱い、援助に繋げていくかを演習を通して学んでいく。		
到達目標	1. 精神分析的な心理療法の基本的な概念・用語について、説明できる。 2. 精神分析的な心理療法のアプローチについて、説明できる。 3. 生じている心理的行動的問題について、精神分析的な心理療法観点から説明できる。 4. 心の仕組みと代表的な防衛機制について、説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 「精神分析療法」について調べてみる 授業 1. サイコセラピー入門 サイコセラピーとは何か／ヘンゼルとグレーテルの物語 (PBL) 復習 キーワードの理解：精神分析的な心理療法 (精神分析的な精神療法)、意識、前意識、無意識	
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 「ヘンゼルとグレーテルの物語」再読 授業 2. サイコセラピー入門 グレーテルとの出会い (PBL) 復習 キーワードの理解：診断面接	
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 「治療契約」について調べてみる 授業 3. サイコセラピー入門 宝探しの条件 (PBL) 復習 キーワードの理解：治療契約	
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 「治療同盟」について調べてみる 授業 4. サイコセラピー入門 協力体制の確立 (PBL) 復習 キーワードの理解：治療同盟	
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 「転移」について調べてみる 授業 5. サイコセラピー入門 あたかも魔女のごとく (PBL) 復習 キーワードの理解：転移	
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 「逆転移」について調べてみる 授業 6. サイコセラピー入門 「落とし穴」という名の道しるべ (PBL) 復習 キーワードの理解：逆転移	
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 精神分析における「夢」や「失錯行為」について調べてみる 授業 7. サイコセラピー入門 無意識への王道 (PBL) 復習 キーワードの理解：夢	
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 「抵抗」について調べてみる 授業 8. サイコセラピー入門 行く手を阻むもの (PBL) 復習 キーワードの理解：抵抗	
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 「ワーキング・スルー」について調べてみる 授業 9. サイコセラピー入門 ワーキング・スルー1 (PBL) 復習 キーワードの理解：徹底操作 (ワーキング・スルー)	
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 「ワーキング・スルー」について調べてみる 授業 10. サイコセラピー入門 ワーキング・スルー2 (PBL) 復習 キーワードの理解：徹底操作 (ワーキング・スルー)	
11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習 「治療終結」について調べてみる 授業 11. サイコセラピー入門 さようならをもう一度 (PBL)	

		復習 キーワードの理解：治療終結						
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習 これまでの治療経過について振り返っておく 授業 12. 症例「グレーテル」再考 精神力動的「読み」について／導入期（PBL） 復習 治療経過の理解：心的内界（心的世界）、自己、対象、対象関係						
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習 これまでの治療経過について振り返っておく 授業 13. 症例「グレーテル」再考 最盛期／ワーキング・スルーから終結へ 復習 治療経過の理解の理解：転移、抵抗、ワーキング・スルー、内在化（PBL）						
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習 「防衛機制」について調べてみる 授業 14. 自我の諸機制 1：抑圧、否認、取り入れ、同一化、隔離、知性化、合理づけ、反動形成、やり直し（PBL） 復習 防衛された感情・考え／使用した防衛機制						
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習 「防衛機制」について調べてみる 授業 15. 自我の諸機制 2：置き換え、投影、投影性同一視、退行（防衛としての退行）、昇華、分裂、原始的理想化、脱価値化、攻撃化（PBL） 復習 防衛された感情・考え／使用した防衛機制						
授業開始前学習		「臨床心理学概論」で使用したテキストの「精神分析療法」の節を復習しておくが良い。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業で課されたワークおよび復習問題については、授業終了後に毎回提出を求め、採点対象とする。また、そこで把握された全体的傾向については、次の授業で解説を加える。						
テキスト・教材		丸田俊彦 『サイコセラピー練習帳－グレーテルの宝探し』 岩崎学術出版社 ※テキストがワークブックになっているので、テキストなしでは課題に取り組みません。初回授業の前に購入を済ませるようにしてください。						
参考書		馬場禮子 『改訂 精神分析的人格理論の基礎－心理療法を始める前に』 岩崎学術出版社						
評価の基準と方法		所定の出席数を満たした者について、毎回の課題提出（ワーク：2 点×15 回＝30 点＋復習テスト 3 問：全問正解で 1 点×15 回分の計 45 点分）、定期テスト期間中の確認テスト（55 点分）の合計 100 点で評価する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目	臨床心理学概論							
その他	テキストがワークブックとなっている。授業は演習形式で行う。授業の視聴後、その回のワーク及びその回の授業内容の復習テストを提出する。授業時間内での両方の提出を以て、「出席」とカウントする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。心理臨床の課題、実践、歴史について講義する。							

☆心理学研究実践実習／臨床心理学実習

科目分類	130-330-23	授業コード	FF0571
科目名称	☆心理学研究実践実習／臨床心理学実習	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology Research Practical Training／Practice of Clinical Psychology	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	片岡 優介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	片岡 優介	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	人が安心して自分のことを話すために援助者になにができるだろうか。援助者は様々なことに気をつけなければならないだろう。例えば、相手が安心して話せるように、援助者は自分の緊張や不安に気づき、整えることが必要であるだろう。他にも、相手が分かってもらえていると感じられるように、言葉の内容だけでなく、話し方や姿勢など非言語的なメッセージにも気を配ることが大切であるだろう。この授業の目的は、自分の心身のクセを知り、相手の思いを聴く方法を実践し、人を支える奥深さを体験することである。		
到達目標	・自分の多様な側面を捉え、自分が他者に与える影響に気づくことができるようになること。 ・他者の体験を言葉の内容だけでなく非言語的な側面も含めて想像し、理解できるようになること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	片岡 優介	【第 1 回】 予習：人間関係の体験学習について調べる 授業：1. 人間関係の体験学習について 復習：人間関係の体験学習について振り返る	
2	片岡 優介	【第 2 回】 予習：リラクゼーションについて調べる 授業：2. 気づきのワーク① リラクゼーション 復習：リラクゼーションについて振り返る	
3	片岡 優介	【第 3 回】 予習：マインドフルネスについて調べる 授業：3. 気づきのワーク② マインドフルネス 復習：マインドフルネスについて振り返る	
4	片岡 優介	【第 4 回】 予習：セルフコンパッションについて調べる 授業：4. 気づきのワーク③ セルフコンパッション 復習：セルフコンパッションについて振り返る	
5	片岡 優介	【第 5 回】 予習：非言語コミュニケーションについて調べる 授業：5. 観察のワーク① 非言語コミュニケーション① 復習：非言語コミュニケーションについて振り返る	
6	片岡 優介	【第 6 回】 予習：非言語コミュニケーションについて調べる 授業：6. 観察のワーク② 非言語コミュニケーション② 復習：非言語コミュニケーションについて振り返る	
7	片岡 優介	【第 7 回】 予習：非言語コミュニケーションについて調べる 授業：7. 観察のワーク③ 非言語コミュニケーション③ 復習：非言語コミュニケーションについて振り返る	
8	片岡 優介	【第 8 回】 予習：非言語コミュニケーションについて調べる 授業：8. 観察のワーク④ 非言語コミュニケーション④ 復習：非言語コミュニケーションについて振り返る	
9	片岡 優介	【第 9 回】 予習：非言語コミュニケーションについて調べる 授業：9. 観察のワーク⑤ 非言語コミュニケーション⑤ 復習：非言語コミュニケーションについて振り返る	
10	片岡 優介	【第 10 回】 予習：質問について調べる 授業：10. 援助のワーク① 質問① 復習：質問について振り返る	
11	片岡 優介	【第 11 回】 予習：質問について調べる 授業：11. 援助のワーク② 質問②	

		復習：質問について振り返る
12	片岡 優介	【第 12 回】 予習：聞き返しについて調べる 授業：1 2. 援助のワーク③ 聞き返し① 復習：聞き返しについて振り返る
13	片岡 優介	【第 13 回】 予習：聞き返しについて調べる 授業：1 3. 援助のワーク④ 聞き返し② 復習：聞き返しについて振り返る
14	片岡 優介	【第 14 回】 予習：是認について調べる 授業：1 4. 援助のワーク⑤ 是認 復習：是認について振り返る
15	片岡 優介	【第 15 回】 予習：サマライズについて調べる 授業：1 5. 援助のワーク⑥ サマライズ 復習：サマライズについて振り返る
授業開始前学習		
授業内課題のフィードバックの方法		
テキスト・教材		
参考書		
評価の基準と方法		
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	
学修指針	教養力	人間性
科目の該当	◎	○
関連科目		
その他	・授業内容や授業の順序を一部変更する可能性があります。 ・本授業は体験学習が中心のため、積極的な参加が望めます。 ※自分の特徴に気づき、人と関わるワークを行います。精神的に不安定で受講に不安などがある場合は、事前に相談してください。	
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）	
実務経験を活かした教育内容		

科目分類	130-331-12（J）		授業コード	FF0710	
科目名称	健康・医療心理学		単位数	2.0 単位	
英文名称	Health and Medical Psychology		授業区分	講義	
科目責任者	飯田 敏晴		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	飯田 敏晴		開講時期	2・3・4 年	
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30		研究室	10-717	
授業概要	本講義は、次の4点について概説します。 1）ストレスと心身の疾病との関係について説明します。 2）医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について論じます。 3）保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体例を紹介しつつ、その理解を促します。 4）災害時等に必要な心理に関する支援について論じます。				
到達目標	1）ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。 2）医療現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 3）保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。 4）災害時等に必要な心理に関する支援を説明できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	飯田 敏晴	【第1回】 予習：シラバスで授業のスケジュールを確認する 授業：授業の紹介、ストレスと心身の疾病との関係（生活習慣と心の健康） 復習：配布資料に基づいて、健康・医療心理学の概要をまとめる			
2	飯田 敏晴	【第2回】 予習：ストレスの心理学について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（ストレス症状） 復習：ストレス症状の特徴や、その対応をまとめる			
3	飯田 敏晴	【第3回】 予習：心身症について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（心身症） 復習：心身症についての日本の特徴についてまとめる			
4	飯田 敏晴	【第4回】 予習：キャプランの「予防」について調べる 授業：ストレスと心身の疾病との関係（予防の考え方） 復習：予防の倫理的問題について、授業資料を振り返りながらまとめる			
5	飯田 敏晴	【第5回】 予習：精神疾患について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（精神疾患） 復習：精神疾患について、その特徴をまとめる			
6	飯田 敏晴	【第6回】 予習：がんについて調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（がん） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する			
7	飯田 敏晴	【第7回】 予習：HIV/AIDSを検索語として、調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（後天性免疫不全症候群、難病） 復習：授業内容に基づいて、その課題と支援についての概観を把握する			
8	飯田 敏晴	【第8回】 予習：チーム医療について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（チーム医療と多職種連携、リエゾン精神医学） 復習：チーム医療における心理職の職能を理解する			
9	飯田 敏晴	【第9回】 予習：生活の質や、ICF（国際生活機能分類）について調べる 授業：医療現場における心理社会的課題と必要な支援（生活の質） 復習：授業内容を自分なりにまとめる			
10	飯田 敏晴	【第10回】 予習：保健活動における心理的支援（発達相談） 授業：人間の「発達」と「障害」を検索語として調べる			

		復習：発達相談の特徴についてまとめる						
11	飯田 敏晴	【第 11 回】 予習：日本における自殺対策や、産業精神保健について調べる 授業：保健活動における心理的支援（うつ、自殺対策、職場復帰支援） 復習：自殺対策について自分なりに、その特徴や支援をまとめる						
12	飯田 敏晴	【第 12 回】 予習：ギャンブル依存、アルコール依存などについて調べる 授業：保健活動における心理的支援（依存症） 復習：依存症に関わる地域での心理的支援について、まとめる						
13	飯田 敏晴	【第 13 回】 予習：高齢者、老老介護や、その関連政策について調べる 授業：保健活動における心理的支援（認知症高齢者） 復習：認知症に関わる地域での心理的支援について、まとめる						
14	飯田 敏晴	【第 14 回】 予習：大規模災害の状況および、その後の状況を調べる 授業：災害時等の心理的支援（心理的応急処置）、災害時等の心理的支援（心のケアチーム、災害派遣精神医療チーム、支援者のケア） 復習：心理的応急処置についてその特徴をまとめる						
15	飯田 敏晴	【第 15 回】 予習：これまでの授業の復習 授業：授業内試験と解説 復習：試験結果と解説を踏まえて、自身が得点が取れなかった箇所の見直しをすること						
授業開始前学習		人間の行動変容に関する基本的知識（学習心理学など）や身体についての基本的知識を学習しておくと思われれる。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業時に作成する Reaction については次回授業までに、フィードバックする。原則として、クラウドを活用する予定。						
テキスト・教材		公認心理師ベーシック講座『健康・医療心理学』（講談社）						
参考書		『心の健康教育』（金子書房）、『看護学テキスト NICE 病態・治療論 12 精神疾患』（南江堂）、『健康・医療心理学』（ナカニシヤ出版）、『健康心理学概論』（実務教育出版）、『健康心理学・入門』（有斐閣）、山脇 圭輔（著）『ベシック健康心理学―臨床への招待』（ナカニシヤ出版）、『健康・医療心理学』（医歯薬出版）「ほか						
評価の基準と方法		毎回の授業後に提出する Reaction（15%）、学期はじめに提示され学期末までに提出する Brief Report(25%)、試験（60%）のそれぞれの成績による。それらの成績をもとに 100 点満点換算で 60 点以上の者に単位を認定する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	心理学の基礎 臨床心理学概論 感情・人格心理学 社会・集団心理学 教育・学校心理学							
その他	第 1 回目の授業資料をよく確認してください。欠席した場合、classroom にある資料を確認の上で、Reaction を指定期日までに提出してください。授業内容は、履修生の要望や進度に応じて、修正することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	総合病院における実務経験あり。健康・医療心理学の理論や研究成果に、実践を交えながら、講義する。							

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0720
科目名称	福祉心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychology for Social Welfare	授業区分	講義
科目責任者	河合 美千代	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	河合 美千代	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	私たちが生活している社会で福祉が必要とされていることの意味について考え、虐待などの事象を生む社会背景や人々の心理社会的課題から必要な支援、支援の実際などについて概説する。 ※グループワークで他者の考えを傾聴する態度を学ぶとともに、事案についてより深く考えることをめざします。		
到達目標	福祉現場や身近な実際の事案などを用いて、福祉について自分のこととして具体的に考えられるようになる。また、人を支援する仕事に就いた時に、適切な支援ができる基礎となる知識を身に着ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	河合 美千代	【第 1 回】 予習：福祉の領域について調べる 授業：福祉領域の概観（私たちの生活に福祉が必要とされる社会的背景）（グループワーク） 復習：福祉が身近に感じられる事柄についてまとめる	
2	河合 美千代	【第 2 回】 予習：自分の生活の中でどのような権利があるかを調べる 授業：社会福祉の基本的理念（基本的人権、権利擁護、ノーマライゼーションなど）（グループワーク） 復習：社会福祉の基本的理念についてまとめる	
3	河合 美千代	【第 3 回】 予習：子育て環境をめぐる現状について調べる 授業：子どもの福祉（子育て環境をめぐる現状と支援）（グループワーク） 復習：子育て支援についてまとめる	
4	河合 美千代	【第 4 回】 予習：児童相談所の援助業務について調べる 授業：子どもの福祉（児童虐待の背景要因と支援）（グループワーク） 復習：児童虐待についてまとめる	
5	河合 美千代	【第 5 回】 予習：障害者の範囲について調べる 授業：障害者の福祉（障害者の生活と支援・合理的配慮）（グループワーク） 復習：障害者の福祉についてまとめる	
6	河合 美千代	【第 6 回】 予習：高齢者の定義について調べる 授業：高齢者の福祉（高齢者の生活と支援）（グループワーク） 復習：高齢者の福祉についてまとめる	
7	河合 美千代	【第 7 回】 予習：高齢者虐待の背景について調べる 授業：高齢者の福祉（高齢者虐待の背景要因と支援）（グループワーク） 復習：高齢者虐待についてまとめる	
8	河合 美千代	【第 8 回】 予習：DV とは何かについて調べる 授業：家庭の福祉（DV への理解と支援）（グループワーク） 復習：DV 被害者への支援についてまとめる	
9	河合 美千代	【第 9 回】 予習：ひきこもりとはどういう状態なのかを調べる 授業：ひきこもりの人への支援（グループワーク） 復習：ひきこもりの人への支援についてまとめる	
10	河合 美千代	【第 10 回】 予習：生活保護制度について調べる 授業：生活困窮者に対する支援（グループワーク） 復習：生活困窮者に対する支援についてまとめる	
11	河合 美千代	【第 11 回】 予習：自分が人に相談する時に、相手に求めるものをまとめる 授業：相談援助に必要な技術（グループワーク） 復習：相談援助に必要な技術についてまとめる	

12	河合 美千代	【第 12 回】 予習：高齢者を介護する家族の心情について調べる 授業：家族・職員への支援(グループワーク) 復習：家族・職員への支援についてまとめる							
13	河合 美千代	【第 13 回】 予習：自分が何かを決定する時に妨げられた時の思いを書く 授業：相談援助における意思決定への支援（グループワーク） 復習：意思決定支援についてまとめる							
14	河合 美千代	【第 14 回】 予習：事例を検討する目的を調べる 授業：相談援助事例の検討（事例）（グループワーク） 復習：相談援助事例の検討についてまとめる							
15	河合 美千代	【第 15 回】 予習：なぜ連携が必要なのかについて調べる 授業：専門職の役割と連携（グループワーク） 復習：専門職の役割と連携についてまとめる							
授業開始前学習		各回のテーマに関して情報収集をし、自分の生活にテーマを引き付けて考えておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出する 2 回のレポート（A41 枚以内）については、2 週間後をめどに全体の講評を行い、個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		川畑直人・大島剛・郷式徹監修/川畑隆・笹川宏樹・宮井研治編著『公認心理師の基本を学ぶテキスト 17 福祉心理学 福祉分野での心理職の役割』（ミネルヴァ書房）							
参考書		中島健一編『福祉心理学』（遠見書房） 菅野恵『福祉心理学を学ぶ 児童虐待防止と心の支援』（勁草書房） 中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編集『福祉心理学の世界：人の成長を辿って』（ナカニシヤ出版）							
評価の基準と方法		小テストまたはミニワーク 4 0 パーセント、レポート 60%で評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と，人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と，社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と，心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と，実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○		
関連科目		特にありません							
その他		特にありません							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-12 (J)			授業コード	FF0730
科目名称	教育・学校心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Educational and School Psychology			授業区分	講義
科目責任者	太齋 慧			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太齋 慧			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	教育・学校心理学は、心理学の知見を学校教育の現場に活かし、心理教育的援助サービスの充実を図ろうとする学問です。本講義では臨床心理学、コミュニティ心理学等の知見を通して、スクールカウンセラーの役割や基本的な考え方を理解し、児童・生徒やその関係者、コミュニティへの支援について学ぶことを目的とします。				
到達目標	教育・学校心理学、スクールカウンセリングについての重要な概念や考え方を理解し、説明できるようになる。また実際に自分がスクールカウンセラーになったときに、どのように児童・生徒やその関係者、コミュニティを支援していくかを考えられるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	太齋 慧	予習 シラバスを読み、質問や確認事項があればまとめておく 授業 ガイダンス 授業の概要、進め方について 復習 第 1 回で扱った用語や概念についてまとめておく			
2	太齋 慧	予習 第 2 回の配布資料を読んでおく 授業 学校における心理支援の概観 復習 第 2 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
3	太齋 慧	予習 第 3 回の配布資料を読んでおく 授業 システム、コミュニティを捉える視点① 理論を中心に 復習 第 3 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
4	太齋 慧	予習 第 4 回の配布資料を読んでおく 授業 システム、コミュニティを捉える視点② 事例を中心に 復習 第 4 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
5	太齋 慧	予習 第 5 回の配布資料を読んでおく 授業 発達を捉える視点 基本的信頼感を中心に 復習 第 5 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
6	太齋 慧	予習 第 6 回の配布資料を読んでおく 授業 精神医学的な理解 発達障害を中心に 復習 第 6 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
7	太齋 慧	予習 第 7 回の配布資料を読んでおく 授業 支援のためのコミュニケーション（グループワーク） 復習 第 7 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
8	太齋 慧	予習 第 8 回の配布資料を読んでおく 授業 アセスメント 復習 第 8 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
9	太齋 慧	予習 第 9 回の配布資料を読んでおく 授業 不登校の理解と支援 復習 第 9 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
10	太齋 慧	予習 第 10 回の配布資料を読んでおく 授業 いじめの理解と支援 復習 第 10 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
11	太齋 慧	予習 第 11 回の配布資料を読んでおく 授業 非行の理解と支援 復習 第 11 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
12	太齋 慧	予習 第 12 回の配布資料を読んでおく 授業 「チーム学校」によるコミュニティとしての学校の支援 復習 第 12 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
13	太齋 慧	予習 第 13 回の配布資料を読んでおく 授業 多様性と学校 性的マイノリティを中心に 復習 第 13 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			
14	太齋 慧	予習 第 14 回の配布資料を読んでおく 授業 個人の問題に囚われない支援 プリーフセラピーを中心に 復習 第 14 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく			

15	太 齋 慧	予習 第 15 回の配布資料を読んでおく 授業 学校における心理支援のまとめ 復習 第 15 回で学んだこと、感じ考えたことをまとめておく						
授業開始前学習	心理学、臨床心理学、発達心理学の基本的知識を学習しておくが授業が理解しやすい。入門書や概論書を読んでおくことをお勧めします。							
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパー等の内容については、次回の講義内でフィードバックします。							
テキスト・教材	適宜、資料を配布します。							
参考書								
評価の基準と方法	・定期試験 70% ・小レポート 30% ※単位取得には 3 分の 2 以上の出席が必要です。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目								
その他	受講者の人数、興味関心等により授業の内容、順番については変更することがあります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理支援職としての実務経験を活かし、現場における問題の理解と支援について講義します。							

科目分類	130-331-12 (J)			授業コード	FF0740
科目名称	司法・犯罪心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Forensic and Criminal Psychology			授業区分	講義
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10			研究室	10-719
授業概要	非行や犯罪の動向には、社会情勢の変化や社会の課題が反映されていることが多い。また、非行や犯罪の発生とそこからの立ち直りについては、発達やパーソナリティ、家族関係、学校や仕事、地域社会など様々な要因が影響を及ぼすものであり、司法・犯罪領域の基本的事項や理論等を多角的な視点から知っておくことには意義がある。本講では、①司法・犯罪領域の制度や理論、②主に心理学的見地からのアセスメントと支援の方法、③この領域における専門機関やそこで活躍する専門職の実践について、事例等を適宜紹介しながら、幅広く講義する。				
到達目標	司法・犯罪領域に関わる社会の出来事に関心を抱き、自分なりの意見を持つようになる。 司法・犯罪領域における制度や理論、専門機関等の概要について説明できる。 非行や犯罪を多角的に捉える必要性を理解し、アセスメントや支援における心理学の知見の活用の実際を学ぶ。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習 最近の非行、犯罪に関する報道や記事を調べる。 授業 イントロダクション（授業の進め方、司法・犯罪心理学の領域） 復習 配布資料を見返す。			
2	田中 教仁	予習 犯罪白書や配布資料等を概観する。 授業 非行・犯罪の動向と少年非行の歴史の変遷 復習 課題①。配布資料を見返す。参考文献等を確認する。			
3	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論①（犯罪とは？ 生物－心理－社会モデル） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。			
4	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論②（心理学理論を中心に） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。			
5	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論③（社会学理論を中心に） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。			
6	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論④（生物学的要因、ライフコース理論） 復習 配布資料を見返す。参考文献等を確認する。			
7	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 非行・犯罪理論⑤（リスクアセスメント、非行・犯罪のアセスメントのまとめ） 復習 課題②。非行・犯罪理論について理解を深め、整理する。			
8	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 刑事司法手続と情状鑑定 復習 刑事司法手続についてまとめる。			
9	田中 教仁	予習 少年法を概観する。 授業 少年法と少年司法手続 復習 課題③。少年司法手続と刑事司法手続の違いをまとめる。			
10	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 家庭裁判所の審判と家庭裁判所調査官 復習 家庭裁判所の審判と科学的調査機能についてまとめる。			
11	田中 教仁	予習 少年院法や少年鑑別所法を概観する。 授業 少年に対する処遇と支援①（少年鑑別所、少年院） 復習 配布資料を見返す。			
12	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 少年に対する処遇と支援②（児童自立支援施設、児童相談所） 復習 配布資料を見返す。			
13	田中 教仁	予習 更生保護法を概観する。 授業 少年に対する処遇と支援③（保護観察所） 復習 配布資料を見返す。少年保護関係機関等の処遇について理解を深め、まとめる。			

14	田中 教仁	予習 配布資料や参考図書にあたる。 授業 刑務所の処遇と医療観察制度 復習 課題④。配布資料を見返す。							
15	田中 教仁	予習 犯罪被害者等支援施策の歴史を調べる。 授業 犯罪被害者の支援 復習 犯罪被害者等の支援について理解し、まとめる。							
授業開始前学習		非行や犯罪、少年法に関連するニュースに関心を持ち調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業で指示した課題等については、全体の講評という形でフィードバックする。							
テキスト・教材		テキストは使わない。授業で適宜、資料を配布し、文献を推薦、紹介する。							
参考書		門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのかー成人犯罪への道をたどらせないためにー』（合同出版）							
評価の基準と方法		所定の出席状況を踏まえたうえで、レポート課題により 60%、授業で指示する課題（小レポート、小テスト等）による 40%の配分で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○		
関連科目		家族心理学（家事事件の領域は、家族心理学において解説する。）							
その他		授業の冒頭に、最近の事件報道について数人から報告を求め、全体で共有する時間を設ける。また、ペアワークや小グループでのディスカッションを行い、学生に発表を求めることがある。積極的に発表等する姿勢が求められる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官としての実務経験をもとに、司法・犯罪領域の問題について、多角的な視点から理解する必要性や、特に心理学の知見を活用して理解し支援する方法について講義する。							

科目分類	130-331-12（J）			授業コード	FF0750
科目名称	産業・組織心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Industrial and Organizational Psychology			授業区分	講義
科目責任者	新井 素子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	新井 素子			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	ほとんどの人は、大学などを卒業した後は生涯にわたり職業に従事して働く生活を送られる。働くということには、キャリア形成や職場でのパフォーマンスの向上、働く人のメンタルヘルスなど様々な問題が関わる。他方、働くということには成長や喜びをもたらす面もある。この授業には「キャリア形成」、「モチベーション」、「ストレスマネジメント」などの職場における問題や組織における人の行動に対する基本的な知識や理解を深める。				
到達目標	産業心理学の基本的知識を習得する。特にキャリア形成、動機づけ理論、および職場のコミュニケーションについての知識の習得や、社会の中で生きることについて考えながら、心理学からみた職場におけるメンタルヘルスの問題と臨床的活動の実際などについての理解を深める。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容			
1	新井 素子	【第 1 回】 予習：自分が将来、どのようなキャリアを積みたいのかにつき考える。 授業：イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など）、産業・組織心理学に対するイメージをつかむ。 復習：授業の内容で興味のあるテーマにつき、新聞・ニュースなどをチェックする。			
2	新井 素子	【第 2 回】 予習：自分がこれまで関わった組織の特徴について考える。 授業：組織の特徴やそれに関する心理学の基礎を理解する。ヒューマン・エラーについて理解する。 復習：心理学の視点から、組織について考察する。			
3	新井 素子	【第 3 回】 予習：自分の将来のキャリア形成について考える。 授業：キャリア形成① 青年期におけるキャリア形成について知り、理解を深める。 復習：授業で得られた青年期の課題についての知識を自分の現在の課題に当てはめて考える。			
4	新井 素子	【第 4 回】 予習：身近な人（親やきょうだい、先輩など）のキャリアを形成につき、聞いたり調べたりする。 授業：キャリア形成② スーパーの理論などキャリアにまつわる理論について知り、理解を深める。 復習：学んだ理論を参照しながら、自分の現在・将来のキャリア形成について再考する。			
5	新井 素子	【第 5 回】 予習：自分はどのときにやる気が出るのか、なぜやる気が出るのかなどについて考える。 授業：ワーク・モチベーション① マズローの 5 段階欲求や科学的管理法などについて、基本的な知識を習得する。 復習：マズローのモデルに基づいて、自分が現在どの段階にいるのかなどを考察する。			
6	新井 素子	【第 6 回】 予習：どのようにすれば、自分で自分のやる気を引き出すことができるのかについて考える。 授業：ワーク・モチベーション② 期待理論や目標設定理論などについて、基本的な知識を習得する。 復習：自分自身に授業で学んだ知識をあてはめ、目標を達成するためにはどうしたらよいか、その方法を考える。			
7	新井 素子	【第 7 回】 予習：周囲の人（友達や家族など）に、どのようにやる気を引き出しているのか、その方法を聞いてみる。 授業：ワーク・モチベーション③ 自分のやる気について理解を深める。 復習：これまで習得した知識を元に、自分のモチベーションのあり方について振り返る。			
8	新井 素子	【第 8 回】 予習：身の回りで就職活動を体験した人（親やきょうだい、先輩等）に就職活動の様子を聞いてみる。 授業：心理学の視点から、採用活動や面接についての基礎的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ知識などを自分の就職活動にあてはめて考察する。			
9	新井 素子	【第 9 回】 予習：職場の人間関係についてのニュースや新聞の中から、気になる記事についてピックアップして読んでおく。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係① 職場の人間関係、集団の発達などについて基本的な知識を習得する。 復習：授業で学んだ人間関係の発達についての知識などを、自分が所属するグループにあてはめて考察する。			
10	新井 素子	【第 10 回】 予習：新聞や書籍などから、職場の人間関係を改善した例について調べる。 授業：職場のコミュニケーションと人間関係② コンフリクト・マネジメントについて基本的な知識を習得する。			

		復習：授業で得た知識や考え方により、どのようにコンフリクトが解決できるか、その方策を考える。						
11	新井 素子	【第 11 回】 予習：リーダーシップがある人の特徴について考える。 授業：リーダーシップについての基本的な知識や考え方を習得する。 復習：授業で得た知識などを踏まえ、リーダーシップがある人の要因を分析する。						
12	新井 素子	【第 12 回】 予習：自分がどのような消費活動を行っているか、特に購買行動について考える。 授業：購買行動をめぐる売り手・買い手に関係する心理学的な知識を習得する。 復習：授業で得た知識や考え方を踏まえ、自分の購買行動を振り返る。						
13	新井 素子	【第 13 回】 予習：働く人のメンタルヘルスに関わるニュースについて調べる。 授業：働く人のメンタルヘルス① 職場におけるストレスとその対応について基本的な知識を習得する。 復習：職場でどのようなストレス対処策が実施されているのかにつき調べる。						
14	新井 素子	【第 14 回】 予習：新聞や書籍などから働く人のメンタルヘルスに関わる問題について調べる。 授業：働く人のメンタルヘルス② 様々なストレス理論について理解を深める 復習：ストレス理論を自分に当てはめて、自分自身のストレス対応を考える。						
15	新井 素子	【第 15 回】 予習：自分のストレス解消法について考えてみる。 授業：働く人のメンタルヘルス③ これまでのまとめ(セルフケアの勧め) 復習：自分でセルフケアを実践してみる。						
授業開始前学習		①新聞・ニュースで、授業に関連する気になるニュースをチェックしておく。 ②自分自身のアルバイトや今後の就職活動において気になる問題を考えておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内でミニレポートあるいはミニテストを実施し、翌週または 2 週後に全体の講評・回答の状況について授業内でコメントをする。質問についても適宜対応する。						
テキスト・教材		スライドと配布資料を用いる。その他の参考文献は講義内で随時紹介する。						
参考書		田中堅一郎（編）『産業・組織心理学エッセンシャルズ』（ナカニシヤ出版）						
評価の基準と方法		ミニテスト及びレポート 100%（レポート含む） ※全講義回数のうち 1 / 3 以上欠席の場合は単位取得不可						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	◎	○		
関連科目	消費者心理学							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	約 10 年にわたる社会人経験や人事担当者として勤務した際の体験などを活かし、組織の中で働くことや就職活動について具体的にイメージしてもらう。女性の働き方の多様性や一生を通じて働くということの意味について主体的に考えるためのヒントを提供し、産業・組織心理学を学ぶことの楽しさを伝えるよう心掛ける。							

科目分類	130-330-12	授業コード	FF0760
科目名称	消費者心理学	単位数	2.0 単位
英文名称	Consumer Psychology	授業区分	講義
科目責任者	永房 典之	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	永房 典之	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	社会心理学における「消費者・消費行動の心理」について学ぶ。 生産者のマーケティング、ブランド選択、価格判断、消費者間コミュニケーション、購買意思決定、比較広告、ネット、地域性、日本・外国の文化といった消費者心理研究の基本的内容を概観する。		
到達目標	社会心理学には、購買行動を含めた消費行動、消費者に役立つ研究領域があることを理解できる。 社会心理学における消費者の態度や認知、消費行動についての研究を学ぶことで、消費者としての自分、就職活動や就職後の仕事に役立つ知見を自分なりに考えることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	永房 典之	【第 1 回】 予習：序章（1 頁－1 3 頁）の通読 授業：「消費行動の社会心理学」（テキスト 1 頁－1 3 頁） 復習：消費行動の社会心理学アプローチの確認および関連文献の通読	
2	永房 典之	【第 2 回】 予習：1 章（テキスト 1 6 頁－2 5 頁）の通読 授業：「ブランド選択の心理」（テキスト 1 6 頁－2 5 頁） 復習：商品選択とブランド選択に関する研究の確認および関連文献の通読	
3	永房 典之	【第 3 回】 予習：2 章（テキスト 2 6 頁－3 8 頁）の通読 授業：「消費者の価値意識」（テキスト 2 6 頁－3 8 頁） 復習：マクロとミクロの消費者の価値意識に関する研究の確認および関連文献の通読	
4	永房 典之	【第 4 回】 予習：3 章（テキスト 4 0 頁－5 1 頁）の通読 授業：「消費者の非計画購買過程」（テキスト 4 0 頁－5 1 頁） 復習：消費者の非計画購買に関する研究の確認および関連文献の通読	
5	永房 典之	【第 5 回】 予習：4 章（テキスト 5 2 頁－6 3 頁）の通読 授業：「消費者の価格判断の過程」（テキスト 4 6 頁－5 9 頁） 復習：心的モノサシと価格判断に関する研究の確認および関連文献の通読	
6	永房 典之	【第 6 回】 予習：5 章（テキスト 6 6 頁－7 9 頁）の通読 授業：「消費者間相互作用と購買意思決定」（テキスト 6 0 頁－7 5 頁） 復習：口コミとマーケティングに関する研究の確認および関連文献の通読	
7	永房 典之	【第 7 回】 予習：6 章（テキスト 8 0 頁－9 4 頁）の通読 授業：「インターネットを通じた消費者間コミュニケーション過程」（テキスト 8 0 頁－9 4 頁） 復習：インターネットと消費行動に関する研究の確認および関連文献の通読	
8	永房 典之	【第 8 回】 予習：7 章（テキスト 9 6 頁－1 0 7 頁）の通読 授業：「比較広告と消費行動」（テキスト 9 6 頁－1 0 7 頁） 復習：比較広告に関する研究の確認および関連文献の通読	
9	永房 典之	【第 9 回】 予習：8 章（テキスト 1 0 8 頁－1 1 7 頁）の通読 授業：「悪質商法におけるコミュニケーションと消費者行動」（テキスト 1 0 8 頁－1 1 7 頁） 復習：悪質商法と資格商法に関する研究の確認および関連文献の通読	
10	永房 典之	【第 10 回】 予習：9 章（テキスト 1 1 8 頁－1 2 8 頁）の通読 授業：「企業のリスク・コミュニケーションと消費行動」（テキスト 1 1 8 頁－1 2 8 頁） 復習：企業におけるリスク・コミュニケーションに関する研究の確認および関連文献の通読	
11	永房 典之	【第 11 回】 予習：1 0 章（テキスト 1 3 0 頁－1 4 1 頁）の通読 授業：「サービスの地域性と消費行動」（テキスト 1 3 0 頁－1 4 1 頁）	

		復習：接客サービスの地域性に関する研究の確認および関連文献の通読							
12	永房 典之	【第12回】 予習：11章（テキスト142頁－154頁）の通読 授業：「地域性を考慮した広告の効果」（テキスト142頁－154頁） 復習：地域限定と地域ステレオタイプの広告に関する研究の確認および関連文献の通読							
13	永房 典之	【第13回】 予習：12章（テキスト156頁－163頁）の通読 授業：「文化受容と消費行動」（テキスト156頁－163頁） 復習：日本のポピュラー文化の受容に関する研究の確認および関連文献の通読							
14	永房 典之	【第14回】 予習：13章（テキスト164頁－175頁）の通読 授業：「消費行動の文化的意味」（テキスト164頁－175頁） 復習：消費行動の文化差に関する研究の確認および関連文献の通読							
15	永房 典之	【第15回】 予習：テキスト1章－13章の再確認 授業：消費行動の心理の総括（学習成果の確認・到達度アセスメント） 復習：消費者心理学を通じて現代社会と身近な消費行動を考察する							
授業開始前学習		社会心理学に関連する本、マーケティング調査、広告、購買行動、ビジネス心理に関連する本の購読。							
授業内課題のフィードバックの方法		リアクションペーパーについては次回の授業回、調査票については実施後の当該授業回または次回の授業回、学習成果の確認テストは当該授業回または遠隔教育ツールにて解説を行う。							
テキスト・教材		竹村和久（編）『消費行動の社会心理学－消費する人間のこころと行動』（北大路書房） 2000年発行 2,500円＋税							
参考書		社会行動研究会（翻訳）ロバート・B・チャルディーニ（著）『影響力の武器（第三版）－なぜ、人は動かされるのか』（誠信書房）2014年発行 2,700円＋税 社会行動研究会（監訳）ロバート・B・チャルディーニ（著）『影響力の武器【新版】－人を動かす七つの原理』（誠信書房）2023年発行 2,900円＋税							
評価の基準と方法		学習成果の確認テスト（60点）、平常点（授業態度・リアクションペーパー・調査票参加：40点）によって総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成			心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○		
関連科目		「社会・集団心理学」、「対人関係論」とは基盤となる心理学領域や研究方法で関連する。							
その他		通常の講義形式である。 理解や関心を高める資料を配布し、社会心理学やマーケティング調査の体験学習として調査実施することがある。 授業資料の扱いについては授業時に指示する。 授業中は、私語を慎み、携帯電話の扱いに注意すること。 一般心理学に関心がある者、なかでもマーケティング方法や購買行動の知識を高めることで就職活動や将来の仕事に活用したい者を歓迎する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-330-12 (J)			授業コード	FF0770
科目名称	コミュニティ心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Community Psychology			授業区分	講義
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題を、個人とその個人を取り巻くコミュニティ（集団）との関係という視点から理解する、コミュニティ心理学の授業である。心の問題を理解するための理論と、理論に基づく予防策や対応法について、事例を通して学ぶ。また、学校現場における支援、精神障害者に対する支援、虐待問題への支援、被災者への支援など、現実には生じているさまざまな心理的問題への支援方法について学んでいく。				
到達目標	コミュニティ心理学の基本的理念である、「コミュニティ感覚」、「予防」、「エンパワメント」、「連携と協働」等の概念について理解し、説明できるようになる。コミュニティ心理学の実践方法である、「危機介入法」、「コンサルテーション」、「連携と組織作り」について、課題を通して理解を深め、自分なりに支援方法を考えることができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習：「コミュニティ」という用語について国語辞典で調べておく 授業：ガイダンス、コミュニティ心理学の歴史（資料①） 復習：配布資料①の復習、課題①の提出			
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習：「生態学的視座」という用語について調べておく 授業：コミュニティ心理学の基本的理念（資料②） 復習：資料②の復習、課題②の提出			
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習：「危機」という用語について国語辞典で調べておく 授業：危機理論と危機介入法 1 危機理論とは（資料③） 復習：資料③の復習、課題③の提出			
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習：「危機介入法」という用語について調べておく 授業：危機理論と危機介入法 2 危機介入の方法（資料④） 復習：資料④の復習、課題④の提出、レポート課題 1 の作成			
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習：レポート課題 1 の作成 授業：危機理論と危機介入法 3 危機介入の事例（グループ・ディスカッション）（資料⑤） 復習：資料⑤の復習、課題⑤の提出、レポート課題 1 の見直し			
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習：「コンサルテーション」という用語について調べておく 授業：コンサルテーション 1 コンサルテーションとは（資料⑥） 復習：資料⑥の復習、課題⑥の提出、レポート課題 2 の作成			
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習：レポート課題 2 の作成 授業：コンサルテーション 2 コンサルテーションの事例（グループ・ディスカッション）（資料⑦） 復習：資料⑦の復習、課題⑦の提出、レポート課題 2 の見直し			
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習：「コラボレーション」という用語について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 1 コラボレーションとは（資料⑧） 復習：資料⑧の復習、課題⑧の提出			
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習：「スクールカウンセラー」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 2 スクールカウンセリング（資料⑨） 復習：資料⑨の復習、課題⑨の提出			
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習：「精神疾患」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 3 精神障害者への支援（資料⑩） 復習：資料⑩の復習、課題⑩の提出			
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：「児童虐待」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 4 子育て支援（資料⑪）			

		復習：資料⑪の復習、課題⑪の提出							
12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：「社会的ひきこもり」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 5 若者への支援 （資料⑫） 復習：資料⑫の復習、課題 12 の提出							
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：「危機介入法」について復習しておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 6 被災者・被害者の支援 1 （資料⑬） 復習：資料⑬の復習、課題⑬の提出、レポート課題 3 の作成							
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：「東日本大震災」について調べておく 授業：社会的支援の組織作りとコラボレーション 7 被災者・被害者の支援 2 （資料⑭） 復習：資料⑭の復習、課題⑭の提出、レポート課題 3 の作成							
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習：レポート課題 3 の作成 授業：レポート課題 3 の発表（グループ・ディスカッション） 授業のまとめ 復習：課題⑮の提出、レポート課題 3 の見直し							
授業開始前学習		ニュースや新聞を通じてさまざまな社会問題に触れ、自分がどのようなコミュニティに興味を感じるか考えておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で課題（小テストもしくはミニット・ペーパー等）の提出を求め、その次の回で全体に対して質問やコメントへの返答を行う。							
テキスト・教材		特に指定しない（授業中に随時配布する）。							
参考書		特に指定しない。							
評価の基準と方法		毎回後の小テストもしくはミニット・ペーパーの提出（4 点×15 回＝60 点）、レポート課題 1（10 点）、レポート課題 2（10 点）、レポート課題 3（20 点）の総合点で評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎	○		
関連科目		なし。							
その他		特になし。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験を活かしてコミュニティにおける心理支援の理念と実践について講義する。							

科目分類	130-330-12			授業コード	FF0780
科目名称	スポーツ心理学			単位数	2.0 単位
英文名称	Sports Psychology			授業区分	講義
科目責任者	小松 陽香			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小松 陽香			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	スポーツ心理学の観点から、多角的にスポーツを捉え、スポーツの現場に必要な基礎的な理論と知見について学ぶ。スポーツ現場の現状を理解し、講義を通して得た知識を用いることで、スポーツ競技者が主体となってパフォーマンスの向上や精神の安定を導くこと、スポーツ現場に対して効果的な介入を行うための基礎的な知識を身に付けることを目標とする。				
到達目標	スポーツ心理学に関する基礎的な理論と知見について理解する。スポーツが持つ心理的效果や動機づけなどのスポーツ現場の現状の把握や技法の習得を通して、パフォーマンスの向上や効果的なスポーツ活動を導く方法を具体的に検討できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小松 陽香	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : スポーツ心理学の概要、授業の目的・評価について 復習 : 自分自身の興味、関心が高いテーマを確認する			
2	小松 陽香	【第 2 回】 予習 : ストレス認知について調べておく 授業 : スポーツとストレス認知について 復習 : 授業資料を見直す			
3	小松 陽香	【第 3 回】 予習 : ストレス対処について調べておく 授業 : スポーツとストレス対処について 復習 : 授業資料を見直す			
4	小松 陽香	【第 4 回】 予習 : 自尊感情について調べておく 授業 : スポーツと関係の深い心理要素について①（自尊感情） 復習 : 授業資料を見直す			
5	小松 陽香	【第 5 回】 予習 : 動機づけと自己効力感について調べておく 授業 : スポーツと関係の深い心理要素について②（動機づけ、自己効力感） 復習 : 授業資料を見直す			
6	小松 陽香	【第 6 回】 予習 : 自分の現在の目標について考えておく 授業 : 目標設定の理論について 復習 : 授業資料を見直す			
7	小松 陽香	【第 7 回】 予習 : スポーツ選手が抱える可能性の高い心理的問題について調べておく 授業 : スポーツ選手が抱える可能性の高い心理的問題と対処法について 復習 : 授業資料を見直す			
8	小松 陽香	【第 8 回】 予習 : ソーシャルサポートについて調べておく 授業 : スポーツ活動におけるソーシャルサポートについて（グループワーク） 復習 : 授業資料を見直す			
9	小松 陽香	【第 9 回】 予習 : 方略認知について調べておく 授業 : スポーツと関係の深い心理要素について③（方略認知）（問題解決型学習） 復習 : 授業資料を見直す			
10	小松 陽香	【第 10 回】 予習 : 心理的競技能力について調べておく 授業 : 心理的競技能力について 復習 : 授業資料を見直す			
11	小松 陽香	【第 11 回】 予習 : メンタルコントロールについて調べておく 授業 : 心理状態とパフォーマンスの関係①（心と身体に関連） 復習 : 授業資料を見直す			

12	小松 陽香	【第 12 回】 予習 : リラクセーションについて調べておく 実習前に自分の心と身体 の健康状態を確認しておく 授業 : 心理状態とパフォーマンスの関係② (リラクセーション法) (実習) 復習 : 授業資料を見直すこと							
13	小松 陽香	【第 13 回】 予習 : あがりについて調べておく 授業 : 心理状態とパフォーマンスの関係③ (集中力のトレーニング) (実習) 復習 : 授業資料を見直すこと							
14	小松 陽香	【第 14 回】 予習 : イメージによる課題のトレーニングについて調べておく 授業 : 心理状態とパフォーマンスの関係④ (イメージによる課題のトレーニング) (実習) 復習 : 授業資料を見直すこと							
15	小松 陽香	【第 15 回】 予習 : 今までの授業資料および小レポート内容を振り返っておく 授業 : スポーツ心理学総括 復習 : 授業資料を見直すこと							
授業開始前学習		スポーツ心理学がスポーツに与える影響や、競技場面においてスポーツ心理学が果たす役割について考えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業毎回の小レポートについては、翌週に全体の講評と質問の回答をする。							
テキスト・教材		授業時に資料を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		レポート 40%、平常点 (小レポート) 60%による。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	○		
関連科目									
その他		授業内容は学生の興味・関心、世相を踏まえ、内容を調整する可能性がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

人体の構造と機能及び疾病

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0910
科目名称	人体の構造と機能及び疾病	単位数	2.0 単位
英文名称	Human Body Structure, Function and Diseases	授業区分	講義
科目責任者	太齋 慧	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	太齋 慧	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	心理的支援の視座から医学・医療、健康、及び生涯発達に伴う疾患や障害について学んだ上で、心理的支援を要することの多い疾病等について基礎的な知識を習得し適切な心理的支援について考えていく。		
到達目標	①医学・医療、健康、生涯発達に伴う疾患や障害について心理的支援の立場から説明できる。 ②各種疾病等について基本的な内容を説明でき、適切な心理的支援について考えられる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	太齋 慧	【第 1 回】 予習：授業スケジュールおよび Classroom を確認する 授業：オリエンテーション、医学・医療と心理 復習：第 1 回の配布資料の見直し	
2	太齋 慧	【第 2 回】 予習：EBM（エビデンス・ベースト・メディスン）と NBM（ナラティヴ・ベースト・メディスン）について調べる 授業：EBM（エビデンス・ベースト・メディスン）と NBM（ナラティヴ・ベースト・メディスン） 復習：第 2 回の配布資料の見直し	
3	太齋 慧	【第 3 回】 予習：健康と健康増進について調べる 授業：健康と健康増進 復習：第 3 回の配布資料の見直し	
4	太齋 慧	【第 4 回】 予習：小児の成長発達と疾患について調べる 授業：小児の成長発達と疾患 復習：第 4 回の配布資料の見直し	
5	太齋 慧	【第 5 回】 予習：加齢と疾患について調べる 授業：加齢と疾患 復習：第 5 回の配布資料の見直し	
6	太齋 慧	【第 6 回】 予習：認知症・脳血管障害について調べる 授業：認知症・脳血管障害 復習：第 6 回の配布資料の見直し	
7	太齋 慧	【第 7 回】 予習：依存症について調べる 授業：依存症（アルコール・薬物を中心に） 復習：第 7 回の配布資料の見直し、中間レポート	
8	太齋 慧	【第 8 回】 予習：周産期医療について調べる 授業：周産期医療 復習：第 8 回の配布資料の見直し	
9	太齋 慧	【第 9 回】 予習：遺伝性疾患・先天性疾患・遺伝カウンセリングについて調べる 授業：遺伝性疾患・先天性疾患・遺伝カウンセリング 復習：第 9 回の配布資料の見直し	
10	太齋 慧	【第 10 回】 予習：難病について調べる 授業：難病 復習：第 10 回の配布資料の見直し	
11	太齋 慧	【第 11 回】 予習：感染症・臓器移植について調べる 授業：感染症・臓器移植 復習：第 11 回の配布資料の見直し	

12	太齋 慧	【第 12 回】 予習：糖尿病について調べる 授業：糖尿病 復習：第 12 回の配布資料の見直し							
13	太齋 慧	【第 13 回】 予習：循環器疾患について調べる 授業：循環器疾患（その他の内科疾患） 復習：第 13 回の配布資料の見直し							
14	太齋 慧	【第 14 回】 予習：腫瘍臨床とがんサバイバーシップについて調べる 授業：腫瘍臨床とがんサバイバーシップ 復習：第 14 回の配布資料の見直し							
15	太齋 慧	【第 15 回】 予習：緩和ケア，エンドオブライフケア，グリーフケアについて調べる 授業：緩和ケア，エンドオブライフケア，グリーフケア 復習：第 15 回の配布資料の見直し							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		Classroom を使い、授業の内容に関する質問を受け付けるフォームを設置する。質問や疑問は授業の中で回答していく。							
テキスト・教材		適宜、講義内にて資料を配布する（または Classroom での資料データのアップデートを実施）							
参考書		斎藤清二 著『公認心理士の基礎と実践 21 人体の構造と機能及び疾病』（遠見書房） 武田克彦・岩田淳・小林靖 編『公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病』(医歯薬出版株式会社)							
評価の基準と方法		各回のリアクション（30 点）、期末レポート（70 点）にて総合的に評価する。 ※全講義回数のうち 1／3 以上欠席の場合は単位取得不可							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	△	
関連科目									
その他		2024 年度のみ第 1 回から第 3 回までを対面講義、以降をオンデマンドとする。必ず KOMAJO ポータルの掲示から初回授業の日程を確認すること。また、受講前には必ず本授業のクラスプロフィール・グーグルクラスルームを確認すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

精神疾患とその治療

科目分類	130-331-12	授業コード	FF0920
科目名称	精神疾患とその治療	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychiatric Disorders and Treatments	授業区分	講義
科目責任者	小口 芳世	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小口 芳世	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	精神医学について概説し、精神疾患の診断・治療の総論事項をふまえながら、精神疾患各論について解説する。		
到達目標	精神医学のアウトライン、精神疾患の診断と治療双方ならびに各精神疾患に関する基礎的事項を説明できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小口 芳世	【第 1 回】精神医学総論 予習：精神医学総論について調べる 授業：精神医学総論について 復習：精神医学総論について復習する	
2	小口 芳世	【第 2 回】精神疾患の診断と診断基準 予習：精神疾患の診断と診断基準について調べる 授業：精神疾患の診断と診断基準について 復習：精神疾患の診断と診断基準について復習する	
3	小口 芳世	【第 3 回】精神疾患の治療 予習：精神疾患の治療について調べる 授業：精神疾患の治療について 復習：精神疾患の治療について包括的に復習する	
4	小口 芳世	【第 4 回】神経発達症 予習：神経発達症について調べる 授業：神経発達症について 復習：神経発達症について復習する	
5	小口 芳世	【第 5 回】統合失調症 予習：統合失調症について調べる 授業：統合失調症について 復習：統合失調症について復習する	
6	小口 芳世	【第 6 回】気分障害 予習：気分障害について調べる 授業：気分障害について 復習：気分障害について復習する	
7	小口 芳世	【第 7 回】不安症、強迫症 予習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について調べる 授業：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について 復習：社交不安症、パニック症、全般不安症、強迫症について復習する	
8	小口 芳世	【第 8 回】ストレス関連障害、解離症 予習：ストレス関連障害、解離症について調べる 授業：ストレス関連障害、解離症について 復習：ストレス関連障害、解離症について復習する	
9	小口 芳世	【第 9 回】食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群 予習：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について調べる 授業：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について 復習：食行動障害・摂食障害群、排泄障害群、睡眠-覚醒障害群について復習する	
10	小口 芳世	【第 10 回】物質関連障害、嗜癖性障害 予習：物質関連障害、嗜癖性障害について調べる 授業：物質関連障害、嗜癖性障害について 復習：物質関連障害、嗜癖性障害について復習する	
11	小口 芳世	【第 11 回】神経認知障害、せん妄 予習：神経認知障害、せん妄について調べる 授業：神経認知障害、せん妄について 復習：神経認知障害、せん妄について復習する	

12	小口 芳世	【第 12 回】てんかん、器質性精神障害 予習：てんかん、器質性精神障害について調べる 授業：てんかん、器質性精神障害について 復習：てんかん、器質性精神障害について復習する
13	小口 芳世	【第 13 回】パーソナリティ障害、性関連障害 予習：パーソナリティ障害、性関連障害について調べる 授業：パーソナリティ障害、性関連障害について 復習：パーソナリティ障害、性関連障害について復習する
14	小口 芳世	【第 14 回】緩和医療 予習：緩和医療について調べる 授業：緩和医療について 復習：緩和医療について復習する
15	小口 芳世	【第 15 回】医療機関との連携、まとめ 予習：医療機関との連携について調べる 授業：医療機関との連携について 復習：医療機関との連携について復習する

授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題は原則、設けない（一部、成績には入らない演習として求める場合がある）。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	定期試験の成績（90%）と出席（10%）による。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-331-12 (J)	授業コード	FF0940
科目名称	教育相談	単位数	2.0 単位
英文名称	Educational Counseling	授業区分	講義
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	教育相談や生徒指導などにおいて、児童生徒の心理を理解することは非常に重要である。本授業では、カウンセリングをはじめとした臨床心理学の基礎知識をもとに児童生徒への理解を深め、カウンセリングマインドに基づく支援を学ぶことを目的とする。学校では、個人心理や発達だけでなく、関係性や集団・コミュニティ・社会・文化の検討も必要となるため、幅広い視野から児童生徒の心理理解ができるよう、様々な見方・考え方を扱う。ワークによるアクティブラーニングを通して自身の見解を省察する活動も積極的に取り入れる。		
到達目標	カウンセリングをはじめとした臨床心理学の知見をもとに、児童生徒への理解を深め、実践に活用できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習 : 特に必要はない 授業 : 児童生徒理解①臨床心理学の観点から 復習 : 配布資料の見返し	
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒理解②発達心理学の観点から 復習 : 配布資料の見返し	
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒理解③教育心理学の観点から 復習 : 配布資料の見返し	
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒理解④社会心理学の観点から 復習 : 配布資料の見返し	
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒理解⑤発達障害・学習障害 復習 : 配布資料の見返し	
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒理解⑥知的障害・知能検査 復習 : 配布資料の見返し	
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒理解⑦自殺・自傷行為 復習 : 配布資料の見返し	
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒を支援する方法①認知行動療法・ワークを用いたアクティブラーニング 復習 : 配布資料の見返し	
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒を支援する方法②動機付け面接法・ワークを用いたアクティブラーニング 復習 : 配布資料の見返し	
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒を支援する方法③ナラティブセラピー 復習 : 配布資料の見返し	
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習 : 事前配布資料の熟読 授業 : 児童生徒への具体的支援①修復的实践	

		復習：配布資料の見返し						
12	綾城 初穂	【第 12 回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒への具体的支援②コンサルテーション 復習：配布資料の見返し						
13	綾城 初穂	【第 13 回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒への具体的支援③関係者会議・ワークを用いたアクティブラーニング 復習：配布資料の見返し						
14	綾城 初穂	【第 14 回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒への具体的支援④いじめ対策 復習：配布資料の見返し						
15	綾城 初穂	【第 15 回】 予習：事前配布資料の熟読 授業：児童生徒の心理を包括的に理解し支援する 復習：これまでの資料の見返し						
授業開始前学習		特に必要ない。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内の小レポートについては、次の授業時に全体に向けてフィードバックを行う。授業で課するレポート課題については、修正点やアドバイス等コメントを記載した上で返却する。						
テキスト・教材		初回までにそろえるべきものはない。授業内で別途指示する。						
参考書		文 部 科 学 省 (2022). 生 徒 指 導 提 要 (改 訂 版) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm ウインズレイド, J. ウィリアムズ, M. (2016). いじめ・暴力に向き合う学校づくりー対立を修復し、学びに変えるナラティブ・アプローチ 新曜社.						
評価の基準と方法		最終レポートによる評価 30%と、各回のミニレポートによる評価 70%の合算で評価する						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成							
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○		△
関連科目								
その他		1. 実習室、実習備品の都合により内容もしくは講義順序を一部変更する可能性がある。 2. 本授業は体験学習も行うため、積極的な出席が望まれる。また、各種心理アセスメントや臨床心理技法の体験が含まれるため、精神的に不安定で受講に不安がある場合は、必ず事前に相談すること。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		教育相談を現場とした心理臨床の実務経験あり。教育相談で求められる知識と対応について講義する。						

科目分類	130-330-12			授業コード	FF0960
科目名称	言葉と心理			単位数	2.0 単位
英文名称	Language and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	保坂 律子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	保坂・米金			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	第 1 回～第 8 回：「今日は天気が良いね」と発話した場合でも、各々の感情は様々です。『今日はピクニックだ、晴れてよかった』⇒「嬉しい」、「今日はせっかくこんなに天気が良いのに、僕は仕事だ。友人はお休みなのに」⇒「悲しい」。講義では、このような複雑な「コトバと感情」のメカニズムについて考察する。（米金担当） 第 9 回～第 15 回：意思疎通の上で言葉は大切な手段であるが、自分の意図が上手く相手に伝わらないことがある。この授業では感謝と謝罪に焦点をあて、さまざまな事例を扱いながら「言葉と心理」について考察する。（保坂担当）				
到達目標	第 1 回～第 8 回：「言葉と心理」に関わる研究を通して、言葉のメカニズムを学び、「言語の運用」が、心理面・感情面にどのように影響するのかを理解できる（前半米金担当）。 第 9 回～15 回 「感謝と謝罪」を表す表現について、日本語にみられる特徴と、他の言語における表現との違いを心理的側面から考察し、具体例をあげてそれぞれ説明できる(後半保坂担当)。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	米金 孝雄	【第 1 回】 予習：「言葉と心理」とが、自分自身にとってどのように関わってくるのかを考えておくこと。 授業：自己紹介、講義の進め方・授業内容・課題・レポート・評価等についての説明。 復習：次回までに、与えられた内容について考察すること。			
2	米金 孝雄	【第 2 回】 予習：前回の授業の復習。 授業：主要な「言葉と心理」に関わる研究分野の紹介。 復習：紹介した研究や研究者について調べておくこと。			
3	米金 孝雄	【第 3 回】 予習：言語的（言葉による）コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：どのような言語的自己表現をすれば、対話者との会話が成り立つのかを考えること。			
4	米金 孝雄	【第 4 回】 予習：非言語的コミュニケーションとは何かを考えておくこと。 授業：非言語的コミュニケーションによる伝達手段の考察。 復習：非言語的コミュニケーションの伝達手段の復習。			
5	米金 孝雄	【第 5 回】 予習：語用論・発話行為について調べておくこと。 授業：語用論・発話行為とは何か。 復習：語用論・発話行為と心理の関係を再考すること。			
6	米金 孝雄	【第 6 回】 予習：談話分析・インターアクション分析について調べておくこと。 授業：談話分析・インターアクション分析についての考察。 復習：談話分析・インターアクション分析を再考すること。			
7	米金 孝雄	【第 7 回】 予習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学について調べておくこと。 授業：ポリフォニー理論と社会言語学・言語心理学についての考察 復習：ポリフォニー理論、社会言語学、言語心理学を再考すること。			
8	米金 孝雄	【第 8 回】 予習：修辞学と文体論・記号学について調べておくこと。 授業：修辞学と文体論・記号学についての考察。 復習：修辞学と文体論・記号学を再考すること。			
9	保坂 律子	【第 9 回】 予習：これまで自分の気持ちをうまく伝えられなかった場面を思い出す。 授業：「言葉をつかむ」ことについて考える。 復習：授業の振り返りをまとめる。			
10	保坂 律子	【第 10 回】 予習：最近人にお礼を言ったこと、謝ったことの例を考えておく。 授業：感謝と謝罪の相違点 復習：授業の振り返りをまとめる。			

11	保坂 律子	【第 11 回】 予習：大事な約束に遅刻した場面を想定し、自分の言葉で遅れた理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理 1（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。							
12	保坂 律子	【第 12 回】 予習：誘いを断る場面を想定し、自分の言葉で断る理由を考えておく。 授業：謝罪の言葉と心理 2（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。							
13	保坂 律子	【第 13 回】 予習：「お腹空きませんか？」と聞かれた場面を想定し、その返答を考えておく。 授業：意図の伝え方と心理（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。							
14	保坂 律子	【第 14 回】 予習：プレゼントを渡す場面を想定し、その時添える言葉を考えておく。 授業：感謝の伝え方と心理（グループディスカッション） 復習：授業の振り返りをまとめる。							
15	保坂 律子	【第 15 回】 予習：お世話になった人にお礼をする場面を想定し、気持ちを伝える言葉を考えておく。 授業：感謝の言葉と心理 復習：「感謝のエピソード」を書く。							
授業開始前学習		第 1 回～第 8 回：「心理と言葉」についての書物や研究など、事前に目を通しておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 15 回：日本語と外国語に関するエッセイや評論等に触れるように心がけると理解が深まる。（保坂担当）							
授業内課題のフィードバックの方法		第 1 回～第 8 回：毎回授業内容を自分なりに検討し、次週の講義までに理解を深めておくこと。（米金担当） 第 9 回～第 14 回：毎回課す授業内課題（フォーム）は翌週の授業内で講評する。（保坂担当）							
テキスト・教材		講義内、Classroom 内にて担当教員より適宜資料を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		教員より課された課題の発表、提出状況により各教員 50%（合計 100%）で評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○			○		
関連科目		フランス語 中国語							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-23	授業コード	FF1111
科目名称	心理学ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	心理学の実践・研究分野では、言葉（言語・非言語）を通して心理を理解することが多い。近年では、数値などに置き換えず、言葉をそのまま分析しようとする質的研究法への関心が高まっている。本ゼミでは、質的研究法の哲学的基礎といくつかの方法を学んだ上で、関心に応じて実際の素材を分析・考察していく。やや伝統的な心理学とは異なる認識論の学習や、実際に手を動かすこと、議論を通して批判的に考察することが求められるため、積極的な参加を期待したい。		
到達目標	質的研究法によって、自らの関心を心理学研究の枠組みから体系化し、分析することができる。また、こうした方法論の習得を通して、物事を批判的・多角的に考察することができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習：事前に配布した課題論文を読む 授業：イントロダクション 復習：出題された課題に取り組む	
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：課題論文の発表①（発表） 復習：発表内容についての配布プリントの復習	
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：課題論文の発表②（発表） 復習：発表内容についての配布プリントの復習	
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の基礎（理論編） 復習：講義内容についての配布プリントの復習	
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の基礎（方法編） 復習：講義内容についての配布プリントの復習	
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実践（データを取る実習） 復習：授業を踏まえて実際にデータを取得	
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実践（データを整理する演習） 復習：授業を踏まえてデータを整理する	
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実践（KJ 法① 概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習	
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実践（KJ 法② ラベルづくり）（グループワーク） 復習：授業を踏まえてラベルづくりをする	
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習：発表課題に取り組む 授業：質的研究法の実践（KJ 法③ グループ編成）（グループワーク） 復習：授業を踏まえてグループ編成をする	
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習：発表課題に取り組む 授業：質的研究法の実践（KJ 法④ 図解化）（グループワーク）	

		復習：授業を踏まえて図解化をする							
12	綾城 初穂	【第 12 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（KJ 法⑤ 叙述化） 復習：授業を踏まえて叙述化をする							
13	綾城 初穂	【第 13 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（KJ 法⑥ 発表） 復習：発表へのフィードバックを読む							
14	綾城 初穂	【第 14 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（KJ 法⑦ 発表） 復習：発表へのフィードバックを読む							
15	綾城 初穂	【第 15 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：KJ 法のまとめ 復習：講義内容についての配布プリントの復習							
授業開始前学習		関心のあるテーマについて、自分なりに関連書籍・論文にあたってみる。							
授業内課題のフィードバックの方法		特に分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。							
テキスト・教材		授業中にプリントを配布する							
参考書		川喜田二郎（2017）『発想法 改版—創造性開発のために』中公新書 能智正博（2011）『臨床心理学をまなぶ6 質的研究法』東京大学出版会							
評価の基準と方法		発表 6 0 %・授業への貢献 4 0 %							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法Ⅰ・Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-23 （J）			授業コード	FF1112	
科目名称	心理学ゼミⅠ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Psychology Seminar I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	依田 尚也			開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715	
授業概要	ゼミの全体的なテーマは、『心を観察し、問いかける』ことである。これは、「目の前にいるこの人はどんな人なのか?」、「いかに生きてきたのか?」、「どうしてそうせざるを得なかったのか?」といった問いに対して、「もしかしたら、～～～なのかもしれない」といった仮説を立てることを指している。『心を観察し、問いかける』ことは心理専門職による心理アセスメントの本質である。しかし、心理専門職でなくとも、心理アセスメントの基本的なやり方、考え方を学ぶことで、私たちは日常生活において相手のことをさらに深く、的確に理解し、よりよく関わるができるようになるかもしれない。そして、『観察』や『面接』といった手法を用いる『研究』においても、学びが活きる可能性がある。 3 年次の前期は、ペアワークやグループワークを通して、心理アセスメントの基本的なスキルを身につけていく。そして、インタビュー調査を用いた研究の基礎を学び、夏休み中に試行インタビューを実施するための準備を進める。					
到達目標	心理学的研究の基礎について学び、各自がゼミ論文／卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになる。 ペアワークやグループワークを通して、心理アセスメントの基本的なスキルを身につける。 教員のサポートを得つつ、ゼミ生同士で協働的な関係を構築することができる。 自らが研究者となってインタビュー調査を実施するイメージをつかむ。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	依田 尚也		【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく 授業：ガイダンス 自己紹介／ゼミの内容と進め方について 復習：配布資料を読み返す			
2	依田 尚也		【第 2 回】 予習：他の授業で習った『心理アセスメント』について復習しておく 授業：心理アセスメントのワーク① 限られた情報から仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す			
3	依田 尚也		【第 3 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク② 観察を通して仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す			
4	依田 尚也		【第 4 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク③ 面接を通して仮説を立てる 復習：配付資料を読み返す			
5	依田 尚也		【第 5 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク④ ロールプレイ／仮説をまとめる 復習：配付資料を読み返す			
6	依田 尚也		【第 6 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：心理アセスメントのワーク⑤ 仮説について発表・検討する 復習：配付資料を読み返す			
7	依田 尚也		【第 7 回】 予習：これまでのゼミの内容について疑問点を整理しておく 授業：ゼミ面談① 復習：面談の内容をもとに各自で前期ゼミの目標を再設定する			
8	依田 尚也		【第 8 回】 予習：これまでのゼミの内容について疑問点を整理しておく 授業：ゼミ面談② 復習：面談の内容をもとに各自で前期ゼミの目標を再設定する			
9	依田 尚也		【第 9 回】 予習：インタビューを用いた心理学的研究を検索する 授業：インタビュー調査① リサーチエスション 復習：配付資料を読み返す			

10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：インタビューを用いた心理学的研究を読み込む 授業：インタビュー調査② インタビューガイド 復習：配付資料を読み返す							
11	依田 尚也	【第 11 回】 予習：試行インタビューのテーマや対象について検討を重ねる 授業：インタビュー調査③ インタビューのポイント 復習：配付資料を読み返す							
12	依田 尚也	【第 12 回】 予習：試行インタビューのテーマや対象について検討を重ねる 授業：インタビュー調査④ 調査の実際 復習：配付資料を読み返す							
13	依田 尚也	【第 13 回】 予習：試行インタビューの実施に向けて作業を進める 授業：インタビュー調査⑤ 調査結果を文章化する 復習：配付資料を読み返す							
14	依田 尚也	【第 14 回】 予習：試行インタビューの計画を資料にまとめる 授業：試行インタビュー計画発表会① 復習：計画発表会の内容とコメントを振り返る							
15	依田 尚也	【第 15 回】 予習：試行インタビューの計画を資料にまとめる 授業：試行インタビュー計画発表会② 復習：計画発表会の内容とコメントを振り返る							
授業開始前学習		日常生活において自分なりの“問い”（なぜ？／どうして？）を見つけておくこと。 文献の検索方法や読み方、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて、2 年次までの授業で身につけたことを復習しておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		ワークや発表の内容について、授業内で個別にフィードバックを行う。 試行インタビューの計画発表会においては、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		適宜紹介する。							
評価の基準と方法		ワークや試行インタビュー計画発表会における内容（60％）、および授業への取り組み姿勢（40％）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		心理学ゼミⅡ・Ⅲ・Ⅳ							
その他		後期の心理学ゼミⅡに向けて、夏休み中に各自で試行インタビューを行い、その逐語録を作成してもらう。 3 年次に身につけたスキルをもとに、4 年次にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-23 (J)			授業コード	FF1113
科目名称	心理学ゼミⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。3 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について理解を深め、研究方法の基礎を身に付けていくことを目標とする。3 年生前期は、基礎文献の講読と発表、家庭裁判所の見学（予定）を行う。				
到達目標	司法・犯罪領域の専門書を読みこなし、まとめ、発表する能力を身に付けながら、基礎的理論の習得を目指す。家庭裁判所の役割とそこで活躍する専門職の実践について理解する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習：非行や家族問題でニュースになったことをメモしてくる。 授業：ガイダンス（ゼミの進め方、全体計画の説明等） 復習：ガイダンスの振り返り			
2	田中 教仁	予習：関心がある司法・犯罪領域のテーマを考える 授業：発表（自分が関心のあるテーマ）、文献研究の方法、発表の担当決め 復習：文献等の検索を行い、講読する文献等を選定する。			
3	田中 教仁	予習：ゼミ面談の準備を行う。講読する文献等の検索 授業：ゼミ面談、講読する文献等の検索、講読 復習：面談の振り返りを行う。			
4	田中 教仁	予習：【第 4 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主にアセスメント）の講読①（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
5	田中 教仁	予習：【第 5 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主にアセスメント）の講読②（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
6	田中 教仁	予習：【第 6 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主にアセスメント）の講読③（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
7	田中 教仁	予習：【第 7 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主にアセスメント）の講読④（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
8	田中 教仁	予習：非行や犯罪に関する記事を調べる。 授業：事例研究、判例紹介 復習：授業を踏まえての整理			
9	田中 教仁	予習：【第 9 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主に支援や処遇）の講読①（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
10	田中 教仁	予習：【第 10 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主に支援や処遇）の講読②（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
11	田中 教仁	予習：【第 11 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主に支援や処遇）の講読③（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
12	田中 教仁	予習：【第 12 回】で扱う文献の講読 授業：文献（主に支援や処遇）の講読④（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			
13	田中 教仁	予習：家庭裁判所の見学に向けての文献等の講読 授業：家庭裁判所の見学に向けて、文献等の講読（発表、ディスカッション） 復習：授業を踏まえての整理			

14	田中 教仁	予習：家庭裁判所の見学に際しての質問事項を考える。 授業：家庭裁判所の見学（予定） 復習：見学の結果をまとめる。							
15	田中 教仁	予習：課題作成に向けた準備を行う。 授業：家庭裁判所の見学の振り返り、ディスカッション、レポート課題作成 復習：授業全体の振り返りを行う。							
授業開始前学習		この領域において、自分が関心のある文献や小説、漫画、新聞等を読み、どのような社会問題が起こっているのかを把握しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		発表やディスカッションを踏まえて、適宜、コメントをする。							
テキスト・教材		特に指定しない。授業の中で適宜紹介する。							
参考書		門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）							
評価の基準と方法		所定の出席回数を踏まえたうえで、授業での発表５０％、授業の取組状況３０％、レポート課題２０％の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		司法・犯罪心理学、家族心理学を受講しておくことが望ましい。							
その他		・文献や論文の講読は分担を決め、担当者が内容、疑問点、討議したい事項などをレジュメとしてまとめ発表する。まとめ方、発表の仕方を学ぶ機会なので、巧拙は心配いらない。発表、ディスカッションには積極的な参加が望まれる。 ・正課学外活動として、３年生前期には家庭裁判所の見学、後期には少年保護関係機関の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。見学先は都内近郊を予定しているが、交通費は各自負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえた講義を行う。							

科目分類	130-310-23（J）			授業コード	FF1114
科目名称	心理学ゼミⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology SeminarⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学研究の構造と研究法について知識を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。3 年前期は、各自が関心を抱いたテーマに関する研究論文を批判的に講読し、ディスカッションによって理解を深めることと、グループワークによって文献研究を行う。				
到達目標	心理学の研究論文の構造を理解し、批判的に読むための視点を身につける。研究テーマの設定の仕方と文献研究の方法を理解し、グループ研究を通して身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習：ゼミで学びたいテーマについて考え、メモを作成しておく 授業：ガイダンス スピーチ（ゼミで学びたいこと） 資料①（グループワーク） 復習：資料①の復習			
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習：資料②の講読および疑問点の抽出 授業：心理学研究の構造と手順（資料②） 復習：資料②の復習			
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習：資料③の講読および疑問点の抽出 授業：文献研究の方法（資料③） 復習：資料③の復習、文献検索を行い発表する研究論文を検討する			
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習：資料④の講読および疑問点の抽出 授業：文献研究の批判的講読とは（資料④） 復習：資料④の復習、文献検索を行い発表する研究論文を決定する			
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習：第 5 回で発表される研究論文（資料⑤）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 1（資料⑤）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑤を読み直す			
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習：第 6 回で発表される研究論文（資料⑥）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 2（資料⑥）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑥を読み直す			
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習：第 7 回で発表される研究論文（資料⑦）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 3（資料⑦）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑦を読み直す			
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習：第 8 回で発表される研究論文（資料⑧）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 4（資料⑧）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑧を読み直す			
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習：第 9 回で発表される研究論文（資料⑨）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 5（資料⑨）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑨を読み直す			
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習：第 10 回で発表される研究論文（資料⑩）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 6（資料⑩）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑩を読み直す			
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：第 11 回で発表される研究論文（資料⑪）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 7（資料⑪）（プレゼンテーションとグループディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑪を読み直す			

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：第 12 回で発表される研究論文（資料⑫）の講読と疑問点の抽出 授業：心理学研究論文の講読 8 （資料⑫）（プレゼンテーションとグループ・ディスカッション） 復習：授業でのコメントを参考にして資料⑫を読み直す							
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：グループ研究のテーマに関する文献を検索しておく 授業：グループ研究 1 テーマの検討（グループワーク） 復習：収集した文献を講読し、内容をまとめる							
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：グループ研究のテーマに関する文献を検索する、研究計画を考える 授業：グループ研究 2 文献検索・テーマの検討（グループワーク） 復習：研究計画の検討と発表の準備を行う							
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習：研究テーマの発表準備を行う 授業：グループ研究 3 グループ研究のテーマ報告（プレゼンテーション） 復習：授業全体の振り返りとレポート作成							
授業開始前学習		心理学研究法の基礎的な知識が必要である。「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」や「心理学の基礎」で学んだ文献研究の方法について復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		文献講読の発表については、授業内でディスカッションとフィードバックを行う。グループ研究のプレゼンテーションについても、授業内でディスカッションとコメントを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。講読する文献は、適宜配布する。							
参考書		特に指定しない。							
評価の基準と方法		出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（60 点）、授業態度（30 点）、課題（10 点）による。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」や「心理学の基礎」で学んだ文献研究の方法について、各自の文献講読と発表、グループ研究でのテーマ設定を通してより深く理解する。							
その他		講義と発表・討論を行う。発表の回は、発表者の報告の後、全員でディスカッションを行ったり、グループに分かれて課題を行ったりする。積極的に授業に参加することが求められる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の実践と研究の関連について講義する。							

科目分類	130-310-23 （J）			授業コード	FF1115
科目名称	心理学ゼミⅠ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 金曜日 15:00～18：00 後期 金曜日 15:00～18：00			研究室	10-710
授業概要	3 年生前期では、臨床心理学的テーマについて、小グループでの PBL（problem based learning）を行う。関心を持った事例・記事等を 1 つ取り上げて他グループに紹介し、その事例について、臨床心理学的な観点から問題抽出を行う。抽出された問題について、グループで手分けして調べ、成果をまとめ、抄録集（Google ドキュメント）とスライド（Google スライド）を用いてグループ発表を行う。				
到達目標	1. 文献検索を適切に行えるようになる。 2. 事象における臨床心理学的問題点を抽出できる。 3. 抽出された問題を理解、解決するために必要な知識を、先行研究から得ることができる。 4. 具体的な個別の事象を、臨床心理学の一般概念に還元して説明できる。 5. グループ・ワークで、自分の意見を分かり易く説明し、かつ、他者の意見を受けとめることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習：アドバイザークラスでの成果を踏まえ、関心テーマを検討 授業：イントロダクション／関心テーマの確認／グループ分け 復習：効率よく取り組めるよう、シラバスにて半期の流れを確認			
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 1：事例の選択・提示 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 2：用語調べ 1 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 3：用語調べ 2 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 4：問題抽出 3 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 5：問題の理解と対応 1 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 6：問題の理解と対応 2			
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 7：さらなる理解に必要な知識・概念 1 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 8：さらなる理解に必要な知識・概念 2 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習：図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業：小グループ PBL 9：さらなる理解に必要な知識・概念 3 復習：発表内容を確認し、自分のテーマと照合			

11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 : 小グループ PBL 10 : 発表準備 1 (Google ドキュメント抄録作成) 復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合						
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 : 小グループ PBL 11 : 発表準備 2 (Google ドキュメント抄録作成・提出) 復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合						
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 : 小グループ PBL 12 : 発表準備 3 (Google スライド作成) 復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合						
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 : 小グループ PBL 13 : 発表準備 4 (Google スライド作成・提出) 復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合						
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習 : 図書館や文献データベース等を利用して文献検索 授業 : 小グループ PBL 14 : 発表会 復習 : 発表内容を確認し、自分のテーマと照合						
授業開始前学習		文献の調べ方やレポートの書き方、発表の仕方について、基礎ゼミで身につけたことを復習しておくとの良い。						
授業内課題のフィードバックの方法		当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。						
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法		所定出席数を満たした者について、グループ得点 (30 点)、個人得点 (70 点) の計 100 点で評価する。なお、グループ得点は、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点 (質疑応答を含む) からなる。個人得点は、毎回のグループワークへの取り組み 3 点×15 回=45 点、発表会の司会・指定討論等 15 点、指定討論以外のディスカッション 10 点からなる。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学関連の科目を広く履修していることが役立つ。							
その他	図書館の積極的利用が望まれる。また、CiNii、NDL search などの文献データベースを活用できるようになることが望まれる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-23	授業コード	FF1116
科目名称	心理学ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅠ-fは、認知心理学とその応用研究について学ぶ。 とくに、以下2つのテーマについて、文献講読、研究例の発表・グループ討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 心理学ゼミⅠ-fの演習テーマ 1. 「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究） 2. 「言葉の使用とその認知機能について」		
到達目標	認知心理学について概要を理解し、代表的認知機能（感覚、知覚、記憶）研究成果を説明できるようになる。個々の研究を詳しく調べる方法と技術、調べた内容を発表する技能を身につける（パワーポイントの使用法など）。さらに、1つのテーマ研究について発表ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	富士原 光洋	【第1回】 予習：心理学辞典等で認知心理学について調べる 授業：ゼミガイダンス 内容確認 認知心理学について 復習：認知心理学の研究範囲についてまとめる	
2	富士原 光洋	【第2回】 予習：資料1（英文）7Pの講読 授業：心理学の範囲について 講読演習 資料1（英文）7Pから8P 復習：身の回りの心理学的問題を考察する	
3	富士原 光洋	【第3回】 予習：資料1（英文）8Pから9Pの講読 授業：心理学の広範囲な研究例について 講読演習 資料1（英文）8Pから9P （発表） 復習：5つのトピックスから興味ある1点を取り上げレポートを作成する	
4	富士原 光洋	【第4回】 予習：資料1（英文）10Pから12Pの講読 授業：心理学の歴史について 講読演習 資料1（英文）10Pから12P （発表） 復習：実験心理学の起源を整理する	
5	富士原 光洋	【第5回】 予習：資料1（英文）13Pから14Pの講読 授業：心理学の研究枠組みについて 講読演習 資料1（英文）13Pから14P （発表） 復習：心理学の認知的枠組みを日本語でまとめる	
6	富士原 光洋	【第6回】 予習：資料1（英文）15Pから16Pの講読 授業：心理学と生物学について 講読演習 資料1（英文）15Pから16P （発表） 復習：生物学的指標について整理する 英文講読レポートの資料調べと作成	
7	富士原 光洋	【第7回】 予習：資料1（英文）17Pから20Pの講読 授業：心理学の研究方法について 講読演習 資料1（英文）17Pから20P 英文講読レポート提出 復習：相関的方法（相関研究）を日本語でまとめる	
8	富士原 光洋	【第8回】 予習：資料2（認知心理学 日本語）120Pから125Pの講読 授業：認知機能と脳について 復習：脳の仕組みに関するキーワードを整理する	
9	富士原 光洋	【第9回】 予習：資料2 126Pから129Pの講読 授業：認知機能1 認知を支える脳について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：脳に関するキーワードを整理する	
10	富士原 光洋	【第10回】 予習：資料2 130Pから134Pの講読 授業：認知機能2 視覚について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：視覚に関するキーワードを整理する	

11	富士原 光洋	【第 11 回】 予習：資料 2 136P から 140P の講読 授業：認知機能 3 学習について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：条件づけについて確認する						
12	富士原 光洋	【第 12 回】 予習：資料 2 142P から 144P の講読 授業：認知機能 4 知覚・認知について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：認知に関するキーワードを整理する 認知機能講読レポートの資料調べと作成						
13	富士原 光洋	【第 13 回】 予習：資料 2 146P から 148P の講読 授業：認知機能 5 認知機能の理論について 発表とグループ討論 認知機能講読レポート提出（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：認知の状況論についてまとめる						
14	富士原 光洋	【第 14 回】 予習：資料 2 150P から 153P の講読 授業：認知機能 6 記憶について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：記憶に関するキーワードを整理する						
15	富士原 光洋	【第 15 回】 予習：資料 2 154P から 156P の講読 授業：認知機能 7 記憶のモデルについて 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：短期記憶と長期記憶についてまとめる 学期末のレポートの作成提出						
授業開始前学習		授業開始前学習 認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。						
参考書		中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）						
評価の基準と方法		発表内容（2 回）とレポート（学期内のレポート（2 回）学期末のレポート（1 回））により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点とレポート評価 50 点とする。 発表内容評価には、授業内での討論状況を加味する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「認知心理学」を履修しておくとも内容が良くわかる							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常生活している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業を 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を修得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-23 (J)	授業コード	FF1117
科目名称	心理学ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	飯田 敏晴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-717
授業概要	3 年前期では、主に、心理学用語の一つである「援助要請（助けを求める、SOS）」に関わる臨床心理学の各テーマについて、輪読形式で学習する。自分が関心を持ったテキストの章の担当として、その内容を話題提供者としてゼミで提示する。その際、他履修生は、その提示内容に関して保健・医療・福祉の観点から考え、ゼミナール時に全体でのディスカッションを行う。		
到達目標	1. 心理学に関する文献検索や研究方法を説明できる。 2. 様々な文献にある知見から、何らかの臨床心理学的課題を説明できる。 3. 何らかの臨床心理学的課題に対して、それを多角的に説明できる。 4. 多様性への関心を抱き、自他を尊重するコミュニケーション獲得への意欲を持つことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	飯田 敏晴	【第 1 回】 予習：テキストを自分なりに読み込む 授業：イントロダクション／キーワードの確認／自己・他己紹介 復習：シラバスにて半期の流れを確認する	
2	飯田 敏晴	【第 2 回】 予習：コミュニティ心理学と「援助要請」をキーワードに、関心を高める 授業：個人と環境との適合：コミュニティ心理学の理念、歴史、課題（教員） 復習：テキストにある援助要請のテーマの選択と提示	
3	飯田 敏晴	【第 3 回】 予習：選択したテキストの該当章を一読し、関心を深める 授業：グループワークによる輪読担当章の振り分け、導入（教員） 復習：発表内容を確認し、自分のテーマとの整合性を確認	
4	飯田 敏晴	【第 4 回】 予習：「援助要請」、「助けを求める」、「SOS」等をキーワードに文献検索 授業：援助要請研究の概観（第 1 部 第 1 章）（教員） 復習：テキストを読む（第 1 章）	
5	飯田 敏晴	【第 5 回】 予習：第 5 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 1（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める	
6	飯田 敏晴	【第 6 回】 予習：第 6 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 2（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める	
7	飯田 敏晴	【第 7 回】 予習：第 7 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 3（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める	
8	飯田 敏晴	【第 8 回】 予習：第 8 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助ニーズを持つ人の理解 3（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める	
9	飯田 敏晴	【第 9 回】 予習：第 9 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 1（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める	
10	飯田 敏晴	【第 10 回】 予習：第 10 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 2（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める	

11	飯田 敏晴	【第 11 回】 予習： 第 11 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 3（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める						
12	飯田 敏晴	【第 12 回】 予習： 第 12 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 4（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める						
13	飯田 敏晴	【第 13 回】 予習： 第 13 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：援助実践の現場から 5（担当者発表）とディスカッション 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める						
14	飯田 敏晴	【第 14 回】 予習： 第 14 回講義のテーマの該当章を読み、疑問を提示 授業：今後の援助要請研究における理論的課題と実践的課題（教員） 復習：当該回のテーマについて、記事等を調べ理解を深める						
15	飯田 敏晴	【第 15 回】 予習： 長期休暇期間及び秋以降学習を進めたいテーマを考え、提示 授業：今後の学習計画の作成、テーマの提示（各自） 復習：テーマに関連した文献の検索と振り返り						
授業開始前学習		文献の調べ方やレポートの書き方、発表の仕方について、基礎ゼミで身につけたことを復習しておくが良い。						
授業内課題のフィードバックの方法		当日の発表・ディスカッションや疑問点について、当該回または次の回の冒頭でフィードバックする。						
テキスト・教材		水野治久（監修）永井智他編『援助要請と被援助志向性の心理学：困っていても助けを求められない人の理解と援助』金子書房 2017						
参考書		植村勝彦編『よくわかるコミュニティ心理学（第三版）』2017 年						
評価の基準と方法		所定出席数を満たすことが評価の前提条件である。その上で、①グループ得点（30 点）、②個人得点（70 点）の計 100 点で評価する。なお、①のグループ得点は、輪読の担当箇所の回に用いる説明用資料 15 点、説明 15 点からなる（グループではなく、個人で取り組んだ場合にも同様の基準）。つぎに、②の個人得点は、A～D の 4 つの指標によって構成される。A は、各回（第 5～14 回）への「疑問の事前提示」3 点×10 回＝30 点である。B はディスカッションの参加態度 1 点×10 回＝10 点（欠席時には、代替課題提出により補う）、C は担当教員が演習形式で主に担当した回へのリアクション 3 点×4 回（12 点）、D は「学期末までのテーマの提示と学習成果のまとめ」の提出（18 点）である。詳細は、初回イントロダクションの際に説明する。なお、単位の取得のためには、上記の「疑問の事前提示」、「学期末のテーマと学習成果のまとめの提出」が不可欠である。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学関連の科目を広く履修していることが役立つ。							
その他	1. 長期休暇期間中に施設見学を含めたゼミ宿泊（任意参加）を予定している。 2. 学期期間中に施設見学（保健・医療・福祉施設 1 カ所。原則参加）にいく可能性がある。 3. 図書館等の積極的利用が望まれる。また、CiNii などの文献データベースを活用できるようになることが望まれる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床及び当該研究テーマの研究に従事経験あり。							

科目分類	130-310-23	授業コード	FF1118
科目名称	心理学ゼミⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅠ-h」は、発達心理学および認知心理学といった領域を中心に上げつつ、心理学の近年の動向や実践の場にも目を配りながら学びを深め、心理学的なものの見方（科学的探求のロジック）を身に付けることを目標とする。		
到達目標	卒業論文・ゼミ論文のテーマを検討するための基礎的な知識を習得し、そのテーマに関連する先行研究の文献や資料の要点を把握できるようになること。グループ・ディスカッションの基本を知ること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	丸山 慎	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ゼミのガイダンス 学外での観察とゼミの内容確認（生涯発達心理学について） 復習 : 発達心理学および認知心理学の研究範囲について振り返る	
2	丸山 慎	【第 2 回】 予習 : 資料①の講読および疑問点の抽出（参考書 p.1-22） 授業 : 発達心理学の研究領域について（1：乳児期その1）講読演習（資料①）（発表） 復習 : 資料①の内容を振り返る	
3	丸山 慎	【第 3 回】 予習 : 資料②の講読および疑問点の抽出（参考書 p.23-46） 授業 : 発達心理学の研究領域について（2：乳児期その2）講読演習（資料②）（発表） 復習 : 資料②の内容を振り返る	
4	丸山 慎	【第 4 回】 予習 : 資料③の講読および疑問点の抽出（参考書 p.47-68） 授業 : 発達心理学の研究領域について（3：幼児期）講読演習（資料③）（発表） 復習 : 資料③の内容を振り返る	
5	丸山 慎	【第 5 回】 予習 : 資料④の講読および疑問点の抽出（参考書 p.69-86） 授業 : 発達心理学の研究領域について（4：児童期）講読演習（資料④）（発表） 復習 : 資料④の内容を振り返る	
6	丸山 慎	【第 6 回】 予習 : 資料⑤の講読および疑問点の抽出（参考書 p.87-112） 授業 : 発達心理学の研究領域について（5：思春期）講読演習（資料⑤）（発表） 復習 : 資料⑤の内容を振り返る	
7	丸山 慎	【第 7 回】 予習 : 資料⑥の講読および疑問点の抽出（参考書 p.113-130） 授業 : 発達心理学の研究領域について（6：青年期）講読演習（資料⑥）（発表） 復習 : 資料⑥の内容を振り返る	
8	丸山 慎	【第 8 回】 予習 : 資料⑦の講読および疑問点の抽出（参考書 p.131-152）および学外での観察に関する準備 授業 : 発達心理学の研究領域について（7：成人初期）講読演習（資料⑦）および学外での観察に備えての議論（グループワーク） 復習 : 資料⑦の内容および観察に関する議論を振り返る	
9	丸山 慎	【第 9 回】 予習 : 資料⑧の講読および疑問点の抽出（参考書 p.153-174）および学外での観察に関する準備 授業 : 発達心理学の研究領域について（7：中年期）講読演習（資料⑧）および学外での観察に備えての議論（グループワーク） 復習 : 資料⑧の内容および観察に関する議論を振り返る	
10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 : 資料⑨の講読および疑問点の抽出（参考書 p.175-204）および学外での観察に関する準備 授業 : 発達心理学の研究領域について（7：老年期）講読演習（資料⑨）および学外での観察に備えての議論（グループワーク） 復習 : 資料⑨の内容および観察に関する議論を振り返る	
11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 : 学外での観察に関する準備 授業 : 発達心理学のまとめとしての実践の観察（グループワーク）	

科目分類	130-310-23	授業コード	FF1121
科目名称	心理学ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	3 年後期では、質的研究法のうち会話分析とディスコース分析を取り上げる。また、言葉を量的に分析する対応分析（テキストマイニング）についても扱う。後期は、批判的思考を養うとともに、問題設定からデータ収集、分析、結果の考察までの心理学における実証的な流れを体験して卒業論文の執筆に役立つ能力を身につけることが目標である。		
到達目標	質的研究法によって、自らの関心を心理学研究の枠組みから体系化し、分析することができる。また、こうした方法論の習得を通して、物事を批判的・多角的に考察することができるようになる。さらに、卒業論文作成の基礎となる手続きに習熟する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習：事前に配布した課題論文を読む 授業：イントロダクション 復習：出題された課題に取り組む	
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（会話分析① 概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習	
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（会話分析② データ取得）（実習） 復習：授業を踏まえてデータを取得する	
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（会話分析③ 文字起こし）（実習） 復習：授業を踏まえて文字起こしを行う	
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（会話分析④ シークエンスの分析）（演習） 復習：授業を踏まえてシークエンスの分析を行う	
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（ディスコース分析① 概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習	
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（ディスコース分析② テキストの分析）（演習） 復習：授業を踏まえてテキストの分析を行う	
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（ディスコース分析③ 映像の分析）（演習） 復習：授業を踏まえて映像を分析する	
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（ディスコース分析④ 広告の分析）（演習） 復習：授業を踏まえて広告を分析する	
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（ディスコース分析⑤ 発表） 復習：発表へのフィードバックを読む	
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（テキストマイニング① 概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習	

12	綾城 初穂	【第 12 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（テキストマイニング② 曲・ウェブの分析）（実習） 復習：授業を踏まえて曲・ウェブを分析する							
13	綾城 初穂	【第 13 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（テキストマイニング③ 発表） 復習：発表へのフィードバックを読む							
14	綾城 初穂	【第 14 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（質的研究法の進め方 概要の講義） 復習：内容についての配布プリントの復習							
15	綾城 初穂	【第 15 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の実際（リサーチエスチョンと先行研究）（実習） 復習：授業を踏まえてリサーチエスチョンと先行研究をまとめる							
授業開始前学習		関心のあるテーマについて、自分なりに関連書籍・論文にあたってみる。							
授業内課題のフィードバックの方法		各分析過程および結果発表において適宜コメントを行う。レポートは添削して返却する。							
テキスト・教材		プリントを配布する。							
参考書		鈴木聡志（2007）『会話分析・ディスコース分析—ことばの織りなす世界を読み解く（ワードマップ）』新曜社 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—』ナカニシヤ出版							
評価の基準と方法		授業での発表・調べ学習の成果 60%，授業への貢献 40%							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と，人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と，社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と，心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と，実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法Ⅰ・Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-23 （ J ）			授業コード	FF1122
科目名称	心理学ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	ゼミの全体的なテーマは、『心を観察し、問いかける』ことである。これは、「目の前にいるこの人はどんな人なのか？」、「いかに生きてきたのか？」、「どうしてそうせざるを得なかったのか？」といった問いに対して、「もしかしたら、～～～なのかもしれない」といった仮説を立てることを指している。『心を観察し、問いかける』ことは心理専門職による心理アセスメントの本質である。しかし、心理専門職でなくとも、心理アセスメントの基本的なやり方、考え方を学ぶことで、私たちは日常生活において相手のことをさらに深く、的確に理解し、よりよく関わるができるようになるかもしれない。そして、『観察』や『面接』といった手法を用いる『研究』においても、学びが活きる可能性がある。 3 年次の後期は、夏休み中に各自で行った試行インタビューについて報告し、調査研究におけるインタビューという手法について理解を深める。そして、興味・関心を持った先行研究の内容について資料にまとめて発表し、ゼミ生同士で議論を重ねながら、各自が研究テーマ = “問い” を見つけることを目指す。最終的に、研究テーマ発表会にてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	3 年次の前期に引き続き、心理学的研究の基礎について学び、各自がゼミ論文／卒業論文を書くことについて具体的にイメージできるようになる。 調査研究におけるインタビューという手法について理解を深める。 ゼミ生同士の協働を通して、自分の研究テーマを見つけることができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：夏休み中に各自で試行インタビューを行う 授業：ガイダンス 今後のスケジュールの確認 復習：各自で後期ゼミの目標を設定する			
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：前期に学んだ心理アセスメントについて復習しておく 授業：『日常での相談』で心理アセスメントのスキルを活かしてみる① 復習：配布資料を読み返す			
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：前回のワークの復習をしておく 授業：『日常での相談』で心理アセスメントのスキルを活かしてみる② 復習：配布資料を読み返す			
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：試行インタビューの逐語録を読み込んでおく 授業：質的データの分析 KJ 法① 復習：配布資料を読み返す			
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：KJ 法を用いた心理学的研究を検索する 授業：質的データの分析 KJ 法② 復習：配付資料を読み返す			
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：KJ 法を用いた心理学的研究を読み込む 授業：質的データの分析 KJ 法③ 復習：配付資料を読み返す			
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：KJ 法を用いた心理学的研究を読み込む 授業：質的データの分析 KJ 法④ 復習：試行インタビュー報告会の準備を進める			
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：試行インタビュー報告会の練習をする 授業：試行インタビュー報告会 復習：報告会の内容とコメントを振り返る			
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：自分の研究テーマに関連した先行研究を検索する 授業：自分の研究テーマを固める① 復習：配布資料を読み返す			

10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：自分の研究テーマに関連した先行研究を読み込む 授業：自分の研究テーマを固める② 復習：配布資料を読み返す						
11	依田 尚也	【第 11 回】 予習：研究テーマ発表会の準備をする 授業：ゼミ面談① 復習：面談をふまえ発表会資料を作成する						
12	依田 尚也	【第 12 回】 予習：研究テーマ発表会の準備をする 授業：ゼミ面談② 復習：面談をふまえ発表会資料を作成する						
13	依田 尚也	【第 13 回】 予習：これまで学んだ心理アセスメントについて復習しておく 授業：絵を用いた心理アセスメント 復習：配布資料を読み返す						
14	依田 尚也	【第 14 回】 予習：研究テーマ発表会の練習をする 授業：研究テーマ発表会① 復習：発表会の内容とコメントを振り返る						
15	依田 尚也	【第 15 回】 予習：研究テーマ発表会の練習をする 授業：研究テーマ発表会② 復習：発表会の内容とコメントを振り返る						
授業開始前学習		前期の心理学ゼミⅠでの学びをもとに、夏休み中に各自で試行インタビューを行い、その逐語録を作成しておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		ワークや発表の内容について、授業内で個別にフィードバックを行う。 試行インタビュー報告会および研究テーマ発表会では、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。						
テキスト・教材		特に指定しない。						
参考書		適宜紹介する。						
評価の基準と方法		試行インタビュー報告会および研究テーマ発表会の内容（60％）、および授業への取り組み姿勢（40％）をもとに、総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成 人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成 人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成 心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅲ・Ⅳ							
その他	3 年次に身につけたスキルをもとに、4 年次にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-23 (J)			授業コード	FF1123
科目名称	心理学ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。3 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について理解を深め、研究方法の基礎を身に付けていくことを目標とする。3 年生後期は、グループ研究を通して、そのテーマが抱える問題の分析と考察を行うとともに、研究法の基本を学ぶ。保護関係機関の見学も行う（予定）。				
到達目標	グループ研究を通して、研究方法の基本を身に付ける。司法・犯罪領域の社会問題についての分析と考察を行う姿勢を身に付ける。 保護関係機関の機能と専門職の役割について理解する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習 : 夏季に文献等を調べ、グループ研究のテーマを考える。 授業 : ガイダンス (全体計画の説明等)、グループ研究のテーマの検討 (グループワーク) 復習 : 検討結果の整理を行う。			
2	田中 教仁	予習 : グループ研究のテーマの発表の準備を行う。 授業 : グループ研究のテーマの発表、ディスカッション 復習 : ディスカッションの結果の整理を行う。			
3	田中 教仁	予習 : 配布資料を精読する。 授業 : 研究計画の立て方 (講義)、研究計画の立案 (グループワーク) 復習 : グループワークの結果を整理する。			
4	田中 教仁	予習 : 研究計画を検討する。 授業 : 研究方法 (講義)、研究計画の立案 (グループワーク) 復習 : 配布資料の見返し			
5	田中 教仁	予習 : グループ研究の作業内容を検討する。 授業 : 文献の整理及び研究結果のまとめ方 (講義)、グループ研究① 復習 : グループ研究の整理を行う。			
6	田中 教仁	予習 : グループ研究の作業内容を検討する。 授業 : グループ研究② 復習 : グループ研究の整理を行う。			
7	田中 教仁	予習 : グループ研究の作業内容を検討する。 授業 : グループ研究③ 復習 : 研究結果の整理に向けて、役割分担を考える。			
8	田中 教仁	予習 : グループ研究の作業内容を検討する。 授業 : グループ研究④ 復習 : 研究結果の整理を行う。			
9	田中 教仁	予習 : グループ研究の作業内容を検討する。 授業 : グループ研究⑤ 復習 : 研究結果の整理を行う。			
10	田中 教仁	予習 : 研究結果の発表内容の構成等を考える。 授業 : グループ研究⑥、研究結果の発表の準備① 復習 : 発表資料の作成を行う。			
11	田中 教仁	予習 : 発表資料の作成、ゼミ面談の準備 授業 : 研究結果の発表の準備②、ゼミ面談 復習 : 発表資料の作成、発表担当個所の整理を行う。			
12	田中 教仁	予習 : 各グループの作成資料等の精読 授業 : グループ研究の発表、ディスカッション 復習 : 発表の振り返り			
13	田中 教仁	予習 : 保護関係機関の機能と専門職の役割を調べる。 授業 : 保護関係機関の見学に向けて、文献等の講読 (発表、ディスカッション) 復習 : ディスカッションの結果の振り返り			

14	田中 教仁	予習：保護関係機関の見学に際しての質問事項を考える。 授業：保護関係機関の見学（予定） 復習：見学の結果をまとめる。							
15	田中 教仁	予習：課題作成に向けた準備を行う。 授業：保護関係機関の見学の振り返り、4年生のゼミに向けた検討 復習：授業全体の振り返り。4年生で行う研究のテーマを検討する。							
授業開始前学習		関心のあるテーマの文献を読み、グループ研究のテーマを考えておくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		発表やディスカッションを踏まえて、適宜、コメントをする。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房） 須藤明著『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）							
評価の基準と方法		所定の出席回数を踏まえたうえで、グループ研究の取組状況 50％、グループ研究の発表成果 30％、レポート課題 20％の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		司法・犯罪心理学、家族心理学を受講しておくことが望ましい。							
その他		・グループ学習を行うので、互いに協力し、自主的な姿勢で臨む必要がある。 ・正課学外活動として、3年生前期には家庭裁判所の見学、後期には少年保護関係機関の見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。見学先は都内近郊を予定しているが、交通費は各自負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえた講義を行う。							

科目分類	130-310-23（J）			授業コード	FF1124
科目名称	心理学ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学研究の構造と研究法について知識を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。3年後期のゼミでは、受講生が定めたテーマに従ってグループで文献研究を実施し、関心を抱いた問題への理解を深めるとともに、臨床心理学の研究法を学ぶ。				
到達目標	グループで文献研究を実施することを通して、研究テーマの設定の仕方、批判的な文献講読の力、発表の仕方などを身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習：グループ研究のテーマを検討しておく。 授業：ガイダンス グループ研究のテーマの検討（グループワーク） 復習：グループ研究のテーマに関する文献を収集する。			
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習：グループ研究のテーマに関する文献を収集する。 授業：文献の収集と講読 1 テーマの検討（グループワーク） 復習：収集した文献を講読し、要点をまとめる。			
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習：グループ研究のテーマに関する文献を収集する。 授業：文献の収集と講読 2 テーマ決定（グループワーク） 復習：収集した文献を講読し、要点をまとめる。			
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習：収集した文献を講読し、内容を整理する。 授業：文献の整理と論点の検討 1（グループワーク） 復習：収集した文献を講読し、内容を整理する。			
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習：収集した文献を講読し、内容を整理する。 授業：文献の整理と論点の検討 2（グループワーク） 復習：収集した文献を講読し、内容を整理する。			
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習：文献を整理し、発表の準備をする。 授業：文献の整理と論点の検討 3（グループワーク） 復習：文献を整理し、発表の準備をする。			
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習：文献を整理し、発表の準備をする。 授業：発表の準備 1 発表資料の作成（グループワーク） 復習：発表資料を作成する。			
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習：発表の準備をする。 授業：発表の準備 2 発表資料の作成（グループワーク） 復習：発表資料を完成させる。			
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする。 授業：発表会（プレゼンテーション） 復習：発表に対するフィードバックを確認する。			
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習：卒業論文もしくはゼミ論文の研究テーマを検討する。 授業：卒業論文／ゼミ論文のテーマの検討 1 復習：研究テーマに関する文献を収集する。			
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：研究テーマに関する文献を収集し、講読する。 授業：卒業論文／ゼミ論文の文献収集と講読 2 復習：研究テーマに関する文献を収集し、講読する。			

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習 : 研究テーマに関する文献を収集し、講読する。 授業 : 卒業論文／ゼミ論文の文献収集と講読 3 復習 : 研究テーマに関する文献を収集し、講読する。						
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習 : 研究テーマに関する文献を講読し、内容を整理する。 授業 : 卒業論文／ゼミ論文の文献収集と講読 4 復習 : 研究テーマに関する文献を講読し、内容を整理する。						
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習 : 研究テーマに関する文献を講読し、内容を整理する。 授業 : 卒業論文／ゼミ論文のテーマ決定 復習 : 卒業論文／ゼミ論文のテーマについてレポートを作成する。						
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習 : 卒業論文／ゼミ論文のテーマについてレポートを作成する。 授業 : 研究テーマの発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表に対するフィードバックを確認する。授業全体の振り返りを行う。						
授業開始前学習		グループ研究のテーマについて、文献を参考に考えておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		研究の遂行に関しては、授業内で随時グループごとにフィードバックを行う。最終的な研究発表に対しては、全体でのディスカッションとコメントシートを用いてフィードバックを行う。						
テキスト・教材		特に指定しない。						
参考書		随時紹介する。						
評価の基準と方法		出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業（グループワーク）への積極的貢献（45 点）、グループ研究の発表成果（45 点）、卒論もしくはゼミ論テーマに関するレポート（10 点）による。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人々が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠの内容を発展させ、心理学ゼミⅢ・Ⅳの基礎となる内容である。							
その他	グループ学習なので、受講生同士で協力し、自主的に学ぶ積極的な姿勢が必要である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践の関連という視点を踏まえて指導を行う。							

科目分類	130-310-23 (J)			授業コード	FF1125
科目名称	心理学ゼミⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 金曜日 15:00～18:00 後期 金曜日 15:00～18:00			研究室	10-710
授業概要	3 年生後期では、前期に身につけた知識や関心をもとに、4 年生で取り組む研究テーマを決定し、研究計画書を作成、発表する。				
到達目標	1. 文献検索を適切に行えるようになる。 2. 事象における臨床心理学的問題点を抽出できる。 3. 抽出された問題を理解、解決するために必要な知識を、先行研究から得ることができる。 4. 具体的な個別の事象を、臨床心理学の一般概念に還元して説明できる。 5. 他者に自分の意見を分かり易く説明し、かつ、他者からの意見を受けとめて生産的なディスカッションを行うことができる。 6. 心理学研究の研究計画を立てられる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 1 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 2 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 3 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 4 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 5 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 6 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 7 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 : 文献検索 授業 : ゼミ論・卒論に向けた研究計画作成 8 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 文献検索			
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画発表会準備 : 研究計画書 (Google ドキュメント) 作成 復習 : 文献検索			
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画発表会準備 : 研究計画書 (Google ドキュメント) 作成・提出 復習 : 文献検索			

11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画発表会準備：プレゼン資料（Google スライド）作成 復習 : 文献検索							
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画発表会準備：プレゼン資料（Google スライド）作成・提出 復習 : 文献検索							
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画発表会（発表、司会、指定討論など） 復習 : 文献検索							
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画修正 復習 : 文献検索							
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習 : 文献検索 授業 : 研究計画修正・提出 復習 : 文献検索							
授業開始前学習		3 年前期に集めた資料から、自分の研究論文の核となりそうな文献をピックアップしておくといよ。							
授業内課題のフィードバックの方法		当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。							
テキスト・教材									
参考書		Web 検索だけでなく、臨床心理学関連の学会が発行している学術雑誌などの目次や研究内容などを図書館で直に確認すること。							
評価の基準と方法		所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 3 点×15 回＝45 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点、司会・指定討論など 15 点、修正された研究計画書 10 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		心理学ゼミ I							
その他		研究への取り組みにおいては、図書館や各種文献データベースの積極的利用が望まれる（オンラインで入手できない文献を図書館で、あるいは、図書館を通して入手する場合は、利用申請の仕方についてポータルサイトの情報を確認すること）。研究計画作成ではその日の成果を発表し、互いにコメントし合うことを「ワークへの取り組み」の評価点に含める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-23	授業コード	FF1126
科目名称	心理学ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅠ-fに引き続き、心理学ゼミⅡ-fは、認知心理学とその応用研究について学ぶ。 とくに以下 2 つのテーマについて、文献講読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 心理学ゼミⅡ-fの演習テーマ 1. 「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究） 2. 「言葉の使用とその認知機能について」		
到達目標	認知心理学の代表的認知機能（記憶、言語、思考）に関する研究成果、実社会への応用研究を説明できるようになる。 個々の研究を詳しく調べる方法と技術、調べた内容を発表する技能を身につける（パワーポイントの使用法など）。さらに、1 つのテーマ研究について発表ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	富士原 光洋	【第 1 回】 予習：前期内容復習 授業：認知心理学について 授業説明 復習：基本事項確認	
2	富士原 光洋	【第 2 回】 予習：ウェブ利用を確認しておく 授業：心理学研究資料の利用 1 復習：興味ある研究論文を検索する	
3	富士原 光洋	【第 3 回】 予習：研究論文を収集しておく 授業：心理学研究資料の利用 2 復習：興味ある研究論文をまとめる（資料化する）	
4	富士原 光洋	【第 4 回】 予習：心理学研究の選定 授業：心理学研究発表資料の作成 1 復習：自分の発表資料の作成	
5	富士原 光洋	【第 5 回】 予習：心理学研究の選定 授業：心理学研究発表資料の作成 2 復習：自分の発表資料の作成	
6	富士原 光洋	【第 6 回】《第 6 回から第 15 回の内容は、個別研究テーマにより変更されることがある》 予習：資料 2 157P から 159P の講読 授業：記憶のモデルについて 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：意味記憶とエピソード記憶についてまとめる	
7	富士原 光洋	【第 7 回】 予習：資料 4 1P から 5P の講読 授業：言葉の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：言葉の認知心理学研究に関するキーワード確認	
8	富士原 光洋	【第 8 回】 予習：資料 4 6P から 10P の講読 授業：音韻理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：音韻理解に関するキーワード確認	
9	富士原 光洋	【第 9 回】 予習：資料 4 27P から 30P の講読 授業：単語理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：単語理解に関するキーワード確認 認知心理学の応用レポート 2 の資料調べと作成	
10	富士原 光洋	【第 10 回】 予習：資料 4 53P から 59P の講読 授業：視覚的単語理解の認知心理学研究について 発表とグループ討論 認知心理学の応用レポート 2 提出（プレゼンテーション）	

[illegible]

科目分類	130-310-23 (J)	授業コード	FF1127
科目名称	心理学ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	飯田 敏晴	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	飯田 敏晴	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30	研究室	10-717
授業概要	3 年次後期では、卒業・ゼミ論文を執筆するための具体的手続きについて、テキストを参考にしつつ学ぶ。それと平行して、フリーディスカッションで、論文執筆テーマへの関心や素養を深めていく。学期末には、4 年次の研究計画の概要を提出する。		
到達目標	・心理学の研究論文を執筆するための基礎について説明することができる。 ・自身が理解を深めていきたい研究テーマについて説明することができる。 ・卒業・ゼミ論文執筆のための研究計画書（案）を作成することができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	飯田 敏晴	【第 1 回】 予習：卒業・ゼミ論文で取り組みたいテーマを改めて確認する 授業：卒論とはなにか（Ⅰ章） 復習：進め方の概要についてまとめる	
2	飯田 敏晴	【第 2 回】 予習：自分が興味がある論文、書籍等を読む 授業：文献購読や批判的に読むこと、レポート、議論の仕方等について（Ⅱ章） 復習：テキスト（第二章）を読む	
3	飯田 敏晴	【第 3 回】 予習：自身の研究テーマに関する論文を探す 授業：論文や抄録の作り方について（Ⅲ章） 復習：自身が探し入手した論文を読む	
4	飯田 敏晴	【第 4 回】 予習：自身が収集した論文の本文や図表について確認する 授業：論文執筆時の文章や図表の作り方（Ⅳ章）と実際 復習：模擬データを元に、図表や、分析結果の文章を作成する	
5	飯田 敏晴	【第 5 回】 予習：図書館等に行き、研究テーマに関係する論文を一編見つける 授業：文献の集め方（Ⅴ章） 復習：テキストⅤ章を読む	
6	飯田 敏晴	【第 6 回】 予習：興味がある研究テーマが直接に関係する実践現場を調べる 授業：研究の進め方（Ⅵ章）、現場との往復 1（グループ or フィールドワーク含） 復習：疑問を研究ノートに書き留める	
7	飯田 敏晴	【第 7 回】 予習：興味がある研究テーマが直接に関係する実践現場を調べる 授業：研究の進め方（Ⅵ章）②、現場との往復 2（グループ or フィールドワーク含） 復習：疑問を研究ノートに書き留める	
8	飯田 敏晴	【第 8 回】 予習：興味がある研究テーマが直接に関係する実践現場を調べる 授業：研究の進め方（Ⅵ章）②、現場との往復 3（グループ or フィールドワーク含） 復習：疑問を研究ノートに書き留める	
9	飯田 敏晴	【第 9 回】 予習：教員から提供された卒業論文のサンプルを読む 授業：卒論の書き進め方（1）（グループワーク含）（Ⅶ章） 復習：サンプルを読んだ感想を提出する	
10	飯田 敏晴	【第 10 回】 予習：教員から提供された卒業論文のサンプルを読む 授業：卒論の書き進め方（2）（グループワーク含）（Ⅶ章） 復習：サンプルを読んだ感想を提出する	
11	飯田 敏晴	【第 11 回】 予習：研究方法（質問紙、実験等）について関心があるものを調べる 授業：研究方法（Ⅷ章）（グループワーク含）	

		復習：テキストを読む（Ⅷ章）							
12	飯田 敏晴	【第 12 回】 予習：自身の関心のある研究領域の論文を調べる 授業：これまで読んだ論文のうち、1 つを紹介し、ディスカッションする① 復習：自身の研究テーマに関係しそうな知見をまとめる							
13	飯田 敏晴	【第 13 回】 予習：自身の関心のある研究領域の論文を調べる 授業：これまで読んだ論文のうち、1 つを紹介し、ディスカッションする② 復習：自身の研究テーマに関係しそうな知見をまとめる							
14	飯田 敏晴	【第 14 回】 予習：自身の関心のある研究領域の論文を調べる 授業：「研究計画について考え、文章に起こす」ということ（講義）、個人ワーク含 復習：自身の研究テーマに関係しそうな知見をまとめる							
15	飯田 敏晴	【第 15 回】 予習：自身の研究計画についてまとめる 授業：自身の研究計画を発表しディスカッションする（5 分～10 分）。 復習：研究計画書を見直し、提出する							
授業開始前学習		3 年前期に集めた資料から、リストにしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。							
テキスト・教材		白井・高橋『よくわかる卒論の書き方』にネルヴァ書房 2013 年							
参考書									
評価の基準と方法		所定出席を満たすことが評価の前提である。単位取得の前提条件は、学期末の研究計画書（仮）の提出である（60 点）。学期中有、適宜、グループ or フィールドワークがあるため、そのワーク後のリアクションの提出を求める（40 点）							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		心理学関連の科目を広く履修すること。							
その他		特記すべき事項なし							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		第 6 回～第 8 回では、筆者の実務経験を活かして、現場との何らかのコンタクトを予定している。詳細は決まり次第、後期ゼミ開始時までに関知します。							

科目分類	130-310-23	授業コード	FF1128
科目名称	心理学ゼミⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅡ-h」は、「心理学ゼミⅠ-h」に引き続いて、発達心理学および認知心理学といった領域の理解を深めつつ、実験や調査を実施するための具体的方法を身に付けることを目標とする。		
到達目標	卒業論文・ゼミ論文の研究計画書を作成すること。そのために前期の「心理学ゼミⅠ-h」に引き続き、テーマを検討するための基礎的な知識を習得し、そのテーマに関連する先行研究の文献や資料の要点を把握できるようになること。グループ・ディスカッションに慣れること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	丸山 慎	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておくこと 授業 : ゼミのガイダンス 内容確認 認知心理学と発達心理学の交差点について 復習 : 発達心理学および認知心理学の研究範囲について振り返る	
2	丸山 慎	【第 2 回】 予習 : 資料の講読①および疑問点の抽出 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習 (グループワーク) 復習 : 資料の内容を振り返る	
3	丸山 慎	【第 3 回】 予習 : 資料の講読②および疑問点の抽出 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習 (グループワーク) 復習 : 資料の内容を振り返る	
4	丸山 慎	【第 4 回】 予習 : 資料の講読③および疑問点の抽出 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習 (グループワーク) 復習 : 資料の内容を振り返る	
5	丸山 慎	【第 5 回】 予習 : 資料の講読④および疑問点の抽出 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習 (グループワーク) 復習 : 資料の内容を振り返る	
6	丸山 慎	【第 6 回】 予習 : 資料の講読⑤および疑問点の抽出 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習 (グループワーク) 復習 : 資料の内容を振り返る	
7	丸山 慎	【第 7 回】 予習 : 資料の講読⑥および疑問点の抽出 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習 (グループワーク) 復習 : 資料の内容を振り返る	
8	丸山 慎	【第 8 回】 予習 : 資料の講読⑦・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習および卒業研究の構想準備 (グループワーク) (ディスカッション) 復習 : 資料の内容および卒業研究の構想準備の議論を振り返る	
9	丸山 慎	【第 9 回】 予習 : 資料の講読⑧・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習および卒業研究の構想準備 (グループワーク) (ディスカッション) 復習 : 資料⑧の内容および観察に備えての議論を振り返る	
10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 : 資料の講読⑨・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 : 認知心理学と発達心理学の研究領域について : 講読演習および卒業研究の構想準備 (グループワーク) (ディスカッション) 復習 : 資料の内容および学外での観察に備えての議論を振り返る	

11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 : 卒業研究に向けた資料検索 授業 : 検索した資料の内容を精査し、まとめる（グループワーク）（ディスカッション） 復習 : 観察の内容を振り返る						
12	丸山 慎	【第 12 回】 予習 : 資料の講読⑩・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 : 精査した資料の内容を発表する（プレゼンテーション） 復習 : 発表の内容を振り返る						
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習 : 資料の講読⑪・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 : 精査した資料の内容を発表する（プレゼンテーション） 復習 : 発表の内容を振り返る						
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習 : 資料の講読⑫・疑問点の抽出および卒業研究の構想準備 授業 精査した資料の内容を発表する（プレゼンテーション） 復習 : 発表の内容を振り返る						
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習 : 購読した資料（①から⑫まで）の内容を振り返る 授業 : 検索・発表した資料の内容のまとめ 復習 : これまで使用した資料および観察内容を振り返り、キーワードを整理する						
授業開始前学習		発達心理学の入門書を読み、その概要を理解しておくことを勧めたい。						
授業内課題のフィードバックの方法		講読した文献資料およびディスカッションの内容を振り返る。特にディスカッションの際に作成したメモやノートにもとづき、反省点も踏まえて授業内で講評の機会を設ける。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		授業内での発表（40％）と学期末のレポート（1 回：40％）、授業態度・授業への貢献（20％）をもとに総合的に評価を決定する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学関連の授業は全て関連があると考えてほしい。							
その他	発達心理学、認知心理学などの概要を把握することはもちろんだが、本授業では、それらの領域の知見をできるだけ身近に感じてもらうために予備的な実験や調査を計画するような実践的な内容も実施していく予定である。また受講者の興味や関心などに応じて柔軟にテーマを設定していく場合もある。資料等を保管するファイル・クリアーブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。							
	東京近郊にて正課学外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-24	授業コード	FF1131
科目名称	心理学ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	各自が自分の関心に沿った質的心理学研究を行い、それを卒業論文をはじめとした研究論文としてまとめることを目指す。特に前期では、自らの関心を心理学の問いに落とし込みリサーチエスチョンを立て、先行研究の調査とデータの取得を行うことが目標となる。		
到達目標	自らの関心を心理学の方法論に沿って位置付け直し、リサーチエスチョンに沿って先行研究の整理やデータの取得を行うことができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習 : 自身の研究テーマを絞る 授業 : イントロダクション 復習 : 出題された課題に取り組む	
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習 : 自身の研究テーマをまとめる 授業 : リサーチエスチョンおよび研究テーマの発表① (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する	
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習 : 自身の研究テーマをまとめる 授業 : リサーチエスチョンおよび研究テーマの発表② (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する	
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習 : 自身の研究テーマをまとめる 授業 : リサーチエスチョンおよび研究テーマの発表③ (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する	
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習 : 自身の調査方法を考えておく 授業 : 調査における倫理的配慮について 復習 : 講義内容についての配布プリントの復習	
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習 : 自身の調査方法を考えておく 授業 : 質的研究におけるインタビュー調査 復習 : 講義内容についての配布プリントの復習	
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習 : 自身の調査方法をまとめる 授業 : 質的研究における観察調査 復習 : 講義内容についての配布プリントの復習	
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習 : 実際に調査をはじめめる 授業 : 調査の途中経過の確認と整理① 復習 : 指摘された点について再考する	
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習 : 実際に調査をはじめめる 授業 : 調査の途中経過の確認と整理② 復習 : 指摘された点について再考する	
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習 : 調査の途中経過をまとめる 授業 : 調査の途中経過についての発表① (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する	
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習 : 調査の途中経過をまとめる 授業 : 調査の途中経過についての発表② (プレゼンテーション) 復習 : 指摘された点について再考する	

12	綾城 初穂	【第 12 回】 予習：調査の途中経過をまとめる 授業：調査の途中経過についての発表③（プレゼンテーション） 復習：指摘された点について再考する						
13	綾城 初穂	【第 13 回】 予習：分析に取り組む 授業：質的研究法の具体的分析手順（データの整理）（実習） 復習：配布プリントの復習						
14	綾城 初穂	【第 14 回】 予習：分析に取り組む 授業：質的研究法の具体的分析手順②（コード化）（実習） 復習：配布プリントの復習						
15	綾城 初穂	【第 15 回】 予習：出題された課題に取り組む 授業：質的研究法の具体的分析手順③（カテゴリー化）（実習） 復習：配布プリントの復習						
授業開始前学習		関心のあるテーマについて、自分なりに先行研究を調べておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。						
テキスト・教材		各自の用いる方法によって異なるため、授業内で適宜指示する。						
参考書		樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー』ナカニシヤ出版 川喜田二郎（2017）『発想法 改版ー創造性開発のために』中公新書 能智正博（2011）『臨床心理学をまなぶ 6 質的研究法』東京大学出版会 鈴木聡志（2007）『会話分析・ディスコース分析ーことばの織りなす世界を読み解く（ワードマップ）』新曜社						
評価の基準と方法		発表 6 0 %・授業への貢献 4 0 %						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-24 (J)			授業コード	FF1132
科目名称	心理学ゼミⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	3 年次のゼミを通して見つけた各自の研究テーマ = “問い” に対する仮説を探索するために調査研究を行い、最終的にその成果を卒業論文もしくはゼミ論文という形にまとめることを目指す。4 年次の前期は、関連する先行研究をさらに読み進めることで、各自の抱えている“問い”をより明確化する。また、インタビュー等の調査を行う者については、その計画を立て、実行し、データを収集する。中間報告会では、各自の調査研究の途中経過についてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自の“問い”に対する仮説を探索するための研究計画を確定させる。 先行研究を読み進め、その内容や課題点について適切に理解し、自らの調査研究に活かすことができる。 調査研究をスタートし、必要なデータを収集することができる。 中間報告会において、調査研究の途中経過についてプレゼンテーションを行い、教員およびゼミ生と積極的に意見交換することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：3 年次ゼミで習得した内容について振り返っておく 授業：ガイダンス 今後の調査研究スケジュールの確認 復習：今後のスケジュールを立てる			
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：第 1 回授業にて配布された資料を再読する 授業：研究計画の立案① 復習：配付資料を読み返す			
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：第 2 回授業にて配布された資料を再読する 授業：研究計画の立案② 復習：配付資料を読み返す			
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：第 3 回授業にて配布された資料を再読する 授業：調査研究における倫理的配慮 復習：倫理的な側面から研究計画を再考する			
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認① 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する			
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認② 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する			
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認③ 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する			
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：実際に調査研究を開始する 授業：調査研究の経過確認④ 復習：授業中にコメントを受けた点について再考する			
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談① 復習：面談をふまえて報告会資料を作成する			
10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談② 復習：面談をふまえて報告会資料を作成する			

11	依田 尚也	【第 11 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：ゼミ面談③ 復習：面談をふまえ報告会資料を作成する							
12	依田 尚也	【第 12 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会① 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る							
13	依田 尚也	【第 13 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会② 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る							
14	依田 尚也	【第 14 回】 予習：中間報告会の準備をする 授業：中間報告会③ 復習：中間報告会の内容とコメントを振り返る							
15	依田 尚也	【第 15 回】 予習：調査研究の進捗状況について整理しておく 授業：後期スケジュールの立案 復習：スケジュールを必要に応じて修正する							
授業開始前学習		3 年次ゼミで習得した内容について振り返っておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		調査研究の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		適宜紹介する。							
評価の基準と方法		中間報告会の発表内容（60％）、および授業への取り組み姿勢（40％）をもとに、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と，人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と，社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と，心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と，実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅳ							
その他		進度の都合により授業内容・順序を一部変更する可能性がある。 最終的に、4 年次後期にゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-24（J）			授業コード	FF1133
科目名称	心理学ゼミⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。4 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について考察を深めつつ、各自が関心を持ったテーマで研究を進め、論文としてその成果をまとめることが目標である。4 年生前期は、各自が研究テーマを選定し、研究計画を立案し、実際の研究に着手する。				
到達目標	個人研究のテーマを定め、研究計画を立案する。文献や先行研究の調査と講読を進め、研究計画をブラッシュアップするとともに、研究方法の準備を行う。 これら研究計画とその方法論を検討していく中で、討議する力や計画的に作業を進めていく力も併せて身に付けていく。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習：研究テーマを検討しておく。 授業：ガイダンス（全体計画の説明等）、研究テーマの確認 復習：研究テーマの再検討を行う。			
2	田中 教仁	予習：先行研究等の講読、ゼミ面談の準備 授業：研究の留意点について、研究計画の立案①、ゼミ面談 復習：研究計画の立案、先行研究等の講読			
3	田中 教仁	予習：先行研究等の講読、ゼミ面談の準備 授業：研究計画の立案②、ゼミ面談 復習：研究計画の立案、先行研究等の講読			
4	田中 教仁	予習：プレゼンテーションの準備 授業：研究計画のプレゼンテーション、ディスカッション 復習：研究計画の再検討			
5	田中 教仁	予習：研究計画の再検討 授業：研究計画の確定、先行研究のまとめ方 復習：先行研究の講読			
6	田中 教仁	予習：先行研究の調査と講読を進める。 授業：先行研究の講読とまとめ① 復習：先行研究のまとめを行う。			
7	田中 教仁	予習：先行研究等の調査と講読を進める。 授業：先行研究の講読とまとめ② 復習：先行研究のまとめを行う。			
8	田中 教仁	予習：先行研究等の調査と講読を進める。 授業：先行研究等の講読とまとめ③ 復習：先行研究等のまとめを行う。			
9	田中 教仁	予習：先行研究等の調査と講読を進める。 授業：先行研究等のまとめの資料の作成 復習：資料の作成			
10	田中 教仁	予習：資料の提出 授業：先行研究等のまとめの発表、ディスカッション 復習：資料の修正			
11	田中 教仁	予習：配布資料の講読 授業：論文の構成、執筆の基本的事項 復習：文献の整理を行う。			
12	田中 教仁	予習：調査・研究法の検討 授業：研究結果の分析、整理について。調査・研究法の準備 復習：授業内容を整理する。			
13	田中 教仁	予習：調査・研究法の準備と実施を進める。 授業：調査・研究法の準備と実施① 復習：調査・研究法の準備と実施を進める。			

14	田中 教仁	予習：調査・研究法の準備と実施を進める。 授業：調査・研究法の準備と実施② 復習：調査・研究法の準備と実施を進める。							
15	田中 教仁	予習：研究の進ちょく状況を説明できるようにしておく。 授業：研究の進ちょくの確認、夏季及び後期の課題の確認 復習：レポート課題の作成、提出							
授業開始前学習		関連する文献や先行研究を収集し、講読を始め、研究テーマを検討しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		研究計画等の発表に対して、授業内でディスカッションを行い、これを踏まえてコメントする。研究の実施や論文作成に向けて、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。授業内で適宜紹介する。							
参考書		松井豊著『三訂版 心理学論文の書き方』（河出書房新社） 小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社） 門本泉編著『司法・犯罪心理学』（ミネルヴァ書房）							
評価の基準と方法		研究計画の発表 4 0 %、先行研究のまとめの発表 4 0 %、レポート 1 0 %、ディスカッションの貢献 1 0 %の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目									
その他		・卒業論文もしくはゼミ論文という形で個人研究の成果をまとめることが必須である。自主的、積極的、計画的に研究を進める姿勢が求められる。 ・正課学外活動として、前期には関係機関見学を行い、施設の見学及び実務家からの講義を受けることを予定している。その際には節度ある服装、参加姿勢を求める。見学先は都内近郊を予定しているが、交通費は各自負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえたフィードバック等を行う。							

科目分類	130-310-24 （J）			授業コード	FF1134
科目名称	心理学ゼミⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。4 年前期のゼミでは、受講生が各自関心のあるコミュニティを選択し、そのコミュニティにおける心理的問題について調査を計画し、発表・実施する。				
到達目標	4 年生の一年間を通して実施する個人研究のテーマと研究計画を確定する。可能であれば、調査や実験を実施することを目指すとする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習：卒業論文あるいはゼミ論文のテーマに関する文献の講読を行う 授業：ガイダンス 研究テーマの確認 （資料①） 復習：授業でのコメントを受けて、研究テーマをさらに検討する			
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習：資料②の講読と疑問点の抽出 授業：研究計画の立案 1 （資料②） 復習：資料②の復習、研究計画を検討する			
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習：資料③の講読と疑問点の抽出 授業：研究計画の立案 2 （資料③） 復習：資料③の復習、研究計画を立案する			
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 1 （プレゼンテーション） 復習：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する			
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 2 （プレゼンテーション） 復習：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する			
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 3 （プレゼンテーション） 復習：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する			
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 4 （プレゼンテーション） 復習：発表へのフィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する			
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習：研究テーマに関する先行研究の講読、研究計画を立案し発表の準備を行う 授業：研究計画の発表 5 （プレゼンテーション） 復習：フィードバックを踏まえて研究計画をさらに検討する			
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習：研究計画の再検討を行う 授業：研究計画の再検討 復習：フィードバックを踏まえて研究計画を具体化する			
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 1 復習：調査実施に向けて質問紙等を作成する			
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 2 復習：調査実施に向けて質問紙等を作成する			

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 3 復習：調査実施に向けて準備を行う、可能であれば調査を実施する							
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：調査実施に向けて準備を行う 授業：調査の準備と実施 4 復習：調査実施に向けて準備を行う、可能であれば調査を実施する							
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：データ分析の手順を復習しておく 授業：データ分析 1 復習：データを入力する							
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習：データ分析の手順を復習しておく 授業：データ分析 2 復習：レポート課題の作成							
授業開始前学習		自分が希望する研究テーマに関する先行研究を収集し、講読しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		研究計画の発表に対しては、授業内でディスカッションとコメントを行う。卒業論文の作成に向けて随時個別に指導やフィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		特に指定しない。							
評価の基準と方法		出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（60 点）、授業への積極的貢献（30 点）、期末レポート（10 点）による。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。							
その他		特になし。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践との関連という視点を踏まえて指導を行う。							

科目分類	130-310-24 (J)	授業コード	FF1135
科目名称	心理学ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 15:00~18:00 後期 金曜日 15:00~18:00	研究室	10-710
授業概要	心理学ゼミⅠ・Ⅱで身につけた知識、スキルを活かし、ゼミ論・卒論で取り組むテーマを決定する。3 年後期に作成した研究計画書に従い、計画を実行し、結果を分析し、考察を深めていく。ゼミの時間を使って研究を進めるとともに、各自の進捗状況に応じてレジュメを用意し、中間発表会にて発表する。最終的には、ゼミ論・卒論をまとめていく。		
到達目標	1. 心理学研究を計画・実行できる。 2. 得られたデータについて、先行研究で得られた知見なども活用しながら、自分なりの考察ができる。 3. 自分が行った心理学研究の成果について、プレゼンテーションできる。 4. 心理学研究に必要な倫理的事項について、自分の研究に適用できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み、通年の流れを理解／研究計画書の検討 授業 : 1. 研究実施 1 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 2. 研究実施 2 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 3. 研究実施 3 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 4. 研究実施 4 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 5. 研究実施 5 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 6. 研究実施 6 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 7. 研究実施 7 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 8. 研究実施 8 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 9. 研究実施 9 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 : 文献収集、調査票作成、調査・実験の実施、データ入力、分析等 授業 : 10. 研究実施 10 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理	
11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習 : 発表準備 授業 : 11. 中間発表会準備 1 : 抄録 (Google ドキュメント) 作成	

		復習：中間発表会用抄録の作成						
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習：発表準備 授業：12. 中間発表会準備 2：抄録（Google ドキュメント）作成・提出 復習：中間発表会用抄録の完成、提出						
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習：発表準備 授業：13. 中間発表会準備 3：プレゼンテーション（Google スライド）の作成・提出 復習：中間発表会用プレゼンテーションの完成、提出						
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：15. 中間発表会 1（発表、司会、指定討論） 復習：紹介された心理学用語、文献の整理						
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：15. 中間発表会 2（発表、司会、指定討論） 復習：紹介された心理学用語、文献の整理						
授業開始前学習		論文の書き方（形式）について、身につけておくとよい。						
授業内課題のフィードバックの方法		当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。						
テキスト・教材		特になし。						
参考書		臨床心理学関連の各学会が発行している学術雑誌を参考にするとよい。 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 https://psych.or.jp/manual/						
評価の基準と方法		所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 2 点×15 回＝30 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点（質疑応答を含む）、司会・指定討論など 15 点、論文の途中稿 25 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライドの提出が必須である。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ							
その他	特になし。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-24	授業コード	FF1136
科目名称	心理学ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅡに引き続き、2つのテーマ（１．「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と２．「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献講読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 とくにⅢでは、興味ある研究論文を精読し、各自が追試または発展研究の研究計画を立てる。各自の研究計画の発表・グループ討論を行うと共に、少数サンプルの試行研究を実施し、データを整理・分析し、結果をレポートにまとめる。		
到達目標	認知、記憶に関するより専門的研究について理解を深め、個別の研究について理解するとともに、評価できる点、改善点などの意見を述べる事が出来るようになる。 先行研究を参考にして、追試を行うことができる技術力（研究の計画と立案、刺激の作成、措置の操作、コンピュータを用いたデータ分析等）を身につける。自分のテーマ研究について発表できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	富士原 光洋	【第 1 回】 予習：資料 1 83P から 85P の講読 授業：記憶のモデルについて 復習：記憶のモデルに関するキーワードを整理する	
2	富士原 光洋	【第 2 回】 予習：資料 1 86P から 87P の講読 授業：2 貯蔵庫モデルの根拠について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：2 貯蔵庫モデルに関するキーワードを整理する	
3	富士原 光洋	【第 3 回】 予習：資料 1 88P から 90P の講読 授業：2 貯蔵庫モデルへの反論について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：処理水準モデルについてまとめる	
4	富士原 光洋	【第 4 回】 予習：資料 1 90P から 94P の講読 授業：記憶情報の変換について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：符号化についてまとめる	
5	富士原 光洋	【第 5 回】 予習：資料 1 94P から 99P の講読 授業：リハーサルについて 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：リハーサルに関するキーワードを整理する	
6	富士原 光洋	【第 6 回】 予習：資料 1 101P から 102P の講読 授業：エピソード記憶について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：自分自身のエピソード記憶の事例をまとめる 認知心理学レポートの資料調べと作成	
7	富士原 光洋	【第 7 回】 予習：資料 1 102P から 105P の講読 授業：意味記憶について 発表とグループ討論 認知心理学のレポート提出 ①（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：意味記憶に関するキーワードを整理する	
8	富士原 光洋	【第 8 回】 予習：資料 1 106P から 107P の講読 授業：記憶の変容について 発表とグループ討論（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：目撃情報の変容について、自分の事例を考察する	
9	富士原 光洋	【第 9 回】 予習：資料 1 108P から 110P の講読 授業：記憶内容の忘却について 発表とグループ討論 レポート講評①（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：忘却による失敗について、自分の事例を考察する	
10	富士原 光洋	【第 10 回】 予習：各自の研究事例追実験(目的と方法)を作成する 授業：追実験の発表(パワーポイントを使って) 復習：発表コメントへの回答をまとめる	

11	富士原 光洋	【第 11 回】 予習：実験計画表を作成 授業：実験計画表のチェック（刺激、器具、装置、教示について） 復習：実験計画表の修正						
12	富士原 光洋	【第 12 回】 予習：実験刺激の材料確認 授業：実験刺激の作成 復習：実験教示の作成 認知心理学レポートの資料調べと作成						
13	富士原 光洋	【第 13 回】 予習：実験環境の設定、チェック 授業：実験の実施 認知心理学のレポート提出 ② 復習：実験実施、データ収集						
14	富士原 光洋	【第 14 回】 予習：データ収集 授業：データ収集と結果の整理（データ入力） 復習：実験データの入力・分析						
15	富士原 光洋	【第 15 回】 予習：実験データの入力・分析、整理 授業：データ分析と仮説の検討 レポート講評② 復習：レポートの作成						
授業開始前学習		認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくことと授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出するレポートについては、2 週間後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。						
参考書		中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）						
評価の基準と方法		発表内容（2 回）とレポート（学期内のレポート（2 回）学期末のレポート(1 回)）により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点とレポート評価 50 点とする。 発表内容評価には、授業内での討論状況を加味する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「知覚・認知心理学」を履修しておくことと内容が良くなる。							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常生活している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-24	授業コード	FF1138
科目名称	心理学ゼミⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅢ-h」では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆にかかる具体的な作業を進め、論文の完成を目指す。各自で発達心理学、認知心理学などの領域に関するテーマを選択し、その内容に沿った調査を実施し、その結果をまとめるための総合的なスキルを身につけることを目的とする。		
到達目標	卒業論文・ゼミ論文の作成に必要な調査や実験を実施し、データの収集ができること。そのための準備やコミュニケーションを適切に行うことができること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	丸山 慎	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールの確認 授業 : 卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールを立てる 復習 : 授業の振り返り	
2	丸山 慎	【第 2 回】 予習 : 卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールをまとめたメモを作成しておく 授業 : 卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールの確認と準備作業 (課題解決型学習) 復習 : 教員から指摘されたポイントについて整理する	
3	丸山 慎	【第 3 回】 予習 : 卒業論文・ゼミ論文の執筆スケジュールの最終確認 授業 : 研究実施準備および実施① (課題解決型学習) (発表) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
4	丸山 慎	【第 4 回】 予習 : 作業内容の進捗状況を整理する 授業 : 研究実施準備および実施② (課題解決型学習) (発表) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
5	丸山 慎	【第 5 回】 予習 : 作業内容の進捗状況を整理する 授業 : 研究実施準備および実施③ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
6	丸山 慎	【第 6 回】 予習 : 作業内容の進捗状況を整理する 授業 : 研究実施① (課題解決型学習) (発表) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
7	丸山 慎	【第 7 回】 予習 : 作業内容の進捗状況を整理する 授業 : 研究実施② (課題解決型学習) (発表) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
8	丸山 慎	【第 8 回】 予習 : 作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業 : 研究実施③および観察に備えての議論 (課題解決型学習) (ディスカッション) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
9	丸山 慎	【第 9 回】 予習 : 作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業 : 研究実施④および観察に備えての議論 (課題解決型学習) (ディスカッション) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 : 作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業 : 研究実施⑤および観察に備えての議論 (課題解決型学習) (ディスカッション) 復習 : 作業内容の進捗状況を整理する	
11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 : 作業内容の進捗状況の整理および学外での観察に備えての準備 授業 : 学外での観察結果をまとめる (グループワーク) 復習 : 観察内容について振り返る	

12	丸山 慎	【第 12 回】 予習：作業内容の進捗状況の整理および観察内容を整理する 授業：研究の進捗状況に関する中間報告①（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：中間報告の内容とコメントを振り返る							
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習：作業内容の進捗状況を整理する 授業：研究の進捗状況に関する中間報告②（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：中間報告の内容とコメントを振り返る							
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習：作業内容の進捗状況を整理する 授業：研究の進捗状況に関する中間報告③（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：中間報告の内容とコメントを振り返る							
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習：作業内容の進捗状況を整理し後期授業のスケジュールを立てておく 授業：後期の研究実施スケジュールを立てる（課題解決型学習） 復習：授業内容の振り返り							
授業開始前学習		認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくことと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		作成資料や発表内容について授業内でフィードバックを与える。							
テキスト・教材		授業時に適宜指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業内での発表（40％）と学期末のレポート（1 回：40％）、授業態度・授業への貢献（20％）をもとに総合的に評価を決定する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		「認知心理学」を履修しておくことと内容が良く分かる。							
その他		認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常生活している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 東京近郊にて正課学外活動を予定している。実費等、実施については授業内で説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-24	授業コード	FF1141
科目名称	心理学ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	綾城 初穂	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城 初穂	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業概要	各自が自分の関心に沿った質的心理学研究を行い、それを卒業論文をはじめとした研究論文としてまとめることを目指す。後期では、習得したデータの分析と考察を行い、それを卒業論文をはじめとする研究論文にまとめることが目標となる。		
到達目標	自らの関心に基づいて取得したデータを、心理学の方法論に沿って分析・考察して、それを心理学論文の形でまとめることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習 : 進捗状況をまとめる 授業 : イントロダクション 復習 : 出題された課題に取り組む	
2	綾城 初穂	【第 2 回】 予習 : 進捗状況をまとめる 授業 : 分析結果（途中経過）の発表①（プレゼンテーション） 復習 : 指摘された点について再考する	
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習 : 進捗状況をまとめる 授業 : 分析結果（途中経過）の発表②（プレゼンテーション） 復習 : 指摘された点について再考する	
4	綾城 初穂	【第 4 回】 予習 : 進捗状況をまとめる 授業 : 分析結果（途中経過）の発表③（プレゼンテーション） 復習 : 指摘された点について再考する	
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習 : 分析を進める 授業 : 執筆における注意点について①（全体の構成） 復習 : 配布プリントの復習	
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習 : 分析を進める 授業 : 執筆における注意点について②（方法の記述） 復習 : 配布プリントの復習	
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習 : 分析を進める 授業 : 執筆における注意点について③（結果の記述） 復習 : 配布プリントの復習	
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習 : 分析を進める 授業 : 執筆における注意点について④（考察の記述） 復習 : 配布プリントの復習	
9	綾城 初穂	【第 9 回】 予習 : 分析を進める 授業 : 執筆における注意点について⑤（目的の再記述） 復習 : 配布プリントの復習	
10	綾城 初穂	【第 10 回】 予習 : 分析を進める 授業 : 研究結果のプレゼンテーションに関する講義 復習 : 配布プリントの復習	
11	綾城 初穂	【第 11 回】 予習 : 研究結果をまとめる 授業 : 研究結果発表①（プレゼンテーション） 復習 : 指摘された点について再考する	

12	綾城 初穂	【第 12 回】 予習：研究結果をまとめる 授業：研究結果発表②（プレゼンテーション） 復習：指摘された点について再考する							
13	綾城 初穂	【第 13 回】 予習：研究結果をまとめる 授業：研究結果発表③（プレゼンテーション） 復習：指摘された点について再考する							
14	綾城 初穂	【第 14 回】 予習：研究結果をまとめる 授業：研究結果発表④（プレゼンテーション） 復習：指摘された点について再考する							
15	綾城 初穂	【第 15 回】 予習：研究過程を振り返る 授業：まとめ 復習：配布プリントの復習							
授業開始前学習		先行研究と調査の途中経過についてまとめておくこと							
授業内課題のフィードバックの方法		分析過程や発表方法については、授業内でコメントする。レポートは添削して、返却する。							
テキスト・教材		各自の用いる方法によって異なるため、授業内で適宜指示する。							
参考書		松井豊（2010）『改定新版心理学論文の書き方——卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社。							
評価の基準と方法		発表 7 0 %・授業への貢献 3 0 %							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かして自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-310-24 (J)			授業コード	FF1142
科目名称	心理学ゼミⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	依田 尚也			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50			研究室	10-715
授業概要	3 年次のゼミを通して見つけた各自の研究テーマ = “問い” に対する仮説を探索するために調査研究を行い、最終的にその成果を卒業論文もしくはゼミ論文という形にまとめることを目指す。4 年次の後期は、各自の調査研究の結果を分析し、学術的論文の形式に従って文章化していく。最終報告会では、各自の論文内容についてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	各自の“問い”に対する仮説を探索し、その経過と成果を学術的論文としてまとめ、完成させることができる。 完成させた論文の内容についてプレゼンテーションを行い、教員およびゼミ生と積極的に意見交換することができる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	依田 尚也	【第 1 回】 予習：夏休み中に研究を進めておく 授業：ガイダンス 今後の論文執筆スケジュールの確認 復習：今後のスケジュールを立てる			
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習：研究の進行状況についてまとめておく 授業：夏休み中の経過報告会① 復習：経過報告会で得られたコメントを振り返る			
3	依田 尚也	【第 3 回】 予習：論文執筆の進行状況についてまとめておく 授業：夏休み中の経過報告会② 復習：経過報告会で得られたコメントを振り返る			
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習：論文の『問題と目的』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆①『問題と目的』 復習：論文の『問題と目的』部分を完成させる			
5	依田 尚也	【第 5 回】 予習：論文の『方法』『結果』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆②『方法』『結果』 復習：論文の『方法』『結果』部分を完成させる			
6	依田 尚也	【第 6 回】 予習：論文の『考察』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆③『考察』 復習：論文の『考察』部分を完成させる			
7	依田 尚也	【第 7 回】 予習：論文の『結論』『引用文献』部分について研究指導用資料を作成する 授業：論文執筆④『結論』『引用文献』 復習：論文の『結論』『引用文献』部分を完成させる			
8	依田 尚也	【第 8 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備① 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める			
9	依田 尚也	【第 9 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備② 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める			
10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備③ 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める			
11	依田 尚也	【第 11 回】 予習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成を進める 授業：論文執筆と最終報告会の準備④ 復習：論文執筆と最終報告会用スライドの作成をさらに進める			

12	依田 尚也	【第 12 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会① 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る						
13	依田 尚也	【第 13 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会② 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る						
14	依田 尚也	【第 14 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会③ 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る						
15	依田 尚也	【第 15 回】 予習：最終報告会の準備をする 授業：卒業論文・ゼミ論文 最終報告会④ 復習：最終報告会において得られたコメントを振り返る						
授業開始前学習		夏休み中に各自で調査研究を進めておくこと。 不明点や疑問点については、個別に教員に質問しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		論文執筆の進行状況に合わせて、授業内で個別にフィードバックを行う。 最終報告会においては、全体での質疑応答を行った上で、最終的なフィードバックを行う。						
テキスト・教材		特に指定しない。						
参考書		適宜紹介する。						
評価の基準と方法		論文の完成（70％）、および授業への取り組み姿勢（30％）をもとに、総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成 人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成 人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成 心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ							
その他	進度の都合により授業内容・順序を一部変更する可能性がある。 ゼミ論文もしくは卒業論文として学術的論文を完成させ、提出することが必須である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-24 （J）			授業コード	FF1143
科目名称	心理学ゼミⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中 教仁			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10			研究室	10-719
授業概要	司法・犯罪領域における個人、家族の問題を扱うゼミである。臨床心理学を中心にすえつつ人間行動科学の知見を参考にしながら、非行・犯罪の基礎理論、心理社会アセスメントと支援、犯罪被害者の支援、家事事件についての知識と理解を深める。また、この領域における専門機関の概要及び専門職の実践についても取り上げる。4 年生は、これら司法・犯罪領域の理論と支援について考察を深めつつ、各自が関心を持ったテーマで研究を進め、論文としてその成果をまとめることが目標である。4 年生後期は、各自が進めてきた研究の成果を論文にまとめ、発表し、4 年間の集大成とする。				
到達目標	各自が定めた研究テーマについて、計画的に研究を進め、その成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。研究結果を効果的にプレゼンテーションするスキルを身に付ける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 教仁	予習：研究の進ちよくを発表できるように準備する。 授業：ガイダンス（全体計画の説明等）、研究の進ちよくの確認 復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。			
2	田中 教仁	予習：配布資料の講読 授業：結果のまとめ方と論文執筆の留意点 復習：配布資料の見返し			
3	田中 教仁	予習：研究計画に基づき、研究を進める。 授業：調査・研究法の実施① 復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。			
4	田中 教仁	予習：研究計画に基づき、研究を進める。 授業：調査・研究法の実施② 復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。			
5	田中 教仁	予習：中間報告会の準備を行う。資料の提出 授業：中間報告会、ディスカッション 復習：授業内のフィードバックの内容を整理する。			
6	田中 教仁	予習：結果の整理を行う。 授業：結果の整理① 復習：結果の分析を行う。論文執筆を進める。			
7	田中 教仁	予習：結果の整理を行う。 授業：結果の整理② 復習：結果の分析を行う。論文執筆を進める。			
8	田中 教仁	予習：結果の整理を行う。 授業：結果の整理③ 復習：結果の分析を行う。論文執筆を進める。			
9	田中 教仁	予習：結果の分析と考察の検討を行う。 授業：結果の分析と考察① 復習：論文執筆を進める。			
10	田中 教仁	予習：結果の分析と考察の検討を行う。 授業：結果の分析と考察② 復習：論文執筆を進める。			
11	田中 教仁	予習：結果の分析と考察の検討を行う。 授業：結果の分析と考察③ 復習：論文執筆を進める。			
12	田中 教仁	予習：論文執筆を行う。 授業：論文を仮提出し、修正等を行う。 復習：論文執筆を進める。			
13	田中 教仁	予習：論文執筆を進める。 授業：論文の完成 復習：論文を完成させる。			

14	田中 教仁	予習：発表の準備を行う。 授業：発表会① 復習：発表会の振り返りを行う。							
15	田中 教仁	予習：発表の準備を行う。 授業：発表会② 復習：発表会の振り返りを行う。							
授業開始前学習		心理学ゼミⅢの結果を踏まえ、適宜、研究を進めておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		研究の実施や論文作成に向けて、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。授業内で適宜紹介する。							
参考書		松井豊著『三訂版 心理学論文の書き方』（河出書房新社） 小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社）							
評価の基準と方法		研究論文（卒業論文、ゼミ論文） 6 0 %、授業への取組姿勢及び発表 4 0 %の配分で総合評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目									
その他		・卒業論文もしくはゼミ論文という形で個人研究の成果をまとめることが必須である。自主的、積極的、計画的に研究を進める姿勢が求められる。 ・提出や報告等の期限、ルールを丁寧に確認し、遵守する姿勢を身に付けることが必要である。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家庭裁判所調査官として少年事件、家事事件の多くの事例を担当してきた。そうした実務経験を踏まえたフィードバック等を行う。							

科目分類	130-310-24 (J)			授業コード	FF1144
科目名称	心理学ゼミⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤川 麗			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712
授業概要	人の心の問題の理解と援助の方法を扱う、臨床心理学の専門ゼミである。臨床心理学の研究方法について知識と理解を深め、自ら研究を実施できるようになることを目標とする。4 年後期のゼミでは、各自が関心を持つコミュニティの心理的問題について調査結果を分析し、論文にまとめる。また、発表会で研究内容についてプレゼンテーションを行う。				
到達目標	心理学の実証的研究方法について理解を深め、自分の実施した研究方法、データ分析の方法を習得する。研究の成果を卒業論文あるいはゼミ論文としてまとめる。効果的なプレゼンテーションの方法について習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤川 麗	【第 1 回】 予習 : 研究の進行状況をまとめ、発表用にメモを作成する。 授業 : ガイダンス 研究の進行状況の報告 (プレゼンテーション) 復習 : 研究計画に沿って作業を進める。			
2	藤川 麗	【第 2 回】 予習 : 参考文献 p 134-139 の講読 授業 : 結果のまとめ方と論文執筆の方法 1 復習 : 授業内容を参考にデータの分析を進める。			
3	藤川 麗	【第 3 回】 予習 : 参考文献 p 140-143 の講読 授業 : 結果のまとめ方と論文執筆の方法 2 復習 : 授業内容を参考にデータの分析を進める。			
4	藤川 麗	【第 4 回】 予習 : データを分析し、結果をまとめる。 授業 : データの分析と考察 1 復習 : 授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。			
5	藤川 麗	【第 5 回】 予習 : データを分析し、結果をまとめる。 授業 : データの分析と考察 2 復習 : 授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。			
6	藤川 麗	【第 6 回】 予習 : データを分析し、結果をまとめる。 授業 : データの分析と考察 3 復習 : 授業でのコメントを踏まえてさらにデータの分析を進める。			
7	藤川 麗	【第 7 回】 予習 : 参考文献 p 144-149 の講読 授業 : 考察のまとめ 復習 : 授業の内容を参考に結果のまとめと考察の作業を進める。			
8	藤川 麗	【第 8 回】 予習 : 論文執筆と発表準備を行う。 授業 : 論文執筆と発表資料の準備 1 復習 : 論文執筆と発表準備を行う。			
9	藤川 麗	【第 9 回】 予習 : 論文執筆と発表準備を行う。 授業 : 論文執筆と発表資料の準備 2 復習 : 論文執筆と発表準備を行う。			
10	藤川 麗	【第 10 回】 予習 : 参考文献 p 182-185 の講読 授業 : 論文執筆と発表資料の準備 3 復習 : 発表会に向けてパワーポイントを作成する。			
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習 : 発表の準備 (発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成) を行う。 授業 : 発表会 1 (プレゼンテーション) 復習 : 発表の振り返りを行う。			

12	藤川 麗	【第 12 回】 予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業：発表会 2（プレゼンテーション） 復習：発表の振り返りを行う。							
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業：発表会 3（プレゼンテーション） 復習：発表の振り返りを行う。							
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：発表の準備（発表原稿の作成、プレゼンテーション資料の作成）を行う。 授業：発表会 4（プレゼンテーション） 復習：発表の振り返りを行う。							
15	藤川 麗	【第 15 回】 予習：ゼミ論文を完成させる。 授業：発表会 5（プレゼンテーション）ゼミ論文の提出 復習：1 年間のゼミの振り返りを行う。							
授業開始前学習		心理学ゼミⅢで作成した研究計画に沿って、調査を進めておく必要がある。							
授業内課題のフィードバックの方法		ゼミ論文・卒業論文の進行状況に合わせて、個別に授業内でフィードバックを行う。最終的な発表会においては、全体での質疑応答とコメントシートを用いたフィードバックを行う。							
テキスト・教材		特に指定しない。							
参考書		白井利明・高橋一郎（2008）『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房							
評価の基準と方法		出席 3 分の 2 以上が単位取得の前提条件。授業での発表（40 点）、授業への積極的貢献（30 点）、レポート（卒業論文／ゼミ論文）（30 点）による。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		「卒業論文」において心理学の実証的研究を行うために必要である。							
その他		特になし。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		心理臨床の実務経験を活かし、臨床心理学の研究と実践の関連という視点を踏まえて指導を行う。							

科目分類	130-310-24 (J)	授業コード	FF1145
科目名称	心理学ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	藤城 有美子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	藤城 有美子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 金曜日 15:00~18:00 後期 金曜日 15:00~18:00	研究室	10-710
授業概要	心理学ゼミⅢに引き続き、ゼミ論・卒論で取り組む研究計画を実行し、結果を分析し、考察を深めていく。ゼミの時間を使って研究を進めるとともに、各自の進捗状況に応じてレジュメを用意し、研究成果を全体発表会にて発表する。最終的には、ゼミ論・卒論を執筆する。		
到達目標	1. 心理学研究を計画・実行できる。 2. 得られたデータについて、先行研究で得られた知見なども活用しながら、自分なりの考察ができる。 3. 自分が行った心理学研究の成果について、プレゼンテーションできる。 4. 自分が行った心理学研究を、論文としてまとめられる。 5. 心理学研究に必要な倫理的事項について、自分の研究に適用できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	藤城 有美子	【第 1 回】 予習 : 先行研究からの問題提起と自分の研究目的の振り返り 授業 : 1. 論文の書き方 : 説明 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 構成、文体、引用文献等、執筆ルールの振り返り	
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習 : 論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業 : 2. 論文作成 2-1 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 「序論」の完成	
3	藤城 有美子	【第 3 回】 予習 : 論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業 : 2. 論文作成 2-2 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 「方法」の完成	
4	藤城 有美子	【第 4 回】 予習 : 論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業 : 2. 論文作成 2-3 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 「結果」の完成	
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習 : 論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業 : 2. 論文作成 2-4 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 「考察」の完成	
6	藤城 有美子	【第 6 回】 予習 : 論文の書き方に関する配布プリントの確認 授業 : 2. 論文作成 2-5 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 「結論」、「要約」の完成	
7	藤城 有美子	【第 7 回】 予習 : 「引用文献」リストの整理 授業 : 2. 論文作成 2-6 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 「引用文献」リストの完成、卒論・ゼミ論の中間提出	
8	藤城 有美子	【第 8 回】 予習 : 発表準備 授業 : 3. 全体発表会準備 3-1 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 全体発表会用抄録 (Google ドキュメント) の完成・提出	
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 3. 全体発表会準備 3-2 (含. グループ・ディスカッション) 復習 : 中間発表会用プレゼンテーション (Google スライド) の完成・提出	
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習 : 発表準備・予演 授業 : 4. 全体発表会 4-1 (発表、司会、指定討論) 復習 : 質疑応答、ディスカッションの振り返り	

11	藤城 有美子	【第 11 回】 予習：発表準備・予演 授業：4. 全体発表会 4-2（発表、司会、指定討論） 復習：質疑応答、ディスカッションの振り返り						
12	藤城 有美子	【第 12 回】 予習：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業：5. 論文の加筆修正 5-1（含、グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理						
13	藤城 有美子	【第 13 回】 予習：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業：5. 論文の加筆修正 5-2（含、グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理						
14	藤城 有美子	【第 14 回】 予習：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業：5. 論文の加筆修正 5-3（含、グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理、卒論・ゼミ論の最終提出						
15	藤城 有美子	【第 15 回】 予習：文献収集、再分析、考察の見直し等 授業：5. 論文の加筆修正 5-4（含、グループ・ディスカッション） 復習：研究作業の振り返り、次回までの課題点の整理						
授業開始前学習		研究倫理、および、論文の書き方について身につけておくといよい。						
授業内課題のフィードバックの方法		当日の作業および発表・ディスカッション内容については、その場で解説・フィードバックする。 また、研究論文については、途中稿 1、途中稿 2、途中稿 3、仮提出、本提出（Classroom からの課題提出）の段階を踏んで作成していく。						
テキスト・教材		特になし。						
参考書		日本心理学会「2022 年改訂版 執筆・投稿の手びき」 https://psych.or.jp/manual/ その他、臨床心理学関連の各学会が発行している学術雑誌を参考にするとよい。						
評価の基準と方法		所定出席数を満たした者について、毎回のワークへの取り組み 2 点×15 回＝30 点、発表会の抄録 10 点、スライド 10 点、発表 10 点（質疑応答を含む）、司会・指定討論など 15 点、論文の完成稿 25 点の、計 100 点で評価する。単位の取得のためには、発表会での発表、抄録およびスライド、論文の提出が必須である。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人との織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	心理学ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ							
その他	研究への取り組みにおいては、図書館および各種文献データベースの積極的利用が望まれる（オンラインで入手できない文献を図書館で、あるいは、図書館を通して入手する場合は、利用申請の仕方についてポータルサイトの情報を確認すること）。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	心理臨床の実務経験あり。							

科目分類	130-310-24	授業コード	FF1146
科目名称	心理学ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	富士原 光洋	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	富士原 光洋	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業概要	心理学ゼミⅢに引き続き、2つのテーマ（1.「環境の認知と環境がもたらす行動への影響」（認知心理学の応用研究）と2.「言葉の使用とその認知機能について」）について、文献講読、研究例の発表・討論を行い、人間の認知機能について科学的解明をめざす認知心理学の視点から、科学的理解を深める。 Ⅳでは、Ⅲで行った各自の追試・発展研究を発表し、次の検討事項を考察する。この考察をもとに、さらなるオリジナル研究について計画を立てる。		
到達目標	認知、記憶に関するより専門的研究について理解を深め、個別の研究について理解するとともに、評価できる点、改善点などの意見を述べる事が出来るようになる。 先行研究を参考にして、追試を行うことができる技術力（研究の計画と立案、刺激の作成、措置の操作、コンピュータを用いたデータ分析等）を身につける。自分のテーマ研究について発表できるようになる。 さらに、各自が実施した研究について、分かりやすく発表するための技術を身につける。また、レポート作成・添削を通して、心理学の論文形式をしっかりと身につける。		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の授業形態
授業回数	担当者	授業の内容	
1	富士原 光洋	【第1回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表準備（プレゼンテーション）1（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する	
2	富士原 光洋	【第2回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表（プレゼンテーション）2（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する	
3	富士原 光洋	【第3回】 予習：前期ゼミでの追実験の発表資料の作成 授業：前期ゼミでの追実験の発表（プレゼンテーション）3（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：発表コメントを整理する	
4	富士原 光洋	【第4回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施 1 復習：データ整理	
5	富士原 光洋	【第5回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施 2 復習：データ整理	
6	富士原 光洋	【第6回】 予習：実験実施の準備 授業：実験実施 3 復習：データ整理	
7	富士原 光洋	【第7回】 予習：発表資料の作成 授業：実験結果の発表資料作成 復習：発表資料の提出	
8	富士原 光洋	【第8回】 ◎第8回から第13回は実験結果の発表・討論と並行して以下の作業（報告書作成）を進める 予習：発表準備 授業：実験結果の発表 復習：発表の整理	
9	富士原 光洋	【第9回】 予習：実験計画表をパワーポイントでまとめる 授業：実験環境のチェック 復習：実験の試行（データを増やす。実験の実施・データ収集を行う）	

10	富士原 光洋	【第 10 回】 予習：結果の整理 データ入力 を確認する 授業：結果の整理のチェック 復習：実験データの入力						
11	富士原 光洋	【第 11 回】 予習：結果の整理 集計作業 を確認する 授業：結果の整理のチェック 集計作業 について 復習：実験データの入力・分析						
12	富士原 光洋	【第 12 回】 予習：結果の整理 データ分析と仮説の検討 を確認する 授業：結果の整理 データ分析と仮説の検討 のチェック 復習：実験データの分析を確認する						
13	富士原 光洋	【第 13 回】 予習：結果の整理 図表の作成 を確認する 授業：結果の整理 図表の作成 のチェック 復習：実験データの分析・図表作成を確認する						
14	富士原 光洋	【第 14 回】 予習：考察 既存研究結果との比較検討 確認する 授業：考察 既存研究結果との比較検討 について 復習：主要な結果について、結果と考察を作成し、図表をつける。						
15	富士原 光洋	【第 15 回】 予習：実験報告の準備（主要な結果のみ） 授業：実験の報告会（プレゼンテーション、ディスカッション） 復習：実験の反省点をまとめる						
授業開始前学習		認知心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくことと授業が理解しやすい。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 3 回目提出する追実験計画については、翌週に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。						
参考書		中島・子安等（編）、1999、『心理学辞典』（有斐閣）						
評価の基準と方法		発表内容（2 回）と学期末のレポート（1 回）により評価を行う。 （全体を 100 点としたとき）配点は、発表内容評価 50 点と学期末レポート評価 50 点とする。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	「知覚・認知心理学」を履修しておくことと内容が良くなる。							
その他	認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常生活している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、課題発表（2 回）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	130-310-24	授業コード	FF1148
科目名称	心理学ゼミⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology Seminar IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	丸山 慎	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	丸山 慎	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-718
授業概要	「心理学ゼミⅣ-h」では、「心理学ゼミⅢ-h」に引き続き、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆にかかる具体的な作業を進め、論文の完成を目指す。各自で発達心理学、認知心理学などの領域に関するテーマを選択し、その内容に沿った調査を実施し、その結果をまとめるための総合的なスキルを身につけることを目的とする。		
到達目標	「心理学ゼミⅢ-h」に引き続き、卒業論文・ゼミ論文の作成に必要な調査や実験を実施すること。取得データを分析し、論文を完成させること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	丸山 慎	【第 1 回】 予習 : 授業スケジュールを確認しておく 授業 : 「心理学ゼミⅢ-h」での進捗を整理し、卒業論文・ゼミ論文にかかる作業を確認する 復習 : 授業の振り返り	
2	丸山 慎	【第 2 回】 予習 : 研究内容を論文としてまとめる方法を調べておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業① (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
3	丸山 慎	【第 3 回】 予習 : 研究内容を論文としてまとめる方法を調べておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業② (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
4	丸山 慎	【第 4 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業③ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
5	丸山 慎	【第 5 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業④ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
6	丸山 慎	【第 6 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑤ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
7	丸山 慎	【第 7 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑥ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
8	丸山 慎	【第 8 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑦ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
9	丸山 慎	【第 9 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑧ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
10	丸山 慎	【第 10 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑨ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	
11	丸山 慎	【第 11 回】 予習 : 研究内容と進捗を整理しておく 授業 : 研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑩ (課題解決型学習) (発表) 復習 : 教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する	

12	丸山 慎	【第 12 回】 予習：研究内容と進捗を整理しておく 授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑪（課題解決型学習）（発表） 復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する							
13	丸山 慎	【第 13 回】 予習：研究内容と進捗を整理しておく 授業：研究実施、文献資料の検索、原稿執筆にかかる作業⑫（課題解決型学習）（発表） 復習：教員から指摘されたポイントおよび各自で進捗状況について整理する							
14	丸山 慎	【第 14 回】 予習：最終報告会の準備を完了させる 授業：最終報告会①（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：最終報告会の内容とコメントを振り返り							
15	丸山 慎	【第 15 回】 予習：最終報告会の準備を完了させる 授業：最終報告会②（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：最終報告会の内容とコメントの振り返り							
授業開始前学習		認知心理学・発達心理学の入門書を読み、認知心理学の概要を理解しておくと授業が理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		作成した資料・原稿およびプレゼンテーション資料等は適宜添削を行う。授業内でもフィードバックの機会を設ける。							
テキスト・教材		授業時に適宜指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		論文の完成（70％）、論文への取り組み姿勢（30％）をもとに総合的に評価を決定する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し、社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		「発達心理学」を履修しておくとお内容が良くなる。							
その他		認知心理学の視点から、「環境」や「言語」の問題をながめ、人が生活している環境とそこでの行動について、または、人が日常生活している言葉（言語使用）について、科学的理解を深める。 資料等を保管するファイル・クリアブックとコンピュータファイル保管用の USB メモリを用意すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		130-331-24			授業コード		FF9901											
科目名称		卒業論文			単位数		4.0 単位											
英文名称		Graduation Thesis			授業区分													
科目責任者		綾城 初穂			必修・選択		履修ガイド参照											
担当教員		綾城 初穂			開講時期		4 年											
オフィスアワー		前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40			研究室		10-714											
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。																
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること																
アクティブ・ラーニング型授業		有		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態										
授業回数	担当者		授業の内容															
1	綾城 初穂		卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること															
授業開始前学習			担当教員と相談すること。															
授業内課題のフィードバックの方法			卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。															
テキスト・教材			担当教員と相談すること。															
参考書			担当教員と相談すること。															
評価の基準と方法			主査（担当教員）と副査が評価し採点する。															
ディプロマポリシー			人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成									
学修指針			教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当											◎		○		○		△	
関連科目			各専門教育科目など															
その他			履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。															
予習・復習の所要時間																		
実務経験を活かした教育内容																		

科目分類	130-331-24			授業コード	FF9903				
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位				
英文名称	Graduation Thesis			授業区分					
科目責任者	田中 教仁			必修・選択	履修ガイド参照				
担当教員	田中 教仁			開講時期	4 年				
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 火曜日 14:40～16:40 木曜日 11:00～12:10			研究室	10-719				
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。								
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること								
アクティブ・ラーニング型授業	有		全授業回数	1 回		複数教員の場合の授業形態			
授業回数	担当者		授業の内容						
1	田中 教仁		卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1. 資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2. 研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3. 研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4. 論文全体の構成を常に意識すること 5. なるべくはやい段階で書き始めること 6. 書いた部分は必ず読み直し修正すること 7. 脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること						
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	130-331-24			授業コード	FF9904			
科目名称	卒業論文			単位数	4.0 単位			
英文名称	Graduation Thesis			授業区分				
科目責任者	藤川 麗			必修・選択	履修ガイド参照			
担当教員	藤川 麗			開講時期	4 年			
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00 後期 木曜日 13:00～14:30 金曜日 12:30～14:00			研究室	10-712			
授業概要	大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標	各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること							
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数		1 回	複数教員の場合の 授業形態			
授業 回数	担当者		授業の内容					
1	藤川 麗		卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること					
授業開始前学習	担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材	担当教員と相談すること。							
参考書	担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法	主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	△
関連科目	各専門教育科目など							
その他	履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の 所要時間								
実務経験を活かした 教育内容								

科目分類		130-331-24		授業コード		FF9905			
科目名称		卒業論文		単位数		4.0 単位			
英文名称		Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者		藤城 有美子		必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		藤城 有美子		開講時期		4 年			
オフィスアワー		前期 金曜日 15：00～18：00 後期 金曜日 15：00～18：00		研究室		10-710			
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業		有	全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者		授業の内容						
1	藤城 有美子		卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること						
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		130-331-24		授業コード		FF9906			
科目名称		卒業論文		単位数		4.0 単位			
英文名称		Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者		富士原 光洋		必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		富士原 光洋		開講時期		4 年			
オフィスアワー		前期 水曜日 13:00～16:10 後期 水曜日 13:00～16:10		研究室		10-704			
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業		有	全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者	授業の内容							
1	富士原 光洋	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		130-331-24		授業コード		FF9907			
科目名称		卒業論文		単位数		4.0 単位			
英文名称		Graduation Thesis		授業区分					
科目責任者		依田 尚也		必修・選択		履修ガイド参照			
担当教員		依田 尚也		開講時期		4 年			
オフィスアワー		前期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50 後期 火曜日 14:40～16:10 火曜日 16:20～17:50		研究室		10-715			
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえで、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。							
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること							
アクティブ・ラーニング型授業		有	全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態		
授業回数	担当者	授業の内容							
1	依田 尚也	卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはい段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること							
授業開始前学習		担当教員と相談すること。							
授業内課題のフィードバックの方法		卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。							
テキスト・教材		担当教員と相談すること。							
参考書		担当教員と相談すること。							
評価の基準と方法		主査（担当教員）と副査が評価し採点する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	△
関連科目		各専門教育科目など							
その他		履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容									

科目分類		130-331-24			授業コード		FF9908											
科目名称		卒業論文			単位数		4.0 単位											
英文名称		Graduation Thesis			授業区分													
科目責任者		丸山 慎			必修・選択		履修ガイド参照											
担当教員		丸山 慎			開講時期		4 年											
オフィスアワー		前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10			研究室		10-718											
授業概要		大学で学んだこと、そのなかで特に自分が興味をいだいた事柄を研究対象として選び、深く追求していく。その結果を、体系的、論理的に文章化してまとめたものが卒業論文である。そこでは、専門的な知識の修得をふまえたうえでの、自らの分析の視点と明確な問題意識をもつことが要求される。まさに、大学生活の集大成となりうるものであろう。 具体的な内容に関しては、担当教員と相談のうえ決めること。特に、論文の書き方や論文の構成などは、学問分野によってかなり違いがあるので、十分に留意してほしい。																
到達目標		各専門分野における、体系的・論理的な思考方法を身につける。 各専門分野における、論文の書き方（論文構成など）を正確に身につける。 専門的な知識をまとめ、独創的発想を表現するための文章力を高める。 各専門分野の研究論文として妥当な「卒業論文」を提出できること																
アクティブ・ラーニング型授業		有		全授業回数		1 回		複数教員の場合の授業形態										
授業回数	担当者		授業の内容															
1	丸山 慎		卒業論文は、担当教員が指示する時間帯で随時指導を受ける。 授業の内容 全般にわたる諸注意 1．資料の収集、読解、分析は執筆の第一歩である 2．研究対象の先行研究状況は必ず調べておくこと 3．研究の対象を適切な範囲に絞り込むこと 4．論文全体の構成を常に意識すること 5．なるべくはやい段階で書き始めること 6．書いた部分は必ず読み直し修正すること 7．脚註の付け方などは分野により異なるので注意すること															
授業開始前学習			担当教員と相談すること。															
授業内課題のフィードバックの方法			卒業論文では、履修生は担当教員に進行状況を報告し、その都度必要な指導・フィードバックを受けること。															
テキスト・教材			担当教員と相談すること。															
参考書			担当教員と相談すること。															
評価の基準と方法			主査（担当教員）と副査が評価し採点する。															
ディプロマポリシー			人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成									
学修指針			教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当											◎		○		○		△	
関連科目			各専門教育科目など															
その他			履修ガイドに記載された「卒業論文の履修について」を参照し、手続きを遵守すること。 卒業論文は、年間を通した地道な研究作業の積み重ねが大切なので、担当教員と相談のうえ、日時を決めて、随時指導を受ける必要がある。 担当教員のなかには、卒業論文執筆者を集めて途中経過報告をさせたり、最後に発表会を行なう場合もある。															
予習・復習の所要時間																		
実務経験を活かした教育内容																		

科目分類	130-331-13（J）			授業コード	FF1310
科目名称	公認心理師の職責			単位数	2.0 単位
英文名称	Professionalism of Licensed Psychologists			授業区分	講義
科目責任者	綾城 初穂			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師について、その基本的態度を身につけられるよう、役割、意義、倫理、法的義務及び主要領域の業務について学ぶ。講義はすべて公認心理師資格を持つ教員によって行われる。公認心理師試験（国試）の受験資格取得を検討している学生は必ず履修すること。公認心理師の職務と責任（職責）で求められる連携・協働の姿勢を身につけるために、アクティブラーニングによって学びを深められるよう、グループ・ディスカッションを積極的に活用する。主体的な参加と協働的な取り組みが必須となる授業である点には十分に留意すること。				
到達目標	国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とする公認心理師の職責について学び、その基本的知識と態度を身につける。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	オムニバス
授業回数	担当者	授業の内容			
1	綾城 初穂	【第 1 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の役割（教科書 2-25 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
2	藤城 有美子	【第 2 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の法的義務及び倫理（教科書 58-69 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
3	綾城 初穂	【第 3 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師のトレーニングの実際（教科書 40-57 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
4	飯田 敏晴	【第 4 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の業務①：保健医療 a（教科書 108-119 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
5	藤城 有美子	【第 5 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の業務②：保健医療 b（教科書 108-119 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の業務③：教育（教科書 136-147 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
7	田中 教仁	【第 7 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の業務④：司法・犯罪 a（教科書 148-159 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
8	田中 教仁	【第 8 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の業務⑤：司法・犯罪 b（教科書 148-159 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師の業務⑥：福祉（教科書 120-135 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			
10	依田 尚也	【第 10 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師とスーパービジョン（教科書 40-57 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る			

11	藤川 麗	【第 11 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師と多職種連携（教科書 90-107 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る						
12	飯田 敏晴	【第 12 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師とコンサルテーション（教科書 90-107 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る						
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：情報の取り扱いおよびクライアントの安全の確保（教科書 70-89 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る						
14	藤川 麗	【第 14 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師とアウトリーチ・地域連携（教科書 90-107 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る						
15	依田 尚也	【第 15 回】 予習：教科書の授業該当頁を読む 授業：公認心理師における支援者の在り方（教科書 26-39 頁）の講義及びグループディスカッション 復習：配布プリントを読み、講義内容について振り返る						
授業開始前学習		テキストに目を通しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表・レポートや課題に対して、受講者同士によるディスカッションと教員によるコメントによってフィードバックを行う。						
テキスト・教材		下山晴彦（監修・編著） 佐藤隆夫・本郷一夫（監修） 慶野遥香（編著）（2020）公認心理師スタンダードテキストシリーズ『公認心理師の職責』ミネルヴァ書房。						
参考書		授業内で別途指示するが、授業内で疑問などが生じた場合は参考図書として以下のテキストも有用である。 野島一彦（編）（2018）『公認心理師の職責』野島一彦・繁樹算男監修「公認心師の基礎と実践」シリーズ 遠見書房。						
評価の基準と方法		少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点（5 点×15 回）とグループ・ディスカッションを含む授業参加態度 25 点。ミニレポートや小テストを提出しない場合、また、グループ・ディスカッションに参加しない場合は出席とはみなされない。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人が織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目	公認心理師試験（国試）の受験資格取得のためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員全員が資格を持ち、かつ心理臨床の実務経験を有している。各回ではそれぞれの経験を活かして公認心理師に求められる在り方について講義・演習を行う。							

科目分類	130-331-13 （J）			授業コード	FF1320	
科目名称	関係行政論			単位数	2.0 単位	
英文名称	Legal and Administrative Systems			授業区分	講義	
科目責任者	依田 尚也			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	綾城・飯田・齊藤・田中・藤川・藤城・依田			開講時期	3 年	
オフィスアワー	－			研究室	－	
授業概要	心理援助を行う際には、関連する「法」や「制度」があることを理解し、その枠組みの中で適切に行う必要がある。この授業では、心理援助に関連する様々な法や制度についての知識や理念を学修する。さらに、心理援助の各領域（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業）ごとに、具体的な事例をもちいて少人数のグループ・ディスカッションを行い、実際のケースや対応についての理解を深める。講義はすべて公認心理師資格を持つ教員によって行われる。公認心理師試験（国試）の受験資格取得を検討している学生は必ず履修すること。					
到達目標	心理援助には、多くの関連する法や条例、制度があることを理解し、法律や制度に照らして適切な心理援助のあり方を検討できるようになることを目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	依田 尚也		【第 1 回】 予習：教科書第 1 章講読 授業：法・制度の基本と公認心理師（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 1 章の学習チェック			
2	藤川 麗		【第 2 回】 予習：教科書第 2 章講読 授業：公認心理師の法的立場と多職種連携（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 2 章の学習チェック			
3	藤川 麗		【第 3 回】 予習：教科書第 3 章講読 授業：公認心理師の各分野への展開（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 3 章の学習チェック			
4	依田 尚也		【第 4 回】 予習：教科書第 4 章講読 授業：保健医療分野に関係する法律・制度(1) 医療全般（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 4 章の学習チェック			
5	飯田 敏晴		【第 5 回】 予習：教科書第 5 章講読 授業：保健医療分野に関係する法律・制度(2) 精神科医療（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 5 章の学習チェック			
6	飯田 敏晴		【第 6 回】 予習：教科書第 6 章講読 授業：保健医療分野に関係する法律・制度(3) 地域保健・医療（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 6 章の学習チェック			
7	綾城 初穂		【第 7 回】 予習：教科書第 10 章講読 授業：教育分野に関係する法律・制度（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 10 章の学習チェック			
8	依田 尚也		【第 8 回】 予習：教科書第 7 章講読 授業：福祉分野に関係する法律・制度(1) 児童福祉（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 7 章の学習チェック			
9	藤城 有美子		【第 9 回】 予習：教科書第 8 章講読 授業：福祉分野に関係する法律・制度(2) 障害者・障害児福祉（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 8 章の学習チェック			

10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習：教科書第 9 章講読 授業：福祉分野に係る法律・制度(3) 高齢者福祉（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 9 章の学習チェック						
11	田中 教仁	【第 11 回】 予習：教科書第 11 章講読 授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(1) 刑事（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 11 章の学習チェック						
12	田中 教仁	【第 12 回】 予習：教科書第 13 章講読 授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(3) 少年（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 13 章の学習チェック						
13	田中 教仁	【第 13 回】 予習：教科書第 12 章講読 授業：司法・犯罪分野に係る法律・制度(2) 家事（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 12 章の学習チェック						
14	飯田 敏晴	【第 14 回】 予習：教科書第 14 章講読 授業：産業・労働分野に係る法律・制度（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 14 章の学習チェック						
15	綾城 初穂	【第 15 回】 予習：教科書第 15 章講読 授業：いのちを守る法律——生殖医療・自殺・貧困・事故・災害（グループ・ディスカッション） 復習：教科書第 15 章の学習チェック						
授業開始前学習		テキストに目を通しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		発表・レポートや課題に対して、受講者同士によるディスカッションと教員によるコメントによってフィードバックを行う。						
テキスト・教材		『公認心理師の基礎と実践 第 23 巻 関係行政論（第 2 版）』（遠見書房）						
参考書		『現任者講習会テキスト改訂版』（金剛出版） その他、授業を通じて適宜紹介する。						
評価の基準と方法		少なくとも 3 分の 2 以上の出席を前提に、各回ミニレポートあるいは小テスト 75 点（5 点×15 回）とグループ・ディスカッションを含む授業参加態度 25 点。ミニレポートや小テストを提出しない場合、また、グループ・ディスカッションに参加しない場合は出席とはみなされない。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目	公認心理師試験の受験資格を得るためには 4 年生で「心理演習」と「心理実習」を履修する必要がある。							
その他	講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が指導する科目であり、担当教員全員が心理臨床の実務経験を有している。各回では、それぞれの経験を活かして、公認心理師に求められる法的な知識や関係機関について講義・演習を行う。							

科目分類	130-331-24 (J)			授業コード	FF1330
科目名称	心理演習			単位数	2.0 単位
英文名称	Seminar on Psychology			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	齊藤 和貴			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田			開講時期	4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	公認心理師として支援に携わる際に、支援についての知識に加えて、ニーズに応じた様々な技能や現場で求められる態度を身につけなければならない。 そして、こうした知識、技能、態度を習熟させるためには実践が不可欠である。 そのため、本授業では以下の事項について役割演技（ロールプレイング）や事例検討、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて、基本的な水準の知識及び技能を習得する。 （ア）心理に関する支援を必要とする者等に関する知識及び技能の習得（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援 等） （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 （ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ （エ）多職種連携及び地域連携 （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解				
到達目標	①心理的支援の 4 業務について、説明できるようになる。 ②援助の基礎となる基本的なコミュニケーションの技術を身につけ、場に応じた社会性のある態度で人と関われるようになる。 ③クライアントのニーズを心理・社会・生物学的な多様な視点からとらえ、複数の支援計画を検討できるようになる。 ④事例に即して、チームアプローチや多職種連携及び地域連携の必要性について、説明できるようになる。 ⑤事例に即して、公認心理師としての職業倫理や法的義務を説明できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	依田 尚也・齊藤 和貴	【第 1 回】 予習： あらかじめ授業のシラバスを読んでおくこと 授業： ガイダンス、自己紹介（インタビューによる他己紹介） 復習： 授業ノートの整理			
2	依田 尚也	【第 2 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 基本的なコミュニケーション技法（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
3	齊藤 和貴	【第 3 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 心理面接：傾聴の基本姿勢（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理、録音データの文字おこし			
4	依田 尚也	【第 4 回】 予習： 前回の授業の録音データの文字おこし 授業： 共感的傾聴の振り返り（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理、レポート課題①の作成			
5	綾城 初穂	【第 5 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習①：教育場面におけるクライアントの理解とニーズの把握（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
6	綾城 初穂	【第 6 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習②：教育/福祉場面における心理査定（WISC を中心に・グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
7	綾城 初穂	【第 7 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習③：教育/福祉場面における支援計画（WISC を中心に・グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
8	綾城 初穂	【第 8 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 職業倫理・法的義務①：教育場面における秘密保持義務とその例外状況（いじめなど・グループワーク） 復習： 授業ノートの整理、レポート課題②の作成			
9	藤城 有美子	【第 9 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習④：医療場面におけるクライアントの理解とニーズの把握（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
10	藤城 有美子	【第 10 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習⑤：医療場面における心理査定（テスト・バッテリーについて）と支援計画（グループワー			

		ク) 復習： 授業ノートの整理						
11	藤川 麗	【第 11 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習⑥：医療/産業・労働場面におけるチームアプローチ、多職種連携（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理						
12	飯田 敏晴	【第 12 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 職業倫理・法的義務②：医療/司法・犯罪場面における秘密保持義務とその例外状況（自傷他害など・グループワーク） 復習： 授業ノートの整理、レポート課題③の作成						
13	藤川 麗	【第 13 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習⑦：さまざまな場面でのチームアプローチ、多職種連携（レクチャー） 復習： 授業ノートの整理						
14	飯田 敏晴	【第 14 回】 予習： 配布資料を読んでおくこと 授業： 実践的演習⑨：こんなときどうする？?困難事例への対応（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理、レポート課題④の作成						
15	依田 尚也・齊藤和貴	【第 15 回】 予習： 授業ノートの整理 授業： まとめ、心理実習にむけて 復習： 授業ノートを用いて、授業で学んだことを振り返っておくこと						
授業開始前学習		「心理的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」など、これまで履修してきた関連の公認心理師科目の内容を復習しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施するロールプレイや事例検討、グループワークなどにおいて、随時フィードバックをおこなう。						
テキスト・教材		授業内で資料を配布する。						
参考書		授業内で紹介する。						
評価の基準と方法		・5 分の 4 以上の出席を満たしていることが、成績評価の前提受験である（遅刻早退 3 回で欠席 1 回分とカウント、30 分以上の遅刻早退・離席は欠席扱いとする）。 ・ただし、授業内で実施されるグループワークなどのアクティブラーニングに適切に参加できていない場合は、出席（授業に参加している）とみなされない。 ・出席条件を満たしたものについて、4 回のレポート課題（各 20 点×4 回、計 80 点）、授業ノート 2 0 点、合計 100 点満点で評価する。						
ディプロマポリシー	人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成	人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成	人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成	心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○	◎	○
関連科目	・本科目の履修には、定められた 29 科目（公認心理師の職責、心理学概論など）を含めた 93 単位を履修済みであり、卒業論文を履修していることが求められる。 ・「心理実習」を履修するためには、本科目の単位取得（見込み）が求められる。 ・本科目の単位を取得できなかった場合、次年度等に再履修することはできない。							
その他	・3 月末に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること。 ・第 1 回授業で行われるガイダンスに公欠以外の理由で欠席した場合は、単位取得を認められない。なお、2 回目以降も履修登録を変更せず、そのまま「心理演習」を履修することを以て、ガイダンスで説明された内容に同意したとみなされる。 ・遅刻や欠席については、「心理演習」のクラスルームの個別連絡欄から必ず事前に連絡すること。 ・早退や離席についても、教員の許可を得ること。 ・講義順序が一部変更となる可能性がある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある公認心理師の資格を有する教員が担当する。							

科目分類	130-331-24（J）	授業コード	FF1340		
科目名称	心理実習	単位数	2.0 単位		
英文名称	Psychological Practice	授業区分	演習・実習・実技		
科目責任者	齊藤 和貴	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	開講時期	4 年		
オフィスアワー	－	研究室	－		
授業概要	公認心理師が働く臨床現場について理解を深め、これまで学んできた知識や技能、態度などがどのように実践されているかを学ぶ。 そのため、公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解にもとづき、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受けて、以下の（ア）から（ウ）に掲げる事項について修得する。 （ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ （イ） 多職種連携及び地域連携 （ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解 また、学修を深めるために、グループワークなどによる事前学習や実習を通した学びについて事後学習も併せて実施する。				
到達目標	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による臨地実習、および事前事後学修を通じて、以下にあげる項目を目標とする。 ①それぞれの分野に応じて、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの特徴を説明することができるようになる。 ②それぞれの分野に応じて、多職種連携及び地域連携の特徴を説明することができるようになる。 ③それぞれの分野に応じて、公認心理師としての職業倫理及び法的義務について説明することができるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	オムニバス
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	藤城 有美子・齊藤 和貴	【第1回】 予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う 授業： 事前学習：保健医療分野（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
2	藤城 有美子・齊藤 和貴	【第2回】 予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業： 実習：保健医療分野（夏期休暇中に実習予定） 復習： 実習日誌の作成			
3	藤城 有美子・齊藤 和貴	【第3回】 予習： 実習の体験をまとめておくこと 授業： 事後学習：保健医療分野（プレゼンテーション） 復習： 授業ノートの整理			
4	依田 尚也・齊藤 和貴	【第4回】 予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う 授業： 事前学習：福祉分野（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
5	依田 尚也・齊藤 和貴	【第5回】 予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業： 実習：福祉分野（夏期休暇中に実習予定） 復習： 実習日誌の作成			
6	依田 尚也・齊藤 和貴	【第6回】 予習： 実習の体験をまとめておくこと 授業： 事後学習：福祉分野（プレゼンテーション） 復習： 授業ノートの整理			
7	綾城 初穂・齊藤 和貴	【第7回】 予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う 授業： 事前学習：教育分野（グループワーク） 復習： 授業ノートの整理			
8	綾城 初穂・齊藤 和貴	【第8回】 予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業： 実習：教育分野（夏期休暇中に実習予定） 復習： 実習日誌の作成			
9	綾城 初穂・齊藤 和貴	【第9回】 予習： 実習の体験をまとめておくこと 授業： 事後学習：教育分野（プレゼンテーション） 復習： 授業ノートの整理			

10	田中 教仁・齊藤 和貴	【第 10 回】 予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う 授業： 事前学習：司法・犯罪分野 （グループワーク） 復習： 授業ノートの整理							
11	藤城 有美子・田中 教仁	【第 11 回】 予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業： 実習：司法・犯罪分野 （夏期休暇中に実習予定） 復習： 実習日誌の作成							
12	田中 教仁・齊藤 和貴	【第 12 回】 予習： 実習の体験をまとめておくこと 授業： 事後学習：司法・犯罪分野 （プレゼンテーション） 復習： 授業ノートの整理							
13	飯田 敏晴・齊藤 和貴	【第 13 回】 予習： 配布資料に従って事前の下調べを行う 授業： 事前学習：産業・労働分野 （グループワーク） 復習： 授業ノートの整理							
14	飯田 敏晴・齊藤 和貴	【第 14 回】 予習： 実習に関する配布資料を読んでおくこと 授業： 実習：産業・労働分野 （夏期休暇中に実習予定） 復習： 実習日誌の作成							
15	飯田 敏晴・齊藤 和貴	【第 15 回】 予習： 実習の体験をまとめておくこと 授業： 事後学習：産業・労働分野 （プレゼンテーション） 復習： 授業ノートの整理							
授業開始前学習		「心理的アセスメントⅠ・Ⅱ」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」「公認心理師の職責」「関係行政論」「心理演習」など、これまで履修してきた関連の公認心理師科目の内容を復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		事前学習、臨地実習、事後学習のそれぞれにおいて、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		授業内で資料を配布する。							
参考書		授業内で紹介する。							
評価の基準と方法		・原則として、学外施設で実施される実習（正課外活動）を欠席することは認められない。やむを得ない理由で欠席する必要がある場合には、必ず事前に担当教員へ連絡して判断を仰ぐこと。 ・遅刻早退 3 回で欠席 1 回分とカウント、30 分以上の遅刻早退・離席は欠席扱いとする。 ・授業内で実施されるグループワークなどのアクティブラーニングに適切に参加できていない場合は、出席（授業に参加している）とみなされない。 ・事前学習課題（グループワーク）（各分野 5 点 x 5 = 2 5 点）、実習ノート（5ヶ所（福祉は4 日分）；5 点 x 8 = 4 0 点）、事後学習課題（プレゼンテーション）（各分野 5 点 x 5 = 2 5 点）、実習の参加態度（1 0 点）、合計 1 0 0 点満点で評価する。							
ディプロマポリシー		人の心に関する広汎な知識と、人間に対する深い洞察力の養成		人と人とが織り成す社会の中で役立つ日本語運用能力・プレゼンテーション力と、社会の中で自分の果たす役割を真摯に追求する自己実現力の養成		人間の心理に関する専門的な知識と、心理学の知見を活かしつつ自律的に判断を示すことのできる思考力の養成		心理学に関する深い学識を日々の暮らしの中に活用し社会に貢献するための技術力と、実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					△		○	○	◎
関連科目		・本科目の履修には、定められた 29 科目（公認心理師の職責、心理学概論など）を含めた 93 単位を履修済みであり、卒業論文を履修していることが求められる。 ・本科目を履修するためには、「心理演習」の単位取得（見込み）が求められる。							
その他		・3 月末に行われる公認心理師ガイダンスに出席すること。 ・履修に際して、実習に向けた心構えや必要事項について確認する面談が実施される。 ・夏季休暇を中心に正課外活動を行う。実費等、実施については授業内で説明する。 ・実習の際の交通費は、自己負担となる。 ・身なり（服装や髪色など）については、実習に臨むにあたって適切かどうかを事前に確認する。不適切と思われる場合には、変更を求める場合がある。また、その際に必要な費用は自己負担となる。 ・心理実習の継続が適切な状態・状況ではないと、担当教員もしくは実習施設が判断した場合は、実習中止となることがあり得る。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間（2 時間 x 15 週）							
実務経験を活かした教育内容		実務経験のある公認心理師の資格を有する教員が担当する。							

〈住空間デザイン学類 専門教育科目〉

住空間デザインの基礎 I

科目分類	140-310-12	授業コード	FG0011
科目名称	住空間デザインの基礎 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design I	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 利彦	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-509
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をととして、デザインの基礎を实践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 利彦	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 : 事例研究	
2	鈴木 利彦	【第 2 回】 予習 : デザイン構想 授業 : 「イルミネーションポスター」課題説明 復習 : 「イルミネーションポスター」課題作業	
3	鈴木 利彦	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
4	鈴木 利彦	【第 4 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
5	鈴木 利彦	【第 5 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
6	鈴木 利彦	【第 6 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 : 作業継続	
7	鈴木 利彦	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題作業（グループワーク） 復習 : 作業継続	
8	鈴木 利彦	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題グループ発表（グループワーク・発表） 復習 : 事例研究	
9	鈴木 利彦	【第 9 回】 予習 : 展示作品確認 授業 : 「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 : 作業継続	
10	鈴木 利彦	【第 10 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「りんどう祭展示案」作業 復習 : 作業継続	

11	鈴木 利彦	【第 11 回】 予習：「現場見学」事前課題確認 授業：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習：「現場見学」事後課題作成							
12	鈴木 利彦	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続							
13	鈴木 利彦	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続							
14	鈴木 利彦	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習：実施に向けた計画を練る							
15	鈴木 利彦	【第 15 回】 予習：前期課題の見直し 授業：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習：夏期課題作業							
授業開始前学習		住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題							
授業内課題のフィードバックの方法		「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 3-5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回）							
		「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回）							
		「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等暮らしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成							
		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成							
		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成							
		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○	◎	○			
関連科目		住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II							
その他		・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

住空間デザインの基礎 I

科目分類	140-310-12	授業コード	FG0012
科目名称	住空間デザインの基礎 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design I	授業区分	講義
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をととして、デザインの基礎を实践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 : 事例研究	
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 : デザイン構想 授業 : 「イルミネーションポスター」課題説明 復習 : 「イルミネーションポスター」課題作業	
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「現場見学」事前課題作業 (グループワーク) 復習 : 作業継続	
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題作業 (グループワーク) 復習 : 作業継続	
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題グループ発表 (グループワーク・発表) 復習 : 事例研究	
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 : 展示作品確認 授業 : 「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 : 作業継続	
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「りんどう祭展示案」作業 復習 : 作業継続	

11	神村 真由美	【第 11 回】 予習：「現場見学」事前課題確認 授業：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習：「現場見学」事後課題作成						
12	神村 真由美	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続						
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続						
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習：実施に向けた計画を練る						
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習：前期課題の見直し 授業：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習：夏期課題作業						
授業開始前学習		住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題						
授業内課題のフィードバックの方法		「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 3-5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回）						
		「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回）						
		「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II							
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

住空間デザインの基礎 I

科目分類	140-310-12	授業コード	FG0013
科目名称	住空間デザインの基礎 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design I	授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおり、デザインの基礎を实践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 : 事例研究	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : デザイン構想 授業 : 「イルミネーションポスター」課題説明 復習 : 「イルミネーションポスター」課題作業	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「現場見学」事前課題作業 (グループワーク) 復習 : 作業継続	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題作業 (グループワーク) 復習 : 作業継続	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題グループ発表 (グループワーク・発表) 復習 : 事例研究	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 展示作品確認 授業 : 「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 : 作業継続	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「りんどう祭展示案」作業 復習 : 作業継続	

11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習：「現場見学」事前課題確認 授業：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習：「現場見学」事後課題作成						
12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続						
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続						
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習：実施に向けた計画を練る						
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：前期課題の見直し 授業：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習：夏期課題作業						
授業開始前学習		住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題						
授業内課題のフィードバックの方法		「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 3-5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回）						
		「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回）						
		「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II							
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

住空間デザインの基礎 I

科目分類	140-310-12	授業コード	FG0014
科目名称	住空間デザインの基礎 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design I	授業区分	講義
科目責任者	橋田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	地域協力としてのポスターデザインなどデザインの基礎に触れること。 りんどう祭参加など共同作業をとおして、デザインの基礎を实践すること。 デザインの現場見学において、社会の中でのデザインの在り方を知ること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する。		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 またそれらを通じて自己の能力を発見し・高めること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」課題説明 復習 : 事例研究	
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : デザイン構想 授業 : 「イルミネーションポスター」課題説明 復習 : 「イルミネーションポスター」課題作業	
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「イルミネーションポスター」課題作業 復習 : 作業継続	
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「現場見学」事前課題作業 (グループワーク) 復習 : 作業継続	
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題作業 (グループワーク) 復習 : 作業継続	
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「現場見学」事前課題グループ発表 (グループワーク・発表) 復習 : 事例研究	
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 展示作品確認 授業 : 「りんどう祭展示案」課題説明・作業、「イルミネーションポスター」投票 復習 : 作業継続	
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「りんどう祭展示案」作業 復習 : 作業継続	

11	橘田 洋子	【第 11 回】 予習：「現場見学」事前課題確認 授業：「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習：「現場見学」事後課題作成							
12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続							
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「りんどう祭展示案」作業（グループワーク） 復習：作業継続							
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：「りんどう祭展示案」講評会（グループワーク・発表） 復習：実施に向けた計画を練る							
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：前期課題の見直し 授業：「イルミネーションポスター」課題講評会・前期のまとめ・夏期課題説明 復習：夏期課題作業							
授業開始前学習		住空間デザイン入門 II で設定された春休みの宿題							
授業内課題のフィードバックの方法		「イルミネーションポスター」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 3-5 回） 学生による評価をもとに、主催者による審査結果を知らせる。（第 9 回）							
		「現場見学」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 6,7 回） グループ内発表について質疑や講評を行う。（第 8 回）							
		「りんどう祭展示案」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスを行う。（第 12,13 回） 学生による評価によって代表案を選定し、作品の選定理由や意見などをフィードバックする。（第 14 回）							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成							
		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成							
		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成							
		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成							
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○	◎	○			
関連科目		住空間デザイン入門 II、住空間デザインの基礎 II							
その他		・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

住空間デザインの基礎Ⅱ

科目分類	140-310-12	授業コード	FG0021
科目名称	住空間デザインの基礎Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 利彦	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-509
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示空間企画・実施において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 利彦	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 前期課題の計画案を修正、課題作業継続	
2	鈴木 利彦	【第 2 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 作業継続	
3	鈴木 利彦	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続	
4	鈴木 利彦	【第 4 回】 予習 : りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 : りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 : 展示撤去	
5	鈴木 利彦	【第 5 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「インテリアパースの作成」課題説明 復習 : 「インテリアパースの作成」課題作業	
6	鈴木 利彦	【第 6 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続	
7	鈴木 利彦	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続	
8	鈴木 利彦	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続	
9	鈴木 利彦	【第 9 回】 予習 : 「現場見学」事前課題確認 授業 : 「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 : 「現場見学」事後課題作成	
10	鈴木 利彦	【第 10 回】 予習 : 過去の課題を整理して持参準備 授業 : 「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 : 「作品ポートフォリオ」作業	

11	鈴木 利彦	【第 11 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
12	鈴木 利彦	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
13	鈴木 利彦	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
14	鈴木 利彦	【第 14 回】 予習：便覧の所定箇所を読んでおく 授業：次年度コースおよびゼミ説明 復習：コース選択調査票記入						
15	鈴木 利彦	【第 15 回】 予習：後期課題の見直し 授業：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習：春期課題作業						
授業開始前学習 住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題								
授業内課題のフィードバックの方法 「りんどう祭 学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスをを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスをを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回）								
テキスト・教材 資料・プリント等を適宜配布する。								
参考書								
評価の基準と方法 平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ							
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

住空間デザインの基礎Ⅱ

科目分類	140-310-12			授業コード	FG0022
科目名称	住空間デザインの基礎Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示空間企画・実施において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 前期課題の計画案を修正、課題作業継続			
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 作業継続			
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続			
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 : りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 : りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 : 展示撤去			
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「インテリアパースの作成」課題説明 復習 : 「インテリアパースの作成」課題作業			
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続			
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続			
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続			
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 : 「現場見学」事前課題確認 授業 : 「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 : 「現場見学」事後課題作成			
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 : 過去の課題を整理して持参準備 授業 : 「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 : 「作品ポートフォリオ」作業			

11	神村 真由美	【第 11 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
12	神村 真由美	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習：便覧の所定箇所を読んでおく 授業：次年度コースおよびゼミ説明 復習：コース選択調査票記入						
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習：後期課題の見直し 授業：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習：春期課題作業						
授業開始前学習		住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題						
授業内課題のフィードバックの方法		「りんどう祭 学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスをを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスをを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回）						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ							
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

住空間デザインの基礎Ⅱ

科目分類	140-310-12			授業コード	FG0023
科目名称	住空間デザインの基礎Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅱ			授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示空間企画・実施において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する				
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 前期課題の計画案を修正、課題作業継続			
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 作業継続			
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続			
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 : りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 : 展示撤去			
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「インテリアパースの作成」課題説明 復習 : 「インテリアパースの作成」課題作業			
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続			
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続			
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続			
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 「現場見学」事前課題確認 授業 : 「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 : 「現場見学」事後課題作成			
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 過去の課題を整理して持参準備 授業 : 「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 : 「作品ポートフォリオ」作業			

11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：便覧の所定箇所を読んでおく 授業：次年度コースおよびゼミ説明 復習：コース選択調査票記入						
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：後期課題の見直し 授業：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習：春期課題作業						
授業開始前学習		住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題						
授業内課題のフィードバックの方法		「りんどう祭 学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスをを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスをを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回）						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ							
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

住空間デザインの基礎Ⅱ

科目分類	140-310-12	授業コード	FG0024
科目名称	住空間デザインの基礎Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Living Space Design Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	橋田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	デザインの現場見学について、事前の調査と情報の共有を行うことで、より深い理解を得ること。 りんどう祭の展示空間企画・実施において、共同作業の中で個人の役割を見いだし実践すること。 ポートフォリオ制作などさまざまなデザインのツールやアウトプットを実践すること。 この授業では、「大学と地域に関わり、大学生活をより豊かに」をテーマに、課題演習、フィールドワーク、グループワーク、課題プレゼンテーションを行い、主体的に学ぶ方法を体得する		
到達目標	デザインを題材に、自分の考えを表現すること、伝達すること、批評することなどができるようになること。 共同作業を潤滑に行えること。 パワーポイント、WEB、紙媒体などのプレゼンテーションにおける基礎的な技術を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : シラバスを確認しておく 授業 : ガイダンス、「現場見学」事前課題、りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 前期課題の計画案を修正、課題作業継続	
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : 作業継続	
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 作業継続 授業 : りんどう祭 学類作品展示準備 復習 : りんどう祭 学類作品展示作業、課題作業継続	
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : りんどう祭 学類作品展示材料準備 授業 : りんどう祭 学類作品展示（グループワーク） 復習 : 展示撤去	
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 事例研究 授業 : 「インテリアパースの作成」課題説明 復習 : 「インテリアパースの作成」課題作業	
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続	
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続	
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 作業継続 授業 : 「インテリアパースの作成」課題作業 復習 : 作業継続	
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 「現場見学」事前課題確認 授業 : 「現場見学」実施（フィールドワーク） 復習 : 「現場見学」事後課題作成	
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 過去の課題を整理して持参準備 授業 : 「作品ポートフォリオ」課題説明・作業 復習 : 「作品ポートフォリオ」作業	

11	橘田 洋子	【第 11 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：作業継続 授業：「作品ポートフォリオ」作業 復習：作業継続						
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：便覧の所定箇所を読んでおく 授業：次年度コースおよびゼミ説明 復習：コース選択調査票記入						
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：後期課題の見直し 授業：「作品ポートフォリオ」「インテリアパースの作成」課題講評会・後期のまとめ・春期課題説明 復習：春期課題作業						
授業開始前学習 住空間デザインの基礎Ⅰで設定した夏期課題								
授業内課題のフィードバックの方法 「りんどう祭 学類作品展示準備」： 進捗状況を提出し、分担したデザイン制作内容についてアドバイスをを行う。（第 2,3 回） 展示空間企画・実施において、共同作業の中で主体的に行動する際の適宜アドバイスをを行う（第 4 回） 「インテリアパースの作成」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 6-8 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回） 「作品ポートフォリオ」： 進捗状況を提出し、内容についてアドバイスをを行う。（第 11-13 回） 優秀作品の紹介と選定理由など講評をフィードバックする。（第 15 回）								
テキスト・教材 資料・プリント等を適宜配布する。								
参考書								
評価の基準と方法 平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価する。 平常点 30 点、課題内容 70 点とする。								
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○			
関連科目	住空間デザインの基礎Ⅰ							
その他	・現場見学の予定により、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・正課学外授業にてショールーム、展示空間などの現場見学を授業日以外（土曜日など）に予定しているが、実施できない場合もある。実施する際は、現地までの交通費等がかかる場合がある。 ・道具（色鉛筆、ペン、糊、はさみ、カッター、定規）、データ保存用 USB 等は各自で準備すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

平面と立体表現の基礎

科目分類	140-311-11			授業コード	FG0031	
科目名称	平面と立体表現の基礎			単位数	2.0 単位	
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics			授業区分	講義	
科目責任者	鈴木 利彦			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	鈴木(利)・高橋(怜)			開講時期	1 年	
オフィスアワー	－			研究室	－	
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。					
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同	
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習 : 道具の使い方練習				
2	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 2 回】 予習 : 立方体の作成 授業 : スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習 : 提出課題の自習				
3	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 3 回】 予習 : 事例検索 授業 : 課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成 復習 : 提出課題の自習				
4	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 4 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅰ エスキース 復習 : 提出課題の自習				
5	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 5 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅰ エスキース 復習 : 提出課題の自習				
6	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 6 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題Ⅰ 講評及び課題Ⅱ 説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション） 復習 : 課題内容の確認				
7	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 7 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅱ エスキース 復習 : 提出課題の自習				
8	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 8 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅱ エスキース 復習 : 提出課題の自習				
9	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 9 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅱ エスキース 復習 : 提出課題の自習				
10	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 10 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題Ⅱ 講評及び課題Ⅲ 説明（上記 2 課題の平面表現）（プレゼンテーション） 復習 : 課題内容の確認				
11	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 11 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲ エスキース 復習 : 提出課題の自習				

12	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 12 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習							
13	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 13 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習							
14	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 14 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習							
15	鈴木 利彦 高橋 怜奈	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習：授業プロセスの振り返り							
授業開始前学習		出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。							
テキスト・教材		特になし							
参考書		適宜紹介する							
評価の基準と方法		課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100 点満点に於ける）は、課題評価 40 点・エスキース 20 点・授業に対する取り組み 40 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎		△	
関連科目		建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門							
その他		模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

平面と立体表現の基礎

科目分類	140-311-11			授業コード	FG0032
科目名称	平面と立体表現の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Plane and 3-Dimensional Expression Basics			授業区分	講義
科目責任者	堀邊 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	手塚・堀邊			開講時期	1 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	基本的な立体の構成を通して三次元としての建築空間の基礎を学び、同時にそれを二次元に表現する技法を学ぶ。課題を通じて空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を養う。				
到達目標	三次元としての建築空間の基礎を理解し、同時にそれを二次元に表現する技法を習得する。 空間構成や三次元的空間認識力を高め三次元的思考を身につける。 材料や道具の基本的な使用方法を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス及びカッターその他道具の使い方の説明 復習 : 道具の使い方練習			
2	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 2 回】 予習 : 立方体の作成 授業 : スチレンボードによる立方体の製作の指導 復習 : 提出課題の自習			
3	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 3 回】 予習 : 事例検索 授業 : 課題Ⅰ（大小複数の立方体による連続する建築空間の構成 復習 : 提出課題の自習			
4	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 4 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅰ エスキース 復習 : 提出課題の自習			
5	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 5 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅰ エスキース 復習 : 提出課題の自習			
6	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 6 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題Ⅰ 講評及び課題Ⅱ 説明(基本ユニットによる三次元構造体の作成)（プレゼンテーション） 復習 : 課題内容の確認			
7	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 7 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅱ エスキース 復習 : 提出課題の自習			
8	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 8 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅱ エスキース 復習 : 提出課題の自習			
9	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 9 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅱ エスキース 復習 : 提出課題の自習			
10	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 10 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題Ⅱ 講評及び課題Ⅲ 説明（上記 2 課題の平面表現）（プレゼンテーション） 復習 : 課題内容の確認			
11	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 11 回】 予習 : 提出課題の自習 授業 : 課題Ⅲ エスキース 復習 : 提出課題の自習			

12	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 12 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習							
13	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 13 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習							
14	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 14 回】 予習：提出課題の自習 授業：課題Ⅲエスキース 復習：提出課題の自習							
15	堀邊 阿伊子 手塚 貴史	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：講評会及びまとめ（プレゼンテーション） 復習：授業プロセスの振り返り							
授業開始前学習		出来るだけ多くの建築雑誌、展覧会、建築等を見る事							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題終了時に講評会を行い、個別の質問に対応する。							
テキスト・教材		特になし							
参考書		適宜紹介する							
評価の基準と方法		課題、授業に対する取り組み（エスキース）等を総合して評価する。配点（100 点満点に於ける）は、課題評価 40 点・エスキース 20 点・授業に対する取り組み 40 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎		△	
関連科目		建築・インテリアデザイン入門、プロダクトデザイン入門							
その他		模型材料費若干必要な場合もある（費用は個人の材料選択による）							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

製図の基礎

科目分類	140-311-11	授業コード	FG0041
科目名称	製図の基礎	単位数	2.0 単位
英文名称	Drafting Basics	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元・山崎	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	図面による建築空間の理解と図面表現の基礎的技術を学ぶ。企画・計画・設計・施工の一連の設計活動において、図面は最も重要な表現手段の1つであり、伝達手段である。建築図面の読み方を学び、図面から空間を正確に把握できるようにする。また、建築図面のトレース作業を通して、正確な図面表現技術の基礎を習得する。また、授業では個人演習やディスカッションを通して学びを深める。		
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる図面表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間を正しく理解し、また図面の種類に応じて空間を正確に図面化する手法を身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 1 回】 予習 : テキスト p.04-05、p.15 の精読 授業 : ガイダンス 復習 : 製図の基本、製図用具の基本の復習	
2	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 2 回】 予習 : テキスト p.06-13 の精読 授業 : 製図の用具、線の練習 p.06-13 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 製図の用具、線の練習の復習	
3	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 3 回】 予習 : テキスト p.18-23 の精読 授業 : 木造 平面図 通り芯・柱 p.18-23 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 平面図 通り芯・柱 までの製図仕上	
4	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 4 回】 予習 : テキスト p.18-23 の精読 授業 : 木造 平面図 柱・壁 p.18-23 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 平面図 柱・壁までの製図仕上	
5	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 5 回】 予習 : テキスト p.18-23 の精読 授業 : 木造 平面図 建具・家具 p.18-23 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 平面図 建具・家具までの製図仕上	
6	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 6 回】 予習 : テキスト p.18-23 の精読 授業 : 木造 平面図 家具・設備機器 p.18-23 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 平面図 家具・設備機器までの製図仕上	
7	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 7 回】 予習 : テキスト p.18-23 の精読 授業 : 木造 平面図 寸法・仕上げ p.18-23 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 平面図 寸法・仕上げまでの製図仕上	
8	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 8 回】 予習 : テキスト p.24-27 の精読 授業 : 木造 断面図 p.24-27 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 断面図の仕上げ	
9	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 9 回】 予習 : テキスト p.24-27 の精読 授業 : 木造 断面図 p.24-27 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 断面図の完成	
10	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 10 回】 予習 : テキスト p.28-31 の精読 授業 : 木造 立面図 p.28-31 (個人演習・ディスカッション) 復習 : 木造 立面図の完成	
11	山崎 陽菜 松元 良枝	【第 11 回】 予習 : テキスト p.68-73 の精読 授業 : RC 造 平面図 p.68-73 (個人演習・ディスカッション)	

		復習：RC造 平面図							
12	山崎 陽菜 松元 良枝	【第12回】 予習：テキスト p.68-73 の精読 授業：RC造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習：RC造 平面図							
13	山崎 陽菜 松元 良枝	【第13回】 予習：テキスト p.68-73 の精読 授業：RC造 平面図 p.68-73（個人演習・ディスカッション） 復習：RC造 平面図の完成							
14	山崎 陽菜 松元 良枝	【第14回】 予習：テキスト p.74-77 の精読 授業：RC造 断面図 p.74-77（個人演習・ディスカッション） 復習：RC造 断面図の完成							
15	山崎 陽菜 松元 良枝	【第15回】 予習：テキスト p.74-77 の精読 授業：RC造 立面図 p.74-77（個人演習・ディスカッション） 復習：RC造 立面図の完成							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別エスキスを実施する。							
テキスト・教材		「新しい建築の製図」 学芸出版社							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度と課題の総合点で評価する。 授業態度 20% 課題合計点 80%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎		△	
関連科目									
その他		シャープペンシル・定規等の製図用具一式を毎回持参すること。 原則、製図用紙は課題ごとに配布する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	140-311-11 (J)			授業コード	FG0051
科目名称	図学と透視画の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics			授業区分	講義
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・小鹿			開講時期	1 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。				
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	李 志炯 小鹿 智代	【第 1 回】 予習 : 「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業 : ガイダンス p002-009 復習 : 必要製図用具を確認し、用意する			
2	李 志炯 小鹿 智代	【第 2 回】 予習 : 製図用具の確認と持参 授業 : 基礎平面図形(1) (演習課題) 復習 : 3 次元を表す 2 次元図面名を覚える			
3	李 志炯 小鹿 智代	【第 3 回】 予習 : 先回に書いた図面を確認、持参 授業 : 基礎平面図形(2) (演習課題) 復習 : 基礎平面図形配布資料と作成した図を確認			
4	李 志炯 小鹿 智代	【第 4 回】 予習 : 正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業 : 正投影図(1) (演習課題) p024-025, p052-053 復習 : 正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認			
5	李 志炯 小鹿 智代	【第 5 回】 予習 : 正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業 : 正投影図(2) (演習課題) p024-025, p052-053 復習 : 正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認			
6	李 志炯 小鹿 智代	【第 6 回】 予習 : 内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業 : 内観パース(1) 住宅 (グリッド法 a) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(1)配布資料と作成した図を確認			
7	李 志炯 小鹿 智代	【第 7 回】 予習 : 内観パース(1)配布資料と作成した図の状況を確認 授業 : 内観パース(2) 住宅 (グリッド法 a) 着色 (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(2)配布資料と作成した図を確認			
8	李 志炯 小鹿 智代	【第 8 回】 予習 : 内観パース (3) 用の事前配布資料を確認、予習 授業 : 内観パース(3) 住宅 (グリッド法 b) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(3)配布資料と作成した図を確認			
9	李 志炯 小鹿 智代	【第 9 回】 予習 : 内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着色用具準備 授業 : 内観パース(4) 住宅 (グリッド法 b) 着色 (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(4)配布資料と作成した図を確認			
10	李 志炯 小鹿 智代	【第 10 回】 予習 : 内観パース (5) 用の事前配布資料を確認、予習 授業 : 内観パース(5) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(5)配布資料と作成した図を確認			
11	李 志炯 小鹿 智代	【第 11 回】 予習 : 内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業 : 内観パース(6) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(6)配布資料と作成した図を確認			

12	李 志炯 小鹿 智代	【第 12 回】 予習：事前配布資料を確認、予習 授業：外観パース(1) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習：外観パース(1)配布資料と作成した図を確認							
13	李 志炯 小鹿 智代	【第 13 回】 予習：外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業：外観パース(2) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習：外観パース(2)配布資料と作成した図を確認							
14	李 志炯 小鹿 智代	【第 14 回】 予習：外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業：外観パース(3) 商業施設（D 点法）着彩（演習課題） 復習：外観パース(3)配布資料と作成した図を確認							
15	李 志炯 小鹿 智代	【第 15 回】 予習：ここまでの各自の提出物状況を確認 授業：講評 復習：作成してきた図をすべて確認							
授業開始前学習		製図の基礎 の学習内容を確認しておくとう理解しやすい							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の実施後に講評を行う。							
テキスト・教材		村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』（市ヶ谷出版社） その他、適宜必要資料を配布							
参考書									
評価の基準と方法		積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎		△	
関連科目		製図の基礎							
その他		製図用具一式、着色画材等を持参すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目担当教員のうち、李はインテリアデザインの実務経験を有している。その指導経験を活かし、インテリアデザイン等の実務に役立つ実習を行う。							

科目分類	140-311-11 (J)			授業コード	FG0052
科目名称	図学と透視画の基礎			単位数	2.0 単位
英文名称	Descriptive Geometry and Perspective Drawing Basics			授業区分	講義
科目責任者	堀邊 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊・秋山			開講時期	1 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	空間や立体を正しく図面に表現する方法を、図法幾何学に沿って学ぶ。特に、建築・インテリア・造形に必要な透視図法(パース図法)による内観・外観の空間表現を中心に進める。またデザインの検証やプレゼンテーションに使用する、パース図の着色表現技術を習得する。授業では演習課題による実習と講評を行う。				
到達目標	設計やデザイン課題で必要となる立体表現の基礎的技術を習得すること。図面が示す空間や立体を正しく理解し、また空間や立体を正確に図面化する手法を身に付け、相応しい表現方法を選択できること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 1 回】 予習 : 「パース」「透視画」という言葉を調べておく 授業 : ガイダンス p002-009 復習 : 必要製図用具を確認し、用意する			
2	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 2 回】 予習 : 製図用具の確認と持参 授業 : 基礎平面図形(1) (演習課題) 復習 : 3 次元を表す 2 次元図面名を覚える			
3	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 3 回】 予習 : 先回に書いた図面を確認、持参 授業 : 基礎平面図形(2) (演習課題) 復習 : 基礎平面図形配布資料と作成した図を確認			
4	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 4 回】 予習 : 正投影図(1) 事前配布資料を予習 授業 : 正投影図(1) (演習課題) p024-025, p052-053 復習 : 正投影図(1) 配布資料と作成した図を確認			
5	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 5 回】 予習 : 正投影図(2) 事前配布資料を予習 授業 : 正投影図(2) (演習課題) p024-025, p052-053 復習 : 正投影図(2) 配布資料と作成した図を確認			
6	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 6 回】 予習 : 内観パース(1) 事前配布資料を予習 授業 : 内観パース(1) 住宅 (グリッド法 a) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(1) 配布資料と作成した図を確認			
7	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 7 回】 予習 : 内観パース(1) 配布資料と作成した図の状況を確認 授業 : 内観パース(2) 住宅 (グリッド法 a) 着色 (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(2) 配布資料と作成した図を確認			
8	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 8 回】 予習 : 内観パース (3) 用の事前配布資料を確認、予習 授業 : 内観パース(3) 住宅 (グリッド法 b) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(3) 配布資料と作成した図を確認			
9	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 9 回】 予習 : 内観パース(3)で作成した図の進行状況を確認 し着色用具準備 授業 : 内観パース(4) 住宅 (グリッド法 b) 着色 (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(4) 配布資料と作成した図を確認			
10	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 10 回】 予習 : 内観パース (5) 用の事前配布資料を確認、予習 授業 : 内観パース(5) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(5) 配布資料と作成した図を確認			
11	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 11 回】 予習 : 内観パース(5)で作成した図の進行状況を確認 授業 : 内観パース(6) 住宅 (足線法) (演習課題) p052-069 復習 : 内観パース(6) 配布資料と作成した図を確認			

12	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 12 回】 予習：事前配布資料を確認、予習 授業：外観パース(1) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習：外観パース(1)配布資料と作成した図を確認							
13	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 13 回】 予習：外観パース(1)で作成した図の状況を確認 し着彩用具準備 授業：外観パース(2) 商業施設（D 点法）（演習課題） 復習：外観パース(2)配布資料と作成した図を確認							
14	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 14 回】 予習：外観パース(2)で作成した図の状況を確認 授業：外観パース(3) 商業施設（D 点法）着彩（演習課題） 復習：外観パース(3)配布資料と作成した図を確認							
15	堀邊 阿伊子 秋山 照夫	【第 15 回】 予習：ここまでの各自の提出物状況を確認 授業：講評 復習：作成してきた図をすべて確認							
授業開始前学習		製図の基礎 の学習内容を確認しておくとう理解しやすい							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の実施後に講評を行う。							
テキスト・教材		村口峯子他著『新しいインテリアデザインの実技』（市ヶ谷出版社） その他、適宜必要資料を配布							
参考書									
評価の基準と方法		積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎		△	
関連科目		製図の基礎							
その他		製図用具一式、着色画材等を持参すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する担当教員が指導する。							

科目分類	140-331-11 (J)	授業コード	FG0060
科目名称	建築・インテリアデザイン入門	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Architecture and Interior Design	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・茂木・山崎	開講時期	1 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	建築・インテリア計画の基礎的なプロセスと考え方について学ぶ。日本の近代・現代における住宅作品を題材に、住宅の計画手法を習得する。また、身近な空間のスケール感を身につけ、インテリアの計画手法についても習得する。授業では演習課題やプレゼンテーションを行う。		
到達目標	建築やインテリアデザインの基本的な考え方を習得すること。図面の読み方、寸法計画、環境計画、内装計画などの空間デザインプロセスの基礎を理解し、建築・インテリアデザインを多面的な視点から捉えられること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 復習 : 授業計画の確認	
2	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : 住宅の建築計画 事前学習 授業 : 住宅の建築計画とは？ 復習 : 住宅の建築計画 資料確認	
3	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : 寸法計画(1) 事前学習 授業 : 寸法計画(1) (演習課題) 復習 : 寸法計画(1) 資料確認	
4	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 敷地の読み方と分析 事前学習 授業 : 敷地の読み方と分析 (演習課題) 復習 : 敷地の読み方と分析 資料確認	
5	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 住宅の機能を考える 事前学習 授業 : 住宅の機能を考える (演習課題) 復習 : 住宅の機能を考える 資料確認	
6	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 住宅の動線計画を考える 事前学習 授業 : 住宅の動線計画を考える (演習課題) 復習 : 住宅の動線計画を考える 資料確認	
7	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 実際の住宅を分析・考察する 課題準備 授業 : 実際の住宅を分析・考察する【課題①】(1) (演習課題) 復習 : 実際の住宅を分析・考察する 課題作業	
8	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 実際の住宅を分析・考察する 課題作業 授業 : 実際の住宅を分析・考察する【課題①】(2) (演習課題) 復習 : 実際の住宅を分析・考察する 課題作業、まとめ	
9	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 住宅のインテリア計画 事前学習 授業 : 住宅のインテリア計画とは？ 復習 : 住宅のインテリア計画 資料確認	
10	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 寸法計画(2) 事前学習 授業 : 寸法計画(2) (演習課題) 復習 : 寸法計画(2) 資料確認	
11	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : 図面の読み方 事前学習 授業 : 図面の読み方 (演習課題) 復習 : 図面の読み方 資料確認	

12	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 12 回】 予習：室内環境の考え方 事前学習 授業：室内環境の考え方 (演習課題) 復習：室内環境の考え方 資料確認							
13	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 13 回】 予習：内装計画の考え方 事前学習 授業：内装計画の考え方 (演習課題) 復習：内装計画の考え方 資料確認							
14	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 14 回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題準備 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(1) (演習課題) 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業							
15	佐藤 勉 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 15 回】 予習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題作業 授業：実際の住宅インテリアを分析・考察する【課題②】(2) (プレゼンテーション) 復習：実際の住宅インテリアを分析・考察する 課題まとめ							
授業開始前学習		前期「製図の基礎」科目の内容を見直してしておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出後の授業で講評を行う。							
テキスト・教材		特になし							
参考書									
評価の基準と方法		課題と授業態度等を総合して評価する。 配点 (100 点満点) は、課題①30 点、課題②30 点、授業態度等 40 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○		◎		△	
関連科目									
その他		必要な道具等は授業中に適宜説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員全員が建築・インテリアデザイン分野の実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が建築・インテリアデザインの実務に役立つ講義と実習を行う。							

科目分類	140-330-11 (J)	授業コード	FG0070
科目名称	プロダクトデザイン入門	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Product Design	授業区分	講義
科目責任者	李 志炯	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯	開講時期	1 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	この授業ではプロダクトデザインの背景、社会との関連性、デザインプロセス、ユーザ調査のための手法とデータの分析、コンセプト作成のための手法などプロダクトをデザインする際に必要な基礎を学びます。 また、プロダクトの中で建築・インテリアデザインの観点から「くらしの環境」と関連性が高い陶芸デザイン、テキスタイルデザイン、家具デザインの特性および活用について事例を通して学びます。		
到達目標	・デザインプロセスを理解し、基礎を身に付けることを目標とします。 ・2 年次から学ぶ陶芸デザイン、テキスタイルデザイン、家具デザインの基礎を身に付けることを目標とします。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	李 志炯	【第 1 回】 予習：シラバスを読む。シラバスに記載されている参考書の第 1 章を読む。 授業：プロダクトデザインとは。 復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインについて調べる。	
2	李 志炯	【第 2 回】 予習：生活空間にある織物をよく観察する（どんな織り方、素材かを観察してもらう） 授業：テキスタイルデザインとは。テキスタイルデザインの体験。 復習：テキスタイルデザインの種類と手法について調べる。	
3	李 志炯	【第 3 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 2、3 章を読む。 授業：プロダクトデザインと社会、プロダクトデザインとビジネス 復習：書籍、インターネット等でプロダクトデザインと社会の関係について調べる。	
4	李 志炯	【第 4 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 4 章を読む。 授業：デザインプロセスについて。ユーザ調査のための手法。 復習：書籍、インターネット等でデザインプロセスについて調べる。	
5	李 志炯	【第 5 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 5 章を読む。 授業：ユーザ調査の事例を紹介。統計学を用いた調査データの分析方法について。 復習：書籍、インターネット等で統計学について調べる。	
6	李 志炯	【第 6 回】 予習： デザイン分野におけるユーザ調査の意義について調べる。 授業： インテリアデザインにおけるユーザ調査と分析データの活用について。 復習： 各デザイン分野におけるユーザ調査と分析データの活用について調べる。	
7	李 志炯	【第 7 回】 予習：ユーザ調査の分析データの活用性について調べる。 授業：ユーザ調査と分析データの活用について。関連の課題を実施（課題①）。 復習：書籍、インターネット等でユーザ調査の分析データの活用性について調べる。	
8	李 志炯	【第 8 回】 予習：生活空間にある陶芸品をよく観察する（どんな作り方、素材かを観察してもらう） 授業：陶芸デザインとは。陶芸デザインの体験。 復習：陶芸デザインの種類と手法について調べる。	
9	李 志炯	【第 9 回】 予習：シラバスに記載されている参考書の第 6、7 章を読む。 授業：コンセプト作成のための手法。視覚化のための手法。 復習：書籍、インターネット等でコンセプトの意義と手法について調べる。	
10	李 志炯	【第 10 回】 予習：コンセプト作成について調べる。 授業：コンセプト作成と視覚化について。関連の課題を実施（課題②）。 復習：第 10 回目の資料をもう一度確認する。	
11	李 志炯	【第 11 回】 予習：デザイン分野における発想力の重要性について調べる。 授業：コンセプトと発想について。	

		復習：第 11 回目の資料をもう一度確認する。							
12	李 志炯	【第 12 回】 予習：書籍、インターネット等で舞台デザインについて調べる。 授業：舞台デザインと発想について。関連の課題を実施（課題③）。 復習：第 12 回目の資料をもう一度確認する。							
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：生活空間にある家具をよく観察する（どんな作り方、素材かを観察してもらう） 授業：家具デザインとは。家具デザインの体験。 復習：家具デザインの種類と手法について調べる。							
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：書籍、インターネット等で文化と住まいについて調べる。 授業：文化と発想について。関連の課題を実施（課題④）。 復習：第 14 回目の資料をもう一度確認する。							
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：身近にあるくらしの環境とデザインについて調べる。 授業：くらしの環境とデザインについて。 復習：第 1 ～14 回目の資料をもう一度確認する。							
授業開始前学習		プロダクトデザインに関する書籍を読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		この授業では課題を 4 回行います。各課題の回答案を授業で共有し、自分と他者の考えの差異を確認します。また、その差異を理解し、それを基に多様な発想ができるように授業中に討論します。							
テキスト・教材		配付資料							
参考書		プロダクトデザインの基礎・スマートな生活を実現する 71 の知識（株式会社ワークスコーポレーション）							
評価の基準と方法		授業への取り組み 30%、課題、レポートなど提出物 70%で評価。 出席が 3 分 2 以下、または提出物が不足している場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○		◎		△	
関連科目		「建築・インテリアデザイン入門」 "リビングデザイン"はくらしの場である空間のデザインとくらしの道具であるもののデザインを同時に学ぶことで身につきます。							
その他		・第 2 回目、第 8 回目、第 13 回目に予定されているテキストスタイルデザイン、陶芸デザイン、家具デザインの体験では、担当教員が関連の道具、材料を準備します。 ・テキストスタイルデザイン、陶芸デザイン、家具デザインの体験では汚れてもいい服装を着用すること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		この授業では、プロダクトデザインの実務経験がある教員が担当し実際の制作に関する知識を生かした現実的な指導が受けられます。							

設計製図 I

科目分類	140-331-22 （ J ）			授業コード	FG0080
科目名称	設計製図 I			単位数	2.0 単位
英文名称	Design and Drafting I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤(勉)・三戸・秋山・佐藤(陽)・徳田・真泉			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	小店舗を併用した住宅の計画及び設計を行う。敷地に対して最適な住宅の計画、設計、小店舗部分についてはインテリアの計画を行い、建築設計とインテリアデザインを総合的に学ぶ。図面作成方法やプレゼンテーション手法なども指導する。授業では、与えられた課題に対しての実習、ディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。				
到達目標	住宅の計画および設計、建築図面の作成の基礎を修得する。 インテリアデザインの計画および設計、インテリア図面の作成の基礎を修得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 1 回】 予習 ： シラバスを確認しておく 授業 ： ガイダンスと課題「小店舗併用住宅」の説明 復習 ： 材料、道具の確認			
2	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 2 回】 予習 ： 敷地分析と規模確認 授業 ： 敷地分析と事例研究（実習）（プレゼンテーション） 復習 ： 事例収集			
3	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 3 回】 予習 ： 店舗のプログラム構想 授業 ： エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 ： チェックされた部分の確認・修正			
4	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 4 回】 予習 ： 中間発表用図面作成 授業 ： 中間発表（プレゼンテーション） 復習 ： 中間発表の講評確認			
5	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 5 回】 予習 ： 修正・検討 授業 ： エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 ： チェックされた部分の確認・修正			
6	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 6 回】 予習 ： 修正・検討 授業 ： 建築図面の作成（実習） 復習 ： チェックされた部分の確認・修正			
7	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 7 回】 予習 ： 修正・検討 授業 ： 建築図面の作成、模型制作（実習） 復習 ： チェックされた部分の確認・修正			
8	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 8 回】 予習 ： 模型材料購入 授業 ： 模型制作（実習） 復習 ： 模型作業続き			
9	秋山 照夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 9 回】 予習 ： 事例収集 授業 ： 小店舗のインテリア計画（実習） 復習 ： 修正・検討			

10	秋山 昭夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 修正・検討 授業 : エスキース (実習) (ディスカッション) 復習 : チェックされた部分の確認・修正							
11	秋山 昭夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : 図面の作図方法確認 授業 : インテリア図面の作成 (実習) 復習 : 修正・検討							
12	秋山 昭夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 12 回】 予習 : 修正図面作図 授業 : インテリア図面の作成 (実習) 復習 : 修正・検討							
13	秋山 昭夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 13 回】 予習 : 模型制作準備 授業 : インテリア模型の作成 (実習) 復習 : 修正・検討							
14	秋山 昭夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 14 回】 予習 : 模型制作準備 授業 : インテリア模型の作成 (実習) 復習 : 修正・検討							
15	秋山 昭夫 佐藤 勉 佐藤 陽 徳田 慎一 真泉 洋介 三戸 美代子	【第 15 回】 予習 : 提出準備 授業 : プレゼンテーション・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 講評確認・作品記録							
授業開始前学習		「製図の基礎」で学んだ製図方法、「建築・インテリアデザイン入門」で修得した模型表現について復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業で教員のチェックを受け、内容についてアドバイスを行う。 第 4 回、第 15 回のプレゼンテーションについては講評を行う。							
テキスト・教材									
参考書		「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」(市ヶ谷出版社) 「新しいインテリアデザインの実技」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法		課題作品点と平常点 (授業態度など・提出期限厳守) を総合して評価する。 配点 (100 点満点) は、課題作品点 70 点、平常点 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	△	○	
関連科目		関連科目 建築・インテリアデザイン入門、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他		建築・インテリアデザイン入門を修得しないと履修できない。(段階科目) 建築計画 A およびインテリアデザイン計画 A と同時に履修する事を勧める。 製図道具 (製図用ペン、面取り三角定規等)、模型制作に必要な道具 (カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等) と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。 授業開始後すぐに作業の説明等があるため、遅刻は厳禁。遅刻 3 回で欠席 1 回分とする。 履修者を 6 グループに分け、それぞれ担当の教員が受け持つ。担当や教場については初回授業でアナウンスする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。							

設計製図Ⅱ

科目分類	140-331-22 (J)			授業コード	FG0091
科目名称	設計製図Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Design and Drafting II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・川村・岸井			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	シェアハウスの計画及び設計を行う。敷地分析からコンセプトの立案、平面・断面・動線計画、インテリア計画、ランドスケープ計画などを踏まえた総合的な建築・インテリアデザインの計画・設計スキルを学ぶ。計画内容を図面や模型等で表現し、プレゼンテーションを行う。				
到達目標	建築・インテリアデザインの総合的な計画・設計スキルを習得する。建築・インテリアデザインの図面や模型等の作成方法やプレゼンテーション力を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : ガイダンスと課題「シェアハウス」の説明 復習 : 配布資料を再読し、理解を深める			
2	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 2 回】 予習 : シェアハウスの資料収集を行う 授業 : 敷地分析・コンセプト立案・事例研究 (実習) 復習 : 事例研究を行う			
3	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 3 回】 予習 : 雑誌や書籍、ネット等を活用してシェアハウスの資料収集を行う 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
4	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 4 回】 予習 : エスキースのための準備をする 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
5	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 5 回】 予習 : エスキースのための準備をする 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
6	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 6 回】 予習 : 中間発表の準備をする 授業 : 中間発表 1 (基本計画について) (プレゼンテーション) 復習 : 講評で指摘された箇所について改善する			
7	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 7 回】 予習 : エスキースのための準備をする 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
8	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 8 回】 予習 : 製図作業を進める 授業 : 建築図面の作成 (実習) 復習 : 製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする			
9	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 9 回】 予習 : 製図作業を進める 授業 : 建築図面の作成 (実習) 復習 : 製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする			
10	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 10 回】 予習 : 製図作業を進める 授業 : 建築図面の作成 (実習) 復習 : 製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする			
11	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 11 回】 予習 : 中間発表の準備をする 授業 : 中間発表 2 (図面レイアウトについて) (プレゼンテーション) 復習 : 講評で指摘された箇所について改善する			

12	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 12 回】 予習：インテリア図面作業を進める 授業：インテリア図面の作成（実習） 復習：作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする							
13	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 13 回】 予習：インテリア図面作業を進める 授業：インテリア図面の作成（実習） 復習：作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする							
14	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 14 回】 予習：模型材料を準備する 授業：プレゼンテーションシート・模型の作成（実習） 復習：プレゼンテーションシート・模型を完成させる							
15	川村 翔 茂木 弥生子 岸井 智子	【第 15 回】 予習：プレゼンテーションの準備をする 授業：発表・講評（プレゼンテーション） 復習：講評内容をもとに、自己評価を行う							
授業開始前学習		「設計製図Ⅰ」の課題を見直し、自己評価をまとめておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合いを促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材		適宜資料を配布する。							
参考書		「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅Ⅰ」（市ヶ谷出版社）「新しいインテリアデザインの実技」（市ヶ谷出版社） 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法		課題とプレゼンテーション、授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、課題 50 点、プレゼンテーション 20 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	△	○	
関連科目		設計製図Ⅰ、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他		製図道具（製図用ペン、面取り三角定規等）、模型制作に必要な道具（カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等）と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目の担当者は建築・インテリアの実務経験を有しており、その経験を活かして建築・インテリアデザインの実習を行う。							

設計製図Ⅱ

科目分類	140-331-22 (J)			授業コード	FG0092
科目名称	設計製図Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Design and Drafting II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・松元・内海・手塚			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	シェアハウスの計画及び設計を行う。敷地分析からコンセプトの立案、平面・断面・動線計画、インテリア計画、ランドスケープ計画などを踏まえた総合的な建築・インテリアデザインの計画・設計スキルを学ぶ。計画内容を図面や模型等で表現し、プレゼンテーションを行う。				
到達目標	建築・インテリアデザインの総合的な計画・設計スキルを習得する。建築・インテリアデザインの図面や模型等の作成方法やプレゼンテーション力を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : ガイダンスと課題「シェアハウス」の説明 復習 : 配布資料を再読し、理解を深める			
2	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 2 回】 予習 : シェアハウスの資料収集を行う 授業 : 敷地分析・コンセプト立案・事例研究 (実習) 復習 : 事例研究を行う			
3	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 3 回】 予習 : 雑誌や書籍、ネット等を活用してシェアハウスの資料収集を行う 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
4	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 4 回】 予習 : エスキースのための準備をする 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
5	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 5 回】 予習 : エスキースのための準備をする 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
6	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 6 回】 予習 : 中間発表の準備をする 授業 : 中間発表 1 (基本計画について) (プレゼンテーション) 復習 : 講評で指摘された箇所について改善する			
7	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 7 回】 予習 : エスキースのための準備をする 授業 : エスキース (実習) 復習 : エスキースで指摘された箇所について改善する			
8	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 8 回】 予習 : 製図作業を進める 授業 : 建築図面の作成 (実習) 復習 : 製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする			
9	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 9 回】 予習 : 製図作業を進める 授業 : 建築図面の作成 (実習) 復習 : 製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする			
10	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 10 回】 予習 : 製図作業を進める 授業 : 建築図面の作成 (実習) 復習 : 製図作業を進めた図面に間違い等ないかチェックする			
11	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 11 回】 予習 : 中間発表の準備をする 授業 : 中間発表 2 (図面レイアウトについて) (プレゼンテーション) 復習 : 講評で指摘された箇所について改善する			

12	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 12 回】 予習 : インテリア図面作業を進める 授業 : インテリア図面の作成 (実習) 復習 : 作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする							
13	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 13 回】 予習 : インテリア図面作業を進める 授業 : インテリア図面の作成 (実習) 復習 : 作業を進めた図面に間違え等ないかチェックする							
14	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 14 回】 予習 : 模型材料を準備する 授業 : プレゼンテーションシート・模型の作成 (実習) 復習 : プレゼンテーションシート・模型を完成させる							
15	内海 繁 神村 真由美 手塚 貴史 松元 良枝	【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備をする 授業 : 発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 講評内容をもとに、自己評価を行う							
授業開始前学習		「設計製図Ⅰ」の課題を見直し、自己評価をまとめておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合いを促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材		適宜資料を配布する。							
参考書		「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅Ⅰ」(市ヶ谷出版社) 「新しいインテリアデザインの実技」(市ヶ谷出版社) 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 (丸善出版)							
評価の基準と方法		課題とプレゼンテーション、授業態度を総合して評価する。 配点 (100 点満点)は、課題 50 点、プレゼンテーション 20 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎	△	○	
関連科目		設計製図Ⅰ、建築計画 A、インテリアデザイン計画 A							
その他		製図道具 (製図用ペン、面取り三角定規等)、模型制作に必要な道具 (カッター、カッターマット、スチレンのり、金じゃく、ピンセット等) と材料は個人で購入になるが、授業中に適宜説明する。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		本科目の担当者は建築・インテリアの実務経験を有しており、その経験を活かして建築・インテリアデザインの実習を行う。							

科目分類	140-331-12 (J)			授業コード	FG0100
科目名称	住空間とライフスタイル			単位数	2.0 単位
英文名称	Living Space and Lifestyle			授業区分	講義
科目責任者	伊藤 香織			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	伊藤 香織			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	ライフスタイルは時代の流れとともに変化し、近年は非常に多様化している。快適な生活を送るためには、ライフスタイルと住空間の関係が重要である。 住宅における様々な生活シーンと空間との関係を理解し、多様化するライフスタイルにあった住空間を考えるための知識を習得することを目的としている。				
到達目標	多様化するライフスタイルに対応した、様々な生活シーンと住空間の関係を理解できるようになる。 さらに、ライフスタイルと住空間の関係性について、自らの考えや意見を的確にまとめられるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	伊藤 香織	【第 1 回】 予習 シラバスを読み込んでおく 授業 ガイダンス 復習 授業のテーマと目的をよく理解しておく			
2	伊藤 香織	【第 2 回】 予習 住空間の変遷をリサーチ 授業 住空間とライフスタイルの変遷 復習 住空間とライフスタイルの変遷のレジュメを確認			
3	伊藤 香織	【第 3 回】 予習 食空間についてリサーチ 授業 食空間とライフスタイル① 復習 食空間とライフスタイル①のレジュメを確認			
4	伊藤 香織	【第 4 回】 予習 食空間についてリサーチ 授業 食空間とライフスタイル② 復習 食空間とライフスタイル②のレジュメを確認			
5	伊藤 香織	【第 5 回】 予習 サニタリー空間についてリサーチ 授業 サニタリー空間とライフスタイル① 復習 サニタリー空間とライフスタイル①のレジュメを確認			
6	伊藤 香織	【第 6 回】 予習 サニタリー空間についてリサーチ 授業 サニタリー空間とライフスタイル② 復習 サニタリー空間とライフスタイル②のレジュメを確認			
7	伊藤 香織	【第 7 回】 予習 家事動線についてリサーチ 授業 家事動線の考え方 復習 家事動線の考え方のレジュメを確認			
8	伊藤 香織	【第 8 回】 予習 収納計画についてリサーチ 授業 収納計画① 復習 収納計画①のレジュメを確認			
9	伊藤 香織	【第 9 回】 予習 収納計画についてリサーチ 授業 収納計画② 復習 収納計画②のレジュメを確認			

10	伊藤 香織	【第 10 回】 予習 子育て空間についてリサーチ 授業 子育て空間とライフスタイル① 復習 子育て空間とライフスタイル①のレジュメを確認						
11	伊藤 香織	【第 11 回】 予習 子育て空間についてリサーチ 授業 子育て空間とライフスタイル② （グループ・ワーク） 復習 子育て空間とライフスタイル②のレジュメを確認						
12	伊藤 香織	【第 12 回】 予習 高齢者の住空間についてリサーチ 授業 高齢者の住空間とライフスタイル 復習 高齢者の住空間とライフスタイルのレジュメを確認						
13	伊藤 香織	【第 13 回】 予習 リフォームについてリサーチ 授業 リフォームの考え方① 復習 リフォームの考え方①のレジュメを確認						
14	伊藤 香織	【第 14 回】 予習 リフォームについてリサーチ 授業 リフォームの考え方② 復習 リフォームの考え方②のレジュメを確認						
15	伊藤 香織	【第 15 回】 予習 これまでの授業で取り上げたテーマの中から、自分の最も興味があるテーマを見つける 授業 半期のまとめ 復習 全 15 回の授業内容をよく理解する						
授業開始前学習		下記に示した「参考書」を含め、ライフスタイルに関する書籍や雑誌を読んだり、住空間の事例を調べる機会を持つようにしていると、授業に関心を持って臨める。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で実施する課題については、後日授業内でコメント等によりフィードバックする。						
テキスト・教材		授業中に配布する。必要に応じて指示する。						
参考書		「図説 住まいの計画 住まい方から住空間をデザインする 新訂版」林知子/大井絢子他著 彰国社刊 「私たちの住まいと生活」水村容子／井上由起子／渡邊美樹 編 彰国社刊 「間取りの方程式」飯塚豊著 エクスナレッジ刊 「世界で一番美しい住宅デザインの教科書」中山繁信著 エクスナレッジ刊 「住まいかた解剖図鑑」大島健二著 エクスナレッジ刊						
評価の基準と方法		出席（受講態度含む）、各授業ミニアンケート、最終レポートを総合して評価する。 配点は、出席点 30 点、ミニアンケート 20 点、最終レポート 50 点。 出席回数が 10 回未満の場合は、単位修得不可。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			
関連科目	インテリアデザイン論 住空間とインテリアプロダクト							
その他	授業の順番等は、適宜変更することもある。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	企業におけるこれまでの研究開発や商品企画経験を活かし、具体的な商品例や事例を取り入れて講義する。							

インテリアのデザイン論／住空間とインテリアのデザイン

科目分類	141-331-12（2023 年～入学者）（J） 140-331-12（～2022 年入学者）（J）	授業コード	FG0110
科目名称	インテリアのデザイン論／住空間とインテリアのデザイン	単位数	2.0 単位
英文名称	Living Space and Interior Products	授業区分	講義
科目責任者	橋田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	現代の住空間は様々なインテリアプロダクトによって構成され、機能している。 この授業では、それら様々なインテリアプロダクトの知識とともに住空間との関係を考え学んでいく。 授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、グループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	インテリアプロダクトの数々を通して、造形・素材・機能・サステナブル&ユニバーサルデザインの知識を得ること、住空間でのコーディネートスキルを高めることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習：シラバスを参照 授業：ガイダンス（インテリアプロダクトとは何か） 復習：授業計画の確認	
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習：住まいの中の家具① 事前調査 授業：住まいと家具①（演習課題 1） 復習：住まいの中の家具①のキーワードの確認	
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習：住まいの中の家具①配布資料の講読 授業：住まいと家具②（課題発表 1） 復習：住まいと家具②のキーワードの確認	
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習：家具の実測 事前調査 授業：家具の実測・物のサイズ（グループワーク 1）（グループ発表 1） 復習：家具の実測・物のサイズのキーワードの確認	
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習：家具の実測・物のサイズ配布資料の講読 授業：住まいと明かり①（演習課題 2） 復習：住まいと明かり①のキーワードの確認	
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習：住まいと明かり①配布資料の講読 授業：住まいと明かり②（課題発表 2） 復習：住まいと明かり②のキーワードの確認	
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習：住まいと明かり②配布資料の講読 授業：住まいと家電（演習課題 3） 復習：住まいと家電のキーワードの確認	
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習：住まいと家電配布資料の講読 授業：ショールーム見学（演習課題 4） 復習：ショールーム見学レポートの作成	
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習：ショールーム見学レポートの発表準備 授業：ショールーム見学発表／ウィンドトリートメントについて（グループワーク 2）（グループ発表 2） 復習：ウィンドトリートメントのキーワードの確認	
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習：ウィンドトリートメント配布資料の講読 授業：住まいのしつらえ①（演習課題 5） 復習：住まいのしつらえ①のキーワードの確認	
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習：住まいのしつらえ①配布資料の講読 授業：住まいのしつらえ②（課題発表 3） 復習：住まいのしつらえ②のキーワードの確認	

12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：住まいのしつらえ②配布資料の購読 授業：住まいのしつらえ③ 復習：住まいのしつらえ③のキーワードの確認							
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：住まいのしつらえ③配布資料の購読 授業：ユニバーサルデザインについて（演習課題 6）（課題発表 4） 復習：ユニバーサルデザインのキーワードの確認							
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：ユニバーサルデザイン配布資料の購読 授業：サステナブルデザインについて（演習課題 7）（課題発表 5） 復習：サステナブルデザインのキーワードの確認							
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：サステナブルデザイン配布資料の購読 授業：まとめ（演習課題 8） 復習：全回の住空間とインテリアプロダクトのキーワードの確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なプロダクトを出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法		演習を実施した際には、講義内での解説を行う。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書		建築インテリア関係雑誌等。							
評価の基準と方法		事例研究レポート・見学レポート・ミニットペーパーを総合して評価。配点は、研究レポート 40 点、見学レポート 40 点、毎回の授業のミニットペーパー 20 点。ミニットペーパー提出をもって出席とみなし、授業回数の 3 分の 2 未満の提出は単位取得不可。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○			○			
関連科目		住空間とライフスタイル							
その他		学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		インテリア・プロダクトデザイン分野における実務経験あり。インテリア・プロダクトデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-12	授業コード	FG0111
科目名称	グラフィックデザイン	単位数	2.0 単位
英文名称	Graphic Design	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 利彦	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-509
授業概要	グラフィックデザインは、画像・文字・記号といった要素どうしが平面上にレイアウトされることで関わり合い、さまざまな情報を伝達するというコミュニケーション手段です。授業では具体的な作品事例を挙げて解説し、グラフィック要素のそれぞれ固有の特徴や、伝える／伝わる内容の違いを理解していきます。また、小型グラフィックを実作する課題をとおり、平面表現と空間表現に広く応用できる知識と技術を養います。		
到達目標	・グラフィックデザインの基礎的技法を修得し、平面表現に独創性を持って用いることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 利彦	【第 1 回】 予習：身の回りにある「グラフィックデザイン」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックデザインの概説 復習：引き続き、グラフィックデザイン作品や事例を自分なりに採集する。	
2	鈴木 利彦	【第 2 回】 予習：好きな絵画／イラストレーション／写真に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック要素の概説① 絵画・写真 復習：引き続き、写真や絵画などのグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。	
3	鈴木 利彦	【第 3 回】 予習：好きなデザインフォントに注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック要素の概説② 文字 復習：引き続き、文字（フォント）が特徴的なグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。	
4	鈴木 利彦	【第 4 回】 予習：身の回りにある記号やピクトグラムに注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック要素の概説③ 記号・ピクトグラム 復習：引き続き、記号やピクトグラムが特徴的なグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。	
5	鈴木 利彦	【第 5 回】 予習：好きな色使いの写真・イラストレーション・絵画・ポスターなどに注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック要素の概説④ 色彩 復習：引き続き、色彩や色使いが特徴的なグラフィック作品や事例を自分なりに採集する。	
6	鈴木 利彦	【第 6 回】 予習：今まで採集したグラフィック作品や事例を整理しておく。 授業：デザイン要素の概説① 点・線・面・色 復習：授業を受けて、採集したグラフィック作品や事例を分けてみたり、追加したりする。	
7	鈴木 利彦	【第 7 回】 予習：今まで採集したグラフィック作品や事例を整理しておく。 授業：デザイン要素の概説② 立体・空間・時間・音 復習：授業を受けて、採集したグラフィック作品や事例を分けてみたり、追加したりする。	
8	鈴木 利彦	【第 8 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、一読しておく。 授業：視覚の原理と心理 感覚・認知・意識・錯覚 復習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、次回授業の準備しておく。	
9	鈴木 利彦	【第 9 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備しておく。 授業：形と中身の関係① ピクトグラムの作成（1）課題説明 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースしておく。	
10	鈴木 利彦	【第 10 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、一読しておく。 授業：形と中身の関係② ピクトグラムの作成（2）授業内制作 復習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、次回授業の準備しておく。	
11	鈴木 利彦	【第 11 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業準備しておく。 授業：形と中身の関係③ ピクトグラムの作成（3）進捗状況の共有	

		復習：授業内での全体エスキースを受けて、課題提出の準備をしておく。							
12	鈴木 利彦	【第 12 回】 予習：制作した課題作品の提出と作品講評の準備をしておく。 授業：形と中身の関係④ ピクトグラムの作成（４）作品講評と解説 復習：講評コメントを提出する。							
13	鈴木 利彦	【第 13 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：レイアウトの手法 復習：レイアウト手法についての授業コメントを提出する。							
14	鈴木 利彦	【第 14 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：デザインの手法 復習：デザイン手法についての授業コメントを提出する。							
15	鈴木 利彦	【第 15 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィックデザインの総論 復習：グラフィックデザインについての授業コメントを提出する。							
授業開始前学習		身の回りにある「グラフィックデザイン」と思われるものを、自分なりに見つけて、写真に撮って記録をしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、授業クラスルームをとおして適宜講評および説明を行います。 また、提出課題についてはエスキースや講評を行います。							
テキスト・教材		授業やクラスルームで適宜紹介します。							
参考書		授業やクラスルームで適宜紹介します。							
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価します。 平常点 30 点、課題内容 70 点とします。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○		◎			
関連科目		グラフィック・コミュニケーション学							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	140-331-12	授業コード	FG0120
科目名称	福祉住環境デザイン	単位数	2.0 単位
英文名称	Housing Environment for Elderly and Disabled	授業区分	講義
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	高齢者や障がい者を取り巻く社会状況を把握し、福祉住環境に関連する分野についての基礎的な知識を身につける。また、高齢者や障がい者が安全・安心して生活するための具体的な住環境整備の手法を学ぶ。授業では演習課題やフィールドワークを行う。		
到達目標	福祉の視点から住環境について考え、高齢者や障がい者が安全・安心して生活できる環境を整備するための手法や、その背景にある社会制度などについての基礎的な知識を習得する。高齢者や障がい者の身体的・精神的特性を理解したうえで、住環境を整備するための具体的な手法を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : ガイダンス 復習 : 配布資料を再読し、理解を深める	
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性（演習課題 1） 復習 : テキストを再読し、「少子高齢社会の現状と福祉住環境整備の重要性」について復習する	
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 福祉に関する制度としくみ（演習課題 2） 復習 : テキストを再読し、「福祉に関する制度としくみ」について復習する	
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 高齢者や障害者の日常生活（演習課題 3） 復習 : テキストを再読し、「高齢者や障害者の日常生活について」復習する	
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 住まいの整備のための基本技術 ①移動（演習課題 4） 復習 : テキストを再読し、「移動ための基本技術」について復習する	
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 住まいの整備のための基本技術 ②水廻り（演習課題 5） 復習 : テキストを再読し、「水廻りの基本技術」について復習する	
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 住まいの整備のための基本技術 ③温熱環境（演習課題 6） 復習 : テキストを再読し、「温熱環境の基本技術」について復習する	
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 住まいの整備のための基本技術 ④インテリアデザイン（演習課題 7） 復習 : テキストを再読し、「インテリアデザインの基本技術」について復習する	
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 住まいの整備のための基本技術 ⑤屋外空間（演習課題 8） 復習 : テキストを再読し、「屋外空間の基本技術」について復習する	
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 : 体験場所について調べる 授業 : シニアシミュレーション体験（フィールドワーク） 復習 : 体験レポートをまとめる	
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 高齢期の住まい方①（演習課題 9） 復習 : テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する	

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 高齢期の住まい方②（演習課題 10） 復習 : テキストを再読し、「高齢期の住まい方」について復習する							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 福祉のまちづくり①（演習課題 11） 復習 : テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : テキスト（指定されたページ）を読む 授業 : 福祉のまちづくり②（演習課題 12） 復習 : テキストを再読し、「福祉のまちづくり」について復習する							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : 前回までの要点を読み返す 授業 : まとめ 復習 : 演習課題を復習する							
授業開始前学習		バリアフリーについてインターネットや書籍等で調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回演習課題を実施し、講義の中で解説を行いながらフィードバックする。							
テキスト・教材		適宜プリントを配布する							
参考書		「心地よいバリアフリー住宅をデザインする方法」（エクスナレッジ）							
評価の基準と方法		ミニテストと演習課題、授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、ミニテストと演習課題 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○			◎			
関連科目									
その他		「シニアシミュレーション体験」は身近なバリアフリーを考える体験課題として実施します。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	140-331-12 （J）			授業コード	FG0130
科目名称	環境デザイン			単位数	2.0 単位
英文名称	Environmental Design			授業区分	講義
科目責任者	松元 良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元 良枝			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10 後期 木曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10			研究室	10-601
授業概要	持続可能な発展（サステナブル・ディベロップメント）を理解するため、地球の生態系保全（エコロジー）について考える「地球環境」の基礎知識を踏まえ、住宅や建築物における人間の快適性を追求する「生活環境」に重点を置いた「環境デザイン」を学ぶ。				
到達目標	建築をとりまく環境を様々な側面から捉えて理解し、これからの循環型社会・持続可能な社会づくりに主体的に参画できるよう、応用力をつける。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松元 良枝	【第 1 回】 予習：「環境」「デザイン」の意味を考える 授業：環境デザインの基本的な考え方 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
2	松元 良枝	【第 2 回】 予習：「地球温暖化」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～エネルギーの消費と地球温暖化 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
3	松元 良枝	【第 3 回】 予習：「再生可能エネルギー」と国際情勢について調べる 授業：地球環境 ～再生可能エネルギーと創エネ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
4	松元 良枝	【第 4 回】 予習：「持続可能な社会」について調べる 授業： 地球環境 ～身近なエコと環境ラベリング制度 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
5	松元 良枝	【第 5 回】 予習：「世界の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
6	松元 良枝	【第 6 回】 予習：「日本の気候区分」について調べる 授業：生活環境 ～地域の気候と住まい方② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
7	松元 良枝	【第 7 回】 予習：身近な「光環境」を見つける 授業：生活環境 ～光環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
8	松元 良枝	【第 8 回】 予習：身近な「温熱環境」を見つける 授業：生活環境 ～温熱環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
9	松元 良枝	【第 9 回】 予習：身近な「空気環境」を見つける 授業：生活環境 ～空気環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
10	松元 良枝	【第 10 回】 予習：身近な「音環境」を見つける 授業：生活環境 ～音環境のデザイン 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			
11	松元 良枝	【第 11 回】 予習：「緑化」の効用について調べる 授業：生活環境 ～室内環境と緑化① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる			

12	松元 良枝	【第 12 回】 予習：身近な「緑化」空間を見つける 授業：生活環境 ～室内環境と緑化② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる							
13	松元 良枝	【第 13 回】 予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習① 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる							
14	松元 良枝	【第 14 回】 予習：これまでの授業内容を再確認する 授業：生活環境デザイン演習② 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる							
15	松元 良枝	【第 15 回】 予習：これまでの授業内容で不明点を確認する 授業：生活環境デザインのまとめ 復習：理解したこと、自分の考えを小レポートにまとめる							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		小レポートの内容に関して授業内で解説（または講評、補足）を適宜行う。							
テキスト・教材		授業開始時にテキスト・教材を指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		レポート、出席状況で評価を行う。 詳細については学生の理解度を勘案し調整するものとする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○			◎			
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計の実務経験を活かし、 環境諸問題に対し、建築分野を出発点とした際の接点や問題解決へのアプローチ（環境デザイン）について講義。							

科目分類	140-330-12 (J)			授業コード	FG0140
科目名称	色彩デザイン			単位数	2.0 単位
英文名称	Color Design			授業区分	講義
科目責任者	滝沢 真美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	滝沢 真美			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	幅広い複合領域にまたがる色彩学を広く浅く全般的に学ぶのではなく、建築やインテリアの分野で必要な基礎知識に絞り理解を深める。さらに、その知識を実践的に応用できるように、講義だけではなくワークや配色実習を通して体験的に学ぶ。カラーコーディネーター検定受験に関しても、基礎的な知識を習得できるようにカリキュラムに組み込んでいる。				
到達目標	建築インテリア分野で必要なマンセルカラーシステムを理解する。さらにマンセルシステムに基づく HUE&TONE システムを学び、建築インテリア空間で使われる色の特徴と配色テクニックを理解する。色彩心理学的な視点からカラーイメージについて学び、好きな色を使いこなす方法を理解する。さらに、現在の主要なインテリアテイストについて学び、好きか嫌いかという感覚で捉えられがちな色やデザインを、ターゲットやコンセプトに合わせて建築インテリアの分野で、実践的に使えるようになることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	滝沢 真美	【第 1 回】 予習：この授業の中で知りたい色彩の知識は何かを考えてくる 授業：色の果たす役割、建築インテリア分野における色の重要性 復習：これから学ぶ授業の全体像を把握しておく。自分がこの授業で学びたいことを明確にしておく			
2	滝沢 真美	【第 2 回】 予習：色が見える状況はどんな時か考えておく 授業：色が見える仕組み 1 色と光の関係（プリント使用・参考書併用） 復習：照明と色について自分の家のインテリアを観察する。課題レポート作成			
3	滝沢 真美	【第 3 回】 予習：読みやすいサイン、読みにくいサインを探しておく 授業：色が見える仕組み 2 視覚のメカニズムとカラーユニバーサルデザイン（プリント使用・参考書併用・教科書 p58～59） 復習：カラーユニバーサルデザインについて復習をしておく。課題レポート作成			
4	滝沢 真美	【第 4 回】 予習：テレビの画面とカラー印刷物について、ルーペを使って観察してくる 授業：色を作る仕組み 加法混色と減法混色（プリント使用・参考書併用） / デザイントーン一覧表の作成(実習) 復習：点描画の絵画を観察し中間混色について理解する。課題レポート作成/ デザイントーンの一覧表の完成			
5	滝沢 真美	【第 5 回】 予習：自分の知っている色名をチェックする 授業：色を伝える方法 1 色名（プリント使用・参考書併用・教科書 p63）（発表） 復習：色名の分類について復習し、知らない色名についてチェックしておく。課題レポート作成			
6	滝沢 真美	【第 6 回】 予習：教科書 1 章を通読しておく 授業：色を伝える方法 2 色の三属性とマンセルカラーシステム（教科書 1 章 p9～13）（色相環作成実習） 復習：マンセルの色相、明度、彩度を理解できているか確認しておく。課題レポート作成			
7	滝沢 真美	【第 7 回】 予習：教科書 1 章を通読しておく 授業：色を伝える方法 3 HUE&TONE システム（教科書 1 章 p14～23）（トーン判別実習） 復習：トーンの成り立ち、2 分類、4 分類について理解ができているか確認する。課題レポート作成			
8	滝沢 真美	【第 8 回】 予習：教科書 2 章を通読しておく 授業：HUE&TONE システムの応用 & インテリア空間で使われる色の特徴（教科書 2 章 p26～38）（嗜好色調査） 復習：自分の好きな色とインテリアで使っている色の関連をチェックする。課題レポート作成			
9	滝沢 真美	【第 9 回】 予習：スーパーマーケットでミカンのネット、オクラのネットの色を確認しておく 授業：対比と同化、色の心理的効果（プリント使用・参考書併用）（実習） 復習：色は周りの状況で違って見えることを確認しておく。課題レポート作成			
10	滝沢 真美	【第 10 回】 予習：自分の好きな配色について調べておく 授業：6 つの基本配色テクニックの紹介と配色実習 1（教科書 3 章 p40～47）（実習）			

		復習：教科書 3 章 1 節を通読し基本 6 配色テクニックの全体像を理解する。練習用シートの完成															
11	滝沢 真美	【第 11 回】 予習：基本 6 配色テクニックについて復習をしておく 授業：6 つの基本配色テクニックの配色実習 2（教科書 3 章 p40～47）（実習） 復習：教科書 3 章を通読しておく。提出用シートの完成															
12	滝沢 真美	【第 12 回】 予習：教科書 3 章 2 節を通読しておく 授業：配色センスアップの方法とインテリア分野への応用（教科書 3 章 p48～58） 復習：配色テクニックをインテリア空間で応用する際のポイントを確認しておく。課題レポート作成															
13	滝沢 真美	【第 13 回】 予習：教科書 4 章を通読しておく 授業：インテリア空間で好きな色を使う方法 & イメージスケールの紹介（教科書 4 章 p62～87 & 6 章 1 節 p116～121） 復習：第 6 章 1 節を読みイメージスケールについて理解を深めておく															
14	滝沢 真美	【第 14 回】 予習：教科書 5 章を通読しておく 授業：主要なインテリアテイストの配色実習（教科書 5 章 p90～113）（実習） 復習：主要なインテリアテイストの色やデザインの表現方法を復習しておく															
15	滝沢 真美	【第 15 回】 予習：レポート試験に備えて授業全体の復習をしておく 授業：日本の色（講義）& レポート試験 復習：授業全体を振り返る															
授業開始前学習		各回ごとに、指定の予習項目を記載しているので、それをよく読み実施すること。 特に、最終回はレポート試験を実施するので、全体の復習して授業にのぞむこと。															
授業内課題のフィードバックの方法		ほぼ毎回レポート課題を出す。提出状況をチェックし日常点として配点する。ただし、個々のレポートの添削は行わないので、次の授業の冒頭に口頭で発表する模範解答を確認しておくこと。 最終回のレポート試験は、この中から出題するので、理解が不足している場合は、授業中に質問をし、理解をしておくこと。															
テキスト・教材		テキスト：『住宅インテリアのための実践カラーテクニック 改訂版』ISBN978-4-904403-26-6 滝沢真美著（トソー出版）定価 3300 円 教材：新デザイントーン 130 シリーズ色紙 B8 発売元/（株）日本カラーデザイン研究所 定価 1430 円 テキストと教材は必ず教科書販売期間中にセットで丸善キャンパスショップ駒沢学園店を通して購入しておくこと。 特に実習で使用する教材は市販していないので注意すること。テキストと教材を購入しないものの受講は認めない。															
参考書		『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス公式テキスト』東京商工会議所編（中央経済社） 特に、検定試験受験予定者は参考書として購入しておくことが望ましい。															
評価の基準と方法		毎回のレポート提出状況 20 点 最終回のレポート試験 60 点 6 つの基本配色テクニック実習シート 20 点 合計 100 点で 60 点以上を合格とする															
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当		○								◎							
関連科目																	
その他		座学だけでなく、実際の生活の中から美しい色彩を見つける姿勢を持ちながら、授業に臨んで欲しい															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		カラーマーケティングおよび色彩計画の専門家として、ハウスメーカー、建材メーカーなどの商品開発のための委託研究やコンサルティング、インテリアコーディネーター向けのセミナーを行っているので、その実践的な知識をインテリアを学ぶ学生に講義する。															

科目分類	140-311-21			授業コード	FG0151	
科目名称	CAD I			単位数	1.0 単位	
英文名称	CAD I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	鈴木 利彦			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	松元・三戸			開講時期	1 年	
オフィスアワー	－			研究室	－	
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっているコンピュータによる作図（CAD：キャド、Computer Aided Design）技術の基礎を学ぶ。CAD ソフトは VectorWorks（エーアンドエー株式会社）を使用する。					
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても独力でモデリングができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	三戸 美代子 松元 良枝	【第 1 回】 予習：シラバスを読んでおく。テキスト購入。 授業：ガイダンス 復習：教場、機材、ログイン方法再確認。				
2	三戸 美代子 松元 良枝	【第 2 回】 予習：教科書 p.010-021 下読み 授業：作業環境と基本操作 p.010-021 復習：教科書 p.010-021 の例題自習				
3	三戸 美代子 松元 良枝	【第 3 回】 予習：教科書 p.022-026 下読み 授業：作図操作に慣れる p.022-026 復習：教科書 p.022-026 の例題。p.026 画面表示の検討				
4	三戸 美代子 松元 良枝	【第 4 回】 予習：教科書 p.027-036 下読み 授業：基本図形(1) p.027-036 復習：教科書 p.027-036 の例題。p.021 の属性パレット確認。				
5	三戸 美代子 松元 良枝	【第 5 回】 予習：教科書 p.037-042 下読み 授業：基本図形(2) p.037-042 復習：教科書 p.037-042 の例題。				
6	三戸 美代子 松元 良枝	【第 6 回】 予習：教科書 p.043-044 下読み 授業：名刺と表札を作る p.043-044 復習：名刺課題の提出				
7	三戸 美代子 松元 良枝	【第 7 回】 予習：取り込みたい画像（写真等）の準備 授業：スキャナを使って画像を取り込む 復習：スキャナ課題の提出				
8	三戸 美代子 松元 良枝	【第 8 回】 予習：一般図（前期「製図の基礎」）の種類を復習しておく。 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(1) p.045-068 復習：開口部の表現は前期「製図の基礎」より復習しておく。				
9	三戸 美代子 松元 良枝	【第 9 回】 予習：教科書 p.069-087 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(2) p.069-087 復習：教科書 p.087 までの作業完了				
10	三戸 美代子 松元 良枝	【第 10 回】 予習：教科書 p.088-099 下読み 授業：住宅の平面図兼配置図を描く(3) p.088-099 復習：教科書 p.099 までの作業完了				
11	三戸 美代子 松元 良枝	【第 11 回】 予習：教科書 p.100-101 下読み 授業：住宅の断面図を描く(1) p.100-101 復習：教科書 p.101 までの作業完了				

12	三戸 美代子 松元 良枝	【第 12 回】 予習 : 教科書 p.102-107 下読み 授業 : 住宅の断面図を描く(2) p.102-107 復習 : 教科書 p.107 までの作業完了						
13	三戸 美代子 松元 良枝	【第 13 回】 予習 : 教科書 p.108-112 下読み 授業 : 住宅の立面図を描く p.108-112 復習 : 教科書 p.112 までの作業完了						
14	三戸 美代子 松元 良枝	【第 14 回】 予習 : 教科書 p.113-115 下読み 授業 : ビューポート、シートレイヤ p.113-115 復習 : 教科書 p.115 までの作業完了						
15	三戸 美代子 松元 良枝	【第 15 回】 予習 : 提出済み課題の確認。 授業 : 到達度チェック 復習 : 到達度チェック問題でできなかった部分の確認						
授業開始前学習		「製図の基礎」で学んだ手描きの製図方法について復習しておく。 テキストを購入しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。 学習用教材については、示された手順に従って各自が繰り返し練習・復習ができる。 各自の提出内容について、評価の基準を明示して採点し返却を行う。						
テキスト・教材		最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション（学芸出版社）						
参考書		「はじめての設計製図」＜建築のテキスト＞編集委員会（学芸出版社）						
評価の基準と方法		授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎		△	
関連科目	CAD II							
その他	・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・再履修者は CADI-a、CADI-b、CADI-c、CADI-d のどれを履修してもよいが、初回授業で履修したいコマを申しでること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	140-311-22 （ J ）			授業コード	FG0161	
科目名称	CAD II			単位数	1.0 単位	
英文名称	CAD II			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	小川・西尾			開講時期	2 年	
オフィスアワー	－			研究室	－	
授業概要	建築設計やプロダクトデザインなどの分野で一般的となっている CAD ソフト VectorWorks を用いて、3D の基本を学び、住宅や商業施設などの建築物のモデリングやプレゼンテーション技術を習得する。					
到達目標	VectorWorks の基本操作を習得し、テキストの指示通りのモデリングができる。また、与えられた課題について操作方法の解説が無くても自力でモデリングができる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	小川 弾 西尾 尚子		【第 1 回】 予習 ： 授業テキストの見直し 授業 ： ガイダンス 復習 ： 授業計画の再確認			
2	小川 弾 西尾 尚子		【第 2 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： モデリングの基礎 復習 ： 設定を変えて操作を試行する			
3	小川 弾 西尾 尚子		【第 3 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 三面図(1) 復習 ： 設定を変えて操作を試行する			
4	小川 弾 西尾 尚子		【第 4 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 三面図(2) 復習 ： 設定を変えて操作を試行する			
5	小川 弾 西尾 尚子		【第 5 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 三面図とモデリング 復習 ： 課題以外の形状のモデリングを試行する			
6	小川 弾 西尾 尚子		【第 6 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 住宅（木造）のモデリング(1) 復習 ： 設定を変えて操作を試行する			
7	小川 弾 西尾 尚子		【第 7 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 住宅（木造）のモデリング(2) 復習 ： 設定を変えて操作を試行する			
8	小川 弾 西尾 尚子		【第 8 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 住宅（木造）のモデリング(3) 復習 ： 自由な要素を追加してモデリングを試行する			
9	小川 弾 西尾 尚子		【第 9 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(1) 復習 ： 設定を変えて操作を試行する			
10	小川 弾 西尾 尚子		【第 10 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 商業施設（RC 造）のレンダリングとライティング(2) 復習 ： 自由な要素を追加してモデリングを試行する			
11	小川 弾 西尾 尚子		【第 11 回】 予習 ： 該当ページの通読 授業 ： 商業施設（RC 造）のテクスチャマッピング 復習 ： 自由なテクスチャを追加してモデリングを試行する			

12	小川 弾 西尾 尚子	【第 12 回】 予習：該当ページの通読 授業：建築物のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する							
13	小川 弾 西尾 尚子	【第 13 回】 予習：該当ページの通読 授業：応用課題 1 住宅（木造）のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する							
14	小川 弾 西尾 尚子	【第 14 回】 予習：該当ページの通読 授業：応用課題 2 住宅（RC 造）のプレゼンテーション 復習：設定を変えて操作を試行する							
15	小川 弾 西尾 尚子	【第 15 回】 予習：過去課題を見直す 授業：到達度チェック 復習：到達度チェック 内容の見直し							
授業開始前学習		「CAD I」で学んだ 2 次元の操作方法について、復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題について、学生の中からとくに代表的なものを複数選び、スクリーンに表示しながら解説してフィードバックする。							
テキスト・教材		「最短で学ぶ Vectorworks 建築製図とプレゼンテーション」（学芸出版社）							
参考書									
評価の基準と方法		授業中の演習課題の提出内容および授業態度を 5 割、期末に行う到達度チェックを 5 割の目安で総合して評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎		○	
関連科目		CAD I							
その他		・CAD の操作は順を追って学ぶものであるので、出席を重視する。 ・テキストは基本操作の解説書であり、他の授業でも CAD の操作は必要であるため必ず購入すること。 ・テキストはバージョンアップする可能性があるため、初回受講時に指導する。 ・この授業を履修するには、「CAD I」を修得済であること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員のうち、小川は建築設計事務所において CAD を用いた住宅設計を実践してきた実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし受講生が CAD の基本操作から 3D の作図方法などができるよう演習を行う。							

科目分類	140-331-22			授業コード	FG0171
科目名称	CADⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	CADⅢ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	西尾 尚子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾・梶原			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	VectorWorks(CAD ソフト)を用いて、三次元データを CG にするための技能を習得する。 また、他のアプリケーションを用いて、効果的なプレゼンテーション表現についても学ぶ。				
到達目標	CAD ソフト、画像処理ソフト等を用いて、図面、3D パースなどを含むプレゼンテーション資料が作成できる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : 概要、3D ボリューム作成レビュー 復習 : 授業計画の確認			
2	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 2 回】 予習 : 3D ファイレットと NURBS 曲線等 事前学習 授業 : 3D ファイレットと NURBS 曲線等 復習 : 3D ファイレットと NURBS 曲線等 見直し			
3	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 3 回】 予習 : 課題演習 a ボリューム作成補足 事前学習 授業 : 課題演習 a ボリューム作成補足 復習 : 課題演習 a ボリューム作成補足 見直し			
4	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 4 回】 予習 : 課題演習 b テクスチャについて 事前学習 授業 : 課題演習 b テクスチャについて 復習 : 課題演習 b テクスチャについて 見直し			
5	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 5 回】 予習 : 課題演習 c マッピングについて 事前学習 授業 : 課題演習 c マッピングについて 復習 : 課題演習 c マッピングについて 見直し			
6	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 6 回】 予習 : 課題演習 d テクスチャの編集と作成 事前学習 授業 : 課題演習 d テクスチャの編集と作成 復習 : 課題演習 d テクスチャの編集と作成 見直し			
7	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 7 回】 予習 : 課題演習 e ライティング 1 事前学習 授業 : 課題演習 e ライティング 1 復習 : 課題演習 e ライティング 1 見直し			
8	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 8 回】 予習 : 課題演習 f ライティング 2 事前学習 授業 : 課題演習 f ライティング 2 復習 : 課題演習 f ライティング 2 見直し			
9	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 9 回】 予習 : 課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 事前学習 授業 : 課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 復習 : 課題演習 g アングルの作成、登録画面の作成 見直し			
10	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 10 回】 予習 : 課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 事前学習 授業 : 課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 復習 : 課題演習 h 画像ファイルの保存と活用 見直し			
11	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 11 回】 予習 : 課題演習 i 3D データの補足 事前学習 授業 : 課題演習 i 3D データの補足 復習 : 課題演習 i 3D データの補足 見直し			

12	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 12 回】 予習：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 事前学習 授業：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 復習：課題演習 j Photoshop で添景を加工する 見直し							
13	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 13 回】 予習：課題演習 k 添景を合成する 事前学習 授業：課題演習 k 添景を合成する 復習：課題演習 k 添景を合成する 見直し							
14	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 14 回】 予習：課題演習 l CG 完成作業 事前学習 授業：課題演習 l CG 完成作業 復習：課題演習 l CG 完成作業 見直し							
15	西尾 尚子 梶原 絵梨佳	【第 15 回】 予習：全授業内容の再確認 授業：まとめ 復習：見直し							
授業開始前学習		「CAD I」「CAD II」で学習した Vectorworks の 2 次元、3 次元の基本的操作を復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の課題は翌週の講義の最初にポイントを解説し、課題の上書きができる。							
テキスト・教材		必要資料を適宜配布する。							
参考書		「10 日間でマスター！Vectorworks」（エクスナレッジムック）							
評価の基準と方法		出席状況、授業中の演習課題の提出内容および受講態度 3 割、提出作品 7 割の総合的な判断に基づき評価する。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎		○	
関連科目		CAD I、CAD II							
その他		・「CAD II」までの単位を取得していること。 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	140-331-23 （ J ）			授業コード	FG0181
科目名称	プレゼンテーション技法			単位数	1.0 単位
英文名称	Presentation Techniques			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村・鈴木(利)			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	CAD にて取得してきた VectorWorks(CAD ソフト)の技能に加え、手書きスケッチ、グラフィックソフト等を融合して、よりレベルの高い建築、インテリア等のプレゼンテーションを学ぶ。				
到達目標	VectorWorks(CAD ソフト)の 2D,3D の上級技能を習得し、手書きスケッチやグラフィックソフト等と融合して建築、インテリア等のプレゼンテーション能力向上を目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 1 回】 予習 : CADII の内容を復習しておく 授業 : 概要 復習 : 基本 3D ボリューム作成技法を確認			
2	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 2 回】 予習 : 習得済みの CAD 技能を復習しておく 授業 : CAD 技能レビュー（実習） 復習 : CAD 技能全般を見直す			
3	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 3 回】 予習 : cad の 3D 表現の活用、レンダリングを確認しておく 授業 : 課題演習 a cad の 3D 表現の活用、陰線消去（実習） 復習 : 3D 表現の活用、陰線消去を復習			
4	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 4 回】 予習 : 陰線消去を 活用したパース例を調べる 授業 : 課題演習 b 陰線消去活用によるパースの作成（実習） 復習 : 陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る			
5	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 5 回】 予習 : 陰線消去に向けた 3D ボリュームを作る 授業 : 課題演習 c 陰線消去活用によるパースの作成（実習） 復習 : 陰線消去活用によるパースの作成を進める			
6	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 6 回】 予習 : Illustrator、Photoshop の機能を確認 授業 : 課題演習 d Illustrator、Photoshop による着色（実習） 復習 : Illustrator、Photoshop による着色を復習する			
7	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 7 回】 予習 : Illustrator、Photoshop による着色を進める 授業 : 課題演習 e Illustrator、Photoshop による着色（実習） 復習 : Illustrator、Photoshop による着色を完成			
8	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 8 回】 予習 : 添景を 使用したパースの例を調べる 授業 : 課題演習 f 添景の合成（実習） 復習 : 添景の合成機能を復習する			
9	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 9 回】 予習 : プレゼンテーションレイアウト例を調べる 授業 : 課題演習 g レイアウト演習 1（実習） 復習 : レイアウトを進める			
10	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 10 回】 予習 : 理解し易いプレゼンテーションを研究する 授業 : 課題演習 h プレゼンテーション演習 1（実習） 復習 : プレゼンテーション資料作成を進める			
11	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 11 回】 予習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完例を調べる 授業 : 課題演習 i グラフィックソフトによるスケッチ補完（実習） 復習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完技術を復習			

12	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 12 回】 予習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完を進める 授業 : 課題演習 j グラフィックソフトによるスケッチ補完 (実習) 復習 : グラフィックソフトによるスケッチ補完の完成							
13	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 13 回】 予習 : レイアウトエスキース案をつくる 授業 : 課題演習 k レイアウト演習 2 (実習) 復習 : レイアウトを進める							
14	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーションに向けての作業を進める 授業 : 課題演習 l プレゼンテーション演習 2 (プレゼンテーション・講評・ディスカッション) 復習 : プレゼンテーションをレビューし次なる課題の発見を行う							
15	神村 真由美 鈴木 利彦	【第 15 回】 予習 : 提出課題をレビューしておく 授業 : まとめ (講評) 復習 : 提出課題への講評をレビューする							
授業開始前学習		CAD II の内容を復習しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		制作時の質問には可能な限り都度回答する。また各自の制作状況を公開することで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材		必要資料を適宜配布する							
参考書		「10 日間でマスター！Vectorworks」(エクスナレッジムック)							
評価の基準と方法		課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。 授業を 3 分の 1 以上欠席した学生は単位を取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		◎		○	
関連科目		CAD II							
その他		その他 ・CAD の操作は順を追って学ぶものであるため、出席を重視する。 ・履修者がパソコン台数を超えた場合、初回の講義への出席、学年等に配慮してクラスを調整する。 ・履修制限を行う場合は、初回の講義への出席が基本条件となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		デザイン分野における実務経験を生かし、CAD やグラフィックソフトを用いたプレゼンテーションができるよう演習をおこなう。							

科目分類	140-330-23 （ J ）			授業コード	FG0190
科目名称	☆インターシップ実習／学外実習			単位数	1.0 単位
英文名称	Off-Campus Practice			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾・堀邊・茂木・山崎			開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	学外実習は、学生が、企業・公共組織などでの社会活動の体験をとおして、その社会性を養います。 学生は、企業におもむき、学校での学習・研究の成果や「自身の生き方」が社会でどのように評価されるかを体験し、「自己を高める」意味を見つめます。実習終了後、実習内容をまとめて発表を行います。				
到達目標	学外実習の主旨を正しく理解し、事前に周到な準備を行えること。実習中は適切な判断の下に行動し、必要な知識を習得できること。実習後はその成果を就職活動等に向けて活用できること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 ： シラバスを読む 授業 ： 事前授業 1 大学と社会 復習 ： 事前授業の復習を毎週ノートにまとめる			
2	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 ： 自分の履歴を書き出す 授業 ： 事前授業 2 自己をみつめる 1 復習 ： 自分の履歴を読みやすく見やすくまとめる			
3	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 ： 履歴書の下書き 授業 ： 事前授業 3 自己をみつめる 2 復習 ： 問題点を抽出し履歴書の完成			
4	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 ： 新聞を読む 授業 ： 事前授業 4 社会人の教養 1 復習 ： キーワードをまとめる			
5	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 ： 新聞を読む 授業 ： 事前授業 5 社会人の教養 2 復習 ： キーワードを抽出し学友とディスカッション			
6	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 ： キャリアハンドブックを読む 授業 ： 事前授業 6 社会人としてのマナー 復習 ： 学友とマナーチェック			
7	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 ： 学友、教職員と会話の実践訓練をする 授業 ： 事前授業 7 会社の人間関係 復習 ： 問題点を抽出し記録する			
8	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 ： 研修企業調査 授業 ： 事前授業 8 企業研究 （発表） 復習 ： 企業調査のまとめ			
9	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 ： 学外実習準備 授業 ： 学外実習（夏季集中）（実習） 復習 ： 実習日誌作成			
10	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 ： 実習日誌確認 授業 ： 学外実習（夏季集中）（実習） 復習 ： 実習日誌作成			
11	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 ： 実習日誌確認 授業 ： 学外実習（夏季集中）（実習） 復習 ： 実習日誌作成			

12	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 実習日誌確認 授業 : 学外実習（夏季集中）（実習） 復習 : 実習日誌作成							
13	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : 実習日誌確認 授業 : 学外実習（夏季集中）（実習） 復習 : 実習日誌作成							
14	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : 実習日誌確認 授業 : 学外実習（夏季集中）（実習） 復習 : 実習日誌作成							
15	西尾 尚子 堀邊 阿伊子 茂木 弥生子 山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 実習報告プレゼンテーション準備 授業 : 成果発表会および総括（発表） 復習 : 学外実習ふりかえり							
授業開始前学習		これまでの作品の整理、ブラッシュアップなどを含め、実習先に持参するポートフォリオを作成しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		事前授業のレポート等の提出後、および実習終了後の発表会にて講評を行う。							
テキスト・教材		適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		レポート（プレゼンテーション）、実習ノート、実習態度などによる総合評価。配点(100 点満点における)は、授業態度等 30 点、提出物 30 点、実習受講態度 40 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○	◎		○		
関連科目									
その他		原則として 2 週間の実習を行うが、受講には条件がある。（詳細は、履修ガイド及び学外実習関連掲示を参照） 実習に先立って行われる学外実習オリエンテーションは必ず出席する。実習先へのお礼、手みやげ代として実習費がかかり、原則として返却しない。実習先への交通費、かかる経費等実費はすべて自己負担。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築インテリア関連企業での実務経験を活かし、建築・インテリア分野での仕事に求められる資質・能力について講義する。							

科目分類	140-330-22	授業コード	FG0201
科目名称	フィールドワーク	単位数	1.0 単位
英文名称	Fieldwork	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李・橋田	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	地域に育まれた伝統的な文化や建物・街並みを調査・体験し、伝統工芸や食文化などに触れることにより、その土地の生活文化を調査研究する。 授業では、ディスカッションやグループ発表などのグループワークやプレゼンテーションを実施する。さらに、現地を訪れてフィールドワーク実習を行う。		
到達目標	現地を訪れ学ぶために必要となる的確な計画立案力・情報収集力を身につける。特色あるその土地の文化や工芸、インテリアや建築などの知識を深める。グループワークや団体行動を通して、社会で必要となる力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋田 洋子 李 志炯	【第 1 回】 予習：シラバスをよく読む 授業：事前授業 1（4 月）：ガイダンス 復習：配布資料をよく読む	
2	橋田 洋子 李 志炯	【第 2 回】 予習：実習エリアの資料収集 授業：事前授業 2（5 月）：課題説明・フィールドワーク行動計画（グループワーク） 復習：訪問先の検討	
3	橋田 洋子 李 志炯	【第 3 回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業 3（6 月）：フィールドワーク訪問先調査研究 1（グループワーク） 復習：訪問先資料の整理	
4	橋田 洋子 李 志炯	【第 4 回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業 4（7 月）：フィールドワーク訪問先調査研究 2（グループワーク） 復習：訪問先資料のまとめ	
5	橋田 洋子 李 志炯	【第 5 回】 予習：訪問先資料の収集 授業：事前授業 5（8 月）：フィールドワーク訪問先研究発表（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：資料の完成	
6	橋田 洋子 李 志炯	【第 6 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録	
7	橋田 洋子 李 志炯	【第 7 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録	
8	橋田 洋子 李 志炯	【第 8 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-1 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録	
9	橋田 洋子 李 志炯	【第 9 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録	
10	橋田 洋子 李 志炯	【第 10 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録	
11	橋田 洋子 李 志炯	【第 11 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-2 日目③（夏季集中）（フィールドワーク）	

		復習：実習成果の記録							
12	橋田 洋子 李 志炯	【第 12 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目①（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録							
13	橋田 洋子 李 志炯	【第 13 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目②（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録							
14	橋田 洋子 李 志炯	【第 14 回】 予習：訪問先資料の確認 授業：フィールドワーク実習-3 日目③（夏季集中）（フィールドワーク） 復習：実習成果の記録							
15	橋田 洋子 李 志炯	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：実習成果の発表・まとめ（グループワーク・プレゼンテーション） 復習：報告書の完成							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		計画立案から調査研究・実習の間、ディスカッションを通してフィードバックする。							
テキスト・教材									
参考書									
評価の基準と方法		この科目は団体行動となるため授業態度と協調性を重視する。 事前授業及び報告会などへの出席・提出物・授業態度 50%、フィールドワーク実習 50%で評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○		○	◎				
関連科目									
その他		・この授業は国内（主に地方）での集中講義を実施するため、費用が 1 人 3 ～ 5 万円程度かかる予定。 ・履修者は初回授業に必ず出席すること。 ・2023 年度は実施形態を 2 泊 3 日としているが、社会事情（新型コロナ感染拡大など）により短縮実施もあり得る。 ・履修人数が 60 名を超えた場合は抽選を行う。最少および最大催行人数を設定する。大学側との協議の結果、実施できない可能性もある。 ・団体行動のため、指示に従わない等の場合は履修を取り消していただきます。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	141-331-23 (J)	授業コード	FG0410
科目名称	インテリアデザイン I	単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤・リヴィエレ・山田	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	飲食店舗にはレストラン、カフェ、バー、屋台などのさまざまな種類と特徴がある。課題を通して、用途や条件をふまえた飲食店舗のインテリアデザインの設計プロセスを習得する。設計条件の把握、飲食店舗の機能や要素の理解、飲食店におけるインテリア設計の基本知識などを総合的に習得する。授業では実習および中間・最終プレゼンテーションを行う。		
到達目標	課題の主旨を正しく理解し、適切な問題設定の下にインテリアを計画すること。そのインテリアの目的に合う適切な手法で、空間を正確に表現できること。またその内容を人に的確に伝えられること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : ガイダンス 課題①出題 復習 : 課題① 参考事例調査	
2	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 2 回】 予習 : テキスト 001 項～010 項、コンセプトの検討 授業 : エスキース・作業①? 1 (実習) 復習 : 条件の整理、制作作業	
3	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 3 回】 予習 : テキスト 011 頁～034 頁、計画の検討 授業 : エスキース・作業①? 2 (実習) 復習 : 問題点の整理、制作作業	
4	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 4 回】 予習 : テキスト 047 頁～070 頁、立体表現の検討 授業 : エスキース・作業①? 3 (実習) 復習 : 制作作業	
5	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 5 回】 予習 : 講評会準備 授業 : 課題①講評 (プレゼンテーション) 課題②出題 復習 : 課題② 参考事例調査	
6	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 6 回】 予習 : 参考事例調査、コンセプトの検討 授業 : エスキース・作業②? 1 (実習) 復習 : 条件の整理	
7	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 7 回】 予習 : テキスト 010 頁～034 頁、平面計画の検討 授業 : エスキース・作業②? 2 (実習) 復習 : 平面計画作業	
8	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 8 回】 予習 : テキスト 035 頁～046 頁、断面計画の検討 授業 : エスキース・作業②? 3 (実習) 復習 : 断面計画作業	
9	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 9 回】 予習 : 平面・断面計画の検討 授業 : エスキース・作業②? 4 (実習) 復習 : 平面・断面計画作業	
10	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 10 回】 予習 : 中間講評準備 授業 : 課題②中間講評 (プレゼンテーション) 復習 : コメントセッション資料自習	
11	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエレ 山田 尚弘	【第 11 回】 予習 : テキスト 072 頁～090 頁、模型表現の検討 授業 : エスキース・作業②? 5 (実習) 復習 : 模型制作作業	

12	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエ 山田 尚弘	【第 12 回】 予習：模型制作作業 授業：エスキース・作業②? 6（実習） 復習：模型制作ブラッシュアップ															
13	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエ 山田 尚弘	【第 13 回】 予習：テキスト 091 頁～106 頁、プレゼンテーションの検討 授業：エスキース・作業②? 7（実習） 復習：プレゼンテーション制作作業															
14	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエ 山田 尚弘	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション制作作業 授業：エスキース・作業②? 8（実習） 復習：プレゼンテーション制作作業															
15	佐藤 勉 フランク・ラ・リヴィエ 山田 尚弘	【第 15 回】 予習：最終講評準備 授業：課題②最終講評（プレゼンテーション） 復習：プレゼンテーションの整理															
授業開始前学習		教科書「新しいインテリアデザインの実技」の各章を読んでおくこと。															
授業内課題のフィードバックの方法		中間講評会及び最終講評会にて作品のプレゼンテーションと講評を行う。															
テキスト・教材		村口峯子他著『新しいインテリアデザインの实技』（市ヶ谷出版社） このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。															
参考書		授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。															
評価の基準と方法		授業は演習と講義などで進める。よって評価は受講態度、提出内容、提出期限を重視する。配点（100 点満点における）は受講態度等 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。															
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当						△				○				◎		○	
関連科目		インテリアデザイン計画 B															
その他		エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。															
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員 2 名は建築・インテリアデザインの実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生がインテリアデザインの実務に役立つ実習を行う。															

科目分類	141-331-23 （J）		授業コード	FG0420	
科目名称	インテリアデザインⅡ		単位数	2.0 単位	
英文名称	Interior Design Ⅱ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	神村 真由美		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	神村・駒井		開講時期	3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	ホテルは単に宿泊する機能だけでなく、ロビー、レストラン、バー、物販、式典、会合など、さまざまな用途施設の複合空間である。課題を通して、ホテルの立地条件や客層をふまえた具体的なインテリアデザインの設計プロセスを学ぶ。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に学習する。				
到達目標	課題の立地条件や客層をふまえた実践的なインテリアデザインの設計プロセスを課題演習の中で理解する。設計条件の把握、宿泊室などの機能や要素の理解、ホテルにおけるインテリア設計の基礎知識などを総合的に習得しながら、各自の計画内容をわかりやすく表現することを目標とする				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み確認する 授業 : ガイダンス、課題①出題 復習 : ガイダンスを受けて準備物の確認を行う			
2	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 2 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業①? 1（実習） 復習 : エスキース・作業①? 1 復習 各自の詳細スケジュール作成			
3	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 3 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業①? 2（実習） 復習 : エスキース・作業①? 2、各自内容再確認 資料整理			
4	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 4 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業①? 3（実習） 復習 : 発表準備を進める			
5	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 5 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題①講評、課題②出題（プレゼンテーション・講評・ディスカッション） 復習 : 課題①講評復習、課題②準備確認			
6	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 6 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②? 1（実習） 復習 : エスキース・作業②? 1 復習 スケジュール作成			
7	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 7 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②? 2（実習） 復習 : エスキース・作業②? 2、各自内容再確認 資料整理			
8	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 8 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②? 3（実習） 復習 : エスキース・作業②? 3、エスキース展開			
9	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 9 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②? 4（実習） 復習 : エスキース・作業②? 4、エスキース進展、発表準備			
10	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 10 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題②中間講評（発表・講評・ディスカッション） 復習 : 中間講評内容レビュー、 詳細スケジュール確認			
11	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 11 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②? 5（実習） 復習 : エスキース・作業②? 5、エスキース展開			

12	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 12 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②?6 (実習) 復習 : エスキース・作業②?6、エスキース進展							
13	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 13 回】 予習 : エスキース準備 授業 : エスキース・作業②?7 (実習) 復習 : エスキース・作業②?7、エスキース制作作業							
14	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 14 回】 予習 : エスキース準備 提出準備 授業 : エスキース・作業②?8 (実習) 復習 : エスキース・作業②?8 提出準備							
15	神村 真由美 駒井 美穂子	【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 課題②最終講評 (プレゼンテーション・講評・ディスカッション) 復習 : 講評レビュー							
授業開始前学習		宿泊施設の様々な事例を調べておくことを推奨する。							
授業内課題のフィードバックの方法		エスキース中の個別質問にはその都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材		教科書 : 「新しいインテリアデザインの実技」市ヶ谷出版社 このほかに必要な資料は指示またはプリントを配布する。							
参考書		授業にあわせ推薦図書、参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法		授業は演習と講義などで進める。よって評価は出席、受講態度、提出内容、提出期限を重視する。。配点 (100 点満点における) は出席・受講態度 50 点、提出物 50 点の配分とする。出席が 10 回未満 (授業回数 3 分の 2 未満) の場合は、単位修得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○		◎	○
関連科目		インテリアデザイン計画 C							
その他		エスキース作業や提出・発表などのスケジュールを各自管理すること。 社会の動きや身の回りの生活環境などを日頃から意識的に観察・情報収集して考察し、理解を深めること。 CAD を中心としたパソコンによるプレゼンテーション技法の修得に努めること。 正課学外活動で展示会などの見学を予定している。交通費などは自己負担とする。 設計製図 I、インテリアデザイン I を履修済みであること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間 (2 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		複数の担当教員は共にホテルインテリアデザイナーとしてのの実務経験を生かし、宿泊施設のインテリアデザイン提案ができるよう演習をおこなう							

科目分類	141-331-12 (J)	授業コード	FG0430
科目名称	インテリアデザイン論	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Interior Design	授業区分	講義
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	インテリア空間を理解し、空間のデザインを促すための論である。 インテリア空間をデザインするためには、さまざまなインテリアの要素、要因などの知識が必要である。 要素、要因の観点は多種多様であるが、この論では、空間の考え方と有り様を中心に論ずる。 その内容を各自が問題意識を持ち、研究・習得する。授業では小課題のグループ発表などを行う。		
到達目標	インテリアデザインを考える上で必要な知識を幅広く身につけること。それらの知識をふまえ、小課題やレポートを通して、インテリア空間を自分の視点で正確に読み取り、的確に表現できること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込んでおく 授業 : ガイダンス 復習 : 授業のテーマと目的を良く理解しておく (小課題 1)	
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習 : インテリアデザインと聞いてイメージするキーワードの考察 授業 : インテリアデザインとは (小課題 1 グループ発表) 復習 : インテリアデザインの領域の再確認	
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習 : 住まい以外の好きな空間 授業 : 何も無かった空間 復習 : インテリアデザインの用途別分類 (小課題 2)	
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習 : 日本と海外の住まいの違い 授業 : 様々な空間 (小課題 2 グループ発表) 復習 : 日本と海外の空間の歴史とその違いと特徴を認識	
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習 : 自分の家の玄関のリサーチ 授業 : 靴を脱ぐ住まい 復習 : 玄関、畳の名称や寸法	
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習 : 季節の行事 授業 : 人の動作、行動と寸法 復習 : モジュールについて (小課題 3)	
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習 : 自分の部屋にある家具の確認 授業 : 家具の役割 (小課題 3 グループ発表) 復習 : 家具の種類、用途の再確認	
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習 : 自分の部屋の収納量をリサーチ 授業 : 収納 復習 : 部屋別の収納家具やその寸法、デザインの再確認	
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習 : 自分の部屋の照明のリサーチ 授業 : 自然のあかりと人工のあかり 復習 : あかりの種類の確認 (小課題 4)	
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習 : 自分のキッチンのリサーチ 授業 : 台所、風呂、便所 (小課題 4 グループ発表) 復習 : キッチン、風呂、トイレに使われている素材の確認	
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習 : 自分の寝室のリサーチ 授業 : 寝室、玄関	

		復習：寝室、玄関に使われている素材の確認						
12	佐藤 勉	【第 12 回】 予習：自分の家の中に使われている素材の整理 授業：素材 1 復習：自分の家の床・壁・天井など素材を確認						
13	佐藤 勉	【第 13 回】 予習：自分の好きな素材・色を探す 授業：素材 2 復習：素材の種類、トレンドの確認						
14	佐藤 勉	【第 14 回】 予習：自分の好きな家具のデザイン 授業：まとめ 1 復習：室内環境の再認識						
15	佐藤 勉	【第 15 回】 予習：自分の好きなインテリアスタイル 授業：まとめ 2 復習：15 回の授業内容を良く理解しておく						
授業開始前学習		「図学と透視画の基礎」授業で使用した教科書「新しいインテリアデザインの実技」第 1 章 1－1 と 1－2 をよく読んでおくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		小課題ワークシート提出後の授業でグループ発表と講評を行う。						
テキスト・教材		授業に必要な資料は指示、又は配布する。 作業に必要な用具、教材は指示に応じて各自用意する。						
参考書		授業にあわせて、推選図書、参考書を紹介をする。						
評価の基準と方法		小課題と最終レポート、受講態度等を総合して評価する。 配点（100 点満点における）は、小課題等 20 点、受講態度等 30 点、最終レポート 50 点の配分とする。 出席が 10 回未満の場合は、単位修得不可。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザインⅠ、インテリアデザインⅡ							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築、インテリアデザインの実務経験あり。建築・インテリアデザイン分野の実務に役立つ内容について講義する。							

科目分類	141-331-12 (J)			授業コード	FG0440
科目名称	インテリアデザイン計画 A			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design A			授業区分	講義
科目責任者	橋田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	住宅のインテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察し、学んでいく。実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目的とする。授業では、演習課題や課題発表などのワークと共に、グループ発表などのグループワークを行う。				
到達目標	実測や空間体験を通して、材質感やスケール感覚などを理解するとともに、住空間におけるインテリアデザイン計画の基本的知識を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込んでおく 授業 : ガイダンス 復習 : 授業のテーマと目的を良く理解しておく			
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : インテリアデザインでイメージすることを整理 授業 : 住空間インテリアデザイン概論（演習課題 1） 復習 : 住空間のインテリアデザインの領域の再確認			
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 自分の家のエントランス空間をリサーチ 授業 : エントランス空間（演習課題 2） 復習 : 自分の家のエントランス空間の部材・素材の確認			
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 自分の家のリビング空間のリサーチ 授業 : リビング空間（演習課題 3） 復習 : 自分の家のリビング空間の部材・素材の確認			
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 自分の家のダイニング空間のリサーチ 授業 : ダイニング空間（演習課題 4） 復習 : 自分の家のダイニング空間の部材・素材の確認			
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 自分の家のいばん人が集うところをリサーチ 授業 : 実測① 人が集う空間のスケール把握（グループワーク 1）（グループ発表 1） 復習 : 実測①の分析資料を作成			
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 自分の家のキッチン空間のリサーチ 授業 : キッチン空間（演習課題 5） 復習 : 自分の家のキッチン空間の部材・素材の確認			
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 自分の家の働く空間のリサーチ 授業 : 働く空間（演習課題 6） 復習 : 自分の家の働く空間の部材・素材の確認			
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 自分の家のサニタリー空間をリサーチ 授業 : サニタリー空間（演習課題 7） 復習 : 自分の家のサニタリー空間の部材・素材の確認			
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 自分の家の機能的な空間をリサーチ 授業 : 実測② 機能的空間のスケール把握（グループワーク 2）（グループ発表 2） 復習 : 実測②の分析資料を作成			
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 : 自分の家の寝室空間のリサーチ 授業 : 寝室空間（演習課題 8）			

		復習：自分の家の寝室空間の部材・素材の確認							
12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：自分の家または、知人の子供の空間のリサーチ 授業：子供空間（演習課題 9） 復習：自分の家または知人の子供の空間の部材・素材の確認							
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：自分がイメージする和のキーワード、機能などリストアップ 授業：和の空間（演習課題 10） 復習：自分の家の中の和空間の部材・素材の確認							
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：自分の家の個人的な空間をリサーチ 授業：実測③ 個人的空間のスケール把握（グループワーク 3）（グループ発表 3） 復習：実測③の分析資料を作成							
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：自分の好きな住空間を探してくる（雑誌などで） 授業：講評（課題発表 1） 復習：15 回の授業内容をよく理解しておく							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。暮らしている住まいの空間を出来るだけ観察するように。デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法		演習を実施した際には、講義内での解説を行う。課題発表やグループ発表では、講評を行う。							
テキスト・教材		授業中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書		講義中に指示する。							
評価の基準と方法		事例研究レポート・見学レポート・授業態度 を総合して評価。配点は、研究レポート 30 点、見学レポート 40 点、平常点（授業態度・課題提出・授業内演習）30 点。出席回数が授業の 3 分の 2 未満は単位取得不可。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ							
その他		学外で見学会を行うことがあります。その際に必要な交通費・入場料などの経費は自己負担となります。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。建築・インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-331-13 （ J ）			授業コード	FG0450
科目名称	インテリアデザイン計画 B			単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design B			授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話、そして朝昼晩といった時間経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時にインテリアデザインの前提となる「コンセプト」や「ターゲット設定」などの重要性和それらの構築方法を「シーンメイクスペースデザイン」を通して理解してゆくことを目的とする。				
到達目標	自身が対峙する空間の「課題」が明確にでき、「コンセプト」「ターゲット設定」「提供価値」と必然となる具体解決提案に結びつけることができるようになること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	出原 秀仁	【第 1 回】 予習：シラバスを一読俯瞰し、授業進行概要を把握しておく。 授業：ガイダンス 復習：ガイダンス内容と自身の学習目的を確認する。			
2	出原 秀仁	【第 2 回】 予習：空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。 授業：シーンメイクスペースデザイン概論 復習：自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。			
3	出原 秀仁	【第 3 回】 予習：空間の情緒的要素を伝達する方法を考えておく。 授業：空間計画にける脚本づくり 復習：身近な空間の情報を文章化してみる。			
4	出原 秀仁	【第 4 回】 予習：「価値」という言葉の意味を調べておく。 授業：空間価値 復習：自身の興味ある商業店舗の空間価値を考えてみる。			
5	出原 秀仁	【第 5 回】 予習：「らしさ」と「共通イメージ」という言葉の意味を調べておく。 授業：「らしさ」と「共通イメージ」 復習：頭の中に浮かぶイメージをキーワードとして記述してみる。			
6	出原 秀仁	【第 6 回】 予習：自身が行うデザインはいつもどこから出てくるのかを考えておく。 授業：デザインのプロセス 復習：イメージとデザインの間関係を再確認する。			
7	出原 秀仁	【第 7 回】 予習：デザインと企画の差異について考えておく。 授業：空間構築のコンセプト（１） 復習：デザイン行為において文字をあつかうことを実践してみる。			
8	出原 秀仁	【第 8 回】 予習：紙面やW E B で頻繁に目にするキーワードを調べておく。 授業：空間構築のコンセプト（２） 復習：時代のキーワードについて考えてみる。			
9	出原 秀仁	【第 9 回】 予習：デザインや制作の目的について考えておく。 授業：空間構築の目標設定 復習：5 w 1 h について再確認する。			
10	出原 秀仁	【第 10 回】 予習：自身の商品・サービスの購入基準は何か考えておく。 授業：空間の「機能価値」と「意味的価値」（１） 復習：良いコミュニケーションとはなにかを再確認する。			
11	出原 秀仁	【第 11 回】 予習：健康志向について調べておく。 授業：環境と衛生 復習：配布資料を再読し、環境と衛生について理解を深める。			

12	出原 秀仁	【第 12 回】 予習：「属性」の意味を調べておく。 授業：「イメージ」と「デザイン」（１） 復習：配布資料を再読み、「イメージ」について理解を深める。							
13	出原 秀仁	【第 13 回】 予習：配布資料に記載の「イメージ」と「デザイン」のキーワードを理解しておく。 授業：「イメージ」と「デザイン」（２） 復習：配布資料を再読み、「イメージ」と「デザイン」の関係について理解を深める。							
14	出原 秀仁	【第 14 回】 予習：３Ｒについて調べておく 授業：環境配慮設計 復習：集客施設における環境配慮事例を調べてみる。							
15	出原 秀仁	【第 15 回】 予習：講義内容を振り返り、疑問点があれば抽出しておく。 授業：講評 復習：本講義で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題回答を全体分析し、講義中にフィードバックする。							
テキスト・教材		講義中に配布する。必要に応じて指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		評価の配点は、出席状況を 7 0 点満点、2 回の課題内容・提出期限を 3 0 点満点の配分とする。 出席が 1 0 回以下（講義回数 3 分の 2 回）、または 2 題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		インテリアデザインⅠ、インテリアデザイン計画Ⅱ							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。							

科目分類	141-331-13 (J)	授業コード	FG0460
科目名称	インテリアデザイン計画 C	単位数	2.0 単位
英文名称	Interior Design C	授業区分	講義
科目責任者	出原 秀仁	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	出原 秀仁	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	インテリア空間を形（造形）や機能としてとらえるだけでなく、光・音・香り・映像・会話そして朝昼晩といった時間の経過を含む「情景／シーン」として考察してゆく。同時に多様なインテリアデザインのフィールドとその事例を通して、「シーンメイクスぺースデザイン」におけるコミュニケーションとプレゼンテーションの重要性も理解してゆく。		
到達目標	常に世の中の最新動向と問題点に目を向ける意識向上。自身のコミュニケーションスキルとプレゼンテーションスキルにおける課題の自覚とその克服を目指した向上指針を明確にする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	出原 秀仁	【第 1 回】 予習 : シラバスを俯瞰し、授業進行を把握しておく。 授業 : ガイダンス 復習 : ガイダンス内容と自身の目的を確認する。	
2	出原 秀仁	【第 2 回】 予習 : 空間において目に見える形以外にどんな要素があるかを考えておく。 授業 : シーンメイクスぺースデザイン概論 復習 : 自身の興味ある対象空間における情緒的要素を抽出考察してみる。	
3	出原 秀仁	【第 3 回】 予習 : 情景という観点で、自身の興味ある対象空間の良さを考えておく。 授業 : シーンの構成要素 復習 : 講義で得た思考、理論、概念を元に身近な実空間で考察してみる。	
4	出原 秀仁	【第 4 回】 予習 : 空間にかかわるデザインの領域をおよび分野を調べておく。 授業 : デザインのフィールド 復習 : 配布資料を再読し、デザインのフィールドを再確認する。	
5	出原 秀仁	【第 5 回】 予習 : 近年話題の商業施設を調べておく。 授業 : 商業施設 復習 : 配布資料を再読し、特に開発コンセプトについての理解を深める。	
6	出原 秀仁	【第 6 回】 予習 : ディスプレイデザインについて調べておく。 授業 : ディスプレイデザイン (1) 復習 : 講義で紹介された、実デザインを net や文献で再確認する。	
7	出原 秀仁	【第 7 回】 予習 : 空間における ICT ツール（映像や装置など）について調べておく。 授業 : ディスプレイデザイン (2) 復習 : 講義で得た知識の基づきデザインのメッセージ性についての理解を深める。	
8	出原 秀仁	【第 8 回】 予習 : ホテル&リゾートにおける集客のキャッチコピーを数点調べておく。 授業 : ホテル&リゾート (1) 復習 : 配布資料を再読し、多様なホテルブランドの成り立ちについての理解を深める。	
9	出原 秀仁	【第 9 回】 予習 : 近年話題のホテル&リゾート施設を調べておく。 授業 : ホテル&リゾート (2) 復習 : ホテル&リゾートに対する多様なニーズとコンセプトを再確認する。	
10	出原 秀仁	【第 10 回】 予習 : 舞台やステージ演出に必要なと思われる要素を調べておく。 授業 : ステージセット（舞台美術） 復習 : 舞台美術の演出構成要素を再確認する。	
11	出原 秀仁	【第 11 回】 予習 : テマパークの非日常性について考えておく。 授業 : テマパーク 復習 : ストーリーの重要性を認識し、大学の課題や自身のポートフォリオ制作に活用する。	

12	出原 秀仁	【第 12 回】 予習：「コンセプト」と「イメージ」の違いについて調べておく。 授業：コンセプチュアルアーキテクチャー 復習：配布資料を再読し、建築計画におけるコンセプトの必要性を再認識する。						
13	出原 秀仁	【第 13 回】 予習：自身のポートフォリオなどプレゼンテーションツールの強み弱みを認識しておく。 授業：プレゼンテーション 復習：講義内容を自身の目標と照らし合わせ、プレゼンにおける自身の問題点と課題を明確にする。						
14	出原 秀仁	【第 14 回】 予習：知財とはなにか？を調べておく。 授業：著作権と意匠法 復習：特許庁 H P などを参考に知財について理解を深める。						
15	出原 秀仁	【第 15 回】 予習：授業内容を振り返り、疑問点質問があれば抽出しておく。 授業：講評 復習：授業で得た知識や思考方法を自身の目標と照らし合わせ、自身の問題点や課題を明確にする。						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		提出された課題回答を全体分析し、講義内に全員へフィードバックする。						
テキスト・教材		講義中に配布する。必要に応じて指示する。						
参考書								
評価の基準と方法		評価の配点は、出席状況を 7 0 点満点、2 回の課題内容・提出期限を 3 0 点満点の配分とする。 出席が 1 0 回以下（講義回数の 3 分の 2 回）、または 2 題の課題未提出のいずれの場合も単位取得できない。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成			住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	インテリアデザインⅡ、インテリアデザイン計画 B							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	空間デザインと空間事業企画及び計画の実務経験あり。 商業空間、宿泊空間、博物館、医療治療空間などを実践してきた経験を活かし、その企画・計画・デザイン方法、社会背景や課題解決方法について講義する。							

科目分類	141-330-22 （ J ）			授業コード	FG0471
科目名称	家具デザイン I			単位数	2.0 単位
英文名称	Furniture Design I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	リビングデザインの重要な要素である家具の主要な材料となる木材について「加工・材料学」と連携しながら素材の特性や加工方法、道具の使い方と家具図の描き方などを学びます。 具体的には、前半は木工房で手工具の使い方と木の加工方法、後半は CAD を使って家具図の描き方を学びます。また最後は家具の模型制作を学びます。				
到達目標	基本的な木材の特徴を学びながら木工用手工具を安全に使えるようになる。 また建築やインテリアとは異なる家具図の描き方を学ぶことを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 1 回】 予習 ：・教科書 1 頁～ 3 頁を読んでおくこと。 授業 ：・家具デザインとは。 復習 ：・「家具デザイン」について再確認しておく。			
2	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 2 回】 予習 ：・教科書 4 頁～11 頁を読んでおくこと。 授業 ：・はかる、たたく 復習 ：・「はかる、たたく」について復習しておくこと。			
3	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 3 回】 予習 ：・教科書 13 頁～19 頁を読んでおくこと。 授業 ：・切る、削る 復習 ：・「切る、削る」について復習しておくこと。			
4	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 4 回】 予習 ：・教科書 21 頁～26 頁を読んでおくこと。 授業 ：・彫る、あける 復習 ：・「彫る、あける」について復習しておくこと。			
5	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 5 回】 予習 ：・教科書 27 頁～28 頁を読んでおくこと。 授業 ：・抜く、締める 復習 ：・「抜く、締める」について復習しておくこと。			
6	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 6 回】 予習 ：・教科書 29 頁～32 頁を読んでおくこと。 授業 ：・仮固定する、磨く 復習 ：・仮固定する、磨く」について復習しておくこと。			
7	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 7 回】 予習 ：・教科書 34 頁、56～77 頁を読んでおくこと。 授業 ：・接着する、仕上 復習 ：・「接着する、仕上」について復習しておくこと。			
8	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 8 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による板取図の描き方 その 1 復習 ：・板取図の描き方の復習しておくこと。			
9	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 9 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による板取図の描き方 その 2 復習 ：・板取図の描き方を復習しておくこと。			
10	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 10 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による 3D モデリング その 1 復習 ：・3D モデリングの方法を復習しておくこと。			
11	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 11 回】 予習 ：・配付資料をよく見ておくこと。 授業 ：・CAD による 3D モデリング その 2			

		復習：・3D パースの描き方を復習しておくこと。							
12	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 12 回】 予習：・配付資料をよく見ておくこと。 授業：・CAD による三面図の描き方 その 1 復習：・三面図の描き方を復習しておくこと。							
13	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 13 回】 予習：・配付資料をよく見ておくこと。 授業：・CAD による三面図の描き方 その 2 復習：・三面図の描き方を復習しておくこと。							
14	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 14 回】 予習：・今までに学んだ CAD による家具図の描き方を確認しておく。 授業：・理解度の確認ミニテスト 復習：・テスト結果に基づき、自分の学びを再確認する。							
15	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 15 回】 予習：・家具模型の材料について調べておくこと。 授業：・家具模型の作り方 復習：・作り方を再確認しておくこと。							
授業開始前学習		家具の主要材料である木について、また制作に使用する手工具についてネットや文献を通じて基本的な知識を身に付けておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で行うミニテストなどを通じ自身の理解度を把握し、個別の指導により問題点の改善を図る。							
テキスト・教材		自前教科書「家具デザイン」及び配付資料							
参考書									
評価の基準と方法		・授業への取り組み 3 0 %、課題成果物及びレポートなどの提出物 7 0 %で総合的に評価。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		「加工・材料学」で木材や木質材料について詳しく学ぶ為、同時履修を必須とする。							
その他		・教場設備の関係で【定員 16 名】の 2 クラス開講（合計 32 名）とする。 ・履修希望者が定員を超えた場合、抽選を行う。その際、上位学年と初回授業出席者を優先する。 ・定員を超えた場合の抽選は初回授業で行うので、履修希望する場合は初回に必ず出席すること。 ・学外での見学レポート課題がある。その際の交通費、入場料等の費用は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家具デザインの実務経験のある教員が担当しており、実務に即した図面の描き方や木の加工方法などを学ぶことが出来る。							

科目分類	141-330-22 （ J ）			授業コード	FG0480
科目名称	家具デザインⅡ			単位数	2.0 単位
英文名称	Furniture Design Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本・野田			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	わたしたちの生活に欠かせない一番身近な家具である「すわるかかち」＝「イス」について考えます。 生活の道具として、本当に座りやすく美しい「すわるかかち」＝「イス」とはどのようなものなのか？ 合板という木質材料の特性を理解しながら、人が「すわる」という行為のために必要なかたちについて考察し、デザインし制作することで検証します。 前期に身に付けた道具の使い方や木の加工技術を生かしながら実際に工房で製作を行い、頭の中だけではなく素材に触れ自分の手で考え制作します。 そして、制作した「すわるかたち」に実際に座ることで「身体で発見し学ぶ」を目指します。				
到達目標	前半は、前期に学んだ CAD の技術を使いながら合板という材料の特性を生かした「すわるかたち」のデザインをする。 後半は、実際に木工房で制作を行い、完成した「すわるかたち」に座って自身のデザイン検証を行う。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 1 回】 予習：身の回りの座るための道具について調査すること。 授業：「すわるかかち」とは 復習：「すわるかたち」について再確認しておく。			
2	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 2 回】 予習：「すわる」行為について研究しておくこと。 授業：「すわる」行為についての問題点の発見 復習：問題点の整理			
3	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 3 回】 予習：かたちのスタディー、スケッチなど 授業：「すわる」行為における問題点に対する解決方法の検討 復習：スケッチ、スタディモデルのブラッシュアップ			
4	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 4 回】 予習：スケッチ、スタディモデルの更なるブラッシュアップ 授業：解決方法のかたちによる展開 復習：スケッチのブラッシュアップ			
5	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 5 回】 予習：有名デザイナーによる名作イスを研究すること。 授業：解決方法のかたちによる展開その 2 復習：スケッチやスタディモデルの更なるブラッシュアップ			
6	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 6 回】 予習：前期の授業で配布された CAD 図面の資料を再確認しておく。 授業：CAD による三面図や 3D パースの制作 復習：プレゼンテーション用図面の出力			
7	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 7 回】 予習：模型制作の準備 授業：プレゼン用模型の制作 復習：プレゼンテーションの準備			
8	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 8 回】 予習：プレゼンテーションの準備 授業：中間発表会（デザインプレゼンテーション） 復習：講評での指摘事項の再確認、修正			
9	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 9 回】 予習：プレゼンテーションで指摘された内容で図面を修正しておくこと。 授業：板取作業(実習) 復習：背面の修正			
10	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 10 回】 予習：制作の準備 授業：部品の切り出し(実習) 復習：図面の修正			

11	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 11 回】 予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業：部品の加工作業、その他(実習) 復習：特になし							
12	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 12 回】 予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業：組み立て作業、その他(実習) 復習：制作上で明らかになったデザインの変更点による図面の修正							
13	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 13 回】 予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業：組み立て、仕上げ作業、その他(実習) 復習：制作上の変更点による図面の修正							
14	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 14 回】 予習：自前教科書の該当部分を読んでおくこと 授業：組み立て、仕上げ作業(実習) 復習：デザインの変更点による図面の修正							
15	榎本 文夫 野田 昇一郎	【第 15 回】 予習：講評会用の図面、模型の準備 授業：講評会、実証体験（発表） 復習：講評会での検証結果をレポートにまとめる。							
授業開始前学習		前期で習った家具図の描き方、3Dモデリングのやり方などを復習しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業内で、個々のデザインに対してチェックを行い、ブラッシュアップしていく。 授業期間中にデザインプレゼンテーションを行い、講評によるデザイン改善を行う。 最終授業で実際の制作物による講評会を行い、個々のデザインへの評価を伝え質問等に回答する。 自分のデザインに対する客観的な視点からの意見を取り込み、今後のデザイン改善に繋げていく。							
テキスト・教材		自前教科書「家具デザイン」及び配付資料							
参考書									
評価の基準と方法		授業への取り組み 30%、課題提出物や完成作品及びレポートなど 70%で総合的に評価。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		前期科目「加工・材料学」が履修済であること。							
その他		・工房設備の関係で【定員 8 名】の 1 クラス開講とする。 ・履修希望者が定員を超えた場合は上位学年を優先する。 ・学外での見学レポート課題がある。その際にかかる経費は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		家具デザインの実務経験がある教員が担当。実務と同じデザインプロセスの体験や木材の加工技術などを経験することができる。							

科目分類	141-330-23 （ J ）		授業コード	FG0490	
科目名称	家具デザインⅢ		単位数	2.0 単位	
英文名称	Furniture Design Ⅲ		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	榎本 文夫		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	榎本 文夫		開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00		研究室	1-204	
授業概要	地域貢献としてのものづくりを考える。 大学の地元である稲城市民が利用するための家具をデザインし、制作する。 地域社会との関わりを意識し、人々のつどう場としてふさわしい環境を生み出せるデザインを考える。 稲城市と連携し、具体的に設置する場所を設定し、その条件を踏まえ安全で快適に使用できるデザインを考える課題解決型学修。 制作したものは、稲城市に寄贈し実際に市民に利用してもらう予定。				
到達目標	学生が提案したデザインのプレゼンテーションを行い、関係者による投票で実際に制作するデザインを選定する。 制作はグループワークで行う。 それらの経験によってプレゼンテーション能力やグループワークにおける協調性、またコミュニケーション能力を身に付ける。 また二年次に身に付けた木の加工技術のスキルアップを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおくこと 授業 : 「つどうかたち」の意味 復習 : 「つどうかたち」の意味を各自考え、まとめておくこと。			
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 : 身近な「つどうかたち」の実例を集める 授業 : 「つどうかたち」の実例検証、スケッチによるスタディ 復習 : 「つどうかたち」のデザインを考えスケッチにまとめておく。			
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 : 「つどうかたち」のスケッチを描く 授業 : 「つどうかたち」のデザインスタディ、スケッチやモデルによる検証作業 復習 : 「つどうかたち」のスタディモデルを複数作成してみる			
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 : 「つどうかたち」のスタディモデルをブラッシュアップ 授業 : 「つどうかたち」のデザインスタディモデルによるデザイン検証 復習 : 3D モデリングによるデザインスタディ作業			
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 : 3D モデリングから三面図を作成 授業 : 「つどうかたち」の三面図とスタディモデルによる検証作業 復習 : 絞り込んだデザインをさらにブラッシュアップする			
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 : CAD による三面図や 3D パース制作 授業 : CAD による三面図や 3D パースによるデザイン検証 復習 : 検証結果をプレゼンテーション用の三面図やパースに反映させる			
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 : プレゼンテーションに向けてデザインの再確認 授業 : プレゼンテーション用モデルの作成及びデザイン検証 復習 : プレゼンテーション用図面とモデルの準備			
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 : プレゼンテーションに向けて発表の準備 授業 : プレゼンテーション及び投票 復習 : 講評を受けてデザインの修正またはブラッシュアップ			
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 : 今週の制作作業の確認と準備 授業 : 制作その 1・グループ編成、作業分担など (グループワーク) 復習 : 翌週作業の段取り確認			
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 : 今週の制作作業の確認と準備 授業 : 制作その 2・木取り作業、部品製作(グループワーク)			

		復習：翌週作業の段取り確認							
11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習：今週的制作作業の確認と準備 授業：制作その 3・部品製作及び組み立て作業(グループワーク) 復習：翌週作業の段取り確認							
12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習：今週的制作作業の確認と準備 授業：制作その 4・組み立て及び研磨作業(グループワーク) 復習：翌週作業の段取り確認							
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習：今週的制作作業の確認と準備 授業：制作その 5・研磨作業及び塗装作業(グループワーク) 復習：翌週作業の段取り確認							
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習：今週的制作作業の確認と準備 授業：制作その 6・仕上げ(グループワーク) 復習：講評会の準備（提出物の制作や修正）							
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習：講評会の準備 授業：講評会（プレゼンテーション） 復習：全体作業を通してのレポート作成							
授業開始前学習		地域貢献におけるものづくりや「地域貢献活動」「プロボノ」について調べておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業でデザインエスキスを行い、問題点や修正点を指摘する。 稲城市の関係者に対するデザインプレゼンテーションを行い、参加者からの客観的な視点による感想や意見を取り込み、デザイン改善に繋げていく。 また、実際に市内に設置し市民に使用してもらうことで、問題点を検証し今後のデザインにフィードバックさせる。							
テキスト・教材									
参考書									
評価の基準と方法		授業への取り組み 50%、提出物及びレポート 50%。 特に後半の制作におけるグループワークでの協調性を重視、評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○		○	○	◎	
関連科目		履修希望者は前期科目「加工・材料学」を履修済であるか、同時履修すること。 「家具デザイン II」を履修済であることを強く推奨。							
その他		・工房設備の関係で「定員 6 名」とする。 ・履修希望者が定員を超えた場合は調整を行う。その際、「家具デザイン II」と「加工・材料学」を履修済であることを優先する。 ・定員を超えた場合の調整は、初回授業で行うので希望者は必ず出席すること。 ・学外での見学レポート課題がある。それにかかる費用は自己負担とする。 ・設置場所の調査のため、現地への交通費等が発生する場合があるが、その際の費用は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		実務経験のある教員が担当。実務と同じデザインプロセスの体験や加工技術などを身に付けることができる。							

科目分類	141-330-12 (J)			授業コード	FG0500
科目名称	☆家具デザイン論／家具デザイン研究			単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Furniture Design			授業区分	講義
科目責任者	野田 昇一郎			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	野田 昇一郎			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	前半は、自分の空間のための収納のデザインを考える。 収納という家具は、それが置かれる「空間」と収納される「もの」によって外側と内側から様々な制約を受ける、いわばダブルバインド状態にある。 そのような収納について考察し、新しい収納のあり方をデザインする。 後半は、名作イスについて近代デザイン史などの歴史的背景も含め研究する。学類が所有する名作イスの素材やデザイナーについて各自の視点で調査し発表を行う。				
到達目標	自分の部屋におく自分が所有するモノのための収納、というリアルな設定を通して考えることで、新しい収納家具のあり方をデザインできる力を身に付ける。 また後半の課題では、名作イスの名作といわれるその理由をデザインの歴史的背景も併せて考え、独自の視点による名作の基準を発見する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	野田 昇一郎	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおく 授業 : 授業説明とオリエンテーション 復習 : 自分の部屋の収納とモノの状態について調べる			
2	野田 昇一郎	【第 2 回】 予習 : 自分の部屋の収納についてまとめておく 授業 : 収納家具のデザインについて 復習 : 問題点、課題の整理			
3	野田 昇一郎	【第 3 回】 予習 : 自分の部屋の「もの」の理想な収納状態を考える 授業 : デザインスタディその 1 (スケッチ・ラフモデル制作) 復習 : スケッチなどの整理			
4	野田 昇一郎	【第 4 回】 予習 : 収納する「もの」の調査結果をまとめる 授業 : デザインスタディその 2 (スケッチ・ラフモデル制作) 復習 : 今日のスタディ結果を整理しておく			
5	野田 昇一郎	【第 5 回】 予習 : 製図の準備 授業 : デザイン検証・図面化その 1 (第 4 回までのスケッチをベースに CAD による 3D モデリング) 復習 : 今日の授業内容の整理、振り返り			
6	野田 昇一郎	【第 6 回】 予習 : CAD の準備 授業 : デザイン検証・図面化その 2 復習 : 今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認			
7	野田 昇一郎	【第 7 回】 予習 : CAD の準備 授業 : CAD のよる図面化その 3 (レンダリング・三面図等の作成) 復習 : 今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認			
8	野田 昇一郎	【第 8 回】 予習 : CAD の準備 授業 : CAD のよる図面化その 4 (レンダリング・三面図等の作成) 復習 : 今日の授業内容の整理、振り返り、翌週の作業内容確認			
9	野田 昇一郎	【第 9 回】 予習 : 模型の準備 授業 : 模型制作 復習 : 模型制作修正等、翌週の作業内容確認			
10	野田 昇一郎	【第 10 回】 予習 : プレゼン資料項目の整理 授業 : プレゼン資料の制作			

[illegible]

☆陶芸デザイン入門／陶芸デザインⅠ

科目分類	141-330-22 （J）			授業コード	FG0510
科目名称	☆陶芸デザイン入門／陶芸デザインⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Ceramic Design Ⅰ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	渡辺 信史			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	田中(真)・渡辺(信)			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	陶器の「ロクロ成形」の基本を経験する事により、普段の生活の中にある「器」がどのように「制作」「製造」されているのかをより具体的に考察、研究する。 また、制作する際には、「自ら」もしくは「誰かが」が使用する事を考えデザインする。食生活に欠かせない器をデザインする時の要素である形、大きさ、重さ、色、柄、収納性、食べ物との関係、いい雰囲気、魅力等をバランスよく考える。また各人、陶磁器にはどんなものがあるか？その歴史は？資料を集め、研究する。 実習・資料制作の2課題を行う。				
到達目標	ロクロ成形の基本を理解し、既存の陶磁器への理解を深める。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 真琴 渡辺 信史	【第1回】 予習：シラバスを読む 授業：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習：配布資料を読み問題抽出			
2	田中 真琴 渡辺 信史	【第2回】 予習：参考資料を見る 授業：ロクロ成形 ワークショップ（発表） 復習：アイデア研究 問題点の整理			
3	田中 真琴 渡辺 信史	【第3回】 予習：参考資料収集 アイデアスケッチ 授業：ロクロ成形（実習） 復習：参考資料まとめ 問題点の整理			
4	田中 真琴 渡辺 信史	【第4回】 予習：アイデアスケッチ 授業：ロクロ成形（実習） 復習：アイデア研究 問題点の整理			
5	田中 真琴 渡辺 信史	【第5回】 予習：アイデアスケッチ 授業：ロクロ成形（実習） 復習：手捻りによる取っ手付きの器のまとめ 問題点の整理			
6	田中 真琴 渡辺 信史	【第6回】 予習：参考資料収集 アイデアスケッチ 授業：ロクロ成形（実習） 復習：アイデア研究 問題点の整理			
7	田中 真琴 渡辺 信史	【第7回】 予習：陶磁器研究 授業：課題説明・質疑応答 復習：課題の理解			
8	田中 真琴 渡辺 信史	【第8回】 予習：陶磁器研究 授業：資料制作 復習：資料検討・問題点の整理			
9	田中 真琴 渡辺 信史	【第9回】 予習：陶磁器研究 授業：資料制作 復習：資料検討・問題点の整理			
10	田中 真琴 渡辺 信史	【第10回】 予習：陶磁器研究 授業：資料制作 復習：資料検討・問題点の整理			

11	田中 真琴 渡辺 信史	【第 11 回】 予習：資料を検討 授業：資料発表（プレゼンテーション） 復習：問題点の整理							
12	田中 真琴 渡辺 信史	【第 12 回】 予習：絵付けアイデア検討 授業：「ろくろ制作」見本に沿って制作する（実習） 復習：「ろくろ制作」のまとめ 問題点の整理							
13	田中 真琴 渡辺 信史	【第 13 回】 予習：絵付けアイデア検討 授業：絵付け 釉がけ（課題解決型学習） 窯詰め（実習）（グループワーク） 復習：絵付け・釉がけのまとめ							
14	田中 真琴 渡辺 信史	【第 14 回】 予習：配布資料を読む 授業：窯だし（実習） 作品の写真撮影 プレゼンテーション制作説明（グループワーク） 復習：プレゼンテーション研究							
15	田中 真琴 渡辺 信史	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ふりかえり 制作作品を使う							
授業開始前学習		・料理雑誌や図書館、インターネットを活用し、自分が作りたい器・絵付けのイメージを固める。 ・普段使用している器の「サイズ」や「使い心地」を考察しておく。 ・自分が好きな陶磁器を探す。							
授業内課題のフィードバックの方法		制作する前には、各人アイデアチェックを行い、ディスカッションを通して幅広い考察を行う。授業 11 回・15 回目の講評では、制作した器及び資料について発表を行い、個別に講評、質問に回答する。							
テキスト・教材		必要な資料は指示、または配布する							
参考書									
評価の基準と方法		出席状況、提出作品、積極的な授業態度で評価を行う。配点は、実習 50%・資料制作 50%とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること。							
その他		工房設備の関係で、希望者が多い場合履修制限をかける場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		現在、陶芸作家として陶器のデザイン、制作、販売を行っております。株式会社 九つ井（このついで）にて、蕎麦屋店舗にて実際に使用する器のデザイン、制作の実務経験がある。本学にて長年にわたる非常勤講師の実務経験があり、これらを活かし現在の教育に従事する。							

☆陶芸デザイン A／陶芸デザイン II

科目分類	141-330-22 （J）		授業コード	FG0520	
科目名称	☆陶芸デザイン A／陶芸デザイン II		単位数	2.0 単位	
英文名称	Ceramic Design II		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	渡邊 真理子		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	土橋・渡辺(真)		開講時期	2 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	陶磁器における代表的な成形法、タタラ技法（板作り）による花器の制作を行う。 ① 2～10mm の板状の粘土は、柔らかいうちは丸めるなどで形作ることが出来、型などに押しつけることで変形させることも出来る。また板状の粘土を少し乾かし、板同士を張り合わせることで形を作ることでも出来る。このように一つの技法でも粘土の状態により適する形やデザインがあることを理解し制作を進める。 ② 花器の制作をするにあたり、1 つ花（草花や苔、ドライフラワーなど）を各自選定し、その花のための花器をデザイン制作する。 ③ 設置空間に調和する器物の研究をする。				
到達目標	タタラ技法の制作工程を理解すること と 選定した花の研究 と 花器と花と設置空間の調和 といった複合的要素を組み合わせデザインすることで、より高いデザイン力を身につけることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	共同
授業回数	担当者	授業の内容			
1	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習：配布資料をよく読み授業計画を確認するあれ			
2	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 2 回】 予習：身近にある花器を調査する 授業：粘土板（タタラ）のワークショップ（発表）（プレゼンテーション）（課題解決型学習） 復習：粘土板（タタラ）のワークショップのまとめ			
3	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 3 回】 予習：固いタタラ箱の展開を研究する 授業：花器資料の資料の発表。課題①-固いタタラと柔らかいタタラの成形の研究 アイデアスケッチ マケット制作（課題解決型学習） 復習：タタラ箱のマケット制作			
4	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 4 回】 予習：参考資料を見る 箱制作準備 授業：課題①-固いタタラと柔らかいタタラのアイデアチェック 制作発表（発表）（プレゼンテーション）（グループディスカッション） 復習：アイデアスケッチ マケット制作の展開			
5	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 5 回】 予習：固いタタラのアイデアスケッチ マケット制作まとめ 授業：課題①-固いタタラと柔らかいタタラの研究制作（実習） 復習：固いタタラ マケット問題点抽出			
6	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 6 回】 予習：固いたタタラのアイデアスケッチ 授業：課題①-固いタタラの研究制作（実習） 復習：固いタタラ マケット問題点抽出			
7	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 7 回】 予習：器物に花を生ける 授業：課題①-講評（発表）（プレゼンテーション） 復習：器物の空間設定の検討			
8	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 8 回】 予習：暮らしの中の器物を調査 授業：課題②造形花器 アイデア研究（課題解決型学習）（実習） 復習：柔らかい造形のアイデア検討			
9	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 9 回】 予習：アイデアスケッチ マケット制作 授業：課題②造形花器 アイデアチェック（発表）（プレゼンテーション）（グループディスカッション）（実習） 復習：アイデアスケッチ マケット制作の展開			

10	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 10 回】 予習：アイデアスケッチ 授業：課題②造形花器 制作 マケットから実作へ（実習） 復習：バランス検討						
11	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 11 回】 予習：アイデア検討 授業：課題②造形花器 制作（実習） 復習：空間と器物のバランス研究						
12	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 12 回】 予習：柔らかい造形花器に花を活ける 授業：課題②造形花器 講評（発表）（プレゼンテーション） 復習：課題②振り返り						
13	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 13 回】 予習：花器、空間、植物のバランス検討 授業：プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（実習）（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション研究						
14	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 14 回】 予習：花器の設定空間を検討 授業：上絵基礎 プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（ディスカッション） 復習：器物と植物のまとめ						
15	渡邊 真理子 土橋 美緒	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：振り返り 設定空間に花を活けてみる						
授業開始前学習		自分の作りたい形、雰囲気などを検索し、資料等まとめておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業 4、9 回目はチェックを全体で行い、アイデアを煮詰める。授業 7、13 回目は実作を個別にチェックし問題点を整理する。授業 15 回目の全体講評では、実作、プレゼン資料で発表を行い、個別に講評、質問に答える。						
テキスト・教材		必要な資料は指示、または配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		タタラ技法の工程理解度 30%、提出作品 50%、プレゼンテーション 20%の配分とする。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成						
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					◎	○	○	
関連科目	この授業を履修するには、2023 年度入学の学生は陶芸デザイン入門を習得済みであること、2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること。							
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		自身の陶作品制作活動の経験を活かし、焼き物を通じて自己を表現することの楽しさを伝えていきたい。美術大学での陶芸実習指導を長年行っている。器物からオブジェまで幅広く制作をしている。土橋も同様に制作活動を行っており、また指導の経験がある。						

☆陶芸デザインB／陶芸デザインⅢ

科目分類	141-330-23 （J）			授業コード	FG0530
科目名称	☆陶芸デザインB／陶芸デザインⅢ			単位数	2.0 単位
英文名称	Ceramic Design Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	池田 大介			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	池田・土橋			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	陶磁器の代表的な制作方法のひとつである、電動ロクロによるカップ＆ソーサーの制作を行う。 成形、施釉、焼成といった陶磁器制作に関する一連の工程、技術を経験することにより、日常生活で使われる器がどのようにして制作されているかを学ぶ。 日常生活でも使用頻度の高いコーヒーや紅茶を飲む器・カップ＆ソーサーの歴史や飲み方、茶葉の種類、サイズ、素材、また付属として使う器物を調査研究する。形状の研究ではカップと把手、カップとソーサーのバランスを考えると同時に、飲み易さ、洗いやすさ、収納といった使い心地（機能性）も研究する。空間や飲みたいものを限定し、魅力的な作品を制作する。制作を通して土という素材の特徴を理解し、総合的なデザイン力を養い、高い技術力を養うことを目的とする。 プレゼンテーションでは自分の制作意図や目的、実際の使用感を提示した上で、他者の意見や感想を聞きより良い器とは何なのかを考察、研究する。				
到達目標	カップ＆ソーサーの歴史を学び、限定した飲み物に応じたカップ＆ソーサーが制作できるようになる。総合的なデザイン力を身に付けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	池田 大介 土橋 美緒	【第 1 回】 予習：シラバスを読む 授業：オリエンテーション（課題解決型学習） 復習：授業のテーマを理解し授業日程を把握。茶器の資料収集			
2	池田 大介 土橋 美緒	【第 2 回】 予習：世界のカップ＆ソーサーを調査 お茶と茶器を調査 授業：カップ＆ソーサーに関する資料提出。 アイデアチェック ワークショップ（発表）（プレゼンテーション） 復習：アイデアの検討 問題点の抽出			
3	池田 大介 土橋 美緒	【第 3 回】 予習：お茶の飲み方を調査 アイデアスケッチ 授業：カップ＆ソーサーセットの制作 土練り カップ本体（実習） 復習：問題点の抽出			
4	池田 大介 土橋 美緒	【第 4 回】 予習：各自選択したお茶の研究 アイデアスケッチ 授業：カップ＆ソーサーセットの制作 カップと把手（実習） 復習：器物のバランス検討			
5	池田 大介 土橋 美緒	【第 5 回】 予習：器物の部品と全体のバランスを検討 アイデアスケッチ 授業：カップ＆ソーサーセットの制作 ソーサー 中間チェック（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：問題点の抽出			
6	池田 大介 土橋 美緒	【第 6 回】 予習：アイデアスケッチ 授業：カップ＆ソーサーセットの制作 カップとソーサー（課題解決型学習） 復習：問題点の抽出			
7	池田 大介 土橋 美緒	【第 7 回】 予習：全体のバランスを検討の上微調整 アイデアスケッチ 授業：カップ＆ソーサーセットの制作 中間チェック（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：全体のバランスを検討			
8	池田 大介 土橋 美緒	【第 8 回】 予習：お茶と器、空間についての資料収集 アイデアスケッチ 授業：削り、把手の制作、ソーサー制作（課題解決型学習）（実習） 復習：問題点の抽出			
9	池田 大介 土橋 美緒	【第 9 回】 予習：アイデアスケッチ 試作研究 授業：ソーサーの制作（課題解決型学習）（実習） 復習：全体のバランスを検討、カップとソーサーと付属物まとめ			

10	池田 大介 土橋 美緒	【第 10 回】 予習：空間の中の茶器を検討 カフェ訪問 授業：ソーサーの削り→乾燥へ（課題解決型学習）（実習） 復習：器物のかたち、色彩、大きさ等の問題抽出							
11	池田 大介 土橋 美緒	【第 11 回】 予習：絵付け、釉薬の検討 授業：素焼きの窯詰め、絵の具、釉薬の使い方（実習）（グループワーク） 復習：全体のバランスを再確認							
12	池田 大介 土橋 美緒	【第 12 回】 予習：絵付け、釉薬の検討 授業：絵付け、釉掛け（課題解決型学習）（実習）（グループワーク） 復習：全体のバランスを再確認							
13	池田 大介 土橋 美緒	【第 13 回】 予習：絵付け、釉薬の検討 授業：窯詰め 本焼成 プレゼン研究説明（課題解決型学習）（実習）（グループワーク） 復習：							
14	池田 大介 土橋 美緒	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：窯出し 写真撮影 プレゼンテーション研究（課題解決型学習）（実習）（グループワーク）（ディスカッション） 復習：							
15	池田 大介 土橋 美緒	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション研究 授業：講評（発表）（プレゼンテーション）（ディスカッション） 復習：ふりかえり 茶器を使う							
授業開始前学習		カフェに行きコーヒーや紅茶を飲んでみる。自分が飲みたいものは何か。器物の雰囲気はどんな感じがいいか考える。雑誌等を参考に作りたい形のイメージを固め、たくさんスケッチする。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業 2 回目はチェックを全体で行い、アイデアを煮詰める。授業 7 回目は実作を全体でチェックし問題点を整理する。授業 15 回目の全体講評では、実作、プレゼンボードで発表を行い、個別に講評、質問に回答する。							
テキスト・教材		必要な資料は指示、または配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度、課題への取り組み方、積極性 50 点 提出作品とプレゼンテーションを 50 点とする。 ※実技授業のため基本的な技術の習得度、授業への積極的な取り組みを評価します。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						○	○	◎	
関連科目									
その他		・この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を修得済みであること。 ・汚れてもいい服装を着用し、爪を切り、髪は後ろでまとめておくこと。 ・ショップ、カフェ等の見学の実費は各自負担とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が協同で指導する科目です。担当教員のうち、池田大介は陶芸家として器の制作、販売をしております。信楽にある株式会社羅工房にて陶磁器のデザイン、制作、販売の実務経験がある。また、他大学の一般の方に向けた講座や陶芸教室での実務経験もある。土橋美緒も同様に制作活動を行っており、また指導の経験がある。							

科目分類	141-330-12 (J)	授業コード	FG0540
科目名称	陶芸デザイン研究	単位数	2.0 単位
英文名称	Studies of Ceramic Design	授業区分	講義
科目責任者	渡邊 真理子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	渡邊 真理子	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	陶芸素材、制作工程、制作技法、やきもの史、国内外の作家及び作品などを資料を通して幅広く解説する。第 1 回～第 5 回では陶芸の基礎知識の解説をしていく。第 6 回～第 10 回では制作過程に関する事を中心に作品解説していく。第 11 回～第 14 回では陶芸の分野ごとに作品解説していく。第 15 回授業は合評を行う。		
到達目標	陶芸全般を学ぶことにより、知識・思考から生まれる創造性の幅を広げたデザイン力を身につける事を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	渡邊 真理子	【第 1 回】 予習 : 陶芸の作品とはどのようなものがあるか調べる 授業 : 陶芸の基礎知識 復習 : 陶芸基礎の項目を整理しておく	
2	渡邊 真理子	【第 2 回】 予習 : 陶芸素材について調べる 授業 : 陶芸素材と制作工程 復習 : 素材と工程について整理しておく	
3	渡邊 真理子	【第 3 回】 予習 : 制作技法を調べる 授業 : 制作技法と焼成 復習 : 焼成について整理しておく	
4	渡邊 真理子	【第 4 回】 予習 : 焼き物の歴史を調べる 授業 : やきもの史の基礎 復習 : やきもの史をまとめる	
5	渡邊 真理子	【第 5 回】 予習 : 身近な焼き物の産地を調べる 授業 : 日本国内の生産地とその特徴 復習 : 日本国内の生産地を確認する	
6	渡邊 真理子	【第 6 回】 予習 : 粘土と磁器土の違いを調べる 授業 : 粘土と磁器土について 復習 : 陶器と磁器の違いをまとめる	
7	渡邊 真理子	【第 7 回】 予習 : 第 2 回の授業復習と見直し 授業 : 釉薬の調合について 復習 : 素材と釉薬についてまとめる	
8	渡邊 真理子	【第 8 回】 予習 : 第 3 回の授業復習と見直し 授業 : 焼成温度・窯について 復習 : 窯の種類や焼成法を整理する	
9	渡邊 真理子	【第 9 回】 予習 : 第 3 回の制作技法の復習と見直し 授業 : 装飾について 復習 : 装飾技法をまとめる	
10	渡邊 真理子	【第 10 回】 予習 : 上絵について調べる 授業 : 上絵付けについて 復習 : 上絵について整理する	
11	渡邊 真理子	【第 11 回】 予習 : 身の回りの生活陶器を調べる 授業 : 生活陶器の考察 復習 : 生活陶芸のデザイン画を描く	

12	渡邊 真理子	【第 12 回】 予習 : 身近なタイルのデザインを調べる 授業 : 建築素材、タイルの考察 復習 : 壁面タイルのデザイン画を描く							
13	渡邊 真理子	【第 13 回】 予習 : 陶芸のオブジェ作品を調べる 授業 : オブジェ焼きの考察 復習 : オブジェ焼きをまとめる							
14	渡邊 真理子	【第 14 回】 予習 : イギリス北欧陶芸作家を調べる 授業 : イギリス、北欧陶芸の考察 復習 : イギリス北欧陶芸をまとめる							
15	渡邊 真理子	【第 15 回】 予習 : 陶芸作品をデザインする 授業 : コンセプトボードの講評 復習 : 素材・技法と思考についてまとめる							
授業開始前学習		展覧会などで実物の陶芸作品に数多く接しておく							
授業内課題のフィードバックの方法		各回、その授業で扱った内容に即した課題（レポートやデザイン画）をだします。							
テキスト・教材									
参考書									
評価の基準と方法		各授業課題のレポートまたはデザイン画成績 4 0 %、第 1 0 ・ 1 4 回課題でのデザイン画と制作意図の成績 6 0 %。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						○	○	◎	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		自身の陶作品制作活動の経験を活かし、受講生が発想から実制作までの一連のイメージが想像しやすい講義をする。 実物陶作品を見る機会を増やしてもらいたいため、毎授業陶芸の展覧会を紹介する。							

☆テキスタイルデザイン入門／立体織デザインⅠ

科目分類	141-330-22 （J）			授業コード	FG0550
科目名称	☆テキスタイルデザイン入門／立体織デザインⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	3-Dimensional Textile Design I			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	加藤 富喜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤（富）・高橋（藻）			開講時期	2 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	・スツール（柳宗理 バタフライスツール）の座面布をデザインし、住居空間におけるテキスタイルの効果を考察する。作品は、織の基本となる数種類の織組織を学習した上で、ワール糸やアクリル糸を用いて、木枠型の織機または卓上織機で制作し、実物大に仕上げる。 ・2022年度以前に入学の学生でこの授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を習得済みであること。				
到達目標	・織の技法による、色彩や柄、質感の効果を理解し、デザインや制作を行うことで、どのようなテキスタイルによって、住居空間の雰囲気に変化するか、イメージできるようになること。				
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の授業形態	共同
授業回数	担当者	授業の内容			
1	加藤 富喜	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでくる 授業 : オリエンテーション・テキスタイルについてと織布の特徴 復習 : 身近にあるテキスタイルを意識して見るようにする			
2	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 2 回】 予習 : 教室にある織機を見ておく 授業 : 木枠型織機の説明・サンプル用経糸の準備（実習／木枠に経糸を張る、綜統作り） 復習 : 経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る、綜統作りまで）			
3	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 3 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る、綜統作りまで） 授業 : 織り組織の説明・織る作業（実習／試し織り） 復習 : 織る作業の続きをする（試し織りまで）			
4	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 4 回】 予習 : 織る作業の続きをする（試し織りまで） 授業 : 織る作業（実習）・課題の説明 復習 : 織る作業の続きをする			
5	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 5 回】 予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 仕上げ方の説明・サンプルの完成、提出（実習） 復習 : テキスタイルに関する資料を調べる			
6	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 6 回】 予習 : デザイン考察の参考になる資料を見ておく 授業 : 課題の説明・コンセプト、デザインの考察・コンセプト、経糸の色の決定 復習 : デザインの考察			
7	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 7 回】 予習 : デザインの考察 授業 : デザインの決定、デザイン画の提出 復習 : サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく			
8	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 8 回】 予習 : サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく 授業 : 経糸の準備（実習／木枠に経糸を張る） 復習 : 経糸準備の続きをする（木枠に経糸を張る作業まで）			
9	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 9 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする（木枠に経糸を張る作業まで） 授業 : 経糸の準備（実習／綜統作り、織り付け） 復習 : 経糸の準備の続きをする（綜統作り、織り付けまで）			
10	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 10 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする（綜統作り、織り付けまで） 授業 : 織る作業（実習／緯糸の見え方を確認する） 復習 : 織る作業の続きをする			
11	加藤 富喜 高橋 藻由	【第 11 回】 予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 織る作業（実習）			

		復習　：　織る作業の続きをする							
12	加藤　富喜 高橋　藻由	【第 12 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業（実習／仕上げ方の説明） 復習　：　織る作業の続きをする							
13	加藤　富喜 高橋　藻由	【第 13 回】 予習　：　織る作業の続きをする 授業　：　織る作業（実習／仕上げ） 復習　：　仕上げの作業の続きをする							
14	加藤　富喜 高橋　藻由	【第 14 回】 予習　：　仕上げの作業の続きをする 授業　：　仕上げ、作品の撮影（実習） 復習　：　作品撮影・画像を印刷する・レポートの作成をする							
15	加藤　富喜 高橋　藻由	【第 15 回】 予習　：　作品、作品の写真、レポートを提出出来るようにする・講評会で作品を紹介できるようにコメントを準備しておく 授業　：　講評会・課題の提出 復習　：　講評会での講師や他学生からのコメントを振り返り、今後の学習に活かす							
授業開始前学習		・シラバスを読んでおく ・スツール（柳宗理　バタフライスツール）を実際に見ておくと課題がイメージしやすい （本学図書館にあります）							
授業内課題のフィードバックの方法		第 6 回、第 7 回のコンセプト、デザインの考察の授業では、個別に相談に乗りながら、アドバイスをを行う。 第 15 回の授業では一人ずつコメントを聞き、質問や講評を行う。							
テキスト・教材		特定のテキストは無い。参考資料として、プリントを配布する。 道具類は授業内で限定して貸し出す。糸などの材料を、必要に応じ各自で購入してもらう場合がある（教室にも使用可能な糸や材料はある）							
参考書									
評価の基準と方法		課題の提出状況、課題の内容（60%）と制作意欲・出欠回数（40%）による。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		非常勤講師としての織物の組織・色彩構成・素材に特化した授業経験を活かし、組織を学習する授業を行うとともに、制作活動の経験を活かし、住空間における織物についての制作工程の説明や実習を行う。							

☆テキスタイルデザイン A／立体織デザイン II

科目分類	141-330-22	授業コード	FG0560
科目名称	☆テキスタイルデザイン A／立体織デザイン II	単位数	2.0 単位
英文名称	3-Dimensional Textile Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	野田 吟	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	高橋(藻)・野田	開講時期	2 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	糸素材が持つ質感や色彩を考察し、デザイン計画を行い、木枠で小さなタペストリーを織る。具体的には、まず平織りのつづれ織りでの模様織り、ノッティング（結び織り、シャギー）、及びルーピング等の技法の修得（サンプル作り）を行う。その後それらを駆使して、公的な、及び、私的な空間へのインテリアとして機能するタペストリー制作を行い、簡単なプレゼンシートも作成する。		
到達目標	テキスタイルの基本的な構造、技術の基礎知識を身に付ける事を目標とする。また、デザインコンセプトを自身で立ち上げ、それに沿って制作の完成度を高める事も目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	野田 吟 高橋(藻)	【第 1 回】 予習 : 身の回りのテキスタイルに注視する（ラグや服地など、その組織やデザイン） 授業 : オリエンテーション・世界各地の織り物の紹介スライドを鑑賞し、感想記入・課題説明 復習 : 日常の中で織物を探し、良く観察してみる（糸の成り立ちを観察したり、素材感を確かめてみる）	
2	野田 吟 高橋(藻)	【第 2 回】 予習 : 配布プリントと、配信（Classroom 内）資料に目を通しておく 授業 : サンプル作り・木枠に経糸（たていと）を張る（整経） 復習 : ・枠織り機の仕組みを理解する	
3	野田 吟 高橋(藻)	【第 3 回】 予習 : 配布の技法資料に目を通しておく 授業 : サンプル織り①（つづれの模様織り技法） 復習 : その日学んだ技法を覚える	
4	野田 吟 高橋(藻)	【第 4 回】 予習 : 引き続き、配布の技法資料に目を通しておく 授業 : サンプル織り②（つづれの模様織り技法） 復習 : その日学んだ技法を覚える	
5	野田 吟 高橋(藻)	【第 5 回】 予習 : 引き続き、配布の技法資料に目を通しておく 授業 : サンプル織り③（つづれの模様織の技法、ノッティング、ルーピング、他） 復習 : その日学んだ技法を覚える	
6	野田 吟 高橋(藻)	【第 6 回】 予習 : 引き続き、配布の技法資料に目を通しておく 授業 : サンプル織り④（つづれの模様織の技法、ノッティング、ルーピング、他） 復習 : その日学んだ技法を覚える	
7	野田 吟 高橋(藻)	【第 7 回】 予習 : 自分が制作する課題 1 作品のイメージをする 授業 : ・コンセプト考案（シート記入、デザイン画作成）・試し織り 復習 : ・コンセプトシート完成	
8	野田 吟 高橋(藻)	【第 8 回】 予習 : 素材の準備 授業 : 課題 1 作品制作①（試し織りの後、本番制作） 復習 : ・織り具合チェック・修正点等、その日の記録①（作業を通しての気づき等を記す）	
9	野田 吟 高橋(藻)	【第 9 回】 予習 : 引き続き、素材の準備 授業 : 課題 1 作品制作② 復習 : ・織り具合チェック・修正点等、その日の記録②（作業を通しての気づき等を記す）	
10	野田 吟 高橋(藻)	【第 10 回】 予習 : 引き続き、素材の準備 授業 : 課題 1 作品制作③ 復習 : ・織り具合チェック・修正点等、その日の記録③（作業を通しての気づき等を記す）	
11	野田 吟 高橋(藻)	【第 11 回】 予習 : 引き続き、素材の準備 授業 : 課題 1 作品制作④ 復習 : ・織り具合チェック・修正点等、その日の記録④（作業を通しての気づき等を記す）	

12	野田 吟 高橋(藻)	【第 12 回】 予習 : 引き続き、素材の準備 授業 : 課題 1 作品制作⑤ 復習 : ・織り具合チェック ・修正点等、その日の記録⑤（作業を通しての気づき等を記す）							
13	野田 吟 高橋(藻)	【第 13 回】 予習 : 引き続き、素材の準備 授業 : 課題 1 作品制作⑥（織り上げた後、経糸の処理、展示形態への仕上げを行う）、作品の写真撮影、プレゼンシート作成の為の資料の準備 復習 : ・織り具合チェック ・その日の記録⑥（作業を通しての気づき等を記す）							
14	野田 吟 高橋(藻)	【第 14 回】 予習 : 課題 1 プレゼンシート作成の為の資料の準備 授業 : ・作品写真撮影 ・課題 1 プレゼンシート作成（PC ルームにて） 復習 : ・課題 1 プレゼンシートの完成 ＊尚、課題 1 が終わった人から随時、課題 2 を指導していく。課題 1 が評価のベースとなり、課題 2 は加点扱いとする。							
15	野田 吟 高橋(藻)	【第 15 回】 予習 : 発表に向けて、自作発表コメント内容考案 授業 : 発表（・一人ずつ作品発表 ・他の人の作品への感想等、考察アンケート記入） 復習 : ・アンケート提出 ・その後、各自、自作へのコメントを読む							
授業開始前学習		絨毯やタペストリー等が、インテリアまたは空間デザインに於いてどのように設置され、また扱われているか、興味を持って色々見ておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題作品制作時は、各学生のその日の記録（Google Classroom 内予定）に、それぞれへのアドバイス等を記入する。また、授業中にも個別に都度話し合いながら制作を進めていき、各学生とのやり取りを綿密に行う。授業第 15 回には、履修者全体の発表を行う。自身の作品の、コンセプトや織りのデザイン、作業内容について、良かった点、課題点等を確認する。また他人のデザインや考えに対して比較考察する。							
テキスト・教材		授業の中にプリント配布と、Classroom 内で資料配信。教材（木枠と素材）は、基本的に学校の備品を使用。随時、必要に応じて個別で準備するものを追加指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		課題 1 作品 80%、授業内レポート 10%、練習課題 5%、課題 2 作品 5%							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○	○	
関連科目		この授業を履修するには、2023 年度入学の学生はテキスタイルデザイン入門を習得済みであること、2022 年度以前に入学の学生はプロダクトデザイン入門を習得済みであること							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

☆テキスタイルデザインB／立体織デザインⅢ

科目分類	141-330-23 (J)	授業コード	FG0570
科目名称	☆テキスタイルデザインB／立体織デザインⅢ	単位数	2.0 単位
英文名称	3-Dimensional Textile Design Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	加藤 富喜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 富喜	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	・住空間に飾るファブリックパネルの布をデザインし、シチュエーションに合わせたインテリアデザインの効果を考察する。 作品は、織の基本となる数種類の織組織を学び、アクリル糸やウール糸を用い、卓上織り機・木枠・高機などで制作をする。 ・数種類の素材に触れ、素材による質感の違いを学習する。 ・この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を習得済みであること。		
到達目標	・織の技法による色彩や柄、質感の効果を理解し、デザインや制作を行うことで、どのようなテキスタイルによって住空間の雰囲気 が変化するかイメージできるようになること。 ・素材による質感の違いや特徴を知り、インテリアの中で、どのような理由で活用されているのかを理解すること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	加藤 富喜	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでくる 授業 : オリエンテーション・テキスタイルについてと織布の特徴 復習 : 身近にあるテキスタイルを意識して見るようにする	
2	加藤 富喜	【第 2 回】 予習 : 教室にある織機を見ておく 授業 : 織機の説明・サンプル用経糸の準備 (実習／整経) 復習 : 経糸の準備の続きをする (整経まで)	
3	加藤 富喜	【第 3 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする (整経まで) 授業 : 経糸の準備 (実習／整経、荒成通し、千巻き、綜統通し、箆通し) 復習 : 経糸の準備の続きをする (箆通しまで)	
4	加藤 富喜	【第 4 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする (箆通しまで) 授業 : 織る作業 (実習／織り付け、織り)・課題説明 復習 : 織る作業の続きをする	
5	加藤 富喜	【第 5 回】 予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 織る作業、仕上げ、サンプルの完成、提出 (実習) 復習 : テキスタイルに関する資料を調べる	
6	加藤 富喜	【第 6 回】 予習 : デザイン考察の参考になる資料を見ておく 授業 : 課題の説明・コンセプト、デザインの考察・コンセプト、経糸の色の決定 復習 : デザインの考察	
7	加藤 富喜	【第 7 回】 予習 : デザインの考察 授業 : デザインの決定、デザイン画の提出 復習 : サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく	
8	加藤 富喜	【第 8 回】 予習 : サンプルを制作した時の経糸の準備工程を確認しておく 授業 : 経糸の準備 (実習／整経) 復習 : 経糸準備の続きをする (整経まで)	
9	加藤 富喜	【第 9 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする (整経まで) 授業 : 経糸の準備 (実習／荒成通し、千巻き、綜統通し、箆通し、織り付け) 復習 : 経糸の準備の続きをする (織り付けまで)	
10	加藤 富喜	【第 10 回】 予習 : 経糸の準備の続きをする (織り付けまで) 授業 : 織る作業 (実習／緯糸の見え方の確認) 復習 : 織る作業の続きをする	

11	加藤 富喜	【第 11 回】 予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 織る作業（実習） 復習 : 織る作業の続きをする						
12	加藤 富喜	【第 12 回】 予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 織る作業、仕上げ方の説明（実習） 復習 : 織る作業の続きをする						
13	加藤 富喜	【第 13 回】 予習 : 織る作業の続きをする 授業 : 織る作業、仕上げ（実習） 復習 : 仕上げの作業の続きをする						
14	加藤 富喜	【第 14 回】 予習 : 仕上げの作業の続きをする 授業 : 仕上げ、作品の撮影（実習） 復習 : 作品撮影・画像を印刷する・レポートの作成をする						
15	加藤 富喜	【第 15 回】 予習 : 作品、作品の写真、レポートを提出出来るようにする・講評会で作品を紹介できるようにコメントを準備しておく 授業 : 講評会・課題の提出 復習 : 講評会での講師や他学生からのコメントを振り返り、今後の学習に活かす						
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		第 6 回、第 7 回のコンセプト、デザインの考察の授業では、個別に相談に乗りながら、アドバイスをを行う。 第 15 回の授業では一人ずつコメントを聞き、質問や講評を行う。						
テキスト・教材		特定のテキストはない。参考資料として、プリントを配布する。 道具類は授業内で限定して貸し出す。糸などの材料を、必要に応じ各自購入してもらう場合がある（教室内にも使用可能な糸や材料はある）						
参考書								
評価の基準と方法		課題の提出状況、課題の内容（60％）と制作態度・出欠回数（40％）による。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	
関連科目	この授業を履修するには、プロダクトデザイン入門を習得済みであること							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	非常勤講師としての織物の組織・色彩構成・素材に特化した授業経験を活かし、組織を学習する授業を行うとともに、制作活動の経験を活かし、住空間における織物についての制作工程の説明や実習を行う。							

☆インテリア・プレゼンテーション／空間演出 B

科目分類	141-330-23（2023 年～入学者） 141-330-13（～2022 年入学者）		授業コード	FG0620	
科目名称	☆インテリア・プレゼンテーション／空間演出 B		単位数	2.0 単位	
英文名称	Space Production B		授業区分	講義	
科目責任者	山崎 陽菜		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	橋田・堀邊・山崎		開講時期	3 年	
オフィスアワー	－		研究室	－	
授業概要	ショップデザインをテーマとし、業種により異なる要求機能について研究し理解した上で、デザイン的にも美しく、機能的なショップをデザインする事とする。 ショップ立地も各自で設定し、周囲の環境との関係を考察する。 ショップデザインを課題とした学外コンペティションへチャレンジする。 また、授業ではディスカッションやグループ発表などを実施する。				
到達目標	設定条件が少ない課題での柔軟な発想能力、自身の考えるインテリアデザインを限られたパネルの中で表現するスキル、短時間で理解してもらえる表現手法のスキル、プレゼンテーション能力の向上を目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 1 回】 予習：シラバスを読み込む 授業：課題の説明 復習：授業計画の確認			
2	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 2 回】 予習：課題の予習 授業：過去の事例研究（個人演習） 復習：過去の事例研究継続			
3	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 3 回】 予習：デザINSTAディ1 コンセプトワーク事前作業 授業：デザINSTAディ1 コンセプトワーク（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ1 コンセプトワーク作業継続			
4	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 4 回】 予習：デザINSTAディ2 コンセプトまとめ事前作業 授業：デザINSTAディ2 コンセプトまとめ&エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ2 エスキス内容整理			
5	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 5 回】 予習：デザINSTAディ3 ダイアグラム・機能検討事前作業 授業：デザINSTAディ3 ダイアグラム・機能検討 & エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ3 エスキス内容整理			
6	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 6 回】 予習：デザINSTAディ4 事前作業 授業：デザINSTAディ4 デザイン作業 & エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ4 エスキス内容整理			
7	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 7 回】 予習：デザINSTAディ5 事前作業 授業：デザINSTAディ5 デザイン作業 & エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ5 エスキス内容整理			
8	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 8 回】 予習：中間発表準備 授業：中間発表、講評（プレゼンテーション） 復習：講評内容整理			
9	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 9 回】 予習：デザINSTAディ6 平面・パースなど図面事前作業 授業：デザINSTAディ6 平面・パースなど図面作業 & エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ6 エスキス内容整理			
10	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 10 回】 予習：デザINSTAディ7 パネルレイアウト構想 授業：デザINSTAディ7 パネルレイアウト作業 & エスキス（個人演習・ディスカッション） 復習：デザINSTAディ7 エスキス内容整理			

11	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 11 回】 予習：提出準備 授業：最終提出・インターネットリサーチ課題説明 復習：インターネットリサーチの情報収集															
12	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 12 回】 予習：講評会準備 授業：講評会①（プレゼンテーション） 復習：講評内容のまとめ															
13	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 13 回】 予習：講評会準備 授業：講評会②（プレゼンテーション） 復習：講評内容のまとめ															
14	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 14 回】 予習：リサーチ準備 授業：インターネットリサーチ（個人演習） 復習：情報整理															
15	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 15 回】 予習：インターネットリサーチまとめ事前準備 授業：インターネットリサーチまとめ作業・提出（個人演習） 復習：授業のふりかえり															
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な商業施設を出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。															
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別にエスキスを繰り返し実施。															
テキスト・教材		授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する															
参考書																	
評価の基準と方法		積極的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品 6 割の総合的な判断に基づき評価する。															
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当						○				○				◎		△	
関連科目		インテリアデザインⅠ・インテリアデザインⅡ・空間演出 A															
その他		履修者は必ず初回授業を受講すること。 学外にての調査等の際の交通費等すべて自己負担とする。 CAD、3D の技能が必要となる。 コンペティション参加も条件。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容																	

科目分類	141-330-12	授業コード	FG0580
科目名称	加工・材料学	単位数	2.0 単位
英文名称	Processing and Materials	授業区分	講義
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	素材と加工方法の知識は、建築／インテリア／プロダクトの全てのデザイン領域にまたがる重要な知識である。 また、現代における全てのデザインやものづくりは環境へ負荷なしにはできない状況にあって、環境問題への対応や配慮無しには考えられなくなっている。 この授業では学生自身が自らの手で加工できる身近な自然素材を中心に、その材料の特性や加工方法について環境問題を考えながら学ぶ。		
到達目標	それぞれの素材の特性とその特性に合わせた加工方法を理解し、説明できるようになる。 また、「持続可能な社会を実現するため」のデザインを考える際に必要な素材や加工の基本的な知識を身に付けることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 : シラバスを読んでおくこと 授業 : かたちの意味(1 頁～17 頁) 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 : 教科書「森と木について」を読んでおく(19 頁～40 頁) 授業 : 森と木について 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 : 地球温暖化に付いて調べる(教科書 42 頁～60 頁) 授業 : 環境問題について 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 : 日本の環境問題の取り組みに付いて調べる 授業 : 動画視聴 復習 : 感想レポート提出	
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 : 教科書「木材について」を読んでおく。(教科書 62 頁～74 頁) 授業 : 木の構造、性質、木材とは 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 : 「針葉樹・広葉樹」を読んでおく(教科書 74 頁～97 頁) 授業 : 針葉樹・広葉樹について 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 : 「竹」を読んでおく(教科書 99 頁～107 頁) 授業 : 竹について 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 : 「木の加工」を読んでおく(教科書 109 頁～117 頁) 授業 : 木の加工について 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 : 「木質材料」を読んでおく(教科書 119 頁～133 頁) 授業 : 木質材料(エンジニアードウッド)について 復習 : 講義内容の確認、自筆ノートの整理	
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 : 「紙について」読んでおく(教科書 134 頁～144 頁) 授業 : 紙について 1 (和紙、洋紙) 復習 : 講義内容の確認と自筆ノートの整理	

11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習：「紙について その 2」読んでおく(教科書 146 頁～155 頁) 授業：紙について その 2 (板紙) 復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理							
12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習：「樹脂」読んでおく(教科書 157 頁～175 頁) 授業：樹脂その 1 (天然樹脂、合成樹脂) 復習：講義の確認、マイクロプラスチックについて調べる							
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習：「樹脂について 2 」読んでおく(教科書 176 頁～189 頁) 授業：プラスチックの環境問題 復習：講義の確認、マイクロプラスチックについてレポート							
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習：日本の伝統工芸とクラフトについて調べる(教科書 191 頁～205 頁) 授業：日本の伝統的なものづくり「工芸」 復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理							
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習：配付資料「これからのデザインを考えるためのキーワード」を読んでおく。 授業：これからのデザインのためのキーワードについて 復習：講義内容の確認と自筆ノートの整理							
授業開始前学習		現在の地球環境について関心を持ち、身近な環境問題について調べておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で掲出された課題のミニレポートを提出し、次回講評を行う。また、毎回の授業に対する感想や質問を提出し、それに対しても講評を行う。							
テキスト・教材		自前教科書『加工・材料学』と配付資料							
参考書									
評価の基準と方法		定期試験 50%、レポート 30%、授業への取り組み 20%で評価。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			○	◎			
関連科目		家具デザイン I・II・III、家具デザイン研究							
その他		・学外の見学レポート課題を行う予定。その際にかかる経費は自己負担とする。 ・授業の進捗状況により、内容を変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	141-330-12	授業コード	FG0590
科目名称	芸術論	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Fine Arts	授業区分	講義
科目責任者	小野 淳	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小野 淳	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	西欧の芸術史を鳥瞰的視線でジオラマ的に捉えていくことと、ひとつ芸術作品に眼差しを向けてそれに没入することの往復によって、芸術の事象を外側はもとより内部からも理解する。またその過程において人間と空間との関係性を再考していくことを試みる。		
到達目標	芸術作品がどのような歴史的・社会的文脈から生まれるのか把握することのみならず、自ら問いを立て作品と深い関係性を築くことにより、作品に対する新たな解釈を見つけ出すことができるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小野 淳	【第 1 回】 予習：西洋美術史と西洋建築史の概略を見直しておく 授業：オリエンテーション 復習：オリエンテーションで使われた図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
2	小野 淳	【第 2 回】 予習：絵画と空間の関係性を踏まえてラスコーやアルタミラ洞窟などの洞窟絵画を調べておく 授業：原始美術と古代オリエント美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：古代オリエント時代の都市・建築・美術の図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
3	小野 淳	【第 3 回】 予習：彫刻と空間との関係性を踏まえて大英博物館のエルギン・マーブルズについて調べておく 授業：ギリシャ美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ギリシャの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
4	小野 淳	【第 4 回】 予習：人間と広場空間との関係性を踏まえて古代ローマ時代のフォルムについて調べておく 授業：ローマ美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ローマの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
5	小野 淳	【第 5 回】 予習：人間と地下空間との関係性を踏まえてサン・カッリスト、ドミティッラ、プリシッラなどのカタコンベについて調べておく 授業：中世美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：中世の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
6	小野 淳	【第 6 回】 予習：人間と壁との関係性を踏まえてロマネスク教会堂のフレスコ画（壁画）について調べておく 授業：ロマネスク美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ロマネスクの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
7	小野 淳	【第 7 回】 予習：人間と天井との関係性を踏まえてゴシック教会堂のヴォールトについて調べておく 授業：ゴシック美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ゴシックの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
8	小野 淳	【第 8 回】 予習：人間とファサードとの関係性を踏まえて建築家フィリッポ・ブルネッレスキとレオン・バッティスタ・アルベルティの作品について調べておく 授業：ルネッサンス美術と都市・建築：授業のまとめを作成・提出 復習：ルネッサンスの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
9	小野 淳	【第 9 回】 予習：人間と絵画空間との関係性を踏まえて画家シャルル・ル・ブランとアントワーン・ワトーおよびフランソワ・ブージェの絵画について調べておく 授業：バロック・ロココ美術と都市・建築：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：バロック・ロココの都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	
10	小野 淳	【第 10 回】 予習：人間と祝祭空間（スペクタクル）との関係性を踏まえて印象主義の画家とくにマネとモネの絵画について調べておく 授業：19 世紀の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：19 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する	

11	小野 淳	【第 11 回】 予習：人間と装飾との関係性を踏まえて画家グスタフ・クリムトと建築家オットー・ヴァグナーの作品およびウィーン分離派について調べておく 授業：19 世紀の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：19 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する							
12	小野 淳	【第 12 回】 予習：人間と都市との関係性を踏まえてイタリア未来とロシア構成主義について調べておく 授業：20 世紀の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：20 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する							
13	小野 淳	【第 13 回】 予習：人間と街路空間との関係性を踏まえてインターナショナル・スタイルの建築について調べておく 授業：20 世紀の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：20 世紀の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する							
14	小野 淳	【第 14 回】 予習：人間と空間の関係性を踏まえて自分が興味を持てる芸術を見つけ出して調べておく 授業：現代の美術と都市・建築 1：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：現代の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する							
15	小野 淳	【第 15 回】 予習：人間と空間の関係性を踏まえて自分が興味を持てる芸術を見つけ出して調べておく 授業：現代の美術と都市・建築 2：授業のまとめ、考察の作成・提出 復習：現代の都市・建築・美術について図版・専門用語の意味・作品名を確認する							
授業開始前学習		授業で扱う内容の時代背景や具体的作品について、美術史、建築史の概説書をもとに調べておくとう理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。次週で復習をする際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材		関連資料は PDF 等にして提供する。							
参考書		「西洋建築史図集」（彰国社）、「近代建築史図集」（彰国社）、「西洋美術史」（美術出版社）、この他に授業中に参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法		各回の小レポートと、総まとめのレポートから評価する。点数配分は 100 点満点のうち、小レポートにおける授業への積極的な取り組みが 60 点、総まとめのレポートが 40 点である。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		「西洋建築史」を含む西欧の美術、デザインに関するすべての科目。							
その他		授業においてはノートを取るという行為は推奨されることではあるが、それだけに偏ってしまうことはなるべく避け、パワーポイントなどにより提示される文章・画像・動画を見ることに集中すること。「見る」ことによって自分なりの考えに思いを巡らせ、授業と対話することが望まれる。 予習と復習の間に位置する授業によって、その前後では自分の中で何が変わったのかを知ること。単なる知識の蓄積のみならず、知りえた内容どうしが関係し合うダイナミズムを意識して復習をすること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	141-330-12 (J)	授業コード	FG0600
科目名称	工芸デザイン論	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Craft Design	授業区分	講義
科目責任者	石河 美和子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	石河 美和子	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	近代以降、道具類の生産が手工芸から工業生産中心に移り変わる際の理念と実践、日本の伝統的な手工芸の源泉と現代工芸デザインの展開を重ね合わせて、その関係性を理解する。今後の持続的な環境、地域、社会形成にむけての課題や展望、自分ができる一歩について考察する。		
到達目標	近代以前から現代まで、各地区のものづくりの歴史、技術の発達と時代の価値観の変遷を捉え、自分たちが暮らす現代社会におけるものづくり、工芸・デザインの課題や可能性について見通して自ら考え、行動できるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	石河 美和子	【第 1 回】 予習 : 授業資料講読および「グッドデザイン賞」サイトを閲覧[グッドデザイン賞, https://www.g-mark.org/] 授業 : 暮らしとデザイン : グッドデザイン賞にみる「デザイン」概念のひろがり : 授業のまとめ・考察を作成提出。 復習 : グッドデザイン賞の中から自分の気に入った、気になった作例を紹介、小レポートとして提出。	
2	石河 美和子	【第 2 回】 予習 : 授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業 : 世界の近代デザイン(1) 産業革命と近代デザインのはじまり : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : 工業生産社会が環境にもたらした課題をあげ、今後の行動で改善できることを考える。	
3	石河 美和子	【第 3 回】 予習 : 授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業 : 世界の近代デザイン(2) ウィリアム・モリスとアーツ＆クラフツ運動 : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : モリスとその周辺の作家、作品名を確認し、その理想とした考え方を確認する。	
4	石河 美和子	【第 4 回】 予習 : 授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業 : 世界の近代デザイン(3) アール・ヌーヴォー、分離派とジャポニズム : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : 各地のアール・ヌーヴォーについて傾向を知り、専門用語や、作家と作品名を一致できるよう確認する。	
5	石河 美和子	【第 5 回】 予習 : 授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 授業 : 世界の近代デザイン(4) 表現主義、構成主義、機能主義 : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : 20 世紀初頭の各地のデザインの主義と動向を知り、現代の様々なデザイン思想のルーツとして確認する。	
6	石河 美和子	【第 6 回】 予習 : 授業資料と『世界デザイン史』該当箇所を講読。 自分の気になる、好きな近現代デザイン事例を選び、写真を用意し、そのルーツを調べて、授業で紹介できるようにする。 授業 : 世界の近代デザイン(5) バウハウスと工業デザインの発展 : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : ドイツ工作連盟やバウハウスの思想と作例、その後のアメリカや日本のデザインへの影響を把握する。	
7	石河 美和子	【第 7 回】 予習 : 自分の好きな絵画・工芸・建築等の一つを選び、時代背景や産地、作者を紹介できるようにしておく。 自分の影響を受けた家やまち、場所について、思い出しておく。 授業 : 日本のデザインの源泉と発展(1) 日本の風土と家・町並み : 日本と外国の風土とまちづくりへの取り組みを知る。 復習 : 自分が影響を受けた作品、工芸品やいえ、まちとその造りとその暮らしの文化を小レポートで紹介する。	
8	石河 美和子	【第 8 回】 予習 : 授業資料を講読し、琳派の作家や作例を概観する。できれば国立博物館や根津美術館などで作例を見学 授業 : 日本のデザインの源泉と発展(2) 琳派のデザイン : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : 琳派の作家・作例の一つ選んで詳述。現代の道具やメディアで琳派と思うものを探し、小レポートにする。	
9	石河 美和子	【第 9 回】 予習 : 授業資料を講読し、漆芸の成り立ちと用途、技法の例を知っておく。身近な漆器をみつけ、特徴を調べる。 授業 : 日本のデザインの源泉と発展(3) 漆芸 : 機能と技法、現代への展開 : 授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習 : 身近な漆製品を探し、用途や技法、使い心地を小レポートにする。今後店舗や旅行等で、各地の漆芸を確認	

10	石河 美和子	【第 10 回】 予習：授業資料を講読し、陶磁器の歴史と展開、各産地の特徴を理解しておく。身近な陶器を見つけ、特徴を調べる。 授業：日本のデザインの源泉と発展(4) 陶芸 1：種類と技法、陶芸の発達史、各産地の特徴：授業のまとめ、考察を作成・提出。 復習：身近な陶磁器の用途や技法、使い心地を小レポートにする。美術館、デパートや民芸店、旅行等で、各地の陶磁器を確認。							
11	石河 美和子	【第 11 回】 予習：授業資料を講読、閲覧し、文様の構成や、日本と世界の文様の関係性を学んでおく。 授業：日本のデザインの源泉と発展(5) 文様：日本と東洋、中東、西洋の文様：まとめ、考察を作成・提出。 復習：自分の洋服や着物、小物、文房具等の文様をみて、文様の種類や込められた意味を調べてみる。							
12	石河 美和子	【第 12 回】 予習：授業資料を講読し、その技法と素材、産地別の特徴などの概要を理解しておく。 授業：日本のデザインの源泉と発展(6) 染織：繊維の成立ち、染めと織りの技法と文様：授業のまとめ、考察を作成提出。 復習：染織品を見比べ、可能なら手にとり触って、素材、染・織、産地ごとの特徴を見分けられるようにする。							
13	石河 美和子	【第 13 回】 予習：授業資料を講読し日本の民藝運動と世界、現代への展開を調べる。日本民藝館等を見学（フィールドワーク）。 授業：日本の民藝運動：柳宗悦と日本民芸館、日本の民藝作家とバーナードリーチらとの交流：授業のまとめ、考察を作成提出。 復習：自宅や店舗、旅行先等で各地の民芸品、民藝運動に基づく工芸品があるか調べてみる。							
14	石河 美和子	【第 14 回】 予習：資料を講読し、北欧デザインの思想や展開、素材や空間の生かし方について知っておく。 授業：北欧のデザイン&クラフト：食器、家具、服飾など総合的なデザインを知る：授業の感想・考察を提出。 復習：北欧はじめ、海外のデザイン製品が日本の生活・デザインと呼応している実態を見つけていく。							
15	石河 美和子	【第 15 回】 予習：地域の素材や技術を活かしたもののづくりがどう現代社会に活かされようとしているか、事例を調べレポートをまとめる。 授業：風土、素材、伝統技法を生かしたもののづくりを調べ、今後の展望について考察する。 復習：各地、各時代の生活道具を知る機会を増やし、その由来や素材、形の調和や使い勝手をたしかめて選ぶようにする。 快適で使いやすく、持続性のある環境づくりに自ら寄与していく。							
授業開始前学習		授業で扱う内容について、近代デザイン史、近代建築史、日本工芸史、日本建築史の概説書、「グッドデザイン賞」サイト https://www.g-mark.org/ を調べておくとう理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業では毎回、授業の内容について、学生は自分の意見・感想を、内容を整理しながら小レポートとしてまとめ、提出する。それに対して、後日の授業で、復習を兼ねて、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して紹介する。							
テキスト・教材		阿部公正監修『増補新装カラー版 世界デザイン史』（美術出版社）。公益社団法人日本工芸会編集『日本伝統工芸鑑賞の手引き』希望者は購入。 授業に必須の部分や他の関連資料は PDF 等にして提供する。							
参考書		日本工芸会編『日本伝統工芸鑑賞の手引き』、竹原あきこ＋森山明子『日本デザイン史』（美術出版社）等							
評価の基準と方法		各授業のまとめ・感想 30%、小レポート 30% 最終レポート 40%							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		芸術論、西欧および日本の美術・意匠・デザイン、建築に関するすべての授業							
その他		・日頃から、日常の生活道具、生活空間にあるものの意図、効果を意識して確認する。 ・気になるデザインやもののづくりの記事などをスクラップやダウンロードし、感想をメモしていく。 ・工芸・デザインに関連する博物館・美術館の展示、家具や工芸のギャラリーやショールーム、売り場などを見に行き、できるだけ実物に触れるようにする。 ・授業と並行して「地域性と伝統、持続性を踏まえた現代のものづくり」について、自分でテーマを探し、最終レポートにつなげていく。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		木工、陶芸、漆芸、染織など、伝統的な技術を現代社会に生かす現代作家や現代デザイナーのとりくみを紹介する。また、これらを総合的に生かした空間デザイン、環境デザイン、事業の例を紹介する。							

科目分類	141-330-13	授業コード	FG0610		
科目名称	空間演出 A	単位数	2.0 単位		
英文名称	Space Production A	授業区分	講義		
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照		
担当教員	橋田・堀邊・山崎	開講時期	3 年		
オフィスアワー	－	研究室	－		
授業概要	大学構内に、市民と学生のための新たな施設計画と空間演出をおこなう。 その場所の特徴や空間を分析し、必要だと思われる新たな施設を計画する。また、新たな施設を計画するだけでは、そこが利用する人々にとって魅力的な場所とはなり得ない。何度も訪れたいくなるような計画・演出方法・プログラム等について考える。それらの空間は、その空間のデザインや演出自体が表現であり、また設置されるもの等をより良く見せるための背景や装置でもある。 なお、授業ではディスカッションを実施する。				
到達目標	企画・設計・提案を含む空間演出デザイン能力の向上を目指す。 具体的には、対象空間の与条件の整理・分析をする能力、企画アイデアを具体的なインテリア空間としてデザイン表現するスキル、プレゼンテーション能力の習得を目的とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : 課題の説明 復習 : 授業計画の確認			
2	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : 新たな施設計画に関する事前調査 授業 : 計画する施設の発表（プレゼンテーション） 復習 : 新たな施設計画のまとめ			
3	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : 具体的な実例研究 予備調査 授業 : 具体的な実例研究（個人演習） 復習 : 具体的な実例研究 事例まとめ			
4	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 大学構内の把握 授業 : 大学構内調査（ディスカッション） 復習 : 調査継続作業			
5	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 調査継続作業 授業 : 現況図面化作業（ディスカッション） 復習 : 現況図面化作業継続			
6	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 現況図面化作業継続 授業 : 企画内容検討（ディスカッション） 復習 : 企画内容検討継続			
7	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 現況図面化作業継続 授業 : 企画内容検討（ディスカッション） 復習 : 企画内容検討継続			
8	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 企画提案資料作成 授業 : 企画提案発表（プレゼンテーション） 復習 : 企画提案内容精査			
9	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : デザINSTAディ 1 平面計画事前検討 授業 : デザINSTAディ 1 平面計画作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 : デザINSTAディ 1 エスキス内容整理			
10	橋田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : デザINSTAディ 2 平面・断面計画事前検討 授業 : デザINSTAディ 2 平面・断面計画作業＆エスキス（ディスカッション） 復習 : デザINSTAディ 2 エスキス内容整理			

11	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 11 回】 予習：デザインスタディ 3 3D&パース事前検討 授業：デザインスタディ 3 3D&パース作業 & エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ 3 エスキス整理						
12	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 12 回】 予習：デザインスタディ 4 模型 & 提案資料事前検討 授業：デザインスタディ 4 模型 & 提案資料作業 & エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ 4 エスキス整理						
13	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 13 回】 予習：デザインスタディ 5 模型 & 提案資料事前検討 授業：デザインスタディ 5 模型 & 提案資料作業 & エスキス（ディスカッション） 復習：デザインスタディ 5 エスキス整理						
14	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 14 回】 予習：講評会準備 授業：講評会（プレゼンテーション） 復習：講評内容のまとめ						
15	橘田 洋子 堀邊 阿伊子 山崎 陽菜	【第 15 回】 予習：ポートフォリオの準備 授業：全体のまとめ・ポートフォリオの作成作業（ディスカッション） 復習：ポートフォリオの作成作業の継続						
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展示会等も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別またはグループごとにエスキスを繰り返し実施。						
テキスト・教材		必要に応じ指示						
参考書								
評価の基準と方法		授業態度 40%、提出物及びレポート 60%で評価。 提出物の不足や出席が 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	△
関連科目	インテリアデザインⅠ・インテリアデザインⅡ・空間演出 B							
その他	・学外において見学会を行う場合、その際の費用は自己負担とする。 ・履修希望者は、必ず初回授業に出席すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	141-330-12 （J）			授業コード	FG0710
科目名称	デザインと心理			単位数	2.0 単位
英文名称	Design and Psychology			授業区分	講義
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯			開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	この授業では実験心理学の観点から環境（人間、空間、プロダクト等）が人間の心理に与える影響、それによる行動の変化について学びます。 また、環境が人間の心理と行動特性に与える影響を分析し、それに基づいたデザイン手法について事例紹介、体験授業（課題等）を通して学びます。				
到達目標	・人間の心理と行動を理解することを目標とします。 ・デザインと心理学の関係性を理解することを目標とします。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	李 志炯	【第 1 回】 予習：シラバスを読む。デザイン心理学に関する参考書を読む。 授業：モノと人間の関係について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。			
2	李 志炯	【第 2 回】 予習：実験心理学について調べる。 授業：実験心理学の定義、調査方法について。 復習：第 2 回目の資料をもう一度確認する。			
3	李 志炯	【第 3 回】 予習：実験データの分析方法を調べる。 授業：実験データの分析方法と考察について。 復習：書籍、インターネット等で論文を調べる。			
4	李 志炯	【第 4 回】 予習：デザイン心理学に関する参考書を読む。 授業：空間と人間の関係について。関連の課題を実施（課題①）。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。			
5	李 志炯	【第 5 回】 予習：書籍、インターネット等でモノの形について調べる。 授業：課題①の解説。人間の心理とモノの形の関係について。 復習：第 5 回目の資料をもう一度確認する。			
6	李 志炯	【第 6 回】 予習：書籍、インターネット等でモノの形について調べる。 授業：人間の心理とモノの形の関係について。関連の課題を実施（課題②）。 復習：第 6 回目の資料をもう一度確認する。			
7	李 志炯	【第 7 回】 予習：書籍、インターネット等で錯覚について調べる。 授業：課題②の解説。モノの形と錯覚の関係について。 復習：第 7 回目の資料をもう一度確認する。			
8	李 志炯	【第 8 回】 予習：書籍、インターネット等で錯覚について調べる。 授業：環境と錯覚の関係について。 復習：第 8 回目の資料をもう一度確認する。			
9	李 志炯	【第 9 回】 予習：書籍、インターネット等で錯覚の種類について調べる。 授業：ポジティブ錯覚と人間の行動の関係について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。			

10	李 志炯	【第 10 回】 予習：書籍、インターネット等でマーケティングについて調べる。 授業：人間の心理とマーケティングの関係について。 復習：第 10 回目の資料をもう一度確認する。							
11	李 志炯	【第 11 回】 予習：書籍、インターネット等でストーリーテリングについて調べる。 授業：マーケティングにおけるストーリーテリングについて。 復習：第 11 回目の資料をもう一度確認する。							
12	李 志炯	【第 12 回】 予習：書籍、インターネット等でストーリーテリングについて調べる。 授業：ストーリーテリングによる錯覚について。関連の課題を実施（課題③）。 復習：第 12 回目の資料をもう一度確認する。							
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：錯視に関する参考書を読む。 授業：課題③の解説。錯視とは？錯視を活用したデザインについて。関連の課題を実施（課題④）。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。							
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：錯視に関する参考書を読む。 授業：課題④の解説。ゲシュタルト心理学について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。							
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：色彩に関する参考書を読む。 授業：人間の心理と色彩の関係について。 復習：書籍、インターネット等で事例を調べる。							
授業開始前学習		基礎心理学、実験心理学、デザイン心理学に関する書籍を読むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		この授業では 4 回の課題を行います。各課題の回答案を授業で共有し、自分と他者の考えの差異を確認します。また、その差異を理解し、それを基に多様な発想ができるように授業中に討論します。							
テキスト・教材		配付資料							
参考書		よくわかるデザイン心理学：人間の行動・心理を考慮した一歩進んだデザインへのヒント（日刊工業新聞社） 脳がだまされる奇妙な世界を楽しむ・解き明かす・つくりだす新錯視図鑑（誠文堂新光社） 色のパワーで心も体も元気になる！人生が豊かになる色彩心理（ナツメ社）							
評価の基準と方法		授業への取り組み 50%、課題、レポートなど提出物 50%で評価。 出席が 3 分 2 以下、または提出物が不足している場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	○		◎			
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		この授業では、デザイン心理学に基づいたものづくり（インテリア、プロダクト、グラフィック等）実務経験がある教員が担当し実際の制作に関する知識を生かした現実的な指導が受けられます。							

科目分類	141-330-12	授業コード	FG0720
科目名称	グラフィック・コミュニケーション学	単位数	2.0 単位
英文名称	Graphic Communication	授業区分	講義
科目責任者	鈴木 利彦	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鈴木 利彦	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:10 後期 火曜日 09:00～12:10	研究室	10-509
授業概要	身の回りにある生活用品や家具の装飾、看板など、平面表現であるグラフィックデザインは空間表現のなかに展開しています。授業では、ピクトサインやパッケージデザインといった具体的な作品事例を挙げて解説し、デザインの発想から企画起案、制作の流れ（ワークフロー）を理解することで、空間デザインに、より具体的に応用できる知識と技術を養います。		
到達目標	・グラフィックデザインの表現手法を応用し、インテリアデザインや建築デザインなど空間表現に展開できるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鈴木 利彦	【第 1 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィックデザインの総論と具体的な展開 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。	
2	鈴木 利彦	【第 2 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック・コミュニケーション①「ピクトサイン」事例 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。	
3	鈴木 利彦	【第 3 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック・コミュニケーション②「インフォグラフィックス」事例 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。	
4	鈴木 利彦	【第 4 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック・コミュニケーション③「パッケージデザイン」事例 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。	
5	鈴木 利彦	【第 5 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック計画① ブランディング戦略とグラフィックデザイン（CI 計画） 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。	
6	鈴木 利彦	【第 6 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック計画② ブランディング戦略とインテリアプロダクト 復習：引き続き、グラフィックデザイン事例を自分なりに採集する。	
7	鈴木 利彦	【第 7 回】 予習：インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」に注目し、写真撮影やスクリーンショットなどで採集してみる。 授業：グラフィック計画③ ブランディング戦略と建築 復習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、次回授業の準備をしておく。	
8	鈴木 利彦	【第 8 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、一読しておく。 授業：グラフィック表現の展開①「私のお店」課題説明とデザイン展開 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。	
9	鈴木 利彦	【第 9 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開②「私のお店」ロゴマーク 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。	

10	鈴木 利彦	【第 10 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開③「私のお店」ロゴマーク／パッケージデザイン 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。							
11	鈴木 利彦	【第 11 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開④「私のお店」パッケージデザイン／ピクトサイン 復習：授業内での全体エスキースを受けて、課題提出の準備をしておく。							
12	鈴木 利彦	【第 12 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑤「私のお店」中間講評と解説 復習：課題説明を受けて、授業内制作のためのエスキースをしておく。							
13	鈴木 利彦	【第 13 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑤「私のお店」ロゴマーク／パッケージデザイン／ピクトサイン 復習：授業内での全体エスキースを受けて、課題提出の準備をしておく。							
14	鈴木 利彦	【第 14 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑥「私のお店」作品講評と解説（１） 復習：講評コメントを提出する。							
15	鈴木 利彦	【第 15 回】 予習：授業クラスルーム掲出資料の確認をして、授業の準備をしておく。 授業：グラフィック表現の展開⑦「私のお店」作品講評と解説（２）／グラフィック・コミュニケーションの総論 復習：授業コメントを提出する。							
授業開始前学習		インテリアや建築にあしらわれている「グラフィック表現」を自分なりに見つけて、写真に撮って記録をしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業に関する質問などについては、授業クラスルームをとおして適宜講評および説明を行います。 また、提出課題についてはエスキースや講評を行います。							
テキスト・教材		授業やクラスルームで適宜紹介します。							
参考書		授業やクラスルームで適宜紹介します。							
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、課題内容により評価します。 平常点 30 点、課題内容 70 点とします。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○	◎			
関連科目		グラフィックデザイン							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

インテリアの知識と技術 I

科目分類	141-331-12	授業コード	FG0630
科目名称	インテリアの知識と技術 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design I	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40	研究室	2-201
授業概要	科目で学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深める。		
到達目標	建築、インテリア関連資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術を総合的に理解することを目標にする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : テキストの準備 授業 : オリエンテーション 復習 : テキストの確認	
2	山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : インテリアの歴史予習 授業 : インテリアの歴史 復習 : インテリアの歴史の復習	
3	山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : インテリア計画予習 授業 : インテリア計画 復習 : インテリア計画の復習	
4	山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 環境工学予習 授業 : 環境工学 復習 : 環境工学の復習	
5	山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 構造と施工予習 授業 : 構造と施工 復習 : 構造と施工の復習	
6	山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 表現技法 1 予習 授業 : 表現技法 1 復習 : 表現技法 1 の復習	
7	山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 表現技法 2 予習 授業 : 表現技法 2 復習 : 表現技法 2 の復習	
8	山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 演習 1 予習 授業 : 演習 1 復習 : 演習 1 の復習	
9	山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 色彩と造形予習 授業 : 色彩と造形 復習 : 色彩と造形の復習	
10	山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 建築関係法規予習 授業 : 建築関係法規 復習 : 建築関係法規の復習	
11	山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : 住宅設備 1 予習 授業 : 住宅設備 1 復習 : 住宅設備 1 復習	

12	山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 住宅設備 2 予習 授業 : 住宅設備 2 復習 : 住宅設備 2 の復習							
13	山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : 材料予習 授業 : 材料 復習 : 材料の復習							
14	山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : 住宅と社会予習 授業 : 住宅と社会 復習 : 住宅と社会の復習							
15	山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 演習 2 予習 授業 : 演習 2 復習 : 演習 2 の復習							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。							
テキスト・教材		「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）							
参考書		授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法		授業態度と授業内の各種テスト、小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	
関連科目		インテリアの知識と技術Ⅱ							
その他		履修条件の詳細説明を 1 回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。 自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

インテリアの知識と技術Ⅱ

科目分類	141-331-13	授業コード	FG0640
科目名称	インテリアの知識と技術Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Knowledge and Skill of Interior Design Ⅱ	授業区分	講義
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40	研究室	2-201
授業概要	学科の他の科目や、インテリアの知識と技術Ⅰで学んだ内容を生かし、建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術への総合的理解を深め、資格取得のためのさらなる実践力を養う。		
到達目標	建築士やインテリアプランナー、インテリアコーディネーター等の各資格を目指す際に必要となるインテリア空間に関わる基本知識と技術の理解をさらに高め、実際の演習問題の正答率向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : テキストの準備 授業 : オリエンテーション 復習 : テキストの確認	
2	山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : インテリアの歴史予習 授業 : インテリアの歴史 復習 : インテリアの歴史の復習	
3	山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : インテリア計画予習 授業 : インテリア計画 復習 : インテリア計画の復習	
4	山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 環境工学予習 授業 : 環境工学 復習 : 環境工学の復習	
5	山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 構造と施工予習 授業 : 構造と施工 復習 : 構造と施工の復習	
6	山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 表現技法 1 予習 授業 : 表現技法 1 復習 : 表現技法 1 の復習	
7	山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 表現技法 2 予習 授業 : 表現技法 2 復習 : 表現技法 2 の復習	
8	山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 演習 1 予習 授業 : 演習 1 復習 : 演習 1 の復習	
9	山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 色彩と造形予習 授業 : 色彩と造形 復習 : 色彩と造形の復習	
10	山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 建築関係法規予習 授業 : 建築関係法規 復習 : 建築関係法規の復習	
11	山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : 住宅設備 1 予習 授業 : 住宅設備 1 復習 : 住宅設備 1 復習	

12	山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 住宅設備 2 予習 授業 : 住宅設備 2 復習 : 住宅設備 2 の復習							
13	山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : 材料予習 授業 : 材料 復習 : 材料の復習							
14	山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : 住宅と社会予習 授業 : 住宅と社会 復習 : 住宅と社会の復習							
15	山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 演習 2 予習 授業 : 演習 2 復習 : 演習 2 の復習							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で行う問題演習や小テストは講義の中で解説を行う。							
テキスト・教材		「インテリアコーディネーターハンドブック（上・下）」（インテリア産業協会）							
参考書		授業中に適宜紹介する							
評価の基準と方法		授業態度と授業内の各種テスト、小テスト、演習テストの成績の総合点で評価する。 授業態度 10%、授業内の小テストの評価等 30%、演習テスト 60%の配分とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎		○	
関連科目		インテリアの知識と技術 I							
その他		履修条件の詳細説明を 1 回目のオリエンテーションにて行う。履修者は必ずこれを受講すること。 インテリアの知識と技術 I を履修していることが望ましい。 自己のスケジュール管理を行い計画的に自主的に学習する意欲を持つこと。建築士やインテリアコーディネーター等の資格を目指す意識があることが望ましい。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-23 （J）			授業コード	FG0910
科目名称	建築デザインⅠ			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural DesignⅠ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木・田中(昭)・三木			開講時期	3 年
オフィスアワー	－			研究室	－
授業概要	設計製図Ⅰ、Ⅱで学んだ個人住宅・シェアハウスの設計を基に、小規模な集合住宅の計画及び設計を行う。住宅の内部空間だけではなく、住戸と住戸の関係、及び住戸と外部空間の関係を考える。また、建物と外部空間の関係を考えるトレーニングとして短期課題を行う。それらの課題のプレゼンテーションを毎回行う。				
到達目標	短期課題を通して、計画からプレゼンテーションまでのプロセスを具体的に把握し、デザインプロセスと作業プロセスをコントロールすることを習得する。小規模な集合住宅の課題を通して建築単体のあり方だけではなく外部空間や環境とのつながりを考える事の重要性を習得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 1 回】 予習：シラバスを参照する事 授業：ガイダンスと短期課題の説明 復習：課題キーワードの確認			
2	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 2 回】 予習：コンセプト作成 授業：エスキース 復習：課題について自習			
3	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 3 回】 予習：事例研究 授業：エスキース 復習：スタディ模型作成			
4	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 4 回】 予習：スタディ模型検討 授業：短期課題の発表（プレゼンテーション）・講評 復習：作成プロセスの確認			
5	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 5 回】 予習：集合住宅の定義確認 授業：「小規模集合住宅課題」の説明 復習：課題内容キーワード確認			
6	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 6 回】 予習：敷地分析 授業：敷地分析・事例研究・エスキース 復習：ヴォリュームスタディ			
7	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 7 回】 予習：ヴォリューム模型作成 授業：エスキース 復習：エスキース模型作成			
8	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 8 回】 予習：図面検討 授業：エスキース 復習：図面検討			
9	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 9 回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討			
10	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 10 回】 予習：図面、模型検討 授業：中間発表（プレゼンテーション） 復習：コンセプト確認			
11	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 11 回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討			

12	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 12 回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討															
13	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 13 回】 予習：図面、模型検討 授業：プレゼンテーションの表現・技法の説明 復習：図面、模型検討															
14	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 14 回】 予習：図面、模型検討 授業：エスキース 復習：図面、模型検討															
15	田中 昭成 茂木 弥生子 三木 達郎	【第 15 回】 予習：課題制作 授業：課題 発表（プレゼンテーション）・講評 復習：課題作成プロセス確認															
授業開始前学習		類似事例の研究															
授業内課題のフィードバックの方法		課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。															
テキスト・教材		特になし。適宜資料を配布する。															
参考書		「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版） 各自、必要と思われる資料を集めること。															
評価の基準と方法		提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・授業態度により評価する。配点は（100 点満点における）提出物 50 点・プレゼンテーション 30 点・授業態度 20 点の配分とする。															
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当						△				○				◎		○	
関連科目		建築計画 B															
その他		構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。															
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）															
実務経験を活かした教育内容		本科目の担当者は建築設計の実務経験を有しており、本科目ではその経験を活かし建築設計の実習を行う。															

科目分類	142-331-23 (J)	授業コード	FG0920
科目名称	建築デザインⅡ	単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Design II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸・井原	開講時期	3 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	建築デザインⅠで設計した集合住宅および公共建築を発展させ、都市的な環境の中で、複合的な機能をもった公共施設の計画、設計、作図、プレゼンテーションを行う。 前半にパブリックスペースの在り方、周辺環境との関わりをを考慮するトレーニングとして小規模な公共施設、後半には都市的な規模の公共施設に取り組む。		
到達目標	公共施設の計画を通じて、敷地環境の分析から、都市における問題点、良い点などを読み取り、より高度な提案と作図表現、プレゼンテーション能力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	井原 正揮 三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : 授業ガイダンス、短期 課題の説明 復習 : 課題キーワードの確認	
2	井原 正揮 三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : コンセプト作成 授業 : エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 : 課題の自習	
3	井原 正揮 三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 : エスキース模型作成	
4	井原 正揮 三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : エスキース模型検討 授業 : 短期課題の発表・講評（プレゼンテーション） 復習 : 作成プロセスの確認	
5	井原 正揮 三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 公共施設の事例検索 授業 : 課題 説明・「公共施設の提案」 復習 : 課題内容キーワード確認	
6	井原 正揮 三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 敷地事前分析 授業 : 敷地分析・事例調査・エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 : ヴォリュームスタディ	
7	井原 正揮 三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : ヴォリューム模型作成 授業 : エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 : エスキース模型作成	
8	井原 正揮 三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 図面検討 授業 : エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 : 断面計画検討	
9	井原 正揮 三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 断面、平面計画検討 授業 : エスキース（実習）（ディスカッション） 復習 : エスキース模型による再検討	
10	井原 正揮 三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 中間発表にむけてプレゼ検討 授業 : 中間発表（プレゼンテーション） 復習 : コンセプトの確認	
11	井原 正揮 三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : 図面、模型検討 授業 : エスキース（実習）（ディスカッション）	

		復習：図面、模型検討							
12	井原 正揮 三戸 美代子	【第 12 回】 予習：断面計画再検討 授業：エスキース（実習）（ディスカッション） 復習：平面計画再検討							
13	井原 正揮 三戸 美代子	【第 13 回】 予習：パネルレイアウト検討 授業：プレゼンテーション指導（実習） 復習：パネルレイアウト検討							
14	井原 正揮 三戸 美代子	【第 14 回】 予習：平立断再検討 授業：作図、プレゼンテーション作業（実習） 復習：プレゼンテーション準備							
15	井原 正揮 三戸 美代子	【第 15 回】 予習：プレゼンテーション準備 授業：課題 発表（前日に図面・模型提出）・講評（プレゼンテーション） 復習：作成プロセス確認							
授業開始前学習		類似事例の研究							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の進捗状況を個別に確認しアドバイスをを行う。 課題提出時に講評会を行う。講評時に個別に今後の学修の課題や問題点について指摘する。							
テキスト・教材		特になし							
参考書		「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅Ⅰ」（市ヶ谷出版社） 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法		提出物・講評会のプレゼンテーション内容・エスキース・平常点（授業態度）により評価する。配点は（100 点満点における） 課題点 70 点・平常点（授業態度等）30 点の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△		○		◎	○
関連科目		設計製図Ⅰ、建築デザインⅠ、建築計画Ⅱ							
その他		設計製図Ⅰ、建築デザインⅠを履修済みであること。 構造・設備・法規など関連する科目は必ず受講すること。 課題説明は必ず出席すること。遅刻・欠席は評価の際、大幅な減点対象となる。課題提出は特別な事情がある場合以外は、期限後には受け付けないので注意すること。模型材料費必要。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間＋予習・復習時間 30 時間（2 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		本科目は建築士として設計業務の実務経験を有する複数の担当教員が指導する。							

科目分類	142-331-12	授業コード	FG0930
科目名称	建築デザイン論	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Architectural Design	授業区分	講義
科目責任者	西尾 尚子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	西尾 尚子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10	研究室	2-214
授業概要	近代建築以降の日本及び海外の住宅や建築の事例紹介を通じて「建築デザイン」とは何かを考えて行く。具体的には平面計画と様々な外的・内的条件の関係や、住空間及び建築空間に対する考え方を学ぶ。また、授業では提出されたレポート課題に関するディスカッションを行う。		
到達目標	20 世紀モダニズム建築作品とその歴史的意義を学ぶ。 日本の現代建築作品に対する基礎的な知識を習得する。 現在の建築を切り開いている建築家の作品の建築的意味を理解することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	西尾 尚子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読むこと 授業 : ガイダンス (授業の目的と進め方の説明) 復習 : 配布資料のキーワードの確認	
2	西尾 尚子	【第 2 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 19 世紀末及び 20 世紀初頭のヨーロッパの状況 (小レポート) 復習 : 配布資料のキーワードの確認	
3	西尾 尚子	【第 3 回】 予習 : サヴォア邸について検索 授業 : ル・コルビジエの住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 近代建築の五原則確認	
4	西尾 尚子	【第 4 回】 予習 : 落水荘について検索 授業 : フランク・ロイド・ライトの住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 有機的建築についてキーワード確認	
5	西尾 尚子	【第 5 回】 予習 : ファンズワース邸について検索 授業 : ミース・ファン・デル・ローエの住宅と建築 (小レポート・ディスカッション) 復習 : ミース・ファン・デル・ローエのキーワードの確認	
6	西尾 尚子	【第 6 回】 予習 : 国立西洋美術館について検索 授業 : 三巨匠の日本建築家への影響とその遺産 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 戦後公共建築の復讐	
7	西尾 尚子	【第 7 回】 予習 : 吉村順三「軽井沢の家」について検索 授業 : 吉村順三の住宅建築とその系譜 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 吉村順三の住宅のキーワード確認	
8	西尾 尚子	【第 8 回】 予習 : 清家清の自邸について検索 授業 : 清家清の住宅建築とその系譜 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 清家清の住宅のキーワード確認	
9	西尾 尚子	【第 9 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 団地の誕生と集合住宅 (小レポート・ディスカッション) 復習 : 配布資料のキーワードの確認	
10	西尾 尚子	【第 10 回】 予習 : 丹下健三について検索 授業 : 丹下健三の建築とその弟子たち (国家と建築) (小レポート・ディスカッション) 復習 : 戦後第一世代の建築家の作品検索	
11	西尾 尚子	【第 11 回】 予習 : 「住吉の長屋」図面参照 授業 : 安藤忠雄の住宅と建築 (ミニマリズムとコンクリート) (小レポート・ディスカッション) 復習 : 安藤建築のキーワード確認	

12	西尾 尚子	【第 12 回】 予習 : 伊東豊雄について検索 授業 : 伊東豊雄の住宅と建築（時代への対応）（小レポート・ディスカッション） 復習 : 伊東豊雄の建築のキーワード確認							
13	西尾 尚子	【第 13 回】 予習 : 金沢 2 1 世紀美術館の検索 授業 : SANAA の住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習 : SANNA 建築のキーワード確認							
14	西尾 尚子	【第 14 回】 予習 : 藤本壮介について検索 授業 : 若手世代の住宅と建築（小レポート・ディスカッション） 復習 : 藤本壮介の建築キーワードの確認							
15	西尾 尚子	【第 15 回】 予習 : 配布資料の事前参照 授業 : 建築の可能性へ向けて（小レポート・ディスカッション） 復習 : 配布資料のキーワードの確認							
授業開始前学習		各建築家について調べる。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書		建築雑誌等、作品集等。							
評価の基準と方法		小レポート及びレポート 70 点、平常点（授業態度、課題提出） 30 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		設計製図Ⅱ、建築デザインⅠ、建築デザインⅡ							
その他		授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

建築計画 A

科目分類	142-331-12	授業コード	FG0940
科目名称	建築計画 A	単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning A	授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	建築物の中で最も歴史が古く、また、人間が一生の中で多くの時間を過ごす「住宅」。建築設計の基本でありながら、一方で深く難しいともいわれる「住宅設計」を題材に、建築計画に必要な知識や方法を修得する。授業では講義にともなって演習課題を行う。		
到達目標	「住宅設計」を題材に、建築計画、建築設計の基礎を修得する。 名作といわれる住宅建築についての知識を広げる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : 教科書の購入 授業 : ガイダンス (テキスト p.18?27) 復習 : 教科書の見直し (p.18-27)	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : 製図の基礎で学んだ図面の種類をみておく 授業 : 図面の作法 復習 : 配布資料見直し	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.10-17) 授業 : 住宅設計とは何か (テキスト p.10?17) (演習課題 1) 復習 : 授業中に課題された課題調査	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.28-29) 授業 : こんな家に住みたい (テキスト p.28?29) 復習 : 事例研究	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.32-37) 授業 : 住宅計画 1 (敷地環境の分析) (テキスト p.32?37) (演習課題 2) 復習 : 授業中に課題された課題調査	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.38-41) 授業 : 住宅計画 2 (動線計画) (テキスト p.38?41) 復習 : 事例研究	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.42-45) 授業 : 住宅計画 3 (食空間の計画) (テキスト p.42?45) (演習課題 3) 復習 : 授業中に課題された課題調査	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.46-49) 授業 : 住宅計画 4 (パブリック空間の計画) (テキスト p.46?49) 復習 : 事例研究	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.50-53) 授業 : 住宅計画 5 (プライベート空間の計画) (テキスト p.50?53) (演習課題 4) 復習 : 授業中に課題された課題調査	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.54-56) 授業 : 住宅計画 6 (収納計画) (テキスト p.54?56) 復習 : 事例研究	
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : 教科書を読んでおく(p.58-59) 授業 : 住宅計画 7 (ユニバーサルデザイン) (テキスト p.58?59) (演習課題 5) 復習 : 授業中に課題された課題調査	

12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：教科書を読んでおく(p.60-61) 授業：平面計画の考え方 1（テキスト p.60?61） 復習：事例研究							
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：教科書を読んでおく(p.62-63) 授業：平面計画の考え方 2（テキスト p.62?63）（演習課題 6） 復習：授業中に出題された課題調査							
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：教科書を読んでおく(p.64-65) 授業：断面計画の考え方（テキスト p.64?65） 復習：事例研究							
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：過去の課題を整理して持参準備 授業：前期のまとめ・アンケート実施 復習：授業中に出題された課題調査							
授業開始前学習		教科書を購入し目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		出題された課題は、内容に応じて学生の提出物を共有したり、模範回答を解説するなどフィードバックを行う。							
テキスト・教材		「建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I」市ヶ谷出版							
参考書		「建築計画設計シリーズ 40 新・設計基礎（構造・環境設備・法規）」（市ヶ谷出版社） 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法		演習課題提出状況：30 点、演習課題の内容による：70 点							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ							
その他		・設計製図Ⅰの課題の進度に合わせて必要な知識を学ぶため、同時に履修することを強く推奨する。 ・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-13 （J）			授業コード	FG0950	
科目名称	建築計画 B			単位数	2.0 単位	
英文名称	Architectural Planning B			授業区分	講義	
科目責任者	茂木 弥生子			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	茂木 弥生子			開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	1-203	
授業概要	住空間の建築計画において主に集合住宅に視点をあて、その計画・設計に関する基礎的な知識を学ぶ。また、住空間を幅広い視点で捉え、子どもの居場所としての学校や、患者・高齢者など居場所としての医療・高齢者福祉施設の計画・設計についても考察する。授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。					
到達目標	集合住宅や学校、医療・高齢者福祉施設の計画・設計に必要な基礎的な知識を理解し、建築計画について習得する。また、国内外の事例について建築計画の視点から考察できるようになる。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	茂木 弥生子		【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : ガイダンス 復習 : 配布資料を再読し、理解を深める			
2	茂木 弥生子		【第 2 回】 予習 : 身の回りのものの寸法を測ってみる 授業 : 基本寸法とスケール感（演習課題 1） 復習 : 自宅の家具や小物の寸法を測ってみる			
3	茂木 弥生子		【第 3 回】 予習 : 参考書等を使って建物の計画手順について予習する 授業 : 建物を建てるための計画手順（演習課題 2） 復習 : 配布資料を再読し、建物の計画手順について理解を深める			
4	茂木 弥生子		【第 4 回】 予習 : 参考書等を使って集合住宅の形式について予習する 授業 : 集合住宅の住戸・住棟計画（演習課題 3） 復習 : 住戸・住棟計画の演習資料を再読し、復習する			
5	茂木 弥生子		【第 5 回】 予習 : 参考書等を使って建物の動線計画について予習する 授業 : 集合住宅の動線計画（演習課題 4） 復習 : 動線計画の演習資料を再読し、復習する			
6	茂木 弥生子		【第 6 回】 予習 : 雑誌等で集合住宅の事例を調べる 授業 : 集合住宅の事例紹介と分析 復習 : 配布資料を再読し、集合住宅の事例研究方法について理解を深める			
7	茂木 弥生子		【第 7 回】 予習 : 興味を持った集合住宅の事例について学習する 授業 : 集合住宅の事例紹介と分析（演習課題 5） 復習 : 集合住宅の事例研究資料を作成する			
8	茂木 弥生子		【第 8 回】 予習 : 環境に配慮した集合住宅の事例を調べる 授業 : 環境と建築の関わり 復習 : 配布資料を再読し、集合住宅と環境について理解を深める			
9	茂木 弥生子		【第 9 回】 予習 : 集合住宅の外構事例を調べる 授業 : 外構計画の考え方（演習課題 6） 復習 : 配布資料を再読し、外構計画について理解を深める			
10	茂木 弥生子		【第 10 回】 予習 : 集合住宅事例研究の発表準備をする 授業 : 集合住宅事例研究の発表（グループ発表） 復習 : 発表で指摘された点について復習する			
11	茂木 弥生子		【第 11 回】 予習 : 雑誌等で学校建築の事例を調べる 授業 : 学校の建築計画① 復習 : 配布資料を再読し、学校建築について理解を深める			

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : 興味を持った学校建築の事例について学習する 授業 : 学校の建築計画②（演習課題 7：グループワーク） 復習 : 学校建築について自分の視点で考察する							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : 雑誌等で医療・高齢者福祉施設の事例を調べる 授業 : 医療・高齢者福祉施設の建築計画① 復習 : 配布資料を再読し、医療・高齢者福祉施設について理解を深める							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : 興味を持った医療・高齢者福祉施設の事例について学習する 授業 : 医療・高齢者福祉施設の建築計画②（演習課題 8） 復習 : 医療・高齢者福祉施設について自分の視点で考察する							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : レポートを進める 授業 : まとめ 復習 : レポートを仕上げ、提出する							
授業開始前学習		集合住宅の事例を建築雑誌で閲覧しておくことを推奨する。							
授業内課題のフィードバックの方法		演習課題を実施した際には、個別添削と講義内での解説を行う。事例研究課題については、発表と講評を行う。							
テキスト・教材		適宜資料を配布する							
参考書		「テキスト 建築計画」（学芸出版社） 「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法		演習・事例研究・レポート・授業態度を総合して評価する。 配点（100 点満点）は、演習・事例研究 20 点、レポート 50 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		建築デザイン I							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計等の実務経験を活かし、集合住宅等の建築計画学について講義する。							

科目分類	142-331-13	授業コード	FG0960
科目名称	建築計画 C	単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning C	授業区分	講義
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	この授業では建築計画 A、B のテーマであった住空間についての建築計画的知識の習得をふまえて、より公共的、複合的な機能を持った施設の建築計画の分析を事例研究とともにを行い、都市の中での公共的建築の建築計画の意味、内容を考察していく。 具体的には美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設等を対象とする。		
到達目標	美術館、図書館、博物館、コミュニティ施設の建築計画学としての基礎知識の習得を目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス 復習：配布資料確認	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習：美術館の定義検索 授業：美術館の建築計画 復習：配布資料キーワード確認	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習：ルイスカーンの美術館検索 授業：美術館の事例紹介① 復習：配布資料のキーワード確認	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習：ポンピドー美術館検索 授業：美術館の事例紹介② 復習：配布資料のキーワード確認	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習：エクセター図書館検索 授業：図書館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習：上野、法隆寺博物館参照 授業：博物館の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅰ 事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅱ 事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘事項の再検証	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習：メディアテーク参照（伊東豊雄） 授業：複合施設の建築計画 復習：配布資料のキーワード確認	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習：敷地分析 授業：複合施設事例紹介と分析① 復習：敷地と建築の関係確認	
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習：機能分析 授業：複合施設事例紹介と分析②	

		復習：機能ダイアグラムの検証							
12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：断面計画の分析 授業：複合施設事例紹介と分析③ 復習：断面計画と機能ダイアグラムの関係を検証							
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅲ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証							
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：課題Ⅳ事例分析の発表（プレゼンテーション） 復習：指摘点の再検証							
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：分析プロセスの再検証 授業：まとめ 復習：建築計画の意味の確認							
授業開始前学習		建築計画 A、建築計画 B で学んだ、建築計画の基礎について復習しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回提出する小レポートに対して、次の週にフィードバックする。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリントを配布する。							
参考書		「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編（丸善出版）							
評価の基準と方法		毎回の小課題と期末レポート、授業態度で評価を行う。配点は（100 点満点に於ける）は、小課題とレポート 70 点、授業態度 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		建築計画 A、建築計画 B、建築デザインⅡ							
その他		授業の順番等は、適宜変更する場合がある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-14	授業コード	FG0970
科目名称	建築計画 D	単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Planning D	授業区分	講義
科目責任者	鹿倉 祐一	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	鹿倉 祐一	開講時期	4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	「一級建築士」および「二級建築士」の試験に出題される「建築計画」の分野についての基礎的な内容を重点的に学ぶ。さらに実践的な演習問題に取り組み、応用問題を学ぶ。インテリアプランナーやインテリアコーディネーターなどの資格試験内容にもつながる。		
到達目標	建築士を目指す際に必要となる「建築計画」分野の基礎的な知識を習得する。実践的な、演習問題をととして基礎的な知識を定着させ、応用力を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	鹿倉 祐一	【第 1 回】 予習 : 建築士試験の内容を調べる 授業 : ガイダンス 建築士制度、建築士事務所について 復習 : 建築士の役割を理解する	
2	鹿倉 祐一	【第 2 回】 予習 : 1 年生から 3 年生までの建築計画の内容をまとめる 授業 : 建築計画一般 住宅 復習 : 建築士試験での計画の内容を理解する	
3	鹿倉 祐一	【第 3 回】 予習 : 住宅・集合住宅に必要なものを調べる 授業 : 住宅・集合住宅 復習 : 住宅・集合住宅の構成を理解する	
4	鹿倉 祐一	【第 4 回】 予習 : 都市とはなにかを調べる 授業 : 地域計画 近隣住区理論 復習 : 都市の構成、まちづくりについて理解する	
5	鹿倉 祐一	【第 5 回】 予習 : 商業建築の役割について調べる 授業 : 商業建築 1 (事務所・劇場) 復習 : 事務所・劇場の内容を理解する	
6	鹿倉 祐一	【第 6 回】 予習 : 店舗・ホテル・駐車場の役割について調べる 授業 : 商業建築 2 (店舗・宿泊施設・駐車場) 復習 : 店舗・ホテル・駐車場の内容を理解する	
7	鹿倉 祐一	【第 7 回】 予習 : 公共建築の役割を調べる 授業 : 公共建築 1 (保育所・幼稚園・学校) 復習 : 保育所・幼稚園・学校の内容を理解する	
8	鹿倉 祐一	【第 8 回】 予習 : 高齢者社会と医療についての調べる 授業 : 公共建築 2 (医療施設・社会福祉施設) 復習 : 医療施設・社会福祉施設の内容を理解する	
9	鹿倉 祐一	【第 9 回】 予習 : 公共建築と周辺環境のつながりを調べる 授業 : 公共建築 3 (図書館・博物館・美術館) 復習 : 図書館・美術館・博物館の内容を理解する	
10	鹿倉 祐一	【第 10 回】 予習 : 建築計画における人体寸法を調べる 授業 : 各部計画 1 (各部寸法、面積等) 復習 : 建築計画で利用される細部寸法、大きさを理解する	
11	鹿倉 祐一	【第 11 回】 予習 : バリアフリーに関する法律を調べる。 授業 : 各部計画 2 (バリアフリー・高齢者・身障者に対する建築計画) 復習 : 健常者以外のための建築計画を理解する	

12	鹿倉 祐一	【第 12 回】 予習 : 建築の施工方法を調べる 授業 : 建築計画と建築生産 復習 : 建築の施工方法について理解する						
13	鹿倉 祐一	【第 13 回】 予習 : 日本建築、西洋建築の有名な建築物を調べる 授業 : 建築計画と建築史 1 (日本建築史・西洋建築史) 復習 : 日本建築、西洋建築の特徴、年代、設計者などを理解する						
14	鹿倉 祐一	【第 14 回】 予習 : 近代建築・現代建築の有名な建築物を調べる 授業 : 建築計画と建築史 2 (近代建築史・現代建築史) 復習 : 近代建築、現代建築の特徴、年代、設計者などを理解する						
15	鹿倉 祐一	【第 15 回】 予習 : 不得意な分野を洗い出し、まとめておくこと 授業 : 建築士試験の内容を分析と対策 復習 : 建築計画の内容を整理し、建築士試験の出題傾向について理解する						
授業開始前学習		建築計画に関連する過去に出題された「一級建築士」および「二級建築士」の問題を閲覧しておくことを勧めます。						
授業内課題のフィードバックの方法		各回の授業の内容と演習問題の関連性についての疑問について、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		適宜、各回講義内にて資料を配布する。						
参考書		建築計画 A 教科書『建築計画設計シリーズ 41 新・住宅 I』(市ヶ谷出版)を参考書として利用する。住宅、集合住宅、各部計画の講義時に利用する。						
評価の基準と方法		小テストと演習問題で評価する。 配点(100 点満点)は、小テスト 30 点と演習問題 40 点、平常点(授業態度・課題提出) 30 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は単位取得できない。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目	建築計画 A、建築計画 B、建築計画 C							
その他	各回授業時間内の最後に小テストを行います。また、最終回に演習問題を行います。 公欠等の場合は、クラスルームより講義資料を参考に欠席回の小テストを行い、次回出席時に回答を提出してください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間(4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	142-331-12 (J)	授業コード	FG0980
科目名称	構造力学Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	Structural Theory I	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	基本的な建築構造力学の講義により、建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識を習得する。静定構造物を中心に荷重・外力のモデル化、応力や変形の性質を学ぶ。		
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできることを目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : 方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて理解しておくこと。 授業 : ガイダンス、力のつり合い 復習 : 力のつり合いを理解するよう努める	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : モーメントの概念について理解しておくこと 授業 : モーメントの概念 復習 : モーメントの概念を理解するよう演習問題で理解すること	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : 部材の伸縮、応力度、ひずみを理解しておくこと 授業 : 部材の伸縮、応力度、ひずみ 復習 : 部材の伸縮、応力度、ひずみを理解するよう演習問題で理解すること	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : トラスの原理を理解しておくこと 授業 : トラスの原理 復習 : トラスの原理を理解するよう演習問題で理解すること	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : トラスの解法を理解しておくこと 授業 : トラスの解法 復習 : トラスの解法を理解するよう演習問題で理解すること	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : 片持ち梁・単純梁を理解しておくこと 授業 : 片持梁にかかる応力 復習 : 片持梁にかかる応力を理解するよう演習問題で理解すること	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : 荷重を理解しておくこと 授業 : 分布荷重 復習 : 分布荷重を理解するよう演習問題で理解すること	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : 応力度を理解しておくこと 授業 : 曲げ応力度 復習 : 曲げ応力度を理解するよう演習問題で理解すること	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : たわみを理解しておくこと 授業 : たわみ 復習 : たわみを理解するよう演習問題で理解すること	
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : 座屈を理解しておくこと 授業 : 座屈 復習 : 座屈を理解するよう演習問題で理解すること	
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : 許容応力度を理解しておくこと 授業 : 梁の断面設計? 1 復習 : 梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること	

12	小川 弾	【第 12 回】 予習：梁の断面設計を理解しておくこと 授業：梁の断面設計? 2 復習：梁の断面設計法を理解するよう演習問題で理解すること							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：反力を理解しておくこと 授業：静定ラーメンの反力ー 1 復習：反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：反力の求め方を理解しておくこと 授業：静定ラーメンの反力ー 2 復習：反力の求め方を理解するよう演習問題で理解すること							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：演習問題の内容を理解しておくこと 授業：評価 復習：授業内容を理解するよう演習問題で理解すること							
授業開始前学習		授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ及び数学Ⅲ）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材		改訂版図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題集（学芸出版）							
参考書		図説やさしい建築数学（学芸出版）							
評価の基準と方法		定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験 60%、小テスト 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎			
関連科目		「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。							

科目分類	142-331-12 (J)			授業コード	FG0990
科目名称	構造力学Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Structural TheoryⅡ			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建築物を計画・設計・施工するために必要となる知識すなわち、力の流れや構造のしくみ、構造材料の特質などの力学的な知識と理解力を習得する。				
到達目標	設定された構造モデルにおける、部材の断面算定が数値的にできること。同時に部材内の応力度について理解を深めることを目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : トラスの種類について理解しておくこと。 授業 : トラス トラスの種類及びトラスの解法 復習 : トラスの種類及び解法について理解するよう演習すること			
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : 節点法を理解しておくこと 授業 : トラス 節点法によるトラスの解法 復習 : 節点法について理解するよう演習すること			
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : 切断法を理解しておくこと 授業 : トラス 切断法によるトラスの解法 復習 : 切断法について理解するよう演習すること			
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : 断面積・断面 1 次モーメントを理解しておくこと 授業 : 断面に関する数量-1 復習 : 断面に関する数量について理解するよう演習すること			
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : 断面 2 次モーメント・断面係数・断面 2 次半径を理解しておくこと 授業 : 断面に関する数量-2 復習 : 断面に関する数量について理解するよう演習すること			
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : これまで扱った断面に関する数量を理解しておくこと 授業 : 断面に関する数量-3 復習 : 断面に関する数量について理解するよう演習すること			
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : 応力度の概念を理解しておくこと 授業 : 応力度-1 復習 : 応力度について理解するよう演習すること			
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : 曲げ・せん断応力度を理解しておくこと 授業 : 応力度-2 復習 : 応力度について理解するよう演習すること			
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : 引張・圧縮応力度を理解しておくこと 授業 : 応力度-3 復習 : 応力度について理解するよう演習すること			
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : 不静定構造物を理解しておくこと 授業 : 不静定構造物の基礎-不静定構造物の原理と基礎的解法 復習 : 不静定構造物の基礎について理解するよう演習すること			
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : 不静定応力について理解しておくこと 授業 : 不静定構造物の基礎-固定法 復習 : 固定法について理解するよう演習すること			

12	小川 弾	【第 12 回】 予習：不静定応力について理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-たわみ角法 復習：たわみ角法について理解するよう演習すること							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：不静定応力について理解しておくこと 授業：不静定構造物の基礎-ラーメン構造と D 値法 復習：D 値法について理解するよう演習すること							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：塑性解析について理解しておくこと 授業：塑性解析の基礎?全塑性モーメントと不静定梁の崩壊 復習：全塑性モーメントについて理解するよう演習すること							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：保有水平耐力について理解しておくこと 授業：塑性解析の基礎?不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力 復習：保有水平耐力について理解するよう演習すること							
授業開始前学習		授業に必要な力学や数学の知識は授業内で解説を行うが、高等学校数学（数学Ⅰ、数学 A 及び数学 B）で扱う方程式の解き方、三角関数、平面幾何及びベクトルについて復習すると理解がしやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストを行った際は、採点と講義内での解説を行う。							
テキスト・教材		図説やさしい構造力学（学芸出版） やさしい構造力学演習問題（学芸出版）							
参考書		図説やさしい建築数学（学生出版）							
評価の基準と方法		定期試験および、授業内で行う小テストで評価を行う。配点は、定期試験 60%、小テスト 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎			
関連科目		「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。構造力学の基礎について講義する。							

科目分類	142-331-12 (J)	授業コード	FG1000
科目名称	建築構造 I	単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Structure I	授業区分	講義
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築の空間は構造体や設備が一体となって実現できる。空間を形作る種々の構造体の概念と成り立ちを理解する。		
到達目標	木造建物を中心に、建築物の成り立ちについて理解を深めることを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : 身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと 授業 : ガイダンス、概論 復習 : 概論について理解するよう努める	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : 前回授業の内容を理解しておくこと 授業 : 歴史的建造物の構造 復習 : 歴史的建造物の構造について理解するよう努める	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : 歴史的建造物の構造を理解しておくこと 授業 : 近代建築の構造とデザインの発展 復習 : 近代建築の構造について理解するよう努める	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : 近代建築の構造とデザインの発展を理解しておくこと 授業 : 民家および在来工法 復習 : 民家および在来工法について理解するよう努める	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : 民家および在来工法を理解しておくこと 授業 : 木材の性質と構造原理 復習 : 木材の性質と構造原理について理解するよう努める	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : 木材の性質と構造原理を理解しておくこと 授業 : 木造の小屋組 復習 : 木造の小屋組について理解するよう努める	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : 木造の小屋組を理解しておくこと 授業 : 木造の軸組 復習 : 木造の軸組について理解するよう努める	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : 木造の軸組を理解しておくこと 授業 : 地盤・基礎 復習 : 地盤・基礎について理解するよう努める	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : 地盤・基礎を理解しておくこと 授業 : 屋根の形状 復習 : 屋根の形状について理解するよう努める	
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : 屋根の形状を理解しておくこと 授業 : 壁の構造と構法 復習 : 壁の構造と構法について理解するよう努める	
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : 壁の構造と構法を理解しておくこと 授業 : 集成材の構造 復習 : 集成材の構造について理解するよう努める	

12	小川 弾	【第 12 回】 予習：集成材の構造を理解しておくこと 授業：工業化住宅の構造-1 復習：工業化住宅の構造について理解するよう努める							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業：工業化住宅の構造-2 復習：工業化住宅の構造について理解するよう努める							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：工業化住宅の構造を理解しておくこと 授業：地震と構造 復習：地震と構造について理解するよう努める							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：地震と構造を理解しておくこと 授業：評価 復習：今学期の配布資料を熟読し、内容を把握するよう努める							
授業開始前学習		雑誌・書籍や TV 等にみられる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておく、講義中の説明を理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		レポートは個別に採点し返却を行う。							
テキスト・教材		建築構法（市ヶ谷出版社）							
参考書									
評価の基準と方法		レポートと授業内で行う小テストおよびミニットペーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニットペーパー 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目		「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。							

科目分類	142-331-12（J）			授業コード	FG1010
科目名称	建築構造Ⅱ			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural StructureⅡ			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	2 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建物は材料と構法の組み合わせによって成立する。建物の設計において、建物に要求される断面・材料の基本を身につける。				
到達目標	鋼構造及び鉄筋コンクリート構建造物を中心に、建物の成り立ちと特徴を理解することを目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小川 弾	【第 1 回】 予習：身の回りの建物について注意を持って観察しておくこと 授業：ガイダンス 復習：配布資料を熟読し、授業内容を理解するよう努める			
2	小川 弾	【第 2 回】 予習：ガイダンスを理解しておくこと 授業：鋼材の性質と構造原理 復習：鋼材の性質と構造原理について理解するよう努める			
3	小川 弾	【第 3 回】 予習：鋼材の性質と構造原理を理解しておくこと 授業：鉄骨構造の骨組 復習：鉄骨構造の骨組について理解するよう努める			
4	小川 弾	【第 4 回】 予習：鉄骨構造の骨組を理解しておくこと 授業：鉄骨構造の継手・筋かい 復習：鉄骨構造の継手・筋かいについて理解するよう努める			
5	小川 弾	【第 5 回】 予習：鉄骨構造の継手・筋かいを理解しておくこと 授業：鉄骨構造の溶接 復習：鉄骨構造の溶接について理解するよう努める			
6	小川 弾	【第 6 回】 予習：鉄骨構造の溶接を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの原理 復習：鉄筋コンクリートの原理について理解するよう努める			
7	小川 弾	【第 7 回】 予習：鉄筋コンクリートの原理を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの構造形式 復習：鉄筋コンクリートの構造形式について理解するよう努める			
8	小川 弾	【第 8 回】 予習：鉄筋コンクリートの構造形式を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの配筋-柱 復習：鉄筋コンクリートの柱配筋について理解するよう努める			
9	小川 弾	【第 9 回】 予習：鉄筋コンクリートの柱配筋を理解しておくこと 授業：鉄筋コンクリートの配筋-梁 復習：鉄筋コンクリートの梁配筋について理解するよう努める			
10	小川 弾	【第 10 回】 予習：鉄筋コンクリートの梁配筋を理解しておくこと 授業：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理 復習：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理について理解するよう努める			
11	小川 弾	【第 11 回】 予習：鉄骨鉄筋コンクリート構造の原理を理解しておくこと 授業：PC 構造の原理と力学的性状 復習：PC 構造の原理と力学的性状について理解するよう努める			

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 : PC 構造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業 : ブロック造の原理と力学的性状 復習 : ブロック造の原理と力学的性状について理解するよう努める							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 : ブロック造の原理と力学的性状を理解しておくこと 授業 : 壁構造の種類と構造原理 復習 : 壁構造の種類と構造原理について理解するよう努める							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 : 壁構造の種類と構造原理を理解しておくこと 授業 : 風や積雪と構造 復習 : 風や積雪と構造について理解するよう努める							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 : 風や積雪と構造を理解しておくこと 授業 : 評価 復習 : 今学期の配布資料を熟読し、全ての内容を理解するよう努める							
授業開始前学習		雑誌・書籍や TV 等にみられる建築物、現実に見られる構造物の全体や細部の成り立ちや形態についてよく観察をしておく、講義中の説明を理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		レポートは個別に採点し返却を行う。							
テキスト・教材		建築構法（市ヶ谷出版社）							
参考書									
評価の基準と方法		レポートと授業内で行う小テストおよびミニットペーパーで評価する。配点は、レポート 40%、小テスト 20%、ミニットペーパー 40%の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目		「構造力学Ⅰ、Ⅱ」は建築物及び建築物を構成する部材を数値化して技術的に取り扱う手法を学び、「建築構造Ⅰ、Ⅱ」は建築物の成り立ちや概観を通して建築構造全体を俯瞰する知識を身につけていく。							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計事務所における設計・監理の実務経験あり。建築物の構造体の概念と成り立ちについて講義する。							

科目分類	142-331-12	授業コード	FG1020
科目名称	日本建築史	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Japanese Architecture	授業区分	講義
科目責任者	堀邊 阿伊子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊 阿伊子	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-619
授業概要	自然・社会・文化との密接な関わりのなかで、日本建築がいかに発展してきたかを概観し、その技術や意匠、様式上の特質について理解する。身近に接し鑑賞できる近代・現代の日本建築・都市などにも視野を広げて考察する。		
到達目標	日本建築についての様式上の特質・意匠・技術について理解を深め、専門用語の説明ができるようになる。日本建築に対して、関心を持ち、自分自身の考えを広げられるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	堀邊 阿伊子	【第 1 回】 予習 : 「参考図書」日本建築の特徴についてを講読 授業 : 日本建築の特徴・日本の住様式 復習 : 日本の住様式について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
2	堀邊 阿伊子	【第 2 回】 予習 : 「参考図書」飛鳥・奈良時代の神社建築についてを講読 授業 : 古代 (1) 飛鳥・奈良時代の神社建築 復習 : 伊勢神宮、出雲大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
3	堀邊 阿伊子	【第 3 回】 予習 : 「参考図書」飛鳥・奈良時代の寺院建築についてを講読 授業 : 古代 (2) 飛鳥・奈良時代の寺院建築 復習 : 法隆寺、東大寺、薬師寺他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
4	堀邊 阿伊子	【第 4 回】 予習 : 「参考図書」平安時代の神社・寺院建築についてを講読 授業 : 古代 (3) 平安時代の神社・寺院建築 復習 : 密教建築、浄土教建築、春日大社他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
5	堀邊 阿伊子	【第 5 回】 予習 : 「参考図書」都城の制と宮殿、邸宅についてを講読 授業 : 古代 (4) 都城の制と宮殿、邸宅 復習 : 平城京、平安京、寝殿造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
6	堀邊 阿伊子	【第 6 回】 予習 : 「参考図書」鎌倉・室町時代の神社建築についてを講読 授業 : 中世 (1) 鎌倉・室町時代の神社建築 復習 : 中世の寺社建築、技術条の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
7	堀邊 阿伊子	【第 7 回】 予習 : 「参考図書」鎌倉・室町時代の寺院・庭園建築についてを講読 授業 : 中世 (2) 鎌倉・室町時代の寺院・庭園建築 復習 : 大仏様・禅宗様について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
8	堀邊 阿伊子	【第 8 回】 予習 : 「参考図書」中世都市と住宅についてを講読 授業 : 中世 (3) 中世都市と住宅 復習 : 寺内町、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
9	堀邊 阿伊子	【第 9 回】 予習 : 「参考図書」安土桃山・江戸時代の神社・寺院建築についてを講読 授業 : 近世 (1) 安土桃山・江戸時代の神社・寺院・霊廟建築 復習 : 黄檗宗の建築、東照宮他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
10	堀邊 阿伊子	【第 10 回】 予習 : 「参考図書」城郭建築、近世武家住宅についてを講読 授業 : 近世 (2) 城郭建築と城下町、近世武家住宅 復習 : 城郭建築、書院造について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
11	堀邊 阿伊子	【第 11 回】 予習 : 「参考図書」茶室・数寄屋建築についてを講読 授業 : 茶室・数寄屋建築 (1) 復習 : 茶室建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	

12	堀邊 阿伊子	【第 12 回】 予習：「参考図書」茶室・数寄屋建築についてを講読 授業：茶室・数寄屋建築（2） 復習：茶室建築の展開・数寄屋建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
13	堀邊 阿伊子	【第 13 回】 予習：「参考図書」近代洋風建築についてを講読 授業：近代洋風建築 復習：明治の開国からコンドル、辰野金吾他について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
14	堀邊 阿伊子	【第 14 回】 予習：「参考図書」日本のモダニズムについてを講読 授業：日本のモダニズム 復習：分離派建築会、近代和風、近代合理主義について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
15	堀邊 阿伊子	【第 15 回】 予習：「参考図書」これまでの関連ページを講読 授業：全体のまとめ 復習：モダニズム、ポスト・モダンの建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
授業開始前学習		授業で対象となる建築の時代について、政治・文化的な日本史の要旨を理解しておくことがのぞましい。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業では毎回、授業の内容について、自分たちの意見・感想を、内容を整理しながら設定時間内に小レポートとしてまとめ、提出する。復習としてまとめる際に、全体的な傾向、記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材		関連資料は、適宜 PDF（またはプリント）として配布する。							
参考書		①太田博太郎監修「カラー版 日本建築様式史」（美術出版社、1999 年） ②日本建築学会編「日本建築史図集」（彰国社、2009 年） ③光井渉、太記祐一「カラー版 建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）							
評価の基準と方法		レポートによる成績、平常点などから総体的に評価する。 点数配分は 100 点満点のうち、平常点（毎回の授業の小レポートと受講態度）が 60 点、40 点は中間・期末の 2 回のレポートの成果から判断する。出席数が 10 回未満の場合は、原則としては単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		日本の建築意匠・デザインを扱うすべての授業、日本史、日本文化史							
その他		授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートを取り、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 日本建築の歴史をしっかりと把握し、さらに未来に向けて創造的に還元できることがのぞましい。日本建築の特徴を生かした近代・現代の建築についても資料を調べ、見学することを勧める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-12	授業コード	FG1030
科目名称	西洋建築史	単位数	2.0 単位
英文名称	History of Western Architecture	授業区分	講義
科目責任者	岩谷 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	岩谷 洋子	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	西欧の建築・都市を古代から時代ごとに考察し、広い視野をもって世界の建築に対する関心を高める。建築や都市をその基底となる社会・文化と合わせて歴史的に理解すると同時に、専門的な理解を深めていく。		
到達目標	西欧の建築について、様式・意匠・技術などの特徴や専門用語を理解し、広い視野をもつと同時に、自分自身との関わりを考え、関心が持てるようになる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	岩谷 洋子	【第 1 回】 予習 : 「参考図書」にある時代区分を確認 授業 : 西洋建築史ガイダンス 復習 : 古代以来の西欧建築の時代区分とその特徴について、図版・資料をもとに確認する	
2	岩谷 洋子	【第 2 回】 予習 : 「参考図書」の p.18-p.27 を講読 授業 : 古代ギリシア建築 復習 : ギリシア神殿とオーダーについて、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
3	岩谷 洋子	【第 3 回】 予習 : 「参考図書」の p.27-p.32 を講読 授業 : 古代ギリシア建築と都市 復習 : 古代ギリシアの都市、住宅建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
4	岩谷 洋子	【第 4 回】 予習 : 「参考図書」の p.34-p.42 を講読 授業 : 古代ローマ建築 復習 : 古代ローマ建築の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
5	岩谷 洋子	【第 5 回】 予習 : 「参考図書」の p.43-p.46 を講読 授業 : 古代ローマ建築と都市 復習 : 西欧各地のローマによる建築・都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
6	岩谷 洋子	【第 6 回】 予習 : 「参考図書」の p.48-p.56 を講読 授業 : ビザンティン建築 復習 : ビザンティン建築、初期キリスト教建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
7	岩谷 洋子	【第 7 回】 予習 : 「参考図書」の p.12-p.16 を講読 授業 : オリエントの建築、イスラム建築 復習 : エジプト建築やイスラム教の建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
8	岩谷 洋子	【第 8 回】 予習 : 「参考図書」の p.56、p.58-p.70 を講読 授業 : プレ・ロマネスク建築、ロマネスク建築 復習 : プレ・ロマネスク、ロマネスク建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
9	岩谷 洋子	【第 9 回】 予習 : 「参考図書」の p.72-p.80 を講読 授業 : ゴシック建築 復習 : フランスを中心に各国のゴシック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
10	岩谷 洋子	【第 10 回】 予習 : 「参考図書」の p.80-p.84 を講読 授業 : 中世の建築と都市 復習 : 西欧中世の都市と建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	
11	岩谷 洋子	【第 11 回】 予習 : 「参考図書」の p.86?p.92、p.102-p.112 を講読 授業 : ルネサンス建築と都市 復習 : 各国のルネサンス建築、ルネサンス都市について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する	

12	岩谷 洋子	【第 12 回】 予習：「参考図書」の p.93－p.100 を講読 授業：マニエリスム建築 復習：イタリアを中心とするマニエリスム建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
13	岩谷 洋子	【第 13 回】 予習：「参考図書」の p.114－p.126 を講読 授業：バロック建築 復習：各国のバロック建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
14	岩谷 洋子	【第 14 回】 予習：「参考図書」の p.128－p.135 を講読 授業：バロック建築と都市 復習：バロック建築と都市の特徴について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
15	岩谷 洋子	【第 15 回】 予習：「参考図書」の p.135－p.140、p.142－p.152 を講読 授業：新古典主義建築 復習：イギリス、フランスの新古典主義建築について、図版・専門用語の意味・建築名を確認する							
授業開始前学習		配布資料に目を通し確認する。また、授業の内容に関連する時代の政治・文化について、世界史の要旨を把握しておく理解しやすい。							
授業内課題のフィードバックの方法		毎回、授業の内容について整理し、自分たちの意見・感想を合わせ小レポートとして提出する。レポートの記述内容や整理法、着眼点などに対して講評する。							
テキスト・教材		関連資料は、PDF（またはコピー）により配布する。							
参考書		①熊倉洋介、末永航 他「カラー版 西洋建築様式史」（美術出版社、2010 年） ②光井渉、太記祐一「カラー版 建築と都市の歴史」（井上書院、2013 年）							
評価の基準と方法		100 点満点のうち、平常点（毎回の授業のと小レポートと受講態度）が 60 点、中間・期末の 2 回のレポートが 40 点である。出席が 10 回未満の場合は、原則として単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○				◎	○		
関連科目		西欧の歴史・意匠に関する全ての授業、文化史・歴史							
その他		授業中に配布した関連資料は各自で整理し、また解説した内容についてはノートを取り、映像資料については必要であれば簡単なスケッチをしながら聴講すると、復習がしやすい。 授業のなかで説明した建築・都市に関連する内容について、具体的に世界遺産などを調べてさらに関心を深めていくことを勧める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-12	授業コード	FG1040
科目名称	ランドスケープ論	単位数	2.0 単位
英文名称	Theory of Landscape Architecture	授業区分	講義
科目責任者	大林 万里江	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	大林 万里江	開講時期	2・3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	環境に対する関心の高まりにともない、建物の積極的な緑化計画が進められ、街の風景が少しずつ変化してきている。ランドスケープの基礎知識や具体的なデザイン手法を習得し、住宅や街並みのランドスケープを通して、今後どのように環境に対してアプローチしていくべきかを考察する。また、授業では演習課題やグループ発表などのグループワークを行う。		
到達目標	ランドスケープの歴史や主要作品のデザイン手法の学習を通じて、建築、街並みといった私たちを取り巻く環境を多面的に考察できる能力を身につける。また、ランドスケープの作図の基礎を学習し、周囲の環境との関係を読み解きながら、ランドスケープ空間を創造する技術を習得することを目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	大林 万里江	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : ガイダンス (ランドスケープとはなにか) 復習 : 配布資料を再読み、理解を深める	
2	大林 万里江	【第 2 回】 予習 : ランドスケープの歴史に関する資料を調べる 授業 : ランドスケープデザインの歴史① 復習 : 配布資料を再読み、ランドスケープの歴史について復習する	
3	大林 万里江	【第 3 回】 予習 : ランドスケープの歴史に関する資料を調べる 授業 : ランドスケープデザインの歴史② 復習 : 配布資料を再読み、ランドスケープの歴史について復習する	
4	大林 万里江	【第 4 回】 予習 : 庭に関する資料を調べる 授業 : 庭とはなにか 復習 : 配布資料を再読み、庭について復習する	
5	大林 万里江	【第 5 回】 予習 : 住空間のランドスケープに関する資料を調べる 授業 : 住空間のランドスケープ 復習 : 配布資料を再読み、住空間のランドスケープについて復習する	
6	大林 万里江	【第 6 回】 予習 : 都市空間のランドスケープに関する資料を調べる 授業 : 都市空間のランドスケープ 復習 : 配布資料を再読み、都市空間のランドスケープについて復習する	
7	大林 万里江	【第 7 回】 予習 : 緑化された建物の事例を調べる 授業 : 建物の緑化計画 復習 : 配布資料を再読み、建物の緑化について復習する	
8	大林 万里江	【第 8 回】 予習 : ランドスケープ事例の資料を収集する 授業 : ランドスケープの事例研究① (演習課題 1) 復習 : 事例研究資料をまとめる	
9	大林 万里江	【第 9 回】 予習 : ランドスケープ事例の資料を収集する 授業 : ランドスケープの事例研究② (演習課題 2) 復習 : 事例研究資料をまとめる	
10	大林 万里江	【第 10 回】 予習 : ランドスケープ事例研究の発表準備をする 授業 : ランドスケープの事例研究の発表 (グループ発表) 復習 : 講評内容を記録し、自己評価も行う	
11	大林 万里江	【第 11 回】 予習 : 最近のランドスケープに関する資料を調べる 授業 : これからのランドスケープ 復習 : 配布資料を再読み、最近のランドスケープの事例について復習する	

12	大林 万里江	【第 12 回】 予習 : 住宅のランドスケープ事例を調べる 授業 : 住宅のランドスケープを考える (演習課題 3) 復習 : 課題内容を整理・検討する							
13	大林 万里江	【第 13 回】 予習 : エスキスのための準備をする 授業 : エスキス (演習課題 4) 復習 : エスキスで指摘された箇所について改善する							
14	大林 万里江	【第 14 回】 予習 : エスキスのための準備をする 授業 : エスキス (演習課題 5) 復習 : エスキスで指摘された箇所について改善する							
15	大林 万里江	【第 15 回】 予習 : 課題を完成させ、発表準備をする 授業 : 課題の提出・講評 (グループ発表) 復習 : 講評内容をもとに自己評価を行う							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		事例研究は、9 回目の授業終了時に提出。1 0 回目で全体の発表を行い、質疑回答などを行う。設計課題は、1 4 回目の授業終了後に提出。15 回目で全体の発表を行い、質疑回答を行う。							
テキスト・教材		適宜資料を配布する。							
参考書		適宜、推薦図書・参考図書を紹介する。							
評価の基準と方法		事例研究、課題等の提出物と授業参加度を総合して評価する。 配点 (1 0 0 点満点) は、提出物 6 0 点、授業参加度 4 0 点とする。 出席回数が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目									
その他		課題制作には、色鉛筆などの道具が必要になる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-13	授業コード	FG1050
科目名称	建築環境設備	単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Environmental Equipment	授業区分	講義
科目責任者	松元 良枝	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元 良枝	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10 後期 木曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10	研究室	10-601
授業概要	「健康」で「快適な」室内環境を形成するために必要な「建築設備」について理論やシステムの基礎知識を修得する。前半では空気調和設備・換気設備を、後半では給排水・衛生設備・その他の設備について解説する。特に、省エネルギー・省資源、建築デザインとの関連を理解することを目標とし、建築設備全般に関する基礎的な知識の修得を目指す。		
到達目標	建築環境設備の基礎的な知識を修得し、快適な生活の実現の為に建築環境がどのように寄与しているのか理解する。また、発展を続ける建築設備の今後の方向性と課題について考えていく姿勢を身につける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	松元 良枝	【第 1 回】 予習：当該分野の書籍等を読み、専門用語に慣れておく。 授業：ガイダンス（建築環境設備について） 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
2	松元 良枝	【第 2 回】 予習：どのような地域冷暖房計画が実際に運用されているか情報を収集しておく。 授業：建築設備の総合計画・地域設備計画 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
3	松元 良枝	【第 3 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(1) 空調計画・ゾーニング 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
4	松元 良枝	【第 4 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(2) 冷却原理とヒートポンプ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
5	松元 良枝	【第 5 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(3) 空調機とファンコイル 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
6	松元 良枝	【第 6 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(4) ファン、ダクト、吹き出し口 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
7	松元 良枝	【第 7 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(5) 湿り空気と空気線図 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
8	松元 良枝	【第 8 回】 予習：空気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：空気調和設備(6) 自然エネルギーの利用と省エネ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
9	松元 良枝	【第 9 回】 予習：換気調和設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：換気設備 換気設備、フィルター、クリーンルーム 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
10	松元 良枝	【第 10 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(1) 給水設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	
11	松元 良枝	【第 11 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(2) 給湯設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。	

12	松元 良枝	【第 12 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(3) 衛生設備と水まわり 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。							
13	松元 良枝	【第 13 回】 予習：給排水・衛生設備について、身近な建築物における設備を確認しておく。 授業：給排水・衛生設備(4) 排水通気設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。							
14	松元 良枝	【第 14 回】 予習：ガス設備や浄化槽等について、基礎知識をつけておく。 授業：その他の設備 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。							
15	松元 良枝	【第 15 回】 予習：第 1 回～14 回の授業内容について確認する。 授業：建築環境設備のまとめ 復習：授業内容について、疑問や理解不足が無いようにする。							
授業開始前学習		当該分野の書籍等には目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内での解説を実施する。							
テキスト・教材		『「建築の設備」入門』新訂第二版（彰国社）。 また講義時に適宜資料を配布する。							
参考書		『建築設備入門』（オーム社）							
評価の基準と方法		小テスト 20%、レポート 50%、平常点（授業態度・理解度）30%							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-13			授業コード	FG1060
科目名称	環境工学			単位数	2.0 単位
英文名称	Environmental Engineering			授業区分	講義
科目責任者	松元 良枝			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	松元 良枝			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 09:00~10:30 木曜日 10:40~12:10 後期 木曜日 09:00~10:30 木曜日 10:40~12:10			研究室	10-601
授業概要	人体周辺環境から室内環境、都市環境に至るまで一口に「建築環境」といっても広い定義を持っている。その中で、建築の環境を作り出している諸要因について基礎的な知識と理解を深める。 気候・温熱・空気・音環境などの物理環境要素を建築物へ取り込む技術手法を交えながら講義する。				
到達目標	建築の気候・光・温熱・空気・音環境などに関する基礎的な事項を修得する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	松元 良枝	【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス（建築環境工学について） 復習：ガイダンス配布資料の再読と課題提出の自習			
2	松元 良枝	【第 2 回】 予習：気候と建築の関連用語の確認 授業：建築環境計画（1） 気候と建築 復習：気候と建築に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
3	松元 良枝	【第 3 回】 予習：都市・地球環境とヒートアイランド現象関連用語の確認 授業：建築環境計画（2） 都市・地球環境とヒートアイランド現象 復習：都市・地球環境とヒートアイランド現象に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
4	松元 良枝	【第 4 回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（1） 温度と熱移動の基礎 復習：温度と熱移動の基礎に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
5	松元 良枝	【第 5 回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（2） 建築部位の伝熱特性 復習：建築部位の伝熱特性に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
6	松元 良枝	【第 6 回】 予習：温熱環境の関連用語の確認 授業：温熱環境（3） 人体の熱的快適性 復習：人体の熱的快適性に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
7	松元 良枝	【第 7 回】 予習：湿気環境の関連用語の確認 授業：湿気環境 湿度・結露 復習：湿気環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
8	松元 良枝	【第 8 回】 予習：空気環境の関連用語の確認 授業：空気環境（1） 室内空気環境と換気計画 復習：室内空気環境と換気計画に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
9	松元 良枝	【第 9 回】 予習：空気環境の関連用語の確認 授業：空気環境（2） 自然通風・自然換気 復習：自然通風・自然換気に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
10	松元 良枝	【第 10 回】 予習：日射 太陽エネルギーの関連用語の確認 授業：日射 太陽エネルギーと大気放射 復習：日射 太陽エネルギーと大気放射に関する配布資料の再読と課題提出の自習			
11	松元 良枝	【第 11 回】 予習：日影・日照に関する関連用語の確認 授業：日影・日照 太陽位置と日影曲線 復習：日影曲線の作成に関する配布資料の再読と課題提出の自習			

12	松元 良枝	【第 12 回】 予習：光環境の関連用語の確認 授業：光環境 昼光利用、照明 復習：昼光利用、照明に関する配布資料の再読と課題提出の自習							
13	松元 良枝	【第 13 回】 予習：色彩の関連用語の確認 授業：色彩 復習：色彩に関する配布資料の再読と課題提出の自習							
14	松元 良枝	【第 14 回】 予習：音環境の関連用語の確認 授業：音環境 音の性質と遮音・吸音 復習：音環境に関する配布資料の再読と課題提出の自習							
15	松元 良枝	【第 15 回】 予習：全 15 回の関連用語の確認 授業：建築環境工学のまとめ 復習：まとめに関する配布資料の再読と課題提出の自習							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		小テスト・レポートについては、授業にて全体の講評を行い、コメントや質問に対する回答を行う。							
テキスト・教材		授業開始時にテキスト・教材を指示する。また講義時に適宜資料を配布する。							
参考書		「環境工学教科書」（彰国社） 「最新・建築環境工学」（井上書院）							
評価の基準と方法		確認テスト・小テスト・レポート 70%、授業態度・課題提出 30%で評価するが、学生の理解度を勘案し調整する。出席が授業回数の 3 分の 2 未満の場合は、単位取得できない。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-13（J）			授業コード	FG1070
科目名称	建築材料			単位数	2.0 単位
英文名称	Architectural Materials			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	建築物は、材料の組み合わせによって構成されており、材料に関する知識は建築を学ぶ者にとって重要である。ただし、単に個々の材料の性質を知るだけでは不十分であり、なぜそこにその材料が使用されているのかを理解する必要がある。構造材料においては、主に材料の力学的性質について講義する。一方、屋根、壁、床といった部位構成材では、各部位に求められる機能・性能を知るとともに、そこに使用される材料の構成や基本的性質についても講義する。				
到達目標	建築物を構成する各材料を知識として習得し、設計時の適材適所を考えられるようになる。また、材料を選択するときに安全性・居住性・生産性・耐久性・環境性を考慮できるようになる。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小川 弾	【第 1 回】 予習：テキストを読む 授業：ガイダンス、鉄筋コンクリート構造に用いる材料Ⅰ 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
2	小川 弾	【第 2 回】 予習：テキストを読む 授業：鉄筋コンクリート構造に用いる材料Ⅱ 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
3	小川 弾	【第 3 回】 予習：テキストを読む 授業：鉄筋コンクリート構造に用いる材料Ⅲ 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
4	小川 弾	【第 4 回】 予習：テキストを読む 授業：木構造に用いる材料Ⅰ 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
5	小川 弾	【第 5 回】 予習：テキストを読む 授業：木構造に用いる材料Ⅱ 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
6	小川 弾	【第 6 回】 予習：テキストを読む 授業：鋼構造に用いる材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
7	小川 弾	【第 7 回】 予習：テキストを読む 授業：組積造に用いる材料、膜構造に用いる材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
8	小川 弾	【第 8 回】 予習：テキストを読む 授業：屋根の機能と屋根材、防水材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
9	小川 弾	【第 9 回】 予習：テキストを読む 授業：外壁の機能と各種外壁材 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
10	小川 弾	【第 10 回】 予習：テキストを読む 授業：開口部の機能と建具、ガラス 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。			
11	小川 弾	【第 11 回】 予習：テキストを読む 授業：床の機能と床材			

		復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。							
12	小川 弾	【第 12 回】 予習：テキストを読む 授業：間仕切部位の機能と用いる材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：テキストを読む 授業：塗料、接着剤、シーリング材 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：テキストを読む 授業：耐火・防火材料、断熱材料、吸音・遮音材料 復習：テキストの中で太字となっている語句について、疑問や理解不足が無いようにする。							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：テキスト全体を通読しておく。また講義にも持参すること。 授業：建築材料と環境 復習：講義全体を通して、疑問や理解不足が無いようにする。							
授業開始前学習		事前に教科書を一読しておくことを勧める。							
授業内課題のフィードバックの方法		小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。 レポートは、後日返却し解説する。							
テキスト・教材		建築材料新テキスト（彰国社）							
参考書		構造用教材（日本建築学会）							
評価の基準と方法		定期試験および、授業内で行う小テストとミニトーパー、レポートで評価を行う。配点は、定期試験 30%、小テスト 20%、ミニトーパー 30%、レポート 20%の配分とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目		建築構造Ⅰ、建築構造Ⅱ、建築生産							
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築物を構成する材料の基本的性質や特徴などを講義する。							

科目分類	142-331-13 (J)			授業コード	FG1080
科目名称	建築生産			単位数	2.0 単位
英文名称	Production of Architecture			授業区分	講義
科目責任者	小川 弾			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10			研究室	1-210
授業概要	経済的、社会的、技術的な観点から建築物の企画・設計・施工・運用管理・最終処分を包括した建築生産及びそのプロセスについて講述する。建築生産のしくみと発注者と受注者との係りを学び、一連の施工技術と施工管理マネジメント技術を取得する。				
到達目標	1.建築生産プロセスと施工の流れについて理解する。 2.一般的な建築物の躯体および各部の構成原理を理解する。 3.建築現場における施工方法とその管理方法について理解する。				
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : シラバス確認 授業 : 建築生産の概要 復習 : 建築生産の内容および流れ			
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 我が国の建築生産の現状 経済活動と建築生産 復習 : 建築生産における施工の位置づけ			
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築プロジェクトに関わる産業構造 復習 : 住宅の生産方式			
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築プロジェクトの経済評価と企画 復習 : 一般建設業の分業体制			
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 発注と契約 復習 : 請負方式の特徴 工事契約の方法			
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築設計業務と設計監理業務の内容 復習 : 基本設計、実施設計、工事監理業務の内容			
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築工事のコスト管理手法 (配布資料) 復習 : 建築工事原価と実行予算			
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 1 基礎工事 復習 : 基礎の種類と特徴、施工法			
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 2 躯体工事 (木造) 復習 : 在来軸組構法及び枠組壁工法の特徴と施工法			
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 3 躯体工事 (RC 造) 復習 : 鉄筋、型枠、コンクリート工事の品質管理方法			
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 4 躯体工事 (S 造) 復習 : 鋼材の種類 建方方法 接合方法			

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 5 仕上げ工事 (外装工事) 復習 : 外装工事の構・工法と必要性能															
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 6 仕上げ工事 (内装工事・木工事) 復習 : 壁、床、天井の地下及び仕上げの特徴															
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築施工管理 7 設備工事 復習 : 電気、衛生、空調、エレベーター工事の特徴															
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 : テキストを読む 授業 : 建築のライフサイクルと維持保全 復習 : コンバージョン、リノベーションの内容 所有価値から利用価値へ															
授業開始前学習		街中の建築工事現場で見られる建物の骨組や自宅や学校など身近な建物の内外装仕上げを、日頃から意識して見るようにし、その機能や施工方法について考えるようにすると、授業に興味を持って取り組むことができる。															
授業内課題のフィードバックの方法		小テストを実施した際は、採点と講義内での解説を行う。															
テキスト・教材		改訂版図説やさしい建築施工 (学芸出版社)															
参考書		構造用教材 (日本建築学会)															
評価の基準と方法		定期試験および、授業内で行う小テストとミニットペーパーで評価を行う。配点は、定期試験 40%、小テスト 30%、ミニットペーパー30%の配分とする。															
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成									
学修指針		教養力		人間性		コミュニケーション力		社会性		専門力		判断力		技術力		実践力	
科目の該当										◎		○					
関連科目		建築の意匠、構造、設備、法規といった、建築に関する多くの要素が関連することから、日頃より建築に関する基礎的な内容について、広く理解していることが必要である。															
その他		住宅を含めた建築を生産するしくみを、各産業と生活を結びつけるデザインという観点から概説することで、建築と社会との関わりを多角的かつ詳細に解説する講義であるため、新聞、関連雑誌等の up-to-date な話題にも積極的に興味を示してもらいたい。															
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)															
実務経験を活かした教育内容		建築設計事務所において住宅の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築生産のしくみと施工方法などを講義する。															

科目分類	142-331-13	授業コード	FG1090
科目名称	☆建築法規／建築法規Ⅰ	単位数	2.0 単位
英文名称	Building Regulation I	授業区分	講義
科目責任者	加藤 陽介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 陽介	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	住宅やビルを建築するには建築基準法等の各種の法規に適合しなければならない、そして、これらの法規制に適合していることを確認することが建築確認制度である。建築法規Ⅰでは、この建築確認制度を含む「制度および手続き」から勉強を始め、次に、個々の建築物に係る規定（単体規定）について講義と演習で学ぶ。		
到達目標	建築基準法で用いる用語を覚え、単体規定の概要を理解する。建築物が、単体規定に適合しているかどうかの確認ができるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	加藤 陽介	【第 1 回】 予習：建築基準法の必要性について考察する 授業：講義概要 復習：地域における建築基準法の意義について考察する	
2	加藤 陽介	【第 2 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：建築基準法の概要（テキスト 1 0 頁～2 3 頁） 復習：建築基準法設立の過程を確認する	
3	加藤 陽介	【第 3 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：建築確認制度（テキスト 1 5 8 頁～1 6 8 頁） 復習：確認申請等の法手続きを確認する	
4	加藤 陽介	【第 4 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：用語の定義 その 1（テキスト 2 4 頁～2 9 頁） 復習：建築基準法用語を確認する	
5	加藤 陽介	【第 5 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：用語の定義 その 2（テキスト 2 4 頁～2 9 頁） 復習：建築基準法用語を確認する	
6	加藤 陽介	【第 6 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：面積・高さ・階数の算定（テキスト 2 9 頁～3 6 頁） 復習：容積率等の計算方法を確認する	
7	加藤 陽介	【第 7 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：一般構造：採光、換気（テキスト 3 8 頁～4 4 頁） 復習：採光計算を確認する	
8	加藤 陽介	【第 8 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：一般構造：階段、廊下等（テキスト 4 5 頁～5 2 頁） 復習：廊下幅等の最低条件を確認する	
9	加藤 陽介	【第 9 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：構造強度 1（テキスト 5 6 頁～8 4 頁） 復習：構造計算のプロセスの確認をする	
10	加藤 陽介	【第 10 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：構造強度 2（テキスト 5 6 頁～8 4 頁） 復習：構造計算手法を確認する	
11	加藤 陽介	【第 11 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：構造強度 演習 復習：演習における疑問点を整理する	

12	加藤 陽介	【第 12 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：防火と避難 1（テキスト 8 5 頁～1 0 8 頁） 復習：建物の災害時の安全性について考察する							
13	加藤 陽介	【第 13 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：防火と避難 2（テキスト 8 5 頁～1 0 8 頁） 復習：防火・避難既定のあらましを確認する							
14	加藤 陽介	【第 14 回】 予習：今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業：建築設備についての規定（テキスト 5 2 頁～5 4 頁） 復習：建築設備の概要を確認する							
15	加藤 陽介	【第 15 回】 予習：演習等で理解できなかった点を整理する 授業：前期のまとめ 復習：単体既定の概要の確認をする							
授業開始前学習		前回の講義の復習を行い、問題点の整理をするとともに、講義予定個所のテキストを熟読する。							
授業内課題のフィードバックの方法		疑問点の整理を行い、何が分からないのかを明確にし、質疑などを行い問題の解決を図る。							
テキスト・教材		初回授業で指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		ミニテスト 50%、レポート・演習問題等 40%、授業態度 10%で評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						◎	○		
関連科目									
その他		演習に電卓を必要とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-331-13	授業コード	FG1100
科目名称	建築法規Ⅱ	単位数	2.0 単位
英文名称	Building Regulation II	授業区分	講義
科目責任者	加藤 陽介	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	加藤 陽介	開講時期	3・4 年
オフィスアワー	－	研究室	－
授業概要	建築基準法の第 3 章「都市計画区域等における建築物の敷地、構造、建築設備及び用途」は、一般に集団規定と呼ばれ、道路と建築物、道路と敷地、用途地域制、形態制限、建ぺい率、容積率、各種高さ制限、防火地域制、優良な市街地環境の整備のための各種制度などが規定されている。建築法規Ⅱでは、この集団規定を講義と演習で学び、最後に建築確認申請書の作成を通じて、建築法規を使うことを学ぶ。関連の法規として、この頃重要視されている品確法を主に学ぶ。		
到達目標	建築基準法集団規定の概要を理解し、都市における集団規定の果たす役割を把握する。また、単体規定、集団規定の双方を理解し、建築基準法に適合した建築物の確認ができるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	加藤 陽介	【第 1 回】 予習 : 単体規定の復習を行う 授業 : 講義概要、集団規定の概要 復習 : 集団規定と、単体規定の違いを認識する	
2	加藤 陽介	【第 2 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 都市計画法と集団規定 (テキスト 1 1 0 頁～1 1 3 頁) 復習 : 都市計画法の概要を確認し、建築基準法における位置づけを考察する	
3	加藤 陽介	【第 3 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 道路と敷地・建築物 (テキスト 1 2 0 頁～1 2 3 頁) 復習 : 道路と、建築物の関係を整理する	
4	加藤 陽介	【第 4 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 用途地域制の目的と種類 (テキスト 1 1 4 頁～1 1 7 頁) 復習 : 用途地域と建物の関係を整理する	
5	加藤 陽介	【第 5 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 建ぺい率制限 (テキスト 1 2 4 頁～1 2 6 頁) 復習 : 建ぺい率制度の目的を確認する	
6	加藤 陽介	【第 6 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 容積率制限 (テキスト 1 2 6 頁～1 3 0 頁) 復習 : 容積率と、街並みの確認をする	
7	加藤 陽介	【第 7 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 建ぺい率、容積率の演習 復習 : 演習時の疑問点を整理する	
8	加藤 陽介	【第 8 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 道路斜線制限と絶対高さ制限、隣地斜線制限 (テキスト 1 3 1 頁～1 3 8 頁) 復習 : 斜線制限と街並みの確認をする	
9	加藤 陽介	【第 9 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 北側斜線制限 , 日影による高さ制限 (テキスト 1 3 9 頁～1 4 6 頁) 復習 : 日影規制等の目的を確認する	
10	加藤 陽介	【第 10 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 確認申請書作成演習 復習 : 演習時の疑問点を整理する	
11	加藤 陽介	【第 11 回】 予習 : 今回講義個所のテキスト該当部分を読む 授業 : 工事中の手続き等・その他の法規 : 建築士法他 (テキスト 1 6 9 頁～1 9 3 頁)	

科目分類	141-320-23 （J）			授業コード	FG1311	
科目名称	インテリアデザインスタジオⅠ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Interior Design Studio I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	李 志炯			開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207	
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。					
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回		複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	李 志炯		【第 1 回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
2	李 志炯		【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
3	李 志炯		【第 3 回】 予習：課題 1 参考事例調査・収集 授業：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理			
4	李 志炯		【第 4 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理			
5	李 志炯		【第 5 回】 予習：課題 1 中間発表準備 授業：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 中間講評内容の整理			
6	李 志炯		【第 6 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の展開			
7	李 志炯		【第 7 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業			
8	李 志炯		【第 8 回】 予習：課題 1 最終発表準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評内容の整理			
9	李 志炯		【第 9 回】 予習：課題 2 参考事例調査・収集 授業：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理			
10	李 志炯		【第 10 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の整理・計画			
11	李 志炯		【第 11 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の展開			

12	李 志炯	【第 12 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス③ 制作（実習） 復習：課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：課題 2 最終発表準備 授業：課題 2 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 2 最終講評内容の整理							
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：課題 3 学科作品展 計画準備 授業：課題 3 学科作品展 計画説明、作業（グループワーク） 復習：課題 3 学科作品展 準備作業							
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：課題 3 学科作品展 準備作業 授業：課題 3 学科作品展 実施（プレゼンテーション） 復習：課題 3 学科作品展 内容整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 （J）		授業コード	FG1312	
科目名称	インテリアデザインスタジオⅠ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Interior Design Studio I		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	榎本 文夫		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	榎本 文夫		開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00		研究室	1-204	
授業概要	木を使った小物の企画、デザイン、制作、展示、販売までを経験する課題解決型学修。 環境問題を意識しながら木の未利用材や廃材の利活用について研究し、アップサイクルによる小物の制作を行い、りんどう祭で展示・販売を行う。 その際の展示やサインまでデザインする。 また、夏休みに毎週ワークショップを行う。参加は必須。 学外で学びの専門性を生かしたボランティアや地域貢献活動も予定。 就職活動に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	三年スタジオの活動を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて専門性を身に付け、制作技術のスキルアップとプレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 ：授業準備 授業 ：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 ：授業計画内容の確認			
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 ：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 ：社会人基礎力を学ぶ(※他スタジオと合同授業) 復習 ：社会人基礎力を学ぶ 授業内容の見直し			
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 ：材料スギ、ヒノキ、マツについての予習 授業 ：材料研究－針葉樹（スギ、ヒノキ、マツ） 復習 ：授業内容の確認			
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 ：デザインスケッチをしておく 授業 ：制作のためのデザインスケッチ 復習 ：デザインの整理			
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 ：デザインプレゼンテーションの準備 授業 ： デザインプレゼンテーション 復習 ：発表における反省点の整理、制作の準備			
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 ：制作の準備 授業 ：制作 1 復習 ：その日の作業の反省と問題点の整理			
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 ：問題点に対する解決のための準備 授業 ：制作 2 復習 ：その日の作業の反省と問題点の整理			
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 ：問題点に対する解決のための準備 授業 ：制作 3 復習 ：課題 1 最終講評内容の整理			
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 ：問題点に対する解決のための準備 授業 ：制作 4 復習 ：その日の作業の反省と問題点の整理			
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 ：問題点に対する解決のための準備 授業 ：制作 5 復習 ：その日の作業の反省と問題点の整理			

11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習 : 問題点の整理と解決のための準備 授業 : 制作 6 復習 : その日の作業の反省と問題点の整理						
12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習 : 問題点の整理と解決のための準備 授業 : 制作 7 復習 : その日の作業の反省と問題点の整理						
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習 : 問題点の整理と解決のための準備 授業 : 制作 8 復習 : その日の作業の反省と問題点の整理						
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習 : 問題点の整理と解決のための準備 授業 : 制作 9 復習 : その日の作業の反省と問題点の整理、プレゼンテーションの準備						
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習 : プレゼンテーションの準備 授業 : プレゼンテーション 復習 : その日の作業の反省と問題点の整理、夏のワークショップに向けての準備						
授業開始前学習		制作する小物についてのアイデア提案や、使う樹種について調べておく。 アップサイクルについて調べる。						
授業内課題のフィードバックの方法		デザインスケッチや試作の段階で行う講評や指導、また最終日のプレゼンテーションやレポートにより問題点の振り返りを行う。						
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法		提出物、授業への積極性などにより総合的に評価。 評価は成果物 50%、レポート 30%、受講態度 20%。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」 特に、「家具デザイン I」は履修済であること（※必須）、「加工・材料学」は履修済又は同時履修（※必須）であること。							
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。 その他、学外での見学レポート課題がある。その際の交通費等の経費は自己負担となる。 「家具デザイン I」の履修済であること、及び「加工・材料学」を履修済、又は同時履修のこと。 「家具デザイン II」を履修中であることを強く推奨。 夏休みに週 2 で制作ワークショップを行うので参加(※必修)すること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術の学びを経験することができる。							

科目分類	141-320-23 （J）			授業コード	FG1313	
科目名称	インテリアデザインスタジオⅠ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Interior Design Studio I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	神村 真由美			開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201	
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。					
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回		複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	神村 真由美		【第 1 回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
2	神村 真由美		【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
3	神村 真由美		【第 3 回】 予習：課題 1 参考事例調査・収集 授業：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理			
4	神村 真由美		【第 4 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理			
5	神村 真由美		【第 5 回】 予習：課題 1 中間発表準備 授業：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 中間講評内容の整理			
6	神村 真由美		【第 6 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の展開			
7	神村 真由美		【第 7 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業			
8	神村 真由美		【第 8 回】 予習：課題 1 最終発表準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評内容の整理			
9	神村 真由美		【第 9 回】 予習：課題 2 参考事例調査・収集 授業：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理			
10	神村 真由美		【第 10 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の整理・計画			
11	神村 真由美		【第 11 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の展開			

12	神村 真由美	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学科作品展 準備作業							
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学科作品展 内容整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 (J)	授業コード	FG1314
科目名称	インテリアデザインⅠ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 : 授業計画内容の確認	
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し	
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 参考事例調査・収集 授業 : 課題 1 エスキス① 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 1 参考事例報告を受けた資料整理	
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理	
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 中間発表準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評内容の整理	
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作作業	
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 最終発表準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評内容の整理	
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 課題 2 参考事例調査・収集 授業 : 課題 2 課題説明 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 2 参考事例報告を受けた資料整理	
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス① 計画 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の整理・計画	
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス② 展開 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の展開	

12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学科作品展 準備作業							
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学科作品展 内容整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 （J）			授業コード	FG1315	
科目名称	インテリアデザインスタジオⅠ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Interior Design Studio I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	佐藤 勉			開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202	
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。					
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回		複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	佐藤 勉		【第 1 回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
2	佐藤 勉		【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
3	佐藤 勉		【第 3 回】 予習：課題 1 参考事例調査・収集 授業：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理			
4	佐藤 勉		【第 4 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理			
5	佐藤 勉		【第 5 回】 予習：課題 1 中間発表準備 授業：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 中間講評内容の整理			
6	佐藤 勉		【第 6 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の展開			
7	佐藤 勉		【第 7 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業			
8	佐藤 勉		【第 8 回】 予習：課題 1 最終発表準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評内容の整理			
9	佐藤 勉		【第 9 回】 予習：課題 2 参考事例調査・収集 授業：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理			
10	佐藤 勉		【第 10 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の整理・計画			
11	佐藤 勉		【第 11 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の展開			

12	佐藤 勉	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	佐藤 勉	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	佐藤 勉	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学科作品展 準備作業							
15	佐藤 勉	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学科作品展 内容整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 （J）			授業コード	FG1316	
科目名称	インテリアデザインスタジオⅠ			単位数	1.0 単位	
英文名称	Interior Design Studio I			授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	山崎 陽菜			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	山崎 陽菜			開講時期	3 年	
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40			研究室	2-201	
授業概要	これまでの学科における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。					
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。					
アクティブ・ラーニング 型授業	有		全授業回数	15 回		複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者		授業の内容			
1	山崎 陽菜		【第 1 回】 予習：授業準備 授業：ガイダンス 課題 1 課題説明 復習：授業計画内容の確認			
2	山崎 陽菜		【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し			
3	山崎 陽菜		【第 3 回】 予習：課題 1 参考事例調査・収集 授業：課題 1 エスキス① 参考事例報告（発表） 復習：課題 1 参考事例報告を受けた資料整理			
4	山崎 陽菜		【第 4 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理			
5	山崎 陽菜		【第 5 回】 予習：課題 1 中間発表準備 授業：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 中間講評内容の整理			
6	山崎 陽菜		【第 6 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス③ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の展開			
7	山崎 陽菜		【第 7 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス④ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作作業			
8	山崎 陽菜		【第 8 回】 予習：課題 1 最終発表準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評内容の整理			
9	山崎 陽菜		【第 9 回】 予習：課題 2 参考事例調査・収集 授業：課題 2 課題説明 参考事例報告（発表） 復習：課題 2 参考事例報告を受けた資料整理			
10	山崎 陽菜		【第 10 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス① 計画（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の整理・計画			
11	山崎 陽菜		【第 11 回】 予習：課題 2 エスキス準備 授業：課題 2 エスキス② 展開（実習） 復習：課題 2 エスキス内容の展開			

12	山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学科作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学科作品展 準備作業							
15	山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学科作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学科作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学科作品展 内容整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施・撤去等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 （J）			授業コード	FG1321
科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	李 志炯	【第 1 回】 予習：学外実習報告会 事前準備 授業：学外実習報告会 復習：学外実習報告会 内容の整理			
2	李 志炯	【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理			
3	李 志炯	【第 3 回】 予習：課題 1 課題準備 授業：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習：課題 1 事例調査・収集作業			
4	李 志炯	【第 4 回】 予習：課題 1 事例調査・収集作業 授業：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理			
5	李 志炯	【第 5 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理・計画			
6	李 志炯	【第 6 回】 予習：社会人応用力を学ぶ 準備 授業：社会人応用力を学ぶ 復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理			
7	李 志炯	【第 7 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理・計画			
8	李 志炯	【第 8 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理・展開			
9	李 志炯	【第 9 回】 予習：課題 1 中間発表 準備 授業：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 中間講評 内容の整理			
10	李 志炯	【第 10 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の展開			
11	李 志炯	【第 11 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作			

12	李 志炯	【第 12 回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑦ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究から学ぶ 復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：課題 1 最終発表 準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 （ J ）			授業コード	FG1322
科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	前期インテリアデザインスタジオⅠ-bに引き続き、自分自身の研究テーマについての学びを深めていく。				
到達目標	インテリアデザインスタジオⅠ-bに引き続き、各自選択したテーマの研究・考察を進める。 また、プレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオ研究または卒業研究へ向けて、 選択したテーマへの知識を深め、制作する技術力や実践力を高めることを目的とする。 さらに就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習：学外実習報告会のための事前準備 授業：学外実習報告会（※他スタジオと合同授業） 復習：学外実習報告会 内容の整理			
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶための準備 授業：社会人基礎力を学ぶ（※他スタジオと合同授業） 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理			
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習：りんどう祭の展示方法を考える 授業：りんどう祭の展示方法の検討 復習：展示方法を整理しておくこと			
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習：りんどう祭の展示の準備の内容確認 授業：りんどう祭の展示の準備 復習：展示の問題点の整理、確認			
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習：りんどう祭での問題点を考える 授業：りんどう祭の展示の振り返り 復習：問題点の整理と反省をレポートする			
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習：社会人応用力を学ぶための準備 授業：社会人応用力を学ぶ（※他スタジオと合同授業） 復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理			
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習：4 年次に向けての研究テーマの検討 授業：スタジオ研究テーマを考える 1 復習：問題点の整理			
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習：4 年次に向けての研究テーマの検討 授業：スタジオ研究テーマを考える 1 復習：問題点の整理			
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習：4 年次に向けての研究テーマの検討 授業：スタジオ研究テーマを考える 2 復習：問題点の整理			
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業：研究テーマに沿った制作 1 復習：問題点の整理			
11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業：研究テーマに沿った制作 2			

		復習：問題点の整理						
12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ（※他スタジオと合同授業） 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理 復習：問題点の整理						
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習：4 年次に向けての研究テーマのための制作準備 授業：研究テーマに沿った制作 3 復習：問題点の整理						
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究発表会見学（※他スタジオと合同授業） 復習：卒業研究発表会見学レポート作成						
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習：後期ゼミのまとめ、講評会の準備 授業：講評会 復習：講評会の講評を受けて次年度の研究テーマに反映させる						
授業開始前学習		自分が研究したいテーマの検討や事前調査。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の授業内においてスケッチや制作に対して行う講評、また最終講評会や提出レポートにより問題点の振り返りを行う。						
テキスト・教材		各自の研究テーマに合わせて資料・プリント等を適宜配布。						
参考書		各自の研究テーマに合わせて適宜提案や情報の提供。						
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより総合的に評価する。 評価は課題の提出物 70%、研究に対する積極性や受講態度など 30%。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「家具デザイン III」「インテリアデザインスタジオ I-b」特に、「加工・材料学」と「家具デザイン I」は履修済であること。							
その他	学外でボランティアや地域貢献活動を行う予定。その際に掛かる費用は自己負担とする。 その他、課題において学外での見学会レポート課題があるが、交通費等のかかる経費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際の木を使ったものづくりや加工技術の学びなどを経験することができる。							

科目分類	141-320-23 (J)	授業コード	FG1323
科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理	
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理	
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業	
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理	
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理	
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開	
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理	
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
11	神村 真由美	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作	

12	神村 真由美	【第 12 回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑦ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究から学ぶ 復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習：課題 1 最終発表 準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 (J)	授業コード	FG1324
科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio II	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋田 洋子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10	研究室	1-206
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理	
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理	
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業	
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理	
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理	
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開	
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理	
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作	

12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理						
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑦ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作						
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究から学ぶ 復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理						
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：課題 1 最終発表 準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評 内容の整理						
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。						
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他		「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）						
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。						

科目分類	141-320-23 （J）			授業コード	FG1325
科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅱ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習：学外実習報告会 事前準備 授業：学外実習報告会 復習：学外実習報告会 内容の整理			
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習：社会人基礎力を学ぶ 準備 授業：社会人基礎力を学ぶ 復習：社会人基礎力を学ぶ 内容の整理			
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習：課題 1 課題準備 授業：課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習：課題 1 事例調査・収集作業			
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習：課題 1 事例調査・収集作業 授業：課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習：課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理			
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理・計画			
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習：社会人応用力を学ぶ 準備 授業：社会人応用力を学ぶ 復習：社会人応用力を学ぶ 内容の整理			
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理・計画			
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の整理・展開			
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習：課題 1 中間発表 準備 授業：課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 中間講評 内容の整理			
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習：課題 1 エスキス内容の展開			
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作			

12	佐藤 勉	【第 12 回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	佐藤 勉	【第 13 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑦ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	佐藤 勉	【第 14 回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究から学ぶ 復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	佐藤 勉	【第 15 回】 予習：課題 1 最終発表 準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-23 (J)			授業コード	FG1326
科目名称	インテリアデザインスタジオⅡ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio II			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎 陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜			開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40			研究室	2-201
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理			
2	山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理			
3	山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業			
4	山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告 (発表) 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理			
5	山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画			
6	山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理			
7	山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画			
8	山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開			
9	山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理			
10	山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開			
11	山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作			

12	山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 社会人実践力を学ぶ 準備 授業 : 社会人実践力を学ぶ 復習 : 社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		これまでの授業を振り返り、実習授業の作品をポートフォリオにまとめること。							
授業内課題のフィードバックの方法		各課題の提出・発表後に講評を行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 評価は提出物 50%、発表内容・受講態度等 50%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-24	授業コード	FG1331
科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李 志炯	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	李 志炯	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	李 志炯	【第 2 回】 予習 : 研究テーマの検討 授業 : テーマを検討する (ディスカッション) 復習 : 研究テーマの再検討	
3	李 志炯	【第 3 回】 予習 : 研究テーマに関する資料を収集 授業 : 資料に基づいてテーマを検討する (ディスカッション) 復習 : 不足する資料を収集する	
4	李 志炯	【第 4 回】 予習 : 研究テーマ発表準備 授業 : 研究テーマ発表 (プレゼンテーション) 復習 : 研究テーマを決定する	
5	李 志炯	【第 5 回】 予習 : 文献検索を行い資料を収集する 授業 : 事例研究① (ディスカッション) 復習 : 不足する文献を収集する	
6	李 志炯	【第 6 回】 予習 : 事例を収集する 授業 : 事例研究② (ディスカッション) 復習 : 事例研究をまとめる	
7	李 志炯	【第 7 回】 予習 : 不足する事例を収集する 授業 : 事例研究③ (ディスカッション) 復習 : 事例研究をまとめる	
8	李 志炯	【第 8 回】 予習 : 事例研究の発表準備 授業 : 事例研究の発表 (プレゼンテーション) 復習 : 事例研究の確認と修正を行う	
9	李 志炯	【第 9 回】 予習 : 調査方法の検討 授業 : 調査および研究① (ディスカッション) 復習 : 調査方法を再検討する	
10	李 志炯	【第 10 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究② (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
11	李 志炯	【第 11 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究③ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	

12	李 志炯	【第 12 回】 予習：関連資料の収集 授業：調査および研究④（ディスカッション） 復習：研究を進める						
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：研究発表の準備 授業：研究発表（プレゼンテーション） 復習：研究の確認と修正を行う						
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション資料の準備 授業：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション資料を作成する						
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：発表とディスカッション（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：自己評価を行う						
授業開始前学習		各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。						
テキスト・教材		授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。						
参考書								
評価の基準と方法		授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	141-320-24 (J)			授業コード	FG1332
科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00			研究室	1-204
授業概要	我々の生活を取り巻く空間やモノについて、環境問題を踏まえながら持続可能な社会実現のためのデザインを考え、それぞれの視点でテーマを設定し研究する。 毎回各自の研究について進行状況を報告し、お互いに意見交換することで、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養う。 また、ゼミの共通テーマである「国産材の林地残材や未利用材の利活用」を実践的に考えるために学外でワークショップを行う予定。 課題解決型学修。				
到達目標	人間の経済活動が及ぼす地球環境や身近な自然環境への影響を理解し、持続可能な社会実現のためのデザインの可能性を探るちからを身に付けることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 : 各自の研究テーマを考えておく。 授業 : ゼミについてのオリエンテーション、及び研究テーマ発表 復習 : 指導に沿ってテーマの修正			
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 : テーマに沿って調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 1 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 : テーマに沿って調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 2 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 : テーマに沿って調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 3 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 : テーマに沿って調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 4 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 : テーマに沿って調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 5 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 : 中間発表の準備 授業 : 研究成果中間発表 1 (プレゼンテーション 1) 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 : 中間発表の準備 授業 : 研究成果中間発表 2 (プレゼンテーション 2) 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 : テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 6 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 : テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及び個別指導 7 復習 : 指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正			

11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導 8 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正						
12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導 9 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正						
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習：テーマに沿ってさらに調査・研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及び個別指導 10 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正						
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習：成果発表に向けての準備 授業：研究成果発表 1（プレゼンテーション 1） 復習：指導に沿って研究内容や進め方の確認及び修正						
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習：成果発表に向けて準備 授業：研究成果発表 2（プレゼンテーション 2） 復習：前期を振り返り成果をレポートにまとめ、夏休みと後期に向けて研究の進め方を確認						
授業開始前学習		自分の研究テーマに沿った関連図書や資料やデータを収集しておくこと。						
授業内課題のフィードバックの方法		各自の研究テーマに沿った毎回の指導と、レポート提出やスタジオ内でのプレゼンテーションによるそれぞれの問題点や改善点を指摘、指導する。						
テキスト・教材		各自のテーマに合わせ適宜指示、提供						
参考書		各自のテーマに合わせ適宜指示、提供						
評価の基準と方法		研究への取り組み態度 30%、研究成果 70%で評価する。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	「加工・材料学」「家具デザイン I」「家具デザイン II」「インテリアデザインスタジオ I-b」「インテリアデザインスタジオ II-b」特に「加工・材料学」と「家具デザイン I」は履修済（必須）であること。							
その他	・学外で見学会やワークショップなどを行う場合があるが、その際に掛かる交通費などの経費は自己負担とする。 ・各自のテーマに沿った研究に必要な経費は、自己負担とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術を学ぶことができる。							

科目分類	141-320-24 (J)	授業コード	FG1333
科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	神村 真由美	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30	研究室	1-201
授業概要	各自の関心や興味あるテーマを調査、考察し、提案や成果物を作成し発表する。卒業研究に結びつくテーマを探す。これまでの学科における学びを踏まえ、自分に関心や興味のあるテーマを研究・考察する。授業ではディスカッションを含むエスキスやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	研究・考察等の成果のまとめ・発表等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 : テーマ考慮 授業 : ガイダンス 復習 : ガイダンスを受け、各自のスケジュールを作成する	
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 : 研究テーマを探求するための資料を探す 授業 : 研究テーマ討論 1 (ディスカッション) 復習 : 討論 1 を受け、さらに資料を探求する	
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 : 研究テーマを探求するための資料を探す 授業 : 研究テーマ討論 (ディスカッション) 復習 : 研究テーマ討論レビュー	
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 : 研究テーマを探求するための資料を探す 授業 : 研究テーマを探求 1 (実習) 復習 : 研究テーマを探求するための資料を探す	
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 : 研究テーマを探求するための資料を探す 授業 : 研究テーマを探求 2 (実習) 復習 : ここまでの内容をまとめる	
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 : 中間発表準備 授業 : 中間発表 (発表・講評・ディスカッション) 復習 : 中間発表レビュー	
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 : 詳細な調査研究の為の準備、及びスケジュール確認 授業 : 調査研究 1 (実習) 復習 : 調査研究 1 復習	
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 : 調査研究 2 予習 授業 : 調査研究 2 (実習) 復習 : 調査研究 2 復習	
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 : 調査研究 3 予習 授業 : 調査研究 3 (実習) 復習 : 調査研究 3 復習	
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 : プレゼンテーション準備 授業 : プレゼンテーション (プレゼンテーション) 復習 : プレゼンテーション復習	
11	神村 真由美	【第 11 回】 予習 : スタジオエスキス 1 予習 授業 : スタジオエスキス 1 (実習・ディスカッション) 復習 : スタジオエスキス 1 復習	

12	神村 真由美	【第 12 回】 予習：スタジオエスキス 2 予習 授業：スタジオエスキス 2（実習・ディスカッション） 復習：スタジオエスキス 2 復習							
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習：スタジオエスキス 3 予習 授業：スタジオエスキス 3（実習・ディスカッション） 復習：スタジオエスキス 3 復習							
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習：パネル制作準備 授業：パネル制作（実習） 復習：発表準備							
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：発表（発表・講評・ディスカッション） 復習：発表レビュー							
授業開始前学習		CAD 技術の復習。 興味のある分野の参考事例を調べておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		質問には可能な限り都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材		必要に応じて、配布または指示する							
参考書		必要に応じて、紹介する							
評価の基準と方法		研究課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目		インテリアデザインスタジオ CIV							
その他		調査、見学会参加などの交通費、入場料、制作物の材料費などは自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-24 (J)			授業コード	FG1334
科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	インテリア空間スタジオの集大成として、住空間・商業空間のインテリア空間の研究をおこなう。 テーマ・研究手法・計画・表現手法～最終成果まで、スタジオ内でリサーチ・検討をして進める。 授業では、演習課題や課題発表などのワークを行う。				
到達目標	前期では、テーマ・研究手法・計画・表現手法を決定し、リサーチや研究の基礎作りを終えることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 復習 : 授業計画の確認			
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : 研究テーマ 事前調査 授業 : 研究テーマを探す (演習課題 1) 復習 : 研究テーマ 資料収集			
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 研究テーマ 資料収集 授業 : 研究テーマの議論 復習 : 研究テーマ議論内容整理			
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 研究テーマ 資料分析 授業 : 研究テーマの決定に向けての資料作り 復習 : 研究テーマ 報告資料作成			
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 中間発表準備 授業 : 中間発表 (課題発表 1) 復習 : 中間発表のまとめ、資料整理			
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 調査研究 & 手法 事前調査 授業 : 調査研究 & 手法の検討 & エスキス (演習課題 2) 復習 : 調査研究 & 手法の検討 & エスキスのまとめ			
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 調査研究 & 手法 資料収集 授業 : 調査研究 & 手法 資料内容発表 & エスキス (課題発表 2) 復習 : 調査研究 & 手法 発表内容 & エスキスの整理			
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 現場調査の事前準備 授業 : 現場調査作業①～撮影・動向調査 (演習課題 3) 復習 : 現場調査作業①のまとめ			
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 現場調査作業②の事前準備 授業 : 現場調査作業②～測量 (演習課題 4) 復習 : 現場調査作業②のまとめ			
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 現場調査作業③の事前準備 授業 : 現場調査作業③～ヒヤリング (演習課題 5) 復習 : 現場調査作業③のまとめ			
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 : 現場調査作業④の事前準備 授業 : 現場調査作業④～図面化 (演習課題 6) 復習 : 現場調査作業④のまとめ			

12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：現場調査作業⑤の事前準備 授業：現場調査作業⑤～図面化 2（演習課題 7） 復習：現場調査作業⑤のまとめ							
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：現場調査作業スタジオ内報告準備 授業：現場調査作業スタジオ内報告 & 講評（課題発表 3） 復習：講評けての現場調査作業報告資料再整理							
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：ダイアグラムの事前検討 授業：ダイアグラムの検討作業&エスキス 復習：ダイアグラムのまとめ作業							
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：授業全体の振り返り、整理 授業：後期計画検討 復習：資料整理、まとめ							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なインテリア空間を出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内および前後で、個別エスキスを繰り返し実施。							
テキスト・教材		授業内で、適宜推薦・紹介をする。							
参考書		授業内で、適宜推薦・紹介をする。							
評価の基準と方法		出席回数が授業の 3 分の 2 未満は単位取得できない。 配点は、演習課題 70 点、平常点（授業態度・課題提出・課題発表）30 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		・見学や各自のテーマに基づく関係各所への見学・ヒヤリング・現場調査が別途時間に発生する。 ・またその際の交通費ほか必要経費は各自負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-24	授業コード	FG1335
科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習 : 研究テーマの検討 授業 : テーマを検討する (ディスカッション) 復習 : 研究テーマの再検討	
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習 : 研究テーマに関する資料を収集 授業 : 資料に基づいてテーマを検討する (ディスカッション) 復習 : 不足する資料を収集する	
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習 : 研究テーマ発表準備 授業 : 研究テーマ発表 (プレゼンテーション) 復習 : 研究テーマを決定する	
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習 : 文献検索を行い資料を収集する 授業 : 事例研究① (ディスカッション) 復習 : 不足する文献を収集する	
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習 : 事例を収集する 授業 : 事例研究② (ディスカッション) 復習 : 事例研究をまとめる	
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習 : 不足する事例を収集する 授業 : 事例研究③ (ディスカッション) 復習 : 事例研究をまとめる	
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習 : 事例研究の発表準備 授業 : 事例研究の発表 (プレゼンテーション) 復習 : 事例研究の確認と修正を行う	
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習 : 調査方法の検討 授業 : 調査および研究① (ディスカッション) 復習 : 調査方法を再検討する	
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究② (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究③ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	

12	佐藤 勉	【第 12 回】 予習：関連資料の収集 授業：調査および研究④（ディスカッション） 復習：研究を進める							
13	佐藤 勉	【第 13 回】 予習：研究発表の準備 授業：研究発表（プレゼンテーション） 復習：研究の確認と修正を行う							
14	佐藤 勉	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション資料の準備 授業：表現方法を検討する（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション資料を作成する							
15	佐藤 勉	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：発表とディスカッション（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：自己評価を行う							
授業開始前学習		各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。							
テキスト・教材		授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	141-320-24	授業コード	FG1336
科目名称	インテリアデザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40	研究室	2-201
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。各自がテーマを探し、調査研究に基づいて、相手に伝わる表現方法を検討する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : 研究テーマの検討 授業 : テーマを検討する (ディスカッション) 復習 : 研究テーマの再検討	
3	山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : 研究テーマに関する資料を収集 授業 : 資料に基づいてテーマを検討する (ディスカッション) 復習 : 不足する資料を収集する	
4	山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 研究テーマ発表準備 授業 : 研究テーマ発表 (プレゼンテーション) 復習 : 研究テーマを決定する	
5	山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 文献検索を行い資料を収集する 授業 : 事例研究① (ディスカッション) 復習 : 不足する文献を収集する	
6	山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 事例を収集する 授業 : 事例研究② (ディスカッション) 復習 : 事例研究をまとめる	
7	山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 不足する事例を収集する 授業 : 事例研究③ (ディスカッション) 復習 : 事例研究をまとめる	
8	山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 事例研究の発表準備 授業 : 事例研究の発表 (プレゼンテーション) 復習 : 事例研究の確認と修正を行う	
9	山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 調査方法の検討 授業 : 調査および研究① (ディスカッション) 復習 : 調査方法を再検討する	
10	山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究② (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
11	山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究③ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	

12	山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究④（ディスカッション） 復習 : 研究を進める							
13	山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表（プレゼンテーション） 復習 : 研究の確認と修正を行う							
14	山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション資料の準備 授業 : 表現方法を検討する（ディスカッション） 復習 : プレゼンテーション資料を作成する							
15	山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 発表準備 授業 : 発表とディスカッション（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習 : 自己評価を行う							
授業開始前学習		各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別にエスキスを繰り返し実施。							
テキスト・教材		必要に応じて指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		調査・研究・制作等に関わる費用は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	141-320-24	授業コード	FG1341
科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	李 志炯	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50	研究室	1-207
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	李 志炯	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	李 志炯	【第 2 回】 予習 : 研究テーマの文献を調べる 授業 : テーマを再検討する (ディスカッション) 復習 : 研究テーマの最終決定	
3	李 志炯	【第 3 回】 予習 : 研究テーマに関する文献資料を収集 授業 : 調査および研究① (ディスカッション) 復習 : 調査方法を再検討する	
4	李 志炯	【第 4 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究② (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
5	李 志炯	【第 5 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究③ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
6	李 志炯	【第 6 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究④ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
7	李 志炯	【第 7 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表① (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う	
8	李 志炯	【第 8 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表② (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う	
9	李 志炯	【第 9 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究⑤ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
10	李 志炯	【第 10 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究⑥ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
11	李 志炯	【第 11 回】 予習 : プレゼンテーション資料の準備 授業 : 表現方法を検討する (ディスカッション)	

		復習：プレゼンテーション資料を作成する							
12	李 志炯	【第 12 回】 予習：プレゼンテーション資料の準備 授業：プレゼンテーションの準備①（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション資料を作成する							
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：プレゼンテーション資料の準備 授業：プレゼンテーションの準備②（ディスカッション） 復習：プレゼンテーション資料を作成する							
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：発表準備 授業：発表とディスカッション①（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：発表内容の確認							
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：発表とディスカッション②（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：自己評価を行う							
授業開始前学習		各自興味のあるテーマを模索し、関連する情報を収集しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業前後および授業中に毎回個別にエスキースを繰り返し実施。							
テキスト・教材		授業中にプリントを配布する他、必要に応じて指示する。							
参考書									
評価の基準と方法		授業態度等 20%、課題提出 30%、研究成果 50%とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	141-320-24 (J)	授業コード	FG1342
科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	前期科目「インテリアデザインスタジオ III-b」での研究成果をさらに深め最終的な成果へ向けてまとめを行う。特に制作の場合は、使用する素材についての特性や加工方法について研究を深めていく。課題解決型学修。		
到達目標	各自の研究テーマをさらに深め、最終成果にまとめることを目標とする。 制作を前提とした技術の習得や加工方法に対する知識を身に付け、自身の制作スキルを高めることも目標の一つである。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 : 前期までの研究内容を確認しておく 授業 : オリエンテーション、個別に研究内容への個別指導 1 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 : テーマに沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 2 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 : テーマに沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 3 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 : 前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 4 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 : 中間発表の準備 授業 : 中間発表その 1 (プレゼンテーション) 復習 : 講評結果を受け、研究内容や方法などに反映させる。	
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 : 前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 5 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 : 前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 6 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 : 前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 7 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 : 中間発表のための準備 授業 : 中間発表その 2 (プレゼンテーション) 復習 : 講評や指導に従い、研究内容と方向性の再確認や修正	
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 : 前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 8 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	
11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習 : 前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業 : 各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 9 復習 : 指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認	

12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 10 復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認						
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習：前回の指導内容に沿って調査研究を進める 授業：各自の研究進捗状況報告及びそれに対する個別指導 11 復習：指導に沿って研究方法や内容の見直しや修正確認						
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習：成果発表の準備 1 授業：スタジオ内研究成果発表 1 復習：発表内容の振り返り、問題点の修正。						
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習：成果発表の準備 2 授業：学類合同の研究成果発表 2 復習：自分の研究成果の振り返りレポート提出						
授業開始前学習		自分の研究テーマに沿った関連図書や資料、データを収集する。						
授業内課題のフィードバックの方法		毎回の指導と各自の研究テーマに沿ったレポートへの評価、ゼミ内での発表における問題点や改善点の指摘、改善指導。						
テキスト・教材		各自のテーマに合わせ適宜指示。						
参考書		各自のテーマに合わせ適宜推薦、情報提供						
評価の基準と方法		研究への取り組み態度 30%、研究成果 70%で評価。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	インテリアデザインスタジオ III-b、加工材料学、家具デザイン I、II、III、家具デザイン研究							
その他	・学外での見学会やワークショップを行う場合、それにかかる経費は自己負担とする。 ・各自のテーマに沿った研究に必要な経費は、自己負担とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が担当。実際に木を使ったものづくりや加工技術を学ぶことができる。							

科目分類	141-320-24 （J）		授業コード	FG1343	
科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ		単位数	1.0 単位	
英文名称	Interior Design Studio IV		授業区分	演習・実習・実技	
科目責任者	神村 真由美		必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	神村 真由美		開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30		研究室	1-201	
授業概要	各自の関心や興味あるテーマを調査、考察し、提案や成果物を作成し発表する。 インテリアデザイン CIII で行った卒業研究テーマ考察に基づきこれまでの学科における学びを踏まえ、さらなる研究・考察をディスカッションを含むエスキス実習で進め、プレゼンテーションを行う。				
到達目標	研究・考察等の成果のまとめ・発表等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 : 各自テーマの確認 授業 : ガイダンス 復習 : 各自の概略スケジュール作成			
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 : テーマ研究 1 予習 必要物の確認 授業 : テーマ研究 1 討論（ディスカッション） 復習 : テーマ研究 1 復習 討論を受けて、各自内容再確認			
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 : テーマ研究 2 討論用資料準備 授業 : テーマ研究 2 討論（ディスカッション） 復習 : テーマ研究 1 復習 討論を受けて、各自内容再確認			
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 : テーマ研究 3 予習 実習準備 授業 : テーマ研究 3 実習準備（実習） 復習 : テーマ研究 3 復習 実習準備 資料整理			
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 : テーマ研究 4 予習 実習準備 授業 : テーマ研究 4 実習準備（実習） 復習 : テーマ研究 4 復習 実習準備			
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 : 中間発表準備 授業 : 中間発表（発表・講評・ディスカッション） 復習 : 中間発表レビュー			
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 : スタジオエスキス 1 準備 授業 : スタジオエスキス 1（実習） 復習 : スタジオエスキス 1 復習 制作スケジュール詳細作成			
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 : スタジオエスキス 2 予習 授業 : スタジオエスキス 2（実習） 復習 : スタジオエスキス 2 復習 制作進展			
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 : スタジオエスキス 3 予習 授業 : スタジオエスキス 3（実習） 復習 : スタジオエスキス 3 復習 制作進展			
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 : スタジオエスキス 4 予習 授業 : スタジオエスキス 4（実習） 復習 : スタジオエスキス 4 復習 制作進展			
11	神村 真由美	【第 11 回】 予習 : スタジオエスキス 5 予習 授業 : スタジオエスキス 5（実習） 復習 : スタジオエスキス 5 復習 制作進展			

12	神村 真由美	【第 12 回】 予習：スタジオエスキス 6 予習 授業：スタジオエスキス 6（実習） 復習：スタジオエスキス 6 復習 制作進展							
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習：スタジオエスキス 7 予習 まとめの準備 授業：スタジオエスキス 7 まとめ（実習） 復習：スタジオエスキス 7 復習 まとめ作業確認							
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習：スタジオエスキス 8 予習 提出準備 授業：スタジオエスキス 8 提出準備（実習） 復習：スタジオエスキス 8 復習 提出準備							
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習：発表準備 授業：発表（プレゼンテーション・講評） 復習：発表レビュー							
授業開始前学習		研究テーマはリビングデザインを C I より継続的に、各自調査や考察をしておく事							
授業内課題のフィードバックの方法		質問には可能な限り都度回答する。また中間発表を重ねることで、学生間の学び合い促進する。各講評では全員へ抑えるべきポイントを伝達する。							
テキスト・教材		必要に応じて、配布または指示する							
参考書									
評価の基準と方法		研究課題への計画的な取り組み等の受講態度 4 割、提出作品内容 5 割、プレゼンテーション 1 割を基準とし、総合的な判断に基づき評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目		インテリアデザインスタジオ CIII							
その他		調査、見学会参加などの交通費、入場料、制作物の材料費などは自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-24 (J)			授業コード	FG1344
科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ			単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio IV			授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	橋田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	インテリア空間スタジオの集大成として、住空間・商業空間のインテリア空間の研究をおこなう。 テーマ・研究手法・計画・表現手法～最終成果まで、スタジオ内でリサーチ・検討をして進める。 授業では、演習課題や課題発表などのワークを行う。				
到達目標	後期では、リサーチや研究を進め、最終成果物を完成させることを目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 復習 : 授業計画の確認			
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : ダイアグラム&コンセプト 事前資料収集 授業 : ダイアグラム&コンセプト 検討作業&エスキス (演習課題 1) 復習 : エスキスに基づいたダイアグラム&コンセプト の整理			
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : ゾーニングの 事前検討 授業 : ゾーニング 検討作業&エスキス (演習課題 2) 復習 : エスキスに基づいたゾーニングの整理検討			
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 平面計画①の 事前検討 授業 : 平面計画① 検討作業&エスキス (演習課題 3) 復習 : エスキスに基づいた平面計画①の整理検討			
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 平面計画②の 事前検討 授業 : 平面計画② 検討作業&エスキス 復習 : エスキスに基づいた平面計画②の整理検討			
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 中間発表 事前準備 授業 : スタジオ内中間発表 (課題発表 1) 復習 : 発表内容の整理			
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 立・断面計画の事前検討 授業 : 立・断面計画 検討作業&エスキス (演習課題 4) 復習 : エスキスに基づいた立・断面計画の整理検討			
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 立・断面計画の事前検討 授業 : 立・断面計画 検討作業&エスキス 復習 : エスキスに基づいた立・断面計画の整理検討			
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 3D 計画の事前検討 授業 : 3D 計画 検討作業&エスキス (演習課題 5) 復習 : エスキスに基づいた 3D 計画の整理検討			
10	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 素材計画の事前検討 授業 : 素材計画 検討作業&エスキス (演習課題 6) 復習 : エスキスに基づいた素材計画の整理検討			
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 : 模型①の事前検討 授業 : 模型① 検討作業&エスキス (演習課題 7) 復習 : エスキスに基づいた模型①の整理検討			

12	橋田 洋子	【第 12 回】 予習：模型②の事前検討 授業：模型② 検討作業&エスキス 復習：エスキスに基づいた模型②の整理検討							
13	橋田 洋子	【第 13 回】 予習：研究・図面・模型の整理 授業：研究・図面・模型の資料化作業&エスキス 復習：エスキスに基づいた研究・図面・模型の資料化作業再検討							
14	橋田 洋子	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション準備 授業：プレゼンテーションスタジオ内予習（課題発表 2） 復習：プレゼンテーション内容の修正							
15	橋田 洋子	【第 15 回】 予習：最終プレゼンテーション準備 授業：最終プレゼンテーション内容のエスキス・再修正 復習：最終プレゼンテーション まとめ							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々なインテリア空間を出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内および前後で、個別エスキスを繰り返し実施。							
テキスト・教材		授業内にて、適宜推薦・紹介をする。							
参考書		授業内にて、適宜推薦・紹介をする。							
評価の基準と方法		出席回数が授業の 3 分の 2 未満は単位取得できない。 配点は、演習課題 70 点、平常点（授業態度・課題提出・課題発表）30 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		・見学や各自のテーマに基づく関係各所への見学・ヒヤリング・現場調査が別途時間に発生する。 ・またその際の交通費ほか必要経費は各自負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容		建築・インテリアデザイン分野における実務経験あり。インテリアデザイン等の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	141-320-24	授業コード	FG1345
科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	佐藤 勉	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	佐藤 勉	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-202
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習 : 研究テーマの文献を調べる 授業 : テーマを再検討する (ディスカッション) 復習 : 研究テーマの最終決定	
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習 : 研究テーマに関する文献資料を収集 授業 : 調査および研究① (ディスカッション) 復習 : 調査方法を再検討する	
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究② (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究③ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究④ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表① (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う	
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表② (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う	
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究⑤ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究⑥ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習 : プレゼンテーション資料の準備 授業 : 表現方法を検討する (ディスカッション)	

科目分類	141-320-24	授業コード	FG1346
科目名称	インテリアデザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Interior Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	山崎 陽菜	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40	研究室	2-201
授業概要	住空間は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって快適な住空間や環境とは何かを考えていく。そのためには、生活者の視点に立ち、人の動きや使われ方を多角的な視点で考察することが大切である。前期に決定したテーマと表現方法を踏まえて、調査研究を進めプレゼンテーションを実施する。各段階では、ディスカッションやプレゼンテーションを行う。		
到達目標	各自のテーマを自ら設定し、社会的背景や成り立ちについて考察する。同時に調査や視察を通して具体的な研究テーマを決定する。また、お互いに発表する中から相手に伝わる表現方法を模索していく。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : シラバスを読み込む 授業 : オリエンテーション 復習 : 授業計画の確認	
2	山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : 研究テーマの文献を調べる 授業 : テーマを再検討する (ディスカッション) 復習 : 研究テーマの最終決定	
3	山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : 研究テーマに関する文献資料を収集 授業 : 調査および研究① (ディスカッション) 復習 : 調査方法を再検討する	
4	山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究② (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
5	山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究③ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
6	山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究④ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
7	山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表① (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う	
8	山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 研究発表の準備 授業 : 研究発表② (プレゼンテーション) 復習 : 研究の確認と修正を行う	
9	山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究⑤ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
10	山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 関連資料の収集 授業 : 調査および研究⑥ (ディスカッション) 復習 : 研究を進める	
11	山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : プレゼンテーション資料の準備 授業 : 表現方法を検討する (ディスカッション)	

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1351
科目名称	建築デザインスタジオ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 : 授業計画内容の確認	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : 課題 1 参考事例調査・収集 授業 : 課題 1 エスキス① 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 1 参考事例報告を受けた資料整理	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : 課題 1 中間発表準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評内容の整理	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作作業	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : 課題 1 最終発表準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評内容の整理	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : 課題 2 参考事例調査・収集 授業 : 課題 2 課題説明 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 2 参考事例報告を受けた資料整理	
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス① 計画 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の整理・計画	
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス② 展開 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の展開	

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学類作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学類作品展 準備作業							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学類作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学類作品展 内容整理							
授業開始前学習		2 年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1352
科目名称	建築デザインスタジオ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 : 授業計画内容の確認	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 参考事例調査・収集 授業 : 課題 1 エスキス① 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 1 参考事例報告を受けた資料整理	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 中間発表準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評内容の整理	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作作業	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 最終発表準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評内容の整理	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 課題 2 参考事例調査・収集 授業 : 課題 2 課題説明 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 2 参考事例報告を受けた資料整理	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス① 計画 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の整理・計画	
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス② 展開 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の展開	

12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学類作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学類作品展 準備作業							
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学類作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学類作品展 内容整理							
授業開始前学習		2 年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1353
科目名称	建築デザインスタジオ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邊 阿伊子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊 阿伊子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-619
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	堀邊 阿伊子	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 : 授業計画内容の確認	
2	堀邊 阿伊子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し	
3	堀邊 阿伊子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 参考事例調査・収集 授業 : 課題 1 エスキス① 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 1 参考事例報告を受けた資料整理	
4	堀邊 阿伊子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理	
5	堀邊 阿伊子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 中間発表準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評内容の整理	
6	堀邊 阿伊子	【第 6 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
7	堀邊 阿伊子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作作業	
8	堀邊 阿伊子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 最終発表準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評内容の整理	
9	堀邊 阿伊子	【第 9 回】 予習 : 課題 2 参考事例調査・収集 授業 : 課題 2 課題説明 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 2 参考事例報告を受けた資料整理	
10	堀邊 阿伊子	【第 10 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス① 計画 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の整理・計画	
11	堀邊 阿伊子	【第 11 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス② 展開 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の展開	

12	堀邊 阿伊子	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	堀邊 阿伊子	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	堀邊 阿伊子	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学類作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学類作品展 準備作業							
15	堀邊 阿伊子	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学類作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学類作品展 内容整理							
授業開始前学習		2 年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1354
科目名称	建築デザインスタジオ I	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio I	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	これまでの学類における学びを踏まえ、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	与えられた課題の要点を正しく理解し、的確な計画を立てて実行できること。それらを適切な手段で表現し、明快に人に伝えられること。またこれらを通して社会人としての基本的な心構えを身に付けること。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 : 授業準備 授業 : ガイダンス 課題 1 課題説明 復習 : 授業計画内容の確認	
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の見直し	
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 参考事例調査・収集 授業 : 課題 1 エスキス① 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 1 参考事例報告を受けた資料整理	
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理	
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 中間発表準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評内容の整理	
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作作業	
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 最終発表準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評内容の整理	
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 : 課題 2 参考事例調査・収集 授業 : 課題 2 課題説明 参考事例報告 (発表) 復習 : 課題 2 参考事例報告を受けた資料整理	
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス① 計画 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の整理・計画	
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス② 展開 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容の展開	

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : 課題 2 エスキス準備 授業 : 課題 2 エスキス③ 制作 (実習) 復習 : 課題 2 エスキス内容を受けた制作							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : 課題 2 最終発表準備 授業 : 課題 2 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 2 最終講評内容の整理							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 計画準備 授業 : 課題 3 学類作品展 計画説明、作業 (グループワーク) 復習 : 課題 3 学類作品展 準備作業							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : 課題 3 学類作品展 準備作業 授業 : 課題 3 学類作品展 実施 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 3 学類作品展 内容整理							
授業開始前学習		2 年次までの課題、作品を整理し、ポートフォリオにまとめる作業を進めておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		初回授業で授業計画のガイダンスを行う。 8 月上旬に行われる学類作品展の設営・実施等に参加すること。 正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1361
科目名称	建築デザインスタジオⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告 (発表) 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理	
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作	

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 : 社会人実践力を学ぶ 準備 授業 : 社会人実践力を学ぶ 復習 : 社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1362
科目名称	建築デザインスタジオⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告 (発表) 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作	

12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：社会人実践力を学ぶ 準備 授業：社会人実践力を学ぶ 復習：社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：課題 1 エスキス準備 授業：課題 1 エスキス⑦ 制作（実習） 復習：課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：卒業研究から学ぶ 事前準備 授業：卒業研究から学ぶ 復習：卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：課題 1 最終発表 準備 授業：課題 1 最終発表・講評（プレゼンテーション） 復習：課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度（期限内提出・発表等）40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1363
科目名称	建築デザインスタジオⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邊 阿伊子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊 阿伊子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-619
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	堀邊 阿伊子	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理	
2	堀邊 阿伊子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理	
3	堀邊 阿伊子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業	
4	堀邊 阿伊子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告（発表） 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理	
5	堀邊 阿伊子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
6	堀邊 阿伊子	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理	
7	堀邊 阿伊子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
8	堀邊 阿伊子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開	
9	堀邊 阿伊子	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評（プレゼンテーション） 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理	
10	堀邊 阿伊子	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
11	堀邊 阿伊子	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作（実習） 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作	

12	堀邊 阿伊子	【第 12 回】 予習 : 社会人実践力を学ぶ 準備 授業 : 社会人実践力を学ぶ 復習 : 社会人実践力を学ぶ 内容の整理						
13	堀邊 阿伊子	【第 13 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作						
14	堀邊 阿伊子	【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理						
15	堀邊 阿伊子	【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理						
授業開始前学習		前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。						
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。						
参考書								
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。						
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		◎	○
関連科目								
その他		・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。						
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)						
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	142-320-23	授業コード	FG1364
科目名称	建築デザインスタジオⅡ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅱ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	3 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	前期のスタジオⅠに引き続き、選択する専門分野におけるテーマを研究・考察する。実習やプレゼンテーション、グループワーク等を通して、4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、技術力や実践力を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
到達目標	4 年次のスタジオおよび卒業研究へ向けて、選択する専門分野の知識を深め、プレゼンテーション能力等を高めることを目的とする。また就職活動等に向け、社会人として必要な知識の習得や自己管理能力等の向上を目指す。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 : 学外実習報告会 事前準備 授業 : 学外実習報告会 復習 : 学外実習報告会 内容の整理	
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 : 社会人基礎力を学ぶ 準備 授業 : 社会人基礎力を学ぶ 復習 : 社会人基礎力を学ぶ 内容の整理	
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 : 課題 1 課題準備 授業 : 課題 1 課題説明、作業内容の検討 復習 : 課題 1 事例調査・収集作業	
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 : 課題 1 事例調査・収集作業 授業 : 課題 1 エスキス① 事例調査報告 (発表) 復習 : 課題 1 事例調査報告を受けた内容の整理	
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス② 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 : 社会人応用力を学ぶ 準備 授業 : 社会人応用力を学ぶ 復習 : 社会人応用力を学ぶ 内容の整理	
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス③ 計画 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・計画	
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス④ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の整理・展開	
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 : 課題 1 中間発表 準備 授業 : 課題 1 中間発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 中間講評 内容の整理	
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑤ 展開 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容の展開	
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑥ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作	

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : 社会人実践力を学ぶ 準備 授業 : 社会人実践力を学ぶ 復習 : 社会人実践力を学ぶ 内容の整理							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : 課題 1 エスキス準備 授業 : 課題 1 エスキス⑦ 制作 (実習) 復習 : 課題 1 エスキス内容を受けた制作							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : 卒業研究から学ぶ 事前準備 授業 : 卒業研究から学ぶ 復習 : 卒業研究から学ぶ 内容の整理							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : 課題 1 最終発表 準備 授業 : 課題 1 最終発表・講評 (プレゼンテーション) 復習 : 課題 1 最終講評 内容の整理							
授業開始前学習		前期スタジオで制作した作品をブラッシュアップし、ポートフォリオに加えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		課題は講評会において、教員と学生全体でディスカッションを行う。							
テキスト・教材		資料・プリント等を適宜配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		提出物、受講態度などにより評価する。 配点は提出物 60%、受講態度 (期限内提出・発表等) 40%。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		◎	○
関連科目									
その他		・コロナ感染状況により対面で実施できない場合、課題内容の変更、スケジュールの入れ替えがある。 ・「卒業研究から学ぶ」授業では卒業制作合評会に参加すること。 ・正課学外活動として見学会等が実施される場合、交通費は自己負担となる。 ・その他、課題において見学等が必要な場合、交通費は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-24 (J)	授業コード	FG1371
科目名称	建築デザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	建築の設計や地域デザインをするプロセスについて調査・研究を行うゼミである。 各自が研究テーマを持って社会や地域をとらえ、そこに潜む建築的課題を探し、それを解決する設計手法やプログラムの提案を実習する。 この授業ではディスカッションや発表を行う。		
到達目標	社会や地域などを自ら調査・研究し建築的課題を見出すことができるようになる。 自ら設定した計画敷地において、その建築的課題を解決するための設計手法やプログラムを提案できるようになる。 上記内容を他者にわかりやすく伝える技術を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：はじめにスタジオの運営方針について 復習：研究スケジュールの作成	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習：身近な問題意識や興味のある地域をリストアップ 授業：テーマを見つける①（ディスカッション） 復習：身近な問題意識や興味のある地域について整理する	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習：身近な問題意識や興味のある地域の資料を収集する 授業：テーマを見つける②（ディスカッション） 復習：身近な問題意識や興味のある地域について整理する	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習：テーマについて発表資料を準備する 授業：テーマを見つける③（発表プレゼンテーション） 復習：テーマを決定する	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習：事例の資料を収集する 授業：事例の調査・研究①（ディスカッション） 復習：事例について整理する	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習：事例の資料を収集する 授業：事例の調査・研究②（ディスカッション） 復習：事例について整理し、まとめる	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究①（ディスカッション） 復習：調査内容の整理	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究②（ディスカッション） 復習：調査内容の整理	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習：テーマについて文献や現地にて調査する 授業：各自のテーマに合わせた調査・研究③（ディスカッション）	

[illegible]

科目分類	142-320-24	授業コード	FG1372
科目名称	建築デザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	実際の社会では、その場所で、その機能で、一体何が課題であるかを見つけ出すことが、デザインに求められている。そこで、建築計画や都市計画が果たす役割を考えるために、実際に都市や街をサーベイすることにより、各自が今まで以上に具体的に身近な問題を見出し、研究し、プログラムを提案する。 この授業では、実習、ディスカッション、発表を行う。		
到達目標	社会や敷地に固有の具体的に身近な問題を見出し、研究し、プログラムを提案できる。 さまざまなプレゼンテーションツールを駆使して、考えを伝えられる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の授業形態	
授業回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : 3 年スタジオでの課題の見直し、目標設定 授業 : はじめに スタジオの運営方針について 復習 : 各自のスケジュール作成	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : テーマ案に沿った調査 授業 : テーマ検討 (ディスカッション) 復習 : 資料準備	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : テーマ案に沿った調査 授業 : テーマ検討 (ディスカッション) 復習 : テーマ提出	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 敷地等の現況調査 授業 : 現況調査報告 (ディスカッション) 復習 : 調査不足項目確認	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 敷地等の現況再調査 授業 : 現況調査報告と課題設定指導 (ディスカッション) 復習 : 指導後の修正	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : プレゼンテーションツール準備 授業 : スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション (発表・ディスカッション) 復習 : 客観的な視点での見直し	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : プレゼンテーションツール準備 授業 : スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション (発表・ディスカッション) 復習 : 客観的な視点での見直し	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習) 復習 : 指導後の修正	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習) 復習 : 指導後の修正	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習) 復習 : 指導後の修正	
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習)	

		復習：指導後の修正							
12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：前期発表ツール案 授業：前期発表会指導 復習：指導後の修正							
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：合評会発表ツール 授業：前期発表会（発表） 復習：自己評価と他者の評価							
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：ディスカッション準備 授業：発表会についてスタジオ内でディスカッション（ディスカッション） 復習：ディスカッション後の修正							
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：前期のふりかえりを整理 授業：前期のまとめと後期への課題 復習：夏期休暇中の作業							
授業開始前学習		3 年次のスタジオでの課題を整理するとともに、社会環境や自分の生活の中から、つねに興味のある対象をさがしておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		スタジオ内では、毎回の作業報告や課題について、ディスカッションを行いながら更新していく。							
テキスト・教材									
参考書									
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、研究成果により評価する。 平常点 3 0 点、研究成果 7 0 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目		建築デザインスタジオ BIV、卒業研究							
その他		・卒業制作を選択する学生は、個別エスキスのほか、スタジオ内でプレゼンテーションすることで、意見交換をし、より客観的に考えていくための場とする。 ・卒業制作を選択しない学生も、一定の課題に対して制作を行うこととする。 ・調査、研究、制作などに掛かる費用は原則として自己負担である。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-24	授業コード	FG1373
科目名称	建築デザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邊 阿伊子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊 阿伊子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-619
授業概要	空間に関連する自身の興味に基づく研究テーマを見出し、独自の調査・分析に基づいた制作や研究論文としてまとめる。		
到達目標	自分が興味のある研究テーマに対して、問題を設定し、独自の解決策を導くことができる。目的の設定、調査・分析の実施、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを自ら主宰して実行できる。専門知識を身に付け、ディスカッションを通して専門的なコミュニケーション力を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	堀邊 阿伊子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読むこと 授業 : ガイダンス 復習 : 授業計画の確認	
2	堀邊 阿伊子	【第 2 回】 予習 : 既往研究の調査 授業 : 研究テーマの検討 1 (ディスカッション) 復習 : 興味・関心の整理	
3	堀邊 阿伊子	【第 3 回】 予習 : 既往研究の調査 授業 : 研究テーマの検討 2 (ディスカッション) 復習 : 興味・関心の整理	
4	堀邊 阿伊子	【第 4 回】 予習 : 既往研究の調査 授業 : 研究テーマの検討 3 (ディスカッション) 復習 : 興味・関心の整理	
5	堀邊 阿伊子	【第 5 回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成 授業 : 研究テーマ発表 (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : テーマの決定	
6	堀邊 阿伊子	【第 6 回】 予習 : 事例調査・文献調査 授業 : 事例調査・調査手法・制作手法の検討 1 (ディスカッション) 復習 : 事例調査・文献調査を進める	
7	堀邊 阿伊子	【第 7 回】 予習 : 事例調査・文献調査 授業 : 事例調査・調査手法・制作手法の検討 2 (ディスカッション) 復習 : 調査手法の決定	
8	堀邊 阿伊子	【第 8 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 1 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	
9	堀邊 阿伊子	【第 9 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 2 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	
10	堀邊 阿伊子	【第 10 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 3 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	
11	堀邊 阿伊子	【第 11 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 4 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	

12	堀邊 阿伊子	【第 12 回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究成果のまとめ 1（プレゼンテーション・実習） 復習：プレゼンテーション資料の修正							
13	堀邊 阿伊子	【第 13 回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究成果のまとめ 2（プレゼンテーション・実習） 復習：プレゼンテーション資料の修正							
14	堀邊 阿伊子	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：成果発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：指摘事項の確認							
15	堀邊 阿伊子	【第 15 回】 予習：授業のふりかえり 授業：まとめ 復習：今後の課題の検討							
授業開始前学習		空間に関連する疑問・興味・関心事を探しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出されたレポートやプレゼンテーションに対して、講評及び個別の質問に対応する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		研究成果（レポート・プレゼンテーション）と授業態度で評価する。配点（100 点満点として）は、研究成果 70 点、授業態度 30 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-24	授業コード	FG1374
科目名称	建築デザインスタジオⅢ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio Ⅲ	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	建築や都市のデザインを考えるうえで、常に生活者の視点に立つことを忘れてはならない。各自が問題意識を持ってテーマを探し、生活者の視点に基づいた調査・研究を行い、その成果の表現手法を検討する。また、各段階でディスカッションや発表の機会を設け、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨く。		
到達目標	自分の研究テーマに基づき、その社会的背景について考察し、見学や調査などとおして研究の方向性を確定する。各段階でディスカッションを繰り返すことにより、人に伝わるプレゼンテーション能力を身につける。また、社会人として必要な知識を習得し、実践力を向上させる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : オリエンテーション 復習 : 配布資料を再読し、理解を深める	
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 : 興味のあるテーマを検討する 授業 : テーマを探す① (ディスカッション) 復習 : 興味のあるテーマのキーワードを整理する	
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 : 興味のあるテーマの資料を収集する 授業 : テーマを探す② (ディスカッション) 復習 : 興味のあるテーマのキーワードを整理する	
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 : テーマ発表資料を準備する 授業 : テーマの発表 (プレゼンテーション) 復習 : テーマを決定する	
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 : テーマに基づく文献を調べる 授業 : 事例調査・研究① (ディスカッション・実習) 復習 : 調査方法を検討する	
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 : 事例資料を収集する 授業 : 事例調査・研究② (ディスカッション・実習) 復習 : 事例調査・研究を進める	
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 : 事例資料を収集する 授業 : 事例調査・研究③ (ディスカッション・実習) 復習 : 事例調査・研究を進める	
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 : 事例の調査・研究発表の準備をする 授業 : 事例調査・研究の発表 (プレゼンテーション) 復習 : 指摘を受けた箇所について検討する	
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 : テーマに基づく調査・研究文献を調べる 授業 : 各自の手法による調査・研究① (ディスカッション・実習) 復習 : 調査手法を検討する	
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 : 調査・研究資料を収集する 授業 : 各自の手法による調査・研究② (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・研究を進める	
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 : 調査・研究資料を収集する 授業 : 各自の手法による調査・研究③ (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・研究を進める	

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : 調査・研究発表の準備をする 授業 : 各自の手法による調査・研究の発表（プレゼンテーション） 復習 : 指摘を受けた箇所について検討する							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーションの参考文献を調べる 授業 : プレゼンテーション手法の検討①（ディスカッション・実習） 復習 : プレゼンテーション手法を決定する							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業 : プレゼンテーション手法の検討②（ディスカッション・実習） 復習 : プレゼンテーション資料を作成する							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : 成果発表の準備をする 授業 : 成果発表（プレゼンテーション） 復習 : 成果をもとに自己評価を行う							
授業開始前学習		興味のある建築デザインについて、インターネットや雑誌、書籍などで幅広く情報収集する。							
授業内課題のフィードバックの方法		個別のエスキースや講評を行う。また、プレゼンテーションやディスカッションをとおして履修者同士の理解を深め、改善点などを共有する。							
テキスト・教材		適宜必要な資料等を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		研究成果（50 点）、課題提出・授業態度（50 点）、を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-24 (J)	授業コード	FG1381
科目名称	建築デザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	前期スタジオの調査・研究をもとに、建築の設計や地域デザインを具体的に実習するゼミである。 各自が提案した設計手法やプログラムを用い、具体的な地域や敷地を設定して、その建築的課題を解決するための設計を行う。 この授業ではディスカッションや発表を行う。		
到達目標	自ら設定した計画敷地において、その建築的課題を解決するための設計手法やプログラムを提案できるようになる。 提案した設計手法やプログラムをもとに、具体的な建築物を設計することができるようになる。 上記内容を他者にわかりやすく伝える技術を身に付ける。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習：シラバスの内容を確認する 授業：計画敷地について①（ディスカッション） 復習：作業スケジュールの作成、計画敷地の検討	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習：計画敷地の検討 授業：計画敷地について②（ディスカッション） 復習：計画敷地の決定	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計①（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計②（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計③（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計④（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習：設計のスタディ 授業：建築物の設計⑤（ディスカッション） 復習：設計内容を再検討	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習：設計内容をまとめる 授業：建築物の設計⑥（発表プレゼンテーション） 復習：設計内容を再検討	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業①（ディスカッション）	

		復習：制作作業を進める						
10	小川 弾	【第 10 回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業②（ディスカッション） 復習：制作作業を進める						
11	小川 弾	【第 11 回】 予習：制作に必要な資料の準備 授業：制作作業③（ディスカッション） 復習：制作作業を進める						
12	小川 弾	【第 12 回】 予習：これまでの成果をまとめる 授業：プレゼンテーション準備①（ディスカッション） 復習：発表方法の検討						
13	小川 弾	【第 13 回】 予習：これまでの成果をまとめる 授業：プレゼンテーション準備②（ディスカッション） 復習：発表方法の検討						
14	小川 弾	【第 14 回】 予習：成果発表の準備をする 授業：成果発表①（発表プレゼンテーション） 復習：成果をもとに自己評価を行う						
15	小川 弾	【第 15 回】 予習：成果発表の準備をする 授業：成果発表②（発表プレゼンテーション） 復習：成果をもとに自己評価を行う						
授業開始前学習	建築やまちをたくさん訪れ観て体験して欲しい。展覧会などを観に行くのも良いでしょう。 多くの空間体験を積むことは、自分の中の評価軸を作ることにつながります。それは設計を進める上での重要な要素になります。							
授業内課題のフィードバックの方法	各回の作業報告や提出課題に対して意見交換やディスカッションを行う。発表などの際には講評する。							
テキスト・教材	適宜必要な資料等を配布する。							
参考書								
評価の基準と方法	研究成果（レポート、プレゼンテーション）、平常点（課題提出、授業態度）で評価する。 研究成果 60 点、平常点 40 点とする。							
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成	住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成	住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	建築関連科目、卒業研究							
その他	調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容	建築設計事務所における建築の設計・監理を実践してきた実務経験を活かし、建築の企画や計画・設計などを講義・実習する。							

科目分類	142-320-24	授業コード	FG1382
科目名称	建築デザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	三戸 美代子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	1-211
授業概要	前期のスタジオで見出した問題に対して、各自が提案したプログラムを建築として実現するためには、主観的なアイデアの創造をしつつも、客観的な批判をし続けることが必要である。 後期はその創造と批判の繰り返しをしながら、制作を進めていく。 この授業では、実習、ディスカッション、発表を行う。		
到達目標	主観的なアイデアの創造をしつつも、客観的な評価ができる。 長期間の制作の中でのスケジュール管理についても実際の作業を通して学ぶ。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : 前期スタジオでの指導により作業を進める 授業 : 後期予定ガイダンス 復習 : 各自のスケジュール作成	
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : 進行状況をまとめる 授業 : 作業報告会準備 復習 : チェックされた資料、原稿修正	
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 作業報告会に使用するツールの準備 授業 : 作業報告会 (発表) 復習 : 自己評価と他者の評価	
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 発表を受けてスケジュール調整 授業 : 研究と指導 (実習・ディスカッション) 復習 : 指導後の修正	
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 研究と指導 (実習・ディスカッション) 復習 : 指導後の修正	
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : プレゼンテーションツール準備 授業 : スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション (発表・ディスカッション) 復習 : 客観的な視点での見直し	
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : プレゼンテーションツール準備 授業 : スタジオ内プレゼンテーションとディスカッション (発表・ディスカッション) 復習 : 客観的な視点での見直し	
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習) 復習 : 指導後の修正	
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習) 復習 : 指導後の修正	
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : エスキスチェック資料準備 授業 : 制作指導 (実習) 復習 : 指導後の修正	
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : パネルレイアウト案 授業 : 提出チェック (実習)	

		復習：指導後の修正						
12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習：合評会発表ツール案 授業：合評会指導（発表・ディスカッション） 復習：指導後の修正						
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習：合評会発表ツール 授業：合評会（発表） 復習：自己評価と他者の評価						
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習：模型等修正 授業：講評、写真撮影（実習） 復習：作品の保管						
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習：学外展示用レイアウト案 授業：学外展示準備、プレゼン指導（実習） 復習：作品ブラッシュアップ						
授業開始前学習		前期で見つけた興味のある対象について、資料収集、調査などをすすめておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		スタジオ内では、毎回の作業報告や課題について、ディスカッションを行いながら更新していく。						
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法		平常点（授業態度・提出期限厳守）、研究成果により評価する。 平常点 30 点、研究成果 70 点とする。						
ディプロマポリシー	建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				○	○		○	◎
関連科目	建築デザインスタジオ BIII、卒業研究							
その他	・卒業制作を選択する学生は、個別エスキスのほか、スタジオ内でプレゼンテーションすることで、意見交換をし、より客観的に考えていくための場とする。 ・卒業制作を選択しない学生も、一定の課題に対して制作を行うこととする。 ・調査、研究、制作などに掛かる費用は原則として自己負担である。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容								

科目分類	142-320-24	授業コード	FG1383
科目名称	建築デザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	堀邊 阿伊子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊 阿伊子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00	研究室	10-619
授業概要	空間に関連する自身の興味に基づく研究テーマを見出し、独自の調査・分析に基づいた制作や研究論文としてまとめる。		
到達目標	自分が興味のある研究テーマに対して、問題を設定し、独自の解決策を導くことができる。目的の設定、調査・分析の実施、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを自ら主宰して実行できる。専門知識を身に付け、ディスカッションを通して専門的なコミュニケーション力を習得する。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
			複数教員の場合の 授業形態
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	堀邊 阿伊子	【第 1 回】 予習 : シラバスを読むこと 授業 : ガイダンス 復習 : 授業計画の確認	
2	堀邊 阿伊子	【第 2 回】 予習 : 既往研究の調査 授業 : 研究テーマの検討 1 (ディスカッション) 復習 : 興味・関心の整理	
3	堀邊 阿伊子	【第 3 回】 予習 : 既往研究の調査 授業 : 研究テーマの検討 2 (ディスカッション) 復習 : 興味・関心の整理	
4	堀邊 阿伊子	【第 4 回】 予習 : 既往研究の調査 授業 : 研究テーマの検討 3 (ディスカッション) 復習 : 興味・関心の整理	
5	堀邊 阿伊子	【第 5 回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成 授業 : 研究テーマ発表 (プレゼンテーション・ディスカッション) 復習 : テーマの決定	
6	堀邊 阿伊子	【第 6 回】 予習 : 事例調査・文献調査 授業 : 事例調査・調査手法・制作手法の検討 1 (ディスカッション) 復習 : 事例調査・文献調査を進める	
7	堀邊 阿伊子	【第 7 回】 予習 : 事例調査・文献調査 授業 : 事例調査・調査手法・制作手法の検討 2 (ディスカッション) 復習 : 調査手法の決定	
8	堀邊 阿伊子	【第 8 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 1 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	
9	堀邊 阿伊子	【第 9 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 2 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	
10	堀邊 阿伊子	【第 10 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 3 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	
11	堀邊 阿伊子	【第 11 回】 予習 : 資料収集・分析考察 授業 : 調査・分析・制作 4 (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・分析を進める	

12	堀邊 阿伊子	【第 12 回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究成果のまとめ 1（プレゼンテーション・実習） 復習：プレゼンテーション資料の修正							
13	堀邊 阿伊子	【第 13 回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：研究成果のまとめ 2（プレゼンテーション・実習） 復習：プレゼンテーション資料の修正							
14	堀邊 阿伊子	【第 14 回】 予習：プレゼンテーション資料の作成 授業：成果発表（プレゼンテーション・ディスカッション） 復習：指摘事項の確認							
15	堀邊 阿伊子	【第 15 回】 予習：授業のふりかえり 授業：まとめ 復習：今後の課題の検討							
授業開始前学習		空間に関連する疑問・興味・関心事を探しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出されたレポートやプレゼンテーションに対して、講評及び個別の質問に対応する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		研究成果（レポート・プレゼンテーション）と授業態度で評価する。配点（100 点満点として）は、研究成果 70 点、授業態度 30 点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		授業の順番等は適宜変更する事もある。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	142-320-24	授業コード	FG1384
科目名称	建築デザインスタジオⅣ	単位数	1.0 単位
英文名称	Architectural Design Studio IV	授業区分	演習・実習・実技
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	建築や都市のデザインを考えるうえで、常に生活者の視点に立つことを忘れてはならない。前期に決めたテーマとその表現手法を踏まえ、さらに生活者の視点に基づいた調査・研究を深め、その表現手法を具体化させ、プレゼンテーションを行う。また、各段階でディスカッションや発表の機会を設け、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を磨く。		
到達目標	自分の研究テーマに基づいた研究成果を完成させる。各段階でディスカッションを繰り返すことにより、人に伝わるプレゼンテーション能力を身につけ、研究成果のプレゼンテーションを実施する。また、社会人として必要な知識を習得し、実践力を向上させる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 : シラバスの内容を確認する 授業 : テーマを決める 復習 : テーマのキーワードを整理する	
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 : テーマに基づく文献を調べる 授業 : テーマの精査 (ディスカッション) 復習 : テーマを決定する	
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 : テーマに基づく調査・研究文献を調べる 授業 : 各自の手法による調査・研究① (ディスカッション・実習) 復習 : 調査手法を検討する	
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 : 調査・研究資料を収集する 授業 : 各自の手法による調査・研究② (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・研究を進める	
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 : 調査・研究資料を収集する 授業 : 各自の手法による調査・研究③ (ディスカッション・実習) 復習 : 調査・研究を進める	
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 : 調査・研究発表の準備をする 授業 : 各自の手法による調査・研究の発表① (プレゼンテーション) 復習 : 指摘を受けた箇所について検討する	
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 : 調査・研究発表の準備をする 授業 : 各自の手法による調査・研究の発表② (プレゼンテーション) 復習 : 指摘を受けた箇所について検討する	
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 : 制作物を検討する 授業 : 制作作業① (ディスカッション・実習) 復習 : 制作作業を進める	
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 : 制作に必要な資料・材料を準備する 授業 : 制作作業② (ディスカッション・実習) 復習 : 制作作業を進める	
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 : 制作に必要な資料・材料を準備する 授業 : 制作作業③ (ディスカッション・実習) 復習 : 制作物を完成させる	
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 : プレゼンテーションの参考文献を調べる 授業 : プレゼンテーション手法の検討 (ディスカッション・実習) 復習 : プレゼンテーション手法を決定する	

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業 : プレゼンテーション準備作業① (ディスカッション・実習) 復習 : プレゼンテーション資料を作成する							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション資料の作成準備をする 授業 : プレゼンテーション準備作業② (ディスカッション・実習) 復習 : プレゼンテーション資料を完成させる							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : 成果発表の準備をする 授業 : 成果発表① (プレゼンテーション) 復習 : 成果をもとに自己評価を行う							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : 成果発表の準備をする 授業 : 成果発表② (プレゼンテーション) 復習 : 成果をもとに自己評価を行う							
授業開始前学習		興味のある建築デザインについて、インターネットや雑誌、書籍などで幅広く情報収集する。							
授業内課題のフィードバックの方法		個別のエスキースや講評を行う。また、プレゼンテーションやディスカッションをとおして履修者同士の理解を深め、改善点などを共有する。							
テキスト・教材		適宜必要な資料等を配布する。							
参考書									
評価の基準と方法		研究成果 (50 点)、課題提出・授業態度 (50 点)、を総合して評価する。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○		○	◎
関連科目									
その他		調査・研究・制作などにかかる費用は自己負担となる。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)							
実務経験を活かした教育内容									

科目分類	140-330-24 (J)			授業コード	FG9900
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	李 志炯			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	李 志炯			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 09:00～10:30 水曜日 16:20～17:50			研究室	1-207
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	李 志炯	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認			
2	李 志炯	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習			
3	李 志炯	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認			
4	李 志炯	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討			
5	李 志炯	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析			
6	李 志炯	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習			
7	李 志炯	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習			
8	李 志炯	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイヤグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習			
9	李 志炯	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出			
10	李 志炯	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習			
11	李 志炯	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習			

12	李 志炯	【第 12 回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑦ 復習：課題の自習							
13	李 志炯	【第 13 回】 予習：プレゼンテーション計画作成 授業：プレゼンテーション指導① 復習：プレゼンテーション計画の確認							
14	李 志炯	【第 14 回】 予習：課題の自習 授業：プレゼンテーション指導② 復習：課題の自習							
15	李 志炯	【第 15 回】 予習：課題の自習 授業：講評会指導 復習：発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)	授業コード	FG9901
科目名称	卒業研究	単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	榎本 文夫	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	榎本 文夫	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 水曜日 09:00～12:00	研究室	1-204
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。		
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	榎本 文夫	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認	
2	榎本 文夫	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習	
3	榎本 文夫	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認	
4	榎本 文夫	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討	
5	榎本 文夫	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析	
6	榎本 文夫	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習	
7	榎本 文夫	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習	
8	榎本 文夫	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習	
9	榎本 文夫	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出	
10	榎本 文夫	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習	
11	榎本 文夫	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習	

12	榎本 文夫	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	榎本 文夫	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	榎本 文夫	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	榎本 文夫	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)			授業コード	FG9902
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	神村 真由美			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	神村 真由美			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 木曜日 14:30～17:30 後期 木曜日 14:30～17:30			研究室	1-201
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	神村 真由美	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認			
2	神村 真由美	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習			
3	神村 真由美	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認			
4	神村 真由美	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討			
5	神村 真由美	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析			
6	神村 真由美	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習			
7	神村 真由美	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習			
8	神村 真由美	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習			
9	神村 真由美	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出			
10	神村 真由美	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習			
11	神村 真由美	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習			

12	神村 真由美	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	神村 真由美	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	神村 真由美	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	神村 真由美	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)			授業コード	FG9903
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	橋田 洋子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	橋田 洋子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 後期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 14:40～16:10			研究室	1-206
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業		全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	橋田 洋子	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認			
2	橋田 洋子	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習			
3	橋田 洋子	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認			
4	橋田 洋子	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討			
5	橋田 洋子	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析			
6	橋田 洋子	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習			
7	橋田 洋子	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習			
8	橋田 洋子	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習			
9	橋田 洋子	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出			
10	橋田 洋子	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習			
11	橋田 洋子	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習			

12	橘田 洋子	【第 12 回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑦ 復習：課題の自習							
13	橘田 洋子	【第 13 回】 予習：プレゼンテーション計画作成 授業：プレゼンテーション指導① 復習：プレゼンテーション計画の確認							
14	橘田 洋子	【第 14 回】 予習：課題の自習 授業：プレゼンテーション指導② 復習：課題の自習							
15	橘田 洋子	【第 15 回】 予習：課題の自習 授業：講評会指導 復習：発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橘田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 （ J ）			授業コード	FG9904	
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位	
英文名称	Graduation Projects			授業区分		
科目責任者	佐藤 勉			必修・選択	履修ガイド参照	
担当教員	佐藤 勉			開講時期	4 年	
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30			研究室	1-202	
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。					
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。					
アクティブ・ラーニング 型授業			全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	共同
授業 回数	担当者	授業の内容				
1	佐藤 勉	【第 1 回】 予習：シラバス参照 授業：ガイダンス 復習：授業目標のキーワード確認				
2	佐藤 勉	【第 2 回】 予習：卒業研究課題の検索 授業：作業報告会準備① 復習：課題の自習				
3	佐藤 勉	【第 3 回】 予習：研究課題の決定 授業：作業報告会準備② 復習：研究課題の問題点確認				
4	佐藤 勉	【第 4 回】 予習：事例研究 授業：エスキース① 復習：事例の再検討				
5	佐藤 勉	【第 5 回】 予習：事例検索 授業：エスキース② 復習：事例の分析				
6	佐藤 勉	【第 6 回】 予習：課題の自習 授業：グループディスカッション 復習：課題の自習				
7	佐藤 勉	【第 7 回】 予習：課題の自習 授業：エスキース③ 復習：課題の自習				
8	佐藤 勉	【第 8 回】 予習：課題進行ダイアグラム作成 授業：エスキース④ 復習：課題の自習				
9	佐藤 勉	【第 9 回】 予習：発表準備 授業：中間発表（プレゼンテーション） 復習：発表内容の反省点抽出				
10	佐藤 勉	【第 10 回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑤ 復習：課題の自習				
11	佐藤 勉	【第 11 回】 予習：課題の自習 授業：エスキース⑥ 復習：課題の自習				

12	佐藤 勉	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	佐藤 勉	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	佐藤 勉	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	佐藤 勉	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)			授業コード	FG9905
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	山崎 陽菜			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	山崎 陽菜			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 14:40～16:40 金曜日 14:40～15:40 後期 水曜日 11:00～12:00 水曜日 14:40～16:40			研究室	2-201
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	山崎 陽菜	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認			
2	山崎 陽菜	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習			
3	山崎 陽菜	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認			
4	山崎 陽菜	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討			
5	山崎 陽菜	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析			
6	山崎 陽菜	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習			
7	山崎 陽菜	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習			
8	山崎 陽菜	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習			
9	山崎 陽菜	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出			
10	山崎 陽菜	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習			
11	山崎 陽菜	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習			

12	山崎 陽菜	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	山崎 陽菜	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	山崎 陽菜	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	山崎 陽菜	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)	授業コード	FG9906
科目名称	卒業研究	単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	小川 弾	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	小川 弾	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:40～12:10	研究室	1-210
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。		
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	小川 弾	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認	
2	小川 弾	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習	
3	小川 弾	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認	
4	小川 弾	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討	
5	小川 弾	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析	
6	小川 弾	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習	
7	小川 弾	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習	
8	小川 弾	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習	
9	小川 弾	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出	
10	小川 弾	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習	
11	小川 弾	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習	

12	小川 弾	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	小川 弾	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	小川 弾	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	小川 弾	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)			授業コード	FG9907
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	三戸 美代子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	三戸 美代子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:10 後期 金曜日 09:00～12:10			研究室	1-211
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	三戸 美代子	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認			
2	三戸 美代子	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習			
3	三戸 美代子	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認			
4	三戸 美代子	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討			
5	三戸 美代子	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析			
6	三戸 美代子	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習			
7	三戸 美代子	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習			
8	三戸 美代子	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習			
9	三戸 美代子	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出			
10	三戸 美代子	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習			
11	三戸 美代子	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習			

12	三戸 美代子	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	三戸 美代子	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	三戸 美代子	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	三戸 美代子	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成	住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)			授業コード	FG9908
科目名称	卒業研究			単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects			授業区分	
科目責任者	堀邊 阿伊子			必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	堀邊 阿伊子			開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 金曜日 13:00～16:00			研究室	10-619
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。				
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえるコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。				
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回	複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容			
1	堀邊 阿伊子	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認			
2	堀邊 阿伊子	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習			
3	堀邊 阿伊子	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認			
4	堀邊 阿伊子	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討			
5	堀邊 阿伊子	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析			
6	堀邊 阿伊子	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習			
7	堀邊 阿伊子	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習			
8	堀邊 阿伊子	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習			
9	堀邊 阿伊子	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出			
10	堀邊 阿伊子	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習			
11	堀邊 阿伊子	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習			

12	堀邊 阿伊子	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	堀邊 阿伊子	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	堀邊 阿伊子	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	堀邊 阿伊子	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							

科目分類	140-330-24 (J)	授業コード	FG9909
科目名称	卒業研究	単位数	4.0 単位
英文名称	Graduation Projects	授業区分	
科目責任者	茂木 弥生子	必修・選択	履修ガイド参照
担当教員	茂木 弥生子	開講時期	4 年
オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30	研究室	1-203
授業概要	デザインに関する研究テーマについて学生の特性に合わせて作品制作や論文作成を含めて指導する。特に制作については、各デザイン分野にまつわる問題を調査分析し、プログラムも含めて提案しプレゼンテーションできるようにする。		
到達目標	自ら課題とするデザインの問題設定が出来る事。問題解決の為のコンセプトとデザインプロセスを構築できる事。自ら作った作品を理解してもらえコミュニケーション能力を持つ事。 以上を到達目標とする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有	全授業回数	15 回
		複数教員の場合の 授業形態	
授業 回数	担当者	授業の内容	
1	茂木 弥生子	【第 1 回】 予習 : シラバス参照 授業 : ガイダンス 復習 : 授業目標のキーワード確認	
2	茂木 弥生子	【第 2 回】 予習 : 卒業研究課題の検索 授業 : 作業報告会準備① 復習 : 課題の自習	
3	茂木 弥生子	【第 3 回】 予習 : 研究課題の決定 授業 : 作業報告会準備② 復習 : 研究課題の問題点確認	
4	茂木 弥生子	【第 4 回】 予習 : 事例研究 授業 : エスキース① 復習 : 事例の再検討	
5	茂木 弥生子	【第 5 回】 予習 : 事例検索 授業 : エスキース② 復習 : 事例の分析	
6	茂木 弥生子	【第 6 回】 予習 : 課題の自習 授業 : グループディスカッション 復習 : 課題の自習	
7	茂木 弥生子	【第 7 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース③ 復習 : 課題の自習	
8	茂木 弥生子	【第 8 回】 予習 : 課題進行ダイアグラム作成 授業 : エスキース④ 復習 : 課題の自習	
9	茂木 弥生子	【第 9 回】 予習 : 発表準備 授業 : 中間発表 (プレゼンテーション) 復習 : 発表内容の反省点抽出	
10	茂木 弥生子	【第 10 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑤ 復習 : 課題の自習	
11	茂木 弥生子	【第 11 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑥ 復習 : 課題の自習	

12	茂木 弥生子	【第 12 回】 予習 : 課題の自習 授業 : エスキース⑦ 復習 : 課題の自習							
13	茂木 弥生子	【第 13 回】 予習 : プレゼンテーション計画作成 授業 : プレゼンテーション指導① 復習 : プレゼンテーション計画の確認							
14	茂木 弥生子	【第 14 回】 予習 : 課題の自習 授業 : プレゼンテーション指導② 復習 : 課題の自習							
15	茂木 弥生子	【第 15 回】 予習 : 課題の自習 授業 : 講評会指導 復習 : 発表内容について確認							
授業開始前学習		出来るだけ多くのデザインに触れるように。様々な展覧会も出来るだけ見るように。 デザインには経験のストックが重要です。							
授業内課題のフィードバックの方法		提出された事例研究及びレポートに対し発表時に講評及び個別の質問に回答する。							
テキスト・教材		特になし。適宜プリント等を配布する。							
参考書		デザイン関係書籍等。							
評価の基準と方法		受講態度と研究成果の総合的な判断による。配点は（１００点満点として）提出物８０点、取組度２０点とする。							
ディプロマポリシー		建築・インテリアデザインから家具、陶芸、織物等くらしの環境に関する基礎的、総合的な知識と、豊かな人間性の養成		住まいとくらしの提案が出来る企画力や発想力、表現力と共に、十分なプレゼンテーション能力と社会性の養成		住まいとくらしの提案が出来る専門的な知識と、多様な価値観の存在を踏まえた柔軟な思考力の養成		住まいとくらしの空間デザインを提案できる多様な技術力と、それを社会の中で広く応用していく実践力の養成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	○	◎	○	○	○	○	◎
関連科目		建築、インテリア、プロダクト関連科目							
その他		基本的に卒業研究にかかる費用は自己負担とする。 正課学外活動で卒業制作展の設営・受付・撤去を行う。交通費などは自己負担とする。							
予習・復習の所要時間									
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者が指導する科目であり、李・榎本はプロダクトデザイン分野における、小川・神村・橋田・佐藤・三戸・茂木・山崎は建築・インテリアデザイン分野における実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、受講生が該当する分野の実務に役立つ実習等を行う。							